

# Oracle® Fusion Cloud EPM

## Financial Consolidation and Close の管理



F28174-23



Oracle Fusion Cloud EPM Financial Consolidation and Close の管理、

F28174-23

Copyright © 2016, 2024, Oracle and/or its affiliates.

著者: EPM Information Development Team

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software, software documentation, data (as defined in the Federal Acquisition Regulation), or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, then the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software," "commercial computer software documentation," or "limited rights data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle®, Java, MySQL and NetSuite are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Inside are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Epyc, and the AMD logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information about content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services unless otherwise set forth in an applicable agreement between you and Oracle. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services, except as set forth in an applicable agreement between you and Oracle.

# 目次

## ドキュメントのアクセシビリティについて

---

## ドキュメントのフィードバック

---

### 1 EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

---

### 2 Financial Consolidation and Close の概要

---

ホーム・ページの概要	2-1
他のサービスとの統合	2-6

### 3 Financial Consolidation and Close アプリケーションの作成

---

ビジネス・プロセスの作成	3-1
EPM Standard Cloud Service アプリケーションの作成	3-1
EPM Enterprise Cloud Service アプリケーションの作成	3-3
アプリケーションの前提条件	3-4
アプリケーションの作成のワークフロー	3-4
アプリケーションの作成	3-5
アプリケーションの機能の有効化	3-6
アプリケーション機能の説明	3-7
連結、補足データおよびエンタープライズ仕訳の機能	3-13
アプリケーションでの「出資比率の管理」の有効化	3-14
出資比率の管理	3-23
ローカル・レート勘定科目データのコピー	3-24
拡張ディメンションへの移行	3-25
拡張ディメンションおよび Enterprise Cloud Service への移行	3-26

## 4 セキュリティの管理

---

セキュリティの概要	4-1
アーティファクトとデータ・アクセスの管理	4-2
アーティファクトへのユーザー・アクセス権の割当て	4-3
データへのユーザー・アクセス権の割当て	4-3
ディメンションのセキュリティの有効化または無効化	4-4
ディメンション・メンバーへのセキュリティの割当て	4-5
フォーム・セキュリティの管理	4-6
フォームとフォルダへのアクセス権の割当て	4-7
デフォルトのフォーム・セキュリティ	4-8
アプリケーションの所有者の割当	4-8
アクセス権限のレポート	4-8

## 5 アプリケーションの管理

---

アプリケーションの概要	5-2
ディメンション、メンバーおよび別名の名前付けの制限	5-2
ディメンションの管理	5-5
メタデータのインポート	5-6
メタデータ・インポート・ファイルの作成	5-6
例: エンティティ・ディメンションのインポート・ファイル	5-7
他のサポートされている区切り文字	5-8
メタデータ・インポート・ファイルのロード	5-9
メタデータのエクスポート	5-12
メタデータの検証	5-13
メタデータ検証メッセージ	5-16
データのインポート	5-25
データ・インポート・ファイルの作成	5-26
データ・インポート・ファイルのフォーマット	5-26
データ・ロード方法	5-26
ロード方法の例	5-28
データ・インポート・ファイルのロード	5-29
例: データ・インポート・ファイル - 期間ビュー	5-31
例: データ・インポート・ファイル - YTD ビュー	5-31
例: データ・インポート・ファイル - YTD 入力および置換モード	5-32
例: データ・インポート・ファイル - 期末残高入力および置換モード	5-33
例: データ・インポート・ファイル - 上書き	5-34
例: データ・インポート・ファイル - 為替レート	5-35
データのエクスポート	5-35



データ・インポートおよびエクスポートのステータスの表示	5-36
<b>Essbase</b> アウトラインの検証	5-37
データ統合	5-38
データ統合のベスト・プラクティス	5-39
密/疎最適化(DSO)アプリケーションからのデータのエクスポート	5-39
年次累計(YTD)データのエクスポート	5-42
データのコピー	5-42
データのコピー・プロファイルの使用	5-45
データのクリア	5-46
データのクリア・プロファイルの使用	5-47
データベースのリフレッシュ	5-48
キューブの再構築	5-50
アプリケーションの削除	5-52
メンテナンスのスケジュール	5-52
受信ボックス/送信ボックスの使用	5-53
アプリケーションに関する推奨事項の表示	5-53
アクティビティ・レポートとアクセス・ログの操作	5-55

## 6 アプリケーションおよびシステム設定の管理

---

アプリケーション設定の指定	6-1
<b>Enterprise Performance Management Cloud</b> デプロイメントでのフォントのアップロード	6-11
デフォルトの別名表の指定と、メンバーおよび別名の表示オプションの設定	6-12
数値のフォーマット・プリファレンスの指定	6-12
ユーザー変数の定義	6-13
アプリケーションの外観のカスタマイズ	6-14
お知らせの作成	6-15
アーティファクト・ラベルの指定	6-15
アーティファクト・ラベル・グリッドの操作	6-16
言語の追加とローカライズされたアーティファクト・ラベルの定義	6-16
編集するアーティファクト・ラベルのエクスポートとインポート	6-17
アーティファクトの確認	6-18
代替変数の操作	6-19
代替変数について	6-19
代替変数の作成および値の割当て	6-19
<b>Financial Consolidation and Close</b> の代替変数	6-19
代替変数の削除	6-30

## 7 EPM Cloud での環境の接続

---

EPM Cloud 環境の接続について	7-1
EPM Cloud 接続を移行する際の考慮事項	7-3
他の EPM Cloud 環境への接続の作成、編集および削除	7-4
外部 Web サービスへの接続	7-6
外部接続の詳細設定オプションの指定	7-7
EPM Cloud 環境間のナビゲート	7-8
他の EPM Cloud 環境にアクセスするためのナビゲーション・フローのカスタマイズ	7-9
他の EPM Cloud 環境からクラスタへのカードのグループ化	7-9
複数 EPM Cloud 環境からのタブのあるカードの構成	7-13
接続された環境を統合するためのダイレクト URL の使用	7-16
個々の URL のコピー	7-17
CSV ファイルへのすべての URL のエクスポート	7-17

## 8 カスタム・ナビゲーション・フローの設計

---

ナビゲーション・フローの理解	8-1
ビジネス・プロセス・インタフェースでカスタマイズできる内容	8-1
ナビゲーション・フローのカスタマイズ・カテゴリ	8-2
ナビゲーション・フローの権限	8-3
事前定義済みのナビゲーション・フロー	8-3
インポート後のナビゲーション・フロー・ステータスの理解	8-3
ナビゲーション・フローの表示と操作	8-4
ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項	8-5
ナビゲーション・フローの作成と複製	8-6
ナビゲーション・フローの編集	8-7
ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化	8-8
ナビゲーション・フローでの検証を使用した欠落アーティファクトの検出	8-9
警告アイコンが表示されたナビゲーション・フローの解決	8-10
カード、タブおよびクラスタのラベルのカスタマイズ	8-10
カードおよび垂直タブのアイコンのカスタマイズ	8-11
クラスタ、カードおよびタブの表示と非表示	8-12
ホーム・ページ上のカードの表示順序の変更	8-12
カードの追加	8-12
表形式ページへのタブの追加	8-15
URL を使用した EPM Cloud アプリケーションへのサード・パーティ・ページの埋込みについて	8-17
ナビゲーション・フロー、カードおよびタブの削除	8-18
クラスタへのカードのグループ化	8-19

ナビゲーション・フローのリロード	8-21
実行時のナビゲーション・フローの切替え	8-22

## 9 インフォレットの設計

---

インフォレットについて	9-1
インフォレットの詳細分析	9-3
インフォレットの内容の決定	9-6
インフォレットのフォームの設計	9-7
インフォレットのチャートの設計	9-7
インフォレット・デザイナの使用	9-8
インフォレットの作成	9-11
インフォレットの操作	9-11
インフォレットにアクセスするインタフェースのカスタマイズ	9-13

## 10 財務ダッシュボードの設計

---

ダッシュボードのメリット	10-2
ダッシュボード設計の概念	10-3
ダッシュボードの設計	10-4
ダッシュボードのレイアウトについて	10-6
ゲージ・チャート・タイプについて	10-7
タイル・チャート・タイプについて	10-9
ダッシュボードの色のカスタマイズ	10-11
折れ線グラフおよび組合せグラフの線幅の設定	10-11
グローバル POV とローカル POV について	10-12
ダッシュボードの POV および有効交差	10-14
ダッシュボードの表示	10-14
ダッシュボード 1.0 のダッシュボードを 2.0 に変換	10-16
ダッシュボード 2.0 の作成および管理	10-18
ダッシュボード 2.0 のダッシュボード設計の概念	10-18
オブジェクト・パレット	10-21
ダッシュボード・ツールバー	10-23
ダッシュボード・ワークスペース	10-24
「プロパティ」パネル	10-25
ダッシュボード・コンポーネント	10-29
ダッシュボード 2.0 の考慮事項	10-30
ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの作成	10-32
ダッシュボード 2.0 を設計する際のメンバー・セレクタの操作	10-33

ダッシュボード 2.0 でのフォーム 2.0 のグリッドについて	10-34
ジオマップ・チャート・タイプについて	10-34
ピラミッド・チャート・タイプについて	10-36
ウォーターフォール・チャート・タイプについて	10-37
ダッシュボードでの表の使用	10-39
ダッシュボード 2.0 のゲージ・チャート・タイプについて	10-41
ダッシュボード 2.0 のレーダー・チャート・タイプについて	10-44
ダッシュボード 2.0 の組合せチャート・タイプについて	10-46
ダッシュボード 2.0 のタイル・チャート・タイプについて	10-48
ダッシュボード 2.0 のグローバル POV とローカル POV について	10-50
クイック分析について	10-53

## 11 ディメンションの操作

---

ディメンションの概要	11-1
勘定科目	11-2
期間	11-2
データ・ソース	11-3
連結	11-6
通貨	11-7
エンティティ	11-8
会社間	11-8
増減	11-9
シナリオ	11-11
年	11-11
表示	11-11
複数 GAAP	11-12
期間および増減ディメンションの密ディメンションへの変換	11-12
ディメンションの表示および編集	11-17
ディメンション階層の操作	11-18
ディメンション階層の展開および縮小	11-18
ディメンション階層の移動	11-19
ディメンションまたはメンバーの検索	11-19
メンバーのソート	11-19
ディメンション階層内でのメンバーの移動	11-20
ディメンション・プロパティの修正	11-20
メンバーの祖先の表示	11-21
メンバーの用途の表示	11-21
カスタム・ディメンションの追加	11-21

集約オプション	11-22
会社間エンティティの集約オプション	11-23
データ・ストレージ・オプション	11-28
動的計算について	11-29
保管データ・ストレージ	11-29
共有データ・ストレージ	11-29
非共有データ・ストレージ	11-29
ラベルのみのデータ・ストレージ	11-29
ディメンション・プロパティの設定	11-30
次元評価順の設定	11-31
勘定科目の定義	11-31
勘定科目タイプ	11-35
タイム・バランス・プロパティ	11-36
勘定科目タイプのサマリーとタイム・バランス	11-36
集約(集計演算子)	11-37
勘定科目タイプと差異レポート	11-38
保存された仮定	11-38
データ型と為替レート・タイプ	11-39
勘定科目プロパティの定義	11-39
勘定属性の値の設定	11-41
エンティティ・メンバーの定義	11-43
エンティティの会社間プロパティ	11-44
基本通貨	11-44
代替階層の作成	11-44
Financial Consolidation and Close のデータ・モデルの概要	11-46
メンバーの操作	11-47
シード済ディメンション・メンバー	11-48
組込みの計算	11-61
メンバーの追加または編集	11-63
メンバーの削除	11-66
選択	11-66
メンバーの関係	11-68
親メンバーの削除	11-69
フォームからのメンバーのプロパティの表示	11-69
共有メンバーの操作	11-70
共有メンバーの作成	11-70
通貨の設定	11-71
複数通貨の操作	11-73
数値のフォーマット	11-73

通貨の作成	11-74
通貨の編集	11-75
通貨の削除	11-76
シナリオの設定	11-76
シナリオについて	11-76
期間	11-77
アクセス権限	11-77
シナリオの作成	11-77
シナリオの編集	11-77
シナリオの削除	11-78
シナリオのコピー	11-78
アプリケーションの年のカスタマイズ	11-79
年のカレンダーへの追加	11-79
年情報の編集	11-79
属性の操作	11-80
属性のデータ型の理解	11-81
属性の削除	11-81
属性値の操作	11-82
属性値の作成	11-82
メンバーへの属性値の割当て	11-83
属性値の変更	11-83
属性値の削除	11-84
ユーザー定義属性(UDA)の操作	11-84
UDA の作成	11-85
UDA の変更	11-85
UDA の削除	11-85
UDA のメンバーとしての選択	11-85
メンバー式の操作	11-86
式の確認結果の表示	11-87
メンバー式の順序の解決	11-87
解決順序の設定	11-89
メタデータへの SolveOrder の適用	11-90
別名表の操作	11-91
別名について	11-91
別名表について	11-92
別名表の作成	11-93
別名表の編集または名前変更	11-93
別名表の削除	11-93
別名表のクリア	11-93

## 12 簡易ディメンション・エディタでのディメンションの編集

---

簡易ディメンション・エディタでのディメンションの編集について	12-1
簡易ディメンション・エディタへのアクセス	12-2
簡易ディメンション・エディタ・グリッドの操作	12-2
他のディメンションへの切替え	12-3
列レイアウトのカスタマイズ	12-3
祖先の表示	12-3
アプリケーションでのメンバーの用途の表示	12-4
編集のフォーカス	12-4
メンバーの検索	12-5
メンバーのソート	12-5
別の階層へのメンバーの移動	12-5
メンバー式の操作	12-5
Microsoft Excel からのメンバー名のコピー	12-7
簡易ディメンション・エディタでのディメンション・プロパティの編集	12-7
簡易ディメンション・エディタでのメンバー・プロパティの編集	12-9
簡易ディメンション・エディタでのメンバーの追加	12-16
簡易ディメンション・エディタでのメンバーの編集	12-17
簡易ディメンション・エディタでのメンバーの削除	12-18
簡易ディメンション・エディタでの共有メンバーの追加	12-19

## 13 ジョブの管理

---

ジョブの概要	13-1
保留中のジョブおよび最近のアクティビティの表示	13-2
ジョブのスケジュール	13-3
ジョブの編集および削除	13-6
ジョブの複製	13-6
連結以外のジョブの表示	13-7

## 14 タスクおよびデータの監査

---

監査タスクの構成	14-1
監査情報の概要	14-1
監査詳細の表示	14-5
タスク・マネージャ、補足データおよびエンタープライズ仕訳の監査詳細の表示	14-7

## 15 有効な交差の定義

---

有効な交差の理解	15-1
有効交差グループ	15-1
有効交差ルール	15-2
アンカーおよび非アンカー・ディメンション	15-2
有効な交差の例	15-3
例: アンカーおよび非アンカー・ディメンション	15-3
例: 必須のディメンション	15-4
例: 選択されていないメンバーは有効です	15-4
例: 同じ有効交差グループ内での冗長または重複有効交差ルール	15-5
例: 異なる有効交差グループでの冗長または重複有効交差ルール	15-5
有効交差ルールの冗長または重複	15-6
共有メンバーおよび有効交差ルール	15-6
代替変数および有効交差ルール	15-6
評価順序	15-6
有効な交差の作成	15-6
有効な交差の管理	15-7
有効交差の表示	15-8
有効な交差のフィルタ	15-8
交差のインポートとエクスポート	15-9
有効交差グループの評価順序の変更	15-11
有効交差グループの無効化および有効化	15-12
有効交差グループの詳細の編集	15-12
有効交差グループの複製	15-13
有効交差グループの削除	15-14
フォーム内の無効データの抑制	15-14
フォームでの有効交差の操作	15-14
無効な交差レポートの管理	15-16
無効な交差レポートの作成	15-16
無効な交差レポートの編集	15-17
無効な交差レポートの複製	15-17
無効な交差レポートの実行	15-17
無効な交差レポートの削除	15-18

## 16 フォームの管理

---

事前定義済フォーム	16-1
フォーム・コンポーネント	16-3
視点	16-4



ページ軸	16-4
行と列	16-4
フォームの設計に関する考慮事項	16-4
フォームとアクセス権限	16-4
フォームと通貨	16-5
フォームとバージョン	16-5
フォームと属性	16-5
フォームと共有メンバー	16-5
フォームと計算	16-5
単一のフォームの作成	16-5
フォーム・レイアウトの設定	16-6
フォーム・グリッド・プロパティの設定	16-8
フォーム・ディメンション・プロパティの設定	16-10
表示プロパティの設定	16-11
印刷オプションの設定	16-13
フォームへのデータ検証ルールの組込み	16-13
検証ルールを含むフォームのベスト・プラクティス	16-15
フォームの精度およびその他オプションの設定	16-15
非対称の行と列の作成	16-16
式の行と列の追加	16-17
単一のフォーム・ページと視点の定義	16-18
<b>SingleTime</b> ディメンションの使用	16-18
フォームおよびフォーム・コンポーネントの操作	16-21
フォームを開く	16-21
フォームのプレビュー	16-21
フォーム定義の印刷	16-22
フォームの編集	16-22
フォームの移動、削除および名前変更	16-23
ユーザー変数の操作	16-23
ユーザー変数について	16-24
ユーザー変数の管理	16-24
ユーザー変数の作成	16-24
ユーザー変数の削除	16-25
スマート・リストの操作	16-25
レポート・アプリケーションでのスマート・リストの同期	16-26
スマート・リスト・プロパティの追加と変更	16-26
スマート・リスト・エントリの追加と変更	16-28
スマート・リストのプレビュー	16-28
スマート・リストで#Missing を表示	16-29

データ検出の操作	16-29
データ検出の出力の理解	16-31
データ検出グリッドの色の理解	16-39

## 17 連結仕訳の管理

---

連結仕訳グループの作成	17-1
連結仕訳グループの削除	17-1
連結仕訳の期間の管理	17-2
連結仕訳の参照整合性	17-2
連結仕訳ユーザー情報の保持	17-3

## 18 データの連結

---

連結プロセス	18-2
データ・フロー	18-3
連結プロセス・フロー	18-7
会社間消去	18-13
連結ディメンション	18-16
換算プロセス	18-18
データの換算	18-19
為替レートについて	18-22
為替レートの入力	18-23
上書きレートの入力	18-25
デフォルトの換算設定の指定	18-26
連結および換算セキュリティ・アクセス	18-28
計算ステータス	18-29
データの連結	18-31
データ・フォームにおけるプロンプトなしのデータの連結と換算	18-33
連結の進行状況の表示	18-34
連結レポートの実行	18-34
連結の例	18-38
例 1: フォームからのデータの再連結	18-39
例 2: データ・ステータス・グリッドからのデータの連結	18-39
例 3: 複数期間のデータの連結	18-39
拡張連結の概要	18-39
連結ロジック	18-40
連結メソッドの管理	18-41
連結メソッドの変更	18-42

連結メソッドの追加	18-44
連結メソッドのインポートおよびエクスポート	18-45
出資比率データの再計算	18-46
出資比率の管理	18-47
「出資比率の管理」設定の変更	18-48
出資比率データのインポートおよびエクスポート	18-50
前年比出資比率設定	18-53
フォームおよび構成可能な計算ルールでの出資比率設定	18-53
拡張連結ルール	18-55
構成可能な連結ルールについて	18-57
連結ルールセットおよびルールの管理	18-61
連結ルートセットの作成	18-62
連結ルールの作成	18-67
連結文字列	18-71
ルールセットの表示	18-72
ルールセットのデプロイおよびデプロイ解除	18-73
ルールセットの複製および削除	18-74
ルールセットおよびルールの並替え	18-75
シード済連結ルール	18-76
投資ルールセット	18-77
投資 PP ルールセット	18-79
自己資本(子会社/比例)ルールセット	18-80
自己資本(子会社/比例) PP ルールセット	18-82
自己資本(資本)ルールセット	18-84
自己資本(資本) PP ルールセット	18-86
自己資本(持株)ルールセット	18-87
純利益(子会社)ルールセット	18-89
純利益(資本)ルールセット	18-90
シード済連結ルールの例	18-91
シード済連結ルール - 例(1月)	18-92
シード済連結ルール - 例(2月)	18-94
シード済連結ルール - 例(3月)	18-101
構成可能な連結ルールのパフォーマンスの最適化	18-108

## 19 ルールの操作

---

連結および換算ルール	19-1
ビジネス・ルールの選択	19-3
ルールの使用状況の表示	19-4

計算の表示の無効化	19-6
計算の表示の更新	19-7
予測連結時間の表示	19-7
「累計ビューの保管の管理」 オプションの使用	19-9
<b>Financial Consolidation and Close の取得パフォーマンスのトラブルシューティング</b>	<b>19-12</b>
上書き換算ルールの操作	19-20
上書き換算ルールの作成	19-23
上書き換算ルールのデプロイ	19-25
換算上書きのレート勘定科目の作成	19-26
ユーザー定義レート勘定科目の編集	19-28
ユーザー定義レート勘定科目の削除	19-28
構成可能な計算の操作	19-29
構成可能な計算の作成	19-29
構成可能な計算用のブロックの自動作成の有効化	19-31
構成可能な計算ルール	19-33
システム計算	19-36
カスタム・ディメンション最上位メンバーのシステム計算オプション	19-37
期首残高の繰越し	19-38
期首残高上書きルール	19-39
貸借対照表の残高計算	19-41
比率計算	19-42
<b>Calculation Manager</b> での操作	19-43
構成可能な計算のベスト・プラクティス	19-44
拡張ディメンション・アプリケーションでの計算のベスト・プラクティス	19-68
計算スクリプトの検証警告の解決	19-79
増減の計算(期末残高入力から)	19-83
エクイティ・ピックアップの概要	19-85
エクイティ・ピックアップの有効化	19-87
エクイティ・ピックアップ処理	19-96
オンデマンド・ルールの操作	19-100
オンデマンド・ルールのガイドライン	19-101
オンデマンド・ルールの作成	19-104
データ・フォームへのオンデマンド・ルールの追加	19-106
オンデマンド・ルールのインポートおよびエクスポート	19-108
オンデマンド・ルールの起動	19-108
オンデマンド・ルールの計算ステータス	19-111
オンデマンド・ルールのデバッグ	19-111
オンデマンド・ルールの名前変更	19-113
オンデマンド・ルールの削除	19-114

Essbase 計算スクリプトの操作	19-114
サポートされている Essbase 関数	19-120
Financial Consolidation and Close のカスタム関数	19-126
FCCSImpactStatus 関数	19-126
Groovy ルールの使用	19-133
Groovy ビジネス・ルールについて	19-133
Groovy ルールの Java API リファレンス	19-134
Groovy ビジネス・ルールの例	19-138
Groovy ビジネス・ルール・チュートリアル・ビデオ	19-139
Groovy スクリプトを使用した Financial Consolidation and Close シード済ルールの実行	19-139
FCCS_YTD メンバーにデータを入力するための Groovy ルールを使用したプロトタイプ	19-142

## 20 承認ユニット階層の管理

---

承認ユニット階層の作成	20-1
承認ユニット階層の設定	20-2
承認ユニット階層のメンバーの選択	20-3
承認ユニットの所有者と確認者の割当て	20-5
シナリオへの承認ユニット階層の割当て	20-6
承認ユニット階層の編集	20-7
承認ユニット階層の使用状況の表示	20-7
承認ユニット階層の同期	20-8
承認ユニット階層の削除および名前変更	20-9
承認ユニット階層のエクスポート	20-10
承認ユニット階層のインポート	20-10

## 21 承認プロセスの管理

---

承認プロセスの概要	21-1
承認の有効化	21-2
承認プロセスの開始	21-2
承認フェーズの管理	21-3
承認グループの理解	21-3
承認グループの定義	21-4
アンカーおよび非アンカー・ディメンション	21-7
承認グループの編集、複製および削除	21-7
承認ユニット階層への承認グループの割当て	21-8
フェーズ別の承認ステータスの表示	21-9

承認フェーズの検証	21-10
承認ユニットの移動パス	21-12
承認ユニットの注釈レポートの作成	21-13
承認ステータス・レポートの作成	21-13
データ検証ルール	21-15
エンティティのロックとロック解除	21-16
承認プロセスの問題のトラブルシューティング	21-19

## 22 エンタープライズ仕訳の管理

---

エンタープライズ仕訳について	22-1
エンタープライズ仕訳のサンプル・タスク・フロー	22-2
エンタープライズ仕訳の有効化	22-3
エンタープライズ仕訳のビューおよびフィルタの操作	22-4
エンタープライズ仕訳リストの表示	22-4
エンタープライズ仕訳ライン・アイテムの表示	22-5
エンタープライズ仕訳の列の定義	22-6
エンタープライズ仕訳ステータス	22-8
エンタープライズ仕訳のセキュリティ役割	22-9
エンタープライズ仕訳チームの管理	22-10
エンタープライズ仕訳でのディメンションの管理	22-11
ディメンションおよびディメンション属性の追加	22-12
ディメンション属性の編集	22-13
ディメンション属性の削除	22-14
エンタープライズ仕訳ディメンション履歴の表示	22-14
エンタープライズ仕訳システム設定の管理	22-14
エンタープライズ仕訳での電子メール通知の設定	22-15
エンタープライズ仕訳のプリファレンスの設定	22-15
承認者レベルのオーバーライドの設定	22-16
エンタープライズ仕訳ガバナーの設定	22-16
エンタープライズ仕訳の期間の構成	22-17
エンタープライズ仕訳の接続の作成	22-18
エンタープライズ仕訳ターゲットの管理	22-19
エンタープライズ仕訳のターゲットの作成	22-19
エンタープライズ仕訳のターゲット属性の作成	22-22
エンタープライズ仕訳ターゲットの編集	22-24
エンタープライズ仕訳ターゲットの複製	22-25
エンタープライズ仕訳ターゲット履歴の表示	22-25
エンタープライズ仕訳ターゲットの削除	22-25

エンタープライズ 仕訳テンプレートの管理	22-25
エンタープライズ 仕訳テンプレートの作成	22-26
エンタープライズ 仕訳指示の指定	22-27
エンタープライズ 仕訳テンプレート・セクションの操作	22-27
エンタープライズ 仕訳ワークフロー・パラメータの指定	22-36
エンタープライズ 仕訳の質問の指定	22-39
エンタープライズ 仕訳テンプレート・アクセス権の設定	22-40
エンタープライズ 仕訳テンプレート履歴の表示	22-41
エンタープライズ 仕訳テンプレートの編集	22-41
エンタープライズ 仕訳テンプレートの複製	22-41
エンタープライズ 仕訳テンプレートの削除	22-41
アドホック・エンタープライズ 仕訳の作成	22-42
アドホック・エンタープライズ 仕訳の削除	22-43
エンタープライズ 仕訳の検証	22-44
エンタープライズ 仕訳のエクスポート	22-47
エンタープライズ 仕訳ライン・アイテムのエクスポート	22-48
エンタープライズ 仕訳テンプレートのデプロイ	22-48
エンタープライズ 仕訳テンプレートのデプロイ解除	22-50
エンタープライズ 仕訳の転記プロセス	22-50
エンタープライズ 仕訳のコピー	22-53
エンタープライズ 仕訳の強制クローズ	22-54
エンタープライズ 仕訳のダッシュボードの操作	22-54
「エンタープライズ 仕訳の概要」ダッシュボード	22-54
「エンタープライズ 仕訳のコンプライアンス」ダッシュボード	22-55
エンタープライズ 仕訳のカスタム・レポートの生成	22-56
エンタープライズ 仕訳のレポート問合せの作成	22-56
エンタープライズ 仕訳のレポート・テンプレートの作成	22-58
エンタープライズ 仕訳のレポート・グループの設定	22-58
エンタープライズ 仕訳のレポート定義の作成	22-59
エンタープライズ 仕訳レポートの生成	22-61

## 23 タスク・マネージャの設定

---

タスク・マネージャの用語	23-1
タスク・マネージャの概要	23-2
サンプル・タスク・フロー	23-3
タスク・マネージャのビュー、リストおよびフィルタの管理	23-4
タスク・マネージャ・リストの表示	23-5
タスク・マネージャの列の定義	23-6

タスク・マネージャ・システム設定の管理	23-14
グローバル統合トークンの管理	23-14
グローバル統合トークンの作成	23-15
トークンの削除	23-16
タスク・マネージャの組織単位の管理	23-16
組織単位の追加	23-16
組織単位のインポート	23-17
組織単位の選択	23-18
タスクの休日ルール of 管理	23-18
休日ルールの作成	23-18
組織単位への休日ルールの適用	23-19
スケジュール・テンプレートへの休日ルールの適用	23-19
休日日付のインポート	23-19
休日ルールの編集	23-20
休日ルールの複製	23-20
休日ルールの削除	23-21
構成設定の変更	23-21
コメントの削除の許可	23-21
タスクの削除の許可	23-21
電子メール通知の有効化	23-22
タスク・マネージャ・ガバナーの設定	23-32
再割当て要求の承認の許可	23-32
タスクを再度開く	23-33
タスク・マネージャ・レポートの設定	23-33
Excel 形式へのエクスポートの設定	23-34
Smart View でのタスク表示の指定	23-34
「ワークリストおよびようこそパネル」での今後のタスクの表示	23-35
タスク・マネージャ属性の管理	23-35
タスク・マネージャ属性の定義	23-36
計算属性の定義	23-37
リスト属性のインポート	23-41
属性の編集	23-41
属性の複製	23-42
属性の削除	23-42
属性の表示	23-43
属性の検索	23-43



## 24 タスク・マネージャのチームの管理

---

タスク・マネージャのチームおよびメンバーの追加	24-1
タスク・マネージャのチームおよびメンバーの編集	24-2
チームおよびメンバーの検索とフィルタ	24-2
チームおよびメンバーの削除	24-3
タスク・マネージャ・ユーザーの管理	24-4
バックアップ割当ての管理	24-5
タスク・マネージャでの再割当ての要求	24-6

## 25 タスク・タイプの管理

---

タスク・タイプ	25-1
タスク・タイプの作成	25-1
タスク・タイプのプロパティの設定	25-2
タスク・タイプ・パラメータの設定	25-2
タスク・タイプの指示の指定	25-3
タスク・タイプの質問の指定	25-4
タスク・タイプ属性の割当て	25-6
タスク・タイプ・ルールの操作	25-7
タスク・タイプ履歴の表示	25-9
タスク・タイプの編集	25-9
タスク・タイプの表示	25-10
タスク・タイプの検索	25-10
タスク・タイプのインポート	25-11
タスク・タイプのエクスポート	25-12
タスク・タイプの削除	25-13

## 26 タスク・テンプレートの管理

---

タスク・テンプレートの作成	26-1
テンプレート・プロパティの設定	26-2
テンプレートの指示の指定	26-3
テンプレートへの参照者の割当て	26-4
テンプレート属性の適用	26-5
日ラベルの指定	26-5
埋込みテンプレート	26-6
テンプレート・ルールの操作	26-7
テンプレート履歴の表示	26-9
テンプレートを開く	26-10

テンプレートへのタスクの追加	26-10
テンプレートの編集	26-11
テンプレートへのタスクのインポート	26-11
タスクのインポート・ファイル・フォーマット	26-13
<b>Microsoft Excel</b> へのタスクのエクスポート	26-16
テンプレートでのユーザーの再割当て	26-16
テンプレートからのスケジュールの作成	26-17
テンプレートからスケジュールを作成する際の「パラメータのオーバーライド」オプションの使用	26-20
テンプレートの手動検証	26-21
タスク・マネージャ・テンプレートの表示	26-22
テンプレートの検索	26-22
テンプレートの削除	26-23

## 27 タスクの管理

---

タスクの作成	27-1
タスク・プロパティの設定	27-2
タスク・パラメータの設定	27-3
タスクの指示の指定	27-4
ワークフローの選択	27-6
タスクの質問の追加	27-8
タスク参照者の設定	27-10
先行タスクの設定	27-10
タスクの属性の適用	27-12
タスク・ルールの操作	27-13
タスク履歴の表示	27-15
「タスク」ダイアログ・ボックスの操作	27-15
タスクのインポートおよびエクスポート	27-16
タスクの編集	27-18
添付の追加	27-18
タスクのソート	27-19
タスクの検索	27-19
タスクの移動	27-19
タスクの切り取り、コピー、貼付け	27-19
手動タスクおよび自動タスクを再度開く	27-20
タスクの送信	27-23
タスクの承認または却下	27-23
タスクの請求またはリリース	27-24

タスクの再割当ての管理	27-25
タスクの取消し	27-26
タスクの削除	27-26
サービスの管理	27-26

## 28 スケジュールの管理

---

スケジュールの手動作成	28-1
スケジュール・プロパティの設定	28-2
スケジュールへの指示の追加	28-3
スケジュール参照者の割当て	28-4
スケジュール属性の適用	28-5
日ラベルの追加	28-5
スケジュール・ルールの操作	28-6
必要なタスク・パラメータの設定	28-7
スケジュールを開く	28-7
スケジュールの編集	28-8
スケジュールへのタスクの追加	28-8
スケジュールへのタスクのインポート	28-9
スケジュール内のタスクの更新	28-10
スケジュールでのユーザーの再割当て	28-11
プロセスが自動化されたタスクの許可	28-12
スケジュール・ステータスの設定	28-14
スケジュール履歴の表示	28-15
スケジュールの検証	28-15
スケジュールのロック	28-16
スケジュールの表示	28-16
スケジュールの検索	28-17
スケジュールの削除	28-17

## 29 タスク・マネージャ統合の管理

---

EPM Cloud サービスとの統合の管理	29-2
EPM Cloud 内の事前作成済の統合の追加	29-2
EPM Cloud のエンド・ユーザー統合	29-4
EPM Cloud 用の自動化統合	29-6
統合ファイルのコピーおよび削除	29-28
クラウドおよびオンプレミス・アプリケーションとの統合の管理	29-30
Oracle Cloud ERP 用のエンド・ユーザー統合	29-31

Oracle Cloud ERP 用のイベント・モニタリング統合	29-36
オンプレミス・アプリケーションのエンド・ユーザー統合	29-42
統合の設定	29-50
オンプレミス Oracle E-Business Suite (EBS)統合	29-53
カスタム統合の作成	29-63
エンド・ユーザー統合の作成	29-63
カスタム・プロセスの自動化統合の作成	29-63
カスタム・イベント・モニタリング統合の作成	29-67
統合の操作	29-72
統合の作成	29-72
統合のプロパティの設定	29-72
統合のパラメータの設定	29-73
統合の表示	29-74
統合の編集	29-75
統合の検索	29-75
統合の検証	29-76
統合の削除	29-76
接続の管理	29-76
接続の追加	29-77
接続の編集	29-77
接続の削除	29-78

## 30 タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのアラート・タイプの管理

---

アラート・タイプの作成	30-1
アラート・タイプ・プロパティの設定	30-2
アラート・タイプの指示の指定	30-4
アラート・タイプ・ワークフローの選択	30-5
アラート・タイプ参照者の割当	30-6
アラート・タイプに対する質問の追加	30-6
アラート・タイプ属性の適用	30-8
アラート・タイプ履歴の表示	30-8
アラート・タイプの表示	30-9
アラートの列の定義	30-9
アラート・タイプの編集	30-11
アラート・タイプの検索	30-11
アラート・タイプの削除	30-12

## 31 タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのレポートの使用

---

タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのカスタム・レポートの生成	31-1
タスク・マネージャ問合せの作成	31-2
補足データ問合せの作成	31-6
テンプレートの作成	31-10
レポート・グループの設定	31-11
レポートの作成	31-11
問合せ、レポート・グループまたはレポートの検索とフィルタ	31-13
レポートの生成	31-14
レポート・セキュリティの理解	31-15
タスク・マネージャ・レポート・バインダの使用	31-17
レポート・バインダの生成	31-17
レポート・バインダの表示	31-18

## 32 補足データの管理

---

補足データ・プロセスの概要	32-1
補足データ・マネージャのビュー、リストおよびフィルタの管理	32-3
補足データ・マネージャのリストの表示	32-3
補足データの列の定義	32-4
補足データ・システム設定の管理	32-4
補足データ・マネージャでの電子メール通知の設定	32-4
補足データのプリファレンスの設定	32-5
補足データ・ガバナーの設定	32-5
補足データ分析ダッシュボードの操作	32-6
補足データ・マネージャでのディメンション属性の管理	32-7
補足データのディメンションの追加	32-8
ディメンション属性の追加	32-8
ディメンション属性の編集	32-10
ディメンション属性の削除	32-10
補足データのディメンション・メンバーのインポート	32-11
補足データのディメンション・メンバーのエクスポート	32-11
収集間隔の操作	32-12
収集間隔の作成	32-12
データ収集期間の構成	32-13
収集間隔履歴の表示	32-14
補足データ収集の操作	32-15
収集の作成	32-15
サブ収集の作成	32-16

収集属性の追加	32-16
収集リスト属性のインポート	32-23
収集履歴の表示	32-24
収集属性の削除	32-25
収集の編集	32-25
収集のコピー	32-25
収集の削除	32-26
補足データ・マネージャ・フォーム・テンプレートの作成	32-26
フォーム・テンプレートの指示の指定	32-27
補足データ・マネージャ・フォーム・セクションの操作	32-27
「フォーム・テンプレート」セクション: 「列」タブ	32-28
「フォーム・テンプレート」セクション: 「検証」タブ	32-30
「フォーム・テンプレート」セクション: 「グループ化基準」タブ	32-31
「フォーム・テンプレート」セクション: 「マッピング」タブ	32-32
フォーム・テンプレートの削除	32-32
「フォーム・テンプレート」セクション: 「履歴」タブ	32-33
ワークフローの割当て	32-33
フォーム・テンプレートの質問の指定	32-35
フォーム・テンプレートのアクセス権の設定	32-36
フォーム・テンプレートの履歴の表示	32-37
フォーム・テンプレートの編集	32-37
フォーム・テンプレートの複製	32-37
フォーム・テンプレートの削除	32-38
データ収集期間へのフォーム・テンプレートのデプロイ	32-38
フォーム・テンプレートのデプロイ解除	32-40
補足データ・フォームの再オープン	32-41
収集へのデータのバルク・ロード	32-41
補足データ・マネージャでのユーザーの再割当て	32-42
勘定科目残高に対する補足データ合計の検証	32-43
「補足データ分析」ダッシュボードでのデータの表示	32-45
Smart View での補足データの使用	32-45
通貨換算の使用	32-47
エンティティ・メンバーのデフォルト通貨の表示	32-47
換算用の通貨属性の設定	32-48

### 33 補足データ・マネージャ・チームの管理

補足データ・マネージャのチームおよびメンバーの追加	33-1
補足データ・マネージャのチームおよびメンバーのインポートおよびエクスポート	33-2

補足データ・マネージャ・ユーザーのエクスポート	33-4
補足データ・マネージャのチームおよびメンバーの編集	33-5
補足データ・マネージャのチームの削除とメンバーの削除	33-5
補足データ・マネージャ・ユーザーの管理	33-5

## 34 ビューおよびフィルタでの作業

---

フィルタでの作業	34-1
フィルタについて	34-1
既存の保存済フィルタの表示	34-2
新規フィルタの作成	34-3
フィルタ・バーを使用した表示の調整	34-4
フィルタ条件のクリア	34-4
フィルタの除去	34-5
フィルタの編集	34-5
フィルタの複製	34-5
フィルタの保存	34-6
保存済フィルタの適用	34-6
フィルタの発行	34-6
フィルタの削除	34-7
フィルタの列の表示	34-7
フィルタの列の順序変更	34-7
ビューでの作業	34-8
ビューについて	34-8
ビュー内のデータのフィルタについて	34-9
リスト・ビューでの作業	34-10
リスト・ビューについて	34-10
リスト・ビューのカスタマイズ	34-10
タスク・マネージャの例: スケジュール・タスクのリスト・ビューのカスタマイズ	34-11
補足データ・マネージャの例: 補足データ・タスクのリスト・ビューのカスタマイズ	34-11
エンタープライズ仕訳の例: エンタープライズ仕訳のリスト・ビューのカスタマイズ	34-12
ピボット・ビューでの作業	34-12
ピボット・ビューについて	34-13
ピボット・ビューのカスタマイズ	34-13
例: タスク・ステータスに基づいた組織単位の表示	34-15
例: テンプレートをグループ化して、ステータスに基づいて補足データ・フォームを表示	34-16
例: 策定者および承認者別に仕訳を表示	34-17
チャート・ビューでの作業	34-18

チャート・ビューの概要	34-18
チャート・ビューの作成	34-21
例: タスク・ステータスを月別に表示するチャートの作成	34-25
例: 予定終了日と実際の終了日の比較を表示するチャートの作成	34-26
例: タスクの実行を組織単位別に表示するチャートの作成	34-28
例: フォームとそのステータスを表示するチャートの作成	34-29
例: フォーム・テンプレートの期間とステータス(説明付き)を表示するチャートの作成	34-31
例: 策定者の仕訳の値を表示するチャートの作成	34-33
ガント・チャート・ビューでの作業	34-35
カレンダー・ビューでの作業	34-36
ビューの保存	34-36
保存済ビューの編集	34-37
ビューの発行	34-38
デフォルト・ビューの設定	34-38
リスト・ビューおよびピボット・ビューのエクスポート	34-39

## 35 操作ダッシュボードの管理

---

操作ダッシュボードの概要	35-1
操作ダッシュボードを表示する/開く	35-2
操作ダッシュボード: デザイン・モード	35-3
操作ダッシュボードの作成	35-4
操作ダッシュボードのプロパティの定義	35-5
操作ダッシュボードへのアクセスの定義	35-6
操作ダッシュボード内でのオブジェクト・タイプの設定	35-7
操作ダッシュボードのビュー・オプションの指定	35-8
操作ダッシュボードの編集	35-9
操作ダッシュボードの複製	35-9
操作ダッシュボードの削除	35-9
操作ダッシュボードのエクスポート	35-9
操作ダッシュボードのインポート	35-10
操作ダッシュボードの実行	35-11
操作ダッシュボードを表示するための列の表示	35-11
操作ダッシュボードを表示するための列の順序変更	35-11
操作ダッシュボードの URL のコピー	35-12
操作ダッシュボード内に表示されているデータへのフィルタの適用	35-12
例: タスク・マネージャの操作ダッシュボード	35-13
チャート・ビュー: タスク完了 - プラン vs 実績	35-14



チャート・ビュー: 遅延完了タスク	35-15
チャート・ビュー: 労働日別のステータス	35-16
チャート・ビュー: 地域別の完了	35-18
例: 補足データ・マネージャのダッシュボード	35-19
チャート・ビュー: タイプ別の補足データ収集	35-20
チャート・ビュー: 一定期間でのフォーム完了	35-22
チャート・ビュー: エンティティ別の債務タイプ	35-23
チャート・ビュー: 投資混合	35-25
例: エンタープライズ仕訳のダッシュボード	35-26
チャート・ビュー: テンプレート別の仕訳	35-27
チャート・ビュー: 勘定科目別の仕訳ライン・アイテム	35-28

## A Financial Consolidation and Close のベスト・プラクティス

## B EPM Cloud に関するよくある質問(FAQ)

# ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

## Oracle サポートへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

# ドキュメントのフィードバック

このドキュメントに対するフィードバックを送るには、Oracle Help Center トピックのページの下部にあるフィードバック・ボタンをクリックします。電子メールを [epmdoc\\_ww@oracle.com](mailto:epmdoc_ww@oracle.com) に送信することもできます。

# 1

## EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

EPM のベスト・プラクティスは、CoE (センター・オブ・エクセレンス)を作成することです。

**EPM CoE** は、導入およびベスト・プラクティスを確実にするための統合された取組みです。パフォーマンス管理およびテクノロジー対応ソリューションの使用に関連するビジネス・プロセスの変革を促進します。

クラウドの導入により、組織がビジネス・アジリティを改善し、革新的なソリューションを促進することが可能になります。**EPM CoE** はクラウド・イニシアチブを監督し、投資を保護および維持し、効果的な使用を促進するのに役立ちます。

**EPM CoE チーム:**

- クラウドの導入を確実にし、組織が **Cloud EPM** の投資を最大限に活用することを支援します
- ベスト・プラクティスの運営委員会として機能します
- **EPM** 関連の変更管理イニシアチブをリードし、変革を促進します

すでに **EPM** を実装済の顧客を含めて、すべての顧客が **EPM CoE** からメリットを得られます。

### 使用を開始する方法

クリックして、**EPM CoE** のベスト・プラクティス、ガイダンスおよび戦略を取得します: **EPM センター・オブ・エクセレンスの概要**。

### さらに学習

- クラウド・カスタマ・コネクト Web セミナーを見る: [Cloud EPM のセンター・オブ・エクセレンス\(CoE\)の作成および実行](#)
- ビデオを見る: [概要: EPM センター・オブ・エクセレンスおよびセンター・オブ・エクセレンスの作成](#)。
- **EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行**の **EPM CoE** のビジネス上のメリットおよび価値提案の確認。



# 2

## Financial Consolidation and Close の概要

Financial Consolidation and Close は、Oracle Cloud に構築されてデプロイされるサブスクリプション・ベースの連結およびレポート・ソリューションです。

これにより、ハードウェアなしで IT サポートを最小限に抑えた高速な実装を希望するユーザーは、簡易で迅速なデプロイメントを実現できます。また、わかりやすい直感的なインタフェースとともに、連結および決算プロセス・タスクの組込み機能が提供されます。

### ノート:

このガイドは、Financial Consolidation and Close アプリケーションの実装および保守を行う管理者を対象としています。

Financial Consolidation and Close では、次の機能が提供されます。

- 簡略化されたタブレット・ユーザー・インタフェース
- ネイティブ・ダッシュボードおよび分析
- 詳細分析のために事前定義されたディメンション
- 組込みのフォームおよびレポートによる柔軟なアプリケーション構成
- 通貨換算および FX 調整計算
- 自動キャッシュ・フロー
- カスタマイズの必要性がほとんどない即時利用可能な動的計算
- 簡易監査のための簡略化された連結ディメンション
- ビジネス・プロセスのタスク管理およびワークフロー
- 補足スケジュール・データ管理

機能の概要は、次のビデオを参照してください。



開始

## ホーム・ページの概要

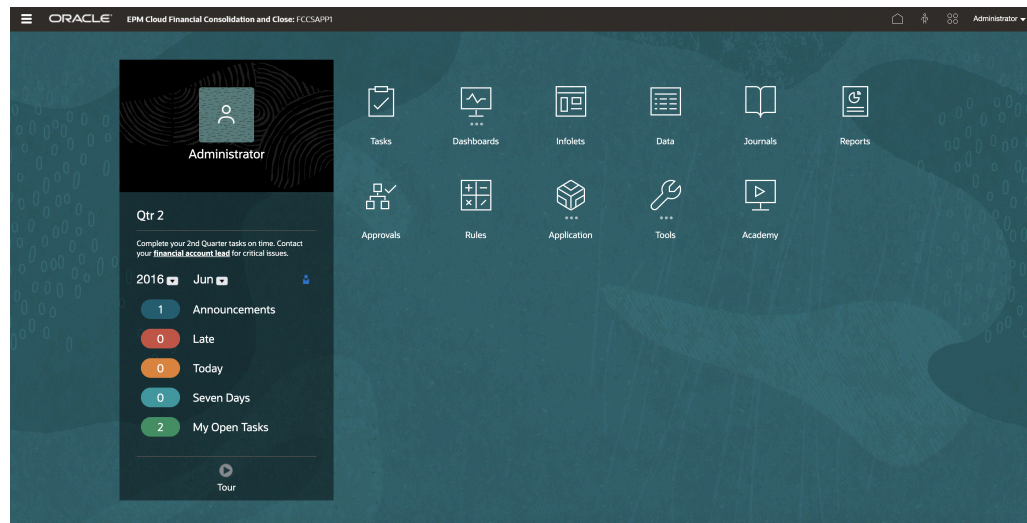
ビジネス・プロセスを作成した後は、ホーム・ページがビジネス・プロセス・タスクにアクセスするための起動ポイントとなります。

インタフェースにより、直感的なユーザー操作と、よく使用される機能へのクイック・アクセスの概要が提供されます。たとえば、ユーザーは、タスクへのアクセス、データの操作、レポートの表示および設定の制御を実行できます。サービス管理者は、ビジネス・プロセスの管理とカスタマイズ、フォームやダッシュボード、インフォレットの作成、データおよび

メタデータのインポートとエクスポート、ジョブのスケジュール、有効な交差の定義、通知の作成、環境間接続の作成などを行うことができます。

Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境の全般的なルック・アンド・フィールは、「**外観**」ページで変更できます。「**テーマ**」設定では、異なる背景色やアイコン・スタイルなどが設定された事前定義済テーマをリストから選択できます。ブランド・ロゴと背景イメージをホーム・ページに追加することもできます。**テーマ**設定を変更するには、[アプリケーションの外観のカスタマイズ](#)を参照してください。

### デフォルトのレッドウッド・テーマを表示するホーム・ページの例



### グローバル・ヘッダー




グローバル・ヘッダーは、ユーザー・インターフェース最上部に広がる領域です。ナビゲーション・アイコンに加えて、アクセシビリティ設定および「**設定およびアクション**」メニューへのアクセスが含まれています。グローバル・ヘッダーからナビゲーション・フローを切り替えることもできます。



グローバル・ヘッダーの左から右までの部分には次のものがあります:

グローバル・ヘッダーの部分	説明
	「ナビゲータ」アイコンで、「 <b>ナビゲータ</b> 」メニューを開きます。このメニューは、ビジネス・プロセスのサイトマップとして機能し、アクセスできるすべてのビジネス・プロセス・ページへのリンクが表示されます。 <b>ノート:</b> 「ナビゲータ」メニューの一部のリンクは、デスクトップからビジネス・プロセスにアクセスしている場合のみ使用可能です。
	ビジネス・プロセスの他の場所で作業しているときに、 <b>Oracle</b> ロゴをクリックしてホーム・ページに戻ります。



グローバル・ヘッダーの部分	説明
Financial Consolidation and Close Cloud: SDMFCCS	現在のビジネス・プロセスの名前。
	ホーム・アイコンで、ホーム・ページを更新したり、ビジネス・プロセスの他の場所で作業しているときにホーム・ページに戻ります。
	「アクセシビリティ設定」アイコンをクリックして、アクセシビリティ機能を有効にします。
	複数のグループに属している場合、またはナビゲーション・フローが役割に割り当てられている場合は、ナビゲーション・フロー・アイコンをクリックして実行時にナビゲーション・フローを切り替えます。
Administrator	ユーザー名をクリックして「設定およびアクション」メニューにアクセスします。

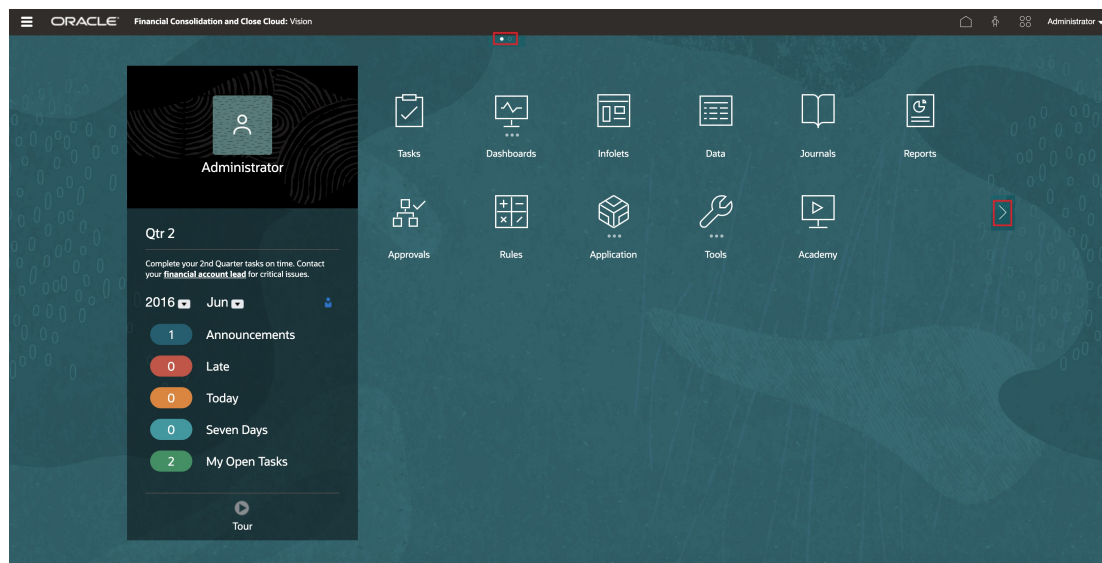
## 作業領域

ホーム・ページの作業領域には、アクセスできるビジネス・プロセスの各機能領域にリンクするアイコンが表示されます。アイコン・ラベルの上にある3つのドットは、アイコンによってクラスタと呼ばれるサブ・アイコンのグループが開くことを示します。

「アカデミ」アイコンは、ビジネス・プロセスの使用に関する様々なリソースにリンクしています。

## インフォレットのナビゲーション

ビジネス・プロセスでインフォレットを使用して概要レベルの必須情報を示す場合は、グローバル・ヘッダーの下に表示されるドットをクリックして調べることができます。ホーム・ページの側面にも矢印があり、ホーム・ページとインフォレット・ダッシュボード・ページとの間を簡単に移動できます。






### 「お知らせ」パネル

「お知らせ」パネルには、ユーザー名とプロフィール・ピクチャ(設定されている場合)、サービス管理者によって入力されたシステムに関するお知らせが表示され、自分のアクティビティを追跡できます。


**Administrator**


### Qtr 2

Complete your 2nd Quarter tasks on time. Contact your **financial account lead** for critical issues.



2016 ▾ Jun ▾ 

- 1 Announcements
- 0 Late
- 0 Today
- 0 Seven Days
- 2 My Open Tasks

  
Tour

- ホーム・ページの「お知らせ」パネル上部に表示されるプロフィール・ピクチャを設定できます。プロフィール・ピクチャを設定するには、「ツール」、「ユーザー・プリファレンス」の順にクリックします。詳細は、*Financial Consolidation and Close* の操作のプロフィール・ピクチャの設定を参照してください。
- アクティビティ** - システムのお知らせが要約され(発効日でソートした最新のお知らせが一番上に表示されます)、オープン・タスクがリストされます。「**お知らせ**」をクリックすると、パネルが切り替わり、お知らせが表示されます。「**本日期限のタスク**」をクリックすると、パネルが切り替わり、自分のタスクが表示されます。
- 最新** - 最近アクセスしたフォームとダッシュボード(最大 15 アイテム)へのリンクのリストが表示されます。リンクをクリックすると、アイテムがセカンダリ・ウィンドウで起動します。リンクの横の星をクリックすると、お気に入りとしてタグ付けされます。
- お気に入り** - お気に入りとしてタグ付けされたフォームまたはダッシュボードへのリンクのリストが表示され、それらが上書きされないようにします。「**お気に入り**」のリンクをクリックして、アイテムをセカンダリ・ウィンドウで起動します。「**お気に入り**」にアイテムを追加するには、「**最新**」をクリックして最近のユーザー・アクティビティを表示し、アイテムの右側にある星をクリックします。
-  - 「**ツアー**」アイコンをクリックして、ビジネス・プロセスの主要機能に関するビデオを起動します。

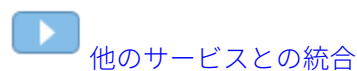
## ビデオ

目的	次のビデオを視聴
デフォルトのレッドウッド・テーマを調べます。	 概要: EPM Cloud の新しいレッドウッド・テーマのお知らせ
インタフェースをカスタマイズしてワークフローを合理化する方法を学習します。	 概要: Enterprise Performance Management Cloud のワークフローのカスタマイズ

## 他のサービスとの統合

Financial Consolidation and Close は、Narrative Reporting、EPM 自動化、データ統合、Oracle Smart View for Office、タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャと統合されています。これらの統合により、連結やビジネス・プロセスの効果と効率が高まります。

その他のサービスに関する詳細は、次のビデオを参照してください。



## Narrative Reporting

Narrative Reporting は、高度に書式化された高品質の財務管理レポートを作成するために使用します。レポートを編集した後、ホーム画面の「レポート」リストからそれを実行し、複数の出力オプションから選択できます。

## EPM 自動化

EPM 自動化はコマンドライン・ユーティリティで、サービス管理者は、アプリケーションのデータやメタデータのインポートおよびエクスポート、ビジネス・ルールの実行など、ジョブのスケジュールに使用できます。EPM 自動化にはナビゲータ・メニューからアクセスでき、コマンドはコマンド・プロンプトから実行します。

## データ統合

データ統合は、エンタープライズ・リソース・プランニングのソース・システムのデータを、エンタープライズ・パフォーマンス管理のターゲット・システムに統合するために使用します。データ統合には、ナビゲータ・メニューからアクセスします。「設定」タブで、インポート・フォーマットや場所、マッピングを作成し、ソースとターゲットのシステムを設定します。データの統合は、「ワークフロー」タブで実行します。

## Smart View

Smart View は、Excel、Word および PowerPoint などの Microsoft Office アプリケーションとの統合に使用します。インストールは、「ダウンロード」メニューから行います。Smart View でディメンションを編集する場合は、管理者用のアドオンもダウンロードできます。Smart View をインストールしたら、Office アプリケーションから直接データにアクセスできます。たとえば、データ・フォームを Excel で直接を開けます。

## タスク・マネージャ

タスク・マネージャは、テンプレート、スケジュールおよびダッシュボードを使用してすべてのタスクの集中モニタリングを行うために使用します。名前や期間など、テンプレートまたはタスクの基本プロパティや、指示、属性、ラベル、ルールも指定できます。

## 補足データ・マネージャ

補足データ・マネージャを使用すると、アプリケーションの粒度のレベルが高くなります。これを使用して、ディメンション、収集、収集間隔およびフォーム・テンプレートを設定できます。フォーム・テンプレートの編集が終了したら、「タスク」メニューからフォームにアクセスできます。補足データはダッシュボードでも参照できます。

# 3

## Financial Consolidation and Close アプリケーションの作成

アプリケーションは、一連の連結および決算プロセスのニーズを満たすために使用される関連ディメンションおよびディメンション・メンバーのセットです。各アプリケーションにはそれぞれ独自の勘定科目、エンティティ、シナリオおよび他のデータ要素があります。

Financial Consolidation and Close の操作を開始するときに、データ、ディメンションおよびフォームを管理するためのアプリケーションを作成します。環境ごとに作成できるアプリケーションは 1 つのみです。

許可されたサービス管理者のみがアプリケーションを作成できます。サービス管理者は、次のタスクも実行できます。

- ディメンションおよびメンバーの作成、編集、削除などの継続メンテナンスの実行
- データのインポートおよびエクスポート

アプリケーションを作成すると、ERP または財務システムからメタデータをインポートしたり、既存のメタデータ・リポジトリからあらかじめフォーマットされたメタデータ・フラット・ファイルを読み込んでアプリケーションのディメンションに移入できます。

アプリケーションの作成後は、ホーム・ページで「**アプリケーション**」を選択し、アプリケーションを表示したり管理します。

## ビジネス・プロセスの作成

2つの環境は、アクティブ化プロセスの一部として Oracle Enterprise Performance Management Cloud インスタンスを作成したときに作成されます。[EPM Cloud インスタンスの作成](#)を参照してください。最初に、サービス管理者が環境にサインインし、アプリケーションを作成します。

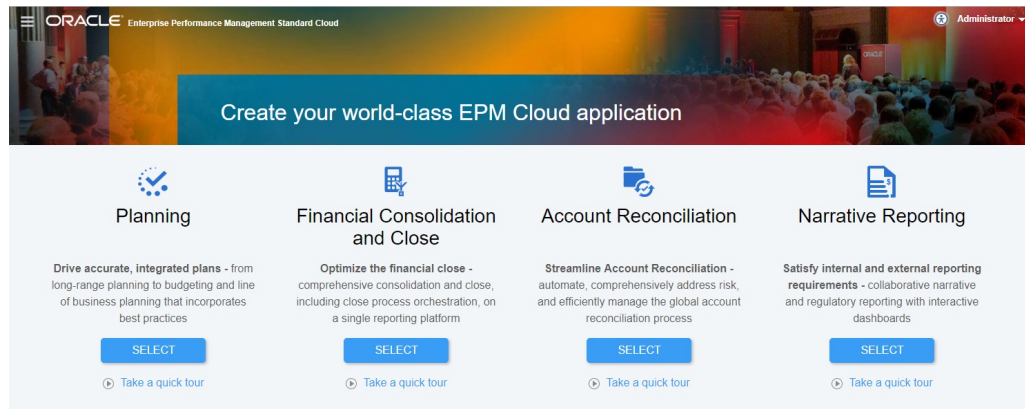
環境へのサインイン手順は、[EPM Cloud へのアクセス](#)を参照してください。新規のお客様には、購入したサブスクリプションのタイプに応じて、次のいずれかのページが表示されます:

- [EPM Enterprise Cloud Service アプリケーションの作成](#)
- [EPM Standard Cloud Service アプリケーションの作成](#)

アプリケーションの作成後にログインすると、アプリケーションのホーム・ページが表示され、ランディング・ページは表示されなくなります。

## EPM Standard Cloud Service アプリケーションの作成

ランディング・ページは、アプリケーションを作成したり、開始に役立つ概要ビデオ・ツアーを表示するための開始点です。



EPM Standard Cloud Service の各サブスクリプションに対して 1 つのアプリケーションを作成できます。

EPM Standard Cloud Service のランディング・ページには、作成できるアプリケーションが表示されます。

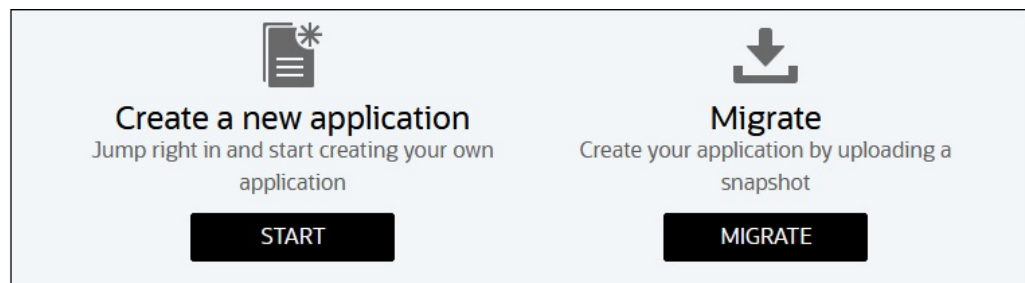
#### ノート:

アプリケーションの作成を開始した後、ランディング・ページには戻れません。ランディング・ページに戻って異なるアプリケーションを作成する場合は、最初に環境を当初の状態にリセットする必要があります。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイドの異なるビジネス・プロセスへの切替え](#)を参照してください。

アプリケーションを作成するための 2 つのオプションがあります。

- 独自の設定を選択したアプリケーションの作成
- 既存のスナップショットを使用したアプリケーションの作成

これらのオプションは、次の図のようなビジネス・プロセス固有のランディング・ページに表示されます。



ランディング・ページで「Financial Consolidation and Close」の選択をクリックし、Financial Consolidation and Close ビジネス・プロセスを作成するための使用可能なオプションを表示します。

- 新規アプリケーションを作成: **開始**をクリックし、ビジネス・プロセスを作成します。

Financial Consolidation and Close ビジネス・プロセスは、一連の連結および決算プロセスのニーズを満たすように設計された関連ディメンションおよびメンバーのセットです。ビジネス・プロセスには、それ自体の勘定科目、エンティティ、シナリオおよび他のデータ要素があります。Financial Consolidation and Close アプリケーションの作成を参照してください。

- 移行: **移行**をクリックし、以前に環境にアップロードしたスナップショットからビジネス・プロセスをインポートします。前提条件およびスナップショットの互換性については、[EPM Standard Cloud Service](#) および [EPM Enterprise Cloud Service](#) に移行可能なアプリケーションを参照してください。

## EPM Enterprise Cloud Service アプリケーションの作成

ランディング・ページは、アプリケーションを作成したり、開始に役立つ概要ビデオを表示するための開始点です。

The screenshot displays a grid of eight application categories, each with an icon, a title, a descriptive paragraph, a 'SELECT' button, and a 'Take a quick tour' link.

- Planning**: Drive accurate, integrated plans - from long-range planning to budgeting and line of business planning that incorporates best practices.
- Financial Consolidation and Close**: Optimize the financial close - comprehensive consolidation and close, including close process orchestration, on a single reporting platform.
- Account Reconciliation**: Streamline Account Reconciliation - automate, comprehensively address risk, and efficiently manage the global account reconciliation process.
- Profitability and Cost Management**: Manage and drive profitability - efficiently model profitability by segment and complex costing of shared services.
- FreeForm**: Create flexible and fully customizable applications for reporting and planning. Migrate your On-Prem Essbase cubes for use in EPM Cloud.
- Tax Reporting**: Align tax reporting with corporate financial reporting - seamless transparency between tax and finance with a strong compliance framework.
- Narrative Reporting**: Satisfy internal and external reporting requirements - collaborative narrative and regulatory reporting with interactive dashboards.
- Enterprise Data Management**: Manage change with enterprise data management - enterprise data governance, change data visualization and hierarchy management.

EPM Enterprise Cloud Service の各サブスクリプションに対して 1 つのアプリケーションを作成できます。アプリケーションの下にある**選択**をクリックし、使用可能なオプションを確認します。

EPM Enterprise Cloud Service のランディング・ページには、作成できるアプリケーションが表示されます。

### ノート:

アプリケーションの作成を開始した後、ランディング・ページには戻れません。ランディング・ページに戻って異なるアプリケーションを作成する場合は、最初に環境を当初の状態にリセットする必要があります。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイドの異なるビジネス・プロセスへの切替え](#)を参照してください。

ビジネス・プロセスを作成するための 2 つのオプションがあります。



- 新規アプリケーションが作成されます
- 既存のスナップショットを使用してアプリケーションを作成します

ランディング・ページで「Financial Consolidation and Close」の**選択**をクリックし、Financial Consolidation and Close ビジネス・プロセスを作成するための次のオプションを表示します。

- 新規アプリケーションを作成: **開始**をクリックし、ビジネス・プロセスを作成します。

*Financial Consolidation and Close* の**管理**の [Financial Consolidation and Close アプリケーションの作成](#)を参照してください。

- 移行: **移行**をクリックし、以前に環境にアップロードしたスナップショットからビジネス・プロセスをインポートします。前提条件およびスナップショットの互換性については、[EPM Standard Cloud Service](#) および [EPM Enterprise Cloud Service](#) に**移行可能なアプリケーション**を参照してください。

## アプリケーションの前提条件

- 使用可能な履歴データの分析後、一連の要件を作成してその要件をサポートするアプリケーションの設計を開発しました。
- セキュリティ・コンポーネントが設定されています。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイドのユーザーと役割の管理](#)を参照してください
- 少なくとも1人のユーザーがアプリケーション・インスタンスのサービス管理者の役割を付与されています。

### 関連トピック:

[アクセス制御の概要](#)、[グループの管理](#)および**多数のグループへのユーザーの割当て**については、[Oracle Enterprise Performance Management Cloud アクセス制御の管理](#)を参照してください。

## アプリケーションの作成のワークフロー

表 3-1 アプリケーションの作成のワークフロー

タスク	説明	詳細情報
アプリケーション構造の作成	アプリケーションを作成します。	<a href="#">アプリケーションの作成</a> を参照してください。
メタデータのロードとアプリケーションのリフレッシュ	ディメンションおよびそのメンバーをロード・ファイルからアプリケーション内にロードします。	<a href="#">メタデータのインポート</a> を参照してください。
データのロード	データをフラット・ファイルからロードします。	<a href="#">データのインポート</a> を参照してください。
フォーム・フォルダおよびフォームの設定	フォーム・フォルダおよびフォームを作成して、アクセスできるユーザーを指定します。ユーザーは、アプリケーション・データを表示または入力するためのフォームを使用します。	<a href="#">フォームの管理</a> を参照してください。



表 3-1 (続き) アプリケーションの作成のワークフロー

タスク	説明	詳細情報
タスク・リストおよびタスクの設定	タスク・リストおよびタスクを作成して、アクセスできるユーザーを指定します。	<a href="#">タスクの管理</a> を参照してください。

## アプリケーションの作成

Financial Consolidation and Close は、マルチディメンショナル連結アプリケーションです。デフォルトで、連結詳細データを保管するための事前定義されたディメンションの必要なセットがシステムに備わっています。アプリケーションの作成および構成中に、アプリケーションの必要性に基づいてオプションの追加ディメンションを選択できます。

アプリケーションを作成する前に、「**クイック・ツアーを見る**」をクリックし、アプリケーションの設計および使用開始に関して役に立つ情報にアクセスできます。

アプリケーションを作成するには、サービス管理者である必要があります。

作成したアプリケーションの名前は変更できません。たとえば、「xxx」というテスト・アプリケーションを本番で「xxx」という名前にすることはできません。アプリケーションを再作成して再ビルドする必要があります。

アプリケーションを作成するには:

1. サービス管理者として Financial Consolidation and Close にログオンします。
2. 「Finance」の下の「開始」をクリックします。
3. 「Financial Close」をクリックします。
4. 「新規」をクリックします。
5. 「アプリケーションの作成: 一般」ページで、アプリケーションの名前を入力します。

アプリケーション名に次の文字を使用することはできません。

アンパサンド(&)、アポストロフィ(')、アスタリスク(\*)、アットマーク(@)、バックスラッシュ(\)、キャレット(^)、コロン(:)、カンマ(,)、中カッコ({})、ドル記号(\$)、二重引用符(")、等号(=)、感嘆符(!)、スラッシュ(/)、大なり記号(>)、小なり記号(<)、縦線(|)、マイナス記号(-)、番号記号(#)、カッコ( )、パーセント記号(%)、ピリオド(.)、プラス記号(+)、疑問符(?)、セミコロン(;)、空白、大カッコ(())またはタブ。

6. 「説明」に、アプリケーションの説明を入力します。
7. 「次」をクリックします。
8. 「詳細」ページで、アプリケーションのカレンダーと通貨のオプションを選択します。アプリケーションの作成後は、これらのオプションを変更または有効化できません。
  - **期間 - 月数:** 年に含める月の数(12 か月または 13 か月)を選択します。

「12 か月」を選択した場合、期間はデフォルトで、1 月から 12 月になります。違う期間にする場合は、いつでも期間名に別名を追加できます。

「13 か月」を選択した場合は、四半期のそれぞれに期間「**配分**」を選択してください。デフォルトの配分は、3-3-3-4 です。接頭辞を選択すると、P1 から P13 のように、接頭辞に 1 から 13 の数字が追加されます。

- **開始年と終了年:** アプリケーションにデータを含める期間範囲を選択します。  
アプリケーションに必要な期間範囲を調整できます。また、アプリケーションの作成後に、年ディメンションに追加のメンバーを作成すると、アプリケーションに追加の年を加えられます。
  - **会計年度の最初の月:** ドロップダウンから、会計年度に使用する最初の月を選択します。12 か月の場合、デフォルトは1月です。13 か月の場合、デフォルトはP1です。
  - **オプション: HYTD メンバーの作成:** デフォルトで、アプリケーションには、期別、YTD、QTD というデータのビューがあります。半年累計(HYTD)の期間も含めるには、「有効化」をクリックします。
  - **主要通貨:** ドロップダウンから、アプリケーションの主要通貨を選択します。システムには、標準の ISO コードが用意されています。デフォルト通貨は USD です。
  - **複数通貨:** アプリケーションに複数通貨のデータを含める場合は、このオプションを選択します。「複数通貨」オプションが有効ではない場合、アプリケーションで通貨ディメンションは作成されません。
9. 「次」をクリックして、アプリケーションの機能を有効化します。[アプリケーション機能の説明](#)を参照してください。
  10. 有効化する機能を選択したら「次」をクリックし、「確認」ページで、選択したアプリケーションの詳細を確認します。
  11. アプリケーションを作成する場合は、「作成」をクリックし、設定を変更する場合は、「戻る」をクリックして変更を行います。  
「作成」をクリックした場合は、アプリケーション・シェルが作成され、選択内容に基づいて、アプリケーションに適用可能なディメンションとメンバーが生成されます。
  12. 「アプリケーション作成のステータス」メッセージで、「OK」をクリックします。

## アプリケーションの機能の有効化

2つの方法を使用して機能を有効化できます:

- アプリケーションの作成プロセス中に、アプリケーションの作成ウィザードの「機能」タブを使用します。
- アプリケーションの作成後は、「アプリケーション構成」ページからいつでも機能を有効化できます。

「機能」ページに、有効化できる機能が表示されます。アプリケーションの作成後、アプリケーションの作成の一環として選択した機能が表示されます。

### ノート:

アプリケーションの作成後に機能を無効化することはできません。

機能の構成に関する詳細は、次のビデオを参照してください。



## アプリケーションの構成

### アプリケーション作成中の機能の有効化

1. アプリケーションの作成ウィザードで、「**機能**」タブに移動します。
2. 有効化する機能を選択し、「**次**」をクリックします。
3. 「**確認**」ページで、選択したアプリケーションの詳細を確認します。
4. オプションを選択します。
  - アプリケーションを作成するには、「**作成**」をクリックします。
  - 設定を変更するには、「**戻る**」をクリックして前の画面で変更を行います。
5. 「アプリケーション作成のステータス」メッセージで、「**OK**」をクリックします。

### アプリケーション構成での機能の有効化

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」を選択します。
2. 「**構成**」画面で、「**機能を使用可能にする**」をクリックします。
3. 有効化する機能を選択します。

[アプリケーション機能の説明](#)を参照してください。
4. 「**有効化**」をクリックします。
5. システムに、機能が有効化されたというメッセージが表示されたら、「**OK**」をクリックします。

既存のアプリケーションで新機能を有効化した後は、ナビゲーション・フローをリロードする必要があります。
6. ホーム・ページで、ユーザー名の横にある下矢印をクリックします。
7. 「**設定およびアクション**」メニューで、「**ナビゲーション・フローのリロード**」をクリックします。

## アプリケーション機能の説明

Financial Consolidation and Close は、すぐに使用できる換算、連結、消去および調整を含む連結機能のセットを備えています。

アプリケーションを作成すると、システムで次のディメンションが作成されます。

- 年
- 期間
- 表示
- 通貨(複数通貨が選択されている場合のみ)
- 連結
- シナリオ
- エンティティ
- 会社間(「機能を使用可能にする」で「会社間」が選択されている場合のみ)

- 勘定科目
- 増減
- データ・ソース

アプリケーションに要求される機能によっては、必要な追加の機能、ディメンションおよびメンバーを有効にできます。たとえば、会社間消去の仕訳の調整または追跡を有効にできます。機能が有効になると、それを無効にすることはできません。

次の機能を選択できます。

- **連結**  
連結モジュールを有効にしないと、「貸借対照表階層」オプションやその他の連結関連機能は表示されません。[連結、補足データおよびエンタープライズ仕訳の機能](#)を参照してください。

- **複数 GAAP レポート**

このオプションを選択するのは、財務諸表をローカル GAAP と IFRS または他の GAAP の両方でレポートする必要がある場合です。このオプションは、ローカル GAAP データ入力と任意の GAAP 調整を追跡します。

「複数 GAAP レポート」オプションが有効になっていない場合は、複数 GAAP ディメンションが作成されません。

必要に応じて正しい GAAP 調整を反映するようにメンバー名を変更できます。必要な場合には、他の GAAP 調整の追加メンバーおよび階層を含めることもできます。

最大 4 つのカスタム・ディメンションをアプリケーションに追加できます。アプリケーションで「複数 GAAP レポート」オプションが有効化されている場合、3 つのカスタム・ディメンションを作成できます。

- **調整の入力** - GAAP 調整を手動で入力するには、このオプションを選択します。
- **調整の計算** - 入力したローカル GAAP と IFRS の金額に基づいてシステムで調整金額を計算するには、このオプションを選択します。

- **累積換算調整(CTA)勘定科目**

このオプションは、複数通貨アプリケーションのみで使用可能です。

CTA 勘定科目は、取得時換算勘定の外国為替(FX)の計算値を保管するのに使用されます。

「貸借対照表」または「包括利益」で、CTA 勘定科目を含めるようにアプリケーションを構成できます。詳細は、[シード済ディメンション・メンバー](#)で「CTA および CICTA 勘定科目」を参照してください。

- **貸借対照表**
- **包括利益**

これらのオプションのいずれかを有効化した後は、変更できません。オプションを変更するには、アプリケーションを再作成する必要があります。

### ローカル GAAP

「ローカル GAAP」には、同じオプションが使用されます。

たとえば、「CTA (貸借対照表)」を選択した場合、「ローカル GAAP」でも「CTA (貸借対照表)」が選択されます。**CICTA (包括利益)**を選択した場合、「ローカル GAAP」でも「CICTA (包括利益)」が選択されます。

- **期間および増減を密にする** - 期間および増減を密ディメンションとして使用するアプリケーションを作成する場合はこのオプションを使用し、勘定科目を密ディメンションとして使用する場合はこのオプションの選択を解除します。  
このオプションは、ハイブリッドが有効な **Essbase** で実行されているアプリケーションにのみ適用されます。
- **勘定科目レポート**  
**貸借対照表階層**: アプリケーションに最も適した貸借対照表階層を選択します。システムによって作成される階層に加え、手動で追加の階層を作成することも可能です。
  - **従来**の貸借対照表方式 - このオプションでは、親メンバーとして資産合計を含み、別の親メンバーとして負債および資本合計を含む勘定科目階層が提供されます。これらの2つの親メンバーの集約は、資産合計 = 負債および資本合計としてゼロになる必要があります。
  - **純資産方式** - このオプションでは、純資産 = 資産合計 - 負債合計として、貸借対照表階層内で別個に純資産を追跡できます。
  - **基本** - 拡張ディメンション・アプリケーションにのみ使用できます。このオプションでは、有効にした機能およびシード・フォームの最小セットに基づいて、勘定科目および増減ディメンション・メンバーの必須の最小セットについて単純化された階層を提供します。「基本」が選択されているが、従来または純資産のいずれかが選択されていない場合は、オプションで間接キャッシュ・フローを有効化できることに注意してください。

### 比率計算を含める

アプリケーションに含める適用可能な比率計算を選択します。選択した特定の比率グループが含まれる勘定科目ディメンションに個別の比率階層が作成されます。個々の比率勘定科目と対応する計算が、アプリケーションの一部として作成されます。各グループに別の比率計算を追加できます。

- **流動性比率**
  - \* 流動比率
  - \* 当座比率
  - \* 現金比率
- **資産管理比率**
  - \* 在庫回転率
  - \* 資産回転率
  - \* 売上債権回収日数
  - \* 棚卸資産回転日数
- **利益率**
  - \* 総利益マージン
  - \* 売上高収益率
  - \* 株主資本利益率
- **レバレッジ率**
  - \* 負債資本比率
  - \* 負債比率
- **会社間データ**

アプリケーションに会社間データが含まれる場合、このオプションを選択します。有効化すると、システムでは、システム・メンバーを含む会社間ディメンションが作成されます。エンティティ・ディメンションに、メンバーを会社間ディメンションに含めるかどうかを指定するメンバーのプロパティが表示されます。プロパティが選択されると、同じ名前のメンバーが会社間ディメンションに作成されます。

「会社間データ」オプションを有効化しない場合、会社間ディメンションはアプリケーションに表示されません。

**会社間消去の追跡** - 「会社間データ」オプションを選択すると、この追跡オプションも追加で選択できるようになります。このオプションで、データ・ソースとは別に会社間消去データを追跡できます。このオプションを選択しない場合、すべてのデータ・ソースの合計消去値が、データ・ソースの詳細ではなくアプリケーションに1つの合計として保管されます。

#### ノート:

出資比率の管理機能を使用するには、これらの両方のオプションが必要です。

**会社間エンティティ集約** - 「会社間データ」オプションを選択する場合は、会社間エンティティを会社間最上位メンバーに集約するための集約オプション: 「加算」、「減算」、「無視」または「該当なし」を選択します。[会社間エンティティの集約オプション](#)を参照してください。

- **連結仕訳の調整**

アプリケーションに連結仕訳の調整データが含まれる場合、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、アプリケーションに、仕訳入力进行管理するための「仕訳」メニューが表示されます。仕訳は手動で入力またはロードできます。「連結仕訳の調整」を有効にすると、データ・ソース・ディメンションに仕訳入力という名前の追加メンバーが加えられ、通常のデータ入力とは別に、調整金額が追跡されます。

**連結仕訳ワークフロー** - 「連結仕訳の調整」が有効な場合、仕訳プロセスのワークフローも追加で選択できます。「連結仕訳ワークフロー」を有効にした場合は、システムに転記する前に、最初に、すべての仕訳を送信して承認を受ける必要があります。

連結仕訳を有効にしない場合、「連結仕訳」メニューはアプリケーションに表示されず、仕訳関連のメタデータまたはレポートも存在しません。

**貸借不一致の仕訳** - 「連結仕訳の調整」が有効な場合、貸借不一致の仕訳を作成する機能を追加で選択できます。「貸借不一致の仕訳」オプションを選択すると、仕訳を作成できるすべてのユーザーが貸借不一致の仕訳を作成でき、これらはすべてのシナリオ、エンティティ、連結メンバー、エンティティ通貨およびすべての入力通貨について許可されます。「貸借不一致の仕訳」を使用するために、仕訳ワークフローを有効にする必要はありません。


**ノート:** この機能は、密/疎最適化(DSO)を使用するアプリケーションでのみ使用可能です。

- **出資比率の管理**

出資比率の管理データおよび連結メソッドを管理するには、このオプションを選択します。

このオプションは、「会社間データ」と「会社間消去の追跡」も有効化した場合にのみ使用できます。



 **ノート:**

既存のアプリケーションの「出資比率の管理」を有効化する前に、移行に関する考慮事項を確認して、新しいシード・メンバーとの競合の可能性を回避する必要があります。アプリケーションでの「出資比率の管理」の有効化を参照してください。

- **エクイティ・ピックアップ**

子会社への投資の値を記録するエクイティ・ピックアップ・メソッドを有効化するには、このオプションを選択します。

- **パートナ消去**

データをパートナ・メンバーに書き込むルールを有効化するには、このオプションを選択します。パートナ消去ルールによって、処理中のエンティティの兄弟の消去連結メンバーにデータを書き込みます。連結ルールの作成を参照してください。このオプションを選択すると、ほぼすべてのエンティティ (親エンティティを含む) にメタデータで「会社間パートナ」のフラグが設定される必要があります (会社間エンティティ属性で「ICP\_Entity\_Yes」を選択)。これらのエンティティに「会社間」のフラグが設定されていない場合、パートナ消去ルールが失敗する可能性があります。唯一の例外は、最上位のエンティティ・ラベル(「エンティティ」)とその直属の子(「グローバル仮定」および地域合計を含む)である必要があります。

- **間接キャッシュフロー**

基本勘定科目レポート・オプションを選択した場合、間接キャッシュフロー階層を期末残高階層に追加し、キャッシュ・フロー階層を追加するには、このオプションを選択します。

勘定科目レポートに対して「従来の貸借対照表方式」または「純資産方式」を選択した場合、このオプションはデフォルトで選択され、選択を解除できません。

- **複数ソース・データ入力の追跡**

データ・ソース・システム・ディメンションは、アプリケーションの一部として提供されます。データ・ソース・ディメンションには、デフォルトで、データ入力メンバーが作成され、.csv ファイルから手動で入力またはロードされたデータが追跡されます。

**その他のデータ** - 別のソースからデータを収集する場合、このオプションを選択します。「その他のデータ」という名前の追加メンバーが、追跡目的でデータ・ソース・ディメンションに作成されます。

- **カスタム・ディメンション**

カスタム・ディメンションを使用すると、より詳細な連結データのビューを表示できます。これらのディメンションを使用すると、製品、マーケット、チャネルなど、勘定科目に関連付けられているその他の詳細を指定できます。たとえば、カスタム・ディメンションには、製品ライン、地域、チャネル、顧客などがあります。

このオプションを選択して、カスタム・ディメンションを追加し、そのディメンションの名前を入力します。

最大 4 つのカスタム・ディメンションをアプリケーションに追加できます。アプリケーションで「複数 GAAP レポート」オプションが有効化されている場合、3 つのカスタム・ディメンションを作成できます。

 ノート:

4つのカスタム・ディメンション(「複数 GAAP レポート」オプションを有効にした場合は3つ)を追加する機能は、新規にプロビジョニングされたすべての環境で使用できます。

2019年6月より前にプロビジョニングされた環境では、2つのカスタム・ディメンションを使用できます。これらの環境で3つ以上のカスタム・ディメンションを使用する場合は、[拡張ディメンションへの移行](#)を参照してください。

• **追加連結メンバー**

- **換算通貨入力**—換算通貨入力を有効にすると、連結ディメンションに「FCCS\_Translated Currency Input」という名前の追加メンバーが作成されます。仕訳、仕訳テンプレートおよび仕訳レポートを作成し、仕訳モジュールから仕訳をエクスポートおよびインポートしてオンデマンド・ルールを作成するとき、「FCCS\_Translated Currency Input」メンバーを選択できます。
- **親入力**—「親入力」オプションは、親の通貨での親/子組合せへのデータ入力のために使用します。
- **コントリビューション入力**—「コントリビューション入力」オプションは、必要に応じてすでに比例し再分類されたデータ入力のために使用します。「親入力」および「コントリビューション入力」のデータは、データ入力フォーム(Oracle Smart View for Office)、データ・ロードまたは仕訳入力から入力でき、構成可能な計算ルールから書き込むことができます。[連結](#)を参照してください。

- **累計ビューの保管の管理**—連結および換算プロセス中に、システムで自動的に YTD、HYTD および QTD の値が計算されるかどうかを指定できます。たとえば、FCCS\_Periodic ビュー・メンバーのみを選択した場合、システムは期別の値のみを計算します。これは、アプリケーションとキューブのサイズの削減に役立つ場合があります。このオプションを有効にすると、システムは自動的に、選択されたビューによる新しい連結ルールと換算ルールをアプリケーションに追加します。[「累計ビューの保管の管理」オプションの使用](#)を参照してください。

• **補足データ収集**

補足データから追加の補足詳細を収集する場合は、このオプションを選択します。有効にした場合は、補足データ・マネージャを使用してデータ収集ワークフローを構成でき、承認済データは、追跡目的で、補足データという名前のデータ・ソース・ディメンションの別のメンバーに保管されます。サポート詳細をすべて表示するには、ソースにドリルバックします。補足データ収集を有効化しない場合、一部の補足データ関連の機能を使用できません。[連結、補足データおよびエンタープライズ仕訳の機能](#)を参照してください。

• **エンタープライズ仕訳**

エンタープライズ仕訳を有効にするには、このオプションを選択します。エンタープライズ仕訳は、仕訳を管理するための EPM プラットフォーム・ツールです。エンタープライズ仕訳は任意の ERP に直接転記できます。[エンタープライズ仕訳の管理](#)を参照してください。

• **「年」および「期間」を単一のディメンションとして結合します。**

データ・フォームで SingleTime 置換ディメンションの使用を有効にするには、このオプションを選択します。SingleTime ディメンション・メンバーは、2022年 Q1、2022年1月といったタイプのフォーマットで作成されます。メンバーの作成



中に、名前のフォーマットが同じ既存のメンバーについて検証が実行されます。既存のメンバーがある場合は、警告メッセージが表示され、**SingleTime** ディメンションを作成する前に、既存のメンバーを削除し、データベースをリフレッシュする必要があります。[SingleTime ディメンションの使用](#)を参照してください。

- **期間および増減を密にする**

アプリケーションを作成すると、「期間および増減を密にする」オプションがデフォルトで選択されます。勘定科目が密ディメンションであるアプリケーションを作成する場合は、このオプションの選択を解除します。既存のアプリケーションを期間および増減ディメンションが密ディメンションであるアプリケーションに移行することもできます。「アプリケーション概要」画面から移行ユーティリティを使用できます。[期間および増減ディメンションの密ディメンションへの変換](#)を参照してください。

## 連結、補足データおよびエンタープライズ仕訳の機能

**Financial Consolidation and Close** では、一定期間のビジネス・カレンダー・アクティビティを定義することで、すべてのビジネス・プロセス・タスクを集中モニタリングできます。連結機能を有効化して、組織全体にわたるデータを計算および集約できます。その後、データを計算および調整し、通貨換算を実行して連結ルールを実行できます。補足データ機能を有効化すると、財務分析および開示のために補足トランザクション詳細を管理できます。エンタープライズ仕訳機能を有効化すると、一般会計の転記に含める手動仕訳入力の設定および承認を管理でき、**Enterprise Standard ERP** との統合ソリューションが実現します。

アプリケーションを作成すると、デフォルトで、連結機能とタスク・マネージャ機能が有効化されます。

補足データ機能とエンタープライズ仕訳機能はオプションです。アプリケーションの作成中または作成後にこれらを有効化できます。

機能を有効にするには、[アプリケーションの機能の有効化](#)を参照してください。

### 連結機能

次の機能は、連結モジュールが有効な場合にのみ使用できます。無効な場合、ホーム・ページやナビゲータからこれらの機能にアクセスすることはできません。

- 貸借対照表階層
- 財務ダッシュボード
- 仕訳
- 承認
- ルール
- 有効な交差
- データ管理統合
- アクション・メニュー
- スマート・リスト
- 変数
- レポート
- ワークフロー

### 補足データ機能

次の機能は、補足データ機能が有効な場合にのみ使用できます。無効な場合、ホーム・ページ、「ダウンロード」ページまたはナビゲータからこれらの機能にアクセスすることはできません。

- 補足データの作成および管理
- 補足データ管理のための **Smart View** 拡張機能

### エンタープライズ仕訳の機能

次の機能は、エンタープライズ仕訳機能が有効な場合にのみ使用できます。無効な場合、ホーム・ページ、「ダウンロード」ページまたはナビゲータからこれらの機能にアクセスすることはできません。

- ダッシュボード
  - 概要/コンプライアンス
  - 独自のカスタムの作成
- 仕訳リスト
- 「仕訳詳細」ページ
  - ヘッダーおよびライン・アイテム・セクション
  - サポート・ドキュメントの添付
  - 監査証跡
- テンプレート
  - 優先する仕訳レイアウトの設計
  - 定型仕訳の設定
- ワークフロー
- **Oracle Smart View for Office**
- エンタープライズ仕訳用 **Smart View** 拡張機能
- **EPM** 統合および任意の **ERP** への転記(承認および転記前の外部検証を含む)

## アプリケーションでの「出資比率の管理」の有効化

アプリケーションを作成するときに、「出資比率の管理」機能を有効化でき、この機能を使用して出資比率および連結メソッドを割り当てることができます。既存のアプリケーションの機能を有効にすることもできます。

この機能の詳細は、[出資比率の管理](#)を参照してください。

この項では、「出資比率の管理」を有効にする要件、および有効化時にシステムで実装されるメタデータ変更をリストします。

 ノート:

「出資比率の管理」を有効にしない場合、既存のアプリケーションへの影響はありません。

「出資比率の管理」を有効にする前に、次の項を確認します。

- [新規アプリケーションの出資比率の管理の要件](#)
- [既存のアプリケーションの出資比率の管理の要件](#)
- [出資比率の管理のための会社間ディメンション・メンバー](#)
- [出資比率の管理のためのメンバーと別名に関する考慮事項](#)
- [出資比率の管理のメタデータ変更](#)

#### 新規アプリケーションの出資比率の管理の要件

新規アプリケーションに対して「出資比率の管理」オプションを選択するには:

- 「**会社間データ**」および「**会社間消去の追跡**」オプションを有効にする必要があります。どちらも有効になっている場合、「出資比率の管理」オプションを選択できます。
- アプリケーションの作成時に「出資比率の管理」を選択しない場合、これらのオプションが両方とも有効になっていれば、後からこの機能を有効にできます。

#### 既存のアプリケーションの出資比率の管理の要件

既存のアプリケーションに対して「出資比率の管理」オプションを有効にするには:

- 「**会社間データ**」オプションを有効にする必要があります。  
会社間ディメンションが有効になっていない場合、「出資比率の管理」機能を使用するには、アプリケーションを再作成する必要があります。
- 「**会社間消去の追跡**」オプションを有効にする必要があります。  
会社間ディメンションが有効になっている場合、既存のアプリケーションでこのオプションを有効にできます。[アプリケーションの機能の有効化](#)を参照してください。  
既存のアプリケーションで新機能を有効化した後は、ナビゲーション・フローをリロードする必要があります。
  - ホーム・ページで、ユーザー名の横にある下矢印をクリックします。
  - 「**設定およびアクション**」メニューで、「**ナビゲーション・フローのリロード**」をクリックします。

#### 出資比率の管理のための会社間ディメンション・メンバー

「**会社間データ**」および「**会社間消去の追跡**」オプションを有効にした場合、次のディメンション・メンバーが作成されます。

- 会社間ディメンション
- 連結ディメンションの FCCS\_Elimination メンバー
- データ・ソース・ディメンションの FCCS\_Intercompany Elimination メンバー

### 出資比率の管理のためのメンバーと別名に関する考慮事項

「出資比率の管理」を有効にした場合、シード済連結ルールをサポートするために、シード済の勘定科目メンバーと増減メンバーが別名で新しく追加されます。これにより、アプリケーション内の既存のメンバーについて、「別名が重複しています」というエラーが発生する場合があります。

次の表に、勘定科目ディメンションおよび増減ディメンションの新しいメンバー名と別名を示します。連結ディメンションやデータ・ソース・ディメンションなど、すべてのメタデータ変更の詳細は、[出資比率の管理のメタデータ変更](#)を参照してください。

「出資比率の管理」機能を有効にする前に、次のステップを実行する必要があります。

- 新しいシード・メンバーのリストを確認します。同じ目的を持つ複数のメンバーをすでに定義している場合は、新しいシード・メンバーと競合しないよう、これらのメンバーを削除する必要があります。
- 新規メンバーの別名と競合が発生しないように、既存の勘定科目メンバーと増減メンバーを確認します。

新しいシード・メンバーには **FCCS\_xxx** という接頭辞が含まれるため、新規メンバーの名前と競合することはありません。

- 競合している場合は、機能を有効にする**前**に、別名を変更する必要があります。そうしないと、移行中またはデータベースのリフレッシュ時にエラーが発生します。
- 別名を変更する場合、別名が参照されている既存のすべてのアーティファクトも変更する必要があります。
- 参照されているアーティファクトから重複するメンバーを削除するか、または適切なメンバーを参照するようにアーティファクトを更新する必要があります。

「出資比率の管理」を有効にした後、メンバーと別名についてエラーが発生する場合は、ジョブ・コンソールをチェックして、競合しているメンバーの別名に関する詳細を確認します。

**表 3-2 勘定科目ディメンション - 新規メンバー**

メンバー名	別名
FCCS_Dividends Receivable	Dividends Receivable
FCCS_Investment in Equity Companies	Investment in Equity Companies
FCCS Investment in Equity Companies Investment	Investment in Equity Companies - Investment
FCCS_Investment in Equity Companies Equity Pickup	Investment in Equity Companies - Equity Pickup
FCCS_Investment Link	Investment Link
FCCS_Intangible Assets	Intangible Assets and Goodwill
FCCS_Goodwill	Goodwill
FCCS_Goodwill Input	Goodwill - Input
FCCS_Goodwill Offset	Goodwill - Offset
FCCS_Minority Interest	Minority Interest
FCCS_Owners Equity	Owner's Equity
FCCS_Other Equity	Other Equity
FCCS_Revaluation Reserves	Revaluation Reserves
FCCS_Dividends Declared	Dividends Declared

表 3-2 (続き) 勘定科目ディメンション - 新規メンバー

メンバー名	別名
FCCS_Retained Earnings Current - Pre Ownership Change	Retained Earnings Current - Pre Ownership Change
FCCS_Owners Income	Owner's Income
FCCS_Minority Interest Income	Minority Interest Income
FCCS_Net Discontinued Operations Income	Net Discontinued Operations Income
FCCS_Discontinued Operations Income	Discontinued Operations Income
FCCS_Discontinued Operations Tax	Discontinued Operations Tax
FCCS_Continuing Operations Income	Continuing Operations Income
FCCS_Equity Company Income	Equity Company Income

表 3-3 増減ディメンション - 新規メンバー

メンバー名	別名
FCCS_Mvmts_Acquisitions	Acquisition of companies and businesses
FCCS_Mvmts_Disposals	Disposal of companies and businesses

#### 出資比率の管理のメタデータ変更

「出資比率の管理」オプションが有効になっている場合、メタデータに対するこれらの変更が実装されます。

#### 勘定科目階層の変更

「出資比率の管理」が有効になっている場合、連結ルールをサポートするためにシードされたシステム勘定科目が作成されます。

また、既存の FCCS\_Percent Consol メンバーの「データ・ストレージ」プロパティは、「保管」から「動的計算」に変更されます。この勘定科目は、入力された出資比率情報に基づいて動的に計算されます。

次に、更新された **FCCS\_Total Assets** 階層を、次の追加勘定科目とともに示します。

- FCCS\_Dividends Receivable
- FCCS\_Investment in Equity Companies
- FCCS\_Investment in Equity Companies Investment
- FCCS\_Investment in Equity Companies Equity Pickup
- FCCS\_Investment Link
- FCCS\_Intangible Assets
- FCCS\_Goodwill
- FCCS\_Goodwill Input
- FCCS\_Goodwill Offset

```
FCCS_TotalAssets
|___ FCCS_Current Assets
|   |___ FCCS_Other Receivables
|   |   |___ FCCS_Dividends Receivable
|   |   ...
|   |___ FCCS_Long Term Assets
|   |___ FCCS_Investment in Sub
|   |___ FCCS_Investment in Equity Companies
|   |   |___ FCCS_Investment in Equity Companies Investment
|   |   |___ FCCS_Investment in Equity Companies Equity Pickup
|   |___ FCCS_Investment Link
|   |___ FCCS_Intangible Assets
|   |   |___ FCCS_Goodwill
|   |   |   |___ FCCS_Goodwill Input
|   |   |   |___ FCCS_Goodwill Offset
```

次に、更新された **FCCS\_Total Equity** 階層を、次の追加勘定科目とともに示します。

- FCCS\_Minority Interest
- FCCS\_Owners Equity
- FCCS\_Other Equity
- FCCS\_Revaluation Reserves
- FCCS\_Dividends Declared
- FCCS\_Retained Earnings Current - Pre-Ownership Change
- FCCS\_Owners Income
- FCCS\_Minority Interest Income
- FCCS\_Net Discontinued Operations Income
- FCCS\_Discontinued Operations Income
- FCCS\_Discontinued Operations Tax
- FCCS\_Continuing Operations Income
- FCCS\_Equity Company Income

```

FCCS_Total Equity
├── FCCS_CTA
├── FCCS_Minority Interest
├── FCCS_Owners Equity
│   ├── FCCS_Common Stock
│   ├── FCCS_Surplus
│   ├── FCCS_Other Equity
│   ├── FCCS_Other Reserves
│   ├── FCCS_Total Other Comprehensive Income
│   │   ├── FCCS_CICTA
│   │   ├── FCCS_Revaluation reserves
│   │   └── FCCS_Retained Earnings
│   │       ├── FCCS_Dividends Declared (-)
│   │       ├── FCCS_Retained Earnings Prior
│   │       ├── FCCS_Retained Earnings Current - Pre Ownership Change
│   │       └── FCCS_Retained Earnings Current
│   │           ├── FCCS_Owners Income
│   │           ├── FCCS_Minority Interest Income (-)
│   │           └── FCCS_Net Income
│   │               ├── FCCS_Net Discontinued Operations Income
│   │               ├── FCCS_Discontinued Operations Income
│   │               ├── FCCS_Discontinued Operations Tax
│   │               └── FCCS_Continuing Operations Income
│   │                   ├── FCCS_Total Pre Tax Income
│   │                   ├── FCCS_Operating Income
│   │                   ├── ...
│   │                   ├── ...
│   │                   ├── FCCS_Other Income Expense
│   │                   └── FCCS_Equity Company Income
│   └── FCCS_Provision for Income Tax (-)

```

次に、更新された **FCCS\_Drivers** 階層を、次の追加勘定科目とともに示します。

- FCCS\_Percent Elim
- FCCS\_Consol Method
- FCCS\_Control
- FCCS\_Control Input
- FCCS\_Consol Method Input
- FCCS\_Percent Consol Input
- FCCS\_Percent Ownership Input
- FCCS\_Percent Min Input
- FCCS\_Percent Consol Prior Input
- FCCS\_Percent Consol Change Input
- FCCS\_Percent Consol - プロパティは「動的計算」に変更されます
- FCCS\_Percent Consol Prior
- FCCS\_Percent Consol Change
- FCCS\_Percent Owners
- FCCS\_Percent Min

> FCCS_Amount Override Accounts	Amount Override Accounts	Label only
└ FCCS_Drivers	Drivers	Label only
> FCCS_Percent Elim	Percent Elim	Store
> FCCS_Consol Method	Consol Method	Never Share
> FCCS_Control	Control	Never Share
> FCCS_Control Input	Control Input	Never Share
> FCCS_Consol Method Input	Consol Method Input	Never Share
> FCCS_Percent Consol Input	Percent Consolidation Input	Never Share
> FCCS_Percent Ownership Input	Percent Ownership Input	Never Share
> FCCS_Percent Min Input	Percent Min Input	Never Share
> FCCS_Percent Consol Prior Input	Percent Consol Prior Input	Never Share
> FCCS_Percent Consol Change Input	Percent Consol Change Input	Never Share
└ FCCS_Percent Consol	Percent Consolidation	Dynamic Calc
> FCCS_Percent Consol Prior	Percent Consolidation Prior	Dynamic Calc
> FCCS_Percent Consol Change	Percent Consolidation Change	Dynamic Calc
> FCCS_Percent Ownership	Percent Ownership	Dynamic Calc
> FCCS_Percent Min	Percent Min	Dynamic Calc

### 連結ディメンションの変更

- 既存の FCCS\_Proportion メンバーの「データ・ストレージ」プロパティは、「動的計算」から「保管」に変更されます。
- FCCS\_Proportion メンバーは、FCCS\_Entity Total の親メンバーではなくなります。かわりに、このメンバーは FCCS\_Entity Total の兄弟になります。
- 「データ・ストレージ」プロパティを変更するには、アプリケーション内のすべての既存データの再連結が必要です。すべてのエンティティの計算ステータスは、「影響」に変更されます。比率量が計算されて連結ディメンションに保管されるように、アプリケーション内のすべての既存データを再連結する必要があります。

#### ノート:

ロックされている期間がある場合、それらの期間をロック解除してからデータを再連結する必要があります。

次に、FCCS\_Contribution 階層を、次の追加メンバーとともに示します。

- FCCS\_Proportion
- FCCS\_Entity Total Adj
- FCCS\_Entity Elimination Adj
- FCCS\_Entity Proportion Adj

└ Consolidation
└└ FCCS_Contribution
└└└ FCCS_Elimination
└└└ FCCS_Proportion
└└└ FCCS_Entity Total
└└└└ FCCS_Entity Input
└└└└ FCCS_Entity Total Adj
└└└└└ FCCS_Entity Elimination Adj
└└└└└ FCCS_Entity Proportion Adj
└└└└└ FCCS_Entity Consolidation

### 増減メンバーの変更

出資率の管理の連結ルールをサポートするために、次の新しいシード済増減メンバーが追加されます。



- FCCS\_Mvmts\_Acquisitions\_Total
- FCCS\_Mvmts\_Acquisitions
- FCCS\_Mvmts\_Acquisitions\_Input
- FCCS\_Mvmts\_Disposals\_Total
- FCCS\_Mvmts\_Disposals
- FCCS\_Mvmts\_Disposals\_Input

The screenshot shows a hierarchical tree structure for 'Movement'. The root node is 'Movement', which is expanded to show 'FCCS\_Movements'. Under 'FCCS\_Movements', there are several sub-nodes, including 'FCCS\_No Movement', 'FCCS\_ClosingBalance', 'FCCS\_TotalOpeningBalance', 'FCCS\_Mvmts\_Total', 'FCCS\_Mvmts\_Subtotal', 'FCCS\_Mvmts\_Cash', 'FCCS\_Mvmts\_Operating', 'FCCS\_Mvmts\_Investing', 'FCCS\_Mvmts\_Acquisitions\_Total', 'FCCS\_Mvmts\_Acquisitions', 'FCCS\_Mvmts\_Acquisitions\_Input', 'FCCS\_Mvmts\_Disposals\_Total', 'FCCS\_Mvmts\_Disposals', 'FCCS\_Mvmts\_Disposals\_Input', 'FCCS\_Mvmts\_CapitalExpenditures', 'FCCS\_Mvmts\_ProceedsFromSalesOfPPE', 'FCCS\_Mvmts\_OtherInvestingActivities', 'FCCS\_Mvmts\_Financing', 'FCCS\_Mvmts\_IssueOfStock', 'FCCS\_Mvmts\_ProceedsFromDebt', 'FCCS\_Mvmts\_RepaymentOfDebt', 'FCCS\_Mvmts\_OtherFinancingActivities', and 'FCCS\_Mvmts\_FX\_Total'.

### データ・ソース・メンバーの変更

次の新しいシード済データ・ソース・メンバーが追加されます。

- **FCCS\_Total Eliminations** は、構成可能な連結ルールで使用するために **FCCS\_Intercompany Eliminations** とユーザーが作成した消去メンバーの小計として追加され、パートナ消去が有効になっている場合は、**FCCS\_Partner Eliminations** が追加されます。  
リリース 23.04 より前は、システムで計算された出資比率消去および調整(取得、処分、エンティティ消去調整およびエンティティ比率調整)が **FCCS\_Intercompany Eliminations** に書き込まれていました。  
リリース 23.04 以降では、代替変数 `EnableNewAcqDisp` が `False` に設定されているか、存在しない場合に、これらのシステム・エントリが引き続き **FCCS\_Intercompany Eliminations** に書き込まれます。システムで計算された消去および調整に **FCCS\_Intercompany Eliminations** を引き続き使用する機能は、今後のリリースで削除される予定です。
- **FCCS\_AcquisitionsDisposals** は、システムで生成された出資比率調整および消去(取得、処分、エンティティ消去調整およびエンティティ比率調整)を取得するために使用されま

す。このメンバーは、代替変数 `EnableNewAcqDisp` が **True** に設定されている場合にリリース 23.04 以降で使用されます。この代替変数は今後のリリースで削除される予定であり、このデータ・ソース・メンバーが、システム調整および消去が書き込まれる唯一のメンバーとなります。このメンバーはシステム専用であるため、システム計算によってのみデータを移入でき、ルールやデータ入力(ロード、手動入力または仕訳入力)によってデータを移入することはできません。

`FCCS_AcquisitionsDisposals` は、取得および処分に関連付けられたすべての値がシステム会社間消去プロセスで消去されるように、`FCCS_Total Eliminations` の下ではなく、`FCCS_TotalInputandAdjusted` 小計の下にあります。システム会社間消去は、`FCCS_TotalInputandAdjusted` の下のレベル・ゼロのメンバーにのみ適用され、`FCCS_Total Eliminations` の下のメンバーからの値は含みません。この変更がない場合は、換算とその後の消去の両方の前に、取得および処分が生成される状況が発生する可能性があります。`FCCS_Intercompany Eliminations` メンバーの FX エントリは、`FCCS_TotalInputandAdjusted` 内の一致するデータ・ポイントと同時に消去されない可能性があります。

- `FCCS_Source Entities` 階層は、システムによって出資比率の管理に使用されます。

次に、`FCCS_Total Data Source` 階層を、次の追加メンバーとともに示します。

- `FCCS_Total Eliminations`
- `FCCS_AcquisitionsDisposals`
- `FCCS_Source Entities` 階層
- `S_Parent Source`
- `S_Current Source`
- `S_Entity`
- `S_FCCS_Total Geography`

Name
▲ Data Source
▲ FCCS_Total Data Source
FCCS_No Data Source
▲ FCCS_Total Eliminations
FCCS_Intercompany Eliminations
▲ FCCS_TotalInputAndAdjusted
▶ FCCS_Data Input
▶ FCCS_Managed Data
▶ FCCS_Other Data
▶ FCCS_Journal Input
▶ Journal Input1
▶ Journal Input2
▶ FCCS_EPU
▶ FCCS_Supplemental Data
▶ FCCS_AcquisitionsDisposals
▲ FCCS_SystemTypes
▶ FCCS_Driver Source
▲ FCCS_Source Entities
▶ S_Parent Source
▶ S_Current Source
▶ S_Entity
▶ S_FCCS_Total Geography
▶ S_United States
▶ S_East Region
▶ S_East Sales

## 出資比率の管理

出資比率の管理は、グローバル連結設定とこれらの連結設定のアプリケーションを、各エンティティ階層に対してシナリオ別、年別および期間別基準で管理することから構成されます。

出資比率設定は、「シナリオ」、「年」および「期間」の組合せごとに、各親子エンティティの組合せに対して適用されます。

「出資比率の管理」画面には、承認ユニットのステータスに基づいてエンティティの「ロック済」/「ロック解除済」ステータスを表示する列も含まれています。承認プロセスでは、共有エンティティのすべてのインスタンスについて承認ユニットは1つです。そのため、1つのインスタンスのデータが承認で「ロック済」になると、すべてのインスタンスが「ロック済」になります。同じロック・ロジックが出資比率の管理にも適用されます。データが承認ユニット POV についてロックされると、出資比率の管理の設定も同じ承認ユニット POV についてロックされます。

一致する承認ユニットが「ロック済」であるか、または一致する承認ユニットの親が「ロック済」である場合、出資比率設定データは「ロック済」になります。これらの状況では、データと出資比率データ/設定のどちらも入力したり、変更することはできません。

一致する承認ユニットが「ロック済」でなく（「ロック済」以外のステータス）、かつ一致する承認ユニットの親が「ロック済」でない場合、出資比率設定/データは「ロック解除済」になります。これらの状況では、データと出資比率データ/設定の両方を入力したり、変更できます。

承認ユニットがすでに「ロック済」であるエンティティ・データに影響を及ぼす変更を加えることができないように、出資比率の管理に対する変更は「ロック解除済」エンティティに

ついでのみ許可されます。「ロック済」(<parent / entity>)のエンティティについては、出資比率設定をインポートできません。

この機能を無効にする場合は、LinkOwnershipandDataLocking という名前の代替変数を追加し、False に設定します。False に設定すると、ロックおよびロック解除の要件が適用されなくなります。

「出資比率の管理」にアクセスするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「連結」の順にクリックします。
2. 「出資比率の管理」をクリックします。
3. 階層を表示する親エンティティ・メンバーを選択します。
4. 「シナリオ」、「年」および「期間」を選択します。
5. 「更新」矢印ボタン(➡)をクリックして、選択した POV に画面を更新します。必要に応じて、階層を展開または縮小できます。
6. 親/子ボタンをクリックして、階層全体を表示します。
7. 「親/法的エンティティ」ボタンをクリックして、各親の最終出資比率設定をその子孫の法的エンティティとともに表示します(現在、すべての基本エンティティは法的エンティティとみなされることに注意してください)。
8. 出資比率の管理に変更を加える前に、エンティティの「ロック済/ロック解除済」列を確認します。「ロック解除済」エンティティについてのみ変更が許可されます。

#### 親/子ビュー

当初、すべてのメンバーは次の設定を継承します。

- 出資比率%: 100
- コントロール: はい
- 連結メソッド: 子会社
- 連結%: 100
- 少数株主持分%: 0

唯一の例外は、あらゆる共有エンティティです(エンティティが単一階層内に複数回存在する場合など)。最初のインスタンスは前述の設定を継承しますが、各後続インスタンスは次の設定を継承します。

- 出資比率%: 0
- コントロール: いいえ
- 連結メソッド: 非連結
- 連結%: 0
- 少数株主持分%: 0

## ローカル・レート勘定科目データのコピー

ローカル・レート機能を使用している場合は、既存のローカル・レート・データをアップグレードするために、ローカル・レート勘定科目データをエンティティ通貨の交差から入力通貨の交差にコピーする構成ユーティリティが提供されます。ローカル・

レート・データをコピーするには、この**ローカル・レート勘定科目データのコピー**・ユーティリティを手動で実行する必要があります。データをエンティティ通貨からプライマリ親の対応する入力通貨にコピーした後、このプロセスを再度実行する必要はありません。

通貨が異なる複数の親を持つ共有エンティティの場合、エンティティの通貨レート・データは、プライマリ親の通貨にのみコピーされます。通貨が異なる他の親の対応する入力通貨レート・データは、手動で入力する必要があります。

構成タスクからローカル・レート勘定科目データをコピーします。

ローカル・レート勘定科目データをコピーするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックします。
2. **ローカル・レート勘定科目データのコピー**をクリックします。
3. 「**起動**」をクリックし、警告メッセージから「**OK**」をクリックします。
4. ジョブのステータスを表示するには、ジョブ・コンソールに移動します。

## 拡張ディメンションへの移行

新しい Financial Consolidation and Close アプリケーションを作成すると、拡張ディメンションが有効になります。これは、ハイブリッド・キューブをサポートする Essbase バージョンを使用してカスタム・ディメンションを追加する機能です。システムで事前定義されたディメンションに加え、アプリケーションの必要性に基づいて最大 4 つのカスタム・ディメンションを作成できます。アプリケーションで「複数 GAAP レポート」オプションが有効化されている場合、3 つのカスタム・ディメンションを作成できます。

2 つのカスタム・ディメンションのみを許可するレガシー非ハイブリッド・アプリケーションを使用している場合は、**ハイブリッド・モード・アプリケーションの有効化**オプションを使用して、アプリケーションをレガシー・ハイブリッド・アプリケーションに移行できます。

このオプションを有効にするには、次のステップに従います:

1. 移行プロセスを使用して、アプリケーションの完全なバックアップ・スナップショットを作成します。
2. EPM 自動化を使用し、recreate コマンドを実行して、EssbaseChange パラメータの値を Upgrade に設定します。

```
epmautomate recreate -f EssbaseChange=Upgrade
```

これにより、Essbase のバージョンがアップグレードされ、アプリケーションも削除されます。Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の EPM 自動化コマンドを参照してください。

3. バックアップからアプリケーションをインポートします。  
これらのステップを完了すると、Essbase バージョンがアップグレードされ、**ハイブリッド・モード・アプリケーションの有効化**オプションが使用可能になります。
4. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして「**概要**」を選択し、「**アクション**」メニューのドロップダウンから**ハイブリッド・モード・アプリケーションの有効化**を選択します。

移行タスクが実行される前に、このアクションは元に戻すことができないという警告と、変更のサマリーを示す検証画面が表示されます。移行を開始する前に、「**サマリー/ダウン**

**ロード**」リンクをクリックして変更を表示します。影響を受ける挿入ルールとオンデマンド計算に注意してください。移行プロセスの後で、これらを確認する必要があります。

5. **「起動」** をクリックして、移行タスクを開始します。  
このタスクは、移行が必要なデータの量によって、完了までに長い時間がかかる場合があります。ステータスとジョブの詳細は、ジョブ・コンソールに表示されます。
6. 移行タスクが正常に終了したことを確認してください。なんらかの理由でタスクが失敗した場合は、「アプリケーション概要」画面からタスクを再度実行できます。

ハイブリッド・モード・アプリケーションの有効化オプションを実行すると、移行プロセスによってメタデータが次のように変更されます:

- シード済 **「増減」**、**「会社間」** および **「複数 GAAP」** 最上位メンバーの DataStorage プロパティが DynamicCalc に変更されます。
- **「ビュー」** ディメンションで、**「QTD」**、**「HYTD」**、**「YTD」** が保管済メンバーに変更され、新規メンバー **QTD\_Rule**、**HYTD\_Rule**、**YTD\_Rule** がシードされます。挿入ルール(構成可能な計算ルール)やオンデマンド・ルールなどのカスタム計算では、FCCS\_YTD への参照は FCCS\_YTD\_RULE に変換され、FCCS\_QTD は FCCS\_QTD\_RULE に変換され、FCCS\_HYTD は FCCS\_HYTD\_RULE に変換されます。FCCS\_QTD、FCCS\_YTD または FCCS\_HYTD を参照するフォームを作成した場合は、対応する\_RULE メンバーを参照するようにフォームを変更する必要があります。
- ディメンションのパフォーマンスの順序が変更されました。
- SolveOrder: **「期間」**、**「ビュー」**、**「増減」**、**「データソース」**、**「連結」** (「出資比率の管理」が無効になっている場合のみ)ディメンション・メンバーは、デフォルトの SolveOrder が定義されてシードされます。
- **「複数 GAAP」** (存在する場合)および **「カスタム・ディメンション」** (製品など)の場合: すべてのユーザー定義の上位レベル・メンバーの DataStorage プロパティが DynamicCalc に変更されます。

## 拡張ディメンションおよび Enterprise Cloud Service への移行

新しい Financial Consolidation and Close アプリケーションを作成すると、拡張ディメンションが有効になります。これは、ハイブリッド・キューブをサポートする Essbase バージョンを使用してカスタム・ディメンションを追加する機能です。システムで事前定義されたディメンションに加え、アプリケーションの必要性に基づいて最大 4 つのカスタム・ディメンションを作成できます。アプリケーションで「複数 GAAP レポート」オプションが有効化されている場合、3 つのカスタム・ディメンションを作成できます。

2 つのカスタム・ディメンションのみを許可するレガシー非ハイブリッド・アプリケーションを使用している場合:

- **ハイブリッド・モード・アプリケーションの有効化** オプションを使用して、アプリケーションをハイブリッドに移行できます。
- Enterprise Cloud Service に移行することもできます。



**ノート:** サポートされている移行パスに必ず従ってください。Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイドの EPM Standard Cloud Service および EPM Enterprise Cloud Service に移行可能なアプリケーションを参照してください。

この移行手順を使用するには、レガシー・クラウド・サービスを使用するポッドおよび Enterprise Cloud Service を使用する別のポッドが必要です。

このオプションを有効にするには、次のステップに従います:

1. レガシー・ポッドで、移行プロセスを使用して、アプリケーションの完全なバックアップ・スナップショットを作成します。
2. レガシー・ポッドで、EPM 自動化を使用して recreate コマンドを実行して、EssbaseChange パラメータの値を Upgrade に設定します。

```
epmautomate recreate -f EssbaseChange=Upgrade
```

これにより、Essbase のバージョンがアップグレードされ、アプリケーションも削除されます。Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の EPM 自動化コマンドを参照してください。

3. レガシー・ポッドで、バックアップからアプリケーションをインポートします。これらのステップを完了すると、Essbase バージョンがアップグレードされ、**ハイブリッド・モード・アプリケーションの有効化**オプションが使用可能になります。
4. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして「**概要**」を選択し、「**アクション**」メニューのドロップダウンから**ハイブリッド・モード・アプリケーションの有効化**を選択します。  
移行タスクが実行される前に、このアクションは元に戻すことができないという警告と、変更のサマリーを示す検証画面が表示されます。移行を開始する前に、「**サマリー/ダウンロード**」リンクをクリックして変更を表示します。影響を受ける挿入ルールとオンデマンド計算に注意してください。移行プロセスの後で、これらを確認する必要があります。
5. 「**起動**」をクリックして、移行タスクを開始します。  
このタスクは、移行が必要なデータの量によって、完了までに長い時間がかかる場合があります。ステータスとジョブの詳細は、ジョブ・コンソールに表示されます。
6. 移行タスクが正常に終了したことを確認してください。なんらかの理由でタスクが失敗した場合は、「**アプリケーション概要**」画面からタスクを再度実行できます。
7. アプリケーションが移行されたら、アプリケーションをレガシー・ポッドからエクスポートし、エンタープライズ・ポッドにインポートします。

ハイブリッド・モード・アプリケーションの有効化オプションを実行すると、移行プロセスによってメタデータが次のように変更されます:

- シード済「**増減**」、「**会社間**」および「**複数 GAAP**」最上位メンバーの DataStorage プロパティが DynamicCalc に変更されます。
- 「**ビュー**」ディメンションで、「**QTD**」、「**HYTD**」、「**YTD**」が保管済メンバーに変更され、新規メンバー **QTD\_Rule**、**HYTD\_Rule**、**YTD\_Rule** がシードされます。挿入ルール(構成可能な計算ルール)やオンデマンド・ルールなどのカスタム計算では、**FCCS\_YTD** への参照は **FCCS\_YTD\_RULE** に変換され、**FCCS\_QTD** は **FCCS\_QTD\_RULE** に変換され、**FCCS\_HYTD** は **FCCS\_HYTD\_RULE** に変換されます。**FCCS\_QTD**、**FCCS\_YTD** または **FCCS\_HYTD** を参照するフォームを作成した場合は、対応する **\_RULE** メンバーを参照するようにフォームを変更することが必要になります。
- ディメンションのパフォーマンスの順序が変更されました。

- SolveOrder: 「期間」、「ビュー」、「増減」、「データソース」、「連結」(「出資比率の管理」が無効になっている場合のみ)ディメンション・メンバーは、デフォルトの SolveOrder が定義されてシードされます。
- 「複数 GAAP」(存在する場合)および「カスタム・ディメンション」(製品など)の場合: すべてのユーザー定義の上位レベル・メンバーの DataStorage プロパティが DynamicCalc に変更されます。



# 4

## セキュリティの管理

次も参照:

- [セキュリティの概要](#)
- [アーティファクトとデータ・アクセスの管理](#)
- [フォーム・セキュリティの管理](#)
- [アプリケーションの所有者の割当](#)
- [アクセス権限のレポート](#)

## セキュリティの概要

Financial Consolidation and Close には、セキュリティを確保するために複数のセキュリティ・レイヤーが実装されています。Oracle によって実装および管理されるインフラストラクチャ・セキュリティ・コンポーネントは、サービスに対する安全性の高い環境を作成します。サービスでは、パスワードで保護されたシングル・サインオンと、データおよびアーティファクトに対する役割ベースのアクセスによってセキュリティが保証されます。

セキュリティの設定には次のステップが必要です。

- ユーザーを作成してアプリケーションに対するアクセス権を割り当てます。Oracle Enterprise Performance Management Cloud [管理者スタート・ガイド](#)を参照してください。  
アイデンティティ・ドメイン管理者は、ユーザーを作成してアプリケーションに対するアクセス権を割り当てます。
- アプリケーションに対する役割のアクセス権をユーザーに割り当てます。Oracle Enterprise Performance Management Cloud [管理者スタート・ガイド](#)を参照してください。  
アイデンティティ・ドメイン管理者は、アプリケーションに対する役割のアクセス権をユーザーに割り当てます。
- アーティファクトに対するアクセス権をユーザーに割り当てます。[アーティファクトへのユーザー・アクセス権の割当て](#)を参照してください。  
ユーザーは、アプリケーションのアーティファクトに対するアクセス権を割り当てられます。これらのアーティファクトには、フォーム、仕訳、タスク・リストおよびレポートが含まれます。このアクセス権は、アーティファクトの作成者またはサービス管理者によってユーザーに付与されます。
- データに対するアクセス権をユーザーに割り当てます。[データへのユーザー・アクセス権の割当て](#)を参照してください。  
ユーザーは、アプリケーションのアーティファクトに対するアクセス権を割り当てられます。これらのアーティファクトには、フォーム、仕訳、タスク・リストおよびレポートが含まれます。このアクセス権は、アーティファクトの作成者またはサービス管理者によってユーザーに付与されます。

サービス管理者は、ディメンション・メンバーに対するアクセス権を介してデータに対するアクセス権を割り当てます。ユーザーには、ディメンションのメンバーに対する「書込み」、「表示」または「なし」のアクセス権が割り当てられます。

サービス管理者は、REST API コマンドを使用して、カンマ区切り値(CSV)ファイルからセキュリティ・レコードまたはアクセス制御リスト(ACL)レコードをインポートすることもできます。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* の REST API のセキュリティのインポートのトピックを参照してください。Financial Consolidation and Close の有効な書込みアクセス・タイプは *READWRITE* です。

セキュリティの概要は、次のビデオを参照してください。



セキュリティの理解

## アーティファクトとデータ・アクセスの管理

管理者は、次のアプリケーション要素のセキュリティを構成できます。

- フォーム
- 仕訳
- レポート
- ディメンション
- 統合
  - Oracle Smart View for Office
  - 移行
  - データ管理
  - データ統合
  - タスク・マネージャ

次の表に、各役割の機能を示します。

表 4-1 役割ごとの機能

機能	参照者	ユーザー	パワー・ユーザー	サービス管理者
フォームを介したデータの表示	はい	はい	はい	はい
データ分析ツールを介したデータの表示 (FR、Smart View、仕訳)	はい	はい	はい	はい
フォームを介したデータの入力		はい	はい	はい
仕訳を介したデータの入力		はい	はい	はい
FDMEE を介したデータのロード			はい	はい
承認のためのデータの送信(仕訳とデータ)		はい	はい	はい

表 4-1 (続き) 役割ごとの機能

機能	参照者	ユーザー	パワー・ユーザー	サービス管理者
ソース・システムへのドリル・スルー	はい	はい	はい	はい
データの連結		はい	はい	はい
フォームの作成と管理			はい	はい
Smart View ワークシートの作成		はい	はい	はい
プロセス・コントロール・ユニットおよび仕訳での承認プロセスの作成と開始			はい	はい
プロセス・コントロール承認ユニットおよび仕訳に対するアクションの実行		はい	はい	はい
アプリケーションのすべての機能アクティビティの実行(ユーザー役割の作成と割当てを除く)				はい
ディメンション管理				はい
メンバー式の管理				はい
仕訳期間の開始と終了				はい

## アーティファクトへのユーザー・アクセス権の割当て

サービス管理者は、フォーム、ダッシュボード、インフォレット、レポートなどのアーティファクトにセキュリティを割り当てます。次のアクセス権を割り当てることができます。

- 書込み
- 読取り
- なし

たとえば、フォームを表示するには、読取りアクセス権のみが必要です。書込みアクセス権は、ユーザーに、フォームを変更する権限を付与します(パワー・ユーザーまたは管理者のみ)。

デフォルトのセキュリティ・アクセス権は、どのアーティファクトに対しても「なし」です。

## データへのユーザー・アクセス権の割当て

セキュリティ・アクセス権(なし、読取り、書込み)がディメンションのメンバーに割り当てられます。管理者は、セキュリティを割り当てるディメンションを定義します。

デフォルトのセキュリティ・アクセス権は、「なし」です。

これらの任意のディメンションに対してセキュリティを無効化できますが、少なくとも 1 つのディメンションに対してセキュリティを有効化する必要があります。親レベルでそのすべ

ての子孫を対象にセキュリティを割り当てることができるため、各ディメンション・メンバーに別個にセキュリティを割り当てる必要はありません。

データ・レベルのセキュリティは、各ディメンションに対するセキュリティ・アクセスの交差に基づきます。最も厳しい制限のあるセキュリティ・アクセスは、システムによって使用されるものです。

たとえば、シナリオとエンティティにセキュリティを割り当てるとします。ユーザーは、ディメンションの個々のメンバーに対して次のアクセス権を持ちます。

### シナリオ

実績 - 書込み

予算 - 読取り

### エンティティ

イギリス - 書込み

フランス - 書込み

前述のアクセス権により、ユーザーは、実績/イギリスおよび実績/フランスのデータを入力してロードできますが、予算/イギリスおよび予算/フランスに対しては読取りアクセスのみが可能です。

## ディメンションのセキュリティの有効化または無効化

ユーザー定義のカスタム・ディメンションを含め、ディメンションのセキュリティを有効化できます。ディメンションのセキュリティを設定しない場合、すべてのユーザーがディメンション・メンバーにアクセスできます。


デフォルトでは、勘定科目、エンティティ、シナリオおよびデータ・ソース・ディメンションのアクセス権限が使用可能です。オプションで、年および期間に対するアクセス権を割り当てることができます。

ユーザーおよびグループのディメンション・メンバーにセキュリティを割り当てることができます。セキュリティは、メンバー・レベルまたは親レベルで割り当てることが可能です。

### ノート:

デフォルトのセキュリティ・グループは一部のシード・メンバーに割り当てられますが、独自のセキュリティ・グループを作成し、シード・グループを使用しないでください。アップグレード後、デフォルトのセキュリティ・グループは、事前にそれらを削除していても割り当てられる場合があります。削除後にセキュリティ割当が発生しないように、この動作を無効にするには、`DisableSeededSecurity` という代替変数を追加して値を `True` に設定します。

ディメンションのセキュリティを有効化または無効化するには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「ディメンション」からディメンションを選択し、「編集」をクリックします。

4. 「**ディメンション・プロパティの編集**」ページで、オプションを選択します。
  - セキュリティを有効化するには、「**セキュリティの適用**」を選択します。

 **ノート:**

このオプションを選択しないと、ディメンションにはセキュリティが設定されず、ユーザーはそのメンバーに制限なしにアクセスできます。


- セキュリティを無効化するには、「**セキュリティの適用**」をクリアします。
5. 「**保存**」をクリックします。

## ディメンション・メンバーへのセキュリティの割当て

ユーザー定義のカスタム・ディメンション・メンバーにアクセス権を割り当てる前に、ディメンションの「**プロパティ**」タブで「**セキュリティの適用**」チェック・ボックスを選択する必要があります。

メンバー・レベルまたは親レベルでディメンション・メンバーにセキュリティを割り当てることができます。

ディメンション・メンバーにセキュリティを割り当てるには:

1. 「**ナビゲータ**」アイコン  をクリックします。
2. 「**作成および管理**」で「**ディメンション**」をクリックします。
3. メンバーを選択します。
4. 「**アクセス権の割当て**」をクリックします。
5. 「**アクセス権の追加**」をクリックします。
6. 選択したメンバーにアクセスするユーザーおよびグループを選択します。

「**ユーザー**」をクリックするとすべてのユーザーが表示され、「**グループ**」をクリックするとすべてのグループが表示されます。
7. 「**アクセス権タイプ**」からオプションを選択します。
  - 読取り
  - 書込み
  - なし
8. **オプション:** メンバー・レベルを選択します。

たとえば、「**子**」を選択して、選択したメンバーの子にアクセス権を割り当てます。

  - **メンバー**
  - **子**
  - **子(含む)**
  - **子孫**
  - **子孫(含む)**
9. 「**追加**」をクリックします。

10. 「閉じる」をクリックします。

アクセス権を変更するには:

1. 「アクセス権の編集」をクリックします。
2. 選択したメンバーについて、表示されているユーザーまたはグループのアクセス権のタイプを選択します。
3. **オプション:** メンバー・レベルを選択します。

たとえば、「子」を選択して、選択したメンバーの子にアクセス権を割り当てます。

- **メンバー**
- **子**
- **子(含む)**
- **子孫**
- **子孫(含む)**

4. 「設定」をクリックします。
5. 「閉じる」をクリックします。

アクセス権を削除するには:

1. 選択したメンバーに対するアクセス権を削除するユーザーおよびグループを選択します。
2. 「アクセス権の削除」、「OK」の順にクリックします。
3. 「閉じる」をクリックします。

## フォーム・セキュリティの管理

管理者は、個々のフォームおよびフォーム・フォルダにユーザー・アクセス権を割り当てることができます。個々のユーザーまたはユーザー・グループにアクセス権を割り当てることができます。

### フォーム

- ユーザーおよびパワー・ユーザーは、アクセス権のあるフォームのみ表示またはデータ入力することが可能です(また、アクセス権のあるメンバーに対してのみ作業を行うことが可能です)
- サービス管理者とパワー・ユーザーはフォームをデザインできます。
- パワー・ユーザーは自分が作成した、またはサービス管理者がアクセス権を割り当てたフォームにアクセスできます。
- サービス管理者はすべてのディメンション・メンバーおよびすべてのフォームへの書込みアクセス権を持ちます。


### フォーム・フォルダ

- フォーム・フォルダへのアクセス権を割り当てられているユーザーは、そのフォルダのフォームにアクセスできます。
- フォルダに対してアクセス権を割り当てる場合、そのフォルダ内にあるすべてのフォルダはそのアクセス権を継承します。

- フォーム・フォルダに特定のアクセス権限を割り当てる場合(たとえば、「なし」または「書込み」)、そのアクセス権はその親フォルダのアクセス権限に優先します。たとえば、あるユーザーに「なし」アクセス権が割り当てられているフォルダ 2 を含むフォルダ 1 に対する「書込み」アクセスが割り当てられている場合、ユーザーはフォルダ 1 を開くことができますが、フォルダ 2 を見ることはできません。
- ユーザーが、「書込み」アクセス権を割り当てられているフォーム 1 というフォームを含むフォルダ 1 というフォーム・フォルダに対し、「なし」アクセス権が割り当てられている場合、ユーザーはフォルダ 1 とフォーム 1 の両方を見ることができます。

## フォームとフォルダへのアクセス権の割当て

フォームおよびフォーム・フォルダにセキュリティを割り当てるには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「フォーム」をクリックします。
3. フォームまたはフォーム・フォルダを選択し、「アクセス権の割当て」をクリックします。  
一度に 1 つのフォームまたはフォルダのみに対するアクセス権を割り当てることができます。  
アクセス権を持つすべてのユーザーが画面に表示されます。
4. 「ユーザー」タブまたは「グループ」タブで、アクセス権を割り当てるユーザーまたはグループを選択します。  
「ユーザー」をクリックするとすべてのユーザー名が表示され、「グループ」をクリックするとすべてのグループが表示されます。
5. 「アクセス権の追加」をクリックします。
6. 「アクセス権タイプ」からオプションを選択します。
  - 読取り
  - 書込み
  - なし
7. 「追加」をクリックします。
8. 「閉じる」をクリックします。

フォームとフォルダを使用および変更できるユーザーを変更するには:

1. アクセス権を変更するユーザーまたはグループを選択し、「アクセス権の編集」をクリックします。
2. 「アクセス権タイプ」で、ユーザーまたはグループに割り当てるフォームまたはフォルダに対するアクセス権のタイプを選択します。
3. 「設定」をクリックします。
4. 「閉じる」をクリックします。

フォームまたはフォルダからアクセス権を削除するには:

1. アクセス権を削除するユーザーまたはグループを選択し、「アクセス権の削除」をクリックします。
2. 「OK」をクリックします。

## デフォルトのフォーム・セキュリティ

これらのフォームは、アプリケーションの作成時にデフォルトで提供されます。デフォルトで、サービス管理者とパワー・ユーザーは、これらのフォームに対する変更アクセス権を持っています。ユーザーまたは参照者は、フォームを起動できますが、フォーム・レイアウトを変更することはできません。

フォームの管理の詳細は、[フォームの管理](#)を参照してください。

### ノート:

デフォルトで表示されるフォームは、アプリケーションに対して選択されている機能によって異なります。

- Data Status
- Enter Exchange Rates - Multi Period
- Enter Exchange Rates - Single Period
- Exchange Rates
- ローカル為替レート
- Override Rates

## アプリケーションの所有者の割当

アプリケーションを作成したサービス管理者には、アプリケーション所有者機能が自動的に割り当てられます。アプリケーション所有者機能を持つサービス管理者が削除された場合や、ユーザーに事前定義された役割の割当がダウングレードされた(例: サービス管理者からパワー・ユーザーなど)場合、アプリケーション所有者機能は、アプリケーションで次に(アルファベット順)使用可能なサービス管理者ユーザーに再割当てされます。その後、現在のアプリケーション所有者ユーザーの役割が削除されるか、またはアクセス制御と同期されるように変更されます。

使用可能なサービス管理者がない場合、サービス管理者ユーザーの削除や役割の変更は行われません。問題を解決するための以降の手順について **Oracle** からご連絡します。

任意のサービス管理者が、「**システム設定**」を使用して、アプリケーション所有者の役割を任意の使用可能なサービス管理者に引き継いだり再割当てできます。

[アプリケーション設定の指定](#)を参照してください。

## アクセス権限のレポート

現在のアクセス権限を表示し、レポートを印刷できます。


アプリケーションにおけるユーザーおよびグループの現在のアクセス権限をレポートするには:



1. ホーム・ページで「ナビゲータ」をクリックし、「モニターおよび検索」で「システム・レポート」をクリックします。
2. 「アクセス制御」をクリックします。
3. 「ユーザーまたはグループの選択」で、使用可能なオプションから選択します。
4. 左側の「使用可能」パネルから、レポートするユーザーまたはグループを選択して「選択済」パネルに移動します。
5. 左側の「使用可能なオブジェクト」パネルから、レポートするオブジェクトを選択して「選択したオブジェクト」パネルに移動します。
6. レポート・オプションを選択します。
  - 「タイプが一致するアクセスの表示」で、ビューへのアクセス「読取り」、「書込み」または「なし」を選択します。
  - 「結果のグループ分け単位」で、どのようにレポートを表示するかを「ユーザー」または「オブジェクト」から選択します。
  - 「レポート・タイプ」セクションで、「割り当てられたアクセス」または「有効なアクセス」を選択します。

表 4-2 アクセス・レポート・タイプ

レポート・タイプ	説明	オプション
割り当てられたアクセス	サービス管理者により割り当てられるアクセス権限の要約	アクセス権がメンバー選択リレーションまたはグループ・メンバーシップのどちらにより割り当てられるかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 「関係が一致するアクセスの表示」: 「メンバー」、「子」、「子(含む)」、「子孫」、または「子孫(含む)」。</li> <li>- グループからの継承を表示: グループのユーザーから継承済のアクセス権限を表示します。</li> </ul>
有効なアクセス	アプリケーションの評価に伴いアクセス権の割当てを要約します(たとえば、子またはグループ・メンバーシップなどのメンバー選択関係)。アクセス権限に不一致が見られる場合に有効です。	「有効なアクセス元の表示」を選択することにより、有効なアクセス権元を説明します。たとえば、Entity1 の書込みアクセス権を割り当てられているユーザー名 JSomebody が、Entity1 の読取りアクセス権を割り当てられている Sales グループに属しているとします。個人に割り当てられたアクセス権は、グループ・メンバーシップにより継承されるアクセス権に優先するため、この設定では JSomebody が Entity1 の書込みアクセス権を割り当てられていると表示されます。

 **ノート:**

有効なアクセス権レポートはグループに対しては生成できません。

- 「レポート作成」をクリックします。

# 5

## アプリケーションの管理

### 次も参照:

- [アプリケーションの概要](#)
- [ディメンション、メンバーおよび別名の名前付けの制限](#)
- [ディメンションの管理](#)  
ディメンションを使用してデータ値を分類できます。たとえば、エンティティ・ディメンションは、会社の組織構造を表します。
- [メタデータのインポート](#)
- [メタデータのエクスポート](#)
- [メタデータの検証](#)
- [メタデータ検証メッセージ](#)
- [データのインポート](#)
- [データのエクスポート](#)
- [データ・インポートおよびエクスポートのステータスの表示](#)
- [Essbase アウトラインの検証](#)  
Essbase アウトラインを事前に検証して、アプリケーションにハイブリッド Essbase バージョンとの互換性があることを確認します。
- [データ統合](#)  
データ統合は、Financial Consolidation and Close での統合プロセスの実行の基礎となるメカニズムです。
- [データ統合のベスト・プラクティス](#)
- [データのコピー](#)
- [データのコピー・プロファイルの使用](#)
- [データのクリア](#)
- [データのクリア・プロファイルの使用](#)
- [データベースのリフレッシュ](#)
- [キューブの再構築](#)
- [アプリケーションの削除](#)
- [メンテナンスのスケジュール](#)
- [受信ボックス/送信ボックスの使用](#)
- [アプリケーションに関する推奨事項の表示](#)
- [アクティビティ・レポートとアクセス・ログの操作](#)

## アプリケーションの概要

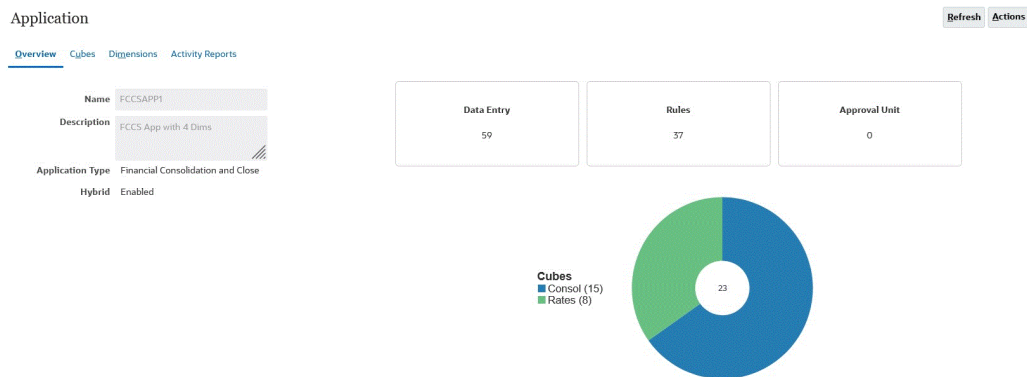
アプリケーションを作成した後、ホーム・ページから「**アプリケーション**」にアクセスすることで、それを表示および管理できます。

アプリケーションを管理するには、サービス管理者である必要があります。

アプリケーションの概要には、アプリケーションのプロパティおよびアプリケーション統計(アプリケーション内のタスク、フォーム、ルールおよび承認階層の数など)が表示されます。

これには、アプリケーションで使用されているディメンションもリストされます。ディメンションを管理するには、[ディメンションの管理](#)を参照してください。

アプリケーションの概要を表示するには、ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**概要**」を選択します。



## ディメンション、メンバーおよび別名の名前付けの制限

ディメンション、メンバーおよび別名を命名する場合は、次のルールに従います。

- ディメンション名、メンバー名または別名に使用する文字数は **80** 文字までとします。
- ディメンション、メンバーまたは別名については、名前の大文字と小文字が区別されません。大文字と小文字のみが異なる、一致する名前を使用しないでください。たとえば、2つのメンバーに"zzz"と"ZZZ"という名前を付けしないでください。
- メタデータ・ロード・ファイル内のメンバー・プロパティまたは列ヘッダーと同じ名前のディメンション名(「データ型」など)は使用しないでください。
- メンバー名、ディメンション名、別名および説明で **HTML** タグを使用することはできません。
- ディメンション名、メンバー名および別名では[Tab]キーが制限されており、使用できません。

- ディメンション名、メンバー名および別名で制限されていて使用できない文字のリストを次に示します:

表 5-1 ディメンション名、メンバー名および別名で制限されている文字

文字	意味
"	引用符
[]	大カッコ
\	円記号(バックスラッシュ)
/	スラッシュ

 ノート:

- 大カッコ[]は認められていますが、ブロック・ストレージ・アウトラインでは推奨されていません。これは、集約ストレージ・アウトラインに変換する場合にエラーの原因となることがあるためです。
  - メンバー名および別名には、ASCII 置換文字(ゼロ幅スペース文字) 0x1A を使用しないでください。
- ディメンション名、メンバー名および別名の先頭で使用できない文字のリストを次に示します:

表 5-2 ディメンション名、メンバー名および別名の先頭で制限されている文字

文字	意味
@	アット・マーク
&	アンパサンド
\	円記号(バックスラッシュ)
[]	大カッコ
,	カンマ
-	ダッシュ、ハイフンまたはマイナス記号
=	等号
<	小なり記号
()	丸カッコ
.	ピリオド
+	プラス記号
"	引用符
/	スラッシュ
_	アンダースコア
	縦棒

 ノート:

前述の文字を含むメンバー名は、ビジネス・プロセスのデータ・エクスポート・ジョブでは許可されていません。

- 名前の先頭または末尾にスペースを挿入することはできません。
- 共有メンバーには、基本メンバーと同じ名前が必要です。基本メンバー名も共有メンバー名も大文字と小文字を区別します。
- ディメンション名、メンバー名または別名として次のものを使用することはできません:
  - 計算スクリプト・コマンド、演算子およびキーワード
  - 関数名と関数引数
  - 他のディメンションおよびメンバーの名前(メンバーが共有されている場合を除く)
  - 属性ディメンションを含む一意のメンバー・アウトラインでは、**Sum**、**Count**、**Min**、**Max** および **Avg** をメンバー名またはディメンション名として使用することはできません。これらの名前を使用すると、重複する名前が競合する原因となります。

 ノート:

属性計算ディメンションに作成されたメンバー(**Sum**、**Count**、**Min**、**Max** および **Avg**)は、予約語とみなされません。これは、これらの名前を属性計算ディメンションで変更してから、属性ディメンションまたは標準ディメンションで標準名を使用できるためです。

アウトラインに一意のメンバー・アウトラインのタグが付けられている場合、**Sum**、**Count**、**Min**、**Max** および **Avg** をメンバー名として使用しないようにしてください。たとえば、**Max** を標準ディメンションとして使用してから、属性ディメンションを作成すると、この属性計算ディメンションに **Max** メンバーが作成され、重複名が検出され、次のエラー・メッセージが戻されます。

"Analytic Server エラー (1060115): 属性の計算ディメンション/メンバー名はすでに使用されています。"

アウトラインに重複メンバー・アウトラインのタグが付けられており、**Sum**、**Count**、**Min**、**Max** および **Avg** を基本メンバーとして使用する前に属性ディメンション(したがって属性計算ディメンション)が存在している場合は、重複名が許可されます。ただし、属性ディメンションを作成する前に **Sum**、**Count**、**Min**、**Max** および **Avg** を基本メンバーとして使用する場合、重複名は許可されません。

- ディメンション名、メンバー名および別名で制限されていて使用できない語のリストを次に示します:

表 5-3 ディメンション名、メンバー名および別名で制限されている語

制限されている語	制限されている語	制限されている語
ALL	AND	ASSIGN
AVERAGE	CALC	CALCMBR
COPYFORWARD	CROSSDIM	CURMBRNAME
DIM	DIMNAME	DIV
DYNAMIC	EMPTYPARM	EQ
EQOP	EXCEPT	EXP
EXPERROR	FLOAT	FUNCTION
GE	GEN	GENRANGE
GROUP	GT	ID
IDERROR	INTEGER	LE
LEVELRANGE	LOCAL	LOOPBLOCK
LOPPARMS	LT	MBR
MBRNAME	MBRONLY	MINUS
MISSING	MUL	MULOP
NE	NON	NONINPUT
NOT	OR	PAREN
PARENPARM	PERCENT	PLUS
RELOP	REQUEST	SET
SKIPBOTH	SKIPMISSING	SKIPNONE
SKIPZERO	STATUS	TO
TOLOCALRATE	TRAILMISSING	TRAILSUM
TYPE	UMINUS	UPPER
VARORXMBR	XMBRONLY	\$\$UNIVERSE\$\$
#MISSING	#MI	

## ディメンションの管理

ディメンションを使用してデータ値を分類できます。たとえば、エンティティ・ディメンションは、会社の組織構造を表します。


Financial Consolidation and Close では、次のディメンションが提供されます。

- 勘定科目
- 期間
- データ・ソース
- 連結
- 通貨(アプリケーションの作成中に複数通貨が選択された場合のみ)
- エンティティ
- 会社間(アプリケーションの作成中に「会社間」が選択された場合のみ)

- 増減
- シナリオ
- 年
- 表示

追加のカスタム・ディメンションを作成できます。[カスタム・ディメンションの追加](#)を参照してください。

ディメンションを管理するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**概要**」をクリックし、「**ディメンション**」タブをクリックします。
3. 次のタスクを実行します:
  - 表示または変更するディメンションの名前をクリックして、「ディメンション・プロパティの編集」を開きます。
  - メタデータをインポートするには、「**インポート**」をクリックします。[メタデータのインポート](#)を参照してください。
  - メタデータをエクスポートするには、「**エクスポート**」をクリックします。[メタデータのエクスポート](#)を参照してください。

## メタデータのインポート

カンマ区切り、タブ区切りまたは他の形式で、メタデータをファイルからインポートできます。インポートでは次のアーティファクトがサポートされています。

- ディメンション
- スマート・リスト
- 為替レート

メタデータをインポートするには、次のタスクを実行します。

- インポートする各アーティファクトのインポート・ファイルを作成します。[メタデータ・インポート・ファイルの作成](#)を参照してください。
- 1つまたは複数のインポート・ファイルをロードします(一度に複数のディメンション・ファイルをインポートできます)。[メタデータ・インポート・ファイルのロード](#)を参照してください。

## メタデータ・インポート・ファイルの作成

ロードを開始する前に、インポートする各アーティファクト(ディメンション、スマート・リストおよび為替レート表)のインポート・ファイルを作成する必要があります。インポート・ファイルにはヘッダー・レコードが含まれている必要があり、ヘッダー・レコードの下には、インポートまたは更新するメタデータ・レコードのリストが含まれている必要があります。ファイルの形式は、.csv (カンマ区切り)または.txt (タブ区切りまたは他の区切り文字)にできます。

ファイルは次のセクションで構成されています。

1. ヘッダー・レコード、ファイルの最初の行:
  - 後続のメタデータ・レコードで使用されるディメンションおよびメンバーのプロパティをリストします。ヘッダー・レコードおよび後続のレコードは、すべてのプロパティを含める必要はありません。含まれていないプロパティは、対応する親のデフォルトのプロパティ値から継承されます
  - 大文字と小文字が区別されます
  - 後続のメタデータ・レコードが同じ順序であるかぎり、任意の順序でプロパティをリストできます
  - カンマまたはタブ区切り文字を使用できます。他の区切り文字は、その区切り文字がサポートされていて同じ区切り文字がファイル全体で使用されている場合に、使用できます。サポートされている区切り文字と例外のリストは、[他のサポートされている区切り文字](#)を参照してください。
2. ヘッダー・レコードの後の、インポート更新するメタデータ・レコードのリスト。各メタデータ・レコードには、ヘッダー・レコードで指定された順序に一致するプロパティ値の区切りリスト(カンマ、タブまたはその他)が含まれています。メタデータ・レコードは、ヘッダー・レコードで指定されているプロパティをスキップできます。この場合、デフォルトのプロパティが指定されているものとして処理されます。

インポート・ファイルの例は、[例: エンティティ・ディメンションのインポート・ファイル](#)を参照してください。

## 例: エンティティ・ディメンションのインポート・ファイル

次の例では、インポート・ファイルは、必要なヘッダー・レコードと3つのデータ・レコードを持つエンティティのディメンションをロードします。この例ではカンマ区切りです。ヘッダー・レコードは、インポートするメンバー(**Entity**)、メンバーのインポート先となる親メンバー(**Parent**)、およびメンバーに割り当てる **Data Storage** プロパティを指定します。

```
Entity, Parent, Data Storage
```

```
e1, Entity
```

```
e2, ,
```

```
e1, e2, Shared
```

このインポート・ファイルを使用すると、他のメンバーが存在しないと仮定すればこのアウトラインになります。

```
Entity
  e1
  e2
  e1 (Shared)
```

最初のデータ・レコード(e1, Entity)は **Entity** メンバー e1 をルート・メンバー **Entity** にある子としてインポートします。指定されない値はデフォルトとみなします。たとえば、データ・ストレージが指定されていない場合、デフォルト値の「共有しない」とみなします。次のデータ・レコード(e2, ,)は、親が指定されていないため、ディメンション・ルート・メンバーにある **Entity** メンバー e2 をインポートし、データ・ストレージを「共有しない」に設定します。最後のデータ・レコード(e1, e2, Shared)は、メンバー e2 にある e1 の共有メンバーをインポートし、データ・ストレージを「共有」に設定します。



## 他のサポートされている区切り文字

Financial Consolidation and Close では、カンマやタブに加え、インポートおよびエクスポート・ファイルで次の区切り文字もサポートされます。

- チルダ(~)
- 重アクセント(')
- 感嘆符(!)
- シャープ記号(#)
- 疑問符(?)
- ドル記号(\$)
- パーセント記号(%)
- キャレット(^)
- アンパサンド(&)
- アスタリスク(\*)
- 丸カッコ( )
- ハイフンマイナス(-)
- プラス(+)
- コロン(:)
- セミコロン(;)
- 山カッコ(< >)
- 円記号(バックスラッシュ) (\)
- スラッシュ(/)
- 垂直棒(|)
- アポストロフィ(')
- 中カッコ({ })
- アンダースコア(\_)
- 大カッコ([ ])
- アット・マーク(@)
- ピリオド(.)

区切り文字用にサポートされるのは 1 文字のみです。たとえば、1 つの縦棒(|)はサポートされていますが、2 つの縦棒(||)はサポートされていません。

**▲ 注意:**

リストされているすべての文字が、すべてのインポートおよびエクスポート・シナリオで使用できるわけではありません。次の例外に注意してください。

**インポートおよびエクスポート・メタデータの区切り文字の例外**

メタデータのインポートおよびエクスポート・ファイルで次の区切り文字は使用しないでください。

**表 5-4 インポートおよびエクスポート・メタデータの区切り文字の例外**

区切り文字	例外の理由
二重引用符(“”)	空のファイルが作成されます
プラス(+)	メタデータ・インポート・ファイルにこれらの文字を使用する集計プロパティが含まれている場合、エラーが発生します
マイナス(-)	
スラッシュ(/)	
パーセント記号(%)	
山カッコ(<>)	プロパティで値<none>を使用している場合、エラーが発生します

**✎ ノート:**

メンバー名の文字と競合する文字を使用すると、エラーが発生します。

**表 5-5 インポートおよびエクスポート・データの区切り文字の例外**

区切り文字	例外の理由
丸カッコ()	データ・インポート・ファイルで使用すると、エラーが発生します
二重引用符(“”)	空のファイルが作成されます
ハイフンマイナス(-)	データ・インポート・ファイルで使用すると、エラーが発生します

## メタデータ・インポート・ファイルのロード

メタデータ・インポート・ファイルをロードするには:

1. インポートする各アーティファクト(ディメンション、スマート・リストおよび為替レート表)のインポート・ファイルを作成します。[メタデータ・インポート・ファイルの作成](#)を参照してください。
2. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
3. 「**概要**」をクリックして「**ディメンション**」タブをクリックし、「**インポート**」をクリックします。
4. 「**メタデータのインポート**」ページで、「**作成**」をクリックします。

5. インポート・ファイルの場所を選択します。
  - **ローカル** - 自分のコンピュータの場所からインポート・ファイルをロードします。「**ファイルのインポート**」で、「**参照**」をクリックして、インポートするアーティファクトのインポート・ファイルを自分のコンピュータ上で選択します。
  - **受信ボックス** - サーバーからインポート・ファイルをロードします。「**ファイルのインポート**」内にファイルの名前を入力します。
6. 「**ファイル・タイプ**」で、次のオプションを選択します。
  - **カンマ区切り**
  - **タブ区切り**
  - **その他**。インポート・ファイルで使用する区切り文字を入力します。サポートされている区切り文字と例外のリストは、[他のサポートされている区切り文字](#)を参照してください。
7. インポートを実行する前に、「**メンバーのクリア**」を選択し、ロード・ファイルで明示的に指定されていないメンバーを削除します。

次のガイドラインに注意してください。

  - ディメンションをインポートした後、指定されていないメンバーはアウトラインから削除されますが、これが、指定されたメンバーの祖先である場合または指定された共有メンバーの基本メンバーである場合は削除されません。
  - 「**メンバーのクリア**」が選択されていない場合、インポート・プロセスでは既存のメンバーの追加または更新のみが実行されます。ファイルを正常にロードするには、「**メンバーのクリア**」を選択せずにメタデータ・ファイルをロードすることをお勧めします。次に、「**メンバーのクリア**」を選択して、インポート・プロセスを再度実行します。
  - 為替レート・タイプが金額オーバーライドまたはレート・オーバーライドの状態ではメタデータ・ロード・ファイルに手動で勘定科目を追加する場合、取得時換算勘定で共有エントリが正しく作成されるように、「**メンバーのクリア**」オプションが選択されていないことを確認してください。
8. **オプション**: 選択した場所が「**受信ボックス**」の場合、「**ジョブとして保存**」をクリックしてインポート操作を、ただちにまたは後で実行をスケジュールできるジョブとして保存します。「**ローカル**」が選択されている場合、このオプションを選択できません。

インポート操作をジョブとして保存すると、ロード・シーケンスをバッチ処理する場合に便利です。たとえば、メタデータをインポートし、次にデータをインポートして、データのロードが完了したらルールを実行します。

### ノート:

- インポート操作をジョブとして保存すると、ロード・シーケンスをバッチ処理する場合に便利です。たとえば、メタデータをインポートし、次にデータをインポートして、データのロードが完了したらルールを実行します。
- 一度に最大5つのインポート・ジョブを実行できます。
- メタデータ・インポート・ジョブ中に拒否されたデータを確認する場合は、「**ジョブとして保存**」ダイアログで「**エラー・ファイル**」を指定できます。このファイルにより、各ディメンションについてインポートされなかったメタデータ・レコードについての情報が提供されます。エラーの zip ファイルが指定されると、ディメンションごとに個別のエラー・ファイルが作成されて、エラー・ファイルがまとめてが zip されて、zip ファイルが、「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」を使用してファイルをダウンロードできる送信ボックスに格納されます。

### ヒント:

後続する「**メタデータのインポート**」ジョブのジョブ作成プロセスを合理化するには、「**名前を付けて保存**」オプションを使用して既存のジョブを複製し、そのジョブを更新できます。

9. **オプション:** 選択した場所が「**ローカル**」の場合、「**検証**」をクリックして、インポート・ファイルの形式が正しいかどうかをテストします。

10. 「**インポート**」をクリックして、インポート操作を実行します。

メタデータをインポートすると、ファイルは「受信ボックス」/「送信ボックス」フォルダから削除されます。

インポートが失敗した場合は、「**最終検証/インポート**」列に「**失敗**」ステータスが表示されます。詳細なステータスを表示するには、「**失敗**」をクリックします。インポートが成功した場合は、「**最終検証/インポート**」列に「**完了**」ステータスが表示されます。成功したインポートの詳細を表示するには、「**完了**」をクリックし、「**表示**」ドロップダウンで「**すべて**」を選択します。

11. インポート・プロセスに成功すると、「データベースのリフレッシュ」ダイアログ・ボックスによって、データベースをリフレッシュするよう要求されます。リフレッシュするには、「**OK**」をクリックします。

ジョブ・コンソールでインポート・ステータスを参照できます。[保留中のジョブおよび最近のアクティビティの表示](#)を参照してください。

環境のクローニングの一部としてメタデータ・ロードを実行したり、移行または EPM 自動化を使用してスナップショットをインポートするとき、EPM Cloud では複数パス・ソリューションを使用します。このソリューションでは、前のメタデータ・ロードの結果が拒否されたレコードの場合に、同じメタデータ入力ファイルの別のロードが自動的に開始されます。Financial Consolidation and Close の場合、複数パスでも調整勘定科目の前方参照に関する問題を解決します。

# メタデータのエクスポート

.csv (カンマ区切り)または.txt (タブ区切りまたは他の区切り文字)形式でメタデータをファイルにエクスポートできます。エクスポート・プロセスでは次のアーティファクトがサポートされています。

- ディメンション
- スマート・リスト
- 為替レート

システムでは、アーティファクトごとにエクスポート・ファイル(ファイル・タイプに応じて.csv または.txt)が作成され、すべてのエクスポート・ファイルが1つのzip ファイルに統合されます。ファイルをインポート・ファイルとして使用する場合(たとえば、別のアプリケーションにインポートする場合は、zip ファイルから.csv または.txt ファイルを抽出する必要があります)。

シード・メンバーをエクスポートする場合、次のメンバー・プロパティがエクスポートされます。

- 勘定科目
- 親
- データ・ストレージ
- 操作

シード済メンバーに対するカスタマイズ(別名の変更など)は、メタデータのエクスポートの一環としてエクスポートされません。これらの変更は、カスタマイズを介してエクスポートされます。モジュール・カスタマイズのエクスポートの手順を参照してください。

ファイルにメタデータをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**概要**」をクリックして「**ディメンション**」タブをクリックし、「**エクスポート**」をクリックします。
3. 「**メタデータのエクスポート**」ページで、「**作成**」をクリックします。
4. エクスポート・ファイルのターゲットの場所を選択します。
  - **ローカル** - エクスポート・ファイルをローカル・コンピュータ上の場所に保存します。
  - **送信ボックス** - エクスポート・ファイルをサーバーに保存します。
5. エクスポートする1つまたは複数のアーティファクトを選択します。
6. 「**ファイル・タイプ**」で、次のオプションを選択します。
  - **カンマ区切り** - 各アーティファクトのカンマ区切りの.csv ファイルを作成します。
  - **タブ区切り** - 各アーティファクトのタブ区切りの.txt ファイルを作成します。
  - **その他** - 各アーティファクトの.txt ファイルを作成します。エクスポート・ファイルで使用する区切り文字を入力します。サポートされている区切り文字と例外のリストは、[他のサポートされている区切り文字](#)を参照してください。

7. **オプション:** 選択した場所が「送信ボックス」の場合、「ジョブとして保存」をクリックしてエクスポート操作を、即座にまたは後で実行をスケジュールできるジョブとして保存します。
8. 「エクスポート」をクリックし、エクスポート・ファイルを保存する場所を指定します。

### モジュール・カスタマイズのエクスポート

移行プロセスを使用して、メタデータ・カスタマイズをエクスポートできます。

1. ホーム・ページで「ツール」を選択し、「移行」を選択します。
2. 「カテゴリ」で「コア」を選択します。
3. 「アーティファクト・リスト」で「構成」を選択します。
4. 「モジュール」を展開して「連結」を表示した後、展開して**モジュール・カスタマイズ**を表示します。
5. 「エクスポート」をクリックし、シードされたメタデータへの変更をすべてエクスポートし、エクスポート・ファイルの保存場所を指定します。

## メタデータの検証

最適な連結パフォーマンスを実現するには、アプリケーションの各ディメンションのメタデータ・プロパティが正しく設定されている必要があります。メタデータ・プロパティが正しくないと、連結エラーが発生し、パフォーマンスの低下の原因となる可能性があります。

メタデータ・プロパティの検証には、デフォルトおよび連結キューブ・データ・ストレージ・プロパティ、集計演算子が有効かどうか、親メンバーが「動的計算」か「ラベルのみ」か、またはメンバー式が含まれているか、などがあります。

ベスト・プラクティスは、オンデマンドのメタデータ検証レポートを実行し、ディメンション・エディタでメタデータを確認して、メタデータを検証することです。

### ノート:

アプリケーションに問題がある場合は、Oracle サポートに連絡する前にメタデータを検証し、すべてのエラーを修正してください。

### メタデータの検証

メタデータが有効であることを確認するには、いつでもメタデータ検証レポートを実行できます。「メタデータの検証」画面には、3つのカテゴリの検証結果および各カテゴリの件数が表示されます:

- **エラー**—これらは、アプリケーションで問題が発生することが予想されるエラーで、修正する必要があります。
- **警告**—これらは、アプリケーションで問題が発生する可能性がある問題の警告メッセージです。
- **情報**—これらのメッセージの目的は、情報提供のみです。

レポートには、ディメンション名、メンバー名([親].[子]フォーマット)および検証説明が表示されます。検証後、画面でメッセージを展開するか、「エクスポート」をクリックして、エラ

ー・メッセージを CSV ファイルに抽出します。ディメンション・エディタを使用して、メタデータを変更したり、エラーを修正できます。

たとえば、エンティティ・ディメンション・メンバーの集計演算子が「無視」以外であるというエラーが発生した場合、ディメンション・エディタでメンバーを選択して、集計演算子プロパティを「無視」に変更します。

メタデータ・バリデータからメタデータを検証するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**概要**」をクリックして、「**アクション**」から「**メタデータの検証**」を選択します。
3. 「**実行**」をクリックして、メタデータを検証します。  
「メタデータの検証」画面には、検証結果のリストが表示されます。「**エラー**」、「**警告**」、「**情報**」の各カテゴリの横に、メッセージの数がリストされます。
4. タブ(「**エラー**」、「**警告**」または「**情報**」)をクリックして、各カテゴリのメッセージを表示します。
5. メッセージを表示するには、ディメンション名を展開します。結果は、エラー説明とともに[親].[子]フォーマットで表示されます。詳細を確認するには、[メタデータ検証メッセージ](#)を参照してください。
6. すべてのメッセージの詳細を CSV ファイルにエクスポートして表示するには、「**エクスポート**」をクリックし、エクスポート・ファイルを保存する場所を指定します。
7. ディメンション・エディタに移動して、メタデータを変更します。  
有効なメンバー・プロパティのリストを表示するには、[簡易ディメンション・エディタでのメンバー・プロパティの編集](#)を参照してください。
8. 連結を再実行し、パフォーマンスを確認します。

### 簡易ディメンション・エディタを使用したエラーの確認および修正

簡易ディメンション・エディタからメタデータを検証するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**概要**」をクリックします。
2. 「**ディメンション**」タブをクリックし、評価するディメンションの名前(「**勘定科目**」など)をクリックします。

選択したディメンションの「**メンバー・プロパティの編集**」画面が表示されます。

3. 「**すべてのレベルへズーム・イン**」



をクリックします。

4. 「**メタデータ定義の検証**」



をクリックするか、「**アクション**」メニューから「**メタデータ定義の検証**」を選択します。

現在のディメンションの検証エラーをリストする検証ペインが、画面の下部に表示されます。

5. 「**検証エラーの修正**」を使用して、各検証エラーを選択して修正します。「**適用**」をクリックして、メタデータ・プロパティ値に変更を適用します。すべての検証エラーを修正した後、「**保存**」をクリックします。

有効なメンバー・プロパティのリストを表示するには、[簡易ディメンション・エディタでのメンバー・プロパティの編集](#)を参照してください。

6. 「**取消**」をクリックして、「**ディメンション**」タブに戻ります。
7. それぞれのディメンションについてこれらのステップを繰り返します。
8. 「**アクション**」で、「**データベースのリフレッシュ**」を選択します。連結を実行して、パフォーマンスが向上したかどうかを確認します。

### データベース・リフレッシュ・プロセス中のメタデータの検証

データベース・リフレッシュ・プロセスの一部として「**メタデータの検証**」設定を使用し、ビジネス・プロセスと Oracle Essbase の間のメンバー・アイデンティティ (ID) の不一致をスキャンして自動的に解決します。[データベースのリフレッシュ](#)を参照してください。

注意: 「**メタデータの検証**」を選択すると、リフレッシュ・プロセスにかかる時間が長くなる場合があります。

特定のケースで、アプリケーションが使用するマルチディメンショナル・データベースで完全には認識されない方法で、メンバーのアイデンティティが変更される場合があります。システムのすべての部分でメンバーのアイデンティティが完全には正確に確立されていない場合、メンバー順序の不正などの階層の問題が発生することがあります。つまり、該当するメンバーの子の不足、兄弟の一部の不足、特定のプロパティの不足などが発生することがあります。「**メタデータの検証**」を選択すると、そのようなメンバーが検出されてアイデンティティが自動的に解決されます。これにより、これらのメンバーと、プロパティおよび兄弟を含む階層が完全で正確に認識されるようになり、システムのすべての部分で使用可能になります。

メンバー ID を修正した後、メンバーを削除または移動できます。異なる親へのメンバーの移動や、削除を詳しく記したレポート・ファイルが生成され、csv (カンマ区切り) ファイル・フォーマットで送信ボックスに配置されます。レポートを確認して、子の階層が変更された可能性のある保管された親メンバーの一部を再集約します。

例:

Action	Member	Parent	Dimension	Cube	New Parent
Delete	Member1	Parent1	Scenario	Plan1	
Move	Member2	Parent2	Account	Plan2	Parent3

CSV ファイルが「送信ボックス」フォルダに生成され、アプリケーション名の後に `_autocorrect.csv` が付いたファイル名が自動的に生成されます (例: `vision_autocorrect.csv`)。この情報は、実行のたびに上書きされます。

「**メタデータの検証**」設定を使用して「**データベースのリフレッシュ**」ジョブを実行した後、送信ボックスからエクスポート・ファイルをダウンロードできます。

エクスポート・ファイルをダウンロードするには:

1. 「**アプリケーション**」をクリックし、「**ジョブ**」をクリックします。



2. 「最近のアクティビティ」で、ジョブをクリックします。
3. 「ジョブの詳細」の上部で、エクスポート・ファイル・オプションをクリックしてダウンロード場所を選択します。

## メタデータ検証メッセージ

メタデータ検証チェックは、データ整合性問題、パフォーマンス問題またはその他の問題が発生する可能性のある状況に対して警告するために、メタデータ内の特定の関係を対象に適用されます。データ整合性の問題のリスクを最小限に抑え、ベスト・プラクティスのパフォーマンスに関する考慮事項を活用するために、検証エラーの推奨事項を適用することをお勧めします。

### プライマリ・メンバーは共有メンバーの前に存在している必要がある

プライマリ・メンバーは、次のディメンションで共有メンバーの前に(階層内で共有メンバーより上に)存在している必要があります。

- シナリオ
- 期間
- 勘定科目
- 会社間
- 増減
- データ・ソース
- 複数 GAAP (存在する場合)
- ユーザー作成済カスタム・ディメンション

検証メッセージの例:

共有メンバーは、プライマリ・メンバーより前に存在してはなりません。

解決方法:

共有メンバーを、プライマリ・メンバーより下の位置に移動します。

### FCCS\_No Data Source メンバーに対する共有メンバーの作成は許可されない

FCCS\_No Data Source メンバーに対する共有メンバーの作成は許可されていません。

検証メッセージの例:

```
Shared instances for FCCS_No Data Source are not allowed.
```

解決方法:

FCCS No\_Data Source メンバーの共有インスタンスを削除します。

### FCCS\_OpeningBalance は ClosingBalance 階層で「共有」にできない

増減ディメンションでは、FCCS\_OpeningBalance が ClosingBalance 階層で「共有」になっている場合、換算および連結中において替レートに関するエラーが発生する可能性があるため、検証エラーが発生します。

検証メッセージの例:

FCCS\_OpeningBalance は、FCCS\_ClosingBalance の下で「共有」にできません。

解決方法:

FCCS\_OpeningBalance が FCCS\_ClosingBalance 階層の下で「共有」になっていないことを確認します。

### カスタム・ディメンションの保管または非共有の親メンバーは共有メンバーとして使用できない

保管または非共有データ・ストレージである親メンバーは、カスタム階層の共有メンバーとして使用できません。次のディメンションに適用されます。

- 複数 GAAP (存在する場合)
- ユーザー作成済カスタム・ディメンション

検証メッセージの例:

保管または非共有のプライマリ親メンバーは、共有メンバーとして使用できません。

解決方法:

代替階層から共有メンバーを削除し、代替階層に新しい親を作成して、新しい親の下でレベル 0 のメンバーを共有します。

### レベル・ゼロのメンバーのデータ・ストレージ・タイプは有効である必要がある

データ・ストレージ・タイプは、すべてのレベル・ゼロのメンバーに対して有効である必要があります:

- エンティティ、増減ディメンション: 「保管」、「共有しない」または「共有」
- 勘定科目、データ・ソース、複数 GAAP、ユーザー作成済カスタム・ディメンション: 「保管」、「共有しない」、「共有」または「動的計算」

検証メッセージの例:

レベル 0 メンバーのデータ・ストレージは「共有」、 「保管」、「動的計算」、「共有しない」である必要があります。

解決方法:

前述の説明に従ってデータ・ストレージの選択を変更します。

#### ノート:

現在、メタデータ・バリデータでは、シード・メンバーを除き、増減ディメンションのレベル 0 のすべての動的計算メンバーに対してエラーが表示されます。

将来のリリースでは、FCCS\_Closing Balance 階層を除き、有効なメンバー式がメンバーにあるかぎり、動的計算が許容されることとなります。この変更に向けた最初のステップとして、簡易ディメンション・エディタのレベル 0 増減メンバーの有効なデータ・ストレージ選択オプションのリストに動的計算が追加されています。

### 複数 GAAP およびカスタム・ディメンションのすべての親メンバーは、「動的計算」データ・ストレージであることが必要

複数 GAAP およびカスタム・ディメンションの親メンバーには、「動的計算」データ・ストレージ・プロパティが必要です。

「動的計算」に設定されていない場合は、これによってアプリケーションに問題が発生する可能性があることをアラートする警告メッセージが表示されます。

### 「データ・ストレージ」が「動的計算」のメンバーのみを「2パス計算」に設定する必要がある

「動的計算」以外のメンバーを「2パス計算」プロパティで設定しないでください。

ハイブリッド・アプリケーションについては、「2パス計算」ではなく「解決順」を使用することをお勧めします。

### 会社間ディメンションのレベル・ゼロのメンバーは「動的計算」に設定できない

会社間ディメンションでは、レベル・ゼロの会社間メンバーを編集し、メンバー式なしでデータ・ストレージを「動的計算」に設定した場合、検証エラーが発生します。

### レベル・ゼロのメンバーは式のない動的計算メンバーにはできない

有効なレベル・ゼロ(0)の動的計算メンバーには、有効なメンバー式が必要です。

検証メッセージの例:

レベル0メンバーは、メンバー式のない「動的計算」にできません。

解決方法:

有効な式を動的計算メンバーに追加するか、「データ・ストレージ」プロパティを「**保管**」、「**共有しない**」または「**共有**」に変更します。レート・キューブの勘定科目の場合、レート・キューブでその勘定科目が必要であるかどうかを確認します。不要な場合は、ディメンション・エディタを使用してレート・キューブからその勘定科目を削除するか、簡易ディメンション・エディタでレート集計演算子を「キューブに使用しない」に変更します。

### 親メンバーはメンバー式を持つことができない

親メンバーは、次のディメンションでメンバー式を持つことができません。

- エンティティ
- 勘定科目
- 増減
- データ・ソース
- 複数 GAAP (存在する場合)
- ユーザー作成済カスタム・ディメンション

検証メッセージの例:

親メンバーは、メンバー式を持つことができません。

解決方法:

親メンバーからメンバー式を削除します。

### ディメンション名のすべての子に対する集約演算子は「無視」または「なし」である必要がある

集約演算子は、メンバーがディメンション名の子である場合、「無視」または「なし」である必要があります。

- エンティティ・ディメンション: **連結**キューブと**レート**・キューブの両方に対して「無視」
- その他のディメンション: **連結**キューブに対しては「無視」または「なし」、**レート**・キューブに対しては「無視」

検証メッセージの例:

ディメンション名のすべての子の**集計演算子**を「無視」に設定する必要があります。

ディメンション名のすべての子の**集計演算子**を「無視」または「なし」に設定する必要があります。

解決方法:

前述の説明に従って集約演算子を変更します。シード・メンバーの集約演算子は、すでに正しい状態であることに注意してください。

### 勘定科目タイプと集約演算子は一致している必要がある

勘定科目ディメンションの貸借が一致した貸借対照表内では、親と子の勘定科目の勘定科目タイプは、適切な集約演算子と一致している必要があります。親勘定科目タイプと子勘定科目タイプの組合せにより、集約演算子が「加算」または「減算」のどちらであるかが決定されます。勘定科目タイプと集約演算子を一致させることで、貸借対照表データが貸借の一致した貸借対照表に適切に集計されることが保証されます。

親勘定科目と子勘定科目の標準記号(借方または貸方)が同じである場合、集約演算子は「加算」である必要があります。親勘定科目と子勘定科目の標準記号が異なる場合、集約演算子は「減算」である必要があります。

親勘定科目タイプ	子勘定科目タイプ	集約演算子
収益(貸方)	収益(貸方)	加算
収益	費用(借方)	減算
収益	資産(借方)	減算
収益	負債(貸方)	加算
収益	資本(貸方)	加算
収益	保存された仮定	加算
費用(借方)	収益	減算
費用	費用	加算
費用	資産	加算
費用	負債	減算
費用	資本	減算
費用	保存された仮定	加算
資産(借方)	収益	減算
資産	費用	加算
資産	資産	加算
資産	負債	減算
資産	資本	減算

親勘定科目タイプ	子勘定科目タイプ	集約演算子
資産	保存された仮定	加算
負債(貸方)	収益	加算
負債	費用	減算
負債	資産	減算
負債	負債	加算
負債	資本	加算
負債	保存された仮定	加算
資本(貸方)	収益	加算
資本	費用	減算
資本	資産	減算
資本	負債	加算
資本	資本	加算
資本	保存された仮定	加算
保存された仮定	任意のタイプ	加算

検証メッセージの例:

勘定科目**集計演算子**は親と子の勘定科目タイプに基づく**加算**である必要があります

勘定科目**集計演算子**は親と子の勘定科目タイプに基づく**減算**である必要があります

解決方法:

親または子の勘定科目タイプを変更するか、集約演算子を変更します。

シード済貸借対照表の階層は、次の構造を反映している必要があることに注意してください。

シード済貸借対照表のグループ化勘定科目(**FCCS Balance Sheet**)は、シード済のシステム勘定科目および為替レート勘定科目に続く最初のメンバーである必要があります。

**FCCS Balance Sheet** の最初の子は、貸借が一致したシード済貸借対照表の最上位メンバーである必要があります。現在は次のいずれかです。

#### **FCCS\_Total Balance Sheet-Net Asset Approach**

または

#### **FCCS\_Total Balance Sheet-Traditional Approach**

これらの勘定科目の集約演算子は、「**加算**」、「**減算**」または「**無視**」になります。「**無視**」は、グループ化メンバーからレポートを作成する場合を除き、推奨されません(ただし必須ではありません)。

**FCCS Balance Sheet** グループ化の他の子に対する集約演算子は、「**無視**」が適切ですが、グループ化メンバーからレポートを作成する必要がある場合は、「**加算**」または「**減算**」も使用できます。

**FCCS Balance Sheet** の直属の子の子孫は、「**加算**」または「**減算**」である必要があります、子と親の勘定科目タイプの組合せに一致している必要があります。

この検証は、**FCCS\_Balance Sheet** グループ化メンバー内のすべての階層に適用されます(シード済の現金および非現金階層を除く)。この検証チェックが適用されない代替階層を作成する場合、その階層を **FCCS\_Income Statement** グループ化勘定科目の下に配置できます。

### 会社間消去メンバーおよび消去合計メンバーを階層で移動しない

会社間消去メンバーは消去合計階層から移動しないでください。

消去合計メンバーはデータ・ソース合計階層から移動しないでください。

検証メッセージの例:

会社間消去メンバーは消去合計の外部に移動できません。

消去合計メンバーはデータ・ソース合計の外部に移動できません。

解決方法:

会社間消去または消去合計のメンバーを階層の正しい場所に移動します。

### カスタム・メンバー式を合計貸借対照表階層の下に追加しない

カスタム・メンバー式を合計貸借対照表階層の下に追加しないでください。勘定科目ディメンション合計貸借対照表階層のメンバー式を使用して動的計算メンバーを作成すると、メタデータの検証中に、貸借対照表の計算に関する潜在的な問題をアラートするエラー・メッセージが表示されます。

### データ・ソース・ディメンションでは、「出資比率の管理」が有効になっている場合、対応する S\_メンバーが各エンティティに必要である

アプリケーションで「出資比率の管理」を有効にすると、新しいシード済の **S\_Entity** メンバーがデータ・ソース・ディメンションに追加されます。エンティティに **S\_**メンバーがない場合は、検証エラーが発生し、データ・ソース・メンバーを作成する必要があります。たとえば、**TestEntity** という名前のエンティティ・メンバーがある場合、**S\_TestEntity** という名前のデータ・ソース・メンバーを **FCCS\_Source Entities** の下に作成する必要があります。

#### ノート:

唯一の例外は、**FCCS\_Global Assumptions** メンバーです。

検証メッセージの例:

このエンティティ・メンバーに **s\_** のデータ・ソース・メンバーがありません。データ・ソース・メンバー **S\_ENTITYNAME** を **FCCS\_Source Entities** の下に作成してください。

解決方法:

データ・ソースの **S\_EntityName** メンバーを **FCCS\_Source Entities** の下に作成します。

### エクイティ・ピックアップ増減メンバーは親メンバーにはできない

所有権のエクイティ・ピックアップ機能では、増減メンバーについて、**FCCS\_Mvmts\_Subtotal** 階層の下の子メンバーを選択できません。選択できる増減ディメンション・メンバーの事前定義済リストは、**FCCS\_Mvmts\_Subtotal** 階層のレベル 0 のメンバーです。

検証メッセージの例:

xxxx は、増減小計のレベル 0 の子孫ではありません

解決方法:

エクイティ・ピックアップの増減ディメンションでは、FCCS\_Mvmts\_Subtotal 階層のレベル 0 のメンバーのみを選択します。

### 勘定科目ディメンションの解決順の検証

この検証は、期間および増減を密ディメンションとして使用する密/疎最適化オプションを使用している場合にのみ適用されます。ストレージ・タイプが「動的計算」である勘定科目ディメンションのすべてのメンバーの「解決順」プロパティを 58 にする必要があります。

検証メッセージの例:

Solve Order for this member should be 58.

解決方法:

適用可能な場合、指定されたメンバーの解決順プロパティを設定します。

### 連結ディメンションの解決順の検証

期間および増減を密ディメンションとして使用する密/疎最適化オプションを使用している場合、次の検証は適用されません。

拡張連結が有効になっていない場合、次のメンバーの解決順を 26 に設定します。

- FCCS\_Contribution Total
- FCCS\_Contribution
- FCCS\_Parent Total (機能の有効化に基づく)
- FCCS\_Proportion

親入力がある場合、次のメンバーの解決順を 26 に設定します。

- FCCS\_Contribution Total
- FCCS\_Contribution
- FCCS\_Parent Total

検証メッセージの例:

Solve Order for this member should be 26.

密/疎最適化オプションを使用していて、親入力機能が有効になっている場合、FCCS\_Parent Total およびその親メンバーの解決順プロパティは 51 にする必要があります。

密/疎最適化オプションを使用していて、「出資比率の管理」機能を有効にしている場合、FCCS\_Proportion メンバーおよびその親メンバーの解決順プロパティは 51 にする必要があります。

解決方法:

適用可能な場合、指定されたメンバーの解決順プロパティを設定します。

### データ・ソース・ディメンションの解決順の検証

次のメンバーの解決順プロパティは 28 にする必要があります。期間および増減を密ディメンションとして使用する密/疎最適化オプションを使用している場合、これは適用されません。

- FCCS\_Total Data Source
- FCCS\_TotalInputAndAdjusted
- FCCS\_Total Eliminations

#### ノート:

データ・ソース・ディメンションの FCCS\_Total Eliminations メンバーでは解決順を変更しないでください。

検証メッセージの例:

```
Solve Order for this member should be 28.
```

解決方法:

適用可能な場合、指定されたメンバーの解決順プロパティを設定します。

### 増減ディメンションの解決順の検証

#### 標準オプションの解決順の値(密ディメンションとしての勘定科目)

密/疎最適化オプションを使用していない場合、次のメンバーの解決順プロパティは 53 にする必要があります。

- FCCS\_OpeningBalance\_Cash
- FX\_Total\_NonCash
- FCCS\_ClosingBalance\_Cash

FCCS\_ClosingBalance\_Variance の解決順は 55 にする必要があります。

次のメンバーの解決順プロパティは 25 にする必要があります。

- FCCS\_Mvmts\_Operating
- FCCS\_Mvmts\_Investing
- FCCS\_Mvmts\_Financing
- FCCS\_CashFlow
- FCCS\_CashFlow\_Operating
- FCCS\_CashFlow\_NetIncome
- FCCS\_CashFlow\_AdjustmentsToNetIncome
- FCCS\_CashFlow\_DepreciationAndAmortization
- FCCS\_CashFlow\_NetAssets
- FCCS\_CashFlow\_AccountsReceivable
- FCCS\_CashFlow\_Inventories



- FCCS\_CashFlow\_OtherCurrentAssets
- FCCS\_CashFlow\_AccountsPayable
- FCCS\_CashFlow\_OtherCurrentLiabilities
- FCCS\_CashFlow\_Investing
- FCCS\_CashFlow\_Acquisitions
- FCCS\_CashFlow\_Disposals
- FCCS\_CashFlow\_CapitalExpenditures
- FCCS\_CashFlow\_ProceedsFromSalesOfPPE
- FCCS\_CashFlow\_OtherInvestingActivities
- FCCS\_CashFlow\_Financing
- FCCS\_CashFlow\_IssueOfStock
- FCCS\_CashFlow\_ProceedsFromDebt
- FCCS\_CashFlow\_RepaymentOfDebt
- FCCS\_CashFlow\_OtherFinancingActivities

検証メッセージの例:

Solve Order for this member should be 25.

#### **密/疎最適化オプションの解決順の値**

密/疎最適化オプションを使用している場合、次のメンバーの解決順プロパティは 59 にする必要があります。

- FCCS\_CashChange
- FCCS\_OpeningBalance\_Cash
- FX\_Total\_NonCash
- FCCS\_ClosingBalance\_Cash
- FCCS\_ClosingBalance\_Variance

次のメンバーについては、累計ビューの保管の管理オプションが有効になっている場合、解決順を 53 に設定します。

- FCCS\_CashChange
- FCCS\_OpeningBalance\_Cash
- FCCS\_FX\_Total\_NonCash
- FCCS\_ClosingBalance\_Cash

解決方法:

適用可能な場合、指定されたメンバーの解決順プロパティを設定します。

#### **期間ディメンションの解決順の検証**

期間および増減を密ディメンションとして使用する密/疎最適化オプションを使用している場合、次のメンバーの解決順は 53 にする必要があります。

密/疎最適化オプションを使用していない場合、次のメンバーの解決順プロパティは 52 にする必要があります。

- YearTotal
- HY1
- HY2
- Q1
- Q2
- Q3
- Q4

検証メッセージの例:

```
Solve Order for this member should be 52.
```

解決方法:

適用可能な場合、指定されたメンバーの解決順プロパティを設定します。

### ビュー・ディメンションの解決順の検証

期間および増減を密ディメンションとして使用する密/疎最適化オプションを使用している場合、次のメンバーの解決順は 53 にする必要があります。

YTD、HYTD、QTD、YTD\_RULE、HYTD\_RULE、QTD\_RULE

密/疎最適化オプションを使用していない場合、次のメンバーの解決順プロパティは 27 にする必要があります。

YTD\_RULE、HYTD\_RULE、QTD\_RULE

検証メッセージの例:

```
Solve Order for this member should be 27.
```

解決方法:

適用可能な場合、指定されたメンバーの解決順プロパティを設定します。

## データのインポート

ディメンションをインポートした後、データ・ファイルをインポートしてデータを移入できます。

### ノート:

データをインポートするとき、交差が有効かどうかを判断する検証は実行されず、データはすべての交差にロードされます。無効な交差にロードされたデータをレビューするには、データをインポートする前に無効な交差レポートを実行して、無効な交差を確認してクリアします。[無効な交差レポートの作成](#)を参照してください。

データをインポートするには、サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。

ファイル・データをディメンションにマップするセクションが含まれるテキスト・ファイルを使用して、データをロードできます。複数のデータ・ファイルをロードする場合は、シーケンシャル順序でロードされます。

 ノート:

データのロード中に、レポートやブック、バッチを実行しないでください。

データをインポートするには、次のタスクを実行します。

- インポートする各アーティファクトのインポート・ファイルを作成します。[データ・インポート・ファイルの作成](#)を参照してください。
- 1つまたは複数のインポート・ファイルをロードします(一度に複数のディメンション・ファイルをインポートできます)。[データ・インポート・ファイルのロード](#)を参照してください。

## データ・インポート・ファイルの作成

ロードを開始する前に、インポートする各アーティファクト(データ、スマート・リストおよび為替レート表)のインポート・ファイルを作成する必要があります。インポート・ファイルにはヘッダー・レコードが含まれている必要があります、ヘッダー・レコードの下には、インポートまたは更新するデータ・レコードのリストが含まれている必要があります。ファイルの形式は、.csv (カンマ区切り)または.txt (タブ区切りまたは他の区切り文字)にできます。

データ・インポート・ファイルの例は、[例: データ・インポート・ファイル - 期間ビュー](#)、[例: データ・インポート・ファイル - YTD ビュー](#)、[例: データ・インポート・ファイル - 上書き](#)および[例: データ・インポート・ファイル - 為替レート](#)を参照してください。

## データ・インポート・ファイルのフォーマット

ファイル・フォーマットは、行と列で構成されます。最初の行は、列ヘッダーで構成されます。最初の列ヘッダーは、インポート・ディメンションのディメンション名です。その後、ドライバ・ディメンションと呼ばれるもう1つのディメンションのメンバーが存在することがあります。次の列見出しは「視点」で、最後の列見出しはデータ・ロード・キューブ名です。

各行には、最初の列として、ロード・ディメンションのメンバーが含まれます。列の次のセットは、各ドライバ・メンバーのデータ値です。「視点」列には、データがインポートされるセルを一意に識別するための残りのディメンションのメンバーが含まれます。最後の列はキューブ名です(「**連結**」または「**レート**」)。

## データ・ロード方法

アプリケーションにデータ・ファイルをロードするには、次のオプションを使用できます。

- **マージ** - アプリケーションのデータを、ロード・ファイルのデータで上書きするには、このオプションを使用します。データ・ロード・ファイルの各レコードは、セルにインポートされ、古い値がある場合は置換されます。
- **置換** - アプリケーションのデータを置換するには、このオプションを使用します。

定期的なロードの場合、置換モードでは、特定のシナリオ/年/期間/エンティティ/マップされたデータ・ソースの最初のレコードが出現する前に、そのシナリオ、年、期間、エンティティおよびマップされたデータ・ソースのデータの組合せ全体が、手動で入力されたデータであるか以前にロードされたデータであるかに関係なくクリアされます。

データを YTD\_Input にロードすると、ロード・ファイルからデータがロードされ、データのロード・ファイルに指定されていないフロー勘定科目の前の期間の YTD 値が逆になります。この動作は、増減ディメンションの FCCS\_Mvmts\_Subtotal および FCCS\_OpeningBalanceAdjustment の下にあるすべてのメンバーに対して生じます。

年度の最初の期間については、逆にする YTD データが存在しないため、期間 2-12 または 2-13 に対してこのメソッドが適用されます。

残高勘定科目の場合、YTD\_Input にロードされた値がコピーされ、FCCS\_Periodic に保管されます。

### ノート:

YTD\_Input メンバーは、YTD データの入力にのみ使用されます。これを使用して、YTD の値を追加または変更できますが、YTD の値をクリアすることはできません。

データ・ロード・プロセスでクリアするデータの基準に連結ディメンション・メンバーを含めることもできます。たとえば、換算のオーバーライド・データまたは他の入力メンバーのデータをクリアせずに、置換モードでエンティティ入力データをロードできるため、そのデータを再入力または再ロードする必要がありません。プロセスに連結ディメンション・メンバーを含めるには、DataLoadConsolMember という名前の代替変数を追加して値を True に設定する必要があります。

期末残高入力データのみを含むデータ・ファイルをロードして、前期間のゼロ以外の期末残高金額を逆仕訳することができます。期末残高入力のある POV のみを含むデータ・ファイルを置換モードでロードすると、前期間の期末残高の逆仕訳がデフォルトの増減に書き込まれます。例: [データ・インポート・ファイル - 期末残高入力および置換モード](#)を参照してください。

Financial Consolidation and Close 財務では、前期間からの YTD 期末残高が逆になります。最初の期間の FCCS\_Net Income/FCCS\_Owner's Income は逆になりません。このため、貸借対照表勘定科目と収益勘定科目の両方について期末残高入力をロードできます。この動作を無効にするには、NewLoadYTDClosingBalanceInput 代替値を False に変更します。

- **Accumulation Type** - ロード・ファイルのデータを使用してアプリケーションのデータを累計するには、次のオプションのいずれかを選択します。
  - **なし** - データ・インポート・ファイルの各レコードによって、レコードのデータベースの既存の値を置換します。
  - **データベースを使用** - セルの既存の値にデータを追加します。
  - **ファイル内** - ファイル内のセルの値を累計します。

## ロード方法の例

次の例では、ロード・オプションの動作を示します。アプリケーションに次のデータがあるとします。

Actual, FY15, Jan, California, Sales: 20,000

Actual, FY15, Jan, California, COGS, 10,000

Actual, FY15, Jan, California, Expenses: 5,000

ロード・ファイルには次のデータが含まれます。

Entity, Sales, COGS, Point-of-View, Data Load Cube Name

California, 10000, 15000, ("Actual","FY15","Jan"), Consol

California, 25000, 5000, ("Actual","FY15","Jan"), Consol

これらの例は、次のオプションの組合せを使用してインポートを行った後のデータの状態を示しています。

### マージ、なし

Actual, FY15, Jan, California, Sales : 25,000 (second record wins)

Actual, FY15, Jan, California, COGS : 5,000 (second record wins)

Actual, FY15, Jan, California, Expenses : 5,000

### 置換、なし

Actual, FY15, Jan, California, Sales : 25,000

Actual, FY15, Jan, California, COGS : 5,000

Actual, FY15, Jan, California, Expenses : #MI (Replace clears everything in SYPE combination)

### マージ、データベースを使用

Actual, FY15, Jan, California, Sales : 55,000 (Accumulate two records with existing value in database)

Actual, FY15, Jan, California, COGS : 30,000

Actual, FY15, Jan, California, Expenses : 5,000

### 置換、データベースを使用

Actual, FY15, Jan, California, Sales : 35,000

Actual, FY15, Jan, California, COGS : 20,000

Actual, FY15, Jan, California, Expenses : #MI (Replace clears all the data before the import)

### マージ、ファイル内

Actual, FY15, Jan, California, Sales : 35,000

Actual, FY15, Jan, California, COGS : 20,000

Actual, FY15, Jan, California, Expenses : 5,000

### 置換、ファイル内


Actual, FY15, Jan, California, Sales : 35,000

Actual, FY15, Jan, California, COGS : 20,000

Actual, FY15, Jan, California, Expenses : #MI

## データ・インポート・ファイルのロード

ベスト・プラクティスとして、ゼロ値をロードしないでください。

 **ノート:**

データ・ロード後、親期間の値(四半期、半年および年合計)は連結後にのみ使用する必要があります。連結の実行後まで、親期間の値または「期間」以外のビューに依存しないでください。

データ・ファイルをインポートするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**概要**」をクリックして、「**アクション**」から「**データのインポート**」を選択します。
3. 「**作成**」をクリックします。
4. データ・インポート・ファイルの場所を選択します。
  - **ローカル** - 自分のコンピュータ上の場所からデータ・インポート・ファイルをインポートします。
  - **受信ボックス** - サーバーからデータ・インポート・ファイルをインポートします。
5. 「**ファイル・タイプ**」で、次のオプションを選択します。
  - **カンマ区切り**
  - **タブ区切り**
  - **その他** - インポート・ファイルで使用する区切り文字を入力します。サポートされている区切り文字と例外のリストは、[他のサポートされている区切り文字](#)を参照してください。
6. 「**インポート・モード**」からモードを選択します。
  - **マージ** - アプリケーションのデータを上書きします。データの各レコードは、セルにインポートされ、古いデータがある場合は置換されます。
  - **置換** - アプリケーションのデータを置換します。置換モードでは、特定のシナリオ/年/期間/エンティティの最初のレコードが出現する前に、そのシナリオ、年、期間およびエンティティのデータの組合せ全体がクリアされます。
7. 「**累積タイプ**」から、タイプを選択します。
  - **なし** - レコードのデータベースの既存の値を置換します。
  - **データベースを使用** - セルの既存の値にデータを追加します。
  - **ファイル内** - ファイル内のセルの値を累計します。
8. ソース・ファイルを入力または選択します。
  - 「**ローカル**」を選択した場合、「**参照**」をクリックし、ファイルに移動します。
  - 「**受信ボックス**」を選択した場合、「**ソース・ファイル**」にファイルの名前を入力します。
9. 「**日付フォーマット**」から、フォーマットを選択します。
10. **オプション:** 選択した場所が「**受信ボックス**」の場合、「**ジョブとして保存**」をクリックしてインポート操作を、即座にまたは後で実行をスケジュールできるジョブとして保存します。

11. **オプション:** 選択した場所が「ローカル」の場合、「検証」をクリックして、インポート・ファイルの形式が正しいかどうかをテストします。
12. 「インポート」をクリックします。
13. データが正常に送信されたという情報メッセージで、「OK」をクリックします。
14. インポート・プロセスの詳細を表示するには、「アプリケーション」をクリックし、「ジョブ」をクリックして「最近のアクティビティ」を参照してから、詳細を表示するインポートのリンクをクリックします。

## 例: データ・インポート・ファイル - 期間ビュー

毎月1回の頻度で期間データをインポートできます。アプリケーションに、売上勘定科目の次のデータがあるとします。

Sales...Jan: 100, Feb: 150, Mar: 120

データ・インポート・ファイルには次の行が含まれます。最初の行は必須のファイル列ヘッダーです。

Period, Sales, Point-of-View, Data Load Cube Name

Jan, 100, "FCCS\_Entity Input, ENTITY CURRENCY, England, FCCS\_Data Input, FCCS\_No Intercompany, FCCS\_No Movement, Actual, FY14, Periodic, FCCS\_Local GAAP", Consol

Feb, 150, "FCCS\_Entity Input, ENTITY CURRENCY, England, FCCS\_Data Input, FCCS\_No Intercompany, FCCS\_No Movement, Actual, FY14, Periodic, FCCS\_Local GAAP", Consol

Mar, 120, "FCCS\_Entity Input, ENTITY CURRENCY, England, FCCS\_Data Input, FCCS\_No Intercompany, FCCS\_No Movement, Actual, FY14, Periodic, FCCS\_Local GAAP", Consol

## 例: データ・インポート・ファイル - YTD ビュー

データは Financial Consolidation and Close に年次累計(YTD)ベースでロードできます。データを FCCS\_Periodic メンバーのかわりに FCCS\_YTD\_Input View ディメンション・メンバーにロードする場合、Financial Consolidation and Close では、YTD 金額が入力金額と一致するよう期間メンバーが移入されます。最初の期間を除くすべての期間で、前期間の YTD 金額が YTD 入力金額から減算され、その結果が期間ビューに書き込まれます。最初の期間では、YTD 入力金額が期間ビューに書き込まれます。次に YTD 入力金額はクリアされます。期間金額のこの移入は YTD 入力金額に基づいており、期末残高の入力金額には基づいていません(ただし、損益計算書勘定の場合のみ、これらは同じです)。

データを YTD\_Input にロードするときに、現在の期間の値が前期間の値と同じ場合は、ゼロ(0)の期別価額が保管されないため、データ・ロードのパフォーマンスが向上します。



期末残高には期首残高の影響が含まれますが、YTD では期首残高は除外され、期首残高を除く現行年度のみ増減を網羅しています。期末残高入力については、[シード済ディメンション・メンバー](#)の期末残高入力階層に関する項を参照してください。

また、YTD ビューで四半期ごとにデータをロードする場合、現在の期間からデータが入力された期間までの間に「データなし」ステータスの期間がある場合は、「データなし」計算ステータスの中間期間は、連結プロセスの開始時に「影響」に変わり、完了時に「OK」に変わることにご注意ください。連結前のステータスが「データなし」であった場合、それらの期間の祖先のステータスはすべて「影響」に変更されます。

アプリケーションに、売上勘定科目の次のデータがあるとします。

Sales...Jan: 100, Feb: 250, Mar: 370

データ・インポート・ファイルには次の行が含まれます。最初の行は必須のファイル列ヘッダーです。

Period, Sales, Point-of-View, Data Load Cube Name

Jan, 100, "FCCS\_Entity Input, ENTITY CURRENCY, England, FCCS\_Data Input, FCCS\_No Intercompany, FCCS\_No Movement, Actual, FY14, FCCS\_YTD Input, FCCS\_Local GAAP", Consol

Feb, 250, "FCCS\_Entity Input, ENTITY CURRENCY, England, FCCS\_Data Input, FCCS\_No Intercompany, FCCS\_No Movement, Actual, FY14, FCCS\_YTD Input, FCCS\_Local GAAP", Consol

Mar, 370, "FCCS\_Entity Input, ENTITY CURRENCY, England, FCCS\_Data Input, FCCS\_No Intercompany, FCCS\_No Movement, Actual, FY14, FCCS\_YTD Input, FCCS\_Local GAAP", Consol

## 例: データ・インポート・ファイル - YTD 入力および置換モード

置換モードを使用してデータをロードする場合、そのシナリオ、年、期間およびエンティティのデータの組合せがクリアされ、ロード・ファイル内のデータで置き換えられます。

データを YTD\_Input にロードし、ロード・ファイルの置換モードを使用する場合、ロード・ファイルからデータがロードされ、データのロード・ファイルに指定されていないフロー勘定科目の前の期間の YTD 値が逆になります。この動作は、増減ディメンションの FCCS\_Mvmts\_Subtotal および FCCS\_OpeningBalanceAdjustment の下にあるすべてのメンバーに対して生じます。

年度の最初の期間については、逆にする YTD データが存在しないため、期間 2-12 または 2-13 に対してこのメソッドが適用されます。

この機能は、管理者、パワー・ユーザーおよびユーザー・データのロードに対してサポートされています。パワー・ユーザーがデータのロードを実行する場合、ユーザーが書き込みアクセス権を持つ YTD 値が逆になります。

この例では、置換モードでの YTD\_Input メンバーへのデータ・ロード・ファイルを示します。最初の行は必須の列ヘッダーです。

Period, Sales, Point-of-View, Data Load, Cube Name

**Feb**, 100, "FCCS\_Entity Input, ENTITY CURRENCY, England, FCCS\_Data Input, FCCS\_No Intercompany, FCCS\_No Movement, Actual, FY14, **FCCS\_YTD\_Input**, FCCS\_Local GAAP", Consol

**Feb**, 100, "FCCS\_Entity Input, ENTITY CURRENCY, Ireland, FCCS\_Data Input, FCCS\_No Intercompany, FCCS\_No Movement, Actual, FY14, **FCCS\_YTD\_Input**, FCCS\_Local GAAP", Consol

結果:

データ・ロード・ファイル内で指定されていないすべての勘定科目(つまり、前期間内に値がある売上を除くすべての勘定科目)の YTD 値が逆になります。

## 例: データ・インポート・ファイル - 期末残高入力および置換モード

期末残高入力データのみを含むデータ・ファイルをロードして、前期間のゼロ以外の期末残高金額を逆仕訳することができます。データ・ファイルをロードするときは、置換モードを使用します。

システムで逆仕訳を実行するには:

- ファイルには、期末残高入力増減メンバーのみが含まれている必要があります。
- 置換モードを使用してロードする必要があります。
- 前期間のステータスが「影響」ではない必要があります。その計算ステータスが「OK」または「システムの変更」である必要があります。

前期間が「影響」になっている場合、前期間の期末残高の逆仕訳は実行されませんという警告メッセージが表示され、逆仕訳は実行されません。

期末残高入力データ・ファイルに複数の期間のデータが含まれている場合、前期間の期末残高の逆仕訳はロードされた最初の期間にのみ適用されます。これは、最初の期間にのみ、影響されていない前期間があるためです。

ロール・フォワードおよび CTA 勘定科目の逆仕訳が必要ない場合、置換モードでデータをロードする前に、DoNotReverseRFAccountsForCBILoad という代替変数を追加して値を True に設定できます。代替変数が True に設定されている場合、次の勘定科目は逆仕訳されません。

- FCCS\_OR OBFXCICTA
- FCCS\_Retained Earnings Prior
- FCCS\_REC OBFXCTA
- FCCS\_Retained Earnings Current
- FCCS\_Retained Earnings

データ・ロードのステータスおよびエラー・メッセージをジョブ・コンソールで表示できます。

この例では、置換モードの期末残高入力データ・ロード・ファイルを示しています。最初の行は必須の列ヘッダーです。

Entity, Period, Point-of-View, Data Load Cube Name

```
Base Entity,40000,"Actual,FY19,FCCS_Periodic,Entity
Currency,Cash,FCCS_No Intercompany,FCCS_ClosingBalance_Input,FCCS_Data
Input,FCCS_Local GAAP,FCCS_Entity Input",Consol
```

```
Base Entity,4000,"Actual,FY19,FCCS_Periodic,Parent
Currency,Cash,FCCS_No Intercompany,FCCS_ClosingBalance_Input,FCCS_Data
Input,FCCS_Local GAAP,FCCS_Parent Input",Consol
```

```
Base Entity,400,"Actual,FY19,FCCS_Periodic,Parent
Currency,Cash,FCCS_No Intercompany,FCCS_ClosingBalance_Input,FCCS_Data
Input,FCCS_Local GAAP,FCCS_Contribution Input",Consol
```

## 例: データ・インポート・ファイル - 上書き

複数通貨アプリケーションを使用している場合、異なる上書きレートまたは金額を異なるソース・メンバーにロードできます。次のシステム・メンバーを使用します(これらは、連結ディメンションの複数通貨アプリケーションに対して自動的に作成されます)。

- FCCS\_Overrides
- FCCS\_Rate Override
- FCCS\_Amount Override

データ・インポート・ファイルには、これらの異なる金額を含めることができます。

Entity, Jan, Point-of-View, Data Load Cube Name

```
E03, 100,"Actual,FY14,FCCS_Periodic,USD,FCCS_Common Stock,FCCS_No
Intercompany,FCCS_Mvmts_IssueOfStock,No Product, FCCS_Data
Input,FCCS_Local GAAP, FCCS_Amount Override",Consol
```

```
E03, 200,"Actual,FY14,FCCS_Periodic,USD,FCCS_Common Stock,FCCS_No
Intercompany,FCCS_Mvmts_IssueOfStock,No Product, FCCS_Managed
Data,FCCS_Local GAAP, FCCS_Amount Override",Consol
```

```
E03, 300,"Actual,FY14,FCCS_Periodic,USD,FCCS_Common Stock,FCCS_No
Intercompany,FCCS_Mvmts_IssueOfStock,No Product, FCCS_Other
Data,FCCS_Local GAAP, FCCS_Amount Override",Consol
```

## 例: データ・インポート・ファイル - 為替レート

複数通貨アプリケーションの場合は、レートをレート・キューブにインポートします。

データ・インポート・ファイルには次の行が含まれることがあります。最初の行は必須のファイル列ヘッダーです。

```
Period, Average Rate, Ending Rate, Point-of-View, Data Load Cube Name
```

```
Jan, 1,1,"USD, FCCS_Global Assumptions, From_USD, Actual, FY16,  
FCCS_Periodic", Rates
```

```
Feb, 1,1,"USD, FCCS_Global Assumptions, From_USD, Actual, FY16,  
FCCS_Periodic", Rates
```

```
Mar, 1,1,"USD, FCCS_Global Assumptions, From_USD, Actual, FY16,  
FCCS_Periodic", Rates
```

```
Jan, 2,2,"USD, FCCS_Global Assumptions, From_CAD, Actual, FY16,  
FCCS_Periodic", Rates
```

```
Feb, 2,2,"USD, FCCS_Global Assumptions, From_CAD, Actual, FY16,  
FCCS_Periodic", Rates
```

```
Mar, 2,2,"USD, FCCS_Global Assumptions, From_CAD, Actual, FY16,  
FCCS_Periodic", Rates
```

```
Jan, 3,3,"USD, FCCS_Global Assumptions, From_AUD, Actual, FY16,  
FCCS_Periodic", Rates
```

```
Feb, 3,3,"USD, FCCS_Global Assumptions, From_AUD, Actual, FY16,  
FCCS_Periodic", Rates
```

```
Mar, 3,3,"USD, FCCS_Global Assumptions, From_AUD, Actual, FY16,  
FCCS_Periodic", Rates
```

## データのエクスポ

データのエクスポは、「アプリケーション」ページから行います。

別の方法として、データ統合を使用してデータをエクスポすることもできます。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理](#)を参照してください。

データをエクスポするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**概要**」をクリックして、「**アクション**」から「**データのエクスポート**」を選択します。
3. 「**作成**」をクリックします。
4. 「**データのエクスポート**」ページで、データ・エクスポート・ファイルのターゲットの場所を選択します。
  - **ローカル** - 自分のコンピュータ上の場所にデータ・エクスポート・ファイルを保存します。
  - **送信ボックス** - データ・エクスポート・ファイルをサーバーに保存します。
5. 「**キューブ・タイプ**」で、**連結**または「**レート**」を選択します。
6. 「**ファイル・タイプ**」で、次のオプションを選択します。
  - **カンマ区切り** - 各アーティファクトのカンマ区切りの.csv ファイルを作成します。
  - **タブ区切り** - 各アーティファクトのタブ区切りの.txt ファイルを作成します。
  - **その他** - 各アーティファクトの.txt ファイルを作成します。エクスポート・ファイルで使用する区切り文字を入力します。サポートされている区切り文字と例外のリストは、[他のサポートされている区切り文字](#)を参照してください。
7. 「**スマート・リスト**」で、「**ラベルのエクスポート**」または「**名前のエクスポート**」を指定します。
8. 「**動的メンバー**」で、「**含む**」か「**除外**」かを選択します。
9. エクスポートするデータのスライスを選択します。

勘定科目ディメンションは、システムで唯一の密ディメンションで、「列」にある必要があります。
10. **オプション**: 選択した場所が「**送信ボックス**」の場合、「**ジョブとして保存**」をクリックしてエクスポート操作を、即座にまたは後で実行をスケジュールできるジョブとして保存します。
11. 「**エクスポート**」をクリックして、データ・エクスポート・ファイルの保存先を指定します。

データ・エクスポート・ファイルのサイズを削減するために、フォームに全体が #Missing 値の行が含まれる場合、その行はデータ・エクスポート・ファイルから省略されます。

## データ・インポートおよびエクスポートのステータスの表示

「インポートとエクスポートのステータス」ページには、最近のジョブの詳細が表示されます。

データのインポートおよびエクスポートのステータスを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**ジョブ**」をクリックします。

3. 「最近のアクティビティ」で、詳細を表示するインポートまたはエクスポート・ジョブの名前をクリックします。
4. 「表示」で、次のオプションを選択します。
  - エラー
  - 警告
  - 情報
  - すべて

## Essbase アウトラインの検証

Essbase アウトラインを事前に検証して、アプリケーションにハイブリッド Essbase バージョンとの互換性があることを確認します。

ハイブリッド・ブロック・ストレージ・オプション(BSO)キューブをサポートする Oracle Essbase バージョンにすべての環境をアップグレードする取組みの一部として、環境をハイブリッド Essbase バージョンにアップグレードするときに円滑に移行できるよう、Essbase アウトラインを事前検証するプロセスが追加されました。

### Note:

Essbase バージョンの詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド』の EPM Cloud の Essbase についてを参照してください。

アプリケーションのハイブリッド Essbase バージョンとの互換性を確保するために、環境内のメンバー式を検証して、問題があれば修正できるようにレポートを提供する新しいユーティリティが実装されました。アプリケーションの概要ページで、「アクション」メニューの「Essbase アウトライン検証」メニュー・オプションにある次のオプションを使用します:

- **アウトラインの事前検証:** アプリケーションの検証を実行します
- **アウトライン事前検証レポート:** ハイブリッド Essbase バージョンと互換性を持つように修正する必要があるメンバー式のリストを表示します

### Note:

- 「Essbase アウトライン検証」メニュー・オプションは、非ハイブリッド Essbase バージョンの環境の場合にのみ表示されます。ハイブリッド Essbase バージョンの環境では、「Essbase アウトライン検証」メニュー・オプションは使用できなくなります。
- 環境がハイブリッドと非ハイブリッドのどちらの Essbase バージョンかを調べるもう1つの方法として、「アクティビティ・レポート」で **Essbase バージョンがハイブリッド・ブロック・ストレージ・オプションをサポート**の値を確認することもできます。この値が「はい」である場合、ハイブリッド Essbase バージョンの環境であることを意味します。この値が「いいえ」である場合、非ハイブリッド Essbase バージョンの環境となります。

環境内の Essbase アウトラインを検証し、メンバー式で検出されたエラーを修正するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**概要**」をクリックします。
2. 「**アクション**」をクリックし、「**Essbase アウトライン検証**」を選択して、次のオプションから選択します:
  - 検証を実行するには、「**アウトラインの事前検証**」を選択します。
  - 検証中に検出されたエラーのレポートを表示およびダウンロードするには、「**アウトライン事前検証レポート**」を選択します。

メンバー式を修正したら、「**アウトラインの事前検証**」オプションを再度使用して、すべての問題が解決されていることを確認できます。

## データ統合

データ統合は、Financial Consolidation and Close での統合プロセスの実行の基礎となるメカニズムです。


ファイルベース統合と直接統合のソースの定義、ソース・データを必要なターゲット・フォーマットに変換するためのマッピング・ルールの作成、および定期的なデータ・ロード・プロセスの実行と管理が可能になります。一般的な統合タスクは、作業方法をサポートし、それに準拠する、ナビゲートしやすいインターフェースを使用して行います。

データ統合には Financial Consolidation and Close から直接アクセスできます。「データ統合」ページから統合を作成できます。また、既存の統合を実行して、ソースからデータを抽出し、フィルタ条件に基づいてターゲットにロードできます。

*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* データ統合の管理を参照してください。

データ統合にアクセスするには、サービス管理者、パワー・ユーザーまたはユーザーであることが必要です。

データ統合にアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」を選択し、次に「**データ交換**」を選択します。  
「**データ統合**」ページが表示されます。
2. 統合を検索するには、「**検索**」をクリックし、名前、場所、ソースまたはターゲットで検索します。
3. 統合のリストをソートするには、条件を指定します。ソート結果は、昇順(A から Z)または降順(Z から A)で表示できます。
4. 統合を作成するには、「**統合の作成**」  
  
をクリックし、統合の作成ウィザードを使用して統合の詳細を指定します。
5. 統合を編集するには、リストから統合を選択し、必要に応じて統合詳細を編集します。

6. 統合を実行するには、リストから統合を選択し、「実行」



をクリックします。

データ統合を使用したデータのエクスポートの詳細は、次のビデオをご覧ください:



[https://apexapps.oracle.com/pls/apex/f?p=44785:265:0:::265:P265\\_CONTENT\\_ID:21114](https://apexapps.oracle.com/pls/apex/f?p=44785:265:0:::265:P265_CONTENT_ID:21114)

## データ統合のベスト・プラクティス

### 関連トピック:

[密/疎最適化\(DSO\)アプリケーションからのデータのエクスポート](#)

[年次累計\(YTD\)データのエクスポート](#)

## 密/疎最適化(DSO)アプリケーションからのデータのエクスポート

密/疎最適化(DSO)アプリケーションでは、期間ディメンションと増減ディメンションの密度は「密」に設定され、勘定科目ディメンションの密度は「疎」に設定されます。他のディメンションの密度は「疎」です。これは、期間を出力の列として含める必要がある場合に、DSOアプリケーションからファイルにデータをエクスポートする際に影響します。アプリケーションをDSOに移行し、アプリケーションからファイルにエクスポートした既存のデータ統合がある場合、次の推奨事項を確認し、既存のデータ統合をそれに従って変更する必要があります。

- エクスポート・ファイル定義に期間を含めます([データ・エクスポート・ファイル・アプリケーションの登録](#)を参照)。期間を表す列の「**ディメンションの分類**」をターゲット・アプリケーション定義で「**期間**」に設定し、**データ表列名** は必ず空白のままにします([アプリケーションのディメンションの詳細の定義](#)を参照)。これにより、エクスポート・ファイルの生成時に、システムが期間ディメンションを適切に処理できるようになります。勘定科目とエンティティにマッピングする列の「**ディメンションの分類**」も、それぞれ勘定科目とエンティティとして定義されていることを確認してください。金額はデフォルトで最後の列として追加されるため、エクスポート・ファイル定義に金額を含める必要はありません。たとえば、列ヘッダー ACCOUNT、BUSINESS\_UNIT、ACCOUNTING\_PERIOD、および Amount を持つファイルのエクスポート・ファイル定義を参照してください。ACCOUNTING\_PERIOD の「**データ表列名**」が空白であり、ACCOUNTING\_PERIOD の「**ディメンションの分類**」が「**期間**」に設定されていることを確認します。



### Application Details: Data Export File

Dimensions Options Set Defaults

+ 設定

Dimension Name	Dimension Classification	Data Table Column Name	Mapping Sequence
ACCOUNT	Account	ACCOUNT	
ACCOUNTING_PERIOD	Period		
BUSINESS_UNIT	Entity	ENTITY	

- 特定の日付形式をエクスポートするには、「**データ交換**」の**期間マッピング**の下にあるターゲット・データ・ファイル・アプリケーションの**アプリケーション・マッピング**を構成する必要があります。次の例は、P12-FY21 を 12 月 21 日にマッピングしてファイルに出力する方法を示しています。

### Period Mapping

Global Mapping Application Mapping Source Mapping

Target Application Data Export File

+ 設定 動作

Period Key	Prior Period Key	Period Name	Target Year	Target Period - Month	Target Period - Quarter	Target Period - Year
12/31/2021	11/30/2021	P12-FY21	2021	Dec 21		

- 期間が**データ統合**の**ディメンション**、**ディメンションのマッピング**として表示されている場合は、削除します。

### Edit Integration: Data Export

Save Cancel

General Map Dimensions Map Members Options

Account	Amount	Entity
ACCOUNT	Amount	BUSINESS_UNIT

- 直接データ統合オプション**で「**データの抽出オプション**」を指定します。DSO アプリケーションでは、非ハイブリッド・アプリケーションよりも動的に計算される「**疎**」ディメンション・メンバーが多くなる可能性があります。これは、すべての親メンバーが DSO で「**動的計算**」として構成されているためです。勘定科目ディメンションは DSO アプリケーションでは「**疎**」であり、多くの「**動的計算**」親勘定科目のメンバーの可能性を生み出すことに注意することが重要です。DSO アプリケーションからデータをエクスポートする場合、「**データの抽出オプション**」として「**すべてのデータ**」を選択することにより、「**疎**」ディメンションの「**動的計算**」メンバーをエクスポートできます。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理の直接統合オプションの定義*を参照してください。「**すべてのデータ**」では、任意のディメンションの保存されたメンバーと「**動的計算**」メンバーの両方をエクスポートできます。

## Edit Integration: Data Exp

General Map Dimensions Map Members Options

**Filters** Options

General Option

Category Actual-GAAP

Source Cube Consol

Period Mapping Type Default

Calendar

Data Extract Option All Data

「すべてのデータ」オプションは、ディメンション・フィルタによって制限されていない場合、巨大なデータ・セットを生成し、長い時間がかかる可能性があります。**Oracle Enterprise Performance Management Cloud** データ統合の管理の[フィルタの定義](#)を参照してください。たとえば、期間と年以外のすべてのディメンションには、エクスポートが必要な交差のみに制限されるように、以下で指定されたフィルタがあります。

Edit Integration: Data Exp

Save Cancel

General Map Dimensions Map Members Options

**Filters** Options

+ 設定

Dimension Name	Filter Condition	
Account	@Lvl0Descendants("TRCS_TARFCurrent"),@Lvl0Descendants("TRCS_TARFDeferred")	既定
Consolidation	"FCCS_Entity Total"	既定
Currency	"Entity Currency"	既定
Data Source	"TRCS_TARF"	既定
Entity	@Lvl0Descendants("FCCS_Total Geography")	既定
Intercompany	"FCCS_No Intercompany"	既定
Jurisdiction	"US"	既定
Movement	"TRCS_TARFClosingbalance"	既定
Multi-GAAP	"FCCS_Local GAAP"	既定
Scenario	"Actual"	既定
View	"FCCS_Periodic"	既定

たとえば、勘定科目ディメンションでフィルタを指定しない場合、システムは、親を含む勘定科目ディメンションのすべてのメンバーのデータを取得しようとします。

 **Note:**

**疎** ディメンションの動的計算されたメンバーをエクスポートする必要がない場合、**保管されたデータのみ**オプションまたは**保管された動的算出データ(密のみ)**オプションを使用してください。

- 「**データ交換**」で「Financial Consolidation and Close」アプリケーションに「**メンバーのリフレッシュ**」および「**メタデータのリフレッシュ**」を選択し、「**アプリケーション**」を選択してから連結アプリケーション名を選択します。

## 年次累計(YTD)データのエクスポート

年次累計(YTD)データをエクスポートする方法は、データのエクスポート元の Financial Consolidation and Close アプリケーションのタイプによって異なります:

- **拡張ディメンション DSO アプリケーション - 「データ統合」の「オプション」**のビュー・ディメンションの [https://docs.oracle.com/en/cloud/saas/enterprise-performance-management-common/diepm/integrations\\_filters\\_104x99ff59a5.html](https://docs.oracle.com/en/cloud/saas/enterprise-performance-management-common/diepm/integrations_filters_104x99ff59a5.html) フィルタで YTD メンバーを指定します。「**疎**」ビュー・ディメンションの動的に計算された YTD メンバーをエクスポートするには、**すべてのデータ** オプションを指定する必要があります。
- **拡張ディメンション非 DSO アプリケーション - YTD データは、YTD メンバーに格納されるか、YTD\_Rule メンバーで動的に計算されます。**
  - 保管済 YTD – **累計ビューの保管の管理**オプションが有効かどうかと、アプリケーションの管理方法に応じて、保管済 YTD メンバーにデータが存在する場合と存在しない場合があります。エクスポートする YTD メンバー交差にデータが存在することを確認した場合は、「**データ統合**」の「**オプション**」、ビュー・ディメンションの「**フィルタ**」フィルタで YTD メンバーを指定できます。保管済 YTD メンバーをエクスポートするために、**すべてのデータ** オプションを指定する必要はありません。
  - 動的に計算された YTD\_Rule - 「**データ統合**」の「**オプション**」、ビュー・ディメンションの「**フィルタ**」フィルタで YTD\_Rule メンバーを指定します。「**疎**」ビュー・ディメンションの動的に計算された YTD\_Rule メンバーをエクスポートするには、**すべてのデータ** オプションを指定する必要があります。
- **レガシー(非ハイブリッド) Financial Consolidation and Close アプリケーション** - YTD データを直接エクスポートすることはできません。メンバー・マッピングを使用して、期別データをエクスポートし、前の期間を集約して YTD データを生成できます。残高勘定科目を集約するのではなく、勘定科目タイプに注意する必要があります。

## データのコピー

ソース POV からターゲット POV にデータをコピーして、ビジネス・プランニングや分析を支援できます。特定のシナリオ、年、期間およびエンティティ・ディメンションのメンバーを、ターゲット・ディメンションのメンバーにコピーできます。こうすると、仕訳や補足データ・マネージャ詳細などのサポート詳細とともに、データのバルク・コピーを実行できます。たとえば、実績データを「**予算**」または「**予測**」シナリオにコピーして、プランニング・プロセスを開始できます。データは、1 つ以上の期

間から、1つのシナリオから別のシナリオへ、および1つ以上のエンティティからコピーできます。ロックされているエンティティにはデータをコピーできません。

データをコピーするには、そのデータへの書込みアクセス権があるサービス管理者である必要があります。

コピーできるのは、次のタイプのデータです。

- 標準データ(仕訳を含む)
- オーバーライド・データ—履歴レート・オーバーライド勘定から「Override Rates」フォームに入力されたレートおよび金額
- レート・データ—グローバル通貨レートのデータ

標準データの場合、コピー・プロセス時にデータをマージするか置換するかを指定できます。ソース・データ・セットをターゲット・データ・セットに追加するには「マージ」を選択し、ターゲット・データ・セットをソース・データ・セットに置換するには「置換」を選択します。「置換」を選択した場合、ソース・データ・セットに存在しないデータはターゲットでクリアされます。たとえば、1月の売上勘定科目のソース・データ・セットにデータがない場合、1月の売上の既存データはターゲット・データ・セットでクリアされます。データは、レベル0のターゲット・メンバーのみにコピーできます。

仕訳データ・ソース・メンバーを選択すると、標準データのコピー・プロセスに仕訳詳細を含めることができます。転記済の仕訳を含むデータをコピーする場合は、ターゲット POV に仕訳が作成され、仕訳が自動的に転記されます。

仕訳データをコピーするとき、仕訳で参照されるすべての勘定科目が勘定科目ディメンション・フィルタで選択される必要があります。そうしないと、仕訳作成は、エラー・メッセージ「ラベル: {0}の仕訳の転記に失敗しました。:仕訳は通貨{0}で貸借が一致していません。」が表示されて失敗します。

シナリオ、年、期間、エンティティおよびデータ・ソースのメンバーを選択する必要があります。

オプションで、勘定科目、増減、会社間、複数 GAAP およびカスタム・ディメンションのメンバーを選択できます。これらのディメンションのメンバーを選択しない場合は、レベル0のすべてのメンバーが含まれます。

「メンバー選択」では、代替変数とユーザー変数を使用することもできます。

データ・ソース・ディメンションの場合、ターゲット・メンバーは常にソース・メンバーと同じで、リダイレクトできません。補足データのメンバーは例外です。補足データ・メンバーは、Financial Consolidation and Close の要約されたデータから、補足データ・マネージャの基礎となる詳細にドリル・スルーできます。基礎となる詳細は、コピー・プロセス時にソースからターゲット POV にコピーされず、ドリル・スルーの対象にできないため、ソースとして補足データを選択する場合は、補足データ以外のターゲット・メンバーを選択して、コピーされた値を保管する必要があります。補足データのターゲットとして選択したメンバーは、ソースとして選択できません。

データのコピー・プロセスのメンバーを選択した後に、メンバーをデータのコピー・プロファイルとして保存できます。これにより、データのコピー・プロセスの情報を後で取得でき、メンバーを再度選択する必要はありません。[データのコピー・プロファイルの使用](#)を参照してください。

これらのディメンションで次のメンバーは固定なので、コピー・プロセスで選択することはできません。

- ビュー - 期別

- 通貨 - エンティティ 通貨
- 連結 - エンティティ 入力

コピー・プロセス後、すべてのターゲット・エンティティ・データの計算ステータスは「影響」に変わります。連結を実行して値を更新する必要があります。

「データなし」のエンティティは、コピー・プロセスの一環に含まれません。

データをコピーするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします
2. 「**概要**」をクリックし、「**アクション**」から「**データのコピー**」を選択します。
3. コピーするアイテムを選択します。
  - データのコピー・メンバー選択をプロファイルとして以前に保存した場合は、「データのコピー・プロファイル」リストに使用可能なプロファイルが表示されます。プロファイルを選択したり、必要に応じて更新したり、「**実行**」をクリックして保存済のコピー・プロファイルを実行できます。
  - 保存されたデータのコピー・プロファイルがない場合は、データのタイプを選択し、ソースおよびターゲット・メンバーを指定します。
4. コピーするデータのタイプを選択します:
  - **標準データ**
  - **オーバーライド・データ**
  - **レート・データ**
5. 「**標準データ**」で、「**オプションのコピー**」から次のオプションを選択します。
 

このオプションを使用できるのは、「標準データ」のみです。レート・データおよび上書きデータは、置換モードを使用して常にコピーされます。

  - **置換**—すべてのターゲット・データのセルはソース・データのセル値で置換されます。
  - **マージ**—ソース・データのセル値がターゲット・データのセル値にマージされます。ターゲット・データにあるセルのうち、ソースのコピーに含まれないものは、マージ後にも残ります。
6. 「**ソース**」で、コピーするメンバーを選択し、「**OK**」をクリックします。
 

期間の範囲をコピーするときは、ソース期間の数をターゲット期間の数と同じにする必要があります。選択できるのは、FCCS\_Total Data Source の下にある「入力」ベース・メンバーのみです。

レート・データをコピーする場合、エンティティ・メンバーを選択する必要はありません。
7. **オプション:** 補足詳細をコピーするには、「**データ・ソース**」メンバーでコピーする補足詳細を1つ以上選択し、「**補足データのメンバー**」で、ターゲットとしてベースのデータ・ソース・メンバー(補足データ以外)を選択します。補足データのターゲットとして選択したメンバーは、ソースとして選択できません。
8. 「**ターゲット**」で、データのコピー先のメンバーを選択します。
9. 「**実行**」をクリックしてデータのコピー・タスクを発行し、プロンプトが表示されたら「**はい**」をクリックして続行します。

データのコピー・タスクが発行されたというメッセージが表示されます。タスク・ステータスはジョブ・コンソールでモニターできます。「アプリケーション」ページで「ジョブ」をクリックしてジョブを選択すると、詳細が表示されます。

## データのコピー・プロファイルの使用

データのコピー・プロセスのメンバーを選択した後に、メンバーをデータのコピー・プロファイルとして保存できます。これにより、コピー・プロセスの情報を後で取得でき、メンバーを再度選択する必要はありません。

「データのコピー」を選択すると、保存したプロファイルのリストが表示されます。プロファイルを選択してデータのコピー・プロセスを実行したり、プロファイルを編集して保存したり、変更済みのプロファイルとして保存することができます。既存のプロファイルを複製したり、不要になったプロファイルを削除できます。

### データのコピー・プロファイルの作成

データのコピー・プロファイルを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**概要**」をクリックし、「**アクション**」から「**データのコピー**」を選択します。
3. コピーするアイテムを選択します。
4. 「**保存**」をクリックします。
5. 「**コピー・プロファイルの保存**」から、プロファイルの**名前**および**説明**を入力し、「**保存**」をクリックします。

名前は、30文字までの一意の名前である必要があります。説明は128文字まで入力できます。

6. 保存確認のメッセージで、「**OK**」をクリックします。

「データのコピー・プロファイル」リストにプロファイルが表示されます。

### データのコピー・プロファイルの編集

データのコピー・プロファイルを編集するには:

1. 「データのコピー・プロファイル」リストから、プロファイルを選択して開きます。
2. 必要に応じて選択内容を編集します。
3. 「**保存**」をクリックします。

プロファイルを同じ名前で保存するか、必要に応じて名前を変更できます。

4. 「**名前を付けて保存**」をクリックして、変更したプロファイルを新規プロファイルとして保存し、名前と説明を入力します。

### データのコピー・プロファイルの複製

1. 「データのコピー・プロファイル」リストから、プロファイルを選択します。
2. 「**アクション**」メニューから、「**複製**」を選択します。

複製したプロファイルは、接尾辞「\_Copy」が付いて「データのコピー・プロファイル」リストに表示されます。たとえば、HQプロファイルを複製した場合、複製したプロファイルはHQ\_Copyという名前になります。

## データのコピー・プロファイルの削除

データのコピー・プロファイルを削除するには:

1. 「データのコピー・プロファイル」リストから、プロファイルを選択します。
2. 「アクション」メニューから、「削除」を選択します。
3. 選択したプロファイルの削除を確認するプロンプトから、「確認」をクリックします。
4. プロファイルの削除確認で、「OK」をクリックします。

# データのクリア

シナリオ、年および期間、または期間範囲から選択したエンティティのデータをクリアできます。ロックされているエンティティのデータはクリアできません。

データをクリアするには、そのデータへの書込みアクセス権があるサービス管理者である必要があります。

クリアできるのは、次のタイプのデータです。

- 標準データ(仕訳を含む)
- オーバーライド・データ—履歴レート・オーバーライド勘定から「Override Rates」フォームに入力されたレートおよび金額
- レート・データ—グローバル通貨レートのデータ

クリア・プロセス後、エンティティの計算ステータスは「影響」に変わります。連結を実行して値を更新する必要があります。子のデータをクリアすると、親エンティティのステータスも「変更済」に変わります。「データなし」のエンティティは、クリア・プロセスの一環に含まれません。

## メンバーの選択

シナリオ、年、期間、エンティティおよびデータ・ソースのメンバーを選択する必要があります。

オプションで、勘定科目、増減、会社間、複数 GAAP およびカスタム・ディメンションのメンバーを選択できます。これらのディメンションのメンバーを選択しない場合は、レベル 0 のすべてのメンバーが含まれます。

「メンバー選択」では、代替変数とユーザー変数を使用することもできます。

これらのディメンションで次のメンバーは固定なので、データのクリア・プロセスで選択することはできません。

- ビュー - 期別
- 通貨 - エンティティ 通貨
- 連結 - エンティティ 入力

## データ・ソース・メンバー

仕訳詳細のあるデータをクリアするには、データ・ソースのメンバーとして仕訳入力を選択します。転記済の仕訳の転記が戻され、データ・セル値がクリアされます。サポートする未転記の仕訳は削除されません。未転記の仕訳を後から削除する場合は、手動で削除できます。



データ・ソースの補足データ・メンバーを選択すると、「補足データ」フォームから転記されたデータは「転記の戻し済」ステータスに戻されます。

シード済データ・ソース・メンバー FCCS\_No Data Source にはカスタム値に加えてシステム値が保管されるため、データ・ブロックはデータのクリア・プロセスの一部としてクリアされません。データ・ソース・メンバーとして「FCCS\_No Data Source」を選択した場合、「FCCS\_No Data Source」を含むデータのクリア交差が実行された後、指定したシナリオ、年、および期間に対して ClearEmptyBlocks ルールも実行することをお勧めします。

### データのクリア・プロファイル

データのクリア・プロセスのメンバーを選択した後に、メンバーをデータのクリア・プロファイルとして保存できます。これにより、データのクリア・プロセスの情報を後で取得でき、メンバーを再度選択する必要はありません。[データのクリア・プロファイルの使用](#)を参照してください。

データをクリアするには、次の手順に従います。

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします
2. 「**概要**」をクリックし、「**アクション**」から「**データのクリア**」を選択します。
3. クリアするアイテムを選択します。
  - **標準データ**
  - **オーバーライド・データ**
  - **レート・データ**
4. 「**ターゲット**」では、データをクリアするメンバーを選択して「**OK**」をクリックします。
5. 「**実行**」をクリックしてデータのクリア・タスクを発行し、プロンプトが表示されたら「**はい**」をクリックして続行します。

データのクリア・タスクが発行されたというメッセージが表示されます。タスク・ステータスはジョブ・コンソールでモニターできます。「アプリケーション」ページで「**ジョブ**」をクリックしてジョブを選択すると、詳細が表示されます。

## データのクリア・プロファイルの使用

データのクリア・プロセスのメンバーを選択した後に、メンバーをデータのクリア・プロファイルとして保存できます。これにより、データのクリア・プロセスの情報を後で取得でき、メンバーを再度選択する必要はありません。

「データのクリア」を選択すると、保存したプロファイルのリストが表示されます。プロファイルを選択してデータのクリア・プロセスを実行したり、プロファイルを編集して保存したり、変更済のプロファイルとして保存することができます。既存のプロファイルを複製したり、不要になったプロファイルを削除できます。

### データのクリア・プロファイルの作成

データのクリア・プロファイルを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**概要**」をクリックし、「**アクション**」から「**データのクリア**」を選択します。
3. クリアするアイテムを選択します。
4. 「**保存**」をクリックします。



5. 「**クリア・プロファイルの保存**」から、プロファイルの**名前**および**説明**を入力し、「**保存**」をクリックします。  
名前は、30文字までの一意の名前である必要があります。説明は128文字まで入力できます。
6. 保存確認のメッセージで、「**OK**」をクリックします。  
「データのクリア・プロファイル」リストにプロファイルが表示されます。

#### データのクリア・プロファイルの編集

データのクリア・プロファイルを編集するには:

1. 「データのクリア・プロファイル」リストから、プロファイルを選択して開きます。
2. 必要に応じて選択内容を編集します。
3. 「**保存**」をクリックします。  
プロファイルを同じ名前で保存するか、必要に応じて名前を変更できます。
4. 「**名前を付けて保存**」をクリックして、変更したプロファイルを新規プロファイルとして保存し、名前と説明を入力します。

#### データのクリア・プロファイルの複製

1. 「データのクリア・プロファイル」リストから、プロファイルを選択します。
2. 「**アクション**」メニューから、「**複製**」を選択します。  
複製したプロファイルは、接尾辞「**\_Copy**」が付いて「データのクリア・プロファイル」リストに表示されます。たとえば、**HQ** プロファイルを複製した場合、複製したプロファイルは **HQ\_Copy** という名前になります。

#### データのクリア・プロファイルの削除

データのクリア・プロファイルを削除するには:

1. 「データのクリア・プロファイル」リストから、プロファイルを選択します。
2. 「**アクション**」メニューから、「**削除**」を選択します。
3. 選択したプロファイルの削除を確認するプロンプトから、「**確認**」をクリックします。
4. プロファイルの削除確認で、「**OK**」をクリックします。

## データベースのリフレッシュ

「**アプリケーション**」ページで、アプリケーションのデータを保管するために使用されるアプリケーション・データベースをリフレッシュできます。データベースはディメンション、階層メンバー、属性およびアプリケーションで指定される他のデータに基づいて構成されます。

アプリケーションの構造を変更した場合、アプリケーション・データベースを必ずリフレッシュしてください。アプリケーションのデータベースをリフレッシュするまで、アプリケーションの変更がユーザーによるデータの入力および承認タスクに影響を与えることはありません。たとえば、エンティティ・メンバーのプロパティ修正、シナリオの追加またはアクセス権限の変更が行われた場合、これらの変更はアプリケ

ーション・データベースがリフレッシュされるまでリレーショナル・データベースに保管されます。

データベースをリフレッシュする前に、リフレッシュ・プロセス中にすべてのユーザーがメンテナンス・モードでアプリケーションを使用できるようにするか、現在の管理者のみが使用できるようにするかを選択できます。すべてのユーザーをログオフすることや、アクティブなアプリケーション要求を終了することもできます。データベースのリフレッシュ後に、ユーザーがアプリケーションを使用できるようにすることが可能です。

### ▲ 注意:

リフレッシュする前に、すべてのデータベースのアウトライン・ファイルおよびエクスポート・データをバックアップすることをお勧めします。

**ノート:** 密ディメンションに変更がある場合は、データベースのリフレッシュに時間がかかる可能性があります。密の再構築は、密ディメンション(たとえば、勘定科目、期間と増減)が変更され、データベース・リフレッシュが実行されたときに発生します。データベース・リフレッシュには長時間かかる可能性があるため、メタデータに対する変更があった場合は、数時間後にデータベース・リフレッシュを実行するのがベスト・プラクティスです。

データベース・リフレッシュのパフォーマンスの改善のために、OLURatesLoad 代替変数が自動的に有効になっています。アプリケーション内のシナリオ、通貨、レート勘定科目が多くなるほど、改善点も顕著になります。

デフォルトでは、パフォーマンスの向上のために、メタデータのロードに起因する変更が認識され、メタデータの変更に基づいてデータベースのリフレッシュに必要なアクションのみが実行されます。この動作を無効にし、メタデータの変更に関係なくすべてのプロセスが実行されるようにする場合は、DeltaDBRefresh という名前の代替変数を追加し、値を **False** に設定します。

- エンティティ構造に変更がなかった場合、「出資比率の管理」画面で**出資比率の再計算**を実行する必要はありません。出資比率の再計算は、エンティティ構造が変更された場合にのみ必要であり、各月のバージョン更新中にデータベース・リフレッシュが実行された後には必要ありません。
- エンティティ構造およびエンティティ通貨プロパティに変更がなかった場合は、レート・データをレート・キューブまたは補足データ・マネージャにプッシュする必要がないため、関連するルール"RefreshDataBase\_PostProcess\_Rates"および"RefreshDataBase\_SDMCurrencyRates"はスキップされます。ジョブ・ログをチェックして、これらのルールが実行されたかどうかを確認できます。

トラブルシューティングのサポートは、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* オペレーション・ガイドの**データベース更新の問題のトラブルシューティング**を参照してください。

データベースをリフレッシュするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**概要**」をクリックして、「**アクション**」から「**データベースのリフレッシュ**」を選択します。
3. 「**データベースのリフレッシュ**」ページで、「**作成**」をクリックします。
4. 「**データベースのリフレッシュ前**」の選択を行います。

- **アプリケーションを使用可能にする** - リフレッシュ中に、**すべてのユーザー**または**管理者**(現在ログインしている管理者)がメンテナンス・モードでアプリケーションにアクセスできるようにします。
  - **すべてのユーザーのログオフ** - リフレッシュを開始する前にすべてのユーザーをログオフします
  - **すべてのアクティブな要求の停止** - リフレッシュを開始する前にアプリケーションでアクティブな要求を終了します。
5. 「データベースのリフレッシュ後」の選択を行います。
- **アプリケーションを使用可能にする対象**: リフレッシュ後に、**すべてのユーザー**または**管理者**がアプリケーションを使用できるようにします
  - **メタデータの検証**: デフォルトでは、このオプションは選択されていません。このオプションを選択すると、ビジネス・プロセスと Oracle Essbase の間にメンバー・アイデンティティ (ID)の不一致がないかスキャンされ、不一致はリフレッシュ・プロセスの後に自動的に解決されます。「**メタデータの検証**」を選択すると、リフレッシュ・プロセスにさらに時間がかかることがあります。データベース・リフレッシュ・プロセス中のメタデータの検証の詳細は、[メタデータの検証](#)を参照してください。
- 「**メタデータの検証**」オプションは、ハイブリッド・ブロック・ストレージ・オプション(BSO)キューブをサポートする Oracle Essbase バージョンで実行されている、ストレージ・オプションとして「ハイブリッド BSO」、「ASO」および「BSO」が選択されたキューブでのみ使用可能です。このオプションは、ハイブリッド BSO キューブをサポートしていないレガシー Essbase バージョンで実行されているキューブには使用できません。
6. オプションを選択します。
- すぐにデータベースをリフレッシュするには、「**データベースのリフレッシュ**」をクリックし、確認メッセージを確認して、「**リフレッシュ**」をクリックします。
  - データベースのリフレッシュ・ジョブをスケジュールするには、「**ジョブとして保存**」をクリックして、ジョブの名前を指定し、「**保存**」をクリックします。

 **ノート:**

反復するデータベースのリフレッシュ・ジョブをスケジュールする場合、選択するリフレッシュ・ジョブ・オプションはジョブを実行するたびに適用できます。選択内容を編集するには、「ジョブ」コンソールでジョブの名前をクリックしてから、「**保存**」.をクリックします

## キューブの再構築

「キューブの再構築」ジョブを実行して、ブロック・ストレージ・キューブの完全な再構築を実行し、断片化を解消または減少できます。これにより、空のブロックも削除されます。

この機能は、集約ストレージ・キューブ(ASO)には適用できません。

 **ノート:**

このジョブは、アプリケーションのメンテナンス中には実行しないでください。また、「キューブの再構築」ジョブの実行中には、連結プロセスを起動しないでください。

この操作を実行する時:

- ユーザーはログアウトするように要求されます。
- アプリケーションを手動でメンテナンス・モードに設定する必要があります。
- 「キューブの再構築」ジョブの実行後に、メンテナンス・モードを手動でオフにする必要があります。
- アプリケーションが使用可能であることがユーザーに通知されます。

### 「キューブの再構築」ジョブの実行

キューブを再構築するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**ジョブ**」をクリックします。
3. 「**ジョブのスケジュール**」をクリックします。
4. 「**キューブの再構築**」を選択し、「**今すぐ実行**」を選択して「**次**」をクリックします。
5. ジョブを実行する時期を選択します。
  - **今すぐ実行**
  - **スケジュール開始日:** 日付、時刻およびタイム・ゾーンを選択します。
6. ジョブの**名前**を入力します。
7. 「**繰り返しパターン**」でジョブを実行する頻度を選択し、オプションで「**終了日**」を選択します。
8. 「**次**」をクリックして続行します。
9. ドロップダウン・リストから「**キューブ**」を選択して「**次**」をクリックします。
10. 選択内容を確認して、「**終了**」をクリックします。

再構築ジョブが「ジョブ」ページに送信されます。ページを定期的に取りフレッシュして、ジョブが完了したことを確認してください。

### キューブを再構築するタイミングの決定

キューブを再構築するタイミングを決定するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**連結**」をクリックします。
2. 「連結プロセス」ページから、「財務計算」など、ユーザーが編集可能なルールをクリックします。

ユーザーが編集可能なルールは、「ユーザー」アイコン付きで示されます。ルールをクリックすると、ブラウザの別のタブで **Calculation Manager** が起動します。

3. Calculation Manager で「データベース・プロパティ」 ツールバー・ボタンをクリックします。
4. 「データベース・プロパティ」 から、「Planning」 フォルダを展開してアプリケーション名を選択し、アプリケーションのデータベースが実行中かどうかを確認します。データベースに赤いボックスが付いていない必要があります。
5. 連結データベースをクリックし、「統計」 タブに移動します。
6. 「平均クラスター率」 プロパティを確認します。
  - 値が 1 に近い場合(1 が最小)、キューブを再構築する必要はありません。
  - 値が 1 に近くない場合(たとえば、0.0132828)、キューブを再構築する必要があります。

## アプリケーションの削除

アプリケーションを削除すると、アプリケーションとそのすべてのコンテンツが削除されます。アプリケーションに対してスケジュールされたジョブも削除されます。このアクションは元に戻せません。ベスト・プラクティスとして、最初にアプリケーションをバックアップしてください。

アプリケーションを削除するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」 をクリックします。
2. 「概要」 をクリックして、「アクション」 から「アプリケーションの削除」 を選択します。
3. 確認メッセージを確認します。続行するには、「はい」 をクリックします。

## メンテナンスのスケジュール

Financial Consolidation and Close では、デフォルトでローカル時刻の午前 0 時に開始される日次メンテナンスが自動的に実行されます。夜間のメンテナンス・ウィンドウ中に、バックアップの実行、パッチの適用、アプリケーションのリサイクルなどが行われます。必要に応じて、日次メンテナンスを別の時刻に行うようにスケジュールできます。

日次メンテナンス中に、サービスによってデータとアーティファクトのバックアップ・スナップショットが自動的に作成されます。日次メンテナンスが実行されると、前のバックアップ・スナップショットが新しいバックアップ・スナップショットに置換されます。日次ベースで EPM 自動化ユーティリティの実行をスケジュールして、ローカル・コンピュータにバックアップ・スナップショットをダウンロードする必要があります。

日次メンテナンス操作および環境のメンテナンス開始時刻のスケジュールの詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*を参照してください。

スケジュール済ジョブによって自動バックアップが失敗するのを防ぐために、EPM Cloud では、日次メンテナンス・プロセスの実行中に特定のスケジュール済ジョブを開始することが禁止されています。

次のジョブを日次メンテナンス中に開始することはできません:

- データのインポート

- メタデータのインポート
- データのエクスポート
- メタデータのエクスポート
- データベースのリフレッシュ
- キューブのクリア
- キューブの再構築

システムによってジョブの開始が妨げられた場合、「ジョブの詳細」に理由が示されます。ジョブ・コンソールの電子メール通知を有効にしている場合は、ジョブが開始されなかったときに電子メール通知を受け取ります。日次メンテナンス・プロセス中に開始するようにスケジュールされたジョブがある場合は、日次メンテナンス・ウィンドウ外で開始するようにジョブを再スケジュールすることをお勧めします。[ジョブのスケジュール](#)を参照してください。

## 受信ボックス/送信ボックスの使用

受信ボックス/送信ボックスを使用すると、ファイルをサーバー/受信ボックスにアップロードし、ファイルをサーバーからローカル・コンピュータにダウンロードできます。また、受信ボックス/送信ボックス内に存在するファイルを表示し、ファイルを使用してインポートおよびエクスポート・ジョブをスケジュールできます。名前でフィルタし、リストをリフレッシュし、サーバーからファイルをアップロードできます。

受信ボックス/送信ボックス内のファイルを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**概要**」をクリックして、「**アクション**」から「**受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ**」を選択します。
3. **オプション:** ファイルのリストをフィルタするには、「**フィルタ**」をクリックして名前を入力し、「**適用**」をクリックします。
4. **オプション:** ファイルのリストをリフレッシュするには、「**リフレッシュ**」をクリックします。

ファイルをアップロードするには:

1. 「**アップロード**」をクリックします。
2. 「**ファイルのアップロード**」ボックスで、「**参照**」をクリックしてファイルを選択します。
3. **オプション:** 「**ファイルの上書き**」をクリックします。
4. 「**ファイルのアップロード**」をクリックします。

## アプリケーションに関する推奨事項の表示

サービス管理者は、アプリケーションを最適化する方法(構成タスクの実行、代替変数の有効化など)に関する推奨事項を表示できます。推奨事項リストには、優先度、カテゴリ、モジュール、アーティファクト、推奨事項の説明、および実装方法の手順が含まれます。推奨事項を CSV ファイルにエクスポートすることもできます。

推奨事項ページには、最新の推奨事項でデータベースを更新するためにバックグラウンドで実行されるジョブを作成する**システムの再スキャン**・オプションが用意されています。ジョ



ブ・コンソールで再スキャン・ジョブのステータスを確認した後、「リフレッシュ」をクリックして推奨事項ページのリストをリフレッシュできます。このページには、再スキャン・プロセスが最後に実行された日時を示すタイムスタンプも含まれます。

アプリケーションに関する推奨事項を表示するには:

1. 「アプリケーション」をクリックし、「推奨事項」を選択します。
2. 推奨事項の表示をクリックします。
3. 最新の推奨事項でデータベースを更新するには、システムの再スキャンをクリックします。  
再スキャンはジョブとして起動され、データの量によっては時間がかかる場合があります。「ジョブ」コンソールでステータスを参照できます。
4. 「リフレッシュ」をクリックして、推奨事項のリストをリフレッシュします。
5. オプション: 推奨事項メッセージを CSV ファイルにエクスポートするには、「エクスポート」をクリックし、「ファイルの保存」を選択して、「OK」をクリックします。ファイルの保存場所を選択し、「保存」をクリックします

### Calculation Manager のルール検証警告

Calculation Manager のルール・バリデータを使用して、Financial Consolidation and Close の構成可能な計算またはオンデマンド・ルールにおける潜在的なパフォーマンスの問題を特定できます。このバリデータによって、確認して実装できる警告および提案が推奨事項モジュールに表示されます。

警告は、デプロイ済のルールについてのみ表示されます。それぞれのルールについて、最大 300 の警告が表示されます。

「エクスポート」をクリックすると、すべての推奨事項をダウンロードできます。

「推奨事項」リストの「優先度」ステータスは、構成可能な計算(挿入ルール)については「高」で、オンデマンド・ルールについては「中」です。

Priority	Category	Module	Artifact	Recommendations	How to Implement
Medium	Performance	Configuration	Substitution Variable	To optimize consolidation performance, set EnablePelimNewLogic substitution variable to true.	Set EnablePelimNewLogic variable value = true and Cube = Consol. For more details <a href="#">click here</a>
Medium	Performance	Configuration	Substitution Variable	To optimize consolidation performance, set OptimizePelimCalculation substitution variable to true.	Set OptimizePelimCalculation variable value = true and Cube = Consol. For more details <a href="#">click here</a>
High	Performance	Rules	FCFS_20_Final Calculations_Lo calCurrency	Showing 300 warning out of 1560. Line 257: Use @CALCMODE(BOTTOMUP) for member block "FCFS_No Data Source". Line 262: Disable hybrid...	For more details <a href="#">click here</a>
High	Performance	Rules	FCFS_40_Final Calculations_Tra nslated	Showing 8 warning out of 8. Line 6: Use @CALCMODE(BOTTOMUP) for member block "FCFS_Mvmts_FX_Opening". Line 6: Use sparse...	For more details <a href="#">click here</a>
Medium	Performance	Rules	II-1-6- Calculation of Tax Reporting	Showing 1 warning out of 1. Line 52: Use Account member "CT0060" as an anchor instead of Anchor member "No Custom2".	For more details <a href="#">click here</a>

#### Note:

Calculation Manager でルール検証警告を表示および解決するには、[計算スクリプトの検証警告の解決](#)を参照してください。

# アクティビティ・レポートとアクセス・ログの操作

## アクティビティ・レポートについて

アクティビティ・レポートは毎日自動的に生成され、これによってサービス管理者はアプリケーションの使用状況を把握できます。アプリケーションのパフォーマンスに影響を与える計算スクリプトおよびユーザー要求を特定し、アプリケーションの設計を合理化することにも役立ちます。さらに、レポートを使用してサービスの使用状況とパフォーマンスを過去のレポートと比較できます。このレポートに含まれる情報には、次のようなものがあります。

- サービスにアクセスしたユーザーの数。  
 特定日のユーザー数に対する平均使用期間に加え、レポートでは過去 1 週間、過去 7 日間、過去 30 日間にログインした 1 日あたりのユーザー数も表示されます。
- 完了に 10 秒以上かかった UI 要求の比率と、完了に時間がかかった要求の上位 7 位  
 UI 要求とは、サインイン、データのロード、フォームの操作、ルールの検証などのユーザー・アクションです。低パフォーマンス下位 30 位のセクションでは、ユーザー、アクションの期間、そのユーザーが実行したアクティビティ、およびユーザーが表示した画面が示されます。
- 実行別のユーザー・インタフェース上位 15 位
- 時間別の平均サービス応答時間と、試用期間別のユーザー数
- 期間別のアクティブなユーザーと非アクティブなユーザー上位 10 位
- 1 分以上かかったパフォーマンスの低い計算スクリプト・コマンドの下位 5 位
- 時間別の計算スクリプト上位 10 位  
 この表では、実行に最も長く時間のかかったビジネス・ルールが示されます。使用可能な情報には、計算スクリプトの名前、スクリプトの実行回数および期間などがあります。
- サポート対象外のブラウザのバージョンと、それを使用したユーザーの数。
- サービスへのアクセスに使用されたブラウザのバージョンと、それを使用したユーザーの数。
- レポート期間に発生したアプリケーション設計の変更  
 このセクションには、アプリケーション設計変更の監査証跡が示されます(存在する場合)。アプリケーション名、変更された設計アーティファクトのタイプと名前、アーティファクトを変更したいユーザーの ID、および変更の日時などの情報があります。データの変更は、この表には反映されません。
- 使用されている Oracle Smart View for Office のバージョンと、それを使用したユーザーの数
- 最新バージョンの Smart View を使用していない、最もアクティブな Smart View ユーザー上位 10 位

### ノート:

アプリケーション・アクティビティ・レポートでは、管理者のタイム・ゾーン(メンテナンス・ウィンドウ画面で設定)を使用します。



## アクセス・ログについて

サービスにアクセスした IP アドレスとそのアクティビティの詳細が含まれたカンマ区切り値(CSV)ファイルをダウンロードできます。アクセス・ログは毎日生成されます。アクセス・ログに含まれる情報には、日時、ユーザーがアクセスしたリソース、ユーザー・アクティビティの長さ、ユーザーがサービスに接続した IP アドレス、およびユーザーがサービスで実行したアクションなどがあります。

## アクティビティ・レポートとアクセス・ログの保持ポリシー

アクティビティ・レポートとアクセス・ログは、過去 60 日間分のみ保持されます。監査用に必要な場合は、downloadfile コマンドを使用して、送信ボックスからローカル・コンピュータにアクティビティ・レポートおよびアクセス・ログをダウンロードします。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作のコマンド・リファレンス](#)を参照してください。

アクティビティ・レポートの表示およびアクセス・ログのダウンロードを行うには:

1. サービスにアクセスします。
2. 「アプリケーション」、「概要」、「アクティビティ・レポート」の順にクリックします。
3. アクションを行います:
  - アクティビティ・レポートを開くには、表示するレポートの日付を示す行の「アクティビティ・レポート」の下の「表示」をクリックします
  - アクセス・ログをダウンロードするには、ダウンロードするログの日付を示す行の「アクセス・ログ」の下の「ダウンロード」をクリックします。

# 6

## アプリケーションおよびシステム設定の管理

### 次も参照:

- [アプリケーション設定の指定](#)
- [Enterprise Performance Management Cloud デプロイメントでのフォントのアップロード](#)  
会社がレポートの作成に使用する TrueType フォントは、レポート・デザイナーでアップロードすることをお勧めします。複数の TrueType フォントが含まれる個別のフォント・ファイルまたは ZIP ファイルを、「**アプリケーション設定**」を使用して「**フォント**」フォルダにアップロードできます。
- [デフォルトの別名表の指定と、メンバーおよび別名の表示オプションの設定](#)
- [数値のフォーマット・プリファレンスの指定](#)
- [ユーザー変数の定義](#)
- [アプリケーションの外観のカスタマイズ](#)
- [お知らせの作成](#)
- [アーティファクト・ラベルの指定](#)
- [アーティファクト・ラベル・グリッドの操作](#)
- [言語の追加とローカライズされたアーティファクト・ラベルの定義](#)
- [編集するアーティファクト・ラベルのエクスポートとインポート](#)
- [アーティファクトの確認](#)
- [代替変数の操作](#)

## アプリケーション設定の指定

次のようなアプリケーションおよびシステムの様々な側面を制御できます。

- 千の位、小数点および負数をフォームで表示する方法
- ユーザーが不在の場合に実行する必要があるアクションの承認
- 通知を受けるアクション
- ユーザー ID ではなくユーザーのフル・ネームの表示

 **ノート:**

管理者は、現在のアプリケーションのデフォルトを指定します。ただし、ユーザーはプロフィール写真やアプリケーションでの数値の表示方法など、アプリケーションの様々な側面を制御するプリファレンスを設定することで、これらのアプリケーションのデフォルトをオーバーライドできます。

ユーザー・プリファレンスを設定するには、*Oracle Financial Consolidation and Close Cloud* の操作の**プリファレンスの設定**に関する項を参照してください。

1. 「**アプリケーション**」、「**設定**」の順にクリックします。
2. 現在のアプリケーションのデフォルトを指定します。
3. システム設定を指定します。設定の詳細は、以下のシステム設定の表を参照してください。
4. 「**保存**」をクリックします。

**表 6-1 アプリケーション設定**

アプリケーション設定	説明
別名設定	オプションの詳細は、 <a href="#">デフォルトの別名表の指定と、メンバーおよび別名の表示オプションの設定</a> を参照してください。
数値のフォーマット	オプションの詳細は、 <a href="#">数値のフォーマット・プリファレンスの指定</a> を参照してください。
承認	別名を表示するか、開始されていない承認ユニットを表示するか、承認通知で別名として承認ユニットを表示するかどうかを選択します。
通知	<p>タスク・リスト、承認およびジョブ・コンソールで通知を有効化します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>タスク・リスト</b> - タスク・リストのアクションを実行する必要がある場合に電子メール通知を受け取るには、このオプションを選択します。</li> <li>• <b>承認</b> - 承認のアクションを実行する必要がある場合に電子メール通知を受け取るには、このオプションを選択します。</li> <li>• <b>ジョブ・コンソール</b> - 自分が開始したジョブが完了するかエラーが発生した場合に電子メール通知を受け取るには、このオプションを選択します。</li> </ul> <p>タスク通知のタイプと頻度は、「ツール」の「<b>ユーザー・プリファレンス</b>」から指定できます。<i>Oracle Financial Consolidation and Close Cloud</i> の操作の<b>通知の電子メールの設定</b>に関する項を参照してください。</p>

表 6-1 (続き) アプリケーション設定

アプリケーション設定	説明
デジタル・アシスタント設定	<p>Oracle EPM Digital Assistant の構成設定を指定します。</p> <p><b>ノート:</b> これらの設定は、デジタル・アシスタントを使用できるようにするための大きな構成プロセスの一部です。デジタル・アシスタントを使用する前に、構成手順を完了する必要があります。<i>Oracle Cloud Enterprise Performance Management</i> デジタル・アシスタント・スタート・ガイドの <a href="#">EPM デジタル・アシスタントの実装(管理者)</a> を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>チャンネル ID</b> - デジタル・アシスタントの Oracle Web チャンネルを作成したときに生成されたチャンネル ID を入力します。</li> <li>• <b>サービス名</b> - デジタル・アシスタント URL を入力します。これは、サービスにログインしたときに表示される Oracle Digital Assistant サービス URL です。http://または https://を前に付けずに URL を入力します。</li> </ul>
ページ	<p>ページでのメンバーのインデントおよびページ・ドロップダウンのアイテム数の設定に対するデフォルトを設定します。</p> <p>「<b>ページ</b>」ドロップダウンの項目数」オプションを使用するとメンバー・リストを短くできるので、「<b>検索</b>」ボックスを容易に見つけられるようになることに注意します。たとえば、リストを 10 メンバーに減らすと、スクロールしなくても「<b>検索</b>」ボックスが見つかります。</p>

表 6-1 (続き) アプリケーション設定

アプリケーション設定	説明
その他オプション	<p>次に示すその他の構成オプションを設定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>日付フォーマット</b> - 日付フォーマットを選択するか、「<b>自動検出</b>」を選択してシステムのロケール設定を使用します。         </li> <li> <b>属性ディメンション日付フォーマット</b> - 属性ディメンションの日付フォーマットを選択します。         </li> <li> <b>部分グリッド・フェッチ・サイズ(行,列)</b> - フォームが大きく、開くのに長時間かかる場合、このオプションを使用してフォームの一部を開きます。開く行および列の数をカンマ(,)区切りで入力します。行と列の数を nn,nn の形式で入力します。         </li> <li> <b>Smart View でアプリケーション管理オプションを抑制</b> - 新しいアプリケーションが作成されると、デフォルトですべてのアプリケーション管理オプションが Smart View で管理者に表示されます。アプリケーション管理オプションを非表示にするか表示するかを選択できます。「<b>はい</b>」を選択すると、アプリケーション・オプションは Smart View に表示されません。「<b>いいえ</b>」を選択すると、アプリケーション・オプションが Smart View に表示されます。         </li> <li> <b>アド・ホック読取り専用役割のデータ・ロードの有効化</b> - デフォルトは「<b>いいえ</b>」です。アド・ホック読取り専用役割を持つユーザーのデータ・ロードを有効にするには、「<b>はい</b>」を選択します。         </li> <li> <b>連結ルール・ロギングの有効化</b> — 連結ルールのロギングを有効にする場合に選択します。         </li> <li> <b>ルールがバックグラウンドで実行されるまでの秒数の設定</b> — 0 から 600 までの値を入力します。         </li> </ul>

 **ノート:**

フォームがロードまたは保存されたときに自動的に実行されるよう設定されたルールはバックグラウンドで実行されません。

- クライアント・ログ・レベル:** 接続したデータ・ソースからのエラー・メッセージ、警告メッセージおよび情報メッセージはすべて発生時に表示されますが、どのメッセージ・レベルのものをブラウザ・コンソールのログ・ファイルに記録するかを選択できます。この設定は、Oracle JET テクノ

表 6-1 (続き) アプリケーション設定

アプリケーション設定	説明
	<p>ロジを使用する Web インタフェースでのみ使用できます。表示および記録するメッセージ・レベルの選択:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 「なし」: すべてのメッセージを抑制します。</li> <li>- 「情報」: 警告およびエラーを含む、すべてのメッセージ — 問題を診断する際に推奨。パフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。</li> <li>- 「警告」: 警告レベルおよびエラー・レベルのメッセージ。パフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。</li> <li>- 「エラー」: エラー・メッセージのみ — 一般的な使用に推奨。パフォーマンスへの影響が最小になります。</li> <li>- 「一般」: 情報レベルのメッセージとすべてのサーバー・レスポンスおよびリクエスト。パフォーマンスに悪影響を与えます。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>アド・ホックのユーザー式の有効化:</b> 「はい」を選択した場合、アド・ホック・グリッドで、メンバー式が添付されたセルにカーソルを置くと、セルに関連付けられているメンバー式が表示され、変更をデータベースに送信することなく、計算をオンザフライで実行できます。</li> <li>• <b>計算の累計表示の無効化</b> — デフォルトは「いいえ」です。計算の累計表示を無効にするには、「はい」を選択します。 このオプションは、拡張ディメンションを使用するアプリケーションにのみ使用できます。 パフォーマンスを向上するために、データ・ロードおよび他のプロセスでは計算の累計表示を無効にできます。 オプションが「はい」に設定されている場合、次のプロセスからデータが保存された後に計算の累計表示(YTD、HYTD、QTD)は計算されません: データ・ロード、データ管理ロード、フォーム・データ変更、Smart View データ変更、仕訳の転記、補足データの転記。連結プロセスを実行した後に、累計データが作成され、対応するメンバーに保存されて取得されます(FCCS_YTD、FCCS_QTD、FCCS_HYTD)。 最初の連結なしで累計データを表示する場合は、ビュー・ディメンションの適用可能な動的計算システム・メンバーからデータを取得できます(FCCS_YTD_RULE、FCCS_QTD_RULE、FCCS_HYTD_RULE など)。 オプションが「いいえ」に設定されている場合は、適用可能なすべてのビュー・メン</li> </ul>

表 6-1 (続き) アプリケーション設定

アプリケーション設定	説明
	<p>バーについて計算が自動的に実行されま す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「セグメント」ドロップダウンでの除外メン バーのフィルタ処理 — デフォルトは 「はい」です。フォームの行ドロップダウ ン POV に除外メンバーを表示するには、 「いいえ」を選択します。</li> <li>• フォーム・バージョン: フォーム・バージ ョンを指定します。既存のアプリケーシ ョンについては、デフォルトは「フォーム 1.0」です。「フォーム 2.0」の有効化は、 レッドウッド・エクスペリエンスが有効に なっている場合にのみサポートされます。 新しく作成されたアプリケーションのデ フォルトは「フォーム 2.0」になります。</li> </ul>

表 6-2 システム設定

システム設定	説明
ユーザーのフル・ネームの表示	<p>選択すると、ユーザーのフル・ネームが表示さ れます(Max Hennings など)。クリアすると、 ユーザーの ID が表示されます(MHennings な ど)。</p>
キューブのリフレッシュに共有メンバーを含 める	<p>選択すると、共有メンバーが基本メンバーに割 り当てられたセキュリティ・アクセスを継承し ます。</p> <p>選択を解除すると、共有メンバーは、基本メン バーと共有メンバーの親に割り当てられてい るアクセスの組合せに基づいて、最大のセキュ リティ・アクセスを継承します。</p>
電子メールの文字セット	<p>「UTF-8 エンコード」または「地域設定」を選 択します。</p>
ビジネス・ルール通知	<p>「はい」に設定されている場合、(Calculation Manager で通知に対して有効な)ルールが完 了するか、エラーが発生した場合にユーザーま たはグループに通知します。「ユーザーに通知」 で、通知するユーザーまたはグループを選択し ます。</p> <p>これらのルールは、Calculation Manager で実 行/起動します。連結および換算ルールはシス テム・ルールであるため、それらについて電子 メール通知を有効にすることはできません。</p>

表 6-2 (続き) システム設定

システム設定	説明
<b>アド・ホックでの共有メンバーに対するドリルダウンを許可</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「はい」では、アド・ホック・グリッドで共有メンバーに対するドリルダウンが許可されます。</li> <li>• 「はい」に設定すると、「ベースのすべてのレベルにドリル」チェック・ボックスが表示されます。</li> <li>• このオプションが「はい」に設定されている場合、ブロックの抑制はサポートされないことに注意してください。ブロックの抑制を無効にするには:             <ul style="list-style-type: none"> <li>– Oracle Smart View for Office の「オプション」、「データ・オプション」で、「欠落ブロックの抑制」を無効にします。</li> <li>– Web の「プリファレンス」、「アド・ホック・オプション」で、「行で欠落しているブロック」を無効にします。</li> </ul> </li> <li>• 「いいえ」を選択すると、アド・ホック・グリッドでの共有メンバーに対するドリルダウンは無効になります。</li> </ul>
<b>ベースのすべてのレベルにドリル</b>	<p>アド・ホック・グリッド・ユーザーが共有メンバーから基本階層内のすべてのレベルにドリル・ダウン(またはズーム・イン)することを許可します。このチェック・ボックス・オプションは、標準モードのアプリケーションにのみ適用されます。</p> <p>「ベースのすべてのレベルにドリル」チェック・ボックスは、「アド・ホックでの共有メンバーに対するドリルダウンを許可」を「はい」に設定した場合に表示されます。</p> <p>共有メンバーは、多くの場合、その基本階層の親メンバーです。「ベースのすべてのレベルにドリル」チェック・ボックスを選択すると、ユーザーは、ズーム・オプション「すべてのレベル」または「最下位レベル」を使用して、共有メンバーから基本階層にドリルダウンできません。</p> <p>「ベースのすべてのレベルにドリル」チェック・ボックスの選択が解除されている場合、ユーザーは「次のレベル」ズーム・オプションを使用して、基本階層の様々なレベルに一度に 1 レベルずつズーム・インできます。</p> <p>共有メンバーへの複数セルのズーム・インはサポートされていません。</p>




表 6-2 (続き) システム設定

システム設定	説明
承認プロセスの電子メールの最小化	承認の使用時にユーザーが受信する電子メールの数を減らします。デフォルトは「いいえ」です。  「はい」を選択すると、プランニング・ユニットの新しい所有者にメール通知(承認された親エンティティに関する)が 1 通だけ送信されます。プランニング・ユニット階層のすべての子エンティティに個別の電子メール通知が送信されるわけではありません。「いいえ」を選択すると、親ノードで設定されている所有者が、選択したノードについてのメールも、子ノードについてのメールも受信します。
アプリケーションを使用可能にする	バックアップ中などの管理モードのときに、ユーザーがアプリケーションにアクセスできるかどうかを判別します。「管理者」を選択すると、非管理者ユーザーがアプリケーションにログオンしている場合、ユーザーは強制的にシステムからログオフされ、ログオンできなくなります。すべてのユーザーに対してアプリケーションへのアクセスを復元するには、「すべてのユーザー」を選択します。
アプリケーションの所有者の割当	アプリケーションの所有権を別のサービス管理者に割り当てます。  アプリケーションの所有権の詳細は、 <a href="#">アプリケーションの所有者の割当</a> を参照してください。
代替変数の表示を使用可能にする	ユーザーが、ビジネス・ルールで実行時プロンプトへの応答時に「メンバー選択」ダイアログ・ボックスに代替変数をどう表示させるかを次のように設定します。「すべて表示」を選択すると、すべての代替変数が表示されます。「何も表示しない」を選択すると、代替変数は表示されません。「フィルタの使用可能」を選択すると、実行時プロンプトに有効な代替変数のみが表示されます。
抑制モード	行と列にデータの欠落やゼロがある場合の Web および Smart View におけるアド・ホック・グリッドの抑制動作を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>欠落した値のみを抑制(デフォルト) - データなし/欠落を含む行または列、あるいはその両方を抑制します。</li> <li>欠落を抑制したらゼロも抑制 - データなし/欠落とゼロの両方を含む行または列、あるいはその両方を抑制します。</li> </ul>

表 6-2 (続き) システム設定

システム設定	説明
Smart View アド・ホック動作	<p>すべての新規および再作成アプリケーションは、自動的に「標準」に設定されます。</p> <p>既存および移行済アプリケーションの場合、Smart View で拡張アド・ホックの機能および動作を有効にするかどうかを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ネイティブ</b>(デフォルト) - 拡張アド・ホック機能を有効化しません。 すべての Smart View リリースでサポートされます。</li> <li>• <b>標準</b> - 拡張アド・ホック機能を有効にします。 リリース 11.1.2.5.900 以降の Smart View でサポートされます。</li> </ul> <p>標準モードで使用可能な拡張アド・ホック機能の詳細は、<a href="#">Oracle Smart View for Office の使用の EPM Cloud での Smart View の動作オプション</a>を参照してください。</p>
リフレッシュ時にすべての別名表を使用	<p>アド・ホック・グリッドに入力された別名が、現在選択されている別名表を使用して評価されるか、すべての別名表に対して評価されるかを指定します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>はい</b>: 入力、すべての別名表およびすべてのメンバー名に対して評価されます。</li> <li>• <b>いいえ</b>: 入力、現在選択されている別名表およびすべてのメンバー名に対して評価されます。これがデフォルトの設定です。</li> </ul> <p>システムが入力を有効なメンバー名または別名として識別できない場合、入力はコメントとして表示されます。</p>
日次メンテナンス時に増分データ・インポートのために EPM Cloud スマート・リストのテキスト・データをエクスポート	<p>日次メンテナンス・プロセス中に完全なエクスポートを実行するか、アプリケーション・バックアップを作成するかを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>はい</b> - 完全なエクスポートを実行することで、<b>Planning</b> スマート・リスト・データを含むデータをアプリケーションに増分的にインポートできます(このオプションではメンテナンス・プロセスの時間が長くなる可能性があります)</li> <li>• <b>いいえ</b>(デフォルト) - メンテナンス・プロセス時にアプリケーションのバックアップを作成することで、全面的な復元の一部としてデータを使用できます</li> </ul>

表 6-2 (続き) システム設定

システム設定	説明
デフォルトで勘定科目をリンク	<p>ブロック・ストレージ(入力)キューブの場合、デフォルトで勘定科目メンバーを XREF リンクするかどうかを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>はい(デフォルト)</b> - XREF は勘定科目メンバーで作成され、アプリケーションは以前のリリースと同じように機能します。</li> <li>• <b>いいえ</b> - 勘定科目メンバーの XREF は作成されず、これにより、アプリケーションのパフォーマンスが向上する場合があります。「いいえ」を選択すると、「<b>キューブのリフレッシュ</b>」を実行した後、勘定科目メンバーの既存の XREF はすべて削除され、非ソース・キューブではソース・キューブのデータが表示されなくなります。</li> </ul> <p>特定の勘定科目メンバーで HSP_LINK および HSP_NOLINK UDA を使用すると、その勘定科目メンバーの XREF 設定がオーバーライドされることに注意します。たとえば、このオプションが「<b>いいえ</b>」に設定され、@XREF 関数を使用して、別のキューブのデータ値を検索し、現在のキューブから値を計算する場合、HSP_LINK UDA をそのようなメンバーに追加して、この特定のメンバーに対してのみ@XREF 関数を作成できます。このオプションが「<b>はい</b>」に設定されている場合、HSP_NOLINK は以前のリリースと同じように機能し、特定のメンバーで XREF が作成されないようにします。</p>
属性ディメンション並替えしきい値	<p>0 から 500 までのしきい値を入力します(500 がデフォルト値です)。</p> <p>属性ディメンションについては、特定の親の下のメンバー数が、指定したしきい値を超えると、メタデータのロード中ではなく、ロードの終了時にメンバーが並べ替えられます。属性ディメンションの特定の形状によっては、この数値を調整すると、パフォーマンスに影響が生じることがあります。一般に、属性ディメンションのロード時間が許容可能なレベルを下回らないかぎり、この設定は無視できます。</p>
レポート・オプションの設定	<p>次世代のレポートのレポート・ソリューションを使用している場合は、この設定を使用して、レポートの作成に会社で使用している TrueType フォントをアップロードすることをお勧めします。</p> <p>TrueType フォントをアップロードするには、「<b>レポート設定</b>」、<b>フォントの管理</b>、の順にクリックして、アップロードするフォント・ファイルを選択します。</p> <p><i>Financial Consolidation and Close</i> の操作の「<b>Reports</b> ソリューションの操作」を参照してください。</p>


# Enterprise Performance Management Cloud デプロイメントでのフォントのアップロード

会社がレポートの作成に使用する TrueType フォントは、レポート・デザイナーでアップロードすることをお勧めします。複数の TrueType フォントが含まれる個別のフォント・ファイルまたは ZIP ファイルを、「アプリケーション設定」を使用して「フォント」フォルダにアップロードできます。

フォント・ファイルは TrueType フォントである必要があります、フォント・フォルダ構造にすでに存在するファイルはアップロードできません。重複するフォントをアップロードすると、フォント・ファイルが重複する(または無効な)ことを示すエラー・メッセージが表示されます。複数のフォントを zip ファイルでアップロードした場合は、他の有効なファイルすべてがロードされます。

フォントをアップロードするときには、フォント・ファミリー自体の一部である「標準」、「斜体」、「太字」、「太字斜体」フォントなどのバリエーションがあるかどうかを確認する必要があります。該当する場合、システム内で使用される標準フォント・ファイルをアップロードするのではなく、完全なフォント・ファミリーを zip ファイルとしてアップロードすることをお勧めします。

Enterprise Performance Management Cloud のデプロイメントにフォントをアップロードするには:

1. Oracle Enterprise Performance Management Cloud サービスから、「アプリケーション」、「設定」の順にクリックします。詳細は、[アプリケーション設定](#)を参照してください。
2. レポート・オプションを指定するには、[レポート・オプションの設定](#)から「レポート設定」をクリックします。
3. 「設定」ダイアログで、[フォントの管理](#)をクリックします。
4. 「フォント」ダイアログで、 をクリックし、「ファイルのアップロード」を選択します。
5. 「ファイルのアップロード」ダイアログで「参照」をクリックして、アップロードする TrueType フォントに移動し、「OK」をクリックします。

## ノート:

複数のフォントをアップロードする場合は、zip ファイルを作成します。

フォント・ファイルのサイズによっては、アップロードの実行に時間がかかる可能性があることに注意してください。

## デフォルトの別名表の指定と、メンバーおよび別名の表示オプションの設定

ディメンションおよびメンバーの別名が含まれた別名表を作成する場合、アプリケーションのデフォルトの別名表を選択できます。一連の別名(別名表に保管済)でプリファレンスを設定し、メンバーおよびディメンション名の表示に使用できます。

アプリケーションのデフォルトの別名表を選択するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**設定**」をクリックします。
3. 「**別名表**」から、デフォルトの別名表を選択します。
4. 「**メンバー名/別名の表示**」で、アプリケーション全体で「**メンバー・セレクトタ**」に表示されるメンバー・データのタイプを有効にするオプションを選択します。
  - **デフォルト** - フォーム、グリッドまたはディメンション設定によって決定されるデータ
  - **メンバー名** - メンバー名のみ
  - **別名** - メンバーの別名のみ(定義されている場合)
  - **メンバー名:別名** - 名前に続けて別名(定義されている場合)
  - **別名:メンバー名** - 別名(定義されている場合)に続けて名前
5. 「**保存**」をクリックします。

## 数値のフォーマット・プリファレンスの指定

フォームでの千の位、小数点および負数の表示方法など、数値のフォーマットを指定できます。選択した結果は、現在のアプリケーションでアクセス権のあるすべてのフォームのすべての通貨に適用されます。

次のオプションを設定できます。

- 3桁ごとの区切り文字
- 小数点
- 負数の表示(数値の前(先頭)または数値の後(末尾)にマイナス符号を付ける、数値をカッコで囲む、あるいは通貨設定を使用する)
- 負数の表示色

数値の表示フォーマットを変更するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**設定**」の順にクリックします。
2. 「**アプリケーション設定**」ページの「**数値のフォーマット**」で、フォーマット・オプションを選択します。

オプション	例
3 桁ごとの区切り文字	入力値には、3 桁ごとの区切り文字を付けることも省略することもできます。 なし: 1000 カンマ: 1,000 ドット: 1.000 スペース: 1 000 アンダースコア 1_000 通貨設定
小数点	入力値には小数点を付けることも省略することもできます。 ドット: 1000.00 カンマ: 1000,00 スペース: 1 000 アンダースコア 1_000 通貨設定
負数の符号	先頭のマイナス: -1000 末尾のマイナス: 1000- 括弧: (1000) 通貨設定
負数の色	黒: 負数は黒く表示されます 赤: 負数は赤で表示されます 通貨設定: 負数で通貨設定が使用されます。

3. 「保存」をクリックします。

 ノート:

フォーマットの選択項目は、セルの外をクリックすると効果が生じます。3 桁ごとの区切り文字または小数点で「アプリケーション・デフォルトを使用」以外の設定を選択する場合は、両方の区切り記号を変更する必要があります。3 桁ごとの区切り文字と小数点で同じオプションは選択できません。

## ユーザー変数の定義


ユーザー変数を設定し、フォームで表示されるメンバー数を制限することで、ユーザーが一定のメンバーに注目できるようになります。たとえば、エンティティ・ディメンションで **Division** という名前のユーザー変数を作成すると、ユーザーは自分の部門のメンバーを選択できます。

「ユーザー変数」ページには、アプリケーションに対して定義されたユーザー変数が、その名前およびディメンション・メンバーとともにリストされます。

ユーザー変数を設定するには、[ユーザー変数の操作](#)を参照してください。

ユーザー変数を表示するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」をクリックし、「変数」をクリックします。

2. 変更する変数の横にある「メンバー・セレクタ」 をクリックします。
3. 「メンバー選択」でメンバーを選択して、「保存」をクリックします。

## アプリケーションの外観のカスタマイズ

「外観」ページで、Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境の全般的なルック・アンド・フィールを変更できます。レッドウッド・エクスペリエンスを有効にすると、新しいアプリケーションのルック・アンド・フィールが提供されるだけでなく、動的タブなど、他のテーマでは使用できない特定の機能も含まれます。レッドウッド・エクスペリエンスを使用しない場合は、かわりに、様々な背景色、アイコン・スタイルなどを含む事前定義されたクラシック・テーマのリストから選択できます。ブランド・ロゴと背景イメージをホーム・ページに追加し、ビジネス・プロセス名を非表示にすることもできます。

### ノート:

「ユーザー・プリファレンス」でプロファイル・ピクチャを設定して、ホーム・ページの「お知らせ」パネルの上部に表示できます。「ツール」に続いて、「ユーザー・プリファレンス」をクリックします。

表示の外観をカスタマイズするには:

1. ホーム・ページで、「ツール」をクリックし、「外観」をクリックします。
2. 次のカスタマイズ・オプションから選択します:
  - **レッドウッド・エクスペリエンスの有効化** - 最新のユーザー・エクスペリエンスを体験し、レッドウッド・エクスペリエンスでのみ使用可能な機能を利用する場合に選択します。このオプションを無効にすると、「テーマ」オプションが表示されます。
  - **テーマ - 「レッドウッド・エクスペリエンスの有効化」** オプションをクリアした場合にのみ使用できます。事前定義されたクラシック・テーマのリストからオプションを選択します。
  - **ロゴ・イメージおよび背景イメージ** - 事前定義された Oracle ロゴおよびテーマベースの背景イメージを独自のイメージに置き換えます。「ファイル」を選択してローカルに保存されているカスタム・イメージ・ファイルを選択するか、「URL」を選択してカスタム・イメージの URL を選択します。サポートされているグラフィック形式は.jpg、.png または.gif であり、ファイル・アップロードは 5MB に制限されます。テーマベースのロゴおよび背景イメージを選択するには、「事前定義」を選択します。
  - **ビジネス・プロセス名の表示** - デフォルトでは、ビジネス・プロセス名はホーム・ページおよびブラウザのタブを開いたときのタブのロゴの横に表示されます。「いいえ」を選択すると、ビジネス・プロセス名はホーム・ページで非表示になり、ブラウザのタブに **Oracle Applications** が表示されます。次の点に注意してください。
    - 事前定義済テーマを編集することも、削除することも、カスタム・テーマを作成することもできません。

- ログおよび背景イメージの両方をカスタマイズできます。幅 125 ピクセルおよび高さ 25 ピクセルより小さいロゴ・イメージは、スケーリングなしで大きさが調整されます。大きいイメージ・ロゴの場合、そのイメージが歪みなしでスケーリングされるように、5:1 の比率を維持することをお勧めします。

背景イメージのデフォルト・サイズは、1024x768 です。これより大きな背景イメージを使用できますが、画面の解像度設定に適合するようにイメージがスケーリングされ、イメージが水平方向に中央揃えされます。背景イメージをブラウザとモバイル・デバイスの両方に適合させる場合、最大画面(または最高解像度のデバイス)に適合するようにイメージをサイズ調整することをお勧めします。

- カスタムの背景イメージを使用しているお客様は、新しいテーマに切り替えるとき、アイコンおよびラベルの色のコントラストが適切であることを確認する必要があります。解決するには、異なるテーマまたは適切な背景を選択することを検討してください。

3. 「保存」をクリックします。

## お知らせの作成

管理者は、システム・メンテナンスなどの将来のイベントについてのお知らせを作成し、ユーザーに通知できます。お知らせは、アプリケーションのホーム・ページの「お知らせ」領域に表示されます。

お知らせを作成するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」をクリックし、「お知らせ」をクリックします。
2. 「作成」をクリックします。
3. お知らせの情報を入力します。

**件名** - お知らせの目的

**開始日** - お知らせをいつ送信するか。

**終了日** - オプション。

**内容**. テキストを入力する前に、編集モード(リッチ・テキストまたはソース・コード)を選択する必要がある場合があります。

4. お知らせを保存するには、「保存して閉じる」をクリックします。

## アーティファクト・ラベルの指定

「ツール」クラスタの「アーティファクト・ラベル」ページを使用すると、管理者は、ユーザーのブラウザのロケールに基づいてアーティファクト・ラベル(アーティファクト名、説明など)をカスタマイズできます。

例をいくつか示します。

- ユーザーに表示しない暗号のような名前で作成する場合、ユーザーの言語で表示されるわかりやすい名前をフォームに定義できます。
- 次の例のように、ユーザーの言語でのみ表示される、アーティファクトに関する有用な指示を作成する場合:

"この式では、休職中の常勤従業員の数が計算されます。"



### 関連リンク

- [アーティファクト・ラベル・グリッドの操作](#)
- [言語の追加とローカライズされたアーティファクト・ラベルの定義](#)
- [編集するアーティファクト・ラベルのエクスポートとインポート](#)

## アーティファクト・ラベル・グリッドの操作

アーティファクト・ラベル・ページには、アーティファクトおよびプロパティ・タイプでフィルタされた Excel スタイルのスプレッドシート・グリッドが表示されます。


グリッドの行軸には、アーティファクトとそのプロパティが表示されます。

グリッドの列軸には、次の列が表示されます。

- **アーティファクト**-アーティファクトのタイプ(たとえば、タスク・リストやルール)
- **プロパティ**-アーティファクトのプロパティ・タイプ(たとえば、名前、説明など)
- **デフォルト**-アーティファクトの作成時に定義されたアーティファクト・ラベルが表示されます。

言語が追加されると、「**デフォルト**」列の右側に新しい列が表示されます。

アーティファクト・ラベル・グリッドを表示およびフィルタするには:

1. 「**ツール**」をクリックし、「**アーティファクト・ラベル**」をクリックします。
2. フィルタするには:
  - a.  をクリックし、操作するアーティファクトを選択します。一部のアーティファクトについては、プロパティ・タイプによってさらにフィルタできます。
  - b. 「**適用**」をクリックして「**フィルタ**」ウィンドウを閉じると、アーティファクト・タイプとプロパティ・タイプでフィルタされたアーティファクト・グリッドが表示されます。


## 言語の追加とローカライズされたアーティファクト・ラベルの定義

管理者は、サポートされている言語のリストから**アーティファクト・ラベル・グリッド**に特定のアーティファクトの言語を追加できます。一度に選択できる言語は 1 つのみです。言語を追加すると、その言語の新しい列がグリッドの「**デフォルト**」列の右側に追加されます。言語固有の列のセルは編集可能です。

 ヒント:

アーティファクト・ラベル・グリッドでラベルを直接追加するには、この方法を使用します。この方法は、一度に少数のラベルのみを追加または更新する必要がある場合に最適です。複数のラベルに影響する用語の変更など、アーティファクト・ラベルに対するバルク変更または更新の場合は、エクスポート機能を使用して Excel で編集した後、インポートします。[編集するアーティファクト・ラベルのエクスポートとインポート](#)を参照してください。

言語を追加するには:

1. 「ツール」をクリックし、「アーティファクト・ラベル」をクリックします。
2.  をクリックし、操作するアーティファクトを選択します。一部のアーティファクトについては、プロパティ・タイプによってさらにフィルタできます。
3. 「適用」をクリックします。
4. 「言語の追加」をクリックします。
5. サポートされている言語のリストから選択します。
6. 言語固有の列で、それぞれのアーティファクト・プロパティ(「名前」、「説明」など)について編集可能なセルにアーティファクト・ラベルを入力します。
7. 「保存」をクリックします。

 ノート:

デフォルトのナビゲーション・フローにローカライズされたアーティファクト・ラベルを定義すると(ホーム・ページでアイコンの名前を編集するなど)、更新内容がすべてのナビゲーション・フローに自動的に伝播されます。ただし、デフォルト・フローではない別のナビゲーション・フローにローカライズされたアーティファクト・ラベルを定義すると、更新内容によってデフォルト・フローのラベルが上書きされます。


## 編集するアーティファクト・ラベルのエクスポートとインポート

特定の言語のすべてのアーティファクト・ラベルをエクスポートして編集できます。ラベルは Excel ファイル形式(XLSX)でエクスポートします。編集後、ラベルをアプリケーションにインポートできます。

 **ヒント:**

この方法は、複数のラベルに影響する用語変更など、言語ごとのアーティファクト・ラベルのバルク変更または編集に使用します。個々のアーティファクト・ラベルを更新する場合は、アーティファクト・グリッドで直接編集できます。


編集するアーティファクト・ラベルをエクスポートおよびインポートするには:

1. 「**ツール**」をクリックし、「**アーティファクト・ラベル**」をクリックします。
2.  をクリックし、操作するアーティファクトを選択します。一部のアーティファクトについては、プロパティ・タイプによってさらにフィルタできます。
3. 「**適用**」をクリックします。
4. 「**アクション**」をクリックします。
  - アーティファクト・ラベルをエクスポートするには:
    - a. 「**エクスポート**」をクリックします。
    - b. エクスポート・ファイルのターゲット環境を選択します。
      - **ローカル**-エクスポート・ファイルをローカル・コンピュータ上の場所に保存します。
      - **送信ボックス**: エクスポート・ファイルをサーバーに保存します。
    - c. 言語を選択します。
    - d. 「**エクスポート**」をクリックします。
  - アーティファクト・ラベルをインポートするには:
    - a. 「**インポート**」をクリックします。
    - b. インポート・ファイルの場所を選択します。
      - **ローカル**-自分のコンピュータの場所からインポート・ファイルをロードします。「**ソース・ファイル**」で、「**参照**」をクリックして、インポートしているアーティファクトのインポート・ファイルを自分のコンピュータ上で選択します。
      - **受信ボックス**-サーバーからインポート・ファイルをロードします。「**ソース・ファイル**」内にファイルの名前を入力します。
    - c. 「**インポート**」をクリックします。

## アーティファクトの確認

アプリケーションのアーティファクトを確認するには:

1. 「**アプリケーション**」をクリックし、ビジネス・プロセスを選択します。
2. 「**アクション**」メニューで「**変更されたアーティファクトの確認**」を選択します。

3. 「フィルタ」  をクリックして、異なるアーティファクト・タイプを選択します。  
事前定義済アーティファクトが表示されるので、アーティファクトが変更されているかどうかを確認できます。
4. 事前定義済アーティファクトへのカスタマイズを元に戻すには、アーティファクトを選択して「復元」をクリックします。
5. 「機能を使用可能にする」 ボタンをクリックし、変更を復元します。

## 代替変数の操作

次も参照:


- [代替変数について](#)
- [代替変数の作成および値の割当て](#)
- [Financial Consolidation and Close の代替変数](#)
- [代替変数の削除](#)

## 代替変数について

代替変数は定期的に変化する情報のグローバルなプレースホルダとして機能します。たとえば、フォームやレポート・スクリプトで月の値を毎月更新しなくてもよいように、現在の月メンバーを代替変数 CurMnth に設定できます。

## 代替変数の作成および値の割当て

代替変数を作成して値を割り当てるには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「ツール」 で、「変数」 をクリックします。
3. 「代替変数」 タブを選択します。
4. 「アクション」 をクリックして、「追加」 を選択します。
5. 「代替変数の追加」 ページで、「キューブ」 を選択します。
6. 「名前」 に、代替変数名を入力します。
7. 「値」 に、代替変数の値を入力します。
8. 「OK」 をクリックします。

## Financial Consolidation and Close の代替変数

次の表は、Financial Consolidation and Close で使用可能な代替変数の概要です。詳細は、変数の説明のトピック・リンクを参照してください。

代替変数を追加するには、[代替変数の作成および値の割当て](#)を参照してください。

変数を有効にするには: 特に指定がないかぎり、キューブを **Consol** に設定し、値を **True** に設定します。

表 6-3 使用可能な代替変数

カテゴリ	変数名	説明
構成可能な計算ルール	CONFALC_FCCS XX_DisableCalcDim、例: CONFALC_FCCS10_Disable CalcDim	True に設定した場合、構成可能な計算スクリプトで指定された挿入位置に対して CALC DIM ロジックが生成されません。 <a href="#">構成可能な計算ルール</a> を参照してください。
構成可能な計算ルール	CONFALC_Enable_Rate_Amount_Override	True に設定した場合、構成可能な計算の FIX 文で連結ディメンション・メンバーに対し、FCCS_Amount Override または FCCS_Rate Override を使用できます。 <a href="#">構成可能な計算ルール</a> を参照してください。
構成可能な計算ルール(パートナ消去)	EnablePelimNewLogic	構成可能な連結ルールでパートナ消去(PElim)ロジックを使用しており、その結果としてパフォーマンスが低下している場合は、 <b>EnablePelimNewLogic</b> という名前の代替変数を使用してパフォーマンスを向上できます。この代替変数を追加して、値を <b>True</b> に設定します。 エンティティとパートナが同じメンバーの PELIM を使用している場合は、データ値が変わる可能性があることに注意してください。 <a href="#">連結ルールの作成</a> を参照してください。
構成可能な計算ルール(パートナ消去)	OptimizePelimCalculation	この代替変数はパートナ消去(PElim)のパフォーマンスを改善します。ユーザーが作成した、アカウント・リダイレクションのあるパートナ消去の構成可能な連結ルールをデプロイする際に連結パフォーマンスが低下する場合は、この変数を追加するとパフォーマンスが大幅に向上する可能性があります。 <a href="#">連結ルールの作成</a> を参照してください。

表 6-3 (続き) 使用可能な代替変数

カテゴリ	変数名	説明
構成可能な連結ルール	OptimizeConfigConsol	構成可能な連結ルールをデプロイした後にパフォーマンス問題を診断する必要がある場合は、手動で診断するか、または自動アプローチを使用できます。自動化されたアプローチでパフォーマンスの問題を解決できるようにするには、 <b>OptimizeConfigConsol</b> 代替変数の値を <b>True</b> に設定します。 <a href="#">連結ルールの作成</a> を参照してください。
連結プロセス	EnableNewAcqDisp	リリース 23.04 以降では、この変数が <b>True</b> に設定されている場合、システム出資比率調整および消去(取得、処分、エンティティ比率調整およびエンティティ消去調整)がデータ・ソース・ディメンションの <b>FCCS_TotalInputandAdjusted</b> の下にある <b>FCCS_AcquisitionsDisposals</b> に書き込まれます。 <b>False</b> に設定されているか、存在しない場合、システム出資比率調整および消去は <b>FCCS_Intercompany Eliminations</b> に書き込まれます。 ノート: この変数は一時的な変数であり、削除されたら、新しい <b>FCCS_AcquisitionsDisposals</b> メンバーが使用されるようになります。 <a href="#">データ・ソース</a> を参照してください。

表 6-3 (続き) 使用可能な代替変数

カテゴリ	変数名	説明
連結プロセス	EnableYearlyConsol	<p>この代替変数を有効にすると、密/疎最適化オプション(期間および増減が密ディメンション)を使用するアプリケーションでの複数期間の連結のパフォーマンスを向上できます。</p> <p>この代替変数は、アプリケーションが次のすべての条件を満たす場合に適用できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 密/疎最適化オプション(期間および増減が密ディメンション)を使用</li> <li>• 2 つ以上のダーティ 期間があり、2 つ以上の階層レベルがある</li> <li>• 期間全体でダーティ・エンティティが同じ</li> <li>• エクイティ・ピックアップの順序は使用不可</li> </ul> <p><a href="#">Financial Consolidation and Close</a> の取得パフォーマンスのトラブルシューティングを参照してください。</p>
連結プロセス	OBOC_BEFORE_CONFIG_CONSOL	<p>連結プロセス中、構成可能な連結ルールが実行される前に、OBOC (取得および処分増減メンバー)が移入されます。</p> <p>この動作を無効にするには、この代替変数の値を <b>False</b> に設定します。</p>
連結プロセス	OptimizeConcurrency	<p>この代替変数を作成して有効にし、値を <b>True</b> に設定して、連結中の高い同時実行性を利用します。</p> <p><a href="#">Financial Consolidation and Close</a> の連結および換算のビジネス・ルールは、複数のエンティティに対して実行されます。Essbase では、マルチスレッド処理を使用して、ビジネス・ルールの計算を同時に実行できます。</p> <p><b>OptimizeConcurrency</b> 変数を使用すると、<a href="#">Financial Consolidation and Close</a> の計算で強制的に複数の Essbase プロセス・スレッドが慎重に使用され、計算の実行が高速化されます。<a href="#">連結および換算ルール</a>を参照してください。</p>

表 6-3 (続き) 使用可能な代替変数

カテゴリ	変数名	説明
連結プロセス	ParallelCustomDimDSO ParallelCustomDimTranslation	<p>これらの代替変数は、期間および増減のディメンションが密ディメンションである密/疎最適化を使用するアプリケーションでの連結プロセスのパフォーマンスを向上します。パフォーマンスの向上を確認するには、これらの代替変数の両方を <b>True</b> に設定する必要があります。 <a href="#">Financial Consolidation and Close の取得パフォーマンスのトラブルシューティング</a> を参照してください。</p> <p><b>Financial Consolidation and Close</b> では、<b>FIXPARALLEL</b> のタスク・ディメンションがどれになるかが次のアルゴリズムを使用して決定されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アプリケーションに少なくとも 2 つのカスタム・ディメンションがあります。</li> <li>• <b>Financial Consolidation and Close</b> では、2 番目のカスタム・ディメンションが下から使用されます。そのディメンションのメンバー数が 40 を超える場合、それを候補のカスタム・ディメンションにすることができます。それ以外の場合、カスタム・ディメンションでは並列化が行われません。</li> </ul>
連結システム・ルール	CalcMvmtsPostFCCS10	<p>この代替変数は、「増減の計算」システム・ルールの順序を制御します。この変数を <b>True</b> に設定した場合、<b>FCCS_10</b> ルールの後に「増減の計算」システム・ルールが実行されます。</p> <p>この代替変数が存在しない場合、または存在するが <b>True</b> に設定されていない場合、<b>FCCS_10</b> ルールの前に「増減の計算」システム・ルールが実行されます。 <a href="#">増減の計算(期末残高入力から)</a> を参照してください。</p>



表 6-3 (続き) 使用可能な代替変数

カテゴリ	変数名	説明
通貨	ApplicationCurrency ApplicationCurrencyFrom ApplicationCurrencyReporting	複数通貨アプリケーションを作成すると、アプリケーション通貨として選択した通貨に対して代替変数が追加されます。代替変数を使用すると、アプリケーションの作成後にデフォルトの通貨が何であるかを確認できます。 <a href="#">通貨</a> を参照してください。
データ・フロー	ProportionalizeTopEntityMembers	データは、エンティティ・ディメンションにある最上位エンティティの親通貨に換算されないか、コントリビューション/コントリビューション合計に連結されません。この動作を変更するには、この代替変数を追加し、値を <b>True</b> に設定します。 <a href="#">データ・フロー</a> を参照してください。
データ・ロード	DataLoadConsolMember	この代替変数を <b>True</b> に設定した場合、置換モードを有効にしたデータ・ロード・プロセスでデータをクリアするときに、連結ディメンションのメンバーを含めることができます。 <a href="#">データ・ロード方法</a> を参照してください。
データ・ロード	DoNotReverseRFAccountsForCBILoad	期末残高入力データのみを含むデータ・ファイルをロードして、前期間のゼロ以外の期末残高金額を逆仕訳することができます。ロール・フォワードおよび CTA 勘定科目の逆仕訳が必要ない場合、置換モードでデータをロードする前に、この代替変数を <b>True</b> に設定できます。 <a href="#">例: データ・インポート・ファイル - 期末残高入力および置換モード</a> を参照してください。

表 6-3 (続き) 使用可能な代替変数

カテゴリ	変数名	説明
データ・ロード	NewLoadYTDClosingBalanceInput	この代替変数を <b>True</b> に設定した場合、 <b>Financial Consolidation and Close</b> では、前期間からの YTD 期末残高が逆仕訳され、最初の期間の <b>FCCS_Net Income/ FCCS_Owner's Income</b> は逆仕訳されません。このため、貸借対照表勘定科目と収益勘定科目の両方について期末残高入力をロードできます。 <a href="#">データ・ロード方法</a> を参照してください。
ディメンション・メンバーの順序のカスタマイズ	isExportDimEnabled	シード・メンバーの順序をカスタマイズした場合、つまりシード勘定科目階層に変更を加えた場合、それぞれの更新または「機能を使用可能にする」プロセスの後に変更を保持できます。カスタマイズした変更を保持するには、 <b>isExportDimEnabled</b> 代替変数を追加し、値を <b>True</b> に設定します。 <a href="#">シード済ディメンション・メンバー</a> を参照してください。
会社間消去	DecimalPrecision	会社間消去が比例を超過しないようにするには、この代替変数を追加します。その後、小数精度を達成するために考慮する必要な小数点以下の桁数を入力します。この代替変数の値は、整数(ゼロ、あるいは正または負の整数)である必要があります。 <a href="#">会社間消去</a> を参照してください。
会社間消去	StrictElimCondition	処理される会社間消去の検証が適用されるのは、現在のエンティティの兄弟または兄弟の子孫であるパートナーに対して正しい条件が満たされている場合のみです。この機能を無効にする場合は、 <b>StrictElimCondition</b> 代替変数を追加し、 <b>False</b> に設定します。これにより、エンティティとパートナーが同じである会社間データを引き続き消去できます。 <a href="#">会社間消去</a> を参照してください。

表 6-3 (続き) 使用可能な代替変数

カテゴリ	変数名	説明
出資比率の管理	LinkOwnershipandDataLocking	承認ユニットがすでに「ロック済」であるエンティティ・データに影響を及ぼす変更を加えることができないように、出資比率の管理に対する変更は「ロック解除済」エンティティについてのみ許可されます。この機能を無効にする場合は、 <b>LinkOwnershipandDataLocking</b> 代替変数を追加し、 <b>False</b> に設定します。 <b>False</b> に設定すると、ロックおよびロック解除の要件が適用されなくなります。 <a href="#">出資比率の管理</a> を参照してください。
メタデータの解決順	EnableSolveOrderInput	この代替変数を使用すると、アプリケーションのインポート、アップグレードまたは増分の「機能を使用可能にする」プロセス中に、シード・メンバーのカスタマイズした解決順の値を保持できます。これは、自動的に有効になっています。 <a href="#">メタデータへの SolveOrder の適用</a> を参照してください。
増減ディメンション・メンバー	ExtendMovementScope	この代替変数を使用すると、 <b>FCCS_Movements</b> 階層の外部で作成された増減ディメンション・メンバーを換算計算および連結計算に含めることができます。これは、自動的に有効になっています。 この動作を無効にするには、この代替変数を <b>False</b> に設定します。 <a href="#">データの換算</a> を参照してください。
オンデマンド・ルール	ODR_Enable_Rate_Amount_Override	この代替変数を <b>True</b> に設定した場合、オンデマンド・ルールの実行時プロンプトで連結ディメンション・メンバーに対し、 <b>FCCS_Amount Override</b> または <b>FCCS_Rate Override</b> を使用できます。 <a href="#">オンデマンド・ルールのガイドライン</a> を参照してください。

表 6-3 (続き) 使用可能な代替変数

カテゴリ	変数名	説明
オンデマンド・ルール	<RuleName>_FP	オンデマンド・ルールにおいて、FIX でルールを実行するには、この代替変数を追加し、値を <b>False</b> に設定します。 <a href="#">オンデマンド・ルールのガイドライン</a> を参照してください。
連結時間の予測	EnablePredictConsolidate	「連結」ルールが実行されるたびに連結時間の予測ルールが自動的に実行されるようにする場合は、この代替変数を追加し、値を <b>True</b> に設定します。これにより、連結中に予測ルーチンが自動的に実行され、「連結」ルールのジョブ・ログで予測時間を確認できます。 <a href="#">予測連結時間の表示</a> を参照してください。
データベースのリフレッシュ	DeltaDBRefresh	メタデータの変更に基づいて必要なアクションのみを実行することで、データベース・リフレッシュのパフォーマンスを向上させます。この代替変数はデフォルトで有効( <b>True</b> )になっています。この動作を無効にするには、代替変数を <b>False</b> に設定します。 ノート: このオプションは、拡張ディメンションのアプリケーションにのみ使用できます。 <a href="#">データベースのリフレッシュ</a> および <a href="#">出資比率データの再計算</a> を参照してください。
データベースのリフレッシュ	OLURatesLoad	この代替変数は、データベースのリフレッシュのパフォーマンスを向上させるために使用されます。これは、自動的に有効になっています。 <a href="#">データベースのリフレッシュ</a> を参照してください。
レポート	EnableExcelNumberFormat	Excel タイプのレポートとして保存されたレポートについては、 <b>EnableExcelNumberFormat</b> 代替変数を使用すると、セル・テキストではなく数値フォーマットでレポート値を自動的に表示できます。 <a href="#">レポートの操作</a> を参照してください。

表 6-3 (続き) 使用可能な代替変数

カテゴリ	変数名	説明
ルール	DisableImpactStatusConsolValidation	構成可能な計算で @FCCSImpactStatus 関数を使用する場合、デフォルトで DisableImpactStatusConsolValidation 代替変数が有効になっているため、ルール・バリデータはエラーを無視して、ルールの実行を続行できます。この動作を変更し、ルール・バリデータで影響ステータス・エラーが表示されるようにするには、この代替変数の値を <b>False</b> に設定します。 <a href="#">FCCSImpactStatus 関数</a> を参照してください。
セキュリティ	DisableSeededSecurity	デフォルトのセキュリティ・グループは一部のシード・メンバーに割り当てられ、事前にそれらを削除していても、アップグレード時に割り当てられます。削除後にセキュリティ割当が発生しないように、この動作を無効にするには、この代替変数を追加して値を <b>True</b> に設定します。 <a href="#">ディメンションのセキュリティの有効化または無効化</a> を参照してください。
スマート・リスト	IncludeSmartListId	デフォルトでは、エクスポート・ファイルは ID 属性を Ownership.Data.xml ファイルに格納します。移行プロセスを実行すると、内部でスマート・リストのエントリ ID として使用される ID がインポートされます。この動作を無効にするには、この代替変数の値を <b>False</b> に設定します。
換算プロセス	DisableRateThreshold	取得時換算勘定のデフォルト換算では、計算された実効レートが(0.1, 10)の範囲内であるかどうかチェックされます。範囲外の場合は、平均レートが使用されます。この変数を追加して <b>True</b> に設定すると、デフォルト換算の実効レートのしきい値が削除されます。 <a href="#">データの換算</a> を参照してください。

表 6-3 (続き) 使用可能な代替変数


カテゴリ	変数名	説明
換算プロセス	ExtendAccountScope	<p>デフォルトでは、貸借対照表階層外に存在する勘定科目(資産、負債、資本、収益および費用勘定科目タイプ)は、貸借対照表階層内の勘定科目と同じ方法で換算および連結されます。</p> <p>この換算動作を無効にする必要がある場合は、この変数を使用して値を <b>False</b> に設定します。</p> <p><a href="#">データの換算</a>を参照してください。</p>
換算プロセス	ReportingTransEPAEEA	<p>この代替変数は自動的に有効になり、<b>FCCS_Entity Proportion Adj</b> メンバーおよび <b>FCCS_Entity Elimination Adj</b> メンバーは、エンティティ入力およびエンティティ連結の換算に対して行われるのと同じプロセスを使用してレポート通貨に換算されます。</p> <p>この動作を無効にするには、代替変数を <b>False</b> に設定します。</p> <p><a href="#">換算プロセス</a>を参照してください。</p>
換算プロセス	TranslateOBOCAcqDispAtPriorER	<p>取得および処分増減ディメンション・メンバーの換算動作では、換算に前期間の期末レートを使用します。</p> <p>この換算動作を無効にする必要がある場合は、この変数を使用して値を <b>False</b> に設定します。</p> <p><a href="#">データの換算</a>を参照してください。</p>
換算 - デフォルトの換算メソッド	YTDFXCalculation	<p>FX 期首および FX 増減の年次累計計算を有効にするオプションを選択できます。このオプションは、フロー勘定のデフォルトの換算メソッドが年次累計の場合に適用できます。</p> <p>YTD 計算を有効にするには、<b>YTDFXCalculation</b> 代替変数を追加し、値を <b>True</b> に設定します。<a href="#">デフォルトの換算設定の指定</a>を参照してください。</p>

表 6-3 (続き) 使用可能な代替変数

カテゴリ	変数名	説明
換算 - デフォルトの換算メソッド	YTDFXRatioThreshold	YTD FX 差異の換算計算が有効になっているアプリケーションでは、状況によっては、きわめて大きい数字が OBFXCTA/OBFXCICTA メンバーで発生することがあります。この問題を解決するには、YTDFXRatioThreshold 代替変数を追加し、値を True に設定します。デフォルトの換算設定の指定を参照してください。
換算 - FX メソッド	FXTranslationFix	DSO 以外のアプリケーションで、「FX メソッド」が「定期的」で YTD 換算が有効なとき、FCCS_Mvmts_Subtotal メンバーが欠落している場合、FX_Movement メンバーは、「定期的」ではなく YTD を使用して換算されます。この動作を変更するには、FXTranslationFix 代替変数を追加し、True に設定します。デフォルトの換算設定の指定を参照してください
換算順序	skipTransRulesIfOverrideRatesExist	換算プロセスでは、換算上書きルールは、換算上書きエントリの前に実行されます。金額/レート上書きエントリの前に上書きルールを処理しないようにする場合は、この変数を追加して False に設定します。データの換算を参照してください。

## 代替変数の削除

代替変数を削除するには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「ツール」で、「変数」をクリックします。
3. 「代替変数」タブを選択します。
4. 削除する代替変数を選択します。
5. 「アクション」をクリックして、「削除」を選択します。
6. 「はい」をクリックします。

# 7

## EPM Cloud での環境の接続

### 次も参照:

- [EPM Cloud 環境の接続について](#)
- [EPM Cloud 接続を移行する際の考慮事項](#)
- [他の EPM Cloud 環境への接続の作成、編集および削除](#)
- [外部 Web サービスへの接続](#)
- [外部接続の詳細設定オプションの指定](#)
- [EPM Cloud 環境間の移動](#)
- [他の EPM Cloud 環境にアクセスするためのナビゲーション・フローのカスタマイズ](#)
- [接続された環境を統合するためのダイレクト URL の使用](#)

## EPM Cloud 環境の接続について


### 概要

サービス管理者は、次のタイプの複数の EPM Cloud 環境を接続できます。

- Account Reconciliation
- Enterprise Profitability and Cost Management
- Financial Consolidation and Close
- フリーフォーム
- Narrative Reporting
- Planning
- Planning モジュール
- Profitability and Cost Management
- Sales Planning
- Strategic Workforce Planning
- Tax Reporting

サービス管理者が接続を設定すると、EPM Cloud 環境全体に対するアクセス権を持つユーザーは、1 回のログインで単一のアクセス・ポイントから複数の環境間をナビゲートできるようになります。フォームやダッシュボードなど、複数の環境からのアーティファクトについても、ナビゲーション・フローのクラスター内またはカード上のタブ内で混合できます。ターゲット環境に含まれるアーティファクトへのアクセス権はユーザーの役割によって決まります。



 ノート:

Oracle Analytics Cloud Enterprise Edition または Professional Edition 5.6 から EPM Cloud プラットフォームに直接接続することもできます(両方のサービスを使用している場合)。接続を構成した場合は、Oracle Analytics Cloud の EPM Cloud ビジネス・プロセスからデータをビジュアル化できます。Oracle Analytics Cloud でビジュアライゼーションおよびダッシュボードを作成するために、メタデータ・リポジトリ(RPD)ファイルで EPM データをモデル化する必要はありません。詳細は、Oracle Analytics Cloud ドキュメントを参照してください。

さらに、Oracle NetSuite Account Reconciliation および Oracle NetSuite Planning and Budgeting を接続できます。

### 接続できる環境

ソース環境とは、接続の作成元となる環境です。ターゲット環境とは、ソース環境から接続する環境です。


次のソース環境を接続できます(これらの環境はターゲット環境にすることもできます):

- Enterprise Profitability and Cost Management
- フリーフォーム
- Financial Consolidation and Close
- Oracle NetSuite Planning and Budgeting
- Planning
- Planning モジュール
- Sales Planning
- Strategic Workforce Planning
- Tax Reporting

また、ソース環境は次のターゲット環境に接続できます(これらの環境はソース環境にすることはできません)。

- Account Reconciliation
- Narrative Reporting
- Oracle NetSuite Account Reconciliation
- Profitability and Cost Management

### 他の EPM Cloud 環境に接続する方法

- 「ナビゲータ」メニューでソース環境とターゲット環境間を切り替えます。[EPM Cloud 環境間のナビゲート](#)を参照してください。
- ソース環境のナビゲーション・フローをカスタマイズして、ホーム・ページから他のターゲット環境のクラスタ、カードおよびアーティファクトにアクセスできるよ

うにします。他の EPM Cloud 環境にアクセスできるようにするためのナビゲーション・フローのカスタマイズを参照してください。

- ダイレクト URL を使用して、接続された環境をシームレスに統合します。接続された環境を統合するためのダイレクト URL の使用を参照してください。

### 考慮事項

- サービス管理者のみが環境間接続を作成します。  
ユーザーがナビゲーション・リンクをクリックすると、リンク先の環境が開きます。リンク先の環境内でのアクセスは、ユーザーに割り当てられた事前定義済の役割とアクセス権限(存在する場合)によって決まります。
- 環境間をシームレスにナビゲートするためには、環境間のナビゲーション・フローが設定されているすべての環境インスタンスが同じアイデンティティ・ドメインに属している必要があります。

#### ノート:

ターゲットとソースの環境インスタンスが同じアイデンティティ・ドメインに属していない場合は、それらのインスタンス間の接続を確立できません。

- サービス管理者が、企業の SSO (アイデンティティ・プロバイダ)資格証明を使用して環境間接続を構成することはできません。  
環境が SSO 用に構成されている場合は、環境間接続を構成するサービス管理者に、アイデンティティ・ドメイン資格証明が保持されている必要があります。アイデンティティ・ドメイン資格証明によるサインインの有効化を参照してください。
- 特定のコース・ケース・シナリオでは、テスト環境と本番環境の間で環境間接続を移行すると、問題が発生することがあります。詳細は、[EPM Cloud 接続を移行する際の考慮事項](#)を参照してください。
- 環境間接続でバニティ URL はサポートされていません。

### トラブルシューティング

環境の接続中の一般的なエラーを修正する方法の詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド*のナビゲーション・フローに関する問題の処理を参照してください。

### ビデオ

#### 目的

EPM Cloud ワークフローをカスタマイズする方法を学習するには、このビデオをご覧ください。

#### 次のビデオを視聴



概要: EPM Cloud ビジネス・プロセスを統合するためのナビゲーション・フローの構成

## EPM Cloud 接続を移行する際の考慮事項

オラクル社では、環境の接続などの新機能は、テスト環境で試してから本番環境に移行するのが、サービス管理者が行う一般的な方法であると認識しています。ただし、この方法では、

移行後に問題が発生する場合があります。ここでは、知っておく必要があるユース・ケース・シナリオをいくつか示します。

これから示す各シナリオでは、Financial Consolidation and Close と Planning の環境を所有しているものと仮定しています。

#### ユース・ケース・シナリオ 1: テストから本番

テスト環境から本番環境に接続を移行する場合は、テスト環境で定義した接続が、対応する本番環境をポイントするよう変更される必要があります。

たとえば、サービス管理者が Planning と Financial Consolidation and Close のテスト環境間の接続を定義したとします。サービス管理者は、この接続を使用して、Financial Consolidation and Close のカードを参照する Planning でナビゲーション・フローを構築します。サービス管理者が Planning テスト環境の移行のために作成するスナップショットには、接続とナビゲーション・フローが含まれますが、これには、Financial Consolidation and Close テスト環境への接続も含まれます。

スナップショットを Planning 本番環境に移行すると、Planning と Financial Consolidation and Close テスト環境が不必要に接続されてしまいます。適切でない接続は、環境の移行前または移行後に、対応する本番環境をポイントするように手動で変更する必要があります。

#### ユース・ケース・シナリオ 2: 本番から本番またはテストからテスト

このシナリオには、注意点はありません。

#### ユース・ケース・シナリオ 3: 本番からテスト

このシナリオでは、サービス管理者は、問題を解決するために本番環境からテスト環境にスナップショットを移行しようとする可能性があります。テスト環境で作成された接続は、依然として本番環境をポイントしているため、サービス管理者が、テスト環境をポイントするように接続を変更することが重要です。本番環境をポイントするテスト環境の接続は、本番環境で意図せず改ざんされる可能性があります。

## 他の EPM Cloud 環境への接続の作成、編集および削除

他の EPM Cloud 環境への接続を作成する前に、接続するソースとターゲットの環境に対するアクセス権があることを確認してください。また、接続する他の環境の URL および各環境のログイン詳細(サービス管理者としてのユーザー ID とパスワードなど)も必要です。

接続を作成、編集、複製および削除するには:

1. ソース環境にログインします。
2. ホーム・ページから、「ツール」、「接続」の順にクリックします。
3. 次のいずれかの操作を選択します。
  - 接続を追加するには:
    - a. 「接続の管理」ページで、「作成」をクリックします。
    - b. 接続を作成するためのプロバイダの選択ページで、追加するターゲット環境を選択します。

- c. ターゲット環境の接続詳細を入力します。
  - 「**プロバイダの変更**」をクリックして、別のターゲット環境を選択します。
  - 「**接続名**」に、このナビゲーション・リンクの名前を入力します。例:  
Consolidation Application。
  - オプションで、リンクの説明を入力します。
  - 「**URL**」に、ターゲット環境インスタンスの URL (http(s)://your-target-host-url.com など)を入力します。ターゲット環境インスタンスにサインインするには、通常、この URL を使用することになります。
  - 「**サービス管理者**」と「**パスワード**」を使用して、サービス管理者の資格証明を指定します。

 **ノート:**

- \* この資格証明は、ナビゲーション・リンクの定義と検証にのみ使用されます。ユーザーがログインしてターゲット環境にアクセスするには、それぞれ独自の役割およびアクセス権が適用されます。
- \* 他の EPM Cloud 環境への接続では、ユーザー名の前にドメイン名を付けないでください。ただし、他の外部 Web サービスへの接続ではドメイン名が必要です。[外部 Web サービスへの接続](#)を参照してください。



- 「**ドメイン**」フィールドは、入力した URL に基づいて自動的に入力されます。URL にドメインがない場合は、「**ドメイン**」フィールドを空のままにしておきます。
- d. 「**検証**」をクリックします。
- e. 検証に成功したら、「**保存して閉じる**」をクリックします。
- 接続を編集するには:
  - a. 「**接続の管理**」ページで、接続の名前をクリックします。
  - b. 接続の詳細を編集します。

 **ノート:**

新規サービス・タイプに接続するように URL を編集すると、ナビゲーション・フローが破損する可能性があります。異なるサービスに接続する必要がある場合は、かわりに新しい接続を作成することをお勧めします。

- c. 「**検証**」をクリックします。
- d. 検証に成功したら、「**保存して閉じる**」をクリックします。
- 接続を複製するには:

- a. 「**接続の管理**」 ページで、複製する接続の横にある「**アクション**」列の **...** をクリックします。
  - b. 「**複製**」 をクリックします。
  - c. 複製する接続の名前を入力し、「**OK**」 をクリックします。
- 接続を削除するには:
    - a. 「**接続の管理**」 ページで、削除する接続の横にある「**アクション**」列の **...** をクリックします。
    - b. 「**削除**」 をクリックします。

ターゲット環境が EPM Cloud ソース環境に接続されている場合は、ソース環境の「**ナビゲータ**」メニューの「**自分の接続**」ペインにリストされます。「**ナビゲータ**」メニューの「**自分の接続**」ペインでは、環境間を移動できます。[EPM Cloud 環境間のナビゲート](#)を参照してください。

Financial Consolidation and Close のエンタープライズ仕訳接続を構成する場合は、*Financial Consolidation and Close の管理*のエンタープライズ仕訳の接続の作成を参照してください。

### トラブルシューティング

トラブルシューティングのサポートは、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド*の[ナビゲーション・フローに関する問題の処理](#)を参照してください。

## 外部 Web サービスへの接続

サービス管理者は、外部 Web サービスとの間でデータを読み書きする目的で外部 Web サービスに接続することもできます。

この接続を Groovy スクリプトで参照または使用して、Groovy スクリプトと外部 HTTP/HTTPS リソース間に通信リンクを作成できます。この接続を Groovy スクリプトで使用方法の詳細および例は、EPM Groovy オブジェクト・モデルの [Connection](#) および [HttpRequest](#) オブジェクトについて、Java API ドキュメントを参照してください。

### ノート:


「**その他の Web サービス・プロバイダ**」接続タイプは、Groovy ルールを作成可能なビジネス・プロセスでのみ使用できます。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud](#)、[Groovy ルール Java API リファレンス](#)を参照してください。

外部 Web サービスへの接続を作成する前に、接続する Web サービスへのアクセス権があることを確認する必要があります。場合によっては Web サービスの URL およびログイン詳細も必要です。

外部 Web サービスへの接続を作成するには:

1. ソース環境にログインします。

2. ホーム・ページから、「ツール」、「接続」の順にクリックします。
3. 「接続の管理」ページで、「作成」をクリックします。
4. 「その他の Web サービス・プロバイダ」をクリックします。
5. 接続の「接続名」および「説明」を入力します。
6. ターゲット接続の「URL」を入力します。
7. オプションの、URL の詳細設定オプションを入力します。

 ノート:

オプションの詳細設定オプションでは、外部接続を定義するときに問合せまたはヘッダー・パラメータを指定できます。[外部接続の詳細設定オプションの指定](#)を参照してください。

8. 必要に応じて、接続のユーザーおよびパスワード・ログイン資格証明を入力します。Oracle Fusion Cloud EPM サービスへの接続など、場合によってはユーザー名の前にドメイン名を付ける必要があります(例: <アイデンティティ・ドメイン>.<ユーザー名>)。  
  
EPM Cloud REST API の基本認証およびアイデンティティ・ドメインの検索手順を理解するには、*Enterprise Performance Management Cloud REST API* の基本認証 - クラシックおよび OCI を参照してください。
9. 「保存して閉じる」をクリックします。



## 外部接続の詳細設定オプションの指定

オプションの詳細設定オプションでは、外部接続を定義するときに問合せパラメータやヘッダー・パラメータを指定できます。

 ノート:

外部接続の問合せパラメータを定義する機能は、Groovy ルールの作成が可能なビジネス・プロセスとともに使用するためにのみ提供されています。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud](#)、[Groovy ルール Java API リファレンス](#)を参照してください。

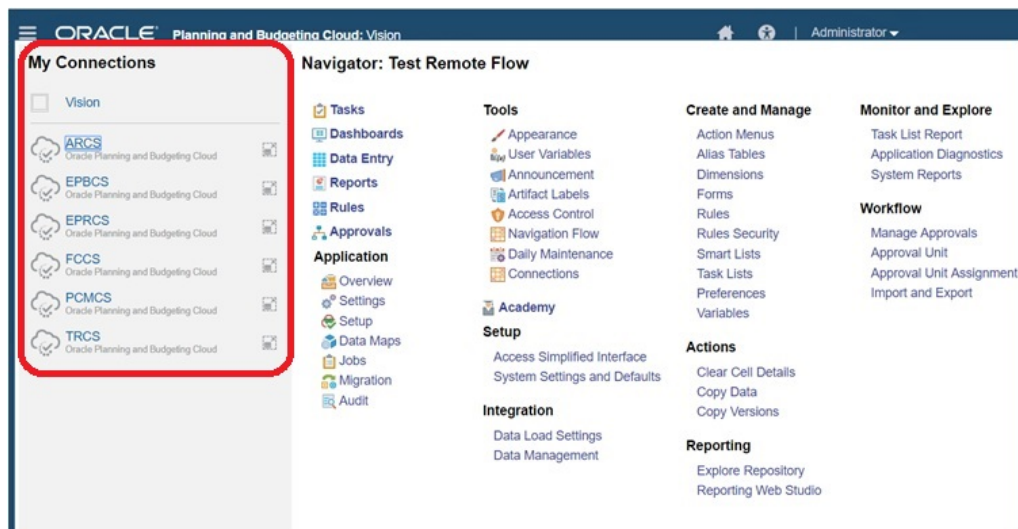
外部接続の詳細設定オプションを指定するには:

1. 外部接続を作成するか、既存の外部接続を開きます。  
[外部 Web サービスへの接続](#)を参照してください。
2. 接続詳細を入力し、「**詳細設定オプションを表示**」をクリックします。
3. 問合せ詳細を次のように指定します。
  -  : 問合せの追加
  -  : 問合せの削除

- **タイプ:** 「ヘッダー」または「パラメータ」を選択します。  
「ヘッダー」は、この接続に対して行われるすべての要求で送信されるデフォルト・ヘッダーを設定します。「パラメータ」は、この接続に対して行われるすべての要求で送信されるデフォルトの問合せパラメータを設定します。
- **セキュア:** 選択した場合、「値」フィールドに入力した値が暗号化されます。行の「セキュア」チェック・ボックスをクリアすると、値が削除されます。  
保護対象となるヘッダーの例は、Bearer 認証をサポートする外部 Web サービスの Bearer トークンや、認証のための API キーをサポートする外部 Web サービスの API キー問合せパラメータです。
- **名前:** ヘッダーまたは問合せパラメータの名前を入力します。
- **値:** ヘッダーまたは問合せパラメータの値を入力します。


## EPM Cloud 環境間のナビゲート

サービス管理者が他の EPM Cloud 環境への接続を作成したら、接続が「ナビゲータ」メニューの「自分の接続」ペインにリストされます。



ここで環境間を切り替えることができます。他の環境を開くためには、それらの環境へのアクセス権が必要です。アーティファクトは、ユーザーの役割に基づいてアクセスできます。

別の Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境を開くには:

1. ホーム・ページで、「ナビゲータ」をクリックします。
2. 環境が接続され、自分にそれらの環境へのアクセス権がある場合は、接続された環境のリストが「自分の接続」ペインに表示されます。環境をクリックして開きます。



 ノート:

環境名の右側にあるアイコンをクリックすると、その環境が新しいウィンドウで開きます。

## 他の EPM Cloud 環境にアクセスするためのナビゲーション・フローのカスタマイズ

ビジネス・プロセス・インタフェースをカスタマイズして、ソース環境のホーム・ページから他の EPM Cloud 環境にアクセスできます。たとえば、他の EPM Cloud 環境からのアーティファクト(フォームやレポートなど)をホーム・ページに追加できます。ナビゲーション・フローをカスタマイズして、これらのアーティファクト(カードと呼ぶ)をクラスタにグループ化できます。ターゲット EPM Cloud 環境のクラスタおよびカードを、ソース EPM Cloud 環境のナビゲーション・フローに直接追加できます。ナビゲーション・フロー・デザイナーを使用してカードをカスタマイズし、それぞれ異なる環境からのアーティファクトを示すタブ形式のページで構成することもできます。

次の2つのユース・ケースでは、他の EPM Cloud 環境にアクセスできるようにナビゲーション・フローをカスタマイズする方法を詳しく説明しています:

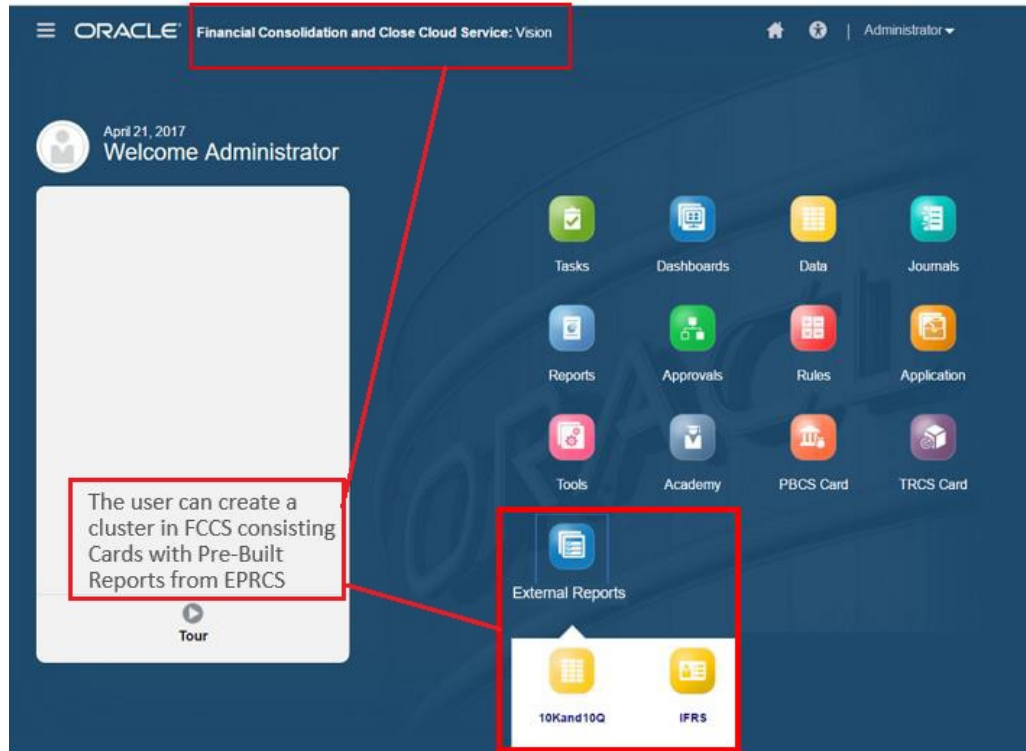
- [他の EPM Cloud 環境からクラスタへのカードのグループ化](#)
- [複数 EPM Cloud 環境からのタブのあるカードの構成](#)

ナビゲーション・フローの設計についてさらに学習するには、カスタム・ナビゲーション・フローの設計を参照してください。

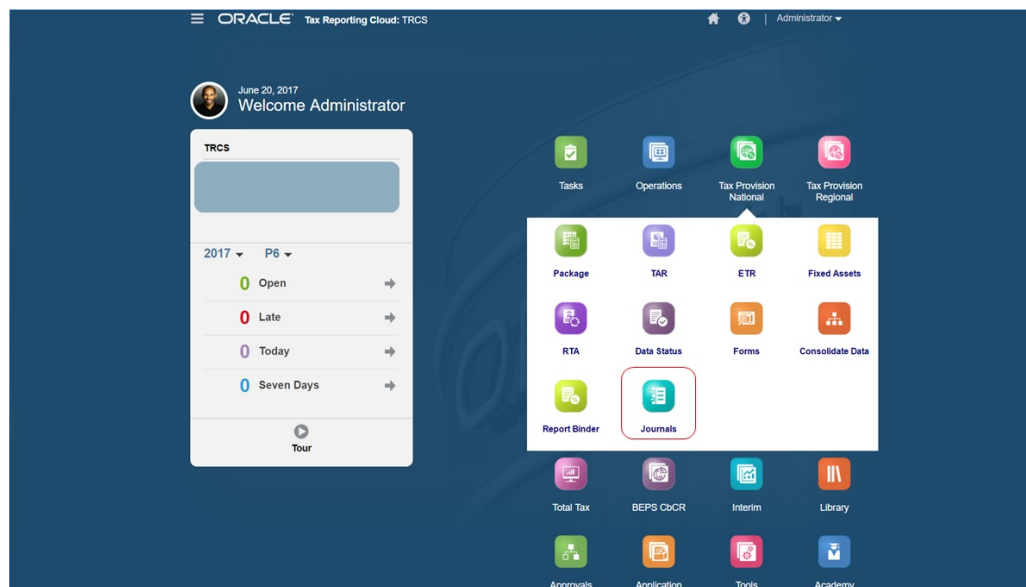
### 他の EPM Cloud 環境からクラスタへのカードのグループ化

様々な EPM Cloud 環境のカードをクラスタにグループ化して、ソース環境のホーム・ページからアクセスできるようにすることができます。たとえば、Narrative Reporting からの事前作成済の外部レポートのカードで構成されるクラスタを、Financial Consolidation and Close 内に作成できます。





複数の環境のカードをソース環境の同一クラスタ内にも含めることもできます。たとえば、Tax Reporting ユーザーは、Tax Reporting から移動せずに Financial Consolidation and Close から「仕訳」アイコンを起動できます。



ナビゲーション・フローをカスタマイズして、クラスタを作成し、クラスタにカードを追加します。


ナビゲーション・フローの全般的な情報は、カスタム・ナビゲーション・フローの設計を参照してください。

他の EPM Cloud 環境のカードからなるクラスタを作成するには:

1. 「ナビゲーション・フロー」ページを開き、ナビゲーション・フローを作成するか、既存のナビゲーション・フローを編集します。

#### ノート:

ナビゲーション・フローを作成するには、最初に既存のナビゲーション・フローを選択し、そのコピーを作成する必要があります。その後、複製したナビゲーション・フローの詳細を編集して保存します。

- a. 「ツール」、「ナビゲーション・フロー」の順にクリックします。
- b. ナビゲーション・フローを作成するには、コピーするナビゲーション・フローを選択し、ページの右上隅にある  をクリックして、「コピーの作成」を選択します。ナビゲーション・フローの名前を入力し、「OK」をクリックします。


#### ノート:

新しいフローは、サービス管理者がアクティブにするまで「非アクティブ」に設定されます。ナビゲーション・フローをアクティブ化または非アクティブ化するには、「アクティブ」列で「アクティブ」または「非アクティブ」をクリックします。一度にアクティブにできるナビゲーション・フローは1つのみです。

- c. 既存のナビゲーション・フローを編集するには、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。

#### ノート:



編集できるのは、ナビゲーション・フローがアクティブでない場合のみです。編集しようとするナビゲーション・フローがアクティブな場合は、「非アクティブ」とマークしてから編集します。

2. クラスタを作成する、または既存のクラスタを追加するには:
  - a. まだ開いていない場合は、「ナビゲーション・フロー」ページから、クラスタを追加するナビゲーション・フローの名前をクリックします。
  - b. 新しいクラスを作成するには、カードまたはクラスタを右クリック(または  をクリック)して「クラスタの追加」をクリックし、クラスタの詳細を入力または選択してから、クラスタのアイコンを選択します。
  - c. 別の環境の既存のクラスタを追加するには、カードまたはクラスタを右クリック(または「既存のカード/クラスタの追加」をクリック)し、「自分の接続」でターゲット環境を選択して、ナビゲーション・フローに追加するクラスタを選択します。  
次の点に注意してください。

- Narrative Reporting および Profitability and Cost Management で、「**既存のカード/クラスタの追加**」オプションを使用して直接クラスタを選択することはできません。
- 別のナビゲーション・フローまたは別の環境から追加されるクラスタには、ソース・ナビゲーション・フローで定義されたローカライズされたラベルが表示されます。ナビゲーション・フローでのクラスタのラベルを更新するには、ホーム・ページで「**ツール**」、「**アーティファクト・ラベル**」の順にクリックします。

アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。

### 3. 次のいずれかのオプションを使用して、クラスタに含めるカードを選択します:

- クラスタに追加するカードに移動します。カードが別の環境に含まれている場合は、最初に「**自分の接続**」で環境を選択してから、その環境内のカードにナビゲートします。次のいずれかのオプションを使用して、カードをクラスタに割り当てます:
  - 「**順序**」列で、移動するカードの右側にある  をクリックします。クラスタを選択し、「**OK**」をクリックします。
  - カードの名前をクリックしてカードの詳細を表示し、「**クラスタ**」でカードのクラスタを選択して「**OK**」をクリックします。
- 新しいカードを追加するクラスタに移動します。クラスタが別の環境に含まれている場合は、最初に「**自分の接続**」で環境を選択してから、その環境内のクラスタに移動します。クラスタを右クリック(または  をクリック)して**カードをクラスタに追加**をクリックし、オプションを選択します:
  - 既存のカードを選択、または別のクラスタから選択したクラスタに既存のカードを追加するには、「**既存のカードの追加**」を選択します。
  - 新しいカードを選択したクラスタに追加するには、「**カードの追加**」を選択し、カードの詳細を入力します。

#### ノート:

カードまたはクラスタが別のナビゲーション・フローからすでに参照されている場合、そのカードはクラスタに追加できません。

カードがクラスタの子としてリストに表示されます。必要に応じて、カードの横にある上矢印と下矢印を使用して、クラスタ内でカードの順序を変更します。

### 4. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

設計時の変更を表示するには、ナビゲーション・フローをアクティブにしてリロードする必要があります。ナビゲーション・フローをリロードするには、下矢印をクリックします。次に、「**設定およびアクション**」メニューで「**ナビゲーション・フローのリロード**」をクリックします。

## Settings and Actions

[Reload Navigation Flow](#)

[Downloads...](#)

[Help...](#)

[Cloud Customer Connect](#)

[Provide Feedback...](#)

[Oracle Support...](#)

[About...](#)

[Sign Out](#)

### トラブルシューティング

ナビゲーション・フローのアクティブ化およびリロード後に、参照されるアーティファクトが表示されない場合は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* オペレーション・ガイドのナビゲーション・フローに関する問題の処理を参照してください。

## 複数 EPM Cloud 環境からのタブのあるカードの構成

ナビゲーション・フローのカードをカスタマイズし、それぞれ異なる環境からのアーティファクトを示すタブ形式のページで構成することもできます。たとえば、**Planning** ユーザーは、「収益」アイコンをクリックして、**Narrative Reporting** からのレポートを表示する水平タブを含むカードを起動できます。

The screenshot displays the Oracle Planning and Budgeting Cloud (EPBCS) interface. At the top, there are navigation icons for Revenue, Expense, Balance Sheet, Cash Flow, and Analysis. Below these, a horizontal tab bar is visible, with 'Income Statement Trend' selected and highlighted by a red box. The main content area shows the 'Income Statement Trend' report for Vision Operations, including a table with columns for Actual and Plan values across various months and a YTD (Year-to-Date) column.

	Actual		Plan										YTD
	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	
Net Revenue	125,017	111,561	140,997	141,936	142,904	157,731	148,385	110,093	182,352	142,464	142,627	139,291	1,685,358
Cost of Sales	81,013	71,651	89,685	92,372	87,488	106,662	99,741	70,066	117,467	92,232	91,144	89,085	1,088,607
Gross Profit	44,003	39,910	51,312	49,564	55,416	51,069	48,644	40,027	64,885	50,232	51,483	50,206	596,751
Total Compensation	8,431	7,465	8,992	9,828	8,537	11,356	10,479	7,326	12,595	9,989	9,611	9,419	114,029
Travel	625	535	838	606	924	642	709	567	814	596	702	678	8,235
General Supplies	475	406	626	465	686	496	539	425	615	452	527	509	6,222
Telecommunications	826	715	1,008	866	1,056	957	970	735	1,139	865	931	905	10,973
Equipment Maintenance	1,945	1,693	2,305	2,094	2,368	2,344	2,318	1,732	2,757	2,117	2,215	2,157	26,047
Fees Outside Services	12,979	12,012	15,154	15,167	14,328	16,895	16,082	11,618	19,287	15,084	15,065	14,704	178,376
Employee HP	858	741	1,090	866	1,191	942	988	768	1,151	860	963	933	11,350

ナビゲーション・フローをカスタマイズして、表形式のカードを作成できます。


ナビゲーション・フローの全般的な情報は、カスタム・ナビゲーション・フローの設計を参照してください。

他の EPM Cloud 環境のタブおよびサブ・タブからなるカードを構成するには:

1. 「ナビゲーション・フロー」ページを開き、ナビゲーション・フローを作成するか、既存のナビゲーション・フローを編集します。


#### ノート:

ナビゲーション・フローを作成するには、最初に既存のナビゲーション・フローを選択し、そのコピーを作成する必要があります。その後、複製したナビゲーション・フローの詳細を編集して保存します。

- a. 「ツール」、「ナビゲーション・フロー」の順にクリックします。
- b. ナビゲーション・フローを作成するには、コピーするナビゲーション・フローを選択し、ページの右上隅にある  をクリックして、「コピーの作成」を選択します。ナビゲーション・フローの名前を入力し、「OK」をクリックします。


#### ノート:


新しいフローは、サービス管理者がアクティブにするまで「非アクティブ」に設定されます。ナビゲーション・フローをアクティブ化または非アクティブ化するには、「アクティブ」列で「アクティブ」または「非アクティブ」をクリックします。一度にアクティブにできるナビゲーション・フローは1つのみです。

- c. 既存のナビゲーション・フローを編集するには、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。
2. 様々なターゲット環境からのアーティファクトからなるタブ形式のカードを追加します。
    - a. 別の環境から既存のカードを追加する場合は、ナビゲーション・フロー・ページで、カードまたはクラスタを右クリック(または  をクリック)して「既存のカード/クラスタの追加」をクリックし、「自分の接続」でターゲット環境を選択し、ナビゲーション・フローに追加するカードを選択します。
 

次の点に注意してください。

      - Narrative Reporting および Profitability and Cost Management で、「既存のカード/クラスタの追加」オプションを使用して直接カードを選択することはできません。
      - 別のナビゲーション・フローまたは別の環境から追加されるカードには、ソース・ナビゲーション・フローで定義されたローカライズされたラベルが表示されます。ナビゲーション・フローでのカード・ラベルを更新するには、ホーム・ページで「ツール」、「アーティファクト・ラベル」の順にクリックします。
 

アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。
    - b. 表形式のカードをナビゲーション・フローに追加するには、「ナビゲーション・フロー」ページで、カードまたはクラスタを右クリック(または  をクリック)して「カードの追加」をクリックし、カードの詳細を選択します:

- **名前:** カードのラベルを入力します。
  - **表示可能:** ホーム・ページ上でカードをユーザーに表示するかどうかを選択します。
  - **クラスタ:** クラスタが存在する場合、カードのクラスタを選択するか、「なし」を選択します。
  - **アイコン:** 作成するカードについて表示するアイコンを選択します。アイコン・ライブラリで提供されている、使用可能なアイコンから選択してください。
  - **内容:** 次のオプションから選択します:
    - **ページ・タイプ:** 複数ページ(タブ形式)のフォーマットを選択します。
    - **向き:** 「垂直」または「水平」を選択します。
3. タブとサブ・タブを表形式のカードに追加します。
- a. 既存のタブを追加するには、タブを右クリックして「**既存タブの追加**」をクリック(または「**既存タブの追加**」ボタンをクリック)し、オブジェクト・ライブラリからタブを選択します。
  - b. 新しいタブを追加するには、タブを右クリックし、「**新規タブの追加**」をクリック(または「**新規タブの追加**」ボタンをクリック)して、タブの詳細を編集します。
  - c. タブを右クリックして「**新規サブ・タブの追加**」または「**既存サブ・タブの追加**」をクリック(または「**新規サブ・タブの追加**」または「**既存サブ・タブの追加**」ボタンをクリック)し、オブジェクト・ライブラリからサブ・タブを選択するか、サブ・タブの詳細を編集します。
  - d. 「**アーティファクト**」で、 をクリックして、アーティファクト・ライブラリでアーティファクトを選択します。たとえば、アーティファクトがフォームである場合、アーティファクトのリストから特定のフォームを選択します。使用可能なアーティファクトには、フォーム、ダッシュボード、レポートがあります。別の環境からアーティファクトを選択するには、「**自分の接続**」でターゲット環境を選択し、サブ・タブに追加するアーティファクトを選択します。
  - e. カードが完成するまで、タブとサブ・タブの追加を繰り返します。
4. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

#### ノート:

- カードに複数のタブまたはサブ・タブがある場合、同じセッションで次にそのカードにアクセスすると、ユーザーが前回アクセスしたタブが開きます。ユーザーがログアウトして再度ログインした場合には、デフォルトのタブが表示されます。
- 別のナビゲーション・フローまたは別の環境から追加されるタブまたはサブ・タブには、ソース・ナビゲーション・フローで定義されたローカライズされたラベルが表示されます。ナビゲーション・フローでのタブ・ラベルを更新するには、ホーム・ページで「**ツール**」、「**アーティファクト・ラベル**」の順にクリックします。

アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。

設計時の変更を表示するには、ナビゲーション・フローをリロードする必要があります。ナビゲーション・フローをリロードするには、下矢印をクリックします。次に、「設定およびアクション」メニューで「ナビゲーション・フローのリロード」をクリックします。

## Settings and Actions

[Reload Navigation Flow](#)

[Downloads...](#)

[Help...](#)

[Cloud Customer Connect](#)

[Provide Feedback...](#)

[Oracle Support...](#)

[About...](#)

[Sign Out](#)

ナビゲーション・フローのリロード後に参照されるアーティファクトが表示されない場合は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* オペレーション・ガイドのナビゲーション・フローに関する問題の処理を参照してください。

# 接続された環境を統合するためのダイレクト URL の使用

Oracle ERP Cloud などの他のソース・システムでは、URL を埋め込んで、接続された Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境内のカード、タブおよびサブタブに含まれるアーティファクトに直接リンクできます。

Oracle ERP Cloud などの他のクラウド環境では、ダイレクト URL リンクを使用して、フォーム、ダッシュボード、インフォレット、レポートなどの接続された EPM Cloud コンテンツを開きます。EPM Cloud と他のシステムとの統合をシームレスにするために、接続された EPM Cloud ビジネス・プロセス内のアーティファクトに対して一意の URL をコピーできます。次の 2 つの方法のいずれかで、一意の URL をコピーできます:

- ビジネス・プロセスのアーティファクトに対して個々の URL をコピーします。[個々の URL のコピー](#)を参照してください。
- ビジネス・プロセス内のすべての URL を CSV ファイルにエクスポートし、一意の URL を検索してコピーします。[CSV ファイルへのすべての URL のエクスポート](#)を参照してください。



## ビデオ

### 目的

ダイレクト・リンクを使用して、ERP Cloud や NetSuite などの他のシステムに EPM Cloud コンテンツを埋め込む方法を学習します。

### 次のビデオを視聴



概要: 直接リンクを使用したコンテンツの埋め込み

## 個々の URL のコピー

アーティファクト・リスト・ページの「**URL のコピー**」オプションを使用して、Oracle Enterprise Performance Management Cloud ビジネス・プロセスのアーティファクト (ダッシュボード、フォーム、インフォレットおよびレポート) の一意の URL をコピーします。

### Note:

「**URL のコピー**」はすべてのユーザーが使用できるため、アーティファクトへのダイレクト URL を共有できます。ただし、ターゲットのアーティファクトへのアクセス権を持つユーザーのみが、アーティファクトに対してアクションを実行できます。

アーティファクトの一意の URL をコピーするには:

1. ホーム・ページから、アーティファクトのリスト・ページを開きます。  
たとえば、「**ダッシュボード**」、「**データ**」、「**インフォレット**」または「**レポート**」をクリックします。
2. リスト・ページから、アーティファクトの横にある **...** をクリックし、「**URL のコピー**」を選択します。
3. 「**URL のコピー**」ダイアログに、アーティファクトの一意の URL が表示されます。URL をコピーします。

コピーされた URL は、無効になることがあります。無効な URL の原因として、次のようなことが考えられます:

- アーティファクトが削除された。
- アーティファクトのユーザー・アクセス権が取り消された。
- アーティファクトの名前が変更され、URL が機能しなくなった。
- アーティファクトが新しいフォルダに移動されて URL が新しくなり、URL が機能しなくなった。

## CSV ファイルへのすべての URL のエクスポート

「**URL のエクスポート**」オプションを使用して、接続された Oracle Enterprise Performance Management Cloud ビジネス・プロセス内のカード、タブまたはサブタブごとに一意の URL を提供する CSV ファイルを作成します。URL はナビゲーション・フローおよびクラスタごとにグループ化されているため、CSV ファイル内で URL を簡単に見つけることができます。テキスト・エディタまたは Microsoft Excel で CSV ファイルを開いて関連する URL をソース・システム・ページ内に埋め込み、EPM Cloud への起動ポイントとして使用できます。



EPM Cloud の URL を CSV ファイルにエクスポートするには:

1. EPM Cloud 環境にログインします。
2. ホーム・ページで、ユーザー名の横にある下矢印(画面の右上隅)をクリックします。
3. 「設定およびアクション」メニューで、「URL のエクスポート」、「保存」の順にクリックします。

CSV ファイルがローカル・マシンのデフォルトのダウンロード・フォルダに保存され、サーバーの現在の日付と時刻でファイル名が自動的に生成されます。例: 19\_Feb\_2021\_13\_15\_38 Navigation Flow URLs.csv。ダウンロード・フォルダでファイルを見つけ、テキスト・エディタまたは Microsoft Excel で開きます。

### エクスポートされた URL ファイルの表示

CSV ファイルには、ビジネス・プロセスのすべての URL がリストされます。各カード、タブ(垂直タブ)およびサブタブ(水平タブ)には一意の URL があります。メモ帳などのテキスト・エディタや Microsoft Excel に表示すると、カード、タブおよびサブタブごとに一意の URL が識別されるため、各アーティファクトの URL を簡単に見つけることができます。URL は、ナビゲーション・フロー別およびクラスタ別にグループ化されます。



#### Note:

カード、タブおよびサブタブにのみ URL があります。ナビゲーション・フローとクラスタには URL はありません。

Table 7-1 直接 URL エクスポート・ファイルのヘッダー

ヘッダー	説明
ナビゲーション・フロー名	たとえば、デフォルト、財務フローなど、ナビゲーション・フローの名前。
ステータス	たとえば、アクティブ、非アクティブなど、ナビゲーション・フローのステータス。
タイプ	たとえば、クラスタ、カード、タブ、サブタブなど、エントリのタイプ
名前	アーティファクトが含まれているクラスタ、カード、タブまたはサブタブの名前。アーティファクトを直接含まないクラスタまたはカードの場合、このエントリは空になります。
アーティファクト・タイプ	アーティファクトのタイプ。たとえば、フォーム、ダッシュボード、財務レポートおよび URL タイプのアーティファクト。

Table 7-1 (Cont.) 直接 URL エクスポート・ファイルのヘッダー

ヘッダー	説明
アーティファクト名	アーティファクトの名前、または URL タイプのアーティファクトの場合はターゲット・ページの直接 URL。
URL	これは、接続された環境の統合に使用する一意の URL です。
表示可能	ホーム・ページでナビゲーション・フローのアーティファクトが、ユーザーまたはグループに表示されるかどうかを示します(たとえ、Y または N)。
役割/グループ	ナビゲーション・フローを表示できる役割またはグループ。ナビゲーション・フローがグローバルの場合は、すべてのユーザーが表示できます。
説明	ナビゲーション・フローの説明(提供されている場合)。

**Caution:**

直接 URL が表示される場合は、この URL を接続環境の統合に使用する一意の URL と混同しないでください。

URL エクスポート・ファイルは、垂直棒またはパイプ(|)区切り文字で区切られた情報を提供します。メモ帳に表示された、次の直接 URL エクスポート・ファイルの例を参照してください:

```

Navigation Flow Name[Status]Type[Name]Artifact Type[Artifact Name]URL[Visible]Role/Group[Description]
Dashboard 2.0 Test Inactive|cluster|Strategic Modeling|111|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|card|Model View|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|card|Consolidation View|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|card|Template|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|card|Task|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|card|Dashboard|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|card|Interact|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|card|Data|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|card|Reports|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|tab|Reports|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|tab|Financial Reports|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|tab|Documents|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|card|Rules|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|card|Approvals|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|card|Requests|1|1|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|card|Overview|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|card|Valid Interactions|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|sub|tab|Setup|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|sub|tab|Reports|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|card|Data Exchange|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|sub|tab|Data Integration|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|sub|tab|Data Maps|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|card|Data|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive|card|Cell Level Security|1|https://abc123.us271.oraclecloud.com:10131/NavigationPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_Page_ID=EM_C1_22-EM_CA_131|1|Global|Default Navigation Flow
    
```

URL エクスポート・ファイルを Microsoft Excel で表示するには:

1. Excel を開き、「データ」メニューをクリックします。
2. 「新しいクエリ」、「ファイルから」の順にクリックし、「CSV から」をクリックします。
3. エクスポートした CSV ファイルを見つけて選択し、「インポート」をクリックします。新しいウィンドウに CSV ファイルのデータが表示されます。
4. CSV ファイルの最初の行をヘッダー行にするには、「編集」、「1 行目をヘッダーとして使用」の順にクリックし、「閉じて読み込む」をクリックします。

結果の Excel ファイルは次の例のようになります:

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	Navigation Flow Name	Status	Type	Name	Artifact Type	Artifact Name	URL	Visible	Role/Group	Description
2	Dashboard 2.0 Test	Inactive	cluster	Strategic Modeling				Y	Global	Default Navigation Flow
3	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Model View			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
4	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Consolidation View			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
5	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Templates			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
6	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Tasks			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
7	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Dashboards			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
8	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Infolets			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
9	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Data			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
10	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Reports			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
11	Dashboard 2.0 Test	Inactive	tab	Reports			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
12	Dashboard 2.0 Test	Inactive	tab	Financial Reports			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
13	Dashboard 2.0 Test	Inactive	tab	Documents			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
14	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Rules			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
15	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Approvals			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
16	Dashboard 2.0 Test	Inactive	cluster	Application				Y	Global	Default Navigation Flow
17	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Overview			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
18	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Settings			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
19	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Valid Intersections			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
20	Dashboard 2.0 Test	Inactive	sub tab	Setup			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
21	Dashboard 2.0 Test	Inactive	sub tab	Reports			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
22	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Data Exchange			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
23	Dashboard 2.0 Test	Inactive	sub tab	Data Integration			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
24	Dashboard 2.0 Test	Inactive	sub tab	Data Maps			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
25	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Jobs			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow
26	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Cell Level Security			http://s1car261.usdv1.oraclecloud.com:10151/HyperionPlanning?EY	Y	Global	Default Navigation Flow

他の接続された環境に統合するカード、タブまたはサブタブの一意の URL (URL 列にあります) を見つけてコピーします。URL ターゲットのみが開き、ターゲット・アーティファクトにアクセスできるユーザーは、ターゲット・ビジネス・プロセス内で作業している場合と同じアクションを実行できます。

# 8

## カスタム・ナビゲーション・フローの設計

ナビゲーション・フローを使用してビジネス・プロセス・インタフェースをカスタマイズします。ナビゲーション・フローによって、設計者は、役割またはグループがビジネス・プロセスと対話する方法を制御できます。


### 次も参照:

- [ナビゲーション・フローの理解](#)
- [ナビゲーション・フローの表示と操作](#)

## ナビゲーション・フローの理解

ビジネス・プロセス設計者は、ナビゲーション・フローによって、各種の役割またはグループがビジネス・プロセスと対話する方法を制御できます。ナビゲーション・フロー・デザイナーを使用すると、ビジネス・プロセス・インタフェースをカスタマイズできます。たとえば、ホーム・ページに表示されるカードとクラスタの名前および表示順序を変更できます。カードを非表示にし、新しいカードを作成し、カードをクラスタにグループ化できます。カードに表示される垂直タブと水平タブをカスタマイズすることもできます。

### ビデオ

目的	次のビデオを視聴
接続された環境のワークフローのカスタマイズに関する概要を確認します。	 <a href="#">概要: EPM Cloud ビジネス・プロセスを統合するためのナビゲーション・フローの構成</a>

### 関連トピック

- [ビジネス・プロセス・インタフェースでカスタマイズできる内容](#)
- [ナビゲーション・フローのカスタマイズ・カテゴリ](#)
- [ナビゲーション・フローの権限](#)
- [事前定義済みのナビゲーション・フロー](#)
- [ナビゲーション・フローの表示と操作](#)

## ビジネス・プロセス・インタフェースでカスタマイズできる内容

ナビゲーション・フローはカードで構成されます。それぞれのカードにはコンテンツが含まれ、情報が1つ以上のタブ付きのページとして表示されます。カードに含まれるコンテンツは、URL である場合もあれば、フォーム、ダッシュボード、レポートなどのアーティファクトである場合もあります。カードをクラスタにグループ化できます。

 ノート:

ダッシュボード 2.0 およびフォーム 2.0 がビジネス・プロセスで有効になっている場合:

- ナビゲーション・フローでは、ランタイム・ダッシュボード内からフォームを編集する機能や、データありまたはデータなしでダッシュボードを編集する機能など、ダッシュボード 2.0 およびフォーム 2.0 に含まれる機能がサポートされます。「**フォームを開く**」や「**フォームの編集**」など、ダッシュボード 2.0 のコンポーネント・アクションもナビゲーション・フロー内で直接機能します。
- ダッシュボードに複数のコンポーネントが含まれている場合、ナビゲーション・フロー内からダッシュボードを編集するときには、ダッシュボード内の最後のコンポーネントにフォーカスが設定されます。

ナビゲーション・フローは、次の方法でカスタマイズできます:

- カードまたはタブのラベル
- カードまたはタブに使用されるアイコン
- カードおよびタブの表示と非表示の切替え
- カードおよびタブの表示順
- 新しいカードの追加
- 既存のカードの追加
- 新しい水平タブまたは垂直タブの追加
- ナビゲーション・フロー、カードおよびタブの削除
- クラスタへのカードのグループ化
- 既存のクラスタの追加

[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。

## ナビゲーション・フローのカスタマイズ・カテゴリ

ナビゲーション・フローは、カスタマイズにおいて次のようにカテゴリ化されます。

1. **グローバル:** ナビゲーション・フローは、すべてのユーザーに表示されます
2. **役割:** ナビゲーション・フローは、サービス管理者やパワー・ユーザーなど、特定の役割のユーザーのみに表示されます
3. **グループ:** ナビゲーション・フローは、販売など、特定のグループに属するユーザーのみに表示されます

ナビゲーション・フローはこれらのいずれかのレベルで定義できます。ナビゲーション・フローが複数のレベルに存在する場合、更新は最も高いレベル(グローバル)から最も低いレベル(グループ)の順に適用されます。

たとえば、ホーム・ページで"マイ・タスク"という名前のアイコンを表示するナビゲーション・フローを作成し、別のサービス管理者がこのナビゲーション・フローを複製

し、カードに対して次の変更を加え、ナビゲーション・フローをグループに関連付けるとします。

- グローバル・レベルで、"マイ・タスク"を"会社のタスク"という名前に変更します
- グループ・レベルで、販売という名前のグループに対して、"マイ・タスク"を"販売のタスク"という名前に変更します

販売と呼ばれるグループに属するユーザーには、ナビゲーション・フローで"マイ・タスク"ではなくラベル"販売のタスク"が表示され、他のすべてのユーザーにはラベル"会社のタスク"が表示されます。

## ナビゲーション・フローの権限

ビジネス・プロセスでは、ナビゲーション・フローについて次の 3 レベルの権限があります。

- 役割ベース: 権限は、特定の役割に割り当てられたユーザーまたはグループに付与されます。たとえば、ユーザーのホーム・ページには、サービス管理者とは異なるカードが表示されます
- アーティファクトベース: 権限は、特定のアーティファクトを表示できるユーザーまたはグループに付与されます。たとえば、ユーザーには、権限が割り当てられているフォームのみが表示されます
- グローバル: 権限は、すべてのユーザーに付与されます

## 事前定義済みのナビゲーション・フロー

ビジネス・プロセスには、デフォルトと呼ばれる 1 つの事前定義済ナビゲーション・フローがあります。デフォルト・ナビゲーション・フローは読取り専用であり、変更できません。

デフォルト・ナビゲーション・フローに対して実行できる操作と実行できない操作は次のとおりです。

- 名前: 名前は変更できません。
- 削除: ナビゲーション・フローは削除できません。
- 編集: ナビゲーション・フローの詳細を表示できますが、変更はできません。
- アクティブ化または非アクティブ化: ナビゲーション・フローをアクティブ化または非アクティブ化できます。
- 複製: ナビゲーション・フローのコピーを作成できます。

## インポート後のナビゲーション・フロー・ステータスの理解

アクティブなナビゲーション・フローを含むスナップショットを、同じカテゴリ(役割、グループまたはグローバル)のアクティブなナビゲーション・フローを含む環境にインポートする場合、インポートされる新しいナビゲーション・フローは非アクティブ化されます。

たとえば、次のナビゲーション・フローはシステムで現在アクティブです:

- NF Sales Q2 (販売グループ)
- NF Administrator (サービス管理者役割)
- NF Custom Default (グローバル)

NF Sales Q3 (NF Sales Q2 と同じ販売グループを使用する)というナビゲーション・フローをインポートするとします。NF Sales Q3 ナビゲーション・フローは非アクティブとしてインポートされ、販売グループの既存の NF Sales Q2 はアクティブのままになります。新しい NF Sales Q3 をアクティブにする場合は、手動でアクティブ化する必要があります(これにより、古い NF Sales Q2 が非アクティブ化されます)。インポートは Q3 の開始日より前に行われる可能性があるため、インポートされる Q3 ナビゲーション・フローを非アクティブ化し、Q3 ナビゲーション・フローが Q3 の開始日より前にアクティブ化されないようにする必要があります。

新しいアプリケーションが、アクティブなカスタム・グローバル・ナビゲーション・フロー(NF Custom など)を含む移行スナップショットから作成される場合、NF Custom グローバル・ナビゲーション・フローは移行のインポート後に非アクティブになります。アプリケーションがクローニングされた場合も同様です。デフォルトのグローバル・ナビゲーション・フローがアクティブなグローバル・ナビゲーション・フローになり、新しいアプリケーションが作成された後にグローバルの NF Custom ナビゲーション・フローをアクティブ化する必要があります。すべてのユーザーが NF Custom グローバル・ナビゲーション・フローを使用している場合は、NF Custom ナビゲーション・フローがアクティブ化されるまでサービスが中断される可能性があります。

ナビゲーション・フローを設計する場合:

- ユーザーの特定のグループまたはクラスに対してナビゲーション・フローを作成します。次に、ナビゲーション・フローを対応するユーザー・グループに関連付けます。
- すべてのユーザーに対して 1 つのグローバル・ナビゲーション・フローを作成することは避けてください。

## ナビゲーション・フローの表示と操作

サービス管理者の役割が割り当てられたユーザーは、「ナビゲーション・フロー」ページで、事前定義済ナビゲーション・フローを含むすべてのナビゲーション・フローを表示できます。他の役割およびグループに割り当てられたユーザーには、アクセス権のあるナビゲーション・フローのみが表示されます。

「ナビゲーション・フロー」ページには、各ナビゲーション・フローが名前別に一覧表示され、ナビゲーション・フローにアクセスできる役割またはグループ(割り当てられている場合)、およびナビゲーション・フローの説明(提供されている場合)が示されます。リストには、ナビゲーション・フローがアクティブであるかどうかを示されます。

### ナビゲーション・フローの表示

「ナビゲーション・フロー」ページを表示するには:


1. ホーム・ページで、「ツール」をクリックします。
2. 「ナビゲーション・フロー」をクリックします。

### ナビゲーション・フローの操作

ナビゲーション・フローを操作するには、次のアクションを実行します。

- 設計のベスト・プラクティスと考慮事項は、[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項](#)を参照してください。



- ナビゲーション・フローを作成および複製するには、[ナビゲーション・フローの作成と複製](#)を参照してください。
- ナビゲーション・フローを編集するには、[ナビゲーション・フローの編集](#)を参照してください。
- ナビゲーション・フローをアクティブ化または非アクティブ化するには、[ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化](#)を参照してください。
- ナビゲーション・フローを検証し、アーティファクトが欠落しているナビゲーション・フロー要素を検出して解決する方法を学習するには、[ナビゲーション・フローでの検証を使用した欠落アーティファクトの検出](#)を参照してください。
- リストで警告アイコン  が表示されているナビゲーション・フローを解決するには、[警告アイコンが表示されたナビゲーション・フローの解決](#)を参照してください。
- カードおよびタブの名前を変更するには、[カード、タブおよびクラスタのラベルのカスタマイズ](#)を参照してください。
- カードおよびタブに使用されるグラフィックをカスタマイズするには、[カードおよび垂直タブのアイコンのカスタマイズ](#)を参照してください。
- カードおよびタブの表示と非表示を切り替えるには、[クラスタ、カードおよびタブの表示と非表示](#)を参照してください。
- ホーム・ページでカードの表示順を変更するには、[ホーム・ページ上のカードの表示順序の変更](#)を参照してください。
- カードを追加するには、[カードの追加](#)を参照してください。
- タブを追加するには、[表形式ページへのタブの追加](#)を参照してください。
- ナビゲーション・フロー、カードおよびタブを削除するには、[ナビゲーション・フロー、カードおよびタブの削除](#)を参照してください。
- カードをクラスタにグループ化するには、[クラスタへのカードのグループ化](#)を参照してください。

### トラブルシューティング

ナビゲーション・フローの問題を解決する方法の詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド*のナビゲーション・フローに関する問題の処理を参照してください。

## ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項

### ベスト・プラクティスの設計

最適なユーザー操作を提供し、ホーム・ページおよびカードやタブでの過度のスクロールを避けるには、ナビゲーション・フローの設計時に次のガイドラインに従う必要があります：

- 最上位レベルのアイテム(カードおよびクラスタ)では、表示可能アイテムは 16 個以下に抑えます。
- 16 個以下の表示可能カードをクラスに追加します。
- 10 個以下の表示可能な垂直タブをカード内に追加します。
- 20 個以下の表示可能サブ・タブ(水平タブ)を垂直タブ内に追加します。



- 実行時にサブ・タブ(水平タブ)のラベル名は、最初の 30 文字のみが表示されます。タブにカーソルを置くと、ラベル全体が表示されます。

 **Note:**

表示可能な制限を超えようとすると、制限を超えたことを通知する警告メッセージが表示されます。

### 命名の考慮事項


ナビゲーション・フローおよびナビゲーション・フロー内のカード、クラスタ、タブ、インフォレット(ビジネス・プロセスでインフォレットを使用する場合)には命名規約があります。次の特殊文字は使用できません。

- アンパサンド(&)
- 小なり記号(<)
- 大なり記号(>)
- 引用符(")
- 円記号(バックスラッシュ)(\)
- プラス記号(+)

## ナビゲーション・フローの作成と複製

ナビゲーション・フローを作成するには、最初に既存のナビゲーション・フローを選択し、そのコピーを作成する必要があります。その後、複製したナビゲーション・フローの詳細を編集して保存します。

ナビゲーション・フローを作成および複製するには:

1. 「**ナビゲーション・フロー**」 ページを開きます。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. ページの右上隅で  をクリックし、「**コピーの作成**」を選択します。
3. ナビゲーション・フローの名前を入力し、「**OK**」をクリックします。

 **ノート:**

必ず、[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項](#)に記載されているナビゲーション・フローの命名規則に従ってください。

4. ナビゲーション・フローの詳細を編集します。[ナビゲーション・フローの編集](#)を参照してください。

 **ノート:**

新しいフローは、サービス管理者がアクティブにするまで「**非アクティブ**」に設定されます。ナビゲーション・フローをアクティブにするには、[ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

## ナビゲーション・フローの編集


ナビゲーション・フローを編集するには:

1. 「**ナビゲーション・フロー**」 ページを開きます。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. 編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。

 **ノート:**

事前定義済のナビゲーション・フローは編集できません。ただし、事前定義済のナビゲーション・フローのコピーを作成し、そのコピーを編集することは可能です。[事前定義済のナビゲーション・フロー](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローには、カードおよびクラスタがリストされたページが表示されます。このページで、ルールまたはグループの割当の編集、ホーム・ページに表示するクラスタおよびカードの指定、ナビゲーション・フローのクラスタおよびカードの表示順序の変更、クラスタに対するカードの追加または削除、およびナビゲーション・フローからのクラスタおよびカードの削除を実行できます。

- **割当先:**  をクリックして、ユーザーのグループまたは役割にナビゲーション・フローを割り当てます。
- **表示可能:** 「**表示可能**」列でナビゲーション・フローのクラスタおよびカードを選択するか、選択を解除して、ホーム・ページにおけるそれらの表示の可否を編集します。

 **ノート:**

必ず、[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項](#)に記載されている、表示に関するナビゲーション・フローのガイドラインに従ってください。

- **順序:** クラスタおよびカードが、ホーム・ページ上に表示される順序でリストされます(表示可能な場合)。上矢印または下矢印オプションを選択すると、リスト内でクラスタおよびカードの位置が変わり、ホーム・ページ上のクラスタおよびカードの表示順序が変更されます。右矢印を選択すると、カードがクラスタに移動します。
- **削除:** ナビゲーション・フローからクラスタまたはカードを削除します。

3. 詳細を編集するクラスタまたはカードをクリックします。カードの詳細は、次のトピックを参照してください:
  - [カードの追加](#)
  - [表形式ページへのタブの追加](#)

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

## ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化

各カテゴリ(グローバル、役割またはグループ)について複数のナビゲーション・フローを作成できますが、各カテゴリでアクティブにできるナビゲーション・フローは1つのみです。ナビゲーション・フローをアクティブにすると必ず、同じカテゴリ内の他のナビゲーション・フローは非アクティブになります。

### ノート:

各ビジネス・プロセスには、アクティブなグローバル・ナビゲーション・フローが1つが必要です。異なるグローバル・ナビゲーション・フローをアクティブにするには、別のグローバル・ナビゲーション・フローを選択し、それをアクティブ化してください。

カテゴリの詳細は、[ナビゲーション・フローのカスタマイズ・カテゴリ](#)を参照してください。


アクティブなナビゲーション・フローに対してユーザーが実行できる操作と実行できない操作は次のとおりです。

- 名前: ユーザーは名前を変更できません。
- 削除: ユーザーはナビゲーション・フローを削除できません。
- 編集:
  - ユーザーはナビゲーション・フローの定義を表示できますが、何も変更できません。
  - ビジネス・プロセスが管理モードになっている場合、ユーザーは変更を保存できます。
- アクティブ化または非アクティブ化: ユーザーはナビゲーション・フローをアクティブ化または非アクティブ化できます。
- 複製: ユーザーはナビゲーション・フローのコピーを作成できます。


ナビゲーション・フローをアクティブまたは非アクティブにするには:

1. 「**ナビゲーション・フロー**」 ページを開きます。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. 「**アクティブ**」列で、「**アクティブ**」または「**非アクティブ**」をクリックします。アクティブなフローは非アクティブに設定されます。逆に、非アクティブなフローはアクティブに設定されます。




## ナビゲーション・フローでの検証を使用した欠落アーティファクトの検出

ナビゲーション・フローのリストを表示しているときに、ナビゲーション・フローのノードまたはアーティファクトにエラー・アイコン  が表示される場合があります。このエラーは、ナビゲーション・フローに関連付けられたアーティファクトの名前が変更されたか、またはアーティファクトが削除され、現在は欠落とみなされているために発生します。ナビゲーション・フローを編集して名前変更したアーティファクトまたは別のアーティファクトに関連付けてから、ナビゲーション・フローをアクティブにする必要があります。アーティファクトが欠落とみなされていることを認識できない場合があるため、ナビゲーション・フローを検証してから「アクティブ」ステータスに設定することをお勧めします。

### Note:


警告アイコン  が表示されているナビゲーション・フローを解決するには、[警告アイコンが表示されたナビゲーション・フローの解決](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローを検証して、欠落しているアーティファクトを検出して再度関連付けるには:


1. 「**ナビゲーション・フロー**」 ページを開きます。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. まだ非アクティブ化されていない場合は、検証するナビゲーション・フローを「**非アクティブ**」ステータスに設定します。[ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化](#)を参照してください。
3. 検証するナビゲーション・フローの行(1行または複数)を強調表示します。
4.  をクリックして、「**検証**」を選択します。  
アーティファクトが欠落している場合は、検出できないアーティファクトをナビゲーション・フローが参照していることを示すエラー・メッセージが表示されます。
5. エラーが発生した各ナビゲーション・フローの名前をクリックし、欠落しているアーティファクトが表示される「**管理**」ページに到達するまで、エラー・アイコン  が表示されたノードを展開します。
6. 「**アーティファクト**」で、 をクリックし、名前変更したアーティファクトまたは別のアーティファクトをアーティファクト・ライブラリで選択します。
7. 「**保存して閉じる**」をクリックします。
8. ナビゲーション・フローが有効であることを示すメッセージが表示されるまで、ナビゲーション・フローで検証を繰り返し、必要に応じてドリルダウンして修正を行います。
9. ナビゲーション・フローをアクティブにします。[ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。



## 警告アイコンが表示されたナビゲーション・フローの解決

ナビゲーション・フローのリストを表示しているときに、ナビゲーション・フローに警告アイコン  が表示される場合があります。これは、ナビゲーション・フローに関連付けられていたグループが削除されているために発生します。ナビゲーション・フローを編集してグループまたは役割に関連付けてから、ナビゲーション・フローをアクティブにする必要があります。

### Note:

エラー・アイコン  が表示されているナビゲーション・フローを解決するには、[ナビゲーション・フローでの検証を使用した欠落アーティファクトの検出](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローを解決するには:

1. 「[ナビゲーション・フロー](#)」 ページを開きます。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. 警告アイコン  が表示されているナビゲーション・フローの名前をクリックします。
3. 「[割当先](#)」の  をクリックして、ユーザーのグループまたは役割にナビゲーション・フローを割り当て、「[保存して閉じる](#)」をクリックします。
4. ナビゲーション・フローをアクティブにします。[ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

## カード、タブおよびクラスタのラベルのカスタマイズ

カード(ホーム・ページに表示されるアイコン)、タブおよびクラスタのラベルをカスタマイズできます。ラベルは、25 文字以下に制限されています。垂直タブの場合、垂直タブのラベルはホバー・テキストとして表示されるため、文字数の制限はありません。

### ノート:

デフォルト・ナビゲーション・フローに対してカード、タブまたはクラスタのラベルを更新しないでください。カスタム・ナビゲーション・フローについてのみラベルをカスタマイズしてください。

カード、タブおよびクラスタのラベルをカスタマイズするには:

1. 「[ナビゲーション・フロー](#)」 ページを開き、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。

2. カードまたはクラスタのラベルをカスタマイズする場合:
  - a. 編集するカードまたはクラスタの名前をクリックします。
  - b. 新しい名前を入力し、それを保存します。

 ノート:

- このラベルはここで編集できます。ただし、ラベルが「ツール」クラスタの「**アーティファクト・ラベル**」ページで定義されている場合は、その定義が優先され、実行時に表示されます。ラベルを完全に変更するには、「**アーティファクト・ラベル**」ページで再定義してください。  
アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。
- 必ず、[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項](#)に記載されている命名規則に従ってください。

3. タブのラベルをカスタマイズする場合:
  - a. 編集するカードの名前をクリックします。
  - b. 「**タブの管理**」ページのタブ・リストで、編集するタブの名前をクリックします。
  - c. タブの新しい名前を入力し、それを保存します。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

## カードおよび垂直タブのアイコンのカスタマイズ

カードおよび垂直タブで使用されているアイコンを変更できます。アイコン・ライブラリで提供されている使用可能なアイコンから選択する必要があります。

カードおよび垂直タブのアイコンをカスタマイズするには:

1. 「**ナビゲーション・フロー**」ページを開き、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. カードのアイコンをカスタマイズする場合:
  - a. 編集するカードの名前をクリックします。
  - b. カードのアイコンをクリックし、ライブラリから新しいアイコンを選択して、それを保存します。
3. タブのアイコンをカスタマイズする場合:
  - a. 編集するアイコンの名前をクリックします。
  - b. 「**タブの管理**」ページのタブ・リストで、編集するタブの名前をクリックします。
  - c. タブのアイコンをクリックし、ライブラリから新しいアイコンを選択して、それを保存します。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

## クラスタ、カードおよびタブの表示と非表示

次のナビゲーション要素は非表示にできません。

- 「アプリケーション」クラスタおよび「アプリケーション」クラスタ内の「設定」アイコン。
- 「ツール」クラスタおよび「ツール」クラスタ内のこれらのアイコン。
  - アクセス制御
  - ナビゲーション・フロー
  - 日次メンテナンス
  - 移行

ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項に記載されている表示に対するナビゲーション・フローのガイドラインに従ってください。

クラスタ、カードおよびタブを表示および非表示にするには:

1. 「ナビゲーション・フロー」アイコンをクリックし、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. ナビゲーション・フローのクラスタおよびカードのホーム・ページの表示は、「表示可能」列でそれらを選択または選択解除することで編集します。
3. タブを表示または非表示にする場合:
  - a. 編集するカードの名前をクリックします。
  - b. 「タブの管理」ページのタブ・リストで、「表示可能」列のチェック・ボックスを選択または選択解除します。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

## ホーム・ページ上のカードの表示順序の変更

ナビゲーション・フロー・デザイナーでカードの表示順序を変更できます。カードは、リスト内に表示される順序でホーム・ページ上に表示されます。

ホーム・ページ上のカードの表示順序を変更するには:

1. 「ナビゲーション・フロー」ページを開きます。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. リスト内で、「順序」列の上矢印および下矢印を使用して、ナビゲーション・フローの順序内でカードを上下に移動します。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

## カードの追加

ホーム・ページに表示されるアイコンはカードを表します。カードは、ビジネス・プロセスの各機能領域に固有です。各カードをクリックすると、ユーザーは対応する領

域に移動し、他の情報が 1 つ以上のタブ付きのページとして表示されます。単一ページまたは複数ページ(タブ形式)のカードを作成できます。

最適なユーザー・エクスペリエンスを確保するために、ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスを確認してください。[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項](#)を参照してください。

カードをクラスタにグループ化することもできます。[クラスタへのカードのグループ化](#)を参照してください。

カードをナビゲーション・フローに追加するには:

1. 「**ナビゲーション・フロー**」 ページを開き、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. 既存のカードをナビゲーション・フローに追加するには、リスト内のカードまたはクラスタを右クリック(または **+** をクリック)し、「**既存のカード/クラスタの追加**」をクリックして、カードを選択します。別の環境から既存のカードを追加する場合は、リスト内のカードまたはクラスタを右クリック(または **+** をクリック)し、「**既存のカード/クラスタの追加**」をクリックして、「**自分の接続**」でターゲット環境を選択し、ナビゲーション・フローに追加するカードを選択します。

次の点に注意してください。

- Narrative Reporting および Profitability and Cost Management で、「**既存のカード/クラスタの追加**」 オプションを使用して直接カードを選択することはできません。
- 別のナビゲーション・フローまたは別の環境から追加されるカードには、ソース・ナビゲーション・フローで定義されたローカライズされたラベルが表示されます。ナビゲーション・フローでのカード・ラベルを更新するには、ホーム・ページで「**ツール**」、「**アーティファクト・ラベル**」の順にクリックします。  
アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。
- 参照カードは、別のナビゲーション・フローからすでに参照されているカードです。すでに参照されているカードへの参照は、ナビゲーション・フローではサポートされず、既存のカードを追加する際にオブジェクト・ライブラリで選択できません。例:
  - リモート・アーティファクトまたはリモート・タブを参照するカードは、既存のカードを追加する際にオブジェクト・ライブラリから使用できなくなります。
  - 別のナビゲーション・フローからのタブを参照するカードは、既存のカードを追加する際にオブジェクト・ライブラリから使用できなくなります。

カードは、現在選択されているカードまたはクラスタの下に兄弟としてリストに追加されます。クラスタにカードを追加するには、[クラスタへのカードのグループ化](#)を参照してください。


#### ノート:

最初にカードまたはクラスタを選択せずに追加されたカードは、リストの最後に追加されます。

3. 新しいカードをナビゲーション・フローに追加するには、リスト内のノードを右クリック(または **+** をクリック)し、「**カードの追加**」をクリックして、新しいカードの詳細を選択します:



表 8-1 新しいカードの詳細

ラベル	説明
名前	カードのラベルを入力します。 必ず、 <a href="#">ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項</a> に記載されている命名規則に従ってください。
表示可能	ホーム・ページ上でカードをユーザーに表示するかどうかを選択します。
クラスタ	クラスタが存在する場合、カードのクラスタを選択するか、「なし」を選択します。
アイコン	作成するカードについて表示するグラフィックを選択します。グラフィック・ライブラリで提供されている、使用可能なグラフィックから選択してください。
ページ・タイプ コンテンツ・ソース	「 <b>単一ページ</b> 」または「 <b>表形式ページ</b> 」形式を選択します。 「 <b>単一ページ</b> 」形式を選択した場合は、「 <b>アーティファクト</b> 」または「 <b>URL</b> 」を選択します： <ul style="list-style-type: none"> <li>「<b>アーティファクト</b>」で、 をクリックして、アーティファクト・ライブラリでアーティファクトを選択します。たとえば、アーティファクトがフォームである場合、アーティファクトのリストから特定のフォームを選択します。使用可能なアーティファクトには、フォーム、ダッシュボード、レポートがあります。別の環境からアーティファクトを選択するには、「<b>自分の接続</b>」でターゲット環境を選択し、追加するアーティファクトを選択します。</li> <li>「<b>URL</b>」で、完全な URL を入力します。たとえば、Oracle Analytics Cloud ダッシュボードをカードに埋め込む URL で、「<b>プレビュー</b>」をクリックして、ポップアップ・ウィンドウの URL を検証します。 <code>https://セキュリティ・プロトコルで始まる外部サイトの URL のみを挿入します。内部または相対 URL や、同意していないサード・パーティ・サイトの URL を使用しないでください。URL を使用した EPM Cloud アプリケーションへのサード・パーティ・ページの埋込みについてを参照してください。</code></li> </ul>
向き	「 <b>表形式ページ</b> 」形式を選択した場合は、「 <b>垂直</b> 」または「 <b>水平</b> 」を選択し、新規または既存のタブおよびサブ・タブを追加します。 <a href="#">表形式ページへのタブの追加</a> を参照してください。

カードは、現在選択されているカードまたはクラスタの下に兄弟としてリストに追加されます。クラスタにカードを追加するには、[クラスタへのカードのグループ化](#)を参照してください。

 **ノート:**

最初にカードまたはクラスタを選択せずに追加されたカードは、リストの最後に追加されます。

4. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

## 表形式ページへのタブの追加

タブは水平または垂直方向にすることができます。たとえば、「**有効な交差**」カード(「**アプリケーション**」クラスタの下)は、2 つの水平タブ(「**セットアップ**」および「**レポート**」)がある表形式ページです。

### ノート:

レッドウッド・エクスペリエンスが有効になっている場合、「**設定**」タブと「**レポート**」タブはページの下部にあります。

垂直タブのある表形式ページも作成できます。垂直タブにはグラフィックが表示され、カーソルをタブに置くと、テキストが表示されます。水平タブには、テキストのみまたはアイコン付きのテキストのラベルが表示されます。

最適なユーザー・エクスペリエンスを確保するために、ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスを確認してください。[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項](#)を参照してください。

表形式ページにタブを追加するには:

1. 「**ナビゲーション・フロー**」 ページを開き、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. 編集するカードの名前をクリックして既存のカードを編集するか、またはカードを右クリック(または **+** をクリック)し、「**カードの追加**」をクリックして新しいカードを追加します。
3. 「**カードの管理**」 ページで、次のオプションを選択します:
  - 「**ページ・タイプ**」で、「**表形式ページ**」を選択します。
  - 「**向き**」で、「**垂直**」または「**水平**」を選択します。

「**カードの管理**」 ページの下部にタブ・リストが表示されます。
4. 既存のタブを閉じるには、タブ・リストでタブ名をクリックするか、タブの詳細を編集します。
5. 新規または既存のタブを追加するには:
  - a. 既存のタブを追加するには、「**カードの管理**」 ページの下部にあるリスト内のタブを右クリックし、「**既存タブの追加**」をクリック(または「**既存タブの追加**」 ボタンをクリック)して、オブジェクト・ライブラリからタブを選択し、「**OK**」をクリックします。


 ノート:

参照タブは、別のナビゲーション・フローからすでに参照されているタブです。すでに参照されているタブへの参照は、ナビゲーション・フローではサポートされず、既存のタブを追加する際にオブジェクト・ライブラリで選択できません。例:

- リモート・アーティファクトまたはリモート・サブ・タブを参照するタブは、既存のタブを追加する際にオブジェクト・ライブラリから使用できなくなります。
- 別のナビゲーション・フローからのサブ・タブを参照するタブは、既存のタブを追加する際にオブジェクト・ライブラリから使用できなくなります。

b. 新しいタブを追加するには、タブを右クリックし、「**新規タブの追加**」をクリック(または「**新規タブの追加**」ボタンをクリック)して、タブの詳細を編集します。

c. 新しいタブの内容を選択します:

- 「**アーティファクト**」で、 をクリックして、アーティファクト・ライブラリでアーティファクトを選択します。たとえば、アーティファクトがフォームである場合、アーティファクトのリストから特定のフォームを選択します。使用可能なアーティファクトには、フォーム、ダッシュボード、レポートがあります。別の環境からアーティファクトを選択するには、「**自分の接続**」でターゲット環境を選択し、追加するアーティファクトを選択します。
- 「**URL**」で、完全な URL を入力します。たとえば、Oracle Analytics Cloud ダッシュボードをタブに埋め込む URL で、「**プレビュー**」をクリックして、ポップアップ・ウィンドウの URL を検証します。

https://セキュリティ・プロトコルで始まる外部サイトの URL のみを挿入します。内部または相対 URL や、同意していないサード・パーティ・サイトの URL を使用しないでください。[URL を使用した EPM Cloud アプリケーションへのサード・パーティ・ページの埋込みについて](#)を参照してください。

タブは、現在選択されているタブの下に兄弟としてリストに追加されます。


 ノート:

最初にタブを選択せずに追加されたタブは、リストの最後に追加されます。

6. 新規または既存のサブ・タブをタブに追加するには:

- a. タブ・リストでタブの名前をクリックします。
- b. 「**ページ・タイプ**」で、「**表形式ページ**」を選択します。
- c. タブを右クリックし、「**新規サブ・タブの追加**」または「**既存サブ・タブの追加**」をクリック(または「**新規サブ・タブの追加**」または「**既存サブ・タブの追加**」ボタンをクリック)して、サブ・タブの詳細を編集します。

d. 新規サブ・タブの内容を選択します:

- 「**アーティファクト**」で、 をクリックして、アーティファクト・ライブラリでアーティファクトを選択します。たとえば、アーティファクトがフォームである場合、アーティファクトのリストから特定のフォームを選択します。使用可能なアーティファクトには、フォーム、ダッシュボード、レポートがあります。別の環境からアーティファクトを選択するには、「**自分の接続**」でターゲット環境を選択し、追加するアーティファクトを選択します。
- 「**URL**」で、完全な URL を入力します。たとえば、Oracle Analytics Cloud ダッシュボードをサブ・タブに埋め込む URL です。「**プレビュー**」をクリックして、ポップアップ・ウィンドウの URL を検証します。

https://セキュリティ・プロトコルで始まる外部サイトの URL のみを挿入します。内部または相対 URL や、同意していないサード・パーティ・サイトの URL を使用しないでください。URL を使用した EPM Cloud アプリケーションへのサード・パーティ・ページの埋込みについてを参照してください。

サブ・タブは、現在選択されているタブの下に兄弟としてリストに追加されます。

#### ノート:

最初にタブを選択せずに追加されたサブ・タブは、リストの最後に追加されます。

7. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

#### ノート:

- カードに複数のタブまたはサブ・タブがある場合、同じセッションで次にそのカードにアクセスすると、ユーザーが前回アクセスしたタブが開きます。ユーザーがログアウトして再度ログインした場合には、デフォルトのタブが表示されます。
- 別のナビゲーション・フローまたは別の環境から追加されるタブまたはサブ・タブには、ソース・ナビゲーション・フローで定義されたローカライズされたラベルが表示されます。ナビゲーション・フローでのタブ・ラベルを更新するには、ホーム・ページで「**ツール**」、「**アーティファクト・ラベル**」の順にクリックします。

アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。

## URL を使用した EPM Cloud アプリケーションへのサード・パーティ・ページの埋込みについて

Oracle Enterprise Performance Management Cloud では、IFrame を使用して、サード・パーティの URL を埋め込みます。IFrame では、埋込み先のページは、埋込み元のページに承認

を付与する必要があります。たとえば、sharepoint.com から EPM Cloud アプリケーションにページを埋め込む場合、sharepoint.com は、sharepoint.com からページを埋め込むことを oraclecloud.com に許可する必要があります。

これを実行するには、ページを埋め込む必要がある Web アプリケーションの [コンテンツ・セキュリティ・ポリシー](#) に oraclecloud.com を追加します。

また、サード・パーティ・ページを埋め込むときは、ページがパブリックに使用可能か、またはログインが必要かを検討する必要があります。たとえば、wikipedia.org からのページは認証が必要ありません。

認証が必要なページを埋め込む場合は、ページに対して SSO を埋め込むことができるかどうかを確認する必要があります。不可の場合、ページは IFrame 内にロードできない場合があります。回避策として、別のブラウザ・タブで対象の Web アプリケーションにログインし、EPM Cloud アプリケーションから同じページにアクセスするとページが開きます。

この URL サポート機能により、次のタイプのページを埋め込むことができます:

- 他の Oracle 製品(SSO の有効化が必要)
- 顧客が所有する Web アプリケーション(コンテンツ・セキュリティ・ポリシーの更新、SSO の有効化などにより、EPM Cloud アプリケーションの許可が必要)
- パブリック・ドメインからのページ(wikipedia.org など)

 **Note:**

オラクルでサポートされていませんが、次のリソースへのリンクをナビゲーション・フロー・カード、タブおよびサブ・タブ内に埋め込むこともできます:

- Google スプレッドシート
- Google ドライブに保管されているファイル(PDF や Excel など)
- Microsoft Office 365 に保管されているファイル


サード・パーティ・サイトで提示されている手順を使用して、後で EPM Cloud アプリケーションで使用できる URL を生成してください。

## ナビゲーション・フロー、カードおよびタブの削除

次のナビゲーション要素は削除できません。



- 「**アプリケーション**」 クラスタおよび 「**アプリケーション**」 クラスタ内の 「**設定**」 アイコン。
- 「**ツール**」 クラスタおよび 「**ツール**」 クラスタ内のこれらのアイコン。
  - **アクセス制御**
  - **ナビゲーション・フロー**
  - **日次メンテナンス**
  - **移行**

ナビゲーション・フロー、カードおよびタブを削除するには:

1. 「ナビゲーション・フロー」 ページを開きます。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. ナビゲーション・フローを削除する場合:
  - a. 削除するナビゲーション・フローを選択します。
  - b. ページの右上隅で  をクリックし、「削除」をクリックします。

 **ノート:**

デフォルトと呼ばれる事前定義済ナビゲーション・フローは削除できません。

3. カードを削除する場合:
  - a. 編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。
  - b. 削除するカードの「削除」列で  をクリックします。
4. タブを削除する場合:
  - a. 編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。
  - b. 編集するカードの名前をクリックします。
  - c. 「タブの管理」 ページの下部にあるタブ・リストで、削除するタブの「削除」列の  をクリックします。


ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

## クラスタへのカードのグループ化

クラスタは、カードのグループです。最初にクラスタを作成する必要があり、その後でカードを割り当てることができます。既存のクラスタをナビゲーション・フローに追加することもできます。

最適なユーザー・エクスペリエンスを確保するために、ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスを確認してください。[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項](#)を参照してください。

カードをクラスタに割り当てるには:

1. 新しいクラスタを作成する、または既存のクラスタを追加するには:
  - a. 「ナビゲーション・フロー」 ページを開き、クラスタを追加するナビゲーション・フローの名前をクリックします。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
  - b. 新しいクラスを作成するには、リスト内のカードまたはクラスタを右クリック(または  をクリック)して「クラスタの追加」をクリックし、クラスタの詳細を入力またはは選択してから、クラスタのグラフィックを選択します。

 ノート:


ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項に記載されている表示および命名の規則に従ってください。

クラスタは、現在選択されているクラスタの下の兄弟としてリストに追加されます。

 ノート:

最初にカードまたはクラスタを選択せずに追加されたクラスタは、リストの最後に追加されます。

- c. 既存のクラスタを追加するには、リスト内のカードまたはクラスタを右クリック(または **+** をクリック)し、「**既存のカード/クラスタの追加**」をクリックします。別の環境の既存のクラスタを追加するには、リスト内のカードまたはクラスタを右クリック(または **+** をクリック)して「**既存のカード/クラスタの追加**」をクリックし、「**自分の接続**」でターゲット環境を選択して、ナビゲーション・フローに追加するクラスタを選択します。



 ノート:


- Narrative Reporting および Profitability and Cost Management で、「**既存のカード/クラスタの追加**」オプションを使用して直接クラスタを選択することはできません。
- 別のナビゲーション・フローまたは別の環境から追加されるクラスタには、ソース・ナビゲーション・フローで定義されたローカライズされたラベルが表示されます。ナビゲーション・フローでのクラスタのラベルを更新するには、ホーム・ページで「**ツール**」、「**アーティファクト・ラベル**」の順にクリックします。  
アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。
- 参照クラスタは、別のナビゲーション・フローからすでに参照されているクラスタです。すでに参照されているクラスタへの参照は、ナビゲーション・フローではサポートされず、既存のクラスタを追加する際にオブジェクト・ライブラリで選択できません。

クラスタは、現在選択されているカードまたはクラスタの下の兄弟としてリストに追加されます。

 ノート:

最初にカードまたはクラスタを選択せずに追加されたクラスタは、リストの最後に追加されます。

- d. 「保存して閉じる」をクリックします。
2. 次のいずれかのオプションを使用して、クラスタに含めるカードを選択します:
    - a. 追加するカードに移動します。カードが別の環境に含まれている場合は、最初に「**自分の接続**」で環境を選択してから、その環境内のカードにナビゲートします。次のいずれかのオプションを使用して、カードをクラスタに割り当てます:
      - 「**順序**」列のカードの右側にある  をクリックし、クラスタを選択して、「**OK**」をクリックします。
      - カードの名前をクリックしてカードの詳細を表示し、「**クラスタ**」でカードのクラスタを選択して「**OK**」をクリックします。
    - b. カードを追加するクラスタに移動し、クラスタを右クリック(または  をクリック)して**カードをクラスタに追加**をクリックし、オプションを選択します:
      - 既存のカードを選択、または別のクラスタから選択したクラスタに既存のカードを追加するには、**既存のカードの追加**を選択します。
      - 新しいカードを選択したクラスタに追加するには、「**カードの追加**」を選択し、カードの詳細を入力します。

 ノート:

カードまたはクラスタが別のナビゲーション・フローからすでに参照されている場合、そのカードはクラスタに追加できません。

- c. 「保存して閉じる」をクリックします。

カードがクラスタの子としてリストに表示されます。必要に応じて、カードの横にある上矢印と下矢印を使用して、クラスタ内でカードの順序を変更します。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

## ナビゲーション・フローのリロード

ナビゲーション・フローの操作時に設計変更を表示するには、ナビゲーション・フローをリロードします。

設計変更を行った後にナビゲーション・フローをリロードするには:

1. ホーム・ページで、ユーザー名(画面の右上隅)の横にある下矢印をクリックします。
2. 「**設定およびアクション**」メニューで、「**ナビゲーション・フローのリロード**」をクリックします。



## 実行時のナビゲーション・フローの切替え

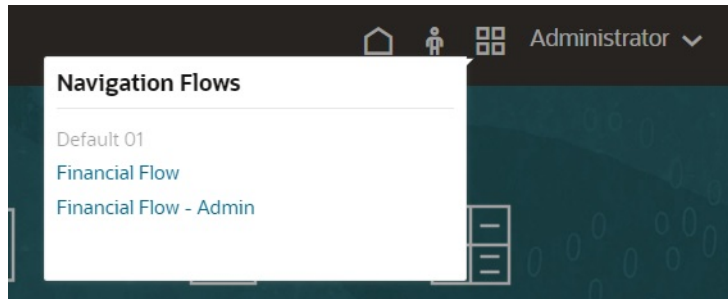
複数のグループに属している場合、またはナビゲーション・フローが役割に割り当てられている場合、複数のナビゲーション・フローにアクセスできます。

### ノート:

サービス管理者の役割が割り当てられたユーザーは、すべてのナビゲーション・フローにアクセスできます。

実行時にナビゲーション・フローを切り替えるには:

1. ホーム・ページで  をクリックします。
2. 表示するナビゲーション・フローを選択します。



# 9

## インフォレットの設計

### 次も参照:

- [インフォレットについて](#)
- [インフォレットの詳細分析](#)
- [インフォレットの内容の決定](#)
- [インフォレット・デザイナの使用](#)
- [インフォレットの作成](#)
- [インフォレットの操作](#)
- [インフォレットにアクセスするインターフェースのカスタマイズ](#)

## インフォレットについて

インフォレットを使用すると、各種のソースから生成される概要レベルの必須情報を表示し、扱うことができるので、どこに注意を向けるべきかすぐに評価できます。サービス管理者は、インフォレットの作成、再設計、削除およびインフォレットへの権限の割当てを行います。

### インフォレットとは何か

インフォレットとは、自己完結型で対話型のボックス・コンテナです。テキストとチャートを使用して情報を表示します。インフォレットは対話型で、概要レベルで集約された必須情報を段階的に表示するので、一目で参照しやすく、必要に応じて迅速に対処できます。インフォレットは、最大で3つのチャートまたは一連の値を表示できるように、切替えとサイズ変更が可能です。



インフォレットの詳細は、[インフォレットの詳細分析](#)を参照してください。

## インフォレットの使用方法

インフォレットは、次の用途に使用できます。

- 必須の情報を使いやすい形で示す
- 最もクリティカルな質問に対する答えを示す
  - 何が新しく、何が変更されていますか？
  - 自分の作業をサポートする最も重要な情報は何かですか？
- ユーザーの作業を迅速に評価して優先順位を設けられるように、重要な情報をユーザーの役割ごとにグループ化する
- 必須の情報やアクションを段階的に表示する
 

インフォレットを切替えまたは展開することで、このような追加の詳細情報をさまざまなインフォレット・ビューで表示します。ただし、使用できるインフォレット・ビューは1つのみです。
- 必須の情報や概要情報を、視覚的にリッチな形で示す

レポート機能のように特に複雑な情報を扱うとき、または詳細なビジュアルを示すときには、インフォレットは使用しないでください。

[インフォレットの内容の決定](#)を参照してください。

## インフォレット・ページとは何か

インフォレット・ページとは、1つ以上のインフォレットが表示されるページです。これにはコンテナがあり、インフォレットが占めるスペースを管理したり、ブラウザのサイズとインフォレットのサイズに合わせて再配置したりできます。作成した各インフォレットは、1つのインフォレット・ページに属します。ホーム・ページの「**インフォレット**」カードに、インフォレット・ページのリストが表示されます。



 ノート:

この更新では、上の画像で示されている機能をすべて使用できるわけではありません。それらの機能には、今後の更新で対応する予定です。

[インフォレットの操作](#)を参照してください。

## インフォレットの詳細分析

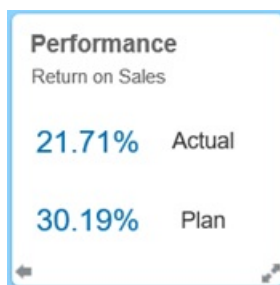
### インフォレットのビュー

1つのインフォレットは、最大3つのビューをサポートしています。

1. 前面ビュー(必須)



2. 背面ビュー(オプション)



3. 展開ビュー(オプション)



前面ビューは必須です:

- 自分の作業に直接影響する概要レベルの情報を一目で見ることができます。たとえば、前面ビューには、ステータス、数、合計、最新の更新などを表示できます
- 一目でわかりやすくなっているため、詳細を調べたい重要な情報の識別に役立ちます
- 3x2を除いてすべてのインフォレット・サイズを使用できます(詳細は、後述のインフォレット・サイズの情報を参照)
- 展開ビューを、前面ビューまたは背面ビューで元のサイズに戻せます
- 「アクション」メニュー・アイコンはカーソルを置いたときだけ表示され、背面切替えアイコン(オプション)または展開アイコンが右下隅に表示されます

#### ノート:

ビューを1つだけ表示する場合は、前面ビューにする必要があります。

背面ビューはオプションです:

- 分析情報(グラフなど)を表示します
- スキャンしやすいため、前面ビューに表示された情報を調べたり、さらに知ることができます
- サイズは前面ビューと同じです
- 「アクション」メニュー・アイコンはカーソルを置いたときだけ表示され、前面切替えアイコンが左下隅に、展開アイコン(オプション)が右下隅に表示されます

展開ビューはオプションです:

- 前面ビューまたは背面ビューで示される1つのデータ・ポイントまたは個々のデータについて、さらに詳細を表示します。たとえば、展開ビューでは、1つのオブジ

エクトまたは最近の項目の一覧について、前面ビューや背面ビューに表示される内容よりも詳細な情報を表示できます

- アクションを実行して作業領域ページの注目すべき内容に移動してよいかどうか、十分な情報に基づいて判断できます
- 他のビューからの移行もスムーズです。他のインフォレットが新しい位置に移動されるので、スムーズでシームレスに展開できます。
- 前面ビューや背面ビューよりサイズを大きくする必要があります
- 「アクション」メニュー・アイコンはカーソルを置いたときだけ表示され、縮小アイコンが右下隅に表示されます

インフォレット・ビューでは、基礎となるフォームとディメンションに割り当てられているアクセス権を保持します。したがって、ユーザーごとにアクセス権が異なれば、同じインフォレットでも表示されるビューは異なることがあります。

### インフォレットのサイズ

インフォレットのサイズは、次のように設定できます。

#### ノート:

1x1 は、1 列 1 行(170 ピクセル)のボックスを表します。

- 1x1
- 2x1
- 3x1
- 2x2
- 3x2 (展開ビューのみ)

前面ビューと背面ビューのサイズは、常に同じです。前面ビューのサイズを変更すると背面ビューのサイズも自動的にリセットされます。展開ビューのサイズは必ず前面/背面ビューより大きくする必要がありますため、インフォレットの前面/背面ビューのサイズを大きくした場合、展開ビューは前面/背面ビューより大きいサイズに自動的にリセットされます。

#### ノート:

前面ビューと背面ビューには、3x2 のサイズは使用できません。このサイズは、展開ビューのみに適用可能です。

ビューのサイズ、タイトルおよびサブタイトルは、プロパティ・パネル内のデザイナーによって設定されます。[インフォレット・デザイナーの使用](#)を参照してください。

### インフォレット・ビュー間の移動

1 つのインフォレットは、次のいずれかのビューの組合せで作成できます。

1. 前面ビューのみ
2. 前面ビューと背面ビュー

- 3. 前面ビューと展開ビュー
- 4. 前面ビュー、背面ビュー、展開ビュー

ビュー間を切り替えるには、インフォレットの右下隅または左下隅にある切替えアイコン、展開アイコン、縮小アイコンを使用します。下隅にカーソルを置くと、切替え、展開、縮小のアイコンが表示されます。

## インフォレットの内容の決定

インフォレットの内容を決めるときは、次の一般的なヒントを参照してください。

- 既存のダッシュボードと作業領域ページを確認します。  
ダッシュボードと作業領域ページは、情報サマリーがまとめて表示されるので、出発点として最適です。
- 10/90/90 の原則を適用します。  
重要性が高く利用しやすい、ユース・ケースの上位 10%からあがる FAQ に対処する情報を探します。このユース・ケースは、ビジネス・インテリジェンス、ソーシャル、トランザクション、外部など全社から集まります。  
次に、この情報に絞って、ユーザーの 90%が、時間の 90%で得られるメリットが何かを検討します。既存のダッシュボードの内容、既存の作業領域ページ、または全般にこの 10/90/90 の原則を適用して、インフォレットに適した情報を選定します。
- 上位のユース・ケースを、よくあるビジネス上の質問の形で書きなおします。  
これらのビジネス上の質問に答えるように、対応するインフォレットの内容を提示します。たとえば、対応の困難なオーダーの数をステータス別に一覧するなどです。
- 複数の情報ポイントではなく、1つのポイント、または密接に関連があり相互に依存する一連のポイントを探します。  
インフォレットの内容を決定するプロセスは、ダッシュボードの内容を作成するプロセスに類似していますが、分析のレベルはもっと深くなります。3つ以下の情報階層ビューで表示するのに適しており、ビジネス上のクリティカルな質問の答えになる情報を、1つのデータ・ポイントまたはデータ・セットから探します。
- 最も重要な1つのポイントから始めます。  
1つのインフォレットには、データの1つの側面つまり情報ポイントに関する集約情報が表示されます。ユーザーが知る必要のあるイベント、またはユーザーが対処する必要のあるタスクに関連する情報です。  
ダッシュボードに、1つ以上のオブジェクトの複数の側面(数字の合計や通貨の合計)が含まれている場合は、最も重要な1つのポイントから始め、インフォレットの前面ビューに対する1つの概要(たとえば、合計としてスタイル付きの数値を使用するなど)を追加してきます。次に、必要に応じて背面ビューの内容を決めます。最後に、必要に応じて展開ビューの内容を決めます。  
1つのインフォレットで、4つ以上のビューは追加できません。インフォレットに表示するデータ・ポイントが1つのみ、または密接に関連があり相互に依存するデータ・セットが1つのみの場合は、前面ビューのみ使用します。

## 関連リンク

[インフォレットのフォームの設計](#)

[インフォレットのチャートの設計](#)

# インフォレットのフォームの設計

インフォレットでは、小さいデータ・セットのフォームのみを使用します。フォームに設定されているアクセス権限がインフォレットで保持されます。

インフォレットで個々に使用されるフォームを作成できます。

- フォルダで使用するフォームは、従来のデータ入力フォームよりセルが少なくなります。たとえば、インフォレットで使用するフォームのセルは **12** 以下です。
- インフォレットで使用するフォームは、行と列を **12** 以下にしてください。フォームの行と列が **12** を超えた場合、**12** 行および **12** 列までしか表示されません。
- 現在、インフォレットはページ・ディメンションまたは **POV** をサポートしていないため、インフォレットで使用するフォームにページ・ディメンションは使用しないでください。
- インフォレットで使用するフォームにグリッドが含まれ、メンバーを展開すると、インフォレットでは展開したメンバーも含めて、フォームのメンバーがすべて表示されます。

# インフォレットのチャートの設計

静的な内容を表示するには、チャートのタイトルとサブタイトルを使用します。

インフォレットで使用できるチャートは **6** 種類あります：


- 棒: 複数のデータ値のグラフィカルなサマリーを表し、比較に利用します。棒グラフは、垂直または水平に表示できます。棒グラフのインフォレットでは、棒の数を最大で **8** つまでに抑えることをお勧めします。
- 縦棒: 異なるデータ・セットどうしを積み重ねて表す棒グラフです。1 つの棒の最終的な高さは、データ・セットを合算した値を表します。
- ドーナツ: 円グラフをセグメントに分割し、データ・セットどうしを比較します。中央の空白は、全データ・セットの合計を表します。ドーナツ・チャートのインフォレットでは、セグメントの数を最大で **6** つまでに抑えることをお勧めします。
- 折れ線: 一定期間にわたるデータのトレンドをビジュアル化するために使用します。
- 円: 円グラフでは、分割したスライスでデータ・セットどうしを比較します。円グラフのインフォレットでは、スライスの数を最大で **6** つまでに抑えることをお勧めします。
- タイル: データ・セットから、表示する特定の値を選択できます。タイル・チャートのインフォレットでは、タイルの数を最大で **3** つまでに抑えることをお勧めします。



 **ノート:**

タイル・チャートで使用できるサイズは **1x1** のみです。タイル・チャートを使用しているインフォレットは、チャート・タイプを変更しないかぎりサイズを変更できません。タイル・チャートを **1x1** より大きいインフォレットにドラッグ・アンド・ドロップすると、インフォレットのサイズかチャート・タイプか、どちらかを変更するよう指示されます。

## インフォレット・デザイナの使用

サービス管理者は、インフォレット・デザイナを使用してインフォレットおよびインフォレット・ページを作成します。インフォレット・デザイナでは、ランタイム・ビューとデザイナ・ビューを簡単に切り替えることができます。インフォレット・デザイナにアクセスするには、ホーム・ページの「**インフォレット**」アイコンを使用して起動し、「**作成**」をクリックするか、リスト内のインフォレット・ページの横にある「**アクション**」アイコンをクリックし、「**編集**」をクリックします。リストでインフォレット名をクリックすると、そのインフォレット・ページのランタイム・バージョンが開きます。ランタイム・ビューとデザイナ・ビューは、 をクリックして切り替えられます。


### インフォレット・デザイナ



### インフォレット・ツールバー

右上にインフォレット・ツールバーがあります。

 : インフォレット・デザイナに新しいインフォレットを追加します

 : 「プロパティ」パネルの表示/非表示を切り替えます

...: クリックして次のアクションを実行します。

- **リセット:** インフォレット・デザイナを、前回保存した状態に戻します
- **リフレッシュ:** Essbase からのデータをリフレッシュし、データベースからインフォレット定義を更新します

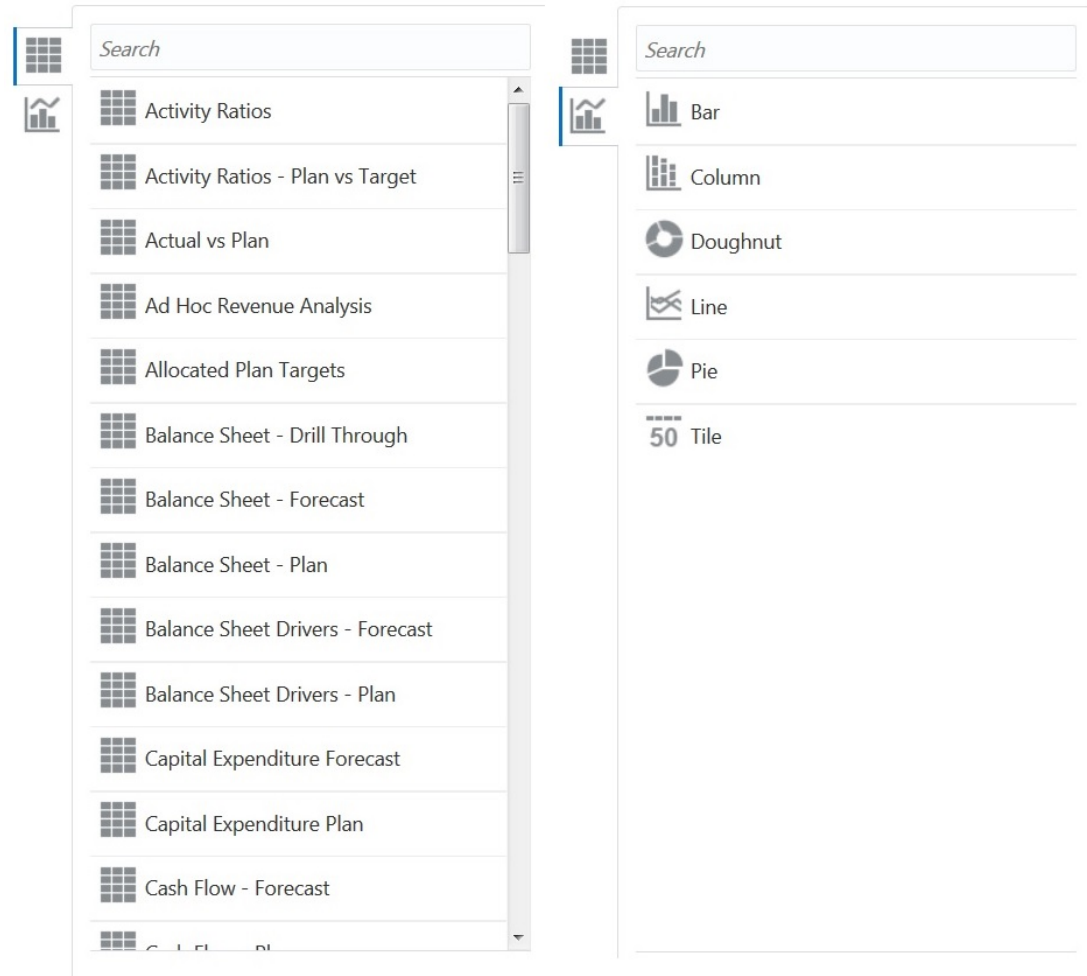
- **ランタイム:** インフォレット・デザイナの要素をすべて非表示にし、実行時にユーザーに見えるのと同じようにインフォレットを表示します



: ランタイム・モードから、インフォレット・デザイナを表示します

### インフォレット・デザイナ・パレット

左側には、デザイナ・パレットがあります。デザイナ・パレットには、「フォーム」と「チャート・タイプ」の2つのタブがあります。デザイナ・パレットでオブジェクトをハイライトし、ドロップ・ゾーンまでドラッグ・アンド・ドロップします。



デザイナ・パレットのオブジェクト:

- **フォーム:** フォームをスクロールするか、名前で検索して、インフォレットに含めるフォームを選択します。フォームの詳細は、[インフォレットのフォームの設計](#)を参照してください。

 **ノート:**

フォームに設定されているアクセス権限がインフォレットで保持されません。

- **チャート・タイプ:** インフォレットに含めるチャート・タイプを選択します。インフォレットのチャートには、データ・ソースとしてチャートとフォームを関連付けるまで、サンプルのデータが表示されています。チャートをフォームにリンクすると、ユーザーは、関連付けられたチャートに対するフォームでのデータ変更の影響を確認できます。チャートにフォームを関連付けるには、チャートをハイライトしてドロップ・ゾーンまでドラッグ・アンド・ドロップし、「プロパティ」パネルで、「**サンプル**」、「**フォーム**」の順でクリックしてデータ・ソースを選択します。チャートの詳細は、[インフォレットのチャートの設計](#)を参照してください。

### インフォレット・メニュー

インフォレット・メニューには、インフォレットの削除およびクリア・アクションが含まれます。インフォレット・メニューを表示するには、インフォレットの右上隅にカーソルを置き、下矢印をクリックして、メニュー・オプションを表示します。

- **削除:** ページからインフォレットを削除します
- **クリア:** インフォレットの詳細をクリアします

### 「プロパティ」パネル

インフォレット・デザイナの右側にあるプロパティ・パネルを使用すると、次のインフォレット・プロパティを表示および操作できます。

 **ノート:**

指定するヘッダーは、1つのインフォレットではすべてのビューで同じですが、各ビューに違うサブタイトルを指定することはできません。たとえば、1つのインフォレットの前面、背面、展開の各ビューに異なるサブタイトルを指定できますが、ヘッダーは同じにする必要があります。

- **ヘッダー**
- **サブタイトル**
- **サイズ:** インフォレットを選択したサイズで表示します
- **チャート・タイプ:** インフォレットのデータを選択したチャート・タイプで表示します
- **データ:** 関連付けられたデータ・ソースを表示します(「サンプル」または「フォーム」)
- **フォーム:** 選択したインフォレット・フォームを表示します

削除やクリアなどのアクションはインフォレット・メニューにあります。

デフォルトでは、インフォレットの前面ビューはプロパティ・パネルに表示されます。他のビューを表示するには、それらをドロップダウンから選択します。インフォレッ

トを反転または拡張して背面ビューまたは拡張ビューを表示すると、これらのビューのプロパティがプロパティ・パネルに表示されます。また、対応するチャート・タイプのプロパティもプロパティ・パネルに表示されます。

## インフォレットの作成

インフォレットを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**インフォレット**」、「**作成**」の順にクリックします。
2. 「**無題インフォレット・ページ**」をクリックして、作成する新しいインフォレット・ページのタイトルを入力します。
3. 左側のデザイナ・パレットから、「**ライブラリ**」タブまたは「**ビジュアライゼーション**」タブを選択し、オブジェクトをハイライトして、インフォレットのドロップ・ゾーンまでドラッグ・アンド・ドロップします。

または、ページの上部にある



をクリックして、ワークスペースに新しいインフォレットを追加します。

4. 「**プロパティ**」パネルがまだ表示されていない場合は、ページの上部にある



をクリックして表示します。「**プロパティ**」パネル内で行った選択を使用して、ハイライトされたインフォレットをカスタマイズします。

5. 「**保存**」をクリックします。

「インフォレット」リスト・ページで「**別名コピー**」アクションを使用すると、インフォレットを簡単に複製して変更できます。リスト・ページで、コピー対象のインフォレットの横にある「**アクション**」アイコンをクリックし、「**別名コピー**」をクリックします。

## インフォレットの操作

インフォレット・ページを作成すると、「**インフォレット**」カードのインフォレット・リストに表示されます。

インフォレットのリスト・ページはフォルダをサポートしています。フォルダを使用すると、個別インフォレットに権限を割り当てるのではなく、フォルダ内のすべてのインフォレットに権限を割り当てることができます。インフォレット・リスト・ページでは、ダッシュボードやデータ入力フォームと同じフォルダ階層が使用され、すべてのアーティファクトとフォルダが「**ライブラリ**」と呼ばれるルート・フォルダの下にあります。



### ノート:


管理者のみがファイル(ダッシュボード、インフォレット、フォーム、レポートなど)を「**ライブラリ**」ルート・フォルダに追加できます。

インフォレットを表示および操作するには:

1. ホーム・ページで「**インフォレット**」をクリックします。

2. インフォレットを操作するには、次のアクションを実行します。

- インフォレットのリスト・ページで、インフォレットをフラット・ビューで表示するか、ツリー・ビューで表示するかを切り替えられます。 

その後で、「**検索**」を使用してインフォレットを検索できます。フラット・ビューに表示されるのは検索条件を満たすアーティファクトのみで、それらが格納されているフォルダは表示されません。ツリー(階層)ビューでは、アーティファクトが格納されているフォルダのコンテキストで表示されます。

他のキーワードで検索するには、「**検索**」ボックス内の **X** をクリックして、検索基準をクリアします。

- インフォレット・リストをリフレッシュするには、「**リフレッシュ**」をクリックします。
- インフォレットを作成するには、「**作成**」をクリックします。[インフォレットの作成](#)を参照してください。
- インフォレット・ページで次のアクションを実行するには、インフォレット・ページに隣にある「**アクション**」アイコンをクリックし、次のように選択します。
  - **フォルダの作成**: リスト内にフォルダを作成します
  - **編集**: インフォレット・デザイナでインフォレット・ページを開きます
  - **名前変更**: インフォレット・ページの名前を変更します
  - **別名コピー**: インフォレット・ページを複製します
  - **削除**: リストからインフォレット・ページを削除します
  - **移動先**: インフォレット・ページを別のフォルダに移動します
  - 「**デフォルト**」または「**マーク解除**」: 「**デフォルト**」は、インフォレット・ページをデフォルトとしてマークし、ホーム・ページのグローバル・ヘッダーの下に表示される2つ目のインフォレット・ドットをクリックすることで、ホーム・ページから直接アクセスできるようにします。デフォルトとしてマークできるインフォレット・ページは1つのみで、リストでは、デフォルトのインフォレットの名前の前に「(デフォルト)」の接頭辞が表示されます。「**マーク解除**」を使用すると、インフォレット・ページからデフォルトの指定が削除されます。

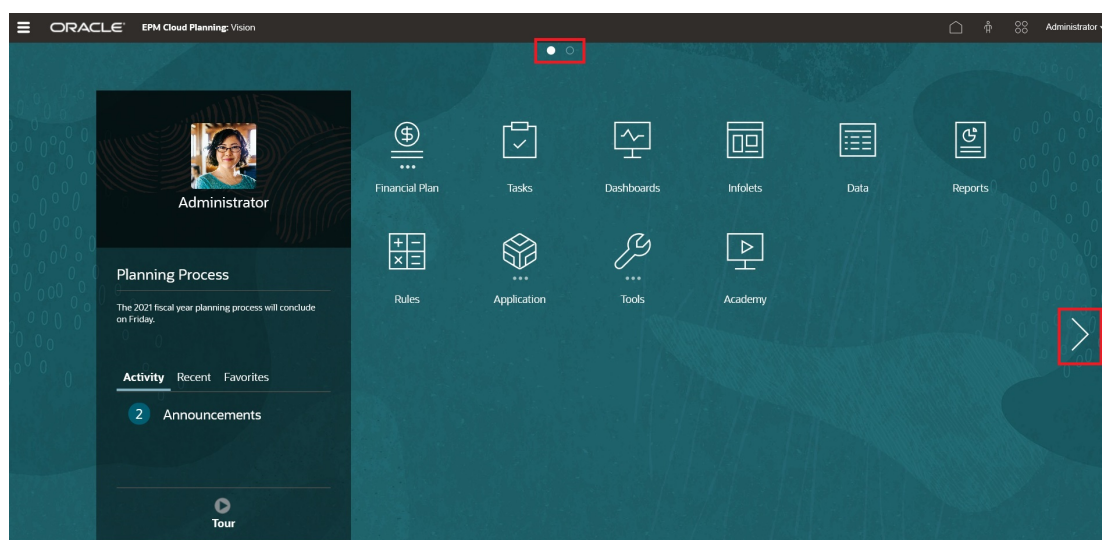
#### ノート:

ダッシュボード・ページはデフォルトとしてマークできなくなりました。デフォルトとしてマークできるのは、インフォレット・ページのみです。

- **権限の割当**: 個々のユーザーまたはグループに、インフォレット・ページおよびフォルダに対する「読取り」、「書込み」および「なし」アクセス権限を割り当てることができます

## インフォレットにアクセスするインターフェースのカスタマイズ



ホーム・ページからインフォレット・ページへのリンクを追加できるように、ナビゲーション・フロー・デザイナを使用して、ビジネス・プロセス・インターフェースをカスタマイズできます。インフォレット・ページにアクセスするインターフェースをカスタマイズすると、ホーム・ページでグローバル・ヘッダーの下にドットが表示され、ホーム・ページとインフォレット・ダッシュボード・ページとの間を容易にナビゲートできる矢印が表示されます。ホーム・ページに表示される各ドットが1つのインフォレット・ページを表しており、ドットにカーソルを置くと、インフォレット・ページの名前が表示されます。インフォレットのドットをクリックすると、それに関連付けられているインフォレット・ページが開きます。ホーム・ページに定義できるインフォレットのドットは、最大7つです。他の EPM Cloud 環境への接続をすでに作成している場合は、他の EPM Cloud 環境でもインフォレット・ページへのリンクを追加できます。



アクセス権のあるインフォレット・ページのドットのみがホーム・ページに表示され、ユーザーに見えます。表示されるインフォレット・ドットのタイプは、次のとおりです。

- ホーム・ドット: 常に最初に表示されるドットで、ホーム・ページにリンクしています。ホーム・ドットは1つだけです。ホーム・ページ以外を閲覧しているときは、ホーム・ドットをクリックするとホーム・ページに戻ります。
- ユーザー・ドット: エンド・ユーザーがデフォルトのインフォレット・ページとしてマークしたインフォレット・ページにリンクします。ユーザー・ドットは1つだけで、必ずユーザーのホーム・ページでホーム・ドットの後に表示されます。ユーザー・ドットは、ナビゲーション・フロー・デザイナでは追加できません。インフォレットをデフォルトとしてマークする方法の詳細は、[インフォレットの操作](#)を参照してください。
- カスタマイズ可能ドット: サービス管理者が作成したインフォレット・ページにリンクします。カスタマイズ可能ドットは、ナビゲーション・フローに統合でき、表示するかどうかと表示の順序はナビゲーション・フロー・デザイナで決定します。カスタマイズ可能ドットは最大7つまでで、常にホーム・ドットとユーザー・ドットの後に表示されます。


ナビゲーション・フロー・デザイナを使用して、ビジネス・プロセス・インターフェースにインフォレット・ドットを追加するには:

1. ホーム・ページから、「ツール」、「ナビゲーション・フロー」の順にクリックします。
2. アクティブでないナビゲーション・フローをリストから選択し、ナビゲーション・フロー・デザイナで「インフォレット」タブをクリックします。
3.  をクリックします。
4. 「インフォレットの管理」で、インフォレット・ドットに名前を付けて、表示/非表示を設定し、 をクリックしてアーティファクト・ライブラリからインフォレットを選択します。

 ノート:

他の EPM Cloud 環境への接続が作成してある場合は、その環境からインフォレットを選択することもできます。まず、「自分の接続」で環境を選択し、その環境のインフォレットに移動します。

5. 「保存して閉じる」をクリックします。

 ノート:

インフォレットが、ナビゲーション・フローでタブまたはカードに関連付けられている場合もあります。タブやカードを追加または更新する際には、アーティファクト・ライブラリでインフォレットを選択します。

設計時のナビゲーション・フローに対する変更を確認するには、ナビゲーション・フローをアクティブにし、ホーム・ページからユーザー名(画面の右上隅)の隣の下向き矢印をクリックして、「ナビゲーション・フローのリロード」をクリックします。

ナビゲーション・フローの設計についてさらに学習するには、カスタム・ナビゲーション・フローの設計を参照してください。

EPM Cloud 環境の接続についてさらに学習するとともに、「URL のコピー」機能の詳細を確認するには、EPM Cloud の環境の接続を参照してください。



# 10

## 財務ダッシュボードの設計

### 次も参照:

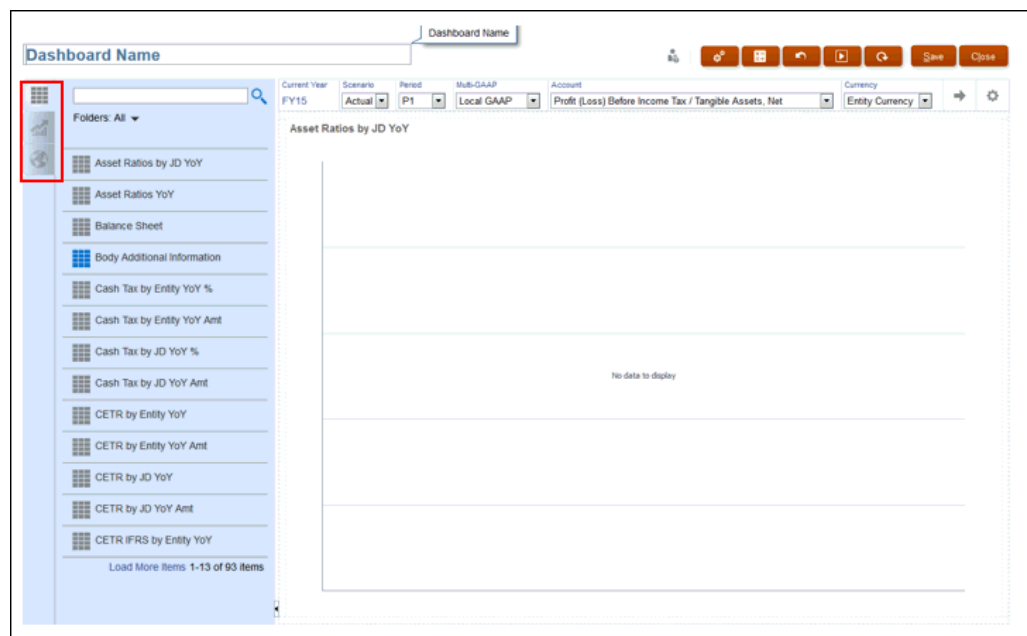
- [ダッシュボードのメリット](#)
- [ダッシュボード設計の概念](#)
- [ダッシュボードの設計](#)
- [ダッシュボードのレイアウトについて](#)
- [ゲージ・チャート・タイプについて](#)
- [タイル・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボードの色のカスタマイズ](#)
- [折れ線グラフおよび組合せグラフの線幅の設定](#)
- [グローバル POV とローカル POV について](#)
- [ダッシュボードの POV および有効交差](#)
- [ダッシュボードの表示](#)
- [ダッシュボード 1.0 のダッシュボードを 2.0 に変換](#)  
ダッシュボード 1.0 のダッシュボードをダッシュボード 2.0 のダッシュボードに変換する方法を学習します。
- [ダッシュボード 2.0 の作成および管理](#)
- [ダッシュボード 2.0 のダッシュボード設計の概念](#)
- [オブジェクト・パレット](#)
- [ダッシュボード・ツールバー](#)
- [ダッシュボード・ワークスペース](#)
- [「プロパティ」パネル](#)
- [ダッシュボード・コンポーネント](#)
- [ダッシュボード 2.0 の考慮事項](#)
- [ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの作成](#)
- [ダッシュボード 2.0 を設計する際のメンバー・セクタの操作](#)  
ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを設計する際には、メンバー・セクタを使用して新しいディメンション・メンバーの検索と選択を簡単に行えます。
- [ダッシュボード 2.0 でのフォーム 2.0 のグリッドについて](#)
- [ジオマップ・チャート・タイプについて](#)
- [ピラミッド・チャート・タイプについて](#)
- [ウォーターフォール・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボードでの表の使用](#)



- ダッシュボード 2.0 のゲージ・チャート・タイプについて
- ダッシュボード 2.0 のレーダー・チャート・タイプについて
- ダッシュボード 2.0 の組合せチャート・タイプについて
- ダッシュボード 2.0 のタイル・チャート・タイプについて
- ダッシュボード 2.0 のグローバル POV とローカル POV について
- クイック分析について

## ダッシュボードのメリット

ダッシュボードでは、通常サマリー・データが表示され、概要を把握できます。ダッシュボードの多様な機能により、チャート作成、評価、ハイライト、コメント作成および主要ビジネス・データの変更を行うことができます。たとえば、ボリュームなどのドライバをダッシュボード内にあるフォームに変更し、他のフォームやチャートでその影響を即座に確認できます。



ダッシュボードを作成するには、様々なオブジェクトをデザイン・パレットからダッシュボード・キャンバスにドラッグ・アンド・ドロップします。

ダッシュボードでは、次のことができます。

- フォームでデータを変更すると動的に更新される最大 6 つのフォームとその関連チャートを含めます。
- 最大 9 つのチャートおよびタイルを含めます。タイルにはキューブの特定の値が表示されます。各タイルに値を提供するには、フォームまたはセル交差をデータ・ソースとして指定します。
- ダッシュボード・ユーザーに表示される内容を正確に確認できるように、デザイン・パレットとランタイム・モードの使用を切り替えます。

- 面、棒、バブル、列、棒と折れ線の組合せ、ドーナツ、ファンネル、ゲージ、散布、レーダーなどの多様なチャート・タイプを使用して、データを対話形式で表します。
- 外部 Web ページを動的に表示するリンクを追加します。
- ダッシュボードのレイアウトを細かく操作します。たとえば、ダッシュボードの上半分を 2 つのフォームに使用し、下半分を 3 つのチャートにそれぞれ 33% ずつ使用できます。
- フォームの設計に応じて、ユーザーが基礎となる詳細にドリルダウンし、作業するメンバーを選択できるようにします。
- グローバル POV バーとローカル POV にユーザー変数を含めます。
- 注釈と呼ばれるデータの説明をダッシュボードに含めます。
- 一部のチャートで:
  - 色と線の幅をカスタマイズします。
  - グリッド・ラインを表示します。(デフォルトでは、グリッドラインは非表示です。)

ユーザーがダッシュボード(ランタイムと呼ばれる)を使用する場合、表示されるチャートのタイプやダッシュボードのタイトルなど、オブジェクトの様々な側面を設定できます。各オブジェクト・タイプにツールバーを使用できます。ダッシュボード・ユーザーは、データの変更と保存、ルールの実行などを行うことができます。ただし、実行時にチャート・タイプのオプションに加えた変更は、次のセッションには保存されません。実行時に「保存」をクリックすると、データは保存されますが、ダッシュボード定義は保存されません。

管理者は、ダッシュボードの作成、再設計、およびダッシュボードへの権限の割当てを行うことができます。

関連トピック:

- [ダッシュボード設計の概念](#)
- [ダッシュボードの設計](#)
- [ダッシュボードのレイアウトについて](#)
- [ゲージ・チャート・タイプについて](#)
- [タイル・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボードの色のカスタマイズ](#)
- [折れ線グラフおよび組合せグラフの線幅の設定](#)
- [グローバル POV とローカル POV について](#)

## ダッシュボード設計の概念

ダッシュボードを設計する際には、次の情報が役立ちます。


- 左側には、デザイン・パレットがあります。パレットからキャンバスにオブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップします。

### 💡 ヒント:

オブジェクトを枠線までドラッグします。許可されたスペースにオブジェクトをドロップできるようになると、ドラッグ・アイコンがプラス記号に変わります。[ダッシュボードのレイアウトについて](#)を参照してください。

- 右上には、ダッシュボード全体の設定があります。



- 「設定」  を使用して、ダッシュボードの次の設定を指定します。

### Dashboard Settings



Close

Use name as title

Borders  Show  Hide

Layout  Fixed  Flexible

POV Bars  Show  Hide

Global POV Bar  Enable  Disable


### ✎ ノート:


新しいダッシュボードを作成するとき、デフォルトでは枠線は非表示です。新しく作成するダッシュボードで枠線を表示するには、「表示」で枠線の設定を変更する必要があります。

POVの詳細は、[グローバル POV とローカル POV について](#)を参照してください。

- 各オブジェクトの右上には、そのオブジェクトのツールバーがあり、その上にカー

ソルを置くと表示されます。



- ダッシュボードの作成時に、「ランタイム」  をクリックすると、ダッシュボード・ユーザーに対するダッシュボードの外観と動作をすぐに確認できます。デザイナー・モードに戻ってダッシュボードの設計を続行するには、「デザイナー」をクリックします。

## ダッシュボードの設計

財務ダッシュボードでは通常、サマリー・データを表示することによって概要を示します。ダッシュボードの多様な機能により、チャート作成、評価、ハイライト、コメント作成および主要ビジネス・データの変更を行うことができます。たとえば、ポリ

フォームなどのドライバをダッシュボード内にあるフォームに変更し、他のフォームやチャートでその影響を即座に確認できます。

既存のデータ・フォームおよび外部アーティファクト(コメントや外部 URL など)を選択して、ダッシュボードを作成できます。データを表示するためのチャート・タイプ(円グラフ、棒グラフまたはその他のチャート・タイプなど)を指定できます。

 **ノート:**

タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャの概要とコンプライアンス・ダッシュボードの詳細は、*Financial Consolidation and Close* の操作のダッシュボードのモニタリングに関する項を参照してください。

財務ダッシュボードを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**ダッシュボード**」から「**財務**」をクリックします。
2. 「**作成**」をクリックします。
3. ダッシュボード名を入力します。
  - デフォルトのダッシュボード名を変更するには、その名前をクリックし、入力ボックスに新しい名前を入力します。
  - カスタム・フォーマットのタイトルをダッシュボードに指定するには、「**設定**」をクリックし、「**名前をタイトルとして使用**」をクリアし、タイトルを入力して、ダイアログ・ボックスのフォーマットを設定します。
  - 新しいダッシュボードを作成するとき、デフォルトでは枠線は非表示です。枠線を表示するには、「**設定**」で、「**枠線**」設定を「**表示**」に変更する必要があります。
4. 左側のデザイン・パレットから、オブジェクトをダッシュボード・キャンバスにドラッグ・アンド・ドロップします。

次のオブジェクトから選択します。

**表 10-1 ダッシュボード・オブジェクト**

オブジェクト	説明
フォーム	フォーム・フォルダをナビゲートするか、名前で検索して、ダッシュボードに含める単一のフォームを選択します。 フォームに設定されているアクセス権限がダッシュボードで保持されます。

表 10-1 (続き) ダッシュボード・オブジェクト

オブジェクト	説明
チャート・タイプ	<p>ダッシュボードに含めるチャート・タイプを選択します。最初に追加した際、選択したチャートにはサンプル・データがあります。続いて、それをそのデータ・ソースとしてのフォームに関連付けます。チャートをフォームにリンクすると、ユーザーは、関連付けられたチャートに対するフォームでのデータ変更の影響をすぐに確認できます。</p> <p>「組合せ」チャート・タイプでは、行データが交互に垂直棒と折れ線でチャート内に表示されます。たとえば、フォームの行 1 のデータは棒として、行 2 のデータは折れ線として表示され、偶数と奇数の行のチャート・タイプが交互に入れ替わります。「組合せ」チャート・タイプで表示できるデータは 20 行までですが、特に 2 つのカテゴリのデータを比較する際に便利です。たとえば、ドイツとフランスの平均為替レートを複数年にわたって比較するため、フォームの行 1 にドイツのレートがあり、フランスのレートが行 2 にある場合などです。</p> <p>「ゲージ」チャート・タイプの詳細は、<a href="#">ゲージ・チャート・タイプについて</a>を参照してください。</p>
タイル	<p>パフォーマンス・タイルと呼ばれることもあり、タイルはキューブから特定の値を選択して表示できるチャート・タイプです。<a href="#">タイル・チャート・タイプについて</a>を参照してください。</p>
注釈	<p>「外部アーティファクト」、「注釈」の順に選択します。データまたはチャートを説明するテキストを入力します。</p>
URL	<p>動的な Web ページのサマリーです。「外部アーティファクト」、「URL」の順に選択します。https://セキュリティ・プロトコルで始まる外部サイトの URL のみを挿入します。内部または相対 URL や、google.com などの同意していないサード・パーティ・サイトの URL を使用しないでください。</p>

5. ダッシュボード設定とオブジェクトのホバー・ツールバーを使用してダッシュボードをカスタマイズし、「保存」をクリックします。

[ダッシュボードのレイアウトについて](#)を参照してください。

「ダッシュボード」リスト・ページで「別名コピー」を使用すると、ダッシュボードを簡単に複製して変更できます。ダッシュボードを選択し、「アクション」をクリックします。

## ダッシュボードのレイアウトについて

ダッシュボードのレイアウトの設定について:

- 最初にドラッグしたオブジェクトがキャンバス全体を占有します。
- その後、既存のオブジェクトの上下左右にオブジェクトをドラッグします。
- ダッシュボード・キャンバスには、2 種類のドロップ・ゾーンが用意されています。2 つのオブジェクトを相互に並べて配置し、それぞれがスペースの半分を占有するものと、3 つのオブジェクトを配置し、それぞれがスペースの 3 分の 1 を占有するものです。
- オブジェクトを左右および上下に並べて表示するようにダッシュボードを設計でき、それぞれを独自のサイズに調整することもできます。

- 「**フレキシブル**」レイアウトを使用しているオブジェクトのサイズを変更するには、オブジェクトの枠線をドラッグします。
- 「**固定**」レイアウトを使用しているオブジェクトのサイズを変更するには、「**設定**」でその幅または高さの割合を設定します。
- フォームのレイアウトは非対称にすることができます。
- 実行時モードでは、ユーザーがフォームに対するアクセス権を持っていない場合やフォームが見つからない場合、隣接するオブジェクトがそのスペースを占有します。デザイナー・モードでは、空のオブジェクトがすべて表示され、デザイナーはそれらを削除するように選択できます。

## ゲージ・チャート・タイプについて

ゲージ・チャート・タイプは、データ値が許容範囲内に収まっているかどうかを確認する場合に便利です。最大値および範囲の最大値を設定すると、ゲージに範囲が赤、黄色および緑で表示され、現在の値をすばやく評価できます。そのため、ゲージ・チャート・タイプを使用すると、重要なデータ・ポイントやメジャーにおける問題を簡単に特定できます。たとえば、しきい値が売上げ目標を示すように設定し、ゲージを使用して現在の売上げを表示できます。

フォームに複数の値がある場合、最大 36 個(フォームの最初の 6 行と最初の 6 列の値)まで、複数のゲージを表示できます。フォーム内の残りの値は無視されます。ゲージ・チャートに 1 つの値のみを表示する場合は、セル値が 1 つのみのフォームにそれを関連付けます。

ダイヤル・ゲージまたはステータス・メーター・ゲージを選択できます。ステータス・メーター・ゲージは、水平棒または垂直棒を使用して表示できます。

ダッシュボード・デザイナーは次の設定を行うことができます。

- **最大値:** ゲージの最高値。ダッシュボード・デザイナーが「**最大値**」をデフォルトとして設定した後、プランナが実行時にそれを一時的に変更できます。ダッシュボード・デザイナーが最大値を指定しなかった場合、アプリケーションでは、最大値がゲージの値より大きいものに自動的に設定されます。
- **しきい値:**
  - 「**低しきい値**」、「**中しきい値**」および「**高しきい値**」: メジャーが許容範囲内にあるかどうかを視覚的に示すために、これらのしきい値を使用して、指定した値に基づいてゲージを赤、黄色および緑で表示できます。
  - 低い値が適しているしきい値。
  - ゲージでしきい値にカーソルを置くと表示されるしきい値の適切なラベル。





結果として生成される垂直棒を使用したステータス・メーター・ゲージは次のようになります。



#### ✎ ノート:

フォームのセルに値がない場合、そのセルについてはゲージが表示されません。また、少なくとも2つの連続するしきい値を指定する必要があります。アプリケーションでは、チャートを計算するために中間のしきい値が必要です。

## タイル・チャート・タイプについて

タイルは、キューブから特定の値を選択して表示できるチャート・タイプです。フォームをデータ・ソースとして使用する以外に、タイルに値を提供するセル交差を直接入力することもできます。横方向に最大6つのタイルと、下方に4つの行をダッシュボードに含めて、それらにタイトルを指定できます。タイルをデータに関連付けるまで、サンプル・データが表示されます。

フォームをタイルのデータ・ソースとして使用する場合:

- 1つのオブジェクトにつき最大6つのタイルを含めることができます。
- 最初の列の値(6行目まで)が、タイルを作成するために使用されます。

#### ✎ ノート:

場合によっては、フォーム内で、グリッドとして表示されたときに最初の列が縮小される(非表示になる)ことがあります。ただし、タイルがフォームからその値を取得する際には、縮小された列も考慮されます。

- タイルのタイトルは行のタイトルで、最初の列から、続いて行によってその値を取得します。
- タイルのタイトル、タイルの高さのパーセンテージ、凡例を設定でき、含めるフォームの軸を選択できます。たとえば、3つの行があるフォームを選択すると、タイルに3つの値が表示されます。

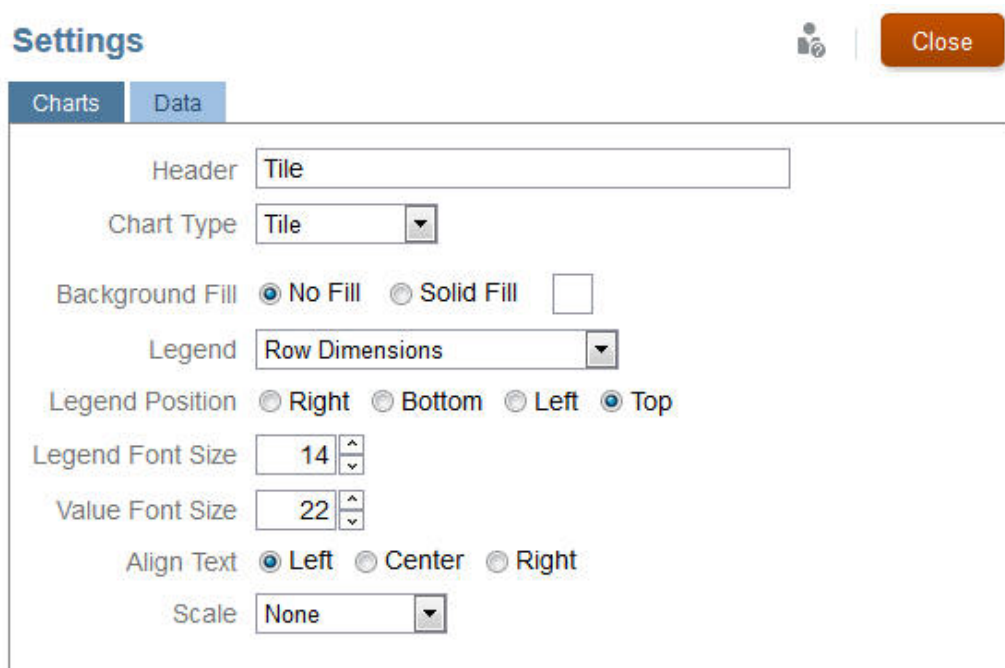


タイルのデータ・ソースとしてセル交差を使用する場合は、1つのオブジェクトにつきタイルを1つのみ含めることができます。

 **ヒント:**

タイル・チャート・タイプを選択するには、リストの下部にあるリンクをクリックして、チャート・タイプのリストを展開します。

タイル・チャート・タイプに設定できるオプションは、次のとおりです。値の表示は、タイルの水平方向で左、中央、右に設定することができます。



**大きい数字のスケール**

大きい数字で特に便利なのは、通貨値の表示方法を指定できることです。たとえば、タイル値が1,689,000の場合に、スケール・オプションとして「**K**」を選択すると、タイルにはこの値が「1689K」と表示されます。スケールのオプションは次のとおりです。


- **なし** - スケールを適用しません。
- **自動** - 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。
- **K** - 千単位で値が表示されます。たとえば、1689000 は「1689K」と表示されます。
- **M** - 百万単位で値が表示されます。たとえば、12,345,789 は「123M」と表示されます。
- **B** - 十億単位で値が表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。

- T - 兆単位で値が表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。

## ダッシュボードの色のカスタマイズ

企業では、標準的な色のセットを使用して、チャート内の様々なタイプのデータを示している場合があります。たとえば、実績データは濃い青で、予算データは水色で示されます。ダッシュボードの色をカスタマイズする際は、フォームの行の順序で色を選択します。系列 1 はデータの最初の行を表し、以降はそれに続きます。フォームの各行に、チャート内のデータを表す色を割り当てることができます。

棒、折れ線、面、バブル、列、組合せ、ドーナツ、円、レーダー、散布の各グラフ・タイプでダッシュボードの色をカスタマイズできます。

1. ダッシュボードのデザイン・パレット上のチャートで、「設定」をクリックします。
2. 「色」をクリックします。
3. 「デフォルト」チェック・ボックスをクリアして、変更する系列の下向き矢印▼をクリックします。  
背景のチャートで、各系列が表すデータ・タイプを確認します。
4. 選択した系列に指定する色をクリックして、「閉じる」をクリックします。


### ノート:

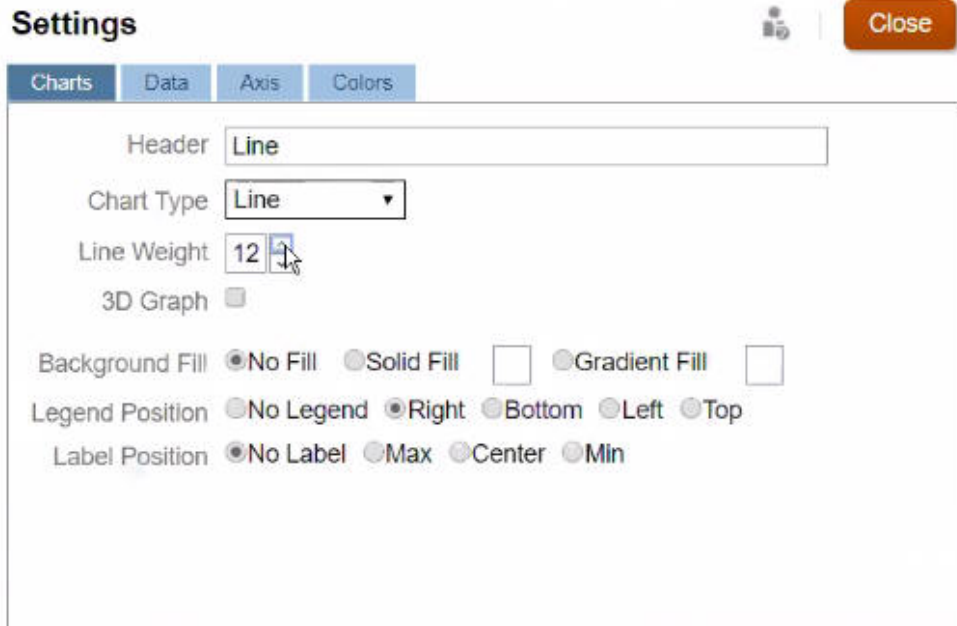
最初に表示されているよりも多くの色の濃淡を選択するには、「カスタム色」をクリックします。

選択内容は、現在のチャートにのみ適用されます。ダッシュボードで他のチャートの色を変更する場合も、このステップに従います。

## 折れ線グラフおよび組合せグラフの線幅の設定

ダッシュボードの折れ線および組合せグラフ・タイプの線の太さを設定できます。

1. ダッシュボードのデザイン・パレット上の折れ線または組合せグラフで、「設定」をクリックします。
2. 「行の太さ」カウンタをクリックして、線の幅を設定します。  
設定が背景のチャートに及ぼす影響を確認できます。

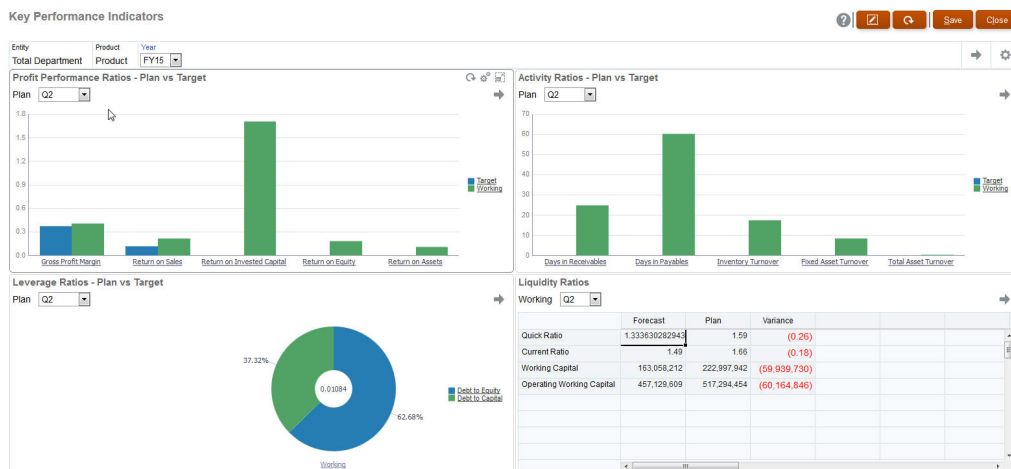


**ノート:**

折れ線および組合せグラフ・タイプのデフォルトの線幅は、5 ピクセルです。1 から 12 ピクセルを選択できます。

## グローバル POV とローカル POV について

フォームのローカル POV には、フォーム設計者がそのフォームについて選択したディメンション・メンバーが反映されます。ダッシュボードおよび複合フォームではグローバル POV バーもサポートされており、各オブジェクトで繰り返されないように、共通するローカル POV はグローバル POV バーに組み込まれます。次のダッシュボードには、グローバル POV バー(「エンティティ」、「製品」および「年」を示す)とローカル POV (Q2 を示す「プラン」ドロップダウン・リスト)が表示されています。



グローバル POV バーがある場合、グローバル POV バーでページを変更し、「実行」をクリックすると、フォームに基づいたすべてのオブジェクトについてページが変更されます。グローバル POV バーはダッシュボードの最上部に、すべてのオブジェクトより上に表示されるのに対して、ローカル POV バーはオブジェクト内に表示されます。ユーザー変数は、ダッシュボードのグローバル POV とローカル POV の両方でサポートされています。

ダッシュボードの「設定」で、POV を表示するか、非表示にするか、およびグローバル POV バーを有効にするか、無効にするかを設定できます。(「POV バー」について「非表示」を、「グローバル POV バー」について「有効化」を選択した場合、「非表示」オプションが「有効化」オプションより優先されます。)グローバル POV バーは、デフォルトで有効になっています。無効にすると、該当する場合、それぞれのローカル POV について POV 全体が表示されます。

グローバル POV バーについて:

- POV バーは、ローカル POV ディメンション、ページ・ディメンションおよびユーザー変数で構成されます。
- ダッシュボード上の各フォームのローカル POV およびページに応じて、グローバル POV バーが自動的に計算されます。
- それらは、そのダッシュボードでフォームを使用している他のオブジェクトに反映されます。つまり、それらは、ダッシュボード内のフォーム、フォームにリンクされたチャート、およびデータ・ソースとしてフォームを使用するタイルに適用されます。そのため、ダッシュボードにデータ・ソースとしてフォームが含まれていない場合は、ローカル POV バーもグローバル POV バーも使用できません。

次に、2 つのフォームのローカル POV ディメンションに基づいて、グローバル POV バーがどのように計算されるかの例を示します。

グローバル POV バーが無効:

- フォーム A のローカル POV: 年、エンティティ、製品
- フォーム B のローカル POV: 年、エンティティ、プロジェクト

グローバル POV バーが有効:

- グローバル POV バー: 年、エンティティ
- フォーム A のローカル POV: 製品
- フォーム B のローカル POV: プロジェクト

すべてのディメンションおよびページの選択がダッシュボード上のすべてのフォームに共通しているとはかぎらないため、ダッシュボード・オブジェクトの POV 全体がローカル POV バーとグローバル POV バーの間で分割されることがあります。グローバル POV バーとローカル POV をあわせると、ダッシュボード上の各フォームの完全な交差情報が含まれます。

データ・ソースとしてフォームを使用するオブジェクトが、ダッシュボードで 1 つのみである場合、フォームの POV/ページ全体をグローバル POV バーに移動できます。

データ・ソースとしてフォームを使用するオブジェクトがダッシュボードに複数ある場合、どのディメンションがグローバル POV バーに移動し、どのディメンションがローカル POV にとどまるかは次のように決まります。

- ディメンションがすべてのフォームの POV またはページに含まれ、メンバーの選択がすべてのフォームで同じ場合、ディメンションはグローバル POV バーに移動します。

- デイメンションが 1 つのフォームの POV および別のフォームのページに含まれる場合、デイメンションはローカル POV バーにとどまります。
- デイメンションが POV に含まれる場合、そのデイメンションについてすべてのフォームで同じメンバーが選択されている必要があります。
- デイメンションがページ・デイメンションである場合、選択されたページ・メンバーがすべてのフォームで同じであり、同じ順序で表示される必要があります。

ダッシュボードの POV は、無効なページ・メンバーを非表示にして有効交差を保持します。[ダッシュボードの POV および有効交差](#)を参照してください。

## ダッシュボードの POV および有効交差

ダッシュボード内の POV では、無効なページ・メンバーを非表示にすることにより、有効な交差が適用されます。フォームと同様に、「ページ」ドロップダウン・リストでは、POV およびページ・デイメンションのすべての選択されたメンバーがフィルタ処理されます。ダッシュボードでは、グローバルおよびローカルの POV がサポートされるため、「ページ」ドロップダウン・リストのフィルタ処理のコンテキストはメンバーが配置されている POV によって異なります。「ページ」ドロップダウン・リストがグローバル POV にある場合、フィルタ処理コンテキストはグローバル POV デイメンションのみとなります。「ページ」ドロップダウン・リストがローカル POV にある場合、フィルタ処理コンテキストはすべてのグローバル・デイメンションおよびチャートのローカル POV のデイメンションとなります。

[グローバル POV とローカル POV についても参照してください。](#)

## ダッシュボードの表示

ダッシュボード・ページを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**ダッシュボード**」をクリックします。
2. ダッシュボードを開くには、ダッシュボードの名前をクリックします。

これにより、ダッシュボードがランタイム環境で開きます。

### Note:

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを選択し、ダッシュボード 2.0 コンポーネントの初期化中にエラーが発生しましたというメッセージが表示された場合は、ダッシュボードにフォーム 2.0 のフォームが関連付けられています。ダッシュボードを表示する前に、レッドウッド・エクスペリエンスおよびフォーム 2.0 が有効になっていることを確認する必要があります。

レッドウッド・エクスペリエンスを有効にするには、「**ツール**」、「**外観**」の順にクリックし、「**レッドウッド・エクスペリエンスの有効化**」を選択して、「**保存**」をクリックします。

フォーム 2.0 を有効にするには、「**アプリケーション**」、「**設定**」の順にクリックし、「**その他オプション**」で「**フォーム・バージョン**」を探し、「**フォーム 2.0**」を選択して、「**保存**」をクリックします。

## ダッシュボード・ページの機能

ダッシュボード・ページでは:


- フォルダがサポートされています。**ダッシュボード・ページ**では、インフォレットやデータ入力フォームと同じフォルダ階層が使用され、すべてのアーティファクトとフォルダが「**ライブラリ**」と呼ばれるルート・フォルダの下にあります。「**ライブラリ**」フォルダを削除したり、名前変更することはできません。

### Note:

管理者のみがファイル(ダッシュボード、インフォレット、フォーム、レポートなど)を「**ライブラリ**」ルート・フォルダに追加できます。


- ダッシュボード・ページ**でダッシュボード・バージョンを区別しやすいように、それぞれのダッシュボードの前にアイコンが表示されるようになりました:

 : ダッシュボード 1.0

 : ダッシュボード 2.0

- フラット・ビューとツリー・ビューの間でダッシュボードの表示を切り替えることができます:



- ダッシュボード・ページ**をタイプに基づいてフィルタできます。 をクリックし、次のフィルタ・オプションから選択します:

- すべてのタイプ (デフォルト)
- ダッシュボード 1.0
- ダッシュボード 2.0

- 特定のダッシュボードを検索するには、



をクリックしてキーワードで検索するか、 をクリックして検索を特定のライブラリ・フォルダに絞り込みます。

## ダッシュボード・ページの「アクション」列

**ダッシュボード・ページ**の右側には、「**アクション**」列があります。ダッシュボードまたはフォルダの横にある **...** アイコンをクリックすると、次のアクションが表示されます:

- フォルダに対するアクション:

- **権限の割当:** フォルダに対するアクセス権限を割り当てます。フォルダ権限はそのフォルダ内のすべてのアイテムに適用され、リストに表示されていないアイテムにも適用されます。
- **ダッシュボードの作成:** ダッシュボード 1.0 のダッシュボードを作成します。
- **ダッシュボード 2.0 の作成:** ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを作成します。
- **フォルダの作成:** 新しいフォルダを作成します。
- **削除:** フォルダを削除します。フォルダを削除するには、空である必要があります。
- **名前変更:** フォルダの名前を変更します。他のフォルダが含まれている場合、フォルダの名前を変更することはできません。
- **移動先:** フォルダをフォルダ階層内の別の場所に移動します。
- **すべてのダッシュボードを 2.0 に変換:** フォルダ階層内でダッシュボード 1.0 のダッシュボードを検出してダッシュボード 2.0 のダッシュボードに変換します。
- 個々のダッシュボードに対するアクション:
  - **編集:** 基礎となるフォームのデータを取得してダッシュボード・デザイナーでダッシュボードを開きます。ダッシュボードは動的タブで開きます。
  - **データなし編集**(「ダッシュボード 2.0」オプションのみ): ダッシュボード・コンポーネントおよびタイルの再配置のようなアクションをより簡単に実行できるように、基礎となるフォームのデータを取得せずにダッシュボード・デザイナーでダッシュボードを開きます。ダッシュボードは動的タブで開きます。
  - **名前変更:** ダッシュボードの名前を変更します。
  - **別名コピー:** 新しい名前を付けてダッシュボードをコピーします。ダッシュボードは、リスト内で元のダッシュボードの直下にコピーされます。
  - **削除:** ダッシュボードを削除します。
  - **移動先:** ダッシュボードを別のフォルダに移動します。
  - **権限の割当:** ダッシュボードに対するアクセス権限を割り当てます。
  - **ダッシュボード 2.0 に変換**(「ダッシュボード 1.0」オプションのみ): ダッシュボードをダッシュボード 2.0 のダッシュボードに変換します。
  - **URL のコピー:** ダッシュボードのダイレクト URL をコピーして共有できます。

## ダッシュボード 1.0 のダッシュボードを 2.0 に変換

ダッシュボード 1.0 のダッシュボードをダッシュボード 2.0 のダッシュボードに変換する方法を学習します。

アプリケーションで現在ダッシュボード 1.0 が使用されている場合、それらをダッシュボード 2.0 に変換できます。



「**ダッシュボード**」リスト・ページのダッシュボードを、個々のダッシュボード・レベルまたはフォルダ・レベルで変換します。たとえば、アプリケーションのすべてのダッシュボードを 1.0 から 2.0 に変換する場合は、最上位レベルのライブラリ・フォルダを選択すると、すべてのダッシュボードを変換できます。

 **Note:**

- ダッシュボード 2.0 に変換された後のダッシュボードをダッシュボード 1.0 に戻すことはできません。
- 変換プロセスではダッシュボード名は変更されません。ナビゲーション・フローは変換前と同じように機能します。
- ダッシュボード 2.0 への変換後、固定 POV ではなく動的 POV が最初に表示されます。

ダッシュボード 1.0 をダッシュボード 2.0 に変換するには:

1. ホーム・ページで、「**ダッシュボード**」をクリックします。
2. フォルダか、ダッシュボード 1.0 に変換する個々のダッシュボードにナビゲートし、次のオプションから選択します:
  - 個々のダッシュボードを変換するには、ダッシュボードの右側にある **...** をクリックして、「**ダッシュボード 2.0 に変換**」を選択します。
  - フォルダ内のすべてのダッシュボードを変換するには、フォルダの右側にある **...** をクリックして、「**すべてのダッシュボードを 2.0 に変換**」を選択します。

 **Note:**

- 非常に古いダッシュボードでは、サポートされなくなったコンポーネント幅の値がダッシュボード定義に含まれている可能性があります。このために、古いダッシュボードをダッシュボード 2.0 に変換した後、ダッシュボードのレンダリングが予期しない結果になることがあります。

この問題を解決するには、次のいずれかの回避策を講じることをお勧めします:

- ダッシュボード(1.0)で元のダッシュボードを開き、ダッシュボードを編集してから保存します。ダッシュボードが修正されたコンポーネント幅の値で自動的に保存され、ダッシュボード 2.0 に変換できるようになります。
- ダッシュボード(1.0)で同じフォームとチャートのセットおよび同じ設定を持つ新しいダッシュボードを作成してから、そのダッシュボードをダッシュボード 2.0 に変換します。
- ダッシュボード 2.0 で同じアーティファクトおよび設定を持つ新しいダッシュボードを作成します。
- 23.11 の更新より前にダッシュボード 2.0 に変換された、マスター・フォームおよび詳細を含むダッシュボードには、グリッドのコンテキスト・メニューに 2 つの「**コンテキストの適用**」メニュー・オプションが表示されることがあります。この問題は、23.11 で修正されました。



# ダッシュボード 2.0 の作成および管理

## 次も参照:

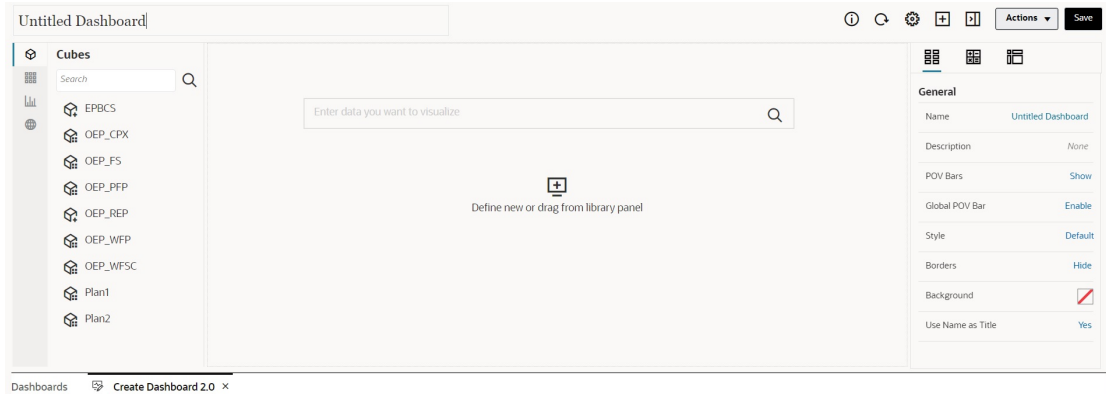
- [ダッシュボード 2.0 のダッシュボード設計の概念](#)
- [ダッシュボード 2.0 の考慮事項](#)
- [ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの作成](#)
- [ダッシュボード 2.0 を設計する際のメンバー・セクタの操作](#)  
ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを設計する際には、メンバー・セクタを使用して新しいディメンション・メンバーの検索と選択を簡単に行えます。
- [ダッシュボード 2.0 でのフォーム 2.0 のグリッドについて](#)
- [ジオマップ・チャート・タイプについて](#)
- [ピラミッド・チャート・タイプについて](#)
- [ウォーターフォール・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボードでの表の使用](#)
- [ダッシュボード 2.0 のゲージ・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボード 2.0 のレーダー・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボード 2.0 の組合せチャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボード 2.0 のタイル・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボード 2.0 のグローバル POV とローカル POV について](#)
- [クイック分析について](#)

## ダッシュボード 2.0 のダッシュボード設計の概念

このトピックには、ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを設計する際に役立つ情報が含まれています:

- [ダッシュボード 2.0 デザイナについて](#)
- [ダッシュボード 2.0 デザイナを開く](#)
- [チャートのデータ・ソース](#)
- [ダッシュボード 2.0 に関するその他の役立つ情報](#)
- [ビデオ](#)

## ダッシュボード 2.0 デザイナについて




ダッシュボード・デザイナは、次のダッシュボード・コンポーネントで構成されています：

- オブジェクト・パレット
- ダッシュボード・ツールバー
- ダッシュボード・ワークスペース
- 「プロパティ」パネル
- ダッシュボード・コンポーネント

### ダッシュボード 2.0 デザイナを開く

前述したように、**ダッシュボード**・ページのダッシュボード 2.0 のダッシュボードは次のアイ

コンで識別されます：

ダッシュボード 2.0 の使用は、レッドウッド・エクスペリエンスが有効になっている場合にのみサポートされます。

ダッシュボード 2.0 デザイナを開くには：


1. ホーム・ページで「**ダッシュボード**」をクリックします。
2. 次のいずれかのオプションを選択してください：
  - ダッシュボードを作成するには、「**作成**」をクリックし、「**ダッシュボード 2.0**」を選択します。
  - ダッシュボードを編集するには、編集するダッシュボード 2.0 のダッシュボードの右側にある「**アクション**」列で、**•••**をクリックしてから、「**編集**」をクリックします。  
 ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの編集時にデータを操作する必要がない場合、たとえば、ダッシュボードのコンポーネントとタイルの配置を変更する場合は、**•••**をクリックしてから、「**データなし編集**」をクリックします。
3. ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを実行時環境で開いている場合は、実行時環境からダッシュボード・デザイナ環境に切り替えることができます。  
**「アクション」** をクリックし、「**編集**」または「**データなし編集**」を選択します。

## チャートのデータ・ソース

ダッシュボード 2.0 では、アド・ホック・グリッド、フォームおよびキューブからデータを選択できます。オブジェクト・パレットからデータ・ソースを選択できます。


### ノート:

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードには、最大 12 個のコンポーネントを含めることができます。

- プロパティ・パネルの「**チャート**」タブ  の下にコンポーネントのデータ・ソース情報全部が表示され、「**ビジュアライゼーション**」の下に情報が表示されます。
- クイック分析のデータ・ソースとしてキューブを使用する場合は、オブジェクト・パレットからダッシュボード・ワークスペースにキューブをドラッグ・アンド・ドロップし、「検索」ボックスをクリックして、メンバー名を入力するか、メンバー・セレクタを起動してメンバーを選択します。これにより、「**レイアウト**」タブがプロパティ・パネルに表示され、ディメンションをピボットし、POV、行軸または列軸に表示するディメンションを選択できます。[クイック分析について](#)を参照してください。

### ノート:

クイック分析を使用してチャートを作成できるのは、選択できる全ディメンションのうち 50 個のメンバーという上限があります。この制限とキューブ内のディメンション数をあわせて、クイック分析に基づいたチャートでサポートされるグリッドの最大サイズが決まります。

- ダッシュボード・コンポーネントのデータ・ソースがフォームまたはアド・ホック・グリッドである場合は、フォーム定義を使用してデータがフェッチされます。
  - プロパティ・パネルのソース・フォームを変更するには、プロパティ・パネルの  タブにある「**フォーム**」プロパティをクリックします。
  - チャートにビジュアル化できるフォーム・データの合計量は、10,000 個のセルです。デフォルトでは、これは 100 行と 100 列です。ただし、行と列の数は、セルの個数の合計が 10,000 以下になるような任意の組合せに変更できます。たとえば、行数を 5 に減らした場合は、列数を 2,000 に増やすことができます(5 x 2000=10,000)。
  - フォームの精度を設定した場合、ダッシュボード 2.0 への変換後に表示される値は、フォームの精度設定に基づきます。フォームの精度の値を設定しない場合、ダッシュボード 2.0 への変換後に表示される値は変化する可能性があります。

### ノート:

ダッシュボード・コンポーネントのデータ・ソースがフォームで、かつそのフォームに空白のヘッダー・セルを含む行または構成されていない空の式行が含まれている場合、対応するチャート凡例は表示されません。

- チャート・タイプが「ドーナツ」、「円」および「ゲージ」の場合、1つのコンポーネントに複数のチャートを追加できます。複数のチャートを追加するには、チャートの「表示」プロパティで「単一」または「複数」をクリックします。「単一」を選択した場合、チャートには基礎となるフォームのデータの最初の列のみが表示されます。「複数」を選択した場合、基礎となるフォームのデータの列ごとにチャートが表示されます。

### ノート:

チャート・タイプが「ドーナツ」、「円」および「ゲージ」のダッシュボードをダッシュボード 1.0 からダッシュボード 2.0 に変換する場合、「表示」プロパティのデフォルト・オプションは「複数」です。新しく作成したダッシュボード 2.0 のダッシュボードの場合、「表示」のデフォルト・オプションは「単一」です。

## ダッシュボード 2.0 に関するその他の役立つ情報

- ダッシュボードの作成時に、「アクション」をクリックし、**保存して実行**を選択すると、ダッシュボード・ユーザーに対するダッシュボードの外観と動作をすぐに確認できます。デザイナー・モードに戻ってダッシュボードの設計を続行するには、「アクション」をクリックし、「編集」または「データなし編集」を選択します。
- デフォルトでは、欠落データまたは抑制データはゼロとしてプロットされます。選択したチャート・タイプ(面、バブル、組合せ、折れ線、レーダーおよび散布図)のチャートの設定で、「プロットにゼロの値なし」オプションを選択して、この設定を無効化できます。このオプションを無効にすると、それらのチャート・タイプでは欠落データまたは抑制データが無視され、ゼロとしてプロットされなくなります。
- ダッシュボード 2.0 の考慮事項を確認するには、[ダッシュボード 2.0 の考慮事項](#)を参照してください。

## ビデオ

### 目的

ダッシュボード・デザイナーで複数のコンポーネントを持つダッシュボードをダッシュボード 2.0 向けに作成する方法を学習します。


### 視聴するビデオ



[ダッシュボード 2.0 でのダッシュボードの作成](#)

## オブジェクト・パレット

ダッシュボード・デザイナーの左側には、ダッシュボード・コンポーネントのコンテンツを選択するオブジェクト・パレットがあります。単にオブジェクト・パレットからワークスペースにオブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップするか、「検索」ボックスを使用してコンテンツを検索します。

オブジェクト・パレットのサイズは変更できます。オブジェクト・パレットのサイズを変更するには、パレットの右側にカーソルを置いてドラッグします。パレットを非表示にするには、ハンドル・アイコン  が表示されるまでパレットにカーソルを置いてから、クリックしてパレットを非表示にします。もう一度ハンドル・アイコンをクリックすると、パレットが再び開きます。

オブジェクト・パレットのコンテンツは、次のカテゴリに分類されます：

**Table 10-2 オブジェクト・パレットのコンテンツのカテゴリ**






アイコン	説明
	<p><b>キューブ:</b> 事前作成されたフォームなしで、キューブのコンポーネントをダッシュボードに追加することにより、クイック分析を実行します。  <a href="#">クイック分析について</a>を参照してください。</p>
	<p><b>ライブラリ:</b> フォーム・フォルダにナビゲートするか、名前で検索することにより、ダッシュボードに含めるアドホック・フォームおよび標準フォームを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「リスト」をクリックして、「リスト・ビュー」または「ツリー・ビュー」でフォームを表示します。</li> <li> をクリックして、検索キーワードを入力します。</li> </ul> <p>フォームに設定されているアクセス権限がダッシュボードで保持されます。</p>
	<p><b>ビジュアライゼーション:</b> ダッシュボードに含めるチャートを選択します。</p> <p>チャートにデータを表示するには、キューブのコンポーネントを選択するか、チャートをデータ・ソースとしてのフォームと関連付けます。チャートをフォームにリンクすると、ユーザーは、関連付けられたチャートに対するフォームでのデータ変更の影響をすぐに確認できます。</p>

Table 10-2 (Cont.) オブジェクト・パレットのコンテンツのカテゴリ

アイコン	説明
	<p>その他:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>注釈:</b> 入力したコメントを、グラフまたはチャートの下、およびプロパティ・パネルの「<b>チャート</b>」タブの一番下に追加します。「<b>注釈</b>」には、WYSIWYG テキスト・エディタが含まれます。</li> <li>• <b>URL:</b> 入力した URL を、グラフまたはチャートの下、およびプロパティ・パネルの「<b>チャート</b>」タブの一番下に追加します。「<b>URL</b>」には参照 URL リンクが含まれ、URL は IFrame 対応である必要があります。 https://セキュリティ・プロトコルで始まる外部サイトの URL のみを挿入します。内部または相対 URL や、google.com などの同意していないサード・パーティ・サイトの URL を使用しないでください。 同じ Oracle Enterprise Performance Management Cloud インスタンスまたは別の EPM Cloud インスタンスのフォームやダッシュボードなど、他の EPM アーティファクトへのダイレクト URL をダッシュボードに埋め込まないでください。</li> </ul>

 **Note:**

ダッシュボードに追加された URL が実行時環境で機能しない場合は、その URL を右クリックして、新しいタブでリンクを開きます。

## ダッシュボード・ツールバー

ダッシュボード・デザイナの右上隅には、次のダッシュボード・タスクを実行できるダッシュボード・ツールバーがあります:

Table 10-3 ダッシュボード・ツールバー






アイコン	説明
	「 <b>情報</b> 」アイコンには、ダッシュボードが含まれているフォルダが表示されます。
	「 <b>データのリフレッシュ</b> 」アイコンは、ダッシュボード全体に関連付けられているすべてのデータをリフレッシュします。


Table 10-3 (Cont.) ダッシュボード・ツールバー

アイコン	説明
	<p>「POV 設定」アイコンは、次の POV アクションを実行します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>POV: 「ディメンション・ラベルの非表示」:</b> ダッシュボードにグローバル POV バーが含まれている場合、これを選択すると、グローバル POV バーでディメンション名が非表示になります。もう一度このオプションの選択を解除すると、グローバル POV バーにディメンション名が表示されます。</li> <li>• <b>POV: 「自動適用」:</b> ダッシュボードにグローバル POV またはローカル POV が含まれている場合、このアクションを有効にすると、変更が自動的に POV に適用されます。変更が自動的に適用されないようにするには、このオプションの選択を解除します。</li> <li>• <b>POV: すべてのページ選択のクリア:</b></li> </ul>
	<p>「追加」アイコンは、デザイン・キャンバスに新しい空のダッシュボード・コンポーネントを追加します(これはドラッグ・アンド・ドロップに代わる方法です)。</p>
	<p>「プロパティ」アイコンは、「プロパティ」パネルの非表示と表示を切り替えます。</p>
「アクション」メニュー	<p>「アクション」メニューでは、次のアクションを実行できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>最後に保存した内容に戻す:</b> 最後にダッシュボードを保存してから行った編集内容を破棄します</li> <li>• <b>保存して実行:</b> 編集内容を保存し、実行時環境でダッシュボードを開きます</li> </ul>
保存	<p>「保存」をクリックすると、ダッシュボード定義が保存されます。</p>



## ダッシュボード・ワークスペース

オブジェクト・パレットとプロパティ・パネルの間にあるページ中央の大きな領域は、ダッシュボード・ワークスペースです。ドラッグ・アンド・ドロップに加えて、「検索」ボックスを使用して、それぞれのコンポーネントに対して表示するデータを指定または検索できます(コンポーネントとは、チャートや表などのダッシュボード・オブジェクトを追加できるダッシュボード・ワークスペース内の空のオブジェクトです)。ダッシュボード・ワークスペースには最大 12 個のコンポーネントを追加できます。

レッドウッド・エクスペリエンスが有効で、かつフォームのバージョンがフォーム 2.0 である場合、ワークスペースにドロップされたフォームはすべて、最初は編集可能なグリッドとしてレンダリングされます。ワークスペースにドロップされたアド・ホック・グリッドは、最初は表としてレンダリングされます。

- 最初にドラッグ・アンド・ドロップしたオブジェクトがワークスペース全体を占有します。その後、オブジェクト・パレットから追加のオブジェクトを既存のオブジェクトの左、右、上または下にドラッグします。
- コンポーネントをダッシュボードの別の部分に移動するには、コンポーネントをクリックし、ドラッグ・アイコンが表示されるまでオブジェクトの上端にカーソルを置きます。コンポーネントを別のコンポーネントの左、右、上または下にドラッグ・アンド・ドロップすると、ダッシュボード上の他のコンポーネントが移動し、再配置されます。
- コンポーネントをワークスペース全体に広がるように最大化するには、 をクリックし、「最大化」をクリックします。コンポーネントがワークスペース全体に広

がり、ワークスペース上の他のコンポーネントは非表示になります。⋮、「復元」の順にクリックすると、オブジェクトが元のサイズに戻り、ワークスペース内の他のオブジェクトが再び表示されます。

- ダッシュボードのコンポーネントの高さと幅を変更するには、次のいずれかのアクションを実行します:
  - ダッシュボード・ワークスペース内でコンポーネントの枠線をドラッグします
  - ダッシュボード・コンポーネントを選択し、右側にあるプロパティ・パネルで、 をクリックして、コンポーネントの高さと幅を表示および変更します。
- ダッシュボード・ワークスペースの全体的なサイズを最大化するには、ワークスペースの端でオブジェクト・パレットとプロパティ・パネルをサイズ変更するか、非表示にします。
- URL コンポーネントが含まれるダッシュボードで、URL コンポーネントのボディをクリックしても、フォーカスは URL コンポーネントに切り替わりません。フォーカスを URL コンポーネントに切り替えるには、[Alt]を押しながら[W]をクリックするか、カーソルが「移動」アイコン  になるまで URL タイトル・バーにカーソルを置いてから、クリックしてフォーカスを変更します。

#### Note:

実行時環境では、ユーザーがフォームなどのオブジェクトに対するアクセス権を持っていない場合やフォームが見つからない場合、隣接するコンポーネントがそのスペースを占有します。デザイナー環境では、すべての空のコンポーネントが表示され、設計者は任意にそれを削除できます。

## 「プロパティ」パネル

ダッシュボード・デザイナーの右側には、ダッシュボード全体の一般プロパティおよびコンポーネント固有のプロパティを設定できるプロパティ・パネルがあります。




プロパティ・パネルのサイズは変更できます。パネルのサイズを変更するには、パネルの左側にカーソルを置いてドラッグします。パネルを非表示にするには、ページの上にある  をクリックします。もう一度  をクリックすると、パネルが再び開きます。



Table 10-4 「プロパティ」パネル

アイコン	説明
	<p>「一般」タブには、ダッシュボード全体の次のプロパティが含まれます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>名前:</b> ダッシュボード全体のタイトルを編集します。</li> <li>• <b>説明(オプション):</b> ダッシュボードの説明。</li> <li>• <b>POV バー:</b> POV バーを表示または非表示にします。</li> <li>• <b>グローバル POV バー:</b> グローバル POV バーを有効または無効にします。</li> <li>• <b>スタイル:</b> ダッシュボードのカラー・スキームを選択します。オプションは、「デフォルト」、「明るい」および「暗い」です。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px;"> <p> <b>Note:</b></p> <p>「暗い」を選択した場合、ダッシュボードのエラー・メッセージおよび凡例のテキストが読みにくくなります。</p> </div>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>枠線:</b> コンポーネントの枠線を表示または非表示にします。</li> <li>• <b>背景:</b> 色のメニューから新しいダッシュボード背景を選択します。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px;"> <p> <b>Note:</b></p> <p>ダッシュボードにグリッドが含まれている場合、背景色のみが変更されます。グリッドの色は変更されません。</p> </div>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>名前をタイトルとして使用:</b> 「いいえ」を選択すると、ダッシュボードのタイトルをカスタマイズできます。フォント・ファミリー、フォント・サイズ、太字、イタリック、下線、フォント色およびフォント背景色を変更して、タイトルをさらにカスタマイズできます。</li> </ul> <p>POV の詳細は、<a href="#">ダッシュボード 2.0 のグローバル POV とローカル POV について</a>を参照してください。</p>


Table 10-4 (Cont.) 「プロパティ」 パネル

アイコン	説明
	<p>「<b>関連付け</b>」タブには、ダッシュボードに関連付けられているルールおよび基礎となるフォーム・データがリストされます。</p>

 **Note:**


グローバルな「**保存**」中に実行する必要があるルールを関連付けることができます。これらのルールの関連付けまたは削除は、いつでも行えます。

ルールを追加および編集できます:

- 関連付けられたルールがない場合、 をクリックすると、選択するルールのリストが表示されます。ダッシュボードですでにフォームと関連付けられているルールは、次のような名前が付けられてリストの最初に表示されます:

ビジネス・ルール<フォーム名>
- ルールを追加するとき、ルールを実行するタイミングを指定する必要があります: 「**ロード前**」、「**ロード後**」、「**保存前**」、「**保存後**」、「**フォームのメンバーを使用**」、「**プロンプトの非表示**」。
- 「**アクション**」で、ルールを削除したり、ルールの実行順序を変更できます: 「**一番上へ移動**」、「**上へ移動**」、「**下へ移動**」、「**一番下へ移動**」および「**削除**」。
- ルールに実行時プロンプトが含まれる場合、ルールの実行時にそれが表示されます。

Table 10-4 (Cont.) 「プロパティ」 パネル

アイコン	説明
	<p>「<b>チャート</b>」タブには、チャート・タイトル、コンポーネントの高さ、幅、背景色など、ダッシュボード内で選択されたコンポーネントのプロパティが含まれます。また、チャート・タイプ、データ・ソース・タイプ、および各コンポーネントに使用する基礎となるフォームを変更することもできます。コンポーネントごとに異なる背景色を使用すると、各ダッシュボード・コンポーネントを一意に区別できます。チャート・タイトルを削除すると、領域が解放され、その領域をローカル POV バーおよびチャート自体に対して調整できます。</p> <p>行と列の場合、チャートにビジュアル化できるフォーム・データの合計量は <b>10,000</b> 個のセルです。デフォルトでは、これは <b>100</b> 行と <b>100</b> 列です。ただし、行と列の数は、乗算の合計が <b>10,000</b> 個以下のセルになるような任意の組合せに変更できます。たとえば、行数を 5 に減らした場合は、列数を <b>2,000</b> に増やすことができます (<math>5 \times 2000 = 10,000</math>)。</p>



 **Note:**

セル **10,000** 個のビジュアライゼーション上限はグリッドには適用されません。

チャートに関連付けられたフォームがセル **10,000** 個のビジュアライゼーション上限を超えると、フォームに表示されるデータと、ダッシュボード・チャートでデータをビジュアル化する方法に不一致が発生する可能性があります。また、チャートや凡例へのドリルスルーなど、実行時の他の問題が発生する可能性もあります。

「**注釈**」または「**URL**」情報タイプをこのコンポーネントに追加した場合、このタブの下部にあるそれらの情報タイプの内容を編集できます。

Table 10-4 (Cont.) 「プロパティ」 パネル

アイコン	説明
 (このアイコンは、ダッシュボードで選択されているコンポーネントに応じて変わります)	<p>このタブでは、選択したチャートまたは表のビジュアライゼーションをカスタマイズできます。</p> <p>値のスケール方法、行区切りやグリッド線の表示または非表示、ヘッダーやデータについての異なるフォント・サイズおよび色の選択、垂直または水平の向きの設定、凡例の位置の定義、表へのスパーク・チャートの追加、セカンダリ Y 軸の追加など、選択したコンポーネントの表示プロパティを設定します。</p> <p>プロパティの詳細な説明は、チャート・タイプのトピックを参照してください。</p>
	<p>「レイアウト」タブには、クイック分析用に選択したキューブの「POV」、「行」および「列」プロパティが表示されます。</p> <p><a href="#">クイック分析について</a>を参照してください。</p>

 **Note:**

ダッシュボード 2.0 のデータ・ビジュアライゼーションの場合、現在、カスタム色パレットで 15 色ではなく 12 色のみがサポートされています。15 色を使用していた以前の更新でダッシュボードを作成した場合は、実行時に引き続き 15 色が表示されます。ただし、カスタム色を変更しようとする、ダッシュボード・デザイナーで選択および保存できる 12 色のみが表示されます。

## ダッシュボード・コンポーネント

ダッシュボード・ワークスペースには最大 12 個のコンポーネントを追加できます。

ワークスペース内のコンポーネントにカーソルを置くと、そのコンポーネントのツールバーが右上隅に表示されます:



Table 10-5 ダッシュボード・コンポーネントのツールバー





アイコン	説明
	<b>情報:</b> 基礎となるフォームの詳細(フォーム名、フォームのフォルダ・パスおよびキューブを含む)を表示します
	<b>保存:</b> 変更したデータを保存し、コンポーネントに関連付けられているルールを実行します
	<b>リフレッシュ:</b> ダッシュボード・コンポーネントに関連付けられているデータをリフレッシュします

Table 10-5 (Cont.) ダッシュボード・コンポーネントのツールバー

アイコン	説明
	<p><b>チャート・タイプ:</b> コンポーネントに関連付けられているチャート・タイプを変更します</p> <p><b>「アクション」メニュー:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>最大化:</b> ダッシュボード・コンポーネントを拡大します。最大化した後で「復元」をクリックすると、ダッシュボード・コンポーネントは元のサイズに戻ります。</li> <li>• <b>フォームを開く:</b> コンポーネントに関連付けられた実行時フォームが、現在のタブの横の動的タブ内に開きます。</li> <li>• <b>フォームの編集:</b> 適切な権限がある場合、コンポーネントに関連付けられたフォームをフォーム・エディタで開きます。フォーム・エディタが現在のタブの横の動的タブ内に開きます。</li> <li>• <b>削除:</b> フォームを削除します。</li> </ul>

## ダッシュボード 2.0 の考慮事項

ダッシュボード 2.0 の使用時には、次の考慮事項に注意してください:

- ダッシュボード 2.0 では、3D ビジュアライゼーションはサポートされていません。このことは、ダッシュボード 2.0 の次のチャート・タイプに影響します:
  - 面
  - 棒
  - バブル
  - 縦棒
  - 組合せ
  - ドーナツ
  - ゲージ
  - グリッド
  - 折れ線
  - レーダー
  - 散布

### Note:

ダッシュボード 1.0 では、チャートの 3D ビジュアライゼーションがまだ適用可能としてサポートされています。

- 将来の更新では、ダッシュボード 2.0 でスマート・プッシュがサポートされる予定です。
- ファンネル・チャートは、プロセスのステージ(販売プロセスのステージなど)のデータを参照する場合に便利です。ファンネル・スライスの面は、対応するステージ

のその値と比例します。ファンネル・チャートのレンダリング方法は、ダッシュボード 1.0 とダッシュボード 2.0 で大きく異なります。ダッシュボード 1.0 のファンネル・チャートでは複数の列がサポートされ、フォームの最初の 2 行が実際とターゲットの比較に使用されます。次に、各列に対応するファンネル内の 2 つの間の差がプロットされます。ダッシュボード 2.0 のファンネル・チャートでは、最初の列のみがサポートされ、行の各セルに対応するファンネルの面が、その数値に比例してサイズ設定されます。

- 将来のダッシュボード拡張はすべてダッシュボード 2.0 に反映される予定です。

### フォーム・バージョンとダッシュボード 2.0

実行時フォームも 2 つのバージョンで使用可能です:

- **フォーム 1.0:** Oracle ADF Fuse コンポーネントで Slick Grid を使用します
- **フォーム 2.0:** Oracle JET コンポーネントで Slick Grid を使用します

ダッシュボード 2.0 の場合と同じように、フォーム 2.0 も **レッドウッド・エクスペリエンス** が有効になっている場合のみ使用できます。ダッシュボード 2.0 の特定の機能は、フォーム 2.0 との連携でのみ機能します。たとえば、ダッシュボード 2.0 でフォーム・グリッドのデータを直接操作できるのは、基礎となるフォームがフォーム 2.0 のフォームである場合のみです。アプリケーション設定の「**フォーム・バージョン**」を更新できます。

ダッシュボード・バージョンとフォーム・バージョンが対話する方法にいくつかの違いがあることに注意する必要があります。

「**フォーム・バージョン**」アプリケーション設定が「**フォーム 1.0**」に設定されている場合:

- フォーム 1.0 で引き続きダッシュボード 1.0 を使用できます。
- フォーム 1.0 でダッシュボード 2.0 を使用することはできません。

フォーム 2.0 はダッシュボード 2.0 でのみサポートされます。すべての対話について、フォーム 2.0 はダッシュボード 2.0 で使用してください。

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを選択し、ダッシュボード 2.0 コンポーネントの初期化中にエラーが発生しましたメッセージが表示された場合、ダッシュボードにはフォーム 2.0 のフォームが関連付けられています。ダッシュボードを表示するには、レッドウッド・エクスペリエンスおよびフォーム 2.0 が有効になっていることを確認する必要があります。

- ダッシュボード 2.0 のアーティファクトが作成されると、「**グリッド**」ビジュアライゼーション・オプションは選択できなくなります。
- ダッシュボード 2.0 でフォームをグリッドとして使用するには、「**フォーム・バージョン**」アプリケーション設定を「**フォーム 2.0**」に更新します。
- ダッシュボード 2.0 の既存のダッシュボード(2023 年 11 月より前に作成されたダッシュボード 2.0 のダッシュボード)では引き続き、フォームがグリッドではなく表およびチャートとして表示されます。

「**フォーム・バージョン**」アプリケーション設定が「**フォーム 2.0**」に設定されている場合:

- フォーム 2.0 でダッシュボード 1.0 を引き続き使用できます。
- ダッシュボード 2.0 では、「**グリッド**」ビジュアライゼーション・オプションが表示され、読み取り、書き込みおよび計算ができるフォーム 2.0 が使用されます。
- ダッシュボード 1.0 内のフォーム 2.0 は、フォーム 1.0 として表示されます。

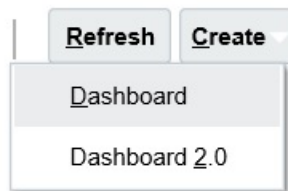
 **Note:**

保存されたフォーム定義は、「**フォーム・バージョン**」アプリケーション設定（「**フォーム 1.0**」または「**フォーム 2.0**」）に関係なく、ダッシュボード・チャートのデータ・ソースとして使用できます。

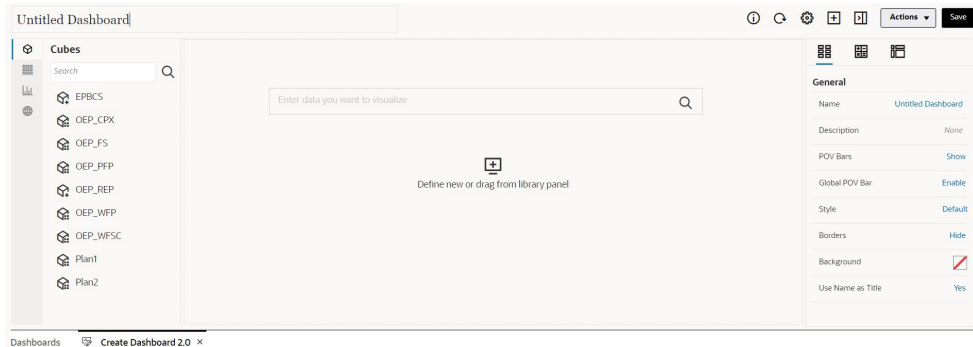
## ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの作成

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを作成するには:

1. ホーム・ページから、「**ダッシュボード**」をクリックし、「**作成**」をクリックします。



2. 提供されるオプションから、「**ダッシュボード 2.0**」を選択します。



3. デフォルトのダッシュボード名をクリックし、入力ボックスに新しい名前を入力することにより、ダッシュボードの名前を入力します。
4. 左側のオブジェクト・パレットからダッシュボード・ワークスペースにコンテンツをドラッグ・アンド・ドロップします。ダッシュボード設定およびプロパティを使用して、ダッシュボードをカスタマイズします。

ダッシュボード・デザイナの詳細は、[ダッシュボード 2.0 のダッシュボード設計の概念](#)を参照してください。

5. 「**保存**」をクリックします。

「**ダッシュボード**」リスト・ページで「**別名コピー**」を使用すると、ダッシュボードを簡単に複製して変更できます。コピーするダッシュボードの横にある「**アクション**」アイコン **...** を選択します。

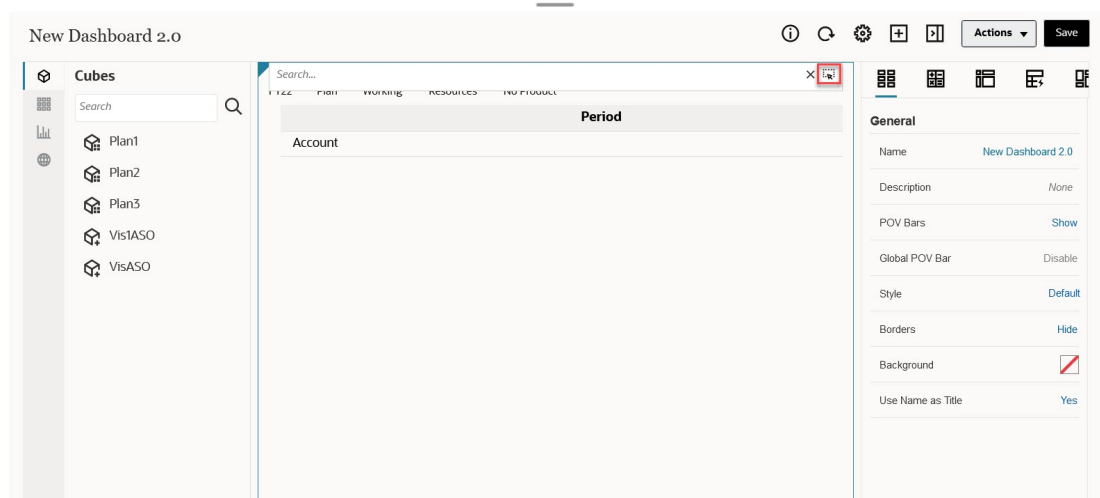
## ダッシュボード 2.0 を設計する際のメンバー・セレクタの操作

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを設計するには、メンバー・セレクタを使用して新しいディメンション・メンバーの検索と選択を簡単に行えます。

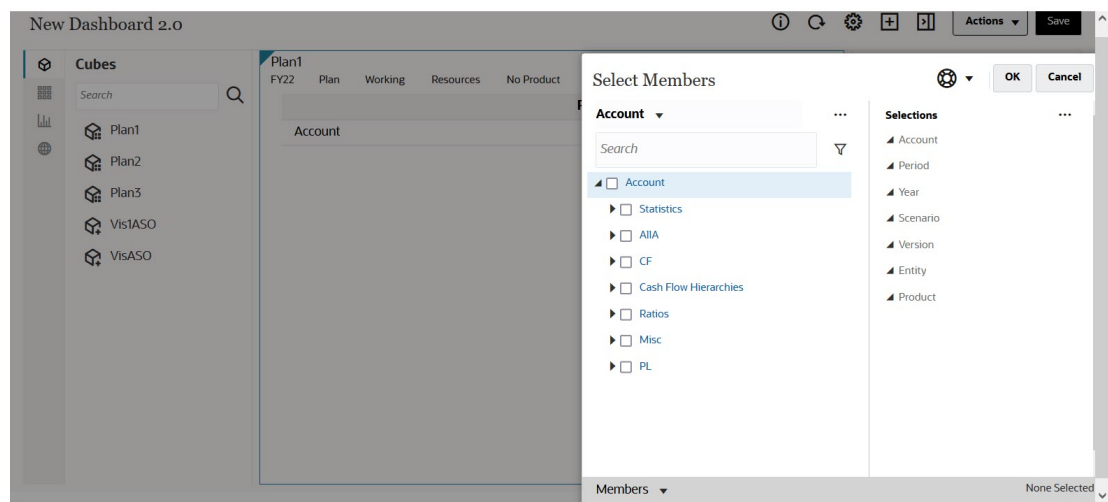
ダッシュボードでクイック分析を使用している場合、キューブを追加した後、メンバー・セレクタを使用してディメンションごとにメンバーを選択できます。

クイック分析のメンバー・セレクタを開くには:

クイック検索バーの「メンバー・セレクタ」アイコンをクリックします:



メンバー・セレクタを使用して、ディメンションごとにメンバーを選択します。



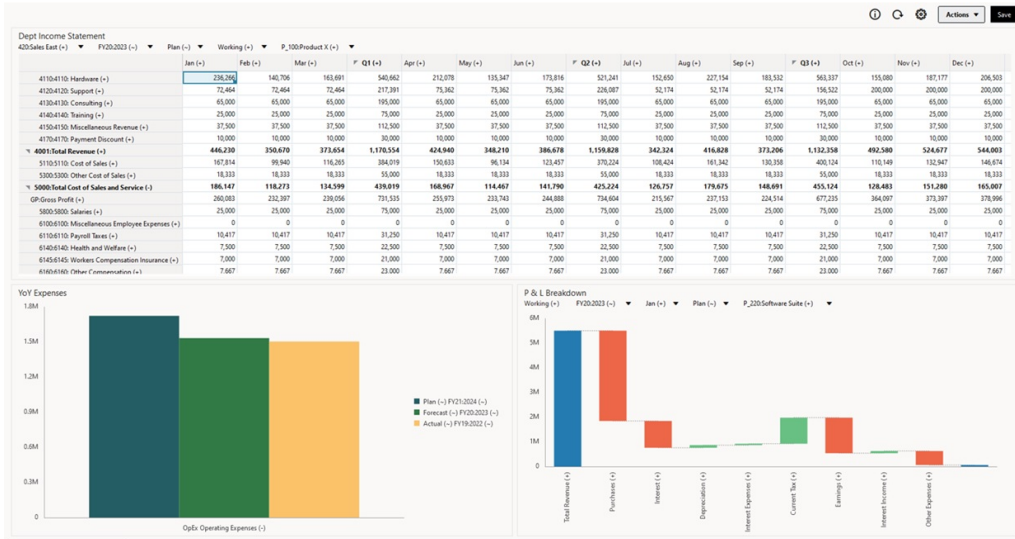
メンバー・セレクタの操作の詳細は、メンバー・セレクタの使用を参照してください。



## ダッシュボード 2.0 でのフォーム 2.0 のグリッドについて

ダッシュボード 2.0 に新しく追加されたコンポーネントにはデフォルトでフォーム・グリッドが表示され、関連付けられているフォームがフォーム 2.0 のフォームである場合、グリッドは書き込み可能です。基礎となるフォームがフォーム 2.0 のフォームである場合、ダッシュボードのグリッドを使用してフォーム内のデータを直接操作できます。グリッド・コンポーネントがあるダッシュボードでは、データの更新をライトバックしたり、ルールを起動することができます。また、グリッド内で右クリックしてコンテキスト・メニューを表示し、グリッド分散、コメントや添付の追加といった追加のグリッド・アクションを実行することもできます。

### 1 つのグリッドと複数のチャートがあるダッシュボードの例



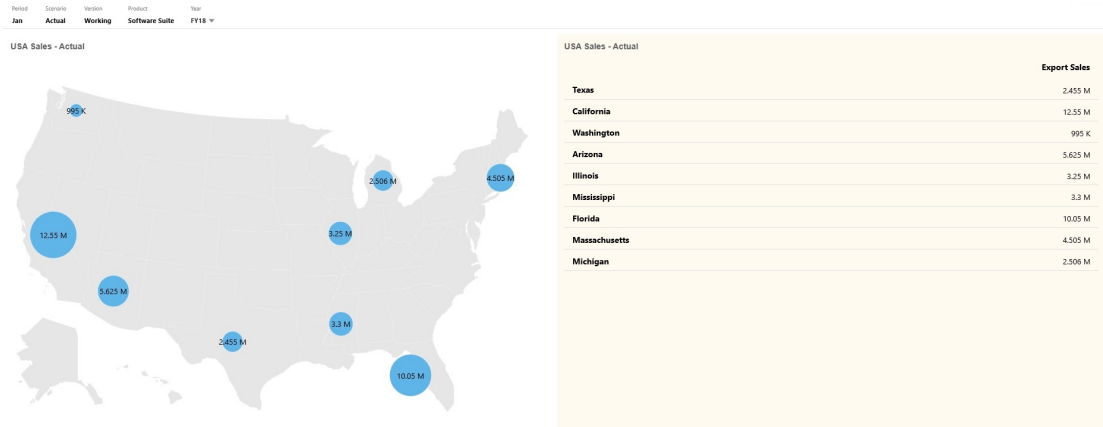
## ジオマップ・チャート・タイプについて

ジオマップは、表示されているそれぞれの地理的地域に関するいくつかのメジャーを表示するオーバーレイおよびチャートを伴う地理マップです。ジオマップ内でバブルまたは色による強調表示にカーソルを置くと、データ・ラベルが表示されます。

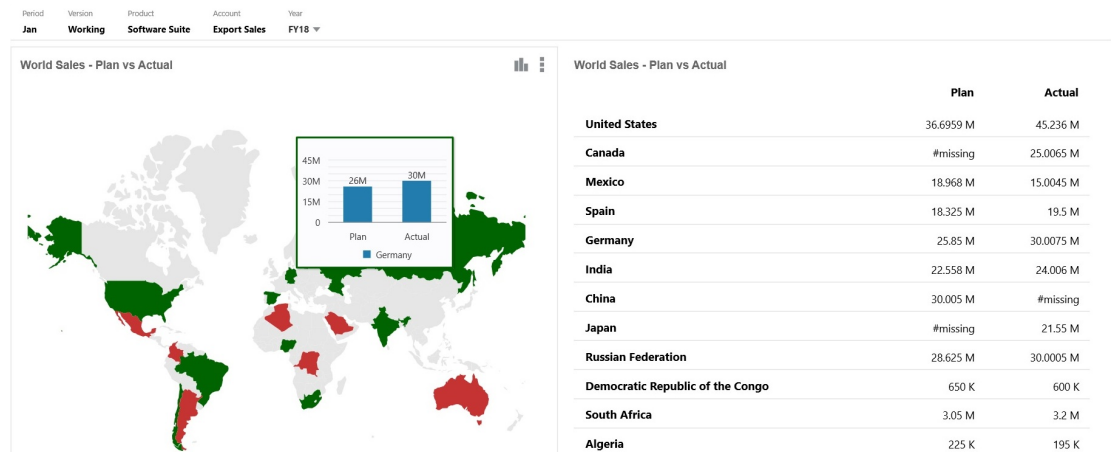
### ノート:

基礎となるデータの値に基づいて差異「**目的の差異トレンド**」設定に応じて赤または緑を表示するために、色による強調表示のジオマップが設計されます。ジオマップ領域の 1 番目または 2 番目の列に欠落値がある場合、またはそれらの列の値が等しく、差異がない場合、領域が青で強調表示されます。強調表示された領域の上にカーソルを置くと、欠落値を除く行のすべての値の棒グラフが表示されます。

### ジオマップの例 - データ・バブルを使用した米国の売上げ



ジオマップの例 - 色による強調表示を使用した世界の売上げ



ダッシュボード・デザイナーは、次に示すジオマップ・チャートのプロパティを設定できます:


表 10-6 ジオマップ・チャートのプロパティ

設定	説明
マップ・レイヤー	「世界」を選択するか、マップの範囲を「アジア」、「北アメリカ」、「アフリカ」などの大陸に絞り込みます。
タイプ	<p>「データ・バブル」ジオマップでは、サイズが異なるバブルとしてデータがマップ・レイヤー上に表示されます。「色による強調表示」ジオマップでは、2つのデータ値を比較して、増加している地理的地域は緑、減少している地理的地域は赤で表示されます。</p> <p>「データ・バブル」または「色による強調表示」を選択し、次の追加オプションを指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「データ・バブル」の場合は、「ラベル」(「表示」または「非表示」)、「ラベルの色」および「バブルの色」について目的の設定を選択します。</li> <li>「色による強調表示」の場合は、「目的の差異トレンド」(「増加」または「減少」)を指定します。</li> </ul>

表 10-6 (続き) ジオマップ・チャートのプロパティ

設定	説明
地理名	<p>国、都道府県/州、市区町村など、ジオマップで使用される地理要素を含むメタデータ・ロード・ファイルが用意されています。CSV ファイルをクリックしてダウンロードし、これを新しいメンバーとして、または(手動で変更を加えて)アプリケーション内の既存のメンバーの別名としてディメンションにアップロードできます。</p> <p>ジオマップが機能するのは、フォームの地理名が、ダッシュボード 2.0 によってそのマップ・レイヤーに使用される地理名と完全に一致する場合のみです。したがって、たとえば、マップ・レイヤーでは「合衆国」が使用されているため、USA というエンティティ/地理ディメンションは、有効な名前として認識されません。</p>

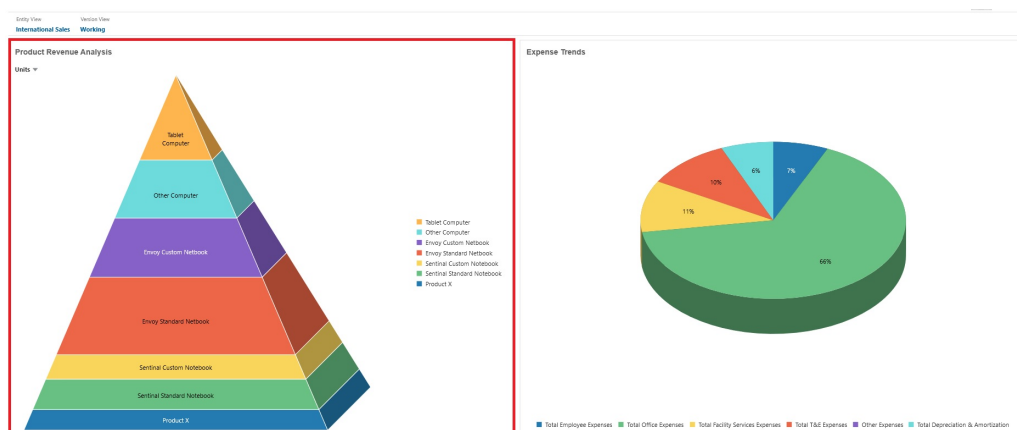
## ビデオ

目的	視聴するビデオ
<p>ジオマップ・チャートの地理メンバーをダウンロードし、それらをディメンションにインポートする方法を学習します。データ・バブルと色による強調表示の両方のジオマップ・チャートを設定する方法を学習します。</p>	<p> <a href="#">ダッシュボード 2.0 でのジオマップの作成</a></p>

## ピラミッド・チャート・タイプについて

ピラミッド・チャート・タイプでは、三角形の図表を使用して階層が視覚的に表されます。三角形はセクションに分割され、上から下に幅を変えて構造やプロセスが示されます。

### 3D ピラミッド・チャートの例



ダッシュボード・デザイナーは、次に示すピラミッド・チャートのプロパティを設定できます:

表 10-7 ピラミッド・チャートのプロパティ

設定	説明
凡例の位置	「左」、「右」、「上」、「下」または「なし」を選択します。
値のスケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、チャートにはこの値が 1,689K と表示されます。</p> <p>スケーリングのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし: スケーリングを適用しません。</li> <li>自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。</li> <li>K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。</li> <li>M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。</li> <li>B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。</li> <li>T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。</li> </ul>
3D グラフ	データを 3D グラフとしてビジュアル化するには、「はい」を選択します。
色	「デフォルト」を選択するか、ピラミッド・チャートのセクションをクリックし、そのセクションのカスタム色を選択します。

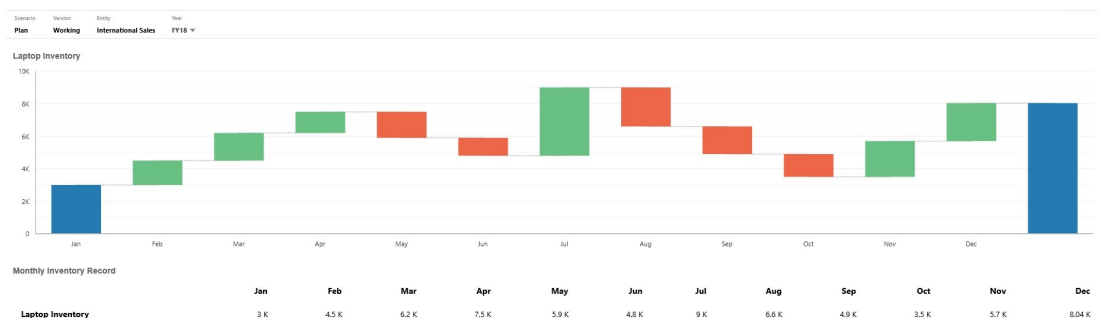
## ウォーターフォール・チャート・タイプについて

ウォーターフォール・チャートには正および負の値の累計が表示され、初期値からその累計値に到達した経緯を示す場合に役立ちます。

ウォーターフォール・チャートは、初期値が一連の正または負の中間値によってどのような影響を受けたかを表すために使用されます。通常、初期値と最終値(端点)は列全体で表示されるのに対して、中間値は、前の列の値に基づいて開始されるフローティング列として表示されます。列を色分けして、正の値と負の値を区別することもできます。

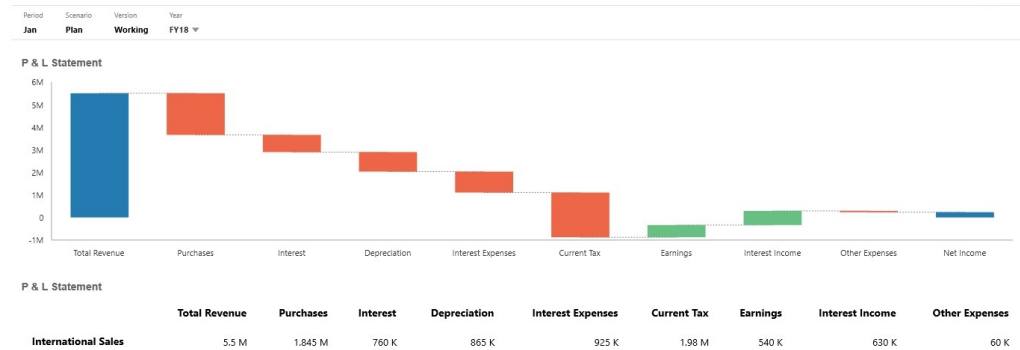
### ウォーターフォール・チャートの例 - 在庫分析

次の例は、時間の経過に伴う 1 つの勘定科目の変化をビジュアル化したものです。



## ウォーターフォール・チャートの例 - 損益計算書

次の例では、費用勘定科目が収益合計に対する負の変化として示され、利益勘定科目が最終的な純利益値に対する正の変化として示されています。




ダッシュボード・デザイナーは、次に示すウォーターフォール・チャートのプロパティを設定できます:

表 10-8 ウォーターフォール・チャートのプロパティ

設定	説明
値のスケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、チャートにはこの値が 1,689K と表示されます。</p> <p>スケーリングのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし: スケーリングを適用しません。</li> <li>自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。</li> <li>K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。</li> <li>M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。</li> <li>B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。</li> <li>T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。</li> </ul>
グリッド線	「非表示」を選択するか、「表示」を選択してグリッドの x 軸線を表示します。
接続折れ線	「非表示」を選択するか、「表示」を選択して各列の末尾を次の列の先頭に接続する線を表示します。これは、チャート内のデータのフローをビジュアル化するのに役立ちます。

表 10-8 (続き) ウォーターフォール・チャートのプロパティ

設定	説明
プロット差分	<p>提供された値に基づいて、1 つのバーと次のバーの間で共通の始点および終点を自動的に計算してプロットする場合は、「はい」を選択します。これは、残高タイプの勘定科目のトレンドを表示する場合に便利です。</p> <p>それ以外の場合は、「いいえ」を選択して増加および減少点を手動で設定します。</p> <p>「いいえ」を選択した場合、次の増加/減少オプションをバーごとに手動で設定できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>棒の方向: バーを選択して、バーの方向を手動で増加/減少に設定します。</li> <li>すべての棒: チャート内のすべてのバーのリストを表示して、バーの方向を手動で増加/減少に設定します。</li> </ul> <p>それぞれのバーについて設定できる手動オプションは、「自動」、「リバース」および「合計」です。「自動」では、データ・ソースからの正/負の値が考慮され、それに従ってプロットされます。「リバース」では符号が変更され、「合計」では、対応するバーでチャートが再開されます。</p>
増加 減少 合計	それぞれのプロパティの色を選択します。
終了棒	チャート上で終了バーを「非表示」にするか、「表示」するかを選択します。上の例では、終了バーが表示されています。終了バーを表示する場合、ラベルを指定できます。
軸	「X 軸」および「Y 軸」の「カスタム範囲」を選択するか、「オフ」を選択します。
ビデオ	
目的	視聴するビデオ
ウォーターフォール・チャートを作成して、1 つの勘定科目の時間の経過に伴う変化を追跡し、複数の勘定科目がどのように連携して最終合計を生成するかを追跡する方法を学習します。	 <a href="#">ダッシュボード 2.0 でのウォーターフォール・チャートの作成</a>

## ダッシュボードでの表の使用

ダッシュボードの表では、フォームまたはグリッドからの複数の値を表示するデータのリスト・ビューが提供されます。列データをプロットする、スパーク・チャートと呼ばれる小さいチャートを表の各行に埋め込むことができます。また、表は検索可能です。複数通貨アプリケーションの表には通貨記号または通貨コードが表示されます。

### プレーンな表が表示されているダッシュボードの例

Balance Sheet - Plan				
	Q1	Q2	Q3	Q4
<b>Current Assets</b>	535 M	557 M	588 M	625 M
<b>Fixed Assets</b>	54 M	50 M	45 M	41 M
<b>Other Assets Total</b>	223 M	223 M	223 M	223 M
<b>Total Assets</b>	812 M	830 M	857 M	890 M
<b>Current Liabilities</b>	335 M	336 M	337 M	345 M
<b>Long Term Liabilities</b>	44 K	44 K	44 K	44 K
<b>Total Owners Equity</b>	477 M	494 M	519 M	545 M
<b>Total Liabilities and Owners Equity</b>	812 M	830 M	857 M	890 M

Balance Sheet - Forecast				
	FY16   Q3	FY16   Q4	FY17   Q1	FY17   Q2
<b>Current Assets</b>	479.40 M	515.61 M	488.15 M	500.23 M
<b>Fixed Assets</b>	61.17 M	59.33 M	53.98 M	50.52 M
<b>Other Assets Total</b>	223.09 M	223.09 M	223.09 M	223.09 M
<b>Total Assets</b>	763.66 M	798.02 M	765.21 M	773.85 M
<b>Current Liabilities</b>	331.48 M	338.24 M	333.92 M	335.93 M
<b>Long Term Liabilities</b>	43.77 K	43.77 K	43.77 K	43.77 K
<b>Total Owners Equity</b>	432.07 M	459.66 M	431.25 M	437.87 M
<b>Total Liabilities and Owners Equity</b>	763.59 M	797.94 M	765.21 M	773.85 M

スパーク・チャートを含む表が表示されているダッシュボードの例

Balance Sheet - Plan				
	Q1	Q2	Q3	Q4
<b>Current Assets</b>	535 M	557 M	588 M	625 M
<b>Fixed Assets</b>	54 M	50 M	45 M	41 M
<b>Other Assets Total</b>	223 M	223 M	223 M	223 M
<b>Total Assets</b>	812 M	830 M	857 M	890 M
<b>Current Liabilities</b>	335 M	336 M	337 M	345 M
<b>Long Term Liabilities</b>	44 K	44 K	44 K	44 K
<b>Total Owners Equity</b>	477 M	494 M	519 M	545 M
<b>Total Liabilities and Owners Equity</b>	812 M	830 M	857 M	890 M

Balance Sheet - Forecast				
	FY16   Q3	FY16   Q4	FY17   Q1	FY17   Q2
<b>Current Assets</b>	479.40 M	515.61 M	488.15 M	500.23 M
<b>Fixed Assets</b>	61.17 M	59.33 M	53.98 M	50.52 M
<b>Other Assets Total</b>	223.09 M	223.09 M	223.09 M	223.09 M
<b>Total Assets</b>	763.66 M	798.02 M	765.21 M	773.85 M
<b>Current Liabilities</b>	331.48 M	338.24 M	333.92 M	335.93 M
<b>Long Term Liabilities</b>	43.77 K	43.77 K	43.77 K	43.77 K
<b>Total Owners Equity</b>	432.07 M	459.66 M	431.25 M	437.87 M
<b>Total Liabilities and Owners Equity</b>	763.59 M	797.94 M	765.21 M	773.85 M


	Year Total	Trend
Purchases	7,893,54 K	
Total Revenue	82,791,69 K	
Interest	35,350 K	
Depreciation	4,531,83 K	
Current Tax	3,344 K	
Earnings	35,350 K	
Interest Expenses	3,480 K	
Interest Income	3,164 K	
Other Expenses	430 K	
Gross Profit Margin	71.21%	

ダッシュボード・デザイナーは、次の表のプロパティを設定できます:

表 10-9 表のプロパティ

設定	説明
値のスケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、表にはこの値が 1,689K と表示されます。スケーリングのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし: スケーリングを適用しません。</li> <li>自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。</li> <li>K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。</li> <li>M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。</li> <li>B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。</li> <li>T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。</li> </ul>
行区切り	「表示」または「非表示」を選択します。
フォント	ヘッダーおよびデータのサイズと色のオプションを指定します。
スパーク・チャート	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャート・タイプ: 「棒」、「折れ線」、「面」および面付き折れ線とともに関連するオプションを選択します。または、「なし」を選択することもできます。</li> <li>ヘッダー: スパーク・チャート列の列ヘッダー</li> <li>開始インデックス: データのチャート化を開始する列インデックス</li> <li>最終インデックス: データのチャート化を終了する列インデックス</li> </ul>

## ビデオ

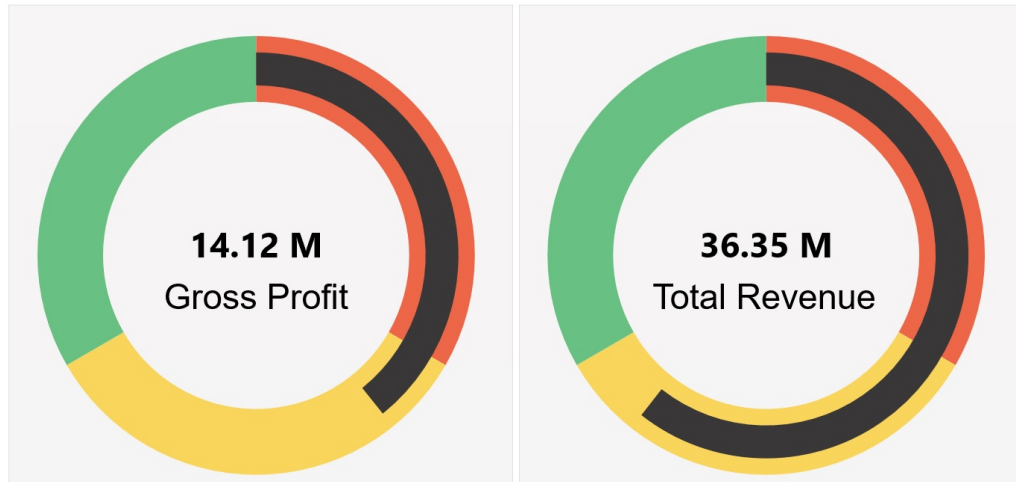
目的	視聴するビデオ
ダッシュボード・デザインでダッシュボード 2.0 向けに複数コンポーネントを含むダッシュボードを作成する方法を確認します。表が含まれるダッシュボード、スパーク・チャートが含まれる表およびタイトル・チャートを作成します。	 <a href="#">表、スパーク・チャートおよびタイトル・チャートのダッシュボード 2.0 での作成</a>

## ダッシュボード 2.0 のゲージ・チャート・タイプについて

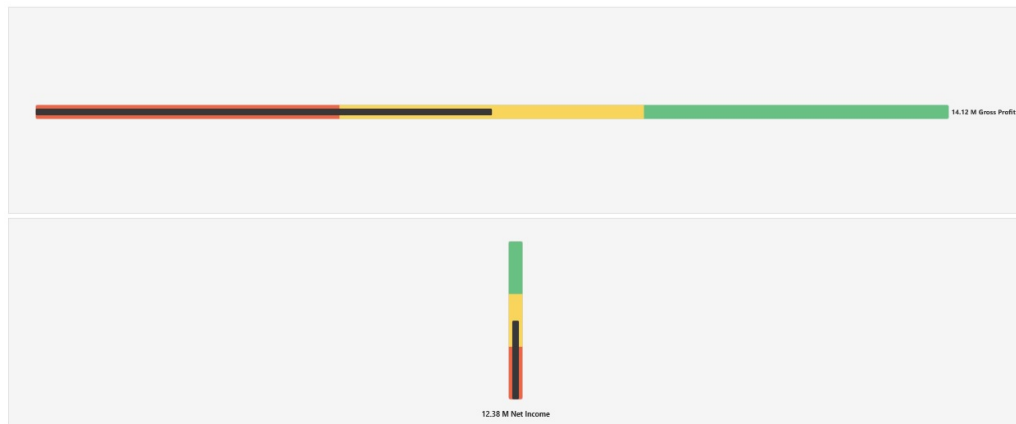
ゲージ・チャート・タイプでは、データ値が許容範囲内に収まっているかどうかわかります。最小値、最大値および範囲の最大値を設定すると、ゲージで赤、黄色および緑のトラフィック・ライトが使用され、現在の値をすばやく評価して、重要なデータ・ポイントやメジャーにおける問題を識別できます。ダッシュボード 2.0 のダッシュボードでは、円形、水平および垂直ゲージ・タイプを選択できます。

### ダッシュボード 2.0 の例 - 円形ゲージ・タイプ



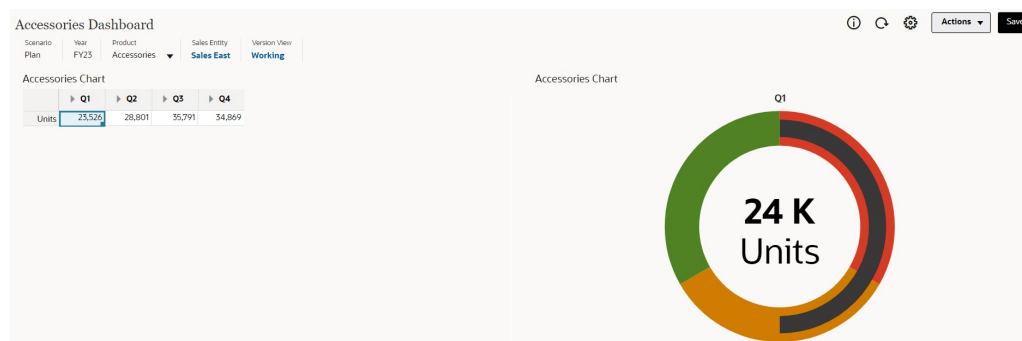


### ダッシュボード 2.0 の例 - 水平ゲージ・タイプと垂直ゲージ・タイプ



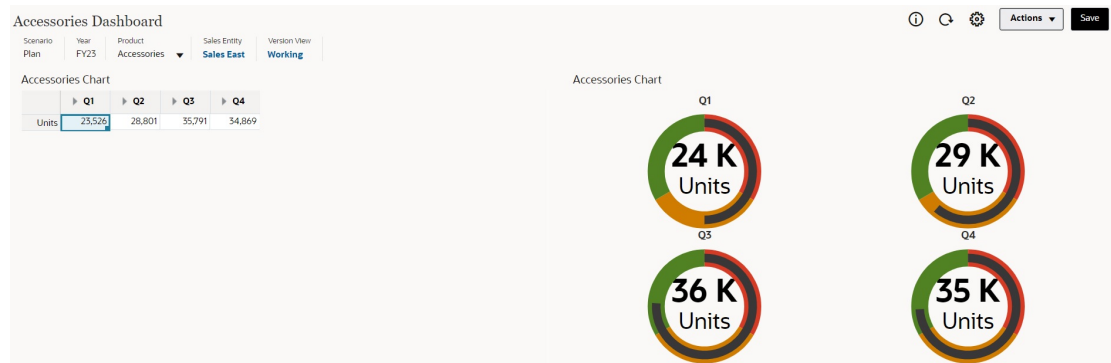
### ダッシュボード 2.0 の例 - 単一ゲージ表示

「表示」で「単一」を選択した場合、ゲージ・チャートには基礎となるフォームのデータの最初の列のみが表示されます。



## ダッシュボード 2.0 の例 - 複数ゲージ表示

「表示」で「複数」を選択した場合、基礎となるフォームのデータの列ごとにゲージ・チャートが表示されます。



ダッシュボード・デザイナーは、次に示すゲージ・チャート・タイプのプロパティを設定できます:

表 10-10 ゲージ・チャート・タイプのプロパティ

設定	説明
スケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケールリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、チャートにはこの値が 1,689K と表示されます。</p> <p>スケールリングのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし: スケールリングを適用しません。</li> <li>自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。</li> <li>K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。</li> <li>M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。</li> <li>B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。</li> <li>T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。</li> </ul>
表示	<p>コンポーネント内に単一または複数のゲージ・チャートを表示できます。「単一」を選択した場合、ゲージ・チャートには基礎となるフォームのデータの最初の列のみが表示されます。「複数」を選択した場合、基礎となるフォームのデータの列ごとにゲージ・チャートが表示されます。</p>
ゲージ・タイプ	<p>次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>円形</li> <li>水平</li> <li>垂直</li> </ul>

表 10-10 (続き) ゲージ・チャート・タイプのプロパティ

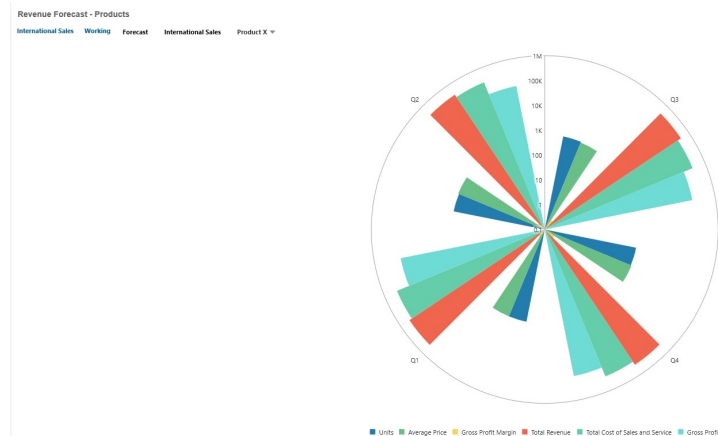
設定	説明
最小値	ゲージの最低値と最高値。ダッシュボード・デザイナーがこれらの値をデフォルトとして設定した後、ユーザーが実行時にそれらを一時的に変更できます。ダッシュボード・デザイナーがこれらの値を指定しなかった場合、アプリケーションによって、自動的に、最小値がゼロに設定され、最大値がゲージの値より大きいものに設定されます。
最大値	
希望の目標	「高」の値と「低」の値のどちらが望ましいかを指定します。
低しきい値	メジャーが許容範囲内にあるかどうかを視覚的に示すために、これらのしきい値を使用して、指定した値に基づいてゲージを赤、黄色および緑で表示できます。それぞれのしきい値について「ラベル」(テキスト)と「値」(数値)を指定します。
中しきい値	
高しきい値	

## ダッシュボード 2.0 のレーダー・チャート・タイプについて

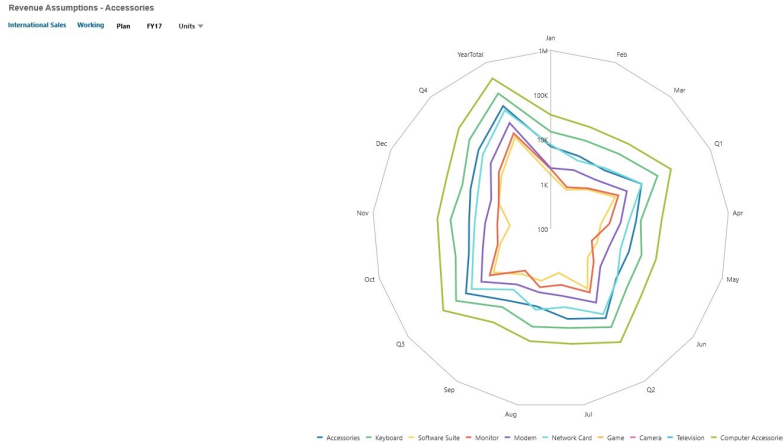
レーダー・チャートは、1 つ以上の系列の値を複数の定量的変数についてプロットするように設計された 2 次元チャート・タイプです。レーダー・チャートは、データの変数のうち、結果がそれ以外と比較して優れているものを確認する場合に最適です。したがって、主にパフォーマンス分析に使用されます。

ダッシュボード 2.0 では、棒、折れ線、面、散布およびバブル・レーダー・タイプを選択できます。

### ダッシュボード 2.0 の例 - レーダー棒チャート・タイプ



### ダッシュボード 2.0 の例 - レーダー折れ線チャート・タイプ



ダッシュボード・デザイナーは、次に示すレーダー・チャート・タイプのプロパティを設定できます:

表 10-11 レーダー・チャート・タイプのプロパティ

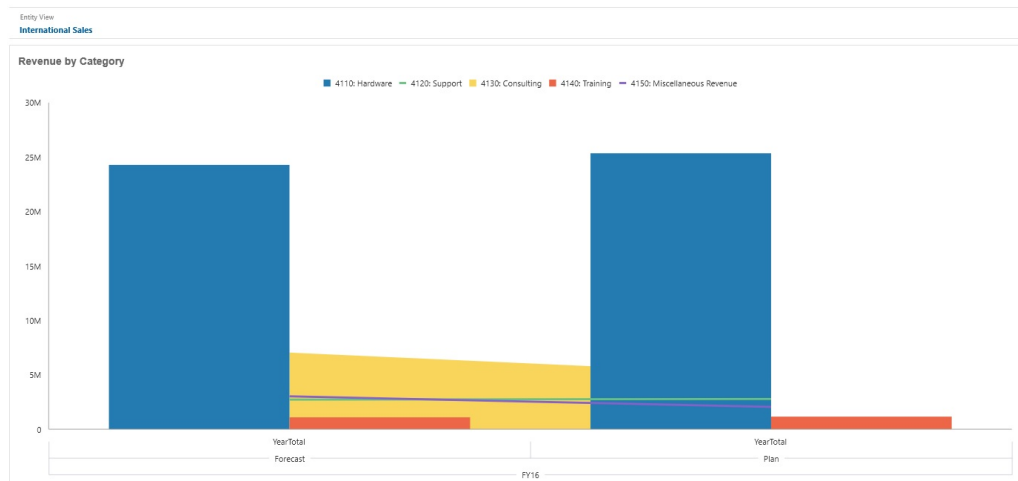
設定	説明
値のスケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が <b>1,689,000</b> の場合に、スケーリング・オプションとして「<b>K - 千</b>」を選択すると、チャートにはこの値が <b>1,689K</b> と表示されます。</p> <p>スケーリングのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>なし</b>: スケーリングを適用しません。</li> <li>• <b>自動</b>: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。</li> <li>• <b>K - 千</b>: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。</li> <li>• <b>M - 百万</b>: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。</li> <li>• <b>B - 十億</b>: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。</li> <li>• <b>T - 兆</b>: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。</li> </ul>
タイプ	<p>次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 棒</li> <li>• 折れ線</li> <li>• 面</li> <li>• 散布</li> <li>• バブル</li> </ul>
凡例の位置	「左」、「右」、「上」、「下」または「なし」を選択します。
グリッド線	「非表示」または「表示」を選択します。
対数目盛	<p>特に、値の範囲が広い(一般に、データの最大数が最小数の数百倍、あるいは数千倍の大きさになる)数値データを表示する場合は、対数目盛によって、これらの値がよりコンパクトで読みやすい形で表示されると便利です。レーダー・チャートで対数目盛を使用するかどうかを選択します。</p>
色	「デフォルト」を選択するか、チャート内のデータをクリックし、そのデータのカスタム色を選択します。

## ダッシュボード 2.0 の組合せチャート・タイプについて

組合せチャートは、棒グラフ、折れ線グラフおよび面グラフの任意の組合せを 1 つのチャートにマージできるビジュアライゼーションです。

プライマリ Y 軸の反対側にセカンダリ Y 軸を追加することもできます。セカンダリ Y 軸を追加すると、他のメジャーでは適切にスケールされない 1 つのメジャーのスケールをチャートに表示できます。たとえば、パーセンテージ・メジャーと通貨メジャーを同じチャートに表示できます。

### ダッシュボード 2.0 の例 - 面、棒および折れ線の組合せチャート



ダッシュボード・デザイナーは、次に示す組合せチャート・タイプのプロパティを設定できます:

表 10-12 組合せチャート・タイプのプロパティ

設定	説明
値のスケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「<b>K - 千</b>」を選択すると、チャートにはこの値が 1,689K と表示されます。</p> <p>スケーリングのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>なし</b>: スケーリングを適用しません。</li> <li>• <b>自動</b>: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。</li> <li>• <b>K - 千</b>: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。</li> <li>• <b>M - 百万</b>: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。</li> <li>• <b>B - 十億</b>: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。</li> <li>• <b>T - 兆</b>: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。</li> </ul>
行の太さ	<p>カウンタをクリックして線の幅を設定します。</p> <p>線のデフォルトの幅は 5 ピクセルです。1 から 12 ピクセルを選択できます。</p>
凡例の位置	<p>「左」、「右」、「上」、「下」または「なし」を選択します。</p>
ラベルの位置	<p>チャート上のデータ・ラベルの位置を設定します。</p> <p>「バーの端の外側」、「中央」、「バーの端の内側」または「なし」を選択します。</p>
グリッド線	<p>「非表示」または「表示」を選択します。</p>
対数目盛	<p>特に、値の範囲が広い(一般に、データの最大数が最小数の数百倍、あるいは数千倍の大きさになる)数値データを表示する場合は、対数目盛によって、これらの値がよりコンパクトで読みやすい形で表示されると便利です。組合せチャートで対数目盛を使用するかどうかを選択します。</p>
セカンダリ Y	<p>チャートを挟んでプライマリ Y 軸の反対側に表示されるセカンダリ Y 軸にプロットするデータを選択します。</p> <p>チャートのデータ値がデータ系列によって大きく異なる場合や、データのタイプ(通貨とパーセンテージなど)が混在する場合、1 つ以上のデータ系列をセカンダリ縦(Y)軸にプロットできます。</p> <p>セカンダリ Y 軸は折れ線チャート・タイプおよび棒チャート・タイプで使用できますが、より一般的には、組合せチャート・タイプで使用して、セカンダリ Y 軸にプロットされるデータ系列を区別しやすくします。たとえば、プライマリ Y 軸に棒を使用し、セカンダリ Y 軸に折れ線を使用します。</p>
系列	<p>チャートの棒/折れ線/面の組合せを選択します。</p>
色	<p>「デフォルト」を選択するか、チャート内のデータをクリックし、そのデータのカスタム色を選択します。</p>
軸	<p>「X 軸」、「Y 軸」およびセカンダリ Y 軸の「カスタム範囲」を選択するか、「オフ」を選択します。</p>

## ダッシュボード 2.0 のタイル・チャート・タイプについて

タイルは、キューブから特定の値を選択して表示できるチャート・タイプです。フォームをデータ・ソースとして使用する以外に、タイルに値を提供するセル交差を直接入力することもできます。デフォルトではコンポーネント内に最初に 6 個のタイルが表示されますが、コンポーネント内に最大 10 個のタイルを表示できます。タイルをデータに関連付けるまで、サンプル・データが表示されます。

フォームをタイルのデータ・ソースとして使用する場合:

- 各コンポーネントに最大 10 個のタイルを表示できます(デフォルトでは 6 個)。
- フォームの最初の列の値(10 行目まで)が、タイルを作成するために使用されます。
- デフォルトでは、フォームの行タイトルはタイルのタイトルで、最初の列から、続いて行によってその値を取得します。
- タイルのコンポーネント・タイトル、タイルの高さのパーセンテージ、凡例ラベルを設定でき、フォームから含める軸を選択できます。たとえば、3 つの行があるフォームを選択すると、タイルに 3 つの値が表示されます。

### Note:

場合によっては、フォーム内で、グリッドとして表示されたときに最初の列が縮小される(非表示になる)ことがあります。ただし、タイルがフォームからその値を取得する際には、縮小された列も考慮されます。フォーム定義を更新し、タイルに表示するセルのみが含まれるフォームをデータ・ソースとして使用することをお勧めします。

タイルのデータ・ソースとしてセル交差を使用する場合は、1 つのオブジェクトにつきタイルを 1 つのみ含めることができます。

次の表に、タイル・チャート・タイプに設定できるオプションをリストします。値の表示は、タイルの水平方向で左、中央、右に設定することができます。また、複数通貨アプリケーションでは、通貨記号または通貨コードがタイルに表示されます。

Table 10-13 タイル・チャート・タイプのプロパティ

設定	説明
値のスケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、チャートにはこの値が 1,689K と表示されません。</p> <p>スケーリングのオプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし: スケーリングを適用しません。</li> <li>自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。</li> <li>K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。</li> <li>M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。</li> <li>B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。</li> <li>T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。</li> </ul>
テキストの配置	<p>テキスト配置のオプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>左</li> <li>中央</li> <li>右</li> </ul>
カウント表示	<p>コンポーネントに表示されるタイルの数(最大 10)</p> <p>凡例表示のオプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行と列のディメンション</li> <li>行のディメンション</li> <li>列のディメンション</li> <li>なし</li> </ul>
位置	<p>凡例配置のオプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>左</li> <li>右</li> <li>最上位</li> <li>最下位</li> </ul>
凡例のフォント・サイズ	凡例のフォント・サイズを縮小または拡大します。
値のフォント・サイズ	値のフォント・サイズを縮小または拡大します。

 **Note:**

ダッシュボード 2.0 では、セルの詳細はサポートされていません。かわりに、セル詳細の高度なバージョンであるクイック分析をデータ・ソースとして使用することをお勧めします。ダッシュボードを、セル詳細を使用するコンポーネントを含むダッシュボード 2.0 に変換した場合は、セル詳細をデータ・ソースとして使用しているコンポーネントを削除してから、クイック処理をデータ・ソースとして使用するコンポーネントを再作成します。

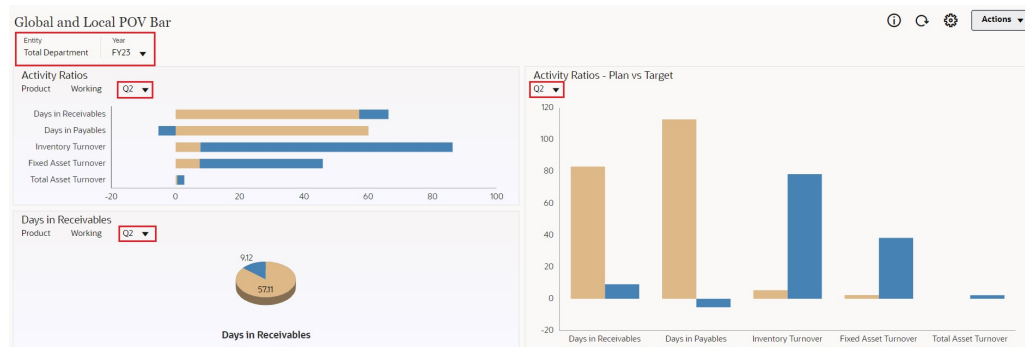


## ダッシュボード 2.0 のグローバル POV とローカル POV について


フォームのローカル POV には、フォーム設計者がそのフォームについて選択したディメンション・メンバーが反映されます。ダッシュボードではグローバル POV バーもサポートされており、各コンポーネントで繰り返されないように、共通するローカル POV はグローバル POV バーに組み込まれます。

### ダッシュボード 2.0 の POV の例

このダッシュボード 2.0 のダッシュボードには、グローバル POV バー(「エンティティ」および「年」を示す)とローカル POV (Q2 のドロップダウン・リスト)が表示されています。



グローバル POV バーがある場合、グローバル POV バーでページを変更し、**POV バー: 「自動適用」**を有効にすると、フォームに基づいたダッシュボード内のすべてのコンポーネントについてページが変更されます。グローバル POV バーはダッシュボードの最上部に、すべてのコンポーネントより上に表示されるのに対して、ローカル POV バーはコンポーネント内に表示されます。ユーザー変数は、ダッシュボードのグローバル POV とローカル POV の両方でサポートされており、動的ユーザー変数を POV バーから直接変更できます。

ダッシュボード・ツールバーの  **「POV 設定」**メニュー(ランタイム・モードと編集モードの両方)では、ディメンション・ラベルをグローバル POV で非表示にするかどうか(**POV バー: ディメンション・ラベルの非表示**)、および変更の自動適用を有効にするか無効にするか(**POV バー: 「自動適用」**)を設定できます。

グローバル POV バーについて:

- POV バーは、ローカル POV ディメンション、ページ・ディメンションおよびユーザー変数で構成されます。
- ダッシュボード上の各フォームのローカル POV およびページに応じて、グローバル POV バーが自動的に計算されます。
- グローバル POV にはそのダッシュボード内のフォームを使用したコンポーネントのコンテンツが反映されます。つまり、それらは、ダッシュボード内のフォーム、フォームにリンクされたチャート、およびデータ・ソースとしてフォームを使用するタイトルに適用されます。そのため、ダッシュボードにデータ・ソースとして

フォームが含まれていない場合は、ローカル POV バーもグローバル POV バーも使用できません。

次に、2 つのフォームのローカル POV ディメンションに基づいて、グローバル POV バーがどのように計算されるかの例を示します。

グローバル POV バーが無効:

- フォーム A のローカル POV: 年、エンティティ、製品
- フォーム B のローカル POV: 年、エンティティ、プロジェクト

グローバル POV バーが有効:

- グローバル POV バー: 年、エンティティ
- フォーム A のローカル POV: 製品
- フォーム B のローカル POV: プロジェクト

すべてのディメンションおよびページの選択がダッシュボード上のすべてのフォームに共通しているとはかぎらないため、ダッシュボード・コンポーネントの POV 全体がローカル POV バーとグローバル POV バーの間で分割されることがあります。グローバル POV バーとローカル POV をあわせると、ダッシュボード上の各フォームの完全な交差情報が含まれます。

データ・ソースとしてフォームを使用するコンポーネントがダッシュボードに 1 つのみある場合、フォームの POV/ページ全体がグローバル POV バーに移動します。

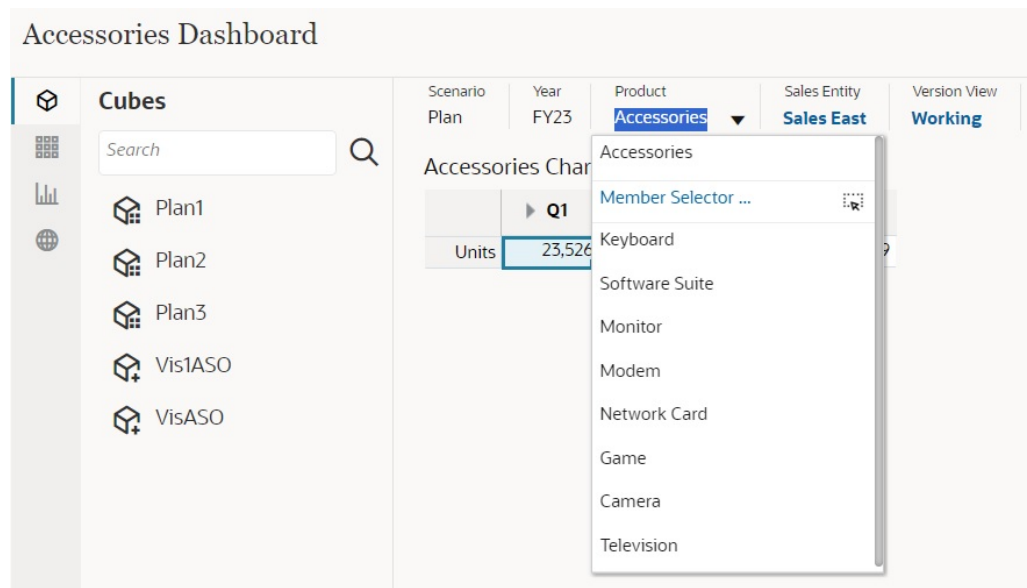
データ・ソースとしてフォームを使用するコンポーネントがダッシュボードに複数ある場合、どのディメンションがグローバル POV バーに移動し、どのディメンションがローカル POV にとどまるかは次のように決まります。

- ディメンションがすべてのフォームの POV またはページに含まれ、メンバーの選択がすべてのフォームで同じ場合、ディメンションはグローバル POV バーに移動します。
- ディメンションが 1 つのフォームの POV および別のフォームのページに含まれる場合、ディメンションはローカル POV バーにとどまります。
- ディメンションが POV に含まれる場合、そのディメンションについてすべてのフォームで同じメンバーが選択されている必要があります。
- ディメンションがページ・ディメンションである場合、選択されたページ・メンバーがすべてのフォームで同じであり、同じ順序で表示される必要があります。

### ダッシュボード 2.0 のダッシュボードでの POV メンバーの検索

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードで作業する際は、新しい POV メンバーを簡単に見つけることができます。検索するには、POV リンクをクリックします。検索インターフェイスには最近使用したメンバーのリストが表示され、そこから選択できます。

図 10-1 ダッシュボード 2.0 の POV の最近使用したメンバーのリスト




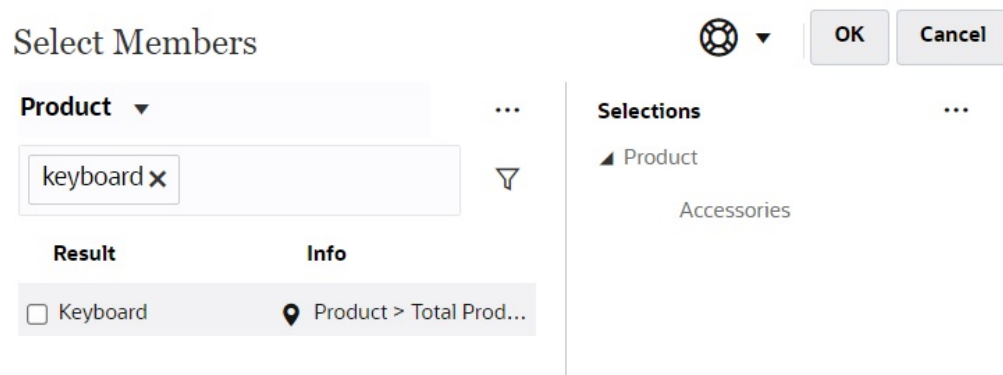
メンバー・セレクタを使用して検索することもできます。POV リンクをクリックし、「メンバー・セレクタ」アイコン  をクリックしてメンバー・セレクタを起動します。メンバー・セレクタ内のメンバーは階層表示されますが、「検索」ボックスにメンバー名を入力することもできます。「検索」ボックスを使用してメンバーが見つかった場合、結果が「検索」ボックスの下に表示されます。

図 10-2 ダッシュボード 2.0 のメンバー・セレクタ検索結果




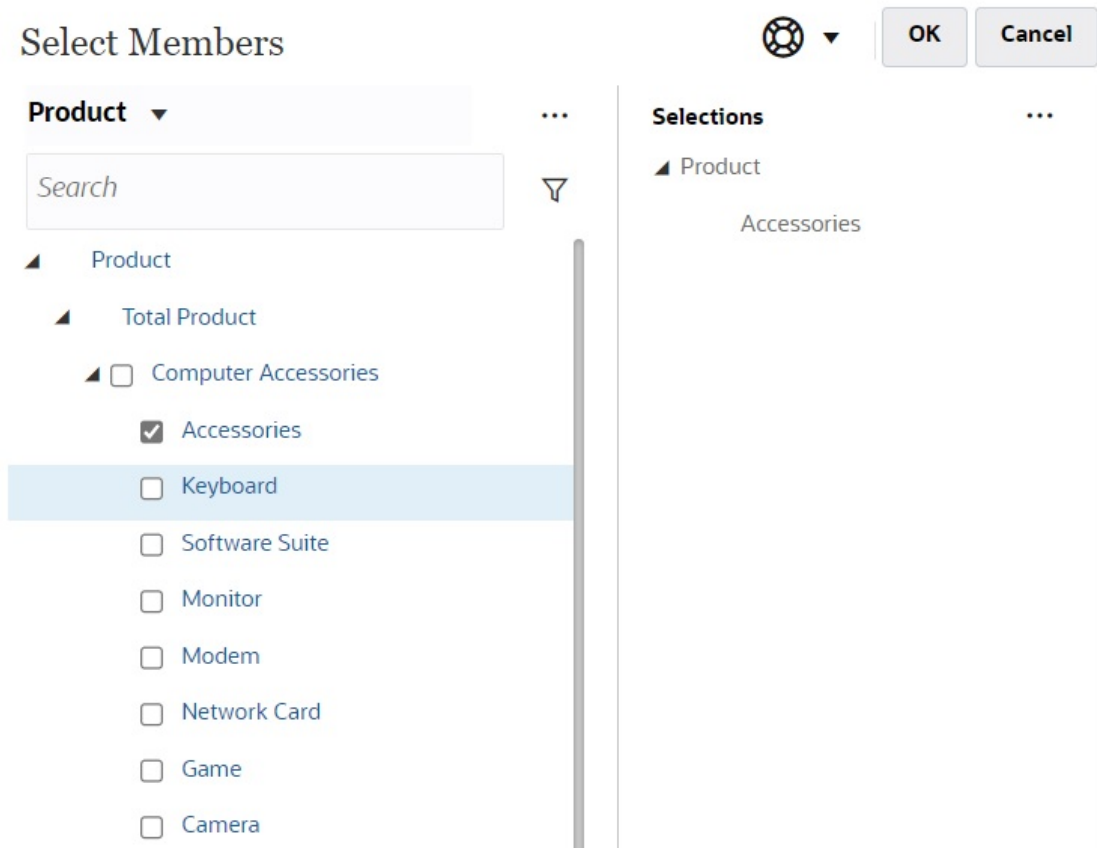
結果の「情報」列にカーソルを置き、 をクリックすることにより、メンバーが階層内のどこにあるかを確認できます。

図 10-3 ダッシュボード 2.0 の階層表示されたメンバー・セレクタ検索結果




#### ダッシュボード 2.0 の POV バーの考慮事項

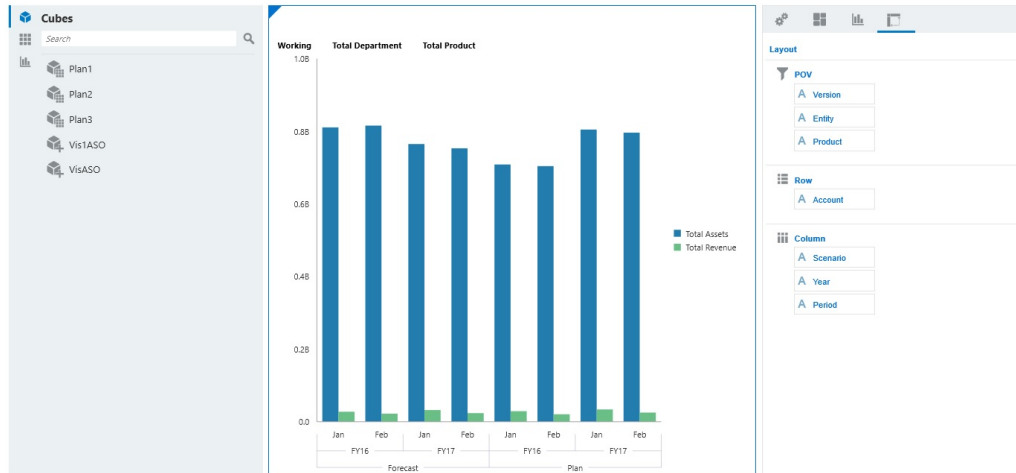
- POV バーのページのドロップダウン・リストで、ページのドロップダウンに表示するメンバーの数は、「ページ・オプション」の「ユーザー・プリファレンス」で制御できます。(ホーム・ページから「ツール」、「ユーザー・プリファレンス」、「表示」の順にクリックして「ページ・オプション」を表示します。)ページのドロップダウン内のアイテム数がこの制限を超えた場合、ユーザーはそれらを表示できません。これは、今後のリリースで、ダッシュボード 1.0 のように残りのメンバーを参照するためのメンバー・セレクタの機能を使用して修正される予定であることに注意してください。
- ダッシュボードに複数のフォームが含まれるが、同じディメンションに対するプロパティがフォームによって異なる場合、たとえば、バージョン・ディメンションが一部のフォームでは非表示になっている一方、同じダッシュボード内の他のフォームでは表示されるような場合、グローバル POV にバージョン・ディメンション・メンバーが何も表示されない可能性があります。ダッシュボードに含まれるすべてのフォームで、すべてのディメンションに対するすべてのプロパティを同じにすることをお勧めします。

## クイック分析について

クイック分析を使用すると、事前作成されたフォームがなくても、ダッシュボードにコンポーネントを追加できます。「検索」バーにメンバー名を入力するか、「メンバー・セレクタ」

を使用してアドホック問合せを作成した後、「プロパティ」パネルの「レイアウト」タブ  で問合せのレイアウトを制御します。

### デザイン・モードでのダッシュボード 2.0 のクイック分析チャートの例




ダッシュボードでクイック分析を作成するには:


1. 問合せのキューブを選択します。次の 2 つのいずれかの方法で行うことができます:
  - ワークスペースの「検索」ボックスをクリックしてキューブのリストを表示し、キューブを選択します。
  - オブジェクト・パレットからダッシュボード・ワークスペースにキューブをドラッグ・アンド・ドロップします。

#### ノート:

どちらの方法でも、デフォルトの問合せから開始されます。最近使用したものの(MRU)に基づく、キューブ内の 1 つの交差です。デフォルトの問合せは、キューブで最近見ていたものによって異なります。



キューブ内の MRU 交差が無効であると、エラーが発生します。エラーが表示された場合、別のフォームを開き、MRU が有効な交差で更新されるようにページを有効な交差に変更します。


2. 問合せのメンバーを指定して、問合せを調整します:
  - 「検索」ボックスにメンバー名を入力して、キューブからのオートコンプリート・リストを表示します。
  - 「メンバー・セレクト」  を起動してメンバーを選択し、「OK」をクリックします。

 ノート:

クイック分析を実行するために検索ボックスを使用してメンバーを検索し、キューブ内のメンバーが 25,000 人よりも多い場合、検索ボックスでは、キューブのディメンション内の最初の 3000 人のメンバーのみが検索されます。キューブに含まれているメンバーが 25,000 人より少ない場合は、検索ボックスですべてのメンバーが検索されます。メンバーが 25,000 人より多いキューブを検索するには、メンバー・セレクタを起動してクイック分析の選択をします。

3. 問合せのチャート・タイプを選択します。

 をクリックして、チャート・タイプ(「棒」 など)を選択します。

4. 「プロパティ」パネルで、「レイアウト」タブ をクリックします。
5. プロパティ・パネルの「レイアウト」タブのディメンションを「レイアウト」タブの他のセクションにドラッグ・アンド・ドロップして、ダッシュボード・コンポーネントの「POV」、「行」および「列」レイアウトを変更します。

## ビデオ

### 目的

フォームを事前作成せずに、ダッシュボードにクイック分析コンポーネントを追加する方法を学習します。ダッシュボード・デザイナーでアド・ホック問合せを作成する方法と、ディメンションのレイアウトを変更し、ビジュアライゼーションを適用して結果をフォーマットする方法を学習します。

### 視聴するビデオ



[ダッシュボード 2.0 でのクイック分析の作成](#)

# 11

## ディメンションの操作

### 次も参照:

- [ディメンションの概要](#)
- [期間および増減ディメンションの密ディメンションへの変換](#)
- [ディメンションの表示および編集](#)
- [ディメンション階層の操作](#)
- [カスタム・ディメンションの追加](#)
- [勘定科目の定義](#)
- [エンティティ・メンバーの定義](#)
- [代替階層の作成](#)
- [Financial Consolidation and Close のデータ・モデルの概要](#)
- [メンバーの操作](#)
- [通貨の設定](#)
- [シナリオの設定](#)
- [アプリケーションの年のカスタマイズ](#)
- [属性の操作](#)
- [属性値の操作](#)
- [ユーザー定義属性\(UDA\)の操作](#)
- [UDA のメンバーとしての選択](#)
- [メンバー式の操作](#)
- [別名表の操作](#)

## ディメンションの概要

Financial Consolidation and Close は、すぐに使用できる換算、集計、消去および調整を含む連結と決算の機能のセットを備えています。アプリケーションに要求される機能に応じて、その機能に必要なディメンションのみが有効化されます。

デフォルトでは、アプリケーションを作成すると、システムで次のディメンションが作成されます。

- 勘定科目
- 期間
- データ・ソース
- 連結

- 通貨(複数通貨が選択されている場合のみ)
- エンティティ
- 会社間(アプリケーションの作成中に「会社間」が選択された場合のみ)
- 増減
- シナリオ
- 年
- 表示
- 複数 GAAP(アプリケーションの作成中に「複数 GAAP」が選択された場合のみ)

これらのディメンションに加え、カスタム・ディメンションを作成できます。カスタム・ディメンションは、会社間ディメンションの後、増減ディメンションの前に追加します。

ディメンションのデフォルト・プロパティに変更を加えることはできません。デフォルト・プロパティは、シード済の計算で使用されます。各ディメンションには、一連のメンバーがシードされます。[シード済ディメンション・メンバー](#)を参照してください。

次の項では、システム定義のディメンションについて説明します。

ディメンションに関する詳細は、次のビデオを参照してください:



[ディメンション](#)

## 勘定科目

勘定科目ディメンションは、通常の勘定科目の階層を表します。勘定科目は、エンティティとシナリオの財務データをアプリケーションに保管します。各勘定科目には、会計の動作を定義する収益、費用などのタイプがあります。すべてのアプリケーションに勘定科目ディメンションが必要です。

勘定科目タイプ、表示する小数点以下の桁数、勘定科目が会社間パートナ勘定科目かどうかなど、勘定科目ディメンションのメンバーのプロパティを定義します。[勘定科目の定義](#)を参照してください。

## 期間

期間ディメンションは、四半期や月などの期間を表します。期間を階層で表示すると、期間と期間単位が含まれます。たとえば、実績シナリオでデータを毎月管理する場合は、1年に12個のデータ期間を使用できます。

システムでは、期間ディメンションの次のオプションが提供されます。

- **12 か月。**12 か月を選択する場合、会計年度の最初の期間を指定する必要があります。デフォルト値は、会計年度の始まりが1月である12 か月です。12 か月を使用する場合、すべての期間は、デフォルトで1月、2月、3月などの期間ラベルを持つカレンダー月に設定されます。
- **13 期間。**13 期間を選択する場合、すべての期間は、デフォルトで P1、P2、P3 などの期間ラベルに設定されます。



システムでは、12 か月と 13 期間の両方のオプションに対して四半期の期間も作成されます。アプリケーションの作成中に半期の期間を作成できます。

会計年度の情報に応じて、アプリケーションの期間階層が作成されます。

アプリケーションの期間を指定するには、[アプリケーションの作成](#)を参照してください。

**ノート:** 期間ディメンションに変更を加えたり、カスタムの期間ディメンション・メンバーを作成することはできません。

## データ・ソース

データ・ソース・ディメンションによって、データの様々なソースの監査証跡が提供されます。手動で入力されたデータ、データ統合を介してロードされたデータ、補足データ・マネージャ・フォームから転記されたデータ、仕訳から転記されたデータ、およびビジネス・ルールによって作成された消去データ(会社間消去など)を参照できます。

データ・ソース・ディメンションには、様々なタイプのデータ入力が保管されます。これには、エンティティ・データが連結パスで連結されるときに詳細な監査証跡を提供するための仕訳入力が含まれます。個別データ入力の仕訳入力は、連結ディメンションの比率メンバーと消去メンバーの両方で参照できます。

データ・ソース・ディメンションについてさらに学習するには次のビデオを参照してください。



[データ・ソース・ディメンションを使用したデータの表示および入力](#)

### データ・ソース・メンバー

デフォルトでは、システムにより次のデータ・ソース・メンバーが作成されます。

- **FCCS\_Total Data Source**—データ・ソースなし、入力合計および調整済、および消去合計の親である動的計算メンバー
- **FCCS\_NoDataSource**—カスタム値に加えて、通貨レートなどのシステム値が保管されます
- **FCCS\_Total Eliminations**—システムで作成された 2 つのデータ・ソース入力(会社間消去およびパートナ消去)の親である動的計算メンバー。データのその他のソースを追跡する場合は、この親メンバーの下に追加のメンバーを手動で作成して、連結調整および消去エントリのより詳細な追跡を作成できます。
- **FCCS\_Intercompany Eliminations**—システム会社間消去エントリが保管され、構成可能な連結ルールによって書き込まれたデータを保管するために使用することもできます。(オプション - アプリケーションの作成中に会社間消去の追跡が選択された場合にのみ作成されます)。デフォルトの会社間消去が保管され、エンティティごとに消去が追跡されます。このメンバーには、23.04 より前のバージョンと、代替変数 `EnableNewAcqDisp` が **False** である場合にバージョン 23.04 以降(一時的)でシステム調整および消去(取得、処分、エンティティ消去調整、エンティティ比率調整)も保管されます。
- **FCCS\_Partner Eliminations**—構成可能な連結ルールによって書き込まれたパートナ・エントリが保管されます。(オプション - アプリケーションの作成中に会社間消去およびパートナ消去の追跡が選択された場合にのみ作成されます)。

- **FCCS\_TotalInputAndAdjusted**—様々なデータ・ソース入力(データ入力、取得/処分、補足データ、その他のデータ、仕訳入力)の親である動的計算メンバー。データのその他のソースを追跡する場合は、この親メンバーの下に追加のメンバーを手動で作成できます。
- **FCCS\_Data Input** - すべての手動データ入力または ASCII データ・ロード値が保管されます。
- **FCCS\_Managed Data**—データ統合からロードされたデータが保管されます
- **FCCS\_Other Data**—他のデータ統合ツールからロードされたデータが保管されます
- **FCCS\_Supplemental Data**—補足データ・マネージャから入力および転記された、すべての補足詳細データが保管されます。(オプション - アプリケーションの作成中に選択された場合にのみ作成されます)。
- **FCCS\_Journal Input**—仕訳入力によって入力されたデータが保管されます。(オプション - アプリケーションの作成中に仕訳入力有効化された場合にのみ作成されます)
- **FCCS\_EPU**—エクイティ・ピックアップ・プロセスについてシステムで作成されたデータが保管されます。(オプション - アプリケーションの作成中にエクイティ・ピックアップが有効化された場合にのみ作成されます)
- **FCCS\_AcquisitionsDisposals**—代替変数 `EnableNewAcqDisp` が **True** に設定されている場合、すべてのシステム出資比率調整および消去(取得、処分、エンティティ消去調整、エンティティ比率調整)が保管されます。
- **FCCS\_SystemTypes**—内部計算のみに使用される **FCCS\_RateOverride**、**FCCS\_AmountOverride**、**FCCS\_PCON** および **FCCS\_Driver Source** システム・メンバーの親メンバー

オプションのメンバーは、アプリケーションの構成中に指定したオプションに基づいて作成されます。アプリケーションの作成中に入力メンバーを指定するには、[アプリケーションの作成](#)を参照してください。

#### ノート:

新しいメンバーをデータ・ソース・ディメンションに追加する前に、通貨ディメンションを作成する必要があります。[通貨の設定](#)を参照してください。

システムで作成されたメンバーを削除したり、**FCCS\_TotalInputandAdjusted** の下のシールド済メンバーの属性を変更することはできません。

#### データ・ソース・メンバーの属性

新しいメンバーをデータ・ソース・ディメンションに追加するとき、**FCCS\_TotalInputandAdjusted** メンバーの下のレベル 0 メンバーごとに 2 つの属性が使用可能です。属性は、ソース・データ型およびソース通貨タイプです。

 **ノート:**

FCCS\_TotalInputandAdjusted の下に新しいメンバーを作成するときは、これらの属性をメンバーに割り当てる必要があります。

ソース・データ型には、3 つの有効な選択肢があります:

- データの入力
- 仕訳
- 補足データ

ソース通貨タイプは、複数通貨アプリケーションにのみ適用可能です。この属性には、2 つの有効な選択肢があります:

- エンティティ通貨
- 任意の入力通貨(新しい各メンバーは単一の入力通貨に制限されます)

シード済のデータ・ソース・ディメンション・メンバーには次の属性が割り当てられており、変更できません。

**表 11-1 シード済のデータ・ソース・ディメンション・メンバーの属性**

メンバー	ソース・データ型	ソース通貨タイプ
FCCS_Data Input	データの入力	エンティティ通貨
FCCS_Managed Data	データの入力	エンティティ通貨
FCCS_Other Data	データの入力	エンティティ通貨
FCCS_Supplemental Data	補足データ	エンティティ通貨
FCCS_Journal Input	仕訳	エンティティ通貨

新しいメンバーにデータまたは仕訳が関連付けられていない場合は、属性の選択を変更できます。ただし、メンバーにデータが入力されている場合、またはメンバーを使用して仕訳が作成されている場合、属性の選択肢は読取り専用です。そのメンバーのデータがアプリケーションからクリアされたり、仕訳が削除された場合は、属性を変更できます。

**データ・ソースの親メンバーの追加**

必要に応じて、FCCS\_TotalInputandAdjusted の下に追加の親メンバーを作成できます。複数レベルの親メンバーを追加でき、親ではソース・データ型かソース通貨タイプかの制限はありません。親メンバーにはソース・データ型またはソース通貨タイプは割り当てられません。「動的計算」のストレージ・タイプです。

**データ・ソース・メンバー階層の追加**

データ・ソース・メンバーは、合計データ・ソースの兄弟として追加できます。

階層を追加する際には、次のガイドラインに注意してください。

- 新しい階層で、親レベルのメンバーのタイプは「ラベル」か「動的計算」のみです。
- ベース/リーフレベルのメンバーは、「動的計算」か「共有しない」のいずれかです。
- データは、リーフレベルの「共有しない」メンバーにのみ入力できます。

- 合計データ・ソース階層外にあるリーフレベルの「共有しない」メンバーは、合計データ・ソースまたは入力合計および調整済への集計で考慮されません。会社間消去でも考慮されません。
- 合計データ・ソース階層外にあるリーフレベルの「共有しない」メンバーに対して実行されるのは、「換算」および「増減」レベルの計算のみです。
- リーフレベルの「動的計算」メンバーは、連結またはレポート変換プロセスで考慮されません。
- データ・ソース・ディメンション内にデータ・ソース合計の兄弟として代替階層を作成し、その階層を使用してデータを貸借対照表勘定科目にロードすると、このデータは、出資比率の変更が発生したときの期首残高出資比率の変更の消去に対しても考慮され、消去はデータ・ソース合計内の FCCS\_Intercompany 消去メンバーに転記されます。

## 連結

連結ディメンションによって、連結プロセスの様々なステージを実行するために使用される詳細についてレポートできます。これにより、連結プロセス中にデータに適用されるトランザクションの監査証跡が提供されます。エンティティ入力からコントリビューションまで、親にレポートするエンティティの連結パスが表示されます。

アプリケーションを作成すると、システムで次の階層を持つ連結ディメンションが作成されます。

- **エンティティ入力** - このメンバーは、入力データと、連結関連以外のビジネス・ロジック(メンバー式など)を表します。
- **エンティティ連結** - これは、親エンティティでのみ使用できます。このメンバーの金額は、その子エンティティそれぞれのコントリビューションの合計を表します。これは、連結プロセスの結果としてシステムにより計算された金額です。
- **エンティティ比率調整** - 親エンティティでのみ使用できます。集約されたエンティティ連結データの調整が必要な場合は、システムでエンティティ比率調整エントリが生成されます。これは、エンティティの共有インスタンスのマージに起因してソース・レベル 0 エンティティの累積連結%が増加した場合に発生する可能性があります。その後、中間の親エンティティで「比例」または「子会社」に変更するために、資本連結が必要になる可能性があります。
- **エンティティ消去調整** - 親エンティティでのみ使用できます。集約されたエンティティ連結データの調整が必要な場合は、システムでエンティティ消去調整エントリが生成されます。これは、エンティティの共有インスタンスのマージに起因してソース・レベル 0 エンティティの累積連結%が増加した場合に発生する可能性があります。その後、中間の親エンティティで「比例」または「子会社」に変更するために、資本連結が必要になる可能性があります。

エンティティ比率調整およびエンティティ消去調整ディメンション・メンバーは、必要に応じて、各親エンティティでの連結結果が適切になるように調整するために使用されます。たとえば、階層の 2 つの異なるブランチを介して共通の親に連結されているエンティティの 2 つの共有インスタンスがある場合、両方とも持分法を使用して連結され(各ブランチを介して 40%の出資比率)、共通の親のエンティティ連結で、結果は 80%の資本連結を表すデータになります。かわりに、必要なのは 80%の子会社連結で、結果とは異なります。直接の 80%の子会社連結が実行された場合(つまり、フラット・エンティティ構造)、エンティティ比率調整およびエンティティ消去調整は、2 つのブランチからのデータを適切なデータに調整するために使

用されます。EPA / EEA 調整データで集約されたエンティティ 連結の 80%の資本データは、エンティティ 合計で、必要な 80%の子会社連結データに累計されます。

- **エンティティ 合計調整** - 親エンティティでのみ使用できます。エンティティ 比率調整とエンティティ 消去調整の合計です。
- **換算通貨入力(オプション)** - 入力通貨でデータを入力するために使用します。
- **エンティティ 合計 - エンティティ 入力**メンバーおよび**換算通貨入力**メンバーに保管された入力データと調整データの両方、エンティティ 比率調整とエンティティ 消去調整の計算データ、および**エンティティ 連結メンバー**(親エンティティのみ)に保管されたコントリビューションの合計を含めた、エンティティのデータの合計です。
- **親入力(オプション)** - 親通貨で、エンティティと親の組合せに固有のデータを入力するために使用します。このデータは比例に含まれます。
- **親合計**(「親入力」が有効になっている場合) - エンティティ 合計と親入力の合計。
- **比例** - 連結階層の連結時における特定の親エンティティを対象とする、単一エンティティのエンティティ 合計(または親合計)メンバーの比例値。それぞれの親/子エンティティ 関係について、連結ディメンションに 1 つのエンティティ 比率メンバーが存在します。
- **消去** - 特定の親/子エンティティの連結調整および消去データは、このメンバーに生成および保管されます。
- **コントリビューション** - 特定の親エンティティに対する単一エンティティの連結結果。これには、親/子エンティティの比率データと消去データの集約が含まれます。
- **コントリビューション入力(オプション)** - 親通貨で、エンティティと親の組合せに固有のデータを入力するために使用します。このデータは比例処理後に入力されます。
- **コントリビューション合計**(「コントリビューション入力」が有効になっている場合) - コントリビューションとコントリビューション入力の合計。

**ノート:** エンティティ 連結メンバー、エンティティ 比率調整メンバー、エンティティ 消去調整メンバーおよびエンティティ 合計調整メンバーは、システムで計算されたメンバーで、親エンティティにのみ適用されます。

#### ノート:

「機能を使用可能にする」オプションを使用しないかぎり、このディメンションにメンバーを追加することはできません。メンバーを追加した後は、削除できません。

連結ディメンション・メンバーのリストは、出資比率の管理を有効にして拡張連結が使用されるかどうかにも依存します。拡張連結が有効な場合は、エンティティ 合計の追加の子が**エンティティ 合計調整**、**エンティティ 比率調整**および **エンティティ 消去調整**という名前で作成されます。[出資比率の管理](#)を参照してください。

## 通貨

通貨は、エンティティの換算値を保管します。すべての複数通貨アプリケーションには通貨が含まれている必要があります。通貨ディメンションでは、エンティティ・ディメンションでエンティティに割り当てられた基本通貨ごとに通貨が含まれている必要があります。

アプリケーションを作成すると、通貨ディメンションが作成されます。ただし、これはアプリケーションが複数通貨アプリケーションの場合にのみ表示されます。[アプリケーションの作成](#)を参照してください。

アプリケーションに必要な各通貨の通貨ディメンションにメンバーを作成できます。[通貨の設定](#)を参照してください。

複数通貨アプリケーションごとに、アプリケーション通貨として使用する通貨を指定します。複数通貨アプリケーションを作成すると、アプリケーション通貨として選択した通貨に対して代替変数が追加されます。たとえば、アプリケーション通貨として EUR を選択した場合、次の代替変数が追加されます:

- ApplicationCurrency: EUR
- ApplicationCurrencyFrom: From\_EUR
- ApplicationCurrencyReporting: EUR\_Reporting

代替変数を使用すると、アプリケーションの作成後にデフォルト通貨を確認でき、代替変数が使用可能な任意の場所で使用できます。

## エンティティ

エンティティ・ディメンションは、エンティティ階層を保管し、管理構造および法的な報告構造などの会社の組織構造を表します。エンティティは、部門、子会社、工場、地域、国、法的部門、事業部門、部署、その他の組織単位などを表すことができます。任意の数のエンティティを定義できます。

エンティティ・ディメンションは、システムの連結ディメンションです。エンティティ・ディメンションの階層は、データの様々な連結ビューを示します。様々な階層は、地理的な連結、法的な連結またはアクティビティごとの連結に対応できます。組織に存在する各メンバー・コンポーネント間のすべての関係は保管されてこのディメンションで管理されます。ある組織のエンティティは基本エンティティ、従属エンティティまたは親エンティティに分類できます。基本エンティティは、組織構造の下部に存在し、他のエンティティを所有しません。従属エンティティは、組織内の他のエンティティによって所有されます。親エンティティは、それに直接従属する 1 つ以上の従属エンティティを含みます。

基本通貨などのエンティティ・ディメンション・メンバーのプロパティを定義し、エンティティで調整が可能かどうか、および会社間の詳細を保管するかどうかを指定します。[エンティティ・メンバーの定義](#)を参照してください。

## 会社間

会社間ディメンションは、勘定科目に存在する会社間のすべての残高を表します。これは、会社間トランザクションのエンティティ・メンバーを保管するために使用されます。アプリケーションの作成時にこのオプションを有効にすると、システム・メンバーを含む会社間ディメンションが作成されます。

### ノート:

アプリケーションの機能の構成時に会社間データを有効にしない場合、会社間ディメンションは作成されません。[アプリケーションの作成](#)を参照してください。



エンティティ・ディメンション・メンバーには、そのメンバーが会社間トランザクションに含まれるかどうかを指定する会社間エンティティと呼ばれるメンバー・プロパティがあります。このプロパティに「はい」を選択すると、会社間ディメンションに同じ名前のメンバーが作成されます。

会社間トランザクションを作成する場合、各グループに少なくとも 1 つの会社間勘定科目および調整勘定科目が必要です。調整勘定科目は、消去の完了時に 2 つの会社間勘定科目の間の差分を保管する勘定科目です。

会社間トランザクション用にアプリケーションを設定するには、次のアクションを行う必要があります。

- 勘定科目を定義する場合、会社間トランザクションを実行する勘定科目を指定し、会社間勘定科目ごとに調整勘定科目を指定します
- エンティティを定義する場合、会社間トランザクションを実行するエンティティを指定します

デフォルトでは、システムにより次の会社間メンバーが作成されます。

- **会社間なし** - このメンバーは、通貨レートなどの情報を保管するためにメンバー交差で使用されます。これは、名前を変更したり、編集することはできません。
- **会社間エンティティ** - このメンバーは、その下にすべての ICP エンティティが作成される親メンバーです。
- **Intercompany\_Top** - このメンバーは、階層内の最上位メンバーです。

会社間でエンティティが有効の場合、会社間ディメンションに新しいメンバーが自動的に追加されます。新しいメンバーを手動で追加することはできません。

会社間メンバーを変更または削除することはできません。

## 増減

増減ディメンションでは、勘定科目の増減の詳細が取得されます。デフォルトでは、期首残高、期末残高、変更および FX 計算を取得するために、増減ディメンションのメンバーが用意されています。

[シード済ディメンション・メンバー](#)を参照してください。

キャッシュ・フロー・レポートにも使用されます。FCCS\_Mvmts\_Operating、FCCS\_Mvmts\_Investing および FCCS\_Mvmts\_Financing という名前のシステム・メンバーが親勘定科目として作成され、必要に応じて、キャッシュ・フロー・レポートに追加の増減詳細を作成できるようになります。

増減ディメンションでは、次のタスクを実行できます。

- 貸借対照表を表示する際に、キャッシュ・フローの増減の詳細を参照できます
- キャッシュ・フロー・カテゴリに基づいて増減を区分けすることにより、キャッシュ・フローを自動的に生成できます

アプリケーションを作成すると、シード・メンバーを使用して増減ディメンションがデフォルトで作成され、有効になっている機能に基づいてシステム・メンバーが追加されます。アプリケーションの作成中に、増減および勘定科目ディメンションにキャッシュ・フロー・レポート用のキャッシュ・フロー・メンバーと階層が作成されます。

独自の増減メンバーを作成できますが、FCCS\_Mvmts\_FX\_Total 親ではなく FCCS\_Mvmts\_Subtotal 親内でのみ可能です。

増減ディメンションの設定についてさらに学習するには次のビデオを参照してください。



### 増減ディメンションの設定

#### 増減ディメンション・メンバーの追加

増減メンバーを追加する場合は、新しい増減メンバー(Mvmts\_)が FCCS\_ClosingBalance 階層と FCCS\_CashFlow 階層の両方に追加されることを確認してください。FCCS\_ClosingBalance 階層の新しい増減の子メンバーのデータ・ストレージ・プロパティは、「共有しない」である必要があります。FCCS\_CashFlow 階層の同じ新しい増減の子メンバーのデータ・ストレージ・プロパティは、「共有」である必要があります。

- 拡張ディメンションに基づくアプリケーションの場合、FCCS\_ClosingBalance 階層に追加された親には、データ・ストレージ・プロパティ「**動的計算**」が必要です。このユース・ケースの例外は、親に子メンバーが 1 つのみある場合です。子メンバーが 1 つのみある親の場合、親のデータ・ストレージ・プロパティは「**共有しない**」である必要があります。
- FCCS\_CashFlow 階層に追加された親には、データ・ストレージ・プロパティ「**動的計算**」が必要です。
- FCCS\_ClosingBalance 階層では、新しい増減メンバーの集計演算子は「**加算**」である必要があります。
- FCCS\_CashFlow 階層では、新しい増減メンバーの集計演算子は「**減算**」である必要があります。

#### ノート:

増減ディメンション・メンバーのメンバー式を作成すると、連結のパフォーマンスに重大な影響を及ぼすため、ベスト・プラクティスとして、これらは作成しないことをお勧めします。

#### キャッシュ・フロー - 増減符号逆転ロジック

間接キャッシュ・フローは、非現金勘定科目の増減の観点(つまり、ソースおよび現金の使用)からのキャッシュ・フローを表します。非現金勘定科目の増減を記録する場合、資産または費用(DR 標準符号勘定科目)が増加すると、これに対応して現金が減少します。同様に、負債、資本または収益(CR 標準符号勘定科目)が増加すると、現金が増加します。

非現金勘定科目の増減の観点から現金(営業、投資、資金調達)の変化を表す場合、現金の増減の符号は、資産および費用に関連する非現金勘定科目の増減と反対の符号になり、負債、資本または収益と同じ符号になります。

キャッシュ・フロー計算書を表す場合、増減ディメンション・メンバーを使用してレポート内の行を詳述します。また、勘定科目も指定する必要があります。最上位レベルの貸借対照表勘定科目を使用し、これに対するすべての増減をキャッシュ・フロー・レポートでレポートできますが、これは、キャッシュ・フロー・レポートの行があればその詳細を定義できるためです。すべての増減を収集するために必要な貸借対照表



勘定科目は 1 つのみです。通常、最上位レベルの貸借対照表勘定科目(常に純益がゼロになる必要があります)は、資産勘定科目として設定します。

資産勘定科目に転記された増減を現金の変化としてレポートする場合、資産の増加は現金の減少を表すため、符号を逆にする必要があります。負債勘定科目に転記された増減を現金の変化としてレポートする場合も、資産勘定科目である単一の貸借対照表の最上位メンバーについてレポートしているため、符号を逆にする必要があります。基本負債勘定科目の増加として転記された金額は、反対の符号を使用して最上位の貸借対照表資産勘定科目でレポートされるため、貸借対照表金額の減少として転記されます(なぜなら、負債勘定科目の増減エントリは勘定科目階層を介して集約されるため、勘定科目タイプは負債から資産に変化し、この結果、データの記号が反転するからです)。元の転記が行われた勘定科目タイプとは関係なく、キャッシュ・フローを表す場合は、非現金の増減の符号をすべて反転する必要があります。

## シナリオ

シナリオ・ディメンションは、実績、予算、予測などの一連のデータを表します。たとえば、実績シナリオは、現在の企業経営を表すデータを含むことができます。予算シナリオは、目標とする企業経営を表すデータを含むことができます。予測シナリオは一般に、将来の期間の予測に対応するデータを含みます。リーガル・シナリオは、リーガル GAAP のフォーマットとルールに従って計算されたデータを含むことができます。

デフォルトでは、システムにより実績システム・シナリオ・メンバーが作成されます。追加のシナリオ・メンバーを作成できます。

[シナリオの設定](#)を参照してください。

## 年

年ディメンションは、データの会計年度またはカレンダー年を表します。

アプリケーションを作成する場合、アプリケーションの年の範囲を指定します。

システムでは、指定された範囲に基づいて年ディメンションが作成されます。アプリケーションの作成後に年の範囲を増加できます。ただし、範囲を減少することはできません。[アプリケーションの年のカスタマイズ](#)を参照してください。

## 表示

ビュー・ディメンションは、期別、年次累計、四半期累計などの期間単位のカレンダー・インテリジェンスの様々なモードを表します。ビューを「期別」に設定すると、各月の値が表示されます。ビューを「年次累計」または「四半期累計」に設定すると、年次または四半期の累積値が表示されます。

基本レベル・ビューでシステムにデータをロードします。データは、期別メンバーに保管されます。

デフォルトでは、アプリケーションを作成すると、ビュー・ディメンションに次のメンバーが含まれます。

- 期別 - 各期間は、この特定の期間で入力、計算または導出されたデータを示します。
- YTD - 年次累計ビュー。1 年間の各期間の累積です。
- QTD - 四半期累計ビュー。四半期の各期間の累積です。

- **HYTD** - 半年累計ビュー。半年間の各期間の累積です。**HYTD** は、アプリケーションの作成中に選択した場合のみ作成されます。

ビュー・ディメンション・メンバーを削除したり、新しいメンバーを作成することはできません。別名などのメンバー・プロパティを編集することは可能です。

## 複数 GAAP

複数 **GAAP** ディメンションは、財務諸表をローカル **GAAP** と **IFRS** または他の **GAAP** の両方でレポートする必要がある場合に使用されるオプションのディメンションです。このディメンションは、ローカル **GAAP** データ入力と任意の **GAAP** 調整を追跡します。

アプリケーションの作成時に複数 **GAAP** ディメンションを選択した場合は、次に示す追加オプションから選択できます。

- 調整の入力 - **GAAP** 調整を手動で入力するには、このオプションを選択します。データは **FCCS\_Local GAAP** メンバーに入力します。**IFRS** のローカル **GAAP** に対する調整は、**FCCS\_Adjustments** メンバーに入力されます。**IFRS** 金額が計算されます。
- 調整の計算 - 入力されたローカル **GAAP** および **IFRS** 金額に基づいて、調整金額を自動的に計算できるようにする場合は、このオプションを選択します。データは **FCCS\_Local GAAP** および **FCCS\_IFRS** メンバーに入力します。調整金額は、調整メンバーで計算されます。

他の **GAAP** 調整の追加メンバーおよび階層を含めることができます。メンバーの別名は変更できますが、メンバー・ラベルは変更できません。

デフォルトでは、このディメンションを選択すると、次のディメンション・メンバーが提供されます。

- **FCCS\_IFRS**
- **FCCS\_Local GAAP**
- **FCCS\_Adjustments**

アプリケーションの作成中に複数 **GAAP** レポートを指定するには、[アプリケーションの作成](#)を参照してください。

## 期間および増減ディメンションの密ディメンションへの変換

アプリケーションを作成するとき、期間および増減を密ディメンションにするオプションを選択するか、勘定科目を密ディメンションとして使用できます。既存のアプリケーションを期間および増減ディメンションが密ディメンションであるアプリケーションに移行することもできます。「アプリケーション概要」画面から移行ユーティリティを使用できます。期間および増減が密ディメンションであるアプリケーションを作成または移行すると、シード・メンバーおよびメンバー式に対して必要な変更がシステムによって加えられます。

 **ノート:**

このオプションは、ハイブリッドが有効な Essbase で実行されているアプリケーションにのみ適用されます。

### 期間および増減ディメンションが密であるアプリケーションの作成

アプリケーションを作成すると、「**期間および増減を密にする**」オプションがデフォルトで選択されます。勘定科目が密ディメンションであるアプリケーションを作成する場合は、このオプションの選択を解除します。

[アプリケーション機能の説明](#)を参照してください。

### 勘定科目が密であるアプリケーションの期間および増減を密にするものへの変換

#### 事前移行に必要なステップ

移行プロセスを開始する前に、次のアクションを完了する必要があります:

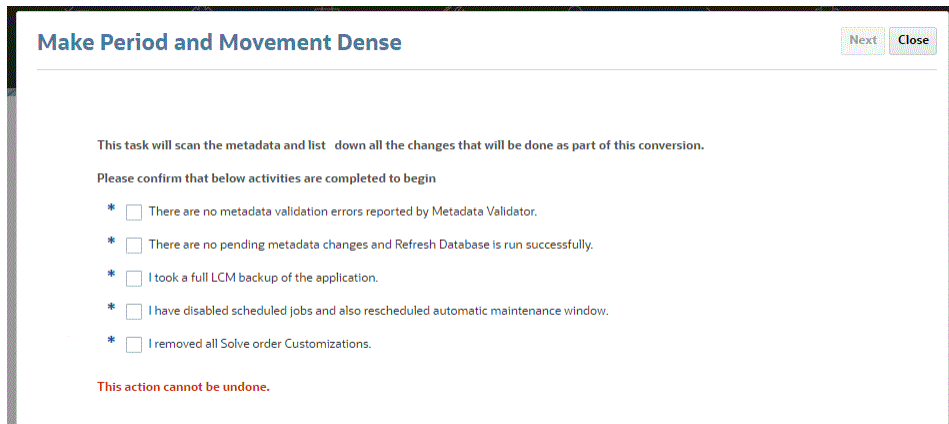
- メタデータ検証エラーがないようにします。
- 保留中のメタデータ変更がなく、「データベースのリフレッシュ」が正常に実行されたことを確認します。
- アプリケーションの完全なバックアップを作成します。  
**ノート:** ライフサイクル管理のバックアップ・プロセスでは、データ管理のワークベンチ・データが含まれません。ただし、クローニングを実行したとき、または EPMAutomate コマンドを使用したり、UI からスクリプトを実行することによって、ワークベンチおよびデータ管理環境全体のスナップショットを取得できます。

次の EPMAutomate コマンドを参照してください:

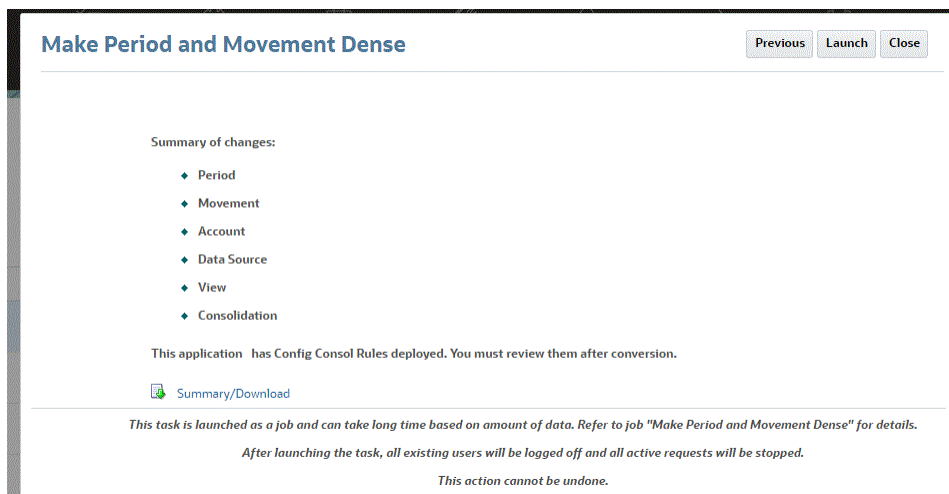
- [exportDataManagement](#)
- [importDataManagement](#)
- スケジュール済のジョブを無効にし、自動メンテナンス・ウィンドウを再スケジュールします。
- 解決順のカスタマイズをすべて削除します。

#### 移行ステップ

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**概要**」の順にクリックします。
2. 「**アクション**」から、「**期間および増減を密にする**」を選択して移行ウィザードを起動します。
3. 移行プロセスを開始する前に変換前アクションを完了したことを確認し、「**次**」をクリックします。



4. 変更のサマリーを確認します。  
「構成可能な連結」ルールをデプロイしている場合、換算後にそれらを確認する必要があることについて警告が表示されます。



5. 「起動」をクリックして、移行プロセスを起動します。  
プロセスが開始されると、既存のすべてのユーザーがログオフされ、すべてのアクティブな要求が停止されます。
6. 移行プロセスが終了するのを待って、アプリケーションからログアウトして再度ログインします。

### 重要なメタデータ変更

移行プロセスの結果、メタデータは次のように変更されます:

### ビュー・ディメンション

FCCS\_YTD、FCCS\_QTD、FCCS\_HYTD、FCCS\_YTD\_RULE、FCCS\_QTD\_RULE  
および FCCS\_HYTD\_RULE メンバーは動的計算です。

\_RULE メンバーおよび対応する\_RULE なしメンバーは、同じメンバー式を持ちます。

### 増減ディメンション

すべてのシード親メンバーは動的計算です。

増減は現在は密ディメンションです。

## 期間ディメンション

期間は現在は密ディメンションです。

## データ・ソース・ディメンション

次のデータ・ソース・ディメンション・メンバーは、移行プロセス後は連結に使用されなくなります:

- FCCS\_RateOverride (親メンバー: FCCS\_SystemTypes)
- FCCS\_AmountOverride (親メンバー: FCCS\_SystemTypes)
- FCCS\_PCON (親メンバー: FCCS\_SystemTypes)

## アプリケーション詳細

期間および増減が密ディメンションであるアプリケーションには、期間データのみが保管されます。

これらのアプリケーションで**計算の表示の更新**ルールを使用しないでください。

期間および増減が密ディメンションである新しいアプリケーションを作成する場合、累計の保管の管理オプションを有効にすることはできず、累計ビューの管理ルールは使用できません(選択したビューによる連結、選択したビューによる強制連結、選択したビューによる換算、選択したビューによる強制換算)。

勘定科目が密ディメンションで累計の管理オプションが有効な既存のアプリケーションを、期間および増減が密ディメンションであるアプリケーションに移行する場合、連結、換算、それぞれの「選択したビューによる」およびそれぞれの強制ルール(単一通貨または複数通貨に基づく)は表示されます。これらのルールすべてで期間データのみが生成されます。

期間および増減ディメンションを密に変換する方法についてさらに学習するには、次のビデオをご覧ください:



[Oracle Financial Consolidation and Close](#) での期間および増減ディメンションの密への変換.

## アプリケーションを期間および増減を密として変換した後のステップ

アプリケーションを期間および増減が密ディメンションであるアプリケーションに変換した後で、次のステップを実行します:

- ユーザー定義メンバー式、構成可能な計算ルール(挿入位置とも呼ばれます)およびオンデマンド・ルールをすべて確認し、これらがベスト・プラクティスに従って記述されていることを確認します。シード・メンバー式を確認する必要はありません。
- 保存されたデータ・エクスポート・ジョブを再作成して、ドライバ・ディメンションとして勘定科目のかわりに期間または増減(密ディメンション)を使用します。
- [密/疎最適化\(DSO\)アプリケーションからのデータのエクスポート](#)のガイドラインに従って、移行された DSO アプリケーションからデータをエクスポートする既存のデータ統合を変更します。
- 移行ユーティリティの実行時に、シード・メンバーおよびユーザー定義メンバーの解決順序が変更されます。移行プロセスの一環として、既存の親勘定科目のメンバーの実行順序は自動的に 58 に設定されます。今後追加される新しい親勘定科目のメンバーについて、実行順序を 58 に設定してください。

- これらの勘定科目、増減およびデータ・ソース・メンバーの解決順序を確認して変更する必要があります。[解決順序の設定](#)を参照してください。
  - 勘定科目: 親勘定科目のメンバーすべての解決順序を 58 に設定する必要があります。
  - 増減: 親増減のメンバーはすべて「動的計算」である必要があります。以前に設定したメンバーの解決順序は削除します。
  - データ・ソース: 以前に設定したメンバーの解決順序は削除します。

### ノート:

取得のパフォーマンスを向上させるために、このドキュメントで DSO の解決順を確認してください: [Financial Consolidation and Close の取得パフォーマンスのトラブルシューティング](#)。

メンバー式に別の動的計算メンバーが含まれる場合、メンバー式の Consol 解決順を、式で参照される Consol 解決順が最も大きいメンバーよりも 1 つ上位にします。

メンバーが親の動的計算メンバーであり、データが YTD で取得される場合は、メンバーに対する自分の解決順が YTD メンバーよりも上位であることを確認してください。

- 変換後、すでに連結されている期間の再連結は必要ありません。DSO 変換中に YTD データが削除されます。前の期間がロック済の場合は、ロック解除して再連結しないことがベスト・プラクティスです。

### 期間および増減が密ディメンションである場合のメンバー式の記述のベスト・プラクティス

- 疎ディメンション間参照を含む式を記述する前に、@NONEMPTYTUPLE(); デイレクティブを使用します。
- 直接定数を返すことは避けます。かわりに、次のように定数を追加します:

```
+ "Scenario"->"Years"->"Period"->"Entity"->"Account"->"FCCS_Entity
Input"->"FCCS_No Intercompany"->"FCCS_No Data Source"->"FCCS_No
Movement"->"FCCS_Periodic"-><No members of your custom dimension>
```

元の式の例

```
IF("Account A" + Account B" < 0)
  0;
ELSE
  1;
ENDIF
```

変更された式の例

```
IF("Account A" + Account B" < 0)
  0 + "Scenario"->"Years"->"Period"->"Entity"->"Account"->"FCCS_Entity Input"->"FCCS_No Intercompany"->"FCCS_No Data Source
"->"FCCS_No Movement"->"FCCS_Periodic"-><No members of your custom dimension>;
ELSE
  1 + "Scenario"->"Years"->"Period"->"Entity"->"Account"->"FCCS_Entity Input"->"FCCS_No Intercompany"->"FCCS_No Data Source
"->"FCCS_No Movement"->"FCCS_Periodic"-><No members of your custom dimension>;
ENDIF
```

- 式を含むリーフ動的計算勘定科目メンバーまたは動的計算勘定科目の親を 2 パス計算として設定することは避けてください。かわりに、解決順序を使用します。2 パス計算オプションでは勘定科目は最後のディメンションとして計算されますが、これは不要な場合があります。
- このトピックで説明した関数をメンバー式内で使用することは避けてください: [https://docs.oracle.com/en/cloud/saas/enterprise-performance-management-common/ecalc/working\\_with\\_essbase\\_hybrid.html](https://docs.oracle.com/en/cloud/saas/enterprise-performance-management-common/ecalc/working_with_essbase_hybrid.html)。これらの関数は、ハイブリッド Essbase ではサポートされていません。
- 比率など、集約後に計算可能な式を確認します。解決順序を高くして動的に計算します。
- 集約前に計算する必要がある式を確認します。パフォーマンスが低い場合は、保管済メンバーにすることを検討し、計算スクリプトを使用します。
- ローリング予測など、多数のデータ・ブロックからデータを取得する必要がある式を確認します。パフォーマンスが低い場合は、保管済メンバーにすることを検討し、計算スクリプトを使用します。
- 式内で#MISSING を返すことを避けます。

```
IF("Account A" + Account B" < 0)
  "Account C";
ELSE
  #MISSING;
ENDIF
Good Example:
IF("Account A" + Account B" < 0)
  "Account C";
ENDIF
```

### カスタム・ルールの記述のベスト・プラクティス

カスタム・ルールの記述の一般的なベスト・プラクティスを確認し、同じ概念を期間および増減が密ディメンションであるアプリケーションに適用します。

- 増減メンバーがアンカー・ブロックとして使用されるルールでは、アンカー・メンバーを疎ディメンション・メンバーに変更する必要があります。
- 親の増減メンバーは「動的計算」のみであり、「共有しない」にすることはできません。親の増減メンバーに FIX 文があるルールでは、親メンバーを変更し、レベル 0 メンバーのみを使用する必要があります。

## ディメンションの表示および編集

クラシック・ディメンション・エディタまたは簡易ディメンション・エディタを使用して、ディメンション・プロパティを表示および編集できます。

簡易ディメンション・エディタを使用すると、無効なディメンション・メンバー・プロパティをチェックし、プロパティを修正するアクションを実行できます。無効なプロパティは、簡易ディメンション・エディタ・グリッドで赤の枠線で囲まれます。

クラシック・ディメンション・エディタでディメンションを表示および編集するセキュリティ役割を持っているユーザーは、簡易ディメンション・エディタで同様のアクションを実行できます。

次の項を参照してください:

- 簡易ディメンション・エディタ(「アプリケーション概要」からアクセス)を使用してディメンション・プロパティを編集するには、[簡易ディメンション・エディタでのディメンションの編集について](#)を参照してください。



- クラシック・ディメンション・エディタ(「ナビゲータ」からアクセス)を使用してディメンション・プロパティを編集するには、[ディメンションの管理](#)を参照してください。

## ディメンション階層の操作

ディメンション階層は、構造的および算術的關係、およびデータベースのメンバー間の連結を定義します。關係は、縮小可能な階層図式で表示されます。上位レベルのディメンション・メンバーは親メンバーと呼ばれ、親メンバーの直下のメンバーは子と呼ばれます。親の下にいるすべてのメンバーは子孫と呼ばれます。最下位レベルの階層のメンバーは基本レベルのメンバーと呼ばれます。



データはディメンションの基本レベルのメンバーに入力され、親メンバーには入力されません。親レベルのメンバーの値は、親レベルのメンバーの子から集約されます。基本レベルのメンバーのデータが計算される場合もあります。

### ノート:



ベスト・プラクティスとしては、階層の深さを 20 レベルに制限することをお勧めします。

## ディメンション階層の展開および縮小

ディメンションまたはメンバーを展開するには:

- 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
- 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
- 「ディメンション」で、展開するディメンションおよびメンバーを選択します。
- アクションを行います:
  - 「展開」をクリックします。
  - 「展開」  をクリックします。
  - 閉じているフォルダをクリックします。

ディメンションまたはメンバーを縮小するには:

- 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
- 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
- 「ディメンション」で、縮小するディメンションを選択します。
- アクションを行います:
  - 「縮小」をクリックします。
  - 左向き矢印キーを押します。
  - 「縮小」  をクリックします。
  - 開いているフォルダをクリックします。






## ディメンション階層の移動

- 上向き矢印キーを押して前のメンバーに移動します。
- 下向き矢印キーを押して次のメンバーに移動します。
- 「ページ」で、表示するページを入力し、「実行」をクリックするか、[Enter]を押します。
- 「開始」、「前へ」、「次」または「終了」をクリックして他のページを表示します。

デフォルトでは、1 ページに 14 個のメンバーが表示されます。これは、「各ディメンション・ページに指定数のメンバーを表示」のプリファレンスを設定して変更できます

## ディメンションまたはメンバーの検索


ディメンション階層内のディメンション・メンバーを検索するには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「ディメンション」で、メンバーのディメンションを選択します。
4. 「検索」で、「名前」、「別名」または「両方」を選択します。
5. 検索するメンバーの名前、別名または文字列の一部を入力します。
6. 「下方向に検索」  または「上方向に検索」  をクリックします。

## メンバーのソート

子または子孫による昇順または降順でメンバーをソートできます。メンバーのソートはアウトラインに影響を及ぼします。

メンバーをソートするには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「ディメンション」で、メンバーのディメンションを選択します。
4. 「ディメンション」で、子または子孫をソートするメンバーを選択します。
5. 「ソート」で、子または子孫を選択します。

子でソートする場合は、選択したメンバーの真下のレベルにあるメンバーのみにソートがかかります。子孫でソートする場合は、選択したメンバーのすべての子孫にソートがかかります。




6. 昇順でソートする場合は「昇順ソート」  を、降順でソートする場合は「降順ソート」  をクリックします。
7. 「OK」をクリックします。

次にデータベースを作成またはリフレッシュするとき、表示される順序のメンバーでアウトラインが生成されます。


## ディメンション階層内でのメンバーの移動

1 個のメンバーまたは同一の分岐にあるメンバーのグループを移動できます。

メンバーまたは兄弟間の分岐を移動するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「ディメンション」で、移動するメンバーのディメンションを選択します。
4. 移動するメンバーまたは分岐を選択します。
5. アクションを行います:
  - メンバーを 1 つ上に移動するには、「上へ移動」をクリックします。
  - メンバーを 1 つ下に移動するには、「下へ移動」をクリックします。

親および子を含めてメンバーを移動するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「ディメンション」で、移動するメンバーのディメンションを選択します。
4. 移動するメンバーまたは分岐を選択します。
5. 「切取り」をクリックします。

ディメンションの追加や編集、別ページへのナビゲート、メンバーの削除またはログオフした後に、メンバーを切り取ることはできません。「切取り」は、ルート・ディメンション・メンバーには使用できません。

6. メンバーの移動先のレベルをクリックします。
7. 「貼付け」をクリックします。
8. 「OK」をクリックします。
9. ビジネス・ルールおよびレポートを更新および検証します。

## ディメンション・プロパティの修正

「ディメンション・プロパティの修正」構成タスクを使用すると、メタデータ・エクスポート中に再配置のみとしてタグ付けされている非システム・メンバーに関連する問題を修正できます。この構成ユーティリティを使用して、勘定科目、データ・ソース、通貨、エンティティ、会社間、増減、シナリオ、複数 GAAP およびカスタム・ディメンションにおける問題を修正できます。


ディメンション・プロパティを修正するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」, をクリックし、「構成」をクリックします。
2. 「ディメンション・プロパティの修正」をクリックします。
3. 「ディメンション」ドロップダウン・リストから、ディメンションを選択します。

4. 影響を受けるメンバーをディメンションから選択し、矢印キーを使用してそれらを右側の(選択済)列に移動します。  
異なるディメンションから複数のメンバーを選択できます。
5. 影響を受けるメンバーをすべて選択したら、「**起動**」をクリックします。
6. 確認のプロンプトで「**OK**」をクリックします。
7. タスクが完了すると、選択した修正済メンバーのリストとともに要約情報が表示されます。プロパティを確認し、「**OK**」をクリックできます。
8. タスクが完了したら、「**構成**」ページで「**機能を使用可能にする**」をクリックします。

## メンバーの祖先の表示


メンバーの祖先を表示するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「**ディメンション**」をクリックします。
3. 「**ディメンション**」で、ディメンションを選択します。
4. ディメンション階層内のメンバーを選択します。
5. 「**祖先の表示**」をクリックします。
6. 「**閉じる**」をクリックします。

## メンバーの用途の表示

「用途の表示」オプションは、「フォーム」および「エンティティ」の垂直タブにのみ適用されます。


アプリケーション内でメンバーが使用される場所を表示するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「**ディメンション**」をクリックします。
3. メンバーの用途を表示するディメンションを選択します。
4. 「**用途の表示**」をクリックします。
5. 「**メンバーの用途**」ウィンドウの一番下で、メンバーの用途を表示するアプリケーションの場所を選択します。
6. 「**閉じる**」をクリックします。

## カスタム・ディメンションの追加

システムで事前定義されたディメンションに加え、アプリケーションの必要性に基づいてカスタム・ディメンションを作成できます。カスタム・ディメンションは勘定科目ディメンションと関連付けられており、勘定科目に関する追加の詳細を提供します。

最大 4 つのカスタム・ディメンションを作成できます。アプリケーションで「複数 GAAP レポート」オプションが有効化されている場合、3 つのカスタム・ディメンションを作成できます。

 ノート:

拡張ディメンション・アプリケーションを使用していない場合は、最大 2 つのカスタム・ディメンションのみを作成できます。

「ディメンション」リストに、アプリケーションのすべてのディメンションが表示されます。ディメンションを作成すると、それが「ディメンション」リストの最後に追加されます。

カスタム・ディメンションを追加する場合、名前、別名、セキュリティ、属性などのプロパティを定義します。

表 11-2 カスタム・ディメンションのプロパティ

プロパティ	値
ディメンション	ディメンション全体で一意である名前を入力します。 カスタム・ディメンション名に次の文字を使用することはできません。 アンパサンド(&)、アポストロフィ(')、アスタリスク(*)、アットマーク(@)、バックスラッシュ(\)、キャレット(^)、コロン(:)、カンマ(,)、中カッコ({})、ドル記号(\$)、二重引用符(")、等号(=)、感嘆符(!)、スラッシュ(/)、大なり記号(>)、小なり記号(<)、縦線( )、マイナス記号(-)、番号記号(#)、カッコ( )、パーセント記号(%)、ピリオド(.)、プラス記号(+)、疑問符(?)、セミコロン(;)、空白、大カッコ(())またはタブ。
別名	<b>オプション:</b> 別名表を選択します。ディメンションの一意の代替名を入力します。
説明	<b>オプション:</b> 説明を入力します。
プラン・タイプ	ディメンションが有効となるアプリケーション・タイプを選択します。このオプションをクリアすると、ディメンションのすべてのメンバーは選択しないタイプに対して無効になります。
セキュリティの適用	ディメンション・メンバーにセキュリティの設定を行います。ディメンション・メンバーにアクセス権を割り当てる前に選択してください。そうしない場合、ディメンションにセキュリティが設定されず、ユーザーはメンバーに無制限にアクセスできます。
データ・ストレージ	データ・ストレージ・オプションを選択します。デフォルトは「共有しない」です。

## 集約オプション

集約オプションを使用して、ディメンション階層内に計算を定義できます。集約オプションで、親のメンバーに対する子のメンバーの値をどのように集約させるか決定します。

- + 加算
- - 減算
- \* 乗算
- / 除算
- % パーセント
- ~ 無視
- なし(階層に関係なく集約しない)

#### ノート:

会社間エンティティの集約オプションについては、[会社間エンティティの集約オプション](#)を参照してください。

ディメンション名メンバーの直属の子すべてに「無視」または「なし」の集約オプションを設定する必要があります。シード済ディメンション・メンバーには、あらかじめ集計演算子が「無視」に設定されている必要があります。フォームおよびレポートでは、ディメンション名ではなく最上位ディメンション・メンバーを使用します。

**Financial Consolidation and Close** には、別のエンティティへのエンティティの連結を実行する連結スクリプトが用意されています。エンティティに対する集計演算子を変更しないでください。この「エンティティ」プロパティが「無視」以外の場合、結果は正しくなりません。

必要に応じて、勘定科目ディメンションのシード済メンバーの連結演算子を変更してカスタマイズできます。変更できるのは、連結キューブのメンバーのみです。変更した後、メタデータ検証を実行して変更が有効であることを確認します。

シード済メンバーに変更を加えた場合、ディメンション・エクスポート CSV ファイルを使用してそのメンバーをエクスポートまたはインポートすることはできません。モジュール・カスタマイズの移行アーティファクトを使用する必要があります。CSV ファイルをエクスポートしてからインポートすると、シード済メンバーに対する属性の変更は保持されません。

#### ラベルのみのメンバー

「ラベルのみ」ディメンション・メンバーの連結演算子は「なし」である必要があります。これは、シード済勘定科目およびラベルのみメンバーの表示に正しく設定されています。カスタムのラベルのみメンバーを作成する場合は、メンバーが親メンバーに適切に集約されるように、連結演算子を「なし」に設定してください。

#### 勘定科目ディメンションのシステム・メンバー

FCCS\_System Account、Exchange Rates および FCCS\_Drivers の下にある勘定科目ディメンションのすべてのシステム・メンバーに対して、連結演算子は「なし」に設定されます。

## 会社間エンティティの集約オプション

集約オプションで、親のメンバーに対する子のメンバーの値をどのように集約させるか決定します。アプリケーションの作成時に、会社間データを有効にすると、会社間エンティティを会社間最上位メンバーに集約するための 3 つの集約オプションが使用可能になります:

- + 加算(デフォルト値)

- - 減算
- ~ 無視

アプリケーション作成時に機能を有効にするには、[アプリケーション機能の説明](#)を参照してください。

#### ノート:

会社間データを有効にしないと、これらのオプションは使用できません。

会社間ディメンションの **FCCS\_Intercompany Entities** に対する集計演算子は、選択した集約オプションに基づいており、標準消去システム・ルールは、集約オプションに従って必要に応じて実行されます。

#### 会社間エンティティを会社間最上位に集約(加算)

会社間エンティティを会社間最上位メンバーに集約することを選択した場合は、「**加算**」オプションを選択します。

- **FCCS\_Intercompany Entities** メンバーの連結演算子は、「**加算**」になります。
- 標準消去システム・ルールは、デフォルトの標準消去プロセスを使用して実行されます:

調整勘定に会社間勘定のフラグが設定されている場合は、2つのエン트리があります。調整勘定に転記されたエン트리とソース金額の逆仕訳の両方で、ソースの会社間メンバーが使用されます。

会社間エントリが消去されると、ソース **POV** 金額が逆仕訳され、調整勘定に対して相殺エントリが作成されます。

- 調整勘定に会社間勘定のフラグが設定されている場合は、2つのエン트리があります。調整勘定に転記されたエン트리とソース金額の逆仕訳の両方で、ソースの会社間メンバーが使用されます。
- 調整勘定に会社間勘定のフラグが設定されていない場合も、2つのエン트리があります。調整勘定に転記されたエン 트리には **FCCS\_No Intercompany** メンバーが使用され、ソース金額の逆仕訳にはソースの会社間メンバーが使用されます。

#### 会社間エンティティを会社間最上位に集約しない(無視)

会社間エンティティを会社間最上位メンバーに集約しない場合は、「**無視**」オプションを選択します。

- **FCCS\_Intercompany Entities** メンバーの連結演算子は、「**無視**」になります。
- 標準消去はデフォルトの標準消去プロセスを使用して実行されますが、調整勘定に会社間勘定のフラグが設定されているかどうかに基づいて、既存の2つのエントリのかわりに、3つまたは4つのエントリを転記します:

調整勘定に会社間勘定のフラグが設定されている場合は、消去時に4つのエン트리があります。最初の2つで、ソースの会社間メンバーを使用してソース入力を逆仕訳し、ソースの会社間メンバーを使用して調整勘定に転記します。さらに他の2つのエントリが、会社間なしで同じ金額を逆仕訳し、会社間なしで調整勘定に転記します。

調整勘定に会社間勘定のフラグが設定されていない場合は、3つのエントリのみがあります。最初のエントリでソースの会社間メンバーを使用してソース入力を逆仕訳し、他の2つのエントリによって、会社間なしで同じ金額を逆仕訳し、会社間なしで調整勘定に転記します。

例:

If Plug Account is defined as "Is ICP Acct"

**At entity Input**

Entity	Account	Intercompany	Amount
A	Sales	FCCS_Intercompany Top	100
		FCCS_No Intercompany	100
		FCCS_Intercompany Entities	30
		ICP_B	20
		ICP_C	10

**At Elimination (when A and B are in the same parent)**

Entity	Account	Intercompany	Amount
A	Sales	FCCS_Intercompany Top	-20
		FCCS_No Intercompany	-20
		FCCS_Intercompany Entities	-20
		ICP_B	-20

A	Plug Account Sales	FCCS_Intercompany Top	20
		FCCS_No Intercompany	20
		FCCS_Intercompany Entities	20
		ICP_B	20

**At Contribution and in the Parent entity**

Entity	Account	Intercompany	Amount
A	Sales	FCCS_Intercompany Top	80
		FCCS_No Intercompany	80
		FCCS_Intercompany Entities	10
		ICP_B	0
		ICP_C	10

A	Plug Account Sales	FCCS_Intercompany Top	20
		FCCS_No Intercompany	20
		FCCS_Intercompany Entities	20
		ICP_B	20



If Plug Account is NOT defined as "Is ICP Acct"

**At entity Input**

Entity	Account	Intercompany	Amount
A	Sales	FCCS_Intercompany Top	100
		FCCS_No Intercompany	100
		FCCS_Intercompany Entities	30
		ICP_B	20
		ICP_C	10

**At Elimination (when A and B are in the same parent)**

Entity	Account	Intercompany	Amount
A	Sales	FCCS_Intercompany Top	-20
		FCCS_No Intercompany	-20
		FCCS_Intercompany Entities	-20
		ICP_B	-20

A	Plug Account Sales	FCCS_Intercompany Top	20
		FCCS_No Intercompany	20

**At Contribution and in the Parent entity**

Entity	Account	Intercompany	Amount
A	Sales	FCCS_Intercompany Top	80
		FCCS_No Intercompany	80
		FCCS_Intercompany Entities	10
		ICP_B	0
		ICP_C	10

A	Plug Account Sales	FCCS_Intercompany Top	20
		FCCS_No Intercompany	20

**会社間エンティティを会社間最上位に減算として集約**

「減算」オプションを使用して会社間エンティティを会社間最上位メンバーに集約する場合:

- FCCS\_Intercompany Entities メンバーの連結演算子は、「減算」になります。
- 標準消去は現在と同じ条件で実行されますが、調整勘定に会社間勘定のフラグが設定されているかどうかに基づいて、既存の 2 つのエントリのかわりに、3 つまたは 4 つのエントリを転記します:

調整勘定に会社間勘定のフラグが設定されている場合は、消去時に 4 つのエントリがあります。最初の 2 つで、ソースの会社間メンバーを使用してソース入力を逆仕訳し、ソースの会社間メンバーを使用して調整勘定に転記します。さらに他の 2 つのエントリが、会社間なしで同じ金額を逆仕訳し、会社間なしで調整勘定に転記します。

調整勘定に会社間勘定のフラグが設定されていない場合は、3 つのエントリのみがあります。最初のエントリでソースの会社間メンバーを使用してソース入力を逆仕訳し、他の 2 つのエントリによって、会社間なしで同じ金額を逆仕訳し、会社間なしで調整勘定に転記します。

例:



If Plug Account is defined as "Is ICP Acct"

**At entity Input**

Entity	Account	Intercompany	Amount
A	Sales	FCCS_Intercompany Top	70
		FCCS_No Intercompany	100
		FCCS_Intercompany Entities	30
		ICP_B	20
		ICP_C	10

**At Elimination (when A and B are in the same parent)**

Entity	Account	Intercompany	Amount
A	Sales	FCCS_Intercompany Top	0
		FCCS_No Intercompany	-20
		FCCS_Intercompany Entities	-20
		ICP_B	-20

A	Plug Account Sales	FCCS_Intercompany Top	0
		FCCS_No Intercompany	20
		FCCS_Intercompany Entities	20
		ICP_B	20

**At Contribution and in the Parent entity**

Entity	Account	Intercompany	Amount
A	Sales	FCCS_Intercompany Top	70
		FCCS_No Intercompany	80
		FCCS_Intercompany Entities	10
		ICP_B	0
		ICP_C	10

A	Plug Account Sales	FCCS_Intercompany Top	0
		FCCS_No Intercompany	20
		FCCS_Intercompany Entities	20
		ICP_B	20

If Plug Account is NOT defined as "Is ICP Acct"

**At entity Input**

Entity	Account	Intercompany	Amount
A	Sales	FCCS_Intercompany Top	70
		FCCS_No Intercompany	100
		FCCS_Intercompany Entities	30
		ICP_B	20
		ICP_C	10

**At Elimination (when A and B are in the same parent)**

Entity	Account	Intercompany	Amount
A	Sales	FCCS_Intercompany Top	0
		FCCS_No Intercompany	-20
		FCCS_Intercompany Entities	-20
		ICP_B	-20

A	Plug Account Sales	FCCS_Intercompany Top	20
		FCCS_No Intercompany	20

**At Contribution and in the Parent entity**

Entity	Account	Intercompany	Amount
A	Sales	FCCS_Intercompany Top	70
		FCCS_No Intercompany	80
		FCCS_Intercompany Entities	10
		ICP_B	0
		ICP_C	10

A	Plug Account Sales	FCCS_Intercompany Top	20
		FCCS_No Intercompany	20

## データ・ストレージ・オプション

表 11-3 データ・ストレージ・オプション

オプション	影響
保管	メンバーのデータ値を保管します。
動的計算	メンバーのデータ値を計算し、値を無視します。
共有しない	保管された親メンバーには、子メンバーの集約からのデータが常に保管されます。
共有	同じディメンション内のメンバーでデータ値を共有することを許可します。
ラベルのみ	子の集約設定にかかわらず、最初の子メンバーのデータが表示されます。

## データ・ストレージ・プロパティの変更

構成可能な連結、換算のオーバーライド、挿入ルールおよび仕訳で、ディメンション・メンバーに対するこれらのデータ・ストレージ・プロパティを変更できます。

次の変更が許可されています:

元のデータ・ストレージ・プロパティ	新しいデータ・ストレージ・プロパティ
保管	共有しない
共有しない	保管
動的計算	保管
動的計算	共有しない

## 動的計算について

動的に計算されたメンバーを持つシステムでは、メンバーのデータ値が計算され、これらの値が無視されます。動的計算の親の下の子数の制限は **100** です。メンバーのストレージを動的計算に変更すると、本来のデータの導出方法によっては、データが紛失する場合があります。アウトラインか計算のどちらかまたは両方を更新して動的に計算された値を取得することが必要な場合もあります。

## 保管データ・ストレージ

子が「動的計算」に設定されている場合は、親メンバーを「保管」に設定しないでください。この組合せの場合、ユーザーがフォームを保存したりリフレッシュしたりする際、親の新しい合計が計算されません。

## 共有データ・ストレージ

「共有」を使用して、アプリケーション内で別のロールアップ構造を許可します。

## 非共有データ・ストレージ

ユーザー定義のカスタム・ディメンションを追加する際、デフォルトのデータ・ストレージ・タイプは「共有しない」です。親に集約されている **1** つの子メンバーのみを持つ親に対して「共有しない」を使用し、子メンバーへのアクセスを適用できます。

## ラベルのみのデータ・ストレージ

ラベルのみのメンバーは、通常ナビゲーションで使用される仮想メンバーで、関連付けるデータはありません。ノート:

- レベル 0 のメンバーには、「ラベルのみ」を割り当てることはできません。
- ラベルのみのメンバーは値を表示できます。
- ディメンションのメンバーをラベルのみにすると、ブロック・サイズが減少するためデータベース容量を最小化できます。
- ラベルのみのメンバーには、属性を割り当てることができません。

- 複数通貨アプリケーション内では、ラベルのみのストレージをディメンション(エンティティ、バージョン、通貨、ユーザー定義のカスタム・ディメンション)のメンバーに適用できません。為替レートを保管するには、「共有しない」を使用します。
- ラベルのみの親の子に対するデータ・ストレージは、デフォルトで「共有しない」に設定されています。

**▲ 注意:**

最初の子メンバーにはデータを保存できないため、最初の子メンバーの後に続くラベルのみの親にフォームを設計しないでください。そのかわり、子の前に選択されたラベルのみの親でフォームを作成するか、フォームにラベルのみの親を選択しないようにしてください。

## ディメンション・プロパティの設定

表 11-4 ディメンション・プロパティ

プロパティ	値
ディメンション	ディメンション名を入力します。
説明	<b>オプション:</b> 説明を入力します。
別名	<b>オプション:</b> 別名表を選択し、代替名を最大 80 文字で入力します。
プラン・タイプ	ディメンションが有効となるアプリケーション・タイプを選択します。
セキュリティの適用	ディメンション・メンバーにセキュリティの設定を行います。このオプションを選択しないと、ディメンションにはセキュリティが設定されず、ユーザーはそのメンバーに制限なしにアクセスできます。ディメンション・メンバーにアクセス権を割り当てる前に選択する必要があります。
データ・ストレージ	データ・ストレージ・オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保管</li> <li>• 動的計算</li> <li>• 共有しない</li> <li>• 共有</li> <li>• ラベルのみ</li> </ul>
表示オプション	「メンバー選択」ダイアログ・ボックスのアプリケーションのデフォルト表示オプションを設定します。メンバーまたは別名を表示するには、「メンバー名」または「別名」を選択します。「メンバー名:別名」では、左側にメンバーが表示され、右側に別名が表示されます。「別名:メンバー名」では、左側に別名が表示され、右側にメンバーが表示されます。

表 11-4 (続き) デイメンション・プロパティ

プロパティ	値
カスタム属性の表示の使用可能	関連付けられた属性のあるデイメンションの使用可能な属性と選択された属性を表示します。属性のあるデイメンションでカスタム属性の表示を有効にします。

## 次元評価順の設定

「評価順」で、データ交差にデータ型の競合がある場合に優先されるデータ型を指定できます。たとえば、勘定科目メンバーが通貨データ型に設定され、製品メンバーがスマート・リスト・データ型に設定されている場合、通貨データ型とスマート・リスト・データ型のどちらが交差時に優先するかを設定できます。

次元評価順を設定するには:

1. 「アプリケーション」、「概要」、「デイメンション」の順に選択します。

### ノート:

注意: デイメンションの評価順序を変更するとき、「ナビゲータ」メニューでデイメンション・エディタは使用しないでください。評価順序は、必ず「アプリケーション概要」の「デイメンション」タブから変更する必要があります。

またサービス管理者は、ステータス置換タイプが 2 に設定されていることを常に確認する必要があります。これは、シード済の「データ・ステータス」フォームに連結ステータスを表示するために必要です。

2. 優先順位を設定するデイメンションの横にある「評価順」列のボタンをクリックします。

## 勘定科目の定義

勘定科目デイメンションは、アプリケーションの勘定体系を定義します。アプリケーションを作成すると、アプリケーションに対して有効になっている機能の一部に基づいて、システムおよびシード・メンバーの階層を持つ勘定科目デイメンションが作成されます。シード済勘定科目は、FCCS\_IncomeStatement など、FCCS という接頭辞付きで作成されます。

 ノート:

ほとんどのシード済メンバーのメンバー・プロパティは変更できません。ただし、必要に応じて勘定科目ディメンションのシード済メンバーの勘定科目タイプおよび連結演算子のプロパティを変更して、カスタマイズできます。変更できるのは、連結キューブのメンバーのみです。変更した後、メタデータ検証を実行して変更が有効であることを確認します。

シード済メンバーに変更を加えた場合、ディメンション・エクスポート CSV ファイルを使用してそのメンバーをエクスポートまたはインポートすることはできません。モジュール・カスタマイズの移行アーティファクトを使用する必要があります。CSV ファイルをエクスポートしてからインポートすると、シード済メンバーに対する属性の変更は保持されません。

[勘定科目タイプ](#)および[集約オプション](#)を参照してください。






デフォルトでは、システムにより次の勘定科目メンバーのタイプが作成されます。

• **シード・メンバー**

基本の貸借対照表および損益計算書はシード・メンバーとして作成されます。

貸借対照表の構造は、「動的計算」親メンバーを使用して作成されます。様式には、「従来」様式(資産 = 負債 + 自己資本)と「純資産」様式(資産 - 負債 = 自己資本)の 2 種類が用意されています。

貸借対照表の下位レベルの勘定科目は再編成できますが、上位レベルの初期構造(資産合計、負債合計および資本合計までを含む)は変更しないことをお勧めします。その他のシード済アーティファクト(シード済連結ルールなど)は、システムによって作成される貸借対照表の基本構造に依存します。

Name	Account Type	Data Type	Alias (Default)	Data Storage
 FCCS_Income Statement	Revenue	Currency	Income Statement	Dynamic Calc
 FCCS_Net Income	Revenue	Currency	Net Income	Dynamic Calc
 FCCS_Total Pre Tax Income	Revenue	Currency	Total Pre Tax Income	Dynamic Calc
 FCCS_Pre Tax from Operations	Revenue	Currency	Pre Tax from Operations	Dynamic Calc
 FCCS_Gross Profit	Revenue	Currency	Gross Profit	Dynamic Calc
FCCS_Sales	Revenue	Currency	Sales	Store
FCCS_Cost of Sales	Expense	Currency	Cost of Sales	Store
FCCS_Operating Expenses	Expense	Currency	Operating Expenses	Store
FCCS_Other Income Expense	Expense	Currency	Other Income Expense	Store
FCCS_Provision for Income Tax	Expense	Currency	Provision for Income Tax	Store

• **オプションのシード・メンバー**

これらのメンバーは、有効になっているアプリケーション機能に基づいて作成されます。たとえば、比率計算の実行に必要な比率勘定科目は、オプションのシステム・メンバーです。アプリケーションの一部として含める必要のある比率に応じて、これらの勘定科目は事前にシードされます。その他には、売上高収益率と総利益マージンがあります。

出資比率の管理機能が有効になっている場合、シード済連結ルールで要求される基本(レベル 0)勘定科目が必ず存在するようにするため、貸借対照表の基本構造が拡張されます。

• **共有メンバー**

一部のシード・メンバーは、共有メンバーとして代替階層にも追加されます。たとえば、キャッシュ・フロー・カテゴリに対して設定された損益計算書または貸借対

照表システム・メンバーの下にリストされているすべての勘定科目メンバーについては、キャッシュ・フローの選択したカテゴリの下に共有インスタンスが作成されます。

### システム勘定科目

次の勘定科目は、アプリケーションの作成時にデフォルトで提供されます。

- FCCS\_CSTATUS - システムが使用する計算ステータスの値が保管されます
- FCCS\_CSTATUS FILTER - データ・フォームに表示する計算ステータスのテキストが保管されます。

### 損益計算書勘定科目

勘定科目ディメンションは、損益計算書に事前に作成された階層を提供します。階層には、組込みの計算で使用されるシステム・メンバーがシードされます。子メンバーを親メンバーに追加する、または追加の兄弟メンバーをシード・メンバーに追加することができます。

損益計算書は、自己資本の現在の利益剰余金勘定科目内の階層として作成されます。

### 貸借対照表勘定科目

勘定科目ディメンションは、貸借対照表に事前に作成された初期階層を提供します。階層には、組込みの計算で使用されるメンバーがシードされます。

アプリケーションを最初に作成する際、次の 3 種類の貸借対照表様式から選択できます：

- 「従来」様式(資産 = 負債 + 自己資本)
- 「純資産」様式(資産 - 負債 = 自己資本)
- 「基本」様式(資産 - 負債 - 自己資本 = 貸借対照表合計)

従来様式と純資産様式には、最も一般的な 2 つの構造でフォーマットされた、よく使用される勘定科目が含まれます。

基本様式には、システム勘定科目計算/移入に必要な勘定科目のみが含まれます。

貸借対照表および損益計算書のすべての勘定科目に「フロー」勘定科目タイプが割り当てられている必要があります。これらすべての勘定科目で、期首残高が計算されていること、および期間の変化を反映するための増減メンバーが関連付けられていることが必要です。FCCS システム・ルールによって、フロー・タイプの勘定科目すべてに期首残高増減メンバーが移入されます。増減を参照してください。

従来および純資産のシード済勘定科目ディメンションには、動的計算として定義されたレベル 0 のメンバーが含まれます。これらのメンバーには、子として追加された 1 つ以上のメンバーが含まれる必要があります。

- FCCS\_Cash And Cash Equivalentents
- FCCS\_Acct Receivable
- FCCS\_Inventories
- FCCS\_Fixed Assets
- FCCS\_Other Long Term Assets
- FCCS\_Acct Payable
- FCCS\_Long Term Liabilities
- FCCS\_Other Equity



- FCCS\_Sales
- FCCS\_Cost of Sales
- FCCS\_Operating Expenses
- FCCS\_Provision for Income Tax

前述のメンバーごとに、次のプロパティを持つブレースホルダ(ダミー)勘定科目メンバーを追加する必要があります。

- データ・ストレージ・デフォルト = 保管
- データ・ストレージ連結 = 保管
- 集計演算子 = なし

### 取得時換算勘定

取得時換算勘定グループには、履歴オーバーライド勘定とみなされる勘定科目が含まれます。取得時換算勘定は、現在の期間の期末レートで換算されるのではなく、一定期間の増減の加重平均で換算されます。オーバーライド勘定は、換算用のレート・オーバーライドまたは金額オーバーライドとして指定されます。オーバーライド勘定では、デフォルトの換算を上書きするレートまたは金額を入力できます。これらの履歴オーバーライド勘定は、プライマリ・メンバーに対して選択されている為替レート・タイプに基づいて、取得時換算勘定グループに共有メンバーとして作成されます。選択したアプリケーション作成の設定によっては、シードされた履歴オーバーライド勘定が存在しない可能性があるため、当初、この階層にあるのはブレースホルダ勘定科目のみの場合があります。ブレースホルダ勘定科目は、親勘定科目が親勘定科目として扱われることを保証するために移入される基本メンバーであり、基本勘定科目に間違えられることはありません。FCCS\_Investment In Sub は、オプションのシード済レート・オーバーライド勘定の例です。

勘定科目が取得時換算勘定で、オーバーライド(FCCS\_Retained Earnings Prior など)が含まれない場合は、取得時換算勘定階層に含まれません。

勘定科目が履歴オーバーライド勘定であることを指定するには、履歴レート・オーバーライドまたは履歴金額オーバーライドを為替レート・タイプとして割り当てる必要があります。

取得時換算勘定に金額オーバーライドまたはレート・オーバーライドを指定すると、換算には、勘定科目に適用可能な上書きエントリが使用されます。上書きレートまたは金額を入力しない場合、履歴オーバーライド勘定はデフォルトの換算に指定されているレートを使用して換算されます。これにより、取得時換算(非オーバーライド)勘定と同じ換算結果が得られます。

取得時換算勘定階層からは「Override Rates」という名前の事前作成済のシステム・フォームが生成され、各通貨のエンティティごとに上書き金額または上書きレートを入力できるようになります。[事前定義済フォーム](#)を参照してください。

### 比率勘定科目

アプリケーションの作成時にこのオプションを有効にすると、比率勘定科目が、別の勘定科目階層の下に作成されます。勘定科目には、計算に関連付けられているすべてのメンバー式も作成されます。また、独自の比率勘定科目を作成することも可能です。

### 会社間勘定

会社間勘定を標準システム消去に使用する場合は、消去に使用する調整勘定を選択するだけでなく、会社間勘定として識別するための属性値も割り当てる必要があります。



調整勘定として選択する勘定科目は、最初に調整勘定属性を選択して調整勘定に指定する必要があります。

### 勘定科目の階層順序

「貸借対照表」グループは、FCCS\_System Account、Exchange Rates、Entered Exchange Rates および Exchange Rates System Members 階層の下の最初の階層であることが必要です。

勘定科目ディメンションに追加階層を追加して、共有の貸借対照表勘定科目や必要なその他の勘定科目を含めることができます。たとえば、シード済の貸借対照表の現金および非現金階層は、貸借対照表勘定科目の共有コピーが含まれる追加階層です。

#### ノート:

ベスト・プラクティスとしては、階層の深さを 20 レベルに制限することをお勧めします。

作成する貸借対照表の追加階層はすべて、FCCS\_Total Balance Sheet - Cash and NonCash の後に作成する必要があります。

収益勘定科目の代替階層はすべて、「損益計算書」グループに配置できます。

## 勘定科目タイプ

各勘定科目は、その勘定科目の会計的な性質を表す勘定科目タイプに関連付けられています。

各勘定科目は、フローまたは残高として分類されます。フロー勘定科目タイプは、時間経過に従って累計されます。残高勘定科目タイプは、特定の期間の残高を表すため、時間経過に従って集約されません。

- フロー勘定科目タイプ: 収益、費用
- 残高勘定科目タイプ: 資産、負債、資本

**表 11-5 勘定科目タイプ**

勘定科目タイプ	説明
費用	収益を生むために会社に発生するコスト。費用の例は、売上コスト、給与費用、出張費用などです。
収益	商品やサービスの販売の結果として得られた利益。収益の例は、商業販売、固定資産販売による利益などです。
資産	経済価値を持つ資源であり、時間経過に従ってここから利益が発生することを会社は期待します。資産の例は、在庫、固定資産、売掛金、前払保険料などです。
負債	営業活動の結果として会社が第三者に負っている法的な負債および債務。負債の例は、買掛金、未払給与、支払手形などです。
資本	会社の所有価値であり、すべての債務が返済された後に残る資産の額に相当します。資本勘定科目の例は、普通株式、優先株式、利益剰余金などです。

表 11-5 (続き) 勘定科目タイプ

勘定科目タイプ	説明
保存された仮定	統計分析およびレポート目的で会社で使用される財務以外の項目。この例は、面積と人数、販売ユニット数、走行距離、入院患者などです。

必要に応じて、勘定科目ディメンションのシード済メンバーの勘定科目タイプを変更してカスタマイズできます。変更できるのは、連結キューブのメンバーのみです。変更した後、メタデータ検証を実行して変更が有効であることを確認します。

シード済メンバーに変更を加えた場合、ディメンション・エクスポート CSV ファイルを使用してそのメンバーをエクスポートまたはインポートすることはできません。モジュール・カスタマイズの移行アーティファクトを使用する必要があります。CSV ファイルをエクスポートしてからインポートすると、シード済メンバーに対する属性の変更は保持されません。

## タイム・バランス・プロパティ

タイム・バランス・プロパティでは、システムによるサマリー期間の値の計算方法を指定します。

表 11-6 タイム・バランス・プロパティ

タイム・バランス・プロパティ	説明	例
フロー	期間合計としてのサマリー期間のすべての値の集約。	1月: 10 2月: 15 3月: 20 Q1: 45
残高	期間合計としてのサマリー期間の最後の値。	1月: 10 2月: 15 3月: 20 Q1: 20

## 勘定科目タイプのサマリーとタイム・バランス

各勘定科目は 1 つの勘定科目タイプに関連付けられ、フローまたは残高のタイム・バランスとして分類されます。フロー勘定科目は、関連付けられた増減エントリの集約を通じて、時間経過に従って累計されます。残高勘定科目は、特定の期末の残高を表すため、時間経過に従って集約されません。

表 11-7 勘定科目タイプのサマリーとタイム・バランス

勘定科目タイプ	貸借対照表階層内の勘定科目のタイム・バランス	貸借対照表階層外の勘定科目のタイム・バランス	差異レポート
収益	フロー	ユーザー定義	費用外
費用	フロー	ユーザー定義	費用
資産	フロー	ユーザー定義	費用外
負債	フロー	ユーザー定義	費用外
資本	フロー	ユーザー定義	費用外
保存された仮定	フロー	ユーザー定義	ユーザー定義

フロー勘定科目の期首残高メンバーは、前期間の期末残高として計算されます。期末残高は、期首残高とその期間の全増減金額の集約です。残高勘定科目では期首残高は計算されません。

## 集約(集計演算子)

集約(集計演算子)により、子勘定科目を親勘定科目に集約する方法が決まります。このメタデータ集約プロパティは勘定科目タイプに依存せず、勘定科目からは独立していますが、表 10-8 に示す集約ロジックを適用するには、関係が必要であることに注意してください。

[集約オプション](#)を参照してください。

### ノート:

Financial Consolidation and Close には、別のエンティティへのエンティティの連結を実行する連結スクリプトが用意されています。エンティティに対する集計演算子を変更しないでください。この「エンティティ」プロパティが「無視」以外の場合、結果は正しくなりません。

次の表は、貸借が一致した貸借対照表階層内で特定のタイプの親勘定科目に合計された場合に、各勘定科目タイプがどのように動作するかを示しています。たとえば、集約時に、資産勘定科目の値は親の資産勘定科目および費用勘定科目に集約され、親の負債勘定科目および収益勘定科目から減算されます。

表 11-8 子勘定科目と親勘定科目の間で必要な集約(集計演算子)

勘定科目タイプ	親勘定科目				
子勘定科目	資産	負債	資本	収益	費用
資産	加算	減算	減算	減算	加算
負債	減算	加算	加算	加算	減算
資本	減算	加算	加算	加算	減算
収益	減算	加算	加算	加算	減算
費用	加算	減算	減算	減算	加算
保存された仮定	加算	加算	加算	加算	加算

保存された仮定勘定科目は財務以外の勘定科目なので、貸借が一致した貸借対照表内では使用できません。保存された仮定勘定科目は、必要に応じてそれぞれの親勘定科目に集約する場合に、加算または減算できます。

この例では、異なる勘定科目タイプが親勘定科目にどのように集約されるかを示しています。

```

Total Assets 80
├ Fixed Assets 100
└ Amortization 20
    
```

この例では、Total Assets は資産勘定科目で、Fixed Assets (資産勘定科目)と Amortization (負債勘定科目)の親です。これらの勘定科目が親勘定科目に集約される際に、Fixed Assets 値 100 が加算され、Amortization 値 20 が減算され、Total Assets の結果値は 80 になります。

## デフォルトの勘定科目タイプおよび集計演算子設定の変更

Financial Consolidation and Close のデフォルト構成では、資産および費用の場合、正の値は DR を表し、負の値は CR を表すと想定しています。収益、負債および資本の場合、正の値は CR を表し、負の値は DR を表します。これは、勘定科目の標準記号です。システムでは、多くのシステム計算で勘定科目タイプと集計演算子の組合せを使用することで、様々なクライアント構成要件で確実に集約が正しく実行されるようにします。仕訳の転記(DR エントリと CR エントリの正または負の値への割当て)も、勘定科目タイプ・エントリに依存します。表 10-8 は、シード済勘定科目に適用されるデフォルト設定を示しています。

勘定科目に関係なく、正の値が常に DR で負の値が常に CR であるデータをロードするには(G/L 抽出など)、勘定科目タイプと集計演算子の両方を変更する必要があります。したがって、すべての収益勘定科目を費用勘定科目タイプに変更し、すべての負債勘定科目と資本勘定科目を資産勘定科目タイプに変更します。次に、すべての集計演算子を加算に変更します。整合性を保つために、シード・メンバーを含む親勘定科目も変更する必要があります。その後、メタデータの検証を再度実行して、すべての設定に整合性があり、システム計算に不備がないことを確認します。

## 勘定科目タイプと差異レポート

勘定科目の差異レポートのプロパティにより、メンバー式に使用されるときに費用として扱われているかどうかのように決定されます:

- 費用: 実績値は予算値から引かれて、差異が計算されます。
- 費用外: 予算値は実績値から引かれて、差異が計算されます。

例:

- ある期間の費用の予算策定を行うとき、実績費用が予算を下回る必要があります。実績費用が予算費用を上回ると、差異は負数になります。たとえば、予算費用が\$100 で、実績費用が\$110 である場合、差異は-10 です。
- 費用外のアイテム(たとえば売上など)の予算策定を行う場合は、実績売上が予算を上回る必要があります。売上の実績が予算を下回ると、差異は負数になります。たとえば、売上の予算が\$100 で、売上の実績が\$110 である場合、差異は 10 です。

## 保存された仮定

保存された仮定を使用して、タイム・バランスと差異レポートのプロパティを選択することで、主要な財務以外のビジネス・ドライバを識別し、アプリケーションの一貫性を確保します。

- 差異レポートでは、費用または費用外について、予算データと実際のデータ間の差異を判別します。
- タイム・バランスにより、サマリー期間の末尾の値が決定されます。

次に、タイム・バランスと差異レポートのプロパティが保存された仮定勘定科目メンバーでどう使用されるかについて例を示します。

- 従業員数の実績が予算の数を下回るものと仮定して、差異レポートで使用する費用タイプの保存された仮定を作成します。システムでは、予算金額から実際の金額が差し引かれて差異が決定されます。
- 期間の最終時点で売上ユニットの数を仮定します。期間中に売ったユニット数を集約して、サマリー期間の最後の数量を決定します。

## データ型と為替レート・タイプ

データ型によって、勘定科目メンバーへの値の保管方法と、値の計算に使用される為替レートが決定されます。勘定科目メンバーの値に使用可能なデータ型は次のとおりです。

- 通貨 - デフォルト通貨で保管および表示。
- 通貨以外 - 数値として保管および表示。
- パーセンテージ - パーセントとして数値を保管および表示。
- 日付 - 日付として表示。
- テキスト - テキストとして表示。

次は、通貨データ型を持つ勘定科目の為替レート・タイプです。

- レートなし - 換算済データの期末残高は、期首残高および増減における外国為替変動を計算して、期末レート換算にあわせて調整されます。
- 履歴 - 外国為替の正味変動額を含まない、換算増減の加重平均として累計された期末残高。外国為替変動は計算されますが、その後で累積換算調整/換算時の未実現損益に転送されます。
- 履歴金額オーバーライド - 上書き金額を入力でき、入力がないとその勘定科目は取得時換算勘定として扱われます。
- 履歴レート・オーバーライド - 上書きレートを入力でき、入力がないとその勘定科目は取得時換算勘定として扱われます。

## 勘定科目プロパティの定義

勘定科目のプロパティ (勘定科目タイプ、データ型、会社間勘定かどうかなど) を定義します。

会社間勘定については、[勘定属性の値の設定](#)を参照してください。

勘定科目プロパティを定義するには:


1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「ディメンション」リストから、「勘定科目」を選択します。
4. 「アクション」を選択してから、「子の追加」または「兄弟の追加」を選択します。
5. 「メンバーのプロパティ」タブで、勘定科目プロパティを入力します。

表 11-9 勘定科目プロパティ

プロパティ	説明
名前	ディメンション・メンバー全体で一意である名前を入力します。
説明	<b>オプション:</b> 説明を入力します。
別名表	<b>オプション:</b> 別名表を選択し、別名を保管します。
別名	<b>オプション:</b> メンバーの代替名を入力します。

表 11-9 (続き) 勘定科目プロパティ

プロパティ	説明
勘定科目タイプ	勘定科目タイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>費用</li> <li>収益</li> <li>資産</li> <li>負債</li> <li>資本</li> <li>保存された仮定</li> </ul> <b>勘定科目タイプ</b> を参照してください。
差異レポート	オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>費用</li> <li>費用外</li> </ul> <b>勘定科目タイプと差異レポート</b> を参照してください。
タイム・バランス	システムによるサマリー期間の値の計算方法を指定します。 <b>タイム・バランス・プロパティ</b> を参照してください。
為替レート・タイプ	財務勘定の換算オプションを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>履歴</li> <li>履歴金額オーバーライド</li> <li>履歴レート・オーバーライド</li> <li>レートなし(取得時換算勘定以外の場合)</li> </ul> デフォルトでは、フロー勘定科目には「平均レート」が、残高勘定科目には「期末レート」が使用されます。デフォルト設定は変更できます。
ソース・キューブ データ・ストレージ	メンバーのソース・キューブを指定します。 <b>データ・ストレージ・オプション</b> を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>保管</li> <li>動的計算</li> <li>共有しない</li> <li>共有</li> <li>ラベルのみ</li> </ul> <b>データ・ストレージ・オプション</b> を参照してください。
2パス計算	親メンバーまたは他のメンバーの値に基づいてメンバーの値を計算するかどうかを選択します。
上位レベルのエンティティ 入力を許可	親エンティティの入力をこの勘定科目に対して許可するかどうかを指定します。 ローカル・レート勘定科目を作成してデータベースをリフレッシュすると、この属性が自動的に有効になり、シードされた <b>ローカル為替レート・フォーム</b> で、基本または親エンティティのローカル・レート・データを入力できます。
プラン・タイプ	メンバーが有効となるアプリケーション・タイプを示します。

表 11-9 (続き) 勘定科目プロパティ

プロパティ	説明
データ型	データ型を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>未指定</li> <li>通貨</li> <li>通貨以外</li> <li>パーセンテージ</li> <li>日付</li> <li>テキスト</li> <li>スマート・リスト</li> </ul> データ型と為替レート・タイプを参照してください。
スマート・リスト	<b>オプション:</b> メンバーに関連付けるスマート・リストを選択します。
動的な子に対して使用可能	いいえ
使用可能な動的な子の数	10
メンバー作成者に付与されたアクセス権	<b>継承</b> - メンバー作成者は、新しく作成したメンバーに対する最も近い親のアクセス権を継承します。

## 勘定属性の値の設定

### 会社間勘定属性の指定

会社間勘定属性はレベル 0 勘定科目の「属性値」タブで指定します。これらの設定は、親勘定科目には適用されないことに注意してください。

会社間勘定プロパティを「はい」に設定する場合、調整勘定を指定する必要があります。

会社間勘定属性を設定するには:

1. 既存のレベル 0 勘定科目メンバーを選択して「編集」をクリックし、「属性値」タブを選択します。
2. 次の情報を入力します:

表 11-10 会社間勘定属性

属性	説明
会社間勘定	勘定科目が会社間勘定であるかどうかを指定します。「はい」に設定した場合、消去を実行するには、この勘定科目にレベル 0 調整勘定も指定する必要があります。 <b>ノート:</b> このオプションは、アプリケーションで会社間が有効な場合にのみ使用できます。
調整勘定である	このレベル 0 勘定科目が調整勘定になるかどうかを指定します。



表 11-10 (続き) 会社間勘定属性

属性	説明
調整勘定	会社間が「はい」に設定された勘定科目で、調整勘定が設定されていない場合、調整勘定を指定できます。このプロパティが「はい」に設定された勘定科目は、調整勘定として選択できます。

3. 「保存」をクリックします。
4. 調整勘定を追加するには:
  - a. 勘定科目ディメンション・メンバーを選択し、「カスタム属性」ボタンを選択します。
  - b. 属性「調整勘定」を選択し、「同期」ボタンをクリックします。  
新しく追加した調整勘定が、調整勘定の「属性値」ツリーの右側にある調整勘定のリストに表示されます。

#### 包括利益累積換算調整(CICTA)勘定属性の指定

包括利益累積換算調整(CICTA)勘定属性は、レベル 0 勘定科目の「属性値」タブで指定します。これらの設定は、親勘定科目には適用されないことに注意してください。

表 11-11 包括利益累積換算調整(CICTA)勘定属性

属性	説明
CICTA 勘定科目である	この勘定科目がシードされている FCCS_CICTA 勘定科目の置換かどうかを指定します。
CICTA リダイレクション勘定科目	FX-To-CICTA 転記を、シード済 FCCS_CICTA 勘定科目以外の勘定科目にリダイレクトするには、使用する勘定科目を指定します。使用可能な勘定科目では、CICTA 勘定科目かどうかの設定(前述)が有効になります。

#### デフォルト増減勘定属性の指定

「増減の計算」システム・ルールにより、メタデータの勘定科目および増減ディメンション属性に基づいて、期末残高入力からの増減が計算されます。「連結: プロセス」画面でメタデータ属性を更新し、「増減の計算」システム・ルールを有効化すると、期末残高入力エントリにより、計算された増減金額が生成され、指定の増減に転記されます。すべてのレベル 0 勘定科目についてグローバル・デフォルト増減を選択でき、レベル 0 の各勘定科目に対して異なる増減を選択することもできます。増減の計算(期末残高入力から)を参照してください。

必須の増減ディメンション・メンバーは Default\_Mvmt\_Yes として設定されます。

デフォルト増減の 1 つをレベル 0 勘定科目に適用できます。

デフォルト増減が貸借対照表グループ・メンバー(たとえば、FCCS\_Balance Sheet)に適用されると、貸借対照表内のすべてのレベル 0 勘定科目は選択した増減を継承します(個々に独自に選択していない場合)。



## インデックス付き属性の指定

ディメンションのカスタム属性を作成する場合は、その属性がインデックス付き属性であることを指定できます。

インデックス付き属性ディメンションは、従来の属性ディメンションと同じです。これは、キューブのリフレッシュ時に属性ディメンションとしてデータベースに送信されます。密ディメンションには有効でなく、指定されたディメンションのすべての割当てが同じレベルである必要があります。

インデックス付けされていない属性ディメンションは、主としてフィルタリングに使用されるメタデータ構成要素ですが、キューブのリフレッシュ時に様々な方法でデータベース内にマテリアライズされ、通常は、接頭辞付きユーザー定義属性として使用されます。データベースに属性ディメンションとしてマテリアライズされないため、複数のレベルに割り当てたり、密ディメンションと疎ディメンションに割り当てることができます。一方で、インデックス付けされていないため、フォームにメンバーとして追加して従来のインデックス付き属性ディメンションのような動的データ値を表示することはできません。

# エンティティ・メンバーの定義

デフォルトでは、エンティティ・ディメンションには、エンティティ階層にグローバル仮定メンバーが含まれます。グローバル仮定メンバーは、通貨レートなどの情報を保管するために使用されます。これを編集したり名前を変更したりすることはできません。

システムでは、デフォルトで、地域合計メンバーも作成されます。このメンバーは、システム・フォームで使用されます。地域合計の兄弟として新しいメンバーを作成することや、その下に階層を作成することができます。次に、フォームのエンティティ・メンバー・セレクトを適切に変更する必要があります。

共有エンティティは、会社間パートナーでもあるエンティティにする必要があります。会社間パートナーであるエンティティの親を共有する場合、消去は行われません。

エンティティ・ディメンション・メンバーの属性(デフォルト通貨など)を定義します。

デフォルトでは、エンティティ・ディメンションの集計演算子は「無視」です。シード済の連結スクリプトは、1つのエンティティの他のエンティティへの連結を実行します。集計演算子プロパティが「無視」以外の場合、結果は正しくなりません。[集約\(集計演算子\)](#)を参照してください。

エンティティ・プロパティを定義するには、[メンバーの追加または編集](#)を参照してください。

### ノート:

他のディメンションと同じ方法でエンティティ・プロパティを定義します。ただし、エンティティ名には、ピリオド(.)と大カッコ([ ])の文字の組合せは使用できません。この文字の組合せは、親エンティティを示すためにシステムによって予約されています。例:

```
EN_CONS4040.[CONS4040] EN_4040_TI.[CONS4050]
```

ピリオド(.)または大カッコ([ ])は個別に使用できますが、エンティティ・メンバー名で連続して組み合わせることはできません。

## エンティティの会社間プロパティ

エンティティ・メンバーについて、そのメンバーに会社間の詳細を保管するかどうかを指定します。エンティティ・メンバーの会社間プロパティを設定すると、同じ名前のメンバーが ICP\_<Entity Name> という名前で会社間ディメンションに作成されます。新しいメンバーのデフォルト別名表の別名が、エンティティの別名として自動的に設定されます。別名が定義されていない場合、追加されたエンティティの名前が自動的に設定されます。

たとえば、UK という名前のエンティティが会社間としてマークされると、ICP\_UK という名前のメンバーが自動的に作成されます。UK に別名が定義されている場合、同じ別名が、新しい会社間メンバーの ICP\_UK に対して自動的に設定されます。UK に別名が定義されていない場合、別名は自動的に UK に設定されます。

## 基本通貨

複数通貨アプリケーションの場合、各エンティティ・メンバーの基本通貨を指定します。エンティティ・メンバーのデフォルトの基本通貨は、アプリケーション作成時に指定された通貨です。たとえば、米国ドルがデフォルト通貨の場合でも、基本通貨として日本のエンティティには円を、米国のエンティティには米国ドルを指定できます。日本のエンティティの値を持つフォームを使用する際、表示する通貨が米国ドルに設定されている場合、為替レート表内のレートを使用して、値は米国ドルに換算されます(円を現地通貨、米国ドルをレポートの通貨と仮定)。

## 代替階層の作成

エンティティ・ディメンションで、単一のエンティティに複数の親を含めることができ、親ごとに異なる動作をする代替階層を作成できます。親メンバーは異なる通貨を使用可能で、親の通貨メンバーで発生する換算は、これらのエンティティでは異なります。これを実現するため、エンティティのすべてのインスタンス間で入力データの一部のみが共有される部分共有メンバーを使用します。

次の例は、複数の親を持つリーフレベル・エンティティを示しています。

P1		
	P11	
		E111
		E112
	P13	
		E113
P2		
	P12	
		E111
		E113
	P14	
		E112

この例では:

- エンティティ E111 は、P11 と P12 の両方の子です。

- P11 または P12 で E111 として入力された入力データは、保存後に他方のエンティティにレプリケートされます。P11.E111 メンバーと P12.E111 メンバーのどちらでもデータを入力できます。
- 連結後の P11.E111 と P12.E111 の計算値は、異なることがあります。たとえば、アプリケーションが複数通貨のアプリケーションであるとして (E111 の通貨が GBP)。P11 の通貨は USD で、P12 の通貨は EUR です。データを E111 に入力すると、そのデータは常に通貨ディメンションのエンティティ 通貨メンバーに入力されます。親通貨メンバーが計算されますが、GBP と USD 間、および GBP と EUR 間の為替レートは異なることがあるため、P11.E111 と P12.E111 の親通貨の値は異なります。

親レベルのエンティティに複数の親が含まれるエンティティ 階層を作成することもできます。ただし、異なる子を持つ複数の親が親レベルに含まれる階層は、サポートされません。

代替階層を作成するには、部分共有エンティティ・メンバーを作成し、データ・ストレージ・メンバー・プロパティとして「共有」を選択します。[共有メンバーの作成](#)を参照してください。

共有階層を使用してレポート・ニーズに対応できますが、共有階層の数によってデータベースのサイズと連結時間が増加するため、パフォーマンスに影響します。

ベスト・プラクティス:

- 代替階層の最上位メンバーには、値の重複を回避するために、集計演算子を「無視」に設定する必要があります。
- 共有メンバーは、階層で非共有メンバーの後に追加する必要があります。
- 代替階層は、期末残高の外部で許可されますが、合計増減にロールアップする必要があります。

「メンバーの選択」で、親と子の関係を参照できます。エンティティを選択すると、「メンバーの選択」にそれが Parent.Child のように表示されます (North America.USA など)。次に、適切なエンティティを選択したり、エンティティに複数の親が含まれる場合は、異なる親に属するエンティティの各項目を選択したりできます。

トランザクション・データを入力する場合、プライマリ・メンバーまたは共有メンバーに対して 1 回のみデータを入力する必要があります。

データ・フォームにデータを 1 回入力することもできます。たとえば、E111 が、2 つの親 (E11 と E12) を持つ部分共有エンティティであるとして。データ・フォームで、E11.E111 に 100 の金額を入力して保存すると、その 100 がすぐに E12.E111 に表示されます。E12.E111 の金額を 150 に変更して保存すると、同じ金額が E11.E111 に反映されます。データ・フォームで、Parent.Child としてエンティティ・ディメンションのメンバーを表示するかどうかと、その通貨を表示するかどうかを選択できます。[フォーム・ディメンション・プロパティの設定](#)を参照してください。

データをエクスポートすると、同じデータが部分共有エンティティでもエクスポートされ、そのデータは Parent.Child 形式でエクスポートされます。データ・ファイルの部分共有エンティティの一方にデータをインポートすると、そのデータは他方にもインポートされます。

仕訳の入力が部分共有エンティティの 1 つに転記されると、その値はそのエンティティのすべてのインスタンスに転記されます。

計算またはプロセス管理ステータスの変更につながる一方の部分共有エンティティに対する変更は、そのエンティティの他方のインスタンスにすべて反映されます。たとえば、一方のインスタンスが連結されてそのステータスが「OK」に変更されると、他方のインスタンスのステータスも「OK」に変更されます。同じルールが部分共有エンティティのロックとロック解除に適用されます。

エンティティに対して定義されたセキュリティおよび有効交差ルールも、その部分共有インスタンスに適用されます。

代替階層について学習するには、次のビデオをご覧ください。



エンティティの代替階層の構成

## Financial Consolidation and Close のデータ・モデルの概要

Financial Consolidation and Close のデータ・モデルは、基本ルール(期首残高 = 前期間の期末残高など)を勘定科目別に適用することから開始されます。

このルールは、複数の特定のインスタンスで貸借が一致する方法で修正されます。

- 年度の最初の期間: (利益剰余金合計/Closing Balance/前期間)は、前利益剰余金/期首残高に繰り越されます。

この結果、利益剰余金合計の基本メンバーの期首残高がなくなります。

- 期間 2~12/13: 純利益(または出資比率機能が有効である場合は所有者の利益)/期末残高/前期間は、FCCS\_REC OBFXCTA に繰り越されます。

この結果、純利益(所有者の利益)の基本メンバーの期首残高がなくなります。

- すべての期間: 他の合計包括利益/期末残高/前期間は、収益および費用タイプの勘定科目に対する FCCS\_OR\_OBFXCICTA/期首残高に繰り越されます。

この結果、他の合計包括利益の収益/費用基本メンバーの期首残高がなくなります(他の資産/負債/資本勘定科目では、期末残高から期首残高への勘定科目別の繰越しが行われます)。

このため、他の合計包括利益換算内では、期末残高から期首残高への繰越しの観点から勘定科目を処理するために想定する方法に基づいて、適切な勘定科目タイプ設定を使用して勘定科目を追加できます。収益および費用は 1 つの単一勘定科目 (FCCS\_OR\_OBFXCICTA)に繰り越されますが、残りの勘定科目は勘定科目別に繰り越されます。資産/負債/資本が使用され、(勘定科目/増減ディメンション全体にわたってデータのマトリックスを作成して)階層内に親/小計勘定科目を作成してグループを構成する場合、勘定科目メンバーと増減メンバーの組合せにより、必要なレポートの任意のバリエーションを実現できます。

増減メンバー:

- FCCS\_TotalOpeningBalance — 期首残高(現在の期間に転記された前期間の調整を含む)を提供します
- FCCS\_Mvmts\_Total — 現在のレポート期間の変更を提供します(FX 計算の正味の影響を含む)
- FCCS\_ClosingBalance — 独自の期首残高を持つすべての勘定科目の累計残高を提供します

すべての勘定科目で FX 期首および FX 増減が計算されます(ただし、純利益/合計包括利益階層内の収益および費用勘定科目の OBFXCTA/OBFXCICTA に書き込まれます)。履歴のフラグが付けられた任意の勘定(履歴、履歴レート・オーバーライド、履歴金額オーバーライド)について、FX が計算されますが、その後、累積換算調整(CTA)または

包括利益累積換算調整(CICTA)勘定科目に転送されます。純利益/合計包括利益階層内の収益および費用勘定科目は、履歴勘定科目であること、平均レートで換算されること、および CTA/CICTA に転送された任意の FX バリエーション計算が含まれることを前提としていることに注意してください。これらの勘定科目に対するメタデータ・レート・タイプ・エントリは無視され、デフォルトのレートなしエントリのままにすることができます。

これらの FX 計算は、関連する増減を表示することによって表示できます。

- FCCS\_Mvmts\_FX\_Opening
- FCCS\_Mvmts\_FX\_Movement
- FCCS\_Mvmts\_FX\_to\_CTA
- FCCS\_Mvmts\_FX\_to\_CICTA

### ノート:

FCCS\_FX メンバーは計算用に予約されており、これらのメンバーには仕訳を直接転記しないことをお勧めします。

非履歴勘定科目の期末残高は、FX 期首および FX 増減計算によって期末レート換算に提供されます。換算通貨でのすべての履歴勘定科目の期末残高は、期間別に平均レートで換算された定期的増減の加重平均になります。FX 期首および FX 増減は、これらの勘定科目で計算されます(これにより、B/S の貸借が引き続き一致していることを確認します)が、その後、CTA/CICTA 勘定科目に転送されます。B/S 全体にわたる FX-to-CTA/FX-to-CICTA システム・エントリの合計(つまり、最上位の B/S 勘定科目に表示される合計)は、ゼロになる必要があります。

## メンバーの操作

メンバーと追加と編集、メンバーへのアクセス権の割当て、ディメンション・メンバー階層の再編成が可能です。

パフォーマンスを最適化するために、Financial Consolidation and Close Cloud では、各ディメンションで使用できるディメンション・メンバーの最大数が制限されています。Financial Consolidation and Close Cloud では、準拠していないメタデータは保存できず、使用可能なディメンション・メンバー数を越えたことを示すエラー・メッセージが表示されます。

次のトピックを参照してください。

- [シード済ディメンション・メンバー](#)
- [メンバーの追加または編集](#)
- [メンバーの削除](#)
- [親メンバーの削除](#)
- [共有メンバーの操作](#)
- [共有メンバーの作成](#)

## シード済ディメンション・メンバー

柔軟なアプリケーション構成に対応できるように、各ディメンションにはメンバーがシードされます。シード済メンバーは、FCCS\_IncomeStatement または FCCS\_TotalAssets など、FCCS という接頭辞付きで作成されます。

- ▶ FCCS\_Total Assets
- ▲ FCCS\_Total Liabilities and Equity
  - ▶ FCCS\_Total Liabilities
  - ▶ FCCS\_Total Equity

システムには、組込みの計算も含まれます。[組込みの計算](#)を参照してください。

### シード・メンバーのガイドライン

変更または削除できない特定のプロパティがあります：

- シード済メンバーは削除できません。
- シード済メンバー名は変更できません。
- メンバー・プロパティは変更できません。
- 組込みのメンバー式は変更できません。

次のプロパティを変更できます：

- メンバーの別名を変更できます。
- 必要に応じて、勘定科目ディメンションのシード済メンバーの勘定科目タイプを変更してカスタマイズできます。  
勘定科目における為替レート・タイプは変更できます。

### シード済ベース・メンバーへの子の追加

勘定科目、データ・ソース、増減および MultiGAAP (使用する場合)の各ディメンションには、FCCS\_seeded メンバーがあります。

- これらのメンバーで「データ・ストレージ」のプロパティが「動的」の場合、それに子を追加できます。
- 「データ・ストレージ」のプロパティが「保管」または「共有しない」の場合、子は追加できません。

[データ・ストレージ・オプション](#)を参照してください。

### ディメンションにおけるシード・メンバーの移動

シード・メンバーのすべては使用する必要がない場合、適宜ユーザー固有のメンバーを作成する必要があります。シード・メンバーに対して追加の親を作成する場合、代替階層を作成できます。シード・メンバーを新しい親メンバーに移動できます。

親メンバーの下でシード・メンバーの順序を変更できます。たとえば、次の例は FCCS\_Operating Income のデフォルト順序で、次のシード・メンバーしかありません。



```
FCCS_Operating Income
FCCS_Gross Profit
FCCS_Operating Expenses
```

Other Operating Income 勘定科目を追加する場合は、2 つのシード・メンバー間に配置できます。

```
FCCS_Operating Income
FCCS_Gross Profit
FCCS_Operating Expenses
```

### シード勘定科目メンバーの再配置

Financial Consolidation and Close には、(親と基本の両方の)約 60 の勘定科目で成り立つ、シード済の貸借対照表および損益計算書構造があります。要件に応じてシード済階層の構造を変更し、他の親メンバーおよび基本メンバーを追加できます。

次のガイドラインが適用されます。

- シード済勘定科目のメンバー名は変更できませんが、別名は変更できます。別個の勘定科目の説明のために、追加の別名テーブルを追加できます。データは、別名およびメンバー名で(メンバー・セレクトで)ロード、表示および検索できます。
- 様々なレポートのニーズに応じて、複数の代替階層を作成できます。これらの代替階層には、プライマリ階層内のすべての基本メンバーを含める必要がありますが、その編成は変更できます。
- シード済勘定科目階層が無視されると、様々なシステム計算やシードされた計算が喪失することに注意してください。多くの計算は、勘定科目構造に依存するシステムに組み込まれています。少なくとも次の計算はシード済勘定科目メンバーに依存し、適用されます。
  - 繰越利益剰余金期首残高への前期の利益剰余金期末残高の年度末振替
  - FCCS\_REC\_OBFXCTA 期首残高への損益計算書期末残高の期末振替
  - FCCS\_OR\_OBFXCICTA へのその他包括利益(収益/費用)の期末振替
  - 貸借対照表の残高(無効化できます)
  - 累積換算調整(CTA)または包括利益累積換算調整(CICTA)への外国為替(FX)の転送
  - シード済連結ルール(デプロイ解除/無効化できます)

#### ノート:

構造をレポートのために使用するかどうかに関係なく、シード済勘定科目構造にすべての基本勘定科目が含まれていることを確認してください。

動的計算の親を持つディメンションの勘定科目構造を変更すると履歴データに不要な変更が生じる可能性があることを認識している場合は、構造を変更しないでください。ただし、集約/計算を変更して新しい階層を反映する必要がある場合は、エンティティをロック解除し、再連結して、再ロックする必要があります。履歴はそのまま変更せずに、今後のデータに対して新しい集約/計算を使用する場合は、代替階層を作成して両方のバリエーションを用意し、

必要に応じてそれぞれのルールを変更(時間指定)し、再連結する必要があります(該当する場合)。

シード済勘定科目の属性の変更の詳細は、次のチュートリアルをご覧ください。



## Financial Consolidation and Close でのシード済勘定科目の属性の変更

### 更新後におけるカスタマイズした変更の保持

シード済勘定科目階層に変更を加えた場合、つまりシード・メンバーの順序を変更した場合、コンテンツ更新を実行すると、それらの変更はリセットされます。

ただし、更新または「機能を使用可能にする」プロセスの後に毎回、シード・メンバーの順序を手動で変更しなくても済むように、変更を保持できます。カスタマイズしたディメンション順序を保持するには、isExportDimEnabled という名前の代替変数を追加し、値を **True** に設定する必要があります。

### メタデータ・アウトラインの復元

ディメンション・メンバーの順序を変更すると、一部のメンバーの順序の修正が必要になる場合があります。たとえば、追加の子メンバーが許可されないメンバーの下に子メンバーを移動した場合です。復元機能を使用して、アウトラインを復元できます。

メタデータ・アウトラインを復元するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」に移動して、「構成」を選択します。
2. 「アクション」をクリックして、「変更されたアーティファクトの確認」を選択します。
3. 「フィルタ」をクリックし、ドロップダウンから「ディメンション」を選択して、「適用」をクリックします。
4. 「ディメンション」ドロップダウン・リストから、変更するディメンションを選択します。
5. 移動するメンバー(1 つまたは複数)を選択します。
6. 関連するディメンション・メンバーの右側にある「プロパティ」チェック・ボックスを選択します。
7. 「復元」ボタンをクリックします。
8. メンバーが正しく移動されていることを確認します。
9. データベース・リフレッシュ・プロセスを実行します。

### 必須の基本貸借対照表メンバー

拡張ディメンション・アプリケーションを作成している場合は、アプリケーションの作成時に「基本」勘定科目レポート・オプションを選択できます。このオプションでは、有効にした機能およびシード・フォームの最小セットに基づいて、勘定科目および増減ディメンション・メンバーの必須の最小セットについて単純化された階層を提供します。

### 初期の必須貸借対照表勘定科目メンバー



```

FCCS_Balance Sheet
  |__ FCCS_Total Balance Sheet
    |__ FCCS_Total Assets
    |__ FCCS_Total Liabilities
    |  |__ FCCS_Balance
    |__ FCCS_Total Equity
      |__ FCCS_Retained Earnings
        |__ FCCS_Retained Earnings Prior
        |__ FCCS_Retained Earnings Current
          |__ FCCS_REC OBFXCTA
          |__ FCCS_Net Income
  
```

### 複数通貨を有効にした貸借対照表勘定科目メンバー

複数通貨オプションを有効にすると、通貨関連の次の階層が追加されます。

#### Exchange Rates

```

  |__ FX Rates - Average
  |__ FX Rates - Ending
  
```

#### Entered Exchange Rates

```

  |__ Average Rate
  |__ Ending Rate
  
```

#### Exchange Rate System Members

```

  |__ SrcAverageRate
  |__ TgtAverageRate
  |__ SrcEndingRate
  |__ TgtEndingRate
  
```

#### FCCS\_Historical Accounts

```

  |__ FCCS_Rate Override Accounts
    |  |__ FCCS_RateOverride_Placeholder_Account
  |__ FCCS_Amount Override Accounts
    |  |__ FCCS_AmountOverride_Placeholder_Account
  
```

### 累積換算調整(CTA)を有効にした貸借対照表勘定科目

```

FCCS_Balance Sheet
  |__ FCCS_Total Balance Sheet
    |__ FCCS_Total Assets
    |__ FCCS_Total Liabilities
    |  |__ FCCS_Balance
    |__ FCCS_Total Equity
      |__ FCCS_Retained Earnings
        |__ FCCS_Retained Earnings Prior
        |__ FCCS_Retained Earnings Current
          |__ FCCS_REC OBFXCTA
          |__ FCCS_Net Income
          |__ FCCS_CTA
  
```

### 包括利益累積換算調整(CICTA)を有効にした勘定科目

```

FCCS_Balance Sheet
├─ FCCS_Total Balance Sheet
│   ├─ FCCS_Total Assets
│   └─ FCCS_Total Liabilities
│       └─ FCCS_Balance
│           └─ FCCS_Total Equity
│               └─ FCCS_Other Reserves
│                   └─ FCCS_OR OBFXCICTA
│                       └─ FCCS_Total Other Comprehensive Income
│                           └─ FCCS_CICTA
│                               └─ FCCS_Retained Earnings
│                                   └─ FCCS_Retained Earnings Prior
│                                       └─ FCCS_Retained Earnings Current
│                                           └─ FCCS_REC OBFXCTA
│                                               └─ FCCS_Net Income

```

### 比率を有効にした貸借対照表勘定科目

比率オプションを有効にすると、選択されている比率のオプションに応じて、比率階層および関連するソース勘定科目が追加されます。

```

Liquidity Ratios
FCCS_Ratios
├─ FCCS_Liquidity Ratios
│   ├─ FCCS_Current ratio
│   └─ FCCS_Quick Ratio
│       └─ FCCS_Cash Ratio

```

```

FCCS_Balance Sheet
├─ FCCS_Total Balance Sheet
│   ├─ FCCS_Total Assets
│   │   └─ FCCS_Current Assets
│   │       └─ FCCS_Cash And Cash Equivalentents
│   │           └─ FCCS_Acct Receivable
│   └─ FCCS_Total Liabilities
│       └─ FCCS_Current Liabilities
│           └─ FCCS_Balance
│               └─ FCCS_Total Equity
│                   └─ FCCS_Retained Earnings
│                       └─ FCCS_Retained Earnings Prior
│                           └─ FCCS_Retained Earnings Current
│                               └─ FCCS_REC OBFXCTA
│                                   └─ FCCS_Net Income

```

#### Asset Management Ratios

##### FCCS\_Ratios

- |\_ FCCS\_Asset Management Ratios
  - |\_ FCCS\_Inventory Turnover
  - |\_ FCCS\_Asset Turnover
  - |\_ FCCS\_Days Sales In Receivables
  - |\_ FCCS\_Days Sales In Inventory

##### FCCS\_Balance Sheet

- |\_ FCCS\_Total Balance Sheet
  - |\_ FCCS\_Total Assets
    - | |\_ FCCS\_Current Assets
      - | | |\_ FCCS\_Acct Receivable
      - | | |\_ FCCS\_Inventories
  - |\_ FCCS\_Total Liabilities
    - | |\_ FCCS\_Balance
- |\_ FCCS\_Total Equity
  - |\_ FCCS\_Retained Earnings
    - | |\_ FCCS\_Retained Earnings Prior
    - | |\_ FCCS\_Retained Earnings Current
      - | | |\_ FCCS\_REC OBFXCTA
      - | | |\_ FCCS\_Net Income
        - | | | |\_ FCCS\_Sales
        - | | | |\_ FCCS\_Cost of Sales

#### Profitability Ratios

##### FCCS\_Ratios

- |\_ FCCS\_Profitability Ratios
  - |\_ FCCS\_Gross Profit Margin
  - |\_ FCCS\_Return On Sales
  - |\_ FCCS\_Return On Equity

##### FCCS\_Balance Sheet

- |\_ FCCS\_Total Balance Sheet
  - |\_ FCCS\_Total Assets
    - |\_ FCCS\_Total Liabilities
      - | |\_ FCCS\_Balance
  - |\_ FCCS\_Total Equity
    - |\_ FCCS\_Retained Earnings
      - | |\_ FCCS\_Retained Earnings Prior
      - | |\_ FCCS\_Retained Earnings Current
        - | | |\_ FCCS\_REC OBFXCTA
        - | | |\_ FCCS\_Net Income
          - | | | |\_ FCCS\_Gross Profit
          - | | | |\_ FCCS\_Sales

Leverage Ratios

FCCS\_Ratios

- FCCS\_Leverage Ratios
- FCCS\_Debt To Equity Ratio
- FCCS\_Debt Ratio

FCCS\_Balance Sheet

- FCCS\_Total Balance Sheet
- FCCS\_Total Assets
- FCCS\_Total Liabilities
- FCCS\_Current Liabilities
- | |  FCCS\_Balance
- FCCS\_Long Term Liabilities
- FCCS\_Total Equity
- FCCS\_Retained Earnings
- FCCS\_Retained Earnings Prior
- FCCS\_Retained Earnings Current
- FCCS\_REC OBFXCTA
- FCCS\_Net Income

**会社間データ(追跡あり)および出資比率の管理を有効にした貸借対照表勘定科目**

会社間データ(追跡あり)オプションを有効にすると、「出資比率の管理」などの追加オプションが使用可能になります。出資比率の管理を有効にすると、出資比率の管理勘定科目が追加され、CTA/CICTA 勘定科目が追加されていない場合は追加され、ドライバ勘定科目が追加されます。

FCCS\_Balance Sheet

- FCCS\_Total Balance Sheet
- FCCS\_Total Assets
- |  FCCS Goodwill Offset
- |  FCCS\_Investment in Equity Companies
- | |  FCCS\_Investment In Equity Companies Investment
- | |  FCCS\_Investment In Equity Companies Income
- | |  FCCS\_Investment In Equity Companies Equity Pickup
- |  FCCS\_Investment In Sub
- FCCS\_Total Liabilities
- |  FCCS\_Balance
- FCCS\_Total Equity
- FCCS\_Other Reserves
- |  FCCS\_OR OBFXCICTA
- |  FCCS\_Total Other Comprehensive Income
- |  FCCS\_CICTA
- FCCS\_Retained Earnings
- |  FCCS\_Retained Earnings Prior
- |  FCCS\_Retained Earnings Current
- |  FCCS\_REC OBFXCTA
- |  FCCS\_Owners Income
- |  FCCS\_Minority Interest Income
- |  FCCS\_Net Income
- |  FCCS\_Equity Company Income
- FCCS\_Minority Interest
- FCCS\_CTA

```

FCCS_Drivers
  |__ FCCS_Percent Consol
  |__ FCCS_Percent Consol Input
  |__ FCCS_Percent Consol Prior
  |__ FCCS_Percent Consol Prior Input
  |__ FCCS_Percent Consol Change
  |__ FCCS_Percent Consol Change Input
  |__ FCCS_Percent Ownership
  |__ FCCS_Percent Ownership Input
  |__ FCCS_Percent Ownership Prior
  |__ FCCS_Percent Ownership Prior Input
  |__ FCCS_Percent Ownership Change
  |__ FCCS_Percent Ownership Change Input
  |__ FCCS_Percent Min
  |__ FCCS_Percent Min Input
  |__ FCCS_Percent Min Prior
  |__ FCCS_Percent Min Prior Input
  |__ FCCS_Percent Min Change
  |__ FCCS_Percent Min Change Input
  |__ FCCS_Percent Method
  |__ FCCS_Percent Method Input
  |__ FCCS_Percent Method Prior
  |__ FCCS_Percent Method Prior Input
  |__ FCCS_Control
  |__ FCCS_Control Input
  |__ FCCS_Elim

```

### 基本勘定科目レポート - 「間接キャッシュフロー」オプション

基本勘定科目レポート・オプションの「間接キャッシュフロー」オプションを有効にすると、キャッシュ・フロー勘定科目および追加のキャッシュ・フロー階層が追加されます。

```

FCCS_Balance Sheet
  |__ FCCS_Total Balance Sheet
  |  |__ FCCS_Total Assets
  |  |  |__ FCCS Cash And Cash Equivalents
  |  |__ FCCS_Total Liabilities
  |  |__ FCCS_Balance
  |  |__ FCCS_Total Equity
  |  |  |__ FCCS_Retained Earnings
  |  |  |  |__ FCCS_Retained Earnings Prior
  |  |  |  |__ FCCS_Retained Earnings Current
  |  |  |  |__ FCCS_REC OBFXCTA
  |  |  |  |__ FCCS_Net Income
  |  |__ FCCS_Total Balance Sheet-Cash and NonCash
  |  |  |__ FCCS_Total Cash
  |  |  |  |__ FCCS_Cash And Cash Equivalents (shared)
  |  |  |__ FCCS_Total Non Cash
  |  |  |  |__ FCCS_Total Balance Sheet
  |  |  |  |__ FCCS_Cash And Cash Equivalents (shared) (Subtract)

```

### 初期の必須増減メンバー

```

FCCS_Movements
  |__ FCCS_No Movement
  |__ FCCS_ClosingBalance
     |__ FCCS_TotalOpeningBalance
        |__ FCCS_OpeningBalance
        |__ FCCS_OpeningBalanceAdjustment
     |__ FCCS_Mvmts_Total
        |__ FCCS_Mvmts_Subtotal
           |__ FCCS_Mvmts_NetIncome
           |__ FCCS_Mvmts_OtherCurrentLiabilities
  
```

```

FCCS_ClosingBalance_Variance
  |__ FCCS_ClosingBalance_Input
  |__ FCCS_ClosingBalance (Shared)
  
```

期首残高階層に加えて、2つの基本(レベル 0)増減が作成されることに注意してください。必要に応じて追加の基本増減を追加できます。

### 複数通貨を有効にした増減メンバー

複数通貨オプションを有効にすると、外国為替関連メンバーが追加されます。

```

FCCS_Movements
  |__ FCCS_No Movement
  |__ FCCS_ClosingBalance
     |__ FCCS_TotalOpeningBalance
        |__ FCCS_OpeningBalance
        |__ FCCS_OpeningBalanceAdjustment
     |__ FCCS_Mvmts_Total
        |__ FCCS_Mvmts_Subtotal
           |__ FCCS_Mvmts_NetIncome
           |__ FCCS_Mvmts_OtherCurrentLiabilities
           |__ FCCS_Mvmts_FX_Total
              |__ FCCS_Mvmts_FX_Subtotal
                 |__ FCCS_Mvmts_FX_Opening
                 |__ FCCS_Mvmts_FX_Movement
              |__ FCCS_Mvmts_FX_to_CTA
              |__ FCCS_Mvmts_FX_to_CICTA
  
```

### 会社間データ(追跡あり)および出資比率の管理を有効にした増減メンバー

会社間データ(追跡あり)オプションを有効にすると、「出資比率の管理」などの追加オプションが使用可能になります。出資比率の管理を有効にすると、追加のメンバー(FCCS\_Mvmts\_Acquisitions、FCCS\_Mvmts\_Disposals)を必要とする期首残高出資比率の変更システム・ルールが有効になります。出資比率の管理の有効化によって、FCCS\_Mvmts\_Acquisitions\_Input および FCCS\_Mvmts\_Disposals\_Input を使用する構成可能な標準連結ルールもシードされます。

```

FCCS_Movements
|_ FCCS_No Movement
|_ FCCS_ClosingBalance
|   |_ FCCS_TotalOpeningBalance
|   |   |_ FCCS_OpeningBalance
|   |   |_ FCCS_OpeningBalanceAdjustment
|   |_ FCCS_Mvmts_Total
|       |_ FCCS_Mvmts_Subtotal
|           |_ FCCS_Mvmts_NetIncome
|           |_ FCCS_Mvmts_OtherCurrentLiabilities
|           |_ FCCS_Mvmts_Acquisitions_Total
|               |_ FCCS_Mvmts_Acquisitions
|               |_ FCCS_Mvmts_Acquisitions_Input
|           |_ FCCS_Mvmts_Disposals_Total
|               |_ FCCS_Mvmts_Disposals
|               |_ FCCS_Mvmts_Disposals_Input

```

### 間接キャッシュ・フローを有効にした増減メンバー

基本勘定科目レポート・オプションの「間接キャッシュフロー」オプションを有効にすると、期末残高階層に間接キャッシュ・フロー階層が追加されます。

```

FCCS_Movements
|_ FCCS_No Movement
|_ FCCS_ClosingBalance
|   |_ FCCS_TotalOpeningBalance
|   |   |_ FCCS_OpeningBalance
|   |   |_ FCCS_OpeningBalanceAdjustment
|   |_ FCCS_Mvmts_Total
|       |_ FCCS_Mvmts_Subtotal
|           |_ FCCS_Mvmts_Cash
|           |_ FCCS_Mvmts_Operating
|               |_ FCCS_Mvmts_NetIncome
|               |_ FCCS_Mvmts_OtherCurrentLiabilities
|           |_ FCCS_Mvmts_Investing
|               |_ FCCS_Mvmts_OtherInvestingActivities
|           |_ FCCS_Mvmts_Financing
|               |_ FCCS_Mvmts_OtherFinancingActivities

```

#### Cash Flow hierarchies

```

FCCS_CashFlow
├── FCCS_CashFlow_Operating
│   ├── FCCS_CashFlow_NetIncome
│   │   ├── FCCS_Mvmts_NetIncome (shared)
│   │   └── FCCS_Mvmts_OtherCurrentLiabilities (shared)
│   └── FCCS_CashFlow_Investing
│       ├── FCCS_CashFlow_OtherInvestingActivities
│       │   └── FCCS_Mvmts_OtherInvestingActivities (shared)
│       └── FCCS_CashFlow_Financing
│           └── FCCS_Mvmts_OtherFinancingActivities (shared)

```

#### If single-currency

```

FCCS_CashChange
├── FCCS_OpeningBalance_Cash
└── FCCS_ClosingBalance_Cash

```

#### If multi-currency

```

FCCS_CashChange
├── FCCS_OpeningBalance_Cash
├── FCCS_FX_Total_NonCash
└── FCCS_ClosingBalance_Cash

```

### 期末残高入力階層

シード済の期末残高入力階層を使用すると、期末残高をロードまたは入力して、導出した期末残高と比較することができます。

期末残高データは、増減ディメンションの `FCCS_ClosingBalance_Input` メンバーにロードできます。この増減メンバーへのデータ・ロードの目的は、期首残高と親の期末残高メンバーへの期間内の増減の集計と、エンティティ通貨での必要な期末残高額との間の不一致を識別することです。期末残高入力は振替または連結されません。ただし、このメンバーをデータ入力フォームでデータ入力レベルで使用して、集約された期末残高メンバーと比較したり、構成可能な計算ルールで使用して、現在の期末残高と必要な期末残高との差異をデフォルト増減メンバーに移入できます(たとえば、<デフォルト増減> = 期末残高入力 - 期末残高 + <デフォルト増減>)。期末残高入力は、`FCCS_Periodic` または `FCCS_YTD_Input` にロードできますが、最終的には `FCCS_Periodic` に保存され、ここからすべての計算の値が提供されます。`FCCS_ClosingBalance_Input` は時点残高増減メンバーであるため、`FCCS_Periodic` に保管されるのと同様な値も、`FCCS_QTD`、`FCCS_HYTD` および `FCCS_YTD` から取得される同じ値です。データを一定期間にわたって集計する必要がある場合は、この増減メンバーを使用しないでください。

`FCCS_ClosingBalance_Variance` が親メンバーです。

`FCCS_ClosingBalance_Variance` の子は、`FCCS_ClosingBalance_Input` と `FCCS_ClosingBalance`(共有)です。

`FCCS_ClosingBalance_Input` は、システムで計算されたデータと利益と損失勘定科目のソース・データの検証には有効になりません。

### CTA および CICTA 勘定科目

#### 累積換算調整(CTA)勘定科目



デフォルトでは、すべての履歴勘定科目の個別の CTA 勘定科目で外国為替(FX)情報を取得できます。この CTA メンバーは、合計 CTA 調整を表します。ソース履歴勘定科目から CTA 勘定科目への FX のリダイレクションに必要な連結スクリプトに、計算ロジックが含まれています。1 つの CTA 勘定科目で、FX-CTA 計算のすべての結果を 1 つの CTA 勘定科目に累積できます。CTA 勘定科目は、US-GAAP レポートの目的で、貸借対照表では所有者の資産の一部です。

 ノート:

FCCS\_CTA メンバーは計算用に予約されており、これらのメンバーには仕訳を直接転記しないことをお勧めします。

### 包括利益累積換算調整(CICTA)勘定科目

IFRS レポートのために、包括利益計算書の一環として、1 つの包括利益 CTA 勘定科目(CICTA)で CTA 調整を取得できます。この勘定科目は、貸借対照表の「その他の留保」勘定科目に集計されます。

別の勘定科目で、また財務諸表の別の項で、履歴 FX 調整のレポートが必要になる場合があります。これは、損益計算書の一部として提出される勘定科目であり、純利益に、さらに現在の剰余金に計上されます。シードされる FCCS\_CICTA 勘定科目には、オプションで CICTA リダイレクション勘定科目の設定が含まれます。デフォルトでは、CICTA が選択した方法の場合、履歴勘定科目からの FX 計算は、FCCS\_CICTA 勘定科目に書き込まれます。FCCS\_CICTA の CICTA リダイレクション勘定科目属性でこの勘定科目を入力して、別の宛先勘定科目を選択する場合は、FX から CICTA ルールの宛先が指定された勘定科目になります。[勘定属性の値の設定](#)を参照してください。

アプリケーションの作成時には、FCCS\_CTA 勘定科目と FCCS\_CICTA 勘定科目の両方が作成されます。アプリケーション機能を有効にする場合は、使用する勘定科目を指定する必要があります。

 ノート:

デフォルトでは、「CTA (貸借対照表)」オプションが選択されます。このオプションを「包括利益」に変更する場合、連結を実行してデータを CICTA 勘定科目に移動する必要があります。

[アプリケーション機能の説明](#)を参照してください。

### 純利益階層での外国為替(FX)計算

勘定科目ディメンションでシードされる純利益階層には、FCCS\_REC OBFXCTA、Retained Earnings Current - Opening Balance - FX - CTA という名前のベース・メンバーが含まれます。これは純利益の強大で、現在の剰余金の子です。

このメンバーには損益計算書勘定科目の期首残高が移入され、1 つの FX 入力と 1 つの FX-to-CTA 入力が、損益計算書合計の値の計算に基づいて、この勘定科目に作成されます。

損益計算書 FX を CTA に転送するには、FCCS\_REC OBFXCTA を取得時換算勘定として設定する必要があります。そうでない場合は、「レートなし」に設定する必要があります。

FCCS\_REC OBFXCTA 勘定科目は、OBFXCTA の兄弟の子孫(たとえば、損益計算書)であるすべてのレベル 0 勘定科目の期首残高の繰越し(OBCF)から構成されています。システムで FX 差異が計算されますが、この勘定科目は取得時換算勘定であるため、OBFXCTA 勘定科目の FX 差異が計算された後に、FX 差異は CTA (または CICTA)勘定科目に転送されます。

期首残高の繰越しは、タイム・バランス・プロパティが「フロー」のすべてのレベル 0 勘定科目に適用されますが、次に例外があります:

- 利益剰余金合計のレベル 0 のすべての勘定科目: 期首残高の繰越しは、年度の最初の期間のみ前利益剰余金にリダイレクトされます。
- FCCS\_REC OBFXCTA の兄弟のレベル 0 のすべての勘定科目: 年度の最初の期間を除いて、すべての期間で期首残高の繰越しが FCCS\_REC OBFXCTA にリダイレクトされます。
- FCCS\_OR\_OBFXCTA のレベル 0 兄弟または兄弟のレベル 0 子孫の収益および費用タイプの勘定科目: すべての期間で期首残高の繰越しが FCCS\_OR\_OBFXCICTA にリダイレクトされます。

FX 差異の計算(FX 期首、FX 増減)の場合、換算されない保存された仮定勘定科目を除いて、期首残高の繰越しは「フロー」タイプのすべてのレベル 0 勘定科目に適用されます。

CTA 計算の場合:

- 個々の勘定科目からの FX 差異の転送: 期首残高の繰越しは、「履歴」、「履歴金額オーバーライド」および「履歴レート・オーバーライド」のすべての勘定科目に適用されます。
- CTA または CICTA 勘定科目への FX 差異の転送: 期首残高の繰越しは、貸借が一致した貸借対照表階層内(つまり、合計貸借対照表-従来、合計貸借対照表-純資産または基本バージョン内)の「履歴」、「履歴金額オーバーライド」および「履歴レート・オーバーライド」のすべての勘定科目に適用されます。

### その他包括利益階層での外国為替(FX)計算

勘定科目ディメンションのシードされたその他の包括利益階層には、FCCS\_OR\_OBFXCICTA という名前の基本メンバー、その他包括利益 - 期首残高 - FX - CICTA が含まれます。これは、その他包括利益合計の兄弟で、その他準備金の子になります。

このメンバーにはその他包括利益勘定科目の期首残高の合計が移入され、損益計算書のその他包括利益合計の値の計算に基づいて、単一の FX および単一の FX-to-CICTA エントリがこの勘定科目に対して入力されます。

損益計算書 FX を CICTA に転送するには、FCCS\_REC OBFXCICTA を取得時換算勘定として設定する必要があります。そうでない場合は、「レートなし」に設定する必要があります。

### 負の現金勘定科目のキャッシュ・フローの設定

キャッシュ・フロー計算書では現金を減らすが、貸借対照表の負債項目には含めるために、銀行の当座貸越のように、負の現金項目の現金勘定科目が必要になる場合があります。この場合、シード済貸借対照表階層の FCCS\_Total Non Cash セクションで、勘定科目を変更することができます。

キャッシュ・フローの設定の詳細は、次のビデオをご覧ください。



負の現金勘定科目のキャッシュ・フローの設定

## 組込みの計算

- **期首残高**

期首残高は、前期の期末残高から計算されます。年度で最初の期間の期首残高は、前年同期末残高の最後の期間から取得されます。

期首残高調整は、期首残高が繰り越された期末残高と同じ実効レートで換算されます。取得時換算勘定の期末残高は、実質的に、過去のすべての増減に適用されたレートの加重平均です。

実効レートは、前期の親通貨の期末残高を前期のエンティティ通貨の期末残高で除算したものです。比率が異なるため、この実効レートは勘定科目ごとに計算する必要があることに注意してください。

この換算はすべての取得時換算勘定、上書きレートが入力されていない履歴レート・オーバーライド勘定、および上書き金額が入力されていない履歴金額オーバーライド勘定に適用されます。

換算計算のメソッドは、フロー・タイプのデフォルト換算設定として設定されたメソッド（フローまたは残高）に基づきます。このメソッドは、期別または年次累計です。デフォルトの換算メソッドが期別の場合、換算計算は実効レートに対する期別エンティティ通貨金額に適用され、期別の換算済セルに書き込まれます。デフォルトの換算メソッドが年次累計の場合、換算は前年の最後の期間の実効レートに対する年次累計エンティティ通貨金額に適用され、前期の年次累計換算金額が減算されて、結果が期別の換算済セルに書き込まれます。年次累計換算では、期別のエンティティ通貨値がない場合、換算がスキップされます。

実効レートの計算元となった前の期間では、期首残高の繰越しオーバーライドも考慮されます。現行年度の予算シナリオの期首残高が実績シナリオから繰り越される場合、実効レートは実績シナリオから計算されます。

計算された実効レートに基づく期首残高調整の換算では、エンティティ通貨と親通貨の期末残高データが前期に存在している必要があります。エンティティ通貨と親通貨の期末残高データが前期に存在しない場合、前期の期末レートが使用されます。期末残高データも期末レート・データも存在しない場合、換算は実行されません。

履歴レート・オーバーライド勘定または履歴金額オーバーライド勘定では、オーバーライドが入力された場合、実効レート、次に期末レートに戻す前に上書きレートが使用され、その次に換算なしとなります。

一部の換算計算は累積する性質があるため、エンティティのエンティティ通貨でも親通貨でもないレポート通貨に対する換算は、年度の最初の期間から実行することをお勧めします。

- **期間ビューの期首残高**

年度の最初の期間については、期首(換算済)は前年度の最後の期間の期末(換算済)です。

それ以降の期間については、期首(換算済)は現行年度の前期の期末(換算済)です。

- **YTD ビューの期首残高**

期首(換算済)は、前年度の最終期間の期末(換算済)です。

期首合計(換算済)は、前年度の最終期間の期末(換算済)に、年次累計の現行年度の期首残高調整を加えた額です。

- **前利益剰余金の期首残高**

前利益剰余金の期首残高は、年度の最初の期間、年度の各期間の YTD メンバーおよび第 1 四半期の QTD メンバーについて、前年度末からの利益剰余金合計の期末残高です。

他のビューおよび期間については、期末残高は期別の前期間および QTD の四半期の前利益剰余金の期末残高から取得されます。

たとえば、期間ビューの場合:

- 1 月の期首残高は、前年度の最終期間の期末残高です
- 2 月から 12 月の期首残高は、今年度の前期間の期末残高です

損益計算書勘定では、年度末の期末残高は前利益剰余金勘定に換算されます。これは、利益剰余金(合計)の期末残高を前利益剰余金に繰り越すことによって行われます。

年度をまたがない期間ごとに、期末残高は次の期間の期首残高に繰り越されます。ただし、損益計算書親勘定の期末残高は、Retained Earnings Current - Opening Balance - FX - CTA (FCCS\_REC OBFXCTA)勘定に繰り越されます。

- **期末残高**

期末残高は常に集計合計で、 $\text{期末残高} = \text{期首残高合計} + \text{増減小計} + \text{FX 差異} + \text{CTA 調整}$ です。

- **増減**

増減の詳細は、必要に応じて別個のメンバーとして保存され、すべての増減はメソッドとレート勘定のグローバル換算デフォルト設定に基づいて換算されます。

- **FX 差異の計算**

為替差異は、期末レートでの期首残高および増減ソース・データの換算を計算し、換算された実際の期首残高および増減の値と比較することによって計算されます。



**ノート:**

純利益のレベル 0 のメンバーでは、FX 計算を実行しないでください。

- **取得時換算勘定**

上書き金額または上書きレートが取得時換算勘定に対して入力された場合、上書きエントリが換算に適用されます。それ以外の場合、勘定科目はアプリケーションのデフォルトのメソッドおよびレートを使用して換算されます。

- **FCCS\_Days Sales In Receivables および FCCS\_Days Sales In Inventory**

次の表に、FCCS\_Days Sales In Receivables および FCCS\_Days Sales In Inventory のデータの格納場所を示します。これらのシード済の計算はどちらも次の POV で計算されます。表には計算の POV が含まれていることに注意してください。他の列はレポートのオプションを示しています。「なし」のメンバーでは、会社間ディメンションおよびカスタム・ディメンションが表示される必要があります。

表 11-12 FCCS\_Days Sales In Receivables および FCCS\_Days Sales In Inventory のシード済の計算

ディメンション	計算済 POV	オプション POV
シナリオ	すべて	
年	すべて	
期間	すべて	
表示	すべて	
エンティティ	データが存在するすべての場所	
連結	エンティティ入力、エンティティ イ連結	エンティティ 合計
通貨	エンティティ通貨、親通貨、レ ポート通貨	
勘定科目	FCCS_Days Sales In Receivables FCCS_Days Sales In Inventory	
会社間	会社間なし	
増減	増減なし	増減合計
データ・ソース	データ・ソースなし	合計データ・ソース
複数 GAAP	ローカル GAAP、 FCCS_Adjustments	IFRS (他の親メンバー)
カスタム	カスタムなし	

## メンバーの追加または編集

これらの値を使用して、ディメンション・メンバーのプロパティを定義します。

このリストのメンバー・プロパティに加え、一部のディメンションには追加のメンバー・プロパティが必要です。

- 勘定科目プロパティについては、[勘定科目の定義](#)を参照してください。
- エンティティ・プロパティについては、[エンティティ・メンバーの定義](#)を参照してください。
- 通貨については、[通貨の設定](#)を参照してください。
- シナリオについては、[シナリオの設定](#)を参照してください。

表 11-13 メンバーのプロパティ

プロパティ	値
名前	ディメンション・メンバー全体で一意である名前を入力します。
説明	<b>オプション:</b> 説明を入力します。
別名表	<b>オプション:</b> 別名表を選択し、別名を保管します。
別名	<b>オプション:</b> メンバーの代替名を入力します。
エンティティ・メンバーのみ: 基本通貨	エンティティ・メンバーの基本通貨を選択します。


表 11-13 (続き) メンバーのプロパティ

プロパティ	値
データ・ストレージ	<p>データ・ストレージのプロパティを選択します。新規カスタム・ディメンション・メンバー(ルート・メンバー以外)に対して、デフォルトは「共有しない」です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保管</li> <li>• 動的計算</li> <li>• 共有しない</li> <li>• 共有</li> <li>• ラベルのみ</li> </ul>
2 パス計算	<p>親メンバーまたは他のメンバーの値に基づいてメンバーの値を再計算するかどうかを指定します。「動的計算」プロパティで、勘定科目およびエンティティ・メンバーに使用できます。</p>
上位レベルのエンティティ 入力を許可	<p>親エンティティの入力をこのメンバーに対して許可するかどうかを指定します。</p> <p>ローカル・レート勘定科目を作成してデータベースをリフレッシュすると、この属性が自動的に有効になり、シードされたローカル為替レート・フォームで、基本または親エンティティのローカル・レート・データを入力できます。</p>
プラン・タイプ	<p>メンバーが有効となるアプリケーション・タイプを選択します。</p>
データ型	<p>データ型を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 未指定</li> <li>• 通貨</li> <li>• 通貨以外</li> <li>• パーセンテージ</li> <li>• 日付</li> <li>• テキスト</li> <li>• スマート・リスト</li> </ul> <p>データ型と為替レート・タイプを参照してください。</p>
スマート・リスト	<p><b>オプション:</b> メンバーに関連付けるスマート・リストを選択します。</p>
動的な子に対して使用可能	<p>ユーザーが、動的な親メンバーを使用するように構成されたビジネス・ルールの実行時プロンプトでメンバー名を入力することにより、このメンバーの子を作成できるようにします。</p>
使用可能な動的な子の数	<p>このオプションは、「動的な子に対して使用可能」が選択されている場合のみ使用可能です。ユーザーが作成できる、動的に追加する最大メンバー数を入力します。デフォルトは 10 です。</p>

表 11-13 (続き) メンバーのプロパティ

プロパティ	値
メンバー作成者に付与されたアクセス権	<p>このオプションは、「動的な子に対して使用可能」が選択されている場合のみ使用可能です。メンバー作成者が実行時プロンプトで作成する動的メンバーに対して持つ権限を決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>継承</b> - メンバー作成者は、新しく作成したメンバーに対する最も近い親のアクセス権を継承します。</li> <li>• <b>なし</b> - メンバー作成者には、新しく作成したメンバーへのアクセス権は割り当てられません。(管理者は、後でメンバー作成者にメンバーへのアクセス権を割り当てることができます。)</li> <li>• <b>読取り</b> - メンバー作成者には、新しく作成したメンバーへの読取りアクセス権が割り当てられます。</li> <li>• <b>書込み</b> - メンバー作成者には、新しく作成したメンバーへの書込みアクセス権が割り当てられます。</li> </ul> <p>管理者がこれらの設定を変更した場合、その変更は将来の動的メンバーにのみ適用され、遡って動的メンバーに適用されることはありません。</p>

メンバーを追加または編集するには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「ディメンション」リストから、ディメンションを選択します。
4. アクションを行います:
  - 子メンバーを追加するには、メンバーを追加する親レベルのディメンション階層を選択し、「子の追加」をクリックします。
  - 兄弟を追加するには、兄弟を追加するレベルのディメンション階層を選択し、「兄弟の追加」をクリックします。
  - メンバーを編集するには、そのメンバーをディメンション階層から選択して、[Enter] を押すか、「編集」をクリックします。
5. 「メンバーのプロパティ」で、上の表で説明したメンバー・プロパティを設定または変更します。
 

現在のページに新規メンバーが表示されないときは、「次」をクリックします。
6. 「保存」をクリックして、リレーショナル・データベースに情報を保存し、変更がディメンション階層に反映されることを確認します。
7. データベースをリフレッシュすると、データを入力するユーザーに編集したメンバーが表示されます。
8. ディメンション・メンバーを作成した後、通常は、次のタスクを完了させます。
  - アクセス権を割り当てます。[セキュリティの管理](#)を参照してください。
  - 属性を指定します。[属性の操作](#)を参照してください。



- メタデータが有効であることを確認するには、いつでもメタデータ検証レポートを実行できます。[メタデータ検証メッセージ](#)を参照してください。

## メンバーの削除

各データ値は、一連のディメンション・メンバー値とアプリケーション・タイプで識別されます。ディメンション・メンバーの削除やアプリケーション・タイプの選択解除を行うと、アプリケーションをリフレッシュするときにデータが失われます。

### ▲ 注意:


この手順を開始する前に、バックアップを実行してください。*Oracle Enterprise Performance Management System* バックアップおよびリカバリ・ガイドを参照してください。

メンバーを削除する前に、「用途の表示」を使用して、それらが使用されているアプリケーション内の場所(フォームや為替レートなど)を確認します。

仕訳の参照整合性に関する問題がアプリケーションで発生しないように、**Financial Consolidation and Close** により、仕訳で参照されているメタデータ・メンバーの削除が検証されて回避されます。[連結仕訳の参照整合性](#)を参照してください。

エンティティ・メンバーをディメンションから削除する前に、アプリケーション全体でそれを削除する必要があります。たとえば、エンティティ・メンバーがフォームで使用されている場合には、そのエンティティ・メンバーをディメンションから削除する前に、フォームから削除する必要があります。

メンバーを削除するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. ディメンション階層から、削除するエンティティ・メンバーを選択します。
4. 「削除」をクリックします。  
基本メンバーを削除すると、その共有メンバーも削除されます。
5. 「OK」をクリックします。
6. ルールおよびレポートを更新および検証します。

## 選択

ユーザーがアクセスできるメンバー、代替変数、属性のみが表示されます。複数のメンバー選択にメンバー・セレクトを起動している場合のみ、「**選択**」ペインが表示されます。

選択するには:


1.  をクリックします。




2. **オプション:** 次のタスクを実行します:

- 検索条件(メンバー名または別名のみ)を入力するには、(デスクトップから)[Enter]を押すか、(モバイル上で)「**検索**」をクリックします。

検索では大文字と小文字は区別されません。検索できるのは、1つの単語、複数の単語またはワイルドカード文字です。

- 変数や属性の表示、別名の表示、メンバー数の表示、アルファベット順のソート、メンバー・リストのリフレッシュまたは選択のクリアなど、表示オプションを変更するには、「**検索**」の横の  をクリックし、表示オプションのリストから選択します。


- メンバー・リストに表示されているメンバーをフィルタするには、 「**検索**」の横の、「**フィルタの追加**」を選択し、フィルタ・オプションのリストから選択します。

3. メンバー・リストのメンバーをクリックして選択を行います。


関連メンバーを選択する方法を理解するには、[メンバーの関係](#)を参照してください。

選択されたメンバーにはチェック・マークが表示され、「**選択**」ペインに移動されます(該当する場合)。


親メンバーを展開してその子メンバーを表示するには、親メンバー名の右側にある拡張アイコンをクリックします。拡張アイコンをクリックしても、親メンバーは選択されません。


行った選択をクリアするには、 をクリックし、「**選択項目のクリア**」を選択します。


選択する視点およびページ軸が抑制されている場合があります。これは、視点およびページ軸内のディメンション選択が、適用済の有効交差により他のディメンションを無効化している場合に発生します。この問題を解決するには、「**選択項目のクリア**」オプションを使用して、以前に選択した視点およびページ軸をクリアします。次に、視点およびページ軸を再度使用して、以前は抑制されていたメンバーを選択します。

有効な交差ルールのために抑制されているメンバーをすべて表示するには、 をクリックし、「**無効なメンバーの表示**」を選択します。無効なメンバーは表示されますが、選択できません。


4. **オプション:** 次のタスクを実行します:

- 「**選択**」ペインで選択する関連メンバーをさらに絞り込むには、メンバーの右側にある  をクリックします。

- 代替変数または属性が定義されている場合は、メンバー選択領域の下で、「**メンバー**」の横にある  をクリックし、「**代替変数**」または「**属性**」を選択して代替変数または属性のメンバーを選択します。メンバーは子として表示されます。フォームに表示されるのは、ユーザーが読取りアクセス権を持つメンバーのみです。

- 「**選択**」ペインでメンバーを移動または削除するには、「**選択**」の横にある  をクリックします。

- ディメンション階層内で選択済メンバーの場所をハイライトするには、「**選択**」ペインでメンバー名をダブルクリックします。

モバイル・デバイスで選択済メンバーの場所をハイライトするには、「**選択**」ペインでメンバー名をタップし、「**選択**」の横の  の下の「**検索**」をタップします。

5. 選択が完了したら、「OK」をクリックします。

## メンバーの関係

この表は、メンバー選択時に含まれるメンバーおよび関連メンバーを示しています。

表 11-14 メンバーの関係

関係	含まれるメンバー
メンバー	選択したメンバー
祖先	選択したメンバーの上方にあるすべてのメンバー(選択したメンバーは除く)
祖先(含む)	選択したメンバーとその祖先
子	選択したメンバーの真下にあるレベルのすべてのメンバー
子(含む)	選択したメンバーとその子
子孫	選択したメンバーのすべての子孫(選択したメンバーは除く)
子孫(含む)	選択したメンバーとその子孫
兄弟	選択したメンバーと同じ階層レベルからのすべてのメンバー(選択したメンバーは除く)
兄弟(含む)	選択したメンバーとその兄弟
親	選択したメンバーの上方にあるレベルのメンバー
親(含む)	選択したメンバーとその親
レベル 0 の子孫	子を持たない選択したメンバーのすべての子孫
左兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの前に出現するメンバー
左兄弟(含む)	選択したメンバーとその左兄弟
右兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの後に出現するメンバー
右兄弟(含む)	選択したメンバーとその右兄弟
前の兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの直前に出現するメンバー
次の兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの直後に出現するメンバー
前の世代のメンバー	同じ世代内の選択したメンバーの直前に出現するメンバー
次の世代のメンバー	同じ世代内の選択したメンバーの直後に出現するメンバー

表 11-14 (続き) メンバーの関係

関係	含まれるメンバー
相対	指定されたメンバーに対して、同じ世代で、指定されたオフセットを適用して相対的なメンバーを返します。  例: <code>Relative("Jan", 4)</code> は <code>May</code> を返します。これは、標準の月次期間ディメンションで 1 月に 4 か月を加えたものです。 <code>Relative("Jan", -2)</code> は <code>Nov</code> を返します。これは、標準の月次期間ディメンションで 1 月から 2 か月を引いたものです。
相対範囲	進む場合は開始メンバーからオフセット・メンバーまで、戻る場合はオフセット・メンバーから開始メンバーまでのすべてのメンバーを返します。  例: <code>RelativeRange("Jan", 4)</code> は <code>Jan</code> 、 <code>Feb</code> 、 <code>Mar</code> 、 <code>Apr</code> 、 <code>May</code> を返します。 <code>RelativeRange("Jan", -2)</code> は <code>Nov</code> 、 <code>Dec</code> 、 <code>Jan</code> を返します。


## 親メンバーの削除

データ値は、一連のディメンション・メンバー値とアプリケーション・タイプで識別されます。ディメンション・メンバーの削除やアプリケーション・タイプの選択解除を行うと、アプリケーションをリフレッシュするときにデータが失われます。

### ▲ 注意:

この手順を開始する前に、バックアップを実行してください。Oracle Enterprise Performance Management System バックアップおよびリカバリ・ガイドを参照してください。

ディメンション階層から親メンバーとそのすべての子孫を削除するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「ディメンション」リストから、削除するメンバー、子孫または分岐を持つディメンションを選択します。
4. 「削除」をクリックします。
5. 「OK」をクリックします。

## フォームからのメンバーのプロパティの表示

フォームからメンバーのプロパティを表示するには:

1. ホーム・ページで、「データ」をクリックし、フォームを選択します。

2. フォームで、行または列番号を選択し、右クリックします。
3. **オプション:** 「編集」を選択し、メンバーのプロパティを表示してから「**取消し**」をクリックします。

## 共有メンバーの操作

メンバーを共有すると、アプリケーション内でロールアップ構造の入れ替えが行えます。アウトラインをロールアップする際、共有メンバーの値を無視して二重計算を防ぐことができます。

プライマリ・メンバーに複数の共有メンバーを作成できます。

### ノート:

次のディメンションについて、プライマリ・メンバーは共有メンバーの前(階層内で共有メンバーより上)に存在する必要があります: シナリオ、勘定科目、会社間、増減、データ・ソース、複数 GAAP (存在する場合)、およびユーザー作成済カスタム・ディメンション。

期間ディメンションは、代替階層をサポートしていません。

共有メンバーは、メンバーに有効なメンバー名、別名、基本通貨、アプリケーション・タイプなどのプロパティの定義をプライマリ・メンバーと共有します。共有メンバーには、一意の親メンバーおよび異なるロールアップ集約を設定する必要があります。カスタム属性、カスタム属性値およびメンバー式を共有メンバーに使用することはできません。プライマリ・メンバーの名前を変更すると、すべての共有メンバーの名前も変更されます。

共有メンバーを別の親メンバーに移動させることはできません。共有メンバーを削除してから、別の親メンバーの下に再度作成する必要があります。

カスタム・ディメンションの親メンバーは共有できません。

共有メンバーは階層の最下位レベル(レベル 0)である必要があります。子を持つことはできません。プライマリ・メンバーをレベル・ゼロにする必要はありません。共有メンバーにデータを入力し、値をプライマリ・メンバーとともに保管できます。

共有メンバーはプライマリ・メンバーと同様に、Oracle Smart View for Office のメンバー選択のディメンション階層に表示されます。

[共有メンバーの作成](#)を参照してください。

## 共有メンバーの作成

共有メンバーを、他のメンバーと同じ方法で作成できますが、次のように異なる点があります。

- 基本メンバーは、共有メンバーの親にはなれません。
- 共有メンバーを兄弟として基本メンバーに追加できません。
- 共有メンバーの名前は、基本メンバーと同じにする必要があります。共有メンバーに別の説明を付けることはできます。

- 共有メンバーのデータ・ストレージ・オプションは、「共有」にする必要があります。

### ノート:

- 期間ディメンション・メンバーは、共有メンバーを持つことはできません。
- FCCS\_No Data Source メンバーの共有メンバーは作成しないでください。

共有メンバーは、非共有メンバーの後に追加する必要があります。たとえば、次の勘定科目ディメンションでは、「現金および現金同等物」が、非共有メンバーとしては **FCCS\_Current Assets** の下に、共有メンバーとしては **FCCS\_Total Cash** の下にあります。非共有メンバーは階層の最初にあり、共有メンバーは 2 番目にあることに注意してください。

Account	Member	Never Share
▷ FCCS_System Account	System Account	Label only
▷ Exchange Rates		Label only
▷ Entered Exchange Rates		Label only
▷ Exchange Rates System Members		Label only
▷ FCCS_Income Statement	Income Statement	Dynamic Calc
▷ FCCS_Balance Sheet	Balance Sheet	Dynamic Calc
▷ FCCS_Total Balance Sheet-Traditional Approach	Total Balance Sheet	Dynamic Calc
▷ FCCS_Total Assets	Total Assets	Dynamic Calc
▷ FCCS_Current Assets	Current Assets	Dynamic Calc
▷ <b>FCCS_Cash And Cash Equivalents</b>	Cash and Cash Equiv	Dynamic Calc
▷ FCCS_Acct Receivable	Acct Receivable	Dynamic Calc
▷ FCCS_Inventories	Inventories	Dynamic Calc
▷ Prepaid Expenses	Prepaid Expenses	Dynamic Calc
▷ FCCS_Long Term Assets	Long Term Assets	Dynamic Calc
▷ FCCS_Total Liabilities and Equity	Total Liabilities and E	Dynamic Calc
▷ FCCS_Total Balance Sheet-Cash and NonCash	Total Balance Sheet	Dynamic Calc
▷ FCCS_Total Cash	Total Cash	Dynamic Calc
▷ <b>FCCS_Cash And Cash Equivalents(Shared)</b>	Cash and Cash Equiv Shared	Dynamic Calc
▷ FCCS_Total Non Cash	Total Non Cash	Dynamic Calc
▷ Units		Never Share
▷ FCCS_Historical Accounts	Historical Accounts	Label only
▷ FCCS_Ratios	Ratios	Label only
▷ FCCS_Drivers	Drivers	Label only

## 通貨の設定

### 入力通貨

入力通貨には、アプリケーション通貨と、アプリケーションに対して有効化されているすべての通貨が含まれます。これらの通貨は、エンティティの有効な機能通貨としての割当てや、為替レートの入力に使用されます。


アプリケーションの通貨を作成する際は、標準の ISO 通貨コードのリストが提供され、選択できます。デフォルトで、USD、EUR、GBP などの入力通貨が作成されます。有効化する通貨は、アプリケーションに必要なもののみにする必要があります。

通貨ディメンションに新しい通貨を追加すると、新しいメンバーが「通貨(元)」の下に自動的に作成されます。新しいメンバーのデフォルト別名表の別名を、通貨の別名として設定する必要があります。別名が定義されていない場合、追加した通貨の名前に設定する必要があります。

たとえば、GBP という通貨が通貨ディメンションに追加されると、From\_GBP という新しいメンバーが通貨(元)ディメンションに自動的に作成されます。GBP に別名が定義されている場合、同じ別名を From\_GBP にも設定する必要があります。GBP に別名が定義されていない場合、GBP for From\_GBP として設定する必要があります。

通貨メンバーの別名が変更された場合、関連付けられた通貨(元)メンバーの別名も新しい別名に変更する必要があります。

通貨メンバーが削除された場合、関連付けられた **From\_Currency** メンバーも削除する必要があります。

 **ノート:**

アプリケーションが作成された後に入力通貨の名前を変更しないでください。

### レポート通貨

レポート通貨は会社が準備する財務諸表の通貨です。アプリケーションの通貨を作成する際に、レポート作成用に有効化できます。通貨をレポート通貨として無効にすることもできます。

システムは、現地通貨から 1 つ以上のレポート通貨への通貨換算に対応しています。換算されたレポート通貨の値は、すべてのユーザーに読取り専用で保管されます。アプリケーションのデフォルトの通貨はデフォルトのレポート通貨です。

アプリケーションで換算できるのはレポート通貨のみです。すべてのレポート通貨には、**USD\_Reporting** のように、**\_Reporting** という接尾辞が付きます。

[換算プロセス](#)を参照してください。

各アプリケーションの通貨数は、**180** までに制限され、レポート通貨として選択された各通貨は、**2** つの通貨(入力通貨とレポート通貨)としてカウントされます。

レポート通貨には、**2** つの必須メンバーがあります。

- **エンティティ通貨** - アプリケーションに手動でデータを入力したりロードしたりする際に、データ入力に使用されます。エンティティの機能通貨が **USD** で、エンティティ通貨メンバーのデータを入力する際、エンティティのレポート通貨メンバー **USD** を使用してレポートを作成する場合、**USD\_Reporting** には換算が行われるまでデータが保管されないため、**USD\_Reporting** への換算を実行する必要があります。
- **親通貨** - 親に関連する換算済データの格納に使用されます。生成されるのは連結後で、読取り専用メンバーです。

レポート通貨メンバーは、データの取得時に換算が動的に実行される動的計算メンバーです。値がレポート通貨メンバーに保管されることはありません。エンティティ通貨と親通貨の値のみが保管されます。

 **ノート:**

エンティティ通貨および親通貨メンバーを編集または削除することはできません。別名の指定のみが可能です。

## 複数通貨の操作

アプリケーションが複数通貨をサポートする場合、フォームのエンティティごとに複数通貨を使用可能にできます。

複数通貨を使用可能にすると、ユーザーは現地通貨からレポートの通貨に換算された値を表示し、セルの基本通貨を上書きできます。

ノート:

- フォームに現地通貨が選択されると、保管されるデフォルトとセルに表示される通貨は、(指定した)エンティティの基本通貨です。ユーザーはデータ値を現地通貨メンバーにのみ入力できます。現地通貨メンバーが選択されると、アプリケーションに指定されたすべての通貨は入力タイプとして使用可能になります。
- 「通貨の編集」ダイアログ・ボックスで各通貨にディメンション・プロパティを設定できます。プリファレンスで、ユーザーはさまざまな表示オプションを選択することや、「通貨設定」を選択して管理者が設定したプロパティを適用することができます。
- 通貨はレポート通貨のみに換算されます。ユーザーはレポート通貨に表示されるセルにデータを入力できません。アプリケーションの主要通貨は、デフォルトによってレポート通貨です。レポートの通貨にする通貨を変更することができます。
- アプリケーションに定義された通貨はデータ入力に有効な通貨です。データ入力に有効な通貨は、ユーザーがデータ入力中に通貨リンクをクリックしてアクセスできるリストに表示されます。
- 入力値に関連付けられている通貨コードは数値として保管されます。このコードはディメンション式およびビジネス・ルールで計算されます。この通貨コードの計算された値が正しくない、または無効な通貨コードに換算される場合があります。混在する通貨で子がいる場所では、上位レベルで計算結果を確認するようにします。
- 親が複数の子を持つ場合は、その中の 1 つの子のみが書き換えられた通貨を持ち、親は書き換えられた通貨コードを継承します(これはフォームに表示されません)。
- 選択した通貨に換算を試みようとすると、親のエンティティが **#MISSING** と表示される場合があります。通貨レートが現地通貨の各組合せに入力され、フォームかレポートに通貨が選択されるようにします。通貨の組合せはすべての混在する通貨の子エンティティと親メンバーに存在させる必要があります。

## 数値のフォーマット

次のように、フォームでの通貨以外および通貨のデータ型数値の初期表示を決定できます。

- 3桁ごとの区切り文字:
  - なし: 1000
  - カンマ: 1,000
  - ドット: 1.000
  - スペース: 1 000
- 小数点:
  - ドット: 1000.00
  - カンマ: 1000,00



- 負数の符号:
  - 先頭のマイナス: -1000
  - 末尾のマイナス: 1000-
  - 括弧: (1000)
- 負数の色:
  - 黒
  - 赤

## 通貨の作成


アプリケーションで必要な各通貨の通貨ディメンションにメンバーを作成できます。事前定義済みリストを選択するか、独自で作成することができます。次の設定を指定できます。

- 3 文字のコード
- 記号
- 256 文字までの説明文
- 値が表示されるときに使用するスケーリング係数
- 別名を表示させる別名表
- 3 桁ごとの区切り文字、小数点、負数の符号、負数の色など、数値のフォーマット
- レポートの通貨かどうか

### ノート:

通貨換算に使用するトライアングュレーション通貨は、アプリケーション通貨から設定されます。

通貨を作成するには:


1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「通貨」を選択します。
4. 「追加」をクリックします。
5. 「通貨の作成」で、次の操作を実行します。
  - 事前定義された通貨を追加するには、「標準通貨の選択」を選択します。
  - 通貨を作成するには、「新規通貨の作成」を選択し、プロパティを次のように指定します。
    - 「コード」で、3 文字までの略語または識別子を入力します。
    - オプション: 「説明」で、日本円など、名前を入力します。



- 「記号」で、記号を入力するか、リストから記号を選択します。
  - オプション: 「スケール」で、通貨の入力方法と表示方法を選択します。たとえば、スケールリングが千単位に設定された場合、3 円は 3000 円を表します。
  - オプション: 「別名表」で、使用する別名表を選択します。
  - オプション: 「別名」で、通貨の別名の名前を入力します。
6. オプション: 「レポート通貨」を選択します。
  7. オプション: 「3 桁ごとの区切り文字」で、3 桁ごとの区切り文字をどのように表示させるかを選択します(小数点と異なる必要があります)。
  8. オプション: 「小数点」で、表示する数字を小数点の値でどのように表示させるかを選択します(3 桁ごとの区切り文字と異なる必要があります)。
  9. オプション: 「負数の符号」で、負数を表示する方法を選択します。
    - 先頭のマイナス: -1000.
    - 末尾のマイナス: 1000-
    - 括弧: (1000)
  10. オプション: 「負数の色」で、表示する色を選択します。
  11. オプション: 「データ・ストレージ」のタイプを選択します。
  12. オプション: 「2 パス計算」を選択します。
  13. オプション: 「データ型」を選択します。
  14. オプション: 「スマート・リスト」を選択します。
  15. 「保存」をクリックします。

## 通貨の編集

通貨を編集するには:


1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「通貨」を選択します。
4. 編集する通貨を選択します。
5. 「編集」をクリックします。
6. プロパティを変更します。
  - 事前定義された記号から選択するには、「事前定義の記号から選択」ドロップダウン・リストから 1 つを選択します。
  - 通貨記号を変更するには、「記号」で、入力するか、記号を選択します。
  - 「スケール」で、通貨の入力および表示方法を設定します。
  - 通貨精度を設定するために、「精度」ドロップダウン・リストから、1 から 10 までの数字を 1 つ選択します。  
「なし」がデフォルトです。
  - 通貨をレポートの通貨として指定するには、「レポートの通貨」を選択します。

- 「**3桁ごとの区切り文字**」で、3桁ごとの区切り文字をどのように表示させるかを選択します(小数点と異なる必要があります)。
  - 「**小数点**」で、表示する数字を小数点の値でどのように表示させるかを選択します(3桁ごとの区切り文字と異なる必要があります)。
  - 「**負数の符号**」で、負数の表示方法を選択します。
    - **先頭のマイナス**: -1000
    - **末尾のマイナス**: 1000-
    - **括弧**: (1000)
    - **デフォルト設定を使用**: 通貨のデフォルト設定を適用します。
  - 「**負数の色**」で表示色を選択します。
7. 「**保存**」をクリックします。

## 通貨の削除

デフォルトの通貨は削除できません。

通貨を削除するには:

1. 「**ナビゲータ**」アイコンをクリックします。
2. 「**作成および管理**」で「**ディメンション**」をクリックします。
3. 「**ディメンション**」で、「**通貨**」を選択します。
4. 「**通貨**」で、削除する通貨を選択します。
5. 「**用途の表示**」をクリックして、通貨がデフォルト通貨であるか、トライアングルレーション通貨であるか、エンティティに関連付けられているかを判別します。この条件に合った通貨は削除できません。  
 為替レート表で定義した通貨を削除する場合は、通貨はその表からも削除されません。
6. 「**閉じる**」、「**OK**」、「**削除**」、「**OK**」の順にクリックします。
7. ビジネス・ルールおよびレポートを更新および検証します。

## シナリオの設定

各シナリオには勘定科目および各エンティティの他のディメンションのデータが含まれます。ユーザーはシナリオのエンティティにデータを入力した後、他のユーザーが確認および承認を行えるようにエンティティのデータを送信したり上位に移動したりできます。

## シナリオについて

シナリオを次のように使用できます。

- 予測を作成します。
- シナリオにデータを入力します。
- シナリオを異なる期間や為替レートに関連付けます。

- シナリオによってユーザーにアクセス権を割り当てます。
- シナリオでレポートします。
- シナリオを比較および分析します。

## 期間


各シナリオを年範囲および期間に割り当て、期首残高期間を指定します。ユーザーがフォームへアクセスすると、範囲内で年と期間のみをシナリオに入れることができます。範囲外の年と期間は読取り専用として表示されます。時間範囲は変更可能です。

## アクセス権限

グループまたはユーザーのシナリオ・ディメンション・メンバーにアクセス権限を指定して、どのグループまたはユーザーがデータを表示または変更できるかを決定します。ユーザーまたはグループにつき、読取り、書込み、なしのいずれか 1 つのアクセス権限を持つことができます。ユーザーのアクセス権限はユーザーが属するグループに基づいて組み合わせられます。


## シナリオの作成

シナリオを作成するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「シナリオ」を選択します。
4. 「子の追加」をクリックします。
5. 「シナリオ」で、名前を入力します。
6. オプション: 「説明」で、説明を入力します。
7. オプション: 「別名」で、シナリオに関連付ける別名表を選択し、説明を入力します。
8. オプション: 「プロセス管理に使用可能」を選択して、承認にこのシナリオを含めます。
9. 「保存」をクリックします。

## シナリオの編集

シナリオを変更するには:


1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「ディメンション」で、「シナリオ」を選択します。
4. 編集するシナリオを選択します。
5. 「編集」をクリックします。
6. オプション: 「シナリオ」で、名前を入力します。
7. オプション: 「説明」で、説明を入力します。

8. 「開始年度」、「開始期間」、「終了年度」、「終了期間」で、シナリオに関連付ける期間を選択します。
9. オプション: 「為替レート表」で、シナリオに関連付ける為替レート表を選択します。  
アプリケーションが複数の通貨に対応している場合、シナリオを為替レート表に関連付けて通貨換算を可能にします。
10. オプション: 「別名」で、シナリオに関連付ける別名表を選択し、説明を入力します。
11. オプション: 「プロセス管理に使用可能」を選択して、承認でこのシナリオを使用します。
12. 「保存」をクリックします。

## シナリオの削除

シナリオを削除すると、そのシナリオに対するすべての参照も削除されます。フォームの軸に割り当てられたシナリオは削除できません。フォームからシナリオへの参照をまず削除してから別のシナリオを割り当ててください。


シナリオを削除するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「シナリオ」を選択します。
4. 削除するシナリオを選択します。少なくとも 1 つのシナリオをアプリケーションに残してください。
5. 「削除」をクリックします。
6. 「OK」をクリックします。
7. ビジネス・ルールおよびレポートを更新および検証します。

## シナリオのコピー

シナリオ・プロパティのみがコピーされます。シナリオに関連付けられたデータ値とアクセス権は、新しいシナリオにコピーされません。

シナリオをコピーするには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「シナリオ」を選択します。
4. コピーするシナリオを選択します。
5. 「シナリオのコピー」をクリックします。
6. 「シナリオにコピー」で、名前を入力します。
7. オプション: 「説明」で、説明を入力します。

8. 「開始年度」、「開始期間」、「終了年度」、「終了期間」で、シナリオに関連付ける期間を選択します。
9. オプション: 「為替レート表」で、シナリオに関連付ける為替レート表を選択します。  
アプリケーションが複数の通貨に対応している場合、シナリオを為替レート表に関連付けて通貨換算を可能にします。
10. オプション: 「別名表」で、シナリオに関連付ける別名表を選択し、説明を入力します。
11. オプション: 「プロセス管理に使用可能」を選択して、承認にこのシナリオを含めます。
12. 「保存」をクリックします。

## アプリケーションの年のカスタマイズ


アプリケーションを作成する場合、年の範囲を指定します。アプリケーションを作成した後に、アプリケーション内で使用する年数を増加できます。

### 年のカレンダーへの追加

年をアプリケーション・カレンダーに追加できますが、アプリケーションの年の数を減らすことはできません。

新しい年ディメンション・メンバーを追加した後、シナリオ・メンバーの「開始年」/「終了年」プロパティを手動で更新して、新しい年にデータを入力できるようにする必要があります。

年をカレンダーに追加するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「ディメンション」から「年」を選択します。
4. 「年の追加(+)」をクリックします。
5. 「年の追加」で、カレンダーに追加する年数を入力します。
6. 「OK」をクリックします。

年の範囲は、最後に定義された年の末尾か、最初に定義された年の前に追加できます。

「OK」をクリックすると、確認ダイアログにより次を確認するよう求められます: 「最後に年を追加しますか。」

年を終了年の後に追加するには、「はい」をクリックします。

年を開始年の前に追加するには、「いいえ」をクリックします


「すべての年」メンバーは追加できません。

7. シナリオ・メンバーの「開始年」/「終了年」プロパティを手動で更新して、新しい年にデータを入力できるようにします。

### 年情報の編集

年の説明および別名を追加または更新できます。

年を編集するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「年」を選択します。
4. 「編集」をクリックします。
5. 年の説明を入力します。
6. 「別名表」で、使用する別名表を選択し、別名を入力します。
7. 「保存」をクリックします。


## 属性の操作

グループ・メンバーに同じ条件で属性を使用します。疎ディメンションのみに属性を割り当てることができます。ラベルのみのメンバーには、属性を割り当てることができません。属性ディメンションは、親が動的に計算されるため、集約プロパティを持っていません。

勘定科目ディメンションは通常、密として定義されるため、すべてのアプリケーション・タイプのディメンションを疎に変更しないかぎり、属性を割り当てることができません。ディメンションを疎から密に変更する場合、変更するディメンションのすべての属性および属性の値は自動的に削除されます。

属性は、テキスト、日付、ブール、数値のデータ型を持つことができます。属性が定義されると、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを使用し、「等しい」や「以上」などの属性関数を選択できます。

属性、属性値、別名を作成または変更するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 属性、属性値または別名を定義する疎ディメンションを選択します。  
疎ディメンションのみが属性を持つことができます。
4. ディメンション階層の最上位を選択し、「編集」をクリックします。
5. 「ディメンション・プロパティ」ダイアログ・ボックス内で「カスタム属性」をクリックします。  
ディメンションが疎ディメンションではない場合、「カスタム属性」は使用できません。
6. 次のオプションを選択します。
  - 属性を作成するには、「作成」をクリックします。属性の名前を入力し、「テキスト」、「日付」、「ブール」または「数値」のデータ型を選択します。属性が一度作成されると、データ型を変更することができなくなります。
  - 属性を変更するには、「変更」をクリックし、属性の名前を更新します。
  - 属性に別名を設定するには、属性と属性値を選択し、「別名」をクリックします。別名表を選択して別名を入力してから、「閉じる」をクリックします。
7. 「閉じる」をクリックします。

「閉じる」をクリックすると、階層が検証され、問題が検知されるとエラーが表示されます。たとえば、日付の属性値は正しいフォーマットで入力される必要があ

り、数値と日付のディメンションには、少なくとも 1 つの定義された属性値が必要です。

8. ルールおよびレポートを更新および検証します。

## 属性のデータ型の理解


属性ディメンションは、数値、ブール式または日付のデータ型を持つことができます。これにより、グルーピングに異なる関数テキストの使用、選択を可能にするかまたはデータの計算を可能にします。属性タイプは属性ディメンションのレベル 0 のメンバーにのみ適用します。

- テキストの属性で、計算における基本の属性メンバー選択と属性の比較ができます。このような比較を実行すると、文字が比較されます。たとえば、パッケージ・タイプの「Bottle」はパッケージ・タイプの「Can」より小さいということになります。アルファベットでは B は C の前にくるからです。
- 数値の属性ディメンションでレベル 0 のメンバーの名前に数の値が使用されます。計算には数値の属性ディメンションのメンバーの名前(値)を含めることができます。たとえば、オンスの属性に指定されたオンスの数を使用して、各プロジェクトのオンスごとの収益を計算することができます。さらに、市場人口のグループ化による製品売上げの分析など、数値の属性を基本ディメンションの値の範囲に関連付けることができます。
- データベース内のブール式の属性ディメンションには、2 個のメンバーのみが含まれています。ブール式の属性ディメンションが追加されると、2 個の属性値、すなわち TRUE および FALSE が、この属性ディメンションにデフォルトで作成されます。勘定科目やエンティティなどの基本ディメンションを、ブール・データ型を持つただ 1 つの属性ディメンションに関連付けることができます。
- 日付の属性で、月-日-年または日-月-年という日付フォーマット、およびそれに応じたシーケンス情報を指定できます。計算にも日付の属性を使用できます。たとえば、指定された日付以降の製品売上の計算で日付を比較できます。ユーザーは「アプリケーション設定」プリファレンスの「属性ディメンション日付フォーマット」のオプションを 1 つ選択して日付フォーマットを設定できます。

## 属性の削除

属性を削除すると、その属性に関連付けられたすべての属性値も削除されます。属性値は割り当てられたメンバーから削除され、属性は割り当てられたディメンションから削除されます。

属性を削除するには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 属性を削除する疎ディメンションを選択し、「編集」をクリックします。
4. 「カスタム属性」をクリックします。
5. 削除する属性を選択します。
6. 「属性」列の上で、「削除」をクリックします。
7. 「OK」をクリックします。
8. ルールおよびレポートを更新および検証します。



## 属性値の操作

属性値には、フォームの使用の際、ディメンション・メンバーを選択する別の方法があります。属性値のデータ値は動的に計算されますが保管されません。

### データ取得の属性ディメンション

属性は、プライマリ・メンバーに対してのみ有効で、共有メンバーに対しては無効です。代替階層からの取得は、プライマリ階層からの取得と同じにはなりません。


属性は基本ディメンションに関連付けられ、集約はそれらが関連付けられている基本ディメンションに沿って定義されます。属性をフィルタとして指定すると、親レベルの合計が表示されます。属性をグリッド内で関連付けると、取得されるデータは基本レベルのみになります。フォームの属性を動的ユーザー変数として定義し、属性ごとに集約の合計を取得できます。

## 属性値の作成

通常、エンティティとユーザー定義のカスタム・ディメンションの疎ディメンションに、属性値を定義できます。ディメンションの属性値を定義した後、その属性値をそのディメンションのメンバーに割り当てることができます。

属性値は、クラシック・ディメンション・エディタまたは簡易ディメンション・エディタで作成できます。


クラシック・ディメンション・エディタで属性値を作成するには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 属性値を作成する疎ディメンションを選択します。
4. ディメンション階層内の最上位レベルを選択します。
5. 「カスタム属性」をクリックします。
6. 「属性と値の管理」ページで、値を指定する属性を選択します。
7. 「属性値」列の上で、「作成」をクリックします。オプションが使用できる場合は「子の追加」または「兄弟の追加」をクリックできます。
8. 「属性値の作成」で、「名前」に名前を入力します。
9. 「保存」をクリックします。

簡易ディメンション・エディタで属性値を作成するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「概要」をクリックします。
2. 「ディメンション」タブをクリックします。
3. 「キューブ」で、「すべて」を選択します。
4. ディメンションを選択します。
5. 左側の「ディメンション・プロパティの編集」タブをクリックします。
6. 右下の「カスタム属性」で、「作成」をクリックします。
7. 属性名を入力して、「保存」をクリックします。







- 属性を編集または削除するには、属性の横にある「アクション」省略記号アイコン  をクリックします。

## メンバーへの属性値の割当て


すべてのアプリケーション・タイプに疎と定義されるディメンションの属性値メンバーを割り当てることができます。属性値は同レベルの疎ディメンション・メンバーへ割り当ててください。そうしないと、リフレッシュ中にエラーが表示されます。

メンバーへ属性値を割り当てるには:

- 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
- 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
- 属性値を割り当てるメンバーの疎ディメンションを選択します。
- 「ディメンション」階層で、属性値を割り当てるメンバーを選択します。
- 「編集」をクリックします。  
属性値を割り当てられたメンバーについては、「表示」をクリックしてメンバーの属性値を変更します。
- 「属性値」を選択します。
- 属性値を選択してメンバーへ割り当てます。
- アクションを行います:
  - 選択したメンバーへ値を割り当てるには、「追加」  をクリックします。
  - 選択したメンバーから値を削除するには、削除する値を選択し、「削除」  をクリックします。
  - 選択したメンバーからすべての値を削除するには、「すべて削除」  をクリックします。
- 「保存」をクリックします。

## 属性値の変更

属性値を変更するには:


- 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
- 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
- 変更する属性値の疎ディメンションを選択します。
- ディメンション階層内の最上位レベルを選択します。
- 「カスタム属性」をクリックします。
- 「属性」で、変更する値を含む属性を選択します。
- 「属性値」で、属性値を選択します。
- 「属性値」の上の、「変更」をクリックします。
- 「属性値の変更」の「名前」で名前を入力します。

10. 「保存」をクリックします。

## 属性値の削除

属性値を削除すると、属性値が割り当てられていたカスタム・ディメンション・メンバーから、属性値が削除されます。

属性値を削除するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 削除する値の属性を含む疎ディメンションを選択します。
4. ディメンション階層内の最上位レベルを選択します。
5. 「カスタム属性」をクリックします。
6. 「属性」で、削除する属性値を含む属性を選択します。
7. 「属性値」で、削除する属性値を選択します。  
削除する属性値をすべて選択するには、「属性値」を選択します。
8. 「属性値」列の上で、「削除」をクリックします。
9. 「OK」をクリックします。
10. ルールおよびレポートを更新および検証します。


## ユーザー定義属性(UDA)の操作

メンバー式およびレポート内でユーザー定義属性(UDA)を使用できます。UDA は属性に関連したメンバーのリストを戻します。例:

- 数種類の製品メンバーが含まれる製品ディメンションでは、New Products と呼ばれる UDA を作成し、製品ディメンションの階層にある新製品へ割り当てることができます。その後、New Products の指定に基づいて特定の計算を行うことができます。
- @XREF 関数を使用して、別のデータベースのデータ値を検索し、現在のデータベースから値を計算する場合、HSP\_NOLINK UDA をメンバーに追加して、@XREF 関数が、そのメンバー用として選択されたソース・タイプではないすべてのアプリケーション・タイプで作成されてしまうのを防ぐことができます。

UDA はディメンションに固有です。たとえば、勘定科目メンバーの UDA を作成すると、共有していない勘定科目メンバーに使用できます。それを削除すると、すべての勘定科目メンバーでも削除されます。UDA を複数のディメンションに使用可能にするには、複数のディメンションに同じ UDA を作成します。たとえば、New という UDA を勘定科目ディメンションとエンティティ・ディメンションに作成し、それを勘定科目メンバーとエンティティ・メンバーに使用できます。

メンバー用の UDA を選択するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. メンバーを UDA に関連付けるディメンションを選択します。

4. ディメンションの階層から、メンバーを選択して「編集」をクリックします。
5. 「UDA」を選択します。
6. オプション: UDA を作成するには、「作成」をクリックします。
7. メンバーの UDA を「選択した UDA」に移動して「保存」をクリックし、選択します。
  - 「追加」➤ は、選択した UDA を「選択した UDA」パネルに移動します。
  - 「削除」◀ は、選択した UDA を削除します。
  - 「すべて削除」◀◀ は、すべての UDA を削除します。

## UDA の作成

UDA を作成するには:

1. 「ディメンション」の「UDA」タブに移動します。
2. 「UDA」で、「作成」をクリックします。
3. 名前を入力して、「保存」をクリックします。

## UDA の変更

UDA を変更するには:

1. 「ディメンション」の「UDA」タブに移動します。
2. 「UDA」で、UDA を選択して「編集」をクリックします。
3. 名前を変更して「保存」をクリックします。

## UDA の削除

UDA を削除すると、ディメンションから UDA が削除されます。

UDA を削除するには:

1. 「ディメンション」の「UDA」タブに移動します。
2. UDA を選択して、「削除」をクリックします。

UDA を削除した場合は、それを参照していたすべてのメンバー式、計算スクリプト、レポートを更新する必要があります。

## UDA のメンバーとしての選択

フォームのメンバーを、ユーザー定義属性(UDA)として定義した共通属性に基づいて選択できます。UDA をフォームに関連付けるには、UDA を作成する必要があります。[ユーザー定義属性\(UDA\)の操作](#)を参照してください。

UDA を使用してフォームを作成すると、その UDA に割り当てられているメンバーが、フォームに動的に追加されます。たとえば、「新製品」と呼ばれる UDA を作成し、この UDA を製品ディメンションの階層にある新製品に割り当てた場合、フォームでは、実行時に新製品が自動的に表示されます。

フォームの UDA を選択するには:

1. フォームを作成します(単一のフォームの作成を参照)。
2. 「メンバー選択」で、「変数」タブをクリックし、「UDA」を展開して、矢印を使用して「選択したメンバー」で UDA を移動して、メンバーを選択するときと同じように UDA を選択します。

UDA は現在のディメンションに対してのみ表示されます。選択すると、UDA には先頭に UDA が付きます。例:

UDA (新製品)


3. 「OK」をクリックします。

## メンバー式の操作

演算子、計算関数、ディメンション名、メンバー名および数値定数を組み合わせてメンバー式を定義することによって、メンバーの計算を実行できます。メンバー式には次も含まれます。

- 式で許可される演算子タイプ、関数、値、メンバー名、UDA など。
- 式に展開するスマート・リスト値またはデータベースのリフレッシュにおける値を含む事前定義済の数式。

メンバー式を定義するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. メンバーの式を追加または変更するディメンションを選択します。
4. メンバーを選択し、「編集」をクリックします。
5. 「メンバー式」タブを選択します。
6. 次のフィールドのオプションを選択します:
  - キューブ

### ノート:

デフォルトのキューブに入力された式は、特定のキューブに入力された別の式によって上書きされないかぎり、すべてのキューブに適用されます。

デフォルトのキューブから特定のキューブに式を移動する場合は、Smart View を使用できます。デフォルトのキューブで式を探して切り取り、特定のキューブ(Consol など)に貼り付けます。

- **データ・ストレージ** - データ・ストレージ・オプションを選択します。デフォルトは「保管」です。
- **解決順** — 拡張ディメンション・アプリケーションの場合、解決順は、式が評価される順序を決定します。このプロパティを設定するには、「アプリケーション

「メンバー構成」ページを使用します。メタデータへの [SolveOrder](#) の適用を参照してください。

7. テキスト・ボックスで、当該メンバー用の式を定義します。
8. **オプション:** メンバー式の有効性を確認するには、「**構文の確認**」をクリックします。
9. 「**保存**」をクリックします。

「**保存**」をクリックする前に、「**リセット**」をクリックして、前にあったメンバー式情報を復元します。

## 式の確認結果の表示

メンバー式の構文の確認結果を表示するには:

1. 「**メンバー式**」で、「**構文の確認**」をクリックします。
2. メンバー式が有効ではないと表示されたら、「**詳細の表示**」をクリックします。  
メンバー式が有効な場合は、「**詳細の表示**」は選択できません。
3. 「**保存**」をクリックします。

## メンバー式の順序の解決

[SolveOrder](#) は、ディメンションまたはメンバーのいずれかに設定でき、メンバー評価の順序を定義するメタデータ・プロパティです。解決順は問合せ実行時に適用されます。

[SolveOrder](#) は問合せのパフォーマンスに影響を与えます。可能性が、[SolveOrder](#) プロパティの値により、メンバー式が計算される優先度が決定します。指定された解決順を持つメンバーの式は、低い解決順から高い解決順に計算されます。メンバー式が別の動的計算メンバーの値に依存する場合、式があるメンバーの解決順は、依存する動的計算メンバーより高くなります。

表 11-15 デフォルトの解決順設定

ディメンション・タイプ	デフォルトの SolveOrder 値
保管済メンバー	0
疎ディメンション	10
密ディメンション - 勘定科目	30
密ディメンション - 時間	40
密ディメンション - 2 パス勘定科目	60
密ディメンション - 2 パス時間	70
2 パス	100
属性ディメンション	90

疎メンバー式が、[DynamicCalc](#) データ・ストレージを持つ密メンバーを参照する場合、デフォルトで疎ディメンションが最初に計算されるため(疎のデフォルト [SolveOrder](#) - 10、密の勘定科目のデフォルト [SolveOrder](#) - 30)、その参照は無視されます。この動作は、密ディメンションの解決順より高い疎ディメンションにカスタムの解決順を割り当てることにより変更できます。

例:

異なる SolveOrder のメンバーと対応する評価を使用する例を考えてみます。

Dimension1:

- 勘定科目
- A1
- A2
- 比率 – メンバー式[A1 / A2]

Dimension2:

- DataSource
- DataInput
- CustomInput
- 差異 – メンバー式[DataInput - CustomInput]

1 月期の交差について次のデータセットを考えてみます:

		Jan
DataInput	A1	1000
	A2	1100
CustomInput	A1	600
	A2	650

### 比率と差異に対して異なる SolveOrder を使用する計算

#### ケース 1: 差異より SolveOrder が高い比率

このケースでは、差異が最初に計算され、次に対応する比率が計算されます。

Member	SolveOrder
Ratio	30
Variance	20

差異の比率は、(Variance->A1)/(Variance->A2)のように計算されます。

		Jan
DataInput	A1	1000
	A2	1100
	Ratio	0.9091
CustomInput	A1	600
	A2	650
	Ratio	0.9231
Variance	A1	400
	A2	450
	Ratio	0.8889

#### ケース 2: 差異より SolveOrder が低い比率

このケースでは、比率が最初に計算され、次に対応する差異が計算されます。

Member	SolveOrder
Ratio	10
Variance	20

比率の差異は、(Ratio->DataInput) – (Ratio->CustomInput)のように計算されます。

		Jan
DataInput	A1	1000
	A2	1100
	Ratio	0.9091
CustomInput	A1	600
	A2	650
	Ratio	0.9231
Variance	A1	400
	A2	450
	Ratio	-0.014

## 解決順序の設定

「解決順」プロパティを設定するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」の順にクリックします。
2. 「ディメンション」をクリックして簡易ディメンション・エディタを開き、ディメンションを選択します。  
選択したディメンションの「メンバー・プロパティの編集」画面が表示されます。
3. ヘッダー行を右クリックして、「デフォルト・モード」の選択を解除します。
4. 「メンバー名」列を選択し、「アクション」メニューから「凍結」をクリックして列を固定し、メンバー・プロパティを編集します。
5. 解決順を変更するメンバーを選択します。
6. 「Consol 解決順」列で必要な解決順の値を設定します。
7. 変更内容を保存します。
8. 「アクション」から「データベースのリフレッシュ」を選択し、「リフレッシュ」をクリックします。

「解決順」プロパティ値の詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド*を参照してください。

「管理者用 Smart View アドオン」拡張機能を使用して、「解決順」プロパティを変更することもできます。

Smart View を使用して「解決順」プロパティを設定するには:

1. Smart View パネルの「ディメンション」フォルダを使用して、解決順を変更するディメンションを開きます。
2. Financial Consolidation and Close アド・ホック・リボンで、「メンバー選択」を選択します。
3. 「メンバーのプロパティ」で「Consol 解決順」を選択し、列に移動します。
4. 行で変更するディメンション・メンバーを指定します。

5. 「解決順」列で値を編集し、アド・ホック・リボンで「データの送信」をクリックします。
6. Smart View パネルで「ディメンション」フォルダを右クリックし、「データベースのリフレッシュ」を選択してキューブのリフレッシュを開始します。

## メタデータへの SolveOrder の適用

SolveOrder は、ディメンションまたはメンバーのいずれかに設定でき、メンバー評価の順序を定義するメタデータ・プロパティです。解決順は問合せ実行時に適用されます。マルチディメンショナル問合せでセルが評価される場合、計算が解決される順序は SolveOrder プロパティによって決まります。

[メンバー式の順序の解決](#)を参照してください。

拡張ディメンションを使用するとき、SolveOrder は特定ディメンションの DynamicCalc メンバーに対して設定されます。これは、フォームおよびアドホック・グリッドを作成するとき問合せパフォーマンスの向上に役立ちます。SolveOrder プロパティを持つメンバーの動的計算の祖先はすべて、同じ SolveOrder を使用して設定される必要があります。

Financial Consolidation and Close では、拡張ディメンションを使用するとき、SolveOrder は次のディメンションに対して設定されます:

- 増減
- 連結
- DataSource
- 期間
- 表示

前述のディメンションのすべての必須シード・メンバーについて、SolveOrder メタデータ・プロパティがデフォルトでシードされています。データ・ソース・ディメンションおよび増減ディメンションにメンバーを追加できます。SolveOrder を使用するシード親メンバー下のこれらのディメンションに DynamicCalc を追加する場合は、新しいメンバーに SolveOrder を設定する必要があります。取得パフォーマンスの問題につながる可能性があるため、カスタム・ディメンションには SolveOrder を設定しないでください。

構成タスクからメタデータに対して SolveOrder を適用します。ディメンションを選択し、次に SolveOrder を選択します。SolveOrder プロパティを適用すると、サマリーが表示され、新しい SolveOrder を使用して変更されたすべてのメンバー、および新旧の値がリストされます。SolveOrder を設定するとメタデータが変更されるため、「データベースのリフレッシュ」タスクを実行して変更を有効にする必要があります。

カスタマイズした解決順の値を保持するために、EnableSolveOrderImport 代替変数が自動的に有効になっています。これにより、アプリケーションのインポート、アップグレードまたは増分の「機能を使用可能にする」プロセス中に、シード・メンバーのカスタマイズした解決順の値を保持できます。

SolveOrder メタデータ・プロパティを適用するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「構成」をクリックします。



2. 「**メタデータ SolveOrder の適用**」をクリックします。
3. 「**ディメンション**」ドロップダウン・リストから、ディメンションを選択します。
4. 「**SolveOrder**」ドロップダウン・リストから、SolveOrder 値を選択します。  
SolveOrder の最小値は 0 で、最大値は 127 です。
5. 「**起動**」をクリックし、警告メッセージから「**OK**」をクリックします。
6. タスクが完了したら、変更したメンバーについて値のサマリー・ページをレビューします。
7. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**概要**」の順にクリックします。
8. 「**アクション**」から「**データベースのリフレッシュ**」を選択し、「**リフレッシュ**」をクリックします。

## 別名表の操作

### 次も参照:

- [別名について](#)
- [別名表について](#)
- [別名表の作成](#)
- [別名表の編集または名前変更](#)
- [別名表の削除](#)
- [別名表のクリア](#)
- [別名表のコピー](#)

## 別名について

システム・ディメンションおよびユーザー定義のディメンション・メンバーに代替名または別名を割り当てられます。アプリケーションでは、ディメンション・メンバーごとに、デフォルトの別名を含めて、最大 **30** 個の別名を付けることができます。別名は、**1** つの別名表内および複数の別名表間で同じ名前を持つことができます。

別名は、次を持つこともできます:

- メンバーと同じ名前
- 親および子であるメンバーについて同じ別名
- 異なるディメンションまたは同じディメンションのメンバーについて同じ名前

 ノート:

- メンバーを一意に識別する方法がなくなるため、兄弟である 2 つのメンバーに同じ別名を指定することはできません。このルールは、アプリケーションによって基本メンバーに適用されますが、共有メンバーには適用されません。  
  
共有メンバーに別名を直接設定することはできないため、このルールは共有メンバーには適用されません。共有メンバーの別名は、その基本メンバーから継承されます。代替階層を作成すれば、そこで 2 つの共有メンバーが同じ別名と兄弟を持つことができます。ただし、これらのメンバーをアドホック・グリッドから別名によって参照する場合、この状況は推奨されません。別名をグリッドに入力してアプリケーションに送信すると、そのアプリケーションはこのメンバーを一意に解決できなくなり、エラーが返されるためです。表示の目的にのみ別名を使用する場合は、問題ではありませんが、この設計は推奨されません。視覚上で、これらの 2 つのメンバーを識別する方法がないためです。
- 別名はメンバーと同じ名前を持つことができますが、**member1** の別名を **member2** と同じ名前に設定しないように注意してください。これは、意図しない結果につながる場合があり、フォーム・グリッドで混乱が生じます。
- メンバー名は、ルールおよびフォーム設計で使用できるように、一意にする必要があります。

## 別名表について

代替名(別名)をディメンション・メンバーに割り当てることができます。別名表の作成および更新、アプリケーションのデフォルトの別名表の設定ができます。

たとえば、複数の別名表が次の言語の組合せをサポートしています:

- 英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語およびイタリア語
- 日本語と英語
- 韓国語と英語
- トルコ語と英語

別名表を作成する際、次の制限が別名表名に適用されます。


- 別名表名の長さ制限: 最大 30 文字
- 命名規則: ディメンション、メンバーおよび別名の命名規則と同じ。[ディメンション、メンバーおよび別名の名前付けの制限](#)を参照してください。

メタデータ・ロード・ファイル内のメンバー・プロパティまたは列ヘッダーと同じ名前のディメンション名(「データ型」など)を使用することはできません。

別名表を設定してアプリケーションのメンバーを表示できます。別名表の設定を指定するには、[アプリケーションおよびシステム設定の管理](#)を参照してください。


## 別名表の作成

別名表を作成するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「別名表」をクリックします。
3. 「別名表」 ページで、「追加」をクリックします。
4. 「追加 - 別名表」 で、名前を入力します。
5. 「OK」 をクリックします。


## 別名表の編集または名前変更

別名表の編集または名前を変更するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「別名表」をクリックします。
3. 「別名表」 ページで、別名表を選択します。
4. 「編集」 をクリックします。
5. 「編集 - 別名表」 に、名前を入力します。
6. 「OK」 をクリックします。

## 別名表の削除


別名表を削除するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「別名表」をクリックします。
3. 「別名表」 ページで、削除する別名表を選択します。  
デフォルトの別名表は削除できません。
4. 「削除」 をクリックします。
5. 「OK」 をクリックします。

## 別名表のクリア

別名表のコンテンツをクリアできます。


別名表をクリアするには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「別名表」をクリックします。
3. 「別名表」 ページで、クリアする別名表を選択します。  
別名表をクリアすると、表の内容は削除されますが、表自体は削除されません。

4. 「**値のクリア**」をクリックします。
5. 「**OK**」をクリックします。

## 別名表のコピー

別名表をコピーするには:

1. 「**ナビゲータ**」アイコンをクリックします。
2. 「**作成および管理**」で「**別名表**」をクリックします。
3. 「**別名表**」ページで、コピーする別名表を選択します。
4. 「**コピー**」をクリックします。
5. 移行先の別名表を選択します。

移行先の別名表が存在している必要があります。コピーしても表は作成されません。

6. 「**コピー**」をクリックします。

# 簡易ディメンション・エディタでのディメンションの編集

## 次も参照:

- [簡易ディメンション・エディタでのディメンションの編集について](#)
- [簡易ディメンション・エディタへのアクセス](#)
- [簡易ディメンション・エディタ・グリッドの操作](#)
- [簡易ディメンション・エディタでのディメンション・プロパティの編集](#)
- [簡易ディメンション・エディタでのメンバー・プロパティの編集](#)

## 簡易ディメンション・エディタでのディメンションの編集について

簡易ディメンション・エディタには、グリッド形式でディメンションとメンバーが表示されます。グリッド形式では、ディメンションとメンバーを1つのページで編集できます。メンバーのプロパティはグリッド上で直接編集でき、ズームイン、ズームアウト、選択項目の保持、選択項目の削除、凍結などのアドホック操作を実行できます。

クラシック・ディメンション・エディタでディメンションを表示および編集するセキュリティ役割を持っているユーザーは、簡易ディメンション・エディタで同様のアクションを実行できます。

簡易ディメンション・エディタを使用すると、無効なディメンション・メンバー・プロパティをチェックし、プロパティを修正するアクションを実行できます。無効なプロパティは、ディメンション・エディタ・グリッドで赤の枠線で囲まれます。

メンバー・プロパティの詳細なリストは、[簡易ディメンション・エディタでのメンバー・プロパティの編集](#)を参照してください。

Member Name	Parent Member	Default Data Storage	Consoled Data Storage	Rules Data Storage	Un
√ Data Source		Never Share	Never Share	Never Share	Un
▶ FCDS_Total Data Source	Data Source	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Un
▶ FCDS_Source Entities	Data Source	Label only	Label only	Label only	Un
√ Reporting Views		Never Share	Never Share	Never Share	Un
Trial Balance View	Reporting Views	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Un
HE Reporting View	Reporting Views	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Un

## 関連トピック:

- [ディメンションの概要](#)
- [簡易ディメンション・エディタへのアクセス](#)
- [簡易ディメンション・エディタでのディメンション・プロパティの編集](#)

- [簡易ディメンション・エディタでのメンバー・プロパティの編集](#)

ディメンション・エディタを使用してメタデータを追加および更新する方法についてさらに学習するには、次のビデオをご覧ください:



[ディメンション・エディタを使用したメタデータの追加と更新.](#)

## 簡易ディメンション・エディタへのアクセス

簡易ディメンション・エディタにアクセスするには:

1. ホーム・ページで「[アプリケーション](#)」をクリックし、「[概要](#)」をクリックします。
2. 「[ディメンション](#)」をクリックします。
3. 「[キューブ](#)」の右側にある下矢印をクリックして、ディメンションのリストをキューブでフィルタします。
4. 表示するディメンションの名前をクリックします。
5. 次のタブから選択します:
  - [ディメンション・プロパティの編集](#) - ディメンションの詳細を表示して編集する場合にクリックします。[簡易ディメンション・エディタでのディメンション・プロパティの編集](#)を参照してください。
  - [メンバー・プロパティの編集](#) - ディメンション・メンバーを表示して編集する場合にクリックします。[簡易ディメンション・エディタでのメンバー・プロパティの編集](#)を参照してください。

クラシック・ディメンション・エディタ(「ナビゲータ」からアクセス)を使用するには、[ディメンションの管理](#)を参照してください。

## 簡易ディメンション・エディタ・グリッドの操作

次も参照:

- [他のディメンションへの切替え](#)
- [列レイアウトのカスタマイズ](#)
- [祖先の表示](#)
- [アプリケーションでのメンバーの用途の表示](#)
- [編集のフォーカス](#)
- [メンバーの検索](#)
- [メンバーのソート](#)
- [別の階層へのメンバーの移動](#)
- [メンバー式の操作](#)
- [Microsoft Excel からのメンバー名のコピー](#)

## 他のディメンションへの切替え

簡易ディメンション・エディタ・グリッドの表示中に他のディメンションに切り替えるには:

1. 「**メンバー・プロパティの編集**」を表示します。  
簡易ディメンション・エディタへのアクセスを参照してください。
2. ページ上部にあるディメンション名の横にある下矢印をクリックします。

## 列レイアウトのカスタマイズ

簡易ディメンション・エディタ・グリッドの各列は、メンバー・プロパティ(「**メンバー名**」、**「親メンバー**」、**「デフォルトのデータ・ストレージ**」など)を表します。グリッドに最初から表示される列は、編集しているディメンション・タイプによって異なります。列のレイアウトは、簡易ディメンション・エディタで列を非表示にする、表示する、サイズを変える操作でカスタマイズできます。「**デフォルト・モード**」オプションをクリアして、プロパティの全セット(すべての列)を表示することもできます。

簡易ディメンション・エディタ・グリッドで列レイアウトをカスタマイズするには:

1. 「**メンバー・プロパティの編集**」を表示します。  
簡易ディメンション・エディタへのアクセスを参照してください。
2. ディメンション・グリッドで、任意の列見出しを右クリックします。  
列のチェックリストが表示されます。列またはグリッドのサイズを変更するオプションも表示されます。
3. グリッドで表示する列、非表示にする列のチェック・ボックスを選択するか、クリアします。

### ノート:

グリッドですべてのプロパティ列を表示するには、「**デフォルト・モード**」チェック・ボックスをクリアします。デフォルトでは「**デフォルト・モード**」は選択されており、表示されるプロパティが制限されます。このオプションをクリアすると、大きい(完全な)プロパティ・セットが(列として)表示されます。

4. グリッドに表示されるグリッドまたは列のサイズを変更するには、次のサイズ変更オプションを選択するか、クリアします。
  - **列をあわせる** - すべての列がスクロールなしでグリッドに表示されるように、列のサイズを変更します。
  - **同期サイズ変更** - グリッドのサイズを元の設定にリセットします。

## 祖先の表示

祖先はすべて、ディメンション階層で選択したメンバーより上位のメンバーです。

簡易ディメンション・エディタ・グリッドで、選択したメンバーの祖先を表示するには:

1. 「**メンバー・プロパティの編集**」を表示します。

- [簡易ディメンション・エディタへのアクセス](#) を参照してください。
2. ディメンション・エディタ・グリッドでメンバーを選択します。
  3. 「祖先の表示」をクリックします。

## アプリケーションでのメンバーの用途の表示

メンバー削除などの操作を実行する前に、「用途の表示」を使用して、それらが使用されているアプリケーション内の場所(フォーム、承認ユニット、為替レートなど)を確認することが重要です。

簡易ディメンション・エディタを使用して、メンバーがアプリケーションのどこで使用されているかを確認するには:

1. 「メンバー・プロパティの編集」を表示します。  
[簡易ディメンション・エディタへのアクセス](#) を参照してください。
2. ディメンション・エディタ・グリッドでメンバーを選択します。
3. 「用途の表示」をクリックします。

## 編集のフォーカス

簡易ディメンション・エディタ・グリッドを操作するとき、ズームイン、ズームアウト、選択項目の保持、選択項目の削除、凍結を使用して編集のフォーカスを絞ります。

ディメンション・エディタ・グリッドを表示中にこれらの操作を実行するには:

1. 「メンバー・プロパティの編集」を表示します。  
[簡易ディメンション・エディタへのアクセス](#) を参照してください。
2. グリッドの特定メンバーに対する編集のフォーカスを絞るには、メンバーを選択してから、次のいずれかのズーム操作をクリックします。
  - **次のレベルへズーム・イン** - 選択しているメンバーの 1 レベル下にある全メンバーを表示します
  - **次のレベルへズーム・イン** - 選択しているメンバーの下にあるすべての子孫メンバーを表示します
  - **最下位レベルへズーム・イン** - 選択しているメンバーの下にあって、子を持たないすべての子孫メンバーを表示します
  - **ズーム・アウト** - 選択しているメンバーの 1 レベル上にあるメンバーを表示します
3. グリッドの特定の行または列に編集のフォーカスを絞るには、次の操作からいずれかを選択します。
  - **選択項目の保持** - グリッドで選択した行または列のみを表示します
  - **選択項目の削除** - 選択した行または列をグリッドから削除します
  - **凍結(列のみ)** - 選択した列と、その左にある列をすべて固定し、その列がスクロールで移動しないようにします。固定した列の右側のみがスクロールできるようになります。たとえば、メンバー名を含む最初の列のみに固定すると、メンバー名が表示されたまま、右にスクロールしてメンバーのプロパティを編集できます。列を凍結解除するには、「凍結」をもう一度クリックします。



## メンバーの検索

簡易ディメンション・エディタ・グリッドでディメンション・メンバーを検索するには:

1. ディメンションの「**メンバー・プロパティの編集**」を表示します。  
簡易ディメンション・エディタへのアクセスを参照してください。
2. 「**検索**」で、「**名前**」、「**別名**」または「**両方**」を選択します。
3. 検索する検索テキスト(メンバーの名前、別名または文字列の一部)を入力します。
4. 「**上方向に検索**」または「**下方向に検索**」をクリックします。

## メンバーのソート

子または子孫による昇順または降順でメンバーをソートできます。メンバーのソートはアウトラインに影響を及ぼします。

簡易ディメンション・エディタを使用してメンバーをソートするには:

1. 「**メンバー・プロパティの編集**」を表示します。  
簡易ディメンション・エディタへのアクセスを参照してください。
2. ディメンション・グリッドで、子または子孫をソートするメンバーを選択します。
3. 「**ソート**」で、「**子**」または「**子孫**」を選択します。  
子でソートする場合は、選択したメンバーの真下のレベルにあるメンバーのみにソートがかかります。子孫でソートする場合は、選択したメンバーのすべての子孫にソートがかかります。
4. 「**昇順ソート**」または「**降順ソート**」をクリックします。

## 別の階層へのメンバーの移動

簡易ディメンション・エディタで、メンバーを別の階層に移動するには:

1. 「**メンバー・プロパティの編集**」を表示します。  
簡易ディメンション・エディタへのアクセスを参照してください。
2. グリッドの「**親メンバー**」列で、移動するメンバーの新しい親の名前を入力します。
3. 「**保存**」をクリックします。

## メンバー式の操作

簡易ディメンション・エディタ・グリッドの式バーで直接、または有効なメンバー式を検証できる「**メンバー式**」を使用して、メンバー式を定義または編集できます。

演算子、計算関数、ディメンション名、メンバー名および数値定数を組み合わせてメンバー式を定義することによって、メンバーの計算を実行できます。メンバー式には次も含まれます。


- 式で許可される演算子タイプ、関数、値、メンバー名、UDA など。
- 式に展開するスマート・リスト値またはデータベースのリフレッシュにおける値を含む事前定義済の数式。

ベスト・プラクティス:

- メンバー式は、レベル 0 のメンバーにのみ使用します。
- レポートに必要な場合を除き、カスタム・ディメンションにはメンバー式を使用しないでください。
- 連結のパフォーマンスを考慮して、増減ディメンションにはメンバー式を使用しないでください。
- 2 パス計算は、勘定科目ディメンションでのみ使用することをお勧めします。
- カスタム・メンバー式を合計貸借対照表階層の下に追加しないでください。
- レベル 0 メンバーは、メンバー式のない動的計算にできません。
- 式を含むリーフ動的計算勘定科目メンバーまたは動的計算勘定科目の親を 2 パス計算として設定することは避けてください。かわりに、解決順序を使用します。2 パス計算オプションでは勘定科目は最後のディメンションとして計算されますが、これは不要な場合があります。
- このトピックで説明した関数をメンバー式内で使用することは避けてください：  
[https://docs.oracle.com/en/cloud/saas/enterprise-performance-management-common/ecalc/working\\_with\\_essbase\\_hybrid.html](https://docs.oracle.com/en/cloud/saas/enterprise-performance-management-common/ecalc/working_with_essbase_hybrid.html)。これらの関数は、ハイブリッド Essbase ではサポートされていません。
- 比率など、集約後に計算可能な式を確認します。解決順序を高くして動的に計算します。
- 集約前に計算する必要がある式を確認します。パフォーマンスが低い場合は、保管済メンバーにすることを検討し、計算スクリプトを使用します。
- ローリング予測など、多数のデータ・ブロックからデータを取得する必要がある式を確認します。パフォーマンスが低い場合は、保管済メンバーにすることを検討し、計算スクリプトを使用します。
- 式内で#MISSING を返すことを避けます。


```
IF("Account A" + Account B" < 0)
  "Account C";
ELSE
  #MISSING;
ENDIF
Good Example:
IF("Account A" + Account B" < 0)
  "Account C";
ENDIF
```

簡易ディメンション・エディタでメンバー式を定義または編集するには:

1. 「メンバー・プロパティの編集」を表示します。  
簡易ディメンション・エディタへのアクセスを参照してください。
2. グリッドのデフォルト式列で、式を定義または編集するメンバーを選択します。次のいずれかのオプションを使用して、メンバーの式を定義または編集します。
  - ディメンション・エディタ・グリッドのセルをもう一度クリックし、式を入力または編集します。
  - ディメンション・エディタ・グリッドの上部にある式バー内をクリックして、式を入力または編集します。
  - 式バーの横にある  をクリックして、式を入力または編集します。

 ヒント:

式にメンバー名を含めるには、グリッドの式セルにフォーカスを置いたままにします。**[Ctrl]**を押しながら、式に含めるメンバーの名前をクリックします。メンバー名が式バーに表示されます。

- 3. オプション:** メンバー式の妥当性をチェックするには、式バーの横にある  をクリックしてから、「検証」をクリックします。
- 4. 「保存」** をクリックします。
- 5. メンバー式の説明を確認するには、列を右クリックし、「デフォルト・モード」オプションの選択を解除して、「連結メンバー式の説明」列を表示します。**

## Microsoft Excel からのメンバー名のコピー

Microsoft Excel から名前をコピーして貼り付けるには:

- 1. Excel** で、1 つのセルまたはセル範囲のメンバー名をハイライトして、**[Ctrl]**を押しながら**[C]**を押してデータをクリップボードにコピーします。
- 「簡易」ディメンション・エディタで 1 つまたは複数のターゲット・セルをハイライト表示して選択し、**[Ctrl]**を押しながら**[V]**を押します。
- クリップボード・ヘルパーが表示されたら、再度**[Ctrl]**を押しながら**[V]**を押します。データがクリップボード・ヘルパーに貼り付けられます。
- 「貼付け」** をクリックして、簡易ディメンション・エディタにデータを貼り付けます。

## 簡易ディメンション・エディタでのディメンション・プロパティの編集

簡易ディメンション・エディタで「ディメンション・プロパティの編集」タブを開くには、ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「概要」をクリックします。「ディメンション」をクリックしてから、ディメンション・プロパティを表示するディメンションの名前をクリックします。

表 12-1 ディメンション・プロパティ

プロパティ	値
ディメンション	ディメンション全体で一意である名前を入力します。
説明	<b>オプション:</b> 説明を入力します。
「別名表」 および 「別名」	<b>オプション:</b> 別名表を選択します。ディメンションの代替名を入力します。 <a href="#">別名表の操作</a> を参照してください。
キューブ	ディメンションが有効になっているキューブを選択します。このオプションをクリアすると、ディメンションのすべてのメンバーが、選択を解除したキューブに対して無効になります。

表 12-1 (続き) ディメンション・プロパティ

プロパティ	値
2 パス計算	親メンバーまたは他のメンバーの値に基づいてメンバーの値を再計算します。「動的計算」プロパティで、勘定科目およびエンティティ・メンバーに使用できます。
セキュリティの適用	ディメンション・メンバーにセキュリティの設定を行います。ディメンション・メンバーにアクセス権を割り当てる前に選択してください。そうしない場合、ディメンションにセキュリティが設定されず、ユーザーはメンバーに無制限にアクセスできます。
データ・ストレージ	<p>データ・ストレージ・オプションを選択します。デフォルトは「共有しない」です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>保管</b> - メンバーの保管データ値。</li> <li>• <b>動的計算</b> - メンバーのデータ値を計算し、値を無視します。</li> <li>• <b>共有しない</b> - 同じディメンション内のメンバーでデータ値を共有することを禁止します。</li> <li>• <b>ラベルのみ</b> - メンバーに関連付けられたデータがありません。</li> <li>• <b>共有</b> - 同じディメンション内のメンバーでデータ値を共有することを許可します。</li> </ul> <p>データ・ストレージ・オプションを参照してください。</p>
表示オプション	<p>「メンバー選択」ダイアログ・ボックスのアプリケーションのデフォルト表示オプションを設定します。メンバーまたは別名を表示するには、「メンバー名」または「別名」を選択します。「メンバー名:別名」では、左側にメンバーが表示され、右側に別名が表示されます。「別名:メンバー名」では、左側に別名が表示され、右側にメンバーが表示されます。</p>
階層タイプ	<p>集約ストレージ・キューブにバインドされたディメンションに使用できます。集約ストレージ・ディメンションは、複数階層をサポートするために自動的に有効になります。複数階層のディメンションの最初の階層は「保管済」である必要があります。</p> <p>「保管済」階層タイプのメンバーについては、有効なキューブ集約オプションは「加算」または「無視」のみです。保管階層で、最初のメンバーを「加算」に設定する必要があります。「動的」階層タイプのメンバーについては、すべてのキューブ集約オプションが有効です。「ラベルのみ」メンバーの子ではない「保管済」階層では、集計演算子として「加算」を指定する必要があります。「ラベルのみ」メンバーの子は「無視」に設定できます。</p>
カスタム属性	ディメンションのカスタム属性の「作成」または「同期」をクリックします。

## 簡易ディメンション・エディタでのメンバー・プロパティの編集

簡易ディメンション・エディタ・グリッドの各列は、メンバー・プロパティを表しています。グリッドに最初から表示されるプロパティのリスト(列)は、編集しているディメンション・タイプによって異なります。列のレイアウトは、列を非表示にする、表示する、サイズを変える操作でカスタマイズできます。「**デフォルト・モード**」オプションをクリアして、プロパティの全セット(すべての列)を表示することもできます。簡易ディメンション・エディタ・グリッドで列レイアウトをカスタマイズするには、[列レイアウトのカスタマイズ](#)を参照してください。

簡易ディメンション・エディタには、ディメンション・メンバー式の説明を入力するオプションの列が含まれています。「式の説明」列は、そのメンバー式を使用してセル値がどのように決定されたかを理解するために役立ちます。

簡易ディメンション・エディタで「**メンバー・プロパティの編集**」タブを開くには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**概要**」をクリックします。
2. 「**ディメンション**」をクリックしてから、メンバー・プロパティを表示するディメンションの名前をクリックします。
3. 「**メンバー・プロパティの編集**」をクリックします。
4. 簡易ディメンション・エディタ・グリッドでメンバー・プロパティを編集するには、グリッド・セル内をクリックしてテキストを編集するか、ドロップダウン・メニューを開いて、そこからメンバー・プロパティを選択します。行および列でメンバー・プロパティをドラッグ・アンド・ドロップして、同じプロパティを埋めることもできます。

[簡易ディメンション・エディタ・グリッドの操作](#)を参照してください。

5. メンバー式の説明を確認するには、列を右クリックし、「**デフォルト・モード**」オプションの選択を解除して、「**連結メンバー式の説明**」列を表示します。

次の表に、デフォルトのディメンション・メンバー・プロパティを示します。

メンバー・プロパティの詳細は、[ディメンションの操作](#)を参照してください。

表 12-2 勘定科目メンバー・プロパティ

プロパティ	有効な値	デフォルト値
勘定科目タイプ	費用、収益、資産、負債、資本、 保存された仮定	費用
差異レポート	費用、費用外	費用外
為替レート・タイプ	レートなし、平均、期末、履歴、 履歴レート・オーバーライド、履 歴金額オーバーライド 「平均」および「期末」は「レ ートなし」とみなされます。	レートなし
Consol 集計演算子	加算、減算、乗算、除算、パーセ ント、無視、なし	加算
レート集計演算子	加算、減算、乗算、除算、パーセ ント、無視、なし	加算

**表 12-2 (続き) 勘定科目メンバー・プロパティ**

プロパティ	有効な値	デフォルト値
Consol データ・ストレージ	親メンバー: 動的計算、ラベルのみ 子メンバー: 共有しない、動的計算、ラベルのみ、共有	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 共有しない
デフォルトのデータ・ストレージ	親メンバー: 動的計算、ラベルのみ 子メンバー: 共有しない、動的計算、ラベルのみ、共有	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 共有しない
レート・データ・ストレージ	親メンバー: 動的計算、ラベルのみ 子メンバー: 共有しない、動的計算、ラベルのみ、共有	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 共有しない
2 パス計算	いいえ、はい	いいえ
スマート・リスト	なし	なし
データ型	通貨、通貨以外、未指定、パーセンテージ、スマート・リスト、日付、テキスト	通貨
タイム・バランス	フロー、残高	フロー
CICTA リダイレクション勘定科目	なし	なし
CICTA 勘定科目である	なし	なし
会社間勘定	なし	なし
調整勘定	なし	なし
調整勘定である	なし	なし
デフォルトの増減	なし	なし
インデックス付き属性	なし	なし
別名表	デフォルト	デフォルト
動的な子に対して使用可能	いいえ	いいえ
使用可能な動的な子の数	10	10
メンバー作成者に付与されたアクセス権	継承	継承

**表 12-3 連結メンバー・プロパティ**

プロパティ	有効な値	デフォルト値
メンバー作成者に付与されたアクセス権	継承	継承
別名表	デフォルト	デフォルト
Consol データ・ストレージ	親メンバー: 動的計算、ラベルのみ 子メンバー: 保管	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 保管

表 12-3 (続き) 連結メンバー・プロパティ

プロパティ	有効な値	デフォルト値
デフォルトのデータ・ストレージ	親メンバー: 動的計算、ラベルのみ 子メンバー: 保管	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 保管
レート・データ・ストレージ	親メンバー: 動的計算、ラベルのみ 子メンバー: 保管	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 保管
2 パス計算	いいえ	いいえ
Consol 集計演算子	加算、なし	加算
レート集計演算子	加算、なし	加算
データ型	未指定	未指定
スマート・リスト	なし	なし
動的な子に対して使用可能	いいえ	いいえ
使用可能な動的な子の数	10	10
メンバー作成者に付与されたアクセス権	継承	継承

表 12-4 通貨メンバー・プロパティ

プロパティ	有効な値	デフォルト値
別名表	デフォルト	デフォルト
デフォルトのデータ・ストレージ	保管、動的計算、共有しない、ラベルのみ	保管
2 パス計算	いいえ、はい	いいえ
データ型	未指定	未指定
スマート・リスト	なし	なし
記号	事前定義済リスト	なし
スケール	事前定義済リスト	1
精度	事前定義済リスト	なし
レポート通貨	いいえ、はい	いいえ
3 桁ごとの区切り文字	事前定義済リスト	なし
小数	事前定義済リスト	期間
負数の符号	事前定義済リスト	先頭のマイナス
負数の色	黒、赤	黒

表 12-5 カスタム・メンバー・プロパティ

プロパティ	有効な値	デフォルト値
別名表	デフォルト	デフォルト
Consol データ・ストレージ	共有しない、共有、動的計算	共有しない
デフォルトのデータ・ストレージ	共有しない、共有、動的計算	共有しない

**表 12-5 (続き) カスタム・メンバー・プロパティ**

プロパティ	有効な値	デフォルト値
レート・データ・ストレージ	共有しない、共有、動的計算	共有しない
2 パス計算	いいえ	いいえ
Consol 集計演算子	加算、減算、乗算、除算、パーセント、無視、なし	加算
データ型	通貨、通貨以外、未指定、パーセンテージ、スマート・リスト、日付、テキスト	通貨
スマート・リスト	なし	なし
動的な子に対して使用可能	いいえ	いいえ
使用可能な動的な子の数	10	10
メンバー作成者に付与されたアクセス権	継承	継承

**表 12-6 データソース・メンバー・プロパティ**

プロパティ	有効な値	デフォルト値
別名表	デフォルト	デフォルト
Consol データ・ストレージ	親メンバー: 動的計算、共有、ラベル 子メンバー: 共有、動的計算	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 保管
デフォルトのデータ・ストレージ	親メンバー: 動的計算、共有、ラベル 子メンバー: 共有、動的計算	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 保管
レート・データ・ストレージ	親メンバー: 動的計算、共有、ラベル 子メンバー: 共有、動的計算	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 保管
2 パス計算	いいえ、はい	いいえ
Consol 集計演算子	加算、減算、乗算、除算、パーセント、無視、なし	加算
データ型	未指定	未指定
スマート・リスト	なし	なし
動的な子に対して使用可能	いいえ	いいえ
使用可能な動的な子の数	10	10
メンバー作成者に付与されたアクセス権	継承	継承

**表 12-7 エンティティ・メンバー・プロパティ**

プロパティ	有効な値	デフォルト値
基本通貨	レート・キューブの通貨(「なし」には設定できません)	レート・キューブの通貨(「なし」には設定できません)
Consol データ・ストレージ	共有しない、共有	共有しない



表 12-7 (続き) エンティティ・メンバー・プロパティ

プロパティ	有効な値	デフォルト値
デフォルトのデータ・ストレージ	共有しない、共有	共有しない
レート・データ・ストレージ	共有しない、共有	共有しない
2 パス計算	いいえ、はい	いいえ
Consol 集計演算子	無視	無視
レート集計演算子	無視	無視
データ型	通貨、通貨以外、未指定、パーセンテージ、スマート・リスト、日付、テキスト	未指定
スマート・リスト	なし	なし
会社間(属性ディメンション)	親メンバー: なし、はい 子メンバー: なし	親メンバー: なし 子メンバー: なし
動的な子に対して使用可能	いいえ	いいえ
使用可能な動的な子の数	10	10
メンバー作成者に付与されたアクセス権	継承	継承

表 12-8 会社間メンバー・プロパティ

プロパティ	有効な値	デフォルト値
別名表	デフォルト	デフォルト
Consol データ・ストレージ	共有しない	共有しない
デフォルトのデータ・ストレージ	共有しない	共有しない
レート・データ・ストレージ	共有しない	共有しない
2 パス計算	いいえ	いいえ
Consol 集計演算子	加算	加算
データ型	未指定	未指定
スマート・リスト	なし	なし
動的な子に対して使用可能	いいえ	いいえ
使用可能な動的な子の数	10	10
メンバー作成者に付与されたアクセス権	継承	継承

表 12-9 増減メンバー・プロパティ

プロパティ	デフォルト値	有効な値
別名表	デフォルト	デフォルト
Consol データ・ストレージ	親メンバー: 共有しない、動的計算、共有、ラベルのみ 子メンバー: 共有しない、共有、ラベルのみ	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 共有しない

**表 12-9 (続き) 増減メンバー・プロパティ**

プロパティ	デフォルト値	有効な値
デフォルトのデータ・ストレージ	親メンバー: 共有しない、動的計算、共有、ラベルのみ 子メンバー: 共有しない、共有、ラベルのみ	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 共有しない
2 パス計算	いいえ	いいえ、はい
Consol 集計演算子	加算	加算、減算、乗算、除算、パーセント、無視、なし
データ型	通貨、通貨以外、未指定、パーセンテージ、スマート・リスト、日付、テキスト	通貨
スマート・リスト	なし	なし
動的な子に対して使用可能	いいえ	いいえ
使用可能な動的な子の数	10	10
メンバー作成者に付与されたアクセス権	継承	継承

**表 12-10 期間メンバー・プロパティ**

プロパティ	有効な値	デフォルト値
別名表	デフォルト	デフォルト
Consol データ・ストレージ	親メンバー: 動的計算、共有 子メンバー: 保管、共有	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 保管
デフォルトのデータ・ストレージ	親メンバー: 動的計算、共有 子メンバー: 保管、共有	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 保管
レート・データ・ストレージ	親メンバー: 動的計算、共有 子メンバー: 保管、共有	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 保管
2 パス計算	いいえ、はい	いいえ
データ型	未指定	未指定
Consol 集計演算子	加算	加算
レート集計演算子	加算	加算
スマート・リスト	なし	なし
承認に対して使用可能	親メンバー: いいえ 子メンバー: はい	親メンバー: いいえ 子メンバー: はい

**表 12-11 シナリオ・メンバー・プロパティ**

プロパティ	有効な値	デフォルト値
別名表	デフォルト	デフォルト

表 12-11 (続き) シナリオ・メンバー・プロパティ

プロパティ	有効な値	デフォルト値
開始年 このプロパティは Financial Consolidation and Close では使用されず、無視されます。	アプリケーションにおけるすべての年	最初の年
開始期間 このプロパティは Financial Consolidation and Close では使用されず、無視されます。	有効な値から選択します	有効な値から選択します
終了年 このプロパティは Financial Consolidation and Close では使用されず、無視されます。	アプリケーションにおけるすべての年	前年
終了期間 このプロパティは Financial Consolidation and Close では使用されず、無視されます。	有効な値から選択します	有効な値から選択します
BegBal を期間として含める このプロパティは Financial Consolidation and Close では使用されず、無視されます。	はい、いいえ	いいえ
承認に対して使用可能	はい、いいえ	はい
為替レート表 このプロパティは Financial Consolidation and Close では使用されず、無視されます。	なし	なし
Consol データ・ストレージ	親メンバー: 動的計算、共有 子メンバー: 共有しない、共有	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 共有しない
デフォルトのデータ・ストレージ	親メンバー: 動的計算、共有 子メンバー: 共有しない、共有	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 共有しない
レート・データ・ストレージ	共有しない	共有しない
2 パス計算	親メンバー: いいえ、はい 子メンバー: いいえ	親メンバー: いいえ 子メンバー: いいえ
Consol 集計演算子	加算、減算、乗算、除算、パーセント、無視、なし	加算
レート集計演算子	加算、減算、乗算、除算、パーセント、無視、なし	加算
データ型	通貨、通貨以外、未指定、パーセンテージ、スマート・リスト、日付、テキスト	未指定
スマート・リスト	なし	なし
動的な子に対して使用可能	いいえ	いいえ
使用可能な動的な子の数	10	10
メンバー作成者に付与されたアクセス権	継承	継承

表 12-12 ビュー・メンバー・プロパティ

プロパティ	有効な値	デフォルト値
別名表	デフォルト	デフォルト
プロセス管理の使用可能	はい	はい
Consol データ・ストレージ	共有しない、動的計算	共有しない
レート・データ・ストレージ	共有しない	共有しない
2 パス計算	いいえ	いいえ
Consol 集計演算子	無視	無視
データ型	未指定	未指定
スマート・リスト	なし	なし
動的な子に対して使用可能	いいえ	いいえ
使用可能な動的な子の数	10	10
メンバー作成者に付与されたアクセス権	継承	継承

表 12-13 年メンバー・プロパティ

プロパティ	デフォルト値	有効な値
別名表	デフォルト	デフォルト
Consol データ・ストレージ	親メンバー: 動的計算、保管、共有 子メンバー: 保管、共有	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 保管
デフォルトのデータ・ストレージ	親メンバー: 動的計算、保管、共有 子メンバー: 保管、共有	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 保管
レート・データ・ストレージ	親メンバー: 動的計算、保管、共有 子メンバー: 保管、共有	親メンバー: 動的計算 子メンバー: 保管
2 パス計算	いいえ	いいえ
データ型	未指定	通貨、通貨以外、未指定、パーセンテージ、スマート・リスト、日付、テキスト
スマート・リスト	なし	なし

## 簡易ディメンション・エディタでのメンバーの追加

簡易ディメンション・エディタでメンバーを追加するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「概要」をクリックします。
2. 「ディメンション」をクリックします。
3. 「キューブ」の横にある下矢印をクリックして、ディメンションのリストをキューブでフィルタします。
4. 更新するディメンションの名前をクリックします。

5. 「メンバー・プロパティの編集」をクリックします。

 ヒント:

別のディメンションを選択するには、ページ上部のディメンション名の横にある下矢印をクリックします。

6. メンバーの追加:
  - 子メンバーを追加するには、親レベルのメンバーを選択し、「子の追加」をクリックします。
  - 兄弟メンバーを追加するには、メンバーを選択し、「兄弟の追加」をクリックします。
7. メンバー・プロパティを設定または変更するには、「メンバー・プロパティの編集」グリッドでセルをクリックし、更新します。[簡易ディメンション・エディタでのメンバー・プロパティの編集](#)を参照してください。
8. 保存する前に行った直前の変更を元に戻すには、「元に戻す」をクリックします。
9. 前回の保存以降に行ったすべての変更を元に戻すには、「リフレッシュ」をクリックします。
10. 変更を保存するには、「保存」をクリックします。
11. 保存後に変更内容をアプリケーション全体に適用するには、「データベースのリフレッシュ」をクリックします。
12. ディメンション・メンバーを作成した後、通常は、次のタスクを完了させます。
  - アクセス権を割り当てます。「アクション」をクリックし、「権限の割当て」をクリックします。
  - カスタム属性を割り当てます。
  - メタデータが有効であることを確認するには、いつでもメタデータ検証レポートを実行できます。[メタデータの検証](#)を参照してください。

## 簡易ディメンション・エディタでのメンバーの編集

簡易ディメンション・エディタ・グリッドで、メンバーを直接編集できます。

メンバーを編集するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「概要」をクリックします。
2. 「ディメンション」をクリックします。
3. 「キューブ」の横にある下矢印をクリックして、ディメンションのリストをキューブでフィルタします。
4. 編集するディメンションの名前をクリックします。
5. 「メンバー・プロパティの編集」をクリックします。

 ヒント:

別のディメンションを選択するには、ページ上部のディメンション名の横にある下矢印をクリックします。

6. 次のいずれかを実行します:
  - メンバーを追加するには、[簡易ディメンション・エディタでのメンバーの追加](#)を参照してください。
  - ディメンション・エディタ・グリッドを移動して、特定のメンバー、行または列に編集のフォーカスを当てるには、[簡易ディメンション・エディタ・グリッドの操作](#)を参照してください。
  - メンバー・プロパティを変更するには、ディメンション・エディタ・グリッドでセル内をクリックし、ドロップダウン・リストからオプションを選択します。たとえば、勘定科目ディメンション・メンバーで勘定科目タイプを編集する場合は、「勘定科目タイプ」列のセル内をクリックします。セル内に表示される下矢印をクリックし、「勘定科目タイプ」オプションを選択します。メンバー・プロパティの詳細は、[簡易ディメンション・エディタでのメンバー・プロパティの編集](#)を参照してください。
  - メンバーを削除するには、[簡易ディメンション・エディタでのメンバーの削除](#)を参照してください。
7. 保存する前に行った直前の変更を元に戻すには、「**元に戻す**」をクリックします。
8. 前回の保存以降に行ったすべての変更を元に戻すには、「**リフレッシュ**」をクリックします。
9. 変更を保存するには、「**保存**」をクリックします。
10. 保存後に変更内容をアプリケーション全体に適用するには、「**データベースのリフレッシュ**」をクリックします。

## 簡易ディメンション・エディタでのメンバーの削除

各データ値は、一連のディメンション・メンバー値とキューブによって識別されます。ディメンション・メンバーの削除やキューブの選択の解除を行うと、アプリケーションをリフレッシュしたときにデータが失われます。エンティティ・メンバーを削除すると、それらに関連付けられたすべての承認ユニット(データを含む)が削除されます。

メンバーを削除する前に、「**用途の表示**」を使用して、それらが使用されているアプリケーション内の場所(フォーム、承認ユニット、為替レートなど)を確認します。[アプリケーションでのメンバーの用途の表示](#)を参照してください。

エンティティ・メンバーをディメンションから削除する前に、アプリケーション全体でそれを削除する必要があります。たとえば、エンティティ・メンバーがフォームで使用されている場合には、そのエンティティ・メンバーをディメンションから削除する前に、フォームから削除する必要があります。

大きなエンティティ・サブツリーを削除する際には、最初にすべてのシナリオとバージョンについて(ルート・メンバーを除外することによって)サブツリーの承認ユニットを除外すると、パフォーマンスを向上させることができます。

メンバーを削除するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**概要**」をクリックします。
2. 「**ディメンション**」をクリックします。
3. 「**キューブ**」の横にある下矢印をクリックして、ディメンションのリストをキューブでフィルタします。
4. 削除するメンバーを含むディメンションの名前をクリックします。
5. 「**メンバー・プロパティの編集**」をクリックします。

 **ヒント:**

別のディメンションを選択するには、ページ上部のディメンション名の横にある下矢印をクリックします。

6. ディメンション・エディタ・グリッドから、削除するメンバーを選択します。
7. 「**メンバーの削除**」をクリックします。

 **ノート:**

基本メンバーを削除すると、その共有メンバーも削除されます。

8. 「メンバーの削除」の問合せで、「**OK**」をクリックします。
9. ビジネス・ルールおよびレポートを更新および検証します。

## 簡易ディメンション・エディタでの共有メンバーの追加

メンバーを共有すると、アプリケーション内でロールアップ構造の入れ替えが行えます。共有メンバーを作成する前に基本メンバーが存在する必要があります。基本メンバーに複数の共有メンバーを作成できます。上から下への表示位置では、基本メンバーはその共有メンバーより先に表示されている必要があります。

共有メンバーは、エンティティ、勘定科目、ユーザー定義のカスタム・ディメンションに使用できます。アウトラインをロールアップする際、共有メンバーの値を無視して二重計算を防ぐことができます。

共有メンバーは、メンバーに有効なメンバー名、別名、基本通貨、キューブなどのいくつかのプロパティ定義を基本メンバーと共有します。共有メンバーには、一意の親メンバーおよび異なるロールアップ集約を設定する必要があります。カスタム属性、カスタム属性値およびメンバー式を共有メンバーに使用することはできません。基本メンバーの名前を変更すると、すべての共有メンバーの名前も変更されます。

共有メンバーを別の親メンバーに移動させることはできません。共有メンバーを削除してから、別の親メンバーの下に再度作成する必要があります。基本メンバーをレベル・ゼロにする必要はありません。共有メンバーにデータを入力し、値を基本メンバーとともに保管できます。

簡易ディメンション・エディタで共有メンバーを追加するには:

1. 「**メンバー・プロパティの編集**」を表示します。  
[簡易ディメンション・エディタへのアクセス](#)を参照してください。

2. 共有メンバーの追加:

- a. 基本メンバーと同じ名前で、子メンバーを追加します。
- b. 新規メンバーの「**親の名前**」に、新しい親の名前を入力します。
- c. 新規メンバーの「**デフォルトのデータ・ストレージ**」で、「**共有**」を選択します。

3. 「**保存**」をクリックします。

他のキューブすべてのデータ・ストレージ・プロパティが、自動的に「**共有**」に設定されます。



# ジョブの管理

## 次も参照:

- [ジョブの概要](#)  
ジョブとは、データのエクスポートやデータベースのリフレッシュなどのアクションであり、ただちに開始することも、周期的に実行するようスケジュールすることもできます。
- [保留中のジョブおよび最近のアクティビティの表示](#)
- [ジョブのスケジュール](#)
- [ジョブの編集および削除](#)
- [ジョブの複製](#)
- [連結以外のジョブの表示](#)

## ジョブの概要

ジョブとは、データのエクスポートやデータベースのリフレッシュなどのアクションであり、ただちに開始することも、周期的に実行するようスケジュールすることもできます。

ジョブ・コンソールによって、管理者は、ジョブを中央管理できます。

ジョブ・コンソールでは、次のタイプのジョブを管理できます。

- ルールの実行
- データのインポート
- メタデータのインポート
- データのエクスポート
- メタデータのエクスポート
- データベースのリフレッシュ
- 無効な交差レポートの実行
- ブロック・ストレージ・キューブ(BSO)の再構築
- 仕訳のインポート
- 仕訳テンプレートのインポート
- 仕訳のエクスポート
- 仕訳テンプレートのエクスポート
- タスク・マネージャや補足データ・ジョブなどの非連結ジョブ
- 会社間レポートの実行
- 連結証跡レポートの実行
- 管理モード

- バースト定義の実行
- 無効な交差のインポート
- 有効な交差のエクスポート

 ノート:

スケジュール済ジョブによって自動バックアップが失敗するのを防ぐために、**EPM Cloud** では、日次メンテナンス・プロセスの実行中に特定のスケジュール済ジョブを開始することが禁止されています。次のジョブを日次メンテナンス中に開始することはできません:

- データのインポート
- メタデータのインポート
- データのエクスポート
- メタデータのエクスポート
- データベースのリフレッシュ
- キューブのクリア
- キューブの再構築

システムによってジョブの開始が妨げられた場合、「ジョブの詳細」に理由が示されます。ジョブ・コンソールの電子メール通知を有効にしている場合は、ジョブが開始されなかったときに電子メール通知を受け取ります。日次メンテナンス・プロセス中に開始するようにスケジュールされたジョブがある場合は、日次メンテナンス・ウィンドウ外で開始するようにジョブを再スケジュールすることをお勧めします。[ジョブのスケジュール](#)を参照してください。

## 保留中のジョブおよび最近のアクティビティの表示

ジョブ・コンソールでは、「**保留中のジョブ**」の下に保留中の状態のジョブがリストされます。処理中のジョブ、実行され完了したジョブ、またはエラーが発生したジョブは、「**最近のアクティビティ**」の下にリストされます。

ジョブは、ジョブ・コンソールに 90 日間保持されます。



 ノート:

サービス管理者のみが他のユーザーのジョブを表示できます。

The screenshot shows the Oracle Jobs console interface. On the left, there is a 'Jobs' section with a 'Pending Jobs' tab that is currently empty. On the right, there is a 'Recent Activity' table listing several completed jobs. The jobs listed are:

Job Name	Status	Completion Time
RefreshDataBase_DelegatePostProcess_Consol	Completed	3/18/16 6:09 AM
RefreshDataBase_PostProcess_Rates	Completed	3/18/16 6:09 AM
RefreshDataBase_PostProcess_Consol	Completed	3/18/16 6:09 AM
Refresh Database	Completed	3/18/16 6:09 AM
MetadataLoad_PostProcess_Consol	Completed	3/17/16 2:05 PM

ジョブ・コンソールでジョブ・リストを表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックします。
2. 「ジョブ」をクリックします。
3. 次のタスクを実行します:
  - 保留中のジョブおよび最近のアクティビティのリストをフィルタするには、「フィルタ」アイコン  をクリックして、フィルタ・オプションを選択し、「適用」をクリックします。
  - ジョブを検索するには、「検索」フィールドにテキストを入力し、「検索」アイコン  をクリックします。
  - ジョブの詳細を表示するには、ジョブの名前をクリックします。
  - タスク・マネージャおよび補足データのジョブの詳細を表示するには:
    - a. 左側の「連結以外のジョブ」タブを選択します。
    - b. オプション: 名前、ジョブ ID、ソース、ステータス、作成者(または変更者)、開始日または終了日でジョブ・リストをフィルタします。

[連結以外のジョブの表示](#)も参照してください。

## ジョブのスケジュール

ジョブの実行時期(ただちにまたは将来)および実行頻度(一度、毎日、毎週、毎月、毎年)をスケジュールできます。

ジョブをスケジュールするには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックします。
2. 「ジョブ」をクリックします。
3. 「ジョブのスケジュール」をクリックします。
4. 「ジョブのスケジュール」ページの「全般」タブで、ジョブのタイプを選択します。
  - **ルール - ビジネス・ルール**を起動します。「ビジネス・ルール」ページには、アプリケーションに作成されたビジネス・ルールがリストされます。
  - **データのインポート** - ジョブとして保存されたデータ・インポート操作を実行します。

- **メタデータのインポート** - ジョブとして保存されたメタデータ・インポート操作を実行します。
- **データのエクスポート** - ジョブとして保存されたデータ・エクスポート操作を実行します。
- **メタデータのエクスポート** - ジョブとして保存されたメタデータ・エクスポート操作を実行します。
- **データベースのリフレッシュ** - アプリケーション・データベースをリフレッシュします。
- **無効な交差レポート** - データが無効な交差に存在する場所を示すレポートを実行します。
- **キューブの再構築** - 「キューブ」から、再構築するキューブを選択します。ブロック・ストレージ・キューブ(BSO)の再構築をすべて実行して、断片化を消去または削減します。これにより、空のブロックも削除されます。これは、集約ストレージ・キューブ(ASO)には適用できません。[キューブの再構築](#)を参照してください。
- **仕訳のインポート** - 仕訳インポート操作を実行します。
- **仕訳テンプレートのインポート** - 仕訳テンプレートのインポート操作を実行します。
- **仕訳のエクスポート** - 仕訳エクスポート操作を実行します。
- **仕訳テンプレートのエクスポート** - 仕訳テンプレートのエクスポート操作を実行します。
- **会社間レポートの実行** - 会社間レポートを実行します。
- **連結証跡レポートの実行** - 連結証跡レポートを実行します。
- **管理モード** - アプリケーションのログイン・レベルを変更します。「管理者」を選択すると、ジョブの実行後にすべての非管理者ユーザーがアプリケーションからログオフされます。すべてのユーザーがアプリケーションにアクセスできるように復元するには、「**すべてのユーザー**」を選択します。
- **バースト定義の実行** - Reports 用に保存されたバースト定義を実行します。1つのデータ・ソースの単一ディメンションの複数メンバーに対して、単一のレポートまたはブックを実行し、各メンバーの PDF 出力を公開できます。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud レポートでの設計のバーストに関する項を参照してください。*
- **無効な交差のインポート** - 無効な交差のインポート操作を実行します。
- **無効な交差のエクスポート** - 無効な交差のエクスポート操作を実行します。
- **統合パイプライン** - パイプライン定義を実行します。このジョブでは、データ統合ユーザー・インタフェースでパイプラインについて定義されたパラメータおよび変数(「**開始期間**」や「**インポート・モード**」など)に基づいたパイプラインの実行がサポートされています。

ジョブのパラメータおよび変数の詳細は、次のトピックを参照してください:

- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理の「統合」* ジョブ・タイプの使用
- *Enterprise Performance Management Cloud の REST API のパイプラインの実行*

パイプライン定義の作成の詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理*のパイプラインの使用を参照してください。

5. ジョブを実行する時期を選択します。
  - **今すぐ実行**
  - **スケジュール開始日:** 日付、時刻およびタイム・ゾーンを選択します。

 **ノート:**

スケジュール済ジョブによって自動バックアップが失敗するのを防ぐために、EPM Cloud では、日次メンテナンス・プロセスの実行中に特定のスケジュール済ジョブを開始することが禁止されています。システムによってジョブの開始が妨げられた場合、「ジョブの詳細」に理由が示されます。ジョブ・コンソールの電子メール通知を有効にしている場合は、ジョブが開始されなかったときに電子メール通知を受け取ります。日次メンテナンス・プロセス中に開始するようにスケジュールされたジョブがある場合は、日次メンテナンス・ウィンドウ外で開始するようにジョブを再スケジュールすることをお勧めします。日次メンテナンス操作および環境のメンテナンス開始時刻のスケジュールの詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*の[日次メンテナンスの管理](#)を参照してください。


6. ジョブの**名前**を入力します(MyWeeklyCubeRefresh など)。

「**ジョブ**」コンソールのジョブ・リストに、入力した名前とシステムで生成されたジョブ名(MyWeeklyCubeRefresh: Refresh Database など)が表示されます。
7. 「**繰り返しパターン**」で、ジョブを実行する頻度を選択します。
  - **1 回実行**
  - **毎日**
  - **毎週**
  - **毎月**
  - **毎年**
8. **オプション:** 終了日を入力するには、「**終了日**」チェック・ボックスを選択し、日付と時刻を選択します。
9. 「**次**」をクリックして続行します。
10. 「**ジョブの詳細**」ページには、ジョブとして保存された操作がリストされます。ジョブを選択し、「**次**」をクリックします。
11. 「**確認**」ページで、選択内容を確認します。
  - 続行するには、「**終了**」をクリックします。
  - 変更を行うには、「**前**」をクリックします。
  - ジョブを取り消すには、「**取消し**」をクリックします。

## ジョブの編集および削除

保留中のジョブのみを編集でき、保留中または完了したジョブのみを削除できます。一度に 1 つのジョブまたは複数のジョブを削除できます。ジョブが処理中の状態の場合、編集または削除できません。

ジョブを編集または削除するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**ジョブ**」をクリックします。
3. 保留中のジョブの右側で、「**アクション**」アイコン  をクリックし、「**編集**」または「**削除**」を選択します。
4. ジョブを編集するには:
  - a. 「**ジョブの編集**」ページで、ジョブの実行時期および実行頻度を選択し、「**次**」をクリックします。

### ノート:

ジョブのスケジュールのみを編集できます。ジョブ・タイプまたはジョブ名は編集できません。

- b. 選択内容を確認して、「**終了**」をクリックします。
5. 一度に 1 つ以上のジョブを削除するには、削除する 1 つ以上のジョブの横にあるチェック・ボックスを選択し、「**削除**」をクリックします。

## ジョブの複製

「**名前を付けて保存**」オプションを使用して既存のジョブの複製を作成し、ジョブを新規作成するたびに選択が開始されないように更新します。

「**名前を付けて保存**」は次のジョブ・タイプでサポートされています:

- データのエクスポート
- データのインポート
- メタデータのエクスポート
- メタデータのインポート
- データベースのリフレッシュ
- キューブのクリア

### Note:

ジョブ・タイプの詳細は、[ジョブのスケジュール](#)を参照してください。

ジョブを複製するには:

1. 「アプリケーション」、**「概要」** の順にクリックします。
2. 「アクション」 をクリックして、次のアクションのいずれかを選択します:
  - データのエクスポート
  - データのインポート
  - メタデータのエクスポート
  - メタデータのインポート
  - データベースのリフレッシュ
  - キューブのクリア
3. リスト・ページで、複製するジョブの横にある **「アクション」** 列の **...** をクリックし、**「名前を付けて保存」** を選択します。
4. 新規ジョブの名前を入力し、**「OK」** をクリックします。



### 結果

複製ジョブが作成された後に、そのジョブを開いて更新できます。複製ジョブのエラー・ファイルでは、接頭辞として新規ジョブ名が自動的に使用されます。

## 連結以外のジョブの表示

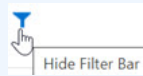
タスク・マネージャや補足データ・ジョブなどの非連結ジョブのページにはジョブがリストされ、ジョブの詳細をフィルタして表示できます。

ジョブを表示するには:

1. ホーム・ページで **「アプリケーション」** をクリックし、**「ジョブ」** をクリックします。
2. 左側のナビゲーションで、 **「連結以外のジョブ」** をクリックします。
3. **オプション:** ジョブを検索するには、**「検索」** テキスト・ボックスに検索条件を入力します。
4. **オプション:** 「フィルタ」バーでフィルタ条件を選択します。
  - **ジョブ ID**
  - **名前**
  - **タイプ**
  - **ソース**
  - **ステータス**
  - **開始日**
  - **終了日**
5.  **Add a Filter** をクリックして、追加のフィルタ条件を選択します。

 **Note:**

フィルタ・バーを非表示にするには、



をクリックします。すべてのフィルタをクリアするには、フィルタ・バーの右側をクリックします。

6. ジョブの横にある



アイコンをクリックして、「**ジョブの詳細**」を表示します。



# 14

## タスクおよびデータの監査

次も参照:

- [監査タスクの構成](#)
- [監査情報の概要](#)
- [監査詳細の表示](#)
- [タスク・マネージャ、補足データおよびエンタープライズ仕訳の監査詳細の表示](#)

### 監査タスクの構成

デフォルトで、すべてのタスク・グループに対して監査追跡が常に有効化されます。任意のタスク・グループの監査オプションを構成および変更できます。

タスクのタスク監査を有効化するには:

1. ホーム・ページで、「**ツール**」をクリックします。
2. 「**監査**」をクリックします。
3. 「**監査情報**」ページで、「**構成**」をクリックします。
4. 「**構成**」ページで、「タスク・グループ」を選択して「**適用**」をクリックします。

選択したタスク・グループに対して監査が開始されます。

### 監査情報の概要

監査情報機能を使用して、ユーザーが実行するタスクを表示できます。監査済タスクは、タスク・グループ(メタデータ管理、フォーム、データなど)、アクション(追加や変更など)、ユーザー ID、開始時間と終了時間によってフィルタできます。

「監査」ページには、「監査」(タスク)、「ソース」、「アクション」、「ユーザー」、「名前」、「日付」、「詳細」、「プロパティ」、「古い値」、「新規の値」といった情報が表示されます。列を昇順または降順にソートできます。

タスク監査情報を表示およびエクスポートするには、サービス管理者である必要があります。次のタイプのユーザー・アクティビティを、タスク監査でログに保存できます。

表 14-1 監査可能なタスク

監査タイプ	追跡される変更
メタデータ管理	メンバーまたはディメンションの追加。プロパティの移動、削除および変更。メンバーおよびディメンションの名前変更
別名表の管理	別名表の作成、コピー、名前変更、削除およびクリア

表 14-1 (続き) 監査可能なタスク

監査タイプ	追跡される変更
データ	セル値および詳細
ルール	計算スクリプトおよびビジネス・ルールによる更新(実行時プロンプトを含む)
仕訳	仕訳アクションと、期間のオープンおよびクローズ・タスク
フォームの定義	作成、修正、行の追加
承認	承認ユニットの所有者およびステータス
セキュリティ	ディメンションのメンバー、フォームおよびビジネス・ルールに対するアクセス権限
ユーザーの管理	追加、変更および削除済のユーザー
データのコピーおよびデータのクリア	コピーおよびクリアされたセル・テキスト、添付およびデータにおけるユーザーの選択
セル詳細のクリア	セル詳細、コメントおよび添付のクリアにおけるユーザーの選択
変数	代替変数およびユーザー変数: 追加、変更および削除済
監査構成	監査オプションの有効化または無効化に対するユーザー変更

- データ - セル値および詳細
- メタデータ管理 - メンバーまたはディメンションの追加。プロパティの移動、削除および変更。メンバーおよびディメンションの名前変更
- データ・フォーム定義 - 作成、修正、行の追加
- ルール - 計算スクリプトおよびビジネス・ルールによる更新(実行時プロンプトを含む)
- 仕訳(仕訳アクションおよび期間タスクのオープンとクローズを含む)
- ユーザー管理 - 追加、変更および削除済のユーザー
- セキュリティ - ディメンションのメンバー、フォームおよびビジネス・ルールに対するアクセス権限
- セル詳細のクリア - セル詳細、コメントおよび添付のクリアにおけるユーザーの選択
- データのコピーおよびデータのクリアの詳細 - コピーおよびクリアされたセル・テキスト、添付ファイルおよびデータに対するユーザーの選択
- 承認 - 承認ユニットの所有者およびステータス
- 変数 - 代替変数およびユーザー変数: 追加、変更および削除済
- タスク・マネージャの履歴
- 監査構成 - 監査オプションの有効化または無効化に対する任意のユーザー変更

「監査レポート」ページには、次の情報が表示されます。

- タスク - タスク名

- 時間 - 日付と時間
- アクション - 追加や変更など
- プロパティ - 監査プロパティ
- 値 — タスクの開始時間と終了時間、および詳細が表示されます

「**タスク・マネージャ 監査**」ページには、タスク・マネージャ関連オブジェクトの履歴レコードが表示されます。次のタスク・マネージャ・オブジェクトが追跡されます。

- アラート
- 属性
- フィルタ(パブリックのみ)
- 休日ルール
- リスト(パブリックのみ。リスト・フィルタ条件および列選択を含む)
- 組織単位
- スケジュール
- 設定
- タスク
- タスク・タイプ
- チーム
- テンプレート

Object	Name	Field	Modification	Old Value	New Value	Modified On	Modified By
Task	Monitor Cube Refresh	Run As	Set		System Admin	Jan 18, 2022 5:25 AM	Administrator
Task	Monitor Cube Refresh	Message	Set		Processing	Jan 18, 2022 5:25 AM	Administrator
Task	Monitor Cube Refresh	Status	Changed	Pending	Open (Assigned)	Jan 18, 2022 5:25 AM	Administrator
Task	Monitor Cube Refresh	Task	Created			Jan 18, 2022 5:23 AM	Administrator
Task	Automated Task - 001	Task	Force Closed			Jan 18, 2022 5:22 AM	Administrator
Task	Automated Task - 001	Status	Changed	Open (Assigned)	Closed (Overridden)	Jan 18, 2022 5:22 AM	Administrator
Task	Automated Task - 001	Message	Set		Error Unable to find a job defined with the name Consol...	Jan 18, 2022 5:22 AM	Administrator
Task	Automated Task - 001	Status	Changed	Open (Assigned)	Error Error Unable to find a job defined with the name Consolodate. Try again with a valid job name.	Jan 18, 2022 5:22 AM	Administrator
Task	Automated Task - 001	Status	Changed	Pending	Open (Assigned)	Jan 18, 2022 5:22 AM	Administrator
Task	Automated Task - 001	Export File Name	Set		task.txt	Jan 18, 2022 5:22 AM	Administrator
Task	Automated Task - 001	Job Name	Set		Consolidate	Jan 18, 2022 5:21 AM	Administrator
Task	Automated Task - 001	Task	Created			Jan 18, 2022 5:20 AM	Administrator
Schedule	Monthly Close	Status	Changed	Pending	Open	Jan 18, 2022 5:19 AM	Administrator
Schedule	Monthly Close	Schedule	Created			Jan 18, 2022 5:18 AM	Administrator

「**補足データ監査**」ページには、補足データ関連のオブジェクトの履歴レコードが表示されます。これらの補足データ・オブジェクトは追跡されます:

- 収集
- 収集間隔
- データ収集期間
- ディメンション
- フィルタ

- フォーム
- リスト
- 設定
- テンプレート

Object	Name	Field	Modification	Old Value	New Value	Modified On	Modified By
Form Template	Credit Details Form	Instruction	Create		Oracle Performance Management - Oracle Cloud EPMhttps://www.o...	Dec 10, 2021 2:28 AM	AT5 Admin1
Form	Form:Credit Details Form   Entity:FCCS,Global Assumptions	Comment	Create		Oracle Performance Management - Oracle Cloud EPMhttps://www.oracle.com/Align...		
Form	Form:Credit Details Form   Entity:FCCS,Global Assumptions	Form	Create		Discover the essential features of an ideal enterprise performance management solution.		
Form Template	Credit Details Form	Users Workflow	Create	0	1	Dec 10, 2021 2:24 AM	AT5 Admin1
Form Template	Credit Details Form	Form Template	Create			Dec 10, 2021 2:22 AM	AT5 Admin1
Data Collection Period	Collection Interval:Default   Year:2021   Period:Dec   Scenario:Actual	Status	Change	Pending	Open	Dec 10, 2021 2:21 AM	AT5 Admin1
Data Collection Period	Collection Interval:Default   Year:mul   Period:mul   Scenario:mul	Data Collection Period	Create			Dec 10, 2021 2:22 AM	AT5 Admin1
Collection	Credit Details Sub Collection	Collection	Create			Dec 10, 2021 2:19 AM	AT5 Admin1
Collection	Credit Collection	Collection	Create			Dec 10, 2021 2:18 AM	AT5 Admin1
Dimension	SCENARIO	Dimension Attribute Scenario Const	Create			Dec 8, 2021 15:41 PM	System Admin
Dimension	SCENARIO	Dimension Attribute Scenario Leaf	Create			Dec 8, 2021 15:41 PM	System Admin
Dimension	SCENARIO	Dimension Attribute Scenario ParentLd	Create			Dec 8, 2021 15:41 PM	System Admin
Dimension	SCENARIO	Dimension Attribute Scenario ParentRd	Create			Dec 8, 2021 15:41 PM	System Admin
Dimension	Movement	Dimension	Create			Dec 8, 2021 15:41 PM	System Admin

「エンタープライズ仕訳監査」ページには、エンタープライズ仕訳関連のオブジェクトの履歴レコードが表示されます。これらのエンタープライズ仕訳オブジェクトは追跡されます:

- 仕訳期間
- ディメンション
- ターゲット
- 仕訳テンプレート
- フィルタ
- リスト
- 設定
- 仕訳

Object	Name	Field	Modification	Old Value	New Value	Modified On	Modified By
Journal Template	Payroll Expenses	Attribute: JOURNAL_ID	Remove	JOURNAL_ID		Dec 10, 2021 2:30 AM	AT5 Admin1
Journal Template	Payroll Expenses	Attribute: SEED_DSA_JOURNAL_NAME	Remove	SEED_DSA_JOURNAL_NAME		Dec 10, 2021 2:30 AM	AT5 Admin1
Journal Template	Payroll Expenses	Attribute: SEED_DSA_JOURNAL_DESC	Remove	SEED_DSA_JOURNAL_DESC		Dec 10, 2021 2:30 AM	AT5 Admin1
Journal Template	Payroll Expenses	Users Workflow	Create	0	1	Dec 10, 2021 2:33 AM	AT5 Admin1
Journal Template	Payroll Expenses	Allow Ad Hoc Forms	Change	No	Yes	Dec 10, 2021 2:42 AM	AT5 Admin1
Journal Template	Payroll Expenses	Form Template	Create			Dec 10, 2021 2:37 AM	AT5 Admin1
Journal Template	Payroll Expenses	Security Privilege: Mike Smith - Ad Hoc form create	Create			Dec 10, 2021 2:42 AM	AT5 Admin1
Journal Template	Payroll Expenses	Form Question: Enter the details of Payroll after selecting the com...	Create			Dec 10, 2021 2:42 AM	AT5 Admin1
Journal Template	Payroll Expenses	Question: Enter the details of Payroll after selecting the com...	Change	Enter the details of Payroll after selecting the c...	Enter the details of Payroll after selecting the com...	Dec 10, 2021 2:43 AM	AT5 Admin1
Journal Template	Payroll Expenses	Users Workflow	Change	1	2		
Journal Template	Payroll Expenses	Instruction	Create		Payroll journal entries are used to record the comp...	Dec 10, 2021 2:45 AM	AT5 Admin1
Journal Template	Payroll Expenses	Reference	Create		PAYROLL LINK DESCRIPTION	Dec 10, 2021 2:45 AM	AT5 Admin1
Journal Template	Payroll Expenses	Instruction	Change	Payroll journal entries are used to record the ...	The Primary Payroll journal entries are used to res...	Dec 10, 2021 2:48 AM	AT5 Admin1
Journal Template	Payroll Expenses	Description	Change	Payroll Expense Journal	Payroll Expense Journal Template	Dec 10, 2021 2:42 AM	AT5 Admin1
Dimension	SCENARIO	Dimension Attribute Scenario Parent	Create			Dec 10, 2021 15:51 AM	AT5 Admin1

## 監査詳細の表示

タスク監査の詳細を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**ツール**」をクリックします。
2. 「**監査**」をクリックします。
3. **オプション: 「タスク・マネージャ監査」** タブをクリックして、タスク・マネージャ関連のオブジェクトの履歴レコードを表示します。 [タスク・マネージャ、補足データおよびエンタープライズ仕訳の監査詳細の表示](#)を参照してください。
4. **オプション: 「補足データ監査」** タブをクリックして、補足データ関連のオブジェクトの履歴レコードを表示します。 [タスク・マネージャ、補足データおよびエンタープライズ仕訳の監査詳細の表示](#)を参照してください。
5. **オプション: 「エンタープライズ仕訳監査」** タブをクリックして、エンタープライズ仕訳関連のオブジェクトの履歴レコードを表示します。 [タスク・マネージャ、補足データおよびエンタープライズ仕訳の監査詳細の表示](#)を参照してください。
6. デフォルトでは、「**監査情報**」ページにはすべてのタスクが表示されます。タスクをフィルタするには、「**フィルタ**」をクリックしてフィルタ条件を選択します。
  - **タスク・グループ** - 1つ以上、または「**すべて**」を選択します。デフォルトは「すべて」です。
    - 「**メタデータ管理**」を選択する場合、メタデータとしてサブタスクを選択できるサブグループのリストが表示されます。
      - \* すべて
      - \* カスタム・ディメンション
      - \* メンバー
      - \* 年
      - \* 別名
      - \* 期間
      - \* 表示
      - \* 通貨
      - \* 連結
      - \* シナリオ
      - \* エンティティ
      - \* ICP
      - \* 勘定科目
    - 「**データ・フォーム**」を選択する場合、フォームとしてサブタスクを選択できるサブグループのリストが表示されます。
      - \* すべて
      - \* フォーム
      - \* フォーム・フォルダ

- 「**データ**」を選択する場合、メンバー交差を入力できる「**交差**」ボックスが表示されます。メンバー交差の全部または一部を入力可能で、システムでは、指定された条件に基づいてワイルドカード検索を実行できます。
- **アクション** - 1つ以上、または「**すべて**」を選択します。
- **ユーザー** - ユーザー ID を入力します。ユーザー ID 情報の全部または一部を入力可能で、システムでは、指定された条件に基づいてワイルドカード検索を実行できます。
- **開始時間** - カレンダーをクリックして開始日を選択します。
- **終了時間** - カレンダーをクリックして終了日を選択します。

 **ヒント:**

「**クリア**」を選択すると、選択内容をクリアし、デフォルト値に戻ることができます。

7. フィルタ条件の選択が完了したら、「**適用**」をクリックします。  
グリッドに、フィルタ条件に一致する監査表から上位 **1,000** レコードが表示されます。スクロールしてすべてのレコードを表示できます。
8. **オプション:**
  - Microsoft Excel スプレッドシートに監査情報をエクスポートするには、「**エクスポート**」をクリックしてダウンロードの指示に従います。「エクスポート」オプションを選択すると、フィルタ条件に一致するすべてのレコードが csv ファイルにエクスポートされます。
  - 監査情報を削除するには、「**削除**」をクリックします。「削除」オプションを選択すると、フィルタ条件に一致するすべてのレコードが削除されます。

**ベスト・プラクティスのヒント:** 四半期末ごとなど、監査ログ・データの定期的なアーカイブおよび削除をスケジュールします。これにより、システム内の監査ログ・データが時間とともに増大することを防ぎます。アーカイブした監査ログ・ファイルは、内部ドキュメント保持ポリシーに従って管理してください。

監査データの定期的なアーカイブをスケジュールする方法の詳細は、[Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作のアプリケーション監査レコードのアーカイブの自動化](#)を参照してください。

 ノート:

- 監査詳細をエクスポートするには、EPM 自動化の `exportAppAudit` コマンドまたは REST API の「監査のエクスポート」ジョブを使用します。Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の [exportAppAudit](#) または Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API の [監査のエクスポート](#) を参照してください。Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の [アプリケーション監査レコードのアーカイブの自動化](#) も参照してください。
- 作成日が 2020 年 7 月 17 日より前のレガシー環境を除くすべての環境に対して、監査の自動削除が行われます。将来のリリースでは、この例外も削除されるため、監査のバックアップを定期的に作成することをお勧めします。

 ノート:

**ドキュメントの PDF バージョンを使用している場合:** これらのスクリプトを使用不能にする改行とフッター情報を回避するために、このトピックの HTML バージョンからスクリプトをコピーしてください。Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の [サンプル・スクリプトのコピー](#) についても参照してください。

## タスク・マネージャ、補足データおよびエンタープライズ仕訳の監査詳細の表示

タスク・マネージャの監査詳細を表示するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」、「監査」の順にクリックします。
2. 「タスク・マネージャ監査」タブを選択します。同様に、「補足データ監査」および「エンタープライズ仕訳監査」タブを選択します。


 ノート:

エンタープライズ仕訳の場合、管理者は、自動生成されたすべての仕訳 ID を順番に追跡できます(これには、当初作成されて、中央監査証跡内に保存される前に取り消された仕訳も含まれます)。

3. **オプション:** オブジェクトを検索するには、「検索」テキスト・ボックスに検索条件を入力します。
4. **オプション:** フィルタ・バーで、次のカテゴリからフィルタ条件を選択します:
  - オブジェクト
  - 名前
  - フィールド

- 変更日
- 変更者
- 変更

#### ノート:

フィルタ・バーを非表示にするには、「フィルタ」アイコン  をクリックします。すべてのフィルタをクリアするには、フィルタ・バーの右にある



アイコンをクリックします。

5. すべての列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、「すべて表示」を選択します。
6. 特定の列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、列名を選択または選択解除します。
7. 列を並べ替えるには、「表示」、「列の順序変更」の順に選択し、列を選択して上矢印または下矢印を使用するか、それらをドラッグして順序を変更します。
8. **オプション:** Microsoft Excel スプレッドシートに監査情報をエクスポートするには、「エクスポート」をクリックしてダウンロードの指示に従います。「エクスポート」オプションを選択すると、フィルタ条件に一致するすべてのレコードが xlsx ファイル(Microsoft Excel バージョン 2007 以降の形式)にエクスポートされます。

ベスト・プラクティスは、監査表を手動でエクスポートし、切り捨てることです。そうしないと、表サイズが非常に大きくなり、ユーザーがアプリケーションにログインできなくなります。

#### ノート:

- 監査情報は 6 か月間保持されます。6 か月間が過ぎた監査情報にアクセスする場合は、その監査レコードをダウンロードし、コピーを保管しておいてください。
- データ監査が有効な場合、「アクション」、「変更履歴」の順に選択して、どのデータが変更されたかを確認できます。



# 有効な交差の定義

## 次も参照:

- [有効な交差の理解](#)  
有効交差を使用して、ユーザーがデータを入力したり実行時プロンプトを選択する場合に、ユーザーに対して特定のセル交差をフィルタするルールを定義できます。
- [有効な交差の作成](#)
- [有効な交差の管理](#)
- [フォーム内の無効データの抑制](#)
- [フォームでの有効交差の操作](#)
- [無効な交差レポートの管理](#)

## 有効な交差の理解

有効交差を使用して、ユーザーがデータを入力したり実行時プロンプトを選択する場合に、ユーザーに対して特定のセル交差をフィルタするルールを定義できます。

たとえば、ある期間や一部の部署にのみ特定のプログラムが有効であることを指定できます。

有効交差を定義した後は、無効なデータを含むセルは読取り専用になります。この制限により、連結プロセスのスピードが向上し、ユーザーに使用可能な情報が最適化されます。

有効交差がフォームおよび実行時プロンプトの動作にどのように影響するかをさらに理解するには、[フォームでの有効交差の操作](#)を参照してください。

有効交差を定義するには、次の有効交差の概念を理解する必要があります。

- 有効交差グループ。[有効交差グループ](#)を参照してください。
- 有効交差ルール。[有効交差ルール](#)を参照してください。
- アンカーおよび非アンカー・ディメンション。[アンカーおよび非アンカー・ディメンション](#)を参照してください。

## 有効交差グループ

有効交差グループで次の内容を定義します:

- 含まれるディメンション
- ディメンションのいずれかをアンカー・ディメンションとする
- 非アンカー・ディメンションが必要かどうか
- 指定されないまたは参照されないアンカー・ディメンション・メンバーは有効か、無効か

## 有効交差ルール

有効交差ルール:

- 有効交差グループ内で定義されたディメンションと同じディメンションを使用する必要があります
- 有効交差のみを定義します
- 同じ有効交差グループ内の有効交差ルールは明らかな競合や重複が生じると、いずれかの有効交差ルールの条件が満たされた場合に、有効とマークされます

例: 同じ有効交差グループ内での冗長または重複有効交差ルールを参照してください。

- 明らかな冗長または重複を発生させる、異なる有効交差グループ内の有効交差ルールは、すべての有効交差グループの要件を満たしている場合、有効とマークされます

したがって、有効交差グループが交差を無効とマークしている場合、他の有効交差グループがその交差を有効とマークしているかどうかにかかわらず、その交差は無効とマークされます無効なグループは有効なグループの結果を上書きします。

### ノート:

有効交差を削除する場合は、他の有効交差グループが許可しているかどうかにかかわらず、このルールは異なる有効交差グループに属する必要があります。

例: 同じ有効交差グループ内での冗長または重複有効交差ルールを参照してください。

## アンカーおよび非アンカー・ディメンション

アンカーおよび非アンカー・ディメンション:

- アンカー・ディメンションは、常に、有効交差の評価で使用されるタイプの必須ディメンションです。

例: 必須のディメンションを参照してください。

- 非アンカー・ディメンションが必須である場合、または必須でない場合:
  - 非アンカー・ディメンションが必須である場合、そのディメンションを使用しないタイプは有効交差グループ(そのディメンションが有効交差を評価すると、必須とタグ付けされます)を無視します。
  - 非アンカー・ディメンションが必須でない場合、そのディメンションを使用しないタイプは、そのディメンションを含む有効交差グループを必須でないとして評価し、そのタイプに含まれる有効交差グループの他のディメンションの交差を評価します。
- 選択していないアンカー・ディメンション・メンバーはデフォルトで有効ですが、「**選択されていないメンバーは有効です**」オプションをクリアすると、これらは無効としてマークできます。このオプションでは、このルールで選択されていないアンカー・ディメンションを含むすべての交差を無効としてマークします。

例: 選択されていないメンバーは有効ですを参照してください。

## 有効な交差の例

ここでは、有効交差グループと有効交差ルールの例を示して、単純、複雑およびエッジケースのシナリオをいくつか説明します。

### 例: アンカーおよび非アンカー・ディメンション

アンカー・ディメンションの選択は重要です。アンカーのディメンション定義に基づいて、異なる結果が作成される次の例を検討してください。

- 有効交差グループ 1 では、アンカー・ディメンションとしてエンティティが定義され、非アンカー・ディメンションとして製品が定義されています。
- 有効交差グループ 2 では、アンカー・ディメンションとして製品が、非アンカー・ディメンションとしてのエンティティとして逆に定義されています。

表 15-1 例 - アンカー・ディメンションはエンティティです

有効交差グループ	アンカー・ディメンション - エンティティ	非アンカー・ディメンション - 製品
1	DESC(500-製造) - 選択されていないメンバーは有効です	DESC(P_TP1 - コンピュータ設備)

グループ 1 は、製造の子孫であるエンティティが、コンピュータ設備の子孫製品でのみ有効であることを意味します。製造の子孫で有効である製品は他にありません。製造の子孫以外のすべてのエンティティは、コンピュータ設備の子孫を含め、すべての製品で有効です。

表 15-2 例 - アンカー・ディメンションは製品です

有効交差グループ	アンカー・ディメンション - 製品	非アンカー・ディメンション - エンティティ
2	DESC(P_TP1 - コンピュータ設備) - 選択されていないメンバーは有効です	DESC(500-製造)

グループ 2 は、コンピュータ設備の子孫である製品が、製造の子孫エンティティでのみ有効であることを意味します。他のエンティティは、コンピュータ設備の子孫で有効ではありません。コンピュータ設備の子孫以外のすべての製品は、製造の子孫を含め、すべてのエンティティで有効です。

#### ▲ 注意:

アンカー・ディメンションの選択は重要です。間違ったアンカー・ディメンションを選択した場合、非常に異なる結果になります。

## 例: 必須のディメンション

次の例では、非アンカー・ディメンションが必須ではない場合、システムは、必須ではないディメンションを含まないタイプの有効交差グループ内のすべての残りのディメンション交差を評価します。この動作では、1つの有効なディメンションのみを含む有効交差グループの評価が発生する可能性があります。

表 15-3 例 - 必須と必須ではない非アンカー・ディメンション

有効交差グループ	アンカー・ディメンション・エンティティ	非アンカー・ディメンション・製品
1	DESC(500-製造) - 選択されていないメンバーは有効です	DESC(P_TP1 - コンピュータ設備) - 必須ではない

グループ 1 では、製品ディメンションは必須ではなく、選択されていないエンティティは有効です。したがって、実行時、フォームまたはビジネス・ルールのタイプに製品ディメンションが含まれない場合、システムではエンティティ・ディメンションの選択内容が評価され、製品ディメンションを含まないタイプに対してすべてのエンティティが有効とマークされます。

表 15-4 例 - 必須と必須ではない非アンカー・ディメンション

有効交差グループ	アンカー・ディメンション・エンティティ	非アンカー・ディメンション・製品
2	DESC(500-製造) - 選択されていないメンバーは無効です	DESC(P_TP1 - コンピュータ設備) - 必須ではない

グループ 2 では、製品ディメンションは必須ではなく、選択されていないエンティティは無効です。したがって、タイプに製品ディメンションが含まれない場合、システムではエンティティ・ディメンションの選択内容が評価され、製品の子孫を除くすべてのエンティティが無効とマークされます。したがって、製品ディメンションを使用しないタイプでは、製造エンティティの子孫でのデータ入力のみが許可されます。

### ▲ 注意:

非アンカー・ディメンションが必須であるかどうか、特に 1 つの有効なディメンションのみを含む有効交差グループが結果に残されているかどうかを注意深く検討してください。また、アンカー・ディメンション・メンバーに対する「**選択されていないメンバーは有効です**」オプションの選択も、有効交差のシステム動作で重要な役割を果たします。例: [選択されていないメンバーは有効です](#)を参照してください。

## 例: 選択されていないメンバーは有効です

次の例では、2つの交差グループが有効です。1つのグループで、アンカー・ディメンションの選択されていないメンバーは無効です(このオプションはクリアされています)。他のグループで、アンカー・ディメンションの選択されていないメンバーは有効です(このオプションは選択されています)。

表 15-5 例 - 選択されていないメンバーは有効です

有効交差グループ	アンカー・ディメンション - 勘定科目	非アンカー・ディメンション - エンティティ
1	IDESC(BS - 貸借対照表) - 選択されていないメンバーは無効です	000 - 部署なし
2	IDESC(GP - 総利益) - 選択されていないメンバーは有効です	IDESC(403 - 売上)

ビジネス・グループ 1 では、すべての選択されていないメンバーが無効と定義されており、システムによって、貸借対照表に含まれない子孫が無効とマークされます。総利益は、貸借対照表に含まれる子孫ではありません。したがって、グループ 2 は、総利益に含まれる子孫が、売上エンティティに含まれる子孫で有効であることを明示的に示していますが、グループ 1 の無効定義は、同じアンカー・ディメンション・メンバー・セットの有効交差を上書きします。

## 例: 同じ有効交差グループ内での冗長または重複有効交差ルール

有効交差ルールが同じ有効交差グループにあり、冗長または重複が生じる場合、有効交差グループのいずれかの要件が満たされたときにのみ、交差は有効とマークされます。

表 15-6 例 - 同じ有効交差グループ内での冗長または重複有効交差ルール

有効交差ルール	アンカー・ディメンション - 勘定科目	非アンカー・ディメンション - エンティティ
1	IDESC(GP - 総利益) - 選択されていないメンバーは無効です	IDESC(403 - 売上)
2	IDESC(GP - 総利益) - 選択されていないメンバーは有効です	IDESC(TD - 部署合計)

総利益が純利益の子孫で、売上が部署合計の子孫であるため、総利益に含まれる子孫は、部署合計に含まれる利益で有効です。ルール 1 はルール 2 のサブセットなので、実際は、ルール 1 は操作なしのルールであり、不要です。総利益勘定科目に含まれる子孫に制限はなく、売上エンティティに含まれる子孫に対してのみ有効です。

## 例: 異なる有効交差グループでの冗長または重複有効交差ルール

有効交差ルールが異なる有効交差グループにあり、冗長または重複が生じる場合、すべての有効交差グループの要件が満たされたときにのみ、交差は有効とマークされます。

次の例では、異なるグループに冗長または重複するルールがあります。

表 15-7 例 - 異なる有効交差グループでの冗長または重複有効交差ルール

有効交差ルール	アンカー・ディメンション - 勘定科目	非アンカー・ディメンション - エンティティ
1	IDESC(GP - 総利益) - 選択されていないメンバーは有効です	IDESC(403 - 売上) - 必須
2	IDESC(NI - 純利益) - 選択されていないメンバーは有効です	IDESC(TD - 部署合計) - 必須ではない

グループ 1 は、売上エンティティに含まれる子孫で有効である、総利益勘定科目に含まれる子孫を制限するため、システムでは、このグループがこれらの交差に使用されます。他の総利益以外の勘定科目は、部署合計エンティティに含まれるすべての子孫を使用できますが、総利益勘定科目に含まれる子孫は、売上エンティティに含まれる子孫を使用する必要があります。

## 有効交差ルールの冗長または重複

同じ交差グループ内の有効交差ルールで、明らかな競合や重複が生じると、いずれかの有効交差ルールの条件が満たされた場合に、有効とマークされます。

異なる有効交差グループが、アンカー・ディメンション、必須または必須でない非アンカー・ディメンション、および「**選択されていないメンバーは有効です**」属性を含め、同じ属性を共有している場合、これらは、同じ有効交差グループのルールとして扱われます。

## 共有メンバーおよび有効交差ルール

共有メンバーは、有効交差ルールでサポートされています。基本メンバーが有効交差ルールに対して選択されている場合、共有メンバーもルールに含まれます。あるいは、共有メンバーが有効交差ルールに対して選択されている場合、基本メンバーもルールに含まれます。

## 代替変数および有効交差ルール

有効交差ルールで代替変数を使用できます。ユーザー変数はサポートされていません。代替変数は、サーバー、アプリケーションまたはデータベース・レベルで設定できます。同じ代替変数が複数のレベルで存在します。システムは、次の順序で検索するときに検出される最初の代替変数を使用します。

1. データベース
2. アプリケーション
3. サーバー

## 評価順序

有効交差グループの評価順序は、無効な結果セットをできるかぎり速く順序付けし、有効交差の評価全体の速度および効率性を向上させます。






たとえば、システムでは、リスト内の最初の有効交差グループ、次に 2 番目のグループというように順番に評価されます。無効として定義された交差は、他の有効交差ルールの結果より優先されるため、リスト内の 2 番目のグループで無効な交差が検出されると、リストの残りの評価は中止されます。

グループの評価順序を変更するには、[有効交差グループの評価順序の変更](#)を参照してください。

## 有効な交差の作成

有効交差を作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。

2. 「**有効な交差**」をクリックします。
  3. 有効交差グループを作成します。
    - a. 「**作成**」をクリックします。
    - b. 有効交差グループの名前と説明を入力します。
    - c. アンカー・ディメンションを選択するには、「**アンカー・ディメンションの選択**」の横の下矢印  をクリックします。
    - d. **オプション**: デフォルトでは、有効交差ルールで指定されていないアンカー・ディメンション・メンバーが有効とマークされます。このオプションをクリアするには、アンカー・ディメンションの横の下矢印  をクリックして、「**選択されていないメンバーは有効です**」をクリックします。
    - e. 追加のディメンション(非アンカー・ディメンションと呼ばれます)を選択するには、「**ディメンションの追加**」をクリックします。
    - f. **オプション**: デフォルトでは、非アンカー・ディメンションは必須ではありません。非アンカー・ディメンションを必須にするには、非アンカー・ディメンションの横の下矢印  をクリックして、「**必須**」をクリックします。
  4. 有効交差ルールを定義します。
    - a. 「**ルールの追加**」をクリックします。
    - b. 有効交差に対して含める、除外するまたは削除するメンバーの範囲を選択するには、新規ルールの横の下矢印  をクリックします。
      - 「**編集**」をクリックして「**メンバー選択**」ページを開き、有効交差ルールに含めるメンバーを選択します。
      - 「**除外**」または「**すべて除外**」をクリックして、ルールから除外するディメンション・メンバーを定義します:
        - **除外**: このオプションを選択した場合、メンバーは ID を基準にして除外されます。指定したメンバー(基本または共有)のみが除外されます。
        - **すべて除外**: このオプションを選択した場合、メンバーは名前を基準にして除外されます。基本メンバーを指定すると、基本メンバーとそのすべての共有メンバーが除外されます。共有メンバーを指定すると、このメンバー、その基本メンバー、およびこのメンバーの他のすべての共有メンバーが除外されます。
      - 「**クリア**」をクリックして、選択をクリアします。
- ルールを削除するには、「**削除**」  をクリックします。
5. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

新しい有効交差グループが、有効交差リストの最後に追加されます。リスト内のルールの順序を変更するには、[有効交差グループの評価順序の変更](#)を参照してください。

## 有効な交差の管理

### 次も参照:

- [有効交差の表示](#)
- [有効な交差のフィルタ](#)



- [交差のインポートとエクスポート](#)
- [有効交差グループの評価順序の変更](#)
- [有効交差グループの無効化および有効化](#)
- [有効交差グループの詳細の編集](#)
- [有効交差グループの複製](#)
- [有効交差グループの削除](#)

## 有効交差の表示



有効交差を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**有効な交差**」をクリックします。
3. 次のタスクを実行します:
  - 有効交差グループを作成します。[有効な交差の作成](#)を参照してください。
  - 有効交差グループの順序を変更します。[有効交差グループの評価順序の変更](#)を参照してください。
  - 有効交差グループを無効化および有効化します。[有効交差グループの無効化および有効化](#)を参照してください。
  - 有効交差グループのディメンションの追加または削除など、有効交差の詳細を編集します。[有効交差グループの詳細の編集](#)を参照してください。
  - 既存の有効交差グループを複製して、新しい交差グループを迅速に作成できるようにします。[有効交差グループの複製](#)を参照してください。
  - 有効交差グループを削除します。[有効交差グループの削除](#)を参照してください。

## 有効な交差のフィルタ

交差が有効になっているかどうか、定義が有効であるか無効であるか、変更時期、変更者など、特定の条件によって交差のリストをフィルタできます。フィルタすると、フィルタ条件を満たす交差のみが「**有効な交差**」ページに表示されます。

交差をフィルタするには:

1. 「**アプリケーション**」をクリックし、「**有効な交差**」をクリックします。
2.  をクリックして、フィルタ条件を指定します:
  - **使用可能:** 有効になっている(「はい」)または有効になっていない(「いいえ」)交差のみを表示するか、「すべて」を選択します。
  - **定義タイプ:** 「**有効な交差**」または「**無効な交差**」タイプの交差のみを表示するか、「すべて」を選択します。
  - **変更:** 特定の日時より前または後に変更された交差、あるいは日付または時間の範囲内に変更された交差のみを表示します。「**後**」、「**前**」または「**次の値の間**」を選択し、 をクリックして日時の条件を指定します。



- **変更者:** 選択したユーザーによって変更された交差のみを表示します。
3. 「増やす」をクリックして、フィルタ条件をさらに絞り込みます:
    - **ディメンション**
    - **アンカー・ディメンション**
    - **選択されていないメンバーは有効です:** 「はい」、「いいえ」または「すべて」を選択します。
    - **その他のディメンションが必要:** 「はい」、「いいえ」または「すべて」を選択します。
  4. 「適用」をクリックします。

## 交差のインポートとエクスポート

### 有効な交差のインポートとエクスポートについて

有効な交差のフィルタされたリストをリスト・ページからローカル・コンピュータ上の場所にエクスポートするか、それらをサーバーにエクスポートできます。リスト・ページでフィルタが定義されていない場合は、すべての交差がエクスポートされます。

交差をローカル・コンピュータ上の場所からアプリケーションにインポートするか、それらをサーバーからインポートするには、「インポート」アクションを使用します。インポートを実行する際に、インポート・ファイルに定義の破損の原因となる可能性があるなんらかの問題がないかどうかテストされます。たとえば、キューブが欠落している場合、アンカー・ディメンションが存在しない場合、サブルールが見つからない場合は、エラー・ファイルにエラーが記録されます。インポート・ジョブは、インポート・ファイルにエラーがない場合にのみ正常に完了します。

#### Note:

サブルールは、アンカー・ディメンションと非アンカー・ディメンションに対するメンバーの選択または除外、各サブルールに適用される制限タイプなど、ルールの内容に関する情報を提供します。

選択したエクスポート場所またはインポート場所に応じて、交差は Excel ファイル・フォーマット(XLSX)か zip ファイル・フォーマットでエクスポートまたはインポートされます。

#### Note:

有効な交差をエクスポートするときに、ロックされている有効交差ルールはエクスポートされません。有効な交差をインポートするときに、ロックされている有効交差ルール(および FCCS\_、OCX\_、OEP\_、OFS\_、OPF\_、OWP\_、TRCS\_などの制限付き接頭辞で始まるルール)はインポートされません。

### 有効な交差のインポート・ファイル

Excel インポート・ファイルには 2 つのシートが必要であり、最初のシートと 2 番目のシートの名前は次のとおりです:

1. Rules

## 2. Sub Rules

Rules シートには次の列見出しがあります:

- **名前**
- **位置**
- **説明**
- **使用可能**
- **定義タイプ**
- **アンカー・ディメンション名**
- **選択したメンバーへの アンカー・ディメンションの適用**
- **Dim1**
- **ディメンション 1 が必要**
- **Dim2**
- **ディメンション 2 が必要**
- **ディメンション X**
- **ディメンション X が必要**


Sub Rules シートには次の列見出しがあります:

- **名前** - この列には、最初のシートのルールの名前を含める必要があります
- **アンカー・メンバー**
- **アンカーの除外**
- **アンカーをすべて除外**
- **ディメンション 1 のメンバー**
- **ディメンション 1 の除外**
- **ディメンション 1 をすべて除外**
- **ディメンション 2 のメンバー**
- **ディメンション 2 の除外**
- **ディメンション 2 をすべて除外**
- **ディメンション X のメンバー**
- **ディメンション X の除外**
- **DimX すべて除外**

### 有効な交差のインポートとエクスポート

交差をエクスポートおよびインポートするには:

1. 「**アプリケーション**」をクリックし、「**有効な交差**」をクリックします。
2. 必要に応じて、リストにフィルタを適用します。 [有効な交差のフィルタ](#)を参照してください。


3. エクスポートするには、「アクション」、「エクスポート」の順にクリックし、エクスポート・ファイルのターゲットの場所を選択します:
  - **ローカル:** エクスポート・ファイルをローカル・コンピュータ上の場所に保存します。このオプションを選択する場合は、「エクスポート」をクリックした後、エクスポート・ファイルを保存する場所を指定します。
  - **送信ボックス:** エクスポート・ファイルを zip フォーマットでサーバーに保存するジョブを実行します。これを今すぐダウンロードすることも、後でエクスポート・ジョブをスケジュールするために使用することもできます。このオプションを選択した場合は、「保存してジョブを実行」をクリックします。  
送信ボックスからエクスポート・ファイルをダウンロードするには:
    - a. 「アプリケーション」をクリックし、「ジョブ」をクリックします。
    - b. 「最近のアクティビティ」で、エクスポート・ジョブをクリックします。
    - c. 「ジョブの詳細」ページで、 をクリックして、エクスポート・ファイルのダウンロード場所を選択します。ビジネス・プロセスの「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」からエクスポート・ファイルをダウンロードすることもできます。
4. エクスポート・ファイルを Excel で編集する場合、Excel ファイルには Rules と Sub Rules の 2 つのシートがあることに注意してください。
5. インポートするには、「アクション」、「インポート」の順にクリックし、インポート・ソース・ファイルの場所を選択します:
  - **ローカル:** 自分のコンピュータの場所からインポート・ファイルをロードします。「ソース・ファイル」で、「参照」をクリックして自分のコンピュータ上のインポート・ファイルを選択し、「インポート」をクリックします。
  - **受信ボックス:** サーバーからインポート・ファイルをロードするジョブを実行します。インポート・ファイルは zip ファイル形式である必要があります。「ソース・ファイル」にファイルの名前を入力し、「保存してジョブを実行」をクリックして、「ジョブとして保存」ダイアログで「名前」と「エラー・ファイル」を指定します。エラー・ファイルでは、インポートされなかった交差に関する情報が提供されます。ビジネス・プロセスの「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」からエラー・ファイルをダウンロードできます。

## 有効交差グループの評価順序の変更

有効交差グループの評価順序は、無効な結果セットをできるかぎり速く順序付けし、無効な交差の評価全体の速度および効率性を向上させます。

評価順序について学習するには、[評価順序](#)を参照してください。

リスト内の有効交差グループの位置を変更するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックします。
2. 「有効な交差」をクリックします。
3. 有効交差の右側で、「アクション」アイコン  をクリックします。
4. 「上へ移動」または「下へ移動」を選択します。

 **ヒント:**

また、有効交差グループをドラッグして、リスト内で上下に移動することもできます。

## 有効交差グループの無効化および有効化

有効交差グループは、デフォルトで作成時に有効になります。有効交差グループを評価または使用しない場合、「**有効な交差**」タブでこれを無効化できます。有効な交差を無効にすると、フォームまたはビジネス・ルールを表示する際に、そのグループの有効交差ルールは適用されなくなります。無効化されている有効交差グループを再度有効化できます。

有効交差グループを無効化および有効化するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**有効な交差**」をクリックします。
3. 有効交差リストの「使用可能」列で、有効化または無効化している有効交差グループの横にあるチェック・マークをクリックします。

 **ノート:**

グループが有効化されている場合、チェック・マークは緑色です。

4. 有効化されている残りのグループが、有効交差リストに正しい評価順序でまだリストされていないことを確認します。そうではない場合、順序内で上または下に移動します。

## 有効交差グループの詳細の編集





有効交差グループの詳細を編集するには、メンバー・セクタでディメンション・メンバーを操作します。また、有効交差ルールで除外を定義できます。

有効交差グループの詳細を編集するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**有効な交差**」をクリックします。
3. 編集する有効交差グループの名前をクリックします。

### ノート:


ページ区切りバーがルール・ページの下部に表示されます。ルールが多数ある場合、ページ区切りバーを使用してルール・ページ間を簡単に移動したり、特定のページにジャンプできます。ページ区切りバーで選択できるページ・サイズ・オプション(1 ページ当たりのルール数)は、「25」、「50」、「100」および「すべて」です。(300 を超えるルールがある場合、「すべて」オプションを使用することはできません。)

- ディメンションの詳細を編集するには、ディメンションの横の下矢印  をクリックして、有効交差ルールに対して含める、除外するまたは削除するメンバーを選択します。
    - 「編集」をクリックして**メンバーの選択**ページを開き、有効な交差ルールに含めるメンバー、代替変数および属性を選択します。メンバーまたは関数に入力することもできます。
    - 「除外」または「すべて除外」をクリックして、ルールから除外するディメンション・メンバーを定義します:
      - \* **除外:** このオプションを選択した場合、メンバーは ID を基準にして除外されます。指定したメンバー(基本または共有)のみが除外されます。
      - \* **すべて除外:** このオプションを選択した場合、メンバーは名前を基準にして除外されます。基本メンバーを指定すると、基本メンバーとそのすべての共有メンバーが除外されます。共有メンバーを指定すると、このメンバー、その基本メンバー、およびこのメンバーの他のすべての共有メンバーが除外されます。
    - 「クリア」をクリックして、選択をクリアします。
  - 有効交差グループからディメンションを削除するには、ディメンションの横の下矢印  をクリックして、「削除」  をクリックします。
  - 有効交差グループからルールを削除するには、「削除」  をクリックします。
  - 有効交差グループにディメンションまたはルールを追加するには、「ルールの追加」または「ディメンションの追加」をクリックします。
4. 「保存して閉じる」をクリックします。

## 有効交差グループの複製

有効交差グループの作成を高速化するために、既存の有効交差を複製し、編集できます。

有効交差グループを複製するには:


1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックします。
2. 「有効な交差」をクリックします。
3. 複製する有効交差グループの右側で、「アクション」アイコン  をクリックし、「複製」を選択します。
4. 有効交差グループを開き編集します。

5. 必要に応じて、有効交差グループの順序を変更します。[有効交差グループの評価順序の変更](#)を参照してください。

## 有効交差グループの削除

グループを削除した後、有効交差グループの順序が変更されます。3 つの有効交差グループがあり、順序内の 2 番目の有効交差グループが削除された場合、3 番目の有効交差グループが 2 番目となります。

有効交差グループを削除するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**有効な交差**」をクリックします。
3. 削除する有効交差グループの右側で、「**アクション**」アイコン  をクリックし、「**削除**」を選択します。
4. 必要に応じて、残りの有効交差の順序を変更します。[有効交差グループの評価順序の変更](#)を参照してください。

有効交差グループから有効交差ルールを削除するには、[有効交差グループの削除](#)を参照してください。

## フォーム内の無効データの抑制

無効データの抑制により、無効データを含むフォームの行または列が非表示になります。このオプションが選択されていない場合、システムでは無効データを含むセルを含んでいる行または列が表示されます。無効なデータを含むセルは読取り専用です。

フォーム内の無効データを抑制するには:

1. ホーム・ページで、「**データ**」をクリックします。
2. フォームを開き「**レイアウト**」をクリックします。
3. 「**グリッドのプロパティ**」の下の「**無効なデータの抑制 - 行**」または「**無効なデータの抑制 - 列**」、あるいはその両方を選択します。

## フォームでの有効交差の操作

有効交差を使用すると、該当する有効交差グループの定義に従い無効な交差のデータ入力を防ぐことができます。フォーム内で影響を受けるセルは、読取り専用の標準、読取り専用の色コーディングで表示されます。無効な交差にカーソルを置くと、無効な交差として定義されているので、セルが読取り専用であることを示すツール・チップが表示されます。

有効交差グループは、フォームの視点およびページ軸に最初に適用されます。視点の交差がすべて無効の場合、警告メッセージが表示され、有効交差が選択されるまでフォームにはデータ・グリッドがレンダリングされません。

視点に有効交差がある場合、行と列は無効な交差でのデータ入力を制限するようにフィルタされます。フォームの「**無効なデータの抑制**」オプションが有効化されている場合、フォームでは無効な行または列(あるいはその両方)が必要に応じて抑制されます。

有効交差と無効交差で構成される行または列は、その交差がそれぞれ有効または無効として表示されます。無効な交差は、標準の読取り専用の網掛けで表示され、データ入力できません。

選択をクリアすることにより、フォームを閉じたり再度開いたりすることなく、視点をデフォルト(フィルタを解除したリスト)にリセットできます。選択をクリアして、他のディメンションに対するより多くの選択を開くこともできます。有効なメンバーを各ディメンションに選択する必要があるため、ディメンションがクリアされた状態ではフォームをレンダリングできません。

メンバー・セレクタでは、無効なメンバーは有効交差ルールのために抑制されます。「**無効なメンバーの表示**」オプションを使用すると、メンバー・セレクタで無効なメンバーを表示できます。無効なメンバーは表示されますが、選択できません。

 **ノート:**

有効交差グループは、ディメンション・メンバーに対してアクセス権を付与しません。有効交差グループは、ユーザーにすでに付与されているディメンション・メンバーの有効交差をさらに制限します。

**表 15-8 有効交差が適用されている場合のフォームの動作**

アクション	動作
フォームを開く	フォームは、フォーム定義での定義どおりにメンバーが選択されてレンダリングされ、ディメンションに対するユーザーのアクセス権が順守され、現在の選択として最近使用された有効交差グループが適用されます。
視点ディメンションからメンバーを選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>視点でのメンバーの選択を有効化します</li> <li>視点ディメンション用のメンバー・セレクタで、残っている有効交差のフィルタ済みリストから選択できます。このリストは、他の視点ディメンションに選択されたメンバーに基づいています</li> <li>ディメンションの選択時、有効交差グループに含まれているディメンションからメンバーを選択すると、有効交差グループに含まれているディメンションの残りのディメンション・メンバーが必要に応じて動的にフィルタされるため、視点ディメンション・メンバーが選択される順序を無視します</li> <li>無効なメンバーをディメンション・リストで非表示にする、または視点で選択できないようにするオプションを提供します</li> <li>選択をクリアすることにより、フォームを閉じたり再度開いたりすることなく、フィルタをすべて解除したリストに視点をリセットする機能を提供します</li> </ul> <p><b>Web と Smart View</b> の両方のアド・ホック・フォームでは、有効交差グループに従って、ページまたは視点メンバーがフィルタされません。</p>
「実行」を選択して、視点の選択内容に基づいてフォームをレンダリング。フォームの視点の右矢印をクリックすることも可能。	フォームは、有効な視点交差に基づいて定義どおりにレンダリングされます。

表 15-8 (続き) 有効交差が適用されている場合のフォームの動作

アクション	動作
データを入力して保存	フォーム・データが入力および保存されます。

## 無効な交差レポートの管理

無効な交差を識別できるレポートを定義できます。データを含む無効な交差に対してスキャンするデータベースの範囲を定義します。レポートが実行されると、最後の 2 つのスキャンの結果が表示されます。

無効な交差レポートを管理するには、サービス管理者である必要があります。

次のタスクを参照してください。

- [無効な交差レポートの作成](#)
- [無効な交差レポートの編集](#)
- [無効な交差レポートの複製](#)
- [無効な交差レポートの実行](#)
- [無効な交差レポートの削除](#)

## 無効な交差レポートの作成

無効な交差レポートを作成するには:


1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**有効な交差**」をクリックし、「**レポート**」タブをクリックします。
3. 「**作成**」をクリックします。
4. レポートの名前を入力します。
5. レポートの説明を入力します。
6. 「**キューブ**」から、**連結**または「**レート**」を選択します。
7. 「**エンティティ**」、「**シナリオ**」および「**表示**」では、クリックしてメンバーを選択し、「**OK**」をクリックします。

「無効な交差」レポートでは、エンティティ/シナリオ/ビュー・ディメンションは視点ディメンションとして処理され、ディメンションごとに 1 つのみのメンバーを選択できます。追加のディメンションでは、DESCENDANTS (<member\_name>) などの関数選択が許可されます。

8. **オプション:** 別のディメンションからメンバーを選択するには、「**ディメンションの追加**」をクリックし、ディメンション・メンバーを選択して「**OK**」をクリックします。



 **ヒント:**


オプションのディメンションを削除するには、ディメンションの横にある「削除」 をクリックします。

9. オプションを選択します。
  - **保存して今すぐ実行** - レポートを即座に実行します。
  - **保存して後で実行** - 後で実行するジョブとしてレポートを保存します。「ジョブのスケジュール」ダイアログ・ボックスが表示されます。ジョブを実行する日時と頻度を選択し、「送信」をクリックします。

## 無効な交差レポートの編集


無効な交差レポートを編集し、名前、説明およびレポート基準を変更できます。

無効な交差レポートを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**有効な交差**」をクリックし、「**レポート**」タブをクリックします。
3. レポートのリストから、レポートを選択します。
4. 「**アクション**」アイコン  をクリックして、「**編集**」を選択します。
5. **オプション**: レポートの名前または説明を編集します。
6. **オプション**: 異なるレポート基準を選択します。
7. 変更を保存するには、「**保存して閉じる**」をクリックします。

## 無効な交差レポートの複製

無効な交差レポートを作成するには:


1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**有効な交差**」をクリックし、「**レポート**」タブをクリックします。
3. レポートのリストから、レポートを選択します。
4. 「**アクション**」アイコン  をクリックして、「**複製**」を選択します。
5. 「**複製**」ダイアログ・ボックスで新しいレポートの名前を入力し、「**OK**」をクリックします。

## 無効な交差レポートの実行


無効な交差レポートを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**有効な交差**」をクリックし、「**レポート**」タブをクリックします。

「無効な交差レポート」ページには、既存のレポートのリストが表示されます。


 **ヒント:**

レポートを検索するには、検索条件を入力して「**検索**」をクリックします。

3. レポートのリストから、レポートを選択します。
4. 「**アクション**」アイコン  をクリックして、「**実行**」を選択します。

## 無効な交差レポートの削除

無効な交差レポートを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**有効な交差**」をクリックし、「**レポート**」タブをクリックします。
3. レポートのリストから、レポートを選択します。
4. 「**アクション**」アイコン  をクリックして、「**削除**」を選択します。

## フォームの管理

フォームは、データを入力するためのグリッドで、ニーズに応じて設計できます。

次のトピックを参照してください。

- [フォーム・コンポーネント](#)
- [フォームの設計に関する考慮事項](#)

フォーム・セキュリティの詳細は、[フォーム・セキュリティの管理](#)を参照してください。

## 事前定義済フォーム

アプリケーションを作成すると、システムで次のフォームが提供されます。デフォルトで、サービス管理者とパワー・ユーザーは、これらのフォームに対する変更アクセス権を持っています。ユーザーまたは参照者は、フォームを起動できますが、そのレイアウトを変更することはできません。

### ノート:

デフォルトで表示されるフォームは、アプリケーションに対して選択されている機能によって異なります。

アプリケーションの作成時に「**基本**」貸借対照表オプションを選択すると、貸借対照表、キャッシュ・フローおよび損益計算書のフォルダのすべてのフォームが除外されます。シードされているその他のフォームは保持されます。

### FCCS\_Balance Sheet

フォーム名	説明
FCCS_Balance Sheet by Consolidation	連結ステータスごとに貸借対照表勘定科目を表示します。
FCCS_Balance Sheet by Movement Detail	各貸借対照表勘定科目の増減を表示します。
FCCS_Balance Sheet by Period	期間ごとに貸借対照表勘定科目を表示します。
FCCS_Balance Sheet Key Balances by View	ビューごとに主要残高を表示します。
FCCS_Balance Sheet Movement Summary	貸借対照表勘定科目の増減のサマリーを表示します。

### FCCS\_Cash Flow

フォーム名	説明
FCCS_Cash Flow Period by Entity	ビューごと、エンティティごとにキャッシュ・フロー期間を表示します。

フォーム名	説明
FCCS_Monthly Cash Flow by Entity	エンティティごとに月次キャッシュ・フローを表示します。
FCCS_Quarterly Cash Flow by Entity	エンティティごとに四半期キャッシュ・フローを表示します。

### FCCS\_Income Statement

フォーム名	説明
FCCS_Income Dashboard Tile Chart	損益計算書ダッシュボード勘定科目を表示します。
FCCS_Income Statement by Period	期間ごとに損益計算書勘定科目を表示します。
FCCS_Monthly Net Income by Entity	エンティティごとに月次純利益を表示します。
FCCS_Monthly Sales by Entity	エンティティごとに月次売上を表示します。
FCCS_Quarterly Net Income by Entity	エンティティごとに四半期純利益を表示します。
FCCS_Quarterly Sales by Entity	エンティティごとに四半期売上を表示します。

### ユーザー定義フォーム

#### ノート:

事前定義済レート・フォームが提供されるのは、アプリケーションの作成時に「複数通貨オプション」が選択されている場合のみです。

フォーム名	説明	ディメンション・メンバー
Data Status	計算および承認ステータスを表示し、データを換算および連結します。	行 = エンティティ - 階層 列 = 期間 シナリオ - <選択可能> 年 - <選択可能>
Enter Exchange Rates - Single Period	視点で選択された単一期間の為替レートを入力します	行 = 通貨 - 通貨(元)、勘定科目 - 平均レート、期末レート 列 = 通貨(先) シナリオ - <選択可能> 年 - <選択可能> 期間
Enter Exchange Rates - Multi Period	視点で選択された単一の通貨(先)に対する複数期間の為替レートを入力します。	行 = 通貨 - 通貨(元)、勘定科目 - 平均レート、期末レート 列 = 期間 シナリオ - <選択可能> 年 - <選択可能> 通貨(先)

フォーム名	説明	ディメンション・メンバー
Exchange Rates	為替レートを管理します。	<p>フォームには通貨が事前に移入されます。通貨をアプリケーションに適用できるように設定します また、アプリケーション通貨として使用する通貨も指定します。デフォルトで、アプリケーション通貨に関連する通貨レート・データが入力されません。</p> <p>行 = アプリケーションで有効になっているすべての通貨(通貨(元))。 列 = 期間(すべての基本期間) シナリオ - &lt;選択可能&gt; 年 - &lt;選択可能&gt; エンティティ - グローバル 通貨 - 通貨(先) &lt;選択可能&gt;</p>
ローカル為替レート	新しいローカル・レート勘定科目を作成すると、シードされているこのシステム・レートのフォームに、新しく定義された勘定科目が自動的に追加されます。	<p>入力通貨またはエンティティ通貨を使用してレート・データを入力できます。エンティティの場合は、基本エンティティまたは親エンティティを選択できます。</p> <p>行 = 通貨 - 通貨(元)、勘定科目 - 平均レート、期末レート 列 = 期間 シナリオ - &lt;選択可能&gt; 年 - &lt;選択可能&gt; 通貨(先)</p>
Override Rates	上書きレートを管理します。	<p>一部の貸借対照表勘定科目は、履歴レート勘定科目として指定されます(普通株式、子会社への投資など)。履歴レート勘定科目では、勘定科目の上書きレートまたは上書き金額を入力できます。</p> <p>行 = 履歴レート勘定科目として指定されたすべての勘定科目 行 = 通貨(元) 列 = 期間 列 = 通貨(先) シナリオ - &lt;選択可能&gt; 年 - &lt;選択可能&gt; エンティティ - &lt;選択可能&gt; 勘定科目 - 上書きレート</p>

## フォーム・コンポーネント

### 次も参照:

- [視点](#)
- [ページ軸](#)
- [行と列](#)

## 視点

ページ、行および列のコンテキストを決定するため、視点についてメンバーを選択します。たとえば、シナリオ・ディメンションが視点で「予算」に設定されている場合、ページ、行、列で入力されたすべてのデータは「予算」シナリオに入力されます。各視点ディメンションについて、1つのメンバーに視点が設定され、ユーザーはこれを変更できません。

フォームを簡単にするには、視点で関係のあるメンバーのみを指定するか、ユーザー変数を含めます。

## ページ軸

ページ軸を使用し、ユーザーがより小さな論理的なビューでデータを操作できるように、様々なディメンションにわたるメンバーの組合せを指定します。ページ軸の各アイテムは 1 つまたは複数のディメンションから選択されたメンバーを持つことができます。ユーザーには、アクセス可能なメンバーのみが表示されます。

複数のページのドロップダウン・リストを指定し、関係機能または属性を使用してメンバーを選択できます。ページ軸から選択して、メンバー・セット間で切り替えます。

メンバー名または別名をページ軸で表示します。データ入力ページで検索ドロップダウン・リストを使用可能にするページ・ディメンションでメンバーの数を指定できます。ディメンションに多くのメンバーが含まれている場合に役に立ちます。

## 行と列

行と列は、ユーザーがデータを入力するグリッドを定義します。たとえば、売上個数を行軸に割り当て、1月を列軸に割り当てることができます。ユーザーがフォームにアクセスすると、売上個数の行が1月の列と交差しているセルにデータを入力できます。

デフォルトでは、フォームに 1 セットの行と列があります。行と列を追加し、メンバーの非対照的な組合せを作成できます。

# フォームの設計に関する考慮事項

フォームを作成する際、キューブ・タイプにフォームを関連付けることにより、フォームの有効なメンバーが決まります。割り当てた後でキューブ・タイプを変更することはできません。

ソース・タイプがフォームのキューブ・タイプに一致する場合、フォームの勘定科目を編集できます。

## フォームとアクセス権限

フォームへのアクセスを割り当てることで、どのユーザーが設計(たとえば、そのレイアウトと手順)および入力データを変更できるかを制御します。ユーザーは読取りまたは書込みアクセス権を有しているメンバーのみ選択できます。ユーザーがフォームを編集できるのは、安全な各ディメンションのメンバーに少なくとも 1 つアクセスできる場合のみです。たとえば、ユーザーが欧州エンティティへの読取り専用のアクセス権を有している場合、欧州エンティティを含んでいるフォームの行と列は読取り専用

として表示されます。ユーザーは書込みアクセス権を有しているメンバーのデータのみ変更できます。

## フォームと通貨

単一通貨のアプリケーションでは、すべてのエンティティではアプリケーションの作成時に選択された通貨が使用されます。複数通貨のアプリケーションでは、フォームで選択された通貨メンバーによって、値が表示される通貨が判別されます。

## フォームとバージョン

レベル 0 のメンバーを持つ行および列では、データ入力が可能です。親メンバーに設定された行または列は読取り専用となります。データ入力を許可するには、視点をレベル 0 のメンバーに設定する必要もあります。

## フォームと属性

共有された属性(南属性など)を選択し、メンバーを選択できます。値を入力し、属性を使用する行と列に保存できます。

## フォームと共有メンバー

共有されたメンバーを個別には選択できません。そのかわりに、関係機能を使用してメンバーを選択します。たとえば、代替の機能ロールアップを選択し、そのロールアップの下にすべてのメンバーを入力できます。共有されたメンバーを表示する行と列に値を入力し、データベースの基本メンバーに保存できます。共有されたメンバーは、フォームで基本メンバーと同じフォーマットで表示されます。

## フォームと計算

計算を最適化するには、個別に子を選択するかわりに、関係(「子孫」や「子」など)を使用して行メンバーを選択します。個別に選択された子の親について合計を計算するには、階層レベルの数に応じて、複数のパスが必要です。


## 単一のフォームの作成

単一のフォームを作成するには、次のステップに従います。

表 16-1 単一のフォームの作成のチェックリスト

タスク	参照先トピック
次のようなフォーム・レイアウトの設定 フォームの行と列の追加	<ul style="list-style-type: none"> <li>フォーム・レイアウトの設定</li> <li>フォーム・グリッド・プロパティの設定</li> </ul>
列と行へのディメンションの割当て フォームのディメンション・メンバーの選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>フォーム・ディメンション・プロパティの設定</li> </ul>
フォームのグリッド・プロパティの設定 ディメンション・プロパティの設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>表示プロパティの設定</li> <li>印刷オプションの設定</li> </ul>
式の行と列の追加 フォームの表示プロパティの設定 フォームの印刷オプションの設定 フォームの検証ルールの追加および更新	
ページ軸および視点の定義	ページ軸および視点
フォーム精度、コンテキスト・メニューの関連付け、および動的ユーザー変数を有効にするかどうかの設定	フォームの精度およびその他オプションの設定
アクセス権限の定義	フォームとフォルダへのアクセス権の割当てを参照してください。
式の行と列の設計	式の行と列の追加

単一のフォームを作成するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「フォーム」をクリックします。
3. 「アクション」をクリックし、「単一のフォームの作成」を選択します。
4. 「プロパティ」タブに、フォームの名前を 80 文字まで、オプションの説明を 255 文字まで指定します。
5. フォームに関連付ける「キューブ」を選択します。
6. オプション: フォームの操作方法を指定します。
7. 「次」をクリックして、フォームのレイアウトを指定します。

## フォーム・レイアウトの設定

フォームを作成する場合、「レイアウト」タブには最初、1つの行と1つの列が含まれ、すべてのディメンションは視点内にあります。フォームを作成または編集する場合、必要に応じて、行および列をフォームに追加できます。


行と列のレイアウトを設定する場合:

- 行と列の軸に少なくとも1つのディメンションを割り当てます。
- 複数の軸で同じディメンションは選択できません。(視点でユーザー変数を設定すると、複数の軸でディメンションを選択できるようになります。)
- 軸のディメンションを別の軸に移動するには、軸のディメンションを選択し、ターゲット軸にドラッグします。
- 表示プロパティを選択します。



Oracle Smart View for Office でフォーム表示のオプションを指定することもできます。*Planning の管理*の Smart View フォーム・オプションの設定に関する項を参照してください。

フォーム・レイアウトを設定または更新するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「フォーム」をクリックします。
3. 「アクション」をクリックし、「単一のフォームの作成」を選択します。
4. 「プロパティ」タブで、フォーム・プロパティを指定します。

「プロパティ」タブの必須フィールドは、「レイアウト」タブに移動する前に入力を完了しておく必要があります。

5. 「レイアウト」をクリックします。
6. **オプション:** ディメンションを選択してからそれを「行」または「列」にドラッグするか、行または列内にドラッグします。

#### ノート:

当初、すべてのディメンションはフォーム 視点内にあります。ディメンションは視点から行、列またはページにドラッグできます。また、グリッド内の任意の領域(行、列、視点またはページ)から他の任意の領域にディメンションをドラッグすることもできます。

7. **オプション:** 別のディメンションを選択してからそれを「行」または「列」にドラッグするか、行または列内にドラッグします。
8. 各ディメンションのメンバーを選択します。
9. 次の表の情報を使用して、行ヘッダー(1 または 2 など)を選択して行プロパティを設定したり、列ヘッダー(A または B など)を選択して列プロパティを設定します。

表 16-2 セグメント・プロパティ

オプション	説明
すべての行に適用	設定をすべての行に適用します。2 つ以上の行がある場合に使用できます。行ごとに異なるプロパティを設定する場合は、このオプションをクリアします。
すべての列に適用	設定をすべての列に適用します。2 つ以上の列がある場合に使用できます。列ごとに異なるプロパティを設定する場合は、このオプションをクリアします。
非表示 読取り専用	フォーム上の列または行を非表示にします。 古い読取り専用のデータと新しい編集可能なデータの比較ができるように、読取り専用の行または列を作成します
区切り線の表示	セグメントが目視で区別できるように太い枠線を作成します。
階層の抑制	インデントを抑制します

表 16-2 (続き) セグメント・プロパティ

オプション	説明
欠落データの抑制	データがない行または列を非表示にします。クリアすると、データが欠落しているセルには「#MISSING」が付いた行または列が表示されません。
列幅	<ul style="list-style-type: none"> <li>デフォルト: グリッド・レベルで定義された列幅を使用します(「<b>グリッドのプロパティ</b>」の下)</li> <li><b>小:</b> 小数点以下 7 桁を表示します。</li> <li><b>中:</b> 小数点以下 10 桁を表示します。</li> <li><b>大:</b> 小数点以下 13 桁を表示します。</li> <li><b>適合するようサイズ調整:</b> 一番上のデータ・セル値に基づいて、表示される空間にすべての列を強制的に合せます。</li> <li><b>カスタム:</b> 小数点以下 13 桁から 999 桁を表示するカスタム・サイズを選択します。</li> </ul>
行の高さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>デフォルト: グリッド・レベルで定義された行の高さを使用します(「<b>グリッドのプロパティ</b>」の下)</li> <li><b>中:</b> 標準の行の高さを表示します。</li> <li><b>適合するようサイズ調整:</b> すべての行を表示された空間に合せます。</li> <li><b>カスタム:</b> 行の高さのカスタム・サイズをピクセルで選択します。</li> </ul>
グローバル仮定フォーム	単一のフォームについて、テスト環境から本番環境へのグローバル仮定の転送を有効にするには、「 <b>グローバル仮定フォーム</b> 」を選択します。次に、税率などのグローバル仮定を保管するフォームを更新します。

10. **オプション:** 式の行または列を追加します。

11. **オプション:** データ検証ルールを追加または更新します。

## フォーム・グリッド・プロパティの設定

フォーム・グリッド・プロパティを設定するには:

1. フォームを開き「**レイアウト**」をクリックします。
2. 「**グリッドのプロパティ**」で、行および列プロパティを次のように設定します。

表 16-3 フォーム・グリッド・プロパティ

オプション	説明
欠落ブロックの抑制	<p>複数の行に対して、「<b>欠落データの抑制</b>」の効率を大幅に向上させます。抑制する行が存在しない場合または少ない場合は、このオプションによってパフォーマンスが低下することがあります。この設定を使用する前後でフォームをテストし、パフォーマンスが向上するかどうかを判定します。</p> <p>このオプションを使用する場合は注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一部の抑制されたブロックでは、動的計算メンバーが無視されることがあります</li> <li>行メンバーがインデントされない場合があります</li> </ul>
欠落データの抑制	<p>データがない行または列を非表示にします。クリアすると、データが欠落しているセルには「#MISSING」が付いた行または列が表示されます。</p>
無効なデータの抑制	<p>無効なデータを含む行または列を非表示にします。クリアすると、無効なデータのあるセルを含む行または列が表示されます。無効なデータを含むセルは読み取り専用です。</p>
デフォルトの行の高さ	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>中:</b></li> <li><b>適合するようサイズ調整:</b> すべての行を表示された空間に合せます</li> <li><b>カスタム:</b> 行の高さのカスタム・サイズをピクセルで選択します</li> </ul>
デフォルトの列の幅	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>小:</b> 小数点以下 7 桁を表示します</li> <li><b>中:</b> 小数点以下 10 桁を表示します</li> <li><b>大:</b> 小数点以下 13 桁を表示します</li> <li><b>適合するようサイズ調整:</b> 一番上のデータ・セル値に基づいて、表示される空間にすべての列を強制的に合せます</li> <li><b>カスタム:</b> 小数点以下 13 桁から 999 桁を表示するカスタム・サイズを選択します</li> </ul>
グローバル仮定フォーム	<p>単一のフォームについて、テスト環境から本番環境へのグローバル仮定の転送を有効にするには、「グローバル仮定フォーム」を選択します。次に、税率などのグローバル仮定を保管するフォームを更新します。</p>
無効なシナリオ/期間の抑制 欠落を抑制したらゼロも抑制	<p>無効なシナリオ/期間を非表示にします。</p> <p>フォームでこのオプションを「欠落データの抑制」オプションと同時に選択すると、#Missing とゼロの両方を含む行または列がすべて抑制されます。</p> <p>この設定を選択すると、Oracle Smart View for Office でデータ欠落やゼロを抑制していた実行時の抑制選択より優先されます</p>

表 16-3 (続き) フォーム・グリッド・プロパティ

オプション	説明
アド・ホックでのフォーム抑制の削除	Smart View ユーザーが他の抑制オプションが指定されているフォームに対してアド・ホック分析を実行できるようにします。フォームに欠落したデータがある場合は、Smart View のアド・ホック・グリッドに、列または行の基本ディメンション・メンバーが表示されます。これにより、フォーム設計で抑制オプションが有効化されたとしても、フォームに対するアド・ホック分析を続行できます。
オンザフライ計算の使用可能	このオプションを選択した場合、フォーム 2.0 で、メンバー式が添付されたセルにカーソルを置くと、セルに関連付けられているメンバー式が表示され、オンザフライ計算を実行できます。オンザフライ計算を使用すると、変更を送信することなく計算を実行できます。

 **ノート:**

このオプションを選択しても、Smart View の「オプション」ダイアログの「データ・オプション」タブで設定した抑制オプションは上書きされません。フォームに対して「アド・ホックでのフォーム抑制の削除」オプションが有効になっており、フォームに対するアド・ホック分析の実行時にエラーが表示された場合は、Smart View の抑制オプションをクリアする必要があります。

3. 「保存」をクリックして処理を保存して続行するか、「終了」をクリックして処理を保存してフォームを閉じます。

## フォーム・ディメンション・プロパティの設定

フォームのディメンション表示プロパティを設定および編集できます。このプロパティには、フォームにメンバー名または別名を表示するかどうか、行または列を非表示にするかどうか、およびユーザーにメンバー式の表示を許可するかどうかが含まれます。これらのプロパティは、行、列、ページおよび視点ディメンションに適用されます。

ディメンション・プロパティを設定するには:

1. フォームを開き「レイアウト」をクリックします。
2. 視点、ページ、行または列でクリックして、ディメンション・プロパティを設定します。
3. 「ディメンション・プロパティ」を選択します。

表 16-4 フォーム・ディメンション・プロパティ

プロパティ	説明
すべての行ディメンションに適用	すべての行ディメンションにプロパティを適用します
すべての列ディメンションに適用	すべての列ディメンションにプロパティを適用します
すべてのページ・ディメンションに適用	すべてのページ・ディメンションにプロパティを適用します
すべての POV ディメンションに適用	すべての視点ディメンションにプロパティを適用します
メンバー名	メンバー名を表示します
別名	メンバーの別名を表示します
メンバー式	メンバー式を表示します
ディメンションの非表示	ディメンションを非表示にします
集計演算子を表示	集計演算子を表示します
展開開始	行または列でのディメンションにのみ使用でき、このオプションを最初に選択すると、展開されたディメンション・メンバー・リストが表示されます
カスタム属性の使用可能	行または列でのディメンションにのみ使用でき、カスタム属性を使用可能にします
共有メンバーのドリル	行ディメンションまたは列ディメンションに使用できます。共有メンバーがメイン階層の親メンバーにある場合、共有メンバーのドリルを可能にします。
通貨の表示	複数通貨アプリケーションで使用可能で、通貨を表示します
修飾名の表示	エンティティ・ディメンションのメンバーを Parent.Child として表示します。 「なし」、必要時または「常時」を選択します。 このオプションを「通貨の表示」オプションとともに選択すると、Parent.Child (親通貨、子通貨)としてエンティティ・メンバーが表示されません。 このオプションは、フォームが Oracle Smart View for Office で使用されるときにも保持されます。

4. 「保存」をクリックして処理を保存して続行するか、「終了」をクリックして処理を保存してフォームを閉じます。

## 表示プロパティの設定

「レイアウト」タブで、フォームの非表示や欠落値を空白で表示など、フォーム表示のオプションを設定および編集できます。

勘定科目レベルの注釈を使用可能にもできます。ユーザーは、勘定科目、エンティティ、シナリオおよびビュー・メンバーへの書込み権限がある場合に、フォームの勘定科目に注釈を追加できます。勘定科目レベルの注釈は、シナリオ、ビューおよびエンティティ・ディメンションの様々な組合せに応じて異なる場合があります。

**ノート:**

- 勘定科目ディメンションは、行軸に割り当てる必要があります。
- 勘定科目、エンティティ、ビューおよびシナリオの各ディメンションは、列軸に割り当てることはできません。
- エンティティ・ディメンションは、行、ページまたは視点軸に割り当てることができます。
- ビューおよびシナリオ・ディメンションは、ページまたは視点軸に割り当てる必要があります。

表示プロパティを設定するには:

1. フォームを開き「**レイアウト**」をクリックします。
2. 「**表示プロパティ**」を選択し、フォームのオプションを選択します。

オプション	説明
フォームを読み取り専用にする	このオプションを使用して、フォームを読み取り専用にします。
フォームの非表示	たとえば、メニューやタスク・リストからアクセスできるフォームを非表示にします。
欠落値を空白で表示	データが存在しないフォーム・セルを空白のままにします。このオプションを選択しない場合、空のセルでは「#MISSING」のテキストが表示されます。
勘定科目注釈の使用可能	このオプションは、勘定科目ディメンションが行にある場合のみ使用可能です。
1つのエンティティに複数通貨を許可	アプリケーションが複数の通貨をサポートする場合、基本通貨に関係なく、エンティティが複数の通貨をサポートするのを許可します。ユーザーはフォームで表示するセル値の通貨を選択できます。
一括割当ての使用可能	このオプションを使用するには、ユーザーが「一括割当て」役割を持っている必要があります。
グリッド分散の使用可能	このオプションを使用して、グリッド分散を有効にします。
セル・レベルのドキュメントの使用可能	(デフォルト)アクセス権限に応じて、ユーザーがフォームのセルでドキュメントを追加、編集、表示できるようにします。フォームでドキュメントをユーザーが使用するのを防ぐには、このオプションをクリアします。
データのないフォームに対するメッセージ	使用可能な行のない問合せのためにフォーム行で表示するテキストを入力します。空白のままにすると、デフォルトのテキスト「このフォームに有効なデータの行がありません。」が表示されます。

3. 「**保存**」をクリックして処理を保存して続行するか、「**終了**」をクリックして処理を保存してフォームを閉じます。

## 印刷オプションの設定

「レイアウト」タブで、フォーム情報を印刷する際のプリファレンスを設定および編集できます。

印刷オプションを設定するには:

1. フォームを開き「レイアウト」をクリックします。
2. 「印刷オプション」を選択し、フォーム情報を印刷する際のプリファレンスを設定します。

表 16-5 フォームの印刷オプション

オプション	説明
サポート詳細を含める	PDF ファイルにサポート詳細を追加行として含めます。表示フォーマットを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>標準順序:</b> 関連付けられたメンバーの後で、「サポート詳細」ページと同じ順序でサポート詳細を印刷します</li> <li>• <b>逆順:</b> 関連付けられたメンバーの前で、サポート詳細を逆の順序で印刷します。子に関するサポート詳細は親の上に表示され、兄弟の順序が保たれます。</li> </ul>
コメントの表示	セルに関連付けられたテキスト・ノートを表示します
データのフォーマット	フォームから表示済のデータに数のフォーマット設定を適用します
属性メンバーの表示	フォームで属性メンバーを選択した場合、PDF ファイルで表示します
精度の適用	フォームの精度設定(必要な小数点以下の桁数)を PDF ファイルで表示されたデータに適用します
通貨コードの表示	フォームが複数の通貨をサポートしている場合、フォームおよび PDF ファイルに通貨コードが表示されます。通貨コードが表示されるかどうかは、通貨コードがフォームの任意のメンバーに存在するかどうかによって決まります。通貨コードがフォームに含まれる任意のメンバーに存在する場合、このチェック・ボックスの選択に関係なく、フォームに通貨コードが表示されます。通貨コードがフォームのメンバーに存在しない場合、それらは表示されません。
勘定科目注釈の表示	勘定科目注釈がフォームで使用可能になっている場合、PDF ファイルで勘定科目注釈を表示する選択をします

3. 「保存」をクリックして処理を保存して続行するか、「終了」をクリックして処理を保存してフォームを閉じます。

## フォームへのデータ検証ルールの組み込み

「レイアウト」タブで、検証ルールをグリッド、列、行またはセルに対して追加および更新できます。ルールを処理することで、セルの色の変更、データ入力時の検証メッセージの表示、承認ユニットの移動パスの変更ができます。検証ルールはフォームとともに保存されます。

データ検証ルールを追加する前に、ルールが実行する関数について検討し、ルールの範囲をプランニングすることが重要です。

フォームにデータ検証ルールを組み込むには:

1. フォームを開き「レイアウト」をクリックします。
2. 「検証ルール」を選択してから、次のオプションを選択します。

 **ノート:**

表示されるメニュー・オプションはコンテキスト依存であり、ルールがすでに追加されているかどうか、および前にメニュー・オプションを選択しているかどうかによって異なります。たとえば、ルールが含まれるセルを右クリックして「検証ルールのコピー」を選択した場合、別のセルを右クリックすると、「検証ルールの貼付け」メニュー・オプションが表示されます。

表 16-6 フォームの「検証ルール」のオプション

オプション	説明
検証ルールの追加/編集	「データ検証ルール・ビルダー」ダイアログ・ボックスの条件ビルダー領域で既存のルールを追加または編集します。
検証ルールのコピー	貼り付けるために選択したルールを新しい場所にコピーします。
検証ルールの貼付け	すでにコピーしたルールを新しい場所に貼り付けます。
このフォームへのアクセス権を持つユーザーについてのみ検証	現在ログインしているユーザーがフォームへのアクセス権を持たない場合は、承認ユニットの検証時に、フォームに関連する検証を実行しません。
既存のブロックがあるページについてのみ検証	有効化されている場合、システムにより潜在的ブロックが含まれるページの組合せが検出され、そのページの組合せに対してのみ検証が実行されます。これにはいくつかの例外があります。ページの組合せに動的計算、ラベルのみ、または子メンバーが 1 つ含まれる保管が含まれる場合、そのページは常にロードされます。
ユーザーがアクセス権を持つセルおよびページについてのみ検証	有効化されている場合、管理者ではなく現在ログインしているユーザーとして検証が行われ、フォーム・メンバーにはユーザーのセキュリティが適用されます。
承認ユニット・ディメンションからのユーザー変数の使用可能な各値で検証します	有効化されている場合、承認ディメンションからのユーザー変数が、そのユーザー変数の使用可能なすべての値で置換され、フォームが複数回検証されます。有効化されていない場合、フォームは、ユーザー変数の使用可能なすべての値で置換されたユーザー変数で 1 回のみ検証されます。デフォルトでは有効化されていません。



表 16-6 (続き) フォームの「検証ルール」のオプション

オプション	説明
ユーザー変数の値として現在の承認ユニット・メンバーで検証します	有効化されている場合、フォームの承認ディメンションのユーザー変数は、検証の実行前に承認ユニット・メンバーによって置換されます。有効化されていない場合、ユーザー変数は、そのユーザー変数の使用可能なすべての値で置換されます。デフォルトでは有効化されていません。

3. ルールを作成し、検証します。
4. フォームで、フォームの構築を続行するため「次」をクリックしてから、フォームを検証および保存します。

## 検証ルールを含むフォームのベスト・プラクティス

検証ルールを含むフォームを設計する場合は、次のガイドラインを使用してパフォーマンスを最適化してください。

- 行および列に密ディメンションを含め、ページおよび POV に疎ディメンションを含めません
- 行のディメンションの数を制限します。行に複数のディメンションを含めると、パフォーマンスに悪影響を及ぼします。
- 行に疎ディメンションが含まれている場合は、「欠落ブロックの抑制」オプションを選択します。
- 「保存時に実行」に設定されているビジネス・ルール数を減らします
- メンバー式を追加するには、フォームに式の列を含めるのではなくアウトラインを使用します
- ビジネス・ルールおよびスマート・プッシュによって一意のデータが更新されるようにします
- 行数を約 100 行以下に制限します
- メンテナンスを減らすには、個々のメンバーを選択するのではなくメンバー関数を使用します
- 多数のフォームを作成するのではなく、動的ユーザー変数、代替変数および有効な組合せを活用します
- フォームをフォルダに編成します

## フォームの精度およびその他オプションの設定

「その他オプション」で、データ精度を設定し、コンテキスト・メニューをフォームに関連付け、動的ユーザー変数を有効にします。

様々な勘定科目タイプについて最小値と最大値を適用し、データ精度を制御します。たとえば、長い数の小数部の桁を切り捨てることができます。

フォームの精度およびその他オプションを設定するには:

1. フォームを開き「その他オプション」をクリックします。

2. 「精度」で、「通貨の値」、「通貨以外の値」および「パーセンテージ値」について、セルに表示される小数部の桁数を設定するオプションを選択します。

短い小数部を持つ数にゼロを追加するには、「最小」に値を指定します。長い数の小数部を切り捨てるには、「最大」に値を指定します。例:

表 16-7 フォームのデータ精度の例

値	最小精度	最大精度	表示される値
100	0	任意	100
100	3	3 以上の任意の数値か、なし	100.000
100.12345	5 以下の任意の数値	なし	100.12345
100.12345	7	なし	100.1234500
100.12345	3 以下の任意の数値	3	100.123
100.12345	0	0	100
100.12345	2	4	100.1234
100	2	4	100.00

ノート:

- デフォルトで、ここで選択した精度設定は、通貨メンバーの精度設定を上書きします。通貨メンバーの精度設定をフォームに適用する場合は、「通貨メンバーの精度設定の使用」を選択します。
  - 精度設定は値の表示にのみ影響し、より正確である保管された値には影響しません。たとえば、最小精度が 2 に設定され、Q1 の値 100 が 1 月、2 月、3 月に分散される場合、セルが選択されていないと、月のセルには 33.33 が表示されます。選択されたセルには、より正確な値(たとえば 33.33333333333333)が表示されます。
3. 「コンテキスト・メニュー」で、「使用可能なメニュー」からメニューを選択し、右矢印と左矢印を使用してそれらを「選択したメニュー」に移動することで、メニューをフォームに関連付けます。
  4. 複数のメニューを選択した場合、上矢印と下矢印を使用して表示する順序を設定します。
  5. 「動的ユーザー変数の使用可能」を選択すると、フォームで動的ユーザー変数を使用できます。
  6. 「保存」をクリックします。

## 非対称の行と列の作成

非対称の行と列には、同じディメンションで選択されたが異なっているメンバー・セットが含まれます。例:

行/列 A: シナリオ = Actual、期間 = Q1

行/列 B: シナリオ = Budget、期間 = Q2, Q3, Q4

非対称の行または列を作成するには:

1. フォームを開き「レイアウト」をクリックします。

2. 「**ディメンション・セレクト**」をクリックし、変更するディメンションを選択します。
3. ディメンション名の右側にある「**メンバー・セレクト**」をクリックし、このディメンションに選択したメンバーを変更します。
4. 「**保存**」をクリックして処理を保存して続行するか、「**終了**」をクリックして処理を保存してフォームを閉じます。

## 式の行と列の追加

式の行には、フォームの行に適用される式が含まれます。式の列には、フォームの列に適用される式が含まれます。たとえば、1月の売上(列 A)と2月の売上(列 B)のパーセンテージ差異を計算する式の列(列 D)を作成できます。式の行または列に定義された式は、行または列のすべてのディメンションに適用されます。既存の式をフォームに定義する、または割り当てる場合は、「**レイアウト**」タブで適切な行または列を選択し、「**セグメント・プロパティ**」の下の式作成オプションを表示します。

### ヒント:

空白行を作成するには、他の2つの行間に式の行を追加することを考慮します。空白行は、フォーム内で合計と小計を視覚的に区別する際に役に立ちます。

式の行と列を追加するには:

1. フォームを開き「**レイアウト**」をクリックします。
2. 「**レイアウト**」タブで、「**行**」または「**列**」を右クリックします。
3. 「**式の行の追加**」または「**式の列の追加**」を選択します。
4. 行または列で表示される新しい「**式ラベル**」をクリックし、式の名前を入力します。
5. 行または列の番号をクリックし、右側の「**セグメント・プロパティ**」ペインに表示される次のいずれかを指定します。
  - 「**非表示**」では、行または列が非表示になります
  - 「**区切り線の表示**」では、行または列の区切り記号が表示されます
  - 「**フォームの式を表示**」では、行または列ヘッダーでそのオプションをクリックしたときに、フォームに式が表示されます
6. 右側のペインにある「**式のデータ型**」のディメンションごとに、式の結果のデータ型を選択します。
  - **通貨**
  - **通貨以外**
  - **パーセンテージ**
  - **スマートリスト**

「スマートリスト」を選択する場合、データ型の横にあるドロップダウン・リストからスマート・リストを選択します。

  - **日付**
  - **テキスト**

7. 「式」フィールドに式の名前を入力して「編集」をクリックし、行または列に使用する式を定義します。
8. 式にエラーがないことを確認するには、「検証」をクリックします。
9. 「OK」をクリックして式を保存し、「式」ウィンドウを閉じます。

## 単一のフォーム・ページと視点の定義

ページ軸と視点についてディメンションとメンバーを選択できます。視点ディメンションおよびメンバーは、フォーム・タイプに対して有効で、かつページ、列または行軸に割り当てられていない必要があります。視点は、データの交差を定義する固有のディメンション・メンバーを設定します。

フォームのユーザー変数を設定すると、変数名が「視点」に表示されます。

ページ軸および視点を定義するには:

1. フォームを開き「レイアウト」をクリックします。
2. 「ディメンション・セレクト」をクリックし、ディメンションを「ページ」にドラッグしてフォーム・ページ軸に追加します。
3. ページ軸ディメンションごとに「メンバー・セレクト」をクリックし、メンバーを選択します。
4. これらのステップを繰り返し、複数のディメンションをページ軸に割り当てます。  
複数のディメンションをページ軸に割り当てると、ユーザーはデータ入力中にディメンションナリティを選択できます。ユーザーは、「表示オプション」を選択し、ページの選択を、最近使用した選択に設定するかどうかを指定できます。
5. 「ディメンション・プロパティ」で、ページ・ディメンションのオプションを選択またはクリアします。
6. オプション: 「ディメンション・セレクト」をクリックし、ディメンションを「視点」にドラッグして「視点」フォームに追加します。「視点」に移動するディメンションごとにこのアクションを繰り返します。
7. 「視点」で、ディメンションごとに「メンバー・セレクト」をクリックし、メンバーを選択します。
8. 「ディメンション・プロパティ」で、視点ディメンションのオプションを選択またはクリアします。
9. 「保存」をクリックして処理を保存して続行するか、「終了」をクリックして処理を保存してフォームを閉じます。

## SingleTime ディメンションの使用

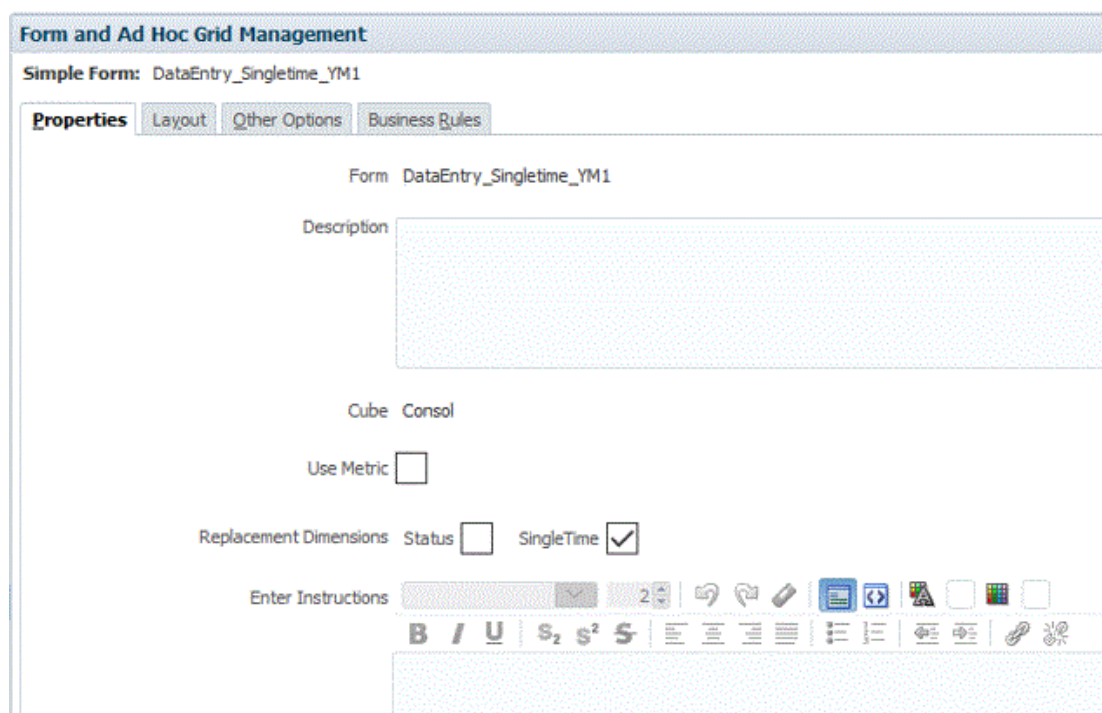
密/疎最適化(DSO)オプションを使用するアプリケーションでは、SingleTime という名前のシステム置換ディメンションをデータ・フォームに使用できます。SingleTime ディメンションは、年ディメンションと期間ディメンションを組み合わせます。たとえば、FY22 年と July 期間の場合は"Jul2022"となります。これは、フォームで様々な月および年のデータ(前年の過去 6 か月のデータなど)を表示する場合に役立ちます。また、相対関数を使用して、様々な期間または年のフォーム・データを表示することもできます。

 ノート:

SingleTime ディメンションは、データ・フォームおよび Oracle Smart View for Office を介してアクセスされるデータ・フォームでのみ使用できます。

SingleTime ディメンション機能を使用する前に、アプリケーションの作成プロセス中、または「アプリケーション構成」の「機能を使用可能にする」ページからアプリケーションを作成した後に、この機能を有効にする必要があります。[アプリケーションの機能の有効化](#)を参照してください。

データ・フォームで SingleTime を有効にするには、フォームを定義するときに置換ディメンションとして SingleTime を選択します。



The screenshot shows the 'Form and Ad Hoc Grid Management' window. The title bar reads 'Form and Ad Hoc Grid Management'. Below it, the form name is 'Simple Form: DataEntry\_Singletime\_YM1'. There are four tabs: 'Properties', 'Layout', 'Other Options', and 'Business Rules'. The 'Properties' tab is active. Inside the 'Properties' tab, there is a section for 'Form DataEntry\_Singletime\_YM1'. Below this, there is a 'Description' field which is empty. Further down, there are 'Cube' and 'Consol' labels. Below that is a 'Use Metric' checkbox which is unchecked. Under 'Replacement Dimensions', there are 'Status' and 'SingleTime' checkboxes. The 'SingleTime' checkbox is checked. At the bottom, there is an 'Enter Instructions' field with a dropdown menu showing '2'. Below the field is a rich text editor toolbar with various icons for bold, italic, underline, strikethrough, bulleted list, numbered list, indent, outdent, link, unlink, and insert image.

SingleTime 機能を使用できるようにするには、フォームの行または列に年ディメンションと期間ディメンションの両方(いずれも選択されていない状態)が含まれている必要があります。年と期間は同じ軸上にある必要があります。両方のディメンションの選択は、相対ルールおよび RelativeRange ルールの実行時プロンプトに基づきます。

SingleTime が有効な場合、メンバー・セクタの関数セクタから 2 つの追加の関数(相対または相対範囲)を使用できます。これらのビジネス・ルールはフォームでのみ選択でき、SingleTime 置換ディメンションが選択されている場合にのみ選択できます。必要に応じてこれらのルールの一方または両方を適用して、様々な期間または年のデータを表示できます。これらのルールは、SingleTime ディメンション内でナビゲーション目的で使用され、実際のデータは引き続き年ディメンションと期間ディメンションに別々に保存されることに注意してください。フォームがレンダリングされると、送信または保存されたすべてのデータが年ディメンションおよび期間ディメンションのメンバーに書き込まれます。

相対関数では、指定された **SingleTime** 期間を基準にしたオプション・パラメータを使用して、**SingleTime** 期間(Jan 2020 など)が表示されます。相対値は正または負にできません(3 や-5 など)。たとえば、相対(Mar 2022,5)では、Aug 2022 (Mar 2022 を基準にして 5 期間)が表示されます。

**RelativeRange** 関数では、表示する期間の相対範囲のオプション・パラメータを使用して、**SingleTime** 期間(Feb 2020 など)が表示されます。相対範囲値は正または負にできません。たとえば、**RelativeRange** (Jan 2020,2)では、Jan 2020、Feb 2020、Mar 2020 (Jan 2020 と Jan 2020 以降の 2 つの追加の期間)が表示されます。

**SingleTime** ディメンションが作成されると、**SingleTime** というシード済ユーザー変数も作成されます。デフォルト値は、**SingleTime** ディメンションの最初の年メンバーを持つ最初のレベル・ゼロ期間です。この変数は、**SingleTime** ディメンションのアンカー期間として使用され、フォームでルールを実行するときに選択したオフセットに基づいて前方または後方に移動します。相対ルールまたは **RelativeRange** ルールを実行し、メンバーを選択してオフセット値を入力すると、そのメンバーが **SingleTime** ユーザー変数に割り当てられる新しい値になります。

ユーザー変数の値を手動で変更することもできます。[ユーザー変数の作成](#)を参照してください。たとえば、"currentPeriod" = Dec 2020 などのユーザー変数を定義できます。これを相対関数(相対(&currentPeriod,4))で使用すると、フォームには Mar 2021 (現在の期間 Dec 20 を基準にして 4 期間)が表示されます。

**SingleTime** ディメンションを使用するには:

1. アプリケーションの作成プロセス中、または「**アプリケーション構成**」の「**機能を使用可能にする**」ページからアプリケーションを作成した後に、「**「年」および「期間」を単一のディメンションとして結合します。**」アプリケーション・オプションを有効にします。

このオプションを選択すると、**SingleTime** ディメンション・メンバーが、期間メンバー名、続いて年メンバー名(Q1 2022、Jan 2022 など)を使用して作成されます。メンバーの作成中に、名前前のフォーマットが同じ既存のメンバーについて検証が実行されます。既存のメンバーがある場合は、警告メッセージが表示され、**SingleTime** ディメンションを作成する前に、既存のメンバーを削除し、データベースをリフレッシュする必要があります。**SingleTime** ディメンションが正常に作成されると、アプリケーションの年および期間に基づいたディメンション・メンバーとともにディメンション・リストに表示されます。

2. データ・フォームを作成し、「**プロパティ**」タブの「**置換ディメンション**」で、「**SingleTime**」を選択します。
3. 「**レイアウト**」タブを選択し、行および列のレイアウトを設定します。**SingleTime** メンバーは **POV** で使用でき、行および列にドラッグ・アンド・ドロップできます。

**SingleTime** 機能を使用するには、フォームの行または列に年ディメンションと期間ディメンションの両方(いずれも選択されていない状態)が含まれている必要があります。これら両方が同じ軸上にある必要があります。

4. 範囲ビジネス・ルールのいずれかを適用するには、メンバー・セレクトアの「**関数**」ドロップダウン・ボックスから、「**相対**」または「**RelativeRange**」を選択します。
5. 必要に応じて、**SingleTime** メンバーのメンバー選択を変更し、オフセット値を入力して「**OK**」をクリックします。

オフセットの有効な入力値は、負または正の整数です。



6. フォームにデータを入力し、計算ステータスが正しく更新されていることを確認します。


## フォームおよびフォーム・コンポーネントの操作

### 次も参照:

- [フォームを開く](#)
- [フォームのプレビュー](#)
- [フォーム定義の印刷](#)
- [フォームの編集](#)
- [フォームの移動、削除および名前変更](#)

## フォームを開く

編集用のフォームを開くには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「フォーム」をクリックします。
3. 開こうとするフォームのタイプに応じたタブを選択します。
4. フォーム名をクリックします。  
フォームが新しいタブに編集モードで開きます。

フォームを開いて表示するには:


1. ホーム・ページで、「データ」をクリックします。
2. 開こうとするフォームのタイプに応じたタブを選択します。
3. フォーム名をクリックします。

## フォームのプレビュー

フォームの設計中に、視点、列、行およびページ軸に割り当てられているディメンションをプレビューできます。プレビューでは、メンバー属性、別名、およびフォームに関連付けられたデータが表示されますが、新規データは入力できません。

プレビューにより、通常のフォームの設計検証チェックが完了し、フォームに含まれるデータ検証ルールが正しく評価されたかどうかチェックされます。フォームを保存するには、データ検証ルールが正しく完了している必要があります。また、データ検証ルールは、フォームの一部として保存されます。変更をフォームに保存しない場合、フォームが最後に保存された後に行われた検証ルールの変更はすべて失われます。

フォームの設計をプレビューするには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「フォーム」をクリックします。
3. フォームを開いた状態で「プレビュー」をクリックします。  
フォームが新しいタブに編集モードで開きます。

4. 設計検証チェック中にレポートされた問題を解決します。これには、データ検証ルールに関する問題も含まれます。
5. フォームを保存し、更新が保存されたことを確認します。更新には、データ検証ルールの変更も含まれます。

## フォーム定義の印刷

サービス管理者は、ディメンション・メンバー、ビジネス・ルール、アクセス権限および他のフォームのコンポーネントについての情報が記載されているフォーム定義レポートを印刷できます。

フォーム定義レポートを作成および印刷するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックし、「モニターおよび検索」で「システム・レポート」をクリックします。
2. 「フォーム」タブを選択します。
3. 「使用可能なフォーム」から「選択したフォーム」に移動することによって、印刷するフォーム定義を選択します。
4. オプション: 「メンバー選択リストを含める」を選択し、レポートに列と行を含みます。
5. オプション: 「ビジネス・ルールを含める」を選択し、関連付けられたビジネス・ルールを含みます。
6. 「レポート作成」をクリックします。  
Adobe Acrobat が次のような集計されたレポートを生成します:


- キューブ
- 説明
- 列ディメンション、メンバーおよび追加の列の定義
- 行ディメンション、メンバーおよび追加の行の定義
- 「ページと視点」ディメンション
- フォームのアクセス権限
- 関連付けられたビジネス・ルール

7. レポートを印刷するには、「ファイル」、「印刷」の順に選択します。

## フォームの編集

フォームのレイアウト、メンバーおよびプロパティを編集できます。たとえば、式の行または列をフォームに追加できます。

フォームを編集するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「フォーム」をクリックします。
3. フォームを選択し、「編集」をクリックします。




または、ホーム・ページで「**データ**」をクリックすることもできます。フォーム・フォルダを展開し、フォームの名前をクリックしてそれを開き、「**編集**」をクリックします。

4. 次を選択します:
  - **プロパティ**: 説明および指示を編集します。
  - **レイアウト**: フォームのレイアウトを編集します。
  - **その他オプション**: フォーム精度の編集、フォームに関連付けられたコンテキスト・メニューの変更、動的ユーザー変数の有効化/無効化およびユーザー変数の選択を行います。
5. 次のいずれかのオプションを選択します。
  - 作業を保存するには、「**保存**」をクリックします。
  - フォームのバリエーションを新しい名前で保存するには、「**名前を付けて保存**」をクリックし、「**新規フォーム名**」を入力して、「**OK**」をクリックします。新しい名前を更新されたフォームがフォーム・リストに追加されます。レッドウッド・エクスペリエンスが有効になっている場合、新しい名前のフォームは新しい動的タブで開きます。
6. 「**終了**」をクリックして処理を保存し、フォームを閉じます。

## フォームの移動、削除および名前変更

フォームを移動、削除および名前変更するには:

1. 「**ナビゲータ**」アイコン  をクリックします。
2. 「**作成および管理**」で「**フォーム**」をクリックします。
3. フォームを選択します。
4. 次のタスクを選択します。
  - フォームを移動するには、「**移動**」をクリックしてから、宛先フォルダを選択します。

### ノート:

複数のフォームが同じフォルダにある場合、それらを同時に移動できます。

- フォームを削除するには、「**削除**」をクリックします。
  - フォームの名前を変更するには、「**名前変更**」をクリックしてから、新しい名前を入力します。
5. 「**OK**」をクリックします。

## ユーザー変数の操作

次も参照:

- [ユーザー変数について](#)  
ユーザー変数はフォームでフィルタとして機能し、ユーザーは部署などの特定のメンバーのみに集中できます。
- [ユーザー変数の管理](#)

- ユーザー変数の作成
- ユーザー変数の削除

## ユーザー変数について

ユーザー変数はフォームでフィルタとして機能し、ユーザーは部署などの特定のメンバーのみに集中できます。

ユーザー変数をフォームに関連付けるには、ユーザー変数を作成する必要があります。

## ユーザー変数の管理

ユーザー変数を設定し、フォームで表示されるメンバー数を制限することで、ユーザーが一定のメンバーに注目できるようになります。たとえば、エンティティ・ディメンションで **Division** という名前のユーザー変数を作成すると、ユーザーは自分の部門のメンバーを選択できます。各ディメンションについてユーザー変数の数を作成し、フォームのすべての軸でユーザー変数を選択できます。


一般的なステップ:

1. 必要に応じて、ディメンション・アウトラインに適切な親レベルのメンバーを作成します。
2. ユーザーがフィルタ処理できるディメンションについて、それぞれユーザー変数を定義します。
3. フォームをデザインするときに、ユーザー変数をフォームに関連付けします。
4. フォームに関連付けられたユーザー変数についてメンバーを選択するよう、ユーザーに指示します。

ユーザー変数を持つフォームをユーザーが開く前に、プリファレンスで「ユーザー変数オプション」のメンバーを選択する必要があります。初期値を選択した後で、フォームまたはプリファレンスでそれを変更できます。

## ユーザー変数の作成


ユーザー変数を作成するには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「作成および管理」で「変数」をクリックします。
3. 「ユーザー変数」タブを選択します。
4. 「アクション」をクリックして、「追加」を選択します。
5. 「ユーザー変数」ウィンドウの「ディメンション名」で、ユーザー変数を作成するディメンションを選択します。
6. 「ユーザー変数名」で、ユーザー変数の名前を入力します。
7. オプション: 「コンテキストの使用」を選択して、ユーザー変数が視点で使用できるようにします。この設定では、ユーザー変数の値はフォームのコンテキストにより動的に変更されます。
8. 「OK」をクリックします。

これで、フォームにユーザー変数に関連付けることができます。

## ユーザー変数の削除

ユーザー変数を削除するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「変数」をクリックします。
3. 「ユーザー変数」タブを選択します。
4. 削除するデータ変数を選択します。
5. 「アクション」をクリックして、「削除」を選択します。
6. 「はい」をクリックします。

## スマート・リストの操作


管理者は、スマート・リストを使用して、フォーム・セルからユーザーがアクセスするカスタムのドロップダウン・リストを作成します。

スマート・リスト(メンバー・プロパティとして)に関連するメンバーのセルをクリックする場合、ユーザーは、データを入力するかわりに、ドロップダウン・リストからアイテムを選択します。スマート・リストを含むセルには入力できません。スマート・リストはセルには下矢印で表示され、ユーザーがセルをクリックすると展開されます。

次のタスクを実行してスマート・リストを作成し、管理します。

- スマート・リストを定義します
- メンバーにスマート・リストを関連付けます。
- スマート・リストを表示するディメンションを選択します。
- オプション:
  - メンバー式でスマート・リストの値を使用します。
  - スマート・リストに関連付けられた#MISSING セルのフォームでの表示方法を設定します。
  - レポート・アプリケーションでスマート・リストを同期します

スマート・リストを作成または操作するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「スマート・リスト」をクリックします。
3. 次のいずれかのアクションを実行します。
  - スマート・リストを作成するには、「作成」をクリックして名前を入力し、「OK」をクリックします。
  - スマート・リストを変更するには、そのスマート・リストを選択して「編集」をクリックします。
  - スマート・リストを削除するには、「削除」、「OK」の順にクリックします。スマート・リストを削除すると、ディメンション・メンバーおよびレポート・アプリケーションと関連付けられたマッピングも削除されます。


データ・セルは 1 つのスマート・リストのみに表示できます。複数のスマート・リストがセルで交差する場合、どちらを優先させるかを設定します。

- **オプション:** 「同期」をクリックすると、レポート・アプリケーションのスマート・リストが同期されます。レポート・アプリケーションでのスマート・リストの同期を参照してください。

## レポート・アプリケーションでのスマート・リストの同期

スマート・リストを同期して、レポート・アプリケーションでディメンションにマップできます。

レポート・アプリケーションでスマート・リストを同期するには:

1. アプリケーション・データベースをリフレッシュします。
2. レポート・アプリケーション・マッピングをリフレッシュします。
3. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
4. 「作成および管理」で「スマート・リスト」をクリックします。
5. 「同期」をクリックし、「OK」をクリックします。

同期の際には、適切なスマート・リスト内の最後のスマート・リスト・アイテムの後で既存のすべてのマッピングのレポート・アプリケーションの値が追加されます。スマート・リストが 2 つのディメンションにマップされている場合、最初のマッピングからのメンバーがすべて挿入されてから、2 番目のマッピングからのメンバーが挿入されます。メンバーがスマート・リストにすでに存在する場合は、再追加されません。

6. スマート・リストのアイテムが複数のディメンションにマップされている場合には、新しい名前で新しいスマート・リストを作成してから、関連データを手動で転送します。

### ノート:

スマート・リスト名にスペースを含めることはできません。レポート・アプリケーションでスマート・リストを同期する場合は、新しいメンバーの名前にスペースが含まれていないことを確認してください。

## スマート・リスト・プロパティの追加と変更

スマート・リスト・プロパティの編集タブを使用して、スマート・リストのプロパティを設定します

スマート・リストのプロパティを設定するには:


1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「スマート・リスト」をクリックします。
3. スマート・リストを選択し、「編集」をクリックします。
4. 「プロパティ」でスマート・リストのプロパティを定義します。

表 16-8 スマート・リストのプロパティ

プロパティ	説明
スマート・リスト	英数字およびアンダースコア ( <b>Position</b> など)、特殊文字またはスペースなしの文字のみを含む一意の名前を入力します。スマート・リスト名は数式で参照できます。
ラベル	スマート・リストが選択されたときに表示されるテキストを入力します。スペースおよび特殊文字を使用できます。
表示順	スマート・リストのドロップダウン・リストを、ID 順、名前順、ラベル順のいずれでソートするのかを指定します。
#Missing ドロップ・ダウン・ラベル	<p>値が#MISSING のスマート・リストのエントリに表示するラベル(<b>No Justification</b> など)を入力します。</p> <p>スマート・リストのドロップダウンに最初の項目として表示されるので、フォームの中で <b>#MISSING</b> を値として選択できます。</p> <p>セルがフォーカスされていないときは、次のオプションで「ドロップ・ダウン設定」を選択した場合にのみ、このラベルが表示されます。それ以外の場合は、フォームについて選択した「欠落値を空白で表示」の設定に応じて、<b>#MISSING</b> または空白のセルが表示されます。</p> <p><b>#MISSING</b> ラベルは、<b>#MISSING</b> データをセルに表示するかどうかを決定するのみです。格納された値は、<b>#MISSING</b> のままです。</p>
#Missing フォーム・ラベル	<p>スマート・リストに関連付けられたセルにおける、<b>#MISSING</b> 値の表現形式を指定します。オプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ドロップ・ダウン設定: 「<b>#Missing</b> ドロップ・ダウン・ラベル」で設定されたラベルを表示します。</li> <li><b>フォーム設定</b>: フォームについて選択した「欠落値を空白で表示」の設定に応じて、<b>#MISSING</b> を表示するか、セルを空白のままにします。この選択によって、セルが選択されていないときに表示される内容が決定されます。セルが選択されているときは、スマート・リストのドロップ・ダウン・リストで選択されたアイテムが表示されません。</li> </ul>
自動的に ID を生成	各スマート・リストのエントリに対して数字の ID を生成します。このオプションを選択しない場合は、スマート・リストの ID 値をカスタマイズできます。

5. 「保存」をクリックします。

6. 「エントリ」を選択します。

「エントリ」タブを使用して、スマート・リストの選択肢を定義します。

## スマート・リスト・エントリの追加と変更

スマート・リスト・エントリの編集/追加タブを使用して、スマート・リストの選択肢を定義します。

スマート・リストのエントリを定義するには:


1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「スマート・リスト」をクリックします。
3. スマート・リストを選択し、「編集」をクリックします。
4. 「エントリ」でドロップダウン・リストのアイテムを定義します。
  - **最初のアイテムのみ:** 最初の行に情報を入力します。
  - アイテムを追加するには、「追加」をクリックして、情報を入力します。
  - アイテムを削除するには、そのアイテムを選択して、「削除」をクリックします。
  - アイテムを編集するには、行の中の情報を変更します。

表 16-9 スマート・リストのエントリ

エントリ・プロパティ	説明
ID	エントリを表示する順番を決める一意の数です。「プロパティ」タブで「自動的に ID を生成」が選択されていない場合にのみ、カスタマイズ可能です。
名前	英数字およびアンダースコア (Customer_Feedback など)で、特殊文字やスペースのない一意の英数字名です。
ラベル	ドロップダウン・リストのスマート・リストのエントリに表示されるテキスト (Customer Feedback など)です。

デフォルトでは、移行のエクスポート・ファイルは、インポートされて内部でスマート・リストのエントリ ID として使用される ID 属性を Ownership.Data.xml ファイルに格納します。この動作を無効にするには、IncludeSmartListId 代替変数の値を **False** に変更します。

リスト内で赤で強調表示されるアイテムは、重複しています。

5. 次のいずれかのアクションを実行します。
  - 「保存」をクリックします。
  - 「プレビュー」を選択します。

## スマート・リストのプレビュー

定義済のスマート・リストを「プレビュー」タブでプレビューします。タブは、スマート・リストをドロップダウン・リストまたは表で表示されるように表示します。

## スマート・リストで#Missing を表示

管理者は、データがセルにない場合を含めて、スマート・リストおよびデータ・セルで表示される値を設定します。セルでは、値なし、#MISSING または(スマート・リストに関連するセルの)指定値を表示させることができます。

このオプションを使用して、セルがフォーカスにない場合の#MISSING の表示を制御します。

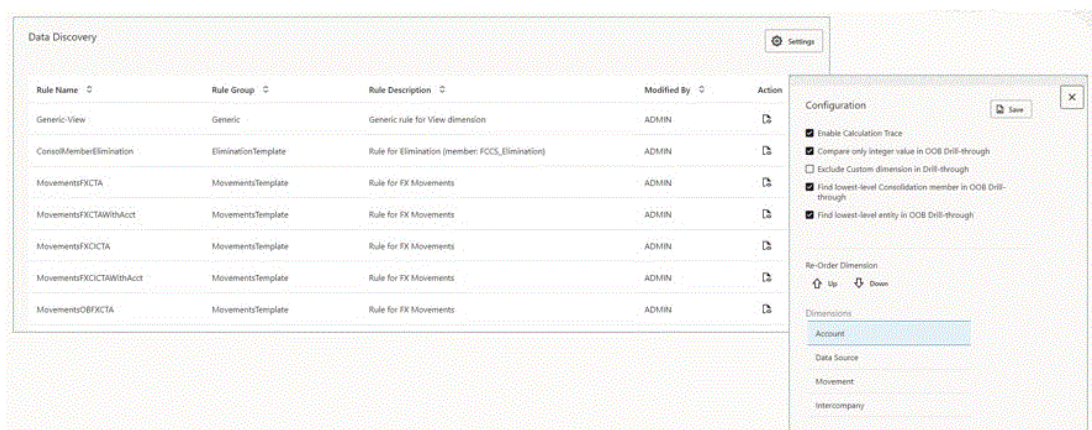
オプション	ガイドライン
空白	フォームを設計する場合、「 <b>欠落値を空白で表示</b> 」を選択します。 スマート・リストのプロパティを設定する場合、「 <b>フォーム設定</b> 」を選択します。
#MISSING	フォームを設計する場合、「 <b>欠落値を空白で表示</b> 」を選択しないでください。 スマート・リストのプロパティを設定する場合、「 <b>フォーム設定</b> 」を選択します。
「変更なし」などのカスタム・ラベル	スマート・リストのプロパティを設定する場合、「 <b>#Missing ドロップ・ダウン・ラベル</b> 」フィールドにカスタム・ラベル(変更なしなど)を入力します。「 <b>ドロップ・ダウン設定</b> 」を選択します。

## データ検出の操作

データ検出は、Financial Consolidation and Close の計算におけるデータ・フローの理解と問題の診断に役立つように設計されています。データ・フォームまたは Oracle Smart View for Office からデータ検出を実行できます。選択したデータ・セルについて、データ検出プロセスにより、メタデータ情報、エラー・メッセージおよび診断の提案に関するノートが生成されます。さらに、このプロセスでは、データ検出のルールと設定およびセルのレベルに基づいてフォーム・グリッドが生成されます。

データ検出を使用すると、データの詳細と履歴をレビューおよび分析し、パフォーマンスを向上させる適切なアクションを実行し、問題を解決できます。

### データ検出





データ検出のメイン・ページには、このプロセスに使用されるルールと、構成してデータ検出のタイプを選択できる設定が表示されます。ルールは読取り専用であり、変更できません。

## データ検出の設定

「構成」ページでは、データ検出分析のタイプに関する設定を指定できます。ドリルダウンしてディメンションの最下位レベルのメンバーを検索することを選択するときに、矢印キーを使用してディメンションのリストを並べ替え、ドリルダウン・プロセスの順序を制御できます。

設定の詳細は、[データ検出の出力の理解](#)を参照してください。

データ検出の設定を指定するには:

1. ホーム・ページで「ナビゲータ」をクリックし、「ツール」で「データ検出」を選択します。
2. 「データ検出」ページで、「設定」をクリックします。
3. 次に示す設定を 1 つ以上選択します:
  - 計算トレースの有効化
  - OOB ドリルスルーで整数値のみを比較
  - ドリルスルーでカスタム・ディメンションを除外
  - OOB ドリルスルーで最下位レベルの連結メンバーを検索
  - OOB ドリルスルーで最下位レベル・エンティティを検索
4. 「保存」をクリックします。

## データ検出のルール

「ルール」ページには、[データ検出の参照グリッド](#)の動作を制御するために使用されるデータ検出のルールがすべて表示されます。

Rule Name	Rule Group	Rule Description	Modified By	Action
RetainedEarnings	OpeningBalanceTemplate	Rule for Opening Balance	ADMIN	
OBFXCTA	OpeningBalanceTemplate	Rule for Opening Balance	ADMIN	
Generic View	Generic	Generic rule for View dimension	ADMIN	
OBOC-Disposals	OBOCTemplate	Rule for Opening Balance Ownership Change (OBOC)	ADMIN	
OBOC-Acquisitions	OBOCTemplate	Rule for Opening Balance Ownership Change (OBOC)	ADMIN	
ConsolMemberElimination	EliminationTemplate	Rule for Elimination (member: FCCS_Elimination)	ADMIN	
DSMemberElimination	EliminationTemplate	Rule for Elimination (member: FCCS_Intercompany Elimination)	ADMIN	

データ検出のルールは読取り専用です。それらを変更することや、このプロセスのカスタム・ルールを作成することはできません。

データ検出のルールを表示するには:

1. ホーム・ページで「ナビゲータ」をクリックし、「ツール」で「データ検出」を選択します。
2. 「データ検出」ページで、ルールを表示します。



### フォームへのデータ検出の追加

データ検出を実行する前に、コンテキスト(右クリック・アクション)メニューをフォームに追加する必要があります。

「データ検出」コンテキスト・メニューをフォームに追加するには:

1. フォームを開き、「**その他オプション**」タブをクリックします。
2. 「**コンテキスト・メニュー**」で、「**データ検出**」を「**使用可能なメニュー**」から「**選択したメニュー**」に移動します。
3. フォームを保存します。

### データ検出のセル・コンテキストの理解

データ検出では、選択したセルの個々のディメンションのメンバーを含むセル・コンテキストが読み取られます。

データ検出の出力は、選択したセルに固有です。

### フォームからのデータ検出の実行

1. 「データ検出」コンテキスト・メニューが有効になっているフォームを開きます。
2. 任意のデータ・セルを右クリックし、「**データ検出**」を選択します。

### Smart View からのデータ検出の実行

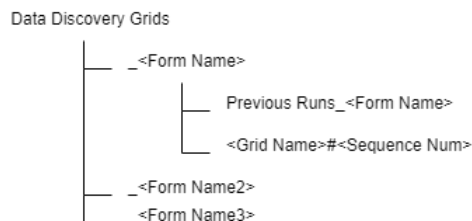
Smart View からデータ検出を実行するには、バージョンが Smart View クライアント・バージョン 22.100 以上である必要があります。

1. 「データ検出」コンテキスト・メニューが有効になっているフォームを開きます。
2. 任意のデータ・セルを右クリックし、「**データ検出**」を選択します。

## データ検出の出力の理解

### データ検出グリッド・フォルダ内の出力

#### フォルダおよびグリッドの命名の理解



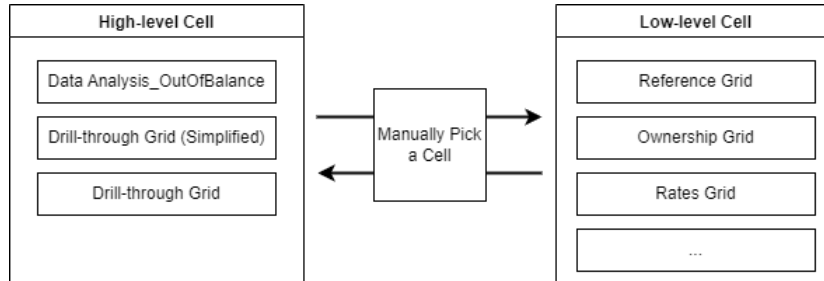
データ検出によって生成されたグリッドはすべて、**データ検出グリッド・フォルダ**の下に置かれます。

データ検出の実行元のそれぞれのフォームには、「\_」+<フォーム名>という名前の独自のサブフォルダがあります。

それぞれのサブフォルダの直下にあるグリッドが最新のものであり、古いグリッドは、"以前の実行\_" + <フォーム名> という名前のサブフォルダに移動されます。

それぞれのグリッドの名前は、<グリッド名> + "#" + <連番> です。

### 様々なセル・レベルに対するグリッドの実行



任意のセルに対してデータ検出を実行できますが、結果は、セル・レベルに応じて異なる出力グリッドになります。

上位レベルのセルに対してデータ検出を実行すると、"貸借不一致"分析とドリルスルーがトリガーされ、データが生成された場所により近い下位レベルのセルを見つけることができます。

診断の方向を決定できます。生成されるグリッドは、選択するセルに応じて毎回異なる場合があります。

次のディメンション・メンバーがすべてレベル 0 である場合、メインの参照グリッドおよび対応するグリッドが、機能の有効化とセル・コンテキストに基づいて生成されます。

- 勘定科目
- 増減
- データ・ソース
- 会社間(「会社間データ」が有効になっている場合)

### 「データ分析\_OutOfBalance」グリッド

「データ分析\_OutOfBalance」グリッドは、"貸借不一致"シナリオ向けに設計されています。

その勘定科目メンバーが合計貸借対照表(この勘定科目は様々なアプリケーション設定に応じて異なります)で、かつ増減メンバーが期末残高である場合は、セルが"貸借不一致"として識別されます。

システムは最初の貸借不一致値をターゲット値として使用し、それぞれのディメンションをドリルダウンしながら、交差のドリルダウンの行き止まりまで検索します。目標は、貸借不一致シナリオの根本原因をさらに突き止めるために、いくつかの重要なメンバーを明らかにするです。

### コンポーネント

- データ検出の「設定」で「OOB ドリルスルーで最下位レベルの連結メンバーを検索」オプションを選択した場合、論理的に最下位の連結メンバーまでドリルダウンし、ターゲット値をリフレッシュします(例: コントリビューションから比例まで)。

- データ検出の「設定」で「OOB ドリルスルーで最下位レベル・エンティティを検索」オプションを選択した場合、最下位レベルのエンティティ・メンバー(複数のエンティティがある場合はランダムに選択されます)までドリルダウンし、ターゲット値をリフレッシュします。
- 他のディメンションでドリルダウンして最下位のメンバーを見つけ、ターゲット値を検索します。データ検出の「設定」の「ディメンションの並替え」を使用して、ディメンション・ドリルダウンの順序を制御できます。
- データ検出の「設定」の「OOB ドリルスルーで整数値のみを比較」オプションを無効にしないかぎり、ターゲット値を探すときに整数値のみが比較されます。
- 通常のドリルスルー・グリッドは、前述のステップで処理された最後の交差に基づいて生成されます。

#### グリッドの例 - 最初の交差

	Total Custom1	
	Total Custom2	
	Total Custom3	
	Total Custom4	
	FCCS_Total Balance Sheet-Traditional Approach	
	FCCS_ClosingBalance	
	FCCS_Total Data Source	
	FCCS_Intercompany Top	
	Parent Currency	
FCCS_Contribution		-10707392926.99610000

最下位の連結メンバーの検索

	Total Custom1	
	Total Custom2	
	Total Custom3	
	Total Custom4	
	FCCS_Total Balance Sheet-Traditional Approach	
	FCCS_ClosingBalance	
	FCCS_Total Data Source	
	FCCS_Intercompany Top	
	Parent Currency	
FCCS_Contribution		-10707392926.99610000
FCCS_Elimination		-0.00000763
FCCS_Proportion		-10707392926.99270000
FCCS_Parent Total		-10707392926.98050000
FCCS_Entity Total		-10707392927.00240000
FCCS_Entity Total Adj		-524232281651.19500000
FCCS_Entity Elimination Adj		0.00000020
FCCS_Entity Proportion Adj		-524232281651.19900000

Target Value

勘定科目を除く各ディメンションの展開

	Total Custom1	Total Custom1
	Total Custom2	No Custom2
	Total Custom3	Total Custom3
	Total Custom4	NO Custom4
	FCCS_Total Balance Sheet-Traditional Approach	FCCS_Total Balance Sheet-Traditional Approach
	FCCS_ClosingBalance	FCCS_Mvmts_Disposals
	FCCS_Total Data Source	FCCS_Intercompany Eliminations
	FCCS_Intercompany Top	FCCS_Intercompany Top
	Parent Currency	Parent Currency
FCCS_Contribution	-10707392926.99610000	-11228813163.49610000
FCCS_Elimination	-0.00000763	0.00000000
FCCS_Proportion	-10707392926.99270000	-11228813163.45700000
FCCS_Parent Total	-10707392926.98050000	-11228813163.45310000
FCCS_Entity Total	-10707392927.00240000	-11228813163.48830000
FCCS_Entity Total Adj	-524232281651.19500000	-524232281651.18000000
FCCS_Entity Elimination Adj	0.00000020	0.00000020
FCCS_Entity Proportion Adj	-524232281651.19900000	-524232281651.19100000

Target Value

### ドリルスルー・グリッド

このグリッドは、上位レベルのセルに対する詳細な分析に役立ちます。

このグリッドは、ZERO 値および#MISSING 値を除外しながら、それぞれのディメンションでレベル 0 のメンバーまで自動的にドリルダウンします。

データ検出の「設定」で「ドリルスルーでカスタム・ディメンションを除外」オプションを選択することにより、カスタム・ディメンションではドリルダウンしないことを選択できます。

### ドリルスルー・グリッド - 最初の交差

	Total Custom1
	Total Custom2
	FCCS_Total BS
	Mvmts_Disposals
	Intercompany Eliminations
	Intercompany Top
FCCS_Proportion	100000.00

Total Custom1	Custom1_001	Custom1_001	Custom1_001	Custom1_001	Custom1_001	Custom1_001	Custom1_002	...
Total Custom2	Custom2_001	Custom2_002	Custom2_002	Custom2_002	Custom2_002	Custom2_004	Custom2_001	...
FCCS_Total BS	Account_101	Account_101	Account_101	Account_101	Account_101	Account_102	FCCS_REC_OBFXCTA	...
Mvmts_Disposals	Mvmts_Disposals	Mvmts_Disposals	Mvmts_Disposals	Mvmts_Disposals	Mvmts_Disposals	Mvmts_Disposals	Mvmts_Disposals	...
Intercompany Eliminations	Intercompany Eliminations	Intercompany Eliminations	Intercompany Eliminations	Intercompany Eliminations	Intercompany Eliminations	Intercompany Eliminations	Intercompany Eliminations	...
Intercompany Top	No Intercompany	No Intercompany	No Intercompany	ICP_E001	ICP_E002	No Intercompany	ICP_E001	...
FCCS_Proportion	100000.00	2000.00	1000.00	500.00	2000.00	No Intercompany	1000.00	-500.00

### ドリルスルー・グリッド(簡易)

簡易ドリルスルー・グリッドでは、ドリルスルー・グリッドよりも列が少なくなります。

このグリッドでは、次のルールを使用して重複列が除外されます:

- 増減メンバーとデータ・ソース・メンバーの組合せは一意である必要があります
- それぞれの勘定科目カテゴリについて勘定科目を 1 つ保持します: 「勘定科目タイプ」 + 「タイム・バランス」 + 「為替レート・タイプ」 + 「ICP」勘定科目
- カスタム・ディメンション・メンバーの組合せを 1 つ保持します
- 会社間ディメンションのほとんどで 2 つのメンバー(ICP なしと ICP\_XXX)を保持します

この結果、ドリルスルー・グリッドの例が次に示すように縮小されます(Account\_102 が Account\_101 と同じカテゴリを持っていることを前提とする):

Total Custom1	Custom1_001	Custom1_001	Custom1_001	Custom1_001	Custom1_001	Custom1_001	Custom1_002	...
Total Custom2	Custom2_001	Custom2_002	Custom2_002	Custom2_002	Custom2_002	Custom2_004	Custom2_001	...
FCCS_Total BS	Account_101	Account_101	Account_101	Account_101	Account_101	Account_102	FCCS_REC_OBFXCTA	...
Mvmts_Disposals	Mvmts_Disposals	Mvmts_Disposals	Mvmts_Disposals	Mvmts_Disposals	Mvmts_Disposals	Mvmts_Disposals	Mvmts_Disposals	...
Intercompany Eliminations	Intercompany Eliminations	Intercompany Eliminations	Intercompany Eliminations	Intercompany Eliminations	Intercompany Eliminations	Intercompany Eliminations	Intercompany Eliminations	...
Intercompany Top	No Intercompany	No Intercompany	No Intercompany	ICP_E001	ICP_E002	No Intercompany	ICP_E001	...
FCCS_Proportion	100000.00	2000.00	1000.00	500.00	2000.00	No Intercompany	1000.00	-500.00

### 参照グリッド

参照グリッドはデータ検出によって生成されるメイン・グリッドで、宛先データ・セルのデータ・フローを理解するために役立ちます。

データ検出の「設定」では、参照グリッドの動作を制御するルールが定義されています。

エンティティおよび連結メンバーは常に行に配置されます。

シナリオ、年、期間およびビュー・メンバーは、列間で異なっていないかぎり、POV バーに配置されます。

他のディメンション・メンバーは常に列に配置されます。

ルールによって、最初の列を展開してデータ・フローを表示する方法が定義されます。たとえば、期首残高メンバーが検出された場合、最後の期間の期末残高が最初の列の左側に表示されます。

		Left->Right View		FCCS_No Intercompany			
		FCCS_OpeningBalance		Payable to Bank Long Term Debt		FCCS_ClosingBalance	
Top->Down View		FCCS_TotalInputAndAdjusted	S_Current Source	S_VisionTechSub	FCCS_Intercompany Eliminations	FCCS_Total Data Source	
		Entity Currency	Parent Currency	Parent Currency	Entity Currency	Parent Currency	Parent Currency
-Vision (USD)	-FCCS_Contribution		447.00000000			0.00000000	418.00000000
	FCCS_Proportion		447.00000000			0.00000000	418.00000000
	-FCCS_Entity Total	447.00000000	447.00000000	0.00000000	100.00000000	0.00000000	418.00000000
	-FCCS_Entity Total Adj			0.00000000	0.00000000	78.00000000	78.00000000
	FCCS_Entity Proportion Adj			0.00000000	0.00000000	78.00000000	78.00000000
	FCCS_Entity Consolidation	447.00000000	447.00000000		100.00000000	-78.00000000	Initial cell 340.00000000
-VisionTech (EUR)	-FCCS_Contribution		214.00000000	-78.00000000	-78.00000000	-78.00000000	136.00000000
	FCCS_Proportion		214.00000000	-78.00000000	-78.00000000	-78.00000000	136.00000000
	-FCCS_Entity Total	200.00000000	214.00000000	-78.00000000	22.00000000	-100.00000000	136.00000000
	-FCCS_Entity Total Adj			-78.00000000	-78.00000000	0.00000000	29.00000000
	FCCS_Entity Proportion Adj			-78.00000000	-78.00000000	29.00000000	29.00000000
	FCCS_Entity Consolidation	200.00000000	214.00000000		100.00000000	-107.00000000	107.00000000
VisionTech (EUR)	-FCCS_Contribution		100.00000000			-100.00000000	0.00000000
	FCCS_Proportion		100.00000000			-100.00000000	0.00000000
	-FCCS_Entity Total	100.00000000	100.00000000			-100.00000000	0.00000000
	-FCCS_Entity Total Adj						72.89719626
	FCCS_Entity Input	100.00000000	100.00000000				72.89719626

### 出資比率グリッド

「出資比率の管理」が有効になっている場合、参照グリッドとともに出資比率グリッドが生成されます。

		FCCS_Percent Ownership	FCCS_Percent Consol	FCCS_Percent Consol Change	FCCS_Percent Min	...
VisionTechSub (CAD)	S_FCCS_Total Geography	0.00000000%	100.00000000%	0.00000000%	100.00000000%	...
	S_Vision	0.00000000%	100.00000000%	0.00000000%	100.00000000%	...
	S_VisionTech	0.00000000%	0.00000000%	-100.00000000%	0.00000000%	...

### レート・グリッド

複数通貨が有効になっている場合、参照グリッドとともにレート・グリッドが生成されます。

### 有効レート・グリッド

複数通貨が有効になっている場合、参照グリッドとともに有効レート・グリッドが生成されます。

### ICP 差異グリッド

会社間勘定または調整勘定については、参照グリッドとともに ICP 差異グリッドが生成されます。

このグリッドは、会社間勘定と調整勘定の間で値をクロスチェックすることを目的として設計されています。

列では、調整勘定が最初の列に表示され、その後、対応するすべての会社間勘定が表示されます。

### EPU 差異グリッド

「エクイティ・ピックアップ」が有効になっている場合、参照グリッドとともにエクイティ・ピックアップ差異グリッドが生成されます。

このグリッドは、資本ソース勘定科目と宛先勘定科目の間で値をクロスチェックすることを目的として設計されています。

		ICP_E1001		
		FCCS_EPUSource	FCCS_Equity Company Income	
		FCCS_No Movement	FCCS_Mvmts_NetIncome	
		FY21	FY21	
		Jan	Jan	
		FCCS_Periodic	FCCS_Periodic	
		Actual	Actual	
		FCCS_EPU	FCCS_EPU	
		Parent Currency	Entity Currency	Parent Currency
HoldingCompany	-FCCS_Contribution			0.00
	FCCS_Elimination			-1565089531.96
	FCCS_Proportion			1565089531.96
	-FCCS_Entity Total		1565089531.96	1565089531.96
	FCCS_Entity Input		1565089531.96	1565089531.96
SiblingCompany	-FCCS_Contribution	1565089531.96		
	FCCS_Elimination	1565089531.96		

## セルの添付内の出力

### データ検出ノート

データ検出を実行するたびに、**データ検出ノート#<連番>.txt** テキスト・ファイルが生成され、セルに添付されます。

=> Observation  
 \*"Out of Balance" already exists in prior period(s), refer to Reference Grid.  
 \*Found inconsistent rate values of EUR-USD, refer to Rates Grid.

=> Metadata  
 Account – XXX  
 Type=Asset  
 Time Balance=Flow  
 Exchange Rate Type=No Rate

Movement – [FCCS\_Movements].[FCCS\_ClosingBalance]  
 This is a shared member.

- 観測値:** システムによって生成されるメッセージ。  
 「観測値」セクションには、構成可能な連結ルールまたは換算のオーバーライド・ルールの影響を受けるセルに関する情報が含まれます。

例:

次に示す構成連結ルールが値のソースである可能性があります。確認してください: 処分調整/処分調整

次に示す換算オーバーライド・ルールが値のソースである可能性があります。確認してください: 現金勘定科目の TransOverride/FX レート - 期末/定期的/置換

- メタデータ:** 勘定科目、増減、エンティティ・ディメンションのメタデータ情報の参照用リスト。  
 勘定科目ディメンションについては、重要なプロパティがリストされます。

3つのディメンションすべてについて、メンバーが共有インスタンスであるか、共有インスタンスを持っているかが検出されます。

## 計算トレース

セルについて計算トレースを生成するには:

1. ホーム・ページで「ナビゲータ」をクリックし、「ツール」で「データ検出」を選択します。
2. 「データ検出」ページで、「設定」をクリックします。
3. 「計算トレースの有効化」を選択します。
4. 非動的のセルに対してデータ検出を実行します。このセルは更新可能である必要があります。これにより、単一エンティティの連結がトリガーされます。

計算トレースを生成すると、次の 2 つのテキスト・ファイルがセルの添付として生成されます:

- 計算トレース#<連番>.txt
- 簡易計算トレース#<連番>.txt

## 計算トレース

計算トレースの添付は、元の Essbase トレース・ファイルと同じフォーマットを共有します。[計算のトレース](#)を参照してください。

```
{
Tracing cell: [FCCS_Entity Proportion Adj] [FCCS_Intercompany Eliminations][FCCS_Mvmts_Disposals] (Cell update count: 1)
Block from FIX scope: [FCCS_Entity Proportion Adj][S_Current Source]
Actual block used in calculation: [FCCS_Entity Proportion Adj][FCCS_Intercompany Eliminations]
Previous value: #MI
Source values:
[FCCS_Entity Proportion Adj][S_Current Source][FCCS_Mvmts_Disposals] = 0.00
[FCCS_Entity Consolidation][FCCS_Intercompany Eliminations][FCCS_Mvmts_Disposals] = -78.00
New value: [FCCS_Entity Proportion Adj][FCCS_Intercompany Eliminations][FCCS_Mvmts_Disposals] = 78.00
Computed in lines: [2337 - 2336] using:
"FCCS_Entity Proportion Adj"(
  @CALCMODE(BOTTOMUP);
  "FCCS_Intercompany Eliminations"="FCCS_Periodic"->"FCCS_Entity Consolidation"->"FCCS_Intercompany Eliminations";
)
}
```

## 簡易計算トレース・ファイル

簡易計算トレースの添付では、Financial Consolidation and Close 連結テンプレートを  
使用して計算スクリプトを置き換えます。



```

{
Tracing cell: [FCCS_Entity Proportion Adj][FCCS_Intercompany Eliminations][FCCS_Mvmts_Disposals] (Cell update count: 1)

Block from FIX scope: [FCCS_Entity Proportion Adj][S_Current Source]

Actual block used in calculation: [FCCS_Entity Proportion Adj][FCCS_Intercompany Eliminations]

Previous value: #M!

Source values:
[FCCS_Entity Proportion Adj][S_Current Source][FCCS_Mvmts_Disposals] = 0.00
[FCCS_Entity Consolidation][FCCS_Intercompany Eliminations][FCCS_Mvmts_Disposals] = -78.00

New value: [FCCS_Entity Proportion Adj][FCCS_Intercompany Eliminations][FCCS_Mvmts_Disposals] = 78.00

Computed in lines: [2337 - 2336] using: OBOCADJParentTemplate
Simplified Calculation Trace.txt
}
}

```

## データ検出グリッドの色の理解

データ検出モジュールにより、データ検出ノートに対応するグリッド内の特定のセルおよびヘッダーの色が表示され、重要な情報が強調表示されます。たとえば、エンティティ比率調整メンバーに対してデータ検出を実行すると、エンティティ比率調整に関連するセルが強調表示されます。これにより、注意が必要なセルをより迅速に特定し、フォーカスすることができます。

### 例

#### ルート・セル

データ検出に対して選択したセルは、グリッド内で赤でマークされます。

		FCCS_Total Data Source	FCCS_Total Data Source
		FCCS_ClosingBa	FCCS_ClosingBa
		FCCS_No Intercompany	FCCS_No Intercompany
		FY22	FY22
		Jan	Feb
Vision	FCCS_Contribution	-131.5 <sup>0</sup>	<b>-117.000000000<sup>0</sup></b>

#### キー・メンバー

S\_<Entity>などのキー・メンバーは、対応するエンティティ・メンバーと同様に、参照グリッド内で緑の背景で表されます。

		FCCS_OpeningBal	FCCS_OpeningBi	FCCS_Mvmts_Disposals	FCCS_Mvmts_Disposals	FCCS_Mvmts_Disposals	FCCS_Mvmts_Disposals
		FCCS_TotalInputAr	FCCS_TotalInput	S_Current Source	S_VisionTechSub	FCCS_Intercompany Eliminations	FCCS_Intercompany Eliminations
		Entity Currency	Parent Currency	Parent Currency	Parent Currency	Entity Currency	Parent Currency
Vision(USD)	FCCS_Contribution		447				0
	FCCS_Proportion		447				0
	FCCS_Entity Total	447	447	0	100	0	0
	FCCS_Entity Total Adj			0	0	78	78
	FCCS_Entity Proportion Adj			0	0	78	78
	FCCS_Entity Consolidation	447	447		100	-78	-78
VisionTech(EUR)	FCCS_Contribution		214	-78	-78		-78
	FCCS_Proportion		214	-78	-78		-78
	FCCS_Entity Total	200	214	-78	22	-100	-78
	FCCS_Entity Total Adj			-78	-78	0	29
	FCCS_Entity Proportion Adj			-78	-78	0	29
	FCCS_Entity Consolidation	200	214		100	-100	-107
VisionTechSub(CAD)	FCCS_Contribution		100				-100
	FCCS_Proportion		100				-100
	FCCS_Entity Total	100	100				
	FCCS_Entity Input	100	100				

### 検出の観測値および対応する色

データ検出ノートにグリッド内の特定のセルの観測値が表示される場合、そのセルはオレンジの背景でマークされます。

#### ケース 1 - 前期間の貸借不一致

観測値に応じて、期間メンバーがオレンジの背景でマークされます。

		FCCS_Total Balance Sheet-Traditional Approach	FCCS_Total Balance Sheet-Traditional Approach
		FCCS_Total Data Source	FCCS_Total Data Source
		FCCS_ClosingBalance	FCCS_ClosingBalance
		FCCS_No Intercompany	FCCS_No Intercompany
		FY22	FY22
		Jan	Feb
Vision	FCCS_Contribution	-131.5 <sup>a</sup>	-117.00000000000011 <sup>a</sup>

=> Observation  
Cell presents "Out of Balance" issue.  
\*"Out of Balance" already exists in prior period(s), refer to Data Analysis\_Out of Balance#18.

#### ケース 2 - 矛盾した為替レート

この場合、間違った為替レートが CAD-EUR に直接入力されており、システムの自動トライアングレーション・レートと一致していません。特定のセルがオレンジの背景でマークされます。

##### 1.Reference Grid#6 ⓘ

Product	Customer	Years	Period	View	Scenario									
No Product	No Customer	FY22	Feb	FCCS_Periodic	Actual									
						FCCS_No Intercompany	FCCS_No Intercompany	FCCS_No Intercompany	FCCS_No Intercompany	FCCS_No Intercompany	FCCS_No Intercompany	FCCS_No Intercompany	FCCS_No Intercompany	
						Cash	Cash	Cash	Cash	Cash	Cash	Cash	Cash	

=> Observation  
\*Account member Cash is an Intercompany Account, but without any Plug Account associated.

#### ケース 3 - 調整勘定が関連付けられていない会社間勘定

1.Reference Grid#6 ⓘ

Product	Customer	Years	Period	View	Scenario										
No Product	No Customer	FY22	Feb	FCCS_Periodic	Actual										
						FCCS_No Intercompany	FCCS_No Intercompany	FCCS_No Intercompany	FCCS_No Intercompany	FCCS_No Intercompany	FCCS_No Intercompany	FCCS_No Intercompany	FCCS_No Intercompany	FCCS_No Intercompany	FCCS_No Intercompany
						Cash	Cash	Cash	Cash	Cash	Cash	Cash	Cash	Cash	Cash
=> Observation															
*Account member Cash is an Intercompany Account, but without any Plug Account associated.															

ケース 4 - 潜在的な不整合がある出資比率設定

Scenario	Years	Period	View	Movement	Consolidation	Intercompany	Currency	Product	Customer						
Actual	FY22	Feb	FCCS_Periodic	FCCS_No Movement	FCCS_Entity Input	FCCS_No Intercompany	No Currency	No Product	No Customer						
				FCCS_Percent Ownership Input	FCCS_Percent Consol Input	FCCS_Percent Min Input	FCCS_Percent Ownership Prior Input	FCCS_Percent Consol Prior Input	FCCS_Percent Min Prior Input	FCCS_Percent Ownership Change Input	FCCS_Percent Consol Change Input				
VisionTechSub(CAD)	S_FCCS_Total Geography			0%	100%	100%	100%	100%	0%	-100%	0%				
	S_Vision			0%	100%	100%	100%	100%	0%	-100%	0%				
	S_VisionTech			0%	0%	0%	100%	100%	0%	-100%	-100%				
=> Observation															
*Found potential inconsistent consolidation % (ownership settings) of a completely disposed entity: VisionTechSub(-->Vision=100.0%; -->FCCS_Total Geography=100.0%) refer to Ownership Grid.															

## 連結仕訳の管理

### 次も参照:

- [連結仕訳グループの作成](#)
- [連結仕訳グループの削除](#)
- [連結仕訳の期間の管理](#)
- [連結仕訳の参照整合性](#)
- [連結仕訳ユーザー情報の保持](#)

## 連結仕訳グループの作成

仕訳グループを作成し、連結仕訳を分類して仕訳リストをフィルタできます。

仕訳グループにアクセス、表示、作成、編集および削除するには、連結仕訳 – 作成のアプリケーション役割が割り当てられている必要があります。

仕訳の操作の詳細は、*Financial Consolidation and Close* の操作を参照してください。

仕訳を種類で分類するための仕訳グループを作成し、仕訳リストをフィルタします。グループの追加または削除、グループ説明の編集、仕訳ロード中のグループのロードが可能です。

仕訳を作成して仕訳グループを指定すると、指定したグループはグループのリストと照合されます。指定したグループが無効な場合は、エラー・メッセージが表示されます。

連結仕訳グループを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**連結仕訳**」をクリックし、「**仕訳の管理**」を選択します。
2. 「**アクション**」メニューから、「**グループ**」をクリックします。
3. 「**作成**」をクリックします。
4. 仕訳グループの名前を入力します。
5. **オプション**: 仕訳グループの説明を入力します。
6. 「**保存**」をクリックします。

## 連結仕訳グループの削除

連結仕訳グループに関連付けられた仕訳が存在しない場合は、そのグループを削除できます。仕訳グループにアクセス、表示および削除するには、連結仕訳 – 作成のアプリケーション役割が割り当てられている必要があります。

連結仕訳グループを削除するには:

1. ホーム・ページで、「**連結仕訳**」をクリックし、「**仕訳の管理**」を選択します。
2. 「**アクション**」メニューから、「**グループ**」をクリックします。

3. 次のいずれかのアクションを行います。
  - 削除する 1 つ以上の仕訳グループを選択し、「**選択項目の削除**」をクリックして、確認のプロンプトで「**確認**」をクリックします。
  - すべての仕訳グループを削除するには、「**すべて削除**」をクリックして、確認のプロンプトで「**確認**」をクリックします。

 **ノート:**

グループに、アプリケーションの仕訳の参照が含まれる場合、グループを削除できないというエラー・メッセージが表示されます。

## 連結仕訳の期間の管理

連結仕訳の作業を行うには、最初に仕訳の期間を開きます。デフォルトでは、すべての期間の初期ステータスは「開いていない」です。期間はいつでも開くことや閉じることができますが、開かれた期間を開いていない状態にすることはできません。

連結仕訳期間を管理するには、連結仕訳 - 期間の管理のアプリケーション役割、および「管理者」または「パワー・ユーザー」の事前定義済役割が割り当てられている必要があります。

仕訳を転記するには、まず、転記する各シナリオの期間を開きます。開いていない期間や閉じている期間には、仕訳を転記できません。

期間内に承認済仕訳がある場合、それを閉じることはできません。作業中または送信済の仕訳が含まれる期間を閉じようとする、期間に未転記の仕訳が見つかったという警告メッセージが表示されますが、期間を閉じることができます。

転記を戻し済の承認済自動逆仕訳が期間内にある場合は、期間を閉じることはできません。

仕訳の操作の詳細は、*Financial Consolidation and Close* の操作を参照してください。

期間を開く、または閉じるには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**期間の管理**」をクリックします。
3. シナリオおよび年の場合には、開く期間のメンバーを選択します。
4. 開く、または閉じる期間を選択します。
5. 選択した期間を開くには、「**アクション**」ドロップダウンから「**開く**」を選択し、期間を閉じるには、「**閉じる**」をクリックします。

## 連結仕訳の参照整合性

連結仕訳の参照整合性に関する問題が発生しないように、*Financial Consolidation and Close* により、仕訳で参照されているメタデータ・メンバーの削除が検証されて回避されます。

システムでは、参照整合性のために、次のディメンションからのメンバー削除が検証されます。

- 勘定科目
- 通貨
- エンティティ
- 増減
- MultiGAAP
- 期間
- シナリオ
- 表示
- 年
- アプリケーションから(簡易ディメンション・エディタまたはクラシック・ディメンション・エディタを使用して)ディメンション・メンバーを削除する場合、メンバーの削除を確認するよう求める確認メッセージが表示されます。
- メンバーが仕訳で参照されている場合、次のエラー・メッセージが表示され、メンバーは削除されません。

メンバー xxx は仕訳 xxx で参照されているため、削除できませんでした。

また、勘定科目タイプ・プロパティの更新が検証されて回避されます。

- メンバーが送信済、承認済または転記済の仕訳に使用されている場合は、そのメンバーの勘定科目タイプ・プロパティを更新できません。
- 仕訳の状態(作業中か作業中でないか)に関係なく、資産と費用の勘定科目タイプのプロパティを切り替えたり、仕訳で参照されているメンバーの収益、負債および資本のプロパティを切り替えることができます。

## 連結仕訳ユーザー情報の保持

「仕訳ユーザー名の保持」構成タスクによって、ユーザーの役割が変化しても、すでに退職していても、連結仕訳ユーザー情報をアプリケーション内でメンテナンスできます。既存のワークフロー・エントリのユーザー名(仕訳の作成者、送信者、承認者または転記者)が保持され、仕訳レポートおよび仕訳履歴でユーザー名を表示できます。

この構成タスクを実行するには、サービス管理者である必要があります。

連結仕訳ユーザー情報を保持するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「構成」をクリックします。
2. 仕訳ユーザー名の保持をクリックします。
3. 仕訳ワークフローのユーザー名の保持画面から、「起動」をクリックします。
4. 警告メッセージで、「OK」をクリックします。
5. タスクはジョブとして起動され、データの量によっては実行に長時間かかる場合があります。「ジョブ」コンソールでステータスを参照できます。

# 18

## データの連結

### 次も参照:

- [連結プロセス](#)  
連結は、子孫エンティティからデータを収集し、親エンティティにデータを集約するプロセスです。
- [データ・フロー](#)
- [連結プロセス・フロー](#)
- [会社間消去](#)
- [連結ディメンション](#)
- [換算プロセス](#)
- [データの換算](#)
- [為替レートについて](#)
- [為替レートの入力](#)
- [上書きレートの入力](#)
- [デフォルトの換算設定の指定](#)
- [連結および換算セキュリティ・アクセス](#)
- [計算ステータス](#)
- [データの連結](#)
- [データ・フォームにおけるプロンプトなしのデータの連結と換算](#)
- [連結の進行状況の表示](#)
- [連結レポートの実行](#)
- [連結の例](#)
- [拡張連結の概要](#)
- [連結ロジック](#)
- [連結メソッドの管理](#)
- [連結メソッドの変更](#)
- [連結メソッドの追加](#)
- [連結メソッドのインポートおよびエクスポート](#)
- [出資比率データの再計算](#)
- [出資比率の管理](#)
- [「出資比率の管理」設定の変更](#)
- [出資比率データのインポートおよびエクスポート](#)

- 前年比出資比率設定
- フォームおよび構成可能な計算ルールでの出資比率設定
- 拡張連結ルール
- 構成可能な連結ルールについて
- 連結ルールセットおよびルールの管理
- 連結ルートセットの作成
- 連結ルールの作成
- 連結文字列
- ルールセットの表示
- ルールセットのデプロイおよびデプロイ解除
- ルールセットの複製および削除
- ルールセットおよびルールの並替え
- シード済連結ルール
- 構成可能な連結ルールのパフォーマンスの最適化

## 連結プロセス

連結は、子孫エンティティからデータを収集し、親エンティティにデータを集約するプロセスです。

基本レベルのエンティティにデータを入力またはロードし、データを計算および調整した後、組織全体にわたってデータを集約するために、選択したシナリオ、年、期間およびエンティティの連結を実行します。

連結プロセスは、フォームまたはデータ・グリッドから起動します。最初に基本エンティティにデータをロードまたは入力しておく必要があります。[データの連結](#)を参照してください。

連結を開始すると、指定したシナリオ、期間およびエンティティに対して連結ルールが実行されます。換算プロセスは、子エンティティ通貨から親エンティティ通貨へのデータの変換が必要な場合に実行されます。子エンティティと親エンティティが同じ通貨を使用している場合、換算プロセスは実行されません。

従属エンティティを連結する親エンティティを選択した後、必要なプロセスが自動的に実行されます。

- エンティティのすべての子孫に対して計算ルールが実行されます。
- 子エンティティのデータと親エンティティのデータが異なる通貨の場合は、為替レートに基づいて換算が行われます。
- 仕訳に調整データを入力します。
- 連結プロセスが開始します。仕訳でコントリビューション・データをさらに調整できます。

連結プロセスについてさらに学習するには、次のビデオをご覧ください：



概要: [Financial Consolidation and Close](#) での連結および計算



## トラブルシューティング

トラブルシューティングのサポートは、次のトピックを参照してください:

- [Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイドの財務連結データの不正確性の対処](#)
- [Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイドの連結の失敗およびパフォーマンスの問題の診断](#)

# データ・フロー

Financial Consolidation and Close には、データが入力ポイントから連結ポイントまでフロー間を経由する複数のディメンションが用意されています。これらのディメンションは、エンティティ、連結および通貨ディメンションです。

## エンティティ・ディメンション

エンティティ・ディメンションを使用すると、エンティティのマルチレベル階層を実現できます。これらは通常、1 つ以上の所有(持株)会社、および持株会社が直接または間接的な出資比率を持つ会社の出資比率構造を表します。直接出資比率は被所有会社の株式の出資比率である一方、間接出資比率は別の会社を介した会社の出資比率です。たとえば、会社 A が会社 B の株式を所有しており、会社 B が会社 C の株式を所有している場合、A が B の直接出資比率を持ち、B が C の直接出資比率を持ち、A が C の間接出資比率を持ちます。

Financial Consolidation and Close の親エンティティは通常、持株会社の連結財務結果を表すと想定されます。連結財務諸表とは、親(会社)およびその子会社の資産、負債、資本、収益、費用およびキャッシュ・フローが単一の経済的エンティティのものとして表示されるグループの財務諸表です(IAS 第 27 号、IFRS 第 10 号)。連結結果は、レポート会社(法的エンティティ)とこの会社が直接的または間接的に所有する会社(そのすべてが法的な会社)の結果の集約となります。連結結果は他の持株会社の以前の連結結果を集約したものではない点が重要です。

## 連結/通貨ディメンション

データは、複数通貨アプリケーション内では連結および通貨ディメンションを介して子エンティティから親エンティティにフローします。単一通貨のアプリケーションでは、通貨ディメンションは存在せず、データは連結ディメンションのみを介してフローします。

## 基本エンティティ・データ入力

ベース(レベル 0)エンティティでは、エンティティ入力メンバーを使用して、データ・フォーム、Smart View、データ統合、連結仕訳または補足データ・マネージャを介してエンティティ通貨でデータを入力します。複数通貨アプリケーション内でエンティティ通貨が表す実際の通貨は、エンティティ単位で定義されます。

データは、(現在は仕訳のみによって)入力通貨のエンティティ入力にも入力できます。入力されたデータは、連結プロセスの一部として期末レートでエンティティ通貨に戻され、同じ方法でエンティティ通貨に直接入力されたデータとして処理されます。データが入力される入力通貨ごとに、個別のデータ・ソース・メンバーが必要となります。親通貨またはレポート通貨(計算された FX 差異も含む)に戻られるときの期末残高への差引額の影響が、元の入力された入力通貨値と同じになるように、逆換算は期末レートで処理されます。

期首残高増減メンバーは、エンティティ入力には直接入力せず、前期間の期末残高から繰り越します。一部の期末残高は別の勘定科目(利益剰余金、所有者の利益、他の合計包括利益)に繰り越されますが、すべての期末残高が繰り越されます。

## 換算

エンティティ入力/エンティティ通貨は、複数通貨アプリケーション内でエンティティ入力/親通貨に換算されます。子と親の通貨が同じである場合、換算はレート 1 で行われます。そうでない場合、換算は必要な為替レートと換算メソッドを未換算データに適用することによって実行されます。エンティティから親通貨へのこの換算は、連結プロセスの一環として完了します。

データは、(現在は仕訳のみによって)入力通貨の換算通貨入力にも入力できます。入力されたデータは、入力通貨が親通貨と同じ通貨である場合、親通貨および一致するレポート通貨にコピーされます。入力されたデータは、データが入力された入力通貨とエンティティ通貨が一致する場合でも、エンティティ通貨にはコピーされません。データは換算済データとして処理されるため、換算計算は適用されません。データが入力される入力通貨ごとに、個別のデータ・ソース・メンバーが必要となります。

必要に応じて、換算プロセスを介してエンティティ入力データおよび換算通貨入力データを 1 つ以上のレポート通貨に適用できます。エンティティ通貨または親通貨によって表される通貨とレポート通貨が同じである場合、データは関連ソースからレポート通貨にコピーされます。エンティティ通貨または親通貨によって表される通貨とレポート通貨が同じでない場合、データは、エンティティ通貨から親通貨への換算と同じプロセスを使用して換算されます。換算通貨入力データは換算されることはなく、親通貨からレポート通貨にコピーされるだけである点にご注意ください。

期首残高は換算されませんが、前期間の換算済期末残高から繰り越されます。

エンティティ入力および換算通貨入力はエンティティ合計に集約されます。複数通貨アプリケーションの場合、この集約は、エンティティ通貨、親通貨および任意の移入済レポート通貨に対して行われます。

エンティティ合計および親入力は、親通貨の親合計にのみ集約されます(親入力がある場合)。

## 比例

データは、エンティティ合計または親合計の比率メンバーに比例します(親入力がある場合)。比例では、子/親の組合せに対して定義された連結%がすべてのソースデータ・ポイントに適用されます。

データは、親の通貨内にある親入力に入力できます。このため、親入力はエンティティ/親の組合せに固有のものとなり、指定された親エンティティにのみ集約されます。エンティティが共有され複数の親を持つ場合、複数の親入力ポイントが利用可能になります。親入力はオプションの連結ディメンション・メンバーであり、使用するには有効にする必要があります。

期首残高は比例しませんが、比率メンバーの前期間の期末残高から繰り越されます。連結%がある期間から次の期間の間に変更された場合、期首残高出資比率の変更システム・ルールにより調整エントリが生成され、期首残高が必要な通貨期間の連結%に調整されます。

## 消去

エンティティ合計データまたは親合計データ(親入力がある場合)は、消去したり、消去メンバーにあわせて調整することができます。標準消去システム・ルールにより、会社間勘定と調整勘定の設定に基づいて会社間エントリが調整されます。構成可能な連結ルールから追加の調整を生成することもできます。

期首残高は常に、消去メンバーの前期間の期末残高から繰り越されます。

## 親へのコントリビューション

比率データは、消去データとともにコントリビューションに集約されます。

データは、親の通貨内にあるコントリビューション入力に入力できます。このため、コントリビューション入力はエンティティ/親の組合せに固有のものとなり、指定された親エンティティにのみ集約されます。エンティティが共有され複数の親を持つ場合、複数のコントリビューション入力ポイントが利用可能になります。コントリビューション入力はオプションの連結ディメンション・メンバーであり、使用するには有効にする必要があります。

コントリビューションおよびコントリビューション入力は、親通貨のコントリビューション合計にのみ集約されます(コントリビューション入力が有効である場合)。

コントリビューションまたはコントリビューション合計は(コントリビューション入力が有効である場合)、兄弟(親の他の子など)の同様のデータと結合して、親エンティティのエンティティ連結に集約されます。

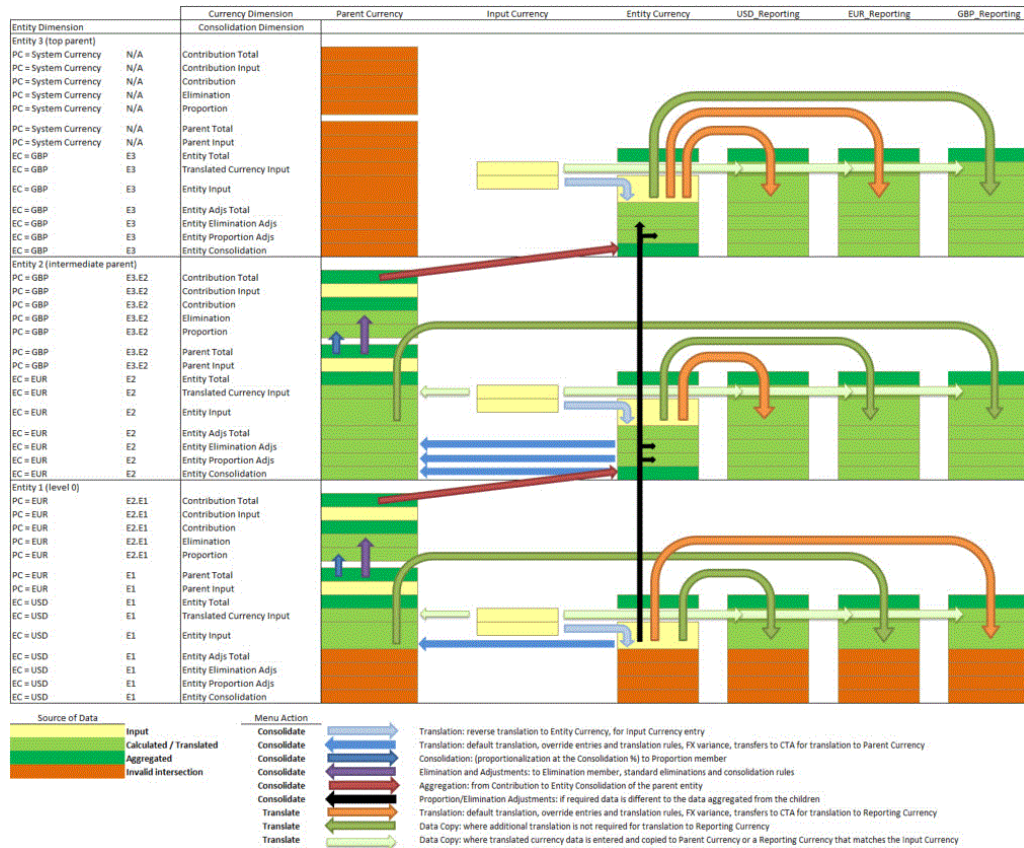
期首残高は常に、前期間の期末残高から繰り越されます。

### 親エンティティ・データ入力

親エンティティでは、エンティティ入力メンバーおよび換算通貨入力メンバーに追加データを導入できます(現在は仕訳入力からのみです)。

集約されたエンティティ連結データの調整が必要な場合は、システムでエンティティ消去調整エントリが生成されます。これは、エンティティの共有インスタンスのマージに起因してソース・レベル 0 エンティティの累積連結%が増加した場合に発生する可能性があります。その後、中間の親エンティティで「比例」または「子会社」に変更するために、資本連結が必要になる可能性があります。

この場合、エンティティ連結、エンティティ消去調整、エンティティ入力、換算通貨入力はエンティティ合計のエンティティ通貨値に集約され、必要に応じて親通貨およびレポート通貨に換算されます。追加データは親入力およびコントリビューション入力に入力できます。このとき、連結プロセスは連結/通貨ディメンションを介して各子エンティティからその親まで続行されます。



エンティティ・ディメンションの最上位メンバーの動作に関する設定は2つあります。

**優先動作(デフォルトで適用):** `ProportionalizeTopEntityMembers` 代替変数を使用しないか、この代替変数を `False` に設定します。

データは、エンティティ・ディメンション(地域合計およびその兄弟)にある最上位エンティティの親通貨に換算されないか、コントリビューション/コントリビューション合計に連結されません。これは、デフォルト通貨の定義対象となる有効な親エンティティ、およびコントリビューション対象の有効な親エンティティがないためです(ディメンションのエンティティ・メンバーはエンティティではなくディメンション・ラベルとみなされます)。換算通貨入力、親入力およびコントリビューション入力へのデータ入力も、これらの最上位エンティティ・メンバーに制限されます。ただし、連結プロセスの起動時にエンティティ・ディメンション・ラベル(エンティティ)を選択できます。これにより、エンティティ・ディメンション内のすべての階層を一度に連結できます。

**代替動作:** `ProportionalizeTopEntityMembers` という名前の代替変数を追加し、値を `True` に設定します。

システム通貨を適用することで、データはエンティティ・ディメンションにある最上位エンティティの親通貨に換算されます。親通貨データもコントリビューション/コントリビューション合計に連結されますが、それ以上は連結されません。換算通貨入力、親入力およびコントリビューション入力へのデータ入力は、これらの最上位エンティティ・メンバーに制限されます。

連結データ・フロー詳細は、次のビデオを参照してください:



概要: データ・フローと連結

## 連結プロセス・フロー

Financial Consolidation and Close では、連結ディメンションを使用してデータを処理します。エンティティ入力、エンティティ連結およびエンティティ消去調整メンバーの現地通貨(エンティティ通貨)データから始まり、換算通貨に対して同じメンバーが進み(複数通貨アプリケーションの場合のみ)、最後に比率および消去連結データが処理されます。

処理の各レベルで、様々なシステム計算が実行されます。一部のシステム・ルールを常に実行する一方で、他のシステム・ルールを無効化したり構成できます。また、カスタム・ルールを事前定義された挿入位置に追加することもできます。

「連結」カードからアクセスする「連結: プロセス」画面には、現地通貨、換算済レベルおよび連結済レベルごとに、水平タブから選択した順に連結アクティビティの順序フローが表示されます。

### 現地通貨

**Local Currency**  
Processing of all un-translated (Entity Currency) entity level data.

**Translated**  
Processing of all translated (Parent Currency) entity level data.

**Consolidated**  
Processing of all parent-related, consolidated and elimination data.

**Options**

Review and enter any required updates to the system processes, configurable calculations, configurable translations and configurable consolidations.

- Opening Balance Carry Forward  
Opening Balances are carried forward from the Closing Balance of the prior period.
- Calculate Movements  
Calculate and populate a default Movement dimension member based on the required dosing balance.
- After Opening Balance Carry Forward**  
Calculations to be performed after the Opening Balance carry forward calculations but before balancing the Balance Sheet.
- Equity Pick-up  
Calculate Equity Pick-up in Holding companies.
- Balance the Balance Sheet  
Ensure that the Balance Sheet is balanced and that Total Assets is equal to Total Liabilities and Equity. If the Balance Sheet is out of balance, a balancing entry is posted to the ...
- Final Calculations**  
Additional calculations to be performed after Balance Sheet is balanced.
- Ratios  
Performance ratios are calculated, including ratios such as Days Sales in Inventory, and Days Sales in Receivables.

General  
Name : Opening Balance Carry Forward  
Type : System Calculation

Applicable Consolidation Members

Entity Input  
Entity Consolidation  
Entity Elimination  
Adjustment  
Overrides

### 期首残高の繰越し

エンティティ、連結および通貨ディメンションのレベルごとに、フロー・タイプのすべての勘定科目について前の期間の期末残高が現在の期間の期首残高に繰り越されます。

現地通貨の期首残高は、同じシナリオの前レポート期間の現地通貨の期末残高から取得されます。現在の期間が年の最初の期間である場合、期首残高は、前年の最後の期間から取得されます。

すべての貸借対照表勘定科目(資産、負債または資本勘定科目タイプ)に対して、すべての期間の期首残高が取得されます。損益計算書勘定科目(収益または費用勘定科目タイプ)では、年の初めの期間を除く、すべての期間の期首残高が取得されます。

期首残高の取得元:

- 定期的レポート・ビューの場合は、前の期間の期末残高
- 四半期累計レポート・ビューの場合は、前の四半期の期末残高
- 半年累計レポート・ビューの場合は、前の半年の期末残高



- 年次累計レポート・ビューの場合は、前年の期末残高

### 増減の計算

使用可能な場合、「増減の計算」ルールは、「期首残高の繰越し」システム・ルールの終了後に現地通貨に対して実行されます(複数通貨アプリケーションの場合)。ルールでは、期末残高入力金額と、勘定科目にすでに転記されているその他の増減データを現在の期間の期首残高に加えた合計との差異が計算されます。計算された差異は、勘定科目の指定された増減メンバーに転記されます。[増減の計算\(期末残高入力から\)](#)を参照してください。

### 期首残高の繰越し後

シード済の「FCCS\_10\_After Opening Balance Carry Forward\_LocalCurrency」Calculation Manager ルールで作成されたデプロイ済カスタム計算ルールがすべて実行されます。

[構成可能な計算の操作](#)を参照してください。

### エクイティ・ピックアップ

エクイティ・ピックアップ・システム・ルールによって、持株会社のエクイティ・ピックアップの組込み順次計算が提供されます。

エクイティ・ピックアップ・システム・ルールは、アプリケーション作成時またはその後エクイティ・ピックアップが有効化された場合のみ表示されます。

すべての持株会社が兄弟の後に計算されるように、このルールによって、連結時のエンティティ処理の順序が変更されます。変更された順序は、必要に応じてオン/オフにできます。エクイティ・ピックアップの正しい計算では、エクイティ・ピックアップ連結ルールのデプロイメントも必要です(エクイティ・ピックアップ機能の詳細は、[エクイティ・ピックアップの概要](#)を参照)。

### 貸借対照表の残高

現地通貨で実行される次のシステム・ルールは「貸借対照表の残高」です。このルールはオプションで、全シナリオまたは各シナリオ・ベースで有効化または無効化できます。ルールが有効化されている場合、貸借が一致していない貸借対照表は、調整金額がシード済の FCCS\_Balance 勘定科目に転記されて貸借が一致されます。

### 財務計算

シード済の「FCCS\_20\_Final Calculations\_LocalCurrency」Calculation Manager ルールで作成されたデプロイ済カスタム計算ルールがすべて実行されます。

[構成可能な計算の操作](#)を参照してください。

### 比率

「資産管理比率」オプションが選択されている場合は、FCCS\_Days Sales In Receivables および FCCS\_Days Sales In Inventory の比率が計算されます。

現地通貨の計算の概要については、次のビデオを参照してください:



[現地通貨の計算.](#)

### 換算

### Consolidation: Process

Review and enter any required updates to the system processes, configurable calculations, configurable translations and configurable consolidations.

Local Currency	Translated	Consolidated
Processing of all un-translated (Entity Currency) entity level data.	Processing of all translated (Parent Currency) entity level data.	Processing of all parent-related, consolidated and elimination data.
<p>Opening Balance Carry Forward Opening Balances are carried forward from the Closing Balance of the prior period.</p> <p>Default Translation Translate all financial accounting data to parent currency using the required default rate and translation method.</p> <p>Translation Overrides Additional translations are applied as defined in the deployed Translation override rules.</p> <p>Before Foreign Exchange (FX) Calculations Calculations to be performed after translations but before Foreign Exchange and CTA calculations.</p> <p>Foreign Exchange (FX) Calculations The foreign exchange variation for opening balance and movements is calculated as the difference between the translation at the actual rates applied and the ending rate.</p> <p>FX to Cumulative Translation Adjustment (CTA) For all accounts designated as 'historical', the foreign exchange variation is transferred to the designated CTA account.</p> <p>Calculate Movements Calculate and populate a default Movement dimension member based on the required closing balance.</p> <p>After Opening Balance Carry Forward Calculations to be performed after the Opening Balance carry forward calculations and changes applied before Foreign Exchange calculation but before balancing the Balance Sheet.</p> <p>Balance the Balance Sheet Ensure that the Balance Sheet is balanced and that Total Assets is equal to Total Liabilities and Equity. If the Balance Sheet is out of balance, a balancing entry is posted to the ...</p>		

単一通貨アプリケーションでは「**換算**」タブが使用できないことに注意してください。

### 期首残高の繰越し

エンティティ、連結および通貨ディメンションのレベルごとに、フロー・タイプのすべての勘定科目について前の期間の期末残高が現在の期間の期首残高に繰り越されます。

期首残高は換算されないことに注意してください。期首残高は常に、該当する連結メンバーの前期間の期末残高から親通貨で繰り越されます。

換算済通貨の期首残高は、同じシナリオの前レポート期間の換算済通貨の期末残高から取得されます。現在の期間が年の最初の期間である場合、期首残高は、前年の最後の期間から取得されます。

すべての貸借対照表勘定科目(資産、負債または資本勘定科目タイプ)に対して、すべての期間の期首残高が取得されます。損益計算書勘定科目(収益または費用勘定科目タイプ)では、年の初めの期間を除く、すべての期間の期首残高が取得されます。

期首残高の取得元:

- 定期的レポート・ビューの場合は、前の期間の期末残高
- 四半期累計レポート・ビューの場合は、前の四半期の期末残高
- 半年累計レポート・ビューの場合は、前の半年の期末残高
- 年次累計レポート・ビューの場合は、前年の期末残高

### デフォルト換算

デフォルト換算によって、デフォルト換算設定が定期的増減メンバーの換算に適用されます。デフォルト換算設定は、「**換算のオーバーライド**」画面の「**デフォルトの管理**」ボタンから構成できます。

金額オーバーライドおよびレート・オーバーライドのすべての入力も換算済データに適用されます。

次のトピックを参照してください。

- [換算プロセス](#)

- データの換算
- 為替レートについて
- 為替レートの入力
- 上書きレートの入力
- デフォルトの換算設定の指定

### 換算のオーバーライド

換算のオーバーライド・ルールを構成してデプロイできます。ルールの範囲として定義され、指定の為替レートと換算メソッド(定期的または年次累計)に対して適用されたデータポイントの選択のエンティティ通貨値は、デフォルトの換算結果に対して置換または累計できます。

次のトピックを参照してください。

- 上書き換算ルールの操作
- 上書き換算ルールの作成
- 上書き換算ルールのデプロイ

### 外国為替(FX)の計算前

このルールは、換算後、外国為替/累積換算調整(CTA)の計算前に実行されます。これにより、以前のシステム換算計算を変更しても、引き続きシステムの外国為替および CTA の計算の貸借一致の影響を受けるルールを作成できます。

### 外国為替(FX)の計算

外国為替変動には、期首残高と増減合計の両方の計算が含まれます。

FX 期首には、現在の期間の期末レートによる期首残高合計の換算と、前の期間の換算期末残高および現在の期間の期首残高調整から取得された期首残高合計の差異が格納されます。

FX 増減には、現在の期間の期末レートによる未換算の増減小計の換算と、現在の期間の平均レート、取得時換算レートまたは金額オーバーライドを使用して換算された増減小計の差異が格納されます。

#### ノート:

FCCS\_FX メンバーは計算用に予約されており、これらのメンバーには仕訳を直接転記しないことをお勧めします。

### 外国為替(FX)から累積換算調整(CTA)

取得時換算勘定は、勘定科目の為替レートのタイプが「履歴金額オーバーライド」または「履歴レート・オーバーライド」でない場合は、常に、勘定科目のデフォルト・レートを使用して換算されます。適用可能な場合、FX 期首および FX 増減は、適切なオーバーライド・レートまたは金額を使用して、取得時換算勘定用に計算されます。

FX 期首および FX 増減の合計金額の逆仕訳は、FX から CTA または FX から CICTA 増減メンバーに格納されるため、取得時換算勘定の FX 合計はゼロになります。同じ金額が指定された CTA または CICTA 勘定科目(アプリケーションの設定により異なる)にも転記されます。



## 増減の計算

「親入力」が使用可能な場合、「増減の計算」は、「FX から累積換算調整(CTA)へ」システム計算後に「換算」タブに対して実行されます。ルールでは、期末残高入力金額と、勘定科目にすでに転記されているその他の増減データを現在の期間の期首残高に加えた合計との差異が計算されます。計算された差異は、勘定科目の指定された増減メンバーに転記されます。

## 期首残高の繰越し後

シード済の「FCCS\_30\_After Opening Balance Carry Forward\_Translated」 Calculation Manager ルールで作成されたデプロイ済カスタム計算ルールがすべて実行されます。

[構成可能な計算の操作](#)を参照してください。

換算および計算の概要については、次のビデオを参照してください：



概要: 換算および計算

## 財務計算

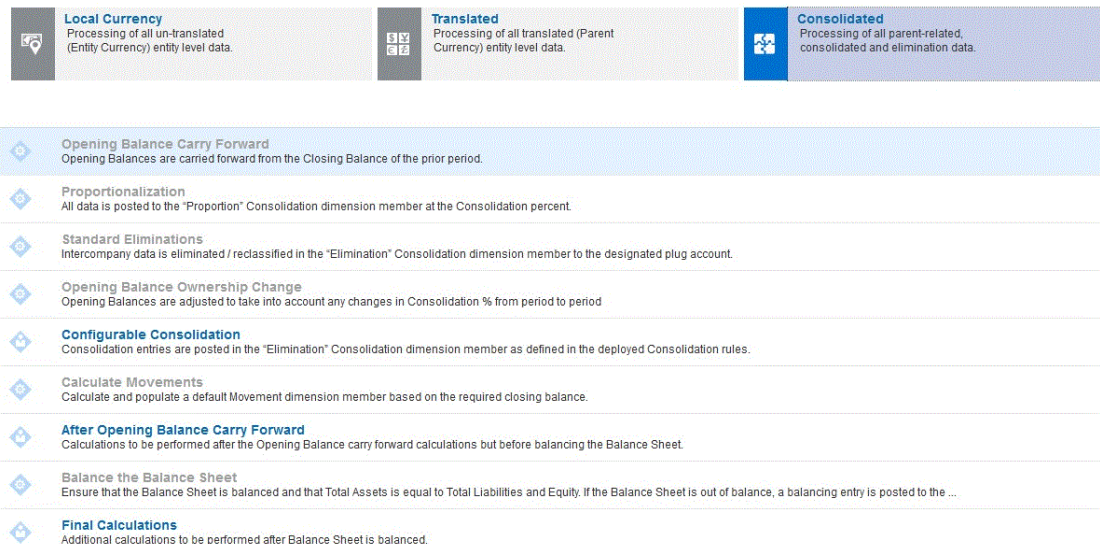
シード済の「FCCS\_40\_Final Calculations\_Translated」 Calculation Manager ルールで作成されたデプロイ済カスタム計算ルールがすべて実行されます。

[構成可能な計算の操作](#)を参照してください。

## 比率

「資産管理比率」オプションが選択されている場合は、FCCS\_Days Sales In Receivables および FCCS\_Days Sales In Inventory の比率が計算されます。

## 連結



## 期首残高の繰越し

すべてのレベルで、最初のプロセスは「期首残高の繰越し」です。エンティティ、連結および通貨ディメンションのレベルごとに、フロー・タイプのすべての勘定科目について前の期間の期末残高が現在の期間の期首残高に繰り越されます。

期首残高は連結されませんが、常に、前期間の期末残高から繰り越されることに注意してください。

すべての貸借対照表勘定科目(資産、負債または資本勘定科目タイプ)に対して、すべての期間の期首残高が取得されます。損益計算書勘定科目(収益または費用勘定科目タイプ)では、年の初めの期間を除く、すべての期間の期首残高が取得されます。

期首残高の取得元:

- 定期的レポート・ビューの場合は、前の期間の期末残高
- 四半期累計レポート・ビューの場合は、前の四半期の期末残高
- 半年累計レポート・ビューの場合は、前の半年の期末残高
- 年次累計レポート・ビューの場合は、前年の期末残高

### 比例

すべてのデータが、連結のパーセントで「比例」連結ディメンション・メンバーに転記されます。

### 標準消去

[標準消去連結ルール](#)を参照してください。

### 期首残高出資比率の変更

連結%が前の期間から変更されたエンティティの場合、FCCS\_Mvmts\_Acquisitions または FCCS\_Mvmts\_Disposals は、期間間の連結%の変化に基づいて連結ディメンションの比率メンバーで自動的に計算されます。連結%の変化は FCCS\_OpeningBalance に対して比率で乗算され、その結果は FCCS\_Mvmts\_Disposals/FCCS\_Mvmts\_Acquisitions に比率で適切に入れられます。

連結%が前の期間から変更されたエンティティの場合、FCCS\_Mvmts\_Acquisitions または FCCS\_Mvmts\_Disposals は、調整勘定から消去される勘定科目で連結ディメンションの消去メンバーに対して自動的に計算されます。顧客固有ルール(構成可能な連結ルールまたは挿入位置ルール)で消去される勘定科目では、顧客/パートナーは期首残高出資比率の変更調整を記述する必要があり、FCCS\_Mvmts\_Disposals\_Input/FCCS\_Mvmts\_Acquisitions\_Input に移入されます。

[期首残高出資比率の変更の連結ルール](#)を参照してください。

デフォルトでは、期首残高出資比率の変更(OBOC)計算は、構成可能な連結ルールの実行前に移入されます。これにより、取得および処分増減メンバーをソース・データとして構成可能な連結ルールに含めることができます。この動作を無効にするには、OBOC\_BEFORE\_CONFIG\_CONSOL 代替変数の値を **False** に変更します。[Financial Consolidation and Close の代替変数](#)を参照してください。

### 構成可能な連結

[構成可能な連結ルールについて](#)を参照してください。

### 増減の計算

「コントリビューション入力」が使用可能な場合、「増減の計算」は、「構成可能な連結」の後に「連結」タブに対して実行されます。ルールでは、期末残高入力金額と、勘定科目にすでに転記されているその他の増減データを現在の期間の期首残高に加えた合計との差異が計算されます。計算された差異は、勘定科目の指定された増減メンバーに転記されます。

### 期首残高の繰越し後

シード済の「FCCS\_50\_After Opening Balance Carry Forward\_Consolidated」 Calculation Manager ルールで作成されたデプロイ済カスタム計算ルールがすべて実行されます。

[構成可能な計算の操作](#)を参照してください。

### 財務計算

シード済の「FCCS\_60\_Final Calculations\_Consolidated」 Calculation Manager ルールで作成されたデプロイ済カスタム計算ルールがすべて実行されます。

[構成可能な計算の操作](#)を参照してください。

### 比率

「資産管理比率」オプションが選択されている場合は、FCCS\_Days Sales In Receivables および FCCS\_Days Sales In Inventory の比率が計算されます。

連結および計算の概要については、次のビデオを参照してください:



概要: 連結および計算

## 会社間消去

### 標準消去の概要

会社では、他の会社とのトランザクションの結果を記録します。これらの他の会社とは、関連会社または非関連(つまり、サード・パーティ)会社です。連結財務結果を報告する場合は、連結範囲内の法的会社が共通で管理するトランザクションの影響を連結結果から削除/消去する必要があります。差引結果は、法的エンティティのグループが単一の経済単位であるかのように提示する必要があります。

非関連会社とのトランザクションを消去する必要はありません。関連会社とのトランザクションは、関連会社が連結結果の範囲内にあるかどうか、および連結計算に適用される会計要件に応じて、消去または部分的な消去が必要になる場合があります。

関係者間の関係の性質により、連結結果を生成するために範囲内の会社から情報を集約および消去する方法が決まります。異なる会計基準では、いくつかの異なる集約メソッドが必要になりますが、ほとんどの基準は同様の一般原則に従います。

アプリケーションが会社間勘定に対して有効化されており、会社間勘定データを含む場合、連結プロセスの一環として消去が発生します。

### 会社間消去の処理

親エンティティの連結結果を単一の経済単位として表すために、両方が共通の親エンティティに連結されている 2 つのエンティティ間のトランザクション(つまり、会社間トランザクション)の結果であるデータを消去する必要があります。

会社間トランザクション金額は、最初に 2 回記録されます。トランザクションに関係する双方の関係者(会社)のそれぞれがトランザクションのビューを記録します。トランザクションは、他方のエンティティが会社間パートナーであり、各エンティティで個別に記録されます。両方のエンティティによって記録されたエントリは同じトランザクションを表しますが、そのトランザクションに関係する 2 つのエンティティによって個別に入力されることに注意してください。

消去する金額は、組織階層内で共通の所有権が表された親エンティティによって共通に管理される金額です。消去の正味の影響はゼロである(つまり、貸方と借方が等しい)必要がありますが、親エンティティで差引するためにデータは再分類されます。トランザクションに関係する両方のエンティティのソース・データが **100%** で比例している場合は、比例金額すべてを消去する必要があります。いずれかのエンティティによる比例金額が **100%** 未満の場合は、最小の比例金額のみが共通に管理されているため、最小の比例金額のみを消去します。したがって、消去金額は、どのような状況でも比例金額を超過できません。関係する会社のいずれかの連結率が **0%** の場合、消去は処理されません。

各消去エントリは、消去連結ディメンション・メンバーの **FCCS\_Intercompany Eliminations** データ・ソース・ディメンション・メンバー内の **2** つのエントリで構成されます。最初のエントリは、元の会社間金額を逆仕訳(または一部逆仕訳)します。逆仕訳を適用するすべてのディメンション・メンバーは、連結およびデータのソース・ディメンションを除き、ソース **POV** から取得されます。ソースの会社間勘定科目のメタデータでの定義に従って、相殺する **2** 番目のエントリが調整勘定科目に転記されます。逆仕訳エントリと同様に、調整エントリは、消去連結ディメンション・メンバーの **FCCS\_Intercompany Eliminations** データ・ソース・ディメンション・メンバーに転記されます。調整エントリを適用するすべてのディメンション・メンバーは、連結およびデータのソース・ディメンションを除き、ソース **POV** から取得されます。調整勘定科目が会社間勘定科目として設定されていない場合、調整エントリは会社間ディメンションの **FCCS\_No Intercompany** に転記されます。

### 会社間消去の条件

アプリケーションのエンティティ構造は、フラット構造(直接的被所有エンティティと間接的被所有エンティティを直下の子とする **1** つの親エンティティ)として作成できます。親エンティティは最終的な持株会社の連結結果を表します。または、**1** つ以上のマルチレベル(つまり、段階的)構造を作成できます。マルチレベル構造では、各持株会社の兄弟エンティティは、持株会社の直接的所有会社です。直接的被所有会社自体が他の会社を所有している場合、所有持株会社の兄弟は、被所有持株会社の連結親会社です。

フラット構造では、消去を処理するかどうかを判断するロジックは単純です。次のロジックが適用されます:

次の場合、データは消去の候補です:

1. 勘定科目が会社間勘定科目で、有効な調整(決済)勘定科目が割り当てられている場合
2. データに **FCCS\_No Intercompany** 以外の会社間ディメンション・エントリがある(つまり、有効なパートナーが含まれている)場合
3. 会社間トランザクションの転記先エンティティとデータ定義(**POV**)で参照されているパートナーの両方が、**0%** を超えて親に連結される場合

これらの条件を満たしている場合、データはエンティティ連結%とパートナー連結%の低いほうの消去ディメンション・メンバーの調整勘定科目に再分類されます。

マルチレベル構造では、消去を処理するかどうかを判断するロジックは、原理上はフラット構造と同じです。ただし、マルチレベル構造の性質により、さらに複雑になる可能性があります。次のロジックが適用されます:

次の場合、データは消去の候補です:

1. 勘定科目が会社間勘定科目で、有効な調整(決済)勘定科目が割り当てられている場合
2. データに **FCCS\_No Intercompany** 以外の会社間ディメンション・エントリがある(つまり、有効なパートナーが含まれている)場合
3. 会社間トランザクションの転記先エンティティとデータ定義(POV)で参照されているパートナーの両方が、**0%**を超えて共通の親または祖先に連結される場合
4. 会社間パートナーは、現在のエンティティの兄弟、または兄弟の子孫です
  - a.エンティティとパートナーの両方が直接の共通の親に連結されない場合があります。つまり、エンティティまたはパートナーのいずれかまたは両方が、1つ以上の中間の親を介して共通の祖先に連結される場合があります。
  - b.消去の評価および転記に使用される関連する連結%は、エンティティまたはパートナーからのレベルごとの%に、共通の祖先へのコントリビューション(つまり、共通の祖先を頂点とした階層のブランチに固有の累積係数)を掛けることで得られる累積連結%です。累積連結%は、ソース・エンティティ/パートナーから各コントリビュータの共通の祖先へのコントリビューションを表します。
  - c.エンティティまたはパートナーの低い方の連結%は、エンティティのすべての兄弟全体で集約されたエンティティ累積%の合計、およびエンティティのすべての兄弟全体で集約されたパートナー累積%の合計に適用されます。マルチレベル階層では、エンティティとパートナーの両方が階層の複数のブランチに存在する可能性があるため、共通の祖先の複数の子を介して共通の祖先に集約できます。
  - d.データ・ポイントは、複数の共通の祖先の直下にある、階層の複数レベルで消去の候補になる可能性があります。パートナーが階層の複数のブランチに存在する場合、構造を介したエンティティの連結パスは、複数の共通の祖先に遭遇する可能性があります。最初(または後続)の共通の祖先の直下にある場合はエンティティの全額が消去されます。消去金額は比例金額を超過できないため、それより多く消去されることはありません。階層の以前のレベルで消去(または一部のみの消去)が実行されていない場合は、現在の共通の祖先の直下で消去がさらに必要になる可能性があります。
  - 共通の祖先の直下という認識は、データが存在するエンティティの兄弟、または兄弟の子孫であるパートナーとして定義できます。パートナーが親の子孫であり、現在のエンティティの子孫でもある場合、現在のエンティティの兄弟または兄弟の子孫でないかぎり、データは消去の候補になりません。

処理される会社間消去の検証が適用されるのは、現在のエンティティの兄弟または兄弟の子孫であるパートナーに対して正しい条件が満たされている場合のみです。この機能を無効にする場合は、**StrictElimCondition** という名前の代替変数を作成し、その値を **False** に設定します。これにより、エンティティとパートナーが同じである会社間データを引き続き消去できます。

これらの条件を満たしている場合、データは、累積エンティティ連結%の合計(兄弟エンティティ/ブランチ全体)と、累積パートナー連結%の合計(兄弟エンティティ/ブランチ全体)の低いほうの消去ディメンション・メンバーの調整勘定科目に再分類されます。集約されたパートナー連結%が集約されたエンティティ連結%より低い場合は、パートナー%が適用されます。

### 消去が比例を超過しないようにする

前述のように、共通に管理されているトランザクションの消去という概念に基づいて、会社間トランザクションの累積消去金額は比例金額を超過できません。したがって、会社間勘定科目の正味コントリビューション金額が消去されてゼロになった場合、さらに消去が発生しないようにする必要があります。

コンピュータ化されたシステムでは、累積を正確にゼロに記録できず、記録しないこともあります\*。これは、すべてのコンピュータ・システムに共通する小数精度の問題によるもので



す。結果として、ソースの会社間金額の正味コントリビューションが論理的にゼロに等しい場合に正確にゼロまで減少しない状況が発生する可能性があります。したがって、会社間トランザクションをさらに処理する必要があるかどうかのテストは、ゼロに等しい正味コントリビューションには依存できず、かわりにゼロにほぼ等しい正味コントリビューションに基づく必要があります。

正味コントリビューション金額がゼロにほぼ等しいかどうかのテストは、システム内のデータの大きさに依存します。デフォルトでは、テストの適用時に 4 桁の小数精度が適用されます。この場合、0.0001 未満の正味コントリビューションはゼロと見なされ、さらなる消去はデータに適用されません。ほとんどの場合、大部分の通貨について、このレベルの精度で十分な精度が得られます。ただし、予期しない消去が引き続き発生する場合は、テストに適用する小数精度を変更するために、アプリケーションに代替変数を追加できます。

代替変数を追加するには、「変数」カードに移動して「代替変数」タブを選択します。新しい代替変数を追加するためにプラス記号をクリックします。すべてのキューブに DecimalPrecision という名前(Decimal と Precision の間は空白なし)を入力します。ほぼ等しいかどうかのテストを適用する際に考慮する必要な小数点以下の桁数を入力します。入力されたデータ値の大きさ(つまり、小数点の左側の有効桁数)が大きいほど、小数精度の入力を低くする必要があります。

小数精度変数は整数(ゼロまたは正か負の整数)にする必要があります、そうでない場合は後続する連結が失敗する可能性があります。正のエントリは正味コントリビューション金額を指定された小数点以下の桁数に丸め、ゼロは整数に丸め、負のエントリは 10 の倍数に丸めます(たとえば、-2 の小数精度では 1,234,567.89 を 1,234,600 に、百の位の概数に丸めます)。

\*FCCS に関連する特定の条件については、Essbase でのデータ精度の制限に関する項を参照してください: [https://support.oracle.com/epmos/faces/DocumentDisplay?\\_afzLoop=443798297810512&id=1311188.1&\\_afzWindowMode=0&\\_adf.ctrl-state=zlaqk3trz\\_4](https://support.oracle.com/epmos/faces/DocumentDisplay?_afzLoop=443798297810512&id=1311188.1&_afzWindowMode=0&_adf.ctrl-state=zlaqk3trz_4).

## 連結ディメンション

連結ディメンションには、財務情報に対する追加レイヤーがあり、入力値、調整およびコントリビューションの情報の詳細を参照できます。これには、入力値やエンティティのデータに関連する調整などのエンティティ・データが含まれます。従属エンティティの値は、連結時に親にロールアップするため、比率の詳細や消去の詳細などの連結の詳細を保管できます。比率の詳細には、比例連結ルールの実行結果である残高が含まれています。これには、ソース・データに対する連結比率の適用が反映されます。消去の詳細には、その他すべての連結ルールおよび消去ルールの結果が含まれます。

連結ディメンションには、次のメンバーが含まれます。

- **エンティティ入力** - このメンバーは、入力データと、連結関連以外のビジネス・ロジック(メンバー式など)を表します。
- **エンティティ連結** - これは、親エンティティでのみ使用できます。このメンバーの金額は、その子エンティティそれぞれのコントリビューションの合計を表します。これは、連結プロセスの結果としてシステムにより計算された金額です。
- **エンティティ消去調整** - 親エンティティでのみ使用できます。消去用に集約されたエンティティ連結データの調整が必要な場合は、システムでエンティティ消去調整エントリが生成されます。これは、エンティティの共有インスタンスのマージに起因してソース・レベル 0 エンティティの累積連結%が増加した場合に発生する可

能性があります。その後、中間の親エンティティで「比例」または「子会社」メソッドに変更するために、資本連結が必要になる可能性があります。

- **エンティティ 比率調整** - 親エンティティでのみ使用できます。比例用に集約されたエンティティ 連結データの調整が必要な場合は、システムでエンティティ 比率調整エントリが生成されます。これは、エンティティの共有インスタンスのマージに起因してソース・レベル 0 エンティティの累積連結%が増加した場合に発生する可能性があります。その後、中間の親エンティティで「比例」または「子会社」メソッドに変更するために、資本連結が必要になる可能性があります。

エンティティ 比率調整およびエンティティ 消去調整ディメンション・メンバーは、必要に応じて、各親エンティティでの連結結果が適切になるように調整するために使用されます。たとえば、階層の 2 つの異なるブランチを介して共通の親に連結されているエンティティの 2 つの共有インスタンスがある場合、両方とも持分法を使用して連結され(各ブランチを介して 40%の出資比率)、共通の親のエンティティ 連結で、結果は 80%の資本連結を表すデータになります。かわりに、必要なのは 80%の子会社連結で、結果とは異なります。直接の 80%の子会社連結が実行された場合(つまり、フラット・エンティティ 構造)、エンティティ 比率調整およびエンティティ 消去調整は、2 つのブランチからのデータを適切なデータに調整するために使用されます。EPA / EEA 調整データで集約されたエンティティ 連結の 80%の資本データは、エンティティ 合計で、必要な 80%の子会社連結データに累計されます。

- **換算通貨入力(オプション)** - 入力通貨でデータを入力するために使用します。
- **エンティティ 合計 - エンティティ 入力** および **「換算通貨入力」** メンバーに保管された入力データと調整データの両方、エンティティ 消去調整の計算データ、および **エンティティ 連結メンバー**(親エンティティのみ)に保管されたコントリビューションの合計を含めた、エンティティのデータの合計です。
- **親入力(オプション)** - 親通貨で、エンティティと親の組合せに固有のデータを入力するために使用します。このデータは比例に含まれます。
- **親合計**(「親入力」が有効になっている場合) - エンティティ 合計と親入力の合計。
- **比例** - 連結階層の連結時における特定の親エンティティを対象とする、単一エンティティのエンティティ 合計(または親合計)メンバーの比例値。それぞれの親/子エンティティ 関係について、連結ディメンションに 1 つのエンティティ 比率メンバーが存在します。
- **消去** - 特定の親/子エンティティの連結調整および消去データは、このメンバーに生成および保管されます。
- **コントリビューション** - 特定の親エンティティに対する単一エンティティの連結結果。これには、親/子エンティティの比率データと消去データの集約が含まれます。
- **コントリビューション入力(オプション)** - 親通貨で、エンティティと親の組合せに固有のデータを入力するために使用します。このデータは比例処理後に入力されます。
- **コントリビューション合計**(「コントリビューション入力」が有効になっている場合) - コントリビューションとコントリビューション入力の合計。

連結ディメンションによって、連結プロセスの様々なステージを実行するために使用される詳細についてレポートできます。これには、連結されたメンバーの調整方法を連結プロセス中に記録するための中間結果が保管されます。これにより、連結プロセス中にデータに適用されるトランザクションの監査証跡が提供されます。

次の図は、会社間消去およびすべてのオプション・メンバーが有効になっている連結ディメンションを示しています:

```

FCCS_Contribution Total
  |__ FCCS_Contribution Input
  |__ FCCS_Contribution
    |__ FCCS_Elimination
    |__ FCCS_Proportion
      |__ FCCS_Parent Total
        |__ FCCS_Parent Input
        |__ FCCS_Entity Total
          |__ FCCS_Translated Currency Input
          |__ FCCS_Entity Input
          |__ FCCS_Entity Total Adj *
          |  |__ FCCS_Entity Elimination Adj *
          |  |__ FCCS_Entity Proportion Adj *
          |__ FCCS_Entity Consolidation *
  
```

ノート: \*のエンティティ 連結メンバー、エンティティ 比率調整メンバー、エンティティ 消去調整メンバーおよびエンティティ 合計調整メンバーは、システムで計算されたメンバーで、親エンティティにのみ適用されます。

## 換算プロセス

Financial Consolidation and Close では、複数通貨アプリケーションの通貨換算が可能です。デフォルトの換算プロセスでは、フロー勘定には期別換算メソッドが、残高勘定には年次累計メソッドが適用されます。

[データの換算](#)を参照してください。

### 連結プロセス中の換算

データの連結時、親エンティティのデフォルト通貨が子エンティティと異なる場合に、通貨の換算が行われます。親通貨への換算は、連結プロセスの一環として行われます。

換算の実行時、ソース・データが連結されていない場合や影響を受けるデータがある場合は、換算前にデータが自動的に連結されます。

### レポート通貨への換算

データを特定のレポート通貨に換算する場合は、ターゲットのレポート通貨を選択して換算を実行します。レポート通貨換算に使用できるのは、レポート用に有効化されている通貨のみです。すべてのレポート通貨には、USD\_Reporting のように、\_Reporting という接尾辞が付きます。

レポート通貨への換算はすべての期間に対して必要です。現行年度の前期間がまだ換算されていない場合、これらは、選択した期間の前に換算されます。まだ完全に換算



されていない前年度がある場合、まだ完全に換算されていない各年度を順に換算してから、現行年度を換算する必要があります。

各エンティティは、相互に独立して換算されます。

- エンティティのデフォルト通貨がレポート通貨と同じ場合は、エンティティ通貨が「レポート通貨」にコピーされます。
- エンティティのデフォルト通貨がレポート通貨と同じではなく、レポート通貨と同じデフォルト通貨の親エンティティがある場合は、親通貨が「レポート通貨」にコピーされます。
- エンティティと親エンティティどちらのデフォルト通貨もレポート通貨でない場合は、エンティティ通貨がレポート通貨に換算されます。

一部の換算計算は累積する性質があるため、エンティティのエンティティ通貨でも親通貨でもないレポート通貨に対する換算は、年度の最初の期間から実行することをお勧めします。

レポート通貨への換算プロセス中に、**FCCS\_Entity Proportion Adj** および **FCCS\_Entity Elimination Adj** メンバー(EPA/EEA)を換算スコープに含めることができます。この機能は、出資比率の管理が有効になっている場合にのみ使用できます。エンティティ入力およびエンティティ連結の換算で行われるものと同じプロセスを使用して、**FCCS\_Entity Proportion Adj** および **FCCS\_Entity Elimination Adj** メンバーがレポート通貨に換算されます。**FCCS\_Entity Proportion Adj** メンバーと **FCCS\_Entity Elimination Adj** メンバーを換算スコープに含める場合は、`ReportingTransEPAEEA` 代替変数の値を **True** に設定します。

### Exchange Rates

「レート・キューブ」には、変換元通貨から変換先通貨に関するすべての為替レート・データが含まれます。履歴レート勘定科目に上書きレートや上書き金額がない場合、換算にはグローバル為替レートが使用されます。

計算に使用されている為替レートは、事前定義済のデータ・フォームで表示できます。また、事前定義済のフォームを使用して、為替レートや上書きレートを入力することも可能です。次の項を参照してください。

- [為替レートの入力](#)
- [上書きレートの入力](#)
- [事前定義済フォーム](#)

換算プロセスについてさらに学習するには、次のビデオをご覧ください:



概要: [Financial Consolidation and Close](#) での換算

## データの換算

通貨の換算では、データがある通貨から別の通貨に変換されます。エンティティの入力通貨から、アプリケーションに定義されている別のレポート通貨にデータを換算できます。データの連結時、親エンティティのデフォルト通貨が子エンティティと異なる場合に、通貨の換算が行われます。

**Financial Consolidation and Close** では、デフォルトで、複数通貨アプリケーションの通貨換算が可能です。換算プロセスでは、フロー勘定には別別価額(PVA)メソッドが、残高勘定には為替レートでの値(VAL)メソッドがデフォルトで使用されます。使用されるデフォルトのメ

ソッドおよび為替レート勘定科目は変更できます。デフォルトの換算設定の指定を参照してください。

換算は、計算スクリプトを使用し、保管されている連結データに基づいて実行されます。換算の実行時、データが連結されていない場合や影響を受けるデータがある場合は、換算前にデータが自動的に連結されます。保管された連結金額は、適用可能な為替レートを適用して、レポート通貨に換算されます。

親通貨への換算は、連結プロセスの一環として行われます。データを特定のレポート通貨に換算する場合は、ターゲットのレポート通貨を選択して換算を実行します。レポート通貨換算に使用できるのは、レポート用に有効化されている通貨のみです。

エンティティがロックされ、その計算ステータスが「OK」または「システム変更」の場合でも、データをレポート通貨に換算できます。エンティティ通貨計算ステータスが「システム変更」の場合は、換算後にレポート通貨ステータスも「システム変更」に変更されます。

貸借対照表グループ("FCCS\_Balance Sheet")内のすべての勘定科目、および貸借対照表階層の外部にある勘定科目(「資産」、「負債」、「資本」、「収益」および「費用」勘定科目タイプ)は換算されます(ただし、「保存された仮定」勘定科目を除く)。貸借対照表階層の外部にある勘定科目を換算プロセスに含めない場合は、ExtendAccountScope という名前の代替変数を作成し、値を **False** に設定します。

デフォルトの換算は、「換算のオーバーライド」画面で選択したデフォルトの換算設定に基づいています(変更されていないかぎり、デフォルトでは平均レートでの期別換算が使用されます)。

期首残高および期首残高調整メンバーを除き、FCCS\_Movements 階層下のすべてのメンバーは、選択した換算設定で換算されます。この場合、履歴金額オーバーライドまたは履歴レート・オーバーライド換算レート・タイプ勘定科目として指定された勘定科目のオーバーライド勘定科目エントリが適用され、デフォルトの換算が置き換えられます。オーバーライド・エントリが作成されていない場合、デフォルト設定では履歴勘定科目が換算されたままになります。この場合、デプロイされた換算オーバーライド・ルールが適用され、デフォルトの換算結果は調整または置換されます。

FCCS\_Movements 階層の外部で作成された増減ディメンション・メンバーは、デフォルトの換算、換算オーバーライド・ルール、換算オーバーライド・エントリ、構成可能な計算ルール、オンデマンド・ルールおよび構成可能な連結ルールを含む、換算および連結計算に含まれます。この動作は、ExtendMovementScope 代替変数によって有効化され、デフォルトで有効になっています。この機能を無効にするには、代替変数の値を **False** に変更します。ExtendMovementScope では、FCCS\_ClosingBalance\_Variance、FCCS\_CashFlow および FCCS\_CashChange の階層の下にあるメンバーは除外されます。

換算プロセスでは、換算上書きルールは、換算上書きエントリの前に実行されます。金額/レート上書きエントリの前に上書きルールを処理しないようにする場合は、skipTransRulesIfOverrideRatesExist という名前の代替変数を追加して、値を **False** に設定します。

出資比率の管理が有効なアプリケーションでは、取得および処分増減ディメンション・メンバーは換算に前期間の期末レートを使用します。これは次のディメンション・メンバーに適用されます:

- FCCS\_Mvmts\_Acquisitions
- FCCS\_Mvmts\_Acquisitions\_Input
- FCCS\_Mvmts\_Disposals

- FCCS\_Mvmts\_Disposals\_Input

取得時換算勘定(「履歴」、取得時換算勘定オーバーライド、「履歴レート・オーバーライド」)では、システムは取得および処分増減メンバーの換算に前期間の実効レートを使用します。前期間の実効レートが使用できない場合(これは、連結%が 0%であるため、前期間のデータが連結されない場合に発生することがあります)、システムは前期間の平均レートを適用します。

取得時換算勘定のデフォルト換算では、計算された実効レートが(0.1, 10)の範囲内であるかどうかチェックされます。範囲外の場合は、平均レートが使用されます。実効レートのしきい値を削除するには、DisableRateThreshold という代替変数を追加して値を True に設定します。

期首残高は、保管されているすべてのデータ・レベルの前期間の期末残高から常に繰り越され、換算されることはありません。期首残高調整エントリは、前期間に関連しているとみなされます(前期間調整など)。したがって、期首残高調整エントリは、デフォルトでは前期間の期末レートで換算されます。

取得時換算勘定の期首残高調整は、デフォルトでは前期間の実効レート(前期間の期末残高の換算金額を前期間の期末残高の未換算金額で除算した比率)を使用して勘定科目ごとに換算されます。ただし、前期間の実効レートが使用できない場合(これは、連結%が 0%であるため、前期間のデータが連結されない場合に発生することがあります)、システムは前期間の平均レートを適用します。

取得時換算勘定のデフォルトの換算動作を無効にする必要がある場合は、TranslateOBOCACqDispAtPriorER という名前の代替変数を作成し、値を False に設定します。この変数があるのは、連結比率の変更があった場合のみであるため、履歴期間を連結する必要はありません。

「連結プロセス」の「換算」タブには、「**前のレートによる期首残高調整の換算**」という名前のオプションが含まれており、期首残高調整エントリに使用するレートを選択できます。「平均」または「期末」レートを選択できます。このオプションを使用できるのは、TranslateOBOCACqDispAtPriorER 代替変数が True に設定されている場合のみです。

「**前のレートによる期首残高調整の換算**」オプションを使用し、「期末」レートを選択した場合、期首残高調整の取得時換算勘定は、前期間の期末レートを使用して換算されます(前の実効レートが使用できない場合)。

この場合、外国為替差異(FX 期首、FX 変動)が計算され、集約された期末残高が、期末レートで換算された未換算期末残高の残高と等価になります。次に、履歴、履歴レート・オーバーライドまたは履歴金額オーバーライドの換算レートタイプを使用して定義されたすべての勘定科目について、計算された FX が FX-to-CTA または FX-to-CICTA 増減メンバーで逆仕訳されます。これにより、貸借対照表の最上位メンバー(FCCS\_Balance Sheet グループではなく、FCCS\_Total Balance Sheet の従来または純資産メンバー)内のすべての勘定科目に対するこれらの逆仕訳の累積は、CTA または CICTA 勘定科目に転記されます(貸借対照表内では、計算された FX の逆仕訳および CTA/CICTA への転記は、貸借対照されたエントリです)。

換算プロセスが完了すると、換算したデータが保管されます。保管されたデータへの調整は、構成可能な計算ルールを使用して行われます。

計算に使用されている為替レートは、事前定義済のデータ・フォームで表示できます。また、事前定義済のフォームを使用して、為替レートや上書きレートを入力することも可能です。次の項を参照してください。

- [為替レートの入力](#)
- [上書きレートの入力](#)
- [事前定義済フォーム](#)

データを換算するには:

1. ホーム・ページで、「データ」をクリックします。
2. 「フォーム」リストで「データ・ステータス」をクリックします。
3. 視点を選択します。
4. 換算ルールを実行するセルを選択します。
5. 「アクション」ドロップダウン・メニューから、「ビジネス・ルール」を選択します。
6. 「ビジネス・ルール」ダイアログで、「換算」をクリックします。
7. 換算プロセスが正常に完了すると、確認メッセージが表示されます。「OK」をクリックします。

換算が中断された場合は、換算の強制を実行してシステムをリセットし、必要な換算を完了する必要があります。

## 為替レートについて

ある通貨から別の通貨に値を換算するには、為替レートを使用します。変換元通貨から変換先通貨へのレートを入力できます。為替レートを指定するには、アプリケーションの作成時に複数通貨を設定する必要があります。

[通貨の作成](#)および[データの換算](#)を参照してください。

Financial Consolidation and Close では、平均と期末の 2 つのシステム為替レートがサポートされています。フロー勘定は平均レートを、残高勘定は期末レートを使用して換算されます。

Financial Consolidation and Close には、直接為替レート、間接為替レートおよびクロスレートを入力する機能が用意されています。

### ベスト・プラクティス

最も正確な間接レートとクロスレートを生成するには、直接レートを使用して常にアプリケーション通貨にレートを入力する必要があります。次に、アプリケーション通貨を含まない通貨間で、間接レートと追加レートがトライアングレーションされます。たとえば、間接レートを入力したときにこのレートが直接レートの逆数ではない場合、通貨 1 から通貨 2 に換算してから通貨 1 に換算し戻しても、元の金額が正しく生成されません。クロスレートを入力しても、同様の問題が起こります。

[為替レートの入力](#)を参照してください。

### 直接為替レート

直接為替レートは、換算金額を計算するために未換算金額に乗算するレートです。

GBP から USD へ: 2.00

GBP 100 x 2.00 = USD 200

通貨とそれ自体の間の直接レートは常に 1 であるとみなされます。

### 間接為替レート

間接為替レートは、直接為替レートの逆です。未換算金額は、換算金額を計算するためにレートで除算されます。通貨 1 から通貨 2 への間接レートは、通貨 2 から通貨 1 への直接レートでもあります。

USD から GBP へ = 0.50

GBP 100 / 0.50 = USD 200

USD 200 x 0.50 = GBP 100

間接為替レートを表示するには、ホーム・ページで「データ」をクリックし、「フォーム」リストから「為替レート」フォームを開きます。

### クロスレート

通常、為替レートは、共通通貨またはシステム通貨の観点から見積りおよび入力が行われます。このシステム通貨を使用して換算を計算する場合、直接レートまたは間接レートが適用されます。他の 2 つの通貨を使用して換算を計算する場合(たとえば、いずれの通貨もシステム通貨でない場合)、システム通貨を介して必要なクロスレートをトライアングレーションできます。

USD をシステム通貨として使用する場合:

GBP から USD へ: 2.00 直接レート

EUR から USD へ: 0.80 直接レート

USD から EUR へ: 1.25 間接レート

GBP から EUR へ = GBP から USD へ / USD から EUR へ = 2.00 / 1.25 = 1.60

#### ノート:

システム通貨に基づいて直接レートのみを **Financial Consolidation and Close** に入力する場合、換算で使用された間接レートとすべてのクロスレートが計算されます。

間接レートまたはクロスレートを入力する場合、**Financial Consolidation and Close** では入力したレートが上書きされません。その結果、誤った値となる可能性があります。

## 為替レートの入力

**Financial Consolidation and Close** には、直接為替レート、間接為替レートおよびクロスレートを入力する機能が用意されています。最も正確な間接レートおよびクロスレートを生成するには、直接レートのみを **Financial Consolidation and Close** に入力することをお勧めします。

[為替レートについて](#)を参照してください。

為替レート・データは、事前作成済の 2 つのシステム為替レート・フォームを使用して入力できます。

- **為替レートの入力 - 単一期間:** 視点で選択された単一期間の為替レートを入力します。

- **為替レートの入力 - 複数期間:** 視点で選択された単一の通貨(先)に対する複数期間の為替レートを入力します

 **ノート:**

事前定義済レート・フォームが提供されるのは、アプリケーションの作成時に「複数通貨オプション」が選択されている場合のみです。[事前定義済フォーム](#)を参照してください。

間接為替レートを表示するには、「フォーム」リストから「**為替レート**」フォームを開きます。

データをフォームに保存すると、2つのルールが自動的に実行されます:

- Form\_PostProcess\_Rate
- Form\_PostProcess\_SDMCurrencyRates

レート・キューブをターゲットにするフォームでセルが編集されている場合は、これらのルールでレートが自動的に計算されます。古い「レートの計算」および「RefreshSDMCurrencyRates」ルールを使用して独自の為替レート入力フォームを作成した場合は、重複するレート計算を回避するためにそれらを削除する必要があります。データを保存した後に「レートの計算」ダイアログが表示された場合は、フォームから古いルールを手動で削除する必要があります。

単一通貨で複数通貨アプリケーションを使用している場合は、「**レートの計算**」を実行する必要があります。期首残高出資比率の調整については、期首残高に基づく有効レートがない場合、期首残高出資比率プロセスによって、期首残高出資比率の計算で使用する適切な為替レートが検索されます。複数通貨アプリケーション内の通貨が1つである場合は、「**レートの計算**」ルールを実行するのみで済みます。レートを入力する必要はありません。「レートの計算」プロセスによって、為替レートとして1が移入されます。

為替レートをインポートすることもできます。例: [データ・インポート・ファイル - 為替レート](#)を参照してください。

直接レートをデータ・フォームに入力するには:

1. ホーム・ページで、「**データ**」をクリックします。
2. 「フォーム」リストで、**為替レートの入力 - 単一期間**または**為替レートの入力 - 複数期間**をクリックします。
3. POV から、シナリオ、年、期間を選択します。行内で、通貨(元)ディメンション内のレベル0の子孫を選択しますが、システム通貨として定義されている通貨は除きます(USDを除く ILvI0Descendants (通貨(元)))
4. 行内で、システム通貨として定義されている通貨は除き、通貨(元)ディメンション内のレベル0の子孫を選択します。  
USDを除く ILvI0Descendants (通貨(元))
5. 列内で、勘定科目ディメンション内で入力した為替レートのレベル0の子孫を選択します。  
ILvI0Descendants (入力した為替レート)



6. 直接レートを入力して、「保存」をクリックします。
7. 「アクション」から、レートの計算を選択します。

フォーム名のすべてのレートを表示するには:

1. ホーム・ページで「データ」をクリックし、「為替レート」フォームを開いてレートを確認します。
2. 行内で、通貨(元)ディメンション内のレベル 0 の子孫を選択します。

ILV10Descendants (通貨(元))

3. 列内で、通貨ディメンション内で入力通貨のレベル 0 の子孫を選択します。

ILV10Descendants (入力通貨)

4. 列内で、勘定科目ディメンション内で入力した為替レートのレベル 0 の子孫を選択します。

ILV10Descendants (為替レート)

### ノート:

レート・キューブをターゲットにするフォームでセルが編集されている場合は、システムでレートが自動的に計算されます。

すべての直接レートを入力し、システムでルールが実行されると、直接レート、間接レートおよびクロスレートがすべて表示されます。

必要に応じて、単一の期間を対象としてこの直接レート・エントリとすべてのレート表示を 1 つのフォームにまとめることができます。

この例では、システム通貨の EUR に対して USD、BRL、CAD、CHF および GBP の直接レートが最初の 2 つの列に入力されています。この場合、直接レートとクロスレートがすべて表示されます。

Enter Exchange Rates ⓘ														
Scenario Forecast	Years FY16	Period Jan												
	EUR		USD		EUR		BRL		CAD		CHF		GBP	
	Average Exchange Rate Input	Ending Exchange Rate Input	FX Rates - Average	FX Rates - Ending	FX Rates - Average	FX Rates - Ending	FX Rates - Average	FX Rates - Ending	FX Rates - Average	FX Rates - Ending	FX Rates - Average	FX Rates - Ending	FX Rates - Average	FX Rates - Ending
EUR	1.00000	1.00000	0.83333	0.80000	1.00000	1.00000	0.15385	0.15152	0.66667	0.68966	0.25000	0.25641	1.11111	1.17647
USD	1.20000	1.25000	1.00000	1.00000	1.20000	1.25000	0.18462	0.18939	0.80000	0.86207	0.30000	0.32051	1.33333	1.47059
BRL	6.50000	6.60000	5.41667	5.28000	6.50000	6.60000	1.00000	1.00000	4.33333	4.55172	1.62500	1.69231	7.22222	7.76471
CAD	1.50000	1.45000	1.25000	1.16000	1.50000	1.45000	0.23077	0.21970	1.00000	1.00000	0.37500	0.37179	1.66667	1.70588
CHF	4.00000	3.90000	3.33333	3.12000	4.00000	3.90000	0.61538	0.59091	2.66667	2.68966	1.00000	1.00000	4.44444	4.58824
GBP	0.90000	0.85000	0.75000	0.68000	0.90000	0.85000	0.13846	0.12879	0.60000	0.58621	0.22500	0.21795	1.00000	1.00000

## 上書きレートの入力

ほとんどの勘定科目で、デフォルトの為替レートを用いて、標準の換算メソッドが使用されます。一部の貸借対照表勘定科目は、履歴レート勘定科目として指定されます(普通株式、子会社への投資など)。

履歴レート勘定科目として指定された勘定科目は、指定する上書きレートまたは上書き金額を使用して換算されます。履歴レート勘定科目に上書きレートや上書き金額がない場合、換算にはグローバル為替レートが使用されます。

デフォルトでは、**Disposals Input** 勘定科目は実効レートを使用して換算されます。ただし、履歴レート勘定科目に対してグローバル・レートを使用するように定義された換算オーバーライド・ルールがある場合は、かわりにオーバーライド・ルールのグローバル・レートが使用されます。

履歴レート勘定科目では、勘定科目の上書きレートまたは上書き金額を入力するための事前作成済フォームが提供されます。履歴レート・オーバーライドを使用するすべての勘定科目も、取得時換算勘定階層の下に共有メンバーとして自動的に作成されます。[勘定科目の定義](#)および[事前定義済フォーム](#)を参照してください。

### ノート:

事前定義済レート・フォームが提供されるのは、アプリケーションの作成時に「複数通貨オプション」が選択されている場合のみです。

すでに消去済の会社間エントリに上書き金額またはレートを入力した場合、上書きは消去エントリにも適用されます。「会社間消去」データ・ソース内の消去金額は、1つ以上の「入力合計および調整済」メンバーの元のソース入力と同じ比率で調整されます。

上書きレートをインポートすることもできます。[例: データ・インポート・ファイル - 上書き](#)を参照してください。

上書きレートを入力するには:

1. ホーム・ページで、「**データ**」をクリックします。
2. 「フォーム」リストで、「**Override Rates**」をクリックします。  
履歴レート勘定科目として指定されたすべての勘定科目が行にリストされます。
3. POV で、シナリオ、年およびエンティティを選択します。
4. 勘定科目用に、上書きの金額またはレートを入力して、「**保存**」をクリックします。

## デフォルトの換算設定の指定

デフォルトでは、タイム・バランス属性が「フロー」または「残高」のとき、すべての勘定科目で標準の換算方法が提供されます。これらの設定を変更し、アプリケーションのデフォルトの換算方法とデータ勘定科目を指定することができます。

### デフォルトの換算設定のセキュリティ権限

- デフォルトの換算設定を変更できるのはサービス管理者のみです。
- パワー・ユーザーは、デフォルトの換算設定を表示できます。
- ユーザーと参照者は、デフォルトの換算設定を変更できません。

### システム・デフォルトの換算設定

アプリケーションを初めて作成すると、次の設定がデフォルトで作成されます。

#### 残高勘定



- 換算メソッド: 定期的
- レート勘定科目: 期末

#### フロー勘定

- 換算メソッド: 定期的
- レート勘定科目: 平均

#### 年次累計の FX 差異の換算計算の有効化

フロー勘定の場合、デフォルトで FX 差異の計算は定期的に行われます。フロー勘定のデフォルトの換算メソッドが年次累計である場合、FX メソッドを年次累計に設定して、FX 期首および FX 増減の年次累計計算を有効化できます。YTD 計算を有効にするには、最初に YTD FX Calculation という代替変数を連結キューブに追加して値を **True** に設定する必要があります。「**FX メソッド**」オプションがフロー勘定の「デフォルトの換算メソッド」ページに表示されるようになり、「年次累計」を選択できます。

#### ノート:

ノート: YTD FX 計算は、連結にのみ使用でき、レポート通貨換算についてはサポートされていません。

YTD FX 計算を有効にした場合は、アプリケーションの開始年からデータを再連結する必要があります。

DSO 以外のアプリケーションで、「FX メソッド」が「定期的」で YTD 換算が有効なとき、FCCS\_Mvmts\_Subtotal メンバーが欠落している場合、FX\_Movement メンバーは、「定期的」ではなく YTD を使用して換算されます。この動作を変更するには、FXTranslationFix という名前の代替変数を追加し、値を **True** に設定します。

YTD FX 差異の換算計算が有効になっているアプリケーションでは、状況によっては、きわめて大きい数字が OBFXCTA/OBFXCICTA メンバーで発生することがあります。この問題を解決するには、YTD FX Ratio Threshold という名前の新しい代替変数を追加し、値を **True** に設定します。

デフォルトで使用するアプリケーションに、異なる換算設定を選択できます。デフォルトの換算メソッドは、視点固有のオーバーライドが存在しなければ、アプリケーション全体に適用されます。

#### ノート:

デフォルトの換算設定を変更すると、アプリケーションの既存のデータに影響があります。計算ステータスは「OK」から「**システムの変更**」に変わり、すべてのレポート通貨のステータスは「**換算が必要**」に変わります。これは、ロックされたエンティティとロック解除されたエンティティのどちらにも当てはまります。

デフォルトの換算設定を指定するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**連結**」の順にクリックします。
2. 「連結プロセス」ページで「**換算**」タブを選択します。

3. ルールのリストから、「**換算のオーバーライド**」を選択します。
4. **デフォルトの管理**をクリックします。
5. 「**デフォルトの換算メソッド**」ページを初めて開くときは、システムで用意されたデフォルト値が入力されます。必要に応じて、残高勘定とフロー勘定の換算オプションを選択します。

#### 残高勘定

- 換算メソッド: 「定期的」または「年次累計」
- レート勘定科目: 「平均」または「期末」

#### フロー勘定

- 換算メソッド: 「定期的」または「年次累計」
- FX メソッド(FX 差異の換算計算を有効にしている場合にのみ使用できます)
- レート勘定科目: 「平均」または「期末」

#### ノート:

アプリケーションに追加のレート勘定科目を作成することは可能ですが、デフォルトの換算勘定科目に選択できるのは、「平均」または「期末」のみです。

6. 「OK」をクリックして変更を保存します。

## 連結および換算セキュリティ・アクセス

データの連結または換算には、次のセキュリティ・アクセスが必要です。

- サービス管理者、パワー・ユーザーまたはユーザーである必要があります。
- 「連結の強制」を実行するには、サービス管理者である必要があります。
- 連結または換算するために選択した親エンティティに対する書込みアクセス権も持っている必要があります。

#### ノート:

ロックされているエンティティは、連結プロセスから除外されます。

連結および換算アクションに対するアクセス権を割り当てるには、管理者として、適切なルールに対するアクセス権をユーザーに割り当てます。連結ビジネス・ルールに対する「起動」アクセス権をユーザーに割り当てると、そのユーザーは、「連結」アクション・メニューに対するアクセス権も持ちます。換算ビジネス・ルールに対する「起動」アクセス権をユーザーに割り当てると、そのユーザーは、「換算」アクション・メニューに対するアクセス権も持ちます。

 ノート:

管理者は、アプリケーション内のすべてのルールに対するデフォルトのアクセス権を持ちます。

## 計算ステータス

Financial Consolidation and Close では、シナリオ、期間、エンティティおよび親エンティティの組合せごとに計算ステータスが管理されます。計算ステータスは、データを換算または連結する必要があるかどうかを示します。計算ステータスは、次のことが原因で変わることがあります。

- 組織構造の変更
- 勘定科目の追加や削除
- エンティティの属性の変更
- データ・グリッドへのデータの入力、または外部ソースからのデータのロード
- 仕訳の転記または転記の戻し
- ルールのリロード
- 連結比率の変更
- 通貨レートの変更
- 金額の上書きデータの変更

表 18-1 連結のステータス

ステータス	説明
OK	データは正常です - 指定されたディメンションのデータはいずれも変更されていません。
データなし	指定したディメンションのデータは存在しません。
影響	データが前回の生成以降に変更されているため、再連結をしてそのステータスを「OK」に変更する必要があります。これは、基本エンティティのデータ変更が親エンティティに影響する場合に発生します。
換算が必要	選択されたディメンションのメンバーは、エンティティのデフォルト通貨ではなく、換算された値が現在のものではない可能性があります。
システムの変更	指定されたディメンションのデータに影響する可能性のある変更が発生しました。たとえば、新しいルール・ファイルまたはメタデータ・ファイルがロードされたか、通貨レートが変更されています。

フォームとグリッドで計算ステータスを参照し、必要に応じてアクションを実行できます。次の表に、フォームとグリッドで使用可能なアクションを示します。

表 18-2 エンティティ 入力/エンティティ 通貨 - 基本エンティティ

ステータス	説明	アクション
データなし	データは入力または生成されていません。	なし
OK	データはいずれも変更されていません。	なし

表 18-3 エンティティ 連結/エンティティ 通貨 - 親エンティティ

ステータス	説明	アクション
OK	データはいずれも変更されていません。	なし
影響	親エンティティは、子エンティティの変更によって影響を受けました。	連結

表 18-4 エンティティ 入力/レポート通貨 - 基本エンティティ

ステータス	説明	アクション
OK	データはいずれも変更されていません。	なし
換算が必要	データが換算されていないか、前回の換算以降に変更されたため、データを換算する必要があります。	換算

表 18-5 エンティティ 連結/レポート通貨 - 親エンティティ

ステータス	説明	アクション
OK	連結が実行され、データが換算されました。	なし
換算が必要	次の理由がある場合、データを換算する必要があります。 <ol style="list-style-type: none"> <li>エンティティ 連結データを生成するため、最初に親エンティティを連結してから換算する必要があります。</li> <li>子データが変更されたため、最初に親エンティティを再連結してから換算する必要がある場合。</li> <li>親エンティティのデータが「OK」であるため、換算のみする必要があります。</li> </ol>	換算 <ol style="list-style-type: none"> <li>システムは、最初に連結してから換算します。</li> <li>システムは、最初に連結してから換算します。</li> <li>換算はユーザーから要求します。</li> </ol>

表 18-6 比率または消去/親通貨 - 基本エンティティ

ステータス	説明	アクション
データなし	連結から何のデータも生成されませんでした。	連結
OK	データは「OK」です。	なし
影響	データが前回の生成以降に変更されているため、再連結をしてそのステータスを「OK」に変更する必要があります。	連結

表 18-7 比率または消去/レポート通貨 - 基本エンティティ

ステータス	説明	アクション
データなし	連結から何のデータも生成されず、換算は実行されませんでした。	換算
OK	比率および消去のデータが連結から生成され、データの換算も実行されました。	なし
換算が必要	次の理由がある場合、データを換算する必要があります。 <ol style="list-style-type: none"> <li>換算の前に比率データを再生成する必要がある場合。</li> <li>比率データが生成されて「OK」だが、換算は実行されなかった場合。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>システムは、再連結してからデータを換算します。</li> <li>システムは、比率データのみを換算します。</li> </ol>

## データの連結

フォームから連結プロセスまたは換算プロセスを起動したり、データ・グリッドにデータ・ステータスを表示することができます。Financial Consolidation and Close には、事前定義されたデータ・ステータス・グリッドがあり、エンティティが行に、期間が列に表示されます。グリッドのデータは、フォームからのシナリオ/エンティティ/期間/通貨の情報に基づきます。

### ノート:

換算は、連結プロセスの一環として行われます。換算プロセスの詳細は、[データの換算](#)を参照してください。

データを連結するには、サービス管理者、パワー・ユーザーまたはユーザーである必要があります。連結する親エンティティに対する書込みアクセス権も持っている必要があります。

連結する基本エンティティを選択したときは、そのエンティティに対する計算のみが実行されます。親エンティティには連結されません。

親エンティティを選択したら、その親のすべての子孫も連結されます。

ある期間のデータを連結する際に、前の複数期間のデータがまだ連結されていない場合は、前の期間のデータも連結されます。最後の期間の連結を選択し、それより前の期間が影響を受ける場合は、影響を受ける最初の期間から連結が開始されます。また、次の年の将来の期間もすべて影響を受けます。

連結プロセスは、影響を受けるエンティティに対して実行されます。プロセスが完了すると、正常に連結されたエンティティのステータスが **OK** に変わります。

**強制連結** オプションを使用すると、選択したセルで連結を強制的に実行できます。たとえば、外的な要因(データベースのクラッシュ、ユーザーによるプロセスの停止など)のために連結プロセスが正常に完了しなかった場合、エンティティが処理中ステータスのままになります。失敗した連結をリセットする必要があることを示すエラー・メッセージも表示される可能性があります。この場合、「**連結の強制**」オプションを使用して、すべてのエンティティにデータを連結します。

「**連結の強制**」を実行するには、サービス管理者である必要があります。

連結ジョブのリアルタイム・ステータスは、ジョブ・コンソールで確認できます。ここでは、処理中のレベルに関する情報と、連結中の期間、および処理期間の合計エンティティ数に対する処理済の合計エンティティ数が表示されます。

ジョブ実行中に最新の更新を確認するには、ジョブ・コンソールの画面を定期的にリフレッシュする必要があります。



### ノート:

カンマで区切って選択した複数の排他的なエンティティ (例: E1, E2) に対して連結を実行している場合や、`EnableYearlyConsol` 代替変数を有効にして連結を実行している場合、リアルタイムのステータスは表示されません。

データを連結するには:

1. ホーム・ページで、「**データ**」をクリックします。
2. 「フォーム」リストで「**データ・ステータス**」をクリックします。
3. 視点を選択します。
4. 連結を実行するセルを選択します。
5. 「**アクション**」ドロップダウン・メニューから、「**ビジネス・ルール**」を選択します。
6. 「**ビジネス・ルール**」ダイアログで、「**連結**」をクリックします。
7. **オプション:** 選択したすべてのセルに対して連結プロセスを強制実行するには、**強制連結**をクリックします。

また、「ルール」カードから「**連結の強制**」を実行することもできます。[連結および換算ルール](#)を参照してください。

フォームから実行する場合、「**連結の強制**」をフォーム設計の「**ビジネス・ルール**」オプションに追加できます。[ビジネス・ルールの選択](#)を参照してください。

8. 連結プロセスが正常に完了すると、確認メッセージが表示されます。「OK」をクリックします。
9. 連結ステータスを確認するには、ジョブ・コンソールを開きます。[連結の進行状況の表示](#)を参照してください。

## データ・フォームにおけるプロンプトなしのデータの連結と換算

データ・フォームから連結または換算プロセスを起動すると、連結または換算を実行するエンティティ、期間、シナリオおよび年メンバーの選択を求めるプロンプトが表示されます。メンバーを毎回選択しなくても済むようにするために、ディメンション・メンバーのプロンプトなしでデータ・フォームから連結および換算を実行するための新しいルールを追加するタスクを構成できます。データ・フォームから連結および換算ルールを実行すると、セルで定義されたメンバーを使用してビジネス・ルールが実行されます。

### ノート:

プロンプトなしの連結または換算ルールは、データ・フォームまたは **Smart View** からのみ使用できます。それらを「ルール」カードから実行することはできません。

- 複数通貨のアプリケーションがある場合、連結と換算の両方について新しいルールが追加されます。
- 単一通貨のアプリケーションがある場合、連結についてのみ新しいルールが追加されます。
- 「**累計ビューの保管の管理**」オプションを有効にしている場合、**選択されたビューによる、プロンプトなし**について追加ルールを使用できるようになります。

構成タスクからこの機能を有効にすると、次の新しいルールが使用可能になり、データ・フォームに添付できます。

- **プロンプトなしの連結**
- **プロンプトなしの連結の強制**
- **プロンプトなしの換算**
- **プロンプトなしの換算の強制**

「**累計ビューの保管の管理**」オプションを有効にしている場合、次の追加ルールを使用できます:

- **Consolidate** - 選択されたビューによる、プロンプトなし
- **ForceConsolidate** - 選択されたビューによる、プロンプトなし
- **Translate** - 選択されたビューによる、プロンプトなし
- **ForceTranslate** - 選択されたビューによる、プロンプトなし



これらのルールをデータ・フォームに添付するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」を選択した後、「**プロンプトなしの計算ルールの有効化**」を選択します。
2. 「**起動**」をクリックして、新しいルールを有効にします。
3. 確認メッセージで、「**OK**」をクリックします
4. 「**ナビゲータ**」アイコンをクリックし、「**作成および管理**」から、「**フォーム**」をクリックし、データ・フォームを開いて編集します。
5. コンテキスト・メニューをフォームに関連付けるには、「**その他オプション**」タブを選択し、「**プロンプトなしの計算**」を選択して「**選択したメニュー**」に移動します。これにより、フォーム・セルから、右クリックして該当するルールを選択できるようになります。
6. 変更が終わったら、フォームを保存します。

データ・フォームからデータを連結または換算するには:

1. ホーム・ページで、「**データ**」をクリックし、フォームを選択します。
2. 視点を選択します。
3. 連結または換算を実行するセルを選択します。
4. 右クリックし、コンテキスト・メニューから該当するルールを選択します。
5. プロセスが正常に完了したら、確認メッセージで「**OK**」をクリックします。
6. ジョブ・ステータスをチェックするには、「**ジョブ**」コンソールを開き、ジョブの名前をクリックして「**ジョブの詳細**」を表示します。

## 連結の進行状況の表示

データを連結する場合、ジョブ・コンソールからタスクのステータスをモニターできます。保留中のジョブまたは最近のアクティビティ (完了ステータスや日時など) を参照できます。

連結の進行状況を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**ジョブ**」をクリックします。
3. **保留中のジョブ**および**最近のアクティビティ**を確認して、連結のステータスをチェックします。
4. ジョブの名前をクリックして、ジョブの詳細を表示します。

## 連結レポートの実行

### レポートの概要

連結レポートを実行すると、連結プロセスの詳細な監査証跡を得ることができます。レポートは、複数通貨および単一通貨のアプリケーションで使用できます。

レポート・フォーマット・タイプには、HTML、PDF または XLS を選択できます。



レポートを実行して Excel レポート・タイプとして保存する場合は、代替変数を使用して、セル・テキストではなく数値フォーマットで値を自動的に表示できます。この代替値は、EnableExcelNumberFormat という名前です。この代替変数の値を True に設定した場合は、レポートを Excel レポート・タイプとして保存すると、値が自動的に数値で表示されます。

連結レポートには、選択した親エンティティに関する次の情報が表示されます。

- 勘定科目のリスト(列で表示)
- 表示された各勘定科目に貢献している、選択した連結グループ内の子会社のリスト(行で表示)
- 資産、負債、資本の元の計上済期末残高(通常は一般会計残高)および損益の現在の YTD 残高
- 連結時の計上済残高に対する調整(手動仕訳入力、複数 GAAP 調整、会社間消去と連結ルールによって生成される自動消去など)。これには、会社間消去、取得入力または処分入力(投資消去、株式資本消去、留保消去など)、評価修正、NCI、持分会計などが含まれます。
  - 手動仕訳には、仕訳ラベルと説明の両方が表示されます
  - 自動消去には、累計額(期首残高)と YTD 金額がルール別に表示されます
  - 調整は、選択した親エンティティのエンティティ通貨で表示されます
- 選択したグループの各勘定科目に対する直属の子エンティティそれぞれの正味コントリビューション
- 差異 - 連結グループの結果に対する正味コントリビューションの合計

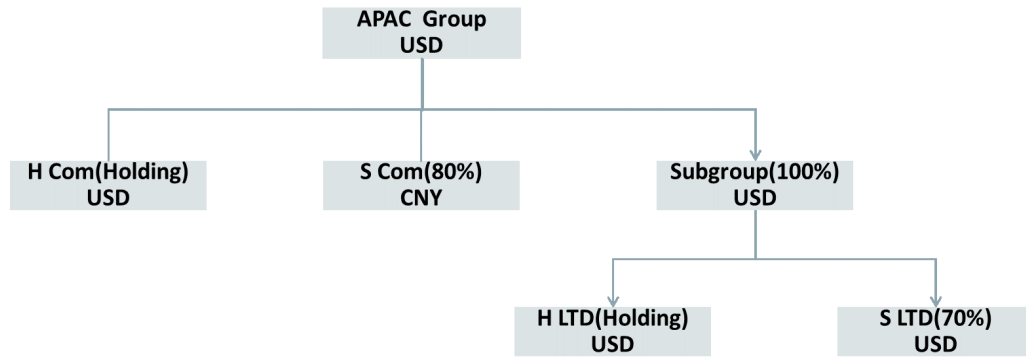
### レポートの設定

レポートには、マルチレベル階層を持つ親エンティティの 1 レベルの子エンティティが表示されます。

たとえば、次に示すような 2 レベルのエンティティ構造があるとします。APAC は最上位レベル・グループです。APAC グループの傘下には、持株会社(H Com) 1 社と子会社(S Com) 1 社があります。また、持株会社(H LTD)と S LTD 会社からなるサブグループ(Subgroup)も APAC グループの傘下です。

最初に、「APAC Group」を親エンティティに使用して、連結レポートを実行します。レポートには、持株会社(H Com)、子会社(S Com)およびサブグループ(Subgroup)合計を含む APAC グループの結果が表示されます。

より詳細にドリルダウンするには、「Subgroup」を親エンティティに使用して同じレポートを実行します。これにより、APAC グループの連結証跡全体が得られます。



親 GAAP メンバーまたは親勘定科目を POV で使用する場合、要約金額ではなく仕訳詳細を表示できます。仕訳金額は、それぞれの勘定科目上で手動仕訳という名前の行に表示されますが、親勘定科目を使用する場合は、親勘定科目内でその仕訳ラベルの行に表示されます。親 GAAP メンバーを選択すると、すべての仕訳をラベル別に表示できます。

### レポートの作成

連結レポートを作成するには、サービス管理者またはパワー・ユーザーで、レポートのデータに対するセキュリティ権限を持っている必要があります。

レポートの数値フォーマットには、アプリケーション設定またはユーザー・プリファレンスで指定する数値のフォーマット・スタイルを使用できます。[数値のフォーマット・プリファレンスの指定](#)を参照してください。

連結レポートを作成するには:

1. ホーム・ページで、「レポート」をクリックします。
2. **連結レポート**をクリックします。
3. 「**連結レポート・ジョブ**」ページで「**作成**」をクリックします。
4. 「**レポートのフィルタ処理**」で、次のようにします。
  - 「**メンバー・セレクタ**」をクリックし、レポートを実行する対象の**親エンティティ**を選択して、「**OK**」をクリックします。  
 選択できるエンティティは 1 つのみです。1 つ以上の子エンティティを含む親エンティティであることが必要です。レポートの行に、選択した親エンティティの次のレベルのエンティティがすべて表示されます。
  - 「**メンバー・セレクタ**」で、レポートを実行する対象の**勘定科目**を 1 つ以上選択して、「**OK**」をクリックします。  
 勘定科目は複数選択可能です。
  - 「**メンバー・セレクタ**」で、レポートを実行する対象の**複数 GAAP** ディメンション・メンバーを選択して、「**OK**」をクリックします。  
 複数 GAAP メンバーは複数選択可能です。この選択は、複数 GAAP ディメンションがアプリケーションで有効な場合にのみ使用できます。

**ノート:** カスタム・ディメンションの場合、連結レポートでは常に"合計カスタム"レベルのデータが取得されます。

5. 「POV」バーで、レポートのシナリオ、年および期間を選択して、「OK」をクリックします。
6. 「表示オプション」で「レポート・タイトル」を編集するか、空白のままにします。  
タイトルを空白のままにすると、レポートは「連結証跡ワークシート」というタイトルで生成されます。
7. 「列の表示」では、「勘定科目」または「増減」を選択します。  
「増減」を選択した場合、レポートには、FCCS\_ClosingBalance の下のレベル 0 の増減すべてが列に表示されます。ただし、「ゼロ行表示」オプションが「いいえ」の場合、ゼロ列はレポートに表示されません。「増減」を選択すると、特定の POV の増減詳細が表示されるため、列には増減のすべてが表示されます。  
POV で複数の勘定科目を選択すると、各勘定科目はサブレポートになります。複数の勘定科目を選択して XLS 出力オプションを選択すると、様々な勘定科目の結果を表示するために、XLS ファイルには複数のシートが含まれます。  
レポートでは、次の情報(存在する場合)が行に表示されます。
  - エンティティ名
  - 元残高
  - 手動仕訳
  - 会社間消去
  - 自動消去
  - 小計
8. レポートの「階層表示」および「複数 GAAP 表示」ではデフォルト値が使用され、これらの値は変更できません。
9. 「ゼロ行表示」では、ゼロのデータ行を表示する場合は「はい」を選択し、ゼロのデータしか含まれていない行を抑制する場合はデフォルト設定の「いいえ」のままにします。
10. 「メンバー表示」では、次のいずれかのオプションを選択します。
  - メンバー名
  - 別名
  - 名前と別名
11. 「レポート・タイプ」から、オプションを選択します。
  - HTML
  - PDF
  - XLS
12. レポートをただちに実行するには、「レポートの実行」をクリックして、レポートを開くか、保存するかを選択します。
13. オプション: レポートを、ただちにまたは後で実行をスケジュールできるジョブとして保存するには、「ジョブとして保存」をクリックし、ジョブ名と説明(オプション)を入力して、「送信」をクリックし、ジョブを保存します。  
レポートを保存後、そのレポート名と説明が「連結レポート・ジョブ」ページのレポート・リストに表示されます。
14. ジョブとして保存されたレポートを実行するには、次のいずれかの方法を使用します。

- 「**連結レポート・ジョブ**」ページで、レポートのリストからレポートを選択し、「**出力フォーマット**」を選択して、「**レポートの実行**」をクリックします。レポート・ファイルはローカル・パスにダウンロードできます。
- レポートをジョブとして送信するには、「**連結レポート・ジョブ**」ページでレポートを選択し、「**出力フォーマット**」を選択します。右側の「**アクション**」メニューで、「**送信**」、「**OK**」の順にクリックします。

シナリオ、年、期間およびエンティティのデフォルト値は、レポートの作成時に保存した値です。親エンティティ、シナリオ、期間または年は、ジョブを送信する前に変更できます。

レポートを送信後、ジョブ・コンソールに移動し、ジョブ・リストでレポートを検索します。ジョブ・ステータスが完了になったら、ジョブを開き、「**ジョブの詳細**」ページで「**表示/ダッシュボード**」をクリックして、レポートをダウンロードします。

- レポート・ジョブをスケジュールするには、「**ジョブのスケジュール**」ページで「**連結証跡レポートの実行**」のオプションを選択し、「**今すぐ実行**」を選択するか、ジョブを実行する時刻と頻度をスケジュール設定します。保存したレポートは、「**ジョブの詳細**」ページの保存したジョブのリストから選択できます。

15. **オプション:** レポートを削除するには、「**連結レポート・ジョブ**」ページでレポート・リストからレポートを選択し、右側の「**アクション**」メニューから「**削除**」、「**確認**」の順にクリックします。

**Consolidation Trail Worksheet**

Scenario: Actual      Group: SubGrp      Printed by: agm\_default\_cloud\_admin  
View: YTD      Year: FY16      Printed Date: 2016-05-06  
Currency: USD      Period: Mar

Entity: H Ltd	Hardware	Support	Cash	Account Receivable	Fixed Assets	Long Term Assets	Account Payable	Minority Interest	Common Stock	Investment in Sub	Retained Earnings Current	Retained Earnings Prior	Goodwill	Total Assets
Original Balance	0.00	0.00	40.00	120.00	400.00	900.00	400.00		500.00	500.00		160.00		1660.00
Test01 (FRS)														
Elimination Adjustment 01	-112.00	112.00												
Test02 (FRS)														
Elimination Adjustment 02	-212.00	212.00												
Test03 (Op)														
Balance Sheet Adj	-300.00	300.00												
Investment_Reverse Proportionalize							-500.00			-500.00				-500.00
Investment_Goodwill Offset							500.00						500.00	500.00
Sub-Total	-632.00	632.00	40.00	120.00	400.00	900.00	400.00	0.00	500.00	0.00	0.00	160.00	500.00	1660.00

Entity: S Ltd	Hardware	Support	Cash	Account Receivable	Fixed Assets	Long Term Assets	Account Payable	Minority Interest	Common Stock	Investment in Sub	Retained Earnings Current	Retained Earnings Prior	Goodwill	Total Assets
Original Balance			270.00	150.00	200.00	200.00	170.00			100.00		200.00	50.00	620.00
Owners Equity (Subsidiary / Proportional)_Reverse Proportionalize										100.00			-50.00	
Owners Equity (Subsidiary / Proportional)_Goodwill Offset							-100.00						-100.00	-100.00
Owners Equity (Subsidiary / Proportional)_Minority Interest								45.00						
Net Income (Subsidiary) - MI Net Income								40.00				-40.00		
Sub-Total	0.00	0.00	270.00	150.00	200.00	90.00	170.00	105.00	0.00	0.00	140.00	0.00	-100.00	520.00
Grand Total	-632.00	632.00	310.00	270.00	600.00	990.00	570.00	105.00	500.00	0.00	140.00	160.00	395.00	1580.00

Entity: SubGrp	Hardware	Support	Cash	Account Receivable	Fixed Assets	Long Term Assets	Account Payable	Minority Interest	Common Stock	Investment in Sub	Retained Earnings Current	Retained Earnings Prior	Goodwill	Total Assets
Consolidated Results	-632.00	632.00	310.00	270.00	600.00	990.00	570.00	105.00	500.00	0.00	140.00	160.00	395.00	1580.00
Variance	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

## 連結の例

次も参照:

- 例 1: フォームからのデータの再連結
- 例 2: データ・ステータス・グリッドからのデータの連結
- 例 3: 複数期間のデータの連結

## 例 1: フォームからのデータの再連結

この例では、データは基本エンティティにロードまたは入力され、親エンティティも連結されます。ただし、その後、基本エンティティのデータに変更があり、親エンティティが「影響」ステータスになります。最初にステータス・グリッドを確認し、連結で影響を受ける親エンティティを選択した後に、連結がフォームから起動されます。連結後、ステータスは「OK」に変化します。

- 中間の親エンティティでの再連結は、上位レベルの親エンティティにのみ影響します。
- 最上位レベルの親エンティティを再連結すると、下位の親エンティティがすべて連結されます。

## 例 2: データ・ステータス・グリッドからのデータの連結

データ・ステータス・グリッドでは、すべてのエンティティが行に、期間が列に表示されます。これには、各期間の列に計算ステータス、承認ステータスおよびロック・ステータスが表示されます。連結は、グリッドから最上位の親または中間の親に対して起動されます。

## 例 3: 複数期間のデータの連結

データ・ステータス・グリッドでは、連結は次の期間に対して起動されます。

- 最初の期間の連結(1月)
- 最後の期間の連結(12月)
- 中間の期間の連結(4月)
- 1月から2月までの計算ステータスは「OK」だが、3月が影響を受ける場合の4月の連結。

## 拡張連結の概要

法定レポートには、連結財務諸表が表示される必要があります。連結財務諸表とは、親(会社)およびその子会社の資産、負債、資本、収益、費用およびキャッシュ・フローが単一の経済的エンティティのものとして表示されるグループの財務諸表です(IAS 第 27 号、IFRS 第 10 号)。したがって、連結結果は、レポート会社(法的エンティティ)とこの会社が直接的または間接的に所有する会社(そのすべてが法的な会社)の結果の集約となります。連結結果は他の持株会社の以前の連結結果を集約したものではない点が重要です。

**Financial Consolidation and Close** は、エンティティ、連結および通貨の各ディメンションを組み合わせることに由来する連結プロセスを提供します。エンティティ・ディメンション内の組織の構造は、マルチレベル階層で表すことができます。その場合、法的エンティティの直属の親ではない親メンバーでの連結結果によって、そのメンバーが法的エンティティの直属の親である場合と同じ結果が生成される必要があります。

データは、エンティティ入力連結ディメンションのエンティティに、エンティティ通貨で導入されます。エンティティ入力はエンティティ合計の子であり、2つの兄弟(エンティティ連結および消去調整)がありますが、これらの兄弟は親エンティティ・レベルでのみ有効です。

1つ以上の親があるすべてのエンティティの複数通貨アプリケーションでは、エンティティ合計の各子のデータが親通貨に換算されます。親エンティティの通貨がエンティティの通貨と同じ場合は、為替レート 1 が適用されます。それ以外の場合は、勘定科目のタイム・バラン

ス・プロパティがフローまたは残高のいずれであるかに応じて、それぞれ平均為替レートまたは期末為替レートが適用されます。換算済データは、エンティティ 合計の各基本メンバーの親通貨メンバーに転記されます。

エンティティ 合計/親通貨集約データによって、連結のソース・データが親エンティティへのコントリビューションに提供されます。すべてのデータが、比例連結ディメンション・メンバーに比例します。各データ値に係数(乗数)が適用されます。適用される係数は、エンティティ/親の組合せに対して定義されている「連結%」です。期首残高増減ディメンション・メンバーを除く、エンティティ 合計/親通貨のすべてのデータが比例します。期首残高は、常に、エンティティ/連結/通貨ディメンションの各レベルの前のレポート期間の期末残高から繰り越されます。期末残高の取得元となる前の期間は、レポート・ビューに依存します。そのため、たとえば、期間ビューの場合は期首残高が前の期間/月の期末残高から取得され、四半期ビューの場合は期首残高が前の四半期の期末残高から取得されます。

比例以外に、連結ロジックによって一部のエンティティ 合計/親通貨データが必要に応じて消去または調整されます。消去エントリまたは調整エントリの作成に必要なデータが適切な係数で乗算され、消去連結ディメンション・メンバーに転記されます。通常、エンティティ 合計/親通貨ソース入力から複数の消去エントリおよび調整エントリが作成され、貸借一致したエントリのセットにグループ化されて、連結仕訳エントリを構成します。

その後、比例データおよび消去データがコントリビューション・メンバーに集約されます。追加データは、コントリビューション入力メンバーに入力でき、コントリビューションとともに最上位の連結ディメンション・メンバーであるコントリビューション合計に集約されます。その後、各エンティティ/親の組合せのコントリビューション合計が、兄弟エンティティのコントリビューション合計とともに親エンティティのエンティティ 連結/エンティティ 合計に集約されます。

## 連結ロジック

資本合計/親通貨連結ディメンション・メンバーからのデータは、比率メンバーに比例します。適用される係数は、常に、エンティティ/親の組合せに対して定義されている「連結%」です。

消去または調整されたデータは、「連結%」が適用されているか、「出資比率%」や「少数株主持分%」(非支配持分)を使用する可能性があります。「出資比率%」の変化、エンティティの「連結%」と会社間パートナーの「連結%」の低い方など、その他の比率が適用される場合もあります。

適用される係数は、各シナリオ、年および期間について、エンティティ/親の組合せそれぞれの出資比率の管理に基づきます。出資比率の管理は、別の法的エンティティのすべてまたは一部を直接所有する法的エンティティ(所有会社)の出資比率を記録します。

### 出資比率の管理

出資比率の管理は、グローバル連結設定とこれらの連結設定のアプリケーションを、各エンティティ 階層に対してシナリオ別、年別および期間別基準で管理することから構成されます。詳細は、[出資比率の管理](#)を参照してください。



## 連結メソッドの管理

拡張連結および消去を提供するには、エンティティ・ディメンションのエンティティごとに、その親と関連して様々なパラメータを確立する必要があります。複数の連結メソッドが、連結および消去ルールの実行を容易にするように確立され、それぞれに次のようなプリセットまたは構成パラメータが指定されます。

- 出資比率%
- 連結%
- 少数株主(非支配)持分%

メソッドのその他の設定の決定に役立つ「コントロール」設定も使用できます。

連結メソッドは、連結、調整および消去ルールの実行中に連結親エンティティおよびその階層的な子孫に適用されます。

Financial Consolidation and Close Cloud には、複数のシステム・メソッドが用意されています。

- 持株
- 子会社
- 比例
- 資本
- 非連結
- 非アクティブ
- 非継続

### 持株メソッド

**持株メソッド**は、その直属の親が法的エンティティの連結結果を表す法的エンティティに適用されます。持株メソッドは、常に、100%の「出資比率%」と100%の「連結%」を適用します。「コントロール」は「はい」です。

各親エンティティに指定できる持株メソッド・エンティティは1つのみです。法的エンティティの1つのインスタンスには持株メソッドを1つのみ設定でき、それは法的エンティティが異なる階層にわたって複数回共有される場合も同じです。共有される法的エンティティに対して複数の持株メソッドを設定すると、最上位からの連結中にデータ重複の問題が発生することがあります。

### 「子会社」メソッド

**「子会社」メソッド**は、持株会社が所有し、管理する法的エンティティに適用されます。「子会社」の「出資比率%」の範囲は、通常、50%から100%です。「コントロール」が「はい」であるため、「連結%」は100%になります。少数株主(非支配)持分は、100%から「出資比率%」を減算した値になります。

### 「比例」メソッド

**「比例」メソッド**は、持株会社が所有するが、管理はせず、比例連結が必要な法的エンティティに適用されます。これは通常、合併事業に適用されます。「コントロール」が「いいえ」であるため、「連結%」は「出資比率%」と等しくなります。

### 「資本」メソッド

「資本」メソッドは、持株会社が所有し、重大な影響を与えるが、管理はしない法的エンティティに適用されます。「資本」会社の「出資比率%」の範囲は、通常、20%から50%です。「コントロール」が「いいえ」であるため、「連結%」は0%になります。少数株主(非支配)持分も0%になります。

### 非連結メソッド

非連結メソッドは、持株会社が所有するが、管理したり、重大な影響を与えない法的エンティティに適用されます。非連結会社の「出資比率%」の範囲は、通常、0%から20%です。「コントロール」が「いいえ」であるため、「連結%」は0%になります。少数株主(非支配)持分も0%になります。

### 「非アクティブ」メソッド

「非アクティブ」メソッドは予約されています。

### 非継続メソッド

非継続メソッドは、非継続操作のシステム連結ルールが作成された場合に将来使用できるように予約されています。

### 出資比率の範囲

各メソッドには、各シナリオ、年および期間について入力された「出資比率%」に基づくエンティティの親/子の組合せのメソッドの移入に使用される「出資比率%」の範囲を割り当てることができます。該当するメソッド間の範囲は、0%から100%の連続範囲である必要があります。範囲が割り当てられていないメソッドは、システムによってエンティティの親/子の組合せに適用されませんが、範囲に基づいた、システムによって割り当てられたエントリを上書きして、必要に応じて選択できます。

0%から100%の範囲を構成するシステム・メソッドは、次のとおりです。

- 非連結  $\geq 0\%$ から $\leq 20\%$
- 資本  $> 20\%$ から $\leq 50\%$
- 子会社  $> 50\%$ から $\leq 100\%$

その他すべてのシステム・メソッドには、範囲が割り当てられていません。

## 連結メソッドの変更

サービス管理者は、システム・メソッドの設定の一部を変更し、新しいメソッドを追加できます。

**ノート:** 構成可能な連結ルールで連結メソッドが参照されている場合、その連結メソッドは削除できません。「出資比率の管理」の「連結メソッドの管理」でユーザー定義の連結メソッドを削除したり、「構成可能な連結」で定義されたメソッドなしでファイルをインポートして、ユーザー定義の連結メソッドを削除しようとする、参照整合性エラーが発生します。

「連結メソッドの管理」画面を開くには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「連結」の順にクリックします。  
「出資比率の管理」ページがデフォルトで開きます。



2. 「出資比率の管理」ページの「アクション」メニューから、「連結メソッドの管理」を選択します。

### システム・メソッド範囲の変更

0%から 100%の範囲を構成するメソッドが、「連結メソッドの管理」画面の上部に範囲の昇順で表示されます(**子会社**(>50%から<=100%)、**資本**(>20%から<= 50%)、**非連結**(>0%から<=20%))。

範囲の上限または下限の設定を増加または削減して、範囲を変更できます。たとえば、「資本」の範囲の下限を>20%から>25%に変更する場合は、下限パーセンテージ・フィールドの横にある増分(上矢印)ボタンを 25%になるまでクリックします。「資本」メソッドの下限が増加されると、0%から 100%の連続範囲を維持するため、下にある**非連結**メソッドも 25%に変更されます。

### システム連結メソッドからの範囲の削除

範囲が割り当てられているメソッドから範囲を削除するには、「アクション」 (...)をクリックして、「**範囲の削除**」を選択します。

範囲が削除され、メソッドが範囲に基づいたメソッドの下に再配置されます。範囲が削除されたメソッドの下に配置されていたメソッドの上限が、0%から 100%の連続範囲を維持するために調整されます。

### システム連結メソッドへの範囲の追加

範囲が割り当てられていないメソッドに範囲を追加するには:

1. 関連メソッド行の「アクション」 (...)をクリックして、「**範囲の追加**」を選択します。メソッドに=0 から=0 の範囲が追加され、メソッド行が範囲に基づいたメソッドの最下部に再配置されます。  
範囲(>=0)が割り当てられている最下位メソッドと重複しているため、この時点で設定を保存することはできません。
2. メソッド行をドラッグし、新しく範囲が割り当てられたメソッドを挿入する必要がある行の上のメソッド行にドロップします。  
たとえば、「比例」行をドラッグし、「資本」行にドロップします。
3. 必要に応じて、新しく配置したメソッドの上限と下限のエントリを調整します。  
たとえば、上限と下限の両方のエントリを 0%から 50%に変更します。その後、下のメソッドの上限の演算子を<=から<に変更します。範囲が 0 から 100 まで連続している場合にのみ、変更を保存できます。

#### ノート:

システム・メソッドの設定にその他の変更を加えることはできません。「**コントロール**」および「**連結%**」の設定は定義済であり、変更できません。

事前設定済の設定が適切ではない場合は、新しいメソッドを作成して範囲に基づいたメソッドに追加し、システム・メソッドから範囲を削除します。

## 連結メソッドの追加

サービス管理者は、新しい連結メソッドを追加できます。

新しい連結メソッドを追加するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「連結」の順にクリックします。
2. 「出資比率の管理」をクリックします。
3. 「アクション」メニューから、「連結メソッドの管理」を選択します。
4. 新しいメソッドを挿入する位置の上または下のメソッド行で「アクション」の省略記号(...)をクリックします。
5. 「下に新規メソッドを追加」または「上に新規メソッドを追加」を選択します。

範囲に基づいた行内または最後の範囲に基づいた行の直下に新しい行を追加した場合は、範囲に基づいた新しいメソッドが追加されます。

その他の位置に新しい行を挿入した場合は、新しいメソッドに範囲が割り当てられません。

6. 必須: メソッドの名前を入力します。
7. 「コントロール」設定のデフォルトは「はい」で、「連結%」のデフォルトは 100% です。この設定は、必要に応じて変更できます。

「コントロール」を「いいえ」に変更すると、「連結%」が 0%に変更されますが、これは修正可能です。

「コントロール」を「はい」に戻すと、「連結%」が 100%に変更されますが、これは修正可能です。

8. 新しいメソッドに「出資比率%の範囲」が表示される場合は、上限と下限の演算子および出資比率%を選択します。上のメソッドの下限および下のメソッドの上限の設定は、0 から 100 の連続範囲を維持するために必要に応じて変更されます。
9. 新しいメソッドに「出資比率%の範囲」が表示され、範囲の入力が必要な場合は、「アクション」(...)をクリックして、「範囲の削除」を選択します。
10. 新しいメソッドに範囲のスライダ・バーが表示されず、範囲の入力が必要な場合は、該当のメソッド行の「アクション」をクリックして、「範囲の追加」を選択します。「システム・メソッドへの範囲の追加」で説明されているステップに従います。
11. 「保存」をクリックして変更を保存します。

「保存」をクリックすると、設定が検証されます。変更が保存され、画面を閉じる前に、すべてのエラーを修正する必要があります。

### ノート:

複数のメソッドを変更してから保存するのではなく、単一のメソッドの変更を完了してから変更を保存することをお勧めします。

12. 連結メソッドの範囲設定を変更した後に、POV に固有の出資比率データを再計算する必要があります。このデータを再計算しない場合、「出資比率の管理」画面の上部に警告メッセージが表示されます。

出資比率データの再計算を参照してください。

## 連結メソッドのインポートおよびエクスポート

連結メソッドの詳細をインポートおよびエクスポートできます。

次の列を含むカンマ区切りファイルから連結メソッド・データをインポートできます。

- Method Name (必須)。
- Lower Limit Operator (必須)。EQ (=)、LT (<)、LE (<=)、GT (>)、GE (>=)、RangeOn が **false** の場合は EQ
- Lower Limit (必須)。0 から 100。RangeOn が **false** の場合は 0。
- Upper Limit Operator (必須)。Lower Limit Operator (必須)。EQ (=)、LT (<)、LE (<=)、GT (>)、GE (>=)、RangeOn が **false** の場合は EQ
- Upper Limit (必須)。0 から 100。RangeOn が **false** の場合は 0。
- Control (必須)。YES または NO。
- Percent Consolidation (必須)。0 から 100 または POwn (出資比率)。
- RangeOn (必須)。true または false。

次に、連結メソッド・ファイルの内容の例を示します。

Method Name, Lower Limit Operator, Lower Limit, Upper Limit Operator, Upper Limit, Control, Percentage Consolidation, RangeOn

SUBSIDIARY, GT, 70, LE, 100, YES, 100, true

NewMethod, GT, 50, LE, 70, YES, 100, true

PROPORTIONAL, EQ, 50, EQ, 50, NO, POwn, true

EQUITY, GT, 20, LT, 50, NO, 0, true

EQUITY, GT, 20, LT, 50, NO, 0, true

NOT\_CONSOLIDATED, GT, 0, LE, 20, NO, 0, true

IN\_ACTIVE, EQ, 0, EQ, 0, NO, 0, true

HOLDING, EQ, 0, EQ, 0, YES, 100, false

DISCONTINUED, EQ, 0, EQ, 0, NO, 0, false

連結メソッドをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**連結**」の順にクリックします。
2. 「**出資比率の管理**」をクリックします。
3. 「**アクション**」メニューから、「**連結メソッドの管理**」を選択します。
4. 「**エクスポート**」をクリックし、宛先を選択します。

連結メソッド・データをロードするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**連結**」の順にクリックします。
2. 「**出資比率の管理**」をクリックします。
3. 「**アクション**」メニューから、「**連結メソッドの管理**」を選択します。
4. 「**インポート**」をクリックします。

連結メソッド・データがインポートされると、画面エントリと同じ条件が適用されていることを確認するためにデータが検証されます。検証が失敗すると、エラー・メッセージが表示されます。インポート・プロセスが失敗した場合は、ソース・ファイルを修正して再インポートします。

## 出資比率データの再計算

次のいずれかの状況が発生した場合、出資比率データの再計算を求めるプロンプトが表示されることがあります:

- メタデータの変更
- 連結メソッドの構成の変更
- 移行のインポート・ファイル内の変更

異なる親メンバーの下にエンティティを移動した場合など(階層の変更)、エンティティ構造を変更した場合は、すべての期間のステータスがシステム影響になり、出資比率データを再計算する必要があるという警告メッセージが「出資比率の管理」画面の上部に表示されます。

出資比率の変更後にデータを再計算しない場合、連結プロセスを実行すると、次のようなエラー・メッセージが表示されます:

出資比率データが前年の最後の期間に変更されました。前年の最後の期間から出資比率データをコピーしてください - 実績、FY22、12月。

ロック解除された期間のデータを連結するには、その特定の期間から「出資比率データの再計算」を実行する必要があります。連結プロセスによって、前の期間について出資比率データが強制的に再計算されることはありません。

例:

FY22 のすべての期間がロックされています。

FY23 の 1 月と 2 月がロックされています。

この場合、FY23 の 3 月から出資比率データを再計算する必要があり、その前の期間である FY23 の 2 月をロック解除する必要はありません。

連結メソッドの範囲設定を変更した場合は、POV に固有の出資比率データも再計算する必要があります。このデータを再計算しない場合、「出資比率の管理」画面の上部に警告メッセージが表示されます。

出資比率データを再計算するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「連結」、「出資比率の管理」の順にクリックします。
2. 「アクション」、「出資比率データの再計算」の順に選択します。
3. 再計算するシナリオ、年および期間を選択します。

再計算は選択した期間およびすべての後続期間に適用されることに注意してください。

また、POV を再計算する必要がある場合は、出資比率データが再計算されるまで POV が完了しないことにも注意してください。

4. 「再計算」をクリックします。
5. 再計算の成功メッセージで、「OK」をクリックします。

#### ノート:

出資比率データを再計算するときに、プロセスが 60 秒を超える場合、プロセスの残りの部分がバックグラウンドで続行され、必要に応じて他の画面に移動できます。プロセスの進行状況を確認するには、「ジョブ」コンソールを開きます。

## 出資比率の管理

出資比率の管理は、グローバル連結設定とこれらの連結設定のアプリケーションを、各エンティティ階層に対してシナリオ別、年別および期間別基準で管理することから構成されます。

出資比率設定は、「シナリオ」、「年」および「期間」の組合せごとに、各親子エンティティの組合せに対して適用されます。

「出資比率の管理」画面には、承認ユニットのステータスに基づいてエンティティの「ロック済」/「ロック解除済」ステータスを表示する列も含まれています。承認プロセスでは、共有エンティティのすべてのインスタンスについて承認ユニットは 1 つです。そのため、1 つのインスタンスのデータが承認で「ロック済」になると、すべてのインスタンスが「ロック済」になります。同じロック・ロジックが出資比率の管理にも適用されます。データが承認ユニット POV についてロックされると、出資比率の管理の設定も同じ承認ユニット POV についてロックされます。

一致する承認ユニットが「ロック済」であるか、または一致する承認ユニットの親が「ロック済」である場合、出資比率設定データは「ロック済」になります。これらの状況では、データと出資比率データ/設定のどちらも入力したり、変更することはできません。

一致する承認ユニットが「ロック済」でなく（「ロック済」以外のステータス）、かつ一致する承認ユニットの親が「ロック済」でない場合、出資比率設定/データは「ロック解除済」になります。これらの状況では、データと出資比率データ/設定の両方を入力したり、変更できません。

承認ユニットがすでに「ロック済」であるエンティティ・データに影響を及ぼす変更を加えることができないように、出資比率の管理に対する変更は「ロック解除済」エンティティに

ついでのみ許可されます。「ロック済」(<parent / entity>)のエンティティについては、出資比率設定をインポートできません。

この機能を無効にする場合は、LinkOwnershipandDataLocking という名前の代替変数を追加し、False に設定します。False に設定すると、ロックおよびロック解除の要件が適用されなくなります。

「出資比率の管理」にアクセスするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「連結」の順にクリックします。
2. 「出資比率の管理」をクリックします。
3. 階層を表示する親エンティティ・メンバーを選択します。
4. 「シナリオ」、「年」および「期間」を選択します。
5. 「更新」矢印ボタン(➡)をクリックして、選択した POV に画面を更新します。必要に応じて、階層を展開または縮小できます。
6. 親/子ボタンをクリックして、階層全体を表示します。
7. 「親/法的エンティティ」ボタンをクリックして、各親の最終出資比率設定をその子孫の法的エンティティとともに表示します(現在、すべての基本エンティティは法的エンティティとみなされることに注意してください)。
8. 出資比率の管理に変更を加える前に、エンティティの「ロック済/ロック解除済」列を確認します。「ロック解除済」エンティティについてのみ変更が許可されます。

### 親/子ビュー

当初、すべてのメンバーは次の設定を継承します。

- 出資比率%: 100
- コントロール: はい
- 連結メソッド: 子会社
- 連結%: 100
- 少数株主持分%: 0

唯一の例外は、あらゆる共有エンティティです(エンティティが単一階層内に複数回存在する場合など)。最初のインスタンスは前述の設定を継承しますが、各後続インスタンスは次の設定を継承します。

- 出資比率%: 0
- コントロール: いいえ
- 連結メソッド: 非連結
- 連結%: 0
- 少数株主持分%: 0

## 「出資比率の管理」設定の変更

- 出資比率%

必要に応じて、任意の親子エンティティの対について「**出資比率%**」エントリを変更できます。

パーセンテージのエントリを変更してフィールドを終了すると、「**コントロール**」、「**連結メソッド**」、「**連結%**」および「**少数株主持分%**」は、入力された「**出資比率%**」が含まれる範囲に割り当てられたメソッドに対するエントリに更新されます。

- **コントロール**

「**コントロール**」エントリは、入力された「**出資比率%**」とメソッド範囲に基づいて、システムによって割り当てられます。必要に応じて、システムによって割り当てられた「**コントロール**」エントリを変更できます。

「**コントロール**」エントリを変更するには、必要なエントリをドロップダウン・リストから選択します。

「**コントロール**」エントリがシステムによって割り当てられたエントリから変更された場合、フィールドの色は黄色の背景に変わります。

上書きエントリを削除してシステムによって割り当てられたエントリに戻すには、「**アクション**」 (...) から「**オーバーライドのクリア**」を選択します。

- **連結メソッド**

「**連結メソッド**」エントリは、入力された「**出資比率%**」とメソッド範囲に基づいて、システムによって割り当てられます。必要に応じて、システムによって割り当てられた「**連結メソッド**」エントリを変更できます。

「**連結メソッド**」エントリを変更するには、必要なエントリをドロップダウン・リストから選択します。ドロップダウン・リストに表示されるメソッドは、「**出資比率%**」および「**コントロール**」設定によって異なります。持株のメソッドは、100%出資比率および「**コントロール**」が「はい」の場合にのみ使用できます。その他のメソッドは、それぞれの出資比率メソッドおよび「**コントロール**」の設定に基づいて選択できます。「**コントロール**」が「はい」の場合は、「**コントロール**」設定が「はい」になっているメソッドのみが表示されます。ドロップダウン・リストで使用可能なメソッドを変更するには、最初に「**コントロール**」の選択を変更します。

「**連結メソッド**」エントリがシステムによって割り当てられたエントリから変更された場合、フィールドの色は黄色の背景に変わります。

上書きエントリを削除してシステムによって割り当てられたエントリに戻すには、「**アクション**」 (...) から「**クリア**」を選択します。

「**コントロール**」と選択される「**連結メソッド**」の組合せは、メソッド設定と一致している必要があることに注意してください。「**コントロール**」が「はい」の場合、選択される「**連結メソッド**」は、「**コントロール**」が「はい」と定義されているいずれかのメソッドである必要があります。

- **連結%**

「**連結%**」は、メソッド設定に基づいて表示されます。

このエントリを変更することはできません。

- **少数株主持分%**

「**少数株主持分%**」は、メソッド設定に基づいて表示されます。

このエントリを変更することはできません。

- 「**出資比率%**」に対する後続の変更



システムによって割り当てられた「コントロール」または「連結メソッド」(あるいはその両方)のエントリを変更し、変更された**出資比率%**を入力する場合、ユーザーによって選択されたすべてのエントリは保持されます。

「コントロール」または「連結メソッド」(あるいはその両方)を、新しい「**出資比率%**」に基づいて更新する必要がある場合、上書きエントリをクリアするか、または新しい上書きエントリを選択する必要があります。

#### 「親/法的エンティティ」ビュー

親/子ビューで必要な変更を行った後、「親/法的エンティティ」ボタンをクリックして、最終出資比率設定を表示および変更します。

POV で選択された階層内の各親が、その親の各法的エンティティ子孫のフラット・リストとともにリストされます。必要に応じて、階層を展開または縮小できます。

- **出資比率%**

表示される「**出資比率%**」は、現在の親から各法的エンティティまで、個々の一連の親/子エントリに基づいて計算されたパーセンテージです。たとえば、P1.P2 の**出資比率%**が 80%で、P2.LE1 が 50%である場合、P1.LE1 の計算される累積**出資比率%**は 40% (80% \* 50%)です。

このエントリを変更することはできません。

- **コントロール**

「コントロール」エントリは、入力された「**出資比率%**」とメソッド範囲に基づいて、システムによって割り当てられます。必要に応じて、システムによって割り当てられた「コントロール」エントリを変更できます。このフィールドの動作は、親/子ビューでの場合と同じです。

- **連結メソッド**

「連結メソッド」エントリは、入力された「**出資比率%**」とメソッド範囲に基づいて、システムによって割り当てられます。必要に応じて、システムによって割り当てられた「連結メソッド」エントリを変更できます。このフィールドの動作は、親/子ビューでの場合と同じです。

- **連結%**

「連結%」は、メソッド設定に基づいて表示されます。

このエントリを変更することはできません。

- **少数株主持分%**

「少数株主持分%」は、メソッド設定に基づいて表示されます。

このエントリを変更することはできません。

## 出資比率データのインポートおよびエクスポート

出資比率データをインポートおよびエクスポートできます。

#### 出資比率データのインポート

インポートする出資比率ファイルは、次の列を含むカンマ区切りファイルである必要があります。

- シナリオ(必須)



- 年(必須)
- 期間(必須)
- エンティティ(必須)
- 親(必須)
- POwn (オプション)。「出資比率」のデフォルトは **100** です。ただし、同じ階層内の重複(共有)メンバーは例外で、この場合のデフォルトは **0** です。
- コントロール(オプション)。「コントロール」のデフォルトは、「出資比率%」が **50** を超える場合には「はい」、それ以外の場合には「いいえ」です。
- メソッド(オプション)。「メソッド」のデフォルトは「子会社」です。ただし、同じ階層内の重複(共有)メンバーは例外で、この場合のデフォルトは**非連結**です。

次に、出資比率ファイルのコンテンツの例を示します。

```
Scenario, Year, Period, Entity, Parent, POwn, Control, Method
```

```
Consol, FY18, Feb, [CE-0012-USD] . [LE-0014-CAD], [CE-0011-EUR] . [CE-0012-USD], 80,,
```

```
Consol, FY18, Feb, [CE-0012-USD] . [LE-0016-BRL], [CE-0011-EUR] . [CE-0012-USD], 50,, PROPORTIONAL
```

```
Consol, FY18, Feb, [CE-0012-USD] . [LE-0017-GBP], [CE-0011-EUR] . [CE-0012-USD], 30,,
```

```
Consol, FY18, Feb, [CE-0012-USD] . [LE-0018-EUR], [CE-0011-EUR] . [CE-0012-USD], 10,,
```

```
Consol, FY18, Jan, [CE-0013-GBP] . [LE-0014-CAD], [CE-0011-EUR] . [CE-0013-GBP], 10,,
```

```
Consol, FY18, Jan, [CE-0013-GBP] . [LE-0016-BRL], [CE-0011-EUR] . [CE-0013-GBP], 10,,
```

```
Consol, FY18, Feb, [CE-0012-USD] . [LE-0016-BRL], [Entity] . [FCCS_Total  
Geography], , NO, PROPORTIONAL
```

出資比率% (POwn)は、すべての親/子の行に対する必須エントリですが、法的会社が直属の子ではない場合には、親/法的会社の行には入力しないでください。

出資比率データをインポートするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「連結」の順にクリックします。
2. 「出資比率の管理」をクリックします。
3. データをインポートする「シナリオ」、「年」および「期間」を選択します。  
インポート・ファイル内の「シナリオ」、「年」および「期間」は、表示される POV と一致する必要があります。
4. 「アクション」メニューから、「出資比率データのインポート」を選択します。

5. 「参照」をクリックして、インポート・ファイルを選択します。
6. 「インポート」をクリックします。
7. 出資比率設定を入力またはインポートする場合、関連フィールド間の依存関係が検証されます。
  - 「メソッド」と「コントロール」の組合せは、グローバル設定と一致している必要があります。
  - 選択された「メソッド」が持株である場合、「出資比率%」は 100 です。

#### ノート:

出資比率データのインポート時に、プロセスが 60 秒より長くなると、バックグラウンドでプロセスのリマインダが実行されるため、ユーザーは必要に応じて他の画面に移動できます。プロセスの進行状況を確認するには、「ジョブ」コンソールを開きます。

出資比率データのインポート時に、出資比率データがすべての既存データとマージされます。そのため、無効な最終出資比率エントリが作成される場合があります。エンティティが階層の複数のブランチに存在する場合、結合出資比率が 100%を超えていると、画面上に入力されたデータを保存できません。ファイルからロードされる場合は出資比率データが拒否されないため、エンティティの結合出資比率%が 100%を超える可能性があります。この場合、不一致が発生した期間の「出資比率の管理」画面の最上部にエラー・メッセージが表示されます。

特定の親/法人的会社の組合せの出資比率データが無効です。「親/法人的会社」ビューで無効な出資比率%を識別し、「親/子」ビューで修正してください。

後続の期間には、類似したメッセージが表示されます。

前の期間の特定の親/法人的会社の組合せの出資比率データが無効です。期間を識別し、データを修正してください。

データが正しくない期間に移動して、親/法人的エンティティ・ビューを選択します。親/法人的エンティティ 出資比率%のエントリを確認します。エラーは赤いテキストで強調表示されます。エラーのある(1つ以上の)エンティティについては、親/子ビューに戻り、必要な親/子出資比率%を修正して結合出資比率が 100%を超えないようにしてください。

### 出資比率データのエクスポート

出資比率データをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「連結」の順をクリックします。
2. 「出資比率の管理」をクリックします。
3. データをエクスポートする「シナリオ」、「年」および「期間」を選択します。
4. 「アクション」メニューから、「出資比率データのエクスポート」を選択します。
5. .csv ファイルの保存場所を選択します。

システムによってデフォルト・データとして移入された出資比率データは、エクスポート・ファイルには含まれないことに注意してください。エクスポート・ファイルには、デフォルト設定を上書きするためにユーザーが入力したデータのみが含まれます。

## 前年比出資比率設定

出資比率の初期デフォルト設定と上書き設定は、同一年度内の期間には自動的に繰り越されますが、後続の年度には繰り越されません。出資比率データをコピーすることで、ある年度の最後の期間から翌年の最初の期間に最新の設定を繰越しできます。

このオプションは、各年度の最後の期間でのみ使用できることに注意してください。

翌年度に出資比率データをコピーするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**連結**」の順にクリックします。
2. 「**出資比率の管理**」をクリックします。
3. POV で現在の年度の最後の期間を選択します。
4. 「**アクション**」メニューから、「**出資比率データを次の年にコピー**」を選択します。

出資比率設定が後続の各年度の最初の期間にコピーされていない場合は、後続の年度にエンティティ構造が表示されず、次のような情報メッセージが表示されます。

現在の年には出資比率データがありません。前年の最後の期間で、「次の年に出資比率データをコピー」アクションを試行してください。

出資比率データのコピー時に、プロセスが 60 秒より長くなると、バックグラウンドでプロセスのリマインダが実行されるため、必要な場合は他の画面に移動できます。プロセスの進行状況を確認するには、「**ジョブ**」コンソールを開きます。

## フォームおよび構成可能な計算ルールでの出資比率設定

出資比率設定の入力または更新は、「出資比率の管理」画面でのみ行う必要があります。これらの設定は直接入力またはルール経由では更新しないでください。ただし、これらの設定はデータ・フォームで表示でき、構成可能な計算(Calculation Manager の挿入位置)ルールで参照できます。

### データ・フォームでの出資比率設定

設定の取得に使用する POV は、次のとおりです。

次を選択します:

- シナリオ
- 年
- 期間
- エンティティ
- 勘定科目(FCCS\_Drivers の子孫)
  - FCCS\_Consol Method (現在の期間の連結メソッド)
  - FCCS\_Consol Method Prior (前期間の連結メソッド)

- FCCS\_Percent Consol (現在の期間の連結%)
- FCCS\_Percent Consol Prior (前期間の連結%)
- FCCS\_Percent Consol Change (前期間から現在の期間までの連結%の変化)
- FCCS\_Percent Ownership (現在の期間の出資比率%)
- FCCS\_Percent Ownership Prior (前期間の出資比率%)
- FCCS\_Percent Ownership Change (前期間から現在の期間までの出資比率%の変化)
- FCCS\_Percent Min (現在の期間の少数株主持分%)
- FCCS\_Percent Min Prior (前期間の少数株主持分%)
- FCCS\_Percent Min Change (前期間から現在の期間までの少数株主持分%の変化)
- データ・ソース(FCCS\_Source Entities の子孫)
  - S\_Parent Source (直接出資比率設定のプライマリ・エンティティ 階層内の親エンティティ)
  - S\_<エンティティ名> (直接出資比率設定の非プライマリ・エンティティ 階層内の親エンティティ、および最終出資比率設定の祖先)

固定:

- 連結: FCCS\_Entity Input
- 通貨: No Currency
- 会社間: FCCS\_No Intercompany
- 増減: FCCS\_No Movement
- 複数 GAAP: FCCS\_No Multi-GAAP (該当する場合)
- 表示: FCCS\_Periodic
- カスタム: No <カスタム名>

### 構成可能な計算ルールでの出資比率設定

次のように出資比率設定が表示されます。

- プライマリ階層の直属の親  
"FCCS\_Consol Method" > "S\_Parent Source" > "FCCS\_Entity Input" > "No Currency" > "FCCS\_Periodic" > "FCCS\_No Movement" > "FCCS\_No Multi-GAAP" > "FCCS\_No Intercompany" > "No Product"
- 非プライマリ階層の直属の親、および任意の祖先:  
"FCCS\_Consol Method" > "S\_<祖先エンティティ名>" > "FCCS\_Entity Input" > "No Currency" > "FCCS\_Periodic" > "FCCS\_No Movement" > "FCCS\_No Multi-GAAP" > "FCCS\_No Intercompany" > "No Product"

### 連結メソッドの値とスマート・リスト

連結メソッドは、スマート・リスト・エントリとして保存されます。新しい連結メソッドを追加すると、そのメソッド名が ConsolidationMethod スマート・リストに追加されます。ConsolidationMethod のスマート・リストの「エントリ」タブで、各連結メソ

ッドに関連付けられているインデックス値を表示できます。ConsolidationMethod スマート・リストは、出資比率の管理が有効な場合にのみ使用できます。

Smart List

Edit Smart Lists : ConsolidationMethod

Properties Entries Preview

Actions View + X Detach

ID	* Name	* Label
0	Subsidiary	Subsidiary
1	Equity	Equity
2	NotConsolidated	NotConsolidated
3	Holding	Holding
4	Proportional	Proportional
5	Discontinued	Discontinued
6	Inactive	Inactive
7	NewMethod	NewMethod

## 拡張連結ルール








Financial Consolidation and Close により、すべてのソース・データが比例し、**比例**連結ディメンション・メンバーが移入されます。ソース・データは、親/子の組合せに定義された「**連結%**」に比例します。

構成可能な連結ルールを使用して追加のエントリが生成され、**消去**連結ディメンション・メンバーが移入されます。**比例**メンバーおよび**消去**メンバーが**コントリビューション**・メンバーに集約されます。ソース・データは、比例するデータセットと同じデータセットを構成します。[構成可能な連結ルールについて](#)を参照してください。

オプションの構成可能な連結ルール以外に常に実行されるシステム連結ルールは 2 つあります。システム連結ルールをユーザーが変更できない間、構成可能な連結ルールを作成、変更、アクティブ化(デプロイ)および非アクティブ化(デプロイ解除)できます。複数のシード済の構成可能な連結ルールが用意されています。

## Consolidation: Process

Review and enter any required updates to the system processes, configurable calculations, configurable translations and config

 <b>Local Currency</b> Processing of all un-translated (Entity Currency) entity level data.	 <b>Translated</b> Processing of all translated (Parent Currency) entity level data.	
 <b>Proportionalization</b> All data is posted to the "Proportion" Consolidation dimension member at the Consolidation percent.		
 <b>Standard Eliminations</b> Intercompany data is eliminated / reclassified in the "Elimination" Consolidation dimension member to the designated plug account.		
 <b>Opening Balance Ownership Change</b> Opening Balances are adjusted in the "Elimination" Consolidation dimension member to take into account any changes in Consolidation %		
 <b>Configurable Consolidation</b> Consolidation entries are posted in the "Elimination" Consolidation dimension member as defined in the deployed Consolidation rules.		

### 標準消去連結ルール

システム標準消去ルールは、勘定科目ディメンション設定および入力済データの視点に基づいています。これらの消去ルールにより、関連データが他のエンティティの同様のデータとオフセットされるように、そのデータが決済(調整)勘定に再分類されます。

このため、エンティティ B の会社間パートナーとともにエンティティ A によって記録された売掛金データは、エンティティ A の会社間パートナーとともにエンティティ B によって記録された買掛金データをオフセットする必要があります。このオフセットが行われるには、売掛金勘定科目と買掛金勘定科目を会社間として設定し、共通の調整勘定を割り当てる必要があります。

データの会社間パートナーが、現在処理中のエンティティの親の子孫である場合、これらの勘定科目のいずれかのデータが消去対象として考慮されます。条件が満たされた場合、両側のエントリが消去連結ディメンション・メンバーに転記されます。最初のエントリは逆比例です。データは、元のソース・データポイントに連結%を乗算した値の負の値とともに消去に転記されます。適用される連結%は、資本の連結%とパートナーの連結%のうち低い方です。ソース・データはエンティティ連結%で(比率メンバーに対して)比例しているため、消去エントリの正味の影響として、比例したエントリのすべてまたは一部が逆になります。この場合、消去連結ディメンション・メンバー内の調整勘定に転記されます。この両側のエントリの影響として、元の勘定科目の会社間データのすべてまたは一部が調整勘定に再分類されます。

その後、再分類されたデータは、親エンティティのエンティティ連結メンバーに集約されます。一致するエントリが売掛金勘定科目と買掛金勘定科目の両方から集約された後、親エンティティのエンティティ連結で正味データ値がゼロになります。不一致の金額が再分類および集約された後、エンティティ連結での調整勘定内のデータ値がこの不一致を表します。

共有エンティティのある組織構造内では、共有エンティティが存在する各ブランチに関連して処理される消去エントリの集約は必ずしも、共有エンティティのすべてのインスタンスを組み合わせるときに必要な結果ではありません。たとえば、エンティティが直属の親の 1 つによって 40% 所有され、もう 1 つの親によって 40% 所有されているときに、両方に対して持分法が適用される場合があります。消去には、エンティ



ティとパートナーの連結%のうち低い方が適用されます。この場合、持分法の連結%は 0%であるため、消去は行われません。ただし、2 つの共有エンティティが最初の共通の親に連結される場合、組み合わせられた出資比率は 80%であり、子会社メソッドは 100%の連結%で適用される必要があります。現在の連結メソッドに対して下位レベルの消去の集約結果が正しくない場合、最初の共通の親で調整が行われます。この調整は、最初の共通の親のエンティティ消去調整連結メンバー内で行われます。

### 期首残高出資比率の変更の連結ルール

出資比率管理により、期間別基準でエンティティ/親の組合せに対して出資比率%および連結メソッドを変更する機能が導入されます。出資比率%および/または連結メソッドの変更に伴い、連結%を期間別から変更することもできます。

期首残高は常に、各連結ディメンション・メンバーの前期間の期末残高から繰り越されます。期首残高は比例しません。したがって、期首残高は、前期間の連結%での前期間の比例を表します。期末残高に集約される他のすべての増減は、現在の期間の連結%で比例します。

現在の期間の期末残高に現在の期間の連結%を確実に反映するために、連結されていない前期間の期末残高の連結%の変化が反映されるように調整が転記されます。連結%の変化がゼロより大きい場合、エントリは「取得」に転記され、変化がゼロより小さい場合、エントリは「処分」に転記されます。

連結%が前の期間から変更されたエンティティの場合、FCCS\_Mvmts\_Acquisitions または FCCS\_Mvmts\_Disposals は、調整勘定から消去される勘定科目で連結ディメンションの消去メンバーに対して自動的に計算されます。顧客固有ルール(構成可能な連結ルールまたは挿入位置ルール)で消去される勘定科目では、顧客/パートナーは期首残高出資比率の変更調整を記述する必要があり、FCCS\_Mvmts\_Disposals\_Input/FCCS\_Mvmts\_Acquisitions\_Input に移入されます。

シード済増減メンバー FCCS\_Mvmts\_Acquisitions および FCCS\_Mvmts\_Disposals はシステム専用であり、これらのメンバーに入力されたデータはすべてクリアされます。メンバー FCCS\_Mvmts\_Acquisitions\_Input および FCCS\_Mvmts\_Disposals\_Input は、データ入力、挿入位置ルールまたは構成可能な連結ルール用として使用できます。

## 構成可能な連結ルールについて

消去メンバーの移入における連結ルールの目的は、報告されたデータを再分類、調整および消去するためにソース・データから仕訳エントリを作成することです。この仕訳エントリが財務勘定科目(貸借対照表および損益計算書)に適用されると、仕訳の転記結果によって賃借が一致したエントリが生成されます。

連結ルールによって、ルールセットを作成します。各ルールセットには、1 つ以上のルールが含まれます。ルールセットは仕訳を表し、各ルールは 1 つの仕訳の転記エントリを表します(単一の仕訳詳細行)。

ルールセットおよびルールの作成の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [連結ルートセットの作成](#)
- [連結ルールの作成](#)

構成可能な連結ルールの詳細は、次のビデオを参照してください:



構成可能な連結ルールの管理

## ルールセット

ルールセットには複数のパラメータを適用できます。

### 1. 条件

ルールセットが実行される条件

条件は次に基づくことができます。

- 処理対象のエンティティ・ディメンションの親/子の組合せに適用可能な連結メソッド
- ディメンション・メンバーまたはディメンション・メンバー属性の組合せ - ルールセット条件に適用可能なディメンションはページ・ディメンション(シナリオ、年、期間、エンティティ (S/Y/P/E))、サブキューブ・ディメンション(勘定科目、会社間、増減、データ・ソース、複数 GAAP (適用可能な場合))、およびユーザー作成済カスタム・ディメンションがあります
- データ値

条件は"Always run"にデフォルト設定されます。

### 2. 係数

ソース・データ値に適用される係数

ソース・データは、選択した係数で乗算されます。係数には、エンティティまたはパートナの「連結%」、「出資比率%」、「少数株主持分%」、これらのいずれかのパーセンテージの各期の変化、これらのいずれかのパーセンテージのエンティティ 値またはパートナ値の低い方、エンティティとパートナのパーセンテージの積、これらのいずれかのパーセンテージの前期間値、特定の比率/パーセンテージ、あるいは前年の最後の期間からの値があります。

### 3. ソース・データセット

連結ルールセットが処理するソース・データセットは、現在のシナリオ、現在の年、現在の期間のページ・ディメンション・メンバー、FCCS\_Entity Total 連結ディメンション・メンバーおよび親通貨のレベル 0 メンバーにデフォルト設定されます。ソース・データセットは、特定の制限内で異なる POV に変更できます。一般に、ソース・データセットは、現在の連結プロセスによるデータポイントの転記によって影響を受けるデータセットにはできません。詳細は、[連結ルートセットの作成](#)を参照してください。

### 4. スコープ

ディメンションごとにルールセットの適用先データセットをフィルタするためのソース・データ POV です。デフォルトのソース POV には、サブキューブ・ディメンション(勘定科目、会社間、増減、データ・ソース、複数 GAAP (適用可能な場合))のレベル 0 メンバーすべて、およびユーザー作成済カスタム・ディメンションが含まれています。

サブキューブ・ディメンションに対して 1 つ以上のベース(レベル 0)メンバーの選択を行うことができます(リストを含む)。ソース POV フィルタでのサブキューブ・ディメンションの選択により、ルールの実行対象が、データセット全体から、サブキューブ・フィルタ定義に適合するデータポイントのみに限定されます。このため、たとえば、ソース POV により、ルールセットを適用する単一の勘定科目を指定できます。ソース POV にディメンションが追加されない場合、そのディメンションのすべてのベース・メンバーがデータセットに含まれます。



シナリオ、年、期間およびエンティティのページ・ディメンションも、ルールセットのスコープに追加できます。ページ・ディメンションのフィルタ処理により、メンバーが連結プロセスのスコープ内かどうかに関係なく、ルールセットのスコープに含まれていないディメンション・メンバーにはルールセットが実行されなくなります。ページ・ディメンション・メンバーを連結のスコープから除外する方法は、条件フィールドを使用するより効率的ですが、複数のディメンションを条件とする選択には対応していません。

## 5. パートナ消去

アプリケーションでパートナ消去機能が有効になっており、ルールセット内の 1 つ以上のルールがパートナ消去エントリの記述である場合は、「**パートナ消去の作成**」ボタンをクリックします。選択すると、ルール作成者によって追加されていない場合は、3 つのディメンションがルールセットのスコープに追加されます。

ルールセット・レベルでは係数エントリおよびスコープはオプションですが、定義されている場合は、設定がルールセット内の各ルールに継承されます。

### ルール

ルールセット内では複数のルールを作成できます。ルールセット・レベルで作成される条件、係数およびスコープは、各ルールに継承され、変更できません。

ルールセットがパートナ消去ルールセットとして定義されている場合は、パートナ消去データを書き込むための個々のルールを設定できます。パートナ消去ルールセットのすべてのルールにパートナ消去を記述する必要はありません。

ルールセットから継承したパラメータ以外にも、ルールごとに追加のパラメータを定義できます。

1. ソース・データ値に適用される係数(ルールセット・レベルで定義されていない場合)
2. 処理オプションの加算または減算
3. 1 つ以上のターゲット・リダイレクション・ディメンション・メンバー

サブキューブ・ディメンションでは、ディメンションごとに 1 つ以上のターゲット・リダイレクション・メンバー(ディメンションごとに 1 つのリダイレクション・エントリ)を定義できます。ターゲット・リダイレクション・ディメンション・メンバーが定義されていない場合、ソース・データは、ソース・ディメンション・メンバーを使用してターゲット**消去**連結ディメンション・メンバーに書き込まれます。リダイレクション・メンバーが定義されている場合、ソース・データは、定義されたリダイレクション・メンバーを使用して書き込まれます。

会社間ディメンションのリダイレクションに対して"#Source POV entity#"エントリを選択する場合、リダイレクションは会社間"ICP\_<ソース POV エンティティ>"メンバーに適用されます。

ソース POV エンティティが有効な会社間メンバーとして指定されていない(および"ICP\_<ソース POV エンティティ>"メンバーが存在しない)場合、リダイレクションは無視され、データはソース POV 会社間メンバーに書き込まれます。

ルールがパートナ消去ルールである場合、エンティティ、会社間およびデータ・ソース・ディメンションのリダイレクションは事前に設定され、変更できません。

**ノート:** 構成可能な連結ルールでパートナ消去(PElim)ロジックを使用し、その結果、パフォーマンスの低下が発生している場合は、EnablePelimNewLogic という名前の代替変数を使用し、値を True に設定することでパフォーマンスを向上できます。

エンティティとパートナが同じメンバーの PELIM を使用している場合は、データ値が変わる可能性があることに注意してください。

#### 4. ターゲット・リダイレクション条件

1 つ以上の条件を使用して複数のターゲット・リダイレクション・メンバーを指定することにより、各リダイレクション・メンバーが適用されるタイミングを決定できます。条件ブロックは、次のフォームで作成できます。

```
If <condition1> Then
<redirection member 1>
ElseIf <condition2>
<redirection member 2>
Else
Same as Source
End
```

ルールの実行時に条件が満たされた場合、データは、定義されたソース POV メンバーのリダイレクション・メンバーを使用して書き込まれます。

ターゲット・リダイレクション条件によって、様々な条件の複数のリダイレクション・メンバーを定義できます。条件は、ソース・データ・ポイントまたはデータ値のディメンション・メンバーに基づくことができます。

##### 例 1:

```
Source POV = Base members of Balance Sheet accounts

Account redirection 1 condition = Account is base member of the Net Income
account

Account redirection 1 = Equity Company Income account
Account redirection 2 = Investment Elimination account
```

この例の結果は、次のようになります。

```
If the source account is a base member of the Net Income account then
Redirect to the Equity Company Income account
Else
Redirect to the Investment Elimination account
End If
```

##### 例 2:

```
Source POV = Base members of Balance Sheet accounts

Account redirection 1 condition = Account is base member of the Net Income
account

Account redirection 1 = Equity Company Income account
Account redirection 2 condition = Account is base member of the
Comprehensive Income account
Account redirection 2 = Investment Elimination account
```

この例の結果は、次のようになります。

```

If the source account is a base member of the Net Income account then

Redirect and write to the Equity Company Income account

Else if the source account is a base member of the Comprehensive Income account
then

Redirect and write to the Investment Elimination account

Else

Write to the source dimension member

End If

```

## 連結ルールセットおよびルールの管理

新しいルールセットおよびルールを作成したり、シード済システム・ルールセットまたはユーザー作成済ルールセットなど既存のアイテムをコピーすることもできます。

連結ルールセットおよびルールを作成、編集、インポート、エクスポートまたは削除するには、管理者である必要があります。

連結ルールセットおよびルールを管理するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「連結」の順にクリックします。
2. 「連結プロセス」ページで「連結」タブ、「構成可能な連結」の順に選択します。

デフォルトでは、「連結ルールの管理」ページに、使用可能なすべての連結ルールおよびルールセットがリストされ、選択したフィルタ・オプション別に合計数が表示されます。

シード済システム・ルールセットは最初に未デプロイ状態で使用できます。これらのルールセットは、必要に応じてデプロイまたはデプロイ解除できます。シード済ルールセットおよびルールは表示できますが、変更することはできません。ただし、シード済ルールセットをコピーしてから、コピーを変更およびデプロイできます。

Manage Consolidation Rules			Close
Search	Status	All Rules	
<input type="checkbox"/>	Deploy Undeploy		
<input type="checkbox"/>	<b>Investment rule set</b> Investment rule set	3/20/2018	...
<input type="checkbox"/>	<b>Owner's Equity (Subsidiary / Proportional) rule set</b> Owner's Equity (Subsidiary / Proportional) rule set	3/20/2018	...
<input type="checkbox"/>	<b>Owner's Equity (Holding) rule set</b> Owner's Equity (Holding) rule set	3/20/2018	...

次のトピックを参照してください。

- [連結ルールセットの作成](#)
- [連結ルールの作成](#)

## 連結ルートセットの作成


新しいルールセットを作成したり、既存のアイテム(シード済システム・ルールセットまたはユーザー作成済ルールセット)をコピーできます。

連結ルールセットの作成については、次のビデオを参照してください:



[構成可能な連結のルールセットの作成](#)

連結ルールセットを作成するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**連結**」をクリックします。
2. 「連結プロセス」ページで「**連結**」タブ、「**構成可能な連結**」の順に選択します。
3. 「**ルール・セットの作成**」  アイコンをクリックします。
4. 新しい「ルール・セット」画面で、ルールセットの「**名前**」を入力します。
5. **オプション**: 説明をタップし、ルールセットの説明を入力します。
6. 「**条件**」により、ルールセットが実行され、最初に"<None>Always Run"が表示される条件が決まります。「**条件**」の横のリンクをクリックし、条件を変更してから、オプションを選択します。
  - ドロップダウンリストから 1 つ以上の条件を選択します。
  - 条件ブロックを追加したり、ルールセット条件をグループ化するには、「**詳細**」オプションを選択します。

条件ブロックを追加するには、[条件ブロックの追加](#)を参照してください。

条件をグループ化するには、[条件のグループ化](#)を参照してください
  - 「**係数**」では、換算先には書き込むデータの計算時にソース・データ値に適用するルールセットの係数を設定します。
7. アプリケーションでパートナ消去機能が有効になっており、ルールセット内の 1 つ以上のルールがパートナ消去エントリの記述である場合は、「**パートナ消去の作成**」ボタンをクリックします。エンティティ、会社間およびデータ・ソース・ディメンションがルールセットのスコープに追加されます。
  - エンティティ
    - 地域合計の子孫は、デフォルトで移入されますが、変更できません
  - 会社間
    - #兄弟/兄弟の子孫#は、デフォルトで移入され、変更できません
    - パートナ消去エントリを生成できるのは、処理中の現在のエンティティの兄弟または兄弟の子孫の会社間パートナ・エントリがあるデータポイントのみです
  - データ・ソース
    - 合計データ・ソースのレベル 0 の子孫は、デフォルトで移入されますが、変更できません

8. **ルールセットのスコープ**に、メンバーを指定してルールセットを適用するデータ・セットを制限します。
9. ルール・セットを保存するには、「**保存して閉じる**」をクリックし、ルール・セットの作成を続行するには、「**保存して続行**」をクリックします。

 **ノート:**

ベスト・プラクティス: 可能な場合は、「**条件**」を使用するのではなく、「**ルールセットのスコープ**」設定を使用して、ソース・データ・セットに不要なディメンション・メンバーを除外します。この設計方法によって、処理のパフォーマンスが向上します。「**条件**」ロジックは、複雑な条件やマルチディメンション条件であるが可能な限り最小限にすることが必要な場合に必要になることがあります。

### 条件ブロックの追加

ルールセットを作成し、「詳細条件」ダイアログ・ボックスをクリックすると、「**追加(+)**」アイコンをクリックして条件ブロックを追加するか、「**削除(x)**」アイコンをクリックして条件ブロックを削除できます。

各条件ブロックは、次の 4 つのフィールドを使用して初期化されます。

- **ディメンション**

条件を設定するメタデータ・ディメンションを選択するか、データ値条件を適用する「**データ値**」を選択します。

- **属性**

<Dimension>フィールドでメタデータ・ディメンションを選択した場合、条件に必要なそのディメンションの属性を選択します。「メンバー名」属性は、すべてのディメンションで使用可能です。エンティティおよび会社間ディメンションには、「方法」、「連結%」、「出資比率%」、「少数株主持分%」、「変更」比率、「エンティティ/パートナーの低い方」のパーセンテージおよび「前期間」比率などの「出資比率」設定も用意されています。「変更」を選択することにより、属性を前期間から現在期間に変更できます。

<Dimension>フィールドに対して「**データ値**」を選択した場合、部分的 **POV** を選択し、条件を適用するデータポイントを定義できます。エントリを選択しない場合、ソース **POV** がデータポイント定義として使用されます。ソース **POV** 以外のデータポイントを定義するために、各ディメンションのメンバーを選択できます。

- **演算子**

条件演算子を選択します。<Dimension>および<Attribute>の選択によって、使用できる演算子が異なります。有効な演算子は、次のとおりです。

- 次と等しい
- 次と等しくない
- 次より大きい
- 次より大きくない
- 次より小さい
- 次より小さくない

- **値/メソッド**

条件演算子を適用する必須値を入力または選択します。

<Attribute>フィールドで「メンバー名」を選択した場合、エントリまたは連結文字列の選択元のディメンションのメンバー・セレクトアが使用可能になります。連結文字列は、エンティティおよび会社間ディメンションに対して使用できます。「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスの下部にある「メンバー」リンクをクリックし、連結文字列を選択することにより、これらの文字列をメンバー・セレクトアから選択できます。「連結文字列」を参照してください。


- 「エンティティ」または会社間連結メソッドを選択した場合、メソッドのリストが使用可能になります。
- 「連結%」、「出資比率%」、「少数株主持分%」または「データ値」を選択した場合、数値を入力できます。

別の条件を追加するために条件ブロックを作成した後、「追加(+)」アイコンをクリックします。デフォルトでは条件間の組合せは And ですが、Or、And Not または Or Not に変更できます。

### 条件のグループ化

複数の条件ブロックを追加した後、選択した条件をグループ化できます。グループ化条件により、必要な条件の組合せが決まります。

条件をグループ化するには:

1. グループ化に含める最初の条件の行をクリックし、[Ctrl]を押しながら必要な隣接条件を選択します。
2. グループ化用の隣接条件をすべて選択した後、 をクリックし、ドロップダウン・リストから「グループ」を選択します。

たとえば、条件 A と条件 B、および条件 C と条件 D がグループ化されるとします。

この場合、条件は次のように適用されます。

(条件 A と条件 B)または(条件 C と条件 D)。

この場合、条件 A および B が一致するか、条件 C および D が一致すると、ルールセットが実行されます。

年および期間ディメンションには「次と等しい」および「次と等しくない」のみを使用できます。「前」または「後」ロジックは適用できません。リストまたは複数のブロック条件を使用してこのタイプのロジックを適用します。

#### 例 1:

年 | メンバー名 | 次と等しい | FY16、FY17、FY18

#### 例 2:

年 | メンバー名 | 次と等しい | 3月、6月、9月、12月

#### 例 3:

年 | メンバー名 | 次と等しくない | FY16、FY17

Or

年 | メンバー名 | 次と等しい | FY17

And

年 | メンバー名 | 次と等しい | 7月、8月、9月、10月、11月、12月

### ルールセット係数

ルールセット係数にはデフォルトで「なし」が表示されます。このエントリが保持される場合、関連する各ルール内に係数が設定されます。このエントリを変更する場合、選択した係数がルールセット内のすべてのルールに適用されます。

「**エンティティ/パートナーの製品**」が選択されている場合、適用される係数はエンティティのパーセンテージとパートナーのパーセンテージの積になります。パートナーのパーセンテージがない場合(たとえば、データ・ポイントが非会社間である場合)、エンティティのパーセンテージが適用されます(パートナーのパーセンテージが 100%であることを前提とします)。

「**前年の最後の期間**」が選択されている場合、適用される係数は前年の最後の期間(アプリケーションの構成に応じて第 12 期または第 13 期)から読み取られます。前年のデータを繰り越すシナリオとして別のシナリオを指定する期首残高シナリオ繰越しルールが適用されている場合があります。その場合、パーセンテージは指定されたソース・シナリオから読み取られます。

最初のドロップダウン・ボックスで次のオプションの 1 つを選択します。

- 現在
- 変化
- エンティティ/パートナーの低い方
- エンティティ/パートナーの製品
- 特定の%
- 前
- 前年の最後の期間

次に、2 番目のドロップダウン・ボックスで次のオプションの 1 つを選択します。

- エンティティ 連結%
- エンティティ 出資比率%
- エンティティ 少数株主持分%
- パートナ連結%
- パートナ出資比率%
- パートナ少数株主持分%

### ルールセットのソース・データセット定義

ルールセットを適用するソース・データセットは、デフォルトでは、現在のシナリオ、年、期間、エンティティおよびビューのエンティティ 合計データから取得されます。複数通貨アプリケーションの場合、データは親通貨になります。このデータセット内から、スコープを設定することでルールセットで処理されるデータの範囲をさらにフィルタできます(データセットの範囲の設定を参照)。

データセットは、異なるシナリオ、年、期間、ビューまたは連結メンバーから取得でき、複数通貨アプリケーションの場合は、親通貨またはエンティティ 通貨から取得できます。現在、データは現在のエンティティから取得する必要があります。

### データセットのソース POV の変更



ソース・データセットを取得できる各ディメンションについて:

**シナリオ:**

- 現在のシナリオ(デフォルトの選択)
- 特定のシナリオ
- #前のシナリオ#

#前のシナリオ#が選択されている場合、最初の期間の期首残高繰越からのシナリオは、ルールの実行中に使用されません。

**年:**

- 現在の年(デフォルトの選択)
- 特定の年
- 現在...

「現在...」を選択した場合は、オフセットも選択します。オフセット番号は、0 (オフセットなし)からアプリケーションの年数より 1 小さい値まで(10年のアプリケーションの場合は-9)です。オフセット番号は、処理中の現在の年から逆方向に数えて該当する年からデータセットが取得されます。たとえば、FY18年4月では、-2のオフセットによって FY16年4月のデータが取得されます。

年オフセットと期間オフセットの組合せにより、アプリケーションの期間の合計数から 1 少ない期間までのオフセットが可能になります。

年または期間(あるいはその両方)のオフセットの選択により、連結を実行する現在の POV と組み合わせると、ソース POV がアプリケーションの制限の範囲外(つまり、アプリケーションに定義されている最初の期間と年より前の期間または年)になる場合、ルールセットはその現在の POV に対して実行されません。これは、ジョブ・コンソールには表示されますが、連結が失敗することにはなりません。

**エンティティ:**

今のところ、現在のエンティティのみを使用できます。

**連結:**

エンティティ 合計(デフォルト)

- エンティティ 入力
- エンティティ 消去調整
- エンティティ 連結
- 比例
- 消去
- コントリビューション

別のシナリオが選択されていない場合、またはゼロ以外の年または期間オフセットが選択されている場合は、比例、消去またはコントリビューションの連結ディメンション・メンバーを選択できないことに注意してください。この制限は、ルールのソースとして使用されるデータセットがルールの結果に依存しないようにすることを意図しています。



現在のエンティティの「期首残高の繰越し」、「比例」、「標準消去」および「期首残高出資比率の変更」システム・ルールの結果を使用できます。そのためには、デフォルトのエンティティ合計のかわりに、コントリビューション連結ディメンション・メンバーを選択します。これにより、システム・ルールの結果を含め、連結ルールが比例後の正味データ・セットに適用されます。

#### 通貨:

- 親通貨(デフォルト)
- エンティティ通貨

この選択は、単一通貨アプリケーションでは使用できないことに注意してください。

また、複数通貨アプリケーションでは、連結ディメンション・メンバーに比例、消去またはコントリビューションが選択されている場合は、エンティティ通貨を使用できません。


#### ビュー:

- FCCS\_Periodic (デフォルト)
- FCCS\_YTD
- FCCS\_HYTD
- FCCS\_QTD

ソース・データには選択したビュー・メンバーが反映されますが、ルールでは引き続き計算結果が期間ビューに書き込まれます。

#### データセットのスコープの設定

「スコープ」バーの下の「追加(+)」アイコンをクリックし、ソース POV フィルタ・ディメンションにディメンションを追加します。使用可能なディメンションの 1 つを選択します。新

しいディメンション行の右側から「メンバー・セレクタ」アイコン  をクリックするか、必要なディメンションの名前を入力します。メンバー・セレクタから、1 つ以上のメンバーまたはリストを選択します。

ソース POV でメンバーを指定すると、ルールセットが適用されるデータ・セットが制限されます。エンティティおよび会社間ディメンションには、**#法会社#**用の連結文字列選択も用意されており、会社間ディメンションには、**#現在の親の子孫である任意の ICP#**が用意されています。[連結文字列](#)を参照してください。

ルールセットのソース POV は、ルールセット内で作成される任意のルールによって継承されます。個別ルール内で継承されたソース POV は編集できません。

ルールセットの作成についてさらに学習するには、次のビデオをご覧ください:



[Financial Consolidation and Close](#) における構成可能な連結ルールでの年次累計値の使用

## 連結ルールの作成

連結ルールを作成するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「連結」をクリックします。

2. 「連結プロセス」 ページで「**連結**」 タブ、「**構成可能な連結**」 の順に選択します。
3. ルールを作成するルールセットを選択します。  
すべてのルールがルールセット内に含まれる必要があります。
4. 「**ルールの作成(+)**」 アイコンをクリックします。
5. 新しいルール画面で、ルールの「**名前**」を入力します。
6. **オプション**: 説明をタップし、ルールの説明を入力します。
7. **条件**:: これは、ルールセットから継承され、ルール内では変更できません。
8. **係数**: 係数がルールセット・レベルで設定されている場合、条件は継承され、ルール内では変更できません。係数がルールセット・レベルで設定されていない場合、ルールごとに係数を入力する必要があります。

最初のドロップダウン・ボックスで次のオプションの 1 つを選択します。

- **現在**
- **変化**
- **エンティティ/パートナーの低い方**
- **エンティティ/パートナーの製品**
- **特定の%**
- **前**
- **前年の最後の期間**

次に、2 番目のドロップダウン・ボックスで次のオプションの 1 つを選択します。

- **エンティティ 連結%**
  - **エンティティ 出資比率%**
  - **エンティティ 少数株主持分%**
  - **パートナー連結%**
  - **パートナー出資比率%**
  - **パートナー少数株主持分%**
9. 「**処理のオプション**」 で、ドロップダウン・リストから「**加算**」 または「**減算**」 を選択します。ルール処理のオプションでは、計算したデータ値を、すでに換算先に転記されているデータ値に加算または減算するかどうかを指定します。[ルール処理のオプション](#)を参照してください。
  10. **ルール・ソース POV**: これは、ルールセットから継承され、ルール内では変更できません。
  11. **オプション**: データのリダイレクションを定義するには、「**メンバーのリダイレクト**」 をクリックします。[ルール・リダイレクション](#)を参照してください。
  12. **オプション**: ルールセットでパートナー消去が有効になっている場合は、「**メンバーのリダイレクト**」 を選択した後、「**パートナー消去の有効化**」 を選択します。
  13. ルールを保存するには、「**保存して閉じる**」 をクリックし、または、ルールの作成を続行するには、「**保存して続行**」 をクリックします。

## ルール処理のオプション

「加算」オプションを使用すると、比例と同じ方法で処理済データが消去連結ディメンションに転記され、ソース・データ値に係数が適用されます。「減算」オプションを使用する場合も、ソース・データ値に係数が適用されますが、逆の値が転記されます。

たとえば、勘定科目の比例の効果を逆にするには、「減算」オプションを適用します。

データポイントを別の勘定科目メンバーにリダイレクトする場合、転記の処理時に勘定科目タイプが考慮されることに注意してください。たとえば、次の場合です。

- ある収益勘定科目をソースとする正の金額がリダイレクトされないか、「加算」処理オプションを使用して別の収益勘定科目にリダイレクトされると、このリダイレクトされた収益勘定科目に正の金額が転記されます。
- ある収益勘定科目をソースとする正の金額がリダイレクトされないか、「減算」処理オプションを使用して別の収益勘定科目にリダイレクトされると、このリダイレクトされた収益勘定科目に負の金額が転記されます。
- ある収益勘定科目をソースとする正の金額が、「加算」処理オプションを使用して費用勘定科目にリダイレクトされると、この費用勘定科目に負の金額が転記されます。
- ある収益勘定科目をソースとする正の金額が、「減算」処理オプションを使用して費用勘定科目にリダイレクトされると、この費用勘定科目に正の金額が転記されます。
- ある収益勘定科目をソースとする負の金額が、「加算」処理オプションを使用して費用勘定科目にリダイレクトされると、この費用勘定科目に正の金額が転記されます。
- ある収益勘定科目をソースとする負の金額が、「減算」処理オプションを使用して費用勘定科目にリダイレクトされると、この費用勘定科目に負の金額が転記されます。

一般ルールは、次のとおりです。

- ソース勘定科目タイプの標準記号がターゲット勘定科目タイプの標準記号とは異なる場合、ソース金額に-1を乗算します。
- 選択した「処理のオプション」が「減算」である場合、再度-1を乗算します。

勘定科目タイプの標準記号は、次のとおりです。

- 収益 - 貸方残高(-)
- 費用 - 借方残高(+)
- 資産 - 借方残高(+)
- 負債 - 貸方残高(-)
- 資本 - 貸方残高(-)
- 保存された仮定 - 残高(+)

ルール・ソース POV は、ルールセットから継承され、ルール内では変更できません。

## ルール・リダイレクション

ソース POV によって定義されたデータを処理する場合、データ値に係数が乗算され、消去連結ディメンション・メンバーに転記されます。リダイレクションが定義されていない場合、換算先の POV は換算元と同じになります(連結メンバー以外)。ただし、データの転記は、1 つ以上のサブキューブ・ディメンション(勘定科目、会社間、増減、データ・ソース、複数 GAAP (適用可能な場合))、およびユーザー作成済カスタム・ディメンションのみにリダイレ

クトできます。連結ルールではエンティティのリダイレクションは許可されません (PElim を除く)。

ルールのリダイレクトを定義するには:

1. 「ルールの作成」画面で、「**メンバーのリダイレクト**」をクリックします。  
画面の「ソース POV」セクションは、左側の継承済「ソース POV」と右側のリダイレクション列に分けられます。
2. リダイレクション列では、デフォルトのリダイレクション・メンバーが「ソースと同じ」として表示されます。メンバー・セレクトタからディメンションのベース・メンバーを選択することにより、リダイレクション・メンバーを追加できます。

消去連結ディメンション・メンバーに転記する場合、ソース POV のメンバーは選択したリダイレクション・メンバーによって置き換えられます。

会社間ディメンションには、**#ソース POV エンティティ#**用の連結文字列選択も用意されています。この文字列を選択する場合、リダイレクションに使用される会社間メンバーは、ソース POV 内のエンティティ ("**ICP\_<ソース POV エンティティ>**")と同等の会社間メンバーになります。[連結文字列](#)を参照してください。

1 つ以上の条件に基づいて異なるリダイレクション・メンバーを適用できます。

リダイレクション・メンバーに条件を追加するには:

1. 列の右側にある「**加算**」(+ )アイコンをクリックします。
2. リダイレクションを決定するためにデータ・ポイントを適用する条件を作成します。
  - 条件が満たされた場合、データは最初のリダイレクション・メンバーに転記されます。
  - 条件が満たされない場合、データは 2 番目のリダイレクション・メンバーに転記されます。  
メンバー・セレクトタからリダイレクション・メンバーを選択するか、必要に応じて「ソースと同じ」のままにします。
3. 必要に応じて「**加算(+)**」アイコンを選択して条件およびリダイレクション・メンバーの追加を続行するか、「**削除(x)**」アイコンを選択して既存の条件を削除します。

各リダイレクション・エントリの条件は、ルールセット条件と同じメソッドを使用して作成されます。[連結ルートセットの作成](#)を参照してください。

### パートナ消去

ルールがパートナへのデータの書込みである場合は、「**メンバーのリダイレクト**」ボタンを選択した後、「**パートナ消去の有効化**」を選択します。パートナ消去ルールの場合、エンティティ、会社間およびデータ・ソース・ディメンションのリダイレクション・エントリは事前に設定され、変更できません。

### エンティティ・リダイレクション

#ソース POV 会社間#

### 会社間リダイレクション

#ソース POV エンティティ#

## データ・ソース・リダイレクション

### パートナ消去

エンティティが処理され、適格なデータポイントが検出されると、パートナ消去ルールは、処理中のエンティティの兄弟の消去連結メンバーにデータポイントを書き込みます。会社間パートナ自体が現在のエンティティの兄弟である場合、データはパートナに書き込まれますが、そうでない場合は現在のエンティティの兄弟であるパートナの祖先に書き込まれます。書き込まれたデータポイントの **POV** には、会社間パートナとしてソース・データポイントのエンティティが追加されて、常にパートナ消去データ・ソース・メンバー(**FCCS\_Partner Eliminations**)に書き込まれることになります。

パートナ消去データが兄弟の消去メンバーに書き込まれると、その兄弟の計算ステータスは、現在の期間では影響を受けませんが、将来の期間には影響を受けます。パートナ消去エントリを作成するエンティティが再連結されると、そのエンティティから兄弟に書き込まれたデータが最初にクリアされ、必要に応じて再転記されます。消去連結メンバーのパートナ消去データ・ソース・メンバーのデータの転記およびクリアは、データが存在するエンティティではなく、そのデータを書き込むエンティティ(会社間エントリで識別される)によって実質的に所有されます。

データポイントのパートナがエンティティ階層の複数の場所に存在する場合(つまり、共有所有権)、1つのソース・データポイントがソース・エンティティの単一の世代で、または複数の世代で、複数のパートナ消去エントリを生成する場合がありますことに注意してください。

構成可能な連結ルールをデプロイした後にパフォーマンス問題を診断する必要がある場合は、手動で診断するか、または自動アプローチを使用できます。自動アプローチを有効にしてパフォーマンス問題を解決するには、`OptimizeConfigConsol` という名前の代替変数を追加し、値を **True** に設定します。

構成可能な連結ルールでパートナ消去(**PElim**)ロジックを使用し、その結果、パフォーマンスの低下が発生している場合は、`EnablePelimNewLogic` という名前の代替変数を追加し、値を **True** に設定することでパフォーマンスを向上できます。エンティティとパートナが同じメンバーの **PELIM** を使用している場合は、データ値が変わる可能性があることに注意してください。

勘定科目リダイレクションがあるユーザー作成済のパートナ消去の構成可能な連結ルールをデプロイするときに、連結のパフォーマンス問題が発生する場合は、`OptimizePelimCalculation` という名前の代替変数を追加し、値を **True** に設定することでパフォーマンスを向上できます。

連結ルールの作成については、次のビデオを参照してください:



[連結ルールの作成](#)

パートナ消去を使用した連結ルールの作成については、次のビデオを参照してください:



[パートナ消去を使用した構成可能な連結ルールの作成](#)

## 連結文字列

次の項では、連結ルールセットおよびルールで使用できる連結文字列をリストします。連結文字列は論理参照を提供し、ディメンション・メンバー・セレクトタから選択できます。

連結文字列を含めるには:

1. ルールまたはルールセットを作成します。  
[連結ルートセットの作成](#)および[連結ルールの作成](#)を参照してください。
  2. 「メンバー・セレクト」ダイアログ・ボックスで、「**メンバー**」を選択します。
  3. ドロップダウン・オプションで、**連結文字列**を選択し、文字列を選択します。
- **#法会社#**  
 法会社文字列により、現在のエンティティまたは会社間メンバーが法会社を表すかどうかを決定します。基本エンティティはすべて法会社です。  
 ルール条件またはソース POV 内のエンティティまたは会社間ディメンションに対して法会社文字列を使用できます。
  - **#現在の親の子孫である任意の ICP#**  
 この文字列は、会社間ディメンションのソース POV で使用でき、スコープ内のデータセットを、現在処理中のエンティティの親エンティティの子孫を表す会社間ディメンション・エントリを持つデータポイントに制限します。  
 I/C パートナとしてのそれ自体とのトランザクションがあるエンティティは、組織構造のすべてのレベルで前述の基準を満たすことになります。このため、エンティティ X / ICP X のトランザクションが転記されると、そのトランザクションはその最初の親、次の親、および後続のすべての親で基準を満たします。これは、エンティティとそれ自体の両方が常にエンティティの親(または後続の祖先)の子孫であるためです。  
**#兄弟/兄弟の子孫#** I/C パートナとしてのそれ自体とのトランザクションがあるエンティティは、組織構造の 2 つのブランチ内に共有エンティティの 2 つのインスタンスが存在した場合を除き、前述の基準は満たしません。この基準を満たすためには、I/C パートナが組織構造の別のブランチからのエンティティと"出会う"必要があります。
  - **#ソース POV エンティティ#**  
 この文字列は、会社間ディメンションのリダイレクションで使用できます。データを書き込むために使用する会社間メンバーは、ソース POV 内のエンティティ ("ICP\_<Source POV Entity>")と同等の会社間メンバーになります。  
 ソース POV エンティティが有効な会社間メンバーとして指定されておらず(また "ICP\_<ソース POV エンティティ>"メンバーが存在しない場合)、リダイレクションは無視され、データはソース POV 会社間メンバーに書き込まれます。ソース POV 会社間メンバーが親メンバーである場合、ルールと連結プロセスは失敗します。

## ルールセットの表示

「構成可能な連結」ページで、ルールセットとルールを表示できます。

また、ルールセットをデプロイまたはデプロイ解除したり、ルールセットおよびルールを複製または削除することもできます。次のトピックを参照してください。

- [ルールセットのデプロイおよびデプロイ解除](#)
- [ルールセットの複製および削除](#)

「構成可能な連結」ページにアクセスするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**連結**」の順にクリックします。



2. 「連結プロセス」 ページで「**連結**」 タブ、「**構成可能な連結**」 の順に選択します。

ルールセットをステータス別に表示するには、「**ステータス**」 ドロップダウン・リストから適切なオプションを選択します。

- **すべてのルール**

このオプションは、すべてのルールセットを表示します。ルールセットがデプロイされた後に変更されたがまだ再デプロイされていない場合、ルールセット名の横に「**変更**」ステータス・アイコンが表示されます。

表示されたルールセットはすべて開いて表示できます。

システム・ルールセット: 表示、複製、デプロイおよびデプロイ解除が可能です。

非システム・ルールセットおよびルール: 表示、変更、複製、デプロイおよびデプロイ解除が可能です。

変更ルールセットを開くと、まだデプロイされていない変更が表示され、追加の変更を行うことができます。

デプロイされたが変更されていないルールセットを開いて変更すると、保存時にルールセットの「**変更**」 コピーが作成されます。

- **デプロイ済**

このオプションは、すべてのデプロイ済ルールセットを表示します。ルールセットがデプロイされた後に変更されたがまだ再デプロイされていない場合、ルールセット名の横に「**デプロイ済**」ステータス・アイコンが表示され、デプロイ済ルールセットの詳細が表示されます。

このビューではデプロイ済ルールセットを変更できません。デプロイ済ルールセットを変更するには、「**すべてのルール**」 ビューでルールセットを開きます。

このビューからルールセットをデプロイ解除できます。

- **デプロイ解除**

このオプションは、デプロイされていないすべてのルールセットを表示します。ルールセットをデプロイ解除してから変更すると、ステータス・アイコンは変更されないままになります。

このビューからルールセットをデプロイできます。

- **デプロイ後に変更済**

このオプションは、デプロイされてから変更されたがまだ再デプロイされていないすべてのルールセットを表示します。ルールセットおよびルールの詳細には、前回のデプロイメント以降に行われた変更が反映されています。このビューで追加の変更を行うことができます。

このビューからルールセットおよびルールに対する変更をデプロイできます。変更がデプロイされていない場合、前にデプロイしたバージョンがアクティブのままになります。

## ルールセットのデプロイおよびデプロイ解除

ルールセットをデプロイするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」 をクリックし、「**連結**」 をクリックします。
2. 「連結プロセス」 ページで「**連結**」 タブ、「**構成可能な連結**」 の順に選択します。

ルールセットには 3 つの状態があり得ます。

- 作成されたがデプロイされていないルールセットは「未デプロイ」(青色の円で表示)



- 作成されてデプロイされているルールセットは「デプロイ済」(チェックマークが付いた緑色の円で表示)



- 作成されてデプロイされた後に変更されたルールセットは「変更済、未デプロイ」(感嘆符が付いた黄色の三角で表示)



デプロイされて変更されたがまだ再デプロイされていないルールセットも、元のデプロイ済状態にあります。変更済ルールがデプロイされると、前にデプロイされたバージョンと置き換えられます。

#### ノート:

- 背景の歯車アイコンは、システム・ルールセットであることを示します。
- 背景の人物アイコンは、ユーザー作成済ルールセットであることを示します。

未デプロイまたは変更済ルールセットをデプロイするには:

1. ルールセット名の左側のチェック・ボックスを選択することにより、ルールセットを選択します。  
個別ルールをデプロイまたはデプロイ解除することはできません。
2. 「**デプロイ**」または「**デプロイ解除**」をクリックします。

## ルールセットの複製および削除

「構成可能な連結」ページで、ルールセットとルールを表示、複製および削除できます。ルールセットおよびルールを削除するには、管理者である必要があります。

「構成可能な連結」ページにアクセスするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**連結**」の順にクリックします。
2. 「連結プロセス」ページで「**連結**」タブ、「**構成可能な連結**」の順に選択します。

### ルールセットの複製

ルールセットまたはルールセット内のルールを複製するには:

1. ルールセットの「構成可能な連結」リストで行を選択し、 をクリックします。



2. ルールセットまたはルールを複製するには、「複製」をクリックします。
3. ルールセットまたはそのルールセット内のルールを複製するには、「ルールで複製」をクリックします。

 **ノート:**

ルールセットまたはルールの名前を変更するには、ルールセットをデプロイ解除する必要があります。


他のフィールドを変更するためにルールセットをデプロイ解除する必要はありません。

### ルールセットの削除

構成可能な連結ルールの参照整合性に関する問題がアプリケーションで発生しないように、Financial Consolidation and Close により、ルールで参照されているメタデータ・メンバーの削除が検証されて回避されます。

ルールセットおよびルールを削除するには、管理者である必要があります。アプリケーションからディメンション・メンバーを削除するときに、メンバーが構成可能な連結ルールで参照されている場合、失敗エラーが表示され、メンバーは削除されません。

ルールセットまたはルールセット内のルールを削除するには:

1. ルールセットの「構成可能な連結」リストで行を選択し、 をクリックします。
2. アイテムを削除するには、「削除」をクリックします。

ルールセットまたはルールがデプロイされた後に変更された場合、デプロイ済アイテムと変更済アイテムの両方が削除されます。

## ルールセットおよびルールの並替え

「連結ルールの管理」画面内でユーザー定義のルールセットを並べ替えたり、ユーザー定義の各ルールセット内のルールを並べ替えることができます。ルールセットの順序を変更すると、これらのルールセットの実行の順序が変更されるため、前に実行されたルールセットで書き込まれたデータをルールセットに読み込むことができます。ルールセット内のルールの順序を変更しても影響はありません。

シード済のルールセットはユーザー定義のルールセットの前に常に表示され、順序を変更できません。

 **ノート:**

ユーザー定義のルールセットの順序を変更すると、1 つ以上のルールセットのソース・データに現在の期間の消去データが含まれ、後続のルールセットのソース・データに前に実行されたルールセットのターゲット・データが含まれる場合、結果に影響する可能性があります。

### ルールセットおよびルールの並替えのガイドライン:

- 順序変更は、「デプロイ済」ビュー(「すべてのルール」、「デプロイ解除済」および「デプロイ後に変更済」)を除いて、すべてのフィルタ済ビューから実行できます。デプロイ済ビューで順序変更をしようとすると、デプロイ済ビューのルールは移動できないことを示す警告メッセージが表示されます。
- ユーザー定義のルールセットの順序は、デプロイするまで変更されません。
- 先頭のカスタム・ルールセットは上に移動できません。
- 最後のカスタム・ルールセットは下に移動できません。
- ルールセット内の先頭のカスタム・ルールは上に移動できません。
- ルールセット内の最後のカスタム・ルールは下に移動できません。
- デプロイ済のユーザー定義ルールの順序を変更すると、順序を変更したルールは変更されたがデプロイ解除ステータスに変更され、ルールセットは変更されたがデプロイ解除ステータスに変更されます。順序変更でデプロイ解除または変更された 1 つ以上のルールが含まれる場合、ステータスは変更されません。順序変更でデプロイ済およびデプロイ解除または変更されたルールの両方が含まれる場合、ステータス変更はデプロイ済ルールの順序変更のみに基づきます。

連結ルールセットおよびルールを並べ替えるには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「連結」の順にクリックします。
2. 「連結プロセス」ページで「連結」タブ、「構成可能な連結」の順に選択します。
3. 移動するルールセットまたはルールを選択します。
4. 最上部のメニュー・バーで、「上へ移動」ボタン



、または「下へ移動」ボタン



をクリックするか、右クリック・メニューを使用して「上へ移動」または「下へ移動」を選択します。

## シード済連結ルール

複数のシード済連結ルールセットに汎用の出資比率消去調整が用意されています。

これらのルールセットを変更することはできません。これらのルールセットは最初はデプロイされていませんが、デプロイまたは複製したり、コピーを変更またはデプロイすることができます。

また、新しいルールセットおよびルールを作成できます。[連結ルートセットの作成](#)および[連結ルールの作成](#)を参照してください。

9 つのシード済システム・ルールセットが定義されています。

- 投資
- 投資 PP
- 自己資本(子会社/比例)
- 自己資本(子会社/比例) PP
- 自己資本(資本)
- 自己資本(資本) PP

- 自己資本(持株)
- 純利益(子会社)
- 純利益(資本)

最初の 6 つのルールセット(投資、投資 PP、自己資本(子会社/比例)、自己資本(子会社/比例) PP、自己資本(資本)、および自己資本(資本) PP)によって、(少数株主(非支配)持分を認識する)子会社メソッド、比例メソッド、または持分法のいずれで連結されているかにかかわらず、子会社における持株会社の投資と被所有会社の自己資本の間の調整/消去エントリが提供されます。

投資と自己資本の調整の間のクリア/調整勘定として営業権 - オフセット資産勘定科目が使用されます。持株会社の投資金額と被所有会社の自己資本の事前取得金額が一致しない場合は、差額が営業権として記録されます。

組織構造のより上位レベルで持株会社が子会社になる場合、自己資本(持株)ルールセットにより、後続の消去のために持株会社の自己資本データが準備されます。

純利益(子会社)および純利益(資本)ルールセットにより、子会社(少数株主持分)および資本会社(資本利益)に対する継続的な純利益の影響が記録されます。

### シード済ルールセットの前提条件

シード済ルールセットでは、消去エントリが関連する法的エンティティ(現在は基本エンティティ)を追跡するために会社間ディメンションが使用されます。したがって、これらの基本エンティティが ICP\_<エンティティ名>のフォームで会社間ディメンション内に存在するようにするには、これらのエンティティを会社間エンティティとして指定する必要があります(エンティティ・ディメンションのレベル 0 のメンバーで「ICP\_Entity\_Yes」属性を選択します)。

持株会社内の子会社の投資に対して入力したデータには、被所有エンティティを識別する会社間ディメンション・エントリが含まれている必要があります。自己資本勘定科目に入力したデータには会社間エントリは必要ありません。

シード済の連結ルールの詳細は、次のビデオを参照してください:



シード済連結ルール

## 投資ルールセット

投資ルールセットは、2 つのルール/仕訳詳細行で構成されます。

このルールセットは、兄弟を表すすべての会社間パートナーを対象として、現在期間の投資を営業権に転送します。営業権エントリは、パートナーからの自己資本の消去とオフセットされ、正味営業権値(存在する場合)を残します。

子会社への投資(FCCS\_Investment in Sub)勘定科目に追加されたデータには、このルールを実行するために投資が行われる会社を表す会社間パートナーが含まれる必要があります。この勘定科目は、メタデータのメンテナンスを介して会社間勘定科目として設定する必要がありますが、調整勘定科目は選択しないでください。子会社の投資勘定科目内に調整勘定を入力すると、標準消去と投資ルールの両方が実行され、消去が二重になります。

表 18-8 投資(ルールセット)

エントリ	説明
条件(	(エンティティの現在のメソッド = 持株またはエンティティの現在のメソッド = 子会社またはエンティティの現在のメソッド = 比例および FCCS_Total データ・ソース <> 0 および会社間連結 > 0 または会社間連結%の変更 <> 0 またはパートナーの現在のメソッド = 資本)
係数	現在\エンティティ 連結%
ディメンション	ソース POV
勘定科目	FCCS_Investment in Sub
会社間	#現在の親の子孫である任意のパートナー#
増減	FCCS_OpeningBalance を除く FCCS_ClosingBalance のベース
データ・ソース	FCCS_TotalDataSource のベース

表 18-9 投資 - 逆比例(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	継承済	
処理のオプション	減算	
ディメンション	ソース POV	
勘定科目	継承済	
会社間	継承済	
増減	継承済	
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

表 18-10 投資 - 営業権オフセット(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	継承済	
処理のオプション	加算	
ディメンション	ソース POV	
勘定科目	継承済	FCCS_Goodwill Offset
会社間	継承済	
増減	継承済	IF: FCCS_Total Movements > FCCS_Total Data Source > 0 THEN: FCCS_Mvmt_Acquisition_Input ELSE: FCCS_Mvmt Disposal_Input

表 18-10 (続き) 投資 - 営業権オフセット(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

## 投資 PP ルールセット

投資 PP ルールセットは、2 つのルール/仕訳詳細行で構成されます。

このルールセットは、兄弟を表すすべての会社間パートナーを対象として、累積された前期間(具体的には現在の期首残高)の投資を営業権に転送します。営業権エントリは、パートナーからの自己資本の消去とオフセットされ、正味営業権値(存在する場合)を残します。

子会社への投資(FCCS\_Investment in Sub)勘定科目に追加されたデータには、このルールを実行するために投資が行われる会社を表す会社間パートナーが含まれる必要があります。この勘定科目は、メタデータのメンテナンスを介して会社間勘定科目として設定する必要がありますが、調整勘定科目は選択しないでください。子会社の投資勘定科目内に調整勘定を入力すると、標準消去と投資ルールの両方が実行され、消去が二重になります。

表 18-11 投資 PP (ルールセット)

エントリ	説明
条件	(エンティティの現在のメソッド = 持株またはエンティティの現在のメソッド = 子会社またはエンティティの現在のメソッド = 比例および FCCS_Total データ・ソース <> 0 および会社間連結 > 0 および会社間の前の連結% = 0)
係数	現在\エンティティ 連結%
ディメンション	ソース POV
勘定科目	FCCS_Investment in Sub
会社間	#現在の親の子孫である任意のパートナー#
増減	FCCS_OpeningBalance
データ・ソース	FCCS_TotalDataSource のベース

表 18-12 投資 PP - 逆比例(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	継承済	
処理のオプション	減算	
ディメンション	ソース POV	
勘定科目	継承済	
会社間	継承済	

表 18-12 (続き) 投資 PP - 逆比例(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
増減	継承済	IF: 会社間出資比率%の変更 > 0 THEN: FCCS_Mvmt_Acquisition_Input ELSE: FCCS_Mvmt Disposal_Input
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

表 18-13 投資 PP - 営業権オフセット(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	継承済	
処理のオプション	加算	
ディメンション	ソース POV	
勘定科目	継承済	FCCS_Goodwill Offset
会社間	継承済	
増減	継承済 IF: 会社間出資比率%の変更 > 0	THEN: FCCS_Mvmt_Acquisition_Input ELSE: FCCS_Mvmt Disposal_Input
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

## 自己資本(子会社/比例)ルールセット

自己資本(子会社/比例)ルールセットは、3つのルール/仕訳詳細行で構成されます。

このルールセットは、現在の期間の出資比率%および少数株主持分%を、現在の利益剰余金およびその他の留保を除く、現在の期間の自己資本の変更に適用します。ここでは、現在の利益剰余金および合計包括利益を除く自己資本勘定科目の変更が取得前/処分前の変更であるとみなされ、現在の利益剰余金および包括利益の変更が取得後/処分後であることを前提としています。現行年度の取得前/処分前の利益剰余金を消去するには、現在の利益剰余金勘定科目から現在の利益剰余金の出資比率変更前の勘定科目に転送する必要があります。このルールセットは、(投資ルールセットから)子会社への投資とオフセットし、2つのルールセットが営業権オフセット勘定科目を決済勘定として使用します。

このルールの実行には、会社間データの入力が必要ありません。これは、最初の連結レベル(つまり、直属の親)で実行されます。

表 18-14 自己資本(子会社/比例) (ルールセット)

エントリ	説明
条件	資本の現在のメソッド = 子会社、比例および合計 データ・ソース <> 0
係数	なし
ディメンション	ソース POV
勘定科目	FCCS_Retained Earnings Current のベースを除く FCCS_Total Equity のベース、FCCS_Other Reserves のベース、FCCS_CTA
会社間	FCCS_Intercompany Top のベース
増減	FCCS_OpeningBalance を除く FCCS_ClosingBalance のベース
データ・ソース	FCCS_TotalDataSource のベース

表 18-15 自己資本(子会社/比例) - 逆比例(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	現在\エンティティ 連結%	
処理のオプション	減算	
ディメンション	ソース POV	
勘定科目	継承済	
会社間	継承済	
増減	継承済	
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

表 18-16 自己資本(子会社/比例) - 営業権オフセット(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	現在 / エンティティ 出資比率%	
処理のオプション	加算	
ディメンション	ソース POV	
勘定科目	継承済	FCCS_Goodwill Offset
会社間	継承済	IF: エンティティ = #法的会社# THEN: #ソース POV エンティティ#
増減	継承済	IF: 出資比率%の変更 > 0 THEN: FCCS_Mvmt_Acquisition_Input ELSE: FCCS_Mvmt_Disposal_Input
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

表 18-17 自己資本(子会社/比例) - 少数株主持分(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	現在 \ エンティティ 少数株主 持分%	
処理のオプション	加算	
ディメンション	<b>ソース POV</b>	
勘定科目	継承済	FCCS_Minority Interest
会社間	継承済	IF: エンティティ = #法的会社 # THEN: #ソース POV エンティ ティ#
増減	継承済	IF: 出資比率%の変更 > 0 THEN: FCCS_Mvmt_Acquisition_Inp ut ELSE: FCCS_Mvmt Disposal_Input
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

## 自己資本(子会社/比例) PP ルールセット

自己資本(子会社/比例)前期間ルールセットは、4 つのルール/仕訳詳細行で構成されます。

このルールセットは、前期間の末(具体的には現在の期間の期首残高)まで累積された自己資本に出資比率の変更を適用します。ここでは、被所有会社が適用対象内の継続的なエンティティであり、出資比率関係のみが変更されたことを前提としています。したがって、前期間の所有者のエンティティは、出資比率%が前期間から変更される範囲まで消去される必要があります。このルールセットは、(投資ルールセット)子会社への投資とオフセットし、2 つのルールセットが営業権オフセット勘定科目を決済勘定として使用します。

このルールの実行には、会社間データの入力はありません。これは、最初の連結レベル(つまり、直属の親)で実行されます。

表 18-18 自己資本(子会社/比例) PP (ルールセット)

エントリ	説明
条件	資本の現在のメソッド = 子会社、比例および合計データ・ソース <> 0 およびエンティティ 出資比率%の変更 <> 0
係数	なし
ディメンション	ソース POV
勘定科目	FCCS_Total Equity のベース
会社間	FCCS_Intercompany Top のベース
増減	FCCS_OpeningBalance



表 18-18 (続き) 自己資本(子会社/比例) PP (ルールセット)

エントリ	説明
データ・ソース	FCCS_TotalDataSource のベース

表 18-19 自己資本(子会社/比例) PP - 逆比例(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	変化 \ エンティティ 連結%	
処理のオプション	減算	
ディメンション	<b>ソース POV</b>	
勘定科目	継承済	
会社間	継承済	
増減	継承済	IF: 出資比率%の変更 > 0 THEN: FCCS_Mvmt_Acquisition_Input ELSE: FCCS_Mvmt Disposal_Input
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

表 18-20 自己資本(子会社/比例) PP - 営業権オフセット + (ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	変化 / エンティティ 連結%	
処理のオプション	加算	
ディメンション	<b>ソース POV</b>	
勘定科目	継承済	FCCS_Goodwill Offset
会社間	継承済	IF: エンティティ = #法的会社# THEN: #ソース POV エンティティ#
増減	継承済	IF: 出資比率%の変更 > 0 THEN: FCCS_Mvmt_Acquisition_Input ELSE: FCCS_Mvmt_Disposal_Input
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

表 18-21 自己資本(子会社/比例) PP - 営業権オフセット - (ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	変化 / エンティティ 少数株主 持分%	
処理のオプション	減算	
ディメンション	<b>ソース POV</b>	
勘定科目	継承済	FCCS_Goodwill Offset
会社間	継承済	IF: エンティティ = #法的会社 # THEN: #ソース POV エンティ ティ#
増減	継承済	IF: 出資比率%の変更 > 0 THEN: FCCS_Mvmt_Acquisition_Inp ut ELSE: FCCS_Mvmt_Disposal_Input
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

表 18-22 自己資本(子会社/比例) PP - 少数株主持分(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	変化 \ エンティティ 少数株主 持分%	
処理のオプション	加算	
ディメンション	<b>ソース POV</b>	
勘定科目	継承済	FCCS_Minority Interest
会社間	継承済	IF: エンティティ = #法的会社 # THEN: #ソース POV エンティ ティ#
増減	継承済	IF: 出資比率%の変更 > 0 THEN: FCCS_Mvmt_Acquisition_Inp ut ELSE: FCCS_Mvmt Disposal_Input
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

## 自己資本(資本)ルールセット

自己資本(資本)ルールセットは、2つのルール/仕訳詳細行で構成されます。

このルールセットは、現在の期間の出資比率%を、現在の利益剰余金を除く、現在の期間の自己資本の変更に適用します。ここでは、現在の利益剰余金を除く自己資本勘定科目の変更が取得前/処分前の変更であるとみなされ、現在の利益剰余金の変更が取得後/処分後であることを前提としています。現行年度の取得前/処分前の利益剰余金を消去するには、現在の利益剰余金勘定科目から現在の利益剰余金の出資比率変更前の勘定科目に転送する必要があります。

このルールセットは、(投資ルールセット)子会社への投資とオフセットし、2つのルールセットが営業権オフセット勘定科目を決済勘定として使用します。エントリの反対側は、資本会社内の投資を認識します。連結%がゼロであり、持分法会社に比例するものは何もないため、逆比例は行われません。

このルールの実行には、会社間データの入力はありません。これは、最初の連結レベル(つまり、直属の親)で実行されます。

**表 18-23 自己資本(資本) (ルールセット)**

エントリ	説明
条件	資本の現在のメソッド = 資本および合計データ・ソース <> 0
係数	現在 / エンティティ 出資比率%
ディメンション	ソース POV
勘定科目	FCCS_Retained Earnings Current のベースを除く FCCS_Total Equity のベース、FCCS_Other Reserves のベース、FCCS_CTA
会社間	FCCS_No Intercompany
増減	FCCS_OpeningBalance を除く FCCS_ClosingBalance のベース
データ・ソース	FCCS_TotalDataSource のベース

**表 18-24 自己資本 - 営業権オフセット(ルール)**

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	継承済	
処理のオプション	加算	
ディメンション	ソース POV	
勘定科目	継承済	FCCS_Goodwill Offset
会社間	継承済	#ソース POV エンティティ #
増減	継承済	IF: 出資比率%の変更 > 0 THEN: FCCS_Mvmt_Acquisition_Input ELSE: FCCS_Mvmt_Disposal_Input
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

表 18-25 自己資本 - 資本会社の投資(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	継承済	
処理のオプション	減算	
ディメンション	<b>ソース POV</b>	
勘定科目	継承済	FCCS_Investment in Equity Companies - Investment
会社間	継承済	#ソース POV エンティティ #
増減	継承済	IF: 出資比率%の変更 > 0 THEN: FCCS_Mvmt_Acquisition_Input ELSE: FCCS_Mvmt_Disposal_Input
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

## 自己資本(資本) PP ルールセット

自己資本(資本)前期間ルールセットは、2つのルール/仕訳詳細行で構成されます。

このルールセットは、前期間の末(具体的には現在の期間の期首残高)まで累積された自己資本に出資比率の変更を適用します。ここでは、被所有会社が適用対象内の継続的なエンティティであり、出資比率関係のみが変更されたことを前提としています。したがって、前期間の自己資本は、出資比率%が前期間から変更される範囲まで消去される必要があります。

このルールセットは、(投資ルールセットから)子会社への投資とオフセットし、2つのルールセットが営業権オフセット勘定科目を決済勘定として使用します。エントリの反対側は、資本会社内の投資を認識します。連結%がゼロであり、持分法会社に比例するものは何もないため、逆比例は行われません。

このルールの実行には、会社間データの入力が必要ありません。これは、最初の連結レベル(つまり、直属の親)で実行されます。

表 18-26 自己資本(資本) PP (ルールセット)

エントリ	説明
条件	資本の現在のメソッド = 資本および合計データ・ソース <> 0 およびエンティティ 出資比率%の変更 <> 0
係数	現在 / エンティティ 出資比率%
ディメンション	ソース POV
勘定科目	FCCS_Total Equity のベース
会社間	FCCS_Intercompany Top のベース
増減	FCCS_OpeningBalance
データ・ソース	FCCS_TotalDataSource のベース

表 18-27 自己資本 PP - 営業権オフセット(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	継承済	
処理のオプション	加算	
ディメンション	<b>ソース POV</b>	
勘定科目	継承済	FCCS_Goodwill Offset
会社間	継承済	#ソース POV エンティティ #
増減	継承済	IF: 出資比率%の変更 > 0 THEN: FCCS_Mvmt_Acquisition_Input ELSE: FCCS_Mvmt_Disposal_Input
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

表 18-28 自己資本 PP - 資本会社の投資(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	継承済	
処理のオプション	減算	
ディメンション	<b>ソース POV</b>	
勘定科目	継承済	FCCS_Investment in Equity Companies - Investment
会社間	継承済	#ソース POV エンティティ #
増減	継承済	IF: 出資比率%の変更 > 0 THEN: FCCS_Mvmt_Acquisition_Input ELSE: FCCS_Mvmt_Disposal_Input
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

## 自己資本(持株)ルールセット

自己資本(持株)ルールセットは、2つのルール/仕訳詳細行で構成されます。

このルールセットは、法的会社エンティティ名を自己資本勘定科目の会社間パートナー(ICP)エントリとして適用します。持株会社の自己資本は消去されませんが、持株会社はエンティティ階層の次のレベルで子会社になる可能性があります。次の親レベルで自己資本の消去のソースを認識するには、法的会社レベルで元のエンティティのラベルを ICP として取り込む必要があります。

このルールの実行には、会社間データの入力はありません。これは、最初の連結レベル(つまり、直属の親)で実行されます。

表 18-29 自己資本(持株) (ルールセット)

エントリ	説明
条件	資本の現在のメソッド = 持株および合計データ・ソース <> 0
係数	現在 / エンティティ 出資比率%
ディメンション	ソース POV
エンティティ	#法的会社#
勘定科目	FCCS_Retained Earnings Current のベースを除く、FCCS_Other Reserves のベース、FCCS_CTA
会社間	FCCS_No Intercompany
増減	FCCS_OpeningBalance を除く FCCS_ClosingBalance のベース
データ・ソース	FCCS_TotalDataSource のベース

表 18-30 自己資本 - 逆比例(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	継承済	
処理のオプション	減算	
ディメンション	ソース POV	
エンティティ	継承済	
勘定科目	継承済	
会社間	継承済	
増減	継承済	
データ・ソース	継承済	

表 18-31 自己資本 - ICP による比例(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	継承済	
処理のオプション	加算	
ディメンション	ソース POV	
エンティティ	継承済	
勘定科目	継承済	
会社間	継承済	#ソース POV エンティティ#
増減	継承済	
データ・ソース	継承済	

## 純利益(子会社)ルールセット

純利益(子会社)ルールセットは、2つのルール/仕訳詳細行で構成されます。

このルールセットは、所有者の株式と少数株主持分株式の間の子会社の継続的な取得後利益を分割します。このエントリは、少数株主持分%で損益計算書内の少数株主持分株式を分割し、エントリの反対側を少数株主持分資本勘定科目に記録します。純利益の未調整の残りの部分(出資比率%を表す金額)は、所有者の利益に集約されます。

このルールの実行には、会社間データの入力が必要ありません。これは、最初の連結レベル(つまり、直属の親)で実行されます。

**表 18-32 純利益(子会社) (ルールセット)**

エントリ	説明
条件	資本の現在のメソッド = 子会社および合計データ・ソース <> 0
係数	現在 / エンティティ 少数株主持分%
ディメンション	ソース POV
勘定科目	FCCS_Retained Earnings Current のベース、FCCS_Other Reserves のベース、FCCS_CTA
会社間	FCCS_Intercompany Top のベース
増減	FCCS_OpeningBalance を除く ILvl0Descendants([FCCS_ClosingBalance]のベース
データ・ソース	FCCS_TotalDataSource のベース

**表 18-33 純利益(子会社) - MI 純利益(ルール)**

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	継承済	
処理のオプション	減算	
ディメンション	ソース POV	
勘定科目	継承済	FCCS_Minority Interest Income
会社間	継承済	#ソース POV エンティティ #
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

**表 18-34 純利益(子会社) - 少数株主持分(ルール)**

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	継承済	
処理のオプション	加算	

表 18-34 (続き) 純利益(子会社) - 少数株主持分(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
ディメンション	ソース POV	
勘定科目	継承済	FCCS_Minority Interest
会社間	継承済	#ソース POV エンティティ #
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

## 純利益(資本)ルールセット

純利益(資本)ルールセットは、2つのルール/仕訳詳細行で構成されます。

このルールセットには、持分法会社の継続的な取得後利益が損益計算書の資本会社利益として記録され、投資のエントリの反対側が資本会社投資利益勘定科目として記録されます。この資本会社投資利益勘定科目(貸借対照表の非流動資産セクション内)は、法的会社レベルで記録された資本ピックアップとは区別されます。このエントリは資本ピックアップと同等ですが、法的会社のレポート・レベルではなく、連結レポート・レベルにあります。

このルールの実行には、会社間データの入力が必要ありません。これは、最初の連結レベル(つまり、直属の親)で実行されます。

表 18-35 純利益(資本) (ルールセット)

エントリ	説明
条件	資本の現在のメソッド = 資本および合計データ・ソース <> 0
係数	現在 / エンティティ 出資比率%
ディメンション	ソース POV
勘定科目	FCCS_Retained Earnings Current のベース、FCCS_Other Reserves のベース、FCCS_CTA
会社間	FCCS_Intercompany Top のベース
増減	FCCS_OpeningBalance を除く ILvl0Descendants([FCCS_ClosingBalance]のベース
データ・ソース	FCCS_TotalDataSource のベース

表 18-36 純利益(資本) - 資本会社利益(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	継承済	
処理のオプション	加算	
ディメンション	ソース POV	
勘定科目	継承済	FCCS_Equity Company Income



表 18-36 (続き) 純利益(資本) - 資本会社利益(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
会社間	継承済	#ソース POV エンティティ #
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

表 18-37 純利益(資本) - 資本会社利益の投資(ルール)

エントリ	説明	リダイレクション・ターゲット・メンバー
条件	継承済	
係数	継承済	
処理のオプション	減算	
ディメンション	ソース POV	
勘定科目	継承済	FCCS_Investment in Equity Companies - Income
会社間	継承済	#ソース POV エンティティ #
データ・ソース	継承済	FCCS_Intercompany Eliminations

## シード済連結ルールの例

### Key to references:

At Parent Currency (colour-coded): [Translation](#), [Opening Balance FX](#), [Movement FX](#), [FX to CTA/CICTA](#)

At Proportion: [\(A\): Proportionalization](#)  
[\(B\): Opening Balance Ownership Change](#)

At Elimination: [\(1\): Investment](#)  
[\(2\): Investment PP](#)  
[\(3\): Owner's Equity \(Subsidiary / Proportional\)](#)  
[\(4\): Owner's Equity \(Subsidiary / Proportional\) PP](#)  
[\(5\): Owner's Equity \(Equity\)](#)  
[\(6\): Owner's Equity \(Equity\) PP](#)  
[\(7\): Owner's Equity \(Holding\)](#)  
[\(8\): Net Income \(Subsidiary\)](#)  
[\(9\): Net Income \(Equity\)](#)

次の例に表示されているデータは、正数を使用して借方エントリを表し、負数を使用して貸方エントリを表しています。これにより、例での計算がメタデータ属性を参照せずに理解しやすくなり、メタデータの勘定科目タイプと連結演算子に関係なく有効になります。

普通株式勘定科目に表示される負のエントリは、実際には、普通株式が資本タイプ勘定科目であるアプリケーションに正数としてロードされます。資本タイプ勘定科目の貸方は正数で表されるため、例に負数で表されている普通株式の貸方残高は、正の金額としてアプリケーションにロードされます。

## シード済連結ルール - 例(1月)

### Jan FY16

All entities are initialized in Jan FY16, including Net Income. The Holding company does not own any subsidiaries at this point. The balancing entry in all cases is Cash.

#### CE-0012-USD

__ LE-0012-USD	Holding (100%)
__ LE-0014-CAD	Not Consolidated (0%)
__ LE-0016-BRL	Not Consolidated (0%)
__ LE-0017-GBP	Not Consolidated (0%)
__ LE-0018-EUR	Not Consolidated (0%)

Exchange Rates and transactions are as follows:

EUR : USD = 1:1

CAD/BRL/GBP : USD/EUR = 0.5 (Average Rate) and 0.6 (Ending Rate)

LE-0012-USD	Cash	300,500
	Investment in Sub	0
	Common Stock	300,000
	Revenue	500
LE-0014-CAD	Cash	177,000
	Common Stock	175,000
	Revenue	2,000
LE-0016-BRL	Cash	151,000
	Common Stock	150,000
	Revenue	1,000
LE-0017-GBP	Cash	203,000
	Common Stock	200,000
	Revenue	3,000
LE-0018-EUR	Cash	105,000
	Common Stock	100,000
	Revenue	5,000

The results at CE-0012-USD are expected to be the same as at LE-0012-USD with no other aggregation from the Not Consolidated entities.

Entity Total / Entity Currency	Jan	LE-0012-USD	LE-0014-CAD	LE-0016-BRL	LE-0017-GBP	LE-0018-EUR
Cash	OB	0	0	0	0	0
	Mvmt	+300,500	+177,000	+151,000	+203,000	+105,000
	CB	+300,500	+177,000	+151,000	+203,000	+105,000
Common Stock	OB	0	0	0	0	0
	Mvmt	-300,000	-175,000	-150,000	-200,000	-100,000
	CB	-300,000	-175,000	-150,000	-200,000	-100,000
Retained Earnings Current	OB	0	0	0	0	0
	Mvmt	-500	-2,000	-1,000	-3,000	-5,000
	CB	-500	-2,000	-1,000	-3,000	-5,000

Entity Total / Parent Currency		Jan	LE-0012-USD	LE-0014-CAD	LE0-0016-BRL	LE-0017-GBP	LE-0018-EUR
Cash	OB		0	0	0	0	0
	Mvmt		+300,500	+106,200	+90,600	+121,800	+105,000
	CB		+300,500	+106,200	+90,600	+121,800	+105,000
Common Stock	OB		0	0	0	0	0
	Mvmt		-300,000	-87,500	-75,000	-100,000	-100,000
	CB		-300,000	-87,500	-75,000	-100,000	-100,000
Retained Earnings Current	OB		0	0	0	0	0
	Mvmt		-500	-1,000	-500	-1,500	-5,000
	CB		-500	-1,000	-500	-1,500	-5,000
CTA	OB			0	0	0	
	Mvmt			-17,700	-15,100	-20,300	
	CB			-17,700	-15,100	-20,300	

Proportion		Jan	LE-0012-USD	LE-0014-CAD	LE0-0016-BRL	LE-0017-GBP	LE-0018-EUR
Cash	OB		0				
	Mvmt		+300,500 (A)				
	CB		+300,500				
Common Stock	OB		0				
	Mvmt		-300,000 (A)				
	CB		-300,000				
Retained Earnings Current	OB		0				
	Mvmt		-500 (A)				
	CB		-500				

Elimination		Jan	LE-0012-USD	LE-0014-CAD	LE0-0016-BRL	LE-0017-GBP	LE-0018-EUR
Common Stock	OB		0				
	Mvmt		+300,000				
	CB		+300,000				
Common Stock: LE-0012	OB		0				
	Mvmt		-300,000				
	CB		-300,000				

<b>Contribution</b>	<b>Jan</b>	LE-0012-USD	LE-0014-CAD	LE0-0016-BRL	LE-0017-GBP	LE-0018-EUR
Cash	OB	0				
	Mvmt	+300,500				
	CB	+300,500				
Common Stock	OB					
	Mvmt					
	CB					
Common Stock: LE-0012	OB	0				
	Mvmt	-300,000				
	CB	-300,000				
Retained Earnings Current	OB	0				
	Mvmt	-500				
	CB	-500				

<b>Entity Consolidation</b>	<b>Jan</b>	CE-0012-USD
Cash	OB	0
	Mvmt	+300,500
	CB	+300,500
Common Stock	OB	0
	Mvmt	0
	CB	0
Common Stock: LE-0012	OB	0
	Mvmt	-300,000
	CB	-300,000
Retained Earnings Current	OB	0
	Mvmt	-500
	CB	-500

## シード済連結ルール - 例(2月)

Feb FY16

The Holding company (LE-0012-USD) purchases a share of each of the siblings in Feb FY16, creating Investment in Subs. The balancing entry in all cases is Cash.

	Jan FY16	Feb FY16
CE-0012-USD		
___ LE-0012-USD	Holding (100%)	Holding (100%)
___ LE-0014-CAD	Not Consolidated (0%)	Subsidiary (80%)
___ LE-0016-BRL	Not Consolidated (0%)	Proportional (50%)
___ LE-0017-GBP	Not Consolidated (0%)	Equity (30%)
___ LE-0018-EUR	Not Consolidated (0%)	Not Consolidated (10%)

Exchange Rates and transactions are as follows:

EUR : USD = 1:1

CAD/BRL/GBP : USD/EUR = 0.7 (Average Rate) and 0.8 (Ending Rate)

LE-0012-USD	Cash	(206,300)
	Investment in Sub – LE-0014-CAD	98,960
	Investment in Sub – LE-0016-BRL	62,800
	Investment in Sub – LE-0014-GBP	36,540
	Investment in Sub – LE-0014-EUR	9,000
	Common Stock	0
	Revenue	1,000
LE-0014-CAD	Cash	28,000
	Common Stock	25,000
	Revenue	3,000
LE-0016-BRL	Cash	52,000
	Common Stock	50,000
	Revenue	2,000
LE-0017-GBP	Cash	500
	Common Stock	0
	Revenue	500
LE-0018-EUR	Cash	105,000
	Common Stock	100,000
	Revenue	5,000

The results at CE-0012-USD are expected to reflect 100% consolidation of LE-0012-USD plus 100% of LE-0014-CAD (in USD) with 20% MI, plus 50% of LE-0016-BRL (in USD), plus equity method recognition of 30% of LE-0017-GBP (in USD).

Entity Total / Entity Currency	Feb	LE-0012-USD	LE-0014-CAD	LE0-0016-BRL	LE-0017-GBP	LE-0018-EUR
Cash	OB	+300,500	+177,000	+151,000	+203,000	+105,000
	Mvmt	-206,300	+28,000	+52,000	+500	+105,000
	CB	+94,200	+205,000	+203,000	+203,500	+210,000
Investment In Subs: LE-0014	OB	0				
	Mvmt	+98,960				
	CB	+98,960				
Investment In Subs: LE-0016	OB	0				
	Mvmt	+62,800				
	CB	+62,800				
Investment In Subs: LE-0017	OB	0				
	Mvmt	+36,540				
	CB	+36,540				
Investment In Subs: LE-0018	OB	0				
	Mvmt	+9,000				
	CB	+9,000				
Common Stock:	OB	-300,000	-175,000	-150,000	-200,000	-100,000
	Mvmt	0	-25,000	-50,000	0	-100,000
	CB	-300,000	-200,000	-200,000	-200,000	-200,000
Retained Earnings Current	OB	-500	-2,000	-1,000	-3,000	-5,000
	Mvmt	-1,000	-3,000	-2,000	-500	-5,000
	CB	-1,500	-5,000	-3,000	-3,500	-10,000

Entity Total / Parent Currency	Feb	LE-0012-USD	LE-0014-CAD	LEO-0016-BRL	LE-0017-GBP	LE-0018-EUR
Cash	OB	+300,500	+106,200	+90,600	+121,800	+105,000
	Mvmt	-260,300	+57,800	+71,800	+41,000	+105,000
			+28,000*0.7 +{[177,000*0.8] -106,200 +{[28,000*0.8] -19,600	+52,000*0.7 +{[151,000*0.8] -90,600 +{[52,000*0.8] -36,400	+500*0.7 +{[203,000*0.8] -121,800 +{[500*0.8] -350	
	CB	+94,200	+164,000	+162,400	+162,800	+210,000
Investment In Subs: LE-0014	OB	0				
	Mvmt	+98,960				
	CB	+98,960				
Investment In Subs: LE-0016	OB	0				
	Mvmt	+62,800				
	CB	+62,800				
Investment In Subs: LE-0017	OB	0				
	Mvmt	+36,540				
	CB	+36,540				
Investment In Subs: LE-0018	OB	0				
	Mvmt	+9,000				
	CB	+9,000				
Common Stock	OB	-300,000	-87,500	-75,000	-100,000	-100,000
	Mvmt	0	-17,500	-35,000	0	-100,000
			-25,000*0.7 +{[-175,000*0.8] +87,500 +{[-25,000*0.8] +17,500 +55,000	-50,000*0.7 +{[-150,000*0.8] +75,000 +{[-50,000*0.8] +35,000 +50,000	- +{[-200,000*0.8] +100,000 +60,000	
	CB	-300,000	-105,000	-110,000	-100,000	-200,000
Retained Earnings Current	OB	-500	-1,000	-500	-1,500	-5,000
	Mvmt	-1,000	-2,100	-1,400	-350	-5,000
			-3,000*0.7 +{[-2,000*0.8] +1,000 +{[-3,000*0.8] +2,100 +900	-2,000*0.7 +{[-1,000*0.8] +500 +{[-2,000*0.8] +1,400 +500	-500*0.7 +{[-3,000*0.8] +1,500 +{[-500*0.8] +350 +950	
	CB	-1,500	-3,100	-1,900	-1,850	-10,000
CTA	OB		-17,700	-15,100	-20,300	
	Mvmt		-38,200	-35,400	-40,650	
			+{[0*0.8] -17,700 -55,000 -900	+{[0*0.8] +15,100 -50,000 -900	+{[0*0.8] +20,300 -60,000 -950	
	CB		-55,900	-50,500	-60,950	

Proportion	Feb	LE-0012-USD	LE-0014-CAD	LE0-0016-BRL	LE-0017-GBP	LE-0018-EUR
Cash	OB	+300,500	0	0		
	Mvmt	-206,300 -206,300*100% (A)	+57,800 +57,800*100% (A) +106,200 +106,200*100% (B)	+35,900 +71,800*50% (A) +45,300 +90,600*50% (B)		
	CB	+94,200	+164,000	+81,200		
Investment In Subs: LE-0014	OB	+0				
	Mvmt	+98,960 +98,960*100% (A)				
	CB	+98,960				
Investment In Subs: LE-0016	OB	+0				
	Mvmt	+62,800 +62,800*100% (A)				
	CB	+62,800				
Investment In Subs: LE-0017	OB	+0				
	Mvmt	+36,540 +36,540*100% (A)				
	CB	+36,540				
Investment In Subs: LE-0018	OB	+0				
	Mvmt	+9,000 +9,000*100% (A)				
	CB	+9,000				
Common Stock	OB	-300,000	0	0		
	Mvmt		-105,000 -17,500*100% (A) -87,500*100% (B)	-55,000 -35,000*50% (A) -75,000*50% (B)		
	CB	-300,000	-105,000	-55,000		
Retained Earnings Current	OB	-500	0	0		
	Mvmt	-1,000 -1,000*100% (A)	-3,100 -2,100*100% (A) -1,000*100% (B)	-950 -1,400*50% (A) -500*50% (B)		
	CB	-1,500	-3,100	-950		
CTA	OB		0	0		
	Mvmt		-55,900 -38,200*100% (A) -17,700*100% (B)	-25,250 -35,400*50% (A) -15,100*50% (B)		
	CB		-55,900	-25,250		



Elimination	Feb	LE-0012-USD	LE-0014-CAD	LE0-0016-BRL	LE-0017-GBP	LE-0018-EUR
Cash	OB					
	Mvmt					
	CB					
Goodwill Offset: LE-0014	OB	+0	0			
	Mvmt	+98,960 +98,960*100% (1)	-98,960 -17,500*+80% (3) -87,500*+80% (4) -1,000*+80% (4) -17,700*+80% (4)			
	CB	+98,960	-98,960			
Goodwill Offset: LE-0016	OB	+0		0		
	Mvmt	+62,800 +62,800*100% (1)		-62,800 -35,000*50% (3) -75,000*50% (4) -15,100*50% (4) -500*50% (4)		
	CB	+62,800		-62,800		
Goodwill Offset: LE-0017	OB	+0			+0	
	Mvmt	+36,540 +36,540*100% (1)			-36,540 -100,000*30% (6) -1,500*30% (6) -20,300*30% (6)	
	CB	+36,540			-36,540	
Investment In Subs: LE-0014	OB	+0				
	Mvmt	-98,960 -98,960*-100% (1)				
	CB	-98,960				
Investment In Subs: LE-0016	OB	+0				
	Mvmt	-62,800 -62,800*-100% (1)				
	CB	-62,800				
Investment In Subs: LE-0017	OB	+0				
	Mvmt	-36,540 -36,540*-100% (1)				
	CB	-36,540				
Investment In Equity Co: LE-0017	OB				+0	
	Mvmt				+48,840 -100,000*-30% (6) -1,500*-30% (6) -20,300*-30% (6) -350*-30% (9) -40,650*-30% (9)	
	CB				+48,840	
Common Stock	OB	+300,000	0	0		
	Mvmt		+105,000 -87,500*-100% (3) -17,500*-100% (4)	+55,000 -35,000*-50% (2) -75,000*-50% (8)		
	CB	+300,000	+105,000	+55,000		
Common Stock: LE-0012	OB	-300,000				
	Mvmt					
	CB	-300,000				

Elimination	Feb	LE-0012-USD	LE-0014-CAD	LE0-0016-BRL	LE-0017-GBP	LE-0018-EUR
Retained Earnings Current	OB		0	0	+0	
	Mvmt		+9,060 -1,000*-100% (4) -2,100*-20% (8) -38,200*-20% (8)	250 -500*50% (4)	-12,300 -350*30% (9) -40,650*30% (9)	
	CB		+9,060	250	-12,300	
CTA	OB		0	0		
	Mvmt		17,700 -17,700*-100% (4)	7,550 -15,100*-50% (4)		
	CB		17,700	7,550		
Minority Interest	OB		0			
	Mvmt		-32,800 -17,500*20% (3) -87,500*20% (4) -1,000*20% (4) -17,700*20% (4) -2,100*20% (8) -38,200*20% (8)			
	CB		-32,800	0		

Contribution	Feb	LE-0012-USD	LE-0014-CAD	LE0-0016-BRL	LE-0017-GBP	LE-0018-EUR
Cash	OB	+300,500	0	0		
	Mvmt	-206,300	+164,000	+81,200		
	CB	+94,200	+164,000	+81,200		
Goodwill Offset: LE-0014	OB	0	0			
	Mvmt	+98,960	-98,960			
	CB	+98,960	-98,960			
Goodwill Offset: LE-0016	OB	0		0		
	Mvmt	+62,800		-62,800		
	CB	+62,800		-62,800		
Goodwill Offset: LE-0017	OB	0			0	
	Mvmt	+36,540			-36,540	
	CB	+36,540			-36,540	
Investment In Subs: LE-0014	OB	0				
	Mvmt	0				
	CB	0				
Investment In Subs: LE-0016	OB	0				
	Mvmt	0				
	CB	0				
Investment In Subs: LE-0017	OB	0				
	Mvmt	0				
	CB	0				
Investment In Subs: LE-0018	OB	+0				
	Mvmt	+9,000				
	CB	+9,000				
Investment In Equity Co: LE-0017	OB				0	
	Mvmt				+48,840	
	CB				+48,840	
Common Stock	OB	0	0	0		
	Mvmt	0	0	0		
	CB	0	0	0		
Common Stock: LE-0012	OB	-300,000				
	Mvmt	0				
	CB	-300,000				
Retained Earnings Current	OB	-500	0	0	0	
	Mvmt	-1,000	+5,960	-700	-12,300	
	CB	-1,500	+5,960	-700	-12,300	
CTA	OB		0	0		
	Mvmt		-38,200	-17,700		
	CB		-38,200	-17,700		
Minority Interest	OB		0			
	Mvmt		-32,800			
	CB		-32,800			

Entity Consolidation	Feb	CE-0012-USD
Cash	OB	+300,500
	Mvmt	+38,900
	CB	+339,400
Goodwill Offset	OB	0
	Mvmt	0
	CB	0
Investment In Subs: LE-0018	OB	0
	Mvmt	+9,000
	CB	+9,000
Investment In Equity Co: LE-0017	OB	0
	Mvmt	+48,840
	CB	+48,840
Common Stock	OB	0
	Mvmt	0
	CB	0
Common Stock: LE-0012	OB	-300,000
	Mvmt	0
	CB	-300,000
Retained Earnings Current	OB	-500
	Mvmt	-8,040
	CB	-8,540
CTA	OB	0
	Mvmt	-55,900
	CB	-55,900
Minority Interest	OB	0
	Mvmt	-32,800
	CB	-32,800

## シード済連結ルール - 例(3月)

Mar FY16

The Holding company (LE-0012-USD) purchases a further 40% share of LE-0018-EUR and disposes 5% of LE-0014-CAD in Mar FY16. All entities earn Net Income. The balancing entry in all cases is Cash.

	Feb FY16	Mar FY16
CE-0012-USD		
__ LE-0012-USD	Holding (100%)	Holding (100%)
__ LE-0014-CAD	Subsidiary (80%)	Subsidiary (75%)
__ LE-0016-BRL	Proportional (50%)	Proportional (50%)
__ LE-0017-GBP	Equity (30%)	Equity (30%)
__ LE-0018-EUR	Not Consolidated (10%)	Subsidiary (60%)

Exchange Rates and transactions are as follows:

EUR : USD = 1:1

CAD/BRL/GBP : USD/EUR = 0.75 (Average Rate) and 0.7 (Ending Rate)

LE-0012-USD	Cash	41,200
	Investment in Sub – LE-0014-CAD	(8,200)
	Investment in Sub – LE-0018-GBP	117,000
	Revenue	150,000
LE-0014-CAD	Cash	5,000
	Revenue	5,000
LE-0016-BRL	Cash	1,000
	Revenue	1,000
LE-0017-GBP	Cash	1,000
	Revenue	1,000
LE-0018-EUR	Cash	10,000
	Revenue	10,000

The results at CE-0012-USD are expected to reflect 100% consolidation of LE-0012-USD plus 100% of LE-0014-CAD (in USD) with 25% MI, plus 50% of LE-0016-BRL (in USD), plus equity method recognition of 30% of LE-0017-GBP (in USD) plus 100% of LE-0018-EUR (in USD) with 40% MI.

Entity Total / Entity Currency	Mar	LE-0012-USD	LE-0014-CAD	LE-0016-BRL	LE-0017-GBP	LE-0018-EUR
Cash	OB	+94,200	+205,000	+203,000	+203,500	+210,000
	Mvmt	+41,200	+5,000	+1,000	+1,000	+10,000
	CB	+135,400	+210,000	+204,000	+204,500	+220,000
Investment in Subs: LE-0014	OB	+98,960				
	Mvmt	-8,200				
	CB	+90,760				
Investment in Subs: LE-0016	OB	+62,800				
	Mvmt	0				
	CB	+62,800				
Investment in Subs: LE-0017	OB	+36,540				
	Mvmt	0				
	CB	+36,540				
Investment in Subs: LE-0018	OB	+9,000				
	Mvmt	+117,000				
	CB	+126,000				
Common Stock:	OB	-300,000	-200,000	-200,000	-200,000	-200,000
	Mvmt	0	0	0	0	0
	CB	-300,000	-200,000	-200,000	-200,000	-200,000
Retained Earnings Current	OB	-1,500	-5,000	-3,000	-3,500	-10,000
	Mvmt	-150,000	-5,000	-1,000	-1,000	-10,000
	CB	-151,500	-10,000	-4,000	-4,500	-20,000

Entity Total / Parent Currency	Mar	LE-0012-USD	LE-0014-CAD	LE0-0016-BRL	LE-0017-GBP	LE-0018-EUR
Cash	OB	+94,200	+164,000	+162,400	+162,800	+210,000
	Mvmt	+41,200	-17,000	-19,600	-19,650	+10,000
			+5,000*0.75 +((205,000*0.7) -164,000)	+1,000*0.75 +((203,000*0.7) -162,400)	+1,000*0.75 +((203,500*0.7) -162,800)	
	CB	+135,400	+147,000	+142,800	+143,150	+220,000
Investment In Subs: LE-0014	OB	+98,960				
	Mvmt	-8,200				
	CB	+90,760				
Investment In Subs: LE-0016	OB	+62,800				
	Mvmt	0				
	CB	+62,800				
Investment In Subs: LE-0017	OB	+36,540				
	Mvmt	0				
	CB	+36,540				
Investment In Subs: LE-0018	OB	+9,000				
	Mvmt	+117,000				
	CB	+126,000				
Common Stock	OB	-300,000	-105,000	-110,000	-100,000	-200,000
	Mvmt	0	0	0	0	0
			+((-200,000*0.7) +105,000 +35,000)	+((-200,000*0.7) +110,000 +30,000)	+((-200,000*0.7) +100,000 +40,000)	
	CB	-300,000	-105,000	-110,000	-100,000	-200,000
Retained Earnings Current	OB	-1,500	-3,100	-1,900	-1,850	-10,000
	Mvmt	-150,000	-3,750	-750	-750	-10,000
			-5,000*0.75 +((-5,000*0.7) +3,100)	-1,000*0.75 +((-3,000*0.7) +1,900)	-1,000*0.75 +((-3,500*0.7) +1,850)	
			+((-5,000*0.7) +3,750 +150)	+((-1,000*0.7) +750 +150)	+((-1,000*0.7) +750 +550)	
	CB	-151,500	-6,850	-2,650	-2,600	-20,000
CTA	OB		-55,900	-50,500	-60,950	
	Mvmt		+20,750	+20,350	+20,400	
			+((0*0.7) +55,900 -35,000 -150)	+((0*0.7) +50,500 -30,000 -150)	+((0*0.7) +60,950 -40,000 -550)	
	CB		-35,150	-30,150	-40,550	

Proportion	Mar	LE-0012-USD	LE-0014-CAD	LE0-0016-BRL	LE-0017-GBP	LE-0018-EUR
Cash	OB	+94,200	+164,000	+81,200		0
	Mvmt	+41,200 +41,200*100% (A)	-17,000 -17,000*100% (A)	-9,800 -19,600*50% (A)		+220,000 +10,000*100% (A) +210,000*100% (B)
	CB	+135,400	+147,000	+71,400		+220,000
Investment In Subs: LE-0014	OB	+98,960				
	Mvmt	-8,200 -8,200*100% (A)				
	CB	+90,760				
Investment In Subs: LE-0016	OB	+62,800				
	Mvmt	0				
	CB	+62,800				
Investment In Subs: LE-0017	OB	+36,540				
	Mvmt	0				
	CB	+36,540				
Investment In Subs: LE-0018	OB	+9,000				
	Mvmt	+117,000 +117,000*100% (A)				
	CB	+126,000				
Common Stock	OB	-300,000	-105,000	-55,000		
	Mvmt					-200,000 -200,000*100% (B)
	CB	-300,000	-105,000	-55,000		-200,000
Retained Earnings Current	OB	-1,500	-3,100	-950		0
	Mvmt	-150,000 -150,000*100% (A)	-3,750 -3,750*100% (A)	-375 -750*50% (A)		-20,000 -10,000*100% (A) -10,000*100% (B)
	CB	-151,500	-6,850	-1,325		-20,000
CTA	OB		-55,900	-25,250		
	Mvmt		+20,750 +20,750*100% (A)	+10,175 -20,350*50% (A)		
	CB		-35,150	-15,075		

Elimination	Mar	LE-0012-USD	LE-0014-CAD	LE0-0016-BRL	LE-0017-GBP	LE-0018-EUR
Cash	OB					
	Mvmt					
	CB					
Goodwill Offset: LE-0014	OB	+98,960	-98,960			
	Mvmt	-8,200 -8,200*100% (1)	+8,200 -105,000*-5% (4) -3,100*-5% (4) -55,900*-5% (4)			
	CB	+90,760	-90,760			
Goodwill Offset: LE-0016	OB	+62,800		-62,800		
	Mvmt	0		0		
	CB	+62,800		-62,800		
Goodwill Offset: LE-0017	OB	+36,540			-36,540	
	Mvmt	0			0	
	CB	+36,540			-36,540	
Goodwill Offset: LE-0018	OB	0				0
	Mvmt	+126,000 +117,000*100% (1) +9,000*100% (2)				-126,000 -200,000*-60% (4) -10,000*-60% (4)
	CB	+126,000				-126,000
Investment In Subs: LE-0014	OB	-98,960				
	Mvmt	+8,200 -8,200*-100% (1)				
	CB	-90,760				
Investment In Subs: LE-0016	OB	-62,800				
	Mvmt	0				
	CB	-62,800				
Investment In Subs: LE-0017	OB	-36,540				
	Mvmt	0				
	CB	-36,540				
Investment In Subs: LE-0018	OB	0				
	Mvmt	-126,000 +117,000*-100% (1) +9,000*-100% (2)				
	CB	-126,000				
Investment In Equity Co: LE-0017	OB				+48,840	
	Mvmt				-5,895 -750*30% (9) +20,400*30% (9)	
	CB				+42,945	
Common Stock	OB	+300,000	+105,000	+55,000		0
	Mvmt		0	0		+200,000 -200,000*-100% (4)
	CB	+300,000	+105,000	+55,000		+200,000
Common Stock: LE-0012	OB	-300,000				
	Mvmt					
	CB	-300,000				

<b>Elimination</b>	<b>Mar</b>	LE-0012-USD	LE-0014-CAD	LE0-0016-BRL	LE-0017-GBP	LE-0018-EUR
Retained Earnings Current	OB		<b>+9,060</b>	<b>+250</b>	<b>-12,300</b>	<b>0</b>
	Mvmt		-4,250 -3,750*25% (8) +20,750*25% (8)	0	-5,895 -750*30% (9) +20,400*30% (9)	+14,000 -10,000*-100% (4) -10,000*-40% (8)
	CB		<b>+4,810</b>	<b>+250</b>	<b>-6,405</b>	<b>+14,000</b>
CTA	OB		<b>+17,700</b>	<b>+7,550</b>		
	Mvmt		0	0		
	CB		<b>+17,700</b>	<b>+7,550</b>		
Minority Interest	OB		<b>-32,800</b>			<b>0</b>
	Mvmt		-3,950 -105,000*5% (4) -3,100*5% (4) -55,900*5% (4) -3,750*25% (8) +20,750*25% (8)			-88,000 -200,000*40% (4) -10,000*40% (4) -10,000*40% (8)
	CB		<b>-36,750</b>			<b>-88,000</b>



<b>Contribution</b>	<b>Mar</b>	LE-0012-USD	LE-0014-CAD	LE0-0016-BRL	LE-0017-GBP	LE-0018-EUR
Cash	OB	+94,200	+164,000	+81,200		0
	Mvmt	+41,200	-17,000	-9,800		+220,000
	CB	+135,400	+147,000	+71,400		+220,000
Goodwill Offset: LE-0014	OB	+98,960	-98,960			
	Mvmt	-8,200	+8,200			
	CB	+90,760	-90,760			
Goodwill Offset: LE-0016	OB	+62,800		-62,800		
	Mvmt	0		0		
	CB	+62,800		-62,800		
Goodwill Offset: LE-0017	OB	+36,540			-36,540	
	Mvmt	0			0	
	CB	+36,540			-36,540	
Goodwill Offset: LE-0018	OB	0				0
	Mvmt	+126,000				-126,000
	CB	+126,000				-126,000
Investment In Subs: LE-0014	OB	0				
	Mvmt	0				
	CB	0				
Investment In Subs: LE-0016	OB	0				
	Mvmt	0				
	CB	0				
Investment In Subs: LE-0017	OB	0				
	Mvmt	0				
	CB	0				
Investment In Subs: LE-0018	OB	+9,000				
	Mvmt	-9,000				
	CB	0				
Investment In Equity Co: LE-0017	OB				+48,840	
	Mvmt				-5,895	
	CB				+42,945	
Common Stock	OB		0	0		0
	Mvmt		0	0		0
	CB		0	0		0
Common Stock: LE-0012	OB	-300,000				
	Mvmt	0				
	CB	-300,000				
Retained Earnings Current	OB	-1,500	+5,960	-700	-12,300	0
	Mvmt	-150,000	-8,000	-375	+5,895	-6,000
	CB	-151,500	-2,040	-1,075	-6,405	-6,000
CTA	OB		-38,200	-17,700		
	Mvmt		+20,750	+10,175		
	CB		-17,450	-7,525		
Minority Interest	OB		-32,800			0
	Mvmt		-3,950			-88,000
	CB		-36,750			-88,000

Entity Consolidation	Mar	CE-0012-USD
Cash	OB	+339,400
	Mvmt	+234,400
	CB	+573,800
Goodwill Offset	OB	0
	Mvmt	0
	CB	0
Investment In Subs: LE-0018	OB	+9,000
	Mvmt	-9,000
	CB	0
Investment In Equity Co: LE-0017	OB	+48,840
	Mvmt	-5,895
	CB	+42,945
Common Stock	OB	0
	Mvmt	0
	CB	0
Common Stock: LE-0012	OB	-300,000
	Mvmt	0
	CB	-300,000
Retained Earnings Current	OB	-8,540
	Mvmt	-158,480
	CB	-167,020
CTA	OB	-55,900
	Mvmt	+30,925
	CB	-24,975
Minority Interest	OB	-32,800
	Mvmt	-91,950
	CB	-124,750

## 構成可能な連結ルールのパフォーマンスの最適化

### ノート:

パフォーマンスの問題を解決するためのこのアプローチは、密ストレージ・オプション(DSO)アプリケーションには適用できません。

密ストレージ・オプション・アプリケーションの場合は、手動のアプローチを使用してパフォーマンスの問題を解決できます。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイドのパフォーマンスの問題を解決するための手動のアプローチ*を参照してください。

構成可能な連結ルールを実行するときに、自動アプローチを使用してパフォーマンスを最適化できます。このアプローチは連結の一部として実装され、次のステップが含まれます。

- 「システム勘定科目の作成」構成タスクの実行
- `optimizeConfigConsol` 代替変数の設定

### 「システム勘定科目の作成」構成タスクの実行

「システム勘定科目の作成」構成タスクの実行の過程で、**Financial Consolidation and Close** は、**FCCS\_System Accounts** の下に次の一時システム勘定科目メンバーを作成します。

- `FCCS_ConsolAccount1`
- `FCCS_ConsolAccount2`

これらの一時勘定科目は、連結プロセスの過程で内部的に使用されます。これらの勘定科目のデータ・ストレージ・タイプは、「共有しない」に設定する必要があります。

`FCCS_ConsolAccount1` の場合、勘定科目タイプは「資産」である必要があります、`FCCS_ConsolAccount2` の場合、勘定科目タイプは「収益」である必要があります。

構成タスクはまた、データベースのリフレッシュ・プロセスを自動的に実行します。

これは、計算のスコープを制限し、パフォーマンスを増大させることができるため、ソース・メンバーが多数ある場合に役立ちます。

構成可能な連結ルールのパフォーマンスを最適化するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックします。
2. **システム勘定科目の作成**をクリックします。
3. **システム勘定科目の作成**画面で、「**起動**」をクリックします。
4. タスクはジョブとして起動され、データの量によっては実行に長時間かかる場合があります。「ジョブ」コンソールでステータスを参照できます。

### `optimizeConfigConsol` 代替変数の設定

パフォーマンス問題を解決するための自動アプローチを有効にするには、`optimizeConfigConsol` という代替変数を作成して、値を `True` に設定します。[代替変数の作成および値の割当て](#)を参照してください。

# 19

## ルールของการ操作

### 次も参照:

- [連結および換算ルール](#)  
Financial Consolidation and Close には、連結と換算を処理するための組込みの計算スクリプトがあります。
- [ビジネス・ルールの選択](#)
- [ルールの使用状況の表示](#)
- [計算の表示の無効化](#)
- [計算の表示の更新](#)
- [予測連結時間の表示](#)
- [「累計ビューの保管の管理」オプションの使用](#)
- [Financial Consolidation and Close の取得パフォーマンスのトラブルシューティング](#)
- [上書き換算ルールの操作](#)
- [構成可能な計算の操作](#)
- [エクイティ・ピックアップの概要](#)
- [オンデマンド・ルールの操作](#)
- [Essbase 計算スクリプトの操作](#)
- [サポートされている Essbase 関数](#)
- [Financial Consolidation and Close のカスタム関数](#)
- [Groovy ルールの使用](#)

## 連結および換算ルール

Financial Consolidation and Close には、連結と換算を処理するための組込みの計算スクリプトがあります。

また、一部の標準計算プロセス用の組込みのスクリプトおよびメンバー式もあります。次のルールがデフォルトで用意されています。

- ClearEmptyBlocks
- ComputeRates
- 連結
- Consolidate – 選択されたビューによる(「累計ビューの保管の管理」が有効な場合)。「[累計ビューの保管の管理](#)」オプションの使用を参照してください。
- DataLoad\_PreProcess\_Consol
- DataLoad\_PostProcess\_Consol

- DataLoad\_PostProcess\_Rates
- FCCSFormStatusProcessor
- ForceConsolidate
- ForceConsolidate - 選択されたビューによる(「累計ビューの保管の管理」が有効な場合)。「[累計ビューの保管の管理](#) オプションの使用を参照してください。
- ForceTranslate
- ForceTranslate - 選択されたビューによる(「累計ビューの保管の管理」が有効な場合)。「[累計ビューの保管の管理](#) オプションの使用を参照してください。
- MetadataLoad\_PostProcess\_Consol
- 連結時間の予測。[予測連結時間の表示](#)を参照してください。
- RefreshDatabase\_DelegatePostProcess
- RefreshDatabase\_PostProcess\_Consol
- RefreshDatabase\_PostProcess\_Rates
- 換算
- Translate - 選択されたビューによる(「累計ビューの保管の管理」が有効な場合)。「[累計ビューの保管の管理](#) オプションの使用を参照してください。
- UpdateViewCalculations。[計算の表示の更新](#)を参照してください。

リストのルールは、キューブとルール・タイプを基準にフィルタできます。

ルールのリストを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**ルール**」をクリックします。
2. ルールのリストをフィルタするには、「**フィルタ**」アイコンをクリックします。
3. 「**キューブ**」ドロップダウン・リストから、「**キューブ: コンソール**」または「**レート**」を選択するか、デフォルトの「**すべて**」を使用します。
4. 「**ルール・タイプ**」ドロップダウン・リストからタイプを選択するか、デフォルトの「**すべて**」を使用します。
  - スクリプト
  - ルール
  - ルールセット
  - テンプレート
5. 「**適用**」をクリックしてフィルタを適用します。

### ルールの同時実行性の最適化



Financial Consolidation and Close の連結および換算のビジネス・ルールは、複数のエンティティに対して実行されます。Essbase では、マルチスレッド処理を使用して、ビジネス・ルールの計算を同時に実行できます。OptimizeConcurrency という名前の代替変数を追加し、その値を True に設定することで、連結中の高い同時実行性を利用できます。OptimizeConcurrency 変数を使用すると、Financial Consolidation and Close の計算で強制的に複数の Essbase プロセス・スレッドが慎重に使用され、計算の実行が高速化されます。

## ビジネス・ルールの選択

キューブによって、ビジネス・ルールをフォームに関連付けることができます。ユーザーはフォームから関連付けられたビジネス・ルールを起動し、値を計算できます。フォームを開くまたは保存するときに、フォームに関連付けられた各ビジネス・ルールが自動的に起動するかどうかを設定できます。

フォームのビジネス・ルールを選択するには:

1. 次のいずれかを実行します:

- 現在のフォームを更新するには、「アクション」、「ビジネス・ルール」の順にクリックします。
- 編集するフォームを開くには、ホーム・ページに移動して「ナビゲータ」アイコンをクリックし、「作成および管理」で「フォーム」をクリックします。フォームを選択し、、「ビジネス・ルール」の順にクリックします。

2. 「キューブ」ドロップダウン・メニューからキューブを選択します。

3. 「ビジネス・ルール」リストから、フォームに関連付けるビジネス・ルールを選択し、「**選択したビジネス・ルール**」に移動します。

デフォルトでは、「フォームの計算」ビジネス・ルールが選択されます。「フォームの計算」はフォームが小計を計算するために自動的に作成されます。「フォームの計算」をクリアすることで、ユーザーがフォーム上でデータを計算するのを防げます。

**注意:** フォーム・レイアウトに動的計算メンバーがある場合、フォームの計算の実行に時間がかかります。また、動的計算メンバーは処理中に計算されるため、必須ではない場合があります。

また、構成可能な計算から計算機能にアクセスすることもできます。[構成可能な計算の操作](#)を参照してください。

- a. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「連結」をクリックします。
- b. 「財務計算」など、ユーザーが構成可能なルールを選択します。  
別のブラウザ・タブで Calculation Manager が起動します。
- c. 「アクション」メニューから「データベース・プロパティ」を選択して展開し、「コンソール」キューブを選択して「計算」をクリックします。

4. 選択したビジネス・ルールの順序(ルールが表示および起動される順序)を変更するには、「**選択したビジネス・ルール**」でビジネス・ルールを選択し、上矢印または下矢印をクリックしてリスト内で上下に移動します。選択したビジネス・ルールの順序(ルールが表示および起動される順序)を変更するには、{1}「選択したビジネス・ルール」{2}でビジネス・ルールを選択し、上矢印または下矢印をクリックしてリスト内で上下に移動します。リストの先頭にあるルールが最初に表示および起動されます。リストの末尾にあるルールは最後に表示および起動されます。

5. ビジネス・ルールのプロパティを設定するには、「プロパティ」をクリックします。

6. 「保存」をクリックして処理を保存し、フォームの作成または編集を続行します。または、「終了」をクリックして処理を保存し、フォームを閉じます。

## ルールの使用状況の表示

ビジネス・ルールは、次のアーティファクトで使用できます。

- フォーム
- ルールセット
- メニュー

サービス管理者は、ルールがどこで使用されているかを詳しく説明する、ルールの使用状況レポートというレポートを作成できます。フィルタを使用して、ルール名、ルール・タイプおよびキューブで詳細を絞り込みます。

### ノート:

ルールの使用状況レポートには、ビジネス・プロセスにデプロイされているルールのみが表示されます。

ルールの使用状況を表示するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックし、「モニターおよび検索」で「システム・レポート」をクリックします。
2. 「ルール詳細」タブをクリックします。
3. フィルタする場合は、フィルタ条件を選択して「フィルタの適用」をクリックします。
  - **ルール・タイプ:** 「すべて」、「ルール」 および 「ルールセット」 から、1 つ以上のオプションを選択します
  - **キューブ:** 使用可能なキューブのリストから選択します。
  - **名前フィルタ:** ルール名またはルールセット名を入力します。オプションで、ワイルドカード文字を使用できます。「ルール」 リストに、ビジネス・プロセスにデプロイされていて、フィルタ条件に一致するルールが表示されます。
4. 「ファイル・フォーマット」 に、次のいずれかのフォーマットを選択します。
  - XLSX (デフォルト)
  - PDF
  - HTML
  - XML

 ノート:

XML フォーマットを選択した場合、Oracle BI Publisher Add-in for MS Office を使用してルールの使用状況レポートを構成できます。レポートに表示する列、列を表示する順序、ソートを適用するかどうかなどを細かく制御できます。

5. 「レポート作成」をクリックします。

ルールの使用状況レポートには、次の情報が表示されます:

- ルール名
- ルール・タイプ
- キューブ
- プライマリ関連付け(タイプと名前)
- セカンダリ関連付け(タイプと名前)

プライマリ関連付けでは、フォームまたはタスクにリンクされているルールなど、アーティファクトに直接関連付けられているルールを参照します。セカンダリ関連付けでは、メニュー項目にリンクされていて、そのメニュー項目がフォームにリンクされているルール、または特定のタスク・リストのタスクにリンクされているルールなど、アーティファクトと間接的に関連付けられているルールを参照します。

作成されたレポートでは、ルールは次のようにアルファベット順に表示されます。

- ルール名
- プライマリ関連付けタイプ
- プライマリ関連付け名

**ルールの使用状況レポートのサンプル**



### Rules Usage Report

Rule Name	Rule Type	Cube	Primary Association		Secondary Association	
			Type	Name	Type	Name
Consolidate	Rules	Consol	Form	Approval Status By Group		
Consolidate	Rules	Consol	Form	Data Status		
Consolidate	Rules	Consol	Form	FCCS_Balance Sheet Key Balances By View		
Consolidate	Rules	Consol	Form	FCCS_Balance Sheet Movement Summary		
Consolidate	Rules	Consol	Form	FCCS_Balance Sheet by Movement Detail		

Page 1 of 3

4/28/2023 14:04 PM

## 計算の表示の無効化

Financial Consolidation and Close には、計算の表示を無効にするための「アプリケーション設定」オプションがあります。このオプションは、YTD、HYTD および QTD メンバーへのデータ入力(フォーム、データ・インポート、Data Management などを通じて)について、YTD、HYTD および QTD データの計算と保管を無効にします。この設定を「はい」に設定すると、データ・ロードのパフォーマンスの向上に役立ちます。

この設定は、ハイブリッド Essbase (Essbase 5xx)を使用するアプリケーションにのみ適用可能です。

**重要!**この設定は影響力が強いため、設定を有効にする前に、潜在的な影響を評価することをお勧めします。

[アプリケーション設定の指定](#)を参照してください。

この設定を「はい」に設定してデータがロードされた後は、必要な YTD\_RULE、HYTD\_RULE および QTD\_RULE メンバーを使用して、データ・ロード後の各表示データを確認する必要があります。データ・ロード後の YTD、HYTD および QTD メンバーでは、データが移入および更新されません。

ベスト・プラクティスは、この設定を「はい」に設定した場合に\_RULE メンバーを使用することです。ただし、\_RULE メンバーではなく、YTD、HYTD および QTD メンバーを使用する場合は、**計算の表示の更新**ルールを使用して、データ・ロード後に移入できます。

計算の表示を無効にするには:

1. 「アプリケーション」、「設定」の順にクリックします。
2. 計算の累計表示の無効化オプションを「はい」に設定します。

3. データをロードします。
4. YTD\_RULE、HYTD\_RULE および QTD\_RULE メンバーを使用して、YTD、HYTD および QTD データを確認します。
5. 元の YTD、HYTD および QTD メンバーを使用する場合は、指定のシナリオ、年、期間、エンティティ、エンティティ通貨および各表示メンバーに対して**計算の表示の更新**ルールを実行します。  
計算の表示の更新を参照してください。

このオプションは、「はい」に設定した後に、「いいえ」に戻さないでください。設定を「いいえ」に変更する場合は、このオプションが「はい」に設定されていたときにデータがロードされたすべてのシナリオ/年/期間/エンティティに対して**計算の表示の更新**ルールを使用し、QTD、HYTD および YTD をパラメータとして渡すと、値が正しく計算され保管されます。これにより、今後のデータ・ロードでは、共有しない YTD、QTD および HYTD メンバーに正しく移入されます。

## 計算の表示の更新

YTD、HYTD および QTD メンバーのデータ入力では、YTD、HYTD および QTD データの計算の表示および保管を無効にできます。

計算の表示の無効化を参照してください。

計算の表示を無効にする場合は、必要な YTD\_RULE、HYTD\_RULE および QTD\_RULE メンバーを使用して、データ・ロード後の各表示データを確認する必要があります。

ただし、YTD、HYTD および QTD メンバーを使用する場合は、**計算の表示の更新**ルールを実行して YTD、HYTD および QTD の「共有しない」メンバーを移入できるため、データ・ロード・プロセス後に各表示データを確認できます。

計算ステータスに関係なく、**計算の表示の更新**ルールはいつでも実行できます。

計算の表示を更新するには:

1. ホーム・ページで、「ルール」をクリックします。
2. 「ビジネス・ルール」リストから、「UpdateViewCalculations」を選択します。
3. エンティティ、期間、シナリオ、年、ビューおよび通貨のディメンション・メンバーを選択または入力して、「OK」をクリックします。
4. 「起動」をクリックして、ルールを実行します。  
ジョブ・コンソールでルールの進捗状況を確認できます。

## 予測連結時間の表示

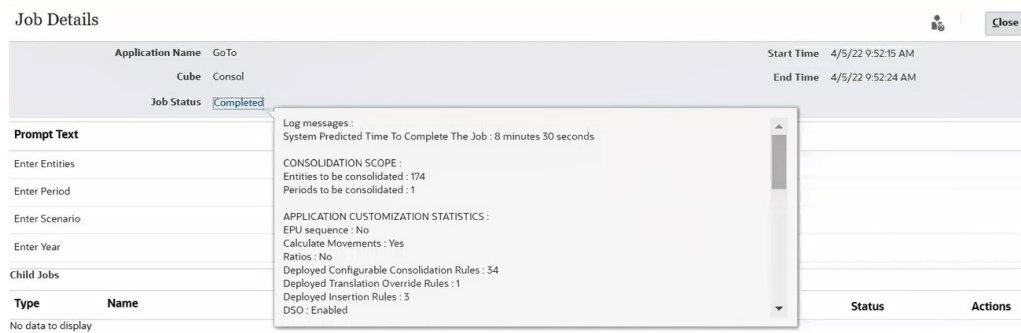
**連結時間の予測**というルールを実行すると、システムで連結ジョブ実行の予測時間を計算できるようになります。ルールは、コンテキスト・メニュー・オプションとして任意のフォームに添付できます。予測連結時間は、「ジョブ」カードにあるジョブ・ログで確認できます。

「連結」ルールが実行されるたびに**連結時間の予測**ルールが自動的に実行されるようにする場合は、EnablePredictConsolidate という名前の代替変数を追加し、値を **True** に設定します。これにより、連結中に予測ルーチンが自動的に実行され、「連結」ルールのジョブ・ログで予測時間を確認できます。**連結時間の予測**ルールを自動的に実行すると、ルールのパフォーマンスに影響が生じる可能性があります。

## 「ルール」カードからのルールの起動


「ルール」カードからルールを起動するには:

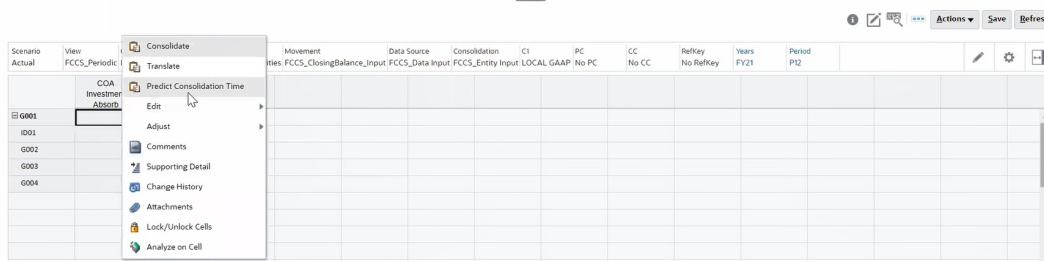
1. ホーム・ページで、「ルール」をクリックします。
2. 「キューブ」ドロップダウン・リストで、「Consol」を選択します。
3. 「ビジネス・ルール」リストから、**連結時間の予測**を選択します。
4. 「エンティティ」、「期間」、「シナリオ」および「年」のディメンション・メンバーを選択または入力します。
5. 「起動」をクリックして、ルールを実行します。
6. ルールが正常に実行されたことを示す確認メッセージで、「OK」をクリックします。
7. 「ジョブ」カードに移動し、「最近のアクティビティ」セクションから**連結時間の予測**ジョブを選択します。
8. 「ジョブの詳細」ページの「ジョブ・ステータス」の横にある「完了」リンクをクリックします。  
ログ・メッセージ・ダイアログに**ジョブの完了までのシステム予測時間**が表示されます。



## フォームからのルールの起動

フォームからルールを起動するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「フォーム」をクリックし、フォーム・エディタを開きます。
3. 「その他オプション」タブを選択して、**連結時間の予測**メニューをフォームに割り当てます。
4. ホーム・ページで「データ」をクリックし、フォームを開きます。
5. 「アクション」メニューから、またはフォーム・セルを右クリックして、「**ビジネス・ルール**」を選択し、**連結時間の予測**を選択します。



6. 「エンティティ」、「期間」、「シナリオ」および「年」のディメンション・メンバーを選択または入力します。
7. 「起動」をクリックして、ルールを実行します。
8. ルールが正常に実行されたことを示す確認メッセージで、「OK」をクリックします。
9. 「ジョブ」カードに移動し、「最近のアクティビティ」セクションから**連結時間の予測**ジョブを選択します。
10. 「ジョブの詳細」ページの「ジョブ・ステータス」の横にある「完了」リンクをクリックします。  
ログ・メッセージ・ダイアログに**ジョブの完了までのシステム予測時間**が表示されます。

#### 連結ルールの実行時の予測時間の表示

連結ルールの実行時に予測時間を表示するには:

1. EnablePredictConsolidate という名前の代替変数を追加し、値を **True** に設定します。
2. 「連結」ルールを実行します。[データの連結](#)を参照してください。  
予測ルーチンが自動的に実行されます。
3. 「ジョブ」カードに移動して、「最近のアクティビティ」セクションから「連結」ジョブを選択します。
4. 「ジョブの詳細」ページの「ジョブ・ステータス」の横にある「完了」リンクをクリックします。  
ログ・メッセージ・ダイアログに**ジョブの完了までのシステム予測時間**が表示されます。

## 「累計ビューの保管の管理」オプションの使用

### 「累計ビューの保管の管理」オプションについて

デフォルトで、連結ルールと換算ルールは、連結プロセスと換算プロセス中に QTD、YTD および HYTD メンバーのすべてのビュー・メンバー値を自動的に計算して保管します(有効な場合)。「累計ビューの保管の管理」アプリケーション設定では、累計ビュー・メンバー値を保管するかどうかを指定するオプションを使用できます。

「累計ビューの保管の管理」オプションは、拡張ディメンション・アプリケーションでのみ使用できます。

累計ビュー・メンバー値を計算および保管しないことを選択した場合、アプリケーション・サイズが小さくなり、連結時間と再構築時間が短縮され、メンテナンスが容易になります。

**ノート:** 「累計ビューの保管の管理」オプションを有効にする前に、アプリケーションに対する影響を考慮する必要があります。機能を有効にする前に次のステップを確認して理解し、最適なパフォーマンスが得られるようにしてください。

「累計ビューの保管の管理」オプションは、アプリケーションの作成中に、または既存のアプリケーションの「アプリケーション構成」画面から有効化できます。[アプリケーションの機能の有効化](#)を参照してください。

この機能を有効にすると、システムは次の連結ルールと換算ルールをアプリケーションに自動的に追加します:

- **Consolidate - 選択されたビューによる**
- **ForceConsolidate - 選択されたビューによる**
- **Translate - 選択されたビューによる**
- **ForceTranslate - 選択されたビューによる**

Consolidate - 選択されたビューによるルールまたは Translate - 選択されたビューによるルールで、必要なビュー・ディメンション・メンバーを選択します(「定期的」はデフォルトで選択されており、常に計算されます)。連結または換算プロセス中に、システムは選択された 1 つ以上のビュー・メンバーに対してのみ計算を実行します。

これらのルールを実行すると、累計値がアプリケーションから削除されます。最適なパフォーマンスを得るには、キューブを再構築する必要もあります。

すでにロックしている期間の累積値を削除してアプリケーション・サイズを削減する場合は、次に説明するように、期間のロックを解除してから、シナリオ/年/期間/エンティティの組合せを再連結する必要があります。すべてのシナリオ/年/期間/エンティティの組合せに対してこのステップを実行した場合、パフォーマンスが最大限に向上します。

このステップを実行しない場合は、この機能を有効にした後でも、既存の連結ルールおよび換算ルールを引き続き使用できます。

### 「累計ビューの保管の管理」機能の使用

**重要:** アプリケーションのサイズによっては、これらのアクションが完了するまでに長時間かかるため、このプロセスが完了するまでスケジュールされたジョブ、自動メンテナンス・ウィンドウ(AMW)プロセスおよびバックグラウンド・プロセスをすべて無効にする必要があります。

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」を選択して、「**機能を使用可能にする**」画面で「**累計ビューの保管の管理**」機能を有効にします。機能が有効になるまで待ち、ログアウトして再度アプリケーションにログインします。
2. ホーム・ページで「**ルール**」をクリックし、「ルール」リストで、**Consolidate - 選択されたビューによる**および **Translate - 選択されたビューによる**ルールがアプリケーションに追加されたことを確認します。
3. 「ルール」から、アプリケーションにロードされたすべての月に対して **Consolidate - 選択されたビューによる**を実行します。このプロセスは、現在アプリケーションに保管されているすべての QTD、HYTD および YTD データを削除します。
4. 「ルール」から、「**ClearEmptyBlocks**」ルールを実行します。
5. ナビゲータの「アプリケーション」列から「**ジョブ**」を選択します。「**ジョブのスケジュール**」をクリックして「**キューブの再構築**」ジョブを実行します。[キューブの再構築](#)を参照してください。
6. データベースのリフレッシュを実行し、**Consolidate - 選択されたビューによる**ルールを使用して連結時間をテストします。

7. **ヒント:** 「アプリケーション設定」の「**累計表示計算の無効化**」設定を使用してデータ・ロードの一環としてのビュー・メンバーの計算と保管をスキップし、データ・ロードが改善されることを確認することもできます。[計算の表示の無効化](#)を参照してください。

### 計算結果

- アプリケーション・サイズは約 40%以上削減されました。
- 連結時間は約 40%以上短縮されました。
- 再構築時間は約 25%以上短縮されました。

### 次のステップ - メンバー式の変更

「累計ビューの保管の管理」オプションは、カスタム作成のメンバー式に影響します。このオプションを有効化してキューブ・サイズを削減したら、定数値を返す現在のメンバー式すべてに次の変更を加える必要があります。

#### 例: 元の式

```
IF (X)
  5;
ELSE
  3;
ENDIF
```

これは次のように変更する必要があります:

```
IF (X)
  5 + "Scenario"->"Years"->"Period"->"Entity"->"Account"->"FCCS Entity Input"->"FCCS No Data Source"->
  "FCCS No Movement"->"FCCS Periodic"-><No members of Currency, Mult-GAAP and Custom dimensions>;
ELSE
  3 + "Scenario"->"Years"->"Period"->"Entity"->"Account"->"FCCS Entity Input"->"FCCS No Data Source"->
  "FCCS_No Movement"->"FCCS_Periodic"-><No members of Currency, MultiGAAP and Custom dimensions>
ENDIF
```

システムは、この目的で使用される交差"Scenario"->"Years"->"Period"->"Entity"->"Account"->"FCCS\_Entity Input"->"FCCS\_No Data Source"->"FCCS\_No Movement"->"FCCS\_Periodic"-> <No members of Currency, MultiGAAP and Custom dimensions> "にゼロ(0)を保管します。

### 累計ビュー値で使用可能なビジネス・フロー

1. **アプローチ 1:** 既存の連結および換算ルールを引き続き使用します。「累計ビューの保管の管理」機能を有効にする必要はありません。連結または換算を選択した場合、連結または換算プロセス中に、システムのすべての交差に対して QTD、YTD および HYTD 値がシステムによって自動的に計算され、保管されます。この場合、キューブ・サイズが非常に大きくなることに注意してください。
2. **アプローチ 2:** 期別メンバーのみを選択して、新しい **Consolidate - 選択されたビューによる** および **Translate - 連結されたビューによる** オプションを使用します。これらのルールが実行された場合、期別データのみが連結されて保管されます。QTD、YTD および HYTD ビュー・メンバーのデータを取得するには、関連するビュー・ディメンション・システム\_Rule メンバーの FCCS\_QTD\_RULE、FCCS\_YTD\_RULE および FCCS\_HYTD\_RULE を使用します。これらは動的計算メンバーで、取得のパフォーマンスはアプリケーションによって異なります。[Financial Consolidation and Close の取得パフォーマンスのトラブルシューティング](#)を参照し、すべてのステップを必ず実行してくだ



さい。これにより、\_Rule メンバーを使用する際の問題がすべて解決されます。結果に満足できない場合は、アプローチ 3 を使用します。

3. **アプローチ 3:** 期別メンバーのみを選択して、新しい **Consolidate - 選択されたビューによる** および **Translate - 連結されたビューによる** オプションを使用します。次に、**計算の表示の更新** ルールを実行します。これらのルールが実行された場合、期別データのみが連結されて保管されます。既存のレポートおよびフォームに基づき、1 回かぎりの操作として、レポートするすべてのシナリオ、年、期間、エンティティ、通貨およびビュー・メンバーを識別する必要があります。次に、これらのパラメータを使用して**計算の表示の更新**ルールを実行できます。このプロセスは、レポートするこれらの交差のみを計算して保管します。この操作の実行にかかる時間は、すべての交差のビュー・メンバー値を計算および保管する場合よりも大幅に短くなります。

## Financial Consolidation and Close の取得パフォーマンスのトラブルシューティング

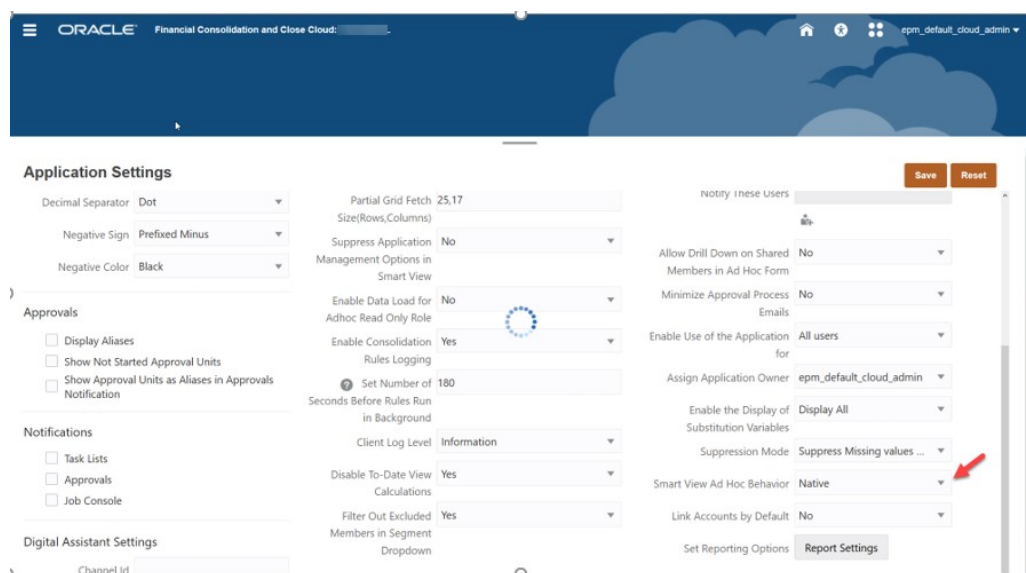
次のトラブルシューティング・ステップが、Financial Consolidation and Close 環境での取得パフォーマンスに役立つ場合があります。

### 環境内での Smart View ヘルス・チェックの実行

パフォーマンスを最適化するために、環境でヘルス・チェックを実行できます。*Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイド*の**システムのヘルス・チェックの実行**を参照してください。


### Smart View アド・ホック動作の確認および変更


「アプリケーション設定」タブで、設定した Smart View アド・ホック動作を確認できます。Smart View アド・ホック動作をネイティブに変更すると、ズームのパフォーマンスが向上する場合があります。*Oracle Smart View for Office の使用の EPM Cloud*での**Smart View の動作オプション**を参照してください。



## アプリケーション・メタデータ分析

メタデータが有効であることを確認するために、「アプリケーション概要」タブから「**メタデータの検証**」をいつでも実行できます。メタデータの検証を参照してください。

**Validate Metadata**  Run Cancel

 Click Run to validate metadata. After validating, you can expand on screen or click Export to extract all messages to a CSV file. The members are displayed in [Cube].[Parent].[Child] format. You can use the Dimension Editor to modify metadata.

**Error** Warning Info

Name	Error Description
------	-------------------

可能な場合は、メタデータ・エラー、特に、式のないレベル 0 の動的計算があるメンバーを修正します。必要に応じて、次に説明するように、*保管済*の子プレースホルダ・メンバーを追加します。レベル 0 の動的計算メンバーにはメンバー式が必要であり、ない場合はパフォーマンスに悪影響を与えます。

### シード済のレベル 0 の動的計算勘定科目ディメンション・メンバーのチェック

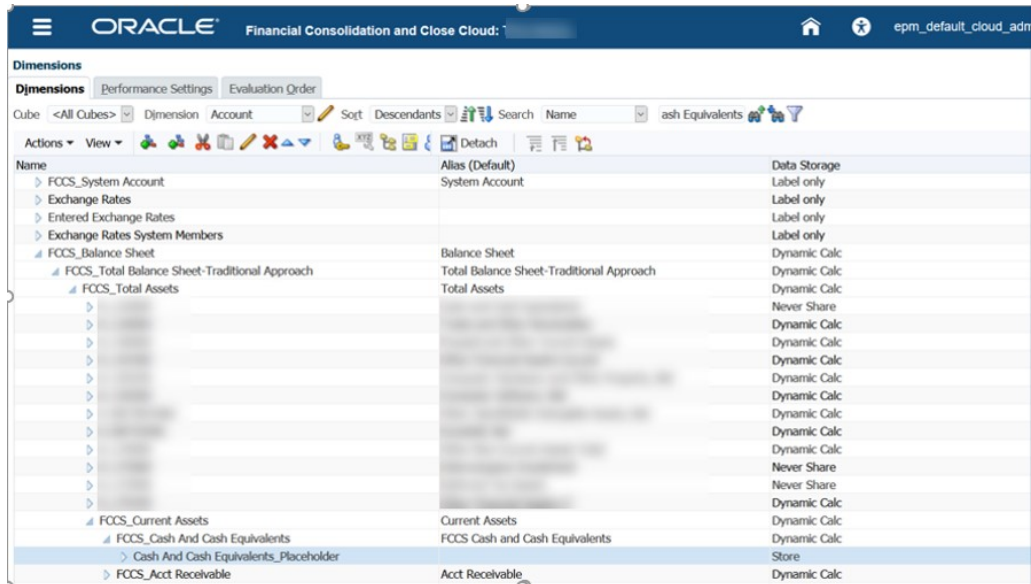
ディメンション・エディタの勘定科目ディメンションで次の FCCS シード・メンバーを確認し、それぞれに「データ・ストレージ」が「保管」に設定された子メンバーがあることを確認します。

次の FCCS シード・メンバーのいずれかについて、アプリケーションで子メンバーが必要な場合は、保管済のダミーまたはプレースホルダ勘定科目を作成する必要があります(FCCS シード・メンバーを直接「保管」に変更できないため)。

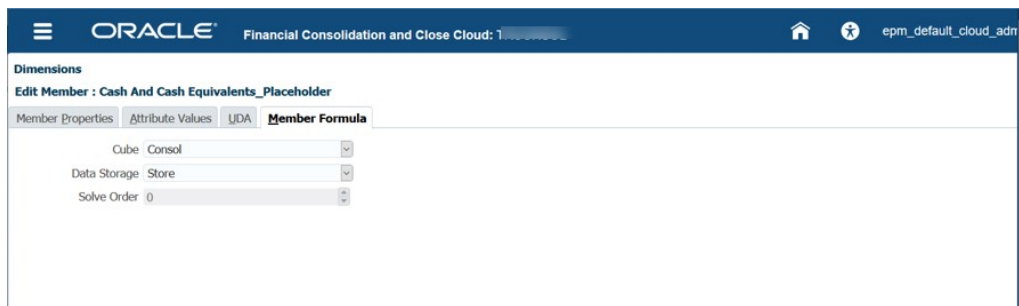
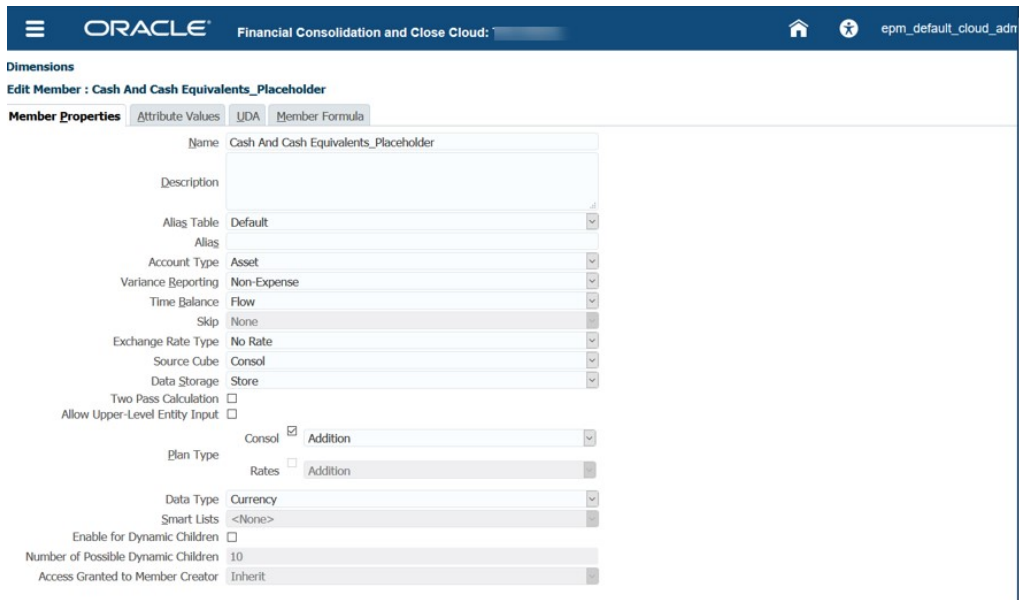
- FCCS\_Cash And Cash Equivalents
- FCCS\_Acct Receivable
- FCCS\_Inventories
- FCCS\_Fixed Assets
- FCCS\_Other Long Term Assets
- FCCS\_Acct Payable
- FCCS\_Other Current Liabilities
- FCCS\_Long Term Liabilities
- FCCS\_Sales
- FCCS\_Cost of Sales
- FCCS\_Operating Expenses
- FCCS\_Other Income Expense
- FCCS\_Provision for Income Tax
- FCCS\_Other Equity

たとえば、FCCS\_Cash And Cash Equivalents に保管済の子メンバーがない場合、FCCS\_Cash And Cash Equivalents\_Placeholder という名前で作成します。





「メンバーのプロパティ」タブと「メンバー式」タブの両方で、「データ・ストレージ」を「保管」に設定してください。



### 動的計算ディメンション・メンバーの適切な解決順の確認

次の表は、密ディメンションとしての勘定科目という標準オプションを使用している場合の「Consol 解決順」の値を示しています。

Consol Solve Order for Standard option:					
Movement:	Consolidation:	Data Source:	Period:	View:	Account:
Ensure the Consol Solve Order for all Dynamic Calc members are set to 53.25 or higher as shown below. If a member formula contains another Dynamic Calc member increment the Consol Solve Order for the member formula to 1 higher than the largest member Consol Solve Order in the formula.		Ensure the Consol Solve Order for all Dynamic Calc members are set to 28 or higher as shown below. If a member formula contains another Dynamic Calc member increment the Consol Solve Order for the member formula to 1 higher than the largest member Consol Solve Order in the formula.			
Update the Consol Solve Order for following members to 53.		Update the Consol Solve Order for following members to 28. If a new Dynamic Calc member is added as a child of any of the seeded members below including an alternative hierarchy, ensure there is a member formula and the Consol Solve Order is set to 28. Otherwise, ensure there is a child member with Data Storage set to Store.			
Update the Consol Solve Order for FCCS_OpeningBalance_Cash		FCCS_Total Data Source			
Update the Consol Solve Order for FX_Total_NonCash		FCCS_TotalInputAndAdjusted			
Update the Consol Solve Order for FCCS_ClosingBalance_Cash					
<b>Note:</b> Consol Solve Order for FCCS_ClosingBalance_Variance must be set to 55.					
Update the Consol Solve Order for following members to 25. If a new Dynamic Calc member is added as a child of any of the seeded members below including an alternative hierarchy, ensure there is a member formula and the Consol Solve Order is set to 25. Otherwise, ensure there is a child member with Data Storage set to Store.					
FCCS_Mvmts_Operating					
FCCS_Mvmts_Investing					
FCCS_Mvmts_Financing					
FCCS_CashFlow					
FCCS_CashFlow_Operating					
FCCS_CashFlow_NetIncome					
FCCS_CashFlow_AdjustmentsToNetIncome					
FCCS_CashFlow_DepreciationAndAmortization					
FCCS_CashFlow_NetAssets					
FCCS_CashFlow_AccountsReceivable					
FCCS_CashFlow_Inventories					
FCCS_CashFlow_OtherCurrentAssets					
FCCS_CashFlow_AccountsPayable					
FCCS_CashFlow_OtherCurrentLiabilities					
FCCS_CashFlow_Investing					
FCCS_CashFlow_Acquisitions					
FCCS_CashFlow_Disposals					
FCCS_CashFlow_CapitalExpenditures					
FCCS_CashFlow_ProceedsFromSalesOfPPE					
FCCS_CashFlow_OtherInvestingActivities					
FCCS_CashFlow_Financing					
FCCS_CashFlow_IssueOfStock					
FCCS_CashFlow_ProceedsFromDebt					
FCCS_CashFlow_RepaymentOfDebt					
FCCS_CashFlow_OtherFinancingActivities					

次の表は、期間および増減を密ディメンションとして使用する密/疎最適化オプションを使用している場合の「Consol 解決順」の値を示しています。

Consol Solve Order for DSO option:					
* The following sentences applies to all the following Dimensions.					
If a member formula contains another Dynamic Calc member increment the Consol Solve Order for the member formula to 1 higher than the member with the largest Consol Solve Order referenced in the formula.					
If a new Dynamic Calc member is added as a child of any of the seeded members below including an alternative hierarchy, ensure there is a member formula and the Consol Solve Order is set to the same as the Parent. Otherwise, ensure there is a child member with Data Storage set to Store.					
Movement:	Period:	View:	Account:	Consolidation:	Data Source:
Ensure Consol Solve Orders on all dynamic members except the members listed below are set to 0.	Ensure the Consol Solve Order for all Dynamic Calc members are set to 53 or higher based on highest solve order member in a member formula.	Ensure the Consol Solve Order for all Dynamic Calc members are set to 52 or higher based on highest solve order member in a member formula.	Ensure the Consol Solve Order for all Dynamic Calc members are set to 58 or higher based on highest solve order member in a member formula.  Ensure the Consol Solve Order for all Ratio Account members are set to 58.	Ensure Consol Solve Orders on all dynamic members are set to 0.  <b>For Applications without the Ownership Management feature enabled, the solve order for the Proportion member and its Ancestors must be set to 51.</b>	Ensure Consol Solve Orders on all dynamic members are set to 0.
Update the Consol Solve Order for following members to 59.	Update the Consol Solve Order for following members to 53.	Update the Consol Solve Order for following members to 52.			
FCCS_CashChange	YearTotal	FCCS_YTD			
FCCS_OpeningBalance_Cash	Q1,Q2,Q3 and Q4	FCCS_HYTD			
FX_Total_NonCash	HY1 and HY2	FCCS_QTD			
FCCS_ClosingBalance_Cash					
Consol Solve Order for FCCS_ClosingBalance_Variance must be set to 56.					

 ノート:

親合計メンバー式および YTD 式に解決順の競合が存在する場合があります。**FCCS\_Parent Total** メンバーは、複数通貨アプリケーションの親通貨にのみ適用されます。可能であれば、親合計ではなく、エンティティ合計を使用することをお勧めします。使用できない場合は、**FCCS\_Parent Total** の解決順を **51** に変更してからデータベースをリフレッシュするようにしてください。必ずデータを検証してください。

**解決順の変更のスクリーンショットの例**

「アプリケーション」、「概要」の順にクリックし、「ディメンション」タブを選択します。列を右クリックして「デフォルト・モード」の選択を解除します。次に、「Consol 解決順」列にスクロールして編集します。見やすいように列をクリックしてドラッグできます。

Edit Member Properties :Movement Save Cancel

Actions Search Name Sort Descendants

Member Name	Parent Mem	Default Data Storage	Consol Data Storage	Data Type	Consol Consol op.	Two Pass Calculation	Smart Lists	Default Alias Table
Movement		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Unspecified	Ignore	No	<None>	
FCFS_Movements	Movement	<input checked="" type="checkbox"/>	Dynamic Calc	Unspecified	Ignore	No	<None>	Total Movements
FCFS_ClosingBalance_Variance	Movement	<input checked="" type="checkbox"/>	Dynamic Calc	Unspecified	Ignore	No	<None>	Closing Balance -
FCFS_CashFlow	Movement	<input checked="" type="checkbox"/>	Dynamic Calc	Unspecified	Ignore	No	<None>	Cash Flow
FCFS_CashChange	Movement	<input checked="" type="checkbox"/>	Dynamic Calc	Unspecified	Ignore	No	<None>	Cash Change


Edit Member Properties :Movement Save Cancel

Actions Search Name Sort Descendants

Default Alias Table	Combined Alias Table	Description	UDA	Consol Formula	Consol Solve Order	Rates Solve Order	Is Default Movement	Enable for Dynamic Children	Number of Possible Dynamic Children	Acc Me
Total Movements					0	0	<None>	No	10	Int
Closing Balance -				IF(@SLEV("Entity",0))	25	0	<None>	No	10	Int
Cash Flow					25	0	<None>	No	10	Int
Cash Change					53	0	<None>	No	10	Int

前述の変更をすべて行った後、「メタデータの検証」を再度実行し、「データベースのリフレッシュ」を実行します。

Validate Metadata Run Cancel

 Click Run to validate metadata. After validating, you can expand on screen or click Export to extract all messages to a CSV file. The members are displayed in [Cube].[Parent].[Child] format. You can use the Dimension Editor to modify metadata.

Error Warning Info

Name	Error Description



## 取得最適化分析

### HSGetValue 式を使用しない

HSGetValue スプレッドシート取得をアド・ホック取得に変換します。変換すると、取得サイズが大きくなることでパフォーマンスが向上し、メンテナンスが簡単になります。HSGetValue 式がサポートされています。これは、必要な場合にのみ、小規模から中規模サイズの取得に使用します。

### 期間ビューから開始

累計ビューの管理を使用する場合、保管されたビュー・ディメンション・メンバー YTD は #missing です。YTD\_Rule メンバーを使用して取得時に YTD 残高を動的に計算します。ノート - 密/疎最適化オプションを使用している場合は YTD または YTD\_Rule メンバーを使用できます。

最適化分析では、迅速な分析のためにビューを YTD\_Rule から期間に変更します。最適化されたら、必要に応じて YTD\_Rule に戻すことができます。

### 遅いメンバー式について勘定科目ディメンションを分析

スプレッドシートのすべての勘定科目、特にメンバー式を含むものについてのパフォーマンスをチェックします。メンバー式を含む勘定科目をスプレッドシートから除いて、取得を実行します。取得が速くなった場合は、メンバー式を含む勘定科目のグループを取得に戻して、遅いメンバー式を分離します。分離したら、メンバー式を最適化し、適切な「Consol 解決順」を確認し、スプレッドシートに戻して最適化されていることを確認します。

メンバー式をなくし、期間ビューを使用しても取得が遅い場合は、勘定科目メンバーの分離を続けて、どれが遅いかを判別できます。このことが発生するのはまれであり、通常は、式を含まないレベル 0 の動的勘定科目に関するメタデータの問題または解決順の問題です。

### 累計の管理機能の必要に応じた有効化

アプリケーションが現在、密/疎最適化オプションを使用しておらず、年合計および QTD の取得が遅い拡張ディメンション・アプリケーションである場合は、累計の管理機能を有効にします。この機能を有効にすると、これらの式がより効率的な式に置換されます。

### 必要に応じて遅いメンバー式について他のディメンションを分析

スプレッドシートのディメンション、特にメンバー式を含むものについて、1 つずつパフォーマンスをチェックします。分析するディメンションが POV ダイアログ・ボックスにない場合は、ディメンションを POV ダイアログ・ボックスにドラッグします。次に、POV メンバー・セクタで次のレベルにドリルダウンして、取得プロセスを実行します。取得を遅くしているメンバー式またはレベル・メンバーが見つかるまで、これを繰り返します。見つかったら、メンバー式またはレベル・メンバーを最適化し、適切な「Consol 解決順」を確認し、取得プロセスに戻します。

### 期間から YTD\_Rule へ

前述の分析および最適化後、期間ビュー取得が速くなった場合は、必要に応じてビューを YTD\_Rule に変更します。YTD\_Rule ビュー・メンバーのパフォーマンスが向上します。そうでない場合は、すでに YTD 残高があるため貸借対照表勘定科目のほとんどについては期間ビューに戻し、損益計算書勘定科目の YTD 残高については Excel で期間を合計することを検討します。取得を含む追加のワークシート・タブをいくつか作成し、Excel の合計式を追加する必要がある場合があります。次に、他のワークシート・タブの Excel の式およびデータを参照するサマリー YTD 残高レポートのワークシート・タブを作成できます。完了したら、Smart

View メニューですべて取得をクリックするだけで、複数の取得およびサマリー・タブをリフレッシュし、式を計算できます。

### 「累計ビューの保管の管理」オプションの取得パフォーマンスを最適化する計算の表示の更新ルールの実行

「累計ビューの保管の管理」オプションを使用すると、保管されたビュー・ディメンション・メンバー YTD は#missing であり、**計算の表示の更新**ルールを実行しないかぎり計算および保管されません。YTD\_Rule メンバーによって YTD 残高が動的に計算されます。可能な場合はこれを使用してください。

YTD\_Rule メンバーを使用した取得がまだ遅すぎる場合は、密ストレージ・オプションへの移行または一部のエンティティでの YTD の事前連結および保管を検討します。階層内でのレベルおよびサイズに基づいて消去のプロセスを使用することで、どのエンティティが最も遅いかを判別でき、それらのエンティティに対して**計算の表示の更新**ルールを使用して、YTD を保管して再テストできます。

この機能を使用して POV 内のそれらのエンティティに対して連結すると、連結された値は YTD ビュー・メンバーに保管されます。計算の表示の更新機能を使用して連結されたエンティティのみが YTD ビュー・メンバーの値を持ち、その他のすべてのエンティティ値は#missing になります。その他のエンティティ値については、YTD\_Rule ビュー・メンバーを使用する必要があります。レポート内で有用であるため、YTD および YTD\_Rule ビュー・メンバーを混在させて組み合わせることができます。これを実行できず YTD ビュー・メンバーのみを使用するレポートの場合、**計算の表示の更新**機能を使用してレポート上のすべてのエンティティを忘れずに連結する必要があります。

期間に対して期間の連結を再度実行するたびに、その期間およびエンティティに対して以前に実行した計算の表示の更新を再度実行し、YTD 値で最新の期間の連結を反映する必要があります。

### 計算の表示の無効化

Financial Consolidation and Close には、計算の表示を無効にするための「アプリケーション設定」オプションがあります。このオプションは、YTD、HYTD および QTD メンバーへのデータ入力(フォーム、データ・インポート、データ管理などを介して)およびレポートに対して、YTD、HYTD および QTD データの計算と保管を無効にします。この設定を Yes に切り替えると、データ・ロードおよびレポートのパフォーマンス向上に役立ちます。詳細は、の[計算の表示の無効化](#)を参照してください *Financial Consolidation and Close の管理*

### スプレッドシート設計の確認

#### 非対称

対称レポート設計は、非対称よりも大幅に高速です。アクティビティ・レポート内の nOdometers の数が多いことは(たとえば次のサンプル・レポートを参照)、非対称レポートが非効率的であることを示します。理想的には、対称レポートは nOdometers:1 になります。

#### 15 秒を超過した低パフォーマンスの Essbase 問合せ上位 10 件

Duration (Min:Sec)	Begin Time (UTC)	End Time (UTC)	Context
04:45 <sup>α</sup>	09:06:42 <sup>α</sup>	09:11:27 <sup>α</sup>	DBNAME:Consol <sup>α</sup> QUERY_USER:epm_default_cloud_admin <sup>α</sup> reportType:Grid <sup>α</sup> nHash:3986401159 <sup>α</sup> sts:0 <sup>α</sup> <b>nOdometers:12<sup>α</sup></b> sumOfOdomSizes:228 <sup>α</sup> sumOfOdomVolumes:60 <sup>α</sup> bSuppressMissing:F <sup>α</sup> bCellStatusMDX:F <sup>α</sup> bMeaningless:F <sup>α</sup> bSuppressInvalid:F <sup>α</sup> ullBlocksRead:2.96941e+07 <sup>α</sup> ullFormulaExec:5.74535e+06 <sup>α</sup> ullFormulaMissing:5.69993e+06 <sup>α</sup> ullFormulaExecOOT:0 <sup>α</sup> bAsoCacheFull:F <sup>α</sup> nMicrocubes:0 <sup>α</sup> nRetrClusters:0 <sup>α</sup> nRetrTuples:0 <sup>α</sup> nOutCellsAll:61 <sup>α</sup> nOutCellsNonMi:56 <sup>α</sup> tScanAgg:0 <sup>α</sup> action:0x10 <sup>α</sup> modifier:0x4cc <sup>α</sup> format:0x430c100 <sup>α</sup>

列の中で、メンバーが変化するディメンションは 1 つのみ(たとえば、期間(Jan-Dec))であることが理想的です。ディメンションを追加し始めることに伴い(たとえば、年(FY15、FY16 など))、グリッドの非対称性が高まり、取得が遅くなる場合があります。同じ概念が行にも当てはまります。

パフォーマンスのために必要な場合は、それぞれが特定のより小規模な取得を行う複数のワークシート・タブを作成します。その後、Excel 機能を使用して、特定のより小規模な取得のワークシート・タブを参照するデータをサマリー・シートにまとめることができます。作成したら、Smart View メニューですべて取得をクリックするだけで、複数のワークシート・タブおよびサマリー・シートをリフレッシュできます。

### その他の考慮事項

適切な計算のために多数のデータを必要とするメンバー式がアプリケーションにある場合、そのメンバーが「累計ビューの保管の管理」で勘定科目ディメンションになく、かつ密ストレージ・オプションの増減および期間ディメンションにない場合は、動的計算に対してデータを保管すると有用であることがあります。

スプレッドシートのワークシート・タブの数を減らし、動的 POV を使用して Smart View 問合せを適切に定義すると、あらゆる種類の様々なデータおよびテキストが含まれた大きいスプレッドシートよりもパフォーマンスが高くなります。

従来の Oracle Essbase ハイブリッド取得最適化手順を適用します。

### 代替変数の使用

密/疎最適化オプション(期間および増減が密ディメンション)を使用するアプリケーションのパフォーマンスを向上するには、ParallelCustomDimDSO および ParallelCustomDimTranslation 代替変数を追加します。パフォーマンスの向上を確認するには、これらの代替変数の両方を True に設定する必要があります。

密/疎最適化オプションを使用するアプリケーションで、複数の期間の連結に対するパフォーマンスを向上するには、EnableYearlyConsol という名前の代替変数を追加して値を True に設定します。

[Financial Consolidation and Close の代替変数](#)を参照してください。

## 上書き換算ルール の 操作

デフォルトでは、タイム・バランス属性が「フロー」または「残高」のとき、すべての勘定科目で標準の換算方法が提供されます。これらの設定を変更し、アプリケーションのデフォルトの換算方法とデフォルトの勘定科目を指定することができます。[デフォルトの換算設定の指定](#)を参照してください。

換算ルールを作成してデフォルトの換算を上書きすることもできます。換算ルールを上書きするには、次のガイドラインに従ってください。

上書き換算ルールの作成とデプロイの手順については、[上書き換算ルールの作成と上書き換算ルールのデプロイ](#)を参照してください。

### ノート:

換算上書きルールは、金額/レート上書きエントリの前に実行されます。この順序により、換算ルールの範囲内で発生する上書き金額またはレートを適用するときに、換算ルールを修正する必要性が減る可能性があります。金額/レート上書きエントリの前に上書きルールを処理しないようにする場合は、`skipTransRulesIfOverrideRatesExist` という名前の代替変数を作成して、値を **False** に設定します。

### 上書き換算ルールの検索

「[換算オーバーライド・ルール の 管理](#)」ページに、アプリケーションで使用可能なすべての換算ルールがリストされます。また、選択したフィルタ・オプションで使用可能なルールの合計数も表示されます。

特定のルールを検索でき、任意の文字数を返すアスタリスク(\*)および任意の 1 文字を返す疑問符(?)を指定できます。たとえば、「1?」の検索では 1 で始まる 2 文字の名前(10、11、12 など)が返され、「1\*」では 1 で始まる任意の名前(10、11、12、100、1000 など)が返されます

デフォルトのビューは「[デプロイ予定](#)」ビューです。新しいルールを作成した場合、そのルールは青いアイコンが付いてリストに表示され、変更はあったがまだデプロイされていないことが示されます。

### 上書き換算ルールのセキュリティ権限

- 換算ルールを作成、変更、デプロイまたは削除できるのは、サービス管理者のみです。
- パワー・ユーザーは、換算ルールに対して表示アクセス権があります。
- ユーザーおよび参照者は、換算ルールを表紙もアクセスもできません。

### 上書き換算ルールのタイプ

作成できる上書き換算ルールのタイプは、次のとおりです。

#### 異なる換算方法の使用

デフォルトの換算設定と異なる換算方法(「期別」または「YTD」)を指定するルールを作成できます。

### 異なる換算方法とレート勘定科目の使用

特定の POV に対して、デフォルトの換算とは異なる換算方法とレート勘定科目の換算ルールを作成できます。

### 異なるシナリオ、年および期間の参照

異なるシナリオ、年および期間を参照するレート勘定科目を使用する換算ルールを作成できます。デフォルトでは、レート勘定科目データは換算を処理しているのと同じシナリオ、年および期間のもので、たとえば、実績、2016 年、1 月のデータを換算する場合、システムは実績、2016 年、1 月のレート勘定科目データが使用されます。異なるシナリオ、年および期間、たとえば予算、2016 年、1 月からのレート勘定科目を指定できます。

レート勘定科目のシナリオ、年および期間を洗濯するとき、年と期間については相対参照およびキーワードを使用できます。サポートされているキーワードと相対参照は次のとおりです。

- 現行
- 前
- 次
- 最初
- 最終
- 現行+n
- 現行-n

データを含むレート勘定科目がある場合は、0 の値を使用して換算されます。

### 複数ディメンションの使用

換算上書きルールに、デフォルトのソース POV ディメンションはありません。次のいずれかのディメンションを追加して、換算を適用するデータセットを制限できます。

- シナリオ
- 年
- 期間
- エンティティ
- 勘定科目
- 会社間
- 増減
- データ・ソース
- 複数 GAAP (有効な場合)
- 追加のカスタム・ディメンション(有効な場合)

ルールを作成する際に、少なくとも 1 つのディメンションを定義する必要があります。ディメンションが選択されていない場合、すべてのディメンションのすべてのメンバーにルールが適用されます。



複数のディメンション(たとえば、勘定科目、カスタムなど)を含む換算ルールを作成できます。複数のメンバーを対象として選択し、IDescendant や IChildren などの関数を使用します。

ソース POV 内で、単一の親メンバーは選択できません。親メンバーは関数リストの一部としてのみ選択できます。

### 異なるメンバーへのリダイレクションの使用

換算ルールを作成する際、異なるディメンション・メンバーへのリダイレクションを指定できます。ソース POV には、親またはシステム・メンバーを含めて、任意のメンバーを含めることができます。親メンバーは関数リストの一部としてのみ選択でき、基本メンバーへのリダイレクションが設定されている必要があります。単一の親メンバーは選択できません。

リダイレクション POV は、システム計算のメンバー(期首残高や FX 期首など)ではなく、基本メンバーであることが必要です。リダイレクション・メンバーを指定しない場合、システムによって換算が処理され、ソースと同じディメンション・メンバーに書き込まれます。

### 履歴勘定科目上書きと換算上書き

取得時換算勘定は、デフォルトの換算方法を使用することも、上書きレートまたは金額を使用することもできます。アプリケーションに履歴勘定科目の換算上書きルールも含まれている場合、換算上書きルールによってデフォルトの換算が上書きされます。

### 上書きルールの有効なメンバー

1 つのメンバー、複数のメンバーまたは指定した各ディメンションのソースの関数リストを選択して、そのディメンションのいずれかの基本メンバーにリダイレクトできます。

換算ルールを作成するときに、ビュー・ディメンションと連結ディメンションを適用することはできません。

上書きは、データがエンティティ連結に対するものである場合に、親エンティティのレベルでの会社間消去に対してのみ可能です。

連結ディメンションの消去メンバーを含む会社間消去に対しては、上書きは許可されません。

他のディメンションを使用できるかどうかは、アプリケーションで有効な機能によって異なります。シナリオ、年、期間、エンティティおよびデータ・ディメンションからリダイレクション・メンバーを選択することはできません。

親は換算後のベース・メンバーから集計されるため、POV の親メンバーを選択することはできません。

データ・ストレージ・プロパティが「動的計算」に設定されたレベル 0 のメンバーを選択することはできません。これらは、メンバー式またはシステム定義やユーザー定義の計算スクリプトを使用して計算されるメンバーです。

### レポート通貨

換算ルールは、同じ通貨の親すべてに換算するとき、選択したエンティティに適用されます。たとえば、エンティティ 1 には P1、P2 という 2 つの親があり、P1 と P2 のどちらも同じ通貨の場合、換算ルールは P1.Entity1 と P2.Entity1 の両方に適用されます。

デフォルトでは、換算ルールはすべてのレポート通貨に適用されます。ただし、ルールを作成するとき、そのルールに含めるか除外するレポート通貨を選択できます。1 つ以上の通貨を選択するか、すべて選択できます。

ローカル・レート・データ、グローバル・レート・データまたは特定のレートのいずれかが換算に使用されるかに関係なく、換算に対する通貨の選択は、すべての換算オーバーライド・ルールに適用されることに注意してください。

### 複数の上書きルールの処理オプション(置換、追加、減算)

換算ルールを作成するとき、換算に使用する換算方法とレート勘定科目を選択します。換算ルールは、選択した POV のデフォルトの換算設定を上書きします。ただし、換算ルールが複数あり、ルールが競合している場合(たとえば、異なる換算方法またはレート勘定科目で同じセルを参照しているなど)、ルールに選択した処理オプション(「置換」、「加算」または「減算」)を使用し、正しい換算上書き金額を処理して、元々のデフォルト換算勘定科目を置き換えます。

#### 「置換」オプション

参照先 POV が同じ複数のトランザクション・ルールがある場合に「置換」オプションを選択すると、最後の換算ルールが使用されます。

たとえば、最初の換算ルールには、PERIODIC と MyRate を使用して換算する Acct1 が含まれているとします。2 番目の換算ルールは、同じ Acct1 を含みますが、YTD と MyRate を使用して換算します。3 番目の換算ルールは、同じ Acct1 を含み、PERIODIC と NewRate を使用して換算します。3 番目の換算ルールは、Acct1 参照を含む最後のルールなので、換算には 3 番目のルールが使用されます。

#### オプションの追加

「加算」オプションは、換算上書きルールを累積するときに使用します。

参照先 POV が同じ複数のトランザクション・ルールがある場合に「加算」オプションを選択すると、ルールが上書き換算金額に累積されます。

たとえば、最初の換算ルールには、PERIODIC と MyRate を使用して換算する Acct1 が含まれているとします。2 番目の換算ルールは、同じ Acct1 を含みますが、YTD と MyRate を使用して換算します。3 番目の換算ルールは、同じ Acct1 を含み、PERIODIC と NewRate を使用します。3 つのルールすべてに「加算」オプションを指定すると、換算上書きの結果すべてが累積されます。上書き換算は常に、デフォルトの換算値を置き換えます。

#### 「減算」オプション

参照先 POV が同じ複数のトランザクション・ルールがある場合に「減算」オプションを選択すると、ルールが上書き換算金額から減算されます。

たとえば、最初の換算ルールには、PERIODIC と MyRate を使用して換算する Acct1 が含まれているとします。2 番目の換算ルールは、同じ Acct1 を含みますが、YTD と MyRate を使用して換算します。これらのルールに「減算」オプションが指定されている場合、前に換算された上書き結果から減算されます。デフォルトの換算は、常に上書き換算で置き換えられます。

## 上書き換算ルールの作成

上書き換算のガイドラインは、[上書き換算ルールの操作](#)を参照してください。

上書き換算ルールを作成するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「連結」の順にクリックします。
2. 「連結プロセス」ページで「換算」タブを選択します。
3. ルールのリストから、「換算のオーバーライド」を選択します。

デフォルトでは、「換算オーバーライド・ルールの管理」ページに、アプリケーションで使用可能なすべての換算ルールおよび選択したフィルタ・オプションで使用可能なルールの合計数がリストされます。デフォルトのビューは「デプロイ予定」ビューです。新しいルールを作成した場合、そのルールは青いアイコンが付いてリストに表示され、変更はあったがまだデプロイされていないことが示されます。

既存のルールを変更した保存した場合、そのルールは黄色の三角形が付いて表示され、変更があることが示されます。ルールを再度デプロイすると、変更を示すアイコンは表示されなくなります。

このビューから、新しい換算ルールを追加でき、デプロイすることもできます。

4. **オプション:** デプロイしたルールを表示するには、「デプロイ済ルールの表示」をクリックします。

「デプロイ済」ビューには、現在システムにデプロイされているすべてのルールが表示されます。このビューは読取り専用です。このビューからルールを削除または変更することはできません。

5. 新しい換算ルールを追加するには、「追加」(+ )アイコンをクリックします。
6. 換算ルールの名前と説明を入力します。
7. 「換算メソッド」で、「定期的」または「年次累計」を選択します。
8. 「レート情報」から、レート勘定科目または特定の金額を選択します。

- FX レート - 平均
- FX レート - 期末
- 「特定のレート」、続いてレートを入力

デフォルトでは、現在のシナリオ、年および期間を使用してレート勘定科目値を決定します。

**オプション:** 「詳細」をクリックして、各ディメンションに異なる値を指定します。

9. 「スコープ」をクリックして、ルールのソース・メンバーを選択します。

ルールを作成するには、少なくとも 1 つのディメンションを選択する必要があります。「追加」(+ )アイコンを使用して追加のディメンションを選択するか、「削除」(X)アイコンを使用してディメンションを削除します。ソースで指定したメンバーは、「メンバーのリダイレクト」を選択していないかぎり、ターゲットと同じメンバーに書き込まれます。

親メンバーまたは計算済メンバーを持つ上書き換算ルールは作成できません。

ビュー・ディメンションは、上書き換算ルールには使用できません。

10. **オプション:** ターゲットへのリダイレクションを有効にするには、「メンバーのリダイレクト」、「追加」+アイコンの順にクリックして、メンバー・セクタを表示し、ターゲット・リダイレクションの対象メンバーを選択します。

シナリオ、年、期間、エンティティおよびデータ・ソースのディメンションは、リダイレクションには使用できません。

右側にある「アクション」メニューで、「除外の追加」をクリックして特定のメンバーを除外するか、「削除」またはメンバーを「クリア」します。

ソースに追加するディメンションごとに、「メンバーのリダイレクト」オプションを選択できます。後でリダイレクションの削除が必要になった場合は、「リダイレクションの削除」をクリックして、リダイレクション情報をクリアします。

11. 「処理のオプション」から、次のオプションを選択します。
  - 置換
  - 加算
  - 減算
12. 「保存して閉じる」または「保存して続行」を選択します。
13. ルールのデプロイについては、[上書き換算ルールのデプロイ](#)を参照してください。

## 上書き換算ルールのデプロイ

複数の換算ルールを作成し、デプロイするときにはその一部を選択することもできます。

たとえば、5つの換算ルールを作成し、そのうちの3つだけをデプロイします。デプロイすると、「**デプロイ済**」ビューに、デプロイした3つのルールが表示されます。「**デプロイ予定**」ビューには、5つのルールすべてが表示されます。

### ノート:

換算ルールをデプロイすると、計算ステータスが「OK」から「**システムの変更**」に変わります。これは、ロックされたエンティティとロック解除されたエンティティのどちらにも当てはまります。

内部的には、ルールを最初に作成するとき、連結プロセスの一部になりません。ただし、一旦アプリケーションでルールをデプロイすると、連結プロセスに含まれるようになります。

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**連結**」の順にクリックします。
2. 「連結プロセス」ページで「**換算**」タブを選択します。
3. ルールのリストから、「**換算のオーバーライド**」を選択します。  
デフォルトでは、「**換算オーバーライド・ルールの管理**」ページに、アプリケーションで使用可能なすべての換算ルールがリストされます。
4. 「**デプロイ**」をクリックして、「ルールのデプロイ」ウィンドウを開きます。  
「換算ルールのデプロイ」ウィンドウが表示され、これまでにデプロイしたルールがすべて自動的に選択されます。
5. デプロイするルールを選択し、デプロイが不要なルールは選択を解除します。  
すでに選択されていたルールのチェックを外して複数のルールをデプロイすると、チェックを外したルールはシステムからデプロイ解除されます。
6. 「ルールのデプロイ」ウィンドウで「**デプロイ**」をクリックして、ルールをデプロイします。

## 換算上書きのレート勘定科目の作成

アプリケーションの一部として作成される平均レートおよび期末レートのシステム・レート勘定科目に加え、追加のレート勘定科目を作成できます。これらのユーザー定義のレート勘定科目は、一連の異なるレート・データを使用して特別な換算を実行する換算のオーバーライド・ルールに使用されます。ユーザー定義のレート勘定科目を作成、編集または削除できます。

### ノート:

ユーザー定義のレート勘定科目を作成、編集または削除するには、サービス管理者である必要があります。

パワー・ユーザーおよびその他のユーザーには換算ルールへのアクセス権がなく、ユーザー定義のレート勘定科目を表示または変更できません。

次のトピックを参照してください。

- [ユーザー定義レート勘定科目の編集](#)
- [ユーザー定義レート勘定科目の削除](#)

次のタイプのレート勘定科目を作成できます:

- **グローバル・レート**
- **ローカル・レート**

### グローバル・レート勘定科目のガイドライン

最大 18 のグローバル・レート勘定科目(システムで作成された 2 つのメンバーを含め、合計 20 の勘定科目)を追加できます。

新しいグローバル・レート勘定科目を作成、またはレート勘定科目をメンテナンスした後は、データベースをリフレッシュする必要があります。データベースをリフレッシュすると、入力した為替レートおよび為替レートの勘定科目階層が更新されます。

新しいユーザー定義のグローバル・レート勘定科目は、入力した為替レートの子メンバーとして挿入されます。これは、その階層のレベル 0 メンバーであり、既存の 2 つのシステム・レート勘定科目である平均レートと期末レートの兄弟です。システム・レート勘定科目と同じプロパティを保持します。

新しいグローバル・レート勘定科目を作成すると、シードされているこれらのシステム・レートのフォームに、新しく定義された勘定科目が自動的に追加されます。

- **為替レートの入力 - 複数期間**
- **為替レートの入力 - 単一期間**
- **為替レート**

グローバル・レート勘定科目に入力されたレート・データは、すべてのエンティティに適用されます。

レート・キューブをターゲットにするフォームでセルが編集された場合は、システムでレートが自動的に計算されます。新しいユーザー定義のグローバル勘定科目を含

め、すべてのグローバル・レート勘定科目のレートが計算されます。計算されたすべてのグローバル・レート・データは、レート・キューブに格納され、シードされているデータ・フォームで表示できます。

### ローカル・レート勘定科目のガイドライン

新しいローカル・レート勘定科目を作成、またはレート勘定科目をメンテナンスした後は、データベースをリフレッシュする必要があります。データベースをリフレッシュすると、入力した為替レートおよび為替レートの勘定科目階層が更新されます。

新しいユーザー定義のローカル・レート勘定科目は、為替レート -> ローカル・レートの子メンバーとして挿入されます。その階層のレベル 0 メンバーです。

新しいローカル・レート勘定科目を作成すると、シードされているレート・フォームである **ローカル為替レート** に、新しく定義された勘定科目が自動的に追加されます。

シードされている **ローカル為替レート** ・データ・フォームを使用して、換算される様々な通貨に関するレート・データを入力できます。ローカル・レート勘定科目では、直接レートのみがサポートされています。間接レートやクロスレートは計算されません。

基本エンティティまたは親エンティティのローカル・レート・データを入力できます。異なるレポート通貨に換算する場合は、異なるローカル・レートを指定できます。

#### ノート:

グローバル仮定エンティティは、ローカル・レート・データには有効ではありません。

計算されたローカル・レート・データはすべて連結キューブに保管されます。

ユーザー定義のレート勘定科目を作成するには:

1. ホーム・ページで **「アプリケーション」**、**「連結」** の順にクリックします。
2. 「連結プロセス」 ページで **「換算」** タブを選択します。
3. ルールのリストから、**「換算のオーバーライド」** を選択します。
4. **「レート勘定科目の管理」** をクリックします。

使用可能なユーザー定義レート勘定科目すべてをリストするポップアップ・ボックスが表示されます。

5. 新しいレート勘定科目を作成するには、**「+」** をクリックします。
6. **名前**、**説明** および **別名** を入力します。

#### ノート:

別名情報はデフォルトの別名表で使用されます。

7. **「レート・タイプ」** に、**「グローバル・レート」** または **「ローカル・レート」** を選択します。
8. **「OK」** をクリックします。
9. **「クローズ」** をクリックして **「レート勘定科目の管理」** ダイアログ・ボックスを閉じます。



変更されたことが検出されると、次のメッセージが表示されます。

「レート勘定科目の変更をアプリケーションに適用するには、データベースをリフレッシュする必要があります。クローズ時にデータベース・リフレッシュを実行しますか?」

- 「クローズおよびリフレッシュ」を選択すると、「データベースのリフレッシュ」ポップアップが開きます。
- 「クローズ」(データベースのリフレッシュなし)を選択すると、「データベース・リフレッシュを手動で実行して、レート勘定科目の変更を反映させる必要があります。」の警告メッセージが表示されます。「OK」をクリックしてメッセージ・ボックスを終了します。

## ユーザー定義レート勘定科目の編集

### ノート:

ユーザー定義のレート勘定科目を作成、編集または削除するには、サービス管理者である必要があります。

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「連結」の順にクリックします。
2. 「連結プロセス」ページで「換算」タブを選択します。
3. ルールのリストから、「換算のオーバーライド」を選択します。
4. 「レート勘定科目の管理」をクリックします。

使用可能なユーザー定義レート勘定科目すべてをリストするポップアップ・ボックスが表示されます。

5. レート勘定科目を選択し、「編集」アイコンをクリックします。
6. 必要に応じて勘定科目を編集し、「OK」をクリックします。
7. 「クローズ」をクリックして「レート勘定科目の管理」ダイアログ・ボックスを閉じます。

勘定科目に変更を加えた場合は、次のメッセージが表示されます。

「レート勘定科目の変更をアプリケーションに適用するには、データベースをリフレッシュする必要があります。クローズ時にデータベース・リフレッシュを実行しますか?」

- 「クローズおよびリフレッシュ」を選択すると、「データベースのリフレッシュ」ポップアップが開きます。
- 「クローズ」(データベースのリフレッシュなし)を選択すると、「データベース・リフレッシュを手動で実行して、レート勘定科目の変更を反映させる必要があります。」という警告メッセージが表示されます。「OK」をクリックしてメッセージ・ボックスを終了します。

## ユーザー定義レート勘定科目の削除

ユーザー定義のレート勘定科目は、換算のオーバーライド・ルールで参照されていない場合にのみ削除できます。

### ノート:

ユーザー定義のレート勘定科目を作成、編集または削除するには、サービス管理者である必要があります。

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**連結**」の順にクリックします。
2. 「連結プロセス」ページで「**換算**」タブを選択します。
3. ルールのリストから、「**換算のオーバーライド**」を選択します。
4. 「**レート勘定科目の管理**」をクリックします。  
使用可能なユーザー定義レート勘定科目すべてをリストするポップアップ・ボックスが表示されます。
5. リストからレート勘定科目を選択し、「**削除**」アイコン(**X**)をクリックして削除します。
6. 勘定科目を削除する確認プロンプトで、「**確認**」をクリックします。

## 構成可能な計算の操作

連結プロセス内では、Financial Consolidation and Close によって内部的に一連の計算が実行され、次に標準換算および FX 計算が実行され、最後に標準連結および消去が実行されます。

また、Financial Consolidation and Close を使用すると、アプリケーション用の追加の計算ルールを含めることができます。デフォルトの連結プロセス内には、独自の計算ルールを含めることができる挿入位置が用意されています。

ルールは、Calculation Manager を使用してスクリプト形式で記述し、これを Financial Consolidation and Close にデプロイします。Calculation Manager の使用方法は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud Calculation Manager* での設計を参照してください。

構成可能な計算には、次のセキュリティ・アクセスが必要です。

- ルールを作成、変更および削除するには、サービス管理者である必要があります。
- ルールを表示するには、サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。

次のトピックを参照してください。

- [構成可能な計算の作成](#)
- [構成可能な計算ルール](#)
- [システム計算](#)

## 構成可能な計算の作成

独自の計算を作成するには、Calculation Manager を使用してルールを記述し、これを Financial Consolidation and Close にデプロイします。

Calculation Manager の使用方法は、[Calculation Manager での操作](#)および *Oracle Enterprise Performance Management Cloud Calculation Manager* での設計ガイドを参照してください。



 ノート:


計算を作成するには、サービス管理者である必要があります。


サービス管理者の役割を持っている場合は、いつでも既存の計算ルールを編集できます。シード済みの計算ルールはすべて削除できません。ルールが不要になった場合は、そのルールからコンテンツを削除できます。

計算を作成できる位置は、事前定義された挿入位置のみです。

システムで実行される計算は変更できません。ただし、一部のシステム計算は上書きできます。[システム計算](#)を参照してください。


構成可能な計算を作成するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**連結**」をクリックします。
2. 「連結プロセス」ページで、計算を作成するタブを選択します(「**現地通貨**」、「**換算**」(複数通貨のアプリケーションの場合)または「**連結**」)。「連結プロセス」ページに、適用可能なシステムおよびユーザー定義計算が実行順序で一覧表示されます。
3. ルールを選択すると、右側のパネルにルールのプロパティが表示されます。右側のパネルでルールの説明を表示するには、「**情報**」タブ  をクリックします。

4. 「連結プロセス」ページで、「ユーザー」アイコン  が付いているルールのリストの挿入位置をクリックします。

サービス管理者でない場合は、挿入位置のリンクは使用できません。

5. **オプション:** 非拡張ディメンション・アプリケーションを使用している場合は、「**ブロックの自動作成**」で、「**いいえ**」のリンクを「**はい**」に変更し、構成可能な計算用の欠落ブロックを自動的に作成できるようにします。この値を変更すると、計算ステータスが「**システムの変更**」としてマークされます。続行するには、「**OK**」をクリックします。

 ノート:

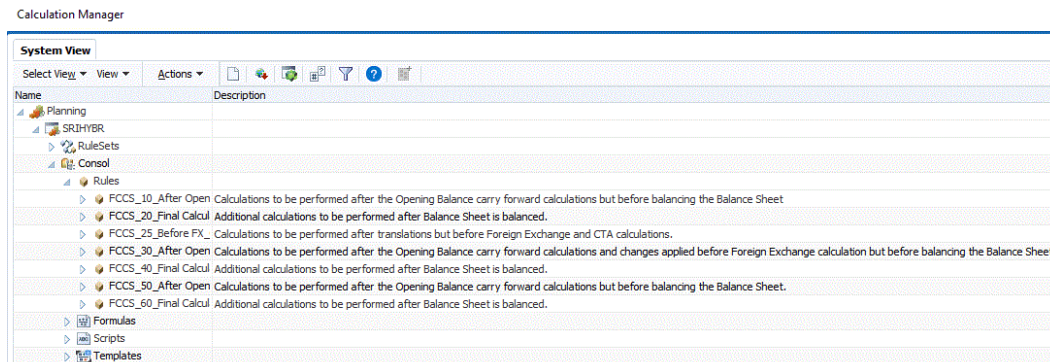
このオプションは、非拡張ディメンション・アプリケーションのみに適用されます。「**ブロックの自動作成**」オプションを有効化すると、計算のパフォーマンスに影響する可能性があります。このオプションの詳細は、[構成可能な計算用のブロックの自動作成の有効化](#)を参照してください。

6. ブラウザの別のタブに Calculation Manager が開きます。「Planning」フォルダを展開し、「FCCS Consol Rules」フォルダのルールに移動します。これらは、編集が許可されているルールです。

7. 挿入位置に対応するルールまでドリルダウンします。  
たとえば、Calculation Manager ルール: **FCCS\_10\_After Opening Balance Carry Forward\_LocalCurrency**

は、「**期首残高の繰越し後**」挿入位置に対応します。

ルールおよび対応する挿入位置のリストについては、[構成可能な計算ルール](#)を参照してください。



8. スクリプトを編集して「保存」をクリックし、「OK」をクリックします。  
また、Calculation Manager ルールをインポートしてルールを編集し、ルールをエクスポートすることもできます。  
  
各ルールに適用可能なディメンション・メンバーについては、ルール・スクリプトのコメントを参照してください。
9. ルールの編集が完了したら、メニュー・バーの「検証およびデプロイ」をクリックします。  
ルールが検証され、そのメンバーおよび構文が有効であることが確認されます。デプロイメント前に検証に合格する必要があります。  
  
検証に合格すると、Calculation Manager によってそのルールがデプロイされます。「デプロイ・ステータス」メッセージで、「OK」をクリックします。  
  
デプロイした挿入ルールは、連結スクリプトの一部となります。
10. 検証に失敗した場合、デプロイメントは失敗し、エラーがジョブ・コンソールに記録されます。「ジョブ」、「最近のアクティビティ」の順に移動し、エラーが表示されているルールの名前を選択します。
11. ルールがデプロイされると、該当するエンティティの計算ステータスが「OK」から SC（「システムの変更」）に変わります。計算ステータス「データなし」または「影響」は同じままです。新しい計算の影響を確認するには、連結プロセスを実行する必要があります。

## 構成可能な計算用のブロックの自動作成の有効化

構成可能な計算を作成する場合、「ブロックの自動作成」オプションを使用すると、欠落しているブロックを自動的に作成できます。これにより、構成可能な計算を実行するときに欠落しているデータに関する問題を解決できます。

このオプションは、非拡張ディメンション・アプリケーションのみに適用されます。

[構成可能な計算の作成](#)を参照してください。

 **ノート:**

カスタム計算でボトムアップ処理(@CALCMODE(BOTTOMUP))を使用している場合、そのカスタム計算では「ブロックの自動作成」を**有効化しない**でください。ボトムアップ処理(@CALCMODE(BOTTOMUP))とブロックの自動作成は、相互排他的な機能です。

疎標準ディメンション・メンバーの一意的組合せごとにデータ・ブロックが作成されます。データ・ブロックは、疎ディメンション・メンバーの組合せに対するすべての密ディメンション・メンバーを表します。

アプリケーションに 4 つのディメンションがあるとしします。

**表 19-1 ディメンションの例**

S.No.	ディメンション	タイプ	メンバー	合計メンバー数
1	シナリオ	Sparse	Actual、 Budget	2
2	年	Sparse	FY17、 FY18	2
3	期間	Sparse	Jan、 Feb	2
4	勘定科目	Dense	Sales、 Cash	2

アプリケーションには、6 つの疎メンバーと 2 つの密メンバーがあります。すべての疎メンバーが保管済タイプであるとしします。

密ディメンションのすべてのメンバーがブロックを構成します。このため、このアプリケーションのブロックは次のようになります。

'Sales' のデータ

'Cash' のデータ

このタイプのブロックは、アプリケーション内の保管済疎メンバーの組合せごとに存在します。

**表 19-2 ブロックの例**

S.No.	インデックス			ブロック	
1	Actual	FY17	Jan	Sales (#Missing)	Cash (#Missing)
2	Actual	FY17	Feb	Sales (#Missing)	Cash (#Missing)
3	Actual	FY18	Jan	Sales (#Missing)	Cash (#Missing)
4	Actual	FY18	Feb	Sales (#Missing)	Cash (#Missing)
5	Budget	FY17	Jan	Sales (#Missing)	Cash (#Missing)
6	Budget	FY17	Feb	Sales (#Missing)	Cash (#Missing)
7	Budget	FY18	Jan	Sales (#Missing)	Cash (#Missing)

表 19-2 (続き) ブロックの例

S.No.	インデックス			ブロック	
8	Budget	FY18	Feb	Sales (#Missing)	Cash (#Missing)

このため、アプリケーションには合計で 8 つのブロックがあります。一般規則として:

ブロックの合計数 = アプリケーションのすべての保管済疎メンバーの積

このアプリケーション例では、Scenario の 2 つのメンバー x Year の 2 つのメンバー x Period の 2 つのメンバー = 8 ブロックになります

Financial Consolidation and Close では内部的に、連結スクリプトの生成時に連結用のブロックが事前に作成されます。追加の構成可能な計算を作成する場合、追加ブロックの作成が必要になる場合があります。「ブロックの自動作成」を有効化すると、欠落しているブロックが自動的に作成されます。

 **ノート:**

「ブロックの自動作成」オプションを有効化すると、計算のパフォーマンスに影響する可能性があります。

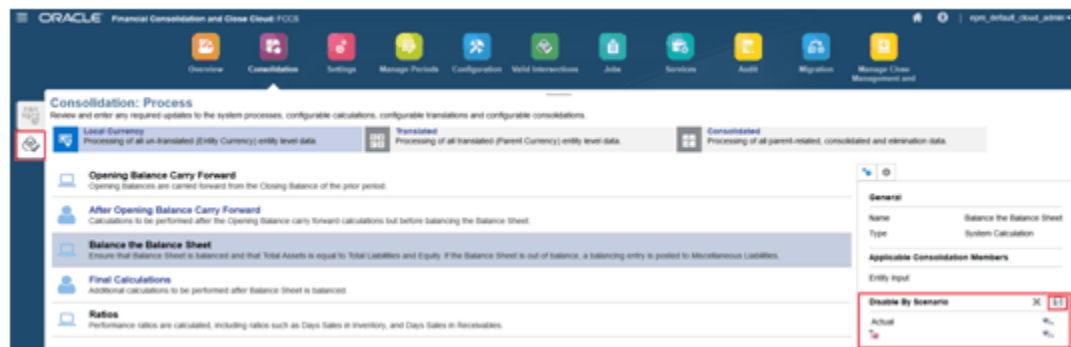
ブロックの作成についてさらに学習するには、次のビデオをご覧ください:



概要: [Financial Consolidation and Close](#) でのカスタム計算のブロックの作成

## 構成可能な計算ルール

構成可能な計算ルールは、「連結プロセス」ページから管理します。



### 複数通貨のアプリケーション

複数通貨のアプリケーションがある場合は、「連結プロセス」ページに、「現地通貨」、「換算」および「連結」の 3 つのタブが表示されます。



これらのタブには、Financial Consolidation and Close が従う連結フローが表示されます。最初に現地通貨の基本レベルのメンバーに対して計算が実行され、次に親通貨への換算が実行され、最後に連結が実行されます。

### 単一通貨のアプリケーション

単一通貨のアプリケーションがある場合は、「連結プロセス」ページに、「現地通貨」および「連結」の 2 つのタブが表示されます。

### 計算行

「連結プロセス」ページの各タブには、実行される計算のフローを示す複数の行が順番に表示されます。各行は次のアイコンのいずれかでマークされています。

-  - システム。この計算が Financial Consolidation and Close によって実行されることを表しています。
-  - ユーザー定義ルールの挿入位置。Calculation Manager から独自の計算を挿入できるプロセス内の位置を表しています。

リストでいずれかのルールを選択すると、右側に「プロパティ」パネルが表示され、ルール名、そのルールの処理対象の連結メンバーおよび上書き指定(該当する場合)などの情報が表示されます。

ユーザー定義計算を挿入できる行をクリックすると、ブラウザの別のタブに Calculation Manager が開きます。

#### 例:

1. 「現地通貨」タブで、「期首残高の繰越し後」または「財務計算」をクリックします。  
Calculation Manager が開きます。
2. Calculation Manager に、次のような FCCS Consol のシード済ルールが表示されるまで、左側の「Planning」フォルダを展開します。
  - FCCS\_10\_After Opening Balance Carry Forward\_LocalCurrency
  - FCCS\_20\_Final Calculations\_LocalCurrency
3. Calculation Manager のルールは、構成可能な計算の行に対応します。例:
  - Calculation Manager ルール: **FCCS\_10\_After Opening Balance Carry Forward\_LocalCurrency**  
は、独自の計算を追加できる「期首残高の繰越し後」行に対応します。これらは、期首残高の繰越し計算の後、貸借対照表の貸借一致前に実行する計算です。
  - Calculation Manager ルール: **FCCS\_20\_Final Calculations\_LocalCurrency**  
は、貸借対照表の貸借一致後に実行される独自の計算を追加できる、「財務計算」行に対応します。

次の表に、各タブの Financial Consolidation and Close の行および対応する Calculation Manager のルールを示します。

### 構成可能な計算ルールのサマリー

表 19-3 複数通貨の計算

FCCS のタブ	FCCS の行	Calculation Manager のルール
現地通貨	残高の繰越し後	FCCS_10_After Opening Balance Carry Forward
現地通貨 現地通貨挿入ルールは、エンティティ通貨/エンティティ入力/エンティティ消去調整/エンティティ連結に制限されます 連結ディメンションのエンティティ入力に加えて、有効な連結メンバーとして「FCCS_Amount Override」または「FCCS_Rate Override」も指定できます。 ノート: 「FCCS_Amount Override」または「FCCS_Rate Override」を使用する場合は、最初に、連結キューブの次の代替変数を設定して有効にする必要があります。 CONF_CALC_ENABLE_RATE_AMOUNT_OVERRIDE = True <a href="#">代替変数の作成および値の割当てを参照してください。</a>	財務計算	FCCS_20_Final_Calculations
換算	外国為替(FX)の計算前	FCCS_25_Before FX_Calcs
換算	期首残高の繰越し後	FCCS_30_After Opening Balance Carry Forward
換算 換算挿入ルールは、親通貨/エンティティ入力/エンティティ消去調整/エンティティ連結に制限されます	財務計算	FCCS_40_Final_Calculations
連結	期首残高の繰越し後	FCCS_50_After Opening Balance Carry Forward
連結 連結挿入ルールは、親通貨/消去に制限されます	財務計算	FCCS_60_Final_Calculations

表 19-4 単一通貨の計算

FCCS のタブ	FCCS の行	Calculation Manager のルール
現地通貨	残高の繰越し後	FCCS_110_After Opening Balance Carry Forward
現地通貨	財務計算	FCCS_120_Final_Calculations
連結	残高の繰越し後	FCCS_130_After Opening Balance Carry Forward
連結	財務計算	FCCS_140_Final_Calculations

CALC DIM ロジックの無効化

挿入位置の構成可能な計算スクリプトを作成すると、**Financial Consolidation and Close** によって親レベルでデータが自動的に生成され、これらの親メンバーが次の挿入位置で使用可能になります。システムにより、入力したデータをロールアップする **CALC DIM** ロジックが追加されます。この追加された **CALC DIM** ロジックを処理するプロセスは、階層の複雑さに応じて時間がかかります。後の挿入位置で再計算された親メンバーを参照する必要がない場合は、挿入位置に追加された **CALC DIM** ロジックを無効にすることで、連結プロセス全体を高速化できます。

複数通貨アプリケーションに対して **CALC DIM** ロジックが生成されないようにする場合は、次の代替変数を作成し、値を **True** に設定する必要があります：

- CONF\_CALC\_FCCS10\_DISABLECALCDIM
- CONF\_CALC\_FCCS20\_DISABLECALCDIM
- CONF\_CALC\_FCCS25\_DISABLECALCDIM
- CONF\_CALC\_FCCS30\_DISABLECALCDIM
- CONF\_CALC\_FCCS40\_DISABLECALCDIM
- CONF\_CALC\_FCCS50\_DISABLECALCDIM
- CONF\_CALC\_FCCS60\_DISABLECALCDIM
- CONF\_CALC\_FCCS70\_DISABLECALCDIM

たとえば、**FCCS\_10** および **FCCS\_20** の構成可能な計算ルールでカスタム・ロジックを記述したとします。**FCCS\_20** については **CALC DIM** ロジックを無効にし、**FCCS\_10** については無効にしない場合、**CONF\_CALC\_FCCS20\_DISABLECALCDIM** という名前の代替変数を作成し、値を **True** に設定する必要があります。

単一通貨アプリケーションに対して **CALC DIM** ロジックが生成されないようにする場合は、次の代替変数を作成し、値を **True** に設定する必要があります：

- CONF\_CALC\_FCCS110\_DISABLECALCDIM
- CONF\_CALC\_FCCS120\_DISABLECALCDIM
- CONF\_CALC\_FCCS130\_DISABLECALCDIM
- CONF\_CALC\_FCCS140\_DISABLECALCDIM
- CONF\_CALC\_FCCS150\_DISABLECALCDIM

**CALC DIM** ロジックを無効にすると連結スクリプトの生成に影響するため、連結結果を慎重に確認する必要があることに注意してください。

## システム計算

サービス管理者の場合は、一部のシステム計算を上書きまたは無効にできます。


次のトピックを参照してください。

- [カスタム・ディメンション最上位メンバーのシステム計算オプション](#)
- [期首残高の繰越し](#)
- [期首残高上書きルール](#)
- [貸借対照表の残高計算](#)
- [比率計算](#)



また、独自の計算ルールを作成して、デフォルトの連結計算プロセスに挿入することもできます。[構成可能な計算の作成](#)を参照してください。

システム計算を上書きまたは無効にするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**連結**」をクリックします。
2. 「**連結プロセス**」タブが選択されていない場合は選択します。
3. 計算を構成するタブを選択します(「**現地通貨**」、「**換算**」(複数通貨のアプリケーションの場合)または「**連結**)。 「連結プロセス」ページに、適用可能なシステムおよびユーザー定義計算が実行順序で一覧表示されます。
4. ルールを選択すると、右側のパネルにルールのプロパティが表示されます。右側のパネルでルールの説明を表示するには、「**情報**」タブ  をクリックします。
5. **オプション:** シナリオの残高システム計算を無効にするには:
  - a. 「**現地通貨**」タブで、「**貸借対照表の残高**」ルールを選択します。
  - b. 右側のパネルの「**シナリオで無効化**」の下で、メンバー・セレクタを使用してシナリオ・メンバーを選択します。
  - c. 「**保存**」をクリックしてルールを保存します。
6. **オプション:** 無効になっているシステム計算を有効にするには:
  - a. 無効になっている計算を選択します。
  - b. 上書きエントリを削除します。
  - c. 「**保存**」をクリックしてルールを保存します。

## カスタム・ディメンション最上位メンバーのシステム計算オプション

ユーザー定義カスタム・ディメンションでは、サービス管理者は、パフォーマンスを向上させるために、レベル 0 の全メンバーを使用するかわりに、カスタム・ディメンションの最上位メンバーを使用してシステム計算を処理できます。オプションを適用する対象となる特定のカスタム・ディメンションを選択できます。

システム計算オプションはユーザー定義のカスタム・ディメンションのみに適用され、複数 GAAP ディメンションには適用されません。

選択した場合、システム計算オプションはすべてのシナリオと年に適用されます。

アプリケーションでカスタム XX の合計メンバーの外部に追加代替階層が含まれている場合、最上位メンバー・オプションはその代替階層には適用されません。最上位メンバー処理オプションの効果を得るには、すべての階層をカスタム XX の合計メンバーの一部として含めるように(適用可能な場合)カスタム・ディメンションを再設計する必要があります。

### ノート:

アプリケーションが拡張ディメンション・アプリケーションである場合は、連結パフォーマンスが向上するように、この機能をオフにできます。



このオプションは、エンティティ通貨、親通貨、レポート通貨など、適用可能なすべての通貨メンバーを対象として、次のシステム計算に適用されます。

- 期首残高
  - 増減の期首残高および前利益剰余金の計算の両方を含む
  - 期首残高出資比率の変更
- 外国為替(FX)の計算(複数通貨アプリケーション用)
  - FX 期首
  - FX 増減
  - FX から累積換算調整(CTA)へ
- 残高計算

換算プロセス中、エンティティ通貨から親通貨への変換および親通貨からレポート通貨への変換は、カスタム詳細レベルで継続して計算されます。換算オーバーライド・ルールと構成可能な連結ルールは、ルール定義に従って処理されます。

既存のアプリケーションの場合、オプションはいつでも変更できます。デフォルトでは、すべてのカスタム・ディメンションでオプションは無効になっています。オプションが変更されると、システムによってその計算ステータスが **SC** (システム変更) に変更され、必要に応じて再連結できます。新たなシステム計算は、現在選択されているオプションに基づいて実行されます。

タスク監査ログには、システム計算オプションに対する変更の履歴が格納されています。それには、設定変更を実行したユーザー、実行日時および変更された情報(元の設定と新たに更新された設定)が含まれます。

システム計算オプションを設定するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**連結**」をクリックします。
2. 「**連結プロセス**」タブを選択します。
3. 計算を構成するタブを選択します(「**現地通貨**」、「**換算**」(複数通貨のアプリケーションの場合)または「**連結**)。
4. ページ上部にある「**オプション**」メニューをクリックします。
5. 「**システム計算オプション**」で、最上位メンバー処理が適用されるディメンションを選択し、「**保存**」をクリックします。

## 期首残高の繰越し

期首残高の繰越しは、期首残高を自動的に繰り越す組込みのシステム計算です。前期間から期末残高を取得し、これをすべての財務勘定科目の期首残高メンバーに保管します。ビュー(期別、QTD、HTD、YTD)に基づいて適切な期末残高を動的に取得します。

### 該当する連結メンバー

連結ディメンションの各メンバーは、連結プロセス内の各ステージのデータを表しています。

ルールごとに、計算の処理対象の連結ディメンション・メンバーを表示できます。

現地通貨データを処理するこのルールでは、次のメンバーの計算を実行します。

- エンティティ入力
- エンティティ連結(親エンティティ用)
- 消去調整(出資比率の管理用メンバー)

## 期首残高上書きルール

期首残高に対するシステムのデフォルトの動作では、データが書き込まれる期首残高と同じシナリオから期末残高を繰り越します。

期首残高には、各年度の最初の期間の期末残高データのソースとなる別のシナリオを指定できます。

たとえば、予測、プラン、予算など、将来の予測データを記録する場合、レポートされる期首残高は、予測される期間の期末残高に可能なかぎり正確な結果が反映されるように、通常は実際の最新データに基づいています。また、レポート期間中の実際のデータが使用可能になったときに、レポート期間中のトランザクションの実際の結果を使用して予測を更新することも一般的です。

指定したオーバーライド・ソース・シナリオは、すべての年に適用することも、指定した年のみに制限することもできます。

スコープ内のすべての年の場合、前期間関係は、最初のレポート期間を除くレポート期間の前期間が、同じビューおよび同じシナリオの直前のレポート期間であると想定します。

年の最初のレポート期間の場合、直前のレポート期間(前期間)は、オーバーライド・ソース・シナリオからの前年の最後のレポート期間です。

### ノート:

期末残高から期首残高への繰越しの一般的な要件は、損益計算書、現在の利益剰余金、前期の利益剰余金、配当宣言額、利益剰余金(合計)階層内に追加されたその他勘定科目など、利益剰余金(合計)階層内の勘定科目には適用されません。年度末の利益剰余金合計から次年度の期首残高への繰越しは、常に次年度の最初の期間の利益剰余金勘定 - 前勘定科目にのみ適用されます。

### 期首残高調整の換算

期首残高調整の換算では、前期間の為替レート(または履歴の勘定科目のエンティティ通貨/換算された通貨の比率)が適用されます。期間 1 の場合、適用されるレート/比率は、現在のシナリオ以外のオーバーライド・ソース・シナリオの前年の最後の期間から取得されます。

### レポート通貨の期首残高の換算

レポート通貨の期首残高は、前期間の期末残高から繰り越されます。前期間の期末残高を最初のレポート期間で使用できない場合、未換算の期首残高は、現在のシナリオ以外のオーバーライド・ソース・シナリオの前期間からの為替レート(または履歴の勘定科目のエンティティ通貨/換算された通貨の比率)で換算されます。レート/比率が使用できない場合、換算は行われません。換算プロセスを実行すると、オーバーライド・ソース・シナリオで最初に期間を変換するように求めるプロンプトが表示されます。

### 計算および連結のステータス

オーバーライド・ソース・シナリオの前年の 1 つ以上の期間が OK ステータスでない場合、連結は実行されません。連結プロセスを実行すると、オーバーライド・ソース・シナリオで最初に期間を連結するように求めるプロンプトが表示されます。

### 出資比率の管理の勘定科目

出資比率の管理の勘定科目に対してオーバーライド・ルールが追加または削除された場合は、出資比率データの再計算を求めるプロンプトが表示されます。

パーセントの勘定科目では、変更の勘定科目は、変更の勘定科目が現在の期間の値からオーバーライド・シナリオの前期間の値を差し引いた値と等しい年の最初の期間を除き、現在の期間の値から前期間の値を差し引いた値に等しくなります。

連結メソッドの勘定科目では、メソッドが期間ごとに変更された場合、変更の勘定科目値は true になり、それ以外の場合は勘定科目値が false になります。年の最初の定期的な期間では、参照される前期間はオーバーライド・シナリオの期間です。

前期間の勘定科目は、前期間の勘定科目がオーバーライド・シナリオの値を反映する年の最初の期間を除き、前期間の勘定科目の値を反映します。

期首残高計算オーバーライド・ルールを指定するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**連結**」をクリックします。
2. 「**連結プロセス**」タブが選択されていない場合は選択します。
3. 「**現地通貨**」タブで、「**期首残高の繰越し**」計算を選択します。  
「**換算**」および「**連結**」タブに期首残高オーバーライド・ルールが表示されますが、「**現地通貨**」タブで編集する必要があります。
4. 右側のパネルの「**オーバーライド**」で、「**追加 (+)**」アイコンをクリックします。  
複数のオーバーライド・ルールを作成できますが、各ルールの設定は他のルールの設定と競合できません。
5. **オーバーライド名**に、ルールの名前を入力します。
6. 期首残高オーバーライドのオプションを選択します。
  - **年** - メンバー・セレクトタから 1 つ以上の年を入力または選択します。年を選択していない場合、オーバーライドはすべての年に適用されます。
  - **現在のシナリオ** - メンバー・セレクトタから 1 つ以上のシナリオを入力または選択します。
  - **ソース・シナリオ** - メンバー・セレクトタから 1 つのシナリオを入力または選択します。
7. 「**保存**」をクリックします。
8. **オプション**: オーバーライド・ルールを削除するには、ルール名を選択して「**削除 (X)**」アイコンを選択します。

例:

FY18 の予測シナリオでは、実際のシナリオの前期間の期末残高(会計年度 17 年 12 月)から期首残高を取得するように指定できます。

### Consolidation: Process

Review and enter any required updates to the system processes, configurable calculations, configurable translations and configurable consolidations.

**Local Currency**  
Processing of all un-translated (Entity Currency) entity level data.

**Translated**  
Processing of all translated (Parent Currency) entity level data.

**Consolidated**  
Processing of all parent-related, consolidated and elimination data.

**Opening Balance Carry Forward**  
Opening Balances are carried forward from the Closing Balance of the prior period.

**After Opening Balance Carry Forward**  
Calculations to be performed after the Opening Balance carry forward calculations but before balanc...

**Balance the Balance Sheet**  
Ensure that the Balance Sheet is balanced and that Total Assets is equal to Total Liabilities and E...

**Final Calculations**  
Additional calculations to be performed after Balance Sheet is balanced.

**Ratios**  
Performance ratios are calculated, including ratios such as Days Sales in Inventory, and Days Sales...

**Applicable Consolidation Members**

Entity Input  
Entity Consolidation

**Overrides**

**Forecast FY18**

Year  
FY18  
Current Scenario  
Forecast  
Source Scenario  
Actual

期末残高を取得するための別のシナリオを指定する方法の詳細は、次のチュートリアルをご覧ください。



[Financial Consolidation and Close](#) でのシナリオ・オーバーライドによる期首残高の繰越し

## 貸借対照表の残高計算

新しいアプリケーションを作成すると、「連結プロセス」ページに残高計算のエントリが含まれます。この計算を実行して、貸借対照表の貸借が一致していることを確認できます(資産合計 = 負債および資本合計)。

貸借対照表の貸借が一致していない場合、調整金額が計算され、増減ディメンション・メンバー「その他流動負債」を使用して残高と呼ばれるシード済の勘定科目に転記されます。これは、事前に定義されたその他の負債勘定科目で、貸借対照表の貸借が一致した状態を保つ目的でのみ使用されます。この計算は、貸借対照表が自動的に貸借対照されないようにする場合、無効化できます。

残高勘定科目交差:

- 勘定科目: FCCS\_Balance
- 増減: FCCS\_Mvmts\_OtherCurrentLiabilities
- データ・ソース: FCCS\_No Data Source

FCCS\_Balance 勘定科目には、すべての勘定科目が資産合計、負債合計および資本合計親勘定科目内に収まるかぎり、正確に移入する必要があります。

集約演算子(加算/減算)は、親/子勘定科目タイプと正確に一致する必要があります。

FCCS\_Balance エントリは"データ・ソースなし"データ・ソース・ディメンション・メンバーに書き込まれるため、貸借対照された結果を参照するには、合計データ・ソースおよび合計増減メンバーを参照する必要があります。

**Consolidation: Process**  
Review and enter any required updates to the system processes, configurable calculations, configurable translations and configurable consolidations.

**Local Currency**  
Processing of all un-translated (Entity Currency) entity level data

**Translated**  
Processing of all translated (Parent Currency) entity level data

**Consolidated**  
Processing of all parent-related, consolidated and elimination data

**Opening Balance Carry Forward**  
Opening Balances are carried forward from the Closing Balance of the prior period.

**After Opening Balance Carry Forward**  
Calculations to be performed after the Opening Balance carry forward calculations but before balanc...

**Balance the Balance Sheet**  
Ensure that the Balance Sheet is balanced and that Total Assets is equal to Total Liabilities and E...

**Final Calculations**  
Additional calculations to be performed after Balance Sheet is balanced.

**Ratios**  
Performance ratios are calculated, including ratios such as Days Sales in Inventory, and Days Sales...

**General**  
Name : Balance the Balance Sheet  
Type : System Calculation

**Applicable Consolidation Members**  
Entity Input

**Disable By Scenario**

Scenario  
Scenario

貸借対照表計算を無効化するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「連結」をクリックします。
2. 「連結プロセス」タブが選択されていない場合は選択します。
3. 「現地通貨」タブで、「貸借対照表の残高」計算を選択します。
4. 右側のパネルの「シナリオで無効化」の下で、次のいずれかの方法を使用します。
  - 選択したシナリオを EXCLUDE 句に追加します(例: Budget,Actual)。これは、予算および実績以外のすべてのシナリオが無効であることを意味します。
  - 計算を無効にするシナリオのみを含めてエントリを変更します(例: Consol,Forecast,ActBudDiff)。

メンバー・セレクトには 2 つの行があることに注意してください。

- 最初の行は、無効化する必要があるシナリオのリストです削除するシナリオをこの行に追加します。
  - 2 番目の行は、除外行です。これは、2 番目の行にリストされているシナリオが効率的に(無効化ではなく)有効化されることを意味します。
5. 「保存」をクリックしてルールを保存します。
  6. 連結プロセスを再実行します。

#### 該当する連結メンバー

エンティティ 入力連結メンバーの現地通貨データを使用してこの計算のみが処理されます。

## 比率計算

流動性比率、資産管理比率、利益率、レバレッジ率など、比率の多くは、必要に応じて動的に計算されます。2 つのパフォーマンス比率(棚卸資産回転日数および売上債権回収日数)は、連結プロセスの一環として計算されます。

これらのパフォーマンス比率は、次のように計算されます。

**棚卸資産回転日数** = (平均在庫/1 年間の売上コスト) \* 365

平均在庫は、過去 13 期間の在庫残高を合計し、これを 13 で割ったものと等しくなります。

1 年間の売上コストは、現在の期間とその前の 12 期間の売上コストの合計と等しくなります。

**売上債権回収日数 = 365 / (年間売上高 / 平均売上債権)**

平均売上債権は、過去 13 期間の売上債権残高を合計し、これを 13 で割ったものと等しくなります。

年間売上高は、現在の期間とその前の 12 期間の売上高の合計と等しくなります。

#### 該当する連結メンバー

- エンティティ入力
- エンティティ連結
- 消去調整(出資比率の管理用メンバー)

連結のパフォーマンスを向上するために、これらの計算を使用しない場合は、選択したシナリオの FCCS\_Days Sales in Receivables (売上債権回転日数)および FCCS\_Days Sales in Inventory (棚卸資産回転日数)の比率計算を無効にできます。このオプションは、資産管理機能が有効になっている場合にのみ使用できます。

比率計算を無効にするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**連結**」をクリックします。
2. 「**連結プロセス**」タブが選択されていない場合は選択します。
3. 「**現地通貨**」タブで、「**比率**」計算を選択します。
4. 右側のパネルの「**無効化されたシナリオ**」で、「**シナリオの追加**」をクリックします。
5. 「**メンバー選択**」から、計算を無効にするシナリオ(たとえば、予測)を選択し、「**OK**」をクリックします。

メンバー・セレクトタには 2 つの行があることに注意してください。

- 最初の行は、**無効化**する必要があるシナリオのリストです削除するシナリオをこの行に追加します。
  - 2 番目の行は、除外行です。これは、2 番目の行にリストされているシナリオが効率的に(無効化ではなく)**有効化**されることを意味します。
6. 「**保存**」をクリックしてルールを保存します。
  7. 連結プロセスを再実行します。

## Calculation Manager での操作

「連結プロセス」ページで構成可能な計算ルールをクリックすると、Calculation Manager が開き、ルールを操作できます。デフォルトでは、シード済ルールの内容は空で、コメントのみが含まれています。計算ロジックを作成するには、次のいずれかの方法を使用します。

- グラフィカル UI を使用して、オブジェクトをルールにドラッグ・アンド・ドロップします  
 グラフィカル・モードでは、関数セレクトタおよびメンバー・セレクトタを使用できます。デザインにオブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップできます。
- Essbase スクリプトを使用して、ルールを編集します



スクリプト・モードでは、関数セレクトおよびメンバー・セレクトを使用できます。コメントの切取りと貼付け、検索と置換、表示または非表示、およびインポートまたはエクスポートが可能です。

関数セレクトおよびメンバー・セレクトは、グラフィカル・モードとスクリプト・モードの両方で完全にサポートされています。グラフィカル・モードとスクリプト・モードの切替えは、「表示」ドロップダウンで該当するオプションを選択することでいつでも行うことができます。

- デザイナ
- スクリプトの編集
- スクリプトの表示

また、テスト目的でコード・セクションをコメント・アウトしたり、コメントを追加または削除することもできます。

Calculation Manager の機能は、構成可能な計算に対して有効化されます。

Calculation Manager によってサポートされるカスタム定義関数は、[Calculation Manager のカスタム定義関数の操作](#)を参照してください。

Calculation Manager の使用方法の詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud Calculation Manager* での設計を参照してください。

検証は、保存プロセスの前または保存プロセス中にいつでも実行できます。メンバーおよび関数が有効であり、構文が正しいことが確認されます。

プロセスの一部としてカスタム計算を行うには、ルールをデプロイする必要があります。

Calculation Manager から作成したテンプレートをデプロイすることはできません。構成可能な計算(挿入位置)またはオンデマンド・ルールにそれらを含めた後、それらのルールをデプロイする必要があります。

デプロイ中にエラーが発生した場合は、ジョブ・コンソールのエラー・ログでエラーの詳細を確認できます。ルールがデプロイされると、計算ステータスが「システム変更」(SC)に変わります。デプロイされたルールに加えられた変更に基づいてデータを再連結する必要があります。

Calculation Manager で定義する計算は単独で実行できないことに注意してください。ルールがデプロイされると、**Financial Consolidation and Close** では、連結ロジックの該当する場所にシード済ルールのスクリプト文が挿入されます。

ルールは Calculation Manager 内から起動しません。また、シナリオ/年/期間/エンティティの選択は、**Financial Consolidation and Close** から連結を呼び出すユーザーによって決定されるため、シナリオ/年/期間/エンティティを OUTER FIX 文としてシード済ルールに含めることはできません。[Essbase 計算スクリプトの操作](#)を参照してください。

## 構成可能な計算のベスト・プラクティス

構成可能な計算を操作する際には、次のベスト・プラクティスを使用します。

### 計算の概念

計算を作成するための最も重要な概念は次のとおりです:

- データ・ブロック
- 基本のスクリプト形式
- ボトムアップ計算とトップダウン計算
- ブロック・モードとセル・モード

### データ・ブロック

次の図は、サンプル・アプリケーションのデータ・ブロックを示します。

	Dimension	Type	Members	Total Members
1.	Scenario	Sparse	Actual, Budget	2
2.	Year	Sparse	FY17, FY18	2
3.	Period	Sparse	Jan, Feb	2
4.	Account	Dense	Sales, Cash	2

- 密ディメンションの保管済メンバーがデータ・ブロックを構成します。前述のサンプル・アプリケーションのブロック・サイズは、2 (Sales および Cash) x 8 バイト = 16 バイトです。
- 疎ディメンション・メンバーの一意的な組合せがインデックスを構成し、データ・ブロックをポイントします。前述のサンプル・アプリケーションには、合計で 2 (Actual, Budget) x 2 (FY17, FY18) x 2 (Jan, Feb) = 8 インデックスがあります。

	INDEXes			BLOCKs			
1.	Actual	FY17	Jan				
2.	Actual	FY17	Feb				
3.	Actual	FY18	Jan				
4.	Actual	FY18	Feb			Sales (10)	Cash(#Missing)
5.	Budget	FY17	Jan				
6.	Budget	FY17	Feb				
7.	Budget	FY18	Jan				
8.	Budget	FY18	Feb				

Essbase ブロック・ストレージ・オプション(BSO)データベースでは、ブロックが密ディメンションの保管済メンバーを構成します。Financial Consolidation and Close では、デフォルトでは、勘定科目が唯一の密ディメンションです。

この例では、勘定科目ディメンションは密であり、1977 の保管済メンバーがあります。これは、単一の BSO データベース・コンソールのブロックに 1977 個のセルがあり、それぞれが勘定科目メンバーを表すことを示します。

バイト単位のブロック・サイズは次のようになります:



- ブロック・サイズ(バイト) = 勘定科目の保管済メンバーの数 \* 8
- ブロック・サイズ(バイト) = 1977 \* 8 = **15,816** バイト

Dimension	Type	Members in Dimension	Members Stored
Account	Dense	2315	1977
Period	Sparse	19	14
Consolidation	Sparse	11	8
Data Source	Sparse	54	48
Currency	Sparse	13	11
Intercompany	Sparse	30	30
Movement	Sparse	97	45
Nature	Sparse	547	546
Detail	Sparse	116	111
Scenario	Sparse	3	3
Years	Sparse	11	11
View	Sparse	5	3
Entity	Sparse	56	56
Source Currency	Sparse	16	0
Currency_Attribute	Sparse	16	0

**ノート:** データベース・プロパティを表示するには、Calculation Manager で「アクション」、「データベース・プロパティ」の順に選択します。

### データ・ブロック作成時のベスト・プラクティス

データ・セルへの書き込みが行われる構成可能な計算を実行する場合、データをデータベースに書き込むためには、データ・ブロックが存在する必要があります。

データ・ブロックは、保管された疎および密ディメンション・メンバーの組合せです。

保管された疎ディメンションの組合せごとに個別のデータ・ブロックが作成されます。密ディメンションの複数のメンバーは、1つのブロックに相当します。

構成可能な計算を作成する場合、状況によっては、計算結果を保管して欠落しているデータに関する問題を解決するために、追加ブロックを作成する必要があります。

「ブロックの自動作成」オプションを有効化すると、欠落しているブロックを自動的に作成できます。[構成可能な計算用のブロックの自動作成の有効化](#)を参照してください。

構成可能な計算でボトムアップ処理を使用する場合、データ・ブロックを手動で作成するか、データ・ブロックがすでに存在することを確認する必要があります。

次のいずれかの方法を使用して、データ・ブロックを手動で作成できます。

- データ・ロード・プロセス中にデータを割り当てます。たとえば、単一の密メンバー交差に「Zero」と書き込み、ブロック作成後に「#missing」と書き込んで「Zero」をクリアします。

#### Sample Custom Calculation Script for Creating Blocks

```
"FY13"{
    @CALCMODE(BOTTOMUP);
    IF("No Product" == #missing) /* this step is used to avoid overwriting any user data */
        "No Product" = 0;
        "No Product" = #missing; /*to avoid rolling up zero */
    ENDIF
}
```

- Essbase の DATACOPY コマンドを使用して、ソースのすべてのブロックを宛先にコピーします(欠落しているセルを含む)。ただし、この方法では、不要なブロックが作成され、連結プロセスの速度が低下する可能性があります。

#### ブロックの自動作成を使用する場合

ブロックの自動作成は、構成可能な計算中に欠落しているブロックを作成するために提供される設定です。

この設定は、潜在的ブロック・アルゴリズムを使用してデータベース全体でブロックの存在を検索し、ブロックが存在しない場合はそれに応じて欠落しているブロックを作成するため、パフォーマンスに大きく影響します。

この設定は、他のブロック作成手法が適切でないことが確実である場合にのみ使用してください。

@CALCMODE(BOTTOMUP)関数(挿入位置で使用される場合)とブロックの自動作成は、相互に排他的です。

#### @SHIFT および@PRIOR 関数のターゲット・データ・ブロックの作成

計算スクリプトで@SHIFT または@PRIOR 関数を使用する場合は、計算を実行する前に、ターゲット・データ・ブロックが存在する必要があります。ターゲット・データ・ブロックは、別の計算またはデータ・ロードの一部として存在するか、または@CREATEBLOCK 関数を使用して作成される必要があります。

#### ユース・ケース例:

データは、実績、FY16、P12、ML\_HFM に存在します。データは Oracle Hyperion Financial Management から取得され、実績、FY16、P1、ML\_HFM にロードされていません。データは前年の P12 期間から取得する必要があります。逆仕訳は実績、FY17、P1、ML\_HFM\_Calc に影響を与える必要があります。

計算スクリプトは次のとおりです。

```

/* Special case for Only Balance Sheet accounts and first period of
subsequent financial years, other than "FY16" (first year)
* For first period P1 of FY17, it was identified that ML_HFM blocks were
absent at "CF_OpeningBalance". Therefore, above calculation, being BOTTOMUP
* will not execute. So, therefore need to segregate P1 calculation for
"FY17" and above, make it run TOPDOWN.
* This code is used to account for situation when LTD balance do not exist
in current month. This is only run if ML_HFM is missing */
FIX ("Entity Currency", "FCCS_Entity Input", @LEVMBRS("Segment", 0), "FCCS_No
Intercompany", @List("CF_OpeningBalance", "RCG_Rcl", "Income_Rcl"),
@RELATIVE("FCCS_Mvmts_Subtotal", 0))
    FIX (@REMOVE(@RELATIVE("FCCS_Balance Sheet", 0) AND @LIST(@UDA("Account",
"ASSET") OR @UDA("Account", "LIABILITY") OR @UDA("Account", "EQUITY")),
@LIST("FCCS_BALANCE", "Balance_Validation", "FCCS_CTA", "FCCS_CICTA",
"FCCS_Retained Earnings Prior", "880000201I")))
        "ML_HFM_Calc" (
            IF (@ISLEV("Entity", 0))
                IF (@ISMBR("P1"))
                    IF ("ML_HFM" == #MISSING)
                        IF (@SHIFT("P13"->"FCCS_Journal Input", -1,
@CHILDREN("Years")) <> #MISSING)
                            -@SHIFT("P12"->"ML_HFM", -1, @CHILDREN("Years"))
                        - @SHIFT("P13"->"FCCS_Journal Input", -1, @CHILDREN("Years"));
                            ELSE
                                -@SHIFT("P12"->"ML_HFM", -1, @CHILDREN("Years"));
                            ENDIF
                        ENDIF
                    ;
                ENDIF
            ;
        ENDIF
    ;
ENDIF
)
ENDFIX
ENDFIX

```

転記された仕訳はありません(P13 の FCCS\_Journal Input。コードでは、ML\_HFM\_Calc とともに疎メンバー・アンカーとして次のパスを取る必要があります。

```
@SHIFT("P12"->"ML_HFM", -1, @CHILDREN("Years"));
```

ただし、これに対して#MISSING が返されます。

#### 回避策 1:



```

Workaround 2: Use @CREATEBLOCK to pre-create target block
/* If data exists at the source POV, create a block at the target POV */
FIX("FCCS_Periodic", "Actual", "ML_HFM", "P12", "FY16", "61083_010")
  FIX ("Entity Currency", "FCCS_Entity Input", @LEVMBS("Segment", 0),
    "FCCS_No Intercompany", @RELATIVE("FCCS_Mvmts_Subtotal", 0))
    "CF_OpeningBalance" (@CREATEBLOCK("ML_HFM_Calc"->"P1"->"FY17");)
  ENDFIX
ENDFIX

FIX("FCCS_Periodic", "Actual", "P1", "FY17", "61083_010")

/* Special case for Only Balance Sheet accounts and first period of
subsequent financial years, other than "FY16" (first year)
 * For first period P1 of FY17, it was identified that ML_HFM blocks were
absent at "CF_OpeningBalance". Therefore, above calculation, being BOTTOMUP
 * will not execute. So, therefore need to segregate P1 calculation for
"FY17" and above, make it run TOPDOWN.
 * This code is used to account for situation when LTD balance do not exist in
current month. This is only run if ML_HFM is missing */
FIX ("Entity Currency", "FCCS_Entity Input", @LEVMBS("Segment", 0), "FCCS_No
Intercompany", @List("CF_OpeningBalance", "RCG_Rcl", "Income_Rcl"),
@RELATIVE("FCCS_Mvmts_Subtotal", 0))
  FIX (@REMOVE(@RELATIVE("FCCS_Balance Sheet", 0) AND @LIST(@UDA("Account",
"ASSET") OR @UDA("Account", "LIABILITY") OR @UDA("Account", "EQUITY")),
@LIST("FCCS_BALANCE", "Balance_Validation", "FCCS_CTA", "FCCS_CICTA",
"FCCS_Retained Earnings Prior", "880000201I")))
    "ML_HFM_Calc" (
      IF (@ISLEV("Entity", 0))
        IF (@ISMBR("P1"))
          IF ("ML_HFM" == #MISSING)
            IF (@SHIFT("P13"->"FCCS_Journal Input", -1,
@CHILDREN("Years")) <> #MISSING)
              -@SHIFT("P12"->"ML_HFM", -1, @CHILDREN("Years"))
            - @SHIFT("P13"->"FCCS_Journal Input", -1, @CHILDREN("Years"));
            ELSE
              -@SHIFT("P12"->"ML_HFM", -1, @CHILDREN("Years"));
            ENDFIX
          ;
        ENDFIX
      ;
    ENDFIX
  ;
)
ENDFIX
ENDFIX
ENDFIX

```

## ClearEmptyBlocks ルールのガイドライン

ClearEmptyBlocks ビジネス・ルールは、空のデータ・ブロックのコンソール・キューブのスキャンに役立ちます。空のデータ・ブロックは、次の一環として生成されることがあります:

- 空のブロックを生成するオンデマンド・ルールの実行。たとえば、@CREATEBLOCK 関数を使用すると、生成された空のデータ・ブロックがその後使用されない可能性があります。

- #MISSING の割当からくると思われる、TOPDOWN 計算に起因するブロック・リークの可能性のある挿入ポイント・コード(たとえば、FCCS\_20)。@CALCMODE(BOTTOM UP) を使用するかわりに、疎アンカーを使用しています。
- Financial Consolidation and Close システム計算

### ClearEmptyBlocks ルールを実行するための推奨プラクティス

- ベスト・プラクティスは、スクリプトの開発フェーズで、オンデマンド・ルール/挿入ポイントのテストを完了した後にルールを実行することです。ClearEmptyBlocks ルールは、開発中の計算の実行前後にブロック統計を測定するのに役立ちます。
- 本番フェーズでは、特定の年の通年の連結を終了した後にルールを実行します。

EPM 自動化スクリプトは、毎週末の業務時間終了後に実行するようスケジュールできます:

```
call epmautomate runbusinessrule ClearEmptyBlocks Scenario = "<Scenario>"
Year = "<Particular Year>"
Period = "ILv10Descendants(YearTotal)"
call epmautomate restructurecube Consol
```

ノート: このアクティビティのスケジュールは、日次メンテナンス・サイクルで少なくとも 3、4 時間の間隔を維持する必要があります。

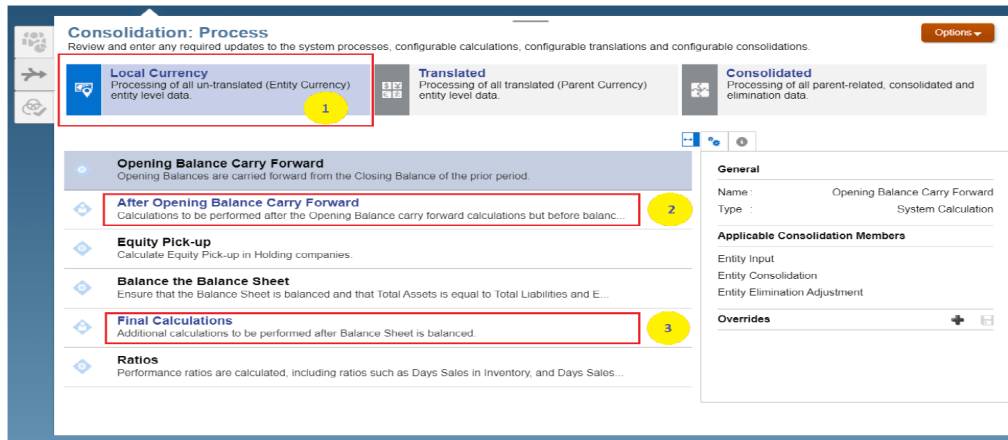
### 基本のスクリプト形式

次の図は、計算スクリプトの形式のサンプルを示しています。

1. FIX( "Entity Currency", FCCS\_Entity Input") ← **Required FIX**
2.     FIX( "FCCS\_Data Input", "FCCS\_Local GAAP", ... ) ← **Nested FIX ( optional )**
3.         "No Movement" ← **Anchor**
4.         (
5.             @CALCMODE(BOTTOMUP); ← **Function**
6.             IF(@ISMBR("Jan")) ← **Condition** ← **Member Block (optional)**
7.                 "Cash" = "Cash" -> "FCCS\_Other Data" \* 2;
8.             ENDIF
9.         )             ↓  
                    **Cross Dim Operator ( -> )**
10.         ENDFIX
11.     ENDFIX

### 構成可能な計算の記述

次の図は、連結プロセスの「現地通貨」タブの構成可能な計算ルールを示しています。



次の図は、連結プロセスの「現地通貨」タブの対応する構成可能な計算ルールを示しています。

Name	Description	Owner	Last Modified By	Last Modified Date
FCCS				
Allocate		epm_default_clo...	epm_default_clo...	8/10/19
FCCS_10_After Open	Calculations to be performed after the Opening Balance carry forward calculations but before balancing the Balance Sheet	epm_default_clo...	epm_default_clo...	3/11/19
FCCS_20_Final Calcul	Additional calculations to be performed after Balance Sheet is balanced.	epm_default_clo...	epm_default_clo...	3/11/19
FCCS_30_After Open	Calculations to be performed after the Opening Balance carry forward calculations but before balancing the Balance Sheet.	epm_default_clo...	epm_default_clo...	3/11/19
FCCS_40_Final Calcul	Additional calculations to be performed after Balance Sheet is balanced.	epm_default_clo...	epm_default_clo...	3/11/19
FCCS_50_After Open	Calculations to be performed after the Opening Balance carry forward calculations but before balancing the Balance Sheet.	epm_default_clo...	epm_default_clo...	3/11/19
FCCS_60_Final Calcul	Additional calculations to be performed after Balance Sheet is balanced.	epm_default_clo...	epm_default_clo...	3/11/19
MDSHft		epm_default_clo...	epm_default_clo...	8/10/19
Prior		epm_default_clo...	epm_default_clo...	8/10/19
Formulas				
Scripts				
Templates				

構成可能な計算は、次の 3 つのカテゴリのデータが関与する、カスタマイズされた計算の実行に役立ちます:

- 未換算データ: エンティティ通貨 + (FCCS\_Entity Input または FCCS\_Entity Consolidation)
- 換算済データ: 親通貨 + (FCCS\_Entity Input または FCCS\_Entity Consolidation)
- 消去済データ: 親通貨 + FCCS\_Elimination

通貨と連結の組合せを理解し、挿入位置とも呼ばれる正しい構成可能な計算ルール・テンプレート内に構成可能な計算を記述することが重要です。

例として、FCCS\_30\_After Opening Balance Carry Forward\_Translated は、FCCS のデフォルト換算および FX 計算で、FCCS\_30 で特別な注意が必要なデータがすでに処理されている場合にのみ使用することが想定されています。

### 構成可能な計算の記述の例

ブロック作成の問題の例および同じ計算を解決するための様々なアプローチについて考えてみます。

#### ユース・ケース:



- 2つの勘定科目に値を追加します: FCCS\_Managed Data、FCCS\_Mvmts\_NetIncome、FCCS\_Local GAAP および No Product にロードされた Warehouse\_Stock と Showroom\_Stock
- 計算の結果を FCCS\_Other Data、FCCS\_Mvmts\_NetIncome、FCCS\_Local GAAP および No Product の勘定科目 Inventory\_Stock に保存します
- FCCS\_10 の構成可能な計算を使用します

#### アプローチ 1: メンバー・ブロック(アンカー)を使用しない

```

1.    FIX ("FCCS_Entity Input", "Entity Currency")
2.    FIX ("FCCS_Other Data", "FCCS_Mvmts_NetIncome", "FCCS_No
Intercompany", "No Product",
"FCCS_Local GAAP")
3.    " Inventory_Stock " = "FCCS_Managed Data"->" Warehouse_Stock " +
"FCCS_Managed Data"->
>Showroom_Stock ";

4.    ENDFIX
5.    ENDFIX

```

#### このアプローチのデメリット:

1. Inventory\_Stock が左側の勘定科目であることを考えると、これは密計算です。計算は正しく記述されていますが、FCCS\_Other Data および関連する他の FIX メンバーに結果を保持する前のブロックが存在しない場合、計算の結果は表示されません。
2. IF..ELSE..ENDIF などの条件付き計算の制限を適用できません。
3. 交差の上方にゼロのデータ・ブロックを手動で導入するには、回避策が必要です。

#### アプローチ 2: 密メンバー・ブロック(アンカー)の使用

```

1.    FIX ("FCCS_Entity Input", "Entity Currency")
2.    FIX ("FCCS_Other Data", "FCCS_Mvmts_NetIncome", "FCCS_No
Intercompany", "FCCS_No Intercompany",
"FCCS_Local GAAP")

3.    " Inventory_Stock "(
4.    "FCCS_Managed Data"->" Warehouse_Stock " + "FCCS_Managed Data"->"
Showroom_Stock ";
5.    )
6.    ENDFIX
7.    ENDFIX

```

#### このアプローチのデメリット:

1. メンバー・ブロック Inventory\_Stock が勘定科目であるため、これは密計算です。計算は正しく記述されていますが、FCCS\_Other Data および関連する他の FIX メンバーに前のブロックが存在しない場合、計算の結果は表示されません。
2. 交差の上方にゼロのデータ・ブロックを手動で導入するには、回避策が必要です。



### アプローチ 3: 疎メンバー・ブロック(アンカー)の使用

```

1.    FIX ("FCCS_Entity Input", "Entity Currency")
2.    FIX ("FCCS_Mvmts_NetIncome", "FCCS_No Intercompany", "No
Product", "FCCS_Local GAAP")
3.    "FCCS_Other Data" (
4.    " Inventory_Stock " = "FCCS_Managed Data"->" Warehouse_Stock " +
"FCCS_Managed Data"->
>Showroom_Stock ";
5.    )
6.    ENDFIX
7.    ENDFIX

```

#### このアプローチのメリット:

メンバー・ブロック FCCS\_Other Data が疎ディメンションであるデータ・ソースであるため、これは疎計算です。計算の結果はブロックになります。

#### このアプローチのデメリット:

ディメンション間演算子が使用されているため、メンバー・ブロックの計算はトップダウンで実行されます。

### アプローチ 4: 疎メンバー・ブロックおよびボトムアップ計算の使用

```

1.    FIX ("FCCS_Entity Input", "Entity Currency")
2.    FIX ( "FCCS_Mvmts_NetIncome", "FCCS_No Intercompany", "No
Product", "FCCS_Local GAAP")
3.    "FCCS_Managed Data"(@CALCMODE(BOTTOMUP);
4.    "FCCS_Other Data"-> "Inventory_Stock " = " Warehouse_Stock " + "
>Showroom_Stock "; 5.    )
6.    ENDFIX
7.    ENDFIX

```

#### このアプローチのメリット:

1. メンバー・ブロック FCCS\_Managed Data が疎ディメンションであるデータ・ソースであるため、これは疎計算です。
2. メンバー・ブロックの計算はボトムアップで実行されます。
3. FCCS\_Managed Data はこの計算のソースです。結果のブロックは、データ・ブロックがソースに存在する場合にのみ、FCCS\_Other Data に作成されます。
4. 計算の右側にディメンション間演算子は必要ありません。
5. この割当ての左側にディメンション間演算子が存在するため、計算をボトムアップとして明示的に指定する必要があります。

#### ブロック・モードとセル・モードの計算

- ブロック・モード: (デフォルト・モード)この計算モードでは、Essbase はブロック内のセルをグループ化し、各グループのセルを同時に計算します。
- ブロック計算モードは高速ですが、結果のデータの正確性を確保するために、ブロック内のデータの依存関係を慎重に検討する必要があります。

- セル・モード: この計算モードでは、Essbase はアウトラインに基づく計算順序に従って、各セルを順番に計算します。
- このため、セル計算モードは遅くなります。ただし、データの依存関係が関連する場所では、結果の正確性が確保されます。
- Essbase が式をコンパイルすると、次のメッセージのような、式の実行モードを説明するメッセージがアプリケーション・ログ・ファイルに出力されます:

Formula on member Profit % will be executed in CELL and TOPDOWN mode.

Essbase は、次のような関数を使用しない場合、式の計算時にブロック・モードを使用します:

- @ANCEST
- @CURRMBR
- @ISMBR on a dense member
- @MDANCESTVAL
- @MDPARENTVAL
- @MDSHIFT
- @NEXT
- @PARENT
- @PARENTVAL
- @PRIOR
- @SANCESTVAL
- @SPARENTVAL
- @SHIFT
- @XWRITE

ブロック・モードを手動で誘導するには、@CALCMODE(BLOCK)を使用します。密ブロック内にデータの依存関係がないことを確認してください。

### ブロック・モードの例

月に基づいて次の計算を実行します:

- 1月 - Sales Synergies は、Returns and Allowances の子の合計です
- 2月 - Sales Synergies は、Returns and Allowances の子の合計に 20%を乗算したものです
- 残りの月 - Sales Synergies は、Returns and Allowances の子の合計に 10%を乗算したものです

### ブロック・モード

1. FIX ("FCCS\_Entity Input", "Entity Currency")
2. FIX ("Sales Synergies", "FCCS\_No Intercompany", "FCCS\_Managed Data", "No Product", "FCCS\_Local GAAP")
3. "FCCS\_Mvmts\_NetIncome" (
4. IF (@ISMBR("Jan"))
5. @SUM(@Children("Returns and Allowances"));

```

6.     ELSEIF (@ISMBR("Feb"))
7.     @SUM(@Children("Returns and Allowances")) * 0.2;
8.     ELSE
9.     @SUM(@Children("Returns and Allowances")) * 0.1;
10.    ENDIF
11.    )
12.    ENDFIX
13.    ENDFIX

```

### セル・モードと誘導されたブロック・モード

月に基づいて次の計算を実行します:

1月 - Sales Synergies は、Returns and Allowances の子の合計です

2月 - Sales Synergies は、Returns and Allowances の子の合計に 20%を乗算したものです

残りの月 - Sales Synergies は、Returns and Allowances の子の合計に**前の期間の** Sales Synergies を加算したものです。結果全体に 10%を乗算します。

### セル・モード

```

1.     FIX ("FCCS_Entity Input", "Entity Currency")
2.     FIX ("Sales Synergies", "FCCS_No Intercompany", "FCCS_Managed
Data", "No Product", "FCCS_Local GAAP")
3.     "FCCS_Mvmts_NetIncome" (
4.     IF (@ISMBR("Jan"))
5.     @SUM(@Children("Returns and Allowances"));
6.     ELSEIF (@ISMBR("Feb"))
7.     @SUM(@Children("Returns and Allowances")) * 0.2;
8.     ELSE
9.     (@SUM(@Children("Returns and Allowances")) + @PRIOR("Sales
Synergies")) * 0.1;
10.    ENDIF
11.    )
12.    ENDFIX
13.    ENDFIX

```

### ブロック・モード

```

1.     FIX ("FCCS_Entity Input", "Entity Currency")
2.     FIX ("Sales Synergies", "FCCS_No Intercompany", "FCCS_Managed
Data", "No Product", "FCCS_Local GAAP")
3.     "FCCS_Mvmts_NetIncome" (@CALCMODE(BLOCK);
4.     IF (@ISMBR("Jan"))
5.     @SUM(@Children("Returns and Allowances"));
6.     ELSEIF (@ISMBR("Feb"))
7.     @SUM(@Children("Returns and Allowances")) * 0.2;
8.     ELSE
9.     (@SUM(@Children("Returns and Allowances")) + @PRIOR("Sales
Synergies")) * 0.1;
10.    ENDIF
11.    )

```

12. ENDFIX
13. ENDFIX

### 顧客 A のユース・ケース

- 仕訳の調整に基づいて、損益計算書勘定科目の FDMEE からロードされた管理対象データを別の計算済データ・ソース・メンバーに再分類します
- パフォーマンスは低く、1 年全体で 180 分でした

### 顧客 A - スクリプトの例

```

1  FIX ('Entity Input')
2  /* ICP Rules */
3  FIX (RELATIVE('Total Zone',0),RELATIVE('Total Segment',0),"FCCS_Mvmts_NetIncome",RELATIVE('FCCS_Retained Earnings Current',0),"ICP_TOT_ELIM")
4  "DS_CALC"
5  (
6  IF (@CURRMBR('Entity')) = 0)
7  IF (@ISMBR('REV_450010'))
8  #MISSING;
9  ELSE
10 "FCCS_Managed Data" -> "ICP_CONSOL" + "FCCS_Journal Input" -> "ICP_CONSOL";
11
12 ENDIF
13 )
14 ENDFIX
15
16
17
18 /*
19 * 1. When there is a need to process multiple intersections for a given calculation. Ensure that it is done BOTTOMUP and not TOPDOWN
20 * 2. Use Boolean method @ISLEV to check for a member level, instead of @LEV and @CURRMBR. @CURRMBR runs calculation in CELL mode
21 * 3. Use @REMOVE to remove account "REV_450010" from processing, instead of @ISMBR check. @ISMBR on account runs calculation in CELL mode
22 * 4. No need to explicitly specify a #MISSING, because it will in any case be missing
23 */
24 FIX ('Entity Input')
25 /* ICP Rules */
26 FIX (RELATIVE('Total Zone',0),RELATIVE('Total Segment',0),"FCCS_Mvmts_NetIncome",@REMOVE(RELATIVE('FCCS_Retained Earnings Current',0),"REV_450010"),"ICP_CONSOL")
27 "DS_CALC" @ISLEV('Entity',0)
28 IF ("FCCS_Journal Input" <> #MISSING)
29 "DS_CALC" -> "ICP_TOT_ELIM" = "FCCS_Managed Data" + "FCCS_Journal Input";
30 ELSE
31 "DS_CALC" -> "ICP_TOT_ELIM" = "FCCS_Managed Data";
32 ENDIF;
33 )
34 ENDFIX
35
36 ENDFIX
  
```

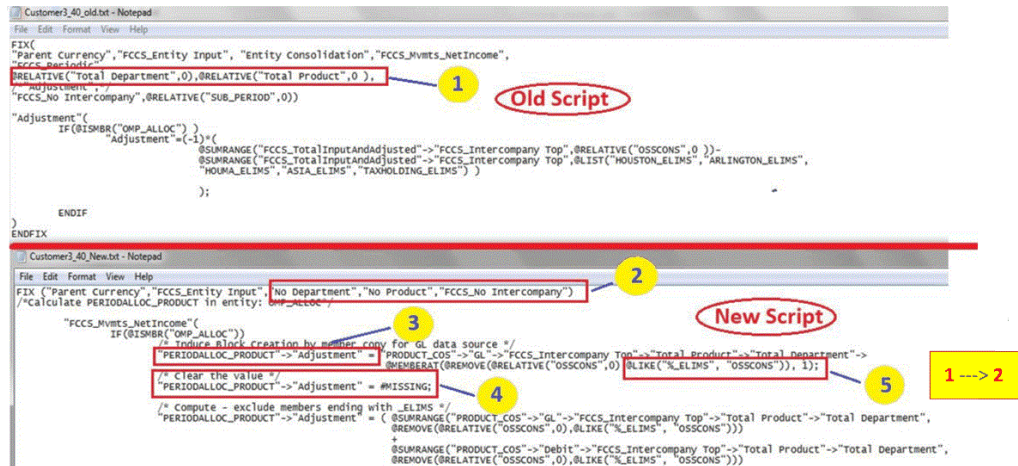
### 顧客 A - スクリプトの改善

- 勘定科目密ディメンションで @ISMBR チェックを使用するのではなく、@REMOVE を使用して勘定科目を削除します
- ボトムアップ処理
- @LEV および @CURRMBR のかわりに、ブール @ISLEV を使用します
- パフォーマンスが 90% 向上しました

### 顧客 B のユース・ケース

- 目的 - 一部のソース・エンティティからターゲット・エンティティにデータを移動します
- データが計算されていませんでした
- パフォーマンスは低く、3.5 時間でした

### 顧客 B - スクリプトの例

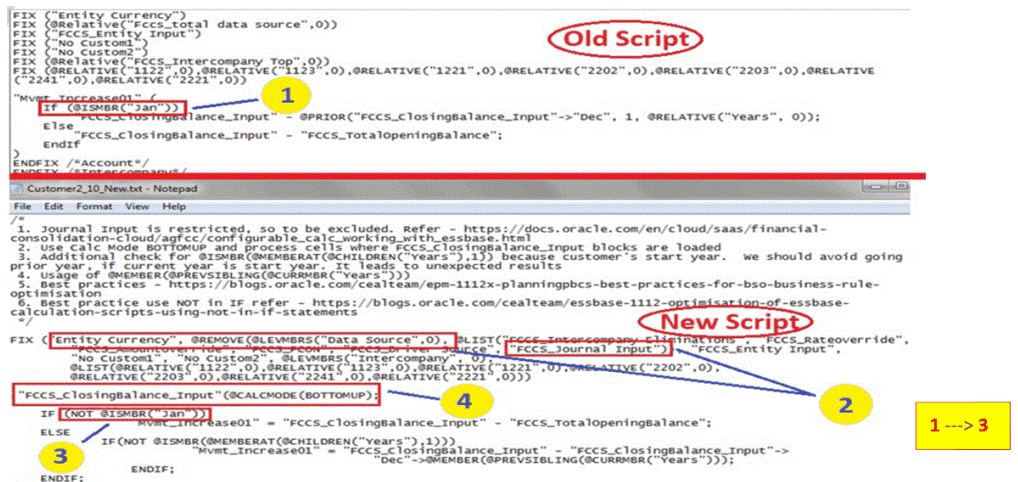


### 顧客 B - スクリプトの改善

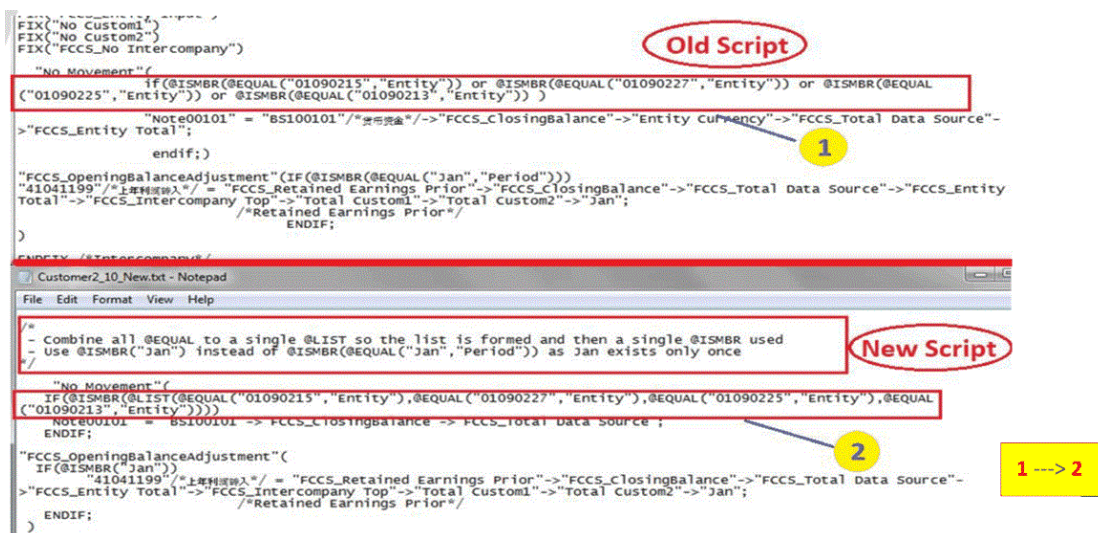
- コピーを使用してターゲット・ブロックを作成します
- 計算はトップダウンのままです
- 1つのターゲット・カスタム・ディメンション・メンバーに対してのみ計算を実行します
- スクリプトを汎用にするには@LIKEを使用します
- 時間が3.5時間から数分に短縮されました

### 顧客 C のユース・ケース

- ユーザー・インターフェースから入力された FCCS\_Closing\_Balance\_Input に基づいて増減を再分類します
- パフォーマンスは低く、15分でした



### 顧客 C - スクリプトの例の続き



### 顧客 C - スクリプトの改善

- 制限されたメンバーを FIX から削除します
- ボトムアップ処理
- エッジ・ケースをチェックします
- 共通ケースを最初にチェックします。
- パフォーマンスが 40%向上しました

### 顧客 D のユース・ケース

- Hyperion Financial Management、データ・ソース ML\_HFM から取得したデータを再分類し、ML\_HFM\_Calc データ・ソース・メンバーに保存します
- パフォーマンスは低く、単一期間で 24 時間でした
- ブロックが期待どおりに作成されていなかったため、データは結合されていませんでした

### 顧客 D - スクリプトの例



Calculation gives incorrect result. Right Side should be ML\_HFM

Old Script

Monolithic script. And Auto Create Blocks is Yes.

Calculation Settings  
Auto Create Blocks Yes

1. Run Bottom Up calculations on ML\_HFM and not ML\_HFM\_Calc. Because ML\_HFM\_Calc is destination  
2. Use ISLEV boolean function instead of @CURRMBR and @LEV  
3. Use @ISMBR's power to specify member list, to combine two dimension checks together  
4. Fix on the required account members, instead of doing line-by-line calculation

New Script

No Auto Create required.

### 顧客 D - スクリプトの改善

- 勘定科目密ディメンションで@ISMBR チェックを使用するのではなく、@REMOVE を使用して勘定科目を削除します
- ボトムアップ処理
- @LEV および@CURRMEMBER のかわりに、ブール@ISLEV を使用します
- パフォーマンスが 90%向上しました

### 顧客 E のユース・ケース

- 連結メソッドが現在の期間で変更され、以前の期間のすべての累積 CTA および消去処理を削除する必要がありました
- パフォーマンスは低く、90 分でした

```

/*RULE 1: Removal of the cumulated CTA treatment on INV as the ICP method changed from Subsidiary to Parent*/
FIX (
/* Scenario */
/* Years */
/* Period */
/* FCCS_Periodic */ /* View */
/* Parent Currency */ /* Currency */
/* Entity */
/* FCCS_Goodwill Offset */ /* CTA_Minority */ /* Account */
/* Movement */
/* @REMOVE("FCCS_Intercompany_Entities",0), /* Intercompany */
/* FCCS_Data Input */ /* Data Source */
/* FCCS_Elimination */ /* Consolidation */
/* Multi-GAAP */
)
/* CLC_SUB_INVNR_CTA */
IF (@MEMBER(@CONCATENATE(["SDB_GRP"], @CONCATENATE(@SUBSTRING(@NAME(@CURRMBR("Intercompany Eliminations"), 1, 10), "SDB_GRP"), "SDB_GRP"), "SDB_GRP"), "SDB_GRP"))
/* FCCS_Periodic -> FCCS_No Multi-GAAP -> FCCS_No Intercompany -> No Curr -> S_Parent Source */
/* @REMOVE(@CONCATENATE(["SDB_GRP"], @CONCATENATE(@SUBSTRING(@NAME(@CURRMBR("Intercompany Eliminations"), 1, 10), "SDB_GRP"), "SDB_GRP"), "SDB_GRP"), "SDB_GRP"))
/* FCCS_Periodic -> FCCS_No Multi-GAAP -> FCCS_No Intercompany -> No Curr -> S_Parent Source */
/* Mvmts_FX_ToBeReclassified = -1 */
/* FCCS_Mvmts_FX_Opening -> FCCS_Intercompany_Eliminations -> FCCS_Data Input */
/* -1 * FCCS_Mvmts_FX_Opening -> FCCS_Intercompany_Eliminations -> FCCS_Data Input */
/* -1 * FCCS_OpeningBalance -> FCCS_Intercompany_Eliminations -> FCCS_Data Input */
)
ENDIF
)

```

### 顧客 E - スクリプトの改善

- ターゲットで Data\_Input を使用して、FCCS\_Intercompany\_Eliminations への書込みに関する検証エラーを回避します
- 期末残高入力のある走査 ICP メンバーでボトムアップを使用します
- 時間が 90 分から 11 分に短縮されました

### ベスト・プラクティスのサマリー

- ボトムアップ処理
- 勘定科目密ディメンションで @ISMBR チェックを使用するのではなく、@REMOVE を使用して勘定科目を削除します
- @LEV および @CURRMBR のかわりに、ブール @ISLEV を使用します
- 制限されたメンバーを FIX から削除します
- アンカーによる方法が機能しない場合は、コピーを使用してターゲット・ブロックを作成します
- 1 つのターゲット・カスタム・ディメンション・メンバーに対してのみ計算を実行します
- スクリプトを汎用にするには @LIKE を使用します
- 自動ブロックの作成を回避します
- エッジ・ケースをチェックします
- 共通ケースを最初にチェックします。

### パフォーマンスのベスト・プラクティス

#### Essbase への複数のパス

FIX 文がルール内で使用されるたびに、各 FIX によってデータベースへの個別パスがトリガーされます。パフォーマンス上の理由により、組み込む個別 FIX 文の数が多すぎないようにして Essbase に対して複数のパスを使用することを回避することをお勧めします。

例 - Essbase への複数のパス

```

FIX("Entity Currency", "FCCS_Entity Input", ...)
FIX("FCCS_Data Input", ...)

```



```

        //Calculations;
    ENDFIX

    FIX("FCCS_Other Data", ... )
        //Calculations;
    ENDFIX

ENDFIX

```

例: IF..ENDIF を使用して複数のパスを回避するための推奨される変更

```

FIX("Entity Currency", ...)
    FIX( @List("FCCS_Data Input", "FCCS_Other Data"), ... )
        "FCCS_Entity Input" ( @CALCMODE(BOTTOMUP);
            IF(@ISMBR("FCCS_Data Input")
                //Calculations for "FCCS_Data Input";
            ELSE
                //Calculations "FCCS_Other Data";
            ENDIF
        )
    ENDFIX
ENDFIX

```

例: メンバー・ブロックを使用して複数のパスを回避するための推奨される変更

```

FIX("Entity Currency", ...)
    FIX( @List("FCCS_Data Input", "FCCS_Other Data"), ... )
        "FCCS_Entity Input" ( @CALCMODE(BOTTOMUP);
            IF(@ISMBR("FCCS_Data Input")
                //Calculations for "FCCS_Data Input";
            ELSE
                //Calculations "FCCS_Other Data";
            ENDIF
        )
    ENDFIX
ENDFIX

```

例: Essbase への複数のパスの原因となる、ネストされた複数の個別の FIX 文

```

FIX("FCCS_Elimination")
    FIX("No Movement")
        Fix(@Relative("ICP_Category",0))
        "Custom_Elimination" (
            "InterSales"="Other_InterAcct"->"FCCS_Intercompany
Eliminations";
        )
    ENDFIX /*Intercompany*/
    ENDFIX /*Movement*/
ENDFIX /*Consolidation*/

```

例: 複数のパスを回避するための書換え

```
FIX ("FCCS_Elimination",@Relative("ICP_Category A",0), "No Movement")
  "Custom_Elimination" ( @CALCMODE(BOTTOMUP);
    "640102" = "WA_Intercompany Account"->"FCCS_Intercompany
Eliminations";
  )
ENDFIX
```

### 制限付きメンバーへの書込み

この例では、"FCCS\_Intercompany Eliminations" > "FCCS\_Eliminations" > "Mvmts\_NewBusiness"を>Data Input" > "FCCS\_Eliminations" > "Mvmts Reclass"に再分類するとします。

ただし、FCCS\_Intercompany Eliminations はデータ・ソース・ディメンションの制限付きメンバーであるため、このメンバーに対して FIX を使用しようとする、エラーが返されます。

トップ・ダウン処理を使用するようシステムに強制する、次の文の作成を試みることができません。

### 例: トップ・ダウン処理を使用した制限付きメンバーの操作

```
FIX("Data Input", ... )
  "FCCS_Elimination" (
    "Mvmts_Reclass" = -1 * "FCCS_Intercompany Eliminations"-
>"Mvmts_NewBusiness" ;
  )
ENDFIX
```

### 例: ボトムアップ処理を使用した文の書換え

```
FIX("FCCS_IntercompanyEliminations", "Mvmts_NewBusiness", ... )
  "FCCS_Elimination" ( @CALCMODE(BOTTOMUP);
    "Mvmts_Reclass"->"Data Input" = -1 * "Mvmts_NewBusiness" ;
  )
ENDFIX
```

この例では、FCCS\_Intercompany Eliminations に対して FIX を使用しますが、メンバー・ブロック内でこれを>Data Input"でオーバーライドします。これにより、検証時にエラーが返されなくなります。

### UDA に基づいた期末残高入力へのデータ入力と増減の計算

この例では、期末残高入力を特定の増減メンバーに移動する場合について考えます。次の要件にあわせてカスタム計算を記述します。

- ボトムアップ処理のために、疎ディメンション・メンバーの組合せをまとめて FIX 指定します。ボトムアップ処理は複数のブロックに関係し、疎ディメンションは 1 つのブロックを定義します。
- 同じ計算を実行する場合、UDA 勘定科目への FIX 指定と組み合わせることでユーザー定義属性(UDA)が最適に処理されます。

- 次の例は、指定したすべての UDA が、資産/負債/資本勘定科目タイプで定義されていることを前提としています。
- FCCS\_Net Income を基準にしたレベル 0 の勘定科目ディメンション・メンバーを FIX 指定します
- パフォーマンスを向上させるため、@LEV を使用してメンバーのレベルを計算するかわりにブール関数を使用します
- ブール関数@ISDESC を使用して、メンバーが子孫かどうかを確認します。これは常にリーフ・メンバーです。

**例: UDA に基づいた期末残高入力へのデータ入力と増減の計算**

```

FIX ("Entity Currency", "Entity Input")

FIX ( @REMOVE(@LEVMBRS("Data Source",0), @LIST("FCCS_RateOverride",
"FCCS_INTERCOMPANY ELIMINATIONS", "FCCS_JOURNAL INPUT", "FCCS_AmountOverride",
"FCCS_Driver Source", "FCCS_PCON")))
    FIX ( @LEVMBRS("Intercompany", 0), @LEVMBRS("Multi-GAAP", 0), @LEVMBRS
("Product",0))
        FIX ( @REMOVE (@LEVMBRS ("Account",0), @LIST("FCCS_CICTA","FCCS_Balance",
@RELATIVE("Exchange Rates", 0), @RELATIVE("FCCS_System
Account",0),@RELATIVE("FCCS_Drivers", 0),@RELATIVE("Ratios",0))) AND
            (
                @RELATIVE("FCCS_Net Income", 0) OR
                @UDA("Account", "REC") OR
                @UDA("Account", "REC_1") OR
                @UDA("Account", "PAY") OR
                @UDA("Account", "PAY_1") OR
                @UDA("Account", "CASHTYPE") OR
                @UDA("Account", "Inv")
            )
        )
    "FCCS_ClosingBalance_Input"(@CALCMODE(BOTTOMUP);

        IF(@ISLEV("Entity", 0))
            IF(@ISUDA("Account", "Flow"))
                IF (@ISDESC("FCCS_Net Income"))
                    "FCCS_Mvmts_NetIncome" =
                    "FCCS_ClosingBalance_Input" - "FCCS_ClosingBalance" + "FCCS_Mvmts_NetIncome";
                ELSEIF(@ISUDA("Account", "REC") OR
@ISUDA("Account", "REC_1"))
                    "FCCS_Mvmts_AccountsReceivable" =
                    "FCCS_ClosingBalance_Input" - "FCCS_ClosingBalance" +
                    "FCCS_Mvmts_AccountsReceivable";
                ELSEIF(@ISUDA("Account", "PAY") OR
@ISUDA("Account", "PAY_1"))
                    "FCCS_Mvmts_AccountsPayable" =
                    "FCCS_ClosingBalance_Input" - "FCCS_ClosingBalance" + "FCCS_Mvmts_AccountsPayable";
                ELSEIF(@ISUDA("Account",
"FCCS_CASHTYPE"))
                    "FCCS_Mvmts_Cash" =
                    "FCCS_ClosingBalance_Input" - "FCCS_ClosingBalance" + "FCCS_Mvmts_Cash";
                ELSEIF(@ISUDA("Account", "Inv"))
                    "FCCS_Mvmts_Inventories" =
                    "FCCS_ClosingBalance_Input" - "FCCS_ClosingBalance" + "FCCS_Mvmts_Inventories";
                ENDIF;
            ELSE
                "FCCS_No Movement" =
                "FCCS_ClosingBalance_Input";
            ENDIF;
        ENDIF;
    )
ENDFIX

```

### IF 条件を使用する最善の方法

IF を使用して条件文を作成する一般的な例を次に示します。この例では、1 月に特定のプロセスを実行しますが、他の月については別の操作を行います。計算が次のように作成されている場合、1 月が常に最初にチェックされるため、1 月以外のすべての期間ではチェックが 12 回行われた後、ELSE 句に分岐します。

#### 例: IF 文

```
FIX ("Entity Currency", "FCCS_Entity Input" ... )
    "Mvmt_Increase01" ( @CALCMODE(BOTTOMUP);
        IF(@ISMBR("Jan"))
            "FCCS_ClosingBalance_Input" -
@PRIOR("FCCS_ClosingBalance_Input"-> "Dec", 1,
@RELATIVE("Years", 0));
        ELSE
            "FCCS_ClosingBalance_Input" -
"FCCS_TotalOpeningBalance";
        ENDIF
    )
ENDIFX
```

#### 例: NOT IF を使用した書換え

12 の期間のうち 11 が IF 句を使用して実行された後に条件分岐から抜けるように IF 文を書き換えることができます。1 月のみが ELSE 句で 1 回実行されます。

```
FIX ("Entity Currency", "FCCS_Entity Input", ...)
    "FCCS_ClosingBalance_Input" (@CALCMODE(BOTTOMUP);
    IF (NOT @ISMBR("Jan"))
        "Mvmt_Increase01" = "FCCS_ClosingBalance_Input" -
"FCCS_TotalOpeningBalance";
    ELSE
        IF (NOT @ISMBR(@MEMBERAT(@CHILDREN("Years"),1)))
            "Mvmt_Increase01" = "FCCS_ClosingBalance_Input" -
"FCCS_ClosingBalance_Input"->"Dec"->
@MEMBER(@PREVSIBLING(@CURRMBR("Years")));
        ENDIF;
    ENDIF;
    )
ENDIFX
```

### 拡張ディメンションでの最上位のカスタム・メンバー・システム計算オプションの使用

ユーザー定義カスタム・ディメンションでは、サービス管理者は、パフォーマンスを向上させるために、レベル 0 の全メンバーを使用するかわりに、カスタム・ディメンションの最上位メンバーを使用してシステム計算を処理できます。オプションを適用する対象となる特定のカスタム・ディメンションを選択できます。[システム計算](#)を参照してください。

拡張ディメンション環境を使用している場合、カスタム最上位メンバーを使用してもパフォーマンスが低下しないようにするには、エンティティ入力とエンティティ通貨

データに基づいた連結の開始時に "NoCustomX" で空のブロックを作成し、そのブロックを使用してすべての計算を実行します。たとえば、製品カスタム・ディメンションに 1000 件のカスタム・メンバーが含まれている場合は、@"No Product" という 1 つのブロックを作成し、"No Product" を FIX 指定して、ボトムアップ処理を使用できます。システムでは製品ディメンションの 1000 メンバー全件をループする必要はなく、合計値の "Total Product" を使用できるので、全体的なパフォーマンスが向上します。

次の例は、計算スクリプトのサンプルを示しています。

```
"FY13"(
    @CALCMODE(BOTTOMUP);
    IF("No Product" == #missing) /* this step is used to avoid overwriting any user data */
        "No Product" = 0;
        "No Product" = #missing; /*to avoid rolling up zero */
    ENDIF
)
```

#### ボトムアップ処理を使用した FCCS\_10 メンバー・ブロックの計算

1. @CALCMODE(BOTTOMUP)を使用して、メンバー・ブロックの計算をまとめます。
2. FIX メンバーが計算全体で同じである場合は、複数の FIX...ENDFIX の計算を 1 つの FIX...ENDFIX にまとめます。

単一の計算の場合は、FIX 内で FIX を使用しないでください。

次の例は、トップダウン処理を使用した計算の実行例と、問合せ処理を向上させるためにボトムアップ処理を使用した修正例(右側)を示しています。

#### 例: トップダウン処理を使用した FCCS\_20 C1\_Validation の実行

```
FIX ("FCCS_No Intercompany", "FCCS_Data Input")
FIX("No Custom2", "No Custom3", "No Custom4")
    "C1_Validation"(
        "RE1120LABNK-IMP" -> "FCCS_No Movement" =
        "RE1120LABNK-IMP" -> "FCCS_TotalInputAndAdjusted" -> "MVTMCALC" -> "FCCS_Entity Total" ->
        "FCCS_Intercompany Top" -> "Total Custom1" -> "Total Custom2" -> "Total Custom3" -> "Total
        Custom4" -> "FCCS_YTD";
    )
    ENDFIX
ENDFIX
```

#### 例: ボトムアップ処理を使用した FCCS\_20 C1\_Validation の実行

```

FIX("RE1120LABNK-IMP", "FCCS_No Intercompany", "FCCS_Data Input", "No Custom2", "No
Custom3", "No Custom4", "FCCS_No Movement")

"C1_Validation"(@CALCMODE(BOTTOMUP);

    "MVTMCALC" -> "FCCS_Entity Total" -> "FCCS_TotalInputAndAdjusted" -> "FCCS_Intercompany
Top" -> "Total Custom1" -> "Total Custom2" -> "Total Custom3" -> "Total Custom4" -> "FCCS_YTD";
)

ENDFIX

```

### 計算の依存関係

構成可能な計算(挿入位置)およびオンデマンド・ルールで計算する場合は、エンティティ間の依存関係を回避する必要があります。計算でエンティティ A の値を参照しようとしたときに、エンティティ A がまだ計算されていない場合、エンティティ A には値がありません。

たとえば、"エンティティ A" > "ICP\_B" > "エンティティ通貨" (ソース)から"エンティティ B" > "ICP\_A" > "エンティティ通貨" (宛先)にデータを再分類しようとする、エンティティ A とエンティティ B の両方が並行して計算されている場合、エンティティ A (ソース)は計算されていない可能性があるため、使用できない可能性があります。

このような場合、最初にエンティティ A を計算した後、依存エンティティ B を計算して、再分類を試みる必要があります。

## 拡張ディメンション・アプリケーションでの計算のベスト・プラクティス

### 勘定科目を密ディメンションとして使用する拡張ディメンション・アプリケーション

勘定科目を密ディメンションとして使用する拡張ディメンション・アプリケーションを使用する場合、次のスクリプト・テクニックを使用できます。このようなアプリケーションに関する次の点に注意してください：

1. ディメンション順序: 増減ディメンションは、ディメンション順序の最初の疎ディメンションで、ビットマップ・ディメンションと呼ばれます。
2. 会社間ディメンションの親メンバーは動的計算です。
3. すべてのカスタム・ディメンションでは、親メンバーを「動的計算」に設定する必要があります。
4. 最小限の上位レベル・ブロック件数を持ち、スプレッドシート操作時に動的集計をアーカイブします。
5. 最上位/親メンバーが既存の計算で使用される場合、既存の計算を書き換える必要があることを除き、カスタマイズされた計算を記述する際にポイント 2 および 3 は重要な役割を果たします。

Dimension	Type	Members in Dimension	Members Stored
Account	Dense	2315	1977
Movement	Sparse	97	45
Period	Sparse	19	14
Consolidation	Sparse	11	8
Data Source	Sparse	54	48
Currency	Sparse	13	11
Intercompany	Sparse	30	30
Nature	Sparse	547	546
Detail	Sparse	116	111
Scenario	Sparse	3	3
Years	Sparse	11	11
View	Sparse	5	3
Entity	Sparse	56	56
Source Currency	Sparse	16	0
Currency_Attribute	Sparse	16	0

#### SET HYBRIDBSOINCALCSCRIPT FULL / NONE

次の例のように、式の右側に最上位メンバーがある場合は、HYBRIDBSOINCALCSCRIPT が 必要です:

```
"CA3_010" = "FCCS_Mvmts_Subtotal" -> "Total Custom1" -> "No Custom2";
```

この場合、次の例のように、問題となる行について HYBRIDBSOINCALCSCRIPT を無効にし、問題となる行の実行後にそれを再度有効にする必要があります:

```
SET HYBRIDBSOINCALCSCRIPT NONE
"CA3_010" = "FCCS_Mvmts_Subtotal" -> "Total Custom1" -> "No Custom2"; SET
HYBRIDBSOINCALCSCRIPT FULL;
```

必要に応じて、構成可能な計算(挿入位置)ルールについてのみ、これを行います。

#### SET HYBRIDBSOINCALCSCRIPT FULL / NONE

次の例のように、右側の最上位メンバーが 1 つのみである場合は、HYBRIDBSOINCALCSCRIPT によって式の速度が低下することがあります:

```
"CA3_010" = "FCCS_Mvmts_Subtotal" -> "Total Custom1" -> "No Custom2";
```

この場合、次の例のように、問題となる行について HYBRIDBSOINCALCSCRIPT を無効にし、問題となる行の実行後にそれを再度有効にする必要があります:

```
SET HYBRIDBSOINCALCSCRIPT NONE
"CA3_010" = "FCCS_Mvmts_Subtotal" -> "Total Custom1" -> "No Custom2"; SET
HYBRIDBSOINCALCSCRIPT FULL;
```



必要に応じて、構成可能な計算(挿入位置)ルールについてのみ、これを行います。

### 連続加算テクニック

```
"Target_Account_Stored" -> "Mvmt_None" = "FCCS_Mvmts_Subtotal" ->
"Source_Account_DynamicCalc" -> "Total Custom1" -> "Total Custom2";
```

この例の目的は、右側にある動的計算の結果を保管済の密メンバーに保管することです。SET HYBRIDBSOINCALCSCRIPT FULL を指定して実行された場合、この計算は実行されません。このような状況では、「加算」として設定されているカスタム・ディメンションのレベル 0 のメンバーの集計演算子に基づき、連続加算として知られるテクニックを使用できます。勘定科目ディメンションは疎であるため、「動的計算」ソース勘定科目でレベル 0 のメンバーを FIX 指定します。また、ハイブリッド・モードを必ず無効にしてください。

```
1. SET HYBRIDBSOINCALCSCRIPT NONE; /* Turn OFF Hybrid mode */
2. FIX( @RELATIVE( "Total Custom1", 0 ), @RELATIVE( "Total
Custom2", 0 ), <other dimension members of FIX> )
3. "FCCS_Mvmts_Subtotal" ( @CALCMODE( BOTTOMUP );
4. "Target_Account_Stored" -> "Mvmt_None" = "Target_Account_Stored"
-> "Mvmt_None" + "Source_Account_DynamicCalc";
5. )
6. ENDFIX
```

Custom1 のレベル 0 のいくつかのメンバーで、集計演算子が次のように設定されている場合を考えます: Custom1\_A および Custom1\_B メンバーの集計演算子は「減算」と設定されています。

```
SET HYBRIDBSOINCALCSCRIPT NONE; /* Turn OFF Hybrid mode */
FIX(@RELATIVE("Source_Account_DynamicCalc", 0),@REMOVE(@RELATIVE("Total Custom1", 0),@LIST("Custom1_A", "Custom1_B")),
(@RELATIVE("Total Custom2", 0), <other dimension members of FIX>))
"FCCS_Entity Input"(@CALCMODE(BOTTOMUP));
"Target_Account_Stored"->"Mvmt_None" = "Target_Account_Stored"->"Mvmt_None" + "FCCS_Mvmts_Subtotal";
)
ENDFIX /* Use addition for all Custom1 members excluding Custom1_A and Custom1_B */
FIX(@RELATIVE("Source_Account_DynamicCalc", 0),@LIST("Custom1_A", "Custom1_B"), @RELATIVE("Total Custom2", 0),<other dimension
members of FIX>))
"FCCS_Entity Input"(@CALCMODE(BOTTOMUP));
"Target_Account_Stored"->"Mvmt_None" = "Target_Account_Stored"->"Mvmt_None" - "FCCS_Mvmts_Subtotal";
)
ENDFIX /* Use subtraction for Custom1 members Custom1_A and Custom1_B */
```

このテクニックを使用する場合の重要な考慮事項: ビジネス・ルールが複数回実行される場合、ターゲット勘定科目が累積値を持つ可能性が非常に高くなります。その結果、誤った数値となります。そのため、BOTTOMUP プロセスでは、スクリプトが 1 回以上実行されている可能性が高いため、ターゲット値を#Missing に初期化することを確認してください。

```
SET HYBRIDBSOINCALCSCRIPT NONE; /* Turn OFF Hybrid mode */
FIX("Target_Account_Stored", @RELATIVE("Total Custom1", 0), @RELATIVE("Total Custom2", 0), <other dimension members of FIX>))
"FCCS_Entity Input"(@CALCMODE(BOTTOMUP));
"Mvmt_None" = #MISSING; /* clear stale values before successive addition / subtraction */
)
ENDFIX
```

次の構成要素は避けてください。

1. CALC DIM、CALC ALL、AGG、およびサブツリーを計算する未割当のその他の式。CALC DIM および AGG の使用を、保管済メンバーが動的メンバーに依存しないディメンションに制限するのがベスト・プラクティスです。
2. 計算スクリプトに CREATENONMISSINGBLOCK または CREATEBLOCKONEQ を使用しないでください。
3. 挿入位置内に次の関数を使用しないでください。
  - @ALLOCATE
  - @CREATEBLOCK
  - @IRREX
  - @MDALLOCATE
  - @MDSHIFT
  - @MOVSUMX
  - @PTD
  - @SANCESTVAL
  - @STDEV
  - @STDEVP
  - @STDEV RANGE
  - @SYD
  - @TREND

### 疎メンバー・ブロックおよびボトムアップの使用

#### 非拡張ディメンション・アプリケーションのシナリオ

```

1.FIX ("FCCS_EntityInputFCCS_EntityInputFCCS_EntityInputFCCS_EntityInput
FCCS_EntityInput
FCCS_EntityInputFCCS_EntityInputFCCS_EntityInputFCCS_EntityInput", "Entity
"Entity Currency" Currency" Currency" Currency" Currency" Currency"
Currency" )
2.FIX ("Inventory_StockInventory_StockInventory_StockInventory_Stock
Inventory_StockInventory_Stock Inventory_Stock Inventory_Stock ",
"FCCS_Mvmts_NetIncomeFCCS_Mvmts_NetIncomeFCCS_Mvmts_NetIncomeFCCS_Mvmts_NetIn
come FCCS_Mvmts_NetIncome FCCS_Mvmts_NetIncome
FCCS_Mvmts_NetIncomeFCCS_Mvmts_NetIncomeFCCS_Mvmts_NetIncome ",
"FCCS_NoFCCS_NoFCCS_NoFCCS_No FCCS_NoIntercompany", Intercompany",
Intercompany", Intercompany", Intercompany", Intercompany", Intercompany",
Intercompany", Intercompany", Intercompany", "No "No Product", Product",
Product", Product", Product", Product", Product",
"FCCS_LocalFCCS_LocalFCCS_LocalFCCS_Local FCCS_Local GAAP" GAAP" GAAP" )
3."FCCS_ManagedFCCS_ManagedFCCS_ManagedFCCS_Managed FCCS_Managed
FCCS_Managed Data" Data" Data" (
4."FCCS_OtherFCCS_OtherFCCS_OtherFCCS_Other FCCS_Other FCCS_Other Data"
Data" Data" ="Warehouse_StockWarehouse_Stock Warehouse_Stock Warehouse_Stock
Warehouse_Stock Warehouse_Stock " +"Showroom_Stock
Showroom_StockShowroom_Stock Showroom_StockShowroom_Stock Showroom_Stock ";
5.)

```

```
6.ENDFIX
7.ENDFIX ENDFIX
```

### 拡張ディメンション・アプリケーションのシナリオ

```
8.FIX ("FCCS_EntityFCCS_EntityFCCS_EntityFCCS_Entity FCCS_Entity
Input", Input", Input", Input", Input", Input", Input", Input", "Entity
"Entity Currency" Currency" Currency" Currency" Currency" Currency"
Currency" )
9.FIX ("Inventory_StockInventory_StockInventory_StockInventory_Stock
Inventory_StockInventory_Stock Inventory_Stock Inventory_Stock ",
"FCCS_ManagedFCCS_Managed FCCS_Managed FCCS_ManagedFCCS_ManagedData"
Data" Data" ,"FCCS_NoFCCS_NoFCCS_NoFCCS_No FCCS_NoIntercompany",
Intercompany", Intercompany", Intercompany", Intercompany",
Intercompany", Intercompany", Intercompany", Intercompany",
Intercompany", "No "No Product", Product", Product", Product",
Product", Product", Product",
"FCCS_LocalFCCS_LocalFCCS_LocalFCCS_Local FCCS_Local GAAP" GAAP"
GAAP" )
10 ."FCCS_Mvmts_NetIncomeFCCS_Mvmts_NetIncome FCCS_Mvmts_NetIncome
FCCS_Mvmts_NetIncomeFCCS_Mvmts_NetIncomeFCCS_Mvmts_NetIncome
FCCS_Mvmts_NetIncomeFCCS_Mvmts_NetIncome FCCS_Mvmts_NetIncome " (
11 ."FCCS_OtherFCCS_OtherFCCS_OtherFCCS_Other FCCS_Other FCCS_Other
Data" Data" Data" ="Warehouse_StockWarehouse_Stock Warehouse_Stock
Warehouse_Stock Warehouse_Stock Warehouse_Stock " +"Showroom_Stock
Showroom_StockShowroom_Stock Showroom_StockShowroom_Stock
Showroom_StockShowroom_Stock ";
12 .)
13 .ENDFIX ENDFIX
14 .ENDFIX
```

増減メンバー「FCCS\_Mvmts\_NetIncome」はアンカーとして使用されます。増減ディメンションはビットマップ・ディメンションと見なされます。これは、勘定科目密ディメンションの後の最初の疎ディメンションです。可能なかぎり、単一の増減ディメンション・メンバーを含む計算では、増減メンバーをメンバー・ブロック(アンカーと呼ばれます)として使用する必要があります。

### ソースとして最上位/親メンバーを含む計算

#### 非拡張ディメンション・アプリケーションのソース

```
1. FIX ("Entity Currency", "FCCS_Entity Input")
2. FIX("FCCS_Managed Data", "FCCS_Intercompany Top",
"Total Custom1", "Total Custom2")
3. "FCCS_Mvmts_NetIncome" (
4. IF(@ISLEV("Entity", 0))
5. "Account 3" = "Account 1" + "Account 2";
6. )
7. ENDFIX
8. ENDFIX
```

## 拡張ディメンション・アプリケーションのシナリオ

```

1.    FIX ("Entity Currency", "FCCS_Entity Input")
2.    FIX("Account 3" ,"FCCS_Managed Data", "FCCS_No Intercompany", "No
Custom1", "No Custom2")

3.    "FCCS_Mvmts_NetIncome" (
4.    IF(@ISLEV("Entity", 0))
5.    "FCCS_Intercompany Top"->"Total Custom1"-
>"Total Custom2"->"Account 1" + "FCCS_Intercompany Top"-
>"Total Custom1"->"Total Custom2"->"Account 2"; 6.    )
7.    ENDFIX
8.    ENDFIX

```

1. 最上位メンバーが動的計算で、FIX 式で使用できないため、計算の右側でメンバーを使用して、結果を「No <member>」にリダイレクトします。
2. 計算の結果を保管する単一の密ディメンション・メンバーは、FIX 内に配置されます。

## 拡張ディメンション・アプリケーションでの計算のベスト・プラクティス

- 計算の右側に最上位/親メンバーを含まない場合のみ、ボトムアップ処理を使用します。
- 密ディメンションで@ISMBR チェックを使用するのではなく、@Remove を使用して密メンバーを削除します。
- @LEV および@CURRMBR のかわりに、ブール@ISLEV を使用します。
- 制限されたメンバーを FIX から削除します。
- アンカーによる方法が機能しない場合は、コピーを使用してターゲット・ブロックを作成します。
- 1 つのターゲット・カスタム・ディメンション・メンバーに対してのみ計算を実行する必要があります。
- スクリプトを汎用にするには@LIKE を使用します。
- エッジ・ケースをチェックします。
- 共通ケースを最初にチェックします。
- 計算で単一の増減ディメンション・メンバーに書き込む場合は、増減メンバーをメンバー・ブロック(アンカーと呼ばれます)として使用します。
- 勘定科目が密ディメンションの場合に計算で単一の勘定科目ディメンション・メンバーに書き込む場合は、勘定科目メンバーを FIX に移動します。期間および増減が密メンバーであるアプリケーションで、勘定科目メンバーを計算の左側に移動します。

拡張ディメンション・アプリケーションはハイブリッド集約モードを使用します。SET HYBRIDBSOINCALCSCRIPT 構築は、Calculation Manager の一部として使用でき、保管済メンバーが動的メンバーに依存する場合に、アプリケーションのキューブが計算スクリプトでハイブリッド集約モードを使用するかどうかを制御します。

拡張ディメンション・アプリケーションでサポートされる Essbase 関数のリストは、Oracle Essbase テクニカル・リファレンスのハイブリッド集約モードでサポートされる関数に関する項を参照してください。

## 顧客 A のユース・ケース

このユース・ケースでは、当初の計算に次の問題が含まれていました。

- 手動のキャッシュ・フロー計算
- 計算なしに対して、挿入場所にキャッシュ・フロー計算が挿入されるとパフォーマンスが低下しました。1つのエンティティを連結するのに2分を要したのに対して、計算なしの場合は40秒でした。
- 法定慣行のため、計算ではシード済キャッシュ・フローを使用できませんでした。

## 当初の計算

```

1.     FIX("Entity Currency", "FCCS_Entity Input")
2.     /* Account CA3_010 - CET1 Capital ratio */
3.     /* Account CA3_020 - Surplus(+)/Deficit(-) of CET1 capital */
4.     FIX ("FCCS_No Movement", "No Custom2", "No Custom3", "No
Custom4", "FCCS_Data Input", "FCCS_No Intercompany")
5.     "Submitted" (
6.     "CA3_010" = ("FCCS_Mvmts_Subtotal"->"Total Custom1"->"Total
Custom2"->"Total Custom3"-> "FCCS_Intercompany Top"->"FCCS_Total Data
Source"->"FCCS_YTD"->"CA1_020" / "FCCS_Intercompany
Top"-
>"FCCS_Total Data Source"->"FCCS_YTD"-> "CA2_010") - @Prior("CA3_010"-
>"FCCS_YTD");

7.     "CA3_020" = ("FCCS_Mvmts_Subtotal"->"Total Custom1"->"Total
Custom2"->"Total Custom3"-> "FCCS_Intercompany Top"->"FCCS_Total Data
Source"->"FCCS_YTD"->"CA1_020" - ("FCCS_Intercompany Top"->"FCCS_Total
Data Source"->"FCCS_YTD"->
"CA2_010" * 0.045)) - @Prior("CA3_020"->"FCCS_YTD");
8.     ENDFIX
9.     ENDFIX

```

次の理由のために、計算はうまく実行されません。

1. 各ディメンションのほとんどの親メンバーが動的計算であるため、計算の右側が基本的に Essbase に対する問合せです。
2. 前述のケースでは、2つの問合せが同時に起動し、結果がフェッチされた場合のみ実際の計算が起動するため、式のキャッシュの速度が低下します。
3. エンティティ・レベルに関係なく、前述のスク립トは連結時にすべてのエンティティに対して実行されます。

## 改訂された計算

次の例は、改訂された計算を示します。

```

1.     SET HYBRIDBSOINCALCSCRIPT NONE; /*Turn OFF HYBRID BSO Mode */
2.     FIX("Entity Currency", "FCCS_Entity Input")
3.     /* Account CA3_010 - CET1 Capital ratio */
4.     /* Account CA3_020 - Surplus(+)/Deficit(-) of CET1 capital */
5.     /* First perform the natural aggregation in BOTTOMUP mode */
6.     FIX (@RELATIVE("Total Custom1", 0), @RELATIVE("Total Custom2",
0), @RELATIVE("Total Custom3", 0), "No Custom4",
@RELATIVE("FCCS_Total Data Source", 0), @RELATIVE("FCCS_Intercompany

```

```

Top", 0))
7.   "FCCS_Mvmts_Subtotal" (@CALCMODE (BOTTOMUP));
8.   IF (@ISLEV("ENTITY", 0))
9.     "FCCS_No Movement"->"FCCS_No Intercompany"->"FCCS_Data Input"-
>"Submitted"->"CA3_010" = "FCCS_No Movement"->
"FCCS_No Intercompany"->"FCCS_Data Input"->"Submitted"->"CA3_010" +
("FCCS_YTD"->"CA1_020"/"FCCS_YTD"->"CA2_010");

10.  "FCCS_No Movement"->"FCCS_No Intercompany"->"FCCS_Data Input"-
>"Submitted"->"CA3_020" = "FCCS_No Movement"->
"FCCS_No Intercompany"->"FCCS_Data Input"->"Submitted"->"CA3_020" +
("FCCS_YTD"->"CA1_020" - ("FCCS_YTD"->"CA2_010" * 0.045));
11.  ENDIF;
12.  )
13.  ENDFIX
14.  /* Now leverage usage of @SHIFMINUS instead of subtraction and @PRIOR
*/
15.  FIX ("No Custom2", "No Custom3", "No Custom4", "FCCS_Data Input",
"FCCS_No Intercompany", "Submitted", "CA3_010")
16.  "FCCS_No Movement" (@CALCMODE (BOTTOMUP));
17.  IF (@ISLEV("ENTITY", 0))
18.    @SHIFMINUS("CA3_010", "FCCS_YTD"->"CA3_010", -1);
19.  ENDIF;
20.  )
21.  ENDFIX
22.  FIX ("No Custom2", "No Custom3", "No Custom4", "FCCS_Data Input",
"FCCS_No Intercompany", "Submitted", "CA3_020")
23.  "FCCS_No Movement" (@CALCMODE (BOTTOMUP));
24.  IF (@ISLEV("ENTITY", 0))
25.    @SHIFMINUS("CA3_020", "FCCS_YTD"->"CA3_020", -1);
26.  ENDIF;
27.  )
28.  ENDFIX
29.  ENDFIX

```

## スクリプトの改善

- 各問合せ計算を個別の **FIX** として分けし、宛先の密メンバーを **FIX** に移動しました
- スクリプトは、連結中にレベル **0** のエンティティに対してのみ実行されます
- 増減メンバーをアンカーとして使用します
- パフォーマンスはエンティティ 当たり 2 分から **30 秒** に向上しました

## 勘定科目を疎ディメンションとして使用し、期間および増減を密ディメンションとして使用する拡張ディメンション・アプリケーション

この項では、勘定科目を疎ディメンションとして使用する拡張ディメンション・アプリケーションのスクリプト・テクニックについて概要を説明します。期間および増減を密ディメンションとし、勘定科目を疎ディメンションとしてアプリケーションを作成するか、既存のアプリケーションをそのように変換することを選択した場合は、次の点に留意してください:

1. 期間および増減は密ディメンションです。
2. 勘定科目ディメンションは疎です。

3. シード親増減ディメンションのメンバーは動的計算です。
4. 会社間ディメンションの親メンバーは動的計算です。
5. すべてのカスタム・ディメンションの親メンバーは動的計算である必要があります。
6. その目的は、上位レベル・ブロック件数を最小限にし、スプレッドシート操作中に動的集計をアーカイブするためです。
7. 親メンバーが既存の計算で使用される場合、既存の計算を書き換える必要があることを除き、カスタマイズされた計算を記述する際にポイント 2 および 3 は重要な役割を果たします。

Dimension	Type	Members in Dimension	Members Stored
Period	Dense	19	14
Movement	Dense	76	23
Consolidation	Sparse	10	6
Data Source	Sparse	11	6
Currency	Sparse	49	47
Account	Sparse	8435	7535
Intercompany	Sparse	2214	2211
CostCenter	Sparse	36063	35976
Project	Sparse	5543	5528
Operating Unit	Sparse	20	16
Spend_Type	Sparse	11	7
Scenario	Sparse	2	2
Years	Sparse	4	4
View	Sparse	8	3
Entity	Sparse	2216	2216

### 顧客 A のユース・ケース

FCCS\_Managed Data のソース・データに基づく、データ・ソース・メンバー  
IC\_Inventory\_Alloc の計算

最適化前

Top 10 Worst Performing Business Rules over 30 Seconds

Duration (Min:Sec)	Begin Time	End Time	User	Cube	Business Rule	Run Time Prompt
524:52	15:55:22	00:40:14	epm_default_cloud_admin	Consol	ForceConsolidate	Entity:"FCCS_Total Geography" Period:"Dec" Scenario:"Actual_LCE" Year:"FY16"

After optimization

Top 10 Worst Performing Business Rules over 30 Seconds

Duration (Min:Sec)	Begin Time	End Time	User	Cube	Business Rule	Run Time Prompt
03:20	06:25:16	06:28:36	epm_default_cloud_admin	Consol	Consolidate	Entity:"FCCS_Total Geography" Period:"Dec" Scenario:"Actual_LCE" Year:"FY16"

### 顧客 A - 元の計算スクリプト

- a.TOPDOWN を実行します
- b.右側の動的計算上位メンバーを使用するため、データの取得速度が低下します
- c.計算で、同じ交差を使用して不必要な乗算と除算が行われます



```

FIX (@LIST("13040000","13140000","13240000","13313300","13321300","13322300","13440000","13660000","13311400","13311500","13311600","13313400",
"13313500","13050000","13312100"), "FCCS_Mvmts_NetIncome","No Custom1","No Custom2")
"IC_Inventory_Alloc" = #Missing;
EndFix

/* Allocate IC Info based on statistical Information */
FIX ( "FCCS_Mvmts_NetIncome","No Custom1","No Custom2","No Intercompany",@LIST("13040000","13140000","13240000","13313300","13321300","13322300",
"13440000","13660000","13311400","13311500","13311600","13313400","13313500","13050000","13312100"))
"IC_Inventory_Alloc" (
    "IC_Inventory_Alloc">"No Custom1">"No Custom2" = (- "FCCS_Managed Data">"FCCS_Mvmts_NetIncome">"Total Custom1"- "FCCS_OpeningBalance">
    "FCCS_Managed Data">"Total Custom1")*(("13660000_stat">"FCCS_Intercompany Entities">"FCCS_Managed Data">"No Custom2">"No Custom1">
    "FCCS_Mvmts_NetIncome"/"13660000_stat">"FCCS_Intercompany Entities">"FCCS_Managed Data">"No Custom2">"No Custom1">"FCCS_Mvmts_NetIncome"
    ));
ENDFIX

```

### 顧客 A のユース・ケース - 変更された計算スクリプト

変更された計算スクリプトでは、連続加算テクニックと BOTTOMUP 処理を使用します。

- a.BSO モードで計算を実行します - SET HYBRIDBSOINCALCSCRIPT NONE
- b. @CREATEBLOCK を使用して、ソース FCCS\_Managed Data ブロックに基づいてターゲット IC\_Inventory\_Alloc ブロックを作成します(BOTTOMUP)
- c.動的計算上位メンバーのかわりに、右側で保管済メンバーが使用されます

```

SET HYBRIDBSOINCALCSCRIPT NONE;
FIX ("Entity Currency","Entity Input")
FIX (@LIST("13040000","13140000","13240000","13313300","13321300","13322300","13440000","13660000","13311400","13311500","13311600","13313400",
"13313500","13050000","13312100"),
@LEVMBS("Custom1", 0), "No Custom2", @LEVMBS("Intercompany", 0))
"FCCS_Managed Data" (
    @CALCNODE(BOTTOMUP);
    IF (@LSLEV("Entity", 0))
        @CREATEBLOCK("No Custom1">"No Custom2">@LIST("IC_Inventory_Alloc", "ICE1in", "IC_DefTax"));
    ENDFIX
)
FIX (@LIST("13040000","13140000","13240000","13313300","13321300","13322300","13440000","13660000","13311400","13311500","13311600","13313400",
"13313500","13050000","13312100"),
@LIST("IC_Inventory_Alloc", "ICE1in", "IC_DefTax"), "No Custom1", "No Custom2", @LEVMBS("Intercompany", 0))
"FCCS_Mvmts_NetIncome" (
    IF (@LSLEV("Entity", 0))
        #Missing;
    ENDFIX
)
/* Allocate IC Info based on statistical Information */
FIX (@RELATIVE("Total Custom1", 0), "No Custom2", "No Intercompany", @LIST("13040000","13140000","13240000","13313300","13321300","13322300",
"13440000","13660000","13311400","13311500","13311600","13313400","13313500","13050000","13312100"))
"FCCS_Managed Data" (
    @CALCNODE(BOTTOMUP);
    IF (@LSLEV("Entity", 0))
        "IC_Inventory_Alloc">"No Custom1">"FCCS_Mvmts_NetIncome" - "IC_Inventory_Alloc">"No Custom1">"FCCS_Mvmts_NetIncome" - ("FCCS_Mvmts_NetIncome" + "FCCS_OpeningBalance");
    ENDFIX
)
ENDFIX

```

### 顧客 B のユース・ケース

この余剰勘定科目計算は、勘定科目が疎であるモデルに移行した後で書き換える必要がありました。増減ディメンションのシード親メンバーのデータ・ストレージ・プロパティは動的計算です。このため、連結のタイミングが不正確になり、問題が発生しました。移行後に計算を中断する必要がありました。

ベスト・プラクティスを導入した後の通年のタイミング:

Top 10 Worst Performing Business Rules over 30 Seconds						
Duration (Min:Sec)	Begin Time	End Time	User	Cube	Business Rule	Run Time Prompt
14:54	10:10:04	10:24:59	epm_default_cloud_admin	Consol	Consolidate	Entity:"DSMNG_COUNTRY" Period:"Dec" Scenario:"BUDGET_NE_STAT" Year:"FY21"
01:31	10:07:33	10:09:05	epm_default_cloud_admin	Consol	Consolidate	Entity:"DSMNG_COUNTRY" Period:"Jan" Scenario:"BUDGET_NE_STAT" Year:"FY21"

### 顧客 B のユース・ケース - 元の計算

元の FCCS\_20 の計算:

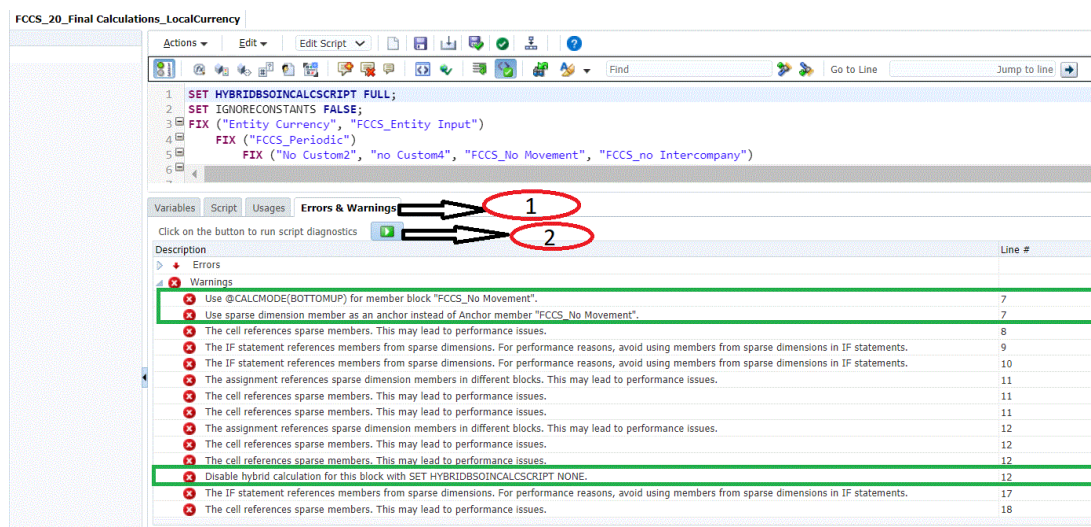




## 計算スクリプトの検証警告の解決

検証プロセスの一部として、Essbase 計算スクリプトを使用する構成可能な計算またはオンデマンド・ルールを作成して検証する際、Financial Consolidation and Close によって、ルールの実行時にパフォーマンスの低下を引き起こす可能性がある問題についての警告が提供されます。これらの警告を表示するには、Calculation Manager で「エラーおよび警告」タブを選択し、緑のボタンをクリックしてスクリプト診断を実行します。

次のスクリーンショットでは、緑で強調表示されたセルが Financial Consolidation and Close からの警告です。表示されている他の警告は、Calculation Manager からのものです。



### ノート:

Financial Consolidation and Close のルール検証警告は、推奨事項モジュールでも表示されます。[アプリケーションに関する推奨事項の表示](#)を参照してください。

警告メッセージは、スクリプトの行番号に基づいてソートされて表示されます。

Calculation Manager でルール検証警告を表示するには:

1. Calculation Manager を開き、「エラーおよび警告」タブを選択します。
2. 「実行」アイコンをクリックして、警告を表示します。

この後の各項では、ルール検証警告を解決する方法について詳しく説明します。

### アンカーの使用に関する Calc Manager のスクリプト検証

Calc Manager スクリプトでのアンカーの正しい使用方法については、次のガイドラインに従います:

#### DSO 以外のアプリケーションの場合

- FIX ブロックに単一の増減メンバーがある場合、**Financial Consolidation and Close** では、その増減メンバーをアンカーとして使用することをお勧めします。
- FIX ブロックに複数の増減メンバーがある場合、増減をアンカーとして選択することはできません。その場合は、他の疎ディメンションのメンバーをアンカーとして選択できます。
- – 構成可能な計算(挿入位置)については、シナリオ、年、期間、エンティティまたはビューのメンバーをアンカーとして選択することはできません。
- – オンデマンド・ルール(ODR)については、シナリオ、年、期間、エンティティ、連結または通貨のメンバーをアンカーとして選択することはできません。
- 密ディメンションのメンバーをアンカーとして使用することは避けてください。**DSO** 以外のアプリケーションの場合、勘定科目は密ディメンションです。密メンバー・ブロックについては、**CALCMODE(BOTTOMUP)**を使用してもパフォーマンス上の利点は得られません。

### DSO アプリケーションの場合

- **DSO** アプリケーションでは、増減は密ディメンションです。**DSO** 以外のアプリケーションから **DSO** アプリケーションに移行する場合は、増減ディメンションのメンバーがアンカーでないことを確認する必要があります。**DSO** アプリケーションでは勘定科目が疎であるため、勘定科目ディメンションのメンバーをメンバー・ブロックのアンカーとして選択できます。
- 勘定科目メンバーをアンカーとして選択できない場合は、他の疎ディメンションのメンバーをアンカーとして選択します。
- – 構成可能な計算(挿入位置)については、シナリオ、年、期間、エンティティまたはビュー(密)のメンバーをアンカーとして選択することはできません。
- – オンデマンド・ルール(ODR)については、シナリオ、年、期間、エンティティ、連結または通貨のメンバーをアンカーとして選択することはできません。
- 密ディメンションのメンバーをアンカーとして使用することは避けてください。**DSO** アプリケーションでは、増減および期間は密ディメンションです。密メンバー・ブロックについては、**CALCMODE(BOTTOMUP)**を使用してもパフォーマンス上の利点は得られません。

**DSO** 以外のアプリケーションの構成可能な計算(挿入ルール)の例を次に示します。各行は、行番号である#で示されています。

```
#1 FIX ("FCCS_Periodic", "FCCS_Journal Input", "FCCS_Managed Data",
"IFRS_IN ", "Entity Currency", "FCCS_Mvmts_NetIncome",
@relative("Total Categories", 0), @relative("Total Area", 0),
@LEVMBRS("Intercompany", 0) @relative("Total Custom", 0))
#2     "FCCS_Entity Input" (
#3         IF (@ISMBR("Actual_Red"))
#4             IF (@ISUDA("Entity", "B10") AND
("FCCS_Mvmts_NetIncome" <> #Missing))
#5                 ENDIF
#6             ENDIF
#7     )
#8 ENDFIX
```

このスクリプトの例では、ルールの検証プロセスによって次の警告が生成されます:

行 2: アンカー・メンバー FCCS\_Entity Input のかわりに増減メンバー FCCS\_Mvmts\_NetIncome をアンカーとして使用します。  
DSO アプリケーションの構成可能な計算(挿入ルール)の例を次に示します。各行は、行番号である#で示されています。

```
#1  FIX("FCCS_Periodic","FCCS_No Intercompany","No operating
Expense","Product1      ","CORP_IN","IC_PROFIT_ACC ")
#2      "FCCS_Managed Data"(
#3      @CALCMODE(BOTTOMUP);
#4      IF (@ISMBR("FY21"))
#5      "FCCS_OpeningBalanceAdjustment"=10;
#6      ENDIF
#7      )
#8      ENDFIX
```

このスクリプトの例では、ルールの検証プロセスによって次の警告が生成されます:

行 2: アンカー・メンバー FCCS\_Managed Data のかわりに勘定科目メンバー IC\_PROFIT\_ACC をアンカーとして使用します。

### @CALCMODE (BottomUp)に関する Calc Manager のスクリプト検証

#### @CALCMODE(BOTTOMUP)と@CALCMODE(TOPDOWN)の比較

Financial Consolidation and Close では、TOPDOWN と比べて、構成可能な計算(挿入位置)またはオンデマンド・ルール(ODR)を使用する計算が高速になる BOTTOMUP を使用することをお勧めします。

計算のデフォルト・アプローチである BOTTOMUP 中に、Essbase は、疎メンバー・ブロックを使用してデータを計算する前に、どの既存のデータ・ブロックを計算する必要があるかを判断します。次に、Essbase は、データベース全体の計算中に計算する必要があるブロックのみを計算します。

例:  $A = B + C$

A は、B および C がデータベースに存在する場合にのみ計算されます。実際の計算が開始される前に、B および C に対する A の依存関係が認識されます。

TOPDOWN 中には、Essbase は、メンバー・ブロックの疎メンバーを使用するすべての潜在的データ・ブロックに対して式を計算します。

例:  $A = B \rightarrow D + C \rightarrow D$

式を計算するために、Essbase は A のすべての組合せを調査し、 $B \rightarrow D$  または  $C \rightarrow D$  が存在するかどうかを確認する必要があります。

Essbase は、BOTTOMUP をデフォルト・メカニズムとして使用して、割り当てられた式を疎メンバーに対して計算しますが、式が本質的に複雑である場合は、計算が TOPDOWN で実行されます。

複雑な式は、次の基準を満たすものです:

- ディメンション間演算子[ $\rightarrow$ ]を含む
- 1 つ以上の範囲関数(@AVGRANGE、@MAXRANGE、@MINRANGE、@SUMRANGE など)を使用する

- 関係関数または財務関数(@ANCESTVAL、@NEXT、@PARENTVAL、@SHIFT、@ACCUM、@GROWTH など)を使用する

このような状況では、Essbase は、@CALCMODE(BOTTOMUP)関数を提供して、BOTTOMUP で実行する疎の式の計算を適用します。

構成可能な計算(挿入ルール)の例を次に示します。各行は、行番号である#で示されています。

```
#1     FIX ("FCCS_Periodic", "FCCS_Entity Input", "Entity Currency",
        "FCCS_ClosingBalance_Input", "FCCS_Balance Sheet", "FCCS_Total Data
        Source")
#2     "FCCS_Income_Statement" (
#3     "FCCS_Movements"=@CURRMBR("Entity")->"FCCS_Contribution" ->
        "FCCS_Movements";
#4     )
#5     ENDFIX
```

このスクリプトの例では、ルールの検証プロセスによって次の警告が生成されます:

行 2: メンバー・ブロック FCCS\_Income\_Statement に対して@CALCMODE (BOTTOMUP)を使用します

詳細は、次のトピックを参照してください: [https://docs.oracle.com/cd/E57185\\_01/ESBTR/calcmode\\_func.html](https://docs.oracle.com/cd/E57185_01/ESBTR/calcmode_func.html)

### ハイブリッド BSO に関する Calc Manager のスクリプト検証

ハイブリッド Financial Consolidation and Close アプリケーションについては、最適なパフォーマンスを得るために、適用可能な場合は HYBRIDBSOINCALCSCRIPT NONE/FULL を設定することをお勧めします。

デフォルトでは、構成可能な計算(挿入ルール)については HYBRIDBSOINCALCSCRIPT が FULL に設定され、オンデマンド・ルールについては HYBRIDBSOINCALCSCRIPT が NONE に設定されています。

ルールの検証プロセスでは、「動的計算」ストレージ・タイプを持つ CustomTop デイメンション・メンバーがスクリプトに含まれているかどうかチェックされます。

- 式に含まれている CustomTop メンバーが 0 または 1 つである場合は、HYBRIDBSOINCALCSCRIPT を NONE に設定するよう警告が表示されます (FULL に設定されている場合)。
- 式に含まれている CustomTop メンバーが 2 つ以上である場合は、HYBRIDBSOINCALCSCRIPT を FULL に設定するよう警告が表示されます (NONE に設定されている場合)。

オンデマンド・ルールの例を次に示します。各行は、行番号である#で示されています。

```
#1 FIX ("FCCS_Periodic", "FCCS_No Intercompany", "No Product",
        "FCCS_Mvmts_NetIncome", @RELATIVE("AllDepts", 0), "No Department")
#2     FIX (@RELATIVE("TotalHFM", 0))
#3     "StkCmpRev_CE" = -("555011_CE"->"FCCS_YTD"-
>"FCCS_Intercompany Top") - ("555012_CE"->"FCCS_YTD"-
>"FCC_Intercompany Top");
```

```
#4 ENDFIX
#5 ENDFIX
```

このスクリプトの例では、ルールの検証プロセスによって次の警告が生成されます:

行 3: SET HYBRIDBSOINCALCSCRIPT NONE を使用してこのブロックに対するハイブリッド計算を無効化してください。

詳細は、次のトピックを参照してください: <https://docs.oracle.com/en/cloud/paas/analytics-cloud/tress/hybridbsoincalcscrip.html>。

### @CALCMODE (BLOCK)に関する Calc Manager のスクリプト検証

この特定のユース・ケースについては、Financial Consolidation and Close では、パフォーマンスを向上させるために、適用可能な場合は@CalcMode (BLOCK)を追加することをお勧めします。

@CalcMode (BLOCK)の詳細は、次のトピックを参照してください: [https://docs.oracle.com/cd/E57185\\_01/ESBTR/calcmode\\_func.html](https://docs.oracle.com/cd/E57185_01/ESBTR/calcmode_func.html)。

DSO アプリケーションと DSO 以外のアプリケーションの両方についてアンカー・ブロック内に@CALCMODE(BLOCK)が必要であるかどうかを特定するために、ルールの検証プロセスでは次の条件がチェックされます:

- アンカー・ブロックの式が複雑であるかどうか
- 式に特定の関数(@ANCEST、@CURRMBR、密メンバーに対する@ISMBR、@MDANCESTVAL、@MDPARENTVAL、@MDSHIFT、@NEXT、@PARENT、@PARENTVAL、@PRIOR、@SANCESTVAL、@SPARENTVAL、@SHIFT など)が含まれているかどうか

これらの条件を満たす場合、検証プロセスによって、行番号を含む警告が発行されます。

構成可能な計算(挿入ルール)の例を次に示します。各行は、行番号である#で示されています。

```
#1     FIX ("FCCS_Periodic", "FCCS_Entity Input", "Entity Currency",
"      "FCCS_ClosingBalance_Input", "FCCS_Balance Sheet", "FCCS_Total Data Source")
#2     "FCCS_Income_Statement" (
#3     "FCCS_Movements"=@CURRMBR("Entity")->"FCCS_Contribution" ->
"      "FCCS_Movements";
#4     )
#5     ENDFIX
```

このスクリプトの例では、ルールの検証プロセスによって次の警告が生成されます:

行 2: メンバー・ブロック FCCS\_Income\_Statement に対して@CALCMODE (BLOCK)を使用します。

## 増減の計算(期末残高入力から)

増減の計算ルールはオプションで、増減および勘定科目ディメンション設定に基づいています。

レベル 0 の増減ディメンション・メンバーは、1 つ以上の勘定科目について計算された増減メンバーとして使用するように構成できます。その後、期末残高入力金額に基づいて現在の期間の増減を計算するように勘定科目を構成できます。計算された増減金額は、その勘定科目



の特定の増減に転記されます。計算された増減メンバーが個々のレベル 0 勘定科目に割り当てられていない場合は常に、デフォルトの増減を適用できます

ルールでは、期末残高入力金額と、勘定科目にすでに転記されているその他の増減データを現在の期間の期首残高に加えた合計との差異が計算されます。計算された差異は、勘定科目の指定された増減メンバーに転記されます。システム・ルールに従って転記されたデータは、ユーザーが入力した場合と同様に扱われることに注意してください。後続のデータ入力が増減メンバーに移入される場合、計算されたメンバーは、このルールが再実行されるまでリセットまたは再計算されません。ルールが 1 回実行された後、勘定科目の指定された増減がメタデータのメンテナンスを介して変更された場合、当初計算された金額は、ルールが再実行された場合もクリアされず、ユーザーがデータを入力した場合と同様にその値が保持されます。

増減の計算システム・ルールは、「**連結: プロセス**」画面の「**現地通貨**」タブからいつでも有効または無効にできます。ルールの有効化または無効化は、「**現地通貨**」タブでのみ編集できます。「**現地通貨**」でルールが有効化されると、「**換算**」タブの「**親入力**」、および「**連結**」タブの「**コントリビューション入力**」も有効化されます。「**現地通貨**」タブで無効化されると、すべてのタブのすべての入力メンバーが無効化されます。

親入力をアプリケーション作成または「機能を使用可能にする」から有効化した場合、増減の計算ルールは「**換算**」タブのみに表示されます。コントリビューション入力を有効化した場合は、「**連結**」のみに表示されます。

増減の計算システム・ルールを有効化するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**連結**」をクリックします。
2. 「**連結: プロセス**」タブが選択されていない場合は選択します。
3. 期末残高入力エントリから増減を計算するには:
  - a. 「**現地通貨**」タブを選択します。
  - b. 「**増減の計算**」ルールを選択します。
  - c. 右パネルから、「**使用可能**」を「**はい**」に変更します。

代替変数を使用して、「増減の計算」システム・ルールの順序を制御できます。CalcMvmtsPostFCCS10 代替変数を追加し、値を **True** に設定すると、**FCCS\_10** ルールの後に「増減の計算」ルールが実行されます。この代替変数が存在しない場合、または存在するが **True** に設定されていない場合、**FCCS\_10** ルールの前に「増減の計算」システム・ルールが実行されます。

増減および勘定科目のメタデータ設定の構成方法の詳細は、[勘定科目プロパティの定義](#)および[勘定属性の値の設定](#)を参照してください。

### ノート:

勘定科目の期末残高入力/定期的で転記された仕訳の転記を戻すことを選択した場合、この時点でデフォルトの増減計算が自動的に再計算されることはありません。

それが同じ視点(勘定科目、データ・ソース、会社間、エンティティ、カスタム、連結)の期末残高入力メンバーに影響する唯一の仕訳である場合は、作成された同じ POV のデフォルトの増減のデータをクリアするために修正仕訳が必要になります。これを行うには、次のようにします:

1. 対応する勘定科目タイプに適切な借方および貸方を使用して、デフォルトの増減にある逆仕訳の値を含む修正仕訳を作成します。
2. この修正を持つ仕訳を転記します。これで、デフォルトの増減メンバーのデータがクリアされます。

増減の計算ルールについてさらに学習するには、次のビデオをご覧ください:



期末残高入力からの増減の計算

## エクイティ・ピックアップの概要

### 背景

法的エンティティは次のように定義できます。

法律の観点から法的地位のある協会、法人、パートナーシップ、事業体、信託または個人。法的エンティティは、契約を締結し、義務、責務および債務を負い、独立して原告または被告となり、その行為に対して責任を負う法的能力を有します。

有限会社(LC)は、会社の株主が負う責任の量を制限する設立の形です。公開有限会社(PLC)は、証券が証券取引所で取引され、誰でも売買可能な会社です。

ほとんどの大企業は、法人事業を設立するために年月を経て集結された多くの会社で構成されます。これらの会社の事業結合は、会社間で所有権を共有することで実行されます。

各会社は、事業を行う管轄の要件に従って財務諸表を報告する必要があります。たとえば、英国で設立されたすべての有限会社は、有限会社の登録を担当する政府組織である企業登記局(Companies House)に報告する必要があります。また、公開有限会社は、登録されている証券取引所の要件に従って報告する必要があります。これらの公開有限会社は、個々の会社のみでなく、所有権の持分を取得している会社の連結業績も報告する必要があります。

他の会社の株式を所有している会社は、持株会社と呼ばれます。この持株会社は、別の会社のすべての株式、多くの株式または若干の株式を直接所有する場合があります。持株会社は、別の会社の株式を所有する会社の株式を所有して、間接的な所有権が生じる場合もあります。持株会社が被所有会社を管理する程度によって、連結結果を表す際に持株会社の結果をどのように組み合わせるかが決まります。

一般的に、持株会社が他の会社の議決権株式の 50%を超えて所有している場合、その被所有会社は持株会社によって支配されます。持株会社が別の会社の議決権株式の 20%を超えて 50%未満で所有している場合、持株会社は、被所有会社に対して多大な影響力があるとみなされますが、支配権はありません。持株会社が別の会社の議決権株式の最大 20%を所有している場合、持株会社は、被所有会社に対して多大な影響力も支配権もないとみなされます。



法的会社は、現地の規制で義務付けられている場合を除き、通常は原価法を使用して他の法的会社への投資を記録します。原価法の会計では、持株会社によって株式購入が買収日の初期費用で記録され、通常は処分されるまで変更のないままとなります。株式が売却されると、投資の損益が適切に記録されます。もう 1 つの投資会計処理方法は持分法です。持分法では、取得時に記録された初期費用が、被投資会社によって記録された損益に対する持株会社の持分に基づいて定期的に調整されます。

法的会社による報告に適用される場合、この会計処理方法はエクイティ・ピックアップ(EPU)と呼ばれ、資本連結メソッドと区別されます。エクイティ・ピックアップは、法的会社によって実施され、法的会社の記録に登録された投資に適用されます。資本連結メソッドは、法的会社が直接的または間接的に所有権を取得している会社からデータを集計し、連結結果を報告する際に使用されます。エクイティ・ピックアップ会計および資本連結メソッドの背景にある原則は基本的に同じですが、異なる状況下で適用されます(法的会社の結果と連結された結果)。

エクイティ・ピックアップの結果を記録するために、その期間の資本の変化に対する持株会社の持分(通常は、公表された配当額から持株会社の持分を差し引いた、被所有会社の損益)が収益として、および関連会社の投資価値の対応する増加として、持株会社の会計レコードに記録されます。間接的な被所有会社の持分については、被所有会社の報告された収益に、その会社が所有するすべての会社の持分利益がすでに記録されていることによって記録されます。

複雑なマルチレベルの所有権階層では、正しい結果を得るために、一連の固有のエクイティ・ピックアップ計算が必要です。たとえば、会社 A が会社 B の株式を所有し、会社 B が会社 C の株式を所有している場合は、会社 B に適用される利益および投資の調整が、その後で会社 A に正確に反映されるように、会社 B のエクイティ・ピックアップを計算してから会社 A のエクイティ・ピックアップを計算する必要があります。

### 前提条件

Financial Consolidation and Close のエクイティ・ピックアップ機能は、次の構成設定および要件に基づいています。

- エンティティ・ディメンション階層は、持株会社と EPU 適用対象会社との間の直接的な所有権関係を正確に表します。
- エンティティ・ディメンションのエンティティは、法的会社として識別されます。
- 各親エンティティの下には持株メソッド会社が 1 つのみ存在し、持株会社と親エンティティのエンティティ通貨は同じ通貨です。
- 持株会社ごとに報告された EPU を、持株会社に直接的または間接的な所有権持分がある各法的会社で識別する場合は、次のようになります。

エンティティ・ディメンションのすべての法的会社は、エンティティ・ディメンションで「会社間」のフラグを設定し、会社間ディメンションでレベル 0 エンティティとして存在する必要があります

- 持株会社ごとに報告された EPU が、持株会社に直接的な所有権持分のみがあり、間接的な所有権が中間の直接的な被所有持株会社内にグループ化されている状態で、各法的会社によって識別される場合は、次のようになります。

エンティティ・ディメンションのすべての法的会社およびすべての親エンティティは、エンティティ・ディメンションで「会社間」として指定し、会社間ディメンションでレベル 0 エンティティとして存在する必要があります。

次のトピックを参照してください。

- [エクイティ・ピックアップの有効化](#)

- エクイティ・ピックアップ処理

エクイティ・ピックアップに関する詳細は、次のビデオを参照してください:



エクイティ・ピックアップ

## エクイティ・ピックアップの有効化

エクイティ・ピックアップ機能を使用するには、次のいずれかの方法で機能を有効にしておく必要があります。

- アプリケーションの作成。 [アプリケーションの作成](#)を参照してください。

**Create Application: Features**

< Back      General      Details      **Features**      Review      Next >

FCPS provides a centralized monitoring of all close process tasks by defining your Close Calendar activities for the period. You can enable the Consolidation feature to calculate and aggregate data throughout the organization. Additionally you can enable Supplemental Data collection feature to organize and manage the additional transaction details.

**Consolidation** Enabled

When Consolidation is enabled, you can calculate and adjust data, perform currency translation and run consolidation rules. You can select to enable the features applicable for your application.

<b>Balance Sheet Hierarchy</b>	<input checked="" type="radio"/> Traditional Balance Sheet Approach <input type="radio"/> Net Asset Approach	<b>Journal Adjustments</b>	<input checked="" type="radio"/> Yes, with Workflow <input type="radio"/> Yes, without Workflow <input type="radio"/> No
<b>Multi-GAAP</b>	<input type="radio"/> Yes, with Manual Adjustments <input type="radio"/> Yes, with Calculated Adjustments <input checked="" type="radio"/> No	<b>Intercompany Data</b>	<input checked="" type="radio"/> Yes, with Tracking <input type="radio"/> Yes, without Tracking <input type="radio"/> No
<b>CTA Account</b>	<input checked="" type="radio"/> Balance Sheet <input type="radio"/> Comprehensive Income	<b>Include Ratio Calculations</b>	<input type="checkbox"/> Liquidity Ratio <input type="checkbox"/> Asset Management Ratio <input type="checkbox"/> Profitability Ratio <input type="checkbox"/> Leverage Ratio
<b>Local GAAP</b>	<input checked="" type="radio"/> CTA (Balance Sheet) <input type="radio"/> CICTA (Comprehensive Income)	<b>Ownership Management</b>	<input type="radio"/> Yes, with Equity Pick-up <input type="radio"/> Yes, without Equity Pick-up <input checked="" type="radio"/> No
<b>Custom Dimensions</b>	<input type="checkbox"/> Dimension 1 <input type="text" value="Enter Name"/> <input type="checkbox"/> Dimension 2 <input type="text" value="Enter Name"/>	<b>Other Options</b>	<input type="checkbox"/> Include Other Data Member

- アプリケーション作成後の有効化画面から。 [アプリケーションの機能の有効化](#)を参照してください。

**Consolidation - Enable Features**

Consolidation

Multi-GAAP Reporting

Enter Adjustment  
 Calculate Adjustment

**CTA Account**  
 Balance Sheet  
 Comprehensive Income

**Local GAAP**  
 CTA (Balance Sheet)  
 CICTA (Comprehensive Income)

Intercompany Data

Track Intercompany Elimination

Journal Adjustments

Journal Workflow

**Accounts Reporting**

Balance Sheet Hierarchy  
 Traditional Balance Sheet Approach  
 Net Asset Approach

**Include Ratio Calculations**  
 Liquidity Ratio  
 Asset Management Ratio  
 Profitability Ratio  
 Leverage Ratio

Ownership Management

Equity PickUp

Track Multi-Source Data Input

**ノート:**

「エクイティ・ピックアップ」を有効にできるのは、「出資比率の管理」機能が有効になっている場合のみです。

**エクイティ・ピックアップのメタデータ変更**

エクイティ・ピックアップを有効にすると、必要なメタデータが作成されます。有効にすると、シードされたエクイティ・ピックアップ・メタデータはその後削除できません。

- エクイティ・ピックアップ・メタデータ:
  - エクイティ・ピックアップ損益計算書および貸借対照表の勘定科目
  - エクイティ・ピックアップ・ソース勘定科目(メモ勘定科目)
  - エクイティ・ピックアップ・データ・ソース・メンバー
- 勘定科目:

Member Name	Parent Member	Default Data Storage	Consolid Data Storage	Rates Data Storage	Data Type	Consolid Consol op.	Rates Consol op.	Two Pass Calculation	Smart Lists	Account Type	Variance Reporting	Time Balance
FCCS_Total Pre Tax Income	FCCS_Continuing Operat	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Currency	Addition	Not used for Cube	No	<None>	Revenue	Non-Expense	Flow
FCCS_Operating Income	FCCS_Total Pre Tax Inco	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Currency	Addition	Not used for Cube	No	<None>	Revenue	Non-Expense	Flow
FCCS_Other Income Expense	FCCS_Total Pre Tax Inco	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Currency	Addition	Not used for Cube	No	<None>	Revenue	Non-Expense	Flow
FCCS_Equity Company Income	FCCS_Other Income Exp	Store	Store	Store	Currency	Addition	Not used for Cube	No	<None>	Revenue	Non-Expense	Flow
Dividends from Subsidiaries	FCCS_Other Income Exp	Never Share	Never Share	Never Share	Currency	Addition	Not used for Cube	No	<None>	Revenue	Non-Expense	Flow
Interest Income	FCCS_Other Income Exp	Never Share	Never Share	Never Share	Currency	Addition	Not used for Cube	No	<None>	Revenue	Non-Expense	Flow

Member Name	Parent Member	Default Data Storage	Consolid Data Storage	Rates Data Storage	Data Type	Consolid Consol op.	Rates Consol op.	Two Pass Calculation	Smart Lists	Account Type	Variance Reporting
FCCS_Intangible Assets	FCCS_Long Term Assets	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Currency	Addition	Not used for Cube	No	<None>	Asset	Non-Expense
FCCS_Fixed Assets	FCCS_Long Term Assets	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Currency	Addition	Not used for Cube	No	<None>	Asset	Non-Expense
FCCS_Investment in Equity Companies	FCCS_Long Term Assets	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Currency	Addition	Not used for Cube	No	<None>	Asset	Non-Expense
FCCS_Investment in Equity Companies Investment	FCCS_Investment in Equi	Store	Store	Store	Currency	Addition	Not used for Cube	No	<None>	Asset	Non-Expense
FCCS_Investment in Equity Companies Equity Pickup	FCCS_Investment in Equi	Store	Store	Store	Currency	Addition	Not used for Cube	No	<None>	Asset	Non-Expense
FCCS_Investment in Equity Companies Income	FCCS_Investment in Equi	Store	Store	Store	Currency	Addition	Not used for Cube	No	<None>	Asset	Non-Expense

Member Name	Parent Member	Default Data Storage	Consolid Data Storage	Rates Data Storage	Data Type	Consolid Consol op.	Rates Consol op.	Two Pass Calculation	Smart Lists	Account Type	Variance Reporting	Time Balance	Exchange Rate Type
FCCS_Balance Sheet	Account	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Currency	Ignore	Not used for Cube	No	<None>	Asset	Non-Expense	Flow	No Rate
FCCS_Total Balance Sheet-Net Asset Ap	FCCS_Balance Sheet	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Currency	Addition	Not used for Cube	No	<None>	Asset	Non-Expense	Flow	No Rate
FCCS_Total Balance Sheet-Cash and Nor	FCCS_Balance Sheet	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Currency	Ignore	Not used for Cube	No	<None>	Asset	Non-Expense	Flow	No Rate
FCCS_EPU Source	FCCS_Balance Sheet	Store	Store	Store	Currency	Ignore	Not used for Cube	No	<None>	Equity	Non-Expense	Balance	No Rate
FCCS_Income Statement	Account	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Currency	Ignore	Not used for Cube	No	<None>	Revenue	Non-Expense	Flow	No Rate

データ・ソース:

Member Name	Parent Member	Default Data Storage	Consolid Data Storage	Rates Data Storage	Data Type	Consolid Consol op.	Two Pass Calculation	Smart Lists	Default Alias Table	en_PFR Alias Table	Description	UDA
FCCS_TotalInputAndAdjusted	FCCS_Total Data Source	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Dynamic Calc	Unspecified	Addition	No	<None>	Total Input And Adjusted			
FCCS_Data Input	FCCS_TotalInputAndAdjusted	Store	Store	Store	Unspecified	Addition	No	<None>	Data Input			
FCCS_Managed Data	FCCS_TotalInputAndAdjusted	Store	Store	Store	Unspecified	Addition	No	<None>	Managed Data			
FCCS_Supplemental Data ¶	FCCS_TotalInputAndAdjusted	Store	Store	Store	Unspecified	Addition	No	<None>	Supplemental Data			
FCCS_Other Data	FCCS_TotalInputAndAdjusted	Store	Store	Store	Unspecified	Addition	No	<None>	Other Data			
FCCS_Journal Input ¶	FCCS_TotalInputAndAdjusted	Store	Store	Store	Unspecified	Addition	No	<None>	Journal Input			
FCCS_EPU	FCCS_TotalInputAndAdjusted	Store	Store	Store	Unspecified	Addition	No	<None>	EPU			

- 「連結: プロセス」画面の「現地通貨」タブに EPU システム計算ルールが追加されます。
- シード済の構成可能な連結ルールセットが追加されます。
- EPU を最初に有効にしたときは、ルールの計算設定が「はい」(アクティブ)になります。エクイティ・ピックアップ計算設定を「いいえ」(非アクティブ)に変更すると、アプリケーションは非 EPU 動作に戻ります。

**General**

Name : Equity Pickup

Type : System Calculation

---

**Applicable Consolidation Members**

Entity Input

---

**Calculation Settings**

Equity Pickup sequence and calculation Yes

---

**Equity Pickup Accounts and Movements** + -

Default Accounts and Movements ✕

Source Collection Account	FCCS_EPU Source
Account 1	FCCS_Equity Company Income
Account 1 Movement	FCCS_Mvmts_NetIncome
Account 2	FCCS_Investment In Equity ...
Account 2 Movement	FCCS_Mvmts_NetIncome

## 勘定科目と増減の設定

有効にすると、「**デフォルトの勘定科目と増減**」という名前の単一の EPU システム・ルールセット構成が作成されます。このルールセットには次のものが含まれます:

- ソース収集勘定科目: FCCS\_EPUSource
- 勘定科目 1: FCCS\_Equity Company Income
- 勘定科目 1 の増減: FCCS\_Mvmts\_NetIncome
- 勘定科目 2: FCCS\_Investment in Equity Companies EPU
- 勘定科目 2 の増減: FCCS\_Mvmts\_NetIncome

5 つのメタデータ・メンバー・エントリはすべて、デフォルト・エントリから変更できます。選択された勘定科目はすべて、非動的なレベル 0 の通貨タイプ勘定科目である必要があります。勘定科目 1 と勘定科目 2 を同じ勘定科目にすることはできません。増減メンバーの両方がレベル 0 で、かつ FCCS\_Mvmts\_Subtotal の子孫である必要があります。

エントリを変更したら、「**保存**」アイコンをクリックします。

デフォルトのルールセット構成の変更に加えて、システム・ルールセット構成を追加することもできます。ルールセットを追加するには、「**追加 (+)**」アイコンをクリックします。

ルールセット名を入力します。これは、他のすべての EPU システム・ルールセット名と異なっている必要があります。

「**ソース収集勘定科目**」を選択します。これは、他のシステム・ルールの設定と同じソース収集勘定科目でもかまいません。

2 つ目のシステム・ルールセット構成について 2 つの勘定科目と 2 つの増減メンバーを選択します。それぞれの追加ルールセットで同じ勘定科目および増減を使用できますが、それぞれのルールセットで勘定科目 1 と勘定科目 2 は異なる勘定科目である必要があります。

変更を加えた後は、ルールセットを必ず保存してください。

ルールセットを削除するには、ルールセット名の右側にある「**X**」アイコンを選択します。

**General**

Name : Equity Pickup  
Type : System Calculation

---

**Applicable Consolidation Members**

Entity Input

---

**Calculation Settings**

Equity Pickup sequence and calculation Yes

**Equity Pickup Accounts and Movements** + [Save]

Default Accounts and Movements ✕

Source Collection Account	FCCS_EPUSource
Account 1	EPU Liability Account
Account 1 Movement	FCCS_Mvmts_OtherCurrentLia...
Account 2	EPU Asset Account
Account 2 Movement	FCCS_Mvmts_OtherCurrentAss...

---

**User Created EPU 1** ✕

Source Collection Account	FCCS_EPUSource
Account 1	EPU Expense Account
Account 1 Movement	FCCS_Mvmts_NetIncome
Account 2	EPU Revenue Account
Account 2 Movement	FCCS_Mvmts_NetIncome

## 構成可能な連結ルール

Rule Name	Effective Date	Created By	Status
EPU - Prepare Source Data Prepare Equity Pickup source data	3/21/2019	epm_default_cloud_admin	...
EPU - Consolidate EPU Source Data Consolidate EPU Source Data at Ownership %	3/21/2019	epm_default_cloud_admin	...
EPU - Reverse Holding Company Data Reverse Holding Company EPU data	3/13/2019	epm_default_cloud_admin	...
EPU - Consolidate EPU Source Data Indirect Grouping Consolidate EPU Source Data at Ownership %	3/21/2019	epm_default_cloud_admin	...

## エクイティ・ピックアップの連結ルール

デプロイされた連結ルールセットにより、次のことが決まります。

- 各持株会社に転記された EPU 結果の生成に使用されるソース・データ・セット
- EPU 結果の識別方法(直接的または間接的な被所有会社すべてが個別に識別されるか、間接的被所有会社が直接的被所有会社内にグループ化されるか)
- EPU 結果を、ユーザーが作成した各カスタム・ディメンション(ある場合)の単一メンバーに転記するか、レベル 0 のメンバーごとに転記するか

シードされた 4 つの連結ルールセットには、次のオプションが用意されています。

## EPU – データ・ソースの準備

### EPU – Prepare Source Data (Rule-set)

<b>Condition:</b>	Entity Ownership % <> 0
<b>Factor:</b>	Current   Entity Ownership %
<b>Dimension</b>	<b>Source POV</b>
Entity	#Legal Company#
Account	ILvl0Descendants("FCCS_Total Equity") Excluding: "FCCS_Equity Company Income"
Inter-company	ILvl0Descendants("FCCS_Intercompany Top")
Movement	ILvl0Descendants("FCCS_ClosingBalance") Excluding "FCCS_OpeningBalance"
Data Source	ILvl0Descendants("FCCS_Total Data Source")
<custom dimension>	ILvl0Descendants("Total <custom dimension>")

### EPU – Prepare Source Data – Gather Source Data (Rule)

<b>Condition:</b>	<i>inherited</i>	
<b>Factor:</b>	<i>inherited</i>	
<b>Processing Option:</b>	Add	
<b>Dimension</b>	<b>Source POV</b>	<b>Redirect Target Member</b>
Entity	<i>inherited</i>	
Account	<i>inherited</i>	"FCCS_EPUSource"
Inter-company	<i>inherited</i>	#Source POV Entity#
Movement	<i>inherited</i>	"FCCS_No Movement"
Data Source	<i>inherited</i>	"FCCS_EPU"
<custom dimension>	<i>inherited</i>	"No <custom dimension>"

このシード済ルールセットは、資本会社利益を除く資本合計について被所有会社からソース・データを収集します。

その後のレポート作成のために、クライアントが作成した各カスタム・ディメンションについて、レベル 0 のデータすべてを<カスタム>がない単一のメンバーに結合します。

必要に応じて、このルールセットをコピーし、コピーを変更してデプロイできます(ルールセットのコピーおよび変更の詳細は、[連結ルールセットおよびルールの管理](#)を参照してください)。たとえば、アプリケーション固有のカスタム・ディメンションのレベル 0 メンバーすべてのデータを個別にレポートする場合は、コピーされたルールセットの範囲からそのディメンションを削除する必要があります。EPU データは、単一のメンバーにグループ化されるのではなく、そのディメンションのメンバーごとに処理されることになります。これはアプリケーションのパフォーマンスに影響する可能性があることに注意してください。

デフォルトの EPU システム・ルールセットが変更されている場合、または EPU システム・ルールセットが追加されている場合は、それぞれの一意のソース収集勘定科目についてデプロイされたデータ・ソースの準備連結ルールセットが 1 つずつ必要です。それぞれのデータ・ソースの準備ルールで、ソース収集勘定科目を勘定科目ディメンションのリダイレクション・ターゲット・メンバー・フィールドとして指定します。



追加の連結ルールセットを作成するには、シード済ルールセット(およびルール)をコピーし、新しいルールセット/ルールを変更します。シード済ルールセットを変更することはできませんが、新しいルールセットに置き換えた場合はデプロイ解除できます。

### EPU – EPU ソース・データの連結

#### EPU – Consolidate EPU Source Data (Rule-set)

<b>Condition:</b>	Entity Ownership % <> 0
<b>Factor:</b>	None
<b>Dimension</b>	<b>Source POV</b>
Account	"FCCS_EPUSource"
Movement	"FCCS_No Movement"
Data Source	"FCCS_EPU"

#### EPU – Consolidate EPU Source Data – Reverse Proportionalize (Rule)

<b>Condition:</b>	<i>inherited</i>
<b>Factor:</b>	Current   Entity Consolidation %
<b>Processing Option:</b>	Subtract
<b>Dimension</b>	<b>Source POV</b> <b>Redirect Target Member</b>
Account	<i>inherited</i>
Movement	<i>inherited</i>
Data Source	<i>inherited</i>

#### EPU – Consolidate EPU Source Data – Consolidate at Ownership % (Rule)

<b>Condition:</b>	<i>inherited</i>
<b>Factor:</b>	Current   Entity Ownership %
<b>Processing Option:</b>	Add
<b>Dimension</b>	<b>Source POV</b> <b>Redirect Target Member</b>
Account	<i>inherited</i>
Movement	<i>inherited</i>
Data Source	<i>inherited</i>

このシード済ルールセットは、出資比率%で最初のルールセットによって初期収集されたソース・データを連結し、データの導出元である直接的または間接的な被所有法的会社を識別します

ソース法的会社は、データ連結時に使用される会社間メンバーによって識別されます。

したがって、一致する基本メンバーが会社間ディメンションで作成されるように、すべての法的会社はエンティティ・ディメンションで **ICP\_Entity\_Yes** と識別される必要があることに注意してください。

デフォルトの EPU システム・ルールセットが変更されている場合、または EPU システム・ルールセットが追加されている場合は、それぞれの一意のソース収集勘定科目についてデプロイされた EPU ソース・データの連結連結ルールセットが 1 つずつ必要です。それぞれの EPU ソース・データの連結ルールセットで、勘定科目、増減およびデータ・ソース・メンバーのソース POV は、一致するデータ・ソースの準備ルールセットでリダイレクション・ターゲット・メンバー・フィールドとして指定したものと同一である必要があります。



追加の連結ルールセットを作成するには、シード済ルールセット(およびルール)をコピーし、新しいルールセット/ルールを変更します。シード済ルールセットを変更することはできませんが、新しいルールセットに置き換えた場合はデプロイ解除できます。

### EPU – EPU ソース・データ間接グループの連結

EPU – Consolidate EPU Source Data Indirect Grouping		(Rule-set)
Condition:	Entity Ownership % <> 0	
Factor:	None	
Dimension	Source POV	
Account	"FCCS_EPUSource"	
Inter-company	ILvl0Descendants("FCCS_Intercompany Top")	
Movement	"FCCS_No Movement"	
Data Source	"FCCS_EPU"	

EPU – Consolidate EPU Source Data Indirect Grouping – Reverse Proportionalize			(Rule)
Condition:	<i>inherited</i>		
Factor:	Current   Entity Consolidation %		
Processing Option:	Subtract		
Dimension	Source POV	Redirect Target Member	
Account	<i>inherited</i>		
Inter-company	<i>inherited</i>		
Movement	<i>inherited</i>		
Data Source	<i>inherited</i>		

EPU – Consolidate EPU Source Data Indirect Grouping – Consolidate at Ownership %			(Rule)
Condition:	<i>inherited</i>		
Factor:	Current   Entity Ownership %		
Processing Option:	Add		
Dimension	Source POV	Redirect Target Member	
Account	<i>inherited</i>		
Inter-company	<i>inherited</i>	#Source POV Entity#	
Movement	<i>inherited</i>		
Data Source	<i>inherited</i>		

このシード済ルールセットは、出資比率%で最初のルールセットによって初期収集されたソース・データを連結し、データの導出元である直接的な被所有法的会社を識別します。

ソース法的会社は、データ連結時に使用される会社間メンバーによって識別されます。

したがって、一致する基本メンバーが会社間ディメンションで作成されるように、すべての法的会社およびすべての親エンティティはエンティティ・ディメンションで **IC\_Entity\_Yes** と識別される必要があることに注意してください。

デフォルトの EPU システム・ルールセットが変更されている場合、または EPU システム・ルールセットが追加されている場合は、それぞれの一意的ソース収集勘定科目についてデプロイされた EPU ソース・データの連結連結ルールセットが 1 つずつ必要です。それぞれの EPU ソース・データの連結ルールセットで、勘定科目、増減およびデータ・ソース・メンバーのソース POV は、一致するデータ・ソースの準備ルールセ

ットでリダイレクション・ターゲット・メンバー・フィールドとして指定したものと同じである必要があります。

追加の連結ルールセットを作成するには、シード済ルールセット(およびルール)をコピーし、新しいルールセット/ルールを変更します。シード済ルールセットを変更することはできませんが、新しいルールセットに置き換えた場合はデプロイ解除できます。

EPU – EPU ソース・データの連結ルールセットまたは EPU – EPU ソース・データ間接グループの連結ルールセットは、両方ではなく、いずれか一方をデプロイする必要があります。

## EPU – 持株会社データの逆仕訳

### EPU – Reverse Holding Company data (Rule-set)

Condition:	Entity Current Method = Holding
Factor:	Specific   100%
Dimension	Source POV
Entity	#Legal Company#
Account	"FCCS_Investment In Equity Companies Equity Pickup"
	"FCCS_Equity Company Income"
Data Source	"FCCS_EPU"

### EPU – Reverse Holding Company data – Reverse Proportionalize (Rule)

Condition:	<i>inherited</i>
Factor:	<i>inherited</i>
Processing Option:	Subtract
Dimension	Source POV      Redirect Target Member
Account	<i>inherited</i>
Inter-company	<i>inherited</i>
Data Source	<i>inherited</i>

このルールセットは、親会社への連結時に持株会社に転記されたエクイティ・ピックアップ結果を逆仕訳します。

親メンバーは持株会社の連結結果を表します。子会社の投資は、法的(持株)会社の結果で使用されるものとは異なる方法および計算によって連結財務諸表に記録されます。

持株会社データの逆仕訳ルールセットは、システム・ルールがデータを書き込んだ増減に適用されます。

デフォルトの EPU システム・ルールセットが変更されている場合、または EPU システム・ルールセットが追加されている場合は、デプロイされた持株会社データの逆仕訳連結ルールセットにシステム・ルールセットのそれぞれの勘定科目 1 および勘定科目 2 エントリが含まれている必要があります。

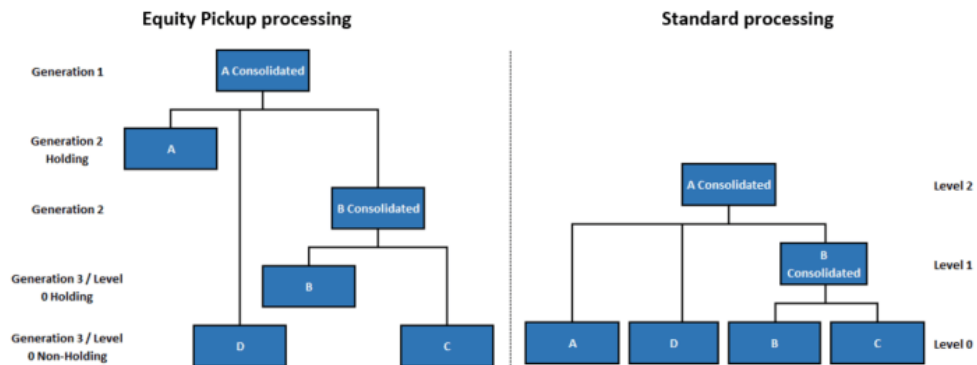
用意されている 4 つのシードされた連結ルールセットのうち 3 つは、エクイティ・ピックアップが最初に有効になったときにデプロイされます。エクイティ・ピックアップ計算設定を「はい」から「いいえ」に変更した場合は、システム管理者が EPU ルールセットのデプロイを解除する必要があります。計算設定を「いいえ」から「はい」に変更した場合は、システム管理者が、必要な(シードされている、またはコピーして変更した)ルールセットをデプロイする必要があります。

## エクイティ・ピックアップ処理

通常の連結プロセスでは、エンティティの計算は、エンティティ階層の最下位レベルから開始するボトムアップのレベル別アプローチに基づいています。計算されるエンティティの最初のグループは、基本(レベル 0)メンバー(子がないエンティティ)すべてが対象です。次に処理されるグループは、レベル 1 の親エンティティ (下に 1 レベルを超える子孫がないエンティティ)です。次はレベル 2 の親です(以降同様に続く)。このプロセスによって、親エンティティのすべての子はその親エンティティより前に処理されます。

正しいエクイティ・ピックアップ計算に必要な一連の処理は、レベルではなくボトムアップの世代別アプローチに基づいています。最上位メンバーは世代 0 で、その後の下に向かう各ステップで世代が増加します。このアプローチでは、各持株会社は、兄弟が親であるか基本メンバーであるかに関係なく、その兄弟と同じ世代になります。レベル 0 の非持株エンティティが最初に処理されます。次に、最上位世代の持株会社が処理され、その後、最上位世代の親エンティティ、次の最上位世代の持株会社エンティティ、次の最上位世代の親エンティティが続きます(以降同様に続く)。

次の図は、非常に単純な階層で処理の違いを示しています(法的会社 A は法的会社 B と D を所有し、法的会社 B は法的会社 C を所有しています)。エクイティ・ピックアップはボトムアップで世代ごとに処理されます。標準的な順序では、ボトムアップでレベルごとに処理されます。



### 処理の範囲内にあるエンティティ

連結では、処理の範囲内にあるエンティティを判断する際に、各エンティティの計算ステータスが考慮されます。エンティティが影響を受ける場合は、影響を引き起こした変更を考慮に入れるために、そのエンティティを再計算する必要があります。さらに、結果が依存しているエンティティの再計算に起因して結果を再計算する必要があります。そのため、エンティティのすべての祖先も影響を受けます。同様に、同じシナリオのその後の期間も影響を受けます。

### 例 1 – エンティティ C へのデータ入力

標準の連結プロセスでは、前述の例のエンティティ C にデータが入力されると、エンティティ C、B 連結および A 連結が影響を受けます。連結に A 連結が選択されている場合は、3 つのエンティティ (C、B 連結および A 連結) がすべてレベル 0 からレベル 2 まで順番に再計算されます。

エクイティ・ピックアップ・プロセスでは、エンティティ C にデータが入力されると、エンティティ C、B 連結および A 連結がすべて影響を受けますが、さらに、エンティティ B および A のデータはエンティティ C から再計算されるデータに依存しているため、エンティティ B および A も再計算する必要があります。連結に A 連結が選択されている場合は、すべてのエンティティ (C、B、B 連結、A および A 連結) が世代 3 から世代 1 まで順番に再計算されます。

## 例 2 – エンティティ A およびエンティティ C へのデータ入力

標準の連結プロセスでは、前述の例のエンティティ A および C にデータが入力されると、エンティティ C、B 連結、A および A 連結が影響を受けます。連結に A が選択されている場合は、A のみが再計算されます。

エクイティ・ピックアップ・プロセスでは、エンティティ A および C にデータが入力されると、エンティティ C、B 連結、A および A 連結がすべて影響を受けますが、さらに、エンティティ B のデータはエンティティ C から再計算されるデータに依存しているため、エンティティ B も再計算する必要があります。連結に A 連結が選択されている場合は、A 連結を除くすべてのエンティティ (C、B、B 連結および A) が世代 3 から世代 2 持株まで順番に再計算されます。エンティティ A を連結すると、B 連結およびその影響を受けた子孫が連結プロセスのスコープに含まれます。

ただし、A にデータが入力されていない場合、A 自体は影響を受けないため、連結に A を選択しても連結は処理されません。この場合、すべてのエンティティを更新するには、例 1 に説明されているように、連結に A 連結を選択する必要があります。

## エクイティ・ピックアップの例の計算フローおよび必要な結果

エクイティ・ピックアップ計算の実行時にすでに兄弟ソース・エンティティ・データが確実に更新されているようにするには、所有権チェーンで決定された必要な順序でエンティティを計算する必要があります。

所有権チェーンの例を次に示します。

LE01 owns 100% of LE02 and 75% of LE06  
 LE02 owns 60% of LE03, 80% of LE04 and 40% of LE07  
 LE04 owns 75% of LE05  
 LE06 owns 40% of LE03

Parent / Child hierarchy:

CE01-EUR			
__	LE01-EUR	Holding company	100%
__	CE02-USD	Subsidiary method	100%
	__	LE02-USD	Holding company 100%
	__	LE03-CAD	Subsidiary method 60%
	__	LE07-CLP	Equity method 40%
	__	CE04-MXP	Subsidiary method 80%
		__	LE04-MXP Holding company 100%
		__	LE05-CLP Subsidiary method 75%
__	CE06-CHF	Subsidiary method	75%
	__	LE06-CHF	Holding company 100%
	__	LE03-CAD	Equity method 40%

Parent / Legal Entity hierarchies:

CE01-EUR				
__	LE01-EUR	Holding company	100%	
__	LE02-USD	Subsidiary method	100%	(100% of 100%)
__	LE03-CAD	Subsidiary method	90%	(100% of 60% + 75% of 40%)
__	LE04-MXP	Subsidiary method	80%	(100% of 80%)
__	LE05-CLP	Subsidiary method	60%	(100% of 80% of 75%)
__	LE06-CHF	Subsidiary method	75%	(75% of 100%)
__	LE07-CLP	Equity method	40%	(100% of 40%)
CE02-USD				
__	LE02-USD	Holding company	100%	
__	LE03-CAD	Subsidiary method	60%	
__	LE04-MXP	Subsidiary method	80%	
__	LE05-CLP	Subsidiary method	60%	(80% of 75%)
__	LE07-CLP	Equity method	40%	

CE04-MXP			
__ LE04-MXP	Holding company	100%	
__ LE05-CLP	Subsidiary method	75%	
CE06-CHF			
__ LE06-CHF	Holding company	100%	
__ LE03-CAD	Equity method	40%	

Based on the bottom-up generation sequence of processing, the entities will be consolidated as follows:

LE03-CAD, LE05-CLP, LE07-CLP	Level 0 / Generation 4 Non-Holding
LE04-MXP	Level 0 / Generation 4 Holding
CE04-MXP	Generation 3 parent Non-Holding
LE02-USD, LE06-CHF	Generation 3 Holding
CE02-USD, CE06-CHF	Generation 2 parent Non-holding
LE01-EUR	Generation 2 Holding
CE01-EUR	Generation 1

Exchange Rates:

USD	2.0 / EUR
CAD	4.0 / EUR
MXP	4.0 / EUR
CHF	2.0 / EUR
CLP	8.0 / EUR

Periodic Total Equity changes (before Equity Pickup):

LE01-EUR:	EUR	100.00	
LE02-USD:	USD	100.00	(EUR 50)
LE03-CAD:	CAD	180.00	(CHF 90.00, USD 90.00, EUR 45.00)
LE04-MXP:	MXP	100.00	(USD 50.00, EUR 25.00)
LE05-CLP:	CLP	80.00	(MXP 40.00, USD 20.00, EUR 10.00)
LE06-CHF:	CHF	80.00	(EUR 40.00)
LE07-CLP:	CLP	80.00	(USD 20.00, EUR 10.00)

Required Equity Pickup for each holding company:

LE01-EUR:			
LE02-USD:	EUR	50.00	(100% of EUR 50.00)
LE03-CAD:	EUR	40.50	(90% of EUR 45.00)
LE04-MXP:	EUR	20.00	(80% of EUR 25.00)
LE05-CLP:	EUR	6.00	(60% of EUR 10.00)
LE06-CHF:	EUR	30.00	(75% of EUR 40.00)
LE07-CLP:	EUR	4.00	(40% of EUR 10.00)
Total:	EUR	150.50	

LE02-USD:			
LE03-CAD:	USD	54.00	(60% of USD 90.00)
LE04-MXP:	USD	40.00	(80% of USD 50.00)
LE05-CLP:	USD	12.00	(60% of USD 20.00)
LE07-CLP:	USD	8.00	(40% of USD 20.00)
Total:	USD	114.00	

LE04-MXP:			
LE05-CLP:	MXP	30.00	(75% of MXP 40.00)
Total:	MXP	30.00	

LE06-CHF:			
LE03-CAD:	CHF	36.00	(40% of CHF 90.00)
Total:	CHF	36.00	

## オンデマンド・ルールの操作

オンデマンド・ルールは、連結プロセスの外部での計算に使用できるアドホック・ルールです。管理者は、他のユーザーがいつでも実行できるオンデマンド・ルールを作成できます。

起動権限を持っているユーザーは、データ・フォーム、Oracle Smart View for Office、データ・ロードの後処理、仕訳の転記、補足データの転記または「ルール」カードからオンデマンド・ルールを起動できます。オンデマンド・ルールは、連結プロセスから独立しているため、連結を起動する前に確認または調整できます。現在の計算ステータスとは無関係に計算を実行できます。

連結プロセスの外部でオンデマンド・ルールを使用することで、それらの計算を連結ごとに繰り返す必要がなくなるため、連結時間が短縮されます。たとえば、再分類や調整、または累計残高のロードと適切な増減メンバーへのリダイレクトは、1 回のみの実行で済む可能性のある計算です。連結プロセスが起動されるたびにこれらを計算する必要はありません。

計算を実行し、フォームでデータを表示しながら結果を確認できるように、データにオンデマンド・ルールを添付できます。この方法は、連結を実行して結果を表示するより高速です。

[オンデマンド・ルールの作成およびデータ・フォームへのオンデマンド・ルールの追加](#)を参照してください。

構成可能な計算ルールを使用して、カスタマイズされた計算を作成することもできます。[構成可能な計算の作成](#)を参照してください。

Calculation Manager で、Essbase スクリプト文を使用してオンデマンド・ルールと構成可能な計算ルールの両方を作成します。

- オンデマンド・ルールは、連結プロセスの外部で必要に応じて実行されます。
- 構成可能な計算ルールは、常に連結プロセスの一部として実行されます。

次の表に、オンデマンド・ルールと構成可能な計算の各機能を要約します。

機能の要約	オンデマンド・ルール	構成可能な計算
管理者が作成するルール・コンテンツ	はい	はい
作成するルール数の制限なし	はい	
常に連結プロセスの一部として実行		はい
必要に応じたスタンドアロン実行	はい	
既存の計算ステータスとは無関係な実行	はい	
データ・フォーム/Smart View/「ルール」カードからの起動	はい	
Calculation Manager のサポート	はい	はい
ほとんどの Essbase 関数のサポート	はい	はい



機能の要約	オンデマンド・ルール	構成可能な計算
親通貨に書込み可能		はい
消去連結メンバーに書込み可能		はい
会社間消去データ・ソース・メンバーに書込み可能		はい
ハウスキーピング・ロジック (SET、Block、Calc Dim) のユーザー処理	はい	
計算ステータスの更新	はい	はい
ルールの検証およびデプロイ	はい	はい
ルールのインポートおよびエクスポート	はい	はい
ルール書込みでの同じベスト・プラクティスへの準拠	はい	はい

## オンデマンド・ルールのガイドライン

オンデマンド・ルールは、**Calculation Manager** を使用して作成します。

テンプレートは、ルール内でドラッグ・アンド・ドロップできます。テンプレートを使用しているルールをデプロイすることはできますが、テンプレートを単独でデプロイすることはできません。

### 置換変数

新しいルールを追加すると、**Calculation Manager** により、シナリオ、年、期間、エンティティ、連結および通貨ディメンションの実行時プロンプトとして、ルールに対して 6 つのシステム置換変数が自動的に作成されます。ユーザーは、実行時プロンプトを使用して、ルールの起動時にこれらのディメンションのメンバーを選択します。これらの変数に対する実行時プロンプトのテキストを変更することはできますが、削除することはできません。ユーザーは、実行時にデフォルト・メンバーを上書きできます。

ルールで必要であれば、追加の置換変数を定義できます。


「ルール」カードから最初にオンデマンド・ルールを起動する際に、実行時プロンプトにデフォルト・メンバーが指定されていない場合、プロンプトは空白になります。その後、ルールを起動すると、最後に使用されたメンバーがプロンプトに表示されます。

フォームからオンデマンド・ルールを起動すると、実行時プロンプトでは、デフォルトで、現在選択されているセルの視点からのメンバーが表示されます。ただし、システムでディメンションに対して特定のメンバーを常に使用する場合、変数に指定した値で上書きするオプションを選択できます。「**オーバーライド値として使用**」に値を指定すると、その値は「ルール」カードでも使用されます。

置換変数に対して「**非表示**」オプションを選択すると、ユーザーは実行時に値を要求されず、かわりにその変数の置換変数定義に指定された値が使用されます。このオプションは、データ・フォームまたは「ルール」カードから起動する場合も同じです。

6 つのすべての置換変数は、ルールの「**変数**」タブでルールの一部として参照できます。



 ノート:

オンデマンド・ルールに対しては「変数のマージ」オプションを使用できません。オンデマンド・ルールの実行時プロンプトは、ルール・レベルで定義されます。**Calculation Manager** によってルールレベルの実行時プロンプトはマージされません。オンデマンド・ルールでは、ルールセットはサポートされていません。

デプロイメント前にルールを検証できるように、変数の「**検証**」列に**値**を入力する必要があります。

ルールを検証する場合、「**値**」列にデフォルト値を指定しなかったすべての実行時プロンプト・ディメンションに対してメンバーを指定する必要があります。

**オンデマンド・ルールでサポートされているディメンション・メンバー**

オンデマンド・ルールでは、ルール・スクリプトの一部として、次のディメンションの OUTER FIX 文が自動的に挿入されます。スクリプトの FIX 文の一部としてこれらのディメンションを含める必要はありません。これらのディメンションの値は、ユーザーが値を入力できるポップアップ・プロンプトで指定します。システムでは、ソースのデフォルト値が使用されますが(たとえば、データ・フォームや **Oracle Smart View for Office** グリッドから起動された場合はセル POV)、ユーザーはルールの実行前にその値を変更できます。

[Essbase 計算スクリプトの操作](#)を参照してください。

次のメンバーは、オンデマンド・ルールの実行時プロンプトでサポートされています。

- シナリオ - 1 つの基本メンバーを選択する必要があります。
- 年 - 1 つの年を選択する必要があります。
- 期間 - 1 つの基本メンバーを選択する必要があります。
- エンティティ - 1 つ以上の基本または親エンティティ /関数を選択できます。

FCCS\_Global Assumptions メンバーまたはその子孫(存在する場合)は、エンティティ・ディメンションの実行時プロンプトには使用できません。

- 通貨 - エンティティ 通貨または入力通貨を選択できます
- 連結 - 「FCCS\_Entity Input」、「FCCS\_Translated Currency Input」、「FCCS\_Amount Override」または「FCCS\_Rate Override」を選択できます。

 ノート:

連結ディメンションでは、「FCCS\_Amount Override」または「FCCS\_Rate Override」を使用する場合、最初に、連結キューブの次の代替変数を設定して有効にする必要があります:

```
ODR_ENABLE_RATE_AMOUNT_OVERRIDE = TRUE
```

[代替変数の作成および値の割当て](#)を参照してください。

次のディメンションは、実行時プロンプトでは使用できませんが、オンデマンド・ルールではサポートされています。

- ビュー - 期間ビューのみを選択できます。期間ビュー・メンバーは、FIX 文で、またはターゲットとして指定する必要があります。
- 勘定科目および増減 - [Essbase 計算スクリプトの操作](#)を参照してください。これらのどのディメンションのメンバーも指定しない場合、すべてのメンバーに対してルールが処理されます。システム制限されているメンバーは、FIX 文で除外する必要があります。
- データ・ソース - [Essbase 計算スクリプトの操作](#)を参照してください。

#### ノート:

**FCCS\_Intercompany Eliminations** メンバーは、オンデマンド・ルールでは無効です。

- 複数 GAAP、会社間およびカスタム - これらのディメンションのメンバーを指定しない場合、ディメンションのすべてのメンバーに対してルールが処理されます。

### オンデマンド・ルールのベスト・プラクティス

ルールを作成する際のベスト・プラクティスは、[構成可能な計算のベスト・プラクティス](#)、[Essbase 計算スクリプトの操作](#)およびサポートされている [Essbase 関数](#)を参照してください。

オンデマンド・ルールを作成する場合、状況に応じて次のロジックを含める必要があります。

- 適切な設定を保証するために **Essbase** で必要な任意の **SET** コマンドを含めます
- 任意のブロックの作成(**CREATE**)またはブロックのクリア(**CLEAR**)・コマンドを含めます  
期間および増減を密ディメンションとして使用する密/疎最適化オプションを使用している場合にオンデマンド・ルールを実行するには、ルールの前にブロックを作成する必要があります。[Oracle Essbase テクニカル・リファレンスの@CREATEBLOCK 関数](#)を参照してください。
- 非集約ディメンションに対する適切な **CALC DIM** 文を含めます

システムにより、オンデマンド・ルールには次のセクションが含まれます。

- プロンプトから **OUTER FIX** 文が含まれます
- 任意のステータス処理ルーチンが含まれます

### FIX でのオンデマンド・ルールの実行

デフォルトでは、オンデマンド・ルールは **FIXPARALLEL** で実行されます。**FIXPARALLEL** コマンドには、6 つの実行時プロンプト(**RTP**): シナリオ、年、期間、エンティティ、連結および通貨のメンバーが含まれます。**FIX** で同じオンデマンド・ルールを実行する必要がある場合は、置換変数を定義できます。**<RuleName>\_FP** という名前の代替変数を連結キューブに追加して、値を **False** に設定できます。たとえば、ルール名が **ODR- Calculate Sales** の場合は、変数に **ODR\_CALCULATE\_SALES\_FP** という名前を付けます。ルール名のハイフンは変数名ではアンダースコアに置き換えられ、変数名にはスペースがないことに注意してください。

## オンデマンド・ルール の 作成

アプリケーションのカスタム・ルールは、連結プロセスに追加するか、またはオンデマンド・ルールとして追加できます。構成可能な連結ルールと構成可能な計算ルールは、連結中に自動的に実行されます。オンデマンド・ルールは、ユーザーが「ルール」カードから、またはデータ・フォームからそれらを起動したときに実行されます。連結の一部としては実行されません。

また、オンデマンド・ルールは、Oracle Smart View for Office で使用することも、データ・ロードによるデータ・ロードの後処理の一部として使用することもできます。


オンデマンド・ルールを作成、編集または削除するには、管理者である必要があります。管理者はオンデマンド・ルールを実行できますが、パワー・ユーザーとユーザーは、管理者に起動権限を付与され、POV ディメンション・メンバーに対するアクセス権を持っている場合にのみ実行できます。

オンデマンド・ルールは、フォームに追加することもできます。[データ・フォームへのオンデマンド・ルールの追加](#)を参照してください。

### ノート:

オンデマンド・ルールは連結キューブに追加します。レート・キューブには追加できません。連結キューブには、構成可能な計算用に 6 つのプレースホルダ・ルールがシードされています。これらのルールを削除または名前変更することはできません。

オンデマンド・ルールを作成するには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「作成および管理」で「ルール」をクリックします。  
Calculation Manager が開き、システム作成ルールとユーザー定義ルールの両方が表示されます。
3. 「Planning」フォルダを展開し、「FCCS Consol Rules」フォルダに移動します。
4. 「Rules」フォルダを右クリックして「新規」を選択します。
5. ルール名を入力して「OK」をクリックします。  
名前は一意である必要があり、FCCS\_接頭辞で始めることはできません。この接頭辞は、シード済ルール用に予約されています。ClearEmptyBlocks、Consolidate、ForceConsolidate、ForceTranslate、Translate など、既存のシステム・ルールの名前を使用することもできません。
6. 「アプリケーション・タイプ」では、「Planning」を使用します。「アプリケーション」では、アプリケーションの名前を使用します。
7. 「キューブ」では、連結のデフォルト設定を使用します。  
スクリプトの文を入力できるスクリプト・エディタが開きます。グラフィカル・モードでの作業を希望する場合、ドロップダウン・リストで「デザイナー」に変更できます。Calculation Manager で、計算スクリプトまたは Groovy スクリプトベースのルールを作成できます。

サポートされている関数のリストは、[Calculation Manager のカスタム定義関数の操作](#)および[サポートされている Essbase 関数](#)を参照してください。[Groovy スクリプトの操作](#)の詳細は、[Planning の管理ガイドの Groovy ルールの使用](#)を参照してください。

8. 「プロパティ」 ペインで、ルールのオプションの説明とコメントを入力できます。
9. 「値」 列で、連結、通貨、エンティティ、期間、シナリオおよび年ディメンションの実行時プロンプトのデフォルト・メンバーを選択します。
  - シナリオ、年、期間およびエンティティに対する書込みアクセス権を持っている必要があります。
  - 通貨ディメンションでは、エンティティ 通貨または入力通貨を選択します。
  - 連結ディメンションでは、「FCCS\_Entity Input」、「FCCS\_Translated Currency Input」、「FCCS\_Amount Override」または「FCCS\_Rate Override」を選択できます。

#### ノート:

連結ディメンションでは、「FCCS\_Amount Override」または「FCCS\_Rate Override」を使用する場合、最初に、連結キューブの次の代替変数を設定して有効にする必要があります:

```
ODR_ENABLE_RATE_AMOUNT_OVERRIDE = TRUE。
```

[代替変数の作成および値の割当て](#)を参照してください。

- エンティティ・ディメンションでは、共有エンティティを使用する場合、共有エンティティに影響を与えるためには、実行時プロンプトでプライマリ・エンティティと共有エンティティの両方を明示的に定義する必要があります。
  - エンティティ・ディメンションでは、すべてのレベル 0 の子孫に対するオンデマンド・ルールを実行するには、メンバー・セレクタからレベル 0 の子孫関数を選択する必要があります。たとえば、「FCCS\_Total Geography」のすべてのレベル 0 の子孫に対するルールを実行するには、「FCCS\_Total Geography」をパラメータとして使用して、レベル 0 の子孫関数を選択します。例: IDescendants ("FCCS\_Total Geography")。
  - オンデマンド・ルールの FIX 文には、実行時プロンプト・ディメンションを含めることができないことに注意してください。また、実行時プロンプト・ディメンションは、式の左側またはターゲット側では使用できませんが、右側またはソース側では使用できます。
10. ルールを検証するには、「アクション」メニューで「検証および保存」を選択します。  
前にデフォルト値を指定していないすべての実行時プロンプト・ディメンションに対してメンバーを指定する必要があります。  
検証に失敗した場合、ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「ジョブ」をクリックしてジョブの詳細を表示します。
  11. 確認のプロンプトで「OK」をクリックします。
  12. ルールを表示するには、「Rules」フォルダに移動して「リフレッシュ」を右クリックします。

新規ルールがルール・リストに表示されます。オンデマンド・ルールは、シード済の構成可能な計算ルールの後にアルファベット順にリストされます。

これは、デプロイされるまではアクティブになりません。

13. ルールをデプロイするには、「**アクション**」メニューで「**デプロイ**」を選択します。  
デプロイ後にルールをデプロイ解除することはできません。ルールが不要になった場合は削除できます。
14. 確認のプロンプトで「**OK**」をクリックします。
15. ルールがデプロイされたことを確認するには、ホーム・ページで「**ルール**」をクリックし、「**リフレッシュ**」をクリックします。  
デプロイされたルールは、ルールのリストでシステム・ルールの後に表示されません。

## データ・フォームへのオンデマンド・ルールの追加

フォームの「アクション」メニューにメニュー・オプションを追加するか、「**ビジネス・ルール**」ダイアログ・ボックスのルール・リストにルールを追加して、フォームにオンデマンド・ルールを追加できます。

ユーザーは、フォームのデータを表示または入力しているときに、フォーム内から割当て済のオンデマンド・ルールを実行して、実行後にそのフォームで計算結果を参照できます。

フォームからルールを起動するには、フォームに対するアクセス権とルールの起動権限の両方をユーザーに割り当てる必要があります。

「ビジネス・ルール」メニューの一部としてオンデマンド・ルールを含めるには、フォーム・デザインの「**ビジネス・ルール**」タブを使用します。




ビジネス・ルールに割り当てられたプロパティに基づいて、フォームでオンデマンド・ルールを処理する方法を決定できます。たとえば、次のアクションでフォームのオンデマンド・ルールを定義できます。

- **ロード前に実行:** フォームをロードする前にルールを実行します
- **ロード後に実行:** フォームがデータとともにロードされた後にルールを実行します
- **保存前に実行:** フォーム・データを保存する前に実行します
- **保存後に実行:** フォーム・データを保存した後に実行します

ノート:

- 「**ロード後に実行**」および「**保存前に実行**」は、Groovy ルールに対してのみ有効です。計算スクリプトやグラフィック・ルールに対してこれらのオプションを選択することはできません。Groovy ルールの詳細は、[Groovy ビジネス・ルールについて](#)を参照してください。
- また、グリッドの保存、ページの変更、アクション・メニュー項目の起動などの一部のアクションでは、操作の完了後にページがリロードされます。これにより、グリッドのデータが最新に保たれます。この際には、ロードの前後に、通常のページ・ロードの場合と同様のアクションが実行されます。
- 非表示の実行時プロンプトはロード前およびロード後のオプションの計算スクリプト・ルールではサポートされていませんが、Groovy ルールではサポートされています。
- Groovy ルールがどこでサポートされているかの詳細は、[Groovy ビジネス・ルールについて](#)を参照してください。

データ・フォームにオンデマンド・ルールを追加するには:


1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「アクション・メニュー」をクリックします。
3. 「新規」をクリックしてルール名を入力し、「OK」をクリックします。
4. メニューを選択して「編集」をクリックし、「子の追加」をクリックします。
5. 「メニュー・アイテム」で、メニュー・オプションの名前を入力します。
6. 「ラベル」で、ユーザーに表示するメニュー・テキストを入力します。  
オプション: 「アイコン」フィールドに、サーバー上のグラフィック・ファイルへのパスを入力できます。
7. 「タイプ」で、「ビジネス・ルール」を選択します。
8. 「キューブ」リストで、「Consol」を選択します。
9. 「ビジネス・ルール」リストで、オンデマンド・ルールを選択します。  
「確認メッセージの起動」フィールドに、ルールの説明または指示を入力できます。
10. オプション: 実行時プロンプトの値をユーザーに非表示にするには、「プロンプトの非表示」を選択します。これにより自動的に「フォームのメンバーを使用」が選択されます。実行時プロンプトを非表示にすると、ビューの現在のセル・ポイントのメンバーが、ルールの起動時に実行時プロンプト・ディメンションとして使用されます。Calculation Manager でオーバーライド値が定義されている場合、そのオーバーライド値が使用されます。  
フォームを保存した後、次回このページに戻ると、「フォームのメンバーを使用」が選択したとおりに表示されます。  
次の場合に実行時プロンプトを非表示にできます:
  - すべての実行時プロンプト・メンバーの値が入力されている場合(該当するディメンション・メンバーがフォームの「ページ/視点」から読み取られます)
  - 実行時プロンプトではディメンションは繰り返されません
11. 「保存」をクリックしてメニュー・アイテムを保存し、再度「保存」をクリックしてメニューを保存します。
12. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
13. 「作成および管理」で「フォーム」をクリックし、フォーム・エディタを開きます。
14. 「その他オプション」タブを選択して、フォームにメニューを割り当てます。
15. 「終了」をクリックします。  
「ビジネス・ルール」ダイアログ・ボックスで使用可能なビジネス・ルールのリストにオンデマンド・ルールを追加するには:
  1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
  2. 「作成および管理」で「フォーム」をクリックし、フォーム・エディタを開きます。
  3. 「ビジネス・ルール」タブを選択して、ビジネス・ルールのリストにオンデマンド・ルールを追加します。
  4. 「ビジネス・ルール・プロパティ」領域で、ルールのオプションを指定します。
  5. 「終了」をクリックします。

フォームでルールを表示および起動するには、[オンデマンド・ルール の 起動](#)を参照してください。


## オンデマンド・ルール の インポート および エクスポート

管理者は、Calculation Manager で使用可能なオプションを使用して、オンデマンド・ルールをインポートまたはエクスポートできます。

オンデマンド・ルールをインポートするには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ルール」をクリックします。
3. 「Planning」フォルダを展開し、「FCCS Consol Rules」フォルダに移動します。
4. 「ルール」を右クリックして「インポート」を選択します。
5. 「参照」をクリックしてインポートするルール・ファイルを選択します。

オンデマンド・ルールをエクスポートするには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ルール」をクリックします。
3. 「Planning」フォルダを展開し、「FCCS Consol Rules」フォルダに移動します。
4. 「ルール」を右クリックして「エクスポート」を選択します。

「エクスポート」オプションを選択すると、オンデマンド・ルールに加えシード済の計算ルールなど、フォルダ内のすべてのルールが自動的にエクスポートされます。

オンデマンド・ルールを個別にエクスポートするには、ルールを右クリックして「エクスポート」オプションを選択します。

5. エクスポートしたファイルを保存する場所を指定します。

## オンデマンド・ルール の 起動

デフォルトでは、管理者のみがオンデマンド・ルールを実行できます。他のユーザーがオンデマンド・ルールを参照および実行できるのは、管理者によって起動アクセス権を割り当てられており、シナリオ、年、期間およびエンティティに対するセキュリティ・アクセス権を持っている場合にかぎられます。

オンデマンド・ルールは、次のものを使用して起動できます。

- 「ルール」カード
- Calculation Manager
- データ・フォーム
- Oracle Smart View for Office


### 「ルール」カードからのオンデマンド・ルール の 起動

「ルール」カードには、システム・ルールとユーザー定義オンデマンド・ルールの両方のリストが表示されます。

ルールに対する起動権限を持っているユーザーは、ルールを起動できます。



「ルール」カードからオンデマンド・ルールを起動するには:

1. ホーム・ページで、「**ルール**」をクリックします。
2. ルールのリストをフィルタするには、「**フィルタ**」アイコンをクリックします。  
デプロイ済のオンデマンド・ルールのみが表示されます。
3. 「**キューブ**」ドロップダウン・リストで、「**Consol**」を選択します。  
オンデマンド・ルールは、システム・ルールの後にアルファベット順にリストされ、「ユーザー」アイコン  で識別されます。
4. ルールのリストで、オンデマンド・ルールを選択して「**起動**」をクリックします。  
ビジネス・ルールを起動するには、それらのルールが **Calculation Manager** からデプロイされている必要があります。
5. ルールに定義されている実行時プロンプトのディメンション・メンバー値を入力するためのポップアップ・ウィンドウが表示されます。ルールが最初に起動された場合、プロンプトの値は空白になります。ルールに値が入力されると、最後に使用された値がデフォルトとして表示されますが、これは必要に応じて変更できます。

 **ノート:**


エンティティ・ディメンションでは、複数のエンティティまたは 1 つのメンバー・リストを指定できますが、他のすべてのディメンションでは、1 つのメンバーのみを指定できます。

ビジネス・ルールを実行してエラーが発生した場合は、エラーをすばやく解決するのに役立つ詳細なメッセージが「ビジネス・ルール」ページに表示されます。「ジョブの詳細」ページでエラーの詳細を確認することもできます。

### Calculation Manager からのオンデマンド・ルールの起動

Calculation Manager からオンデマンド・ルールを実行すると、ルールの実行に関する統計を表示できます。

Calculation Manager からオンデマンド・ルールを起動するには:

1. ホーム・ページで、「**ルール**」をクリックします。
2. ルールのリストをフィルタするには、「**フィルタ**」アイコンをクリックします。  
デプロイ済のオンデマンド・ルールのみが表示されます。
3. 「**キューブ**」ドロップダウン・リストで、「**Consol**」を選択します。  
オンデマンド・ルールは、システム・ルールの後にアルファベット順にリストされ、「ユーザー」アイコン  で識別されます。
4. ルールのリストから、オンデマンド・ルールを開きます。Calculation Manager でルールが開きます。
5. Calculation Manager メニューから、「**起動**」をクリックします。
6. 以前に指定したランタイム・プロンプト値を変更できるポップアップ・ウィンドウが表示されます。



7. 「OK」をクリックして、ルールを実行します。
8. 「起動ステータス」ダイアログが表示されたら、「OK」をクリックします。エラーがある場合は、「ログ・メッセージ」タブをクリックして詳細を表示します。

### データ・フォームからのオンデマンド・ルールの起動

管理者は、データ入力フォームにオンデマンド・ルールを添付できます。フォームのデータを表示または入力するときに、データ・フォーム内からオンデマンド・ルールを実行すると、実行後にそのフォームに計算結果が表示されます。

オンデマンド・ルールを作成する場合、シナリオ、年、期間、エンティティ、通貨および連結ディメンション・メンバーの実行時プロンプトを指定します。システムの実行時プロンプトは削除できませんが、ルールを起動する前にそれらを変更することはできます。

フォームのメンバーを使用する設定が選択されている場合、ルールの起動時に、選択したセルの現在のメンバーがポップアップに自動的に表示されます。実行時プロンプトには、ディメンションごとに 1 つのメンバーのみが表示されます。

システムでは、ユーザーの選択用として、フォームに割当て済のビジネス・ルールのみが表示されます。選択後に、POV 選択に基づいて実行時プロンプトの値が表示されます。

ユーザーが、ルールの起動時に行全体または列全体を選択してセルのブロックを選択した場合、実行時プロンプトの選択セルとして、左上隅のセルが使用されます。

オンデマンド・ルールは、「アクション・メニュー」ドロップダウン・リストから(カスタム・メニューを使用)、または「ビジネス・ルール」オプションから起動できます。

オンデマンド・ルールを実行すると、計算プロセスに含まれるすべてのエンティティは、元の計算ステータスにかかわらず、そのステータスが「影響」になります。ロックされているエンティティに対しては、オンデマンド・ルールは実行されません。適用可能なすべての親および祖先メンバーは「影響」に、データを含む将来のすべての期間も「影響」になります。

フォームでオンデマンド・ルールを起動するには:

1. ホーム・ページで「データ」をクリックし、フォームを開きます。
2. 「アクション」メニューで「ビジネス・ルール」を選択し、ルールを選択します。
3. 起動確認のメッセージで、「OK」をクリックします。
4. 「実行時プロンプト」ダイアログ・ボックスで、「起動」をクリックし、値を指定するか、プロンプトのデフォルト値を使用して、「OK」をクリックします。

### Smart View からのオンデマンド・ルールの起動

Smart View でフォームを開く場合、オンデマンド・ルールを起動するには、データ・フォームの場合と同じオプションを使用できます。「ビジネス・ルール」オプションを使用するか、カスタム・メニューからルールを起動できます。

「ビジネス・ルール」オプションを使用してルールを起動するには:

1. データ・フォームを開き、「計算」メニュー・オプションを選択します。
2. 「ビジネス・ルール」を選択するか、「フォームに関する規則」を選択してフォームに定義されたルールのみを表示します。
3. 起動するビジネス・ルールを選択します。

4. 実行時プロンプトが表示されたら、ディメンションのメンバーを選択して「OK」をクリックします。デフォルトでは、POV セルのメンバーが使用されます。実行時にデフォルト値を変更できます。

カスタム・メニューからルールを起動するには:

1. データ・フォームを開き、セルを右クリックして「Smart View」を選択します。
2. フォームに添付されたカスタム・メニューからメニュー・オプションを選択します。
3. 起動確認のメッセージで、「OK」をクリックします。
4. 実行時プロンプトでディメンションのメンバーを選択し、「OK」をクリックします。

## オンデマンド・ルール の 計算ステータス

オンデマンド・ルールを起動して計算のエンティティを指定すると、そのエンティティの現在の計算ステータスとは無関係にリスト内のすべてのエンティティが処理されます。

オンデマンド・ルールの実行後、ルールにおけるすべてのエンティティのステータスは、「影響」に変化します。

エンティティが「影響」になると、システムは、適用可能な親メンバーおよび祖先と、将来の期間についてそれらのルールに準拠します。

### ロックされたエンティティ

エンティティがロック済になると、ロックされたエンティティに対してルールは実行されません。ルールの「実行時プロンプト」に複数のエンティティが含まれ、その一部のエンティティのみがロックされている場合、それらのエンティティはスキップされますが、他の有効なエンティティについては引き続きルールが実行されます。

### 「表示」または「なし」アクセス権のあるエンティティ

ユーザーがエンティティに対する「表示」または「なし」アクセス権を持っている場合、それらのエンティティについてルールは実行されず、エンティティは影響を受けません。

### エラーのあるエンティティ

ルールのエンティティが検証に合格しない場合、そのエンティティについてルールは実行されず、エンティティは影響を受けません。ルールは、有効なエンティティに対してのみ実行されます。

### ソース・エンティティの参照

ルールがデータのソース・エンティティを参照している場合、ソース・エンティティのステータスは無視され、取得時点のデータが処理されます。

## オンデマンド・ルール の デバッグ

Calculation Manager でオンデマンド・ルールを操作するとき、「デバッグ」オプションを使用できます。「デバッグ」オプションを使用すると、オンデマンド・ルールを実行して計算スクリプトを行ごとに調べ、スクリプトの実行状況を確認し、検証エラーがないことを確認して前後の値をチェックできます。

デバッグ・プロセスは常に、現在保存されているルールに対して実行されます。最初にルールがデプロイされ、次に変更および保存された場合、デバッグ・プロセスでは、最新のデプロイ済バージョンではなく最新の保存済ルールが実行されます。

 **ノート:**

デバッグ中は、ルールを編集できません。

オンデマンド・ルールをデバッグするには:

1. Calculation Manager でオンデマンド・ルールを開きます。
2. ルール・デザイナーで、「アクション」、「デバッグ」の順に選択します。  
スクリプト・デバッガに、ルール計算スクリプトが表示されます。スクリプトの各文が、別の行に表示されます。  
デバッグ・プロセスを適切に実行するには、オンデマンド・ルールのランタイム・プロンプト値をすでに入力して保存している必要があります。


3. 計算スクリプトの文をデバッグします。

文をデバッグする際、次のことが可能です。

- 文のメンバー交差の値を検査するための、スクリプトの実行を停止するブレイク・ポイントを挿入および削除します。ブレイク・ポイントで実行が停止すると、文のすべてのメンバー交差の値が表示されます。

ブレイク・ポイントを追加するには、ブレイク・ポイントの右側を右クリックし、「**ブレイク・ポイントの追加**」を選択します。ブレイク・ポイントがグレー表示されているスクリプトの行にのみブレイク・ポイントを追加できます。ブレイク・ポイントを削除するには、ブレイク・ポイントを右クリックして、「**ブレイク・ポイントの削除**」を選択します。

- ブレイク・ポイントに条件を追加して、条件を満たす場合にのみ文の実行を停止させます。条件に使用できるのは、ブレイク・ポイントのある文で使用されているメンバーのみです。

ブレイク・ポイントに条件を追加するには、ブレイク・ポイントの右側を右クリックし、「**条件の追加**」を選択します。「**条件の追加**」ダイアログ・ボックスで、 をクリックし、「**条件ビルダー**」に条件を入力します。

次の関数を条件テストで使用できます:

- @isCURRMBR
- @BEFORE
- @AFTER

特定のブレイク・ポイントのデバッグを呼び出す条件例:

- @isCURRMBR("Feb") – 現在の期間が"Feb"の場合
- @BEFORE("Cash") > 1000 – "Cash"の前の値が 1000 より大きい場合
- @AFTER("Cash") < 2000 – "Cash"の後の値が 2000 より小さい場合

条件を編集するには、条件を右クリックして、「**条件の編集**」を選択します。

1 つ以上の条件文を使用できます。

条件文をグループ化することもできます。


条件が満たされない場合、デバッグ・プロセスではブレイクポイントをスキップしますが、文の実行は継続します。

- ブレーク・ポイントのある文をデバッグします。

ブレーク・ポイントのある文をデバッグするには、文を右クリックし、「**デバッグの開始**」を選択します。デバッグ中の文は、ハイライト表示されます。文のメンバー、ブレーク・ポイント、および実行前後のメンバー交差の値が、次のタブに表示されます。

- **メンバー** - デバッグ・ブレーク・ポイントの現在のメンバー交差が表示されます。次のメンバー交差を表示するには、「**デバッグの再開**」をクリックします。
- **ブレーク・ポイント** - ブレーク・ポイントを含むスクリプトの式が表示されます。「**ブレーク・ポイントでの値**」タブに、式メンバーが、デバッグの実行前後の値とともに表示されます。

### ヒント:

デバッグを再開するには、「**デバッグの再開**」をクリックします。すべてのメンバー交差をデバッグするまで、「**デバッグの再開**」アイコンをクリックし続ける必要があります。すべてのメンバー交差をデバッグすると、「スクリプトのデバッグが完了しました」というメッセージが表示されます。

## オンデマンド・ルールの名前変更

ルールは、デプロイメント前は **Calculation Manager** にのみ存在するため、デプロイしていなければその名前を変更できます。

ルールをデプロイした後は、ルールのコピーが **Calculation Manager** に配置され、デプロイ済ルールは **Financial Consolidation and Close** アプリケーション内に存在します。デプロイ後にルール名を変更すると、アプリケーション内のデプロイ済ルールは元の名前のままですが、**Calculation Manager** では新しい名前になります。アプリケーション内の古い名前で行き続きルールを実行できますが、元の名前のルールはすでに **Calculation Manager** に存在していないため、**Calculation Manager** でそのルールを編集することはできません。デプロイ済ルールはアプリケーションから削除できません。

デプロイ済ルールの名前を変更する必要がある場合、古いルール名の **Financial Consolidation and Close** のデプロイ済ルールと同じ名前を使用して、**Calculation Manager** で新しいルールを作成する必要があります。ルールのコンテンツは空のままにできますが、新しいルールをデプロイして前のデプロイ済ルールを置き換える必要があります。その後、**Calculation Manager** でこのルールを削除し、デプロイ済オブジェクトも削除するオプションを選択します。この削除後、古いルールは **Calculation Manager** にも **Financial Consolidation and Close** にも存在しなくなります。

デプロイ済ルールの名前を変更する別の回避策としては、アーティファクト・ラベルを使用してルール・オブジェクトに別のラベルを割り当てます。**Calculation Manager** では、ルールは元の名前のまま存在しますが、**Financial Consolidation and Close** でデプロイ済ルール・オブジェクトに関連付けられたときに、そのルールに対して作成されたアーティファクト・ラベルを使用して新しい名前にリンクされます。この方法を使用すると、元のルールに対して、古いルール名ではなく新しいアーティファクト・ラベルが表示されます。


## オンデマンド・ルールの削除

不要になったオンデマンド・ルールは削除できます。ルールを削除する場合、そのルールがデプロイ済であるときは、削除の一環としてデプロイ済オブジェクトを含めるオプションを常に選択する必要があります。

このオプションを選択しない場合、ルールは **Calculation Manager** から削除されますが、アプリケーションにデプロイされたままとなり、その後は編集できなくなります。デプロイ済のルールを削除する場合、**Calculation Manager** で同じ名前の新しいルールを作成する必要があります。**Calculation Manager** と **Financial Consolidation and Close** の両方が同期するように新しいルールをデプロイします。その後、新規作成したルールを **Calculation Manager** から削除できます。

データ・フォームに添付されたカスタム・メニューで参照されているルールを削除する場合、カスタム・メニューを編集する際に、ルール名は空白になります。カスタム・メニューがデータ・フォームで使用されている場合、データ・フォームを開いても、ルールがメニューに関連付けられていないため、メニュー・オプションは表示されません。

オンデマンド・ルールを削除するには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「作成および管理」で「ルール」をクリックします。
3. 「Planning」フォルダを展開し、「FCCS Consol Rules」フォルダに移動します。
4. ルールを選択して右クリックし、「削除」を選択します。
5. 警告メッセージで「OK」をクリックして続行します。

### ノート:

ルールがデプロイされている場合、選択されたオブジェクトの一部がデプロイ済であると警告を受けます。削除の一環としてデプロイ済オブジェクトを含めるオプションを選択します。

6. ルールの削除を示す確認メッセージで「OK」をクリックします。
7. ルールがリストから削除されたことを確認するには、「Rules」フォルダを右クリックして「リフレッシュ」をクリックします。

## Essbase 計算スクリプトの操作

Essbase 計算スクリプトは、**Financial Consolidation and Close** で独自のカスタム・ビジネス・ロジックを記述できる言語です。この項では、Essbase の基本的な構成要素の一部、および **Financial Consolidation and Close** に適用される制限について説明します。Essbase 計算スクリプトの詳細は、*Essbase Cloud 管理者スタート・ガイド* を参照してください。

### 一般的な構文

- セミコロン

- 各文の終わりに必要
- 例: 売上 = 売上 \* 1.50;
- **FIX** および **ENDFIX** の後は不要
- 二重引用符
  - スペースが含まれる/特殊文字が含まれる/先頭が数字のメンバー名
  - メンバー名の前後に二重引用符を使用するのがベストプラクティスです
  - 例: "現金比率" = "現金"/"流動負債";
- デイメンション間演算子
  - ->を使用して複数のデイメンションの交差を指定
  - 例: "売上"->"純利益の変更"->"製品 1";

## コメント

コメントは/\*で始まり、\*/で終わります。

単一行または複数行のコメントがサポートされています。

ツールバー・アイコンを使用して、コメント・ブロックを設定または削除できます。

## FIX/ENDFIX

**FIX/ENDFIX** は、計算スクリプトの基本的なビルディング・ブロックの **1** つです。計算を実行するには、**FIX/ENDFIX** セクションを定義し、その中に実際のビジネス計算を配置する必要があります。

例: "Products"はカスタム・デイメンションであり、テレビの販売台数を計算するとします。次の構文を使用できます。

```
FIX("Televisions")
"Units_Sold" = "LED_TV" + "UHD_TV";
ENDFIX
```

実際のビジネス計算は次のとおりです。

"Units\_Sold = "LED\_TV" + "UHD\_TV";。これにより、テレビの販売台数が計算されます。

### ノート:

**FIX** または **ENDFIX** を除き、各計算文の最後にはセミコロンを付ける必要があります。

**FIX/ENDFIX** セクションは、その中の計算に含まれる様々なデイメンションのメンバーを制限します。この例では、"Televisions"のみが計算に含まれています。

次のようなネストされた **FIX** も定義できます。

```

FIX( "Televisions" )
    FIX( "42Inches" )
        "Units_Sold" = "LED_TV's" + "UHD_TV's";
    ENDFIX
    FIX( "55Inches" )
        "Units_Sold" = "LED_TV's" + "UHD_TV's";
    ENDFIX
ENDFIX

```

前述の計算は次のように記述することもできます。

```

FIX( "Televisions" )
    FIX( @List( "42Inches", "55Inches" ) )
        "Units_Sold" = "LED_TV's" + "UHD_TV's";
    ENDFIX
ENDFIX

```

たとえば、@List は Essbase 関数です。Essbase には多数の関数が用意されています。ただし、Financial Consolidation and Close ですべての Essbase 関数がサポートされているわけではありません。サポートされている関数のリストは、「Essbase 関数リスト」の項を参照してください。

### Financial Consolidation and Close のディメンションでの FIX

Financial Consolidation and Close アプリケーションには、有効なアプリケーション機能に応じて 13 のディメンションを含めることができます。13 のディメンションのうち、次のディメンションでは FIX を使用できません。その理由は、ユーザーが連結プロセスを呼び出したときに、システムによってそれらに FIX が自動的に適用されるためです。

- シナリオ
- 年
- 期間
- 表示
- エンティティ

たとえば、次のような文があるとします。

```

FIX( "Actual", "FY15", "Televisions" )
    "Sales" = 10;
ENDFIX

```

デプロイは失敗し、ジョブ・コンソールにエラー・メッセージと該当する情報が記録されます。

ただし、スクリプトでこれらのディメンションを使用できないということではありません。一般的に、計算には、次の構文のようなものが含まれています。

```

FIX( member, function, member, ... )
    Left hand side = Right hand side; /* expression */
ENDFIX

```

FIX および左側では、シナリオ、年、期間、エンティティおよびビューのディメンションのメンバーは使用できないことに注意してください。ただし、等式の右側にはこのような制限はありません。



次の構文は使用できます。

```
FIX( "Televisions" )
    "Sales" = "Sales"->"Budget";
ENDFIX
```

残りの 8 つのディメンションでは、特定のディメンションで **FIX** を使用しない場合、そのディメンションのすべてのメンバーとみなされます。たとえば、次のような文があるとします。

```
FIX( "Entity Currency", "Entity Input" )
    FIX( "No Movement", "No Intercompany", "No Custom", "No Multi-GAAP" )
        "Data Input" = 100;
    ENDFIX
ENDFIX
```

この例では、残りのすべてのディメンションに **FIX** が使用されています(勘定科目は除く)。この場合、Essbase により、FIX/ENDFIX 内の計算では勘定科目ディメンションのすべてのメンバーとみなされます。

### 制限付き Financial Consolidation and Close メンバー

各 Financial Consolidation and Close 内の特定のシステム・メンバーは、計算スクリプトで使用または計算することが制限されています。制限付きメンバーが計算で使用されると、検証またはデプロイは失敗し、ジョブ・コンソールにエラー・メッセージが記録されます。

ディメンションにメンバーが指定されていない場合は、ディメンション内のすべてのメンバーとみなされることに留意してください。ただし、制限付きメンバーはプロセスの一部として含めることができないため、これらの制限付きメンバーは、**FIX** ディメンション文または式の左側で明示的に除外する必要があります。

次の表は、これらのディメンションの制限付き **Financial Consolidation and Close** メンバーの完全なリストです。通貨ディメンションおよび連結ディメンションでは、使用される挿入ルールに基づいて制限されることに注意してください。シード済の挿入ルールごとに、そのルールに含めることができる通貨ディメンションおよび連結ディメンションのメンバーに関する情報がコメント・セクションに含まれています。

表 19-5 制限付きディメンション・メンバー

ディメンション	メンバー	式 左側	式 右側
シナリオ	すべてのメンバー	いいえ	はい
年	すべてのメンバー	いいえ	はい
期間	すべてのメンバー	いいえ	はい
表示	すべてのメンバー	いいえ	はい
エンティティ	すべてのメンバー	いいえ	はい
勘定科目	FCCS_CSTATUS	いいえ	はい
	FCCS_CSTATUS FILTER	いいえ	はい
	FX レート - 期末	いいえ	はい
	FX レート - 平均	いいえ	はい
	平均レート	いいえ	はい
	期末レート	いいえ	はい
	SrcAverageRate	いいえ	はい
	TgtAverageRate	いいえ	はい



表 19-5 (続き) 制限付きディメンション・メンバー

ディメンション	メンバー	式 左側	式 右側
	SrcEndingRate	いいえ	はい
	TgtEndingRate	いいえ	はい
	FCCS_Balance	いいえ	はい
	FCCS_CTA	いいえ	はい
	FCCS_CICTA	いいえ	はい
	FCCS_Percent Control	いいえ	はい
	FCCS_Current Ratio	いいえ	はい
	FCCS_Quick Ratio	いいえ	はい
	FCCS_Cash Ratio	いいえ	はい
	FCCS_Inventory Turnover	いいえ	はい
	FCCS_Asset Turnover	いいえ	はい
	FCCS_Days Sales In Receivables	いいえ	はい
	FCCS_Days Sales In Inventory	いいえ	はい
	FCCS_Gross Profit Margin	いいえ	はい
	FCCS_Return on Sales	いいえ	はい
	FCCS_Return on Equity	いいえ	はい
	FCCS_Debt to Equity Ratio	いいえ	はい
	FCCS_Debt Ratio	いいえ	はい
データ・ソース	FCCS_System Types	いいえ	はい
	FCCS_Rate Override	いいえ	はい
	FCCS_Account Override	いいえ	はい
	FCCS_PCON	いいえ	はい
	FCCS_Driver Source	いいえ	はい
増減	FCCS_Opening Balance	いいえ	はい
	FCCS_OpeningBalance _Cash	いいえ	はい
	FCCS_FX_Total_NonCa sh	いいえ	はい
	FCCS_ClosingBalanceC ash	いいえ	はい

**制限付きメンバーを除くディメンションのすべてのメンバーでの FIX**

一般的な使用例としては、ディメンションに制限付きメンバーが含まれている可能性がある場合に、そのディメンションのすべてのレベル 0 のメンバーを FIX 指定する必要がある場合です。この例では、そのディメンションの制限付きメンバーを除いたすべてのレベル 0 のメンバーを最適に FIX 指定する方法について示します。

たとえば、勘定科目ディメンションに制限付きメンバーの最大値が含まれています。

次に、制限付きメンバーを除くすべてのレベル 0 の勘定科目メンバーを FIX 指定するために使用できる、計算スクリプトのコード・スニペットを示します。

```
@REMOVE( @LEVMBRS( "Account", 0 ), @LIST( @RELATIVE( "FCCS_System Account",
0 ),@RELATIVE( "FCCS_Drivers", 0 ),@RELATIVE( "FCCS_Ratios",
0 ),@RELATIVE( "Exchange Rates", 0 ) ) )
```

### 疎ディメンションと密ディメンションでの FIX

FIX は、疎ディメンションで行う方がより効果があります。この場合、FIX を使用すると、Essbase により FIX で定義されている疎ディメンション・メンバーの組合せに対してのみブロックがプルされ、残りはスキップされます。

これらの疎の組合せはインデックスとして機能するため、Essbase によってインデックスと一致するデータ・ブロックが検索され、これらが計算のためにプルされます。そのため、実行するシステムにすべてのブロックがプルされるわけではありません。

FIX を密ディメンションで使用した場合、Essbase の各データ・ブロックに密メンバーが存在します。そのため、正しく使用しないとパフォーマンスに影響します。密ディメンションに FIX が指定されると、Essbase によってブロック数に関係なくすべてのデータ・ブロックがプルされ、各ブロック内の一部ののみが制限されます。そのため、これには、情報を返すためにデータベースへの複数のパスが必要になることがあります。

たとえば、次の文では、勘定科目ディメンションの "Sales" および "PostSales" を参照できます。

```
FIX( "Televisions" )
    FIX( "Sales" )
        "Data Input" = "No Of Units Sold" * 1000;
    ENDFIX
    FIX( "PostSales" )
        "Data Input" = "Queries" * 25;
    ENDFIX
ENDFIX
```

"Sales" の最初の FIX が処理されると、Essbase によって勘定科目ディメンションのすべてのデータ・ブロックがプルされますが、"Sales" という 1 つの勘定科目でのみ機能します。

FIX 文の後半の "PostSales" では、Essbase によって勘定科目ディメンションのすべてのデータ・ブロックが再度プルされますが、"PostSales" という 1 つの勘定科目でのみ機能します。この場合、これらの 2 つの勘定科目のデータベースに 2 パスが作成されます。

パフォーマンスの問題を回避するには、勘定科目ディメンションで FIX を使用せず、密ディメンションで IF...THEN を使用します。

```
FIX( "Televisions" )
    IF ( @ISMBR( "Sales" ) )
        "Data Input" = "No Of Units Sold" * 1000;
    ELSEIF ( @ISMBR( "AfterSales" ) )
        "Data Input" = "Queries" * 25;
    ENDIF
ENDFIX
```

FIX 文を使用していないこの例では、Essbase データベースへの 1 パスのみを作成する必要があります。

計算のパフォーマンスを向上させるために、疎ディメンションでは FIX を使用し、密ディメンションでは IF..THEN を使用することをお勧めします。

### メンバー・ブロック

メンバー・ブロックは、計算ブロックと呼ばれることもあります。メンバー・ブロックにアンカーという用語が使用されていることもあります。メンバー・ブロックの構文は次のとおりです。

```
FIX( members)
    /*start of member block*/
    <Member> (
        /* User's calculations */
    )
    /*end of member block*/
ENDFIX
```

次に、メンバー・ブロック文の例を示します。

```
FIX ( @LIST( @RELATIVE( "FCCS_BalanceSheet", 0 ), "FCCS_EntityInput", @RELATIVE( "Multi-GAAP",
0 ), @RELATIVE( "Intercompany", 0 ) )
    /*start of member block*/
    "My Total Opening Balance" (
        IF ( @ISUDA( "Account", "Saved Assumption" ) )
            "My FX Opening" -> "Parent Currency" -> "FCCS_EntityInput" = "Entity Currency" -
            > "FCCS_EntityInput";
        ENDIF
    )
    /*end of member block*/
ENDFIX
```

この例では、"My Total Opening Balance"が計算ブロック・メンバーまたはアンカーと呼ばれます。可能なかぎり、このメンバーは、密ディメンションのメンバーにする必要があります。

前述の計算では、メンバーは"My FX Opening"のみに制限され、FIX 文で指定されたメンバーに対してのみ計算が実行されます。

IF 文を使用する場合は、メンバー・ブロックが必要であることに注意してください。IF 文は、メンバー・ブロックの外で記述できません。

## サポートされている Essbase 関数

この項では、Financial Consolidation and Close の構成可能な計算でサポートされている Essbase 関数をリストします。Y (はい)は、その関数がサポートされていることを示します。

関数の詳細は、*Oracle Essbase テクニカル・リファレンス*を参照してください。

### 一般的な Essbase 関数

- FIX / ENDFIX - スコープの管理
- 計算メンバー・ブロック
- メンバー・セット: @LIST、@REMOVE、@RELATIVE、@CURRMBR、@CHILDREN、@DESCENDANTS、@SIBLINGS

- 条件および論理演算子: IF..ENDIF、<>、+、AND、OR、NOT
- ブール: @ISMBR、@ISUDA、@ISACCTYPE、@SCHILD、@ISLEV、@ISANCEST
- 関係: @GEN、@LEV、@CURGEN、@CURLEV
- 算術: @ABS、@SUM、@VAR、@ROUND、@MAX、+ - \* /

Essbase の構成要素	カテゴリ	サブカテゴリ	サポート
IF	計算関数	条件および論理演算子	Y
ELSE	計算関数	条件および論理演算子	Y
ELSE IF	計算関数	条件および論理演算子	Y
ENDIF	計算関数	条件および論理演算子	Y
>	計算関数	条件および論理演算子	Y
>=	計算関数	条件および論理演算子	Y
<	計算関数	条件および論理演算子	Y
<=	計算関数	条件および論理演算子	Y
==	計算関数	条件および論理演算子	Y
<>	計算関数	条件および論理演算子	Y
!=	計算関数	条件および論理演算子	Y
AND	計算関数	条件および論理演算子	Y
OR	計算関数	条件および論理演算子	Y
NOT	計算関数	条件および論理演算子	Y
@ISACCTYPE	計算関数	ブール	Y (表の後のノートを参照)
@ISANCEST	計算関数	ブール	N
@ISCHILD	計算関数	ブール	Y
@ISDESC	計算関数	ブール	Y
@ISGEN	計算関数	ブール	Y
@ISIANCEST	計算関数	ブール	Y
@ISICHILD	計算関数	ブール	Y
@ISIDESC	計算関数	ブール	Y
@ISIPARENT	計算関数	ブール	Y
@ISISIBLING	計算関数	ブール	Y
@ISLEV	計算関数	ブール	Y
@ISMBR	計算関数	ブール	Y
@ISMBRUDA	計算関数	ブール	Y
@ISPARENT	計算関数	ブール	Y
@ISRANGENONEMPT Y	計算関数	ブール	Y
@ISSAMEGEN	計算関数	ブール	Y
@ISSAMELEV	計算関数	ブール	Y
@ISISIBLING	計算関数	ブール	Y
@ISUDA	計算関数	ブール	Y
@ANCESTVAL	計算関数	関係	N
@ATTRIBUTEVAL	計算関数	関係	N
@ATTRIBUTEVAL	計算関数	関係	N
@ATTRIBUTEVAL	計算関数	関係	N
@CURGEN	計算関数	関係	Y
@CURLEV	計算関数	関係	Y

Essbase の構成要素	カテゴリ	サブカテゴリ	サポート
@GEN	計算関数	関係	Y
@LEV	計算関数	関係	Y
@MDANCESTVAL	計算関数	関係	N
@MDPARENTVAL	計算関数	関係	N
@PARENTVAL	計算関数	関係	Y
@SANCESTVAL	計算関数	関係	N
@SPARENTVAL	計算関数	関係	N
@XREF	計算関数	関係	Y
@XWRITE	計算関数	関係	N
@ABS	計算関数	算術	Y
@AVG	計算関数	算術	N
@EXP	計算関数	算術	N
@FACTORIAL	計算関数	算術	N
@INT	計算関数	算術	N
@LN	計算関数	算術	N
@LOG	計算関数	算術	N
@LOG10	計算関数	算術	N
@MAX	計算関数	算術	N
@MAXS	計算関数	算術	Y
@MIN	計算関数	算術	Y
@MINS	計算関数	算術	Y
@MOD	計算関数	算術	Y
@POWER	計算関数	算術	Y
@REMAINDER	計算関数	算術	Y
@ROUND	計算関数	算術	Y
@SUM	計算関数	算術	Y
@TRUNCATE	計算関数	算術	Y
@VAR	計算関数	算術	Y
@VARPER	計算関数	算術	N
@ALLANCESTORS	計算関数	メンバー・セット	N
@ANCEST	計算関数	メンバー・セット	Y
@ANCESTORS	計算関数	メンバー・セット	Y
@ATTRIBUTE	計算関数	メンバー・セット	Y
@BETWEEN	計算関数	メンバー・セット	N
@CHILDREN	計算関数	メンバー・セット	Y
@CURRMBR	計算関数	メンバー・セット	Y
@DESCENDANTS	計算関数	メンバー・セット	Y
@EQUAL	計算関数	メンバー・セット	Y
@EXPAND	計算関数	メンバー・セット	N
@GENMBRS	計算関数	メンバー・セット	Y
@IALLANCESTORS	計算関数	メンバー・セット	Y
@IANCESTORS	計算関数	メンバー・セット	Y
@ICHILDREN	計算関数	メンバー・セット	Y
@IDESCENDANTS	計算関数	メンバー・セット	Y
@ILANCESTORS	計算関数	メンバー・セット	Y

Essbase の構成要素	カテゴリ	サブカテゴリ	サポート
@ILDESCENDANTS	計算関数	メンバー・セット	N
@ILSIBLINGS	計算関数	メンバー・セット	Y
@INTERSECT	計算関数	メンバー・セット	Y
@IRSIBLINGS	計算関数	メンバー・セット	Y
@IRDESCENDANTS	計算関数	メンバー・セット	Y
@ISIBLINGS	計算関数	メンバー・セット	Y
@LANCESTORS	計算関数	メンバー・セット	Y
@LDESCENDANTS	計算関数	メンバー・セット	Y
@LEVMBRS	計算関数	メンバー・セット	Y
@LIST	計算関数	メンバー・セット	Y
@LSIBLINGS	計算関数	メンバー・セット	Y
@MATCH	計算関数	メンバー・セット	Y
@MBRCOMPARE	計算関数	メンバー・セット	Y
@MBRPARENT	計算関数	メンバー・セット	Y
@MEMBER	計算関数	メンバー・セット	Y
@MEMBERAT	計算関数	メンバー・セット	Y
@MERGE	計算関数	メンバー・セット	Y
@NEXTSIBLING	計算関数	メンバー・セット	Y
@NOTEQUAL	計算関数	メンバー・セット	Y
@PARENT	計算関数	メンバー・セット	Y
@PREVSIBLING	計算関数	メンバー・セット	Y
@RANGE	計算関数	メンバー・セット	Y
@RDESCENDANTS	計算関数	メンバー・セット	Y
@RELATIVE	計算関数	メンバー・セット	Y
@REMOVE	計算関数	メンバー・セット	Y
@RSIBLINGS	計算関数	メンバー・セット	Y
@SHIFTSIBLING	計算関数	メンバー・セット	N
@SIBLINGS	計算関数	メンバー・セット	Y
@UDA	計算関数	メンバー・セット	Y
@WITHATTR	計算関数	メンバー・セット	N
@ACCUM	計算関数	範囲および財務	Y
@AVGRANGE	計算関数	範囲および財務	Y
@COMPOUND	計算関数	範囲および財務	Y
@COMPOUNDGROWTH	計算関数	範囲および財務	N
@CURRMBRRANGE	計算関数	範囲および財務	Y
@DECLINE	計算関数	範囲および財務	N
@GROWTH	計算関数	範囲および財務	N
@INTEREST	計算関数	範囲および財務	Y
@IRR	計算関数	範囲および財務	Y
@IRREX	計算関数	範囲および財務	N
@MAXRANGE	計算関数	範囲および財務	Y
@MAXSRANGE	計算関数	範囲および財務	N
@MDSHIFT	計算関数	範囲および財務	N
@MINRANGE	計算関数	範囲および財務	Y

Essbase の構成要素	カテゴリ	サブカテゴリ	サポート
@MINSRANGE	計算関数	範囲および財務	N
@NEXT	計算関数	範囲および財務	Y
@NEXTS	計算関数	範囲および財務	N
@NPV	計算関数	範囲および財務	Y
@PTD	計算関数	範囲および財務	N
@PRIOR	計算関数	範囲および財務	Y
@PRIORS	計算関数	範囲および財務	N
@RANGE	計算関数	範囲および財務	Y
@RANGEFIRSTVAL	計算関数	範囲および財務	Y
@RANGELASTVAL	計算関数	範囲および財務	Y
@SHIFT	計算関数	範囲および財務	Y
@SHIFTPLUS	計算関数	範囲および財務	Y
@SHIFTMINUS	計算関数	範囲および財務	Y
@SLN	計算関数	範囲および財務	N
@SUMRANGE	計算関数	範囲および財務	Y
@SYD	計算関数	範囲および財務	N
@XRANGE	計算関数	範囲および財務	Y
@ALLOCATE	計算関数	割当て	N
@MDALLOCATE	計算関数	割当て	N
@MOVAVG	計算関数	予測	N
@MOVMAX	計算関数	予測	N
@MOVMED	計算関数	予測	N
@MOVMIN	計算関数	予測	N
@MOVSUM	計算関数	予測	N
@MOVSUMX	計算関数	予測	N
@SPLINE	計算関数	予測	N
@TREND	計算関数	予測	N
@CORRELATION	計算関数	統計	N
@COUNT	計算関数	統計	Y
@MEDIAN	計算関数	統計	N
@MODE	計算関数	統計	N
@RANK	計算関数	統計	N
@STDEV	計算関数	統計	N
@STDEVP	計算関数	統計	N
@STDEV RANGE	計算関数	統計	N
@VARIANCE	計算関数	統計	N
@VARIANCEP	計算関数	統計	N
@TODATE	計算関数	日付と時刻	Y
@CALCMODE	計算関数	その他	Y
@CONCATENATE	計算関数	その他	Y
@SUBSTRING	計算関数	その他	Y
@NAME	計算関数	その他	Y
@RETURN	計算関数	その他	N
@CREATEBLOCK	計算関数	その他	Y
+ (加算)	計算コマンド	算術	Y



Essbase の構成要素	カテゴリ	サブカテゴリ	サポート
- (減算)	計算コマンド	算術	Y
* (乗算)	計算コマンド	算術	Y
/ (除算)	計算コマンド	算術	Y
% (割合を評価します)	計算コマンド	算術	Y
() (計算順序を制御します)	計算コマンド	算術	Y
AGG	計算コマンド	その他	N
ARRAY	計算コマンド	その他	Y
CALC ALL	計算コマンド	CALC	N
CALC AVERAGE	計算コマンド	CALC	N
CALC DIM	計算コマンド	CALC	Y (表の後のノートを参照)
CALC FIRST	計算コマンド	CALC	N
CALC LAST	計算コマンド	CALC	N
CALC TWOPASS	計算コマンド	その他	N
CCONV	計算コマンド	CLEAR	N
CLEARBLOCK	計算コマンド	CLEAR	Y
CLEARCCTRACK	計算コマンド	CLEAR	N
CLEARDATA	計算コマンド	CLEAR	Y
DATACOPY	計算コマンド	COPY	Y
DATAEXPORT	計算コマンド	EXPORT	N
DATAEXPORTCOND	計算コマンド	EXPORT	N
DATAIMPORTBIN	計算コマンド	EXPORT	N
EXCLUDE...ENDEXCLUDE	計算コマンド	BLOCK	N
FIX...ENDFIX	計算コマンド	BLOCK	Y
FIXPARALLEL...ENDFIXPARALLEL	計算コマンド	BLOCK	N
LOOP...ENDLOOP	計算コマンド	BLOCK	Y
POSTFIXPARALLEL	計算コマンド	BLOCK	N
SET AGGMISSG	計算コマンド	SET	N
SET CACHE	計算コマンド	SET	N
SET CALCDIAGNOSTICS	計算コマンド	SET	N
SET CALCPARALLEL	計算コマンド	SET	N
SET CALCTASKDIMS	計算コマンド	SET	N
SET CCTRACKCALC	計算コマンド	SET	N
SET CLEARUPDATESTATUS	計算コマンド	SET	N
SET COPYMISSINGBLOCK	計算コマンド	SET	N
SET CREATEONMISSINGBLOCK	計算コマンド	SET	N
SET CREATEBLOCKONEQ	計算コマンド	SET	N
SET DATAEXPORTOPTIONS	計算コマンド	SET	N

Essbase の構成要素	カテゴリ	サブカテゴリ	サポート
SET DATAIMPORTIGNORE TIMESTAMP	計算コマンド	SET	N
SET EMPTYMEMBERSETS	計算コマンド	SET	N
SET FRMLBOTTOMUP	計算コマンド	SET	N
SET FRMLRTDYNAMIC	計算コマンド	SET	N
SET LOCKBLOCK	計算コマンド	SET	N
SET MSG	計算コマンド	SET	N
SET NOTICE	計算コマンド	SET	N
SET REMOTECALC	計算コマンド	SET	N
SET RUNTIMESUBVARS	計算コマンド	SET	N
SET SCAPERSPECTIVE	計算コマンド	SET	N
SET UPDATECALC	計算コマンド	SET	N
SET UPTOLOCAL	計算コマンド	SET	N
THREADVAR	計算コマンド	その他	N
VAR	計算コマンド	その他	N

### ノート:

@ISACCTYPE: この関数は、費用勘定科目にのみ適用されます。First、Last、Average、Expense および Twopass のいずれかの値を使用できます。

CALC DIM: 非集約ディメンション(増減、会社間、複数 GAAP およびカスタムなど)には、CALC DIM のみを使用する必要があります。これが必要なのは、カスタム計算の途中で集約交差を参照する必要がある場合のみです。

## Financial Consolidation and Close のカスタム関数

### 次も参照:

- [FCCSImpactStatus 関数](#)

## FCCSImpactStatus 関数

@FCCSImpactStatus 関数を使用すると、特定の計算に基づいて、指定したシナリオ、年、期間およびエンティティの組合せのステータスを手動で「影響」に変更できます。たとえば、特定のエンティティの実績シナリオの純利益値がシステムで計算される場合、「予測」と呼ばれる別のシナリオで同じ年と期間の同じエンティティに影響を与えることができます。関数によって、現在のステータスに関係なく、計算ステータスが「影響」に変更されます。

@FCCSImpactStatus 関数は、構成可能な計算(挿入ルール)およびオンデマンド・ルールで使用できます。構成可能な計算の操作およびオンデマンド・ルールの操作を参照してください。

構文:

@FCCSImpactStatus(Scenario, Year, Period, Entity)

関数に対して次のパラメータを選択します:

- シナリオ - 1 つのメンバー。選択するのは、レベル 0 のメンバーである必要があります。
- 年 - 1 つのメンバー。選択するのは、レベル 0 のメンバーである必要があります。
- 期間 - 1 つのメンバー。選択するのは、レベル 0 のメンバーである必要があります(Q1、HY1 などの親ではない)。
- エンティティ - 1 つのメンバー、関数またはリスト。レベル 0 のメンバーおよび親メンバーの両方がサポートされています。

@CURRMBR、@PREVSIBLING、@NEXTSIBLING、@LIST などの関数をサポートしています。

エンティティの場合、@CURRMBR("Entity")のかわりに、特定のメンバー名を使用するリスト・タイプのメンバー・セット関数がサポートされています。例:

- 子孫(含む)
- 子(含む)
- 祖先(含む)
- 兄弟(含む)
- 親(含む)
- レベル 0 の子孫
- 左兄弟(含む)
- 右兄弟(含む)
- 前のレベル 0 のメンバー
- 次のレベル 0 のメンバー
- 前の世代
- 次の世代
- @List

シナリオ、年、期間およびエンティティ・ディメンションでは、処理対象の現在のメンバーと同じであることを示すために@CURRMBR がサポートされています。

シナリオ、年、期間およびエンティティ・ディメンションでは、@NEXTSIBLING および @PREVSIBLING 関数は、@CURRMBR 関数と直接組み合せた場合のみサポートされています。次の 3 つの組合せは、@CURRMBR(..)関数を使用してサポートされています:

- @CURRMBR("Scenario/Years/Period/Entity")
- @PREVSIBLING(@CURRMBR(...))
- @NEXTSIBLING(@CURRMBR(...))

エンティティ・ディメンションでは、アイテムが@CURRMBR("Entity")または有効な組合せの場合に@LIST 関数がサポートされています。たとえば、Entity フィールドの次の文は有効です:

- @LIST(@CURRMBR("Entity"), "LE-0011-EUR" @SIBLINGS("LE-0016-BRL"))
- @LIST(@PREVSIBLING(@CURRMBR("Entity")),
- @NEXTSIBLING(@CURRMBR("Entity")), @IAncestors("LE-0011-EUR"));

現在の計算ステータスに関係なく、@FCCSImpactStatus 関数に指定したシナリオ/年/期間/エンティティに影響を与え、適用可能なすべての親および祖先に影響を与えます。データを含む将来のすべての期間が影響を受けます。

エンティティに共有エンティティがある場合、プライマリ・エンティティとそのすべての共有エンティティが影響を受け、対応する親および祖先も影響を受けます。ロックされているエンティティには影響を与えません。

構成可能な計算(挿入ルール)で@FCCSImpactStatus 関数を使用すると、影響ステータス・バリデータがエラーを検出し、スクリプト生成時に連結プロセスが失敗する場合があります。デフォルトでは、DisableImpactStatusConsolValidation という名前の代替変数が有効で、影響ステータス・ルール・セマンティック・バリデータでは検証エラーを無視して連結ルール実行を続行できます。「代替変数」値を「False」に設定すると、バリデータでは詳細とともに影響ステータス・エラーが表示されます。

### 例: 構成可能な計算での@FCCSImpactStatus 関数の使用

Name	Description	Owner	Last Modified By	Last Modified Date
Planning				
FCCS				
RuleSets				
Consol				
Rules				
FCCS_10_After Open	Calculations to be performed after the Opening Balance carry forward calculations but before balancing the Balance Sheet	epm_default_clou...	epm_default_clou...	Oct 28, 2019
FCCS_20_Final Calcul	Additional calculations to be performed after Balance Sheet is balanced.	epm_default_clou...	epm_default_clou...	Oct 19, 2019
FCCS_30_After Open	Calculations to be performed after the Opening Balance carry forward calculations but before balancing the Balance Sheet.	epm_default_clou...	epm_default_clou...	Oct 19, 2019
FCCS_40_Final Calcul	Additional calculations to be performed after Balance Sheet is balanced.	epm_default_clou...	epm_default_clou...	Oct 19, 2019
FCCS_50_After Open	Calculations to be performed after the Opening Balance carry forward calculations but before balancing the Balance Sheet.	epm_default_clou...	epm_default_clou...	Oct 19, 2019
FCCS_60_Final Calcul	Additional calculations to be performed after Balance Sheet is balanced.	epm_default_clou...	epm_default_clou...	Oct 19, 2019
Formulas				
Scripts				
Templates				

```

1 FIX ("Entity Currency", "Entity Input", "FCCS_Investment in Sub")
2   "FCCS_Managed Data"
3   IF (@ISMBR("EquityPickup"))
4     @FccsImpactStatus(@CURRMBR("Scenario"), "FY17", @CURRMBR("Period"), @PREVSIBLING(@CURRMBR("Entity")));
5   ENDFIX
6 )
7 ENDFIX

```

次の例は、ImpactStatus 計算スクリプトのサンプルを示しています。

```

/* Impact_Status_Process on ("Budget")("FY20")("Jan")("E50") - Start */

/* Status Handling - Start */

FIX("Budget","FY20","FCCS_No Intercompany","FCCS_Entity Input","FCCS_No Data Source","FCCS_No
Movement","FCCS_Periodic",@LIST(@CHILDREN("Reporting Currencies"),"Entity Currency"),"FCCS_No Multi-
GAAP","No Product")
FIXPARALLEL(3,@IANCESTORS("E50"))
FIX("Jan")

SET CREATENONMISSINGBLK ON;
"FCCS_CSTATUS"(
"FCCS_CSTATUS"=@fccsMarkImpacted("FCCS_CSTATUS")+ 0;
)
SET CREATENONMISSINGBLK OFF;
ENDFIX
FIX(@LIST("Feb":"Dec"))

"FCCS_CSTATUS"(
IF(NOT(@fccsIsNoData("FCCS_CSTATUS")))
"FCCS_CSTATUS"=@fccsMarkImpacted("FCCS_CSTATUS");
ENDIF
)
ENDFIX
ENDFIXPARALLEL
ENDFIX

/* Impact Status Process - END */

```

次の例は、シナリオ/年/期間/エンティティの様々な組合せに対する@FCCSImpactStatus 関数の影響を示しています。

### 例 1: 特定のシナリオ/年/期間/エンティティに対する明示的な影響

```
@FCCSImpactStatus("Budget", "FY16", "Jan", "GBP E2")
```

「実績/FY16/1 月/EUR #1」を選択して、オンデマンド・ルールを実行します。

関数は、「予算/FY16/1 月/GBP E2」および「予算/FY16/1 月」の「GBP2 E2」の祖先に明示的に影響を与えます。

パラメータ・メンバー「EUR D1」も影響を受けます。

Calc Status for Impacting

Currency		Entity Currency	
		Jan	Feb
		Calculation Status	Calculation Status
EUR E1	Actual	Impacted	No Data
	Budget	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data
GBP E2	Actual	No Data	No Data
	Budget	Impacted	No Data
	Forecast	No Data	No Data
USD_E6	Actual	No Data	No Data
	Budget	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data
EUR D1	Actual	Impacted	No Data
	Budget	Impacted	No Data
	Forecast	No Data	No Data
EUR E3	Actual	No Data	No Data
	Budget	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data
USD E4	Actual	No Data	No Data
	Budget	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data

例 2: 別のシナリオだが、同じ年/期間/エンティティへの影響

```
@FCCSImpactStatus("Budget",@CURRMBR("Years"),@CURRMBR("Period"),@CURRMBR("Entity"))
```

「実績/FY16/2月/EUR E1」を選択して、オンデマンド・ルールを実行します。

「予算/FY16/2月/EUR E1」および「予算/FY16/2月」の「EUR E1」の祖先に明示的に影響を与えます。

2月についてはパラメータ・メンバー「EUR D1」も影響を受けます。

Calc Status for Impacting

Currency		Entity Currency		
		Jan	Feb	Mar
		Calculation Status	Calculation Status	Calculation Status
EUR E1	Actual	Impacted	Impacted	No Data
	Budget	No Data	Impacted	No Data
	Forecast	No Data	No Data	No Data
GBP E2	Actual	No Data	No Data	No Data
	Budget	Impacted	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data	No Data
USD_E6	Actual	No Data	No Data	No Data
	Budget	No Data	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data	No Data
EUR D1	Actual	Impacted	Impacted	No Data
	Budget	Impacted	Impacted	No Data
	Forecast	No Data	No Data	No Data
EUR E3	Actual	No Data	No Data	No Data
	Budget	No Data	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data	No Data

例 3: 現在のシナリオ/年/期間だが、@List 関数を使用する別のエンティティへの影響

```
@FCCSImpactStatus("@CURRMBR("Scenario"),@CURRMBR("Years"),@CURRMBR("Period"),@LIST("EUR E3","USD E4"))
```

「実績/FY16/3月/EUR E1」を選択して、オンデマンド・ルールを実行します。

「実績/FY16/3月/EUR E3 および USD E4」および「実績/FY16/3月」の「EUR E3 および USD E4」の祖先に明示的に影響を与えます。



3月については、対応する親の「USD D2」も影響を受けます。

		Jan	Feb	Mar	Apr
		Calculation Status	Calculation Status	Calculation Status	Calculation Status
EUR E1	Actual	Impacted	Impacted	Impacted	No Data
	Budget	No Data	Impacted	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data	No Data	No Data
GBP E2	Actual	No Data	No Data	No Data	No Data
	Budget	Impacted	No Data	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data	No Data	No Data
USD_E6	Actual	No Data	No Data	No Data	No Data
	Budget	No Data	No Data	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data	No Data	No Data
EUR D1	Actual	Impacted	Impacted	Impacted	No Data
	Budget	Impacted	Impacted	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data	No Data	No Data
EUR E3	Actual	No Data	No Data	Impacted	No Data
	Budget	No Data	No Data	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data	No Data	No Data
USD E4	Actual	No Data	No Data	Impacted	No Data
	Budget	No Data	No Data	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data	No Data	No Data
GBP E5	Actual	No Data	No Data	No Data	No Data
	Budget	No Data	No Data	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data	No Data	No Data
USD D2	Actual	No Data	No Data	Impacted	No Data
	Budget	No Data	No Data	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data	No Data	No Data

#### 例 4: 現在のシナリオ/年/エンティティだが、次の期間への影響

```
@FCCSImpactStatus("@CURRMBR("Scenario"), @CURRMBR("Years"),
@NEXTSIBLING(@CURRMBR("Period")),@CURRMBR("Entity"))
```

「実績/FY16/4月/EUR E1」を選択して、オンデマンド・ルールを実行します

「実績/FY16/5月/EUR E1」および「実績/FY16/5月」の「EUR E1」の祖先に明示的に影響を与えます。

5月については、対応する親の「EUR D1」も影響を受けます。

Calc Status for Impacting

Dependency Entity Currency		Jan	Feb	Mar	Apr	May
		Calculation Status	Calculation Status	Calculation Status	Calculation Status	Calculation Status
EUR E1	Actual	Impacted	Impacted	Impacted	Impacted	Impacted
	Budget	No Data	Impacted	No Data	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data	No Data	No Data	No Data
GBP E2	Actual	No Data	No Data	No Data	No Data	No Data
	Budget	Impacted	No Data	No Data	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data	No Data	No Data	No Data
USD_E6	Actual	No Data	No Data	No Data	No Data	No Data
	Budget	No Data	No Data	No Data	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data	No Data	No Data	No Data
EUR D1	Actual	Impacted	Impacted	Impacted	Impacted	Impacted
	Budget	Impacted	Impacted	No Data	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data	No Data	No Data	No Data
EUR E3	Actual	No Data	No Data	Impacted	No Data	No Data
	Budget	No Data	No Data	No Data	No Data	No Data
	Forecast	No Data	No Data	No Data	No Data	No Data

#### 例 5: Calculation Manager の RTP 値を使用するシナリオ/年/期間/エンティティへの影響

```
FIX("FCCS_Periodic", "Custom1", " Custom2", "FCCS_No Intercompany", "
Custom3", "FCCS_Data Input","FCCS_Entity Input","FCCS_No Movement")
"Account" (
@FCCSImpactStatus({Scenario},{Years},
```



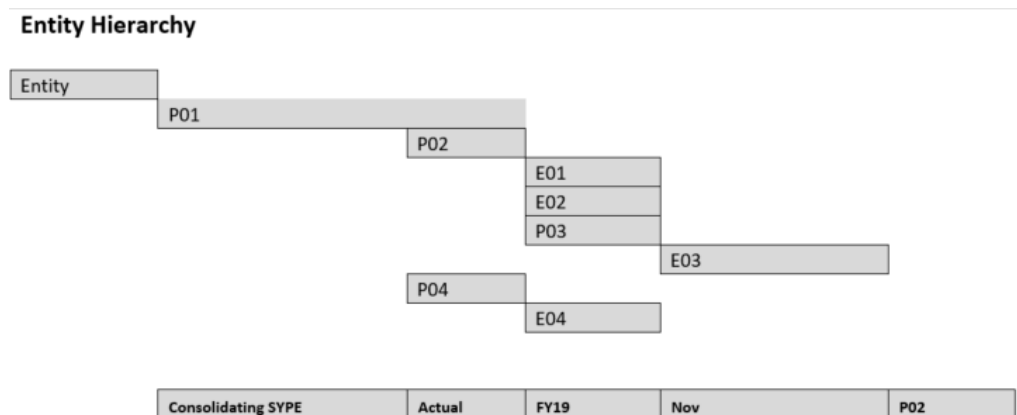
```
{Period},@IDESCENDANTS({Entity})) ;
)
ENDFIX
```

このスクリプトでは、オンデマンド・ルールの実行中に提供された計算の実行時プロンプト値からのシナリオ、年、期間およびエンティティの値を使用します。

これは、親エンティティおよびそのすべての子孫を持つエンティティに影響します。

### その他のユース・ケース

次の例は、@FCCSImpactStatus 関数とその結果の別のユース・ケースを示しています。



このエンティティ階層を使用し、「実績/FY19/11月/P02」を連結して、@FCCSImpactStatus 関数を使用するとします:

**ユース・ケース 1:** @FCCSImpactStatus("Actual", "FY19", "Nov", "E03")

エンティティ E03 は P02 の子孫なので(シナリオ、年および期間は同じ)、影響はありません。

**ユース・ケース 2:** @FCCSImpactStatus("Actual", "FY19", "Nov", "E04")

エンティティ E04 は P02 の子孫ではありません。影響があります。

**ユース・ケース 3:** @FCCSImpactStatus("Actual", "FY19", "Dec", "E03")

エンティティ E03 は P02 の子孫ですが、12月 は 11月 より後の期間なので影響を受けません。

**ユース・ケース 4:** @FCCSImpactStatus("Actual", "FY19", "Oct", "E03")

影響はありません。「実績/FY19/11月/P02」を連結します。これは、P02 とそのすべての子孫(E03 を含む)が「実績/FY19/11月」で OK になることを意味します。

**ユース・ケース 5:** @FCCSImpactStatus("Actual", "FY19", "Oct", "E04")

影響があります。エンティティ E04 は P02 の子孫ではありません。

## Groovy ルールの使用

表 19-6 Groovy ルールについてさらに学習できる場所

目的	さらに学ぶ
Groovy ルールの実装時と使用時のベスト・プラクティスについて説明するビデオとチュートリアル の視聴	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">Groovy ビジネス・ルール・チュートリアル・ビデオ</a></li> <li>• <a href="#">Oracle EPM Cloud における Groovy を学ぶ</a></li> </ul>
Calculation Manager を使用した Groovy ビジネス・ルールの作成	<a href="#">Oracle Enterprise Performance Management Cloud Calculation Manager</a> での設計を参照してください
Groovy ルールの作成に使用される Java API への接続	<a href="#">Groovy ルールの Java API リファレンス</a> を参照してください
Calculation Manager を使用して、Groovy ビジネス・ルールまたはテンプレート用にスクリプトを編集します。	<a href="#">Oracle Enterprise Performance Management Cloud Calculation Manager</a> での設計を参照してください

## Groovy ビジネス・ルールについて

Groovy ビジネス・ルールを使用すると、通常のビジネス・ルールでは解決できないユース・ケースを解決する高度なルールを設計できます。たとえば、フォーム上のデータ値が事前定義済みのしきい値を超える場合に、そのデータの保存を禁止するルールを設計できます。

Financial Consolidation and Close のオンデマンド・ルールで Groovy ルールを使用できます。Groovy ルールは Calculation Manager で作成します。

Groovy スクリプトを作成し、EPM 自動化クライアントをクライアント・マシンにインストールせずに、Oracle Enterprise Performance Management Cloud 内で直接 EPM 自動化コマンドの選択を実行できます。Groovy およびサンプルのスクリプトを介して実行できる EPM 自動化コマンドの詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作』の [EPM 自動化をインストールしないコマンドの実行](#)および[サポートされているコマンド](#)を参照してください。

Oracle では、次の 2 つのタイプの Groovy ルールをサポートしています。

- 実行時プロンプト以外のコンテキストに基づいて実行時に計算スクリプトを動的に生成し、Oracle Essbase に対して実行される計算スクリプトを返すルール。
- データ検証を実行し、入力されたデータが会社のポリシーに違反する場合に操作を取り消すような純粋な Groovy ルール。

このチュートリアル・ビデオを見て、Groovy スクリプト言語を使用してコンテキスト固有の動的ビジネス・ルールを作成し、ビジネス・プロセス・フォームでの計算のパフォーマンスを改善する方法を学習します



[Groovy ルールを使用した変更済データの計算.](#)

## Groovy ルールの Java API リファレンス

Enterprise アプリケーションの場合、Groovy ルールを作成する際に Java API リファレンスを利用できます。

Java API リファレンスには、EPM Groovy オブジェクト・モデルの構文と動作を示す例も記載されています。

Java API リファレンスを確認するには、[Oracle Enterprise Performance Management Cloud の Groovy ルールの Java API リファレンス](#)を参照してください。

Financial Consolidation and Close では、Groovy の次のクラスはサポートされていません:

- `oracle.epm.api.model.AllocationParameters`
- `oracle.epm.api.model.AllocationParameters.AllocationMethod`
- `oracle.epm.api.model.AllocationParameters.BasisTimeSpanOption`
- `oracle.epm.api.model.AllocationParameters.DataLoadOption`
- `oracle.epm.api.model.AllocationParameters.NegativeBasisOption`
- `oracle.epm.api.model.AllocationParameters.RoundingMethod`
- `oracle.epm.api.model.AllocationParameters.SpreadSkipOption`
- `oracle.epm.api.model.AllocationParameters.TargetTimeSpanOption`
- `oracle.epm.api.model.AllocationParameters.ZeroAmountOption`
- `oracle.epm.api.model.AllocationParameters.ZeroBasisOption`
- `oracle.epm.api.model.CustomCalcParameters`
- `oracle.epm.api.model.CustomCalcParameters.DataLoadOption`
- `oracle.epm.api.model.DataMap`
- `oracle.epm.api.model.DynamicChildStrategy`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel`
- `oracle.epm.api.model.excel.InterestCalcMethod`
- `oracle.epm.api.model.excel.PaymentFrequency`
- `oracle.epm.api.model.excel.PaymentType`
- `oracle.epm.api.model.SmartPush`
- `oracle.epm.api.model.StrategicModel`

Financial Consolidation and Close では、Groovy の次のメソッドはサポートされていません:

- `oracle.epm.api.model.AllocationParameters.AllocationMethod.valueOf`
- `oracle.epm.api.model.AllocationParameters.AllocationMethod.values`
- `oracle.epm.api.model.AllocationParameters.BasisTimeSpanOption.valueOf`
- `oracle.epm.api.model.AllocationParameters.BasisTimeSpanOption.values`

- oracle.epm.api.model.AllocationParameters.DataLoadOption.valueOf
- oracle.epm.api.model.AllocationParameters.DataLoadOption.values
- oracle.epm.api.model.AllocationParameters.NegativeBasisOption.getValue
- oracle.epm.api.model.AllocationParameters.NegativeBasisOption.valueOf
- oracle.epm.api.model.AllocationParameters.NegativeBasisOption.values
- oracle.epm.api.model.AllocationParameters.RoundingMethod.getValue
- oracle.epm.api.model.AllocationParameters.RoundingMethod.valueOf
- oracle.epm.api.model.AllocationParameters.RoundingMethod.values
- oracle.epm.api.model.AllocationParameters.SpreadSkipOption.getValue
- oracle.epm.api.model.AllocationParameters.SpreadSkipOption.valueOf
- oracle.epm.api.model.AllocationParameters.SpreadSkipOption.values
- oracle.epm.api.model.AllocationParameters.TargetTimeSpanOption.getValue
- oracle.epm.api.model.AllocationParameters.TargetTimeSpanOption.valueOf
- oracle.epm.api.model.AllocationParameters.TargetTimeSpanOption.values
- oracle.epm.api.model.AllocationParameters.ZeroAmountOption.getValue
- oracle.epm.api.model.AllocationParameters.ZeroAmountOption.valueOf
- oracle.epm.api.model.AllocationParameters.ZeroBasisOption.getValue
- oracle.epm.api.model.AllocationParameters.ZeroBasisOption.valueOf
- oracle.epm.api.model.Application.getDataMap
- oracle.epm.api.model.Application.hasDataMap
- oracle.epm.api.model.Cube.clearPartialData
- oracle.epm.api.model.Cube.executeAsoAllocation
- oracle.epm.api.model.Cube.executeAsoCustomCalculation
- oracle.epm.api.model.Cube.executeCalcScript
- oracle.epm.api.model.CustomCalcParameters.setCreditMember
- oracle.epm.api.model.CustomCalcParameters.setDataLoadOption
- oracle.epm.api.model.CustomCalcParameters.setDebitMember
- oracle.epm.api.model.CustomCalcParameters.setOffset
- oracle.epm.api.model.CustomCalcParameters.setPov
- oracle.epm.api.model.CustomCalcParameters.setRoundDigits
- oracle.epm.api.model.CustomCalcParameters.setScript
- oracle.epm.api.model.CustomCalcParameters.setSourceRegion
- oracle.epm.api.model.CustomCalcParameters.setTarget
- oracle.epm.api.model.CustomCalcParameters.DataLoadOption.getValue
- oracle.epm.api.model.CustomCalcParameters.DataLoadOption.valueOf

- `oracle.epm.api.model.CustomCalcParameters.DataLoadOption.values`
- `oracle.epm.api.grid.DataGrid.Cell.setEdited`
- `oracle.epm.api.grid.DataGrid.Cell.setForceEditable`
- `oracle.epm.api.grid.DataGrid.Cell.setForceReadOnly`
- `oracle.epm.api.grid.DataGrid.Cell.setLocked`
- `oracle.epm.api.model.DataMap.createSmartPush`
- `oracle.epm.api.model.DataMap.equals`
- `oracle.epm.api.model.DataMap.execute`
- `oracle.epm.api.model.DataMap.getName`
- `oracle.epm.api.model.DataMap.hashCode`
- `oracle.epm.api.model.DataMap.toString`
- `oracle.epm.api.model.Dimension.saveMember`
- `oracle.epm.api.model.DynamicChildStrategy.valueOf`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.ACCRINT`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.ACCRINTM`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.AMORDEGRC`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.AMORLINC`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.COUPDAYBS`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.COUPDAYS`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.COUPDAYSNC`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.COUPNCD`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.COUPNUM`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.COUPPCD`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.CUMIPMT`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.CUMPRINC`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.DATEDIF`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.DB`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.DDB`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.DISC`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.DOLLARDE`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.DOLLARFR`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.DURATION`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.EDATE`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.EFFECT`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.EOMONTH`

- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.FV`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.FVSCCHEDULE`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.INTRATE`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.IPMT`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.IRR`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.ISPMT`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.MDURATION`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.MIRR`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.NETWORKDAYS`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.NOMINAL`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.NPER`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.NPV`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.pbcsValueToDate`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.PMT`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.PPMT`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.PRICE`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.PRICEDISC`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.PRICEMAT`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.PV`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.RATE`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.RECEIVED`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.serialToDate`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.SLN`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.SYD`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.TBILLEQ`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.TBILLPRICE`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.TBILLYIELD`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.WORKDAY`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.XIRR`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.XNPV`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.YEARFRAC`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.YIELD`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.YIELDDISC`
- `oracle.epm.api.model.excel.Excel.YIELDMAT`
- `oracle.epm.api.model.excel.InterestCalcMethod.valueOf`

- `oracle.epm.api.model.excel.InterestCalcMethod.values`
- `oracle.epm.api.model.Member.delete`
- `oracle.epm.api.model.Member.deleteDynamicMember`
- `oracle.epm.api.model.excel.PaymentFrequency.valueOf`
- `oracle.epm.api.model.excel.PaymentFrequency.values`
- `oracle.epm.api.model.excel.PaymentType.valueOf`
- `oracle.epm.api.model.excel.PaymentType.values`
- `oracle.epm.api.model.SmartPush.execute`
- `oracle.epm.api.model.SmartPush.getName`
- `oracle.epm.api.model.SmartPush.toString`
- `oracle.epm.api.model.StrategicModel.close`
- `oracle.epm.api.model.StrategicModel.dataGridBuilder`
- `oracle.epm.api.model.StrategicModel.dataGridDefinitionBuilder`
- `oracle.epm.api.model.StrategicModel.loadGrid`
- `oracle.epm.api.model.StrategicModel.saveGrid`
- `oracle.epm.api.model.Application.getStrategicModel`
- `oracle.epm.api.grid.DataGrid.getSmartPush`
- `oracle.epm.api.grid.DataGrid.getSmartPushes`

## Groovy ビジネス・ルールの例

Groovy スクリプトの例が使用可能です。

Groovy スクリプトの例を参照するには:

1. Oracle Enterprise Performance Management Cloud の Groovy ルールに関する Java API リファレンス (<http://docs.oracle.com/cloud/latest/epm-common/GROOV/>) を参照してください。
2. 次のいずれかを行います:
  - メイン・ページの「**Example Groovy Scripts**」で、「[ここ](#)」という語をクリックしてサンプル・スクリプトを表示します。  

  - 左ペインの「**All Classes**」で、クラスをクリックすると、そのクラスの例が表示されます。  
 たとえば、戦略モデリングの例を表示するには、左のペインで「**StrategicModel**」クラスをクリックします。



## Groovy ビジネス・ルール・チュートリアル・ビデオ

Groovy ビジネス・ルールを実装および使用する際の詳細およびベスト・プラクティスは、これらのチュートリアル・ビデオをご覧ください。

目的	次のビデオの視聴
Oracle Enterprise Performance Management Cloud で Groovy ルールを作成するためのトレーニング・オプションを確認します:	 <a href="#">Oracle EPM Cloud での Groovy を学ぶ</a>
Groovy ルールおよびスマート・プッシュを使用して、ソース・ロケーションからターゲット・ロケーションにデータをプッシュします。	 <a href="#">Groovy ルールとスマート・プッシュを使用した変更済データの移動</a>
ビジネス・プロセスにフォーカス済計算スクリプトを生成し、データ入力フォーム全体ではなく、編集されたデータのみを計算します。	 <a href="#">Groovy ルールを使用した変更済データの計算</a>
データ管理で、Groovy ルールを使用して増分ロードされたデータを計算します。	 <a href="#">データ管理での Groovy ルールを使用した増分ロードされたデータの計算</a>
Groovy テンプレートを使用して、ユーザー・アクションのユーザビリティおよび計算パフォーマンスを改善します。	 <a href="#">Groovy テンプレートを使用したパフォーマンスを改善するためのアクションのカスタマイズ</a>

## Groovy スクリプトを使用した Financial Consolidation and Close シード済ルールの実行

オンデマンド・ルール(ODR)を使用すると、連結または変換プロセスの外部で計算を実行できます。これは、ビジネス要件に連結合計が必要ない状況で役に立ちます。また、オンデマンド・ルールは非常に効率的であり、迅速な計算ニーズに大変役立ちます。次の例は、オンデマンド・ルールを使用して Groovy スクリプト・ルールを記述する方法を示しています。

### アプローチ 1 - EPM Cloud ベースの名前付き接続の使用

1. EPM Cloud ベースの新しい接続を作成します。
2. /HyperionPlanning で終わる URL を指定します。
3. サービス管理者資格証明を指定します。
4. ドメイン名を指定します。
5. 「検証」をクリックして接続を検証します。
6. 「保存して閉じる」をクリックします。

## Manage Connections

Type	Name	Application
	Consolidation Application EPM Cloud Jobs UI	Financial Consolidation and Close EPM Cloud

### Enter Connection Details









Oracle Enterprise Performance Management Cloud  
Change Provider

Connection Name: Consolidation Application


Description: EPM Cloud Jobs UI


URL: oraclecloud.com HyperionPlanning

Service Administrator: 

Password: 

Application Type: Financial Consolidation and Close

Domain: 


Application Name: 

## Groovy スクリプトの例 1

System View TranslateGroovy

Actors Edit Edit Script













```

1 /*RTPS: {Scenario} {Years} {Period} {Entity}*/
2
3 String sScenario = rtps.Scenario.toString()
4 String sYears = rtps.Years.toString()
5 String sPeriod = rtps.Period.toString()
6 String sEntity = rtps.Entity.toString()
7
8 HttpResponse<String> jsonResponse = operation.application.getConnection("Consolidation Application").post("/rest/v3/applications//jobs")
9     .header("Content-Type", "application/json")
10     .body(json{"jobtype": "Rules", "jobName": "Translate",
11 "parameters":
12 {
13 "Currency": "USD_Reporting",
14 "Scenario": "${sScenario}",
15 "Entity": "${sEntity}",
16 "Year": "${sYears}",
17 "Period": "${sPeriod}"
18 }
19 })}.asString()

```

Variables Script Usages Errors & Warnings

Use two column layout

Name	Scope	Is Hidden	Value	Use As Override Value	RTP Group	Validation value	Allow #Missing	Security
Consolidation	Rule	<input checked="" type="checkbox"/>	 PCCS_Entity In	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	Use Default
Currency	Rule	<input checked="" type="checkbox"/>	 Entity Currenc	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	Use Default
Entity	Rule	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	Use Default
Period	Rule	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	Use Default
Scenario	Rule	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	Use Default
Years	Rule	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	Use Default

```

/*RTPS: {Scenario} {Years} {Period} {Entity}*/
String sScenario = rtps.Scenario.toString()
String sYears = rtps.Years.toString()
String sPeriod = rtps.Period.toString()
String sEntity = rtps.Entity.toString()
HttpResponse<String> jsonResponse =
operation.application.getConnection("Consolidation
Application").post("/rest/v3/applications/<AppName>/jobs")

```

```


.header("Content-Type", "application/json")
.body(json(["jobType" : "Rules", "jobName" : "Translate",
"parameters":
[
"Currency":"USD_Reporting",
"Scenario":"${sScenario}",
"Entity":"${sEntity}",
"Year":"${sYears}",
"Period":"${sPeriod}"
]
])).asString()

```

## アプローチ 2 - 他の Web サービス・プロバイダの名前付き接続の使用


1. 他の Web サービス・プロバイダ・ベースの新しい接続を作成します。
2. /HyperionPlanning/rest/v3/applications/<AppName>/jobs の完全な URL を指定します。
3. Groovy ルールの実行に使用するユーザー資格証明を指定します。
4. 「保存して閉じる」をクリックします。


**Manage Connections**

Type	Name	Application
	Jobs EPM Cloud Jobs	Other Web Service Provider

4. Save and Close

---

**Enter Connection Details**  Save and Close Cancel

  
Other Web Service Provider

Connection Name:

Description:

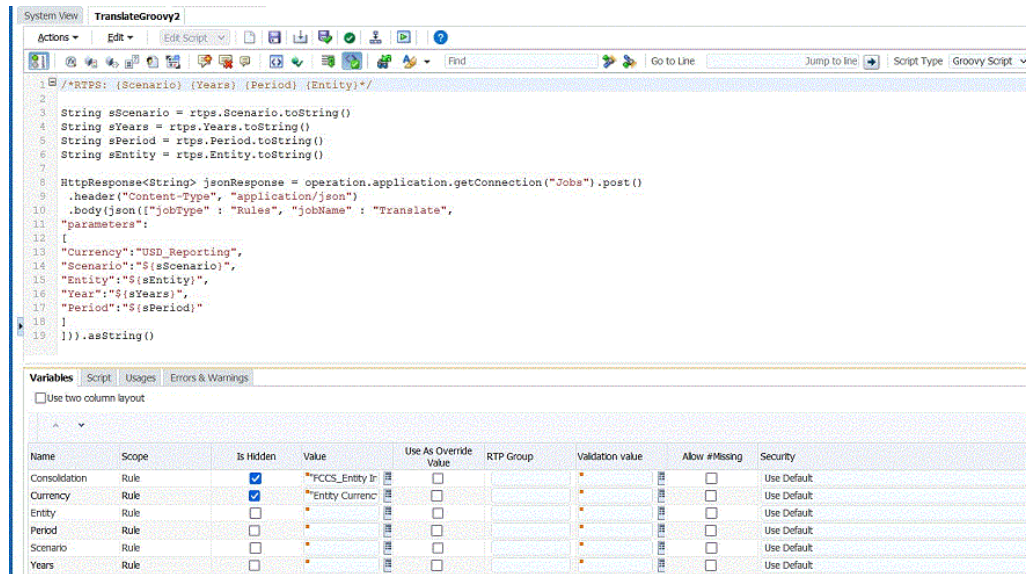
URL:

[Show Advanced Options](#)

User:

Password:

## Groovy スクリプトの例 2



```

/*RTPS: {Scenario} {Years} {Period} {Entity}*/
String sScenario = rtps.Scenario.toString()
String sYears = rtps.Years.toString()
String sPeriod = rtps.Period.toString()
String sEntity = rtps.Entity.toString()
HttpResponse<String> jsonResponse =
operation.application.getConnection("Jobs").post()
    .header("Content-Type", "application/json")
    .body(json({"jobType" : "Rules", "jobName" : "Translate",
"parameters":
[
"Currency":"USD_Reporting",
"Scenario":"${sScenario}",
"Entity":"${sEntity}",
"Year":"${sYears}",
"Period":"${sPeriod}"
]
})).asString()

```

前述のいずれかのアプローチを使用して接続を作成した後は、ルール・カードまたはジョブから、あるいは EPM 自動化を使用して、Groovy ベースのルールを実行できます。

## FCCS\_YTD メンバーにデータを入力するための Groovy ルールを使用したプロトタイプ

Financial Consolidation and Close のフォームに年次累計(YTD)データを入力して表示するには、通常、フォームの設計に YTD\_Input と YTD の 2 つのビュー・メンバーを含める必要があります。この要件は、フォームの設計を複雑にする可能性があります。次の例では、Groovy スクリプトを利用してこの要件を排除し、フォームに YTD ビュー・メンバーのみが含まれるようにして、Groovy スクリプトで入力データを正しく管

理します。この方法を使用すると、管理しやすいフォームの設計および表示が可能になります。

FCCS\_YTD メンバーにデータを直接入力するための Groovy ルールを作成するには:

1. Calculation Manager に「PreFormLoad」という名前のオンデマンド・ルールを追加します。
2. オンデマンド・ルールのスクリプト・タイプを「Groovy スクリプト」に変更します。
3. PreFormLoad ルールに次のコードを追加します:

```
operation.grid.dataCellIterator("FCCS_YTD").each { DataCell cell -> if (!
cell.crossDimCell("FCCS_YTD_Input") &&
cell.isReadOnly())cell.forceEditable=true}
```

4. PreFormLoad ルールを保存して検証します。
5. 次のように、PreFormLoad ルールにデフォルトの実行時プロンプト値を指定します:
  - **連結:** Entity Input
  - **通貨:** Entity Currency
  - **エンティティ:** FCCS\_Global Assumptions
  - **期間:** Jul
  - **シナリオ:** Actual
  - **年:** FY19
6. PreFormLoad ルールの 6 つの実行時プロンプトすべてに対して、「**非表示**」オプションおよび「**オーバーライド値として使用**」オプションを選択します。
7. PreFormLoad ルールを保存、検証およびデプロイします。
8. Calculation Manager に「PreFormSave」という名前のオンデマンド・ルールを追加します。
9. オンデマンド・ルールのスクリプト・タイプを「Groovy スクリプト」に変更します。
10. PreFormSave ルールに次のコードを追加します:

```
def app = operation.application
Cube cube = operation.cube
Member ytdInputMember =
app.getDimension(DimensionType.VERSION).getMember("FCCS_YTD_Input")
Collection<DataCell> pendingYtdCells =
operation.grid.dataCellIterator("FCCS_YTD").findAll {DataCell ytd -> if
(ytd.edited) {
def ytdInput = ytd.crossDimCell(ytdInputMember.name)
ytdInput?.formattedValue = ytd.formattedValue
ytd.setEdited(false)
return ytdInput == null
}
}
if (pendingYtdCells) {
DataGridBuilder builder = cube.dataGridBuilder("MM/DD/YYYY")
Set<String> allDimNames = set(app.getDimensions(cube)*.name)
List<String> rowDimNames = set((allDimNames -
```

```

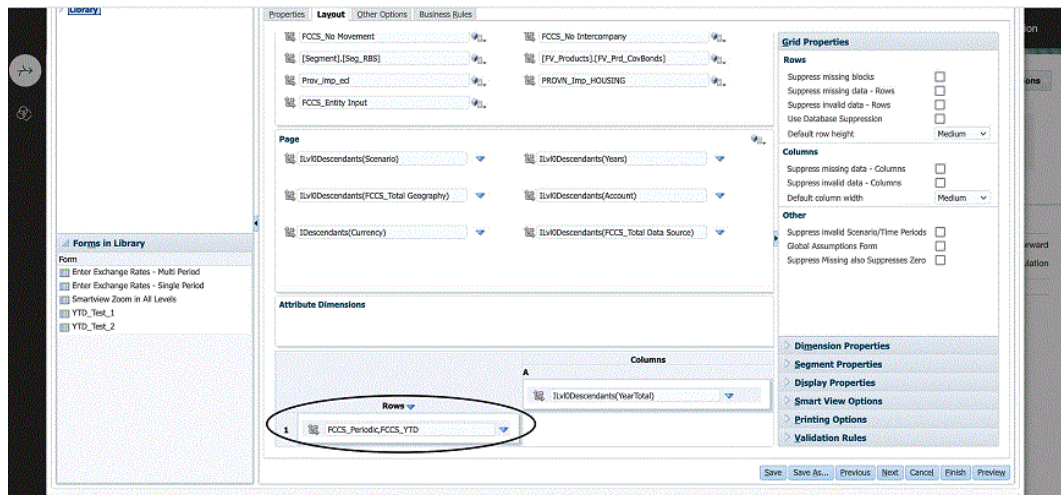
operation.grid.pov*.dimName) - [ytdInputMember.dimension.name]) as
List
builder.addPov(operation.grid.pov.findAll({it.dimName !=
ytdInputMember.dimension.name})*.uniqueMbrName as String[])
builder.addColumn(ytdInputMember.name)
pendingYtdCells.each {DataCell cell ->
builder.addRow(rowDimNames.collect
{cell.getMemberName(it, MemberNameType.UNIQUE_NAME)},
[cell.formattedValue])}
DataGridBuilder.Status status = new DataGridBuilder.Status()
builder.build(status).withCloseable {grid -> cube.saveGrid(grid)}
}
Set<String> set(Collection<String> names) {
Set<String> set = new TreeSet<>(String.CASE_INSENSITIVE_ORDER)
set.addAll(names)
return set
}

```

11. PreFormSave ルールを保存して検証します。
12. 次のように、PreFormSave ルールにデフォルトの実行時プロンプト値を指定します:
  - **連結:** Entity Input
  - **通貨:** Entity Currency
  - **エンティティ:** FCCS\_Global Assumptions
  - **期間:** Jul
  - **シナリオ:** Actual
  - **年:** FY19
13. PreFormSave ルールの 6 つの実行時プロンプトすべてに対して、「**非表示**」オプションおよび「**オーバーライド値として使用**」オプションを選択します。
14. PreFormSave ルールを保存、検証およびデプロイします。
15. 次のように、行に「FCCS\_Periodic」と「FCCS\_YTD」がある「YTD\_Test\_1」という名前のフォームを追加します:

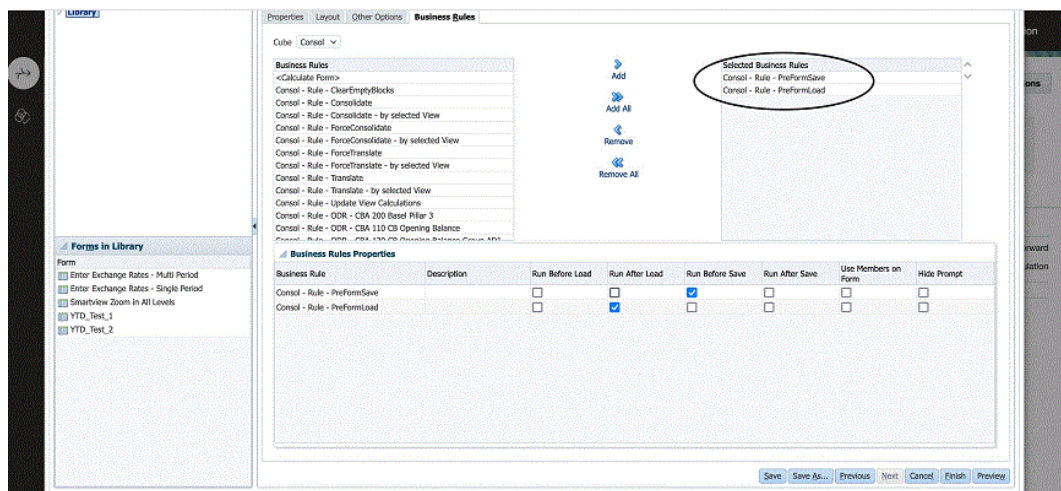
#### YTD フォームのサンプル





16. 「ビジネス・ルール」タブをクリックし、「Consol - Rule - PreFormSave」と「Consol - Rule - PreFormLoad」を右側に移動します。「Consol - Rule - PreFormSave」ルールに対して「保存前に実行」を選択し、「Consol - Run - PreFormLoad」ルールに対して「ロード後に実行」を選択します。画面は次のように表示されます:

#### ビジネス・ルールのサンプル



17. 保存して「終了」をクリックします。

ノート: これらのステップにより、「Actual / FY19 Jul FCCS\_Global Assumptions」データが「変更」としてマークされます。プロセス単位が開始され、ロックが解除された状態になっていることを確認します。これはこのプロトタイプにのみ適用されます。実際の実装には、これらの制限はありません。

18. 「YTD\_Test\_1 form」を開き、次のように FCCS\_YTD に値を追加します:

#### YTD 値のサンプル



**YTD\_Test\_1**

Actions Save Refresh

Movement	Intercompany	Department and Segment	Industry	CreditRisk and Aging	Product and Other	Consolidation	Scenario	Years	Entity													
FCCS_No Movement	FCCS_No Intercompany	Seg_RBS	FV_Prd_CovBonds	Prov_imp_sct	PROVN_imp_HOUSING	FCCS_Entity Input	Actual	FY19	GROUP_USPA	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	
FCCS_Periodic																						
FCCS_YTD										100	300	600										

Row Column Dec: This cell is read-only

19. フォームを保存します。FCCS\_Periodic には、次のような対応する期別価額が移入されます:

**移入された YTD フォームのサンプル**

**YTD\_Test\_1**

Actions Save Refresh

Movement	Intercompany	Department and Segment	Industry	CreditRisk and Aging	Product and Other	Consolidation	Scenario	Years	Entity													
FCCS_No Movement	FCCS_No Intercompany	Seg_RBS	FV_Prd_CovBonds	Prov_imp_sct	PROVN_imp_HOUSING	FCCS_Entity Input	Actual	FY19	GROUP_USPA	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	
FCCS_Periodic										100	200	300										
FCCS_YTD																						

Row Column Nov: This cell is read-only

## 承認ユニット階層の管理

次も参照:

- [承認ユニット階層の作成](#)
- [承認ユニット階層の編集](#)
- [承認ユニット階層の使用状況の表示](#)
- [承認ユニット階層の同期](#)
- [承認ユニット階層の削除および名前変更](#)
- [承認ユニット階層のエクスポート](#)
- [承認ユニット階層のインポート](#)

## 承認ユニット階層の作成

管理者は、承認プロセスを設定して、確認の目的のためにデータを承認ユニットに編成できます。[承認プロセスの管理](#)を参照してください。

承認ユニット階層には、承認プロセスの対象となるエンティティが含まれます。承認ユニットは、シナリオ、年、期間およびエンティティで構成されます。

承認ユニット階層を作成、変更または削除するには、サービス管理者である必要があります。

承認ユニット階層についてさらに学習するには、次のビデオをご覧ください:




[承認ユニット階層の管理](#)



[Oracle Financial Consolidation and Close での承認ユニット階層の設定](#)

承認ユニット階層を作成するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「ワークフロー」で「承認ユニット」をクリックします。
3. 「作成」をクリックします。
4. 承認名、承認オプションおよびテンプレートで階層を設定します。  
[承認ユニット階層の設定](#)を参照してください。
5. 承認プロセスに含めるメンバーを選択します。  
[承認ユニット階層のメンバーの選択](#)を参照してください。
6. 承認プロセスの各ステージの所有者と確認者を割り当て、承認ユニットの移動パスを作成します。  
[承認ユニットの所有者と確認者の割り当て](#)を参照してください。


7. 「保存」をクリックします。

## 承認ユニット階層の設定

承認ユニット階層を作成する場合、承認テンプレートを選擇できます。

- **連結—ロックとロック解除のみに使用されます。**アプリケーションが作成されると、**地域合計**という名前の承認ユニット階層が自動的に作成されます。この承認ユニット階層には、**地域合計**階層の下にあるすべてのエンティティが格納されます。この承認ユニット階層に割り当てられる承認テンプレートは「**連結**」です
- **連結-ボトム・アップ—承認プロセスで使用されます。**
- **連結 - 承認とロックの分離—承認プロセスとロック・プロセスを異なるユーザーが実行できるようにします。**あるユーザーのグループをエンティティの承認のために割り当て、別のユーザーのグループをエンティティのロックのために割り当てることができます。

承認ユニット階層を設定するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「ワークフロー」で「承認ユニット」をクリックします。
3. 新しい階層を作成するには、「作成」をクリックします。既存の階層を編集するには、階層を選択して「編集」をクリックします。
4. 「承認ディメンション」を選択します。
5. 「階層名」で、承認ユニット階層名を指定します。
6. オプション: 説明を入力します。
7. 「承認の使用可能」で、オプションを選択します。
  - **すべて—**すべての承認ユニットを承認プロセスに追加します
  - **カスタム—**個別の承認ユニットおよび、親メンバーおよび世代の条件に基づく承認ユニットを追加できるフィールドを追加します。
  - **なし—**この場合、どのエンティティも承認ユニットとして自動的に含まれません。階層に含めるエンティティを手動で選擇できます。
8. 「承認テンプレート」で、テンプレートを選択します。
9. 「キューブ」では、デフォルト設定の Consol のままにします。
10. 「拡張承認フロー」で、オプションを選択します。
  - **なし—**承認ワークフローではエンティティ・ディメンションのみが使用され、セカンダリ・ディメンションまたは承認グループは使用されません。エンティティ・メンバーの選擇は「**プライマリ・メンバーの選擇**」タブで行います。
  - **セカンダリ—**承認ワークフローではセカンダリ・ディメンションが使用されます。メンバーの選擇は「**プライマリおよびサブ階層の選擇**」タブで行います。
  - **承認グループ—**承認グループを承認ワークフローに割り当てることができます。「承認グループの割当」タブで承認グループを作成することや、既存の承認グループを選択することもできます。[承認フェーズの管理](#)を参照してください。このオプションは、「**連結-ボトム・アップ**」テンプレートが選擇されている場合にのみ使用できます。



11. オプション: 「すべてのレベルでの拡張承認フローの適用」の選択—(このオプションは、「セカンダリ」または「承認グループ」オプションが選択されている場合にのみ使用できます。)「拡張承認フロー」オプションを承認ユニット階層のすべてのレベルに適用します。
12. オプション: 「段階依存」の選択—(このオプションは、「セカンダリ」または「承認グループ」オプションが選択されている場合にのみ使用できます。)定義したエントリの順序に基づいて段階的に承認ワークフローを送信する必要があります。  
  
たとえば、リストの最初のエントリは、2 番目のエントリより先に移動する必要があります。両方のエントリは同じレベルにできますが、2 番目のエントリを最初のエントリより先に移動することはできません。そのため、エントリの順序が重要です。順序は上下の矢印を使用して並べ替えることができます。
13. 次のいずれかを実行します:
  - 「拡張承認フロー」で「なし」を選択した場合、承認ユニット階層のメンバーの選択は「プライマリ・メンバーの選択」タブで行います。「次」をクリックするか、「プライマリ・メンバーの選択」タブを選択します。
  - 「拡張承認フロー」で「セカンダリ」を選択した場合、「プライマリおよびサブ階層の選択」タブで承認ユニット階層のメンバーを選択します。「次」をクリックするか、「プライマリおよびサブ階層の選択」タブを選択します。
  - 「拡張承認フロー」で「承認グループ」を選択した場合、「承認グループの割当」および「プライマリ・メンバーの選択」タブで承認ユニット階層の承認グループおよびメンバーを選択します。「次」をクリックするか、「承認グループの割当」タブを選択します。
  - 「保存」、「OK」の順にクリックして、変更を保存し、承認ユニット階層を閉じます。

## 承認ユニット階層のメンバーの選択

前の「承認ディメンション」タブの「拡張承認フロー」で選択したオプションに応じて、「プライマリ・メンバーの選択」タブまたは「プライマリおよびサブ階層の選択」タブで承認ユニット階層のメンバーを選択します。

承認ユニット階層のメンバーを選択するには:

1. 次のいずれかを実行します:
    - 「承認ディメンション」から、「次」をクリックするか、「プライマリ・メンバーの選択」タブまたは「プライマリおよびサブ階層の選択」タブを選択して、承認ユニット階層の定義を続行します。
    - 「ナビゲータ」アイコンをクリックし、「ワークフロー」で、「承認ユニット」をクリックします。承認ユニット階層を選択し、「編集」をクリックしてから、「プライマリ・メンバーの選択」または「プライマリおよびサブ階層の選択」を選択してメンバーを編集します。
- ノート:
- 承認ユニット階層メンバーの選択中ならどの時点でも、「デフォルトの階層にリセット」をクリックして、それを「承認ディメンション」ページで定義したデフォルトのメンバーシップにリセットできます。
  - 共有メンバーは承認ユニット階層内に表示されません。
2. 承認ユニット階層でエンティティを表示する方法を定義します。
    - 表示を展開するには、右クリックして「展開」を選択します。

- 表示を縮小するには、右クリックして「**縮小**」を選択します。
  - 選択に使用可能なすべてのエンティティを表示するには、「**すべてのエンティティ**」を選択します。
  - 前に有効化した承認ユニットのみを表示するには、「**承認ユニット**」を選択します。
  - 「**検索**」で、「**名前**」、「**別名**」または「**両方**」を選択します。エンティティを検索するために「検索」に名前の一部または全部を入力し、階層で「上方向に検索」または「下方向に検索」をクリックします。
  - 複数ページの承認ユニット階層内でページ間を移動するには、「**ページ**」にページ番号を入力して「**実行**」をクリックするか、「**開始**」(最初のページ)、「**前へ**」(前のページ)、「**次**」または「**終了**」(最後のページ)をクリックします。
3. **オプション:** 承認プロセスの対象としてのデフォルト設定に含まれない承認ユニットの場合、承認ユニット名の左側にあるボックスを選択することで、これを承認プロセスの対象に含めることができます。
  4. **オプション:** 承認ユニット名を右クリックして承認プロセスのサブ階層メンバーを定義し、「**含める/除外する**」の 1 つのオプションを選択します。
    - **子を含む:** 承認ユニットの子を含めます。
    - **メンバーを含む:** 承認ユニットのみを含め、子孫は含めません。
    - **すべての子孫を含む:** 承認ユニットのすべての子孫を含めます。
    - **世代を含む:** 承認ユニットの 1 つ以上の世代を含めます。プロンプトが表示された後、含める世代を指定します。
    - **子を除外:** 承認ユニットの子を除外します。
    - **メンバーを除外:** 承認ユニットのみを除外し、子孫は除外しません。
    - **すべての子孫を除外:** 承認ユニットのすべての子孫を除外します。
    - **世代を除外:** 承認ユニットの世代を除外します。プロンプトが表示された後、除外する世代を指定します。
  5. 前の「**承認ディメンション**」タブの「**拡張承認フロー**」で「**セカンダリ**」を選択した場合、承認プロセスの対象に含まれている承認ユニットにセカンダリ・ディメンションを追加して、粒度を上げることができます。
    - a. 「**ディメンション**」からディメンションを選択します。
    - b. 「**親メンバー**」で、 をクリックしてメンバー選択ウィンドウを表示し、そのディメンションの親メンバーとしてメンバーを 1 つ選択します。
    - c. 「**相対的な世代**」で、含める親メンバー世代を指定します。  
世代を追加すると、この世代のすべてのメンバーが承認プロセスに追加されます。
    - d. 検索条件を満たす承認ユニット階層に、新たに追加されたメンバーを自動的に含めるには、「**自動組込み**」を選択します。
    - e. **オプション:** 含めるメンバーを絞り込むには、承認ユニットの「**選択したメンバー**」で  をクリックします。メンバーを削除するには、メンバーの横にあるチェック・ボックスをクリアします。
  6. 次のいずれかを実行します:



- 「次」をクリックするか、「所有者の割当て」を選択して、承認ユニット所有者を指定します。
- 「保存」、「OK」の順にクリックして、変更を保存し、承認ユニット階層を閉じます。

## 承認ユニットの所有者と確認者の割当て

承認ユニットの所有者は、承認ユニットの親から継承されます。承認ユニットの確認者も継承されます。承認ユニットの所有者と確認者は、承認ユニットから継承される者とは別に指定できます。

所有者を割り当てる際、「所有者を対応する承認グループ・メンバーにコピー」オプションがデフォルトで有効になっています。このオプションを使用すると、すべてのフェーズに同じ所有者を割り当てることができます(該当する場合)。異なるフェーズに異なる所有者が必要な場合は、エンティティの所有者情報を入力する前に、このオプションを選択解除できます承認ユニットの所有者と確認者を割り当てるには、サービス管理者である必要があります。

- **所有者**の場合、承認ユニットの所有者として 1 つのユーザーまたはグループを割り当てる必要があります。所有者は、承認ユニット階層の最上位エンティティに割り当てる必要があります。
- **確認者**の場合、承認ユニットの確認者として 1 つ以上のユーザーまたはグループを割り当てることができます。

個別ユーザーを確認者として選択する場合、すべてのユーザーが承認アクションを実行する必要があります。承認はユーザーが入力した順番に従う必要があります。グループ(複数可)を確認者として選択する場合、グループ内のユーザーは確認者になることができ、次のレベルに移行できます。

承認ユニットの所有者と確認者を割り当てるには:

1. すべてのフェーズに同じ所有者を割り当てない場合は、「所有者を対応する承認グループ・メンバーにコピー」オプションを選択解除します。
2. 次のいずれかを実行します:
  - 「プライマリ・メンバーの選択」タブまたは「プライマリおよびサブ階層の選択」タブから、「次」をクリックするか、「所有者の割当て」タブを選択して、承認ユニット階層の定義を続行します。
  - 「ワークフロー」を選択してから、「承認ユニット」を選択して承認ユニット階層を編集します。

3. 承認ユニットを選択し、「所有者」で「所有者の選択」アイコンをクリックして所有者を検索および選択します。


1 つの承認ユニットに割り当てることができる所有者は 1 人のみです。ユーザーまたはグループのいずれかが所有者になることができます。「ユーザー」タブを選択し、個別のユーザーを所有者として割り当てます。「グループ」タブを選択し、グループを所有者として割り当てます。

4. 「確認者」で、「検索」をクリックし、承認ユニット確認者を選択します。

確認者には、個々のユーザー、単一のグループまたは複数のグループを指定できます。「ユーザー」タブを選択し、個別ユーザーを確認者として割り当てます。「グループ」タブを選択し、単一のグループまたは複数のグループを確認者として割り当てます。

 ノート:

確認者が個別ユーザーの場合、確認者に承認ユニットを確認させる順序で確認者を選択します。リスト内の最初の確認者が、承認ユニットに対して最初に作業を行うユーザーです。最初の確認者が承認ユニットを上位へ移動すると、2 番目に選択した確認者が承認ユニット所有者になり、それ以降も、作成した確認者のリストに従って順番に確認が行われます。

5. 「移動パス」で、 をクリックしてエンティティの承認ユニットの移動パスを表示し、それが正しいかどうかを確認して、エラーがあれば修正します。  
  
エンティティを承認およびロックする場合、そのエンティティは、移動パスを経由してパス内の最後の所有者または確認者に到達している必要があります。移動パスの最後の所有者/確認者のみが、エンティティを承認またはロックできます。
6. オプション: 「ユーザーに通知」で、「検索」をクリックして、承認ユニットで承認アクションが実行されるたびに通知するユーザーを選択します。  
  
通知を受信するためには、通知対象のユーザーは、電子メール ID を設定し、「ユーザー・プリファレンス」で承認通知を有効にする必要があります。Oracle Financial Consolidation and Close Cloud の操作の通知の電子メールの設定に関する項を参照してください
7. オプション: 他の承認ユニットについてこれらのステップを繰り返して、継承された所有者または確認者を変更します。
8. 「保存」をクリックして作業を保存し、続行するか、「OK」をクリックして作業を保存し、承認ユニット階層を閉じます。



## シナリオへの承認ユニット階層の割当て

承認ユニットを定義したら、シナリオ、年および期間の特定の組合せに承認ユニット階層を割り当てることができます。選択に使用できるのは、メタデータで承認が有効化されているシナリオのみです。

 ノート:

特定のシナリオ/年/期間には、1 つの承認ユニット階層のみを割り当てます。同じシナリオ/年/期間に複数の承認ユニット階層を割り当ててはできません。

承認ユニット階層をシナリオ、年および期間の組合せに割り当てするには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「ワークフロー」で「承認ユニット割当て」をクリックします。
3. シナリオ、年および期間の割当てを追加します。
  - a. 承認ユニットの「アクション」列で  をクリックします。
  - b. 「シナリオ」列のドロップダウンから、承認ユニット階層に関連付けるシナリオを選択します。



- c. 「年」列のドロップダウンから、承認ユニット階層に関連付ける年を選択します。
- d. 「期間」列のドロップダウンから、承認ユニット階層に関連付ける期間を選択します。一度に複数の期間(実績、FY19、1月、2月、3月など)を選択できます。
- e. 「OK」をクリックします。  
新規割当て行が表示されます。

 ヒント:


割当てを削除するには、「削除」 をクリックします。

4. 「保存」をクリックし、割当てを保存して続行します。

## 承認ユニット階層の編集

承認ユニット階層を編集するには、サービス管理者である必要があります。


承認階層を編集するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「ワークフロー」で「承認ユニット」をクリックします。
3. 承認ユニット階層を選択して、「編集」をクリックします。
4. 変更を行うための適切なタブを選択します。
  - **承認ディメンション**  
[承認ユニット階層の設定](#)を参照してください。
  - **プライマリおよびサブ階層の選択**  
[承認ユニット階層のメンバーの選択](#)を参照してください。
  - **所有者の割当て**  
[承認ユニットの所有者と確認者の割当て](#)を参照してください。
  - **使用状況**  
[承認ユニット階層の使用状況の表示](#)を参照してください。
5. 完了後、「保存」をクリックします。

## 承認ユニット階層の使用状況の表示

承認ユニット階層には、シナリオ、年および期間の割当て、データ検証ルールなど、フォームに定義された依存関係がある可能性があります。承認ユニット階層に依存関係がある場合、その依存関係が削除されるまで階層は削除できません。「使用状況」タブに、承認ユニット階層が表示されるため、必要に応じて依存関係を参照および削除できます。

承認ユニット階層の使用状況を表示するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。

2. 「ワークフロー」で「承認ユニット」をクリックします。
3. 承認ユニット階層を選択して「編集」をクリックし、「使用状況」を選択して、承認ユニット階層の依存関係を表示します。
4. 「フォーム」を選択して、フォームで関連付けられたデータ検証ルールを表示するか、「承認ユニット割当て」を選択して、関連付けられたシナリオ割当てを表示します。
  - データ検証ルールが関連付けられている場合、フォームごとにリストされます。リンクをクリックすると、フォームが新しいタブに編集モードで表示されます。その後、ルールを更新または削除して、階層から関連付けを解除できます。
  - シナリオ、年および期間の組合せが関連付けられている場合、シナリオごとにリストされます。リンクをクリックすると、割当てが新しいタブに表示されます。その後、割当てを削除して、階層から関連付けを解除できます。
5. 依存関係を削除する場合、「使用状況」タブの「リフレッシュ」をクリックしてリストをリフレッシュします。
6. 承認ユニット階層を削除する場合、すべての依存関係が削除されるまでこれらのステップを繰り返します。


## 承認ユニット階層の同期

承認ユニット階層で使用されているディメンション・メンバーを追加、削除または変更する場合、影響を受ける承認ユニット階層をこの変更と同期させる必要があります。承認ユニット階層のリストを表示する場合、各承認ユニット階層のエントリには、最新の変更が承認ユニット階層に反映されているかどうかを示されます。この手順を使用して、承認ユニット階層をディメンション・メンバーの変更と同期させます。

### ノート:

ディメンション・メンバーを追加する場合、ディメンション・メンバーが承認ユニットとして追加されるのは、承認ユニット階層の組込みルールの基準をこれらが満たす場合のみです。たとえば、追加したエンティティが第 4 世代のエンティティであるときに、第 1 世代から第 3 世代までが承認ユニットであると組込みルールに指定されている場合、エンティティは承認ユニットとして追加されません。ただし、このエンティティが第 3 世代のメンバーである場合は、承認ユニット階層が次回に編集、保存または同期されるときに、承認ユニットとして追加されます。

承認ユニット階層を変更と同期させるには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックし、「ワークフロー」で、「承認ユニット」をクリックします。
2. 「同期済」列では、承認ユニット階層に次のようなラベルが付きます。
  - **同期済**-変更は承認ユニット階層と同期されます
  - **未同期**-変更は承認ユニット階層と同期されません
  - **user によってロック済**-ユーザーが承認ユニット階層を編集または同期中です

 ノート:

承認ユニット階層リストを表示した後、ユーザーによって承認ユニット階層の編集または同期が開始された場合、承認ユニット階層リストでは、この承認ユニット階層について"ロック済"とは表示されません。この承認ユニット階層を同期しようとしても同期は行われず、編集集中であることを示すエラー・メッセージが表示されます。

3. 「未同期」としてリストされている承認ユニット階層を選択して、「同期」をクリックします。

承認ユニット階層に変更が適用され、次に、承認ユニット階層に定義されている組込みルールに従って承認ユニットのリストが更新されます。アプリケーション内のすべての承認ユニット階層が同期され、エンティティが複数の階層に属している場合の競合が回避されます。

 ノート:

別のユーザーによる編集または同期中である承認ユニット階層を変更と同期させることはできません。


4. 同期プロセスのステータスを表示するには、ジョブ・コンソールに移動します。  
ジョブ・リストには、処理中の各承認ユニット階層のステータスおよびエラーの詳細が含まれています。

## 承認ユニット階層の削除および名前変更

承認ユニット階層が、データ検証ルールやシナリオ割当てにより参照されていない場合には削除できます。「使用状況」タブには、階層を参照するオブジェクトが表示されます(それらは必要に応じて階層との関連付けを解除できます)。

承認ユニット階層の名前を変更することもできます。承認ユニット階層の名前を変更しても、それを参照するオブジェクトには影響しません。


承認ユニット階層の削除または名前変更を行うには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「ワークフロー」で「承認ユニット」をクリックします。
3. 次のいずれかを実行します:
  - 削除するには、削除する承認ユニット階層を選択し、「削除」をクリックします。
  - 名前を変更するには、名前を変更する承認ユニット階層を選択し、「名前変更」をクリックして新しい名前を入力します。
4. 「OK」をクリックします。

## 承認ユニット階層のエクスポート

承認ユニット階層をエクスポートする際には、承認ユニット階層情報(定義および割当て情報を含む)を格納するファイルを作成します。このファイルを作成した後、その内容を既存の承認ユニット階層にコピーできます([承認ユニット階層のインポート](#)を参照)。

承認ユニット階層をエクスポートするには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックし、「ワークフロー」で、「インポートおよびエクスポート」をクリックします。
2. 「承認ユニット階層のエクスポート」を選択します。
3. 「既存の承認ユニット階層名」で、エクスポートする承認ユニット階層を選択します。
4. 「OK」をクリックします。
5. 「保存」ダイアログ・ボックスが表示されたら、エクスポート・ファイルを選択した場所に保存します。
6. 「エクスポート」または「完了」をクリックします。「エクスポート」ではアクションが実行され、「完了」ではダイアログ・ボックスが閉じられます。

## 承認ユニット階層のインポート


承認ユニット階層には、承認ユニット階層インポート・ファイルのコンテンツ(定義および割当て情報を含む)を移入できます。このインポート・ファイルは、既存の承認ユニット階層をエクスポートした結果です。[承認ユニット階層のエクスポート](#)を参照してください。

承認ユニット階層情報をインポートしても、承認ユニット階層は作成されません。エクスポート・ファイルから移入された承認ユニット階層が存在し、少なくともインポート前の名前を持っている必要があります。インポート・プロセスでは、常に置換モードが使用されるため、最初に承認ユニット階層のすべてのメンバーが削除され、次にロード・ファイルに新規メンバーとして指定された各メンバーが追加されます。

### ノート:

承認ユニット階層のロードでは、既存のメンバーが入力ファイルで指定されていないならばそのメンバーおよびその子が階層から削除されます。

承認ユニット階層をインポートするには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックし、「ワークフロー」で、「インポートおよびエクスポート」をクリックします。
2. 「承認ユニット階層のインポート」を選択します。
3. 「既存の承認ユニット階層名」で、エクスポートした情報を受け取る承認ユニット階層を選択します。

 ノート:

インポート後の承認ユニット階層には、移動パスを決定するために定義されている所有者、確認者およびルールが追加されます。

承認ユニット階層がすでに開始されている状態で、割当て済エンティティの変更を含む可能性のある承認ユニット階層をインポートすると、エラーが発生します。承認ユニット階層ファイルをインポートする前に、階層を「未開始」ステータスにリセットする「除外」を実行して、必ず承認ユニット階層を未開始の状態にしてください。

4. 「所有者を含む承認ユニット階層」で「参照」をクリックし、インポートするエクスポートされた承認ユニット階層ファイルを選択します。
5. 「OK」をクリックします。
6. 「インポート」または「完了」をクリックします。「インポート」ではアクションが実行され、「完了」ではダイアログ・ボックスが閉じられます。

インポートに成功しましたというメッセージが表示された場合は、エクスポート済ファイル内の承認ユニット階層情報は、「既存の承認ユニット階層名」で選択した承認ユニット階層に正常にコピーされたこととなります。

「インポートに失敗しました。一部のアイテムがインポートされませんでした。」というメッセージが表示された場合は、「詳細」をクリックしてログ・ファイルを表示します。エラーを修正し、承認ユニット階層のインポートを再試行します。

# 21

## 承認プロセスの管理

### 次も参照:

- [承認プロセスの概要](#)
- [承認の有効化](#)
- [承認プロセスの開始](#)
- [承認フェーズの管理](#)
- [承認ユニットの移動パス](#)
- [承認ユニットの注釈レポートの作成](#)
- [承認ステータス・レポートの作成](#)
- [データ検証ルール](#)
- [エンティティのロックとロック解除](#)
- [承認プロセスの問題のトラブルシューティング](#)

## 承認プロセスの概要

管理者は、承認プロセスを設定して、データの所有権を移動したり、確認制御を実現したり、データ・プライバシーを保証したりできます。

確認の目的のため、データは承認ユニットに編成されます。承認ユニットは、特定のシナリオ、年、期間およびエンティティを持つデータを組み合わせたものです。例:

- Actual/FY18/Jan/Massachusetts
- Budget/FY19/Feb/New York

承認プロセスは、一般的に次のステップに従います。

- 管理者は、承認ユニット階層を設定します。
- 管理者は、シナリオ、年および期間の組合せを承認ユニット階層に割り当てます。
- 管理者は、承認プロセスを開始します。
- 所有者と確認者は、移動パスに従って承認ユニットを上位へ移動します。
- 承認階層の最後の確認者が、承認ユニットを承認します。ステータスが「承認済」に変更されます。承認ユニットが「承認済」になった後は、それに変更を加えることはできません。
- 管理者は、オプションで、期間をクローズする前にエンティティをロックできます。

承認プロセスについてさらに学習するには、次のビデオをご覧ください:



概要: [Oracle Financial Consolidation and Close](#) における承認

## 承認の有効化

承認プロセスを使用する前に、メタデータ・ファイルでシナリオ・ディメンションの承認を有効化する必要があります。「承認に使用可能」オプションが有効になっている場合、「承認ユニット割当て」画面でシナリオを選択できます。

承認を有効化するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**概要**」をクリックします。
2. 「**ディメンション**」をクリックし、「**シナリオ**」ディメンションを選択します。
3. 「**メンバー・プロパティの編集**」をクリックします。
4. 「**承認に使用可能**」を選択します。
5. 「**保存**」をクリックします。

## 承認プロセスの開始

管理者は、承認ユニット階層の設定、特定のシナリオ、年および期間への承認ユニット階層の割当て、検証ルールの設定、および確認プロセスの開始などを通じて承認プロセスを管理します。

[承認ユニット階層の作成](#)を参照してください。

承認プロセス中に、管理者は、承認ユニット階層内の各エンティティのステータスをモニターして、それらのエンティティに対して承認アクションを実行できます。プロセス・ステータスは、管理者のみが使用できます。他のユーザーは、ホーム・ページの「承認」カードから承認アクションを実行します。*Financial Consolidation and Close*の操作のデータの確認および承認に関する項を参照してください。

承認ユニット階層を定義して特定のシナリオ、年および期間に割り当てたら、承認プロセスを開始できます。承認プロセスを開始できるのは、管理者のみです。プロセスが開始されると、承認ユニットは、プロセスが完了するまである確認者から別の確認者へ移動します。

デフォルトの承認ステータスは、「未開始」です。プロセスの開始により、承認ユニットのステータスは「レビュー中」に変化します。

承認プロセスを開始すると、システムにより、承認ユニット階層内のエンティティに対してプロセスが開始されます。かわりに各基本エンティティを個別に開始することもできますが、基本エンティティを開始すると、その親と祖先も開始されます。


親エンティティを開始すると、その子孫もすべて開始されます。

プロセスの開始後、各エンティティの現在の所有者は、移動パスの最初の所有者に設定されます(「現在の所有者」列に表示されます)。承認ユニットが移動パス内で上位へ移動するに従って、現在の所有者および場所も更新されます。管理者は、承認ユニット階層内の各エンティティのステータスをモニターして、「プロセス・ステータス」画面からそれらのエンティティに対して承認アクションを実行できます。

管理者は、除外する特定のエンティティを選択して、いつでもプロセスを再開できます。システムによりエンティティのすべての承認履歴がクリアされるため、「開始」を再度選択して確認プロセスを再開することで、エンティティを移動パスの最初の所有者に移動できます。



承認プロセスを開始するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「ワークフロー」で「承認の管理」をクリックします。
3. 「シナリオ」、「年」および「期間」から、有効なシナリオ、年および期間を選択します。
4. 「実行」をクリックします。  
承認ユニット階層がまだ開始されていない場合、グラフィカルな円グラフに「表示データなし」と表示されます。
5. 右上の「ビュー」ドロップダウンから「ツリー・ビュー」を選択します。
6. 承認ユニットを選択して「開始」をクリックし、承認プロセスを開始します。
7. 承認ユニットが開始したことを示す確認メッセージで、「OK」をクリックします。  
「承認済」ステータスが「レビュー中」に変化します。  
すべての承認ユニット・レベルおよび使用可能なアクションのリストは、*Financial Consolidation and Close* の操作のデータの確認および承認に関する項を参照してください。
8. **オプション:** 特定のエンティティの承認プロセスを再開する場合、「除外」を選択してプロセスから承認ユニットを削除し、承認ステータスを「未開始」にリセットできます。

 **注意:**

承認ユニットを除外すると、関連付けられた注釈および履歴がすべて破棄されます。データ値は保持されます。

## 承認フェーズの管理

承認グループを作成して、承認ユニットをより詳細なデータのサブセットに分割し、それらを段階的に承認のために送信できます。

### 関連トピック

- [承認グループの理解](#)
- [承認グループの定義](#)
- [承認グループの編集、複製および削除](#)
- [承認ユニット階層への承認グループの割当](#)

## 承認グループの理解

承認グループを使用すると、最初に一部のデータを確認のために送信し、他のデータを後で確認できます。承認プロセス時に、承認ユニット全体ではなく、各フェーズの承認ユニットを移動できます。

たとえば、承認プロセス要件は、期間ごとに異なる場合があります。月締めサイクルは、1月と2月の貸借対照表と損益計算書のデータについて単一フェーズの確認プロセスを必要とす

場合があります。3月などの四半期月の場合、四半期締めの確認プロセスは、貸借対照表、損益計算書および補足のデータで複数フェーズの送信サイクルを必要とします。

また、確認プロセス要件は、シナリオごとに異なる場合もあります。たとえば、実績シナリオは、確認のために送信される貸借対照表と損益計算書の勘定科目のみを必要とします。予算シナリオの場合は、すべての勘定科目を必要とし、予測シナリオの場合は、損益計算書の勘定科目と補足データのみを必要とします。

承認グループを使用したフェーズ送信では、追加のシナリオを必要とすることなく、これらの異なる承認要件を満たすことができます。

アプリケーションで作成できる承認グループの数に制限はありませんが、承認ユニット階層に割り当てることができる承認グループの最大数は 20 です。

承認グループを使用した送信フェーズを設定するには、次のタスクを実行します：

1. 承認グループを定義し、承認グループをディメンション・メンバーに割り当てます。[承認グループの定義](#)を参照してください。
2. 承認グループを承認ユニット階層に割り当てます。[承認ユニット階層への承認グループの割当](#)を参照してください。

拡張承認フローの設定についてさらに学習するには、次のビデオをご覧ください：



[Oracle Financial Consolidation and Close](#) での拡張承認フローの設定

## 承認グループの定義

管理者は、**アプリケーション**・クラスタ内の「**承認グループ**」カードで、ビジネス・プロセスの承認グループを定義します。

承認グループ定義を作成または変更するには、サービス管理者である必要があります。パワー・ユーザーには、承認グループ定義に対する表示アクセス権があります。

### 承認グループ・ディメンションのメンバー

承認グループは、次のディメンションのメンバーの組合せとして定義できます。

- 勘定科目
- 増減
- 会社間
- データ・ソース
- 複数 GAAP
- Custom1
- Custom2
- Custom...X
- 連結 - 金額およびレート・オーバーライド勘定の場合にのみ該当

次のディメンションは、承認グループ定義には含まれません。

- シナリオ - AUH の割当
- 年 - AUH の割当

- 期間 - AUH の割当
- エンティティ - AUH の定義
- ビュー - 期別
- 連結 - ディメンション内のすべてのメンバーに適用されるため該当なし
- 通貨 - エンティティ 通貨

承認グループは、次の情報で構成されます。

- 名前
- 説明
- マルチディメンショナル・セルを定義する 1 つ以上のルール(スライス定義)

ルールに対してディメンションが選択されていない場合、このディメンションのすべてのメンバーがルールに含まれることを意味します。ルールに含めるメンバーを選択するために、関数および除外を使用できます。

承認グループは、1 つ以上のスライスで構成されます。アプリケーションに必要な数のグループを定義する必要があります。定義できる承認グループの数に制限はありません。ただし、承認グループは、承認ユニット階層(AUH)への割当の際のフェーズ承認のためにのみ使用されます。

### 異なるフェーズ間で重複しているセルのルール

同じ承認ユニット階層内の異なるフェーズで使用される 1 つ以上の承認グループに同じ POV スライスが含まれる場合があります。

様々なグループで定義された 100 のデータ・セルがあるとします。

- グループ A – セル 1 から 10、21 から 30
- グループ B – セル 11 から 20、31 から 50
- グループ B – セル 11 から 20、31 から 50
- グループ D – セル 91 から 100
- グループ E – セル 1 から 50
- グループ E – セル 1 から 50

一部のセルは複数のグループに含まれるため、システムでは最初のインスタンスが使用され、そのセルが含まれている可能性がある後続のグループは無視されます。

たとえば、勘定科目セル 50 が同じ承認ユニット階層に割り当てられたグループ A とグループ E の両方に含まれる場合、グループ A は承認ユニット階層内に割り当てられた最初のグループであるため、勘定科目セル 50 はグループ A に含まれます。

ユーザーがグループ A にいる場合、そのユーザーは勘定科目セル 50 に対してデータの入力または変更を行えます。ユーザーがグループ E にいる場合、セル 50 はグループ E 定義の一部であっても、セル 50 はすでにグループ A に含まれているため、グループ E のデータの一部とみなされません。つまり、最初のインスタンスが含まれる場所の優先順位のルールに従って、セル 50 はグループ A にのみ含まれ、グループ E には含まれません。





### システム承認グループ


すべてのフェーズがロックされると、すべてのセルが確認プロセスに含まれるようにするため、エンティティのデータはロックされます。そこで、適用可能な各ディメンションのすべ


でのメンバーを含めるため、システムで作成された FCCS\_DefaultGroup というグループが用意されます。

承認グループが AUH に割り当てられると、FCCS\_DefaultGroup システム・グループは常に承認ユニット階層の最後のフェーズになります。これには、前のフェーズで定義されていないすべてのセルが含まれます。

承認グループを定義するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「承認グループ」の順にクリックします。
2. 承認グループを作成します。
  - a. 「作成」をクリックします。
  - b. 新しい承認グループの名前とオプションの説明を入力します。
  - c. 承認グループのアンカー・ディメンションを選択するには、「ディメンションの追加」をクリックするか、「アンカー・ディメンションの選択」の横にある  をクリックし、リストからディメンションを選択します。
  - d. アンカー・ディメンションの詳細は、アンカーおよび非アンカー・ディメンションを参照してください。
  - e. **オプション:** デフォルトでは、承認グループ・ルールで指定されていないアンカー・ディメンション・メンバーが有効とマークされます。このオプションをクリアするには、アンカー・ディメンションの横の  をクリックし、「**選択されていないメンバーは有効です**」をクリックします。
  - f. **オプション:** デフォルトでは、非アンカー・ディメンションは必須ではありません。非アンカー・ディメンションを必須にするには、非アンカー・ディメンションの横の  をクリックし、「**必須**」をクリックします。
3. 承認グループ・ルールを定義します。
  - a. 「**ルールの追加**」をクリックします。
  - b. 承認グループに対して含める、除外するまたは削除するメンバーの範囲を選択するには、新規ルールのディメンションの横の  をクリックします。
    - 「**編集**」をクリックして「**メンバーの選択**」ページを開き、承認グループ・ルールに含めるメンバー、代替変数および属性を選択します。
    - 「**除外の追加**」をクリックして、ルール内の除外を定義します。このディメンションに含める対象のサブセットを除外できます。
    - 「**クリア**」をクリックして、選択をクリアします。

ルールを削除するには、 をクリックします。
4. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

新しい承認グループが、承認グループ・リストの最後に追加されます。グループ内のルールを並べ替えるには、アプリケーション・グループの横にある  をクリックし、「**上へ移動**」または「**下へ移動**」を選択します。

 ヒント:

また、承認グループをドラッグして、リスト内で上下に移動することもできます。

## アンカーおよび非アンカー・ディメンション

アンカーおよび非アンカー・ディメンション:

- アンカー・ディメンションは、常に、有効交差の評価で使用されるタイプの必須ディメンションです。  
例: [必須のディメンション](#)を参照してください。
- 非アンカー・ディメンションが必須である場合、または必須でない場合:
  - 非アンカー・ディメンションが必須である場合、そのディメンションを使用しないタイプは有効交差グループ(そのディメンションが有効交差を評価すると、必須とタグ付けされます)を無視します。
  - 非アンカー・ディメンションが必須でない場合、そのディメンションを使用しないタイプは、そのディメンションを含む有効交差グループを必須でないとして評価し、そのタイプに含まれる有効交差グループの他のディメンションの交差を評価します。
- 選択していないアンカー・ディメンション・メンバーはデフォルトで有効ですが、「**選択されていないメンバーは有効です**」オプションをクリアすると、これらを無効としてマークできます。このオプションでは、このルールで選択されていないアンカー・ディメンションを含むすべての交差を無効としてマークします。

例: [選択されていないメンバーは有効です](#)を参照してください。


## 承認グループの編集、複製および削除

承認グループ定義は、承認ユニット階層に割り当てられていても編集できます。承認プロセス中、最新の承認グループ定義が適用および検証されます。

承認ユニット階層に割り当てられている承認グループを編集して保存する場合、承認グループが割当済で、変更された定義が後続の承認プロセス・アクティビティに使用されることを伝える警告メッセージが表示されます。

承認ユニット階層に割り当てられている承認グループは削除できません。最初に承認ユニット階層内の承認グループ割当を削除してから、承認グループを削除する必要があります。

承認グループ定義を編集、削除または複製するには:






1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**承認グループ**」の順にクリックします。
2. 承認グループの横にある  をクリックし、「**編集**」、「**複製**」または「**削除**」を選択します。
3. 承認ユニット階層で使用されている承認グループ定義を編集する場合、影響を受ける承認ユニット階層をこの変更と同期させる必要があります。[承認ユニット階層の同期](#)を参照してください。


## 承認ユニット階層への承認グループの割当

「承認グループの割当」タブで、既存の承認グループを階層に割り当てて、順序を設定することができます。承認グループが存在しない場合は、「承認グループの割当」タブで承認グループを作成することもできます。

最大 20 の承認グループを承認ユニット階層に割り当てることができます。

承認ユニット階層に承認グループを割り当てするには:

- 承認ユニット階層を作成します。 [承認ユニット階層の設定](#) を参照してください。
- 「ナビゲータ」アイコン  をクリックし、「ワークフロー」で「承認ユニット」をクリックします。
- 「承認ディメンション」タブの詳細を入力します。
  - 「拡張承認フロー」で、「承認グループ」を選択します。
  - 承認ユニット階層のすべてのレベルに「承認グループ」オプションを適用するには、「すべてのレベルでの拡張承認フローの適用」を選択します。
  - 「承認グループの割当」タブで定義したエントリの順序に基づいて段階的に承認ワークフローを送信することを求めるには、「段階依存」を選択します。  
段階依存とは、「承認グループの割当」タブのリストの最初のエントリを 2 番目のエントリより先に移動する必要があることを意味します。両方のエントリは同じレベルにできますが、2 番目のエントリを最初のエントリより先に移動することはできません。そのため、エントリの順序が重要です。順序は上下の矢印を使用して並べ替えることができます。ステップ 4 を参照してください。
- 「承認グループの割当」タブで、承認グループを階層に割り当てて、順序を設定します。
  - 承認グループを作成するには、 をクリックし、[承認グループの定義](#) を参照してください。
  - 既存の承認グループを選択するには、 をクリックしてから、追加する承認グループを選択するか、「すべて」をクリックします。
  - リストの承認グループの順序を変更するには、グループを選択し、 または  をクリックします。グループの順序は、フェーズの順序になります。前のタブで「段階依存」オプションを選択した場合は、移動する順序でグループを並べる必要があります。
- 「プライマリ・メンバーの選択」タブで承認ユニット階層のメンバーを選択します。[承認ユニット階層のメンバーの選択](#) を参照してください。
- 「所有者の割当」タブで承認ユニットの所有権を割り当てます。[承認ユニットの所有者と確認者の割当て](#) を参照してください。

 ノート:

「所有者の割当」タブで、選択した承認グループが「エンティティ」名の横に表示されます(例: Sales East: Revenue Accounts。ここで、Sales East はエンティティ、Revenue Accounts は作成した承認グループの名前です)。

- 承認ユニット階層を承認プロセスに含まれるシナリオに割り当てます。シナリオへの承認ユニット階層の割当てを参照してください。

 ノート:

「承認グループの割当」タブで情報を入力してから、「拡張承認フロー」オプションを「承認グループ」オプション以外に変更すると、「承認グループの割当」タブが非表示になります。ただし、「保存」または「取消」をクリックするまで、入力した情報は破棄されません。

たとえば、「承認グループの割当」タブでグループ A、グループ B およびグループ C の情報を追加してから、「拡張承認フロー」オプションを「承認グループ」から「なし」に変更し、「保存」または「取消」をクリックすると、承認グループの情報は破棄されます。

ただし、「拡張承認フロー」オプションを「承認グループ」から「なし」に変更してから、保存する前に「承認グループ」を再度選択すると、「承認グループの割当」タブで入力した情報は保持されるため、最初からやり直す必要はありません。「保存」または「取消」をクリックすると、該当しない情報は破棄されます。

## フェーズ別の承認ステータスの表示

フェーズ別の承認ステータス情報を表示するために 3 つのシード・ステータス・フォームがあります。

- グループ別承認ステータス
- 承認グループ・ステータス
- データ・ステータス・フォーム

### グループ別承認ステータス

グループ別承認ステータス・フォームには、各フェーズの承認ステータスが期間別に表示されます。すべての期間のフェーズの数が同じ場合、各期間の列数は等しくなります。

期間によってフェーズの数が異なる場合、各期間には対応するフェーズが列として含まれます。たとえば、月次期間にフェーズが 2 つのみ含まれる場合、これらの期間に対して 2 つの列が表示されます。四半期期間(3 月、6 月、9 月など)に 3 つのフェーズが含まれる場合、これらの四半期期間に対して 3 つの列が表示されます。年度末の決算期間に 4 つのフェーズがある場合、12 月に 4 つのステータスの列が表示されます。

グループ別承認ステータス・フォームは、承認ユニット階層内のエンティティに対して段階依存が有効なシナリオを選択した場合にのみ適用されます。それ以外の場合、フォームに有効なデータは表示されません。



### 承認グループ・ステータス

承認グループ・ステータス・フォームには、データ・セルごとに承認グループおよび承認ユニット階層が表示されます。このフォームは、特定のマルチディメンショナル・データ・セルの承認グループおよび AUH 情報を確認する必要がある場合に役立ちます。異なるシナリオ、年および期間を AUH に割り当てることができます。したがって、たとえば、現金勘定科目が実績/2020 年 1 月の承認グループ 1 にあり、実績/2021 年 1 月の承認グループ 2 にないという場合があります。

### データ・ステータス・フォーム

アプリケーションでフェーズ承認オプションを使用して承認ユニット階層を定義した場合、フェーズ承認の承認ステータスおよび計算ステータス (FCCS\_Status\_ConsolidateApprovalStatus) を含めるよう、データ・ステータス・フォームを変更する必要があります。

各期間について、すべてのフェーズの承認ステータスが同じ場合、一意の承認ステータス(「レビュー中」など)が表示されます。各フェーズに異なる承認ステータスが含まれる場合(例: フェーズ 1- 「レビュー中」、フェーズ 2- 「未開始」)、「フェーズ別」というテキストが表示されるので、グループ別承認ステータス・フォームを開いて、フェーズごとに異なるステータスを確認する必要があります。

## 承認フェーズの検証

### システム検証

承認アクションごとに、次の検証プロセスが実行されます(該当する場合)。

#### 移動/承認のシステム検証

- ユーザーがエンティティへの書込み権限を持つ有効な所有者であること
- エンティティの現在の場所にユーザーが割り当てられていること
- エンティティの計算ステータスが「OK」/「データなし」/「システム変更」であること

#### ロックのシステム検証

現在の期間のエンティティをロックするために、そのエンティティの同じ年度内の前期間をすべてロックする必要があります。現在の期間が年の最初の期間である場合、その前の期間(前年の最後の期間)をロックする必要があります。

#### 段階依存なしのフェーズ承認

フェーズへの依存がないため、同じ期間内で、フェーズ 2 のロックの前にフェーズ 1 がロック済であるかどうかはチェックされません。

前期間のロックはチェックされます。期間のロックのチェックでは、現在の期間の任意のフェーズをロックするために、前期間のすべてのフェーズはロックされます。

たとえば、「3 月、NY: GroupA」をロックするために、このエンティティのすべての前期間およびすべてのフェーズをロックする必要があります。したがって、「2 月、NY: GroupA、GroupB、GroupC」および「1 月、NY: GroupA、GroupB、GroupC」をロックする必要があります。

#### 段階依存ありのフェーズ承認

段階依存ありのフェーズ承認の場合、前期間のチェックに加えて、同じ期間内の前のフェーズがすべてロック済であることもチェックされます。

各フェーズのロック時に計算ステータスがチェックされます。フェーズをロックするために、エンティティは **OK**、**SC** または **NoData** であることが必要です。

たとえば、フェーズ 1 をロックした後、まだロックされていないフェーズ 2 にさらにデータを入力したとします。フェーズ 2 をロックするには、フェーズ 2 のロックの前に計算ステータスが「OK」になるよう、エンティティを連結する必要があります。

### ロック解除のシステム検証

現在の期間のエンティティをロック解除するために、そのエンティティの同じ年度内の将来の期間(およびデータ)をすべてロック解除する必要があります。

### 段階依存なしのフェーズ承認

フェーズへの依存がないため、同じ期間内で、フェーズ 1 のロック解除の前にフェーズ 2 がロック解除済であるかどうかはチェックされません。

現在の期間の任意のフェーズをロック解除するために、データを含む将来の期間のすべてのフェーズがロックされていないことがチェックされます。

たとえば、「3 月、NY: GroupA」をロック解除するには、データを含む最後の期間が「5 月」であると仮定すると、将来のすべての期間(4 月および 5 月)のすべてのフェーズをロック解除する必要があります。「4 月、NY: GroupA、GroupB、GroupC」および「5 月、NY: GroupA、GroupB、GroupC」をロック解除する必要があります。

### 段階依存ありのフェーズ承認

段階依存ありのフェーズ承認の場合、将来の期間のチェックに加えて、同じ期間内の後続のフェーズがすべてロックされていないことがチェックされます。

### ユーザー定義の検証

フェーズ承認の検証は、各フェーズ内のセルに定義されたルールに基づいています。

必要な検証ルールを定義できます。ルールはデータ・フォームで作成できます。または、計算スクリプトを使用して計算を行ってから、検証ルールの一部としてフォームで参照する勘定科目に結果を割り当てることができます。

異なるフェーズに異なる検証ルールが必要な場合は、フェーズ定義の一部として特定の検証勘定を含めることができます。

カスタム検証はオプションであるため、一部のフェーズに不要な検証を他のフェーズに適用する場合があります。

### 段階依存の検証

承認ユニット階層に対して「段階依存」オプションが選択されている場合、特定の承認アクションを許可するために追加の検証チェックがあります。次の承認アクションは、追加の段階依存チェックを必要とします。

- 開始
- 除外
- 上位へ移動
- 拒否

- 所有権の取得
- 再度開く
- 承認
- ロック
- ロック解除

エンティティが開始されるまでユーザーはデータの入力を開始できないため、段階依存チェックはデータ入力に適用されません。

承認ユニット階層内のエンティティ・グループには、依存チェックで考慮される 3 つのプロパティがあります。

- 承認ステータスの検証(アクション実行後の新しい承認ステータス)  
フェーズ N+1 の承認ステータスはフェーズ N と等しいか、それより低いことが必要
- 場所の検証(アクション実行後の新しい場所)  
レベル X のエンティティの場所はレベル X+1 と等しいか、それより低いことが必要
- 所有者と確認者の検証  
同じ場所内の所有者と確認者の依存検証はありません。したがって、移動パス内の同じ場所の所有者、確認者 1 および確認者 2 は同一とみなされます。

承認アクションを実行するには、承認ステータスと場所の検証で依存チェックに合格する必要があります。検証の一部に失敗すると、承認アクションは失敗します。

承認アクションの検証ルールに加えて、ユーザーがデータへのアクセス権を持つタイミングおよび実行できるアクションが検証されます。[データ検証ルール](#)を参照してください。

## 承認ユニットの移動パス

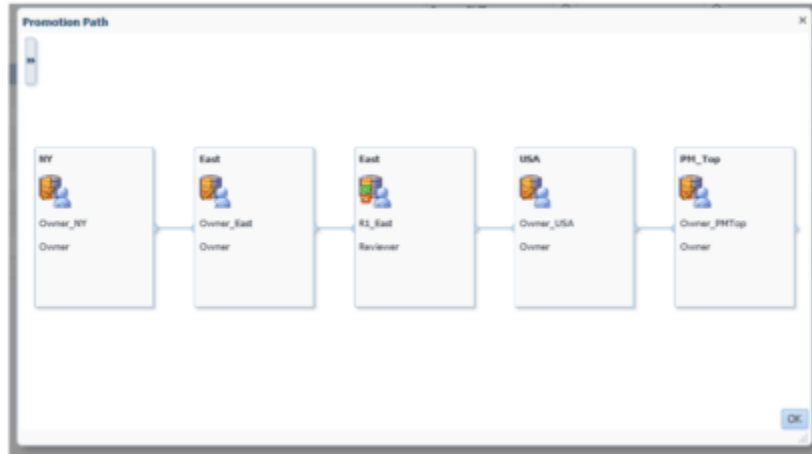
承認ユニットおよびその親の所有者と確認者を選択する場合、承認ユニットの移動パスを設定します。

承認ユニットのシナリオ、年および期間で確認プロセスが開始されると、承認ステータスはそのエンティティに対して「レビュー中」になり、承認ユニット階層で定義された移動パスに従って現在の所有者がそのエンティティに割り当てられます。

このステージでは、書込みアクセス権を持っている承認ユニットの現在の所有者のみが、エンティティのデータを入力または変更できます。

ただし、移動パスの内部または外部で読取りまたは書込みアクセス権を持つ任意のユーザーは、データを参照できます。



承認ユニットの現在の所有者は、移動パス内でエンティティが上位へ移動するにつれて変化します。エンティティが上位となる次のレベルに移動すると、データに対する書込みアクセス権はなくなりますが、エンティティのデータに対する読取りアクセス権は引き続き付与されます。



## 承認ユニットの注釈レポートの作成

管理者は、シナリオおよび承認ユニット・メンバーのセットの注釈についてレポートを作成し、承認ユニットのステータスを確認できます。注釈テキストは、最新のエントリを最初にして日付順に表示されます。

承認ユニットの注釈についてレポートを作成するには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  
 をクリックし、「モニターおよび検索」で「システム・レポート」をクリックします。
2. 「承認ユニット」タブを選択し、「注釈」をクリックします。
3. 「レポート・オプションの選択」で、レポート生成の対象となる「シナリオ」、「年」、「期間」および「エンティティ」の組合せを選択します。「カスタム」が選択されている場合、  
 「メンバー・セレクタ」アイコンをクリックしてカスタム・メンバーを選択します。
4. 「承認ステータス」で、レポートに表示するステータスを選択します。
5. 「レポート作成」をクリックし、レポートの保存場所を選択します。

## 承認ステータス・レポートの作成

承認ステータス・レポートを使用して、承認プロセスの詳細なステータスを表示できます。すべてのユーザーがこのレポートにアクセスできますが、書込みアクセス権がある承認ユニットのみが表示されます。

フィルタを使用すると、さらに焦点を絞ったレポートを生成できます。次のものでフィルタできます。

- 承認ステータス
- シナリオ
- 承認ユニット階層
- 現在の場所の世代

- 承認グループ

承認ステータス・レポートには次の情報が表示されます。

- 承認ユニット
- 親
- ステータス
- サブステータス

 **ノート:**

サブステータスは、承認ユニットでアクションの実行中に発生した失敗を追跡します。通常、失敗には、セキュリティ・アクセスの欠落、検証ルールの失敗、または、アクションが正常に完了することを妨げるその他のシステム障害が含まれる場合があります。

- 前の所有者
- 現在の所有者
- 次の所有者
- 現在の場所
- 合計値
- 最終ステータス変更日

サンプルの承認ステータス・レポート

### Approval Status Report

Scenario: Forecast

Version: Stage1

Approval Unit	Parent	Status	Sub-Status	Previous Owner	Current Owner	Next Owner	Current Location	Total Value	Last Status Change Date
NZ1_1	NZ1	Under Review		admin	admin	admin	NZ1		April 28, 2017
NZ1	North Zone	Under Review			admin	admin	NZ1		
North Zone		Under Review			admin	admin	NZ1		April 10, 2017
SZ1: Round	SZ1	Under Review			admin	admin	SZ1		
SZ1: Square	SZ1	Under Review		admin	admin		South Zone		April 28, 2017
SZ1: Triangle	SZ1	Frozen		admin	admin	admin	SZ1		April 28, 2017
SZ1	South Zone	Under Review			admin	admin			April 10, 2017
SZ2	South Zone	Under Review			admin	admin	SZ2		April 10, 2017
South Zone		Under Review			admin	admin			April 10, 2017
East Zone		Under Review			admin	admin			April 10, 2017
WZ_12	West Zone	Under Review			admin	admin	WZ_12		March 28, 2017
WZ_13	West Zone	Under Review			admin	admin	WZ_13		March 28, 2017
West Zone		Under Review			admin	admin			March 28, 2017

承認ステータス・レポートを作成するには:

- 「ナビゲータ」アイコン



をクリックし、「モニターおよび検索」で「システム・レポート」をクリックします。

2. 「承認ユニット」タブを選択し、「承認ステータス」をクリックします。
3. 「承認ステータスの選択」で、レポートに表示するステータスを選択するか、「すべて」を選択します。
4. 「フィルタ」から、「シナリオ」、「年」および「期間」のディメンション・メンバーを選択してから、次のオプションを選択します。
  - **承認ユニット階層** - このオプションのフィルタにより、承認ユニット階層のサブセットが追加されます。
  - **現在の場所の世代** - このオプションでは、該当する世代のすべてのメンバーがレポートに追加されます。世代番号、世代範囲またはその両方をカンマで区切って入力できます(例: 1,4,6-9)。
  - **承認グループ** - レポートで選択した承認グループが表示されます。
5. レポートの**フォーマット**を選択します。
  - XLSX
  - PDF
  - XML
  - HTML
6. 「レポート作成」をクリックし、レポートの保存場所を選択します。

## データ検証ルール

ビジネス・ポリシーおよびビジネス・プラクティスを実装するために、管理者はフォームで条件が満たされたときにチェックするデータ検証ルールを構築できます。ルールを使用して、検証メッセージの生成、送信される承認ユニット・データに対する制限の適用、および特定の条件を満たすデータを確認する特定の確認者や所有者の指定を行うことができます。

例:

- 承認ユニットの移動パスの条件付け
- 無効なデータを含む承認ユニットの移動の防止

データ・フォーム内で検証ルールを定義し、承認ユニットの検証用のオプションを指定できます。[フォームへのデータ検証ルールの組み込み](#)を参照してください。

承認プロセスでは、検証は次のアクションに対してのみ実行されます。

- 上位へ移動
- 承認
- ロック
- ロック解除
- 除外(管理者アクション。現在の期間がロックされていないことを確認するためのチェック)

検証は、次のアクションの実行時には実行されません。

- サインオフ
- 拒否

- 再度開く
- 作成
- 所有権の取得
- 開始(管理者アクション)

## エンティティのロックとロック解除

「承認」ページで、ロック・ステータスとロックおよびロック解除エンティティを参照できます。また、データ・ステータス・フォームでは、ロック・ステータスと計算ステータスを参照できます。

データ・ロード・プロセス中に、ロックされたエンティティはロードされません。エンティティがロックまたは承認されると、仕訳の送信、転記、転記の戻し、またはそのエンティティを含むデータ・フォームの変更はできません。

ロックおよびロック解除プロセスの詳細は、次のビデオをご覧ください。



### データの移動、承認およびロック

エンティティをロックまたはロック解除するには、ロックするエンティティを含む承認ユニット階層を作成する必要があります。デフォルトで、**Financial Consolidation and Close** には、地域合計という名前の承認ユニットがあります。

エンティティをロックまたはロック解除するには、サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。アプリケーションが作成されると、「**FCCS\_Total Geography**」承認ユニットに対して所有者が自動的に定義されます。所有者はサービス管理者と同じです。

所有者が有効なサービス管理者または承認ユニット階層内のエンティティへの書込みアクセス権を持つパワー・ユーザーである場合は、デフォルトの承認ユニット階層「**FCCS\_Total Geography**」の所有者情報を変更できます。

確認者はオプションであるため、「**FCCS\_Total Geography**」の確認者を定義する必要はありません。「**FCCS\_Total Geography**」のすべての子孫は、承認ユニット階層内の個々のエンティティに対して異なる所有者または確認者を設定していないかぎり、親と同じ所有者情報を継承します。

「**FCCS\_Total Geography**」の外部で階層を作成する場合は、その階層の有効な所有者を定義する必要があります。

### エンティティのロック

次の条件が満たされる場合にのみデータをロックできます。

- エンティティの計算ステータスは、「OK」、「データなし」または「システムの変更」である必要があります。計算ステータスが「影響」のエンティティをロックすることはできません。
- 前の期間データは、ロックされている必要があります。たとえば、2月の期間のエンティティをロックできるのは、1月のエンティティがロックされている場合のみです。

エンティティをロックするには:



1. ホーム・ページで、「承認」をクリックします。
2. 地域合計承認ユニットを選択します。  
デフォルトでは、地域合計承認ユニットのステータスは「未同期」であり、同期させる必要があります。
3. 「同期」アイコンをクリックして、承認ユニットを同期します。

 **ノート:**

エンティティを追加または削除するたびにこのステップを繰り返し、データベースのリフレッシュを実行する必要があります。

4. 承認ユニットを開始するには、「ナビゲータ」アイコンをクリックして、「承認の管理」を選択します。  
承認ユニットを開始しない場合、その承認ユニット内のエンティティは「未開始」ステータスのままとなります。
5. 開始する「シナリオ」、「年」および「期間」を選択して、「実行」をクリックします。
6. 右側の「表示」リストから、「ツリー・ビュー」を選択します。
7. 「FCCS\_Total Geography」が表示されるまで、地域合計を展開します。  
「FCCS\_Total Geography」は「未開始」の状態です。
8. 「開始」をクリックし、「FCCS\_Total Geography」を開始します。  
その後、これは、そのすべての子孫とともに「ロック解除済」状態に変わります。
9. ホーム・ページで、「承認」をクリックします。
10. ロックされていない承認ユニットをクリックします。
11. 「ステータスの変更」ページで、「ステータスの変更」をクリックしてステータスを「ロック済」に変更します。
12. 「完了」をクリックします。

ロックまたはロック解除プロセス中にエラーが発生した場合、「承認」ページの承認ユニットの横に「失敗」ステータスが表示されます。リンクをクリックして詳細な検証レポートを表示し、エラーを解決します。

### エンティティのロック解除

ある期間のデータをロック解除できるのは、次の期間がロック解除されている場合のみです。たとえば、2月のエンティティをロック解除できるのは、3月のエンティティがロック解除されている場合のみです。

「ロック解除」または「単独ロック解除」オプションを選択できます。

- **ロック解除** - 親エンティティに対して「ロック解除」アクションを選択すると、親エンティティとそのすべての子孫がロック解除されます。
- **単独ロック解除** - 親エンティティに対して「単独ロック解除」アクションを選択すると、親エンティティのみがロック解除され、その子孫はロック解除されません。

エンティティをロック解除してエンティティの所有者を選択すると、現在の所有者を含め、その所有者は以前の移動パスで所有者になります。所有者の「自動」オプションを選択した場合、新しい所有者はエンティティの現在の所有者になります。

エンティティをロック解除するには:

1. 「承認」 ページで、ロックされた承認ユニットをクリックします。
2. 「ステータスの変更」 ページで、「アクション」 ドロップダウンからオプションを選択します。
  - **ロック解除** - 親エンティティおよびそのすべての子孫をロック解除します
  - **単独ロック解除** - 親エンティティのみをロック解除します。
3. 「完了」 をクリックします。

ロックまたはロック解除プロセス中にエラーが発生した場合、「承認」 ページの承認ユニットの横に「失敗」 ステータスが表示されます。リンクをクリックして詳細な検証レポートを表示し、エラーを解決します。

### 新規エンティティのロック

階層に新しいエンティティを追加すると、同期プロセスの一環としてロックが実装されます。新しいエンティティは、前期間のその親からロック済ステータスを継承します。親がロックされているアプリケーションの最初の期間からチェックが実行されます。親がロックされている場合は、新しいエンティティが自動的にロックされます。


次の条件が満たされた場合、エンティティはロックされます:

- 新しいエンティティのステータスは「NODATA」 および「未開始」 です。
- 新しいエンティティの親は「ロック済」 です。
- 新しいエンティティの前期間は「ロック済」 です。

新しいエンティティをロックする必要がない場合は、新しいエンティティのロックを手動で解除する必要があり、これによって、親のロックが解除されることとなります。

新しいエンティティを追加すると、メタデータを変更したことになるため、承認ユニット階層は「未同期」 ステータスになります。

承認ユニット階層を同期するには:

1. 「ナビゲータ」 アイコン  をクリックし、「ワークフロー」 で、「承認ユニット」 をクリックします。
2. 「未同期」としてリストされている承認ユニット階層を選択して、「同期」 をクリックします。  
アプリケーション内のすべての承認ユニット階層が同期され、エンティティが複数の階層に属している場合の競合が回避されます。
3. 同期プロセスのステータスを表示するには、ジョブ・コンソールに移動します。  
ジョブ・リストには、処理中の各承認ユニット階層のステータス、およびエラーの詳細が含まれています。

### エンティティを開始するためのガイドライン

エンティティが承認ユニット階層の一部であり、承認ユニット階層がシナリオ/年/期間の組合せに割り当てられている場合、エンティティは確認プロセスに参加しているとみなされます。

エンティティが承認ユニット階層の一部でない場合、または承認ユニット階層がどのシナリオ/年/期間にも割り当てられていない場合、エンティティは確認プロセスに参加しているとみなされません。

承認プロセスに参加するエンティティでは、エンティティが承認プロセスを開始した後(ステータスは、連結テンプレートの場合は「ロック解除済」、ボトム・アップ・テンプレートの場合は「レビュー中」)にのみ、エンティティへのデータ入力が可能です。このチェックは、ロックされた親への影響を回避するために行われます。したがって、エンティティに対するデータを入力する前に、エンティティを開始する必要があります。

エンティティを開始するためのこのガイドラインは、すべてのデータ変更プロセスに適用されます。これには、データ・フォームおよび SmartView を介したデータ入力、データ・ロード、データのコピーとクリア、仕訳の転記、補足データの転記、連結、換算、およびオンデマンド・ルールの計算が含まれます。

履歴データをロードしているためにエンティティを開始していない場合、エンティティが開始されないかぎりシステムによってデータ入力が防止されるため、データのロードに影響します。履歴データのロード中および突合せ中に承認プロセスを開始しない場合は、承認ユニット階層の承認ユニット割当を手動で削除できます。エンティティのロック準備が整った場合は、承認ユニット階層の割当を手動で追加し、承認プロセスを開始する必要があります。

## 承認プロセスの問題のトラブルシューティング

この項に、承認プロセスでエラーが発生する原因として最も一般的なものをいくつかリストします。

### エンティティのロック中の *Invalid Data* エラー

エンティティのロック中に *Invalid Data* エラーが発生する場合があります。このエラーは、次の理由で発生する可能性があります。

- ターゲット・エンティティまたはその子孫の前の期間をロックしていません。
- このターゲット・エンティティまたはその子孫の現在の年の前の期間をロックしていません。

承認カードを使用してエンティティをロックしている場合は、エラー・メッセージをクリックしてエラーの詳細を表示します。

### エンティティのロック解除中の *Invalid Data* エラー

エンティティのロック解除中に *Invalid Data* エラーが発生する場合があります。このエラーは、このターゲット・エンティティまたはその子孫(あるいはその両方)の現在の年度の将来の期間のいずれかがロックされている場合に発生する可能性があります。

承認カードを使用してエンティティのロックを解除している場合は、エラー・メッセージをクリックしてエラーの詳細を表示します。

[エンティティのロックとロック解除](#)を参照してください。

### エンティティのロック解除中の *Exception* エラー

エンティティのロック解除中に *Exception* エラーが発生する場合があります。この例外が発生する原因の 1 つとして、承認プロセス中にユーザーが承認所有者を変更したことが考えられます。承認ユニットがすでに開始されている承認ワークフローを変更すると、ワークフロー・ロジックが破損して、予期しない問題が発生することがあります。

解決策: ワークフローを適切に定義してから、承認プロセスを開始する必要があります。所有者を変更する必要がある場合、エンティティをロックするプロセスが進行中であれば、承認プロセスを除外してから再開する必要があります。再開するには、「承認の管理」から、ビュ

ーを「ツリー」ビューに変更し、エラーの原因となっているエンティティを検索し、それを「開始」から「除外」に設定した後、再度「開始」に設定します。

### 承認プロセス中の断続的な失敗

Lock、Unlock、Promote、Approve などの承認プロセスが断続的に失敗することがあります。

**回避策:** 承認カードからアクションを開始した後は、ページを繰り返し更新しないでください。アクションが完了するまでしばらく待ってから、ページを更新してください。

### エンティティ 開始中の *Failed: Ambiguous Automatic User* エラー

承認プロセスのエンティティを開始できるのは、サービス管理者のみです。承認開始プロセスでは、エンティティの所有者が割り当てられ、プロモーション・パスの正しい場所に配置されます。次の両方の条件が当てはまる場合、開始プロセスは所有者をターゲット・エンティティに割り当てません。

- 承認ユニット階層のルート・レベルに所有者を割り当てていない
- ルート・レベル内の子孫エンティティに所有者を割り当てていない

このエラーを回避するには、少なくとも 1 人の所有者が、承認ユニット階層のルート・レベル・エンティティに割り当てられていることを確認してください。これにより、所有者が割り当てられていないすべての子孫が、ルート・エンティティから所有者の割当てを継承できます。

[承認ユニットの所有者と確認者の割当て](#)を参照してください。

### 承認プロセスのパフォーマンスの最適化

承認プロセスのパフォーマンスは次の要因に依存します:

- 検証ルールを含むフォームの数。ロックおよびロック解除プロセス中には、ターゲット・エンティティのそれぞれの子孫についてフォームがロードされるため、追加するフォームの数をできるかぎり少なくしてください。
- フォームの設計。ベスト・プラクティスについては、[検証ルールを含むフォームのベスト・プラクティス](#)を参照してください。
- フォームについて選択した検証ルールのオプション。[フォームへのデータ検証ルールの組込み](#)を参照してください。

# エンタープライズ仕訳の管理

## 次も参照:

- [エンタープライズ仕訳について](#)
- [エンタープライズ仕訳のサンプル・タスク・フロー](#)
- [エンタープライズ仕訳の有効化](#)
- [エンタープライズ仕訳のビューおよびフィルタの操作](#)
- [エンタープライズ仕訳ステータス](#)
- [エンタープライズ仕訳のセキュリティ役割](#)
- [エンタープライズ仕訳チームの管理](#)
- [エンタープライズ仕訳でのディメンションの管理](#)
- [エンタープライズ仕訳システム設定の管理](#)
- [エンタープライズ仕訳の期間の構成](#)
- [エンタープライズ仕訳の接続の作成](#)
- [エンタープライズ仕訳ターゲットの管理](#)
- [エンタープライズ仕訳テンプレートの管理](#)
- [アドホック・エンタープライズ仕訳の作成](#)
- [アドホック・エンタープライズ仕訳の削除](#)
- [エンタープライズ仕訳の検証](#)
- [エンタープライズ仕訳のエクスポート](#)
- [エンタープライズ仕訳ライン・アイテムのエクスポート](#)
- [エンタープライズ仕訳テンプレートのデプロイ](#)
- [エンタープライズ仕訳テンプレートのデプロイ解除](#)
- [エンタープライズ仕訳の転記プロセス](#)
- [エンタープライズ仕訳のコピー](#)
- [エンタープライズ仕訳の強制クローズ](#)
- [エンタープライズ仕訳のダッシュボードの操作](#)
- [エンタープライズ仕訳のカスタム・レポートの生成](#)

## エンタープライズ仕訳について

エンタープライズ仕訳は、一般会計の転記に含める手動仕訳入力の方策および承認に使用されます。これにより、Enterprise Standard ERP との統合ソリューションが提供されます。

エンタープライズ仕訳の主要な機能は次のとおりです:

- すべての手動仕訳入力の単一ポイント
- 承認ルーティング・マトリックスを自動化する効率的なワークフロー
- 仕訳タイプおよび GL システムに基づく標準化された仕訳入力テンプレート
- 必要な承認を得た後に仕訳入力が正常に転記されるように、しきい値、残高一致および仕訳フォーマットの適切性について仕訳入力を検証する機能
- 仕訳のステータスに関するアドホック分析の包括的なダッシュボードでの未転記および処理中の仕訳の表示

エンタープライズ仕訳は構成可能で、任意のターゲット・アプリケーションにあわせてカスタマイズでき、強力なダッシュボードおよびカスタム・レポートを備えたクラウドおよびオンプレミスの ERP アプリケーションと統合できます。

デフォルトの動作は、すべての既存仕訳の履歴ディメンション属性を自動的に保持します。新しい仕訳の場合

エンタープライズ仕訳についてさらに学習するには、次のビデオをご覧ください。:



エンタープライズ仕訳の管理



エンタープライズ仕訳のツアー

## エンタープライズ仕訳のサンプル・タスク・フロー

### 機能管理者 – 財務管理部長

- アプリケーションでエンタープライズ仕訳を有効にします
- システムを設定します:
  - 期間の構成 – プラットフォームから作成された期間を確認します
  - 仕訳期間の構成 - 開始日、終了日およびクローズ日を設定します
- 接続を作成し、ターゲットを識別します
- 仕訳テンプレートを作成します
- 新しい属性を追加します
- テンプレートをターゲットにリンクし、テンプレートとターゲット属性の間のマッピングを定義します
- (テンプレートで)定型仕訳を作成します
- テンプレートを、オープンしている仕訳収集期間にデプロイします

### 策定者

- 策定のためにエンタープライズ仕訳リストから仕訳を開きます
- 必須の質問に回答した後、承認のために仕訳を送信します

### 策定者(ワークリストを使用した代替フロー)

- ホーム・ページの「お知らせ」パネルの年 / 期間の組合せから、「個人用オープン」タスクに移動します
- 策定のためにワークリストから仕訳を開きます
- 必須の質問に回答した後、承認のために仕訳を送信します

### 承認者

- 承認のためにエンタープライズ仕訳リストから仕訳を開きます
- 転記するために仕訳を送信します
- ジョブ ID が返され、転記プロセスはジョブ・コンソールの連結以外のジョブでモニターされます

### 承認者(ワークリストを使用した代替フロー)

- ホーム・ページの「お知らせ」パネルの年 / 期間の組合せから、「個人用オープン」タスクに移動します
- 承認のためにワークリストから仕訳を開きます
- 転記するために仕訳を送信します
- ジョブ ID が返され、転記プロセスはジョブ・コンソールの連結以外のジョブでモニターされます

### 機能管理者 – 財務管理部長

- ログインして、作成された 100 件の仕訳すべてとその他のアドホック仕訳(ある場合)の進行状況を確認します
- ダッシュボードおよびレポートを使用して、さらにビジュアル化します。

## エンタープライズ仕訳の有効化

アプリケーションでエンタープライズ仕訳を有効にするには、次のいずれかの方法を使用します:

- アプリケーションの作成プロセス中に、アプリケーションの作成ウィザードの「機能」タブを使用します。
  1. アプリケーションの作成ウィザードで、「機能」タブに移動します。
  2. 「エンタープライズ仕訳」を選択し、アプリケーション作成プロセスを完了します。
- アプリケーションを作成した後、「アプリケーション構成」ページでエンタープライズ仕訳を有効にできます。
  1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックし、「構成」を選択します。
  2. 「構成」画面で、「機能を使用可能にする」をクリックします。
  3. 「エンタープライズ仕訳」を選択し、「有効化」をクリックします。
  4. システムに有効化されたというメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。



5. 「設定およびアクション」メニューから、「ナビゲーション・フローのリロード」をクリックします。

アプリケーションでエンタープライズ仕訳を有効にした後、次の操作を実行します:

- ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックし、「エンタープライズ仕訳」を選択して仕訳管理者タスクにアクセスし、仕訳システムを設計します。
- ホーム・ページで、「エンタープライズ仕訳」をクリックして、仕訳リストおよび仕訳ライン・アイテムを操作します。

## エンタープライズ仕訳のビューおよびフィルタの操作

### 関連トピック:

- [エンタープライズ仕訳リストの表示](#)
- [エンタープライズ仕訳ライン・アイテムの表示](#)
- [ビューでの作業](#)
- [フィルタでの作業](#)

## エンタープライズ仕訳リストの表示

仕訳リストは、すべての仕訳を管理するための中心的な場所です。選択した年、期間およびテンプレートについて、仕訳とそのステータスのリストが表示されます。「アクション」から選択した、仕訳の転記ステータス、外部検証、検証メッセージ、検証ステータスおよび他の列も表示されます。

管理者の場合は、システム内の使用可能なすべての仕訳と、それらで作業しているユーザーを表示できます。


管理者以外のユーザーの場合は、自分の役割に対してアクティブな、注意を要するすべての仕訳を表示できます。

### 仕訳リストのサンプル

Template	Journal Name	Journal ID	Status (Detailed)	Preparer	Start Date	End Date	External Validation	Validation Status	Validation Message
Expenses Journal (ExtVal)	Medical Essentials - External	1000000004	With Preparer	slm user1	Jan 24, 2022	Jan 25, 2022	Custom	Failed	The account is inactive for the accounting date
Expenses Journal (ExtVal)	Medical Supply 1 - External	1000000005	With Preparer	slm user1	Jan 24, 2022	Jan 25, 2022	Custom	Valid	All entries are valid
General Expense Journal (InternalVal)	Vision Op 2 - Jan - Internal	1000000001	With Preparer	slm user1	Jan 24, 2022	Jan 26, 2022	None	Valid	
Logistics Journal (ExtVal)	Supply chain management - Jan - External	1000000006	With Preparer	slm user1	Jan 24, 2022	Jan 26, 2022	Custom	Validation In Progress	Submit Text
Logistics Journal (ExtVal)	Cost Center ABC123 - External	1000000002	With Preparer	slm user1	Jan 24, 2022	Jan 26, 2022	Custom	Not Validated	
Logistics Journal (ExtVal)	Logistics - Jan - External	1000000003	With Preparer	slm user1	Jan 24, 2022	Jan 26, 2022	Custom	Not Validated	

仕訳を表示するには:

1. ホーム・ページで、「エンタープライズ仕訳」をクリックします。
2. 左側の「仕訳」タブをクリックします。

3. 「年」、「期間」および「テンプレート」を選択します。
4. **オプション:** 仕訳を検索するには、「検索」フィールドで、仕訳リストを検索するテキストまたは数値を入力します。
5. **オプション:** 画面の右側にある  アイコンをクリックし、ビューを選択して、視覚的なフォーマットまたは行と列で仕訳を表示します。ビューでの作業を参照してください。たとえば、[エンタープライズ仕訳の例: エンタープライズ仕訳のリスト・ビューのカスタマイズ](#)を参照してください。
6. **オプション:** フィルタを作成して仕訳を表示します。フィルタでの作業を参照してください。
7. 関連項目: [エンタープライズ仕訳のターゲットの作成およびエンタープライズ仕訳の検証](#)

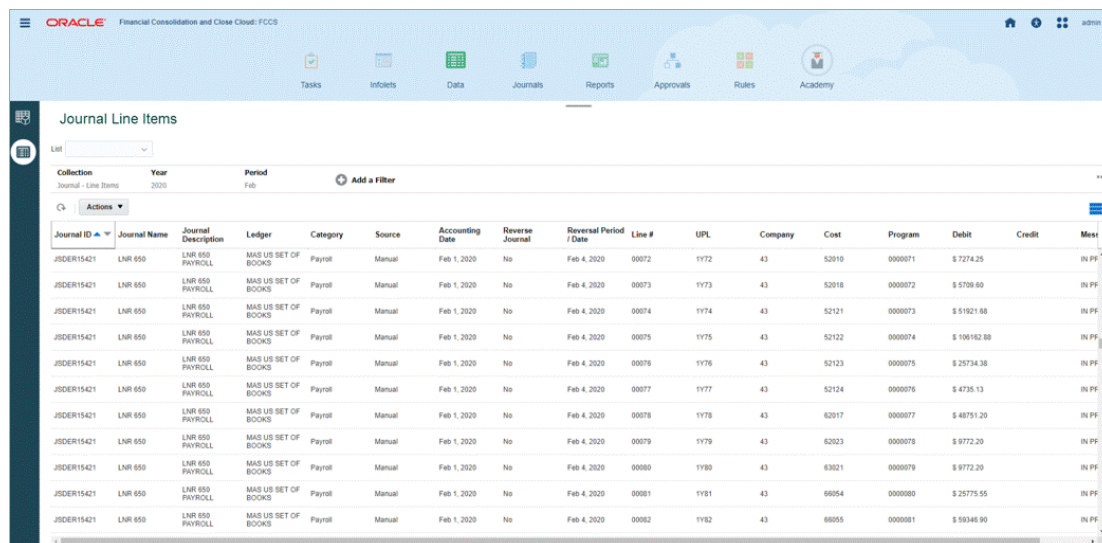
## エンタープライズ仕訳ライン・アイテムの表示

仕訳ライン・アイテム・リストでは、選択した年および期間について収集された仕訳データを表示できます。

仕訳ライン・アイテムにアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「エンタープライズ仕訳」をクリックします。
2. 「仕訳」ページで、左側の「仕訳ライン・アイテム」タブを選択します。
3. データを表示するには、仕訳行をクリックして開きます。
4. **オプション:** 仕訳を検索するには、「検索」フィールドで、リストを検索するテキストまたは数値を入力します。
5. **オプション:** リストをフィルタするには、「検索」フィールドの横にある「フィルタ」アイコンをクリックし、フィルタ条件を指定します。

### 仕訳リスト・アイテムのサンプル



Journal ID	Journal Name	Journal Description	Ledger	Category	Source	Accounting Date	Reverse Journal	Reversal Period / Date	Line #	UPL	Company	Cost	Program	Debit	Credit	Miss
JSDER15421	LNR 650	LNR 650 PAYROLL	MAS US SET OF BOOKS	Payroll	Manual	Feb 1, 2020	No	Feb 4, 2020	00072	1Y72	43	52010	0000011	\$ 7274.25		IN PF
JSDER15421	LNR 650	LNR 650 PAYROLL	MAS US SET OF BOOKS	Payroll	Manual	Feb 1, 2020	No	Feb 4, 2020	00073	1Y73	43	52018	0000072	\$ 5709.60		IN PF
JSDER15421	LNR 650	LNR 650 PAYROLL	MAS US SET OF BOOKS	Payroll	Manual	Feb 1, 2020	No	Feb 4, 2020	00074	1Y74	43	52121	0000073	\$ 51921.68		IN PF
JSDER15421	LNR 650	LNR 650 PAYROLL	MAS US SET OF BOOKS	Payroll	Manual	Feb 1, 2020	No	Feb 4, 2020	00075	1Y75	43	52122	0000074	\$ 106162.08		IN PF
JSDER15421	LNR 650	LNR 650 PAYROLL	MAS US SET OF BOOKS	Payroll	Manual	Feb 1, 2020	No	Feb 4, 2020	00076	1Y76	43	52123	0000075	\$ 25734.38		IN PF
JSDER15421	LNR 650	LNR 650 PAYROLL	MAS US SET OF BOOKS	Payroll	Manual	Feb 1, 2020	No	Feb 4, 2020	00077	1Y77	43	52124	0000076	\$ 4 4735.13		IN PF
JSDER15421	LNR 650	LNR 650 PAYROLL	MAS US SET OF BOOKS	Payroll	Manual	Feb 1, 2020	No	Feb 4, 2020	00078	1Y78	43	62017	0000077	\$ 48751.20		IN PF
JSDER15421	LNR 650	LNR 650 PAYROLL	MAS US SET OF BOOKS	Payroll	Manual	Feb 1, 2020	No	Feb 4, 2020	00079	1Y79	43	62023	0000078	\$ 9772.20		IN PF
JSDER15421	LNR 650	LNR 650 PAYROLL	MAS US SET OF BOOKS	Payroll	Manual	Feb 1, 2020	No	Feb 4, 2020	00080	1Y80	43	63021	0000079	\$ 9772.20		IN PF
JSDER15421	LNR 650	LNR 650 PAYROLL	MAS US SET OF BOOKS	Payroll	Manual	Feb 1, 2020	No	Feb 4, 2020	00081	1Y81	43	69054	0000080	\$ 25775.55		IN PF
JSDER15421	LNR 650	LNR 650 PAYROLL	MAS US SET OF BOOKS	Payroll	Manual	Feb 1, 2020	No	Feb 4, 2020	00082	1Y82	43	68055	0000081	\$ 59348.90		IN PF

## エンタープライズ 仕訳の列の定義

この項では、仕訳の列について定義を示します。

表 22-1 仕訳の列の定義

列属性	説明
アドホック	仕訳がアドホックであるかどうかを示します
アラート	仕訳に関連付けられているアラート
承認者 1	割り当てられた承認者
承認者 1 請求済	仕訳を請求した承認者
承認者 1 の終了日(実際)	承認者の実際の終了日
承認者 1 の終了日(割当済)	承認者に対して設定された終了日
承認者 1 の却下(件数)	承認者による却下の合計件数
承認者(人数)	仕訳の承認者の合計人数
現在の期限日	現在の担当ユーザーの期限日
説明	仕訳の説明
直接統合	ターゲットへの統合がプッシュであるかどうかを示します
終了日	仕訳全体の期限日
終了日(実際)	仕訳が「クローズ済」のワークフロー・ステータスに移行した日付
これまでの遅延	これまでに遅れたことがある役割があります (はい/いいえ) 策定者が遅延した場合、またはいずれかのレビュー担当者が遅延した場合、「これまでの遅延」は「はい」に設定されます。
これまでの遅延(承認者 1)	承認者の役割が遅延したことがあるかどうかを示します
これまでの遅延(策定者)	策定者の役割が遅延したことがあるかどうかを示します。 たとえば、元の送信で策定者が予定どおりだったとします。しかし、レビュー担当者が仕訳を却下し、策定者に再割当されました。レビュー担当者が遅延した場合、「これまでの遅延(策定者)」は「はい」に設定されます。
外部検証	外部検証が実行されるかどうかを示します: <ul style="list-style-type: none"> <li>なし: 外部検証は実行されません。</li> <li>カスタム: 構成された外部検証のタイプに基づいて、ターゲット ERP システムに対して仕訳データを検証します。</li> </ul>
統合タイプ	ターゲット ERP システムへの統合のタイプを示します
仕訳名	仕訳の名前
仕訳 ID	仕訳の一意的識別子(期間と年の組合せごとに一意)
最終更新者	仕訳を最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	仕訳が最後に更新された日時
遅延	現在の日付が仕訳の期限日より後の場合は遅延です

表 22-1 (続き) 仕訳の列の定義

列属性	説明
遅延(承認者 1)	現在の日付がいずれかの承認者の期限日より後の場合、承認者は遅延しています。
遅延(策定者)	次のいずれかが TRUE の場合、策定者は遅延しています: <ul style="list-style-type: none"> <li>現在の日付が策定者の期限日より後である</li> <li>策定者の期限日の後に、仕訳が策定者に対して再オープンされた</li> </ul> 策定者が仕訳を送信すると、「遅延」は「いいえ」に設定されます。 策定者の送信終了日の後に、仕訳が策定者に対して再オープンされた場合、この属性は「はい」に設定されます。策定者が仕訳を送信すると、「遅延」は「いいえ」に設定されます。
個人用終了日	仕訳での自分の役割の終了日
役割	仕訳での自分の役割
期間	仕訳に関連付けられている期間
転記メッセージ	転記後に ERP から返されるメッセージ
転記ステータス	仕訳の転記ステータス: <ul style="list-style-type: none"> <li>未転記: ワークフローの策定または承認ステージにある仕訳の転記ステータス</li> <li>転記準備完了: 仕訳のワークフロー・ステージが完了し、転記のために処理する準備ができているときの転記ステータス</li> <li>転記進行中: 仕訳の転記プロセスが開始されているときの転記ステータス</li> <li>失敗: ERP システムへの仕訳の転記プロセスがエラーありで失敗したときの転記ステータス</li> <li>転記済: データが正常に ERP に転記されたときの仕訳の転記ステータス</li> </ul>
策定者	割り当てられた策定者の名前
策定者(請求済)	仕訳を請求した策定者
策定者終了日	役割が完了する必要がある終了日
策定者終了日(実際)	役割が完了した実際の終了日
責任	仕訳に対してアクティブなユーザーの名前
ソース	ターゲット ERP システムへの接続元のソースの名前。
開始日	仕訳全体の開始日
ステータス(詳細)	仕訳の詳細なワークフロー・ステータス
ステータス(アイコン)	アイコンで示される仕訳のステータス
ターゲット表示 ID	ターゲットの一意の識別子
ターゲット名	仕訳を転記する必要があるターゲット ERP システムの定義およびプロパティを含むターゲットの名前
テンプレート	仕訳に関連付けられているテンプレート
合計(仕訳ライン・アイテム,金額)	金額属性ライン・アイテム(借方および貸方)の合計値

表 22-1 (続き) 仕訳の列の定義

列属性	説明
合計(仕訳ライン・アイテム,貸方)	貸方属性ライン・アイテムの合計値
合計(仕訳ライン・アイテム,借方)	借方属性ライン・アイテムの合計値
検証メッセージ	最後に試みた検証の結果が表示されます
検証ステータス	現在の検証ステータスが表示されます。検証ステータスには次のものがあります: <ul style="list-style-type: none"> <li>未検証</li> <li>検証準備完了</li> <li>検証進行中</li> <li>有効 - 検証が成功した場合は、検証ステータスが緑で表示され、検証メッセージのタイルが表示されます。</li> <li>失敗 - 検証が失敗ステータスである場合は、赤で表示され、検証メッセージのタイルが表示されます。</li> </ul>
年	仕訳に関連付けられている年

## エンタープライズ 仕訳ステータス

仕訳フロー・ステータスは、仕訳の現在の状態を示します。仕訳ステータスは、仕訳を作成、送信、承認すると変わります。

表 22-2 仕訳ワークフロー・ステータス

ステータス	説明
オープン(承認者)	策定者が仕訳を送信すると、責任がワークフローの最初の承認者に移り、ステータスが「オープン(承認者)」に変わります。  承認者が仕訳を承認すると、責任はワークフローの次の承認者に移動し、その承認者が存在する場合、ステータスは「オープン(承認者)」のままです。電子メール通知が承認者に送信されます。仕訳に他の承認者が存在しない場合、ステータスは「クローズ済」に変わります。
オープン(策定者)	承認者が仕訳を却下すると、責任は策定者に戻され、ステータスは「オープン(策定者)」に変わります。
オープン(承認者)	策定者が仕訳を送信すると、責任はワークフローで定義された承認者に移ります。
クローズ済	ワークフローに基づいてすべての承認者が仕訳を承認すると、ステータスは「クローズ済」に変わります。
オーバーライド済	仕訳が強制クローズされると、ステータスは「オーバーライド済」に変わります。

仕訳検証ステータスは、仕訳の現在の検証ステージを示します。仕訳データは、承認のために送信したり、転記する前に検証する必要があります。仕訳が外部検証につい

て有効になっている場合、対応する仕訳の入力がターゲット ERP システムに対して検証されます。

表 22-3 仕訳検証ステータス

ステータス	説明
未検証	仕訳データは検証されていません。
検証準備完了	仕訳データは外部検証の準備が完了しています。
検証進行中	仕訳検証が進行中です。
有効	仕訳データは外部のターゲット ERP システムに対して検証されており、データは有効です。
失敗	仕訳データは外部のターゲット ERP システムに対して検証されており、検証は失敗しました。

仕訳転記ステータスは、仕訳の現在の転記状態を示します。実行できる仕訳アクションは、仕訳ステータスで決まります。たとえば、仕訳ステータスが「承認済」の場合、実行できる操作は「転記」のみです。

表 22-4 仕訳の転記ステータス

ステータス	説明
未転記	仕訳は一般会計に転記されていません。
転記準備完了	ワークフローに基づいて仕訳が送信および承認され、システムで検証されると、転記準備完了です。
転記進行中	仕訳転記が進行中です。
「転記済」または「失敗」	仕訳転記処理後のステータス。ジョブ・コンソールでジョブ・ステータスを参照できます。

## エンタープライズ仕訳のセキュリティ役割

次の表は、エンタープライズ仕訳のセキュリティ役割とそのアクセス権を示しています。

表 22-5 エンタープライズ仕訳のセキュリティ役割

役割	アクセス
サービス管理者	システム設定 期間の管理 ディメンション テンプレート フィルタ ビュー 通貨 仕訳
パワー・ユーザー	API エクスポート 期間の管理 ディメンション テンプレート

表 22-5 (続き) エンタープライズ 仕訳のセキュリティ役割

役割	アクセス
ユーザー	フィルタ
	ビュー
	通貨
	仕訳
	API エクスポート
	フィルタ
	ビュー
	仕訳

## エンタープライズ 仕訳チームの管理

管理者およびパワー・ユーザーは、エンタープライズ 仕訳のチームを定義し、策定者および承認者の役割にそれらをプロビジョニングできます。次に、仕訳のこれらの役割に個々のユーザーを割り当てのではなく、チームに役割が割り当てられます。管理者およびパワー・ユーザーは、チームを追加、編集、および削除できます。

### チームの作成およびユーザーの追加

1. ホーム・ページで、「ツール」、「アクセス制御」の順に選択し、「チームの管理」を選択します。
2. 「チームの管理」で、「新規」をクリックします。
3. 「チームの定義」で、各チームに次の内容を入力します。
  - 名前
  - 説明
  - 役割  
モジュールを選択し、チームの役割(策定者または承認者)を選択します。
  - メンバー  
メンバーを追加するには:
    - a. 「メンバー」で、「追加」をクリックします。
    - b. 「名」、「姓」の一部またはすべてを入力するか、「検索」をクリックして、名前を選択します。
    - c. 「検索結果」で、「追加」または「すべて追加」をクリックし、選択内容を「選択済」リストに追加します。
    - d. 仕訳がそのユーザーでは「請求済」ステータスがデフォルトになる「プライマリ・ユーザー」を選択します。

#### ノート:

他のチーム・メンバーは次に仕訳を請求できます。



- e. 「OK」をクリックします。

#### 既存のチームへのユーザーの追加

チームにユーザーを追加するには:

1. 「チームの管理」でチームを選択し、「メンバー」でプラス記号(+)をクリックするか、「アクション」で「追加」をクリックします
2. 「ユーザーの選択」で、部分的または完全に名と姓を入力するか、「検索」をクリックして名前を選択します。
3. オプションで、「詳細」をクリックすると、そのユーザーの情報が表示され、適切なユーザーであることを確認できます。
4. ユーザーを選択し、矢印キーを使用してそのユーザーを右側の列に追加し、「OK」をクリックします。
5. 「チームの編集」で「OK」をクリックし、「チームの管理」で「閉じる」をクリックします。

#### チームからのメンバーの削除

チームからメンバーを削除するには:

1. 「チームの管理」からチームを選択し、「アクション」で「編集」を選択します。
2. 「メンバー」で削除するユーザーを選択し、X アイコンをクリックするか、「アクション」で「削除」をクリックします。
3. 「OK」をクリックし、「チームの管理」で「閉じる」をクリックします

#### チームまたはメンバーの詳細の編集

チームの詳細またはメンバー情報を編集するには:

1. 「チームの管理」からチームを選択し、「アクション」で「編集」を選択します。
2. チームの名前や説明、割り当てられている役割に変更を加えます。そのチームのメンバーのリストや、個々のチーム・メンバーの詳細を変更することも可能です。
3. 変更が完了したら、「OK」をクリックし、「チームの編集」で「閉じる」をクリックします。

#### チームの削除

チーム全体を削除するには:

1. 「チームの管理」から、削除するチームを選択し、「アクション」で「削除」を選択します。
2. 警告で「はい」をクリックし、削除を確認します。
3. 「OK」をクリックし、「チームの管理」で「閉じる」をクリックします。

## エンタープライズ仕訳でのディメンションの管理

次も参照:

- [ディメンションおよびディメンション属性の追加](#)
- [ディメンション属性の編集](#)

- [ディメンション属性の削除](#)
- [エンタープライズ仕訳ディメンション履歴の表示](#)

## ディメンションおよびディメンション属性の追加

「ディメンション」ページには、使用可能なすべてのシステム・ディメンションおよびローカル・ディメンションがリストされます。ローカル・ディメンションを追加したり、ディメンション属性を追加および編集することができます。

ディメンションを追加するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして、「**エンタープライズ仕訳**」をクリックします。
2. 左側の「**ディメンション**」タブをクリックします。
3. 「**新規 (+)**」をクリックします。
4. ディメンションの「**名前**」を入力します。
5. **オプション:** ディメンションの「**説明**」を入力します。
6. 「**属性**」タブで、「**属性の追加 (+)**」をクリックします。

次の値を入力します:

- **名前:** 最大 80 文字まで入力できます
- **説明:** 最大 255 文字まで入力できます
- **属性名:** 最大 80 文字まで入力できます
- **属性の説明:** 最大 255 文字まで入力できます
- **属性タイプ:**
  - **テキスト:** 最大 255 文字まで入力できます。
  - **整数:** -2147483648 から 2147483647 の値を入力できます。
  - **リスト:** 値 255 を入力できます。
  - **数値:** 値 xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx.xxxxxxxxx (17 桁、小数点以下 9 桁)を入力できます
- **キー属性**

この属性がキー属性の場合、「キー属性」チェック・ボックスを選択します。
- **データ型**

次のいずれかを選択します:

  - **日付**
  - **日時**
  - **整数**
  - **リスト**

方法を選択します。

  - \* 「**追加**」をクリックして、属性の値を入力します。

- \* CSV ファイルからリスト・アイテムをインポートするには、「**インポート**」をクリックし、CSV ファイルを参照します。
  - \* CSV ファイルからリスト・アイテムをエクスポートするには、「**エクスポート**」をクリックし、プロンプトに従います。
- **数値**
- 「数値」を選択した場合は、フォーマット・オプションを選択します(デフォルト値はシステム設定の「プリファレンス」セクションで設定されます)。
- \* 「**小数点以下の桁数**」には、表示される小数点以下の桁数の値を入力します。
  - \* 「**パーセンテージとして表示**」を選択して、パーセント記号を表示します。
  - \* 3 桁ごとの区切り文字(たとえば、1,000.00)を表示するには、「**3 桁ごとの区切り文字**」を選択します。ユーザーのロケール用の 3 桁ごとの区切り文字が表示されます。
  - \* 「**負数**」で、(123)など、負数の表示方法を選択します。
- **テキスト** 最大 255 文字まで入力できます。
- **複数行のテキスト**
- 「**複数行のテキスト**」を選択した場合は、3 から 50 行の間で**行数**を入力します。デフォルト値は 3 です。「複数行のテキスト」では、「アクション」ダイアログ・ボックスで、スクロールせずに仕訳に表示できるテキストの行数を決定します。最大長は 2000 文字です。ただし、テキスト領域の幅は固定されたままです。
- 「**値を使用**」チェック・ボックスを選択した場合は、「**行数**」に入力した値をデフォルトでここにも適用できます。これを超えると、スクロール付きテキストになります。
- データ型の値を保持することが必須の場合は、「**必須**」チェック・ボックスを選択します。
- 「**True**」または「**False**」
  - 「**はい**」または「**いいえ**」
- **デフォルト値**
- 属性にはデフォルトでこの値が移入されます。これは上書きできます。
7. 「OK」をクリックします。

## ディメンション属性の編集

ディメンション属性を編集するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして、「**エンタープライズ仕訳**」をクリックします。
2. 左側の「**ディメンション**」タブをクリックします。
3. ローカル・ディメンションを選択し、「**編集**」をクリックします。
4. 「**属性**」タブで属性を選択し、「**編集**」をクリックします
5. 必要に応じて属性を編集します。
6. 「OK」をクリックします。

## ディメンション属性の削除

ディメンション・メンバー属性は物理的にではなく論理的に削除されます。内部的には、メンバー属性は引き続き保持されますが、選択不可になったことを示すマークが付きます。メンバー属性情報は、それまでに仕訳で設定されていれば、引き続き表示されます。ディメンション・メンバー属性を削除すると、その属性は新しいエンタープライズ仕訳を作成するときに含められなくなります。ただし、既存の仕訳内にはそのディメンション・メンバー属性は残ります。

論理的に削除されたメンバー属性のうち、参照がない属性は次のシステム・メンテナンス・ジョブの実行で物理的に削除されます。

ディメンション属性を削除するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして、「**エンタープライズ仕訳**」をクリックします。
2. 左側の「**ディメンション**」タブをクリックします。
3. ローカル・ディメンションを選択し、「**編集**」をクリックします。
4. 「**属性**」タブで属性を選択し、「**削除**」をクリックします。
5. 属性を削除する確認プロンプトで、「**はい**」をクリックします。

## エンタープライズ仕訳ディメンション履歴の表示

エンタープライズ仕訳ディメンションごとに、その変更履歴が保持されます(プロパティや属性の変更など)。各変更レコードには、プロパティと属性の履歴、変更内容、変更タイプ、古い値と新しい値、変更を行ったユーザーおよび変更日が含まれます。このタブの情報は読取り専用です。

ディメンション履歴を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして、「**エンタープライズ仕訳**」をクリックします。
2. 左側の「**ディメンション**」タブを選択します。
3. ディメンションを選択し、「**履歴**」タブに移動してディメンション履歴を表示します。

## エンタープライズ仕訳システム設定の管理

次も参照:

- [エンタープライズ仕訳での電子メール通知の設定](#)
- [エンタープライズ仕訳のプリファレンスの設定](#)
- [承認者レベルのオーバーライドの設定](#)
- [エンタープライズ仕訳ガバナーの設定](#)

## エンタープライズ仕訳での電子メール通知の設定

サービス管理者は、エンタープライズ仕訳ユーザーの電子メール通知を設定できます。電子メール通知を有効にすると、バッチ通知が生成されます。通知が不要になった場合は、電子メール通知およびリマインダを非アクティブにできます。

### ノート:

デフォルトでは、電子メール通知は無効です。

「送信元アドレス」として電子メールを追加することもできます。アドレスをカスタマイズするか、製品の頭文字を追加して、通知の送信元をユーザーにアラートできます。

電子メール通知を設定するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックして、「エンタープライズ仕訳」をクリックします。
2. 左側の「システム設定」タブをクリックします。
3. 「電子メール通知」を選択します。
4. 「電子メール通知」に「オンにする」を選択して通知を開始するか、「オフにする」を選択して通知を非アクティブにします。
5. 電子メールの「送信元アドレス」を入力します。電子メール・アドレスを編集して特定のアドレスを指定したり、製品の頭文字を追加して通知の送信元をユーザーにアラートできます。
6. 「保存」をクリックします。

## エンタープライズ仕訳のプリファレンスの設定

エンタープライズ仕訳に表示する数値およびセルのフォーマットのプリファレンスを指定できます。小数点の表示方法、負数の表示方法、セルのスタイル、フォントおよび色を指定できます。

エンタープライズ仕訳のプリファレンスを設定するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックして、「エンタープライズ仕訳」をクリックします。
2. 左側の「システム設定」タブをクリックします。
3. 「システム設定」ページで、「プリファレンス」をクリックします。
4. 「数値のフォーマット」で、オプションを選択し、使用可能なオプションのドロップダウン・リストから設定を選択します:
  - 小数点以下の桁数
  - 負数
5. 「セルのフォーマット」で、オプションを選択し、使用可能なオプションのドロップダウン・リストから設定を選択します:
  - セル・スタイル

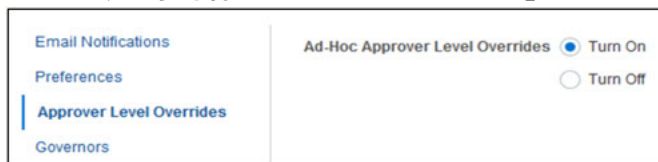
- 「フォント」、次に「太字」、「斜体」または「下線」を選択
  - フォント・サイズ
  - テキストの色
  - 背景色
6. 「保存」をクリックします。

## 承認者レベルのオーバーライドの設定

この設定をオンにすると、承認レベルの数値はアドホック仕訳の策定者が選択できます。デフォルトでは、デプロイメントに最後に保存された値が表示されます。

策定者にアドホック仕訳の承認者レベルの設定を許可するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックして、「エンタープライズ仕訳」をクリックします。
2. 左側の「システム設定」タブをクリックします。
3. 「システム設定」ページで、「承認者レベルのオーバーライド」をクリックします。
4. 「アドホック承認者レベルのオーバーライド」はデフォルトでオンになっています。



オンの場合、アドホック仕訳の作成時に承認者レベルを編集でき、策定者は仕訳ワークフロー・ドロワーからいつでも承認者を再割当できます。

*Financial Consolidation and Close* の操作の「アドホック・エンタープライズ仕訳の作成」も参照してください

## エンタープライズ仕訳ガバナーの設定

エンタープライズ仕訳では、アプリケーションのパフォーマンスを改善するために属性にガバナーを設定できます。デフォルト設定が提供されますが、これは削減するか最大値まで増加できます。オブジェクトが作成されると、最大制限値が適用されます。

たとえば、「計算済」属性の最大数を指定できます。「計算済」属性の作成時に、属性の数が最大値より少なければそれらの属性が作成されます。最大制限値に達している場合は、属性は作成されず、数が範囲外であることを示す検証メッセージが返されます。

エンタープライズ仕訳のガバナーを設定するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックして、「エンタープライズ仕訳」をクリックします。
2. 左側の「システム設定」タブをクリックします。
3. 「ガバナー」リンクをクリックします。
4. 属性の最大値を指定するか、デフォルト設定のままにします。
  - 計算された属性の最大数
  - ディメンション属性の最大数

- セクション当たりの属性の最大数
- 仕訳ライン・アイテムに表示する属性の最大数
- 「リストに表示するアイテムの最大数」(デフォルトは 10000)。
- 最大ファイル・アップロード・サイズ(MB)を選択してください(デフォルトの下限は 5MB で、最大は 20MB です)。

5. 「保存」をクリックします。

## エンタープライズ 仕訳の期間の構成

仕訳を操作する前に、仕訳収集期間(年、開始日、終了日、クローズ日を含む)を定義する必要があります。

仕訳テンプレートをデプロイするときは、仕訳収集期間がオープンしている必要があります。

アドホック仕訳は、オープンしている期間にのみ転記できます。期間がクローズされると、その期間では転記できなくなります。

### ノート:

API またはファイル・アップロードを介して期間がロックされると、転記ステータスを更新できます。

仕訳期間をオープン、クローズ、ロックするには、サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。


エンタープライズ 仕訳の期間を構成するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックして、「エンタープライズ 仕訳」をクリックします。
2. 左側の「仕訳期間」タブをクリックします。
3. 「年」から年を選択します。
4. 「期間」から期間を選択します。
5. 「開始日」、「終了日」および「クローズ日」を指定して、「保存」をクリックします。

### ノート:

保存する前に入力された日付をクリアするには、「リセット」をクリックします。

期間をオープン、クローズまたはロックするには:

1. 「仕訳期間」リストから期間を選択します。
2. 「アクション」 ドロップダウンまたはメニュー・バーから、次のいずれかのアクションを選択します:



- **期間のオープン** – 新規の仕訳テンプレートをデプロイでき、アドホック仕訳を仕訳期間に追加できます。ユーザーは、スケジュール済の開始日に基づいて仕訳を更新できます。
- **期間のクローズ** – 追加の仕訳テンプレートをデプロイできず、追加のアドホック仕訳を仕訳期間に追加できません。ユーザーは、既存の仕訳の更新を継続できます。
- **期間のロック** – 既存の仕訳に対して追加の更新はできません。

## エンタープライズ 仕訳の接続の作成

エンタープライズ 仕訳の転記のターゲットを作成する前に、Web サービス・ターゲットへの接続を作成する必要があります。

外部 Web サービスへの接続を作成するには、接続する Web サービスへのアクセス権があることを確認する必要があります。場合によっては Web サービスの URL およびログイン詳細も必要です。

接続を作成するには:

1. ソース環境にログインします。
2. ホーム・ページから、「ツール」、「接続」の順にクリックします。
3. 「接続の管理」ページで、「作成」をクリックします。
4. 「その他の Web サービス・プロバイダ」をクリックします。
5. 接続の「接続名」および「説明」を入力します。
6. ターゲット接続の URL を入力します(例: <https://your-target-erp-host-url.com>)。

### ノート:

Oracle Cloud Financials に接続して仕訳データを転記するには、接続で使用されるユーザー ID に次の ERP 役割が必要です:

- **FUN\_FSCM\_REST\_SERVICE\_ACCESS\_INTEGRATION\_PRIV** - FSCM 統合 REST サービスへのアクセス
- **GL\_RUN\_IMPORT\_JOURNALS\_PROGRAM\_PRIV** - 仕訳のインポート・プログラムの実行

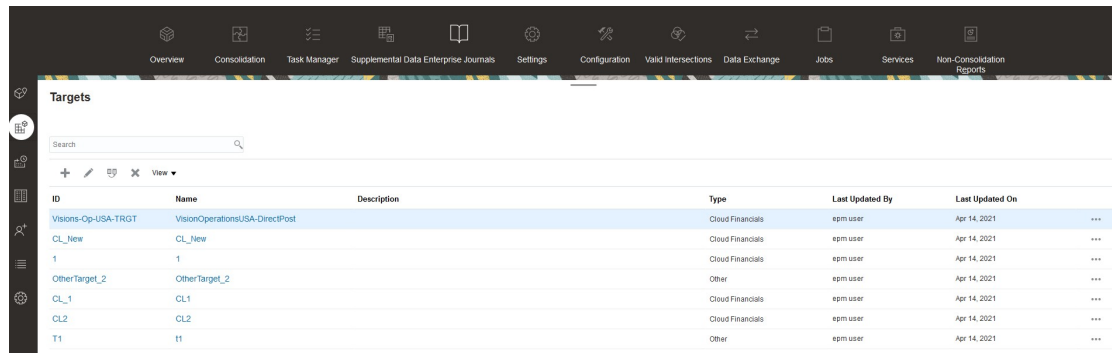
Oracle Cloud Financials のアクセス権を確認するには、ブラウザで URL `https://your-target-erp-host-url.com/fscmRestApi/resources/latest/erpintegrations/describe` を実行します。

7. 必要に応じて、接続のユーザーおよびパスワード ERP ログイン資格証明を入力します。Oracle Cloud サービスへの接続など、場合によってはユーザー名の前にドメイン名を付ける必要があります(例: <Identity Domain>.<User Name>)。
8. 「保存して閉じる」をクリックします。

## エンタープライズ 仕訳ターゲットの管理

エンタープライズ 仕訳では、管理者は仕訳テンプレートに関連付けるターゲットを作成できます。Financial Cloud というシード済ターゲットがあり、新しいターゲットを作成できません。

「ターゲット」ページには、システムで定義されているターゲットのリストが表示されます。ターゲット ID、名前、説明、タイプ、エクスポート方法、最終更新日および最終更新者が表示されます。



ID	Name	Description	Type	Last Updated By	Last Updated On
Visions-Op-USA-TRGT	VisionsOperationsUSA-DirectPost		Cloud Financials	epm user	Apr 14, 2021
CL_New	CL_New		Cloud Financials	epm user	Apr 14, 2021
1	1		Cloud Financials	epm user	Apr 14, 2021
OtherTarget_2	OtherTarget_2		Other	epm user	Apr 14, 2021
CL_1	CL1		Cloud Financials	epm user	Apr 14, 2021
CL2	CL2		Cloud Financials	epm user	Apr 14, 2021
T1	tt		Other	epm user	Apr 14, 2021

エンタープライズ 仕訳ターゲットのリストを表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックして、「エンタープライズ 仕訳」をクリックします。
2. 左側の「ターゲット」タブをクリックします。
3. オプション: 表示する列を選択するには、「表示」、「列」の順にクリックして表示する列を選択するか、「すべて表示」を選択します。

## エンタープライズ 仕訳のターゲットの作成

エンタープライズ 仕訳を操作する前に、仕訳を転記するターゲット ERP システムの定義およびプロパティを含むターゲットを作成します。

仕訳テンプレートを作成する場合は、事前定義済ターゲットのリストから、テンプレートに関連付けるターゲットを選択します。

ターゲットを作成するには、サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。

エンタープライズ 仕訳には、**Cloud Financials** というシード済ターゲットが用意されています。独自のターゲットを追加することもできます。

ターゲットでエクスポート・プロセスに必要な属性を指定し、ビジネス要件に固有のカスタム属性を定義できます。属性は性質上定数の可能性があり、また仕訳テンプレートでのマッピングに使用できます。エンタープライズ 仕訳では、**Cloud Financials** ターゲットにシード済属性が用意されています。

ターゲットを作成する場合は、ターゲット ERP システムに対する統合のタイプを指定します。次のいずれかの方法を選択できます:

- **Cloud Financials** - 直接統合(ERP システムへの専用転記プロセス)を使用します

- **その他** - EPM 自動化コマンドまたは転記を実行するサード・パーティの API ツールを使用できます

直接統合方法の場合は、システムによる自動転記を有効にするか無効にするかを選択できます。転記の無効化は主に、**Cloud Financials ERP** がなんらかの理由で停止しているときに、管理者がワークフロー・レベルを継続しながら転記アクションをオフにするシナリオで使用されます。この場合、仕訳は引き続き転記準備完了に適格であり、ERP の準備が整い次第、管理者は転記を有効にできます。

「直接統合」が有効になっている場合、付加フレックスフィールドを「仕訳のインポート」スケジュール済プロセスの一部としてインポートできます。付加フレックスフィールドは、カスタマイズ済データの取得および使用のために使用されます。プレーン・テキスト、値セットの値、表、日付フィールド、数値フィールドの値の一部など、任意のタイプにすることができます。付加フレックスフィールドの詳細は、次を参照してください:

- [付加フレックスフィールドの概要](#)
- [財務の付加フレックスフィールド](#)

エンタープライズ仕訳のターゲットを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして、「**エンタープライズ仕訳**」をクリックします。
2. 左側の「**ターゲット**」タブをクリックします。
3. 「**新規**」(+)**アイコン**をクリックします。

The screenshot shows the 'Create Target' form with the following fields and values:

- ID:** VisionOperationsUSA
- Name:** Vision Operation US Direct
- Description:** Vision Operations Ledger - Direct post target
- Type:** Cloud Financials
- External Validation:** None
- Direct Integration:**
- Connection:** fa-epve-saas-OraERP
- Posting:** Enabled
- Import Descriptive Flexfields:** With Validation

4. 「**プロパティ**」タブで、次の情報を指定します。
  - **ID:** 最大 80 文字まで入力できます。  
ターゲットの一意的識別子を入力します。

- **名前** - ターゲットの名前を入力します。ターゲット名は必須で、仕訳テンプレートを作成するときに使用されます。最大 80 文字まで入力できます。
- **説明 - オプション**。ターゲットの説明を入力します。最大 255 文字まで入力できます。
- **タイプ** - ドロップダウン・リストから、ターゲット ERP システムに対する統合のタイプ(「**Cloud Financials**」や「**その他**」など)を選択します。
- **外部検証** - ドロップダウン・リストから次のものを選択できます:
  - **なし** - このオプションを選択した場合、外部検証は実行されません。内部仕訳検証は、引き続きデフォルトで実行されます。
  - **カスタム** - このオプションを選択した場合、必要な外部検証のタイプを構成して、ターゲット ERP システムに対して仕訳データを検証する必要があります。

関連項目: *Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作* および *Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API ガイド*。

- **直接統合** - 統合のタイプとして「**Cloud Financials**」を選択した場合、「**直接統合**」チェック・ボックスはデフォルトで選択されています。直接統合は、ERP システムへの専用転記プロセスです。

統合のタイプが「**その他**」の場合、「**直接統合**」オプションは使用できません。

「直接統合」チェック・ボックスが選択されていない場合、最終ワークフロー・ステージの後はジョブはトリガーされず、仕訳の転記ステータスは「転記準備完了」になります。EPM 自動化コマンドまたは転記を実行するサード・パーティの API ツールを使用できます。API を使用して、ステータスを「失敗」または「転記済」に更新できます。[エンタープライズ 仕訳の転記プロセス](#)を参照してください。

関連項目: *Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作* および *Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API ガイド*。

- **接続** - 接続リストは、「**直接統合**」が有効になっている場合にのみ表示されます。ドロップダウン・リストで、転記を担当する管理者によって事前定義された接続のリストから接続を選択します。
- **転記中** - 転記オプションを選択します:
  - **使用可能** - タイプが「**Cloud Financials**」で、「**直接統合**」が選択されている場合、仕訳は転記されます。
  - **使用不可** - タイプが「**Cloud Financials**」で、「**直接統合**」が選択されている場合、仕訳は転記されません。
- **付加フレックスフィールドのインポート** - 仕訳の転記時に、仕訳属性の付加フレックスフィールドを Cloud Financials にインポートします。選択可能なオプションは次のとおりです:
  - **いいえ** - 付加フレックスフィールドをインポートしないことを指定します。仕訳直接転記中に、値 **N** がスケジュール済ジョブ・パラメータに渡されます。
  - **検証あり** - 検証ありで付加フレックスフィールドをインポートすることを指定します。仕訳直接転記中に、値 **W** がスケジュール済ジョブ・パラメータに渡されます。
  - **検証なし** - 検証なしで付加フレックスフィールドをインポートすることを指定します。仕訳直接転記中に、値 **O** がスケジュール済ジョブ・パラメータに渡されます。

 **ノート:**

付加フレックスフィールドを、インポート前に Oracle Cloud Financials アプリケーションで構成する必要があります。

5. 「属性」タブをクリックして属性を追加するか、「保存して閉じる」をクリックしてターゲットを保存します。

**属性:**

- **テキスト:** 最大 255 文字まで入力できます。
- **整数:** -2147483648 から 2147483647 の値を入力できます
- **数値:** 値 xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx.xxxxxxxxx (17 桁、小数点以下 9 桁)を入力できます

[エンタープライズ仕訳のターゲット属性の作成](#)を参照してください

## エンタープライズ仕訳のターゲット属性の作成

ターゲットでエクスポート・プロセスに必要な属性を指定し、ビジネス要件に固有のカスタム属性を定義できます。属性は性質上定数の可能性があり、また仕訳テンプレートでのマッピングに使用できます。属性を追加、削除、インポートおよびエクスポートしたり、属性の順序を調整することができます。

エンタープライズ仕訳では、**Cloud Financials** ターゲットにシード済属性が用意されています。**Cloud Financials** を使用していない場合は、手動で属性を追加する必要があります。

ターゲット属性を作成するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックして、「エンタープライズ仕訳」をクリックします。
2. 左側の「ターゲット」タブをクリックします。
3. 「新規」(+ )または「編集」をクリックしてターゲットを開き、「属性」タブを選択します。
4. 属性を追加するには、「追加」(+ )をクリックします。
5. 属性の「名前」を入力します。
6. 属性の「データ型」を選択します:

ターゲット・タイプとして Cloud Financials を選択した場合、属性とそのタイプがデフォルトでロードされます。必要に応じて、それらを含めたり除外したり、追加属性を追加または削除することができます。

次のデータ型がサポートされています:

- **日付** - デフォルトの日付がユーザー・プリファレンスからプリロードされていますが、属性に応じて変更できます。
- **整数**
- **数値** - 数値は常に小数点でフォーマットされることに注意してください。
- **テキスト**
- **True/False**

- **はいいいえ**

ターゲットをテンプレートに関連付けた後は、属性タイプを変更できません。

7. **必須** - 属性が必須であるかどうかを選択します。

ターゲット・タイプとして「**Cloud Financials**」を選択した場合、必須パラメータがデフォルトでロードされます

8. **フィールド・タイプ** - 属性のフィールド・タイプを選択します:

- **借方**
- **貸方**
- **金額**

 **ノート:**

適切なデータ入力を確認するために、借方/貸方および金額合計に対して検証を実行できます。2つの検証があります。ユーザーは、「借方」と「貸方」の2つの列がある仕訳、または「金額」列のみがある仕訳を作成できます。仕訳に「借方」列と「貸方」列がある場合、次のことが検証されます:

- 「借方」列と「貸方」列の合計が一致する必要があります。一致しない場合は、検証を実行すると「*借方貸方合計: 不一致*」というエラー・メッセージが表示されます。
- 1行内で「借方」列と「貸方」列の両方に値を入力できません。空白である必要があります。同じ行内で「借方」列と「貸方」列の両方に値を入力すると、検証を実行したときに次のエラー・メッセージが表示されます: *行番号{ROW\_NUM}の借方貸方エントリが無効です。借方または貸方を入力してください。*

ただし、仕訳に「金額」列のみがある場合、検証では「金額」列の合計が0であることが確認されます。そうでない場合は、検証を実行すると、次のメッセージが表示されます: *合計金額: 不一致: 合計が無効です。合計金額はゼロである必要があります。*

9. **フォーマット** - フォーマット・プロパティを選択します。たとえば、日付フォーマット (MM/DD/YYYY)を選択するか、**デフォルト**・フォーマットを使用します。

10. **値の設定** - ドロップダウン・リストから、属性値を選択します:

- **明示**

「**明示**」を選択した場合は、「**値**」列に定数を入力します。

- **マップ済**

「**マップ済**」を選択した場合は、テンプレートでのマッピングに「**値**」列を使用できます。

- **システム**

次のシステム値は、値の設定に明示的に割り当てることができます:

- **年:** 仕訳収集の年
- **期間:** 仕訳収集の期間

- **開始日:** 仕訳の有効開始日
  - **終了日(実際):** 有効終了日
  - **終了日:** 仕訳リストで使用される現在の終了日
  - **策定者名:** 名 / 姓
  - **策定者ユーザー ID:** ログイン ID
  - **仕訳 ID:** 仕訳識別子
11. **オプション:** 属性をインポートするには、「**インポート**」、「**参照**」の順にクリックして CSV ファイルを選択し、「**インポート**」をクリックします。
- CSV ファイルのフォーマットは次のようにする必要があります:
- Name, Datatype, Required, Format, Set Value, Value
- 例: Journal Name, Text, Yes, Default, Mapped, ,
- インポート・オプションは「すべて置換」で、これはデータをソース・ファイルのデータに置き換えます。
12. **オプション:** 属性をエクスポートするには、「**エクスポート**」をクリックして、エクスポート・ファイルの場所を選択します。
13. **オプション:** ERP にエクスポートする順序で属性を配置するには、「**一番上へ移動**」、「**上へ移動**」、「**下へ移動**」および「**一番下へ移動**」の各アイコンを使用します。
14. 属性を削除するには、属性を選択して「**削除**」をクリックします。
15. 「**保存して閉じる**」をクリックしてターゲットを保存します。

## エンタープライズ 仕訳ターゲットの編集

既存のエンタープライズ 仕訳ターゲットを編集し、プロパティおよび属性を変更できます。

属性データ型、必須のターゲット属性パラメータまたは属性の値の設定は、テンプレートに関連付けられた後で変更できません。

ターゲット属性を削除しようとする、属性がすべてのテンプレートで共有されているという警告が表示され、属性を削除するとすべてのテンプレートで削除されます。

いずれかの期間にデプロイされているセクションにその属性が含まれている場合、仕訳で参照されているため属性を削除できないというエラー・メッセージが表示されます。

ターゲットを編集するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして、「**エンタープライズ 仕訳**」をクリックします。
2. 左側の「**ターゲット**」タブをクリックします。
3. ターゲットを選択し、メニュー・バーで「**編集**」を選択します。
4. 必要に応じてプロパティを編集し、「**保存して閉じる**」をクリックします。



## エンタープライズ仕訳ターゲットの複製

新しいターゲットを作成してプロパティを再定義するのではなく、既存のターゲットを複製して変更できます。

ターゲットを複製するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックして、「エンタープライズ仕訳」をクリックします。
2. ターゲットを選択し、メニュー・バーで「複製」を選択します。
3. 必要に応じてターゲットを編集し、「保存して閉じる」をクリックします。

## エンタープライズ仕訳ターゲット履歴の表示

エンタープライズ仕訳ターゲットごとに、プロパティや属性の変更など、加えられた変更の履歴が保持されます。各変更レコードには、ターゲットのプロパティおよび属性、変更、変更タイプ、古い値と新規の値、変更を行ったユーザー、変更日の履歴が含まれます。このタブの情報は読取り専用です。

ターゲット履歴を表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックして、「エンタープライズ仕訳」をクリックします。
2. 左側の「ターゲット」タブを選択します。
3. ターゲットを選択し、「履歴」タブに移動してターゲット履歴を表示します。

## エンタープライズ仕訳ターゲットの削除

不要になったエンタープライズ仕訳ターゲットを削除できます。

ターゲットを削除するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックして、「エンタープライズ仕訳」をクリックします。
2. 左側の「ターゲット」タブをクリックします。
3. ターゲットを選択し、メニュー・バーで「削除」を選択します。
4. 「はい」をクリックしてターゲットの削除を確認します。

## エンタープライズ仕訳テンプレートの管理

エンティティや勘定科目など、共通の情報が含まれる仕訳の仕訳テンプレートを作成できます。そのテンプレートを使用して、類似の情報が含まれる仕訳を作成できます。

「テンプレート」ページから、システム内にあるすべての定型仕訳テンプレートおよびアドホック仕訳テンプレートのリストを表示できます。また、テンプレートに加えられた変更の最終更新日、テンプレートを最後に更新したユーザー、ターゲット、テンプレートでアドホック仕訳が有効になっているかどうか、およびテンプレートのワークフローで定義された定型仕訳の数も表示されます。

「テンプレート」リストの検索機能を使用して、テンプレートをすばやく検索できます。検索する名前の全部または一部を入力できます。

Name	Description	Target	Allow Ad-Hoc	Recurring Journals	Last Update	Last Updated By
1		1	Yes	2	Apr 14, 2021	epm user
GeneralExpenses-VisionOpUS		VisionOperat...	No	1	Apr 14, 2021	epm user
JT1	ds	OtherTarget_2	No	2	Apr 14, 2021	epm user
JT11	jt11	11	No	1	Apr 14, 2021	epm user
JT2		OtherTarget_2	No	1	Apr 14, 2021	epm user
Other Expenses Journal	Other expenses journal	OtherTarget_2	No	2	Apr 14, 2021	epm user
TCL1		CL1	Yes	1	Apr 14, 2021	epm user
TCL2		CL2	No	1	Apr 14, 2021	epm user
TCL_new	mtjg	CL_New	Yes	1	Apr 14, 2021	epm user
111		11	No	1	Apr 14, 2021	epm user

仕訳テンプレートのリストを表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックして、「エンタープライズ仕訳」をクリックします。
2. 左側の「仕訳テンプレート」タブをクリックします。
3. テンプレートをクリックして開き、表示します。
4. **オプション:** 表示する列を選択するには、「表示」、「列」の順にクリックして表示する列を選択するか、「すべて表示」を選択します。
5. テンプレートを検索するには、「検索」テキスト・ボックスに検索条件を入力します。

## エンタープライズ仕訳テンプレートの作成

仕訳テンプレートにより、仕訳の作成プロセスが簡略化されるため、期間ごとに作成する必要のある仕訳にとって役立ちます。

エンタープライズ仕訳テンプレートを作成および操作するには、管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。

テンプレートを作成する場合は、テンプレートをアドホック仕訳の作成に使用できるかどうかを指定し、テンプレートの作成を許可するユーザーを選択します。個々のユーザー、グループまたはチームを選択できます。

エンタープライズ仕訳テンプレートを作成するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックして、「エンタープライズ仕訳」をクリックします。
2. 左側の「仕訳テンプレート」タブをクリックします。
3. 「新規」をクリックします。
4. 「プロパティ」タブで、次の情報を指定します。
  - **名前** - 一意のテンプレート名を入力します。入力できる最大文字数は 80 文字です。
  - **説明 - オプション:** 説明を入力します。最大 255 文字まで入力できます。
  - **セクション:**
    - **名前:** 最大 80 文字まで入力できます。

– 列:

- **ターゲット** - ドロップダウン・リストから、管理者によって定義されたサポート対象ターゲットのリストからターゲットを選択します。

## エンタープライズ仕訳指示の指定

管理者は、仕訳の使用方法に関する指示を指定できます。指示には、テキスト、添付ファイル、およびドキュメント・リポジトリのファイルへのリンクを含めることができます。最大ファイル・サイズは 20 MB に制限されています。

エンタープライズ仕訳の指示を指定するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして、「**エンタープライズ仕訳**」をクリックします。
2. 左側の「**仕訳テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**新規**」または「**編集**」をクリックし、「**指示**」タブを選択します。
4. 「**指示**」で、指示のテキストを入力します。

ファイルへの参照を追加するには:

1. 「**参照**」セクションで、「**追加**」をクリックします。  
参照を削除するには、その参照を選択して、「**削除**」をクリックします
2. 参照タイプを選択します:
  - **ローカル・ファイル** - ローカル・ファイル・システムを参照してファイルを選択します。参照名を指定する必要があります。「**OK**」をクリックすると、ファイルがシステムにアップロードされ、フォーム・テンプレートとともに保管されます。
  - **URL** - 外部 URL 参照を入力し、参照名を指定します。「**OK**」をクリックすると、アプリケーションに URL が保管されます。

## エンタープライズ仕訳テンプレート・セクションの操作

エンタープライズ仕訳テンプレートを作成する場合、ヘッダーおよびライン・アイテムの詳細の事前定義済セクションが含まれています。

仕訳ヘッダーでは、ヘッダー属性とそのプロパティがデータ・レコードとして列に格納されます。仕訳ライン・アイテムの詳細では、ライン・アイテムがデータ・レコードとして行に格納されます。

仕訳リスト・ページには、ヘッダー(仕訳名や仕訳の説明など)およびライン・アイテムの詳細(勘定科目、借方、貸方など)が表示されます。必要に応じて、ヘッダーおよびライン・アイテムの詳細の名前を編集できます。

テンプレートのセクションを編集するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして、「**エンタープライズ仕訳**」をクリックします。
2. 左側の「**仕訳テンプレート**」タブをクリックします。
3. テンプレートで、「**セクション**」タブを選択します。
4. 「**編集**」をクリックし、必要に応じて名前を編集します。
5. 他の**セクション**・タブに移動し、必要に応じて情報を入力します。

## エンタープライズ仕訳テンプレート・セクション: 「列」 タブ

エンタープライズ仕訳テンプレートを作成する場合、ヘッダーおよびライン・アイテムの詳細用の事前定義済セクションが含まれています。

仕訳ヘッダーでは、ヘッダー属性とそのプロパティがデータ・レコードとして列に格納されます。

「ヘッダー」セクションでは、次の属性列が事前定義されています。事前定義済属性は編集または削除できませんが、テンプレートから除外できます。

表 22-6 「ヘッダー」の属性列

属性の名前	タイプ	詳細
仕訳 ID	テキスト	一意の仕訳識別子 - 内部およびワークフローで定義
仕訳名	テキスト	仕訳の名前(ヘッダーで一意)
仕訳の説明	テキスト	仕訳の説明
入力された通貨	リスト	入力された通貨
会計日付	日付	仕訳入力の日付

表 22-7 「ライン・アイテムの詳細」の属性列

属性の名前	タイプ	詳細
行番号	テキスト	ライン・アイテム・インデックス(行ごとに一意)
勘定科目	テキスト	ライン・アイテムの勘定科目
借方	数値	借方金額(小数点第 2 位、桁区切り)
貸方	数値	貸方金額(小数点第 2 位、桁区切り)
明細行の説明	テキスト	ライン・アイテム入力の説明
金額	数値	金額(小数点第 2 位、桁区切り)

### ノート:

特定の仕訳テンプレートに対して、「借方/貸方」または「金額」属性のいずれか 1 つのオプションのみ選択できます。

### ノート:

- デフォルトの「借方/貸方」および「金額」属性には、これらの属性に基づいてすべての明細で仕訳が貸借一致していることを確認するために、デフォルトの検証ロジックが関連付けられています。
- 「借方/貸方」に対して、ユーザーは同じ仕訳明細の両方のフィールドに値を入力できません。

「列」情報を指定するには:

1. エンタープライズ仕訳テンプレートを開きます。
2. テンプレートの「セクション」で、「ヘッダー」または「ライン・アイテムの詳細」をダブルクリックします。
3. 「列」タブを選択し、必要に応じて情報を編集します。
4. 「レイアウトの列」で、セクションの列数を選択します。最大 3 列です。
  - **含む** - 表示に含める属性を選択します。属性を除外するには、「含む」チェック・ボックスの選択を解除します。  
ノート: 事前定義済属性ではキー・アイコンが有効になっています。
  - **名前** - 属性の名前。
  - **ディメンション** - 特定ディメンションの属性からの列。読取り専用です。
  - **データ型** - 属性に対応するデータ型。読取り専用です。
  - **表示幅** - 「ライン・アイテムの詳細」では、表示される際の仕訳の列幅を選択します。
    - **小**: 70 ピクセルの固定幅
    - **中**: 100 ピクセルの固定幅
    - **大**: 300 ピクセルの固定幅
    - **サイズを合わせる**: 行で最長のテキストに基づいて、列の幅を合せます
    - **カスタム**: 幅を指定します。最小値: 20。最大値: 999。
  - **合計** - 「ライン・アイテムの詳細」では、属性の合計方法。読取り専用です。
  - **合計行** - 「ライン・アイテムの詳細」では、合計行の表示方法(「上部」、「下部」または「なし」)を選択します。
  - **表示のみ** - 列を表示専用にするかどうかを選択します。
5. **オプション**: 仕訳テンプレート・セクションに新しい属性を追加するには、「追加」(+ )アイコンをクリックし、「属性の追加」を選択し、属性情報を指定します。
  - **属性の追加**: ステップ 6 に移動します。
  - **ディメンションから属性を追加**:
    - a. **ディメンション**を選択します。
    - b. 「使用可能な属性」リストから属性を選択し、「選択された属性」リストに移動します。
    - c. ディメンションのキー属性が選択された属性として含められます。キー属性はクリアできません。
    - d. 「OK」をクリックし、「保存」または「保存して閉じる」をクリックします。
6. 「新規属性の作成」で「属性の追加」を選択した場合は、「プロパティ」タブの情報を入力します。
  - **名前**: 最大 80 文字まで入力できます。
  - **説明**: 最大 255 文字まで入力できます。
  - 「属性タイプ」を指定します:

- **テキスト**: 最大 255 文字まで入力できます。
- **整数**: -2147483648 から 2147483647 の値を入力できます
- **リスト**: 値 255 を入力できます
- **数値**: 値 xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx.xxxxxxxxx (17 桁、小数点以下 9 桁)を入力できます

属性タイプを変更すると、それまでに指定した検証または計算は上書きされます。属性が一度作成されると、この設定を変更することができなくなります。

- **入力**: 「入力」がデフォルトであり、「**検証**」タブが有効になります。

オープン済で、フォーム・インスタンスが作成されている期間には、変更された検証ルールは適用されません。行った変更は、新規のフォーム・インスタンスにのみ適用されます。

- **計算済**: タイプが「計算済」の場合、「**計算済**」タブが有効になります。

- **データ型**

次のいずれかを選択します:

- **日付**
- **日時**
- **整数**
- **リスト**

「**追加**」をクリックして、属性の値を入力します。リストは収集に対してローカルであり、他の収集との間で共有することはできません。

- **数値**

「数値」を選択した場合は、フォーマット・オプションを選択して、システム設定の「プリファレンス」セクションで設定されているデフォルトを上書きします。

 **ノート:**

この属性には数値のみ入力できます。

- \* 「**小数点以下の桁数**」には、表示する小数点以下の桁数を入力します。
  - \* 「**パーセンテージとして表示**」を選択して、パーセント記号を表示します。
  - \* 3 桁ごとの区切り文字(たとえば、1,000.00)を表示するには、「**3 桁ごとのセパレータの使用**」を選択します。ユーザーのロケール用の 3 桁ごとの区切り文字が表示されます。
  - \* 「**通貨**」で、(INR)などの通貨を選択します
  - \* 「**負数のフォーマット**」で、(123)など、負数の表示方法を選択します。
  - \* 数値をスケールリングするには、「**スケール**」で、1000 から 1000000000000 までの値を選択します
- **テキスト**(最大 255 文字)

- 「True」 または 「False」
- 「はい」 または 「いいえ」
- **必須**  
属性が必須の場合、データ入力時にこのフィールドに値を入力する必要があります。
- **値を使用**  
「値を使用」に値が入力されている場合、設計者が入力した値は、ユーザーが作成するすべてのレコードに適用されます。  
データ入力中にデフォルト値を変更できます。
- 7. 「OK」をクリックして属性を保存します。  
計算に含める前に属性を保存する必要があります。
- 8. 属性の追加を続行するには:
  - 「属性タイプ」で「**入力**」を選択した場合は、「**検証**」タブを選択します。  
条件式を追加するには:  
ユーザーが入力した値に対する特別な検証ルールを作成できます。
    - a. 「**追加**」をクリックします。
    - b. 「オペランド」を選択して、「**値 1**」および「**値 2**」を入力します。
    - c. 2 番目の条件が必要な場合は次のリストから選択します:
      - **組合せ**: 「および」、「または」 など
      - **オペランド**: 「次と等しい」、「次の間」、「次と等しくない」、「次より大きい」、「空白である」、「空白でない」、「次より小さい」、「次の間以外」 など
      - 「**値 1**」 および 「**値 2**」
    - d. 「**OK**」をクリックします。
  - 「属性タイプ」で「**計算済**」を選択した場合は、「**計算**」タブを選択します。  
次の項に、計算属性を追加する方法の例を示します。
    - a. 次の属性を使用して仕訳テンプレートを作成します。  
**Int1** 入力、データ型: 整数。「OK」をクリックし、「**仕訳テンプレートの編集**」セクションから、キー識別子として **Int1** を選択します。  
**TextInput**: 入力、データ型: テキスト。
    - b. **TextCalc** で属性を使用し、データを保存します。
    - c. **TextCalc**: 計算済、データ型: テキストの属性を作成します。
    - d. 「**計算**」タブで、次のフィールドに入力します。
      - i. **計算タイプ**: 「**スクリプト**」を選択します。
      - ii. **関数の追加**: 「**TextLocation**」を選択して、「**追加**」をクリックします。
      - iii. **INSTRING(<Value>, <Value To Search>)**が「**計算式の定義**」に追加されます。
      - iv. <Value>をクリックし、値を(一重引用符で囲み、大文字で)入力するか、「**属性の追加**」で属性「**TextInput**」を選択して、「**追加**」をクリックします。  
<Value>が{**TextInput**}に変更されます。



- v. <Value to Search>を'tion'で置き換えます

<xxx>は必ず一重引用符付き('xxx')で置き換えます。

例 INSTRING({TextInput}, 'tion')

9. 計算式を追加するには、次の表で説明されているデータ型と計算タイプを選択し、「OK」をクリックします。
10. 「OK」をクリックして変更を保存します。

表 22-8 データ型と計算タイプ

「プロパティ」タブで選択したデータ型	計算タイプ	説明
すべてのデータ型	<b>「値をリストに割当て」、</b> <b>「属性」</b> 値の順に選択します。	リスト・メンバーへの割当てに基づいて属性値を戻します。
すべてのデータ型	<b>リスト属性値を保存しておく必要が</b> <b>あります。</b>	
すべてのデータ型	<b>条件</b>	対象の属性に対して、指定された条件が一致している場合に属性値 A を戻します。条件が一致していない場合は属性値 B を戻します。
リスト	<b>リストを値に割当て</b>	属性の値に基づいてリストから関連するメンバーを戻します。
数値、整数	<b>式</b>	一般的な数式を使用して属性を計算します。 例: (A+B)/C
数値、整数	<b>丸め処理</b>	属性を指定された桁数に丸め処理します。デフォルトは 2 です。
テキスト	<b>連結</b>	テキスト属性をまとめて貼り付けます。これにはリテラル文字列が含まれ、非テキスト属性を文字列に自動的に変換します。 例: First_Name+" "+Last_Name+"":"+Birth_Date
整数、数値、テキスト	<b>スクリプト</b> 次の項を参照してください: <b>スクリプト関数</b>	自由形式のスクリプト計算。「スクリプト」は、整数、複数行のテキスト、数値またはテキスト・タイプの属性に使用できます。

11. 「保存」、「保存して閉じる」または「閉じる」をクリックします。

#### スクリプト関数

- **絶対値:** 指定された数の絶対値を戻します。数値が 0 未満の場合は、その数字の正の値が戻されます。指定した数値が 0 以上の場合は、指定した数値が戻されます。  
ABS (<Number>)
- **月の追加:** 開始日からの指定した月数の日付オフセットを返します。日付は常に指定した月オフセットに該当します。開始日に、オフセット月を越える日の値がある場合は、オフセット月の最後の日を使用されます。たとえば、EDate (31-Jan-2017, 1)は(28-Feb-2017)を返します。月の場合は、開始日の前または後の月数を入力します。月に対する正の値は将来の日付を生成します。負の値は過去の日付を生成します。

ADD\_MONTH(<Start Date>, <Months>, <Length>)

例: ADD\_MONTH (DATE (2017, 2, 15) 3)

- **過去平均:** 過去 X 期間の数量の平均値を算出します。

AVERAGE\_PRIOR(<Value>, <Number of Periods>, <To Currency\*>

例: AVERAGE\_PRIOR( {Balance (Reporting)}, '2', 'EUR'

- **日付:** 年、月および日に対して指定された整数値に基づく日付値を返します。

DATE(<Year>, <Month>, <Day>)

- **日付差異:** 2 つの日付の差を日、時間、分または秒で戻します。たとえば DATE 1 と DATE 2 には、それぞれ現在の日付(時間コンポーネントなし)と日時を表す TODAY および NOW の値を使用できます。

DATE\_DIFF(<Date1>, <Date2>, <Type>)

例: DATE\_DIFF('TODAY', {Preparer End Date}, 'DAYS') or DATE\_DIFF({Preparer End Date}, 'NOW', 'HOURS')

- **日:** 日付の日の値を整数として返します

DAY(<DATE>)

- **テキストの抽出:** 値内の指定した位置からの部分文字列を戻します。

SUBSTRING(<Value>, <Location>, <Length>)

例: SUBSTRING( {Name} , 5, 10)

- **If Then Else:** 条件付きの計算をスクリプト計算に挿入できるようになります。IF\_THEN\_ELSE 計算式は、ネストして ELSE IF タイプの計算式に対応することもできます。

IF\_THEN\_ELSE(<Condition>, <Value1>, <Value2>)

例:

```
IF_THEN_ELSE( {Risk Rating} = 'Low', 'Good',
IF_THEN_ELSE( {Risk Rating} = 'Medium', 'Better',
IF_THEN_ELSE({Risk Rating} = 'High', 'Best','Bad'))
```

- **Length:** パラメータとしてテキスト値を使用し、テキストの文字数である整数を返します。値が空/null の場合は 0 を返します。

Length ({<attribute>})

例: LENGTH('Value') は 5 を返し、LENGTH({Name}) はオブジェクトの名前の文字数を返します。

SUBSTRING を使用した計算を使用して、テキスト値の最後の 4 文字を抽出します。

SUBSTRING( {MyString}, LENGTH ({MyString}) - 4

- **小文字:** 値を小文字で戻します

LOWERCASE(<Value>)

例: LOWERCASE( {Description} )

- **最大:** 属性リストの最大値を戻します。任意の数のパラメータを含めることができます。

MAX(<Value1>, <Value2>,<ValueN>)

例: MAX( TRANSLATE( {Source System Balance (Entered)}, 'USD',  
'Accounting'), TRANSLATE( {Source System Balance (Functional)},  
'USD', 'Accounting'), TRANSLATE( {Source System Balance  
(Reporting)}, 'USD', 'Accounting') )

- **過去最大:** 過去 X 期間の最大値を戻します。

MAX\_PRIOR (<Value>, <Number of Periods>)

例: MAX\_PRIOR( {Balance (Functional)}, '6', 'CAD', 'REC')

- **最小:** 属性リストの最小値を戻します。任意の数のパラメータを含めることができます。

MIN(<Value1>, <Value2>,<ValueN>)

例: MIN( TRANSLATE( { Balance (Entered)}, 'CAD', 'REC'),  
TRANSLATE( {Balance (Functional)}, 'CAD', 'REC'),  
TRANSLATE( {Balance (Reporting)}, 'CAD', 'REC') )

- **過去最小:** 過去 X 期間の最小値を戻します。

MIN\_PRIOR (<Value>, (<Value>, <Number of Periods>)

例: MIN\_PRIOR( {Source System Balance (Functional)}, '6', 'EUR',  
'Simplified')

- **月:** 日付の月の値を整数(1 から 12)として返します

MONTH (<DATE>)

- **指数:** 一方の数字を他方の数字の回数掛け合せます。

POWER(x, y) where x=BASE NUMBER, and y=EXPONENT の場合、x と y は数値であるかぎり属性または計算にすることができます。

例: POWER(3, 4)=81

### ノート:

分数値では、べき根になります。たとえば、POWER(27, 1/3) = 3  
で、立方根です。  
負の値では、指数計算の逆数になります。たとえば、POWER(2, -2)  
= 1 / (2^2) = 1 / 4 = .25 です。

- **前:** 指定された前期間の値を戻します。

PRIOR(<Value>, <Number of Periods Prior>)

例: PRIOR( {Source System Balance (Entered)}, '1', 'EUR')

- **丸め処理:** 指定された小数点以下の桁数で丸めた値を戻します

ROUND(<Value>, <Decimal Places>)

例: ROUND( ({Scripted Translate} /7), 4)

- **過去の合計:** 過去 X 期間の合計値を戻します。

SUM\_PRIOR(<Value>, <Number of Periods>)

例: SUM\_PRIOR( {Balance (Reporting)}, '3', 'EUR')

- **テキストの場所:** 属性値内の部分文字列の場所(1 が最初の位置)を戻します。

INSTRING(<Value>, <Value To Search>)

例: INSTRING( UPPERCASE( {Name} ), 'TAX' )

- **換算:** 指定されたレート・タイプを使用して、通貨属性を数値属性に変換します。

TRANSLATE(<Value>, <To Currency>, <Rate Type>)

例: TRANSLATE( {Balance (Entered)}, 'EUR', 'Acct')

- **大文字:** 値を大文字で戻します。

UPPERCASE(<Value>)

例: UPPERCASE( {Name} )

- **年:** 日付の年の値を整数として返します。

YEAR (<DATE>)

## エンタープライズ仕訳テンプレート・セクション: 「グループ化基準」 タブ

仕訳テンプレートの属性列をグループ化する方法を指定できます。

「グループ化基準」情報を指定するには:

1. エンタープライズ仕訳テンプレートを開きます。
2. テンプレートの「セクション」から、「**グループ化基準**」タブをクリックします。
3. 「列」をクリックしてから、次の列を選択または表示します。
  - **含む** - 含める列を選択します。
  - **グループ化基準** - データのグループ化の基準とする列を選択します。
  - **名前** - 列の名前。
  - **ディメンション** - 特定ディメンションの属性(読取り専用)からの列。
  - **データ型** - 列(読取り専用)に対応するデータ型。
  - **合計** - 属性の合計方法。
4. 変更を保存するには、「**OK**」をクリックします。

## エンタープライズ仕訳テンプレート・セクション: 「マッピング」 タブ

テンプレートの「マッピング」タブを使用して、テンプレートをターゲットにリンクし、テンプレートとターゲット属性の間のマッピングを定義します。

ターゲットを作成するときは、値が「明示」または「マップ済」のどちらであるかを指定します。「マップ済」の値で指定したターゲットは、テンプレートからのマッピングに使用できます。

### ノート:

ベスト・プラクティスとして、マッピングを作成または編集する前に、ブラウザのキャッシュをクリアして再ログインしてください。

エンタープライズ 仕訳テンプレートのマッピングを指定するには:

1. エンタープライズ 仕訳テンプレートを開きます。
2. テンプレートの「セクション」から、「**マッピング**」タブを選択します。
3. **名前** - ターゲット属性の名前。  
「タイプ」 - Financials Cloud および方法 - 「直接統合」の場合、属性はプリロードされます。
4. **データ型** - ターゲットの属性に定義されたデータ型。この情報は読取り専用です。
5. 「**必須**」で、属性が必須かどうかについて「**はい**」または「**いいえ**」を指定します。
6. **値の設定** - 定義された「明示」ターゲットおよび「マップ済」ターゲットが表示されます。  
「明示」の値で定義されたターゲットは読取り専用です。
7. **仕訳属性** - 「値の設定」が「**マップ済**」である場合は、ドロップダウン・リストから使用可能な属性を選択します。
8. 変更を保存するには、「**OK**」をクリックします。

## エンタープライズ 仕訳テンプレート・セクション: 「履歴」 タブ

「履歴」タブには、変更したユーザー、日付、変更のタイプ、古い値と新しい値など、テンプレートのセクションに対する変更が表示されます。

「履歴」タブを表示するには:

1. エンタープライズ 仕訳テンプレートを開きます。
2. テンプレートの「セクション」から、「**履歴**」タブに移動します。
3. テンプレートのセクション履歴を表示し、「**セクション**」タブに戻るには「**OK**」をクリックします。

## エンタープライズ 仕訳ワークフロー・パラメータの指定

エンタープライズ 仕訳テンプレートで、「**仕訳**」タブを使用して、開始日および終了日、ワークフロー・ユーザーなど、仕訳ワークフローのパラメータを指定します。

テンプレートのスケジュール開始の設定に基づき、仕訳をいつ使用可能にするかに応じて開始日オフセットを設定します。その日付になるまで、仕訳は保留中ステータスのままです。たとえば、仕訳の開始日オフセットを**-25**に設定して、そのテンプレートおよび期間に関連する仕訳を期間の終了日の**25**日前に使用可能にできます。終了日については、開始日が使用され、策定者および承認者の役割のテンプレートで割り当てた期間が加算されます。

アドホック仕訳はいつでも作成できますが、それでも開始日および終了日はテンプレートの設定に従って割り当てられることに注意してください。アドホック仕訳の作成日は、開始日および終了日には関係ありません。


仕訳の遅延通知は、終了日を過ぎると開始されます。

仕訳ワークフローを割り当てるには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして、「**エンタープライズ仕訳**」をクリックします
2. 左側の「**仕訳テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**仕訳**」テンプレート・タブをクリックします。
4. 「**開始タイミング**」で、ドロップダウン・リストから値を選択します:
  - **スケジュール開始:**
    - **終了日** - 期間の終了日。
    - **クローズ日** - 期間に指定されたクローズ日。
  - **開始日オフセット** - データ収集の開始日。収集日の開始が許可される終了日またはクローズ日の後の日数を決定します。正または負のいずれかの数値です。たとえば、開始日の何日か前にデータを準備できる場合は、**-3** に設定すると、そこから **3** 日後に収集を開始できます。
5. 「**ワークフロー**」で、次の値を選択します:
  - **ワークフロー・オプション** - オプションを選択します。
    - **策定**
    - **策定して承認**
    - **策定し、承認してから転記**
    - **策定して転記**
    - **転記**
  - **承認のレベル** - 承認者のレベルを最大 10 個選択します。
  - **承認者表示アクセス権** - オプションを選択します:
    - **常時** - 承認者は、策定者が送信する前でも仕訳データを表示できます
    - **ワークフロー** - 承認者は、ワークフローに基づいて担当になったときのみ仕訳データを表示できます。これがデフォルトのオプションです。  
ワークフローに基づいて承認者がデータを表示できない場合、ワークフロー内の自分のレベルまで仕訳コンテンツが上位に移動されていないため表示できないというエラー・メッセージが表示されます。
  - **転記時にデータをロック - オプション**。仕訳がワークフローでクローズされて ERP に正常に転記された後に再オープンおよび再デプロイメント機能をシステムで制限するには、このオプションを選択します。これにより、データは影響を受けなくなります。  
このオプションは、次のワークフロー・オプションでのみ使用できます: 「**転記**」、**策定 - 転記**、**策定 - 承認 - 転記**。
  - **期間** - 次に示すユーザーごとに特定のアクションに許可される最大日数


このデータにより、ワークフロー・オプションに応じて、送信、承認および転記にスケジュールされる完了日が決まります。

- **準備後に転記** - このオプションを選択した場合、このテンプレートに基づいて作成された仕訳は、準備が完了するとすぐに転記できます。このオプションは、「ワークフロー・オプション」として**策定して承認**を選択した場合にのみ使用可能になります。
6. 「ユーザー」セクションでは、「仕訳」および「アドホック」オプションが使用できません。仕訳またはアドホックに対してワークフローおよび参照者ユーザー割当を定義できます。使用可能なフィールドにユーザーを追加できます。
- 「新規」をクリックします。
  - ユーザーを追加するには:
    - 「仕訳」の場合は、「ワークフロー」を選択し、「策定者」および「承認者」でユーザーまたはグループを選択します。ワークフロー・メンバー・セクタは、選択したワークフロー・ディメンションに基づいて動的です。
    - 「アドホック」の場合は、名および姓で検索してユーザーまたはグループを選択します。「詳細」をクリックして、ユーザー ID または電子メールで検索できます。基本オプション(つまり、名および姓)がデフォルトで表示されることに注意してください。
    - 「検索」をクリックして、**検索結果**を表示します。このオプションを使用して、ユーザーを追加または削除できます。

 **ノート:**

「アドホックを許可」オプションは「ワークフロー」タブの下に表示され、デフォルトでは表示されません。これは、アドホック・ユーザー・リストの数が 0 を超える場合のみ移入されます。リストが空の場合、このオプションはオフになります。

- CSV ファイルからユーザーをインポートするには、「インポート」をクリックします:
  - ファイルを選択するには、「参照」をクリックします。
  - 「ファイル区切り文字」に、「カンマ」または「タブ」を選択するか、「その他」を選択して区切り文字を入力します。
  - 「インポート」をクリックします。

 **ノート:**

「エクスポート/インポート」ファイル形式を使用すると、トランザクションに「アドホックを許可」オプションを含めることができます。

- すべてのパラメータ・オーバーライドをデフォルト設定にリセットするには、「リセット」をクリックします。
- ユーザーを削除するには、ユーザーを選択し、メニュー・バーで「削除」(X) をクリックします。



## エンタープライズ仕訳の質問の指定

管理者は、仕訳ユーザー用の質問を指定し、それらが必須かどうかを指定できます。質問は、自動的に役割でグループ化されます。

仕訳テンプレートで質問を指定するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして、「**エンタープライズ仕訳**」をクリックします。
2. 左側の「**仕訳テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**質問**」タブをクリックします。
4. 次の情報を入力します:
  - **質問**: 最大 2000 文字まで入力できます。  
ユーザーに回答を促す質問を入力します。
  - **データ型**  
質問タイプを選択します:
    - **テキスト**: 最大 4000 文字まで入力できます。
    - **日付**
    - **日時**
    - **リスト**: 値 255 を入力できます。  
「**追加**」をクリックして、属性の値を入力します。
    - **整数**: -2147483648 から 2147483647 の値を入力できます。
    - **数値**: 値 xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx.xxxxxxxxx (17 桁、小数点以下 9 桁)を入力できます  
「数値」を選択した場合、フォーマット・オプションを選択します:
      - \* 「**小数点以下の桁数**」には、表示する小数点以下の桁数を入力します。デフォルト値はシステム・プリファレンスで定義されます。
      - \* 3 桁ごとの区切り文字(たとえば、1,000.00)を表示するには、「**3 桁ごとの区切り文字**」を選択します。ユーザーのロケール用の 3 桁ごとの区切り文字が表示されます。
      - \* 「**通貨**」から、(INR)などの通貨を選択します  
通貨が選択されていない場合、金額は換算されません。
      - \* 「**負数**」から、(123)など、負数の表示方法を選択します。
        - 「**True**」または「**False**」
        - 「**はい**」または「**いいえ**」
  - 「**役割**」 - 質問対象の役割を指定します。
  - **必須** - 質問が必須かオプションかを決定します。

質問を削除するには:

1. エンタープライズ仕訳テンプレートから、「**質問**」タブをクリックします。
2. 質問を選択して「**削除**」をクリックします。

## エンタープライズ 仕訳テンプレート・アクセス権の設定

エンタープライズ 仕訳テンプレートの「アクセス」タブで、権限を持つユーザーおよびユーザーが仕訳に対して実行する機能を決定します。

- 「アクセス」タブの上部パネルには、表示アクセス権のあるユーザーのリストを表示されます。
- 下部のパネルには、ユーザーがアクセスできる仕訳が表示されます。

参照者のリストを CSV ファイルでインポートすると、複数のユーザーに簡単にアクセス権を割り当てることができます。参照者は、ユーザー、グループ、チームのいずれでもかまいません。次に、「表示」オプションを使用して、仕訳にアクセスできるステージを決定します。ユーザーのリストをエクスポートして、管理者が分析することもできます。

### ノート:

これで、テンプレートに定型仕訳が定義されていない場合でも、アドホック・ユーザーおよび参照者の割当を行うことができます。

アクセス権を追加するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして、「**エンタープライズ 仕訳**」をクリックします。
2. 左側の「**仕訳テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**アクセス**」タブを選択します。
4. 「**参照者のアクセス**」で、ユーザー、グループまたはチームを選択します。
5. 指定したユーザーがアドホック仕訳を表示する必要がある場合は、「**アドホックを許可**」チェック・ボックスを選択します。
6. 「**仕訳**」から、アクセス権を付与する仕訳を選択します。
7. 「**表示オプション**」を選択します。
  - **常時** - データ入力完了していない場合や、データが承認のために送信されていない場合も含めていつでもデータを表示できます。
  - **送信後** - 策定者がデータを送信するとすぐに、承認前のデータでも表示できます。
  - **承認後** - すべてのレベルの承認が行われるまで、データを表示できません。
8. **オプション**: CSV ファイルから複数のユーザーの参照者アクセス権をロードするには:
  - a. メニュー・バーで「**インポート**」をクリックします。
  - b. 参照してファイルを選択します。
  - c. 「**インポート・タイプ**」で、「**すべて置換**」または「**更新**」を選択します。
  - d. 「**ファイル区切り文字**」に、「**カンマ**」または「**タブ**」を選択するか、「**その他**」を選択して区切り文字を入力します。
  - e. 「**インポート**」をクリックします。

## エンタープライズ仕訳テンプレート履歴の表示

「履歴」タブには、エンタープライズ仕訳テンプレートに対する変更が表示されます。作成または更新されたフィールド、変更タイプ、古い値と新規の値、変更を行ったユーザーおよび変更日が表示されます。「履歴」タブの情報は読取り専用です。

エンタープライズ仕訳テンプレートの履歴を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして、「**エンタープライズ仕訳**」をクリックします。
2. 左側の「**仕訳テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**履歴**」タブをクリックして履歴を表示します。

## エンタープライズ仕訳テンプレートの編集

既存のテンプレートのプロパティを編集できます。

ターゲットを変更できますが、これにより、テンプレートで当初定義されていたすべてのターゲット・マッピングがクリアされることに注意してください。

エンタープライズ仕訳テンプレートを編集するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして、「**エンタープライズ仕訳**」をクリックします。
2. 左側の「**仕訳テンプレート**」タブをクリックします。
3. テンプレートを選択し、メニュー・バーで「**編集**」を選択します。
4. 必要に応じてテンプレートを編集し、「**保存**」または「**保存して閉じる**」をクリックします。

## エンタープライズ仕訳テンプレートの複製

仕訳テンプレートを複製して、同様の情報が含まれる別のテンプレートを簡単に作成できます。たとえば、テンプレートの複製を作成して年と期間の組合せを変更し、割り当てられた承認者やその他の情報は元の仕訳のものを使用できます。

テンプレートを複製するには、サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。

テンプレートを複製するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして、「**エンタープライズ仕訳**」をクリックします。
2. 左側の「**仕訳テンプレート**」タブをクリックします。
3. テンプレートを選択し、メニュー・バーで「**複製**」を選択します。
4. 必要に応じてテンプレートを編集し、「**保存**」または「**保存して閉じる**」をクリックします。

## エンタープライズ仕訳テンプレートの削除

不要になった仕訳テンプレートを削除できます。シード済テンプレートは削除できません。

仕訳テンプレートを削除するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックして、「エンタープライズ仕訳」をクリックします。
2. 左側の「仕訳テンプレート」タブをクリックします。
3. テンプレートを選択し、メニュー・バーで「削除」を選択します。
4. 「はい」をクリックしてテンプレートの削除を確認します。

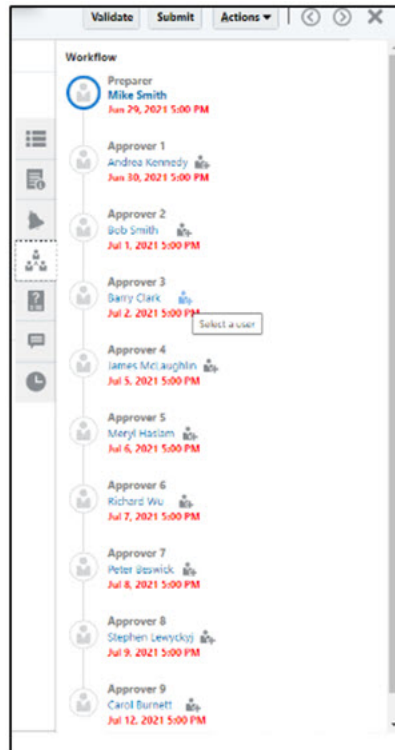
## アドホック・エンタープライズ仕訳の作成

アドホックエンタープライズ仕訳を作成するには:

1. ホーム・ページで、「エンタープライズ仕訳」をクリックします。
2. 左側の「仕訳」タブをクリックします。
3. 「仕訳」から、「年」および「期間」を選択します。
4. 「アドホック仕訳の作成」(+ )アイコンをクリックします。
5. 「仕訳期間」が仕訳リストから選択したとおりに表示され、読取り専用です。
6. 「テンプレート」から、仕訳を作成できるテンプレートを選択します。このリストには、選択した期間のアドホックに適切なテンプレートが含まれています。
7. 「承認のレベル」で、承認レベルを 1 から 10 の間で選択します。承認レベルの数値はアドホック仕訳の策定者によって選択されます。デフォルトでは、デプロイメントに最後に保存された値が表示されます。承認レベルの数値を選択してユーザーに割り当てることができます。

The screenshot shows a dialog box titled "Create Ad-Hoc Journal [Payroll Expenses Journal]". It contains several fields: "Journal Period" set to "Year 2021 Period: Jan", "Journal Template Name" set to "Payroll Expenses Journal", and "Workflow Option" set to "Prepare >> Approve". A red box highlights the "Level of Approval" dropdown menu, which is currently set to "3". Below this, there is a list of approvers, each with a name and a selection icon. The approvers listed are: Approver 1 (Ashley Kennedy (e.Senior)), Approver 2 (Ashley Smith (e.Sr)), Approver 3 (Gary Clark (e.Sr)), Approver 4 (James McCaughan (e.Sr)), Approver 5 (Mary Helen (e.Senior)), Approver 6 (William Mc (e.Sr)), Approver 7 (John Smith (e.Senior)), Approver 8 (Stephen Campbell (e.Senior)), and Approver 9 (Carol Smith (e.Sr)).

8. 「メンバー・セレクタ」をクリックし、承認レベルの承認者を選択します。承認者の行数は、選択した承認レベルの数に基づきます。



承認レベルのユーザーおよびチームを選択できます。関連項目: *Financial Consolidation and Close* の管理の承認者レベルのオーバーライドの設定

#### ノート:

仕訳にあるレベルの承認者がいる場合、それより上位のすべてのレベルは再割当が可能です。

9. 「OK」をクリックして変更を保存します。  
ノート: エンタープライズ仕訳の策定および承認の詳細は、*Financial Consolidation and Close* の操作を参照してください。

## アドホック・エンタープライズ仕訳の削除

アドホック・エンタープライズ仕訳を削除するには:

1. ホーム・ページで、「エンタープライズ仕訳」をクリックします。
2. 左側の「仕訳」タブをクリックします。
3. 削除するアドホック仕訳を選択します。

#### Note:

1 つまたは複数のアドホック仕訳を選択できます。

 **Note:**

アドホック仕訳は、策定者ユーザーおよびサービス管理者が削除できます。ただし、次の場合はアドホック仕訳は削除されません:

- 転記ステータスが「**転記進行中**」または「**転記済**」の場合。転記ステータスが「**未転記**」のアドホック仕訳のみ削除できます。
- 選択した仕訳が**アドホック**仕訳ではない場合
- アドホック仕訳に関連付けられた期間が**ロック**されている場合

4. 「アクション」メニューから「**削除**」オプションをクリックして、アドホック仕訳(1つまたは複数)を削除します。
5. 削除確認メッセージで「**はい**」をクリックします。削除が成功すると、削除確認メッセージ「**正常に削除できました。**」が表示されます。たとえば、複数のアドホック仕訳を選択し、その一部のみが削除された場合は、削除されなかったアイテムのリストとともに「**次のアイテムの削除に失敗しました。**」というメッセージが表示されます。これは、削除者が策定者またはサービス管理者でなかった場合、仕訳が「**転記済**」または「**転記進行中**」ステータスの場合、または定型仕訳の場合に発生します。

## エンタープライズ 仕訳の検証

仕訳を策定する際に、検証プロセスを実行してすべての入力があることを検証できます。必要な承認を得た後に正常に転記されるように、仕訳の日付、勘定科目のステータス、残高およびその他の適切な仕訳フォーマットが検証されます。

検証プロセスを実行すると、仕訳を送信または転記する前にエラーを識別し、必要な変更を加えることができます。検証プロセスはいつでも実行できます。

✎ ノート:

- 「検証ステータス」は、「仕訳のアクション」ダイアログ上部の「転記ステータス」の前と、「プロパティ」ドロワーの両方に表示されます。

General Expense Journal (InternalVal)

Year	Period	Journal ID	Prepared By	Validation Status	Validation Message	Post Status
2022	Jan	1000000001	sdm user1	Valid	<a href="#">View Validation Result</a>	Not Posted

Header

Journal Name: Vision Op 2 - Jan - Internal      Entered Currency: USD

Journal Description: Vision Operations US - Jan      Accounting Date: Oct 4, 2022

Line Item Details

Line Number	Account	Debit	Credit	Line Description
1	Lax1101 01-000-11-0000	200.00		
2	Laz1251 01-000-12-0000		100.00	
3	Tax1281 01-000-11-0000	300.00		
4	Alux1209 01-000-12-0001		400.00	
<b>Total</b>		<b>500.00</b>	<b>500.00</b>	

Properties

Name: Cloud Financials

Description

Data Collection Period: 2021 Jul

Status: Open with Preparer

---

Start Date: Jun 21, 2021

End Date: Aug 3, 2021

---

Actual Start Date: Jun 21, 2021

Actual End Date

Validation Status: **Failed**

Target: Cloud Financials

Mapping: [Details](#)


Posting: [Details](#)

- ステータスが「有効」または「失敗」の場合は、検証ステータスから検証結果へのライブ・リンクがあります。
  - 内部検証が失敗した場合、内部結果が表示されます
  - 内部検証は成功したが、外部検証が失敗した場合、外部結果が表示されず。
  - 内部検証と外部検証の両方が成功した場合、外部検証結果が表示されます。



仕訳を検証するには:

1. ホーム・ページで、「エンタープライズ 仕訳」をクリックします。
2. 検証する仕訳を開き、「検証」をクリックします。
3. 「検証結果」ページを確認し、必要な変更を加えます。



 **ノート:**

「未検証」が、すべての新しい仕訳のデフォルト・ステータスです。仕訳のフィールドを変更すると、検証ステータスは「未検証」にリセットされます。たとえば、仕訳を検証したが、転記の前に新しい仕訳ラインを入力した場合、ステータスは「未検証」にリセットされます。このことは、ステータスが「検証進行中」、「有効」または「失敗」の場合も該当します。

### 検証結果

#### Internal Validation Result Cancel

Messages for this page are listed below

Type	Result	Message
Journal Name Required	 Valid	
Debit Credit Total	 Matched	

#### External Validation Result Cancel

Journal has been validated with errors.



Validation Message The account is inactive for the accounting date

Error Code	Error Message	Line Item Id	Created On
E1	The account 01-000-11-000 is inactive	Lax1101	Nov 4, 2022 6:50 AM
E2	The account 01-000-11-000 is inactive	Taz1281	Nov 4, 2022 6:50 AM

表 22-9 検証のオプション

名前	説明
検証ステータス	現在の検証ステータスが表示されます。検証ステータスには次のものがあります: <ul style="list-style-type: none"> <li>• 未検証</li> <li>• 検証準備完了</li> <li>• 検証進行中</li> <li>• 有効 - 検証が成功した場合は、検証ステータスが緑で表示され、検証メッセージのタイトルが表示されます。</li> <li>• 失敗 - 検証が失敗ステータスである場合は、赤で表示され、検証メッセージのタイトルが表示されます。</li> </ul>
検証メッセージ	最後に試みた検証の結果が表示されます。

表 22-9 (続き) 検証のオプション

名前	説明
検証結果へのリンク	検証メッセージがある場合、メッセージ(リンク)をクリックすると、「 <b>検証結果の表示</b> 」ダイアログが開きます。
「検証」 ボタン	<p>内部検証の検証プロセスが開始され、その後に外部検証が続きます。仕訳のフィールドを編集した場合は、検証ステータスが「未検証」にリセットされます。</p> <div style="border-left: 2px solid #0070c0; padding-left: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>外部検証は内部検証が成功した場合にのみ開始されます。</p> </div>
「送信」 ボタン	<p>内部検証と外部検証の両方が成功した場合は、仕訳が送信されます。</p> <div style="border-left: 2px solid #0070c0; padding-left: 10px; margin-top: 10px;"> <p> <b>ノート:</b></p> <p>検証プロセスは、仕訳の検証が成功していない場合にのみ開始されます。</p> </div> <p>仕訳のフィールドを編集した場合は、検証ステータスが「未検証」にリセットされます。外部検証が進行中の場合、仕訳の送信を続行できませんが、仕訳は検証が完了したときのみ送信されます。その場合は、次のメッセージが表示されます: 「仕訳が現在検証中です。検証が正常に完了するとすぐに送信されます。」</p>

## エンタープライズ 仕訳の エクスポート

エンタープライズ 仕訳を Excel にエクスポートできます。

仕訳をエクスポートするには:

1. ホーム・ページで、「**エンタープライズ 仕訳**」をクリックします。
2. 「**仕訳**」リストから、エクスポートする仕訳を選択します。
3. 「**アクション**」メニューから、「**Excel にエクスポート**」を選択します。
4. 「**閉じる**」をクリックして、ダイアログ・ボックスを閉じます。

# エンタープライズ仕訳ライン・アイテムのエクスポート

エンタープライズ仕訳ライン・アイテムを Excel または CSV ファイルにエクスポートできます。

仕訳ライン・アイテムをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで、「**エンタープライズ仕訳**」をクリックします。
2. 「仕訳」ページで、左側の「**仕訳ライン・アイテム**」タブを選択します。
3. エクスポートする仕訳の行を選択します。
4. 「**アクション**」メニューからオプションを選択し、プロンプトに従ってファイルを開くか保存します:
  - **CSV にエクスポート**
  - **Excel にエクスポート**

## エンタープライズ仕訳テンプレートのデプロイ

エンタープライズ仕訳テンプレートを作成した後、それを保留中またはオープンしている仕訳期間にデプロイできます。また、以前にデプロイしたテンプレートを再デプロイすることもできます。

エンタープライズ仕訳テンプレートをデプロイすると、選択した期間のテンプレートに関連付けられた定型仕訳が作成されます。また、デプロイされたテンプレートを使用して、アドホック仕訳を作成することもできます。

仕訳テンプレートをデプロイするには、管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。

EPM 自動化 `deployEJTemplates` コマンドを使用して、仕訳テンプレートをデプロイすることもできます。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作*を参照してください。

仕訳テンプレートをデプロイするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして、「**エンタープライズ仕訳**」をクリックします。
2. 左側の「**仕訳テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**アクション**」メニューから「**デプロイ**」をクリックします。
4. 「**仕訳期間**」から、仕訳がデプロイされる期間を選択して「**OK**」をクリックします。
5. 「**デプロイ**」をクリックします。
6. その期間に関連するすべての仕訳を示す「**情報ダイアログのデプロイ**」が表示されます。
  - 次のオプションを使用できます:

- **作成** - デプロイおよび再デプロイ時に作成されるすべての仕訳の数が表示されます。
  - **リセット** - ワークフローが策定者にリセット(質問または属性に対するすべての更新がクリア)されるすべての仕訳の数が表示されます。キー属性に対する変更がない場合のみ、仕訳に入力されたすべてのデータが保持されます。
  - **リフレッシュ** - 仕訳テンプレートに加えられた変更に基づいてリフレッシュされるすべての仕訳の数が表示されます。テンプレート属性のプロパティ(デフォルト値、フォーマット、計算、検証など)の変更は、仕訳に反映されます。
  - **削除** - デプロイ解除および再デプロイについて、削除されるすべての仕訳の数が表示されます。
- 再デプロイ時に、テンプレートに加えた変更がある場合:
    - **リセット: テンプレート**のプロパティを変更するとき(新しい定型仕訳の追加を除く)、「**リセット**」オプションを使用して次のことができます:
      - \* ワークフローが策定者にリセットされるすべての仕訳の数が表示されます
      - \* 仕訳ヘッダーまたは詳細セクション内に入力されたすべてのデータが保持されます
      - \* 質問が更新され、すべての回答がクリアされます
      - \* すべてのコメントが削除されます
    - **リフレッシュ: テンプレート**属性の編集を完了して属性プロパティが変更されたとき、「**リフレッシュ**」オプションを使用して次のことができます:
      - \* 属性、検証および計算の最新フォーマット・プロパティを使用して、仕訳が更新されます
      - \* 指示、質問およびコメントが保持されます
  - 仕訳テンプレートを再デプロイする場合は、次のオプションが表示されます:
    - **すべてのワークフローのリセット** - このオプションを選択すると、仕訳に入力されたデータは保持されますが、コメントなど、その他すべてのワークフロー・アイテムはリセットされます。キー属性を変更(追加、削除、編集)した場合は、既存のデータも削除されます。
    - **アドホック仕訳の削除** - このオプション(デフォルト)を選択すると、ユーザーが作成したアドホック仕訳が削除されます。このオプションを選択しなかった場合、ユーザーが作成したアドホック仕訳はリフレッシュまたはリセットされます。
7. 「**デプロイ**」をクリックします。
  8. デプロイの確認プロンプトで「**はい**」をクリックします。
  9. デプロイが完了すると、正常にデプロイされた仕訳の合計数が確認ダイアログ・ボックスに表示されます。
- デプロイに失敗した仕訳については、その名前がエラー情報とともに表示されます。

 ノート:

**定型仕訳の削除:** 少なくとも 1 つの仕訳が特定の期間について転記ステータス「転記進行中」または「転記済」でないかぎり、仕訳期間に対する仕訳テンプレートの再デプロイは成功します。仕訳が仕訳期間についてすでに転記されている場合は、テンプレートを再デプロイすると、「仕訳は転記済のため、仕訳テンプレートは再デプロイできません。」というエラーが表示されます。強制的にクローズされた定型仕訳は、同じ仕訳期間に正常に転記された仕訳がないかぎり、再デプロイメント・プロセスによって削除できます。

## エンタープライズ 仕訳テンプレートのデプロイ解除

仕訳テンプレートをデプロイ解除するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして、「**エンタープライズ 仕訳**」をクリックします。
2. 左側の「**仕訳テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**アクション**」メニューから、「**デプロイ解除**」を選択します。
4. 「**仕訳期間**」から期間を選択して「**OK**」をクリックします。
5. デプロイ解除する 1 つ以上のテンプレートを選択し、「**デプロイ解除**」をクリックします。
6. その期間に関連するすべての仕訳を示す「**情報ダイアログのデプロイ**」が表示されます。  
デプロイ解除すると、その期間内のすべての仕訳が削除されます。
7. テンプレートを選択し、「**デプロイ解除**」をクリックします。  
デプロイ解除の結果として期間のすべての既存のデータおよびすべての仕訳が完全に削除されることを示すメッセージが表示されます。
8. 「**デプロイ解除**」をクリックします。  
デプロイ解除が完了すると、確認ダイアログ・ボックスに、その期間に関連する削除済仕訳の合計数が示されます。  
デプロイ解除されなかったテンプレートについては、名前がエラー情報とともに表示されます。

## エンタープライズ 仕訳の転記プロセス

エンタープライズ 仕訳の転記プロセスは、定義したワークフロー・プロセスに基づきます。また、転記アクションを実行する必要があるターゲット ERP システムの定義を含む作成済ターゲット、および転記を担当するユーザー用に構成された作成済ターゲット接続も使用されます。

- ワークフローの最終ステージが完了し、承認者がデータを確認して承認し、データが検証された後、仕訳を送信して転記します。ワークフロー構成の一部として「**準**

**備後に転記** オプションを選択した場合、準備が完了するとすぐに仕訳が転記されます。

- 仕訳の転記は、承認レベルではなく、策定者の名前に基づきます。
- 承認者が転記のために仕訳を送信すると、システムからジョブ ID が返されます。
- 転記プロセスは、ジョブ・コンソールの連結以外のジョブでモニターできます。

仕訳ページの上部のリボンに転記プロセスの進行状況が表示され、ターゲット定義で選択したタイプおよび方法ごとの進行状況が表示されます。

これには、転記された仕訳を識別するためにシステムによって割り当てられた一意の文書番号、および ERP のエラー・ファイルを含めることもできる転記メッセージが含まれます。

エンタープライズ仕訳の転記には次の方法を使用できます。

- Cloud Financials への直接転記
- エンタープライズ仕訳 API を使用した直接転記
- EPM 自動化を使用したファイルベース転記

### Cloud Financials への直接転記

ターゲット ERP システムが Oracle Cloud Financials である場合、エンタープライズ仕訳ではあらかじめ組み込まれたダイレクト・コネクタを使用して一般会計に転記します。

### サンプルの仕訳ページ - Cloud Financials の直接統合方法

Line Number	Account	Debit	Credit	Line Description	Product
1	12100	15.00	15.00	Recless to unidentified receipts	000
2	12130	15.00	15.00	Recless to unidentified receipts	000
Total		15.00	15.00		

### エンタープライズ仕訳 API を使用した直接転記

エンタープライズ仕訳には、他の ERP システムへの直接転記に使用できる API のセットが用意されています。

- ejjournals: 「転記準備完了」の仕訳の GET
- ejjournals/{instanceId}: 目的の仕訳 ID の仕訳詳細の GET
- ejjournals/{instanceId}/poststatus: 仕訳 GL 転記ステータスの POST

オプションの API を使用して、エンタープライズ仕訳のコンテンツを取得できます。

`ejjournalcontent?Year={year}&Period={period}&JournalId={journalId}`

これらの API の詳細は、次を参照してください。

*Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API:*

- [Financial Consolidation and Close のエンタープライズ仕訳の取得](#)
- [Financial Consolidation and Close のエンタープライズ仕訳コンテンツの取得](#)

- Financial Consolidation and Close のエンタープライズ仕訳転記ステータスの更新
- Financial Consolidation and Close の年および期間別エンタープライズ仕訳コンテンツの取得

### EPM 自動化コマンドを使用したファイルベース転記

次の EPM 自動化コマンドを使用して、エンタープライズ仕訳を転記し、転記のステータスを更新できます。

- `epmautomate exportEJournals "filename" "year=<year>" "period=<period>"`
- `epmautomate setEJJournalStatus "[FILE_PATH]/FILE_NAME"`

EPM 自動化コマンドの詳細は、Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の [exportEJournals](#) および [setEJJournalStatus](#) を参照してください。

- ワークフローの最終ステージが完了したら、**exportEJournals** コマンドを実行する必要があります。仕訳ステータスが「転記進行中」に変わり、作成したファイルを EPM 自動化のデフォルトの場所から ERP に自動転記できます
- 転記プロセスが失敗した場合(ステータスが「失敗」、**setEJJournalStatus** コマンドを実行してエラーを修正する必要があります。ワークフローは策定者にリセットされます。
- 転記プロセスが成功した場合(ステータスが「転記済」、**setEJJournalStatus** コマンドを実行して転記ステータスを「転記済」に更新する必要があります。

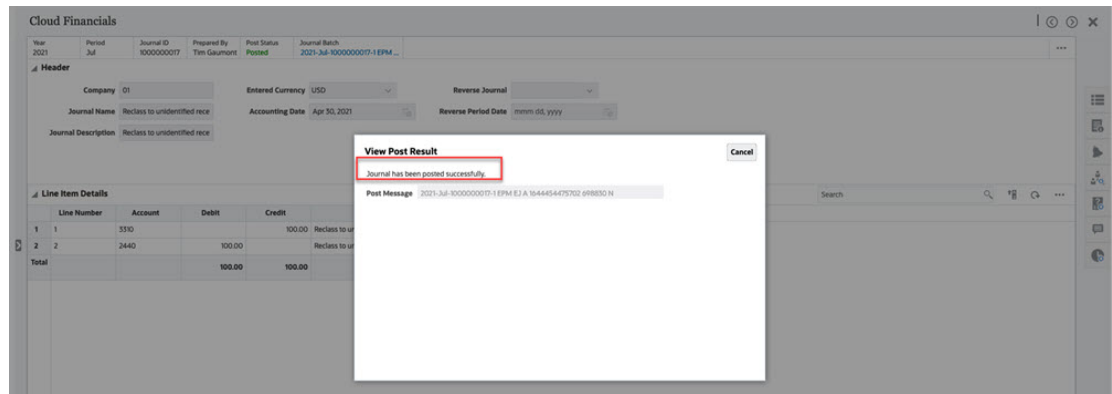
### サンプルの仕訳ページ - EPM 自動化 - 転記ステータス: エラーありで失敗

The screenshot shows the Oracle Cloud Financials interface with a 'View Post Result' dialog box open. The dialog box displays a 'Journal Import Execution Report' for process ID 781273. The report shows an error for EPM EJ with status 'Error' and 2 lines. Below the report, there are sections for 'Batches Created', 'Unbalanced Journal Entries', and 'Error Lines'.

Journal Entry Source Name	Group ID	Status	Total Lines	Total Batches	Total Headers	Total Unbalanced	Total Unbalanced Headers	File Errors	NonFile Errors
EPM EJ	16456254383	Error	2	1	1	0	0	2	2
*** TOTALS ***			2	1	1	0	0	2	2

### サンプルの仕訳ページ - EPM 自動化 - 成功転記ステータス: 転記済





### 例 22-1 ビデオ

#### 目的

エンタープライズ仕訳の操作の詳細

#### 視聴するビデオ



エンタープライズ仕訳の操作

エンタープライズ仕訳の管理方法



エンタープライズ仕訳クラウドの管理

## エンタープライズ仕訳のコピー

仕訳を作成した後、その仕訳データを同じ期間か新しい期間にコピーすることが必要になる場合があります。このように、データ収集プロセスは、定型仕訳またはアドホック仕訳を作成してデータをロードする必要なく、新しい期間に簡単に複製または再稼働できます。前期間に策定または承認した仕訳を現在の期間にコピーし、この期間に合うように詳細を更新して、現在の期間に新しい仕訳を転記できます。

仕訳のユーザーは、同じ期間または管理者によってテンプレートがデプロイされた別のオープン期間に仕訳のコピーを作成できます。

仕訳の策定者は、オープン済でテンプレートがデプロイされている期間(同じまたは他の)にコピーする仕訳を選択できます。

仕訳をコピーするには:

1. ホーム・ページで、「**エンタープライズ仕訳**」をクリックします。
2. 左側の**仕訳リスト**・アイコンをクリックします。
3. 「**仕訳**」リストで、「**フィルタ**」を選択し、「**年**」、「**期間**」および「**テンプレート**」を選択して、仕訳のリストをフィルタします。
4. コピーする仕訳を選択し、「**アクション**」ドロップダウンから「**期間へコピー**」を選択します。

仕訳のソース・テンプレートがデプロイされているオープン期間のリストが示されたダイアログ・ボックスが表示されます。

5. 「**承認者**」については、ソース仕訳のデフォルトの承認者のままにするか、「**メンバー・セレクト**」をクリックして、仕訳テンプレートで定義されたワークフロー・オプションに基づいて承認者を選択します。
6. 「**OK**」をクリックして、仕訳をコピーします。

仕訳のコピーは、選択した年と期間およびオープン済にデプロイされているとおりに、デフォルトで作成されます。

テンプレートに、生成されたワークフロー・ディメンション属性メンバーのデフォルト・オプションがある場合は、新しい仕訳 ID が生成されます。

テンプレートにワークフロー・ディメンション属性メンバーのユーザー入力オプションがある場合は、新しい仕訳 ID を入力する必要があります。

## エンタープライズ 仕訳の強制クローズ

仕訳を作成しているときに、仕訳を ERP に転記しないが、ワークフローをシミュレートしてテストする場合があります。転記が不要なこうしたタイプのテスト・ケースでは、仕訳に対して「強制クローズ」アクションを使用できます。

ワークフロー・レベルで仕訳を強制的にクローズするには、管理者権限を持っているか、ワークフローの現在の担当ユーザーとして割り当てられている必要があります。

仕訳が強制クローズの対象として選択されると、ワークフロー・ステータスが「クローズ済」に変更され、転記ステータスが「未転記」に変更されます。

ステータスを「強制クローズ」に変更したユーザーは、履歴ビューに反映されます。

仕訳を強制クローズするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックして、「**エンタープライズ 仕訳**」をクリックします。
2. 「**仕訳**」リストで、強制クローズする仕訳をクリックします。
3. 「アクション」メニューから「**強制クローズ**」を選択します。

## エンタープライズ 仕訳のダッシュボードの操作

次も参照:

- [「エンタープライズ 仕訳の概要」ダッシュボード](#)
- [「エンタープライズ 仕訳のコンプライアンス」ダッシュボード](#)

### 「エンタープライズ 仕訳の概要」ダッシュボード

「エンタープライズ 仕訳の概要」ダッシュボードには、仕訳ステータスが表示されます。オープン、遅延または予定どおりの仕訳の件数および選択した仕訳の完了ステータスを一目で確認できます。リストは、仕訳テンプレート、ワークフロー・ステータス、転記ステータスまたはターゲットでフィルタでき、アルファベット順または件数でソートできます。

「エンタープライズ 仕訳の概要」ダッシュボードを表示するには:

1. ホーム・ページで「**ダッシュボード**」をクリックし、「**概要**」をクリックします。
2. 左側の「**エンタープライズ 仕訳の概要**」をクリックします。
3. 「**年**」ドロップダウン・リストから年を選択します。
4. 「**期間**」ドロップダウン・リストから期間を選択します。
5. 特定の仕訳を選択するか、「**すべて**」を選択します。

6. 「**表示基準**」を選択して仕訳リストをフィルタし、オプションを選択します。
  - 仕訳テンプレート
  - ワークフロー・ステータス
  - 転記ステータス
  - ターゲット
7. **オプション:** 次のいずれかの方法を使用して仕訳のリストをソートします。
  - アルファベット(昇順)
  - アルファベット(降順)
  - 件数(昇順)
  - 件数(降順)
8. **オプション:** リストをリフレッシュするには、「**リフレッシュ**」をクリックします。

## 「エンタープライズ 仕訳のコンプライアンス」ダッシュボード

コンプライアンス・ダッシュボードでは、予定どおり策定済、レビュー済、転記済、完了済の仕訳、遅延した仕訳および却下された仕訳を一目で確認できます。仕訳のリストをパフォーマンスでフィルタしたり、リストの順序を変更することができます。

「エンタープライズ 仕訳のコンプライアンス」ダッシュボードを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**ダッシュボード**」をクリックして、「**コンプライアンスの概要**」をクリックします。
2. 左側の「**エンタープライズ 仕訳のコンプライアンス**」をクリックします。
3. 「**年**」ドロップダウン・リストから年を選択します。
4. 「**期間**」ドロップダウン・リストから期間を選択します。
5. 特定の仕訳を選択するか、「**すべて**」を選択します。
6. 「**パフォーマンス**」からパフォーマンス・メトリックを選択します:
  - 準備
  - レビュー
  - 転記中
7. **オプション:** リストされている仕訳の順序を変更するには、「**順序**」で次の基準を選択します。
  - ユーザー
  - 予定どおり
  - 遅延
  - 却下
8. **オプション:** リストをリフレッシュするには、「**リフレッシュ**」をクリックします。

# エンタープライズ仕訳のカスタム・レポートの生成

エンタープライズ仕訳のカスタム・レポートを作成できます。カスタム・レポートの作成は 4 つのステップで構成され、サービス管理者のみが実行できます。

- 定義を XML ファイルとしてエクスポートできる問合せを作成します。[問合せの作成](#)を参照してください。
- XML ファイルを Word にインポートして、テンプレート(RTF 形式である必要があります)を作成します。[テンプレートの作成](#)を参照してください。
- 個々のレポートをグループ化するレポート・グループを設定します。[レポート・グループの作成](#)を参照してください。
- オプションで、レポート定義を設定します。[レポート定義の作成](#)を参照してください。
- カスタム・レポートの作成後、サービス管理者またはアクセス権が付与された他のユーザーは、作成した問合せとテンプレートの両方を使用するレポートを生成できます。レポートのデフォルト出力には、XLSX、HTML、PDF、CSV または CSV (フォーマット済)を設定できます。[レポートの生成](#)を参照してください。

## ノート:

Oracle クラシック環境から Oracle Cloud Infrastructure (OCI)への移行を管理しており、カスタム・レポートがある場合は、ターゲット・サービスでカスタム・レポートの問合せ定義を更新することが必要になる可能性があります。これは、オブジェクト(タスク、仕訳、属性など)の内部 ID が移行中に変更されることがあるためです。ただし、オラクルが管理する移行の場合、内部オブジェクト ID の変更はないため、カスタム・レポートの定義を変更する必要はありません。

## エンタープライズ仕訳のレポート問合せの作成

問合せの作成が、カスタム・レポートの作成の最初のステップです。

問合せを作成するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」を選択し、レポート(たとえば、「連結以外のレポート」)を選択します。
2. 「**問合せ**」タブで、「**新規**」を選択します。
3. 「**エンタープライズ仕訳問合せ**」を選択します。
4. 「**新規問合せ**」画面で、「**名前**」およびオプションの「**説明**」を入力します。
5. 「**タイプ**」から、次のいずれかのオプションを選択します:
  - **パラメータ問合せ**

「パラメータ問合せ」タイプは、このパラメータの値に指定できるオプションのリストを表示するために使用されます。「パラメータ問合せ」では、レポー

ト問合せに対するパラメータの値の入力時に使用されるオプションのリストを表示できます。このオプションのリストはすでに定義済の単純な属性ではなく、定義が必要とされる複雑な問合せです。

- **レポート問合せ**

レポートに含めるレコードを選択します。セキュリティ・フィルタを適用できます。これによって、ユーザーには各自の役割に基づいて参照を許可されているデータと、割り当てられているレポートのみが表示されます。レポート問合せにセキュリティ・フィルタを適用するには、問合せの **WHERE CLAUSE** 文の最後に次の構文を追加します

```
$FCC_SECURITY_CLAUSE$
```

6. 「**問合せの生成**」をクリックして、「新規問合せ」ダイアログから問合せを作成します。このダイアログは、問合せまたはフィルタ処理(あるいはその両方)の対象となる既存の製品内の属性を選択可能にすることで、データベースに対する問合せの作成を支援します。システムでは指定された属性およびフィルタと一致するように **SQL** が生成されます。この時点で変更および改善が可能です。
7. サンプル XML ファイルを問合せから生成するには、「**サンプル XML の生成**」をクリックします。
8. 「**保存**」をクリックします。
9. 問合せにエラーがあるかどうかをテストするには:
  - 「新規問合せ」ダイアログで「**検証**」をクリックします。ドロップダウン・リストから「**検証**」を選択することもできます。



「問合せ」タブに問合せが表示されます。

 **ノート:**

「アクション」メニューを使用すると、簡単に問合せを削除したり、複製できます。

- ドロップダウンから「**プランの検証と説明**」をクリックして問合せを検証し、この問合せの実行プランも生成します。問合せと同じ名前を使用する.txt ファイルが生成されます。生成されたプランを表示またはダウンロードできます。このファイルを開き、生成されたプラン(この問合せ実行のために実行される一連のステップが含まれる)を表示します。問合せのパフォーマンスが最適でない場合は、このプランを使用して、問題の原因を把握し、問合せのパフォーマンスを向上させる最善の方法を判断できます。

### ノート:

デフォルトでは、実行プランの生成は OCI (Gen 2) 環境でのみ使用できます。クラシック環境で使用可能にするには、サービス・リクエストを使用してオラクル社にお問い合わせください。

## エンタープライズ仕訳のレポート・テンプレートの作成

レポート・テンプレートの作成は、カスタム・レポート生成の 2 番目のステップです。レポート・テンプレートは、Oracle BI Publisher デスクトップがインストールされた Microsoft Word で作成します。テンプレートを作成するには、問合せの作成時にサンプル XML も生成しておく必要があります。

レポート・テンプレートを作成するには:

1. Microsoft Word で新しいドキュメントを開きます。
2. 「BI Publisher」タブを選択し、「データのロード」の上の「サンプル XML」フォルダを選択します。
3. 問合せを作成したときに生成された SampleQuery.xml を特定し、「開く」をクリックします。  
「データが正常にロードされました」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
4. 「挿入」、「表ウィザード」の順に選択します。
5. 「表」を選択し、「次」をクリックします。
6. デフォルトのデータセットを選択し、「次」をクリックします。
7. レポートに表示するフィールドを選択し、「次」をクリックします。
8. 「グループ基準」を選択し、グループ化の基準のフィールドを選択して「次」をクリックします。
9. 「ソート基準」を選択してから、ソート基準のフィールドを選択し、「終了」をクリックします。
10. テンプレートを.rft ファイルとして保存します。例: SampleQuery.rtf。

## エンタープライズ仕訳のレポート・グループの設定

レポート・グループの作成が、カスタム・レポート生成の 3 番目のステップです。レポート・グループによって個々のレポートをグループにまとめることができます。

レポート・グループの作成後、必要に応じて変更できます。レポート・グループを複製できますが、その名前は一意である必要があります。レポート・グループを削除することもできます。ただし、レポート・グループを削除すると、そのグループに関連付けられたすべてのレポートが削除されます。

レポート・グループを作成するには:

1. ホーム・ページから、「アプリケーション」をクリックし、「連結以外のレポート」を選択します。
2. 「レポート・グループ」タブで、「新規」をクリックします。

3. 「**新規レポート・グループ**」で、次の内容を入力します。
  - **名前**  
レポート・グループのグループ名を入力します。
  - **説明**
  - **ユーザーへの表示**  
このレポート・グループをユーザーに表示する場合は、「**ユーザーへの表示**」を選択します。  
「ユーザーへの表示」オプションを使用すると、レポート作成者はレポートのグループに対する作業を行う間、対象となるレポートを非表示にすることができます。
4. 「**レポート**」タブで、「**移動**」アイコンを使用して、レポート・グループに追加されたレポートを並べ替えたり編集します。
5. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

## エンタープライズ仕訳のレポート定義の作成

レポート定義の作成は、レポート生成の 4 番目のステップです問合せからレポートを作成し、グループに割り当てることができます。これによって、他のユーザーがレポートにアクセスできます。

レポート定義を作成するには:

1. ホーム・ページから、「**アプリケーション**」をクリックし、「**連結以外のレポート**」を選択します。
2. 「**レポート**」を選択してから、「**新規**」を選択します。
3. 「**新規レポート**」で、次の内容を入力します:
  - **名前**
  - **説明**
  - **問合せ** - 問合せを選択します。
  - **テンプレート**  
「**参照**」をクリックして、レポート・テンプレートを参照します。サポートされている任意の Oracle Business Intelligence Publisher テンプレート・フォーマットをアップロードできます。[テンプレートの作成](#)を参照してください。
  - **レポート・グループ**  
ドロップダウン・メニューからレポートのグループ名を選択します。
  - **ユーザーへの表示**  
レポートをユーザーに表示する場合に選択します。たとえば、レポートを作成中の場合は、このオプションをクリアします。
  - **出力フォーマット**  
BI Publisher でサポートされるレポート出力フォーマットを選択します:
    - **XLSX** - グラフに対してはサポートされていません
    - **HTML** - グラフおよびチャートに対してはサポートされていません
    - **PDF**



- **CSV** - テンプレートを使用せず、より高速にデータを取得できます
- **CSV (フォーマット済)** - データがフォーマットされている単純なデータ表に最適で、テンプレートでのイメージ、グラフィックまたはスタイル設定はサポートされません。

**ノート:**

「csv (フォーマット済)」フォーマットは、**CSV** フォーマットと比較すると、テンプレートのフォーマットを尊重するためにレポートの生成に追加の時間がかかります。したがって、「**CSV**」を選択してデータをすばやく生成するか、「**csv (フォーマット済)**」を選択してフォーマットされたテンプレート・ベースのデータを生成できます。

4. レポート定義を完成させるには、パラメータおよびアクセス権を設定する必要があります。
  - a. パラメータについては、「**パラメータ**」タブを選択します。  
問合せからのパラメータが識別され、リストに追加されます。次を更新します:
    - **表示名**
    - **パラメータ・タイプ** - 使用可能なオプションは次のとおりです:
      - 「**タスク・マネージャ**」 / 「**補足データ**」 / 「**エンタープライズ仕訳**」 属性
      - **テキスト**
      - **日付**
      - **日付/時間**
      - **数値**
      - **問合せ**
      - **整数**
      - **True/False**
      - **はい/いいえ**
      - **ユーザー**
    - **ユーザーへの表示** - パラメータを表示せずに値を使用する場合は、チェックボックスの選択を解除します。1つの問合せを使用して複数のレポートを作成できます。その場合、いくつかのパラメータが非表示になり、「**パラメータ**」タブで定義した値が使用されます。
    - **属性/問合せ** - 属性の場合は、ドロップダウンにタスク・マネージャの属性がリストされます。問合せの場合は、ドロップダウンに「**パラメータ・タイプ**」のすべての問合せがリストされます。これを使用して、動的 LOV などのパラメータを作成できます。[タスク・マネージャ問合せの作成](#)を参照してください
    - **パラメータ値** - デフォルト値が表示されます。
  - b. アクセス権については、「**アクセス**」タブを選択します。
  - c. ドロップダウンから「**アプリケーション・モジュール**」および「**役割**」を選択します。

 ノート:

対応する「レポート」タブにレポートが表示されるためには、レポートに少なくとも 1 つのアプリケーション・モジュールへのアクセス権が付与されている必要があります。

5. 「保存して閉じる」を選択します。

## エンタープライズ仕訳レポートの生成

レポートの作成が、プロセスの最後のステップです。サービス管理者がカスタム・レポートを作成後、アクセス権が付与されたユーザー、グループまたはチームはレポートを生成できます。


レポートを生成するには:

1. ホーム・ページで「レポート」をクリックします。
2. 「エンタープライズ仕訳レポート」タブを選択します。
3. 生成するレポートを選択します。クイック「検索」オプションを使用して、選択したグループでレポートを検索できます。
4. 次のいずれかの出力フォーマットを選択します:
  - **XLSX** - グラフに対してはサポートされていません
  - **HTML** - グラフおよびチャートに対してはサポートされていません
  - **PDF**
  - **CSV** - テンプレートを使用せず、より高速にデータを取得できます

 ノート:

10,000 レコードを超えるレポートの場合は、CSV 形式の使用をお勧めします。

- **CSV (フォーマット済)** - データがフォーマットされている単純なデータ表に最適で、テンプレートでのイメージ、グラフィックまたはスタイル設定はサポートされません

 ノート:

「csv (フォーマット済)」フォーマットは、**CSV** フォーマットと比較すると、テンプレートのフォーマットを尊重するためにレポートの生成に追加の時間がかかります。したがって、「**CSV**」を選択してデータをすばやく生成するか、「**csv (フォーマット済)**」を選択してフォーマットされたレポート・ベースのデータを生成できます。

5. 「生成」をクリックします。
6. **オプション:** パラメータを入力する必要がある場合は、パラメータ値を選択します。

7. 「生成」をクリックします。  
終了すると、「正常に完了」というステータス・メッセージが表示されます。

8. 「オープン」または「ファイルの保存」を選択して ZIP ファイルを保存します。

レポート生成プロセスでは、レポート・ジョブをバックグラウンドで実行するバックエンド・ジョブ・フレームワークが使用されます。レポートでエラーが発生した場合は(サイズが推奨サイズを超えている場合など)、レポートが生成される前に、「レポートの生成」ダイアログにエラーを示すメッセージが表示されます。多数のレコードを含むレポートの場合は、フィルタを使用して、少ない数のレコードにレポートを分割することをお勧めします。

# タスク・マネージャの設定

## 次も参照:

- [タスク・マネージャの用語](#)
- [タスク・マネージャの概要](#)
- [サンプル・タスク・フロー](#)
- [タスク・マネージャのビュー、リストおよびフィルタの管理](#)
- [タスク・マネージャ・システム設定の管理](#)
- [タスク・マネージャ属性の管理](#)

## タスク・マネージャの用語

### タスク

データ入力やデータ連結など、アプリケーション内のアクションの単位。パワー・ユーザーは、ビジネス・プロセスを構成する複数のタスクを定義します。ユーザーは、タスクの指示を確認し、質問に回答し、タスクを送信、再割当て、承認および却下できます。タスクへのアクセスは、電子メール通知から、またはアプリケーションにログオンして行うことが可能です。

### 統合

アプリケーションによって提供されるサービスの定義。

### タスク・タイプ

データ入力や G/L 抽出など、よく行われるタスクを指定し、分類します。タスク・タイプによって、ユーザー入力が必要な設定や、そのタイプのすべてのタスクによって共有される質問や指示などのデフォルト情報を設定できます。タスク・タイプは、多くの場合に統合タイプに基づいています。

### 実行タイプ

エンド・ユーザー、システム自動タスク、イベント・モニタリング・タスク

### テンプレート

反復可能なビジネス・プロセス。管理者は、月次や四半期など、様々なタイプのビジネス・プロセスのテンプレートを作成できます。

### スケジュール

特定のビジネス・プロセスに対して実行する必要があるタスクの時間順のセットを定義し、テンプレートの汎用的なビジネス・プロセス日をカレンダー日付に配置したものです。

### ダッシュボード

このビューは、スケジュールおよびタスク・リストのビューと、詳細にドリルダウンできるハイレベルのサマリーがあるポータル・スタイル・インタフェースを表示します。

### アラート

ハードウェアまたはソフトウェアの問題など、プロセス中に発生した問題に関するユーザーからの通知。ユーザーは、問題を識別するアラートを作成し、解決するために割り当てます。

## タスク・マネージャの概要

タスク・マネージャは、ビジネス・プロセスの相互依存アクティビティを定義、実行およびレポートするのに役立ちます。すべてのタスクを集中モニタリングし、ビジネス・プロセスの実行を記録するための目に見える自動化された繰返し可能なシステムを提供します。

次のことが可能です:

- タスクの定義と、最も効率的なタスク・フローを実施するためのスケジューリング
- ビジネス・プロセスの自動化、ステータスの追跡、および通知やアラートの提供
- 延滞、期限日、ステータス変更に関する、ユーザーへの電子メール通知
- ダッシュボードからのビジネス・プロセス・ステータスのモニター
- エラーおよび遅延の迅速な修正
- ビジネス・プロセスの効果の分析

ビジネス・プロセスには次のステップが必要です。

1. 管理者はユーザーを設定します。 *Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*の[ユーザーと役割の管理](#)を参照してください。
2. 管理者は必須の設定手順を完了します:
  - 組織単位を設定します。[タスク・マネージャの組織単位の管理](#)を参照してください。
  - グローバル統合トークンを設定します。[グローバル統合トークンの管理](#)を参照してください。
  - 休日ルールを設定します。[タスクの休日ルールの管理](#)を参照してください。
  - 添付サイズの設定およびその他のシステム設定を行います。[タスク・マネージャ・ガバナーの設定](#)を参照してください。
  - 電子メール通知を有効化します。「通知用電子メールの設定」を参照してください。
3. 管理者は、ビジネス・プロセスに必要なタスクを確認し、タスク・タイプを設定して、タスク全体での整合性をとり、事前に定義された製品統合を利用できるようにします。  
[タスク・タイプの管理](#)を参照してください。
4. 多くのビジネス・プロセスは反復されるため、タスクのセットをテンプレートとして保存し、後の期間で使用できるようにします。[タスク・テンプレートの管理](#)を参照してください。

たとえば、管理者は月次または四半期ビジネス・プロセスを 1 回設定し、それをすべての月または四半期に使用できます。タスクは、タスク先行、担当者および承認者により定義されます。

5. ビジネス・プロセスを起動するために、管理者は、テンプレートを選択し、カレンダーの日付を割り当てることにより、スケジュール(時間順のタスク・セット)を生成します。テンプレート内の汎用タスクは、カレンダーの日付に適用されます。

[スケジュールの管理](#)を参照してください。

6. ビジネス・プロセスを開始するために、管理者は、スケジュールのステータスを「保留中」から「オープン」に変更します。
7. 管理者は、必要に応じてスケジュールを変更することも、モニターすることもできます。
8. ビジネス・プロセス中に、ユーザーは割り当てられたタスクに関する電子メール通知を受信し、電子メールのリンクをクリックして、割り当てられたタスクに直接アクセスできます。
9. 別の方法として、ユーザーは、様々なタイプのビューで割当て済のタスクを確認してアクセスするためにログオンできます。
10. ユーザーがタスクを完了すると、タスクが承認者に送信され、他のユーザーが表示できるようになります。
11. ユーザーは、ハードウェアやソフトウェアの問題など、発生する問題のアラートを作成できます。アラートは、解決するために担当者と承認者に転送されます。

さらに学習するには、次の概要ビデオを参照してください。



概要ビデオ

## サンプル・タスク・フロー

### シナリオ 1: パワー・ユーザー

パワー・ユーザーが次のビジネス・プロセスのテンプレートとタスクを設定します。

- パワー・ユーザーは、ログオンし、「テンプレートの管理」ページを開きます。
- パワー・ユーザーは、ビジネス・プロセスのテンプレートを選択します。
- パワー・ユーザーは、テンプレート・タスクを配置するカレンダー日付を選択し、スケジュールを作成します。
- 次に、パワー・ユーザーは、タスクをテンプレートに追加します。
- パワー・ユーザーは、スケジュールを開きます。これにより、プロセスが開始します。

### シナリオ 2: パワー・ユーザー

パワー・ユーザーがダッシュボードを通じてアクティビティのステータスをモニターします。

- パワー・ユーザーは、ログオンし、日 3 を通じたアクティビティのステータスを確認します。
- ユーザーはドリルダウンして未完了タスクの詳細を表示します。
- パワー・ユーザーは、開いているタスクで、割り当てられたユーザーが提供したコメントまたは添付を確認します。

### シナリオ 3: 承認者

承認者として割り当てられたユーザーが、現在のタスクを確認して、承認できるかどうかを判断します。

- 割り当てられた承認者は、未処理のタスクに関する電子メール通知を受信します。
- 承認者は、その電子メールからタスクのリンクを選択します。
- プロセスのアウトラインを示す「タスク・アクション」ページが起動します。
- 承認者は、タスクの完了時にユーザーが提出したドキュメントを確認して、完了を確認します。
- 承認者は追加のコメントを入力し、提出を承認します。
- 別のレベルの承認が必要な場合、タスクは次の承認者に転送されます。タスクが最後の承認を要求している場合は、タスクが完了し、次のタスクの準備ができていればそのタスクが実行されます。
- 承認者は、タスクを承認するかわりに却下でき、タスクが担当者に再割当てされます。

### シナリオ 4: ユーザー

ユーザーがアプリケーションにログオンし、割り当てられたタスクを確認して完了します。

- ユーザーは、ログオンしてタスクを確認します。
- ユーザーは、割り当てられたタスクのリンクをクリックします。
- タスク・ページが起動し、タスクの指示と参照ドキュメントが表示されます。
- ユーザーは指示と参照ドキュメントを確認し、更新を処理してタスクに関するコメントを入力し、承認のために提出します。
- システムによってタスク・ステータスが自動的に更新され、割り当てられた承認者に通知が送信されます。

### シナリオ 5: ユーザー

ユーザーがタスクの電子メール通知に応答してデータをロードし、電子メール内のリンクをクリックして、タスクを完了します。

- ユーザーは、未処理のタスクに関する電子メール通知を受信します。
- 電子メールから、ユーザーは必要なプロセスが文書化されているページのリンクを選択します。
- ユーザーは、タスクの指示を確認し、タスクをオープンします。
- ユーザーは、データをシステムにロードします。
- ユーザーは、タスクに関するコメントを入力し、承認のために提出します。

## タスク・マネージャのビュー、リストおよびフィルタの管理

関連トピック:



- タスク・マネージャ・リストの表示
- ビューでの作業
- フィルタでの作業

## タスク・マネージャ・リストの表示

タスク・マネージャ・リストは、すべてのタスクを管理するための中心的な場所です。選択した年、期間およびスケジュールについて、タスクとそのステータスのリストが表示されます。

管理者の場合は、システム内の使用可能なすべてのタスクと、それらで作業しているユーザーを表示できます。

管理者以外のユーザーの場合は、自分の役割における注意を要するすべてのアクティブなタスクを表示できます。

タスクを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックします。
2. 左側のナビゲーションで「**スケジュール・タスク**」をクリックします。
3. 「**年**」、「**期間**」および「**スケジュール**」を選択します。
4. **オプション:** タスクを検索するには、「**検索**」フィールドで、タスク・リストを検索するテキストまたは数値を入力します。
5. **オプション:** タスクのリストをフィルタするには、フィルタ・バーで「**フィルタの追加**」をクリックし、フィルタ条件を指定します。  
「これまでの遅延」属性を使用できます。これは自動的に更新されて、タスクがそのワークフロー内でスケジュール済の期限日に遅れたことがあるかどうかを示します。この新しい属性を使用すると、1つ以上のスケジュール済の期限日に遅れたタスクを簡単に識別できます。タスクが現在は遅延していなくても、担当者またはいずれかの承認者のワークフローが遅延したことがある場合、「これまでの遅延」属性には、タスクがスケジュール済の期限日に遅れたとして示されます。

### サンプル・タスク・リスト

Name	Status (Icon)	Start Date (Assigned)	End Date (Assigned)	Assignee	Responsible	Approver 1	Predecessors	Assignee End Date	Task ID	Task Type	Appr (Act)
01 Consolidation Process Kick Off	🟢	Dec 24, 2021 8:30 AM	Dec 26, 2021 4:30 PM	Kerry Lane		Cathy Brown		Dec 26, 2021 12:00 PM CET	01_Admin	Parent Task	
005 - Review New Closing Procedures	🟢	Jan 1, 2022 8:30 AM	Jan 2, 2022 4:30 PM	Kerry Lane		Cathy Brown		Jan 2, 2022 12:00 PM CET	005_Admin	Basic Task	Jan 21
010 - Review New Accounts	🟢	Jan 2, 2022 8:30 AM	Jan 3, 2022 4:30 PM	Kerry Lane		Cathy Brown		Jan 3, 2022 12:00 PM CET	010_Admin	Manage Dimensions	Jan 21
015 - Review Currency Rates	🟢	Jan 2, 2022 8:30 AM	Jan 3, 2022 4:30 PM	Kerry Lane		Cathy Brown		Jan 3, 2022 12:00 PM CET	015_Conso1	Enter Form Data	Jan 21
020 - Load Admin Data	🟢	Jan 6, 2022 8:30 AM	Jan 7, 2022 4:30 PM	Kerry Lane	Kerry Lane	Cathy Brown	010 - Review New Acco...	Jan 7, 2022 12:00 PM CET	020_Conso1	Enter Form Data	
025 - Load EMEA Sales Data	🟢	Jan 7, 2022 4:30 PM	Jan 9, 2022 4:30 PM	Robert Jackman	Robert Jackman	Cathy Brown		Jan 8, 2022 11:00 AM GMT	025_Conso1	Import Data	
030 - Load N/A Sales Data	🟢	Jan 7, 2022 8:30 AM	Jan 8, 2022 4:30 PM	Kerry Lane		Cathy Brown	020 - Load Admin Data	Jan 8, 2022 5:00 AM CST	030_Conso1	Import Data	
035 - Load Divisional GL Balance Sheet Dr	🟢	Jan 8, 2022 8:30 AM	Jan 8, 2022 11:30 AM	Kerry Lane	Kerry Lane	Cathy Brown	010 - Review New Acco...	Jan 7, 2022 11:00 PM MST	035_DataLoad	Import Data	
040 - Perform High Risk Reconciliations	🟢	Jan 8, 2022 11:30 AM	Jan 13, 2022 5:30 PM	Kerry Lane	Kerry Lane	Cathy Brown	035 - Review New Clos...	Jan 13, 2022 5:00 AM MST	040_AccrFlow	View Reconciliations	
045 - Reconciliation Reports	🟢	Jan 8, 2022 11:30 AM	Jan 13, 2022 5:30 PM	Kerry Lane	Kerry Lane	Cathy Brown	035 - Review New Clos...	Jan 13, 2022 5:00 AM MST	045_AccrFlowR	Reports	
02 - Flash Financials (Soft Close)	🟢								02_Conso1	Parent Task	
050 - Perform Preliminary Consolidation	🟢	Jan 9, 2022 8:30 AM	Jan 9, 2022 8:30 AM	Kerry Lane		Cathy Brown	015 - Review Currency ...	Jan 9, 2022 5:00 AM CET	050_Conso1	Enter Form Data	
055 - Prepare Intercompany Adjustments	🟢	Jan 9, 2022 8:30 AM	Jan 10, 2022 4:30 PM	Kerry Lane	Kerry Lane	Cathy Brown		Jan 10, 2022 12:00 PM CET	055_Conso1	Manage Journals	
070 - Prepare Sales Adjustments	🟢	Jan 9, 2022 8:30 AM	Jan 16, 2022 4:30 PM	Robert Jackman	Robert Jackman	Cathy Brown		Jan 16, 2022 11:00 AM GMT	070_Conso1	Manage Journals	
075 - Review Forecast Data	🟢	Jan 9, 2022 8:30 AM	Jan 9, 2022 4:30 PM	Kerry Lane	Kerry Lane	Cathy Brown		Jan 9, 2022 12:00 PM CET	075_Forecast	Enter Form Data	

## タスク・マネージャの列の定義

この項では、次のタスク・マネージャ・オブジェクトについて列の定義を示します:

- [タスク・マネージャ - テンプレート](#)
- [タスク・マネージャ - テンプレート・タスク](#)
- [タスク・マネージャ - スケジュール](#)
- [タスク・マネージャ - タスク・タイプ](#)
- [タスク・マネージャ - 統合](#)
- [タスク・マネージャ - アラート・タイプ](#)
- [タスク・マネージャ - フィルタ](#)
- [タスク・マネージャ - ビュー](#)
- [タスク・マネージャ - 属性](#)
- [タスク・マネージャ - 通貨](#)
- [タスク・マネージャ - スケジュール・タスク](#)

### タスク・マネージャ - テンプレート

この項では、タスク・マネージャ・テンプレートの列について定義を示します。

**表 23-1 列の定義 - タスク・マネージャ・テンプレート**

列名	説明
作成者	テンプレートを作成したユーザーの名前
作成日	テンプレートが作成された日時
説明	テンプレートの説明
埋込み先	現在のテンプレートが埋め込まれているテンプレートのリスト
埋込みのみ	テンプレートは埋込みテンプレートとしてのみ使用でき、デプロイすることを許可されていません。これにより、サポートしているテンプレートが誤ってデプロイされるのを防ぐことができます。
埋込みテンプレート	現在のテンプレートに埋め込まれたテンプレートのリスト
最新のスケジュール	それぞれのテンプレートから作成された最新のスケジュール
最終更新者	テンプレートを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	テンプレートが最後に更新された日時
名前	テンプレートの名前
日 0 の後の日数	日ゼロの後にテンプレートで追跡する日数。日ゼロの後の日付は、日 3 や日 4 のように示されます。
日 0 の前の日数	日ゼロの前にテンプレートで追跡する日数。日ゼロの前の日付は、日-5 や日-4 のように示されます。
組織単位	割り当てられた組織単位
Owner	テンプレート所有者の名前。サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。テンプレート所有者は、タスク・レベルで上書きされないかぎり、テンプレートに含まれるすべてのタスクのデフォルトの所有者になります。

表 23-1 (続き) 列の定義 - タスク・マネージャ・テンプレート

列名	説明
スケジュール	それぞれのテンプレートから作成されたスケジュールの合計数

### タスク・マネージャ・テンプレート・タスク

この項では、タスク・マネージャ・テンプレート・タスクの列について定義を示します。

表 23-2 列の定義 - タスク・マネージャ・テンプレート・タスク

列名	説明
Active	タスク・テンプレートのステータスを示します。
「承認者 1」 - 「承認者 10」	割り当てられた承認者のレベル
「承認者 1 (バックアップ)」 - 「承認者 10 (バックアップ)」	割り当てられた承認者(バックアップ)
「承認者 1 (プライマリ)」 - 「承認者 10 (プライマリ)」	プライマリ承認者
「承認者 1 の終了日(割当済)」 - 「承認者 10 の終了日(割当済)」	承認者に割り当てられた終了日
「承認者 1 の終了日(割当済、ローカル)」 - 「承認者 10 の終了日(割当済、ローカル)」	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで表される、タスクの割当済の終了日(組織単位が割り当てられている場合)
「承認者 1 のスケジュール済の終了日」 - 「承認者 10 のスケジュール済の終了日」	タスクのスケジュール済の終了日
「承認者 1 のスケジュール済の終了日(ローカル)」 - 「承認者 10 のスケジュール済の終了日(ローカル)」	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで表される、タスクのスケジュール済の終了日(組織単位が割り当てられている場合)
「承認者 1 のスケジュール済の開始日」 - 「承認者 10 のスケジュール済の開始日」	タスクのスケジュール済の開始日
「承認者 1 のスケジュール済の開始日(ローカル)」 - 「承認者 10 のスケジュール済の開始日(ローカル)」	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで表される、タスクのスケジュール済の開始日(組織単位が割り当てられている場合)
「承認者 1 の開始日」 - 「承認者 10 の開始日」	タスクの割当済の開始日
「承認者 1 の開始日(ローカル)」 - 「承認者 10 の開始日(ローカル)」	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで表される、タスクの割当済の開始日(組織単位が割り当てられている場合)
承認者(人数)	割り当てられた承認者の合計人数
担当者	タスクを処理できるユーザー
担当者(バックアップ)	タスクを処理できるバックアップ・ユーザー
担当者(プライマリ)	タスクを処理できるプライマリ・ユーザー
担当者終了日	割り当てられたユーザーの終了日
担当者終了日(ローカル)	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで表される、タスクの割当済の終了日(組織単位が割り当てられている場合)

**表 23-2 (続き) 列の定義 - タスク・マネージャ・テンプレート・タスク**

列名	説明
作成者	テンプレート・タスクを作成したユーザーの名前
作成日	テンプレート・タスクが作成された日時
説明	テンプレート・タスクの説明
実行タイプ	「エンド・ユーザー」、「システム自動」、「イベント・モニタリング」などの実行タイプ
指示	タスクを完了するための一連の指示
統合	実行タイプ(「エンド・ユーザー」、「システム自動」または「イベント・モニタリング」)
最終更新者	テンプレート・タスクを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	テンプレート・タスクが最後に更新された日時
組織単位	割り当てられた組織単位
Owner	テンプレート・タスク所有者の名前。サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。テンプレート・タスク所有者は、タスク・レベルで上書きされないかぎり、テンプレートに含まれるすべてのタスクのデフォルトの所有者になります。
親	親タスクのタスク ID
先行	現在のタスクの先行タスク。別のテンプレートからのものである可能性があります。
Priority	タスクの優先度
参照(件数)	テンプレート・タスクに追加された参照(URL 参照およびコンテンツ・サーバー参照)の件数。
ルール(件数)	エンタープライズ仕訳に対して直接実行されるルールの合計件数
別名実行	このユーザーとしてタスクを実行します。システム自動タスクにのみ適用されます。
許可済みの別名実行	このタスクを許可できるユーザー。「別名実行」ユーザーがタスクも作成したユーザーである場合、そのユーザーは、パスワードの再入力を要求されずにタスクを許可できます。
タスクの先行開始	スケジュール済の開始時間より前に保留中のタスクをオープンすることを担当者が許可されているかどうかを示します
後続	現在のタスクの後続タスク
タスク ID	タスクの一意の識別子
タスク・タイプ	タスクのタイプ
テンプレート	タスクに関連付けられているテンプレート

### タスク・マネージャ - スケジュール

この項では、タスク・マネージャの「スケジュール」列の定義を示します。

**表 23-3 列の定義 - タスク・マネージャ - スケジュール**

列名	説明
作成者	スケジュールを作成したユーザーの名前
作成日	スケジュールが作成された日時
日ゼロの日付	日ゼロとして割り当てる日付
説明	スケジュールの説明

表 23-3 (続き) 列の定義 - タスク・マネージャ - スケジュール

列名	説明
終了日	スケジュールの有効終了日
最終更新者	スケジュールを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	スケジュールが最後に更新された日時
名前	スケジュールの名前
組織単位	スケジュールに関連付けられている組織単位
Owner	スケジュール所有者の名前。サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。
期間	スケジュールの期間
開始日	スケジュールの有効開始日
ステータス	スケジュールのステータス
タスク	スケジュールに関連付けられているタスク
年	スケジュールが作成された年

**タスク・マネージャ - タスク・タイプ**

この項では、タスク・マネージャの「タスク・タイプ」列の定義を示します。

表 23-4 列の定義 - タスク・マネージャ - タスク・タイプ

列名	説明
作成者	タスク・タイプを作成したユーザーの名前
作成日	タスク・タイプが作成された日時
説明	タスク・タイプの説明
実行タイプ	タスク・タイプに関連付けられている実行のタイプ
統合	タスク・タイプに関連付けられている統合
最終更新者	タスク・タイプを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	タスク・タイプが最後に更新された日時
名前	タスク・タイプの名前
タスク・タイプ ID	タスク・タイプの一意的識別子

**タスク・マネージャ - 統合**

この項では、タスク・マネージャの「統合」列の定義を示します。

表 23-5 列の定義 - タスク・マネージャ - 統合

列名	説明
Connection	タスクが属するアプリケーション
作成者	統合を作成したユーザーの名前
作成日	統合が作成された日時
説明	統合の説明
実行タイプ	統合の実行タイプ
Integration Cloud のデプロイ	統合に関連付けられている Integration Cloud のデプロイ

**表 23-5 (続き) 列の定義 - タスク・マネージャ - 統合**

列名	説明
最終更新者	統合を最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	統合が最後に更新された日時
名前	統合の名前

#### タスク・マネージャ - アラート・タイプ

この項では、タスク・マネージャの「アラート・タイプ」列の定義を示します。

**表 23-6 列の定義 - タスク・マネージャ - アラート・タイプ**

列名	説明
アラート・タイプ ID	アラート・タイプの一意的識別子
関連先	アラート・タイプに関連付けられているオブジェクト(タスクなど)
作成者	アラート・タイプを作成したユーザーの名前
作成日	アラート・タイプが作成された日時
説明	アラート・タイプの説明
有効	アラート・タイプが有効かどうかを示します
最終更新者	アラート・タイプを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	アラート・タイプが最後に更新された日時
名前	アラート・タイプの名前

#### タスク・マネージャ - フィルタ

この項では、タスク・マネージャの「フィルタ」列の定義を示します。

**表 23-7 列の定義 - タスク・マネージャ - フィルタ**

列名	説明
作成者	フィルタを作成したユーザーの名前
作成日	フィルタが作成された日時
説明	フィルタの説明
最終更新者	フィルタを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	フィルタが最後に更新された日時
名前	フィルタの名前
パブリック	フィルタがパブリックかどうかを示します
タイプ	フィルタのタイプ

#### タスク・マネージャ - ビュー

この項では、タスク・マネージャの「ビュー」列の定義を示します。

表 23-8 列の定義 - タスク・マネージャ - ビュー

列名	説明
作成者	ビューを作成したユーザーの名前
作成日	ビューが作成された日時
デフォルト	ビューがデフォルト・ビューとして設定されているかどうかを示します
説明	ビューの説明
最終更新者	ビューを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	ビューが最後に更新された日時
名前	ビューの名前
パブリック	ビューがパブリックかどうかを示します
タイプ	ビューのタイプ

### タスク・マネージャ - 属性

この項では、タスク・マネージャの「属性」列の定義を示します。

表 23-9 列の定義 - タスク・マネージャ - 属性

列名	説明
添付	属性に添付があるかどうかを示します
計算	属性が計算属性であるかどうかを示します
作成者	属性を作成したユーザーの名前
作成日	属性が作成された日時
最終更新者	属性を最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	属性が最後に更新された日時
行	「アクション」ダイアログ・ボックスでスクロールせずに表示できるテキストの行数。
ロック済	属性がロックされているかどうかを示します
名前	属性の名前
タイプ	属性のタイプ

### タスク・マネージャ - 通貨

この項では、タスク・マネージャの「通貨」列の定義を示します。

表 23-10 列の定義 - タスク・マネージャ - 通貨

列名	説明
通貨コード	通貨を識別する国の通貨コード
通貨記号	通貨コードに対する通貨記号
小数点以下の桁数	小数点以下を含む数値の表示方法を示します
説明	通貨コードに関連付けられている国の名前
有効	通貨コードが有効かどうかを示します



### タスク・マネージャ - スケジュール・タスク

この項では、タスク・マネージャの「スケジュール・タスク」列の定義を示します。

**表 23-11 列の定義 - タスク・マネージャ - スケジュール・タスク**

列名	説明
「承認者 1」 - 「承認者 10」	割り当てられた承認者のレベル
承認者 1-10 (実際)	実際の承認者
「承認者 1 (バックアップ)」 - 「承認者 10 (バックアップ)」	バックアップ承認者
「承認者 1 (プライマリ)」 - 「承認者 10 (プライマリ)」	プライマリ承認者
「承認者 1 の終了日(実際)」 - 「承認者 10 の終了日(実際)」	役割が完了した実際の終了日
承認者 1-10 の終了日(実際、ローカル)	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで表される、役割が完了した実際の終了日(組織単位が割り当てられている場合)
「承認者 1 の終了日(割当済)」 - 「承認者 10 の終了日(割当済)」	承認者に割り当てられた終了日
「承認者 1 の終了日(割当済、ローカル)」 - 「承認者 10 の終了日(割当済、ローカル)」	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで表される、タスクの承認者に割り当てられた終了日(組織単位が割り当てられている場合)
「承認者 1 の却下(件数)」 - 「承認者 10 の却下(件数)」	承認者によって却下されたスケジュール済タスクの合計数
「承認者 1 のスケジュール済の終了日」 - 「承認者 10 のスケジュール済の終了日」	タスクの承認者の有効終了日
「承認者 1 のスケジュール済の終了日(ローカル)」 - 「承認者 10 のスケジュール済の終了日(ローカル)」	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで表される、タスクの承認者にスケジュールされた終了日(組織単位が割り当てられている場合)
「承認者 1 のスケジュール済の開始日」 - 「承認者 10 のスケジュール済の開始日」	タスクの承認者の有効開始日
「承認者 1 のスケジュール済の開始日(ローカル)」 - 「承認者 10 のスケジュール済の開始日(ローカル)」	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで表される、タスクの承認者にスケジュールされた開始日(組織単位が割り当てられている場合)
「承認者 1 の開始日」 - 「承認者 10 の開始日」	タスクの割当済の開始日
「承認者 1 の開始日(ローカル)」 - 「承認者 10 の開始日(ローカル)」	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで表される、タスクの割当済の開始日(組織単位が割り当てられている場合)
承認者(人数)	割り当てられた承認者の合計人数
担当者	タスクを処理できるユーザー
担当者(実際)	スケジュール済タスクを作業した実際の担当者

表 23-11 (続き) 列の定義 - タスク・マネージャ - スケジュール・タスク

列名	説明
担当者(バックアップ)	タスクを処理できるバックアップ・ユーザー
担当者(プライマリ)	タスクを処理できるプライマリ・ユーザー
担当者終了日	割り当てられたユーザーの有効終了日
担当者終了日(実際)	担当者の役割が完了した実際の終了日
担当者終了日(実際、ローカル)	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで表される、担当者の役割が完了した実際の終了日(組織単位が割り当てられている場合)
担当者終了日(割当済)	担当者の役割が完了する有効終了日
担当者終了日(割当済、ローカル)	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで表される、役割が完了した実際の終了日(組織単位が割り当てられている場合)
担当者終了日(ローカル)	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで表される、タスクの割当済終了日(組織単位が割り当てられている場合)
コメント(件数)	スケジュール済タスクのコメントの合計数
作成者	スケジュール済タスクを作成したユーザーの名前
作成日	スケジュール済タスクが作成された日時
説明	スケジュール済タスクの説明
終了日	スケジュール済タスクの有効終了日
これまでの遅延(担当者)	担当者がタスクを送信した日が期限日より後かどうかを示します。
これまでの遅延(承認者 1-10)	承認者の役割が遅延したことがあるかどうかを示します
実行タイプ	「エンド・ユーザー」、「システム自動」、「イベント・モニタリング」などの実行タイプ
指示	スケジュール済タスクを完了するための一連の指示
統合	スケジュール済タスクに関連付けられている統合
最終更新者	スケジュール済タスクを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	スケジュール済タスクが最後に更新された日時
遅延(承認者 1-10)	承認者がタスクを期限日より後に完了したかどうかを示します
遅延(担当者)	担当者がタスクを期限日より後に完了したかどうかを示します
オープン・タスク	タスクがオープンしているかどうかを示します
組織単位	割り当てられた組織単位
Owner	スケジュール済タスク所有者の名前。サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります
親	親タスクのタスク ID
先行	現在のタスクの先行タスク。別のテンプレートからのものである可能性があります。
Priority	タスクの優先度
参照(件数)	スケジュール済タスクに追加された参照(URL 参照およびコンテンツ・サーバー参照)の数
ルール(件数)	スケジュール済タスクに対して直接実行されるルールの合計数
別名実行	このユーザーとしてタスクを実行します。システム自動タスクにのみ適用されます。
許可済みの別名実行	このタスクを許可できるユーザー。「別名実行」ユーザーがタスクも作成したユーザーである場合、そのユーザーは、パスワードの再入力を要求されずにタスクを許可できます。
開始日	スケジュール済タスクの有効開始日

表 23-11 (続き) 列の定義 - タスク・マネージャ - スケジュール・タスク

列名	説明
タスクの先行開始	スケジュール済の開始時間より前に保留中のタスクをオープンすることを担当者が許可されているかどうかを示します
ステータス(アイコン)	スケジュール済タスクのステータスを示すアイコン
後続	現在のタスクの後続タスク
タスク ID	タスクの一意的識別子
タスク・タイプ	タスクのタイプ

## タスク・マネージャ・システム設定の管理

### 次も参照:

- [グローバル統合トークンの管理](#)
- [タスク・マネージャの組織単位の管理](#)
- [タスクの休日ルール管理](#)
- [構成設定の変更](#)

## グローバル統合トークンの管理

グローバル統合トークン機能を使用すると、パラメータ化された URL を作成できます。URL は様々な目的で使用できます。

URL の作成時に、パラメータが URL に挿入されます。URL をクリックすると、パラメータが適切な値に置き換わります。

たとえば、次にパラメータの抜粋を示します。

```
...$YearName$%22%22Period%20Name%22&val6=%22$PeriodName$%22&col17=%22Logical%20Schedules%22.%22Year%20Name%22&val7=%22$YearName$%22&col8=%22Logical%20Schedules%22.%22Deployment%20Name%22&val8=%22$ScheduleName $%22
```

ここで

```
$YearName$ = 2012
$PeriodName$ = Jan12
$ScheduleName$ = DemoSchedule
```

URL は次のようになります。

```
...%222012%22%22Period%20Name%22&val6=%22Jan2012%22&col7=%22Logical%20Schedules%22.%22Year%20Name%22&val7=%222012%22&col8=%22Logical%20Schedules%22.%22Schedule%20Name%22&val8=%22DemoSchedule%22
```

パラメータは、アプリケーションで定義された静的パラメータ、「テキスト」および「リスト」タイプの属性、およびタスク、テンプレートおよびスケジュールに割り当てられた次のネイティブ属性から構成されます。

- 期間名
- スケジュール名
- タスク名
- タスク ID
- 年名

URL には次の場所からアクセスできます。

- **テンプレート:** 管理者またはパワー・ユーザーが参照 URL を「指示」セクションのテンプレートに追加すると、URL は「指示」タブでクリックできるようになります。
- **スケジュール:** 管理者またはパワー・ユーザーが参照 URL を「指示」セクションのスケジュールに追加すると、URL は「指示」でクリックできるようになります。
- **タスクの詳細:** 管理者、パワー・ユーザーまたはタスク所有者が参照 URL を「指示」セクションのタスクに追加すると、URL は「指示」でクリックできるようになります。
- **タスク・タイプ:** 管理者が参照 URL を「指示」セクションのタスク・タイプに追加すると、URL は「指示」タブでクリックできるようになります。
- **タスク・アクション:** 「タスク・アクション」の参照者は参照 URL をクリックできます。

## グローバル統合トークンの作成

グローバル統合トークンを作成する際には、次のガイドラインに従ってください。

- トークン名は一意にする必要があります。
- トークンは変更できません。
- トークンは削除しないでください。トークンを削除しようとする、次の警告が表示されます: 「グローバル統合トークンを削除すると、それを参照している URL が無効になります。続行してよろしいですか?」

グローバル統合トークンを作成するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「システム設定」タブをクリックし、「グローバル統合トークン」を選択します。
3. 「新規」をクリックします。
4. 次を入力します:
  - **名前:** 一意のトークン名
  - **タイプ:** 静的またはタスク属性
  - **トークン値:**
    - 「パラメータ・タイプ」に「タスク属性」が選択されている場合は、URL がレンダリングされるときに渡される値を選択します。
    - 「パラメータ・タイプ」に「静的属性」が選択されている場合は、URL がレンダリングされるときに渡される値を入力します。

5. 「保存」をクリックします。

## トークンの削除

トークンを削除するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「システム設定」タブをクリックし、「グローバル統合トークン」を選択します。
3. トークンを選択し、「削除」をクリックします。

次の警告メッセージが表示されます。「グローバル統合トークンを削除すると、それを参照している URL が無効になります。続行してよろしいですか？」

4. 「はい」をクリックして、削除を確認します。

## タスク・マネージャの組織単位の管理

組織単位を使用すると、管理者は、地域、エンティティ、事業部門、事業部、部署や、タスクに関連するその他すべてのエンティティをモデル化することができます。組織単位は、レポートが容易になるように階層形式を取っています。

階層を表示する際、管理者は階層を展開および縮小して、その階層の他のセクションを操作できます。

## 組織単位の追加

組織を追加するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「組織」タブをクリックし、「組織単位」を選択します
3. 「兄弟の追加」をクリックします。
4. 「プロパティ」タブで、次の情報を入力します。

- **名前:** 最大 255 文字まで入力できます。

名前は管理者が変更でき、一意にする必要はありません。

- **組織単位 ID:** 移行目的でトランザクションを識別するために使用される一意の ID。

組織単位 ID は、組織単位の設定後は変更できません。最大 255 文字まで入力できます。

- **オプション: 親組織:** 管理者は階層を変更できます。

- **説明:** 最大 255 文字まで入力できます。


- **タイムゾーン:** 組織単位に適用されるタイムゾーンを決定します。タイム・ゾーンの選択はオプションです。タイム・ゾーンが選択されていないと、タスクのタイム・ゾーンはユーザーのタイム・ゾーンに戻ります。

- **休日ルール:** 組織単位に適用される休日のリストを決定します。休日ルールの選択はオプションです。

- **労働日数:** どの曜日が労働日であるかを決定します。
5. 「**アクセス**」タブを使用すると、管理者は参照者およびコメント作成者のアクセス権を中央の 1 箇所で割り当てることができ、各タスクにアクセス権を割り当てる必要がなくなります。  
ユーザーを選択するには:
    - a. 「**追加**」をクリックします。
    - b. 「**参照者の選択**」で、「名」と「姓」を入力するか、「**ユーザーの検索**」をクリックし、「**ユーザー**」または「**グループ**」または「**チーム**」を選択します。
    - c. 「**検索結果**」で、ユーザーを選択し、「**追加**」または「**すべて追加**」をクリックし、これらを「**選択済**」リストに移動します。

## 組織単位のインポート

組織単位をインポートするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**組織**」タブをクリックし、「**組織単位**」を選択します。
3. 「**インポート**」をクリックします。
  - 「**ファイルの選択**」をクリックして、CSV インポート・ファイルに移動します。

組織のインポート・フォーマットの例:

### ノート:

次の項では、インポート・フォーマットを示します。この例では、Americas という親組織単位、US という休日ルール、および fm\_user5 という参照者が事前に存在することが必要です。

```
"OrganizationalUnitID", "Name", "ParentOrganization", "Description", "TimeZone", "HolidayRule", "Calendar", "Workdays", "Viewer1", "Commentator1"
"US2", "US2", "Americas", "Import Organization US2 Example", "ET (UTC-05:00)", "US", "", "2-3-5", "fm_user5", ""
```

- 「**インポート・タイプ**」で、次のいずれかを選択します:
    - **置換:** 組織単位の詳細を、インポートするファイル内にある組織単位で置き換えます。インポート・ファイルに指定されていない他の単位には影響しません。
    - **すべて置換:** 既存の単位を置き換える新しい組織単位のセットをインポートします。あるシステムの単位を別のシステムで更新された定義に置き換える場合にこのオプションは便利です。インポート・ファイルに指定されていない組織単位は削除されます。
  - 「**ファイル区切り文字**」で、「**カンマ**」、「**タブ**」または「**その他**」を選択します。
4. 「**インポート**」をクリックします。

## 組織単位の選択

管理者は、タスクの編成とスケジュール設定に役立つよう、組織単位を組織で定義します。

組織を選択するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「組織」タブをクリックし、「組織単位」を選択します。
3. 組織を選択します。矢印は子組織が存在することを示します。子組織を選択するには親を展開します。

## タスクの休日ルール管理


休日ルールは休日の日付の集合であり、管理者はこれを使用してタスクをスケジュールします。

休日ルールを作成したら、そのルールを組織単位に適用してから、組織単位をスケジュール・テンプレートに適用できます。

[組織単位への休日ルールの適用](#)および[スケジュール・テンプレートへの休日ルールの適用](#)を参照してください。

## 休日ルールの作成

休日ルールを作成するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「組織」タブをクリックします。
3. 「休日ルール」をクリックします。
4. 「新規」をクリックします。
5. 次を入力します:
  - **休日ルール ID:** 最大 255 文字まで入力できます。「休日ルール ID」は必須で、一意である必要があります。
  - **名前:** 最大 50 文字を入力できます。「名前」は、一意である必要はありません。
  - **年:** 「年」属性はフィルタ・オプションとして機能します。この属性の値を選択する必要はありません。それを行うと、表がフィルタ処理され、選択した年に関連する日付が表示されます。
6. 休日を指定するには、「休日」セクションで、「インポート」()をクリックして休日のリストをインポートするか、「新規」をクリックして休日の日付および名前を入力します。



## 組織単位への休日ルールへの適用

休日ルールを作成したら、それを組織単位に適用してから、それをスケジュールに適用できます。

休日ルールを適用するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「組織」タブをクリックします。
3. 「組織単位」をクリックします。
4. 組織を作成または編集します。
5. 「プロパティ」で、「休日ルール」ドロップダウンから休日ルールを選択します。
6. 「保存」をクリックします。

## スケジュール・テンプレートへの休日ルールへの適用

休日ルールを作成したら、それを組織単位に適用してから、組織単位をスケジュールに適用できます。

休日ルールを適用するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックします。
2. 「タスク・マネージャ」をクリックします。
3. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
4. テンプレートを選択し、テンプレートの右側にある「アクション」アイコンをクリックして、「スケジュールの作成」を選択します。
5. 「スケジュール・パラメータ」については、「スケジュール」、「年」、「期間」および「日ゼロの日付」を指定します。
6. 「日付マッピング」で、「拡張構成」をクリックします。
7. 「組織単位」で、「タスク値の使用」または「値の設定」を選択します。「値の設定」については、「検索」アイコンをクリックして組織単位を選択します。
8. 作成または編集して休日ルールを追加した組織単位を選択し、「OK」をクリックします。
9. 「OK」をクリックします。


これで、「スケジュール・パラメータ」の「日付マッピング」に休日が表示されます。

## 休日日付のインポート

日付を休日ルール内にインポートできます。

休日日付をインポートするには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「組織」タブをクリックします。
3. 「休日ルール」をクリックします。
4. 休日ルールを作成または選択します。

5. 「休日」セクションの上方にある「インポート」  をクリックします。
6. 「ファイルの選択」をクリックして、CSV インポート・ファイルに移動します。
7. 「インポート・タイプ」で、次のいずれかを選択します:
  - **置換:** 休日日付を、インポートするファイル内の休日日付に置き換えます。インポート・ファイルに指定されていない他の単位には影響しません。
  - **すべて置換:** 既存の休日日付を置き換える新しい休日日付のセットをインポートします。このオプションを使用して、あるシステムの単位を別のシステムで更新された定義に置き換えます。インポート・ファイルに指定されていない休日日付は削除されます。
8. 「日付フォーマット」で、使用可能な日付フォーマットのドロップダウン・リストから、フォーマットを選択します。日付フォーマットは変換されません。デフォルトで、日付フォーマットはエクスポートされたファイルの場所のロケールの日付フォーマットに設定されます。
9. 「ファイル区切り文字」で、「カンマ」、「タブ」または「その他」を選択します。
10. 「インポート」をクリックします。

## 休日ルールの編集

休日ルールを編集するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「組織」タブをクリックし、「休日ルール」を選択します。
3. ルールを選択します。
4. 次のフィールドを編集します:

### ノート:

「休日ルール ID」は編集できません。

- **名前:** 名前には、50 文字まで使用できます。一意である必要はありません。
  - **年:** 「年」属性はフィルタ・オプションとして機能します。この属性の値を選択する必要はありません。それを行うと、表がフィルタ処理され、選択した年に関連する日付が表示されます。
5. 「保存」をクリックします。

## 休日ルールの複製

休日ルールを複製するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「組織」タブをクリックします。
3. 「休日ルール」をクリックします。

4. ルールを選択して「複製」をクリックします。
5. 必要に応じてルールを編集します。

## 休日ルールの削除

論理的に削除されない組織単位に関連付けられている休日ルールは削除できません。休日ルールが割り当てられていた組織単位のリストが表示されます。

休日ルールを削除するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 「組織」タブをクリックし、「休日ルール」を選択します。
3. ルールを選択し、「削除」をクリックします。

## 構成設定の変更

次も参照:

- [コメントの削除の許可](#)
- [タスクの削除の許可](#)
- [電子メール通知の有効化](#)
- [タスク・マネージャ・ガバナーの設定](#)
- [再割当て要求の承認の許可](#)
- [タスクを再度開く](#)
- [タスク・マネージャ・レポートの設定](#)
- [Excel 形式へのエクスポートの設定](#)
- [Smart View でのタスク表示の指定](#)
- [「ワークリストおよびようこそパネル」での今後のタスクの表示](#)

## コメントの削除の許可

サービス管理者は、「コメントの削除を許可」構成設定オプションを使用して、タスクでコメントの削除を許可することを決定できます。デフォルトで、このオプションはオフになっています。

ユーザーにコメントの削除を許可するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「システム設定」タブをクリックします。
3. 「コメントの削除を許可」を選択します。
4. 「オンにする」を選択して削除を有効にします。

## タスクの削除の許可

サービス管理者は、タスクの削除を許可するかどうかを指定できます。デフォルトで、このオプションはオフになっています。

 **ノート:**

この設定は、実行中のタスクとクローズされたタスクにのみ影響します。

ユーザーにタスクの削除を許可するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**システム設定**」タブをクリックします。
3. 「**タスクの削除を許可**」を選択します。
4. 「**オンにする**」を選択して削除を有効にします。

## 電子メール通知の有効化

サービス管理者は、タスク・マネージャ・ユーザーのために電子メール通知を設定できます。電子メール通知を有効にすると、バッチ通知が生成されます。通知が不要になった場合は、電子メール通知およびリマインダを非アクティブにできます。

 **ノート:**

デフォルトでは、電子メール通知は無効です。

管理者は、リマインダ通知を送信する期限までの日数を割り当てることもできます。

期限日リマインダ通知は、次の場合に担当者および承認者に電子メールで送信されます。

- タスク・マネージャ・アクションの責任が変更された場合 - アクションの情報に基づいて送信
- 期限日が経過した場合 - アクションの情報に基づいて送信
- 期限日が近づいている - 指定した事前日数に基づいて送信

電子メール通知を有効にするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**システム設定**」タブをクリックします。
3. 「**電子メール通知**」を選択します。
4. 「**電子メール通知**」に「**オンにする**」を選択して通知を開始するか、「**オフにする**」を選択して通知を非アクティブにします。
5. 「**送信元アドレス**」に電子メールを入力します。アドレスを編集して特定のアドレスを指定したり、製品の頭文字を追加して通知の送信元をユーザーにアラートできます。「**送信元アドレス**」フィールドを編集できる場合は、電子メールを入力します。それ以外の場合、表示されるデフォルトの電子メール・アドレスは `no.reply@epm.oraclecloud.com` であり、編集できません。また、電子メール通知

では、電子メールのフッターにサービス名が挿入されます。例: 「ノート: これは、efim.arcs の EPM Task Manager からの自動電子メール通知です。」。

6. 「リマインダを送信する期限日までの日数」を入力します。
7. 「ユーザー指定」チェック・ボックスを選択します。管理者がこのチェック・ボックスを選択すると、ユーザーは個人の電子メール通知設定をカスタマイズできます。管理者がこのチェック・ボックスを選択しない場合、ユーザーは管理者が行った設定を継承します。
8. 「電子メール開始時間」と「電子メール終了時間」を使用して、スケジュールされた電子メールが送信される 1 日の期間を指定します。この設定は、各ユーザーの個々のタイム・ゾーンで有効になります。

#### Manage System Settings

9. 「通知タイプ」の設定を指定します。次のタイプの通知を定義できます:
  - 遅延通知
  - ステータス変更通知
  - 期限日リマインダ通知

Notification Type	Notify Me
<ul style="list-style-type: none"> <li>┆ Late Notification</li> <li>┆ Task Manager</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Every 2 hours</li> <li>Every 2 hours</li> </ul>
You are the task approver and task approver is late	Every 2 hours
You are the task assignee and task assignee is late	Every 2 hours
You are the task owner and task assignee is late	Every 2 hours
You are the task owner and task approver is late	Every 2 hours
┆ Status Change Notification	Once a day
┆ Due Date Reminder Notification	Every 6 hours

「通知する」のオプションを選択します:

- **即時:** たとえば、「ステータス変更通知」の場合、「タスク・マネージャ」を展開し、再度展開して「あなたはアラート承認者です。アラート・ステータスがオープン(承認者)に変更されました」を選択します。承認者が処理したらすぐに通知を受ける場合、「即時」を選択します。

 ノート:

「通知する」を「即時」に設定した場合、電子メール通知は、ユーザーの電子メール開始/終了時間外であっても、即時に送信されます。

- 1 日に 1 回
- 2 時間ごと
- 3 時間ごと
- 4 時間ごと
- 6 時間ごと
- 混在
- なし: 通知を非アクティブにするには、このオプションを選択します。このオプションは、「ステータス変更通知」および「期限日リマインダ通知」にのみ適用されることに注意してください。「遅延通知」では、次の通知タイプでのみこのオプションが表示されます:
  - あなたはタスク所有者です。タスク担当者が遅延しています
  - あなたはタスク所有者です。タスク承認者が遅延しています

 ノート:

通知のタイプごとに、各通知プリファレンスを展開して通知のタイミングを選択します。

たとえば、「ステータス変更通知」の場合、「タスク・マネージャ」を展開し、「あなたはタスク承認者です。タスク承認者が遅延しています」を展開して選択します。通知の選択肢として「2 時間ごと」を選択します。

設定を下位レベルでオーバーライドできます(たとえば、「通知タイプ」を「2 時間ごと」に構成し、いずれかの条件を「1 日に 1 回」にオーバーライドします)。その場合、親設定に「混在」と表示され、子レベルの設定に複数のプリファレンス設定が割り当てられていることを視覚的に示します。「混在」から別のプリファレンス設定に値を変更できます; そうすると、子レベルの設定が新しい設定に変わります。

管理者が「サービス」で「電子メール通知」を無効にすると、通知は停止されます。

詳細は、[通知タイプおよび設定の管理](#)を参照してください。

*Financial Consolidation and Close* の操作の[通知用電子メールの設定](#)も参照してください

## 通知タイプおよび設定の管理

サービス管理者は、「通知タイプ」で全ユーザー向けのすべてのタスク・マネージャ通知のデフォルト設定を定義できます。

### 「遅延通知」のオプション

Table 23-12 遅延通知タイプの表

通知	有効な値
あなたはタスク承認者です。タスク承認者が遅延しています	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはタスク担当者です。タスク担当者が遅延しています	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはタスク所有者です。タスク担当者が遅延しています	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはタスク所有者です。タスク承認者が遅延しています	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>

### 「ステータス変更通知」のオプション

Table 23-13 ステータス変更通知タイプの表

通知	有効な値
あなたはアラート担当者です。アラート・ステータスがオープン(担当者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはアラート承認者です。アラート・ステータスがオープン(承認者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>



**Table 23-13 (Cont.) ステータス変更通知タイプの表**

通知	有効な値
あなたはアラート所有者です。アラート・ステータスがオープン(所有者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはアラート所有者です。アラート・ステータスがオープン(担当者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはアラート所有者です。アラート・ステータスがオープン(承認者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはアラート所有者です。アラート・ステータスが完了に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはアラート参照者です。アラート・ステータスがオープン(所有者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはアラート参照者です。アラート・ステータスがオープン(担当者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>

Table 23-13 (Cont.) ステータス変更通知タイプの表

通知	有効な値
あなたはアラート参照者です。アラート・ステータスがオープン(承認者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはアラート参照者です。アラート・ステータスが完了に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはスケジュール所有者です。スケジュールが作成されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはスケジュール所有者です。スケジュール・ステータスがオープンに変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはスケジュール所有者です。スケジュール・ステータスがクローズ済に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはスケジュール所有者です。スケジュール・ステータスがロック済に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>

**Table 23-13 (Cont.) ステータス変更通知タイプの表**

通知	有効な値
あなたはスケジュール参照者です。スケジュールが作成されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはスケジュール参照者です。スケジュール・ステータスがオープンに変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはスケジュール参照者です。スケジュール・ステータスがクローズ済に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはスケジュール参照者です。スケジュール・ステータスがロック済に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはタスク担当者です。タスク・ステータスがオープン(担当者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはタスク承認者です。タスク・ステータスがオープン(承認者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>

Table 23-13 (Cont.) ステータス変更通知タイプの表

通知	有効な値
あなたはバックアップ担当者です。プライマリ担当者は作業できません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはバックアップ承認者です。プライマリ承認者は作業できません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはタスク承認者です。スケジュール・ステータスがオープンに変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはタスク所有者です。タスク・ステータスがオープン(担当者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはタスク所有者です。タスク・ステータスがオープン(承認者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはタスク所有者です。タスク・ステータスがクローズ済に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはタスク所有者です。タスク・ステータスが強制クローズ済に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>

Table 23-13 (Cont.) ステータス変更通知タイプの表

通知	有効な値
あなたはタスク所有者です。タスク・ステータスが中止に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはタスク参照者です。タスク・ステータスがオープン(担当者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはタスク参照者です。タスク・ステータスがオープン(承認者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはタスク参照者です。タスク・ステータスがクローズ済に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはタスク参照者です。タスク・ステータスが強制クローズ済に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはタスク参照者です。タスク・ステータスが中止に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>

Table 23-13 (Cont.) ステータス変更通知タイプの表

通知	有効な値
あなたは仕訳送信者です。仕訳を転記する必要があります	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたは仕訳承認者です。仕訳を承認する必要があります	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 即時</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>

「期限日リマインダ通知」のオプション

Table 23-14 期限日リマインダ通知タイプの表

通知	有効な値
あなたはタスク承認者です。タスクは「リスクあり」です	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはタスク担当者です。タスクは「リスクあり」です	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはタスク所有者です。タスクは「リスクあり」です	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>
あなたはタスク担当者です。担当者の期限日が 1 日以内に到来します	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>

Table 23-14 (Cont.) 期限日リマインダ通知タイプの表

通知	有効な値
あなたはタスク承認者です。承認者の期限日が 1 日以内に到来します	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> <li>• 2 時間ごと</li> <li>• 3 時間ごと</li> <li>• 4 時間ごと</li> <li>• 6 時間ごと</li> <li>• 1 日に 1 回</li> </ul>

## タスク・マネージャ・ガバナーの設定

タスク・マネージャでは、様々なシステム設定でガバナーを設定できます。デフォルト設定が提供されますが、これは削減するか最大値まで増加できます。たとえば、リストに表示する行の最大数を指定できます。

- **リストに表示するアイテムの最大数:** 「スケジュール・タスク」などのリスト・ビューに表示する行の最大数が決まります。
- **最大承認者レベル:** タスクが確認される場合のレベル数が決まります。
- **最大ファイル・アップロード・サイズ(MB)を選択してください:** ユーザーがアップロードできる添付ファイルの最大サイズが決まります。この設定によって、管理者は、アプリケーションのインストール環境の制限内で作業するように適応できます。

タスク・マネージャのガバナーを設定するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「システム設定」タブをクリックします。
3. 「システム設定の管理」ページで、「ガバナー」をクリックします。
4. 最大値を指定するか、デフォルト設定のままにします:
  - **リストに表示するアイテムの最大数:** デフォルトは 10000 です。
  - **最大承認者レベル:** 1 から 10 までの値を選択します。
  - **最大ファイル・アップロード・サイズ(MB)を選択してください:** 5 MB から 100 MB までの値を選択します(増分値 5 MB)。
5. 「レポート」セクションで、Oracle サポートによって指示された場合にのみ設定を変更します。
6. 「保存」をクリックします。

## 再割当て要求の承認の許可

管理者は、承認のために管理者またはパワー・ユーザーに要求を送信するかわりに、再割当て要求を直接実行および承認できるワークフロー・ユーザーを指定できます。

ユーザーは「ワークリスト」で再割当て要求を承認できます。

サービス管理者も、タスク所有者が使用できない場合に再割当て要求の承認を求められたときに、その要求を参照できる必要があります。



再割当ての実行をワークフロー・ユーザーに許可するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「システム設定」タブをクリックします。
3. 「再割当て要求」を選択します。
4. 「次の実行者による再割当て要求の承認を許可」で、1 つ以上のオプションを選択します。
  - 管理者
  - パワー・ユーザー
  - ユーザー

## タスクを再度開く

タスク・マネージャで、タスクを再度開く必要があることもあります。オープンまたはクローズされたタスクを再度開くことを許可するかどうかを指定できます。

タスクを再度開くことを許可するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「システム設定」タブをクリックします。
3. 「再オープン」を選択します。
4. オープン(担当者または承認者)状態のタスクを再度開くことを許可する条件を設定します。「タスクはオープン(担当者または承認者)です」の場合:
  - **許可しない:**これがデフォルト・オプションであり、担当者または承認者は、オープン・タスクのワークフローを送信または承認した後はそれを変更できません。
  - **すべての承認者に許可:**タスクを承認した承認者がワークフローを自分に戻すことを許可します。
  - **すべての担当者および承認者に許可:**タスクを送信した担当者またはタスクを承認した承認者がワークフローを自分に戻すことを許可します。
5. クローズされたタスクを再度開くことを許可する条件を設定します。「タスクはクローズ済です」の場合:
  - **許可しない:**これがデフォルト・オプションであり、ユーザーは、クローズされたタスクを再度開くことはできません。
  - **最後の承認者に許可:**最後の承認者にのみ、ワークフローを再度開いて自分に戻すことを許可します。
  - **すべての承認者に許可:**承認者に、ワークフローを再度開いて自分に戻すことを許可します。
  - **すべての担当者および承認者に許可:**タスクの担当者および承認者に、ワークフローを再度開いて自分に戻すことを許可します。

## タスク・マネージャ・レポートの設定

Microsoft Excel 形式でレポートを生成すると、複数行にわたる行が、データを含む行とその後に表示される複数の空行になることがあります。行値に基づいて計算を実行するスクリプトがある場合、これによって問題が発生する可能性があります。タスク・マネージャには、このような余分な行の表示を制御する設定が用意されています。

この問題を解消するには、次のように実行してレポートのテンプレート・ファイルを変更する必要があります:

- 表の行から空行を削除します
- その行の高さを 0 に変更します

また、タスク・マネージャには、このような余分な行の表示を制御する設定が用意されています。この設定はすべてのレポートに適用されます。

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「システム設定」タブをクリックします。
3. 「レポート」をクリックします。
4. 「行分割の有効化」の選択を解除し、Microsoft Excel の各データ行に対して複数の行が表示されないようにします。

## Excel 形式へのエクスポートの設定

データを Microsoft Excel にエクスポートするには、形式を.xls または.xlsx に設定できます。

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「システム設定」タブをクリックします。
3. 「レポート」をクリックします。
4. 「Excel フォーマットのエクスポート」で、次のいずれかのオプションを選択します:
  - **Excel 97 - 2003 (.xls)**: 表のデータを.xls 形式にエクスポートします。
  - **Excel (.xlsx)**: 表のデータを.xlsx 形式にエクスポートします。

## Smart View でのタスク表示の指定

Oracle Smart View for Office から起動されたときのタスク・マネージャ・タスクの表示を構成するには、表示する列(「タスク属性」など)を選択します。

Smart View に表示する列を選択するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 「システム設定」タブをクリックします。
3. 「Smart View」を選択します。
4. 「列の選択」で、「使用可能」リストから表示する列を選択し、「追加」矢印キーをクリックして「選択済」列に移動するか、「削除」をクリックして削除します。  
最大で 30 の列を選択でき、必要に応じて列の順序を変更できます。
5. 「保存」をクリックして選択内容を保存します。

## 「ワークリストおよびようこそパネル」での今後のタスクの表示

管理者は、「ワークリストおよびようこそパネル」のワークフローで現在のタスクのみを表示するか、現在と今後のタスクを表示するかを決定できます。

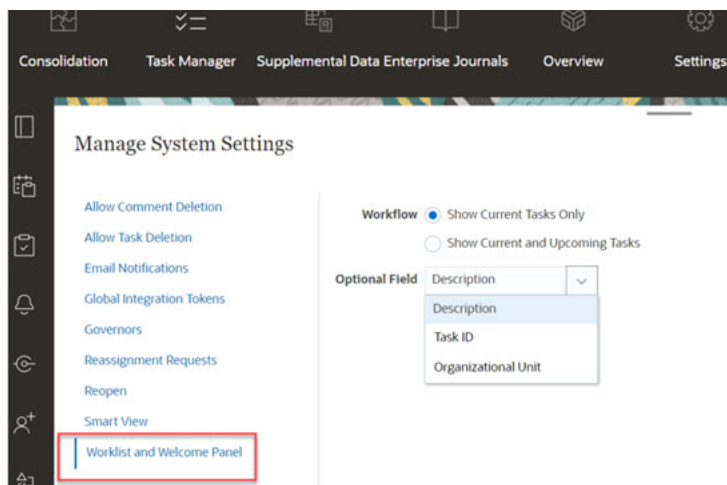
現在と今後のタスクを有効にすると、現在作業可能なアイテムと今後のワークフローのアイテムを表示できます。たとえば、策定者がまだタスクを完了していないために今すぐには作業できない、自分が承認する予定の今後のタスクを表示できます。

また、タスクは説明とともに表示(デフォルト)することや、タスク ID/組織単位ごとに表示することもできます。

デフォルトでは、現在のタスクのみが表示されます。

タスクの表示を設定するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「システム設定」タブをクリックします。
3. 「ワークリストおよびようこそパネル」を選択します。
4. 「ワークフロー」のオプションを選択します。
  - 現在のタスクのみを表示
  - 現在のタスクと今後のタスクを表示
5. 「オプション・フィールド」のオプションを選択します。
  - 説明(デフォルト)
  - タスク ID
  - 組織単位



## タスク・マネージャ属性の管理

属性は、主に管理者によって定義され、多くの場所で使用される、ユーザー定義フィールドです。

属性には、「日付」、「日付/時間」、「整数」、「リスト」、「複数行のテキスト」、「数値」、「True/False」、「テキスト」、「ユーザー」および「はい/いいえ」といった異なる値タイプを指定できます。たとえば、「自動送信」というカスタム属性を「はい」または「いいえ」の値タイプで定義できます。「自動送信」属性を項目に割り当てると、外部ユーザーによって要求されるタスクに対してその項目を「はい」に設定できます。

「リスト」タイプを選択した場合、値の選択リストを定義できます。たとえば、「北部」、「南部」、「東部」および「西部」という値を持つ「販売地域」という名前の「リスト」属性を定義できます。

属性は、作成、編集および削除できます。

#### ノート:

作成またはインポートできるタスク・マネージャ属性の最大数は 10,000 です。

## タスク・マネージャ属性の定義

タスク・マネージャ属性を定義するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「属性」タブをクリックします。
3. 「新規」をクリックし、「プロパティ」タブで次のプロパティを指定します:
  - **名前:** 最大 80 文字まで入力できます。

#### ノート:

以前に使用し、削除したものと同名前を使用してオブジェクトを作成できます。削除されたオブジェクトに以前にリンクされていたオブジェクトはすべて、新しいオブジェクトに関連付けられます。

- **説明:** 最大 255 文字まで入力できます。
- **タイプ:**
  - **日付**
  - **日付/時間**
  - **整数:** -2147483648 から 2147483647 までの値が許可されます。「合計」で、属性の合計方法を指定します:
    - \* **なし**(デフォルト): 合計は計算されません。
    - \* **平均:** データのある行の平均。データのない行は分母にカウントされません
    - \* **数:** データのある行の数
    - \* **合計:** 加算合計。

- **リスト:** 「**リストの値**」をクリックして、質問に対する有効な回答のリストを入力します。最大 255 文字まで入力できます。
- **複数行のテキスト:** 「**フォーマット**」をクリックし、3 から 50 行までの「**行数**」を指定します。「複数行のテキスト」では、「アクション」ダイアログ・ボックスで、スクロールせずに表示できるテキストの行数を決定します。最大長は 4,000 文字未満にする必要があります。  
「アクション」ダイアログ・ボックスに「**添付**」セクションを追加する場合は、「**添付を含める**」を選択します。
- **数値:** 値 xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx.xxxxxxxxx (17 桁と小数点以下 9 桁)を入力します。「**フォーマット**」をクリックし、数値のフォーマット・オプションを選択します:
  - \* 「**小数点以下の桁数**」には、表示する小数点以下の桁数の値を入力します。
  - \* 「**パーセンテージとして表示**」では、パーセンテージを表示するかどうかを選択します。
  - \* 1,000.00 のように、数値に 3 桁ごとの区切り文字を表示する場合は、「**3 桁ごとの区切り文字**」オプションを選択します。
  - \* 「**通貨記号**」では、通貨記号を選択します(例: \$ (米国ドル))。
  - \* 「**負数**」では、(123)など、負数の表示方法を選択します。
  - \* 「**スケール**」では、数値のスケール値(1000 など)を選択します。
- **テキスト:** 最大 4000 文字を入力します。
- **True/False**
- **ユーザー**
- **はい/いいえ**
- **計算:** 「**計算**」タブで属性の論理関数や数学的関数を追加するために選択します。  
[計算属性の定義](#)を参照してください。

## 計算属性の定義

計算属性を使用すると、論理関数や数学的関数を追加して、属性の値を派生させることができます。別の計算済属性に埋め込むと、複雑な関数を作成できます。計算済属性は読取り専用です。評価対象はスケジュールのみです。

スケジュール: ユーザーは任意の計算を追加でき、その計算はタスクに対して明示的に割り当てられているかどうかに関係なく評価されます。

テンプレート: 「計算」オプションが選択されているカスタム属性は、列属性またはフィルタ可能な属性として追加できません。

管理者が「アクション」ダイアログの「属性」セクションに属性を追加すると、ワークフロー・ユーザーがその属性を表示できるようになります。管理者は、アクセス権を「表示しない」に設定することで、特定の役割に対してアクセス権を制限できます。たとえば、管理者が計算済属性 XYZ に対して、アクセス権を「参照者: 表示しない」に設定すると、XYZ 属性は、参照者の役割しかないユーザーには表示されません。

どのユーザー役割でも、計算済属性を列としてビューおよびポートレットに追加できます。「フィルタ・パネル」にフィルタ可能な属性として追加することもできます。

計算属性を定義するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「属性」タブをクリックします。
3. 「新規」をクリックし、「プロパティ」タブで属性の「名前」を入力し、属性の「タイプ」を選択します。
4. 「計算」オプションを選択します。
5. 「計算」タブで、「計算タイプ」を選択します。

次の計算タイプから選択できます。使用可能なタイプは、属性の「タイプ」(「テキスト」、「整数」など)によって決まります。

- **値をリストに割当:** カスタム値をリスト・タイプの属性に割り当てます
- **リストを値に割当:** カスタム・リストの値を異なる属性の値に割り当てます。リスト・タイプ属性にのみ使用できます。
- **条件:** 条件付き計算(If – Then – Else)
- **スクリプト:** 自由形式のスクリプト計算。タイプが、整数、複数行のテキスト、数値またはテキストの属性にのみ使用できます。

次の表は、属性タイプごとに使用可能な計算タイプを示しています。

属性タイプ	値をリストに割当て	条件	スクリプト	リストを値に割当て
日付				
日時				
整数	X	X	X	
リスト		X		X
複数行のテキスト	X	X	X	
数値	X	X	X	
テキスト	X	X	X	
True/False		X		
ユーザー				
はい/いいえ		X		

### 計算式の定義

**スクリプト** 計算タイプを使用すると、自由形式の計算式を入力できます。「属性の追加」および「関数の追加」を使用できます:

- **属性の追加:** 属性を選択すると、「計算式の定義」ボックスのカーソルの位置に属性が挿入されます。カーソルが単語または属性上にある場合は、定義内でその単語/属性が置き換えられます。スクリプトの形式によって、新しい属性の名前がカッコ {} で囲まれます。

使用可能な属性は、スケジュール属性のみです。

- **関数の追加:** 関数を選択すると、「計算式の定義」に関数が追加されます。関数は各パラメータのプレースホルダとともに追加されます。

例: DATE\_DIFF 関数を計算式の定義に挿入します。

```
DATE_DIFF(<Date1>, <Date2>, <Type>)
```

次に、プレースホルダを属性に置き換えます。

DATE\_DIFF( {Start Date}, {End Date}, 'DAYS')

### 数値と日付の関数

- **絶対値:** 指定された数の絶対値を返します。数値が 0 未満の場合は、その数字の正の値が返されます。指定した数値が 0 以上の場合は、指定した数値が返されます。

ABS(<Number>)

- **月の追加:** 開始日からの指定した月数の日付オフセットを返します。日付は常に指定した月オフセットに該当します。開始日に、オフセット月を越える日の値がある場合は、オフセット月の最後の日を使用されます。たとえば、EDate (31-Jan-2017, 1)は(28-Feb-2017)を返します。月の場合は、開始日の前または後の月数を入力します。月に対する正の値は将来の日付を生成します。負の値は過去の日付を生成します。

ADD\_MONTH(<Start Date>, <Months>, <Length>)

例: ADD\_MONTH (DATE (2017, 2, 15) 3)

- **日付:** 年、月および日に対して指定された整数値に基づく日付値を返します。

DATE (<Year>, <Month>, <Day>)

- **日付差異:** 2 つの日付の差を年、月、日、時間、分または秒で返します。たとえば DATE 1 と DATE 2 には、それぞれ現在の日付(時間コンポーネントなし)と日時を表す TODAY および NOW の値を使用できます。

DATE\_DIFF (<Date1>, <Date2>, <Type>)

例: DATE\_DIFF ( {Start Date}, 'TODAY', 'DAYS')

- **日:** 日付の日の値を整数として返します

DAY (<DATE>)

- **テキストの抽出:** 値内の指定した位置からの部分文字列を返します。

SUBSTRING (<Value>, <Location>, <Length>)

例: SUBSTRING ( {Name}, 4, 10)

- **If Then Else:** 条件付きの計算をスクリプト計算に挿入できるようになります。IF\_THEN\_ELSE 計算式は、ネストして ELSE IF タイプの計算式に対応することもできます。

IF\_THEN\_ELSE (<Condition>, <Value1>, <Value2>)

例: IF\_THEN\_ELSE ( ( {Priority} = 'Low'), 1, IF\_THEN\_ELSE ( ( {Priority} = 'Medium'), 2, IF\_THEN\_ELSE ( ( {Priority} = 'High'), 3, 0))

例: IF\_THEN\_ELSE ( ( {Priority} = 'Low'), 'Good' IF\_THEN\_ELSE ( ( {Priority} = 'Medium'), 'Better'. 'Best') )

- **Instring:** 値内の部分文字列の索引を返します。

INSTRING (<Value1>, <Value to Search>)

例: INSTRING ({Name}, 'a')

- **Length:** パラメータとしてテキスト値を使用し、テキストの文字数である整数を返します。値が空/null の場合は 0 を返します。

Length ({<attribute>})

例: LENGTH("Value")は 5 を返し、LENGTH({Name})はオブジェクトの名前の文字数を返します。

**SUBSTRING** を使用した計算を使用して、テキスト値の最後の 4 文字を抽出します。

SUBSTRING( {MyString}, LENGTH ( {MyString}) - 4

- **小文字:** 値を小文字で返します

LOWERCASE(<Value>)

例: LOWERCASE ( {Task Code} )

- **最大:** 属性リストの最大値を返します。任意の数のパラメータを含めることができます。

MAX <Value1>, <Value2>, <ValueN>)

例: MAX( {Scripted Substring Loc a}, {Scripted Substring Loc s}, {Scripted Substring Loc t} )

- **最小:** 属性リストの最小値を返します。任意の数のパラメータを含めることができます。

MIN (<Value1>, <Value2>, <ValueN>)

例: MIN( {Scripted Substring Loc a}, {Scripted Substring Loc s}, {Scripted Substring Loc t} )

- **月:** 日付の月の値を整数(1 から 12)として返します

MONTH (<DATE>)

- **指数:** 一方の数字を他方の数字の回数掛け合せます。

POWER(x, y) where x=BASE NUMBER, and y=EXPONENT の場合、x と y は数値であるかぎり属性または計算にすることができます。

例: POWER(3, 4)=81

#### ノート:

分数値では、べき根になります。たとえば、POWER(27, 1/3) = 3 で、立方根です。

負の値では、指数計算の逆数になります。たとえば、POWER(2, -2) = 1 / (2^2) = 1 / 4 = .25 です。

- **丸め処理:** 指定された小数点以下の桁数で丸めた値を返します

ROUND <Attribute>, <Decimal Places>

例: ROUND( ({Scripted Substring Loc t} / 7), '4')

- **テキストの場所:** 値内の部分文字列の索引(1 が最初の位置)を返します。

INSTRING(<Value>, <Value To Search>)

例: INSTRING( UPPERCASE( {Name} ), 'TAX' )

- **大文字:** 値を大文字で返します。



UPPERCASE (<Value>)

例: UPPERCASE ( {Name} )

- **年:** 日付の年の値を整数として返します。

YEAR (<DATE>)

### 計算の検証

計算の保存時に、次の検証チェックが実行されます。

- 計算式の構文が正しい。
- 計算式で指定された属性と関数が存在する
- 関数へのパラメータが正しい
- 循環ループがない

## リスト属性のインポート


リスト・タイプのタスク・マネージャ属性をインポートするには:

1. 値ごとに異なる行を使用して、リスト属性のインポート・ファイルを TXT ファイル形式で作成します。

例:

```
Blue  
Yellow  
Red  
Green
```

インポート・オプションは常に「すべて置換」です。

2. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
3. 左側の「属性」タブをクリックします。
4. 「リスト」タイプの属性を選択し、「編集」をクリックします。
5. 「インポート」  をクリックします。
6. 「ファイル」で、「ファイルの選択」をクリックし、TXT インポート・ファイルを探して、「ファイル区切り文字」を選択します。
7. 「インポート」をクリックします。「リストの値のインポート」に、合計リスト値、「完了」、「エラー」、作成済リスト値および更新済リスト値の値が表示されます。

「正常に完了」の場合は、「OK」をクリックします。

「エラーで完了」の場合は、エラーが表示されます。エラー・リストをエクスポートするには、「Excel にエクスポート」をクリックします。

## 属性の編集

カスタム・タスク・マネージャ属性の名前を編集できます。属性タイプが「リスト」の場合は、リスト値を追加、名前変更または削除することもできます。

タスク・マネージャ属性を編集するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「属性」タブをクリックします。
3. 属性を選択し、「編集」をクリックします。
4. 属性名を編集します。

 ノート:

属性が「リスト」タイプの場合は、リスト値を追加、名前変更または削除できます。カスタム属性が保存された後、そのタイプは変更できません。

5. 「OK」をクリックします。

関連のテンプレート、スケジュール、タスク・タイプまたはタスクは、すべて更新されます。

## 属性の複製

属性は複製できます。

属性を複製するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「属性」タブをクリックします。
3. 複製を選択して「複製」をクリックします。
4. 「閉じる」をクリックします。

## 属性の削除

不要になった属性は削除できます。属性を削除すると、属性に対するすべての参照が削除されます。

属性を削除するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「属性」タブをクリックします。
3. 削除する属性を選択し、「削除」をクリックします。
4. 確認のプロンプトで「はい」をクリックします

## 属性の表示

「属性」で、属性のリストに表示する列を指定するか、すべての列を表示できます。列の順序変更、昇順または降順での列のソート、および列幅の変更を行うこともできます。

列を表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「属性」タブをクリックします。
3. 次の 1 つ以上のタスクを行います。
  - すべての列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、「すべて表示」を選択します。
  - 特定の列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、列名を選択または選択解除します。
  - 列を並べ替えるには、「表示」、「列の順序変更」の順に選択し、列を選択して上矢印または下矢印を使用するか、それらをドラッグして順序を変更します。
  - 列をソートするには、「ソート」アイコンが表示されるまで列ヘッダーにマウス・カーソルを合せ、「昇順ソート」または「降順ソート」をクリックします。
  - 列の幅を変更するには、矢印が表示されるまで列ヘッダーの区切りにマウス・カーソルを合せ、適切な幅になるまで列をドラッグします。

## 属性の検索


「属性」リストの検索機能を使用して、タスク・マネージャ・タスクの属性を検索できます。検索する名前の全部または一部を入力できます。フィルタ・バーを使用して、リストに表示する属性を制御できます。デフォルトでは、すべての属性が表示されます。

タスク・マネージャ属性を検索するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「属性」タブをクリックします。
3. 属性を検索するには、「検索」テキスト・ボックスに検索条件を入力します。
4. **オプション:** フィルタ・バーでカテゴリをクリックすると、追加の検索演算子(「次と等しい」、「次と等しくない」、「次を含む」、「次を含まない」、「次で始まる」、「次で終わる」)が表示されます。

次のカテゴリを使用して、属性をフィルタできます: **名前、タイプ、計算、作成者、作成日、最終更新者**または**最終更新日**。

 ノート:

- 「フィルタの追加」をクリックして、すべてのカテゴリを表示します。
- フィルタ・バーを非表示にするには、「フィルタ」アイコンをクリックします。
- すべてのフィルタをクリアするには、 アイコンで「すべてのフィルタのクリア」をクリックします。

## タスク・マネージャのチームの管理

チームは、所有者、担当者、承認者および参照者の役割を使用して、定義およびプロビジョニングされます。次に、タスクのこれらの役割を名前付きユーザーに割り当てるかわりに、チームに割り当てます。管理者およびパワー・ユーザーは、チームを追加、編集、および削除できます。

### ノート:

個々のユーザーは、直接的または間接的に、最大 1,000 チームに割り当てることができます。


### 関連トピック:

- [タスク・マネージャのチームおよびメンバーの追加](#)
- [タスク・マネージャのチームおよびメンバーの編集](#)
- [チームおよびメンバーの検索とフィルタ](#)
- [チームおよびメンバーの削除](#)
- [バックアップ割当ての管理](#)
- [タスク・マネージャでの再割当ての要求](#)

## タスク・マネージャのチームおよびメンバーの追加

チームおよびメンバーを追加するには:

1. ホーム・ページで、「**ツール**」をクリックします。
2. 「**アクセス制御**」をクリックします。
3. 「**チーム**」タブをクリックします。
4. 「**新規**」をクリックします。
5. 「**チームの定義**」画面で、チームごとに次の内容を入力します。
  - **名前**
  - **説明**
  - 「**タスク・マネージャ**」タブを選択し、チームの役割を次の中から 1 つ以上選択します。
    - **管理者**
    - **パワー・ユーザー**
    - **ユーザー**
    - **参照者**

- メンバーを追加するには:
  - a. 「メンバー」の下で、 「追加」をクリックします。
  - b. 「名」、「姓」の一部またはすべてを入力するか、「検索」をクリックして、名前を選択します。
  - c. 「検索結果」セクションで、「追加」または「すべて追加」をクリックして、選択した項目を「選択済」リストに追加します。
  - d. 「OK」をクリックします。
- 6. 「チーム」ダイアログ・ボックスで、タスクがそのユーザーでは「請求済」ステータスがデフォルトになる「プライマリ・ユーザー」を選択します。

 **ノート:**


他のチーム・メンバーは次にタスクを請求できます。

7. 「OK」をクリックします。

## タスク・マネージャのチームおよびメンバーの編集

タスク・マネージャのチームとメンバーを編集し、さらに現在のチームの割当てを表示および変更できます。「タスク・マネージャ・ユーザー」リストには、ユーザーが属している組織、ユーザーの役割が表示され、アクセスのセキュリティを変更する方法が示されます。

タスク・マネージャのチームまたはメンバーを編集するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」をクリックし、「アクセス制御」をクリックします。
2. 「チーム」タブをクリックします。
3. チームを選択し、「編集」 をクリックします。
4. チームおよびメンバーを編集し、「OK」をクリックします。
5. 「OK」をクリックします。
6. **オプション:** ユーザーがどのチームのメンバーになっているかを確認するには、「タスク・マネージャ・ユーザー」タブをクリックします。  
「タスク・マネージャ・ユーザー」リストには、「名前」、「ユーザー・ログイン」(ユーザー ID)、「ステータス」(「作業可能」または「作業不可」)およびユーザーが属する「チーム」のリストが表示されます。
7. 「編集」をクリックして、ユーザーまたはチームの情報を編集します。

## チームおよびメンバーの検索とフィルタ


検索フィールドおよびフィルタ・オプションを使用して、チームおよびメンバーのリストに表示するレコードを制御できます。

チームまたはメンバーを検索するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」をクリックし、「アクセス制御」をクリックします。
2. 「チームの管理」タブをクリックします。
3. チームを検索するには、「検索」テキスト・ボックスに検索条件を入力します。
4. **オプション:** フィルタ・バーから、カテゴリをクリックして、追加の検索演算子を表示します(例: **次と等しい**、**次と等しくない**、**次を含む**、**次を含まない**、**次で始まる**および**次で終わる**)。

次のカテゴリを使用して、チームをフィルタできます: **名前**、**説明**、**作成者**、**作成日**、**最終更新者**または**最終更新日**。

#### ノート:

- フィルタ・バーを非表示にするには、「フィルタ」アイコンをクリックします
- すべてのフィルタをクリアするには、 アイコンで「**すべてのフィルタのクリア**」をクリックします。

## チームおよびメンバーの削除

テンプレートまたはスケジュールで使用されているチームを削除する際は、次のガイドラインが適用されます。

- チームがテンプレート内のタスクに割り当てられている場合、チームを削除することはできません。チームを削除するには、まず割り当てられているすべてのタスクから削除します。
- チームがスケジュール・タスクで使用されている場合、削除が可能です。チームがスケジュール・タスクから見えていても、そのチームを新規タスクで使用することはできません。

チームまたはメンバーを削除するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」をクリックし、「アクセス制御」をクリックします。
2. 「チーム」タブをクリックします。
3. チームを削除するには、チームを選択して「削除」をクリックし、確認のプロンプトが表示されたら「はい」をクリックします。
4. メンバーを削除するには、チーム名をダブルクリックし、「チームの編集」ダイアログ・ボックスで、メンバーを選択してから「削除」をクリックします。
5. 「OK」をクリックします。
6. 「チームの管理」で、「閉じる」をクリックします。

## タスク・マネージャ・ユーザーの管理

「アクセス制御」の「タスク・マネージャ・ユーザー」を使用して、システム上のユーザーに関する情報にアクセスできます。次のフィールドは、ユーザー・リストで列またはフィルタとして使用できます。

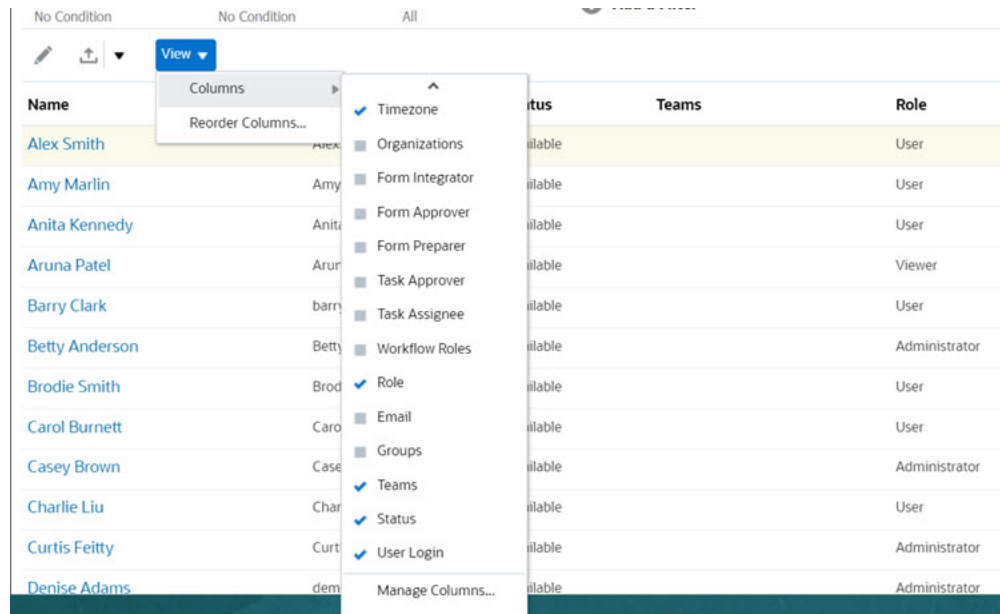
表示する列とともに、リストをフィルタして csv または Excel 形式にエクスポートする列を決定できます。

ユーザーに関する詳細情報を確認する場合は、ユーザー名をダブルクリックすると「**ユーザーの詳細**」ダイアログが表示されます。

- **名前** - ユーザーのフル・ネーム。列およびフィルタはデフォルトで選択されています。
- **最終ログイン** - ユーザーの最終ログインの日時。
- **タイムゾーン** - 各ユーザーのユーザー・プリファレンスに設定されているタイムゾーン
- **組織** - ユーザーが割り当てられた組織のリスト。
- **フォーム統合者** - (はいいいえ)いずれかの補足データ・フォームでユーザーが統合者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用した間接割当が含まれます。
- **フォーム承認者** - (はいいいえ)いずれかの補足データ・フォームでユーザーが承認者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用した間接割当が含まれます。
- **フォーム策定者** - (はいいいえ)いずれかの補足データ・フォームでユーザーが策定者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用した間接割当が含まれます。
- **タスク承認者** - (はいいいえ)いずれかのタスク・マネージャ・タスクでユーザーが承認者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用したバックアップ割当および間接割当が含まれます。
- **タスク担当者** - (はいいいえ)いずれかのタスク・マネージャ・タスクでユーザーが担当者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用したバックアップ割当および間接割当が含まれます。
- **ワークフローの役割** - タスクまたはフォームでユーザーが割り当てられている役割(タスク担当者、フォーム承認者 1、タスク参照者など)。
- **役割** - ユーザーに割り当てられた最上位の外部役割。
- **電子メール** - ユーザーの電子メール・アドレス。
- **グループ** - ユーザーが属しているグループのリスト。
- **チーム** - ユーザーが属するチームのリスト。列はデフォルトで選択されています。
- **ステータス** - ユーザーのステータス(「作業可能」または「作業不可」)。列およびフィルタはデフォルトで選択されています。
- **ユーザー・ログイン** - ユーザー ID。列およびフィルタはデフォルトで選択されています。

例





ユーザーの「設定のクリア」をクリックすると、次の内容がこのユーザーに設定されているデフォルト値に戻ります:

- ダッシュボードおよびほとんどの管理ダイアログ(例: 「属性の管理」)で選択された列
- ダッシュボードでのソート
- ダッシュボードで適用されたフィルタ
- ダッシュボードの様々なスイッチとコントロールの状態
- インポート・ダイアログのデフォルトの日付フォーマット

## バックアップ割当ての管理

担当者および承認者の役割のバックアップは、プライマリ・ユーザーがチームまたはグループではなく、名前付きユーザーの場合に割り当てられます。

- **担当者:** 基本タスク用(自動タスクを除く)
- **承認者:** 基本タスクおよび自動タスク用

### ノート:

管理者は、テンプレート、スケジュールおよびタスクに対する所有者の割当てをバックアップできません。

タスクのバックアップを割り当てるには:

1. バックアップを割り当てるタスクを開きます。
2. 「ワークフロー」タブを選択し、**担当者**と**バックアップ**両方のユーザーを選択します。
3. 「保存して閉じる」をクリックします。


## タスク・マネージャでの再割当ての要求

再割当て要求は、プライマリ・ワークフローの役割に明示的に割り当てられているユーザー(名前付きユーザーとして)によってのみ開始できます。バックアップの役割に対し、またはプライマリの役割を割り当てられたチーム/グループのメンバーでは送信できません。

担当者および承認者は、タスクの再割当ての要求を送信することで、1 つ以上のタスクに対する担当者または承認者の割当てに異議を唱えることができます。

ワークフロー・ユーザー(担当者および承認者)は、「タスク・アクション」ダイアログ・ボックスから、選択したタスク、または選択したタスクおよび将来のタスクに対するワークフローの役割の再割当てを要求できます。これらの要求には承認が必要です。管理者およびスケジュール/テンプレートの所有者は、承認を必要とすることなく、「タスクの編集」ダイアログ・ボックスを使用して、タスクを再割当てできます。

タスクの再割当てを要求するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックします。
2. 左側の「**スケジュール・タスク**」タブを選択します。
3. 「**アクション**」で、「**再割当ての要求**」を選択します。
4. 再割当てするユーザーがわかっている場合は、 「**対象ユーザー**」を有効にして、名前を入力するか検索します。

### ノート:

新しいユーザーがわからない場合は、ユーザーの名前を指定せずに要求を送信します。

5. 次のオークションを指定して、タスクを再割当てします。
  - 「**選択したタスク**」では、スケジュール・タスクのみが再割当てされます
  - 「**選択したタスクおよび将来のタスク**」では、スケジュール・タスクおよびソース・テンプレート内の対応するタスクに対してタスクが再割当てされます
6. 再割当てについて「**理由**」を入力します。
7. 「**OK**」をクリックします。

## タスク・タイプの管理

次も参照:

- [タスク・タイプ](#)
- [タスク・タイプの作成](#)
- [タスク・タイプ履歴の表示](#)
- [タスク・タイプの編集](#)
- [タスク・タイプの表示](#)
- [タスク・タイプの検索](#)
- [タスク・タイプのインポート](#)
- [タスク・タイプのエクスポート](#)
- [タスク・タイプの削除](#)

## タスク・タイプ

タスク・タイプは、一般的に実行されるタスクの保存済定義です。これにより、ビジネス・プロセス中に一般的に実行されるデータ入力や総勘定元帳抽出などのタスクを識別し、分類します。タスク・タイプにより、ユーザーが入力する必要のある設定や、そのタイプのすべてのタスクで共有される質問や指示などのデフォルト情報を設定できます。たとえば、データ・ロードを担当するユーザーが答える必須の質問セットがある場合、必須の質問が含まれるデータ・ロード・タスク・タイプを作成できます。データ・ロード・タスクを作成するとき、そのデータ・ロード・タスク・タイプを選択でき、質問がタスクに自動的に組み込まれます。

2つの事前定義済タスク・タイプがデフォルトでインストールされます:

- **基本タスク:** 指示、質問または属性を含まない基本的なタスク・タイプです。
- **親タスク:** タスク階層を定義するための親タスクを作成できます。

タスク・タイプを作成および管理するには、サービス管理者またはパワー・ユーザーのセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。パワー・ユーザーは、自身のタスク・タイプを作成できますが、他のユーザーのタスク・タイプは表示するのみです。

## タスク・タイプの作成

タスク・タイプによって、ユーザー入力が必要な設定や、そのタイプのすべてのタスクによって共有される質問や指示など、タスクのデフォルト情報を設定できます。

タスク・タイプを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**タスク・タイプ**」タブをクリックします。

3. 「**新規**」をクリックします。
4. 関連項目:
  - [タスク・タイプのプロパティの設定](#)
  - [タスク・タイプ・パラメータの設定](#)
  - [タスク・タイプの指示の指定](#)
  - [タスク・タイプの質問の指定](#)
  - [タスク・タイプ・ルールの操作](#)
  - [タスク・タイプ履歴の表示](#)

## タスク・タイプのプロパティの設定

「プロパティ」タブにより、名前、ID および説明を設定し、統合タイプを関連付けることができます。

エンド・ユーザー・タイプについては、タスク先行条件がすべて満たされた場合、担当者が予定時間の前に保留中のタスクを開けるようにすることができます。

タスク・タイプのプロパティを設定するには:

1. 新しいタスク・タイプを作成します。  
デフォルトで「**プロパティ**」タブが表示されます。
2. 「**タスク・タイプ名**」に入力します。入力できる最大文字数は 80 文字です。
3. タスク・タイプの識別に使用できる**タスク・タイプ ID**を入力します。入力できる最大文字数は 80 文字です。
4. タスク・タイプの**説明**を入力します。最大 255 文字まで入力できます。
5. 統合を指定するには、虫眼鏡をクリックして統合を検索および選択し、「**OK**」をクリックします。統合を選択することにより、タスク・タイプにその統合からパラメータが継承されるようになります。
6. **オプション**: エンド・ユーザー・タイプの場合、「**先行開始を許可する**」を選択し、担当者が予定開始時刻の前にタスクを開けるようにします。
7. 関連項目:
  - [タスク・タイプ・パラメータの設定](#)
  - [タスク・タイプの指示の指定](#)
  - [タスク・タイプの質問の指定](#)
  - [タスク・タイプ・ルールの操作](#)
  - [タスク・タイプ履歴の表示](#)

## タスク・タイプ・パラメータの設定

「パラメータ」タブでは、タスク・タイプのパラメータを設定できます。

 ノート:

「パラメータ」タブは、定義する必要のあるパラメータを持つ統合を選択した場合にのみ使用できます。パラメータ値は、タスク・タイプ・レベルまたはタスク・レベルで設定できます。

一部のタスクには、スケジュールに適用されるたびに変更する必要のあるパラメータが含まれます。たとえば、データ入力タスクの日付駆動パラメータは、スケジュールに追加されるたびに現在の月に設定する必要があります。タスク・タイプ・パラメータを設定する際に、どのパラメータをスケジュール・プロセス中に上書きできるかを指定できます。

タスク・タイプのパラメータを設定するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 「**タスク・タイプ**」タブをクリックし、「**新規**」をクリックします。
3. 「**タスク・タイプ名**」および「**タスク・タイプ ID**」を入力します。
4. 「**パラメータ**」タブを選択します。
5. 必要に応じて、パラメータ値を入力します。
6. **オプション:** スケジュール時にパラメータをオーバーライドできるようにするには、「**スケジュール設定時にオーバーライド**」を選択します。
7. 関連項目:
  - [タスク・タイプのプロパティの設定](#)
  - [タスク・タイプの指示の指定](#)
  - [タスク・タイプの質問の指定](#)
  - [タスク・タイプ・ルールの操作](#)
  - [タスク・タイプ履歴の表示](#)

## タスク・タイプの指示の指定

タスクを完了するための一連の指示を作成できます。ドキュメント、ファイル、または Web サイトの URL に参照を追加することもできます。たとえば、ポリシー・ドキュメントを参照として添付したり、製品指示ガイドへのリンクを添付したりできます。

指示を指定するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 「**タスク・タイプ**」タブをクリックし、「**新規**」をクリックします。
3. 「**タスク・タイプ名**」および「**タスク・タイプ ID**」を入力します。
4. 「**指示**」タブを選択します。
5. 「**指示**」に、指示のテキストを入力します。

参照を追加するには:

1. 「**参照**」セクションで、「**追加**」をクリックします。

2. 「タイプ」リストから、次のいずれかのタイプを選択します。
  - ローカル・ファイル: 「ファイルの選択」をクリックし、ファイルを選択して添付し、「名前」を入力して、「OK」をクリックします。
  - URL: 「URL」と URL の「名前」を入力し(例: <http://www.oracle.com>、Oracle)、「OK」をクリックします。

 ノート:

「添付の追加」ダイアログ・ボックスに用意されているドラッグ・アンド・ドロップ機能を使用して、1 つ以上の添付を追加できます。必要に応じて、「名前」フィールドで添付の名前を変更できます。複数の添付をドラッグ・アンド・ドロップする場合、これらを一度にアップロードできます。

添付を正確にドラッグ・アンド・ドロップするには、「添付の追加」ダイアログ・ボックスにアクセスする必要があります。

 ヒント:

参照を削除するには、その参照を選択して、「削除」をクリックします

3. 関連項目:
  - [タスク・タイプのプロパティの設定](#)
  - [タスク・タイプ・パラメータの設定](#)
  - [タスク・タイプの質問の指定](#)
  - [タスク・タイプ・ルールの操作](#)
  - [タスク・タイプ履歴の表示](#)

## タスク・タイプの質問の指定

タスク・タイプの質問を指定できます。タスク・タイプの質問は、そのタスク・タイプのすべてのタスクに適用されます。

 ノート:

「質問」タブは、自動統合を使用するタスク・タイプには使用できません。

質問を指定するには:

1. 新しいタスク・タイプを作成します。
2. 「質問」タブを選択します。
3. 「新規」をクリックします。
4. 「新規質問」ダイアログ・ボックスで、「質問」に質問のテキストを入力します。

5. 「**タイプ**」リストから、次の質問タイプを選択します。

- **日付**
- **日付/時間**
- **整数**
- **リスト**: 質問に対する有効な回答のリストを入力します。
- **複数行のテキスト**: 最大長は 4,000 文字未満にしてください。

「**行数**」に、3 から 50 行までの値を入力します。「複数行のテキスト」では、「アクション」ダイアログ・ボックスで、スクロールせずに表示できるテキストの行数を決定します。

添付用のセクションを作成するためのカスタム属性が必要な場合は、「**添付**」を選択します。

- **数値**: フォーマット・オプションを選択して、「**システム設定**」の「**プリファレンス**」セクションで設定されているデフォルトをオーバーライドします:
  - 「**小数点以下の桁数**」には、表示する小数点以下の桁数を入力します。
  - 「**パーセンテージとして表示**」を選択して、パーセント記号を表示します。
  - 3 桁ごとの区切り文字(たとえば、1,000.00)を表示するには、「**3 桁ごとの区切り文字**」を選択します。ユーザーのロケール用の 3 桁ごとの区切り文字が表示されます。
  - 「**通貨記号**」では、通貨を選択します(例: \$ (米国ドル))。
  - 「**負数**」では、(123)など、負数の表示方法を選択します。
  - 数値をスケールリングするには、「**スケール**」で、1000 から 10000000000000 までの値を選択します
- **True/False**
- **テキスト**: 最大長は 255 文字です。
- **ユーザー**
- **はいいいえ**

6. **役割**を割り当てます。役割は、質問に回答できる役割を決めるために割り当てます:

- **担当者**
- **承認者**
- **所有者**
- **参照者**

質問の順序は、役割の中でのみ変更できます。

7. 質問が必須の場合は、「**必須**」を選択します。

「**必須**」チェック・ボックスは、所有者や参照者の役割に割り当てられた質問では無効になっています。

8. 「**OK**」をクリックして質問を保存します。

9. **オプション**: 質問の順序を変更するには、質問を選択し、「**一番上へ移動**」、「**上へ移動**」、「**下へ移動**」または「**一番下へ移動**」をクリックします。

10. **オプション:** 質問を編集するには、質問を選択し、「**編集**」をクリックします。質問を削除するには、質問を選択し、「**削除**」をクリックします。
11. 「**保存して閉じる**」をクリックしてタスク・タイプを保存します。
12. 関連項目:
  - [タスク・タイプのプロパティの設定](#)
  - [タスク・タイプ・パラメータの設定](#)
  - [タスク・タイプの指示の指定](#)
  - [タスク・タイプ・ルールの操作](#)
  - [タスク・タイプ履歴の表示](#)

## タスク・タイプ属性の割当て

システムでタスク・タイプを見つけるために、属性をタスク・タイプに適用できます。属性を選択する際に、属性タイプに基づいて属性の値を設定できます。後で属性値によってフィルタ処理できます。

たとえば、「北部」、「南部」、「東部」および「西部」という値を持つ「販売地域」という名前の「リスト」属性を持つことができます。現在のタスク・タイプは西部販売地域にのみ適用されるため、「販売地域」属性を追加し、この属性を「西部」に設定できます。

属性を適用するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**タスク・タイプ**」タブをクリックし、「**新規**」をクリックします。
3. 「**タスク・タイプ名**」および「**タスク・タイプ ID**」を入力します。
4. 「**属性**」タブを選択します。

管理者は、属性を割り当てて、その属性に値を指定できます。

属性を追加するには、「**追加**」をクリックします。次を入力します:

- **属性:** 定義された属性のリストから属性を選択します。
- **タイプ:** このフィールドは編集不可であり、属性によってデータが移入されます。
- **値:** 属性のタイプに関連付けられた値を選択します。たとえば、フォーマット済数値属性の場合は数値、「リスト」属性の場合はリスト、「複数行のテキスト」の場合はスクロールせずに表示できる複数行のテキスト、「ユーザー」の場合は個人名、「はいいいえ」属性の場合は「はい」または「いいえ」です。
- **アクセス:** 「アクセス」ボックスに指定されていないかぎり、すべての役割に表示アクセス権があります。

役割のそれぞれについてアクセスを追加するには:

- a. 「**追加**」をクリックします。
- b. 次の中から役割を選択します: 「**所有者**」、「**担当者**」、「**承認者**」(アプリケーションで現在使用されている承認者のレベルごとに異なる役割を指定)、または「**参照者**」。



- c. 役割アクセス・タイプのいずれかを選択します。
  - **表示しない:** この属性は「タスク・アクション」ダイアログ・ボックス、あるいはダッシュボード、リスト・ビューまたはレポートのいずれにも表示されません。
  - **編集を許可:** 属性の値を追加、変更および削除する権限がありますが、編集ルールの対象です。
  - **必須:** 属性に値が必要です。「必須」オプションは担当者および承認者が使用できません。値が指定されるまで、担当者は送信できず、承認者は承認できません。
- d. 「OK」をクリックします。

5. 「OK」をクリックします。

6. 関連項目:

- [タスク・タイプのプロパティの設定](#)
- [タスク・タイプ・パラメータの設定](#)
- [タスク・タイプの指示の指定](#)
- [タスク・タイプの質問の指定](#)
- [タスク・タイプ・ルールの操作](#)
- [タスク・タイプ履歴の表示](#)

## タスク・タイプ・ルールの操作

タスク・タイプ・ルールは同じタスク・タイプのすべてのタスクに適用されるため、タスクのグループにルールを適用するための便利なメカニズムとして機能します。「タスク・タイプ」ダイアログで構成されたルールは、「タスクの編集」ダイアログに伝播され、そのダイアログの「ルール」タブに表示され(テンプレート・タスクの場合は読取り専用形式)、スケジュール・タスクにコピーされます。

使用可能なタスク・タイプ・ルール:

- **タスクの自動承認:** 指定された条件を満たしている場合にのみ、指定された承認を自動的に完了します。  
このルールに適用される条件の例: 属性に指定の値がある場合(計算済属性を含む)  
条件を満たすと、指定の承認者レベルが完了としてマークされ、これによりワークフローが次の承認レベルに進むか、他に承認レベルがない場合は「クローズ済」になります。  
タスクの自動承認は、タスク・ステータスが「オープン(承認者)」に変更されたときに実行されます。
- **タスクの自動送信:** 指定された条件を満たしている場合、タスクが自動的に送信されます。  
条件を満たすと、担当者役割が完了としてマークされ、これによりワークフローが最初の承認レベルに進むか、承認レベルがない場合は「クローズ済」になります。  
タスクの自動送信ルールは、タスク・ステータスが「保留中」からオープン(担当者)に変更されたときに実行されます。
- **タスク承認の防止:** このルールでは、属性値または他の特性に基づいて、タスクが承認されないようにします。このルールは、承認者が「承認」をクリックすると実行されます。

- **タスク送信の防止:** このルールでは、属性値または他の特性に基づいて、タスクが送信されないようにします。このルールは、担当者が「送信」をクリックすると実行されます。
- **更新時に電子メールを送信:** このルールは、タスクに対するユーザー・アクションに基づいて実行されます。したがって、ルールの条件を適切に設定する必要があります。最も一般的な条件は、「ステータス」属性または「ステータス(詳細)」属性を含む条件です:
  - 「ステータス」属性: 選択できる有効な値は、「クローズ済」のみです。「保留中」、「オープン」および「エラー」はすべて、タスクに対する自動アクションによって生じるステータスです。
  - 「ステータス(詳細)」属性: 有効なステータスは、承認者を含むものです。

タスク・タイプ・ルールを操作するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「タスク・タイプ」タブをクリックします。
3. タスク・タイプをクリックし、「編集」をクリックします。
4. 「ルール」タブを選択します。次の情報を表示できます:
  - **順序:** 優先順位
  - **ルール:** ルールの名前
  - **条件:** ルールを実行する前に存在している必要がある条件の選択
5. ルールを編集するには、「ルール」タブで「編集」をクリックして更新します。
  - **ルール:** ルールを選択します。
  - **説明: オプション。** ルールを構成した理由と使用方法を説明します。
  - **メッセージ(次に示す一部のルールに使用):**
    - **承認者へのメッセージ:** 「タスク承認の防止」ルールで、承認者へのオプションのメッセージを定義します。
    - **担当者へのメッセージ:** 「タスク送信の防止」ルールで、担当者へのオプションのメッセージを定義します。
  - **承認者レベル:** 特定のルールについて、「すべてのレベル」のルールを選択するか、承認者レベルを選択します。

 **ノート:**

「タスクの自動承認」ルールと「タスク承認の防止」ルールには、「承認者レベル」を設定する必要があります。

- 「フィルタの作成」を選択して条件セクションに移入するか、「保存済フィルタの使用」を選択してからフィルタを選択します。ルールに対して選択および構成されたフィルタが、適用するルールをトリガーする条件を決定します。
- 「条件」では、次のいずれかを選択します:

- **保存済フィルタの使用:** 「条件」 セクションに、保存済フィルタに関連付けられた条件の読取り専用バージョンが表示されます。
- **フィルタの作成:** 「条件」 セクションが有効になります。  
「組合せ」、「ソース」、「属性」、「演算子」 および 「値」 は、既存の詳細フィルタ機能の場合と同様に動作します。
- 「**タスクのフィルタ**」では、条件を選択する必要があるタスクを指定します:
  - **現在のタスク**
  - **任意の先行**
  - **特定のタスク:** 「タスク ID」 を指定します。

 **ノート:**

ルール定義に変更を加えると、追加情報が監査ログに追加されます。変更は、「履歴」タブおよび「監査レポート」の両方に表示できます。

6. 関連項目:
- [タスク・タイプのプロパティの設定](#)
  - [タスク・タイプ・パラメータの設定](#)
  - [タスク・タイプの指示の指定](#)
  - [タスク・タイプの質問の指定](#)
  - [タスク・タイプ履歴の表示](#)

## タスク・タイプ履歴の表示

システムでは、「タスク・タイプの表示」ダイアログ・ボックスから表示できるタスク・タイプ・アクションの履歴がメンテナンスされます。「履歴」タブには、更新されたコンポーネント、変更のタイプ、古い値と新規の値、変更を行ったユーザー、および変更日が表示されます。「履歴」タブの情報は読取り専用であり、変更はできません。

タスク・タイプ履歴を表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「タスク・タイプ」タブをクリックします。
3. タスク・タイプを選択し、「編集」をクリックします。
4. 「履歴」タブを選択します。
5. 終了したら、「保存して閉じる」または「取消し」をクリックします

## タスク・タイプの編集

「タスク・タイプ」ダイアログ・ボックスで、タスク・タイプを編集できます。たとえば、属性の追加または削除、パラメータの編集、質問の追加または削除、指示の編集、質問の順序の変更を行うことができます。

タスク・タイプの編集は、タスク・タイプから作成されたタスクに影響することがあります。テンプレート内のタスクの場合、影響は即時です。タスク・タイプ(指示、質問など)に対する変更は、そのタイプのタスクで自動的に更新されます。スケジュール内のタスク・タイプを編集した場合、影響はありません。

タスク・タイプを編集するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「タスク・タイプ」タブをクリックします。
3. 編集するタスク・タイプを選択します。
4. 次のいずれかの方法を使用します:
  - タスク・タイプの右側にある「アクション」アイコンを選択した後、「編集」を選択します。
  - 「編集」アイコンをクリックします。
  - 右クリックして「編集」を選択します
5. 編集する情報のタブを選択し、タスク・タイプを編集します。
6. 「保存して閉じる」をクリックします。

## タスク・タイプの表示

「タスク・タイプ」で、タスク・タイプのリストに表示する列を指定するか、すべての列を表示できます。列の順序変更、昇順または降順での列のソート、または列幅の変更を行うことができます。

列を表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「タスク・タイプ」タブをクリックします。
3. 次の 1 つ以上のタスクを行います。
  - すべての列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、「すべて表示」を選択します。
  - 特定の列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、列名を選択または選択解除します。
  - 列を並べ替えるには、「表示」、「列の順序変更」の順に選択します。列を選択し、上下の矢印を使用するか、列をドラッグして順序を変更します。
  - 列をソートするには、「ソート」アイコンが表示されるまで列ヘッダーにマウス・カーソルを合せ、「昇順ソート」または「降順ソート」をクリックします。
  - 列の幅を変更するには、矢印が表示されるまで列ヘッダーの区切りにマウス・カーソルを合せ、適切な幅になるまで列をドラッグします。

## タスク・タイプの検索

「タスク・タイプ」リストの検索機能を使用して、タスク・タイプを検索できます。検索する名前の全部または一部を入力できます。フィルタ・バーを使用して、リストに


表示するタスク・タイプを制御できます。デフォルトでは、すべてのタスク・タイプが表示されます。

タスク・タイプを検索するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「タスク・タイプ」タブをクリックします。
3. タスク・タイプを検索するには、「検索」テキスト・ボックスに検索条件を入力します。
4. **オプション:** フィルタ・バーでカテゴリをクリックすると、追加の検索演算子(「次と等しい」、「次と等しくない」、「次を含む」、「次を含まない」、「次で始まる」、「次で終わる」)が表示されます。

次のカテゴリを使用して、タスク・タイプをフィルタできます: 「名前」、「タスク・タイプ ID」、「統合」、「実行タイプ」、「作成者」、「作成日」、「説明」、「最終更新者」、「最終更新日」 および 「ユーザー作成」。

#### ノート:

- 「フィルタの追加」をクリックして、すべてのカテゴリを表示します。
- フィルタ・バーを非表示にするには、「フィルタ」アイコンをクリックします。
- すべてのフィルタをクリアするには、 アイコンをクリックして、「すべてのフィルタのクリア」をクリックします。

## タスク・タイプのインポート

テキスト・ファイルから、タスク・タイプまたはタスク・タイプの部分的情報をインポートできます。プロセスは、タスクのテンプレートへのインポートに似ています。

#### ノート:

タスク・タイプ・ルールはインポートできません。タスク・タイプ・ルールをインポートするには、移行を使用します。

タスク・タイプをインポートするには、サービス管理者またはパワー・ユーザーのセキュリティ役割が必要です。

タスク・タイプをインポートするには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「タスク・タイプ」タブをクリックします。
3. 「アクション」、「インポート」の順にクリックします。
4. 「ファイルの選択」をクリックして、ファイルに移動します。
5. 「インポート・タイプ」を選択します。

- **置換:** タスク・タイプの定義を、インポート・ファイル内の定義に完全に置き換えます。このオプションでは、すべてのタスク・タイプの詳細を、インポートするファイル内の情報に置き換えます。インポート・ファイルに指定されていないタスク・タイプには影響がありません。

インポート・ファイル内のタスク・タイプ ID に一致するタスク・タイプが変更されるという警告が表示されます。タスク・タイプを上書きしない場合は、「**取消し**」をクリックします。

#### ノート:

「**添付の保持**」チェックボックスを選択して、置き換えられるタスク・タイプの添付を保持できます。

- **更新:** タスク・タイプの部分的な情報を更新します。このオプションは、タスク・タイプの詳細の完全置換ではありません。ファイルで指定したタスク・タイプのプロパティの詳細のみが更新されます。
6. 「**日付フォーマット**」を選択します。

使用可能な日付フォーマットのドロップダウン・リストから、フォーマットを選択します。日付フォーマットは変換されません。デフォルトで、日付フォーマットはエクスポートされたファイルの場所のロケールの日付フォーマットに設定されます。
  7. インポート・ファイルの「**ファイル区切り文字**」を選択します。「**カンマ**」または「**タブ**」を選択するか、「**その他**」を選択して「**他の区切り文字**」に任意の 1 文字を指定します。
  8. 「**インポート**」をクリックします。

## タスク・タイプのエクスポート

Excel で読み取ることができるカンマ区切り値(CSV)ファイルにタスク・タイプをエクスポートした後、変更して再インポートできます。

#### ノート:

タスク・タイプ・ルールはエクスポートできません。タスク・タイプ・ルールをエクスポートするには、移行を使用します。

タスク・タイプをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**タスク・タイプ**」タブをクリックします。
3. タスク・タイプを 1 つ以上選択し、「**アクション**」をクリックして、「**エクスポート**」を選択します。
4. 「**タスク・タイプのエクスポート**」ダイアログで、次のエクスポート・オプションの中から選択します:

- 「行」では、「すべてのタスク・タイプ」または**選択したタスク・タイプ**を選択します。
  - 「フォーマット」では、**フォーマットされたデータ**または「**今後のインポート用のフォーマットされていないデータ**」を選択します。
5. 「**エクスポート**」をクリックします。**フォーマットされたデータ**または「**今後のインポート用のフォーマットされていないデータ**」のどちらを選択したかに応じて、ファイルが Excel 形式または CSV 形式でダウンロードされます。
  6. 「**閉じる**」をクリックして、「タスク・タイプのエクスポート」ダイアログを閉じます。

## タスク・タイプの削除

不要になったタスク・タイプは削除できます。タスク・タイプを削除するには、サービス管理者またはパワー・ユーザーのセキュリティ権限が必要です。

### ノート:

属しているタスクがある場合、そのタスク・タイプは削除できません。

タスク・タイプを削除するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**タスク・タイプ**」タブをクリックします。
3. 削除するタスク・タイプを選択します。
4. 次のいずれかの方法を使用します:
  - 「**アクション**」、「**削除**」の順に選択します。
  - 「**削除**」アイコンをクリックします。
  - 右クリックして「**削除**」を選択します。
5. 確認のプロンプトで「**はい**」をクリックします。

## タスク・テンプレートの管理

タスク・テンプレートでは、ビジネス・プロセスに必要な反復可能なタスクのセットを定義します。これはスケジュール作成の基礎として使用されます。様々なタイプのプロセスに対してテンプレートを作成できます。

テンプレート・タスクは、カレンダー上の特定の日に割り当てられずに、プロセスのアクティビティに基づいて日-3、日-2、日-1、日0などの汎用的な日を使用して定義されます。テンプレートで定義されるタスク・フローは、スケジュールの作成時にカレンダーの日付に適用します。

サービス管理者またはパワー・ユーザーは、テンプレートを表示、作成、編集および削除できます。

### ノート:

作成またはインポートできるタスク・テンプレートの最大数は 10,000 です。

## タスク・テンプレートの作成

ビジネス・プロセスの特定のタスクに対してテンプレートを作成できます。

テンプレートの作成時に、ユーザーまたはグループを参照者として割り当てられます。

タスク・テンプレートの作成についてさらに学習するには次のビデオを参照してください。



### タスク・テンプレートの作成.

テンプレートを作成するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**新規**」をクリックします。
4. テンプレート・セクションで必要な情報を入力します。
  - [テンプレート・プロパティの設定](#)
  - [テンプレートの指示の指定](#)
  - [テンプレートへの参照者の割当て](#)
  - [テンプレート属性の適用](#)
  - [日ラベルの指定](#)
  - [埋込みテンプレート](#)



- [テンプレート・ルール](#)の操作

## テンプレート・プロパティの設定

「プロパティ」タブで、テンプレート名、説明、所有者および時間スパンを指定できます。


すべてのテンプレートにテンプレート所有者を割り当てる必要があります。この所有者は、サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。現在の ID がデフォルトの所有者です。テンプレート所有者は、タスク・レベルで上書きされないかぎり、テンプレートに含まれるすべてのタスクのデフォルトの所有者になります。

テンプレートの各タスクは、テンプレート日の数値によって編成されます。各テンプレートには日ゼロが含まれています。ゼロの日付前後にテンプレートで追跡する日数を指定できます。日ゼロの前の日付は、日-5 や日-4 のように示されます。日ゼロの後の日付は、日 3 や日 4 のように示されます。日ゼロの前後の日を指定しなくても、テンプレートには少なくとも 1 日(日ゼロ)が含まれます。

テンプレート・プロパティを設定するには:

1. ホーム・ページで、「[アプリケーション](#)」、「[タスク・マネージャ](#)」の順にクリックします。
2. 左側の「[テンプレート](#)」タブをクリックします。
3. 「[新規テンプレート](#)」または「[テンプレートの編集](#)」ダイアログの「[プロパティ](#)」タブで、次の情報を入力します。
  - **名前:** 最大 80 文字まで入力できます。
  - **説明:** 最大 255 文字まで入力できます。
  - **組織単位**
4. テンプレートの時間スパンを入力します。
  - 「**日 0 の前の日数**」では、数値を選択します。
  - 「**日 0 の後の日数**」では、数値を選択します。
5. **オプション:** テンプレートを埋込みテンプレートとしてのみ使用する場合、「[埋込みのみ](#)」を選択します。

このオプションが有効な場合、テンプレートはデプロイできません。これにより、サポートしているテンプレートが誤ってデプロイされるのを防ぐことができます。

6. 「**所有者**」には、デフォルトの所有者を使用するか、「**所有者の選択**」をクリックします。「**検索**」をクリックして、所有者として割り当てるユーザーを選択するときに表示される役割は、管理者またはパワー・ユーザーの役割で構成した管理者、パワー・ユーザーのみです。Shared Services グループのメンバーは役割を実行できますが、同じユーザーが複数の役割を実行することはできません。
7. テンプレート・セクションに必要な情報を入力します。
  - [テンプレートの指示の指定](#)
  - [テンプレートへの参照者の割当て](#)
  - [テンプレート属性の適用](#)
  - [日ラベルの指定](#)

- [埋込みテンプレート](#)
- [テンプレート・ルールの操作](#)

## テンプレートの指示の指定

ビジネス・プロセスを完了するために、テンプレートに指示を指定できます。ユーザーは、テンプレート内のタスクから指示を表示できます。指示は、各スケジュールにも転送されません。

ユーザーがテンプレートの目的とタスクの完了方法を理解するのに役立つ詳細を追加指定できます。追加の参照を添付できます。

スケジュール・タスク・リストおよびテンプレート・タスク・リストに指示が指定されているかどうかを簡単に確認できます。リスト・ビューに「指示」列を追加して、タスクに関するテキストの説明を表示できます。

テンプレートの指示を指定するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「新規テンプレート」または「テンプレートの編集」ダイアログで、「**指示**」タブを選択します。
4. 「**指示**」で、テンプレート内の各タスクに含める指示テキストを入力します。
5. 「**OK**」をクリックします。

参照を追加するには:

1. 「**参照**」セクションで、「**追加**」をクリックします。
2. 「**参照タイプ**」リストから、次のいずれかのタイプを選択します。
  - **ローカル・ファイル**: 「**ファイルの選択**」をクリックし、ファイルを選択して添付し、名前を入力して、「**OK**」をクリックします。
  - **URL**: URL を入力した後、URL の名前を入力し(例: <http://www.oracle.com>、Oracle)、「**OK**」をクリックします。

参照ファイルまたは URL を一度に複数のテンプレートに追加するには:

- a. 「テンプレート」メイン・ページに移動します。
- b. 複数の行を強調表示するか、**[Shift]**キーを使用して複数の行を選択すると、複数選択でき、「**アクション**」、「**参照の追加**」、「**ファイル**」または「**URL**」の順にクリックします。

また、「**添付の追加**」ダイアログ・ボックスに用意されているドラッグ・アンド・ドロップ機能を使用して、1 つ以上の添付を追加することもできます。必要に応じて、「**名前**」フィールドで添付の名前を変更できます。複数の添付をドラッグ・アンド・ドロップする場合、これらを一度にアップロードできます。

添付を正確にドラッグ・アンド・ドロップするには、「**添付の追加**」ダイアログ・ボックスにアクセスする必要があります。

3. テンプレート・セクションに必要な情報を入力します。
  - [テンプレート・プロパティの設定](#)
  - [テンプレートへの参照者の割当て](#)

- テンプレート属性の適用
- 日ラベルの指定
- 埋込みテンプレート
- テンプレート・ルール の操作

## テンプレートへの参照者の割当て

「参照者」タブでは、スケジュール内のタスクや、テンプレートから生成されるスケジュール・タスクを表示する可能性のあるユーザーに参照者権限を割り当てることができます。複数のユーザーを参照者としてテンプレートに割り当てることができます。参照者は、チームまたはグループ割当てであってもかまいません。パワー・ユーザー参照者は、テンプレート詳細とテンプレート・タスクを読み取り専用として表示できます。参照者にはテンプレート・アクセス権がなく、テンプレートから作成されたスケジュールに対する読み取り専用アクセス権のみがあります。

### ノート:

タスクの「参照者」の役割を持つユーザーのみが質問に回答できます。

参照者権限を割り当てるには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「新規テンプレート」または「テンプレートの編集」ダイアログで、「**参照者**」タブを選択します。
4. 「**追加**」をクリックします。
5. ユーザーまたはグループまたはチームで検索するには、「**ユーザーの検索**」をクリックし、「**ユーザー**」または「**グループ**」または「**チーム**」を選択します。
6. ユーザー名の全部または一部を入力し、「**検索**」をクリックします。
7. ユーザーを明確に識別するには、「**詳細**」をクリックし、「**ユーザー ID**」または「**電子メール**」アドレスまたは「**説明**」を入力します。
8. 「**検索結果**」リストからユーザーを選択し、「**選択済**」ペインに移動します。
9. チーム、グループ、役割など、ユーザーに関する詳細は、「**詳細**」をクリックします。
10. 「**追加**」または「**すべて追加**」をクリックして、ユーザーを「**選択済**」リストに移動します。

### ヒント:

ユーザーを削除するには、それらを選択し、「**削除**」または「**すべて削除**」をクリックします。

11. テンプレート・セクションで必要な情報を入力します。

- [テンプレート・プロパティの設定](#)
- [テンプレートの指示の指定](#)
- [テンプレート属性の適用](#)
- [日ラベルの指定](#)
- [埋込みテンプレート](#)
- [テンプレート・ルールの操作](#)

## テンプレート属性の適用

システムでテンプレートを見つけるために、属性をテンプレートに適用できます。属性を選択する際に、属性タイプに基づいて属性の値を設定できます。後で属性値によってフィルタ処理できます。

たとえば、「北部」、「南部」、「東部」および「西部」という値を持つ「販売地域」という名前の「リスト」属性を持つことができます。現在のテンプレートは西部販売地域にのみ適用されるため、「販売地域」属性を追加し、この属性を「西部」に設定できます。

属性を適用するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**新規テンプレート**」または「**テンプレートの編集**」ダイアログで、「**属性**」タブを選択します。
4. 「**追加**」をクリックします。
5. 「**属性**」リストから、属性を選択します。「**タイプ**」フィールドは編集不可であり、属性によってデータが移入されます。
6. 「**値**」では、属性に応じて、ドロップダウン・リストから属性の値を選択するか、値を入力します。
7. 「**OK**」をクリックします。
8. テンプレート・セクションで必要な情報を入力します。
  - [テンプレート・プロパティの設定](#)
  - [テンプレートの指示の指定](#)
  - [テンプレートへの参照者の割当て](#)
  - [日ラベルの指定](#)
  - [埋込みテンプレート](#)
  - [テンプレート・ルールの操作](#)

## 日ラベルの指定

テンプレート内の日の名前はカスタマイズできます。日の名前を編集しても、順序は変更されません。

テンプレートで作成された日ラベルは、テンプレートから作成されたスケジュールにコピーされます。

日ラベルを指定するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. 「新規テンプレート」または「テンプレートの編集」ダイアログで、「日ラベル」タブを選択します。
4. 名前を変更する日を選択します。
5. 日の名前をデフォルト値からカスタム名に変更します。最大 20 文字まで入力できます。
6. 「OK」をクリックします。
7. テンプレート・セクションで必要な情報を入力します。
  - [テンプレート・プロパティの設定](#)
  - [テンプレートの指示の指定](#)
  - [テンプレートへの参照者の割当て](#)
  - [テンプレート属性の適用](#)
  - [埋込みテンプレート](#)
  - [テンプレート・ルールの操作](#)

## 埋込みテンプレート

1つのテンプレートを別のテンプレートに埋め込むことにより、あるタスク・テンプレートのタスクを別のテンプレートで再使用できます。テンプレートのタスクをスケジュールすると、埋込みテンプレートのタスクもスケジュールされます。

たとえば、基本的に同じプロセスが 2 つあり、一方のプロセスに追加タスクがいくつか含まれているとします。1つのテンプレートに 2 つ目のテンプレートを埋め込むことを指定できるため、一方のテンプレートを変更した場合に、もう一方を更新する必要はありません。スケジュールを生成すると、そのスケジュールにはもう一方のテンプレートのタスクが組み込まれます。

### ノート:

1 レベルの埋込みのみ可能です。たとえば、テンプレート A がテンプレート B に埋め込まれている場合、テンプレート B を別のテンプレートに埋め込むことはできません。

埋込みテンプレートは、直接デプロイするように設計されておらず、直接デプロイする他のテンプレートで使用されるように設計されたタスク・テンプレートです。「テンプレートの管理」画面には、埋込みテンプレートを識別するための、次の列が表示されます。

- 埋込み: 現在のテンプレートに埋め込まれているテンプレートのリスト。存在しない場合は空白です。

- **埋込み先:** 現在のテンプレートが埋め込まれているテンプレートのリスト。存在しない場合は空白です。

これらの列はデフォルトでは表示されませんが、「表示」メニューから利用できます。

テンプレートを埋め込むには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックします。
3. 以前に埋め込まれたテンプレートを識別するには、「**表示**」、「**列**」の順にクリックし、「**埋込み先**」または「**埋込みテンプレート**」を選択します。
4. 「**新規テンプレート**」または「**テンプレートの編集**」ダイアログから、「**埋込みテンプレート**」タブを選択します。
5. 「**使用可能なテンプレート**」リストから、埋め込むテンプレートを選択します。
6. 「**移動**」をクリックして、テンプレートを「**埋込みテンプレート**」リストに移動します。

#### ヒント:

1 つまたは複数のテンプレートを削除するには、「**埋込みテンプレート**」リストからテンプレートを選択し、「**削除**」または「**すべて削除**」をクリックして「**使用可能なテンプレート**」リストに移動します。

7. 「**OK**」をクリックします。
8. テンプレート・セクションに必要な情報を入力します。
  - [テンプレート・プロパティの設定](#)
  - [テンプレートの指示の指定](#)
  - [テンプレートへの参照者の割当て](#)
  - [テンプレート属性の適用](#)
  - [日ラベルの指定](#)
  - [テンプレート・ルールの操作](#)

## テンプレート・ルールの操作

テンプレート・ルールはテンプレート内のすべてのタスクに適用され、タスクのグループにもルールが適用されます。「**テンプレート**」ダイアログ・ボックスで構成するルールは、「**スケジュール**」ダイアログ・ボックスと「**タスクの編集**」ダイアログ・ボックスに適用され、「**ルール**」タブに読取り専用形式で表示されます。

テンプレート・ルール:

- **タスクの自動承認:** 指定された条件を満たしている場合、指定された承認を自動的に完了します。

このルールに適用される条件の例:

- 属性に指定の値がある(計算済属性を含む)
- 先行タスクに指定の値を持つ属性が含まれる

条件を満たすと、ルールによって指定の承認者レベルが完了としてマークされ、ワークフローが次の承認レベルに進むか、他に承認レベルがない場合はクローズします。

このルールは、タスク・ステータスが「オープン(承認者)」に変更されたときに実行されます。

- **タスクの自動送信:** 指定された条件を満たしている場合、タスクを自動的に送信します。

条件を満たすと、ルールによって担当者役割が完了としてマークされ、これによりワークフローが最初の承認レベルに進むか、承認レベルがない場合は「クローズ済」になります。

#### ノート:

- タスクの自動送信は、タスク・ステータスが「保留中」からオープン(担当者)に変更されたときに実行されます。タスクの自動送信ルールでは、先行関係が適用されます。これが実行されるのは、「終了時に終了」の先行タスクがエラーなしで完了し、「エラー終了時に終了」の先行タスクが完了している場合のみです。「終了時に終了」の先行タスクがユーザーまたはルールによって「クローズ済」になっている場合は、その「実行中」の後続タスクを確認して、必要に応じてタスクの自動送信ルールがトリガーされます。
  - タスクの自動送信ルールは、タスクにパラメータの不足がある場合はトリガーされません。
- **タスク承認の防止:** このルールでは、属性値または他の特性に基づいて、タスクが承認されないようにします。このルールは、承認者が「承認」をクリックすると実行されます。
  - **タスク送信の防止:** このルールでは、属性値または他の特性に基づいて、タスクが送信されないようにします。このルールは、担当者が「送信」をクリックすると実行されます。

テンプレート・ルールを操作するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. テンプレートを開きます。
4. 「ルール」タブを選択します。テンプレートに関連付けられたルールに関する次の情報を表示できます:
  - **順序:** 優先順位
  - **ルール**
  - **条件:** ルールを実行する前に存在している必要がある条件
5. ルールを作成または編集するには、「ルール」タブで「新規」または「編集」をクリックし、次の情報を更新します:
  - **ルール:** ルールを選択します。

### ノート:

ルール定義に変更を加えると、追加情報が監査ログに追加されます。変更は、「履歴」タブおよび「監査レポート」の両方に表示できます。

- **説明: オプション。** ルールを構成した理由と使用方法を説明します。最大 255 文字まで入力できます。
  - **承認者レベル:** 「すべてのレベル」を選択するか、承認者レベルを選択します。
  - 「フィルタの作成」を選択して条件セクションに移入するか、「保存済フィルタの使用」を選択してからフィルタを選択します。ルールに対して選択および構成されたフィルタが、適用するルールをトリガーする条件を決定します。
  - **条件:**
    - **保存済フィルタの使用:** 「条件」セクションに、保存済フィルタに関連付けられた条件の読取り専用バージョンが表示されます。
    - **フィルタの作成:** 「条件」セクションが有効になり、「条件の作成」または「条件グループの作成」をクリックして条件を指定できます。  
「組合せ」、「ソース」、「属性」、「演算子」および「値」は、既存の詳細フィルタ機能の場合と同様に動作します。
  - **タスクのフィルタ:** 条件を選択する必要があるタスクを指定します:
    - 現在のタスク
    - 任意の先行
    - 特定のタスク: 「タスク ID」を指定します
6. ルールの削除、複製または並替えを行うには、適切なボタンをクリックして指示に従います。
7. テンプレート・セクションで必要な情報を入力します。
- [テンプレート・プロパティの設定](#)
  - [テンプレートの指示の指定](#)
  - [テンプレートへの参照者の割当て](#)
  - [テンプレート属性の適用](#)
  - [日ラベルの指定](#)
  - [埋込みテンプレート](#)

## テンプレート履歴の表示

システムでは、「テンプレート」ダイアログ・ボックスから表示できるテンプレート・アクションの履歴がメンテナンスされます。「履歴」タブには、作成または更新されたコンポーネント、変更タイプ、古い値と新規の値、変更を行ったユーザーおよび変更日が表示されます。「履歴」タブの情報は読取り専用です。

テンプレート履歴を表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。



3. 履歴を表示するテンプレートを選択し、「編集」をクリックします。
4. 「履歴」タブを選択します。
5. 「OK」をクリックします。

## テンプレートを開く

「テンプレート」ダイアログ・ボックスからテンプレートを開いて操作することができます。

テンプレートを開くには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. 「テンプレート」から、テンプレートを選択します。
4. 次のいずれかの方法を使用します:
  - テンプレートの右側にある「アクション」アイコンをクリックし、「編集」を選択します。
  - テンプレートをクリックします。
  - 右クリックし、「編集」を選択します。

## テンプレートへのタスクの追加

タスク・マネージャ・テンプレートにタスクを追加できます。各タスクには開始日時があります。テンプレートに追加されている場合は、エンドユーザー・タスクにも終了日時があります。テンプレート内の開始日は、カレンダー日ではなくテンプレート日に対応します。

### ノート:

タスク・マネージャのテンプレートに追加できるタスクの最大数は 500,000 です。

タスク・マネージャ・テンプレートにタスクを追加するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. テンプレートを選択して開きます。

テンプレートのリストが大きい場合は、「検索」ボックスに名前の全体または一部を入力して、選択ダイアログのリストからテンプレートを検索します。
4. 必要に応じてタスクを追加します。
5. 「OK」をクリックします。

## テンプレートの編集

タスク・マネージャ・テンプレートを編集して、テンプレート名、日ゼロの前後の日数などのプロパティを変更できます。日ゼロの前後の日数を減らした場合は、これらの日に関連付けられているタスクが削除されます。テンプレートを編集しても、そのテンプレートから以前生成されたスケジュールには影響がありません。

テンプレートのタスクを編集、コピーおよび削除できます。

埋込みテンプレートのタスクを編集するには、ソース・テンプレートで作業を行う必要があります。

タスク・マネージャ・テンプレートを編集するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. テンプレートを選択し、「編集」をクリックします。
4. テンプレートのプロパティを編集します。
5. 「OK」をクリックします。

## テンプレートへのタスクのインポート

Microsoft Excel スプレッドシートなどの他のテキスト・ファイルからテンプレートにタスク、またはタスクの部分データをインポートできます。たとえば、Excel の行としてタスク定義を入力し、ファイルをカンマ区切り(CSV)ファイルとして保存してから、テンプレートにインポートできます。タスクを個別に作成するかわりに、「インポート」機能を使用して、テキスト・ファイルのフィールドを編集し、そのファイルをインポートすることにより、多くの回復タスクをすばやく追加できます。

### ノート:

タスクをテンプレートにインポートする前に、複数のタスクが同じ ID を持たないよう、テンプレート内で一意のタスク ID を指定する必要があります。

タスクをインポートするには、テンプレートを編集するためのセキュリティ権限が必要です。

タスクをテンプレートにインポートするには、次のオプションが使用可能です。

- **置換:** タスクの定義を、インポート・ファイル内の定義に置き換えます。このオプションでは、タスクの詳細を、インポートするファイル内の詳細に置き換えます。インポート・ファイルに指定されていないテンプレート内の他のタスクには影響しません。
- **更新:** タスクの部分的な情報を更新します。たとえば、インポート・ファイルで、タスクの指示の変更、所有者、担当者および承認者の再割当て、あるいは一部の属性の削除と新しい属性の追加を行った場合が考えられます。また、同じ変更を多数のタスクに行った(400 タスクのうち 100 のタスクに新しい属性を追加するなど)場合も考えられます。更新オプションは、タスクの詳細を完全に置き換えるものではありません。ファイルに指定されているタスク・プロパティの詳細のみが更新されます。たとえば、インポート・ファ

イルにタスクの指示の列しかない場合、タスクの名前、担当者、属性やその他のプロパティには影響しません。

- **削除:** ファイルで提供されるタスク ID のリストに基づいてタスクと関連情報を削除します。削除を実行するために必要な情報は、タスク ID の列を含むファイルです。

タスクをテンプレートにインポートするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックします。
3. タスクのインポート先のテンプレートを選択します。
4. 「**タスクのインポート**」をクリックします。
5. インポートするファイルの名前を入力するか、「**ファイルの選択**」をクリックしてファイルを探します。
6. インポート・オプションを選択します:
  - **置換:** タスクの定義を、インポート・ファイル内の定義に置き換えます。インポート・ファイルに指定されていない他のタスクには影響しません。

#### ノート:

「**添付の保持**」チェックボックスを選択して、置き換えられるタスクの添付を保持できます。

- **更新:** タスクの部分的な情報を更新します。たとえば、インポート・ファイルで、タスクの指示の変更、所有者、担当者および承認者の再割当て、あるいは一部の属性の削除と新しい属性の追加を行った場合が考えられます。また、同じ変更を多数のタスクに行った(400 タスクのうち 100 のタスクに新しい属性を追加するなど)場合も考えられます。更新オプションは、タスクの詳細を完全に置き換えるものではありません。ファイルに指定されているタスク・プロパティの詳細のみが更新されます。たとえば、インポート・ファイルにタスクの指示の列しかない場合、タスクの名前、担当者、属性やその他のプロパティには影響しません。

#### ノート:

テンプレート内のタスクで、インポート・ファイル内のタスク ID に一致するものが変更されるという警告が表示されます。タスクを上書きしない場合は、「**取消し**」をクリックして、インポート・プロセスを取り消します。

- **削除:** ファイルで提供されるタスク ID のリストに基づいてタスクと関連情報を削除します。削除を実行するために必要な情報は、タスク ID の列を含むファイルです。
7. 「**日付フォーマット**」を選択します。

使用可能な日付フォーマットのドロップダウン・リストから、フォーマットを選択します。日付フォーマットは変換されません。デフォルトで、日付フォーマットは

エクスポートされたファイルの場所のロケールの日付フォーマットに設定されます。

8. インポート・ファイルの「**ファイル区切り文字**」を選択します。「**カンマ**」または「**タブ**」を選択します。「**他の区切り文字**」として任意の他の 1 文字を指定するには、「**その他**」を選択します。
9. 「**インポート**」をクリックします。
  - インポートに成功した場合は、テンプレート名、タスクを含むファイルの名前およびインポートされたタスクの合計数を示す「インポート成功」ダイアログ・ボックスが表示されます。「**OK**」をクリックします。
  - エラーが見つかった場合は、インポート・プロセスが実行されず、「インポート・エラー」ダイアログ・ボックスにエラーが表示されます。エラーを表示し、「**OK**」をクリックして「テンプレート」ページに戻ります。

表 26-1 インポート・エラーのトラブルシューティング

エラー	解決方法
重複するタスク ID	重複するタスク ID の確認をしてください。タスク ID は、テンプレートまたはスケジュール内で一意である必要があります。 <a href="#">タスクの作成</a> を参照してください。
タスク名が長すぎます	タスク名に使用できるのは、最大 80 文字です。 <a href="#">タスク・プロパティの設定</a> を参照してください。
組織の値 - "値が無効です"	組織の値は空白にできず、箇条書きにすることや、複数行にすることはできません。

## タスクのインポート・ファイル・フォーマット

タスクのインポート・ファイルでは、テンプレートにインポートするタスク情報を指定できます。最初の行には、TaskName など、その列のデータを識別する列見出しのみが含まれます。各タスクを定義するために別々の行が使用されます。

ファイル内の各タスクには、「TaskID」列で一意的 ID を指定する必要があります。数値 ID を使用して、先行タスクおよび親タスクを一意的に識別します。たとえば、「親」列に親タスクを入力するとき、そのタスクのタスク名ではなく、数値 ID を入力します。

「置換」または「すべて置換」オプションを使用する場合、列を追加、削除および移動できますが、必須列を削除することはできません。「更新」オプションを使用する場合、TaskID または TaskTypeID (タスク・タイプをインポートする場合)以外の必須列はありません。各列のデータは、最初の行の列 ID に一致する必要があります。

多くの列 ID では、値の量が決まっています。たとえば、1 つのタスクに多数の参照者がいる場合があります。Viewer4、Viwer5 などのように、末尾の番号を変更することにより、パラメータを追加できます。

承認者、質問または参照の列 ID に付けた番号は、他の承認者、質問または参照との相対的順序を表すにすぎません。これらを更新すると、システムでは、ファイル・フォーマットの列内の数値に関係なく、承認者、質問または参照の名前で照合を行います。質問のテキスト、承認者または参照名を置き換えるには、「置換」モードを使用する必要があります。「更新」モードを選択すると、ファイル名が一致しない場合、新規の質問、承認者または参照が 1 つ追加されるのみです。

ファイル内のすべてのテキスト検索行は、アプリケーションに格納されている値と一致する必要があります。たとえば、タスク・タイプをインポートする場合は、アプリケーションの

設定時にタスク・タイプの値を指定してあることが必要です。列見出しのグループについては、いずれかのグループの特定の番号がある場合は、他のメンバーに対しても同じ番号が必要です。たとえば、QText5 がある場合は、対応する QType5 が必要です。

### ノート:

インポート・ファイルに複数行のテキストを作成する必要がある場合(たとえば、指示の場合)、次の構文を使用して改行を示します: '\n'。強制改行を使用してテキスト行を区切らないでください。

列 ID	説明	タイプ
TaskID	タスクの ID。最大 80 文字。	テキスト
TaskName	タスクの名前	テキスト
TaskType	タスク・タイプ	テキスト検索
説明	タスクの詳細な説明。最大 1000 文字。	テキスト
Priority	タスクの優先度(「高」、「中」、「低」)	テキスト検索
StartDate	開始日、テンプレート内の日(たとえば、-5、0、1、12) スケジュールの場合、開始日はロケール・フォーマットのカレンダーの日付にする必要があります。	整数
StartTime	HH:MM (24 時間)形式の開始時間(たとえば、13:00)	整数
EndDate	ユーザー・タスクのみ、テンプレート内の日(たとえば、-5、0、1、12) スケジュールの場合、終了日はロケール・フォーマットのカレンダーの日付にする必要があります。	整数
EndTime	ユーザー・タスクのみ、HH:MM (24 時間)形式(たとえば、13:00)	整数
Duration	分単位でのタスク期間(自動タスクのみ)	数値
Owner	タスク所有者	テキスト検索
Assignee	タスク担当者(ユーザー・タスクのみ)	テキスト検索
Active	タスクがアクティブかどうか。テンプレートのインポートにのみ適用されます。	ブール
StartEarly	担当者が、開始予定時間の前に保留中のタスクを開いてよいかどうか	ブール
RunAs	RunAs ユーザー名。システム自動タスクにのみ適用されます。	テキスト検索
Instruction	指示テキスト。最大 2GB。	テキスト
Reference#	指示参照(URL 参照およびコンテンツ・サーバー参照)	URL
RefText#	参照名、URL 参照用	テキスト

列 ID	説明	タイプ
RefType#	参照タイプ(URL、ドキュメント)	テキスト検索
RefURL#	参照 URL、URL 参照用	URL
RefDocId#	参照ドキュメント ID、ドキュメント参照用	整数
Approver#	承認者レベル	ユーザー名
Viewer#	タスク参照者	ユーザー名
QText#	質問には必須。質問のテキスト。最大 255 文字。	テキスト
QType#	質問には必須。質問のデータ型(「テキスト」、「メンバー」、「True/False」など)	テキスト検索
QReq#	質問には必須。質問が必須か?(「はい」または「いいえ」)	ブール
QList#	質問用の値リスト。  記号で区切られています(たとえば、Red Green Blue Yellow)。	テキスト検索
QCurrSymbol#	質問 X 用の通貨フォーマット	テキスト
QDecPlaces#	質問 X 用の小数点以下の有効桁数	数値
QNegNumFmt#	質問 X 用の負数のフォーマット	テキスト:-または()
QScale#	質問 X 用のスケール・フォーマット	数値、大きさ: 1000 など
QThouSep#	質問 X 用の 3 桁ごとの区切り文字	ブール
Attribute#	「色」などの属性名	テキスト検索
AttrVal#	属性値(たとえば、赤)。最大 255 文字。	テキスト
AttrDisplay	ユーザーに対する属性の表示(タスク・アクション・ダイアログ・ボックス)	ブール
Param#	パラメータ名	テキスト検索
ParmVal#	パラメータ値	テキスト
Parent	タスクの親のタスク ID	タスク ID
Predecessor#	先行タスク ID (列 A から)	タスク ID
PredType#	必須。先行タイプ(たとえば、起動の終了)。	テキスト検索
PredTemplate#	先行が別のテンプレートまたはスケジュールに属している場合、先行のテンプレートまたはスケジュールの名前	テキスト

タスク・タイプをインポートするとき、次の列が使用されます:

- TaskTypeID
- IntegrationType
- ParamOverride# - パラメータをオーバーライドできるかどうか

サンプル・タスクのインポート・ファイルが提供されます。これには、変更できる次の動的パラメータが含まれています:

- 2つの質問
- 2つの属性
- 2つの指示参照
- 3つの先行タスク
- 3つの承認者レベル

## Microsoft Excel へのタスクのエクスポート

テンプレートからタスクを CSV 形式のフラット・ファイルにエクスポートし、Microsoft Excel を使用してファイルを変更できます。たとえば、テスト・インストール内のテンプレートからタスクをエクスポートし、それらを本番インストール内のテンプレートにインポートできます。テンプレートからタスクをエクスポートすると、それらは CSV ファイルに保存されます。

タスクをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. 「タスク」タブをクリックします。
4. タスクを 1 つ以上選択し、「アクション」メニューから「エクスポート」をクリックします。「フォーマットされたデータ(表示列のみ)」または「今後のインポート用のフォーマットされていないデータ」のどちらを選択したかに応じて、ファイルが Excel 形式または CSV 形式でダウンロードされます。
5. 「閉じる」をクリックして、「タスクのエクスポート」ダイアログ・ボックスを閉じます。

## テンプレートでのユーザーの再割当て

ユーザーを別のタスクに再割当てすることが定期的に必要な場合があります。たとえば、テンプレートを作成し、ユーザーを特定のタスクに割り当てたが、後でその従業員が退職し、別の従業員がこれらのタスクを行う場合があります。個々のタスクを手動で検索し、開いて編集するかわりに、「テンプレート」ダイアログ・ボックスの「再割当て」機能を使用して割当てを自動的に変更できます。「再割当て」機能では、1 人のユーザーに関連付けられているタスクをすばやく検索し、別のユーザーに再割当てできます。

一度に複数のテンプレートに対してユーザーを再割当てできます。これは、アプリケーションに多数のテンプレートがある場合に役立ちます。

ユーザーを再割当てする役割を選択できます。たとえば、「所有者」の役割を選択した場合は、ユーザーが所有者として割り当てられているタスクでのみユーザーが再割当てされます。

タスクが再割当てされると、再割当てされたユーザーに電子メールの通知がすぐに送信されます。

ユーザーを再割当てするには:



1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. ユーザーを再割当てするテンプレートを 1 つ以上選択します。
4. 「アクション」、「ユーザーの再割当て」の順に選択します
5. 「ユーザーの検索」で、置換するユーザーの検索条件を入力します:
  - a. 「ユーザーの検索」をクリックし、「ユーザーの選択」ダイアログ・ボックスで、ユーザーの姓名を入力し、「検索」をクリックします。
  - b. 結果からユーザーを選択し、「OK」をクリックします。
6. 「置換」をクリックし、タスクを再割当てするユーザーの検索条件を入力します。
7. 再割当てが必要なユーザーについて役割を選択します。
  - 所有者
  - 担当者
  - 承認者
  - 参照者
8. 「再割当」をクリックします。

プロセスが終了すると、ユーザーの再割当てが完了したことを示す「ユーザーの再割当て - 成功」メッセージが表示され、テンプレート名と、行われたユーザー再割当ての合計数が表示されます。

## テンプレートからのスケジュールの作成

テンプレートからスケジュールを作成できます。テンプレートからスケジュールを作成すると、スケジュールにテンプレート内のタスクが移入されます。ソース・テンプレートにテンプレートが埋め込まれている場合、埋込みテンプレート内のタスクが組み込まれます。テンプレートの指示、参照者および属性もスケジュールに追加されます。

「テンプレートの編集」ダイアログ・ボックスで、テンプレートからスケジュールを作成します。「最新のスケジュール」列には、各テンプレートから作成された最新のスケジュールが表示されます。「スケジュール」列には、各テンプレートから作成されたスケジュールの合計数が表示されます。

テンプレートからスケジュールを作成するには、サービス管理者またはパワー・ユーザーの役割が必要です。

REST API を使用して、テンプレートからタスク・スケジュールを作成できます。これにより、期別タスク・スケジュールをすべて生成する自動ルーチンを作成できます。詳細は、の [タスク・マネージャ・テンプレートのデプロイ](#) を参照してください *Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API*

スケジュールは「保留中」ステータスで開始します。これにより、定義に最終的な変更を加える機会が与えられます。

テンプレートからスケジュールにテンプレート・タスクが追加されると、テンプレートの日ゼロとの関係に基づいて、カレンダーの日付に割り当てられます。日付は、スケジュールの休日指定した場合には、それらについての説明にもなります。たとえば、日 0 が金曜日の場合、日 1 のタスクは、週末を除くように選択していれば、次の月曜日に配置されます。「日付マップ」には、各テンプレートの日に割り当てられたデフォルトのカレンダーの日付が表示されます。「日付マップ」機能を使用すれば、日付の割当てを調整できます。




あるテンプレート内のタスクの先行タスクが、別のテンプレート内に存在する場合があります。テンプレートからスケジュールを作成するとき、別のテンプレートに先行タスクがあるタスクの先行タスクとして、スケジュールで先行タスクを選択できます。「先行タスクのリンク」タブを使用して、スケジュール内の先行タスクを選択します。「先行タスクのリンク」タブには、別のテンプレート内に先行タスクのあるすべてのタスクが表示され、これらのタスクのかわりに、スケジュール内の先行タスクを選択できます。

### ヒント:

テンプレートからスケジュールを作成するとき、タスク・タイプのタスク・パラメータでオーバーライド・オプションが有効になっていれば、そのパラメータを全体的に更新できます。[タスク・タイプ・パラメータの設定](#)を参照してください。

テンプレートからスケジュールを作成するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. スケジュールするテンプレートを選択します。
4. テンプレートの検証に成功したら、スケジュールを次のように作成します右側にある「アクション」アイコン  をクリックして「スケジュールの作成」を選択するか、リストの上にある「スケジュールの作成」アイコンをクリックします。

「スケジュール・パラメータ」タブで、次のフィールドに入力します。

- **スケジュール:** スケジュールの名前。
- **年:** スケジュールの年を選択します。
- **期間:** スケジュールの期間を選択します。
- **日ゼロの日付:** テンプレートの日ゼロに割り当てるカレンダーの日付を選択します。
- **日付マッピング:**
  - **組織単位**
  - **カレンダー日**
  - **稼働日**
  - **「拡張構成」** ダイアログ・ボックス:

スケジュール内のすべてのタスクの**組織単位**および**労働日数**の構成をオーバーライドするには、「**拡張構成**」をクリックします。

 **ヒント:**

グローバル・テンプレートを 1 つ作成しておき、地域エンティティごとにそのエンティティの休日カレンダー、タイム・ゾーンおよび労働日数の構成を考慮しながら、そのテンプレートから適切なスケジュールを作成することができます。

\* **組織単位**

次のいずれかを選択します:

- \* **タスク値の使用:** 組織単位から値を選択します
  - \* **値の設定:** (テンプレートのタスクに異なる「組織単位」値が含まれていても) 選択した組織単位がスケジュール内のすべてのタスクに適用されます。すべてのタスクの組織単位が同じであるため、テンプレートからのスケジュール・ダイアログ・ボックスの「日付マッピング」パネルでは、組織単位は読取り専用として表示されます。
  - \* **労働日数:** タスクに組織単位を割り当てず、「労働日数のオーバーライド」機能を使用しない場合、アプリケーションでは次のデフォルトが使用されます: 月曜日から金曜日までは稼働日、土曜日と日曜日は非稼働日。
- **日付マップ:** 「日付」列で、日付割当てを変更するテンプレートの日ごとに新規の日付を入力します。

 **ノート:**

「日ラベル」は、「日付マッピング」内の日付に適用されます。つまり、テンプレートの日レベルがどのようなものでも、マッピングされた日付のスケジュールに同じ内容が適用されます。

日マッピングは、日付マッピング内の組織単位によって異なる場合があります。そのテンプレート・レベルに割り当てられた組織単位がない場合、「未割当」日マッピングがスケジュールに適用されます。テンプレートに組織単位が割り当てられている場合は、その組織単位の日マッピングがスケジュールに割り当てられます。

同じ日付に複数の日がマッピングされている場合、日ラベルがカンマで連結されます。休日には空白の日ラベルが付けられます。

日付マッピングには「組織単位」ドロップダウン・リストを使用します。これには、「未割当」およびテンプレートに関連する組織単位のみが含まれます。

「スケジュールの作成」ダイアログの「組織単位」ドロップダウン・リストは、作成されるスケジュールの組織単位ではなく日付マッピングのためのものです。これには、「未割当」およびテンプレートに関連する組織単位のみが含まれます。

5. **オプション:** 「先行タスクのリンク」タブを選択し、先行タスクが含まれるスケジュールを選択して、「割当て済タスク」リストで先行タスクを選択します。
6. **オプション:** 「パラメータのオーバーライド」タブを選択し、パラメータを確認して、「新規の値」列で、変更するパラメータごとに新規の値を入力します。

 **ノート:**

「**パラメータのオーバーライド**」タブには、少なくとも 1 つのパラメータでオーバーライド・オプションが有効になっているタスク・タイプを使用するタスクのみが表示されます。

7. 「**スケジュールの作成**」をクリックします。

スケジュールが作成され、テンプレートからタスク、指示および参照者が移入されます。このステータスは「保留中」です。デフォルトでは、スケジュールが作成されるとビューで開かれます。

スケジュールを確認し、必要に応じて調整します。

## テンプレートからスケジュールを作成する際の「パラメータのオーバーライド」オプションの使用

統合タスクには、定期的に更新する必要があるパラメータがあることが一般的です。多くの統合タスクには、様々なスケジュールでのタスクの実行間で異なる**期間**パラメータがあります。たとえば、「**データ・ルールの実行**」統合タスクの「**開始期間**」および「**終了期間**」パラメータは、テンプレートから作成される様々なスケジュール内で変更する必要がある場合があります。

「**パラメータのオーバーライド**」オプションを使用すると、定期的に更新する必要があるこれらのパラメータをすばやく更新できます。

最初に、タスク・タイプで「**スケジュール設定時にオーバーライド**」プロパティを選択して、スケジュール設定時に更新する必要がある統合パラメータを指定します。新しいタスク・タイプについては、[タスク・タイプ・パラメータの設定](#)を参照してください。既存のタスク・タイプについては、[タスク・タイプの編集](#)を参照してください。

たとえば、「**データ・ルールの実行**」タスク・タイプを編集します。「**パラメータ**」タブで、「**開始期間**」および「**終了期間**」について「**スケジュール設定時にオーバーライド**」オプションを選択し、保存します。

次に、統合タスクをテンプレートに追加する際に、タスク・タイプを選択し、必要なパラメータを設定します。オーバーライドするように指定したパラメータについては、デフォルト値を指定するか、空白のままにすることができます。[テンプレートへのタスクの追加](#)を参照してください。

たとえば、「**データ・ルールの実行**」タスク・タイプを選択して、1 つ以上の「**データ・ルールの実行**」タスクをテンプレートに追加します。「**パラメータ**」タブで、「**開始期間**」に「**1月**」を入力し、「**終了期間**」に「**2月**」を入力します。

最後に、テンプレートからスケジュールを作成する際に、「**スケジュール設定時にオーバーライド**」タブを選択します。表内に、スケジュール設定時にオーバーライドするように指定されたすべてのパラメータが現在の値とともにリストされます。そのタスク・タイプを使用するすべてのタスクについて設定される、新しいパラメータ値を入力できます。

たとえば、テンプレートからスケジュールを作成する際に、「**スケジュール設定時にオーバーライド**」タブには、「**データ・ルールの実行**」の「**開始期間**」および「**終了期間**」パラメータとそれらの現在の値が表示されます。表内で値を更新すると、パラメータをオーバーライドできます。

表 26-2 スケジュール設定時のパラメータのオーバーライド

タスク・タイプ名	パラメータ名	現在の値	新規の値
データ・ルールの実行	開始期間	Jan	Feb
データ・ルールの実行	終了期間	Feb	3月

スケジュールが作成されると、「データ・ルールの実行」タスクは、「開始期間」が「2月」、「終了期間」が「3月」として設定されます。

## テンプレートの手動検証

テンプレートからスケジュールを生成するとき、システムによって自動的にテンプレートが検証され、最初に一意性の違反、相互に直接または間接的に依存しているタスク、または日付の優先度の不一致が確認されます。たとえば、循環する先行タスクがあってはなりません。

テンプレートは手動で検証できます。検証は、ファイルからタスクをテンプレートにインポートした後、問題がないかチェックするのに特に役立ちます。

検証結果には、テンプレートの名前、ステータスおよびエラー・メッセージが表示されます。検証結果のリストは、「テンプレート名」または「ステータス」でソートできます。

テンプレートを手動で検証するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. 「テンプレート」で、検証する 1 つ以上のテンプレートを選択します。
4. 「検証」をクリックします。

エラーが存在しない場合、検証結果には「テンプレートは有効です」というメッセージが表示されます。エラーが存在する場合は、エラーの詳細が表示されます。

Template Name	Status	Message
Error Template 1	✘	The template has cyclical references for task precedence. The following tasks form a cyclical reference for task precedence. Basic Template 1 Task 2, Basic Template 1 Task 1
Error Template 2	✘	The template has cyclical references for task precedence. The following tasks form a cyclical reference for task precedence. Basic Template 2 Task 2, Basic Template 2 Task 1
Template 3	✔	Template is valid
Template 4	✔	Template is valid
Template 5	✔	Template is valid

## タスク・マネージャ・テンプレートの表示

「テンプレート」ダイアログ・ボックスでは、テンプレートのリストに表示する列を指定することも、すべての列を表示することもできます。列の順序変更、昇順または降順での列のソート、または列幅の変更を行うこともできます。

列を表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. 次の 1 つ以上のタスクを行います。
  - すべての列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、「すべて表示」を選択します。
  - 特定の列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、列名を選択または選択解除します。
  - 列を並べ替えるには、「表示」、「列の順序変更」の順に選択します。列を選択してから、上下の矢印を使用するか、列をドラッグして順序を変更します。
  - 列をソートするには、「ソート」アイコンが表示されるまで列ヘッダーにマウス・カーソルを合せ、「昇順ソート」または「降順ソート」をクリックします。
  - 列の幅を変更するには、矢印が表示されるまで列ヘッダーの区切りにマウス・カーソルを合せ、適切な幅になるまで列をドラッグします。

## テンプレートの検索


「テンプレート」リストの検索機能を使用して、タスク・マネージャのテンプレートをすばやく検索できます。検索する名前の全部または一部を入力できます。フィルタ・バーを使用して、リストに表示するテンプレートを制御できます。デフォルトでは、すべてのテンプレートが表示されます。

テンプレートを検索するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. テンプレートを検索するには、「検索」テキスト・ボックスに検索条件を入力します。
4. **オプション:** フィルタ・バーでカテゴリをクリックすると、追加の検索演算子(「次と等しい」、「次と等しくない」、「次を含む」、「次を含まない」、「次で始まる」、「次で終わる」)が表示されます。

次のカテゴリを使用して、テンプレートをフィルタできます: **名前、所有者、組織単位、日 0 の後の日数、日 0 の前の日数、埋込み先、埋込みのみ、埋込みテンプレート、説明、作成者、作成日、最終更新者または最終更新日。**

 ノート:

- 「フィルタの追加」をクリックして、すべてのカテゴリを表示します。
- フィルタ・バーを非表示にするには、「フィルタ」アイコンをクリックします。
- すべてのフィルタをクリアするには、  
 アイコンで「すべてのフィルタのクリア」をクリックします。

## テンプレートの削除

不要になったタスク・マネージャ・テンプレートを削除できます。テンプレートを削除するには、テンプレートに対するセキュリティ権限が必要です。

テンプレートを削除すると、使用可能なテンプレートのリストからそのテンプレートが削除され、そのテンプレートに関連付けられているタスクが削除されます。実行中のスケジュールには直接影響しませんが、一部のレポートおよびダッシュボード・メトリックではそのテンプレートを使用して様々なスケジュール実行をリンクしている場合があり、テンプレートが削除されるとリンクできなくなります。

タスク・マネージャ・テンプレートを削除するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. テンプレートを選択し、「削除」をクリックします。
4. 確認のプロンプトで「はい」をクリックします

## タスクの管理

タスクは、データ入力やデータ連結など、ビジネス・プロセスにおけるアクションのコア単位です。

各タスクには、タスク・タイプに応じて異なるパラメータがあります。サービス管理者またはパワー・ユーザーのセキュリティ権限がある場合は、タスクを作成、編集または削除できます。

[タスクの作成](#)を参照してください。

関連項目: [サービスの管理](#)

## タスクの作成

タスクはテンプレートまたはスケジュールに追加できます。テンプレートでタスクを作成する場合は、開始日および終了日を日ゼロの前または後の日数として割り当てます。スケジュールでタスクを作成する場合は、開始日および終了日としてカレンダーの日付を選択します。

タスクを親タスクの下にグループ化することで、ビジネス・プロセスのビューを単純化できます。上位レベルの親タスクを表示した後で、基礎となるタスクにドリルできます。親タスクの子タスクは、所有者が親タスクとは異なる場合があります。

次のいずれかの方法を使用して、タスクを作成できます。

- タスク・タイプをビュー内のテンプレートまたはスケジュールにドラッグ・アンド・ドロップします。
- タスクを右クリックし、「**新規**」を選択します

次に、タスク情報を入力します。

- [タスク・プロパティの設定](#)
- [タスク・パラメータの設定](#)
- [タスクの指示の指定](#)
- [ワークフローの選択](#)
- [タスクの質問の追加](#)
- [タスク参照者の設定](#)
- [先行タスクの設定](#)
- [タスクの属性の適用](#)
- [タスク・ルールの操作](#)
- [タスク履歴の表示](#)

タスクの作成についてさらに学習するには、次のビデオをご覧ください。



[タスクの作成](#)

次のチュートリアルでは、タスクの作成に関する追加情報を説明します:



[タスク・マネージャでのタスクの表示、更新および追加](#)

## タスク・プロパティの設定

「プロパティ」ダイアログで、タスク名、タスク ID、説明、タスク・タイプ、優先度、開始日、終了日または期間を設定できます。

また、「プロパティ」を使用して、タスクの所有者と担当者を指定します。所有者または担当者が(病気、休暇、退職または単なる多忙により)タスクを処理できない場合は、タスク、テンプレートまたはスケジュールに関連付けられたユーザーを再割当てできます。テンプレート、スケジュールおよびタスクの所有者、担当者および承認者も、タスクを再割当てできます。

エンド・ユーザー・タスクについては、タスク先行条件がすべて満たされた場合、担当者が予定時間の前に保留中のタスクを開けるようにすることができます。

自動タスクには担当者はいませんが、このタイプのタスクを実行するユーザーの「別名実行」ユーザーを指定できます。

イベント・モニタリング・タスクには、担当者も「別名実行」ユーザーもありません。

タスクのプロパティを設定するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックした後、「**タスク**」タブをクリックします。

### ノート:

レッドウッド・エクスペリエンスを有効にしている場合、「**タスク**」タブは、ページの上部ではなく下部に表示されます。

3. タスクを開きます。
4. 「**プロパティ**」をクリックし、次の情報を入力します。
  - **タスク名:** 最大 80 文字まで入力できます。
  - **タスク ID:** タスクを識別します(必須)。タスク ID は、テンプレートまたはスケジュール内で一意である必要があります。80 文字以下で入力します。
  - **説明:** 最大 255 文字まで入力できます。


### ノート:

「説明」、「質問」、「指示」では改行や URL を使用できます。

- **組織単位:** 組織のモデル化に使用できる階層型のエンティティタイプ構造を表します。別々にレポートする必要のある各エンティティに対して、あるいはタイム・ゾーン、休日、労働日数、参照者の割当てまたはコメント作成者の割当て



て用に異なる構成が必要なエンティティに対して、別々の組織単位を定義します。組織単位はシステム設定で定義します。

- **タスク・タイプ:** 虫眼鏡をクリックし、タスク・タイプを選択します(必須)。
- 「優先度」については、次のオプションから選択します:
  - 高
  - 中
  - 低
- **所有者:** デフォルトの所有者を使用するか、「所有者の選択」をクリックしてユーザーまたはグループを選択します。
- 「アクティブ」を選択して、このタスクをテンプレートから生成されたスケジュールに組み込みます。

#### ノート:

このオプションは、スケジュールで作成されたタスクには使用できません。

5. 「保存して閉じる」をクリックします。

6. 関連項目:

- [タスク・パラメータの設定](#)
- [タスクの指示の指定](#)
- [ワークフローの選択](#)
- [タスクの質問の追加](#)
- [タスク参照者の設定](#)
- [先行タスクの設定](#)
- [タスクの属性の適用](#)
- [タスク・ルールの操作](#)
- [タスク履歴の表示](#)

## タスク・パラメータの設定

「パラメータ」ダイアログには、統合タイプと関連付けられ、パラメータを持つタスクのデータのみが表示されます。統合タイプは、外部アプリケーションとリンクしています。「パラメータ」では、タスクに関する特定の情報や、実行方法を設定できます。パラメータは外部アプリケーションに渡されます。たとえば、タスクにデータ・グリッドへのリンクが含まれている場合、「パラメータ」ダイアログを使用して、グリッドの視点を選択できます。

タスクのパラメータを設定するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックした後、「タスク」タブをクリックします。

 ノート:

レッドウッド・エクスペリエンスを有効にしている場合、「**タスク**」タブは、ページの上部ではなく下部に表示されます。

3. 「**新規タスク**」または「**タスクの編集**」ダイアログ・ボックスで、「**パラメータ**」をクリックします。
4. パラメータ値がタスク・タイプによって入力されない場合は、必要なパラメータ値を入力できます。

 ノート:

タスクの開始準備ができていないのにパラメータが定義されていない場合、タスク所有者に電子メールが送信されます。値が入力されるまでタスクは開始を待機します。

5. 関連項目:
  - [タスク・プロパティの設定](#)
  - [タスクの指示の指定](#)
  - [ワークフローの選択](#)
  - [タスクの質問の追加](#)
  - [タスク参照者の設定](#)
  - [先行タスクの設定](#)
  - [タスクの属性の適用](#)
  - [タスク・ルールの操作](#)
  - [タスク履歴の表示](#)

## タスクの指示の指定

タスク所有者は、タスクを完了するための一連の指示を作成できます。タスクへのアクセス権を持つ他のすべてのユーザーは、指示を読むことのみ可能です。タスク・タイプ、テンプレートまたはスケジュールから継承されたタスク指示がある場合は、指示テキストが指示テキスト・ボックスの上に読取り専用で表示されます。

テンプレート・タスクの場合、テンプレートとタスク・タイプの指示を表示できますが、編集はできません。

指示を指定するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックした後、「**タスク**」タブをクリックします。

 ノート:

レッドウッド・エクスペリエンスを有効にしている場合、「タスク」タブは、ページの上部ではなく下部に表示されます。

3. 「新規タスク」または「タスクの編集」ダイアログ・ボックスで、「指示」をクリックします。
4. 「指示」に入力します(文字数に制限はありません)。

参照を追加するには:

1. 「参照」セクションで、「追加」をクリックします。
2. 「参照タイプ」リストから、次のいずれかのタイプを選択します。
  - ローカル・ファイル: 「ファイルの選択」をクリックし、ファイルを選択して添付し、「名前」を入力して、「OK」をクリックします。
  - URL: 「URL」と URL の「名前」を入力します(例: <http://www.oracle.com>、Oracle)。

 ノート:

参照ファイルまたは URL を一度に複数のタスクに追加するには:

- a. 「タスクの編集」ページに移動します。
- b. 複数の行を強調表示するか、[Shift]キーを使用して複数の行を選択すると、複数選択でき、「アクション」、「参照の追加」、「ファイル」または「URL」の順にクリックします。

 ノート:

また、「添付の追加」ダイアログ・ボックスに用意されているドラッグ・アンド・ドロップ機能を使用して、1 つ以上の添付を追加することもできます。必要に応じて、「名前」フィールドで添付の名前を変更できます。複数の添付をドラッグ・アンド・ドロップする場合、これらを一度にアップロードできます。

添付を正確にドラッグ・アンド・ドロップするには、「添付の追加」ダイアログ・ボックスにアクセスする必要があります。

3. 関連項目:
  - [タスク・プロパティの設定](#)
  - [タスク・パラメータの設定](#)
  - [ワークフローの選択](#)
  - [タスクの質問の追加](#)
  - [タスク参照者の設定](#)
  - [先行タスクの設定](#)
  - [タスクの属性の適用](#)

- タスク・ルールの操作
- タスク履歴の表示

## ワークフローの選択

「タスク・マネージャ」ワークフローを選択するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックした後、「タスク」タブをクリックします。

### ノート:


レッドウッド・エクスペリエンスを有効にしている場合、「タスク」タブは、ページの上部ではなく下部に表示されます。

3. 「新規タスク」または「タスクの編集」ダイアログ・ボックスで、「ワークフロー」をクリックします。
4. 「ワークフロー」セクションには、担当者と承認者の割当てが含まれます。

### ノート:

ワークフロー内で同じユーザーを複数の役割に割り当てることはできません。

担当者について、次の情報を入力します:

- **担当者:** 名前付きユーザーまたは Shared Services グループに担当者を割り当てることを選択するには、 をクリックします。

各ワークフロー・ステージで「実際」属性が使用可能で、完了したワークフローの実際のユーザー（「担当者(実際)」など）を示します。ワークフローでは、ユーザー・ステータスに関係なく、タスクで作業を実行したユーザーが「実際」列に示されます。

### ノート:

当初のユーザーがタスクを完了した後にタスクが再割当てされた場合は、追加のユーザー情報のみが表示されます。

エンド・ユーザー・タスクの場合、「担当者」については、「担当者の選択」




をクリックしてユーザーを検索します。

担当者を選択しない場合、所有者がデフォルトの担当者になります。親タスクと自動タスクには、担当者はいません。

 **ノート:**

プロセスが自動化されたタスクの場合、「**別名実行**」をクリックし、このタイプのタスクを実行するユーザーを検索して選択し、「**OK**」をクリックします。

選択した「**別名実行**」ユーザーがタスクも作成したユーザーである場合、そのユーザーは、パスワードの再入力を要求されずにタスクを許可できます。

- **バックアップ:** ユーザーをプライマリ担当者として割り当てた場合、担当者の権限を持つバックアップ・ユーザーを割り当てることができます。
  - a. 「**バックアップ**」  をクリックします。
  - b. 「**名**」および「**姓**」を入力するか、「**検索**」をクリックしてバックアップ・ユーザーを選択します。
  - c. 「**OK**」をクリックします。
- **開始:** 開始日を選択し、タスクを開始する時刻を 15 分単位で選択します。
- **終了:** 終了日を選択し、タスクを終了する時刻を 15 分単位で選択します。
- **オプション:** 「**最小期間**」では、「**日**」、「**時間**」、「**分**」の形式でタスクの最小期間を入力します。「**リスクあり**」の基準は、開始日を過ぎており、**かつ**、(終了日 - 現在の日付が最小タスク期間より短い**か**、**または**終了日 - 開始日が最小期間より短い)という条件に基づきます。「**リスクあり**」のタスクは、ダッシュボードの「**ステータス・チャート**」の「**要注意**」グラフに表示されます。
- **オプション:** エンド・ユーザー・タスクの場合、「**先行開始を許可する**」を選択し、担当者が予定開始時刻の前にタスクを開けるようにします。

承認者について、次の情報を入力します:

- **レベル**
- **名前**
- **バックアップ**
- **終了日**

5. 関連項目:

- [タスク・プロパティの設定](#)
- [タスク・パラメータの設定](#)
- [タスクの質問の追加](#)
- [タスク参照者の設定](#)
- [先行タスクの設定](#)
- [タスクの属性の適用](#)
- [タスク・ルールの操作](#)
- [タスク履歴の表示](#)

## タスクの質問の追加

### ノート:

「質問」タブは、自動タスクまたは親タスクに対しては表示されません。

タスクを作成する場合、担当者がタスクの完了を示す前にアクションに関する質問に回答することが必要な場合があります。たとえば、タスクの完了時に特定のプロセスが続いて実行されたかどうかを質問できます。

タスクに対して質問を指定できます。テキスト、数値、True/False など、様々なタイプの質問を指定でき、それらが必須かどうかを指定できます。質問が必須の場合、ユーザーは質問に回答する必要があり、回答しないと承認のためにタスクを送信できません。「上へ移動」および「下へ移動」ボタンを使用して、質問を並べ替えることもできます。

スケジュール・タスクの場合、ユーザーは、「タスク・アクション」ページから質問に回答できます。テンプレートのタスクを作成または更新している場合は、行がロックされているかどうかを表示して、ユーザーが質問を削除または更新できるかどうかを示す追加の列が表示されます。ロックされている行は、「タスク・タイプ」から継承されているため編集または削除できません。

テンプレートには、「タスク・タイプ」の質問は表示されますが、編集はできません。

### ノート:

タスクの「参照者」の役割を持つユーザーのみが質問に回答できます。

質問を追加するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックした後、「タスク」タブをクリックします。

### ノート:

レッドウッド・エクスペリエンスを有効にしている場合、「タスク」タブは、ページの上部ではなく下部に表示されます。

3. 「新規タスク」または「タスクの編集」ダイアログ・ボックスで、「質問」をクリックします。
4. 「追加」をクリックします。
5. 「質問」に 2000 文字以下で入力します。
6. 「タイプ」で、次のオプションから選択します:
  - 日付

- **日付/時間**
  - **整数:** -2147483648 から 2147483647 までの値を入力します。
  - **リスト:** 質問に対する有効な回答のリストを入力します(255 文字まで)。
  - **複数行のテキスト:** 3 から 50 行までの「行数」を入力します。最大 4000 文字を入力できます。「複数行のテキスト」では、「アクション」ダイアログ・ボックスで、スクロールせずに表示できるテキストの行数を決定します。添付用のセクションを作成する場合、「添付」を選択します。
  - **数値:** 値 xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx.xxxxxxxxx (17 桁と小数点以下 9 桁)を入力します。  
数値のフォーマット・オプションを選択します:
    - 「**小数点以下の桁数**」には、表示する小数点以下の桁数の値を入力します。
    - 「**パーセンテージとして表示**」については、パーセンテージを表示する場合に選択します。
    - 1,000.00 のように、数値に 3 桁ごとの区切り文字を表示する場合は、「**3 桁ごとの区切り文字**」オプションを選択します。
    - 「**通貨記号**」では、通貨記号を選択します(例: \$ (米国ドル))。
    - 「**負数**」では、(123)など、負数の表示方法を選択します。
    - 「**スケール**」では、数値のスケール値(1000 や 1000000000000 など)を選択します。
  - **True/False**
  - **テキスト:** 最大 4000 文字まで入力できます。
  - **ユーザー**
  - **はいいいえ**
7. 質問に「役割」(「担当者」、「承認者」、「所有者」、「参照者」)を割り当てます。アクセス権は責任に基づきます。
  8. 質問が必須の場合は、「必須」を選択します  
「必須」チェック・ボックスは、所有者や参照者の役割に割り当てられた質問では無効になっています。
  9. 「OK」をクリックします。
  10. **オプション:** 質問の順序を変更するには、質問を選択し、「一番上へ移動」、「上へ移動」、「下へ移動」または「一番下へ移動」をクリックします。
  11. **オプション:** 質問を編集するには、質問を選択し、「編集」をクリックします質問を削除するには、質問を選択し、「削除」をクリックします
  12. 関連項目:
    - [タスク・プロパティの設定](#)
    - [タスク・パラメータの設定](#)
    - [タスクの指示の指定](#)
    - [タスクの質問の追加](#)
    - [タスク参照者の設定](#)
    - [先行タスクの設定](#)

- [タスクの属性の適用](#)
- [タスク・ルールの操作](#)
- [タスク履歴の表示](#)

## タスク参照者の設定

「参照者」タブでは、現在のタスクの参照者を追加または削除できます。参照者は数に制限なく指定できます。

タスクのアクセスを設定するには:

1. 「新規タスク」ダイアログ・ボックスで、「参照者」タブを選択します。
2. ユーザーの姓名を入力し、「検索」をクリックします  
ユーザーを明確に識別するには、「詳細」をクリックし、「ユーザー ID」または「電子メール」アドレスを入力します。

### ヒント:

グループや役割など、ユーザーに関する詳細は、「詳細」をクリックします

3. 「参照者」リストからユーザーを削除するには、ユーザーを選択し、「削除」をクリックします。
4. 関連項目:
  - [タスク・プロパティの設定](#)
  - [タスク・パラメータの設定](#)
  - [タスクの指示の指定](#)
  - [ワークフローの選択](#)
  - [タスクの質問の追加](#)
  - [先行タスクの設定](#)
  - [タスクの属性の適用](#)
  - [タスク・ルールの操作](#)
  - [タスク履歴の表示](#)

## 先行タスクの設定

「先行」タブでは、現在のタスクに対して先行タスクを設定できます。テンプレート・タスクの場合は、別のテンプレートから先行タスクを選択でき、スケジュール・タスクの場合は、別のスケジュールから先行タスクを選択できます。先行/後続関係に条件を割り当てる必要があります。

開始日時が指定されているかぎり、タスクに先行タスクは不要です。両方が指定されている場合は、先行タスクが開始または完了(「終了時に開始」の場合)し、開始日時に達したときにタスクが開始します。



先行関係が確立される次の条件を設定できます:

条件	説明
終了時に開始	デフォルトです。タスクは先行タスクが完了するか警告で終了するとすぐに開始します。
エラー終了時に開始	タスクは、先行タスクがエラーの場合でも、先行タスクが完了するとすぐに開始します。
エラー終了時に終了	タスクは、先行タスクがエラーの場合でも、先行タスクが完了するとすぐに完了します。
終了時に終了	先行タスクが完了としてマークされるまでは、タスクを完了としてマークできません。これは主にユーザー・タスクに使用されます。たとえば、ユーザーはドキュメントのサマリーを開始できますが、連結データが最終になるまでは完了としてマークできません。

先行タスクを設定するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックした後、「タスク」タブをクリックします。

 **ノート:**

レッドウッド・エクスペリエンスを有効にしている場合、「タスク」タブは、ページの上ではなく下部に表示されます。

3. 「新規タスク」または「タスクの編集」ダイアログ・ボックスで、「先行」タブを選択します。
4. 「追加」をクリックします。
5. 先行タスクを検索するには:
  - a. 「基本」をクリックします。
  - b. 検索を絞り込むには、「フィールドの追加」をクリックし、検索フィールド(実行タイプ、開始日、終了日など)を選択します。
  - c. 各「条件」リストから条件を選択します。
  - d. 「OK」をクリックします。
6. 先行タスクを選択し、「OK」をクリックします。
7. 関連項目:
  - [タスク・プロパティの設定](#)
  - [タスク・パラメータの設定](#)
  - [タスクの指示の指定](#)
  - [ワークフローの選択](#)
  - [タスクの質問の追加](#)
  - [タスク参照者の設定](#)

- [タスクの属性の適用](#)
- [タスク・ルールの操作](#)
- [タスク履歴の表示](#)

## タスクの属性の適用

システムでタスクを見つけるために、属性をタスクに適用できます。属性を選択する際に、属性タイプに基づいて属性の値を設定できます。後で属性値によってフィルタ処理できます。

たとえば、「北部」、「南部」、「東部」および「西部」という値を持つ「販売地域」という名前の「リスト」属性を持つことができます。現在のタスクは西部販売地域にのみ適用されるため、「販売地域」属性を追加し、この属性を「西部」に設定できます。

タスク属性を適用するには:

1. タスクを開き、「**属性**」タブを選択します。  
「**追加**」をクリックし、次の情報を入力します:
  - **属性:** 定義された属性のリストから属性を選択します。
  - **タイプ:** このフィールドは編集不可であり、属性によってデータが移入されます。
  - **値:** 属性のタイプに関連付けられた値を選択します。たとえば、フォーマット済数値属性の場合は数値、「リスト」属性の場合はリスト、「複数行のテキスト」の場合はスクロールせずに表示できる複数行のテキスト、「ユーザー」の場合は個人名、「はいいいえ」属性の場合は「はい」または「いいえ」です。
  - **アクセス:** 次で指定しないかぎり、すべての役割に表示アクセス権があります。アクセス権を追加するには、それぞれの「テキスト・ボックス」タブおよび「添付」タブで:
    - a. 「**追加**」をクリックします。
    - b. 役割を選択します。
    - c. 役割アクセス・タイプのいずれかを選択します:
      - **表示しない:** この属性は、ダッシュボード、リスト・ビューまたはレポートのいずれにも表示されません。
      - **編集を許可:** 属性の値を追加、変更および削除する権限がありますが、編集ルールの対象です。
      - **必須:** 属性に値が必要です。
2. 「**OK**」をクリックします。
3. 関連項目:
  - [タスク・プロパティの設定](#)
  - [タスク・パラメータの設定](#)
  - [タスクの指示の指定](#)
  - [ワークフローの選択](#)
  - [タスクの質問の追加](#)

- [タスク参照者の設定](#)
- [先行タスクの設定](#)
- [タスク・ルールの操作](#)
- [タスク履歴の表示](#)

## タスク・ルールの操作

タスク・ルールはタスクの動作に影響します。これらのルールを使用すると、特に、ルールがタスクに対して一意になるため、テンプレート・レベル、スケジュール・レベルまたはタスク・タイプ・レベルでのルールの割当てが適切でない場合に、ルールをタスクに直接割り当てられます。これらのルールは、ルールが構成されたタスクに対して適用されます。

使用可能なタスク・ルール:

- **タスクの自動承認:** 指定された条件を満たしている場合にのみ、指定された承認を自動的に完了します。

このルールに適用される条件の例を次に示します。

- 属性に指定の値がある(計算済属性を含む)
- 先行タスクに指定の値を持つ属性が含まれる

条件を満たすと、指定の承認者レベルが完了としてマークされ、これによりワークフローが次の承認レベルに進むか、他に承認レベルがない場合は「クローズ済」になります。

このルールは、タスク・ステータスが「オープン(承認者)」に変更されたときに実行されます。

- **タスクの自動送信** - 指定された条件を満たしている場合、タスクを自動的に送信します。

条件を満たすと、担当者役割が完了としてマークされ、これによりワークフローが最初の承認レベルに進むか、承認レベルがない場合は「クローズ済」になります。

このルールは、タスク・ステータスが「保留中」からオープン(担当者)に変更されたときに実行されます。


- **タスク承認の防止:** 属性値または他の特性に基づいて、タスクが承認されないようにします。このルールは、承認者が「承認」をクリックすると実行されます。
- **タスク送信の防止:** 属性値または他の特性に基づいて、タスクが送信されないようにします。このルールは、担当者が「送信」をクリックすると実行されます。
- **更新時に電子メールを送信:** このルールは、タスクに対するユーザー・アクションに基づいて実行されます。したがって、ルールの条件を適切に設定する必要があります。最も一般的な条件は、「ステータス」属性または「ステータス(詳細)」属性を含む条件です:

- 「ステータス」属性: 選択できる有効な値は、「クローズ済」のみです。「保留中」、「オープン」および「エラー」はすべて、タスクに対する自動アクションによって生じるステータスです。
- 「ステータス(詳細)」属性: 有効なステータスは、承認者を含むものです。

タスク・ルールを操作するには:

1. ホーム・ページで、「タスク」、「スケジュール・タスク」の順にクリックします
2. 「ルール」タブを選択して「新規ルール」を開きます。次の情報を表示できます:
  - **順序:** 優先順位。

- **ルール:** ルールの名前
  - **条件:** ルールを実行する前に存在している必要がある条件の選択
3. 「**ルール**」で、使用するルール・タイプを選択します。
- **タスクの自動承認**
  - **タスクの自動送信**
  - **タスク送信の防止**
  - **タスク承認の防止**
  - **タスク却下の防止**
  - **更新時に電子メールを送信**
  - 「**フィルタの作成**」を選択して条件セクションに移入するか、「**保存済フィルタの使用**」を選択してからフィルタを選択します。ルールに対して選択および構成されたフィルタが、適用するルールをトリガーする条件を決定します。

 **ノート:**

ルール定義に変更を加えると、追加情報が監査ログに追加されます。変更は、「**履歴**」タブおよび「**監査レポート**」の両方に表示できます。

4. **オプション:** 「**説明**」で、ルールを構成した理由と使用方法を説明します。
5. 「**承認者レベル**」では、「**すべてのレベル**」のルールを選択するか、承認者レベルを選択します。
6. フィルタを選択し、適用するルールをトリガーする条件を決定します。
- **保存済フィルタの使用:** 「条件」セクションに、保存済フィルタに関連付けられた条件の読取り専用バージョンが表示されます。
  - **フィルタの作成:** 「条件」セクションが有効になります。詳細フィルタに適用する条件を選択します: 「**組合せ**」、「**ソース**」、「**属性**」、「**演算子**」および「**値**」。
7. 「**タスクのフィルタ**」で、条件を適用する対象のタスクを選択します: 「**現在のタスク**」、「**任意の先行**」、「**特定のタスク**」(「**タスク ID**」を指定)。
8. 関連項目:
- [タスク・プロパティの設定](#)
  - [タスク・パラメータの設定](#)
  - [タスクの指示の指定](#)
  - [ワークフローの選択](#)
  - [タスクの質問の追加](#)
  - [タスク参照者の設定](#)
  - [先行タスクの設定](#)
  - [タスクの属性の適用](#)
  - [タスク履歴の表示](#)

## タスク履歴の表示

各タスクについて、システムでは、日付の入替えや所有権の変更など、タスクに対して行われた変更の履歴を保持します。各変更レコードには、フィールド、追加、作成、変更などの変更タイプ、古い値と新規の値、変更を行ったユーザー、および変更が行われた日付が含まれます。このタブの情報は読取り専用です。

タスク履歴を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. タスクを選択します。
3. 右側の「**履歴**」タブを選択します。
4. 終了したら、「**保存して閉じる**」をクリックします。

## 「タスク」ダイアログ・ボックスの操作

「スケジュール・タスク」ページからタスクのリストを表示できます。使用可能なスケジュール・リストを日付またはステータス別にフィルタできます。

「タスクのスケジュール設定」ページからタスクを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします
2. 「**スケジュール**」でスケジュールを選択するか、リストをフィルタしない場合は「**すべて**」を選択します。
3. **オプション:** スケジュール・リストを年または期間別にフィルタするには、「**年**」および「**期間**」を選択します。
4. **オプション:** スケジュール・リストをステータスでフィルタするには、「**スケジュールのステータス**」でステータスを選択します。
5. タスクを選択します。
6. 右側の「**プロパティ**」タブをクリックすると、次のフィールドが表示されます。
  - **名前**
  - **タスク ID**
  - **ステータス**
  - **スケジュール**
  - **優先度**
  - **タスク・タイプ**
  - **タスク・タイプ**
  - **説明**
  - **所有者**
  - **開始日**
  - **終了日**
  - **期間**

- 実際の開始日
  - 実際の終了日
  - 実際の期間
7. 「指示」をクリックすると、指示が表示されます。
  8. 「アラート」をクリックすると、現在のアラートが表示されます。
  9. 「ワークフロー」をクリックすると、タスクの担当者が表示されます。
  10. 「属性」をクリックすると、タスクの属性が表示されます。
  11. 「質問」をクリックすると、タスクに対して投稿された質問が表示されます。
  12. 「コメント」をクリックすると、タスクに対して投稿されたコメントが表示されます。
  13. 「関連タスク」をクリックすると、関連タスクが表示されます。先行タスクまたは後続タスクを表示できます。
  14. 「パラメータ」をクリックすると、ダッシュボード、クラスタ、アプリケーションなどが表示されます。
  15. 「履歴」をクリックすると、タスクの変更の監査証跡が取得されます。「すべてのアクティビティ」、「過去 7 日間」、「今日」などの、タスクのアクティビティを表示できます。
  16. 「アクション」をクリックして、次のアクションのいずれかを選択します:
    - タスクの送信
    - タスクの中止: タスクを取り消します。タスクを(強制的にクローズするのではなく)取り消す目的は、プロセスの進行を妨げずに、後続タスクの続行を回避することです。
    - タスクの強制クローズ
    - リフレッシュ
  17. 「閉じる」をクリックします。

## タスクのインポートおよびエクスポート

### タスクのインポート

タスクをインポートするには:

1. ホーム・ページで、「タスク」、「スケジュール・タスク」の順にクリックします。
2. タスクを選択し、「アクション」、「タスクのインポート」の順にクリックします。
3. 「参照」をクリックしてインポート・ファイルを検索します。
4. 「インポート・タイプ」を選択します。
  - 置換: タスクの定義を、インポート・ファイル内の定義に置き換えます。このオプションでは、タスクの詳細を、インポートするファイル内の詳細に置き換えます。インポート・ファイルに指定されていないスケジュール内の他のタスクには影響しません。

スケジュール内のタスクで、インポート・ファイル内のタスク ID に一致するものが変更されるという警告が表示されます。タスクを上書きしない場合は、「**取消し**」をクリックします。

「**添付の保持**」チェックボックスを選択して、置き換えられるタスクの添付を保持できます。

- **更新:** タスクの部分的な情報を更新します。たとえば、インポート・ファイルで、タスクの指示の変更、所有者、担当者および承認者の再割当て、あるいは一部の属性の削除と新しい属性の追加を行った場合が考えられます。また、同じ変更を多数のタスクに行った(400 タスクのうち 100 のタスクに新しい属性を追加するなど)場合も考えられます。更新オプションは、タスクの詳細を完全に置き換えるものではありません。ファイルに指定されているタスク・プロパティの詳細のみが更新されます。たとえば、インポート・ファイルにタスクの指示の列しかない場合、タスクの名前、担当者、属性やその他のプロパティには影響しません。
  - **削除:** ファイルで提供されるタスク ID のリストに基づいてタスクと関連情報を削除します。削除を実行するために必要な情報は、タスク ID の列を含むファイルです。
5. 「**日付フォーマット**」を選択します。  
使用可能な日付フォーマットのドロップダウン・リストから、フォーマットを選択します。日付フォーマットは変換されません。デフォルトで、日付フォーマットはエクスポートされたファイルの場所のロケールの日付フォーマットに設定されます。
  6. インポート・ファイルの「**ファイル区切り文字**」として「**カンマ**」または「**タブ**」を選択します。「**他の区切り文字**」として任意の 1 文字を指定するには、「**その他**」を選択します。
  7. 「**インポート**」をクリックします。

### タスクのエクスポート

タスクをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. タスクを選択し、「**アクション**」、「**タスクのエクスポート**」の順に選択します。
3. 「**エクスポート**」オプションを選択します。
  - 「**すべてのタスク**」または「**選択したタスク**」を選択します
  - 「**フォーマット**」の場合、「**フォーマットされたデータ(表示列のみ)**」または「**今後のインポート用のフォーマットされていないデータ**」を選択します。

#### ノート:

管理者またはパワー・ユーザーの場合は、フォーマットを選択できます。ユーザー・セキュリティ権限を持っている場合、デフォルトの「**フォーマット**」オプションは「**フォーマットされたデータ(表示列のみ)**」であり、これは変更できません。

4. 「**エクスポート**」をクリックします。「**フォーマットされたデータ(表示列のみ)**」または「**今後のインポート用のフォーマットされていないデータ**」のどちらを選択したかに応じて、ファイルが Excel 形式または CSV 形式でダウンロードされます。
5. 「**閉じる**」をクリックします。

## タスクの編集

ステータスとセキュリティ権限に応じてタスクを編集できます。たとえば、タスクの説明、属性または終了日を編集できます。

タスク・リストの「オープン」タスクについては、タスクが開始しているため、開始日を編集できません。期間または終了日のみ変更できます。指示、質問、担当者または承認者は編集できず、先行タスクの追加、削除または編集もできません。担当者または承認者は、「タスク・アクション」ワークフローから再割当てできます。

タスクを編集するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックし、編集するタスクを強調表示します。「**編集**」アイコンが有効になります。
2. 「**編集**」アイコンをクリックします。
3. タスク属性を編集するには:  
「**属性**」タブをクリックします。

属性を追加するには、「**追加**」アイコンをクリックして「**属性の割当の追加**」ダイアログ・ボックスを表示し、次の選択を行います:

- **属性:** 定義された属性のリストから属性を選択します。
  - **タイプ:** この編集不可のフィールドには、属性によってデータが移入されます。
  - **値:** 属性のタイプに関連付けられた値を選択します。たとえば、フォーマット済数値属性の場合は数値、「リスト」属性の場合はリスト、「複数行のテキスト」の場合はスクロールせずに表示できる複数行のテキスト、「ユーザー」の場合は個人名、「はいいいえ」属性の場合は「はい」または「いいえ」です。
  - **アクセス:** 属性へのアクセス権を選択します。
4. 「**OK**」をクリックします。

## 添付の追加

タスクに含める必要のある添付(Word ファイル、Excel スプレッドシートやその他のドキュメント)がある場合、次のいずれかの方法を使用してドキュメントをタスクに添付できます。複数のアイテムを同時に添付できます。「**OK**」をクリックすると、添付したすべてのドキュメントがシステムによってアップロードされます。

タスクに添付を追加するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. タスクを選択します。
3. 「**コメント**」タブを選択します。
4. 「**添付ドキュメント**」アイコンをクリックし、「**添付の追加**」ダイアログ・ボックスを開きます。
5. 次のいずれかのオプションを使用してドキュメントを添付します。
  - ドキュメントの場所を参照します。



- ドキュメントをローカル・ディレクトリから直接ドラッグ・アンド・ドロップします。
6. **オプション:** ドキュメントの名前を変更します。
  7. 「OK」をクリックします。

## タスクのソート

「タスク・リスト」から、タスクを昇順または降順にソートできます。「スケジュール名」、「ステータス」、「所有者」、「開始日」、「終了日」または「期間」でソートできます。

タスクをソートするには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. 「ソート」アイコンが表示されるまで列ヘッダーにマウス・カーソルを合せ、「**昇順ソート**」または「**降順ソート**」をクリックします。

## タスクの検索

「タスク検索」機能を使用して、特定のタスクを検索できます。たとえば、「ロード」と入力してロード・タスクを検索できます。単語全体またはその一部を使用して検索できます。「前」ボタンと「次」ボタンを使用して結果をスクロールできます。

タスクを検索するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. 「**検索**」フィールドにタスク名を入力します。
3. 「**前**」または「**次**」をクリックして、検索条件に一致する前または次のタスクを検索します。

## タスクの移動

ビューを使用して、タスクを移動できます。たとえば、「ガント」ビューでタスクを移動できます。

タスクを移動するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. タスクを選択します。
3. タスクを右クリックし、新しい場所にドラッグするか、タスクを切り取り、コピーおよび貼付けします。
4. タスクの移動先に移動し、「OK」をクリックします。

## タスクの切り取り、コピー、貼付け

ビューを使用して、テンプレートおよびスケジュール内のタスクの切り取りとコピーができます。たとえば、あるスケジュールまたはテンプレートからタスクをコピーし、それを別のテンプレートまたはスケジュールに貼り付けることができます。

タスクを貼り付けると、「タスクの詳細」ダイアログ・ボックスが開き、貼り付けているタスクに変更を加えることができます。

タスクを親タスクに貼り付けた場合、貼り付けられたタスクは親タスクの子になります。タスクを子タスクに貼り付けると、貼り付けたタスクは子タスクの兄弟になります。

#### ノート:

「切り取り」、「コピー」および「貼付け」機能は、親タスクには使用できません。「切り取り」機能は、スケジュールされた(オープンまたはクローズ済)タスクには使用できません。

タスクを切り取り、コピーまたは貼付けするには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックし、タスクを選択します。
2. タスクを右クリックし、アクションを選択するか、メイン・ツールバーから「**アクション**」をクリックし、次のものを選択します:
  - **切り取り**: タスクを切り取り、クリップボードに保管します。
  - **コピー**: タスクをコピーし、クリップボードに保管します。
3. タスクを右クリックし、「**貼付け**」を選択するか、メイン・メニューのツールバーから「**アクション**」をクリックし、「**貼付け**」を選択します。  
「**タスクの詳細**」ダイアログ・ボックスが開き、貼り付けるタスクに変更を加えることができます。
4. 「**OK**」をクリックして貼付け操作を完了します。

タスクが挿入され、ビューおよびフィルタ・ビューがリフレッシュされて、貼り付けられたタスクが表示されます。

## 手動タスクおよび自動タスクを再度開く

タスクを再度開き、先行と後続の関係の再確立を選択できます。これは、手動エンド・ユーザー・タスクおよび自動タスクの両方で使用可能です。自動タスクを再度開くと、同じパラメータを使用してタスクが実行されます。自動タスクのパラメータを変更する必要がある場合は、クローズ済自動タスクを編集して「**タスクの再オープン**」を選択します。



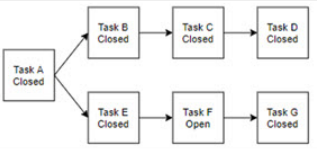
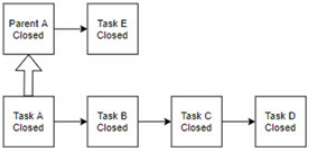
### 手動タスクを再度開く

タスクを再度開くには:

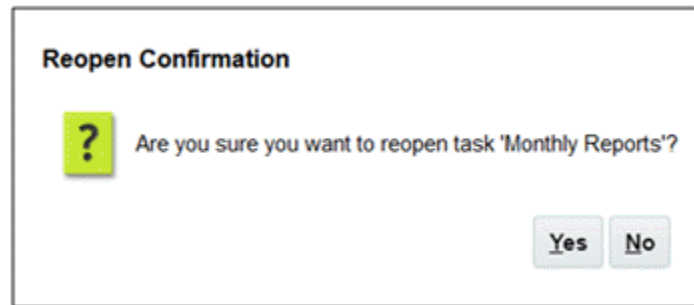
1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. 閉じられたタスクを選択して「**オープン**」をクリックするか、またはタスク名をクリックします。
3. 「**アクション**」ダイアログで、「**アクション**」メニューから「**タスクの再オープン**」を選択します。

タスクが再度開いたときに、自動的に再度開き、先行リンクを復元する後続を選択できます。後続タスクのリストから、すべて、なし(デフォルト)、またはサブセットを選択して再度開くことができます。

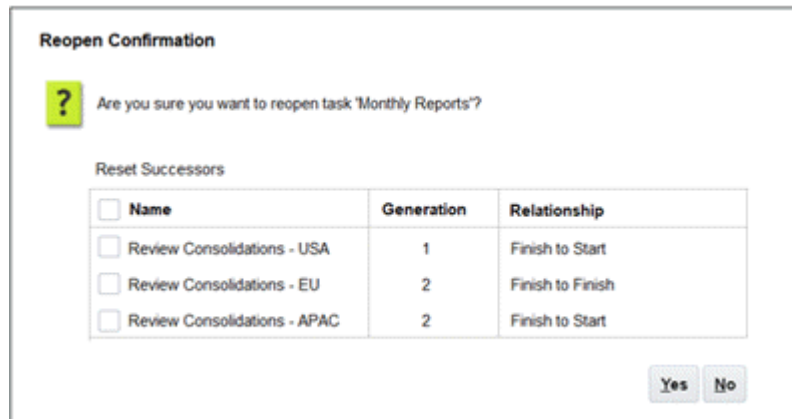
表 27-1 後続タイプ - ユース・ケースの例

後続タイプ	説明	ユースケースの例
直接後続	最も単純なケースは単一行の後続で、これが最も一般的なケースです。再度開くタスクの後続である閉じられたタスクまたはエラー・タスク(頻度は低い)はそれぞれ、再度開くのに適格です	 <p>タスク A が再度開くと、タスク B、タスク C およびタスク D は再度開くことができます。</p>
混合ステータス後続	開いているタスクまたは保留中のタスクに遭遇すると、そのタスクおよび後続のすべてのタスクは再度開くのに適格になります。	 <p>タスク A が再度開くと、タスク B のみ再度開くことができます。</p>
複数後続	1 つのタスクに複数の後続を含めることができます。適格なタスクを決定するために、各分岐をたどる必要があります。これにより、ツリー下部へのすべての経路が拡張します。	 <p>タスク A が再度開くと、タスク B、タスク C、タスク D およびタスク E は再度開くことができます。</p>
親タスク	親タスクは、子タスクが再度開く前に閉じられた場合、自動的に再度開きます。この場合、親のすべての後続タスクは再度開くのに適格です。	 <p>タスク A が再度開くと、タスク B、タスク C、タスク D およびタスク E は再度開くことができます。親 A は自動的に再度開きます。</p>

- 適格な後続タスクがない場合は、「**タスクの再オープン**」ダイアログに、指定したタスクを再度開くように要求する確認メッセージが表示されます。



- ダイアログを閉じてタスクを再度開くには、「はい」をクリックします。
- タスクを再度開かずにダイアログを閉じるには、「いいえ」をクリックします。
- 再度開くタスクの適格な後続がある場合は、「タスクの再オープン」ダイアログに、チェック・ボックス付きの後続がリストされた確認メッセージが表示され、再度開く後続を選択できます。



- 「名前」チェック・ボックス: 「名前」チェック・ボックスを選択すると、後続の全選択と全選択解除が切り替わります。デフォルトで、これは選択されておらず、すべてのタスクは選択されていません。
  - 後続名: 後続タスクの横にあるチェック・ボックスを選択すると、タスクが再度開いたときにタスクがリセットされます。
  - 世代: 再度開かれるタスクからの距離を示す読取り専用フィールド。親タスクはこの計算の一部としてカウントされません。
  - 関係: 再度開かれるタスクとの関係が表示される読取り専用フィールド。
  - ダイアログを閉じてタスクを再オープンするには、「はい」をクリックします。
  - タスクを再度開かずにダイアログを閉じるには、「いいえ」をクリックします。
4. 先行タスクを追加または削除し、「保存して閉じる」をクリックします。  
関係を指定します:
- 先行タスクを指定します。次のいずれかを選択します:
    - 先行がある場合は、このオプションを選択できます: 先行の関係を再確立 - タスクが元の順序で開きます。
    - 先行の関係を無視 - すべてのタスクがすぐに再度開きます。

- 後続タスクを指定します:
  - a. 「**後続のタスクを再度開く**」を選択します。後続のリストが表示されます。
  - b. 後続タスクを選択します。
- 5. 「**OK**」をクリックして閉じます。タスクの詳細ダイアログ・ボックスが閉じて、選択内容に基づいてタスクが再び開きます。「**OK**」をクリックするか、それ以外の場合は「**取消し**」をクリックします。

### 自動タスクを再度開く

自動タスクを再度開き、自動パラメータを変更するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、**「スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. 閉じられた自動タスクを選択し、「**編集**」アイコンをクリックします。
3. 「**タスクの詳細**」ダイアログで、「**再オープン**」をクリックします。これで、タスクが編集可能になりました。
4. パラメータ・タブをクリックし、必要に応じてパラメータを更新します。
5. 「**保存**」と「**閉じる**」をクリックします。  
サービスでは、自動タスクを再度開くための確認メッセージが表示されます。
  - ダイアログを閉じてタスクを再度開くには、「**はい**」をクリックします。
  - タスクを再度開かずにダイアログを閉じるには、「**いいえ**」をクリックします。

再度開くタスクの適格な後続がある場合は、「**タスクの再オープン**」ダイアログに、チェック・ボックス付きの後続がリストされた確認メッセージが表示され、再度開く後続を選択できます。前の項、[手動タスクを再度開く](#)を参照してください。

## タスクの送信

タスクを送信するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、**「スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. 送信する必要のあるタスクを選択します。  
複数選択する場合、1つ1つ選択するには[**Ctrl**]を押し、ある範囲を選択するには、[**Shift**]を押しながら、その範囲の最初と最後をクリックします。
3. 「**タスクの送信**」を選択します。これでタスクが完了することを示す警告が表示されます。続行するには、「**はい**」をクリックします。
4. エラーを確認し、「**OK**」をクリックします

## タスクの承認または却下

タスクを承認または却下するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、**「スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. 送信する必要のあるタスクを選択します。  
複数選択する場合、1つ1つ選択するには[**Ctrl**]を押し、ある範囲を選択するには、[**Shift**]を押しながら、その範囲の最初と最後をクリックします。

3. 選択したタスクを強調表示し、「アクション」で「ステータスの設定」を選択してから、「承認」または「却下」を選択します。
4. エラーを確認し、「OK」をクリックします

## タスクの請求またはリリース

タスク・マネージャでは、タスクの請求とリリースを 1 つずつ行うことも、一度に複数行うこともできます。グループまたはチームの割当てを介してタスクに関連付けられているユーザーは、タスクを請求またはリリースできます。

タスクが請求された後も、チームの他のメンバーはそのタスクを請求できますが、これを行うと、最初のユーザーの請求が終了するため、そのユーザーが役割機能を実行する権限は取り消され、最新の請求を行ったユーザーに権限が付与されます。

このようにタスクの請求を別のユーザーから行えることは、請求が行われたが、その請求を行ったユーザーが(欠席などのために)役割機能を完了できない場合に対応するために必要です。

タスクが請求されると、担当者がチームまたはグループから請求を行った人になります。

タスクがリリースされると、担当者がリリースを行った人からチームまたはグループになります。

チームのいずれのメンバーもタスクを請求していないうちは、電子メール通知がチーム全体に送信されます。チーム・メンバーがタスクを請求すると、チーム・メンバー全員ではなく、そのアクティブなユーザーに電子メールが送信されます。

### Note:

バルク更新機能が有効になっていると、複数のタスクの請求やリリースを一度に実行できます。

### タスクの「アクション」メニューを使用したタスクの請求またはリリース

タスクの「アクション」メニューからタスクを請求またはリリースするには:

1. ホーム・ページで、「タスク」、「スケジュール・タスク」の順にクリックします。
2. 請求またはリリースするタスクをクリックするか、タスクを選択して「オープン」アイコンをクリックします。
3. 「アクション」メニューから、「請求」または「リリース」をクリックします。確認を求めるポップアップ・メッセージが表示されます。
4. 「はい」をクリックします。タスクが正常に請求またはリリースされたことを示す確認メッセージが表示されます。
5. 「閉じる」をクリックして、ダイアログ・ボックスを閉じます。
6. エラーを確認して修正してから、同じステップを再度実行してタスクを請求またはリリースします。

## タスク・リストからのタスクの請求またはリリース

タスク・リストからタスクを請求またはリリースするには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. 請求またはリリースするタスクを選択します。  
複数選択する場合、1つ1つ選択するには[Ctrl]を押し、ある範囲を選択するには、[Shift]を押しながら、その範囲の最初と最後をクリックします。選択したタスクがハイライトされます。
3. 「**アクション**」から「**更新**」をクリックし、「**請求**」または「**リリース**」をクリックします。  
確認を求めるポップアップ・メッセージが表示されます。
4. 「**はい**」をクリックします。  
「タスク・アクションの結果」ダイアログ・ボックスに、ステータス、選択したタスクの数、考慮したタスク、正常に処理されたタスク、失敗したタスクに関する情報が表示されます。ステータスは次のとおりです:
  - 処理しています
  - 正常に完了しました。
  - エラーで完了しました。ビジュアル・インジケータに完了率が示されます。処理に失敗したタスクについては、ダイアログ・ボックスにエラーが表示されます。「**Excel にエクスポート**」アイコンをクリックし、表示されたエラーを Excel ファイルにエクスポートできます。
5. 「**閉じる**」をクリックして、ダイアログ・ボックスを閉じます。
6. エラーを確認して修正してから、同じステップを再度実行してタスクを請求またはリリースします。

# タスクの再割当ての管理

複数のタスクを同時に作業するには、「アクション」パネルを使用します。

ワークフロー・ユーザー(担当者および承認者)は、「タスク・アクション」ダイアログ・ボックスから、単一タスクに対するワークフローの役割の再割当てを要求できます。これらの要求には承認が必要です。管理者およびスケジュール/テンプレートの所有者は、承認を必要とすることなく、「タスクの編集」ダイアログ・ボックスを使用して、タスクを再割当てできます。

タスクが再割当てされると、再割当てされたユーザーに電子メールの通知がすぐに送信されます。

再割当てを要求するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. タスクをクリックすると、タスク・プロパティが開きます。
3. 「**アクション**」メニューをクリックして、「**再割当ての要求**」を選択します。
4. 入力するか「**検索**」をクリックして、再割当てを探します。
5. 「**再割当て要求の作成**」で、「ユーザーの選択」ボタンをクリックして「**対象ユーザー**」を選択します。



6. 「再割当て」で、再割当て対象のタスクを選択します:
  - 選択したタスク
  - 選択したタスクおよび将来のタスク
7. 再割当てについて「理由」を入力します。
8. 「OK」、「閉じる」の順にクリックします。

## タスクの取消し

タスクを(強制的にクローズするのではなく)取り消す(中止する)目的は、プロセスの進行を妨げずに、後続タスクの続行を回避することです:

- 「終了時に開始」または「エラー終了時に開始」の先行タスクが取り消された場合、その後続タスクは保留中のままです。プロセスを引き続き進行させるには、後続タスクを編集して、取り消された先行タスクを削除し、後続タスクを開始する必要があります。
- 「終了時に終了」または「エラー終了時に終了」の先行タスクが取り消された場合、プロセスを引き続き進行させるには、タスク所有者/スケジュール所有者/管理者が後続タスクを強制的にクローズする必要があります。

## タスクの削除

不要になったタスクは削除できます。タスク削除するには、サービス管理者またはパワー・ユーザーのセキュリティ権限が必要です。

スケジュールでは、ステータスが「保留中」のタスクのみを削除できます。ステータスが「オープン」または「クローズ済」のタスクは削除できません。親タスクを削除する場合、親のみを削除するのか、親と子を削除するのかを選択できます。

タスクのアクション・メニューを使用して、スケジュール・タスクを削除できます。(タスクがオープンまたは完了している場合、「削除」は表示されません。)

タスクを削除するには:

1. ホーム・ページで、「タスク」、「スケジュール・タスク」の順にクリックします。
2. 「アクション」をクリックして「削除」を選択します。
3. 確認のプロンプトで「はい」をクリックします。

## サービスの管理

「サービス」(ホーム・ページ > 「アプリケーション」 > 「サービス」)オプションを使用すると、特定のサービス関連タスクのステータスを確認できます。緑色は実行中であることを示します。「サービス」から実行するアクションは、「今すぐ実行」または「再起動」です。



 **Note:**

「今すぐ実行」を使用すると、オープン・タスクの実行などのアクションを即座に実行できます。「再起動」は、サービスがシャットダウンし、このオプションが緑色になっていない場合にのみ使用する必要があります。再起動では、サービス自体を実行しないで、サービスがリセットされます。

- **エンタープライズ仕訳の転記:** サービス管理者によって手動でのみ使用されます。転記準備完了ステータスで、かつ「**直接統合**」オプションが選択されているすべての仕訳によって、仕訳転記プロセスがトリガーされます。
- **エンタープライズ仕訳の処理:** 電子メール(アクション電子メールと遅延電子メールの両方)を送信するために使用されます。アクション電子メールは、現在のワークフロー担当ユーザーの期限日を過ぎていないときに 1 回のみ送信され、遅延電子メールは、現在の担当ユーザーがタスクを実行するまで、毎日午前 5 時 25 分に送信されます。ワークフローの後続ユーザーの期限日も過ぎた場合は、その時点でその仕訳の担当者でなくても、それらのユーザーにも通知されます。

 **Note:**

- ワークフロー・ユーザーがチーム/グループで、かつどのユーザーも請求していない場合、チーム/グループのすべてのユーザーに電子メールが送信されます。また、このオプションによって、(請求後であっても)そのグループ/チームのすべてのユーザーに電子メールが送信されます。
- さらに、このオプションにより、開始日がデータ収集の日付と一致する仕訳がトリガーされます。

サービス管理者は、サービス・カードから手動でこのサービスを実行することもできます。

- **補足データ・フォームの処理:** 電子メール(アクション電子メールと遅延電子メールの両方)を送信するために使用されます。アクション電子メールは、現在のワークフロー担当ユーザーの期限日を過ぎていないときに 1 回のみ送信され、遅延電子メールは、現在の担当ユーザーがタスクを実行するまで、毎日午前 5 時 20 分に送信されます。ワークフローの後続ユーザーの期限日も過ぎた場合は、その時点でそのフォームの担当者でなくても、それらのユーザーにも通知されます。

 **Note:**

- ワークフロー・ユーザーがチーム/グループで、かつどのユーザーも請求していない場合、チーム/グループのすべてのユーザーに電子メールが送信されます。また、このオプションによって、(請求後であっても)そのグループ/チームのすべてのユーザーに電子メールが送信されます。
- さらに、このオプションにより、開始日がデータ収集の日付と一致するフォームがトリガーされます。

サービス管理者は、サービス・カードから手動でこのサービスを実行することもできます。

- **システム・メンテナンス:** ユーザー同期プロセスやデータベースのクリーンアップなど、タスク・マネージャによって「タスク」内で定期的に行われるアクションのことであり、「日次メンテナンス」と呼ばれるクラウド・レベルで行われるアクションとは異なります。「日次メンテナンス」には、「ツール」、「日次メンテナンス」の順にクリックしてアクセスします。これには、テストまたは本番環境のクラウドで行われる運用メンテナンスやバックアップ・スナップショットなどのアクションが含まれます。
- **タスクの電子メール通知:** 作業が割り当てられていることをユーザーに通知するために使用されます。サービス管理者は、「サービス」のオプションを使用して「再起動」または「今すぐ実行」できます。

 **Note:**

- サービス管理者が電子メール通知をオフにするために使用できる別のオプションがあります。「アプリケーション」→「構成」→「設定」→「システム・メンテナンス・プロセス」を選択します。
- 電子メール通知には、電子メールの発信元がわかるように、サービスおよびテナント情報がフッターに含まれています。

- **[スケジュール名]モニター:** オープンであり、将来のタスクがある各スケジュールに使用できます。このオプションでは、スケジュール内でいずれかのタスクがオープンである必要があるかどうかチェックされます。
- **タスク・ステータスの更新:** プロセスが自動化されたタスクを実行およびモニターするバックグラウンド・サービス。

## スケジュールの管理

スケジュールは、特定のビジネス・プロセスに対して実行する必要があるタスクの時間順のセットを定義するもので、カレンダーにテンプレートを適用したものです。たとえば、四半期テンプレートを第1四半期の Q1FY19 として適用し、そのテンプレートを第2四半期の Q2FY19 として再び適用できます。

作成、インポートまたはデプロイできるスケジュールの最大数は 100,000 です。

スケジュールのステータスは、「保留中」、「オープン」、「クローズ済」または「ロック済」です。スケジュールのステータスを「保留中」から「オープン」に、または「オープン」から「クローズ済」や「ロック済」に変更できます。

### ノート:

- スケジュールを「オープン」に設定すると、「保留中」にリセットできません。
- スケジュールを「ロック済」に設定した後、そのステータスは変更できません。
- スケジュールの所有者および参照者は、スケジュールが削除されると電子メールで通知されます。
- 担当者または承認者が再割当を要求すると、管理者およびスケジュール所有者に再割当要求通知が即時に送信されます。

## スケジュールの手動作成

スケジュールを作成するには、管理者またはパワー・ユーザーであることが必要です。パワー・ユーザーは、テンプレートで「スケジュールの作成」を実行するか、「スケジュールの管理」から「新規」を選択できます。「スケジュールの管理」ページからスケジュールを手動で定義するか、テンプレートからスケジュールを作成できます。テンプレートからスケジュールを作成すると、すべての値がテンプレート定義から継承されます。

スケジュールの作成についてさらに学習するには次のビデオを参照してください。



### スケジュールの作成

スケジュールを手動で作成するには:



1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
3. 左側の「**スケジュール**」タブをクリックします。
4. 「**新規**」をクリックします。
5. スケジュール・タブでスケジュール情報を入力します。

- [スケジュール・プロパティの設定](#)
- [スケジュールへの指示の追加](#)
- [スケジュール参照者の割当て](#)
- [スケジュール属性の適用](#)
- [日ラベルの追加](#)
- [スケジュール・ルールの操作](#)
- [スケジュール履歴の表示](#)

## スケジュール・プロパティの設定

「プロパティ」タブでは、スケジュールの名前、説明、開始日および終了日、所有者を設定できます。スケジュール所有者は、管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。デフォルトの所有者は現在のユーザーです。開始日と終了日により、スケジュールの初期日付範囲を指定しますが、スケジュールの作成後、それより前または後の日付でタスクを追加でき、最も早い日付と遅い日付を反映するために、プロパティが更新されます。

スケジュール・プロパティを設定するには:

1. 新しいスケジュールを作成し、「**プロパティ**」タブを選択します。
    - **名前:** 最大 80 文字まで入力できます。
    - **説明:** 最大 255 文字まで入力できます。
    - **組織単位**
    - **開始日:** スケジュールの開始日
    - **終了日:** スケジュールの終了日
    - **年**
    - **期間**
    - **日ゼロの日付:** 日ゼロとして割り当てる日付
    - **所有者:** デフォルトの所有者を使用するか、「**所有者の選択**」をクリックします。
    - **ステータス**
-  **ノート:**

「**ステータス**」フィールドは、新しいスケジュールを保存するまで表示されません。スケジュールのステータスは、「保留中」に初期設定され、表示専用です。
2. 保存して閉じるには、「**OK**」をクリックするか、別のタブをクリックします。すべてのエントリが保存されます。
  3. スケジュール・タブでスケジュール情報を入力します。

- [スケジュールへの指示の追加](#)
- [スケジュール参照者の割当て](#)
- [スケジュール属性の適用](#)
- [日ラベルの追加](#)
- [スケジュール・ルールの操作](#)
- [スケジュール履歴の表示](#)

## スケジュールへの指示の追加

スケジュールの指示とサポート・ドキュメントを指定できます。これらは、スケジュール内のすべてのタスクによって継承されます。

スケジュールに指示を追加するには:

1. 新しいスケジュールを作成し、「**指示**」タブを選択します。
2. 「**指示**」に、スケジュールの指示を入力します。
3. 参照を追加するには:
  - a. 「**参照**」セクションで、「**追加**」をクリックします。
  - b. 「**参照タイプ**」リストから、次のいずれかのタイプを選択します。
    - **ローカル・ファイル:**  
「**ファイルの選択**」をクリックし、ファイルを選択して添付し、「**名前**」を入力して、「**OK**」をクリックします。
    - **URL:**  
「**URL**」を入力した後、URL の「**名前**」を入力し(例: <http://www.oracle.com>、Oracle)、「**OK**」をクリックします。

複数のスケジュールに参照ファイルまたは URL を一度に追加するには:

- i. 「**スケジュール**」メイン・ページに移動します。
- ii. 複数の行を強調表示するか、**[Shift]**キーを使用して複数の行を選択すると、複数選択でき、「**アクション**」、「**参照の追加**」、「**ローカル・ファイル**」または「**URL**」の順にクリックします。

また、「**添付の追加**」ダイアログ・ボックスに用意されているドラッグ・アンド・ドロップ機能を使用して、1 つ以上の添付を追加することもできます。必要に応じて、「**名前**」フィールドで添付の名前を変更できます。複数の添付をドラッグ・アンド・ドロップする場合、これらを一度にアップロードできます。

添付を正確にドラッグ・アンド・ドロップするには、「**添付の追加**」ダイアログ・ボックスにアクセスする必要があります。

4. 保存して閉じるには、「**OK**」をクリックするか、「**参照者**」タブをクリックします。すべてのエントリが保存されます。
5. スケジュール・タブでスケジュール情報を入力します。
  - [スケジュール・プロパティの設定](#)
  - [スケジュール参照者の割当て](#)
  - [スケジュール属性の適用](#)

- [日ラベルの追加](#)
- [スケジュール・ルールの操作](#)
- [スケジュール履歴の表示](#)

## スケジュール参照者の割当て

「参照者」タブでは、スケジュールの参照者権限を割り当てることができます。スケジュールには複数の参照者がいる場合がありますが、参照者には製品のセキュリティ役割が必要です。参照者は、スケジュールのすべてのタスクに対する読取り専用アクセス権を付与されます。

### ノート:

タスクの「参照者」の役割を持つユーザーのみが質問に回答できます。

参照者権限を割り当てるには:

1. 新しいスケジュールを作成し、「参照者」タブを選択します。
2. 「追加」をクリックします。
3. ユーザーまたはグループまたはチームで検索するには、「ユーザーの検索」ボタンをクリックし、「ユーザー」または「グループ」または「チーム」を選択します。
4. ユーザー名または名前の一部を入力し、「検索」をクリックします。
5. ユーザーを識別するには、「詳細」をクリックし、「ユーザー ID」または「電子メール」または「説明」を入力します。
6. 「検索結果」リストで、ユーザーを選択します。
7. チーム、グループ、役割、割当てなど、ユーザーに関する詳細は、「詳細」をクリックします。
8. 「追加」または「すべて追加」をクリックして、ユーザーを「選択済」リストに移動します。

### ヒント:

ユーザーを削除するには、ユーザーを選択し、「削除」または「すべて削除」をクリックします。

9. 保存して閉じるには、「OK」をクリックするか、「属性」タブをクリックします。すべてのエントリが保存されます。
10. スケジュール・タブでスケジュール情報を入力します。
  - [スケジュール・プロパティの設定](#)
  - [スケジュールへの指示の追加](#)
  - [スケジュール属性の適用](#)
  - [日ラベルの追加](#)

- [スケジュール・ルールの操作](#)
- [スケジュール履歴の表示](#)

## スケジュール属性の適用

システムでスケジュールを見つけるために、属性をスケジュールに適用できます。属性を選択する際に、属性タイプに基づいて属性の値を設定できます。後で属性値によってフィルタ処理できます。

たとえば、「北部」、「南部」、「東部」および「西部」という値を持つ「販売地域」という名前の「リスト」属性を持つことができます。現在のスケジュールは西部販売地域にのみ適用されるため、「販売地域」属性を追加し、この属性を「西部」に設定できます。

属性を適用するには:

1. 新しいスケジュールを作成し、「**属性**」タブを選択します。
2. 「**追加**」をクリックします。
3. 「**属性**」リストから、属性を選択します。
4. 「**値**」では、属性に応じて、ドロップダウン・リストから属性の値を選択するか、値を入力します。
5. 保存して閉じるには、「**OK**」をクリックするか、「**日ラベル**」タブをクリックします。すべてのエントリが保存されます。
6. 「スケジュール」タブでスケジュール情報を入力します。
  - [スケジュール・プロパティの設定](#)
  - [スケジュールへの指示の追加](#)
  - [スケジュール参照者の割当て](#)
  - [日ラベルの追加](#)
  - [スケジュール・ルールの操作](#)
  - [スケジュール履歴の表示](#)

## 日ラベルの追加

カレンダー日のビジネス・アクティビティには、営業日ラベルを使用します。ラベルを使用してマイルストーンとなる日をマークしたり、その日の目的を指定したりできます。

スケジュールに日ラベルを追加するには:

1. 新しいスケジュールを作成し、「**日ラベル**」タブを選択します。最大 20 文字まで入力できます。
2. 特定の日付に日ラベルを追加します。
3. 保存して閉じるには、「**OK**」をクリックするか、「**ルール**」タブをクリックします。すべてのエントリが保存されます。
4. スケジュール・タブでスケジュール情報を入力します。
  - [スケジュール・プロパティの設定](#)
  - [スケジュールへの指示の追加](#)

- [スケジュール参照者の割当て](#)
- [スケジュール属性の適用](#)
- [スケジュール・ルールの操作](#)
- [スケジュール履歴の表示](#)

## スケジュール・ルールの操作

スケジュール・ルールはスケジュール内のすべてのタスクに適用されるため、タスクのグループにルールが適用されます。「**スケジュール**」ダイアログ・ボックスで構成されたルールは、新規スケジュール・タスクにコピーされます。

使用可能なスケジュール・ルール:

- **タスクの自動承認:** 指定された条件を満たしている場合にのみ、指定された承認を自動的に完了します。

このルールに適用される条件の例: 属性に指定の値がある場合(計算済属性を含む)。

条件を満たすと、指定の承認者レベルが完了としてマークされ、ワークフローが次の承認レベルに進むか、他に承認レベルがない場合はクローズします。

- **タスクの自動送信:** 指定された条件を満たしている場合、タスクを自動的に送信します。

条件を満たすと、担当者役割が完了としてマークされ、ワークフローが最初の承認レベルに進むか、承認レベルがない場合はクローズします。

- **タスク承認の防止:** 属性値または他の特性に基づいて、タスクが承認されないようにします。
- **タスク送信の防止:** 属性値または他の特性に基づいて、タスクが送信されないようにします。

スケジュール・ルールを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**スケジュール**」タブをクリックします。
3. スケジュールをダブルクリックします。
4. 「**ルール**」タブを選択します。次の情報を表示できます:
  - **順序:** 優先順位
  - **ルール:** ルールの名前
  - **条件:** ルールを実行する前に存在している必要がある条件の選択
5. ルールを編集するには、「**ルール**」タブで「**編集**」をクリックし、次の情報を更新します:
  - **ルール:** ルールを選択します。
  - **説明: オプション。** ルールを構成した理由と使用方法を説明します。最大 255 文字まで入力できます。
  - **承認者レベル:** すべてのレベルのルールを選択するか、承認者レベルを選択します。



- 「**フィルタの作成**」を選択して条件セクションに移入するか、「**保存済フィルタの使用**」を選択してからフィルタを選択します。ルールに対して選択および構成されたフィルタが、適用するルールをトリガーする条件を決定します。
- **条件:**
  - **保存済フィルタの使用:** 「**条件**」セクションに、保存済フィルタに関連付けられた条件の読取り専用バージョンが表示されます。
  - **フィルタの作成:** 「**条件**」セクションが有効になります。  
「**組合せ**」、「**ソース**」、「**属性**」、「**演算子**」および「**値**」は、既存の詳細フィルタ機能の場合と同様に動作します。
- 「**タスクのフィルタ**」では、条件を選択する必要があるタスクを指定します:
  - **現在のタスク**
  - **任意の先行**
  - **特定のタスク**(「**タスク ID**」を指定します)

 **ノート:**

ルール定義に変更を加えると、追加情報が監査ログに追加されます。変更は、「**履歴**」タブおよび「**監査レポート**」の両方に表示できます。

6. スケジュール・タブでスケジュール情報を入力します。
  - [スケジュール・プロパティの設定](#)
  - [スケジュールへの指示の追加](#)
  - [スケジュール参照者の割当て](#)
  - [スケジュール属性の適用](#)
  - [日ラベルの追加](#)
  - [スケジュール履歴の表示](#)

## 必要なタスク・パラメータの設定

必須パラメータに値が入力されるまで、タスクは保留中の状態になります。指定された開始日までに入力されない場合は、電子メール通知がタスク所有者に送信されます。さらに、そのタスクはビューの「**要注意**」の下に表示されます。必須パラメータに値が入力されると、タスクが開始されます。

## スケジュールを開く

タスクの追加、編集または作業を行うためにスケジュールを開きます。

スケジュールを開くには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**スケジュール**」タブをクリックします。
3. 次のいずれかの方法を使用します:

- リスト内でスケジュールの右側にある「アクション」を選択した後、「表示」を選択します。
- スケジュールを強調表示した後、「表示」アイコンをクリックします。
- 強調表示したスケジュールを右クリックした後、「表示」を選択します。

## スケジュールの編集

スケジュールを編集して、名前、スケジュール、開始日および終了日などのプロパティを変更できます。開始日をスケジュール内の最初のタスクより後の日付に変更したり、終了日をスケジュール内の最後のタスクの前の日付に変更したりすることはできません。「オープン」または「保留中」のスケジュールを編集して、保留中のタスクを変更できます。「クローズ済」または「ロック済」のスケジュール内のタスクは追加、変更または削除できません。スケジュールを編集するには、スケジュールの所有者が管理者である必要があります。

スケジュールを編集するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。
3. スケジュールを選択し、「編集」をクリックします。
4. スケジュールを編集します。
5. 「OK」をクリックします。

## スケジュールへのタスクの追加

スケジュールが「保留中」または「オープン」の場合は、そのスケジュールにタスクを追加できます。「クローズ済」または「ロック済」のスケジュールにタスクを追加することはできません。

### ノート:

タスク・マネージャのスケジュールに追加できるタスクの最大数は 500,000 です。

タスクをスケジュールに追加するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。
3. スケジュールを開きます。
4. タスクを追加します。

## スケジュールへのタスクのインポート

テキスト・ファイルからタスクや部分的なタスク・データを、ステータスが「保留中」または「オープン」のスケジュールにインポートできます。たとえば、Microsoft Excel スプレッドシートにタスクの定義が含まれている場合、ファイルを CSV ファイルとして保存してから、スケジュールにインポートできます。新しいタスクを個別に作成するかわりに、「インポート」機能を使用して、CSV ファイルのフィールドを編集し、そのファイルをインポートすることにより、多くの反復タスクをすばやく追加できます。

「クローズ済」または「ロック済」ステータスのスケジュールにはタスクをインポートできません。

### ノート:

決算後のタスクに対して「更新」オプションを使用してスケジュールにファイルをインポートする前に、インポート・ファイルから「所有者」、「担当者」、「承認者」および開始日時の各フィールドを削除します。削除しないとエラーが発生します。

実行を開始したエンド・ユーザー・タスクに関する情報をインポートすると、ステータスがオープン(担当者)にリセットされ、質問に対する回答がクリアされます。

タスクをスケジュールにインポートするには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。
3. 「タスクのインポート」をクリックします。
4. インポートするファイルの名前を入力するか、「ファイルの選択」をクリックしてファイルを探します。
5. インポート・オプションを選択します:
  - **置換:** タスクの定義を、インポート・ファイル内の定義に置き換えます。このオプションでは、タスクの詳細を、インポートするファイル内の詳細に置き換えます。インポート・ファイルに指定されていないスケジュール内の他のタスクには影響しません。

### ノート:

「添付の保持」チェックボックスを選択して、置き換えられるタスクの添付を保持できます。

- **更新:** タスクの部分的な情報を更新します。たとえば、インポート・ファイルで、タスクの指示の変更、所有者、担当者および承認者の再割当て、あるいは一部の属性の削除と新しい属性の追加を行った場合が考えられます。また、同じ変更を多数のタスクに行った(400 タスクのうち 100 のタスクに新しい属性を追加するなど)場合も考えられます。更新オプションは、タスクの詳細を完全に置き換えるものではありません。ファイルに指定されているタスク・プロパティの詳細のみが更新されます。たと

例えば、インポート・ファイルにタスクの指示の列しかない場合、タスクの名前、担当者、属性やその他のプロパティには影響しません。

### ノート:

スケジュール内のタスクで、インポート・ファイル内のタスク ID に一致するものが変更されるという警告が表示されます。タスクを上書きしない場合は、「**取消し**」をクリックします。

- **削除:** ファイルで提供されるタスク ID のリストに基づいてタスクと関連情報を削除します。削除を実行するために必要な情報は、タスク ID の列を含むファイルです。
- 6. **オプション:** 「**添付の保持**」を選択して、置き換えられるタスクに関連付けられた添付を保持します。
- 7. 「**日付フォーマット**」を選択します。  
使用可能な日付フォーマットのドロップダウン・リストから、フォーマットを選択します。日付フォーマットは変換されません。デフォルトで、日付フォーマットはエクスポートされたファイルの場所のロケールの日付フォーマットに設定されます。
- 8. インポート・ファイルの「**ファイル区切り文字**」について、「**カンマ**」または「**タブ**」を選択します。「**他の区切り文字**」として任意の 1 文字を指定するには、「**その他**」を選択します。
- 9. 「**インポート**」をクリックします。
  - インポートに成功した場合は、スケジュール名、タスクを含むファイルの名前およびインポートされたタスクの合計数を示す「**インポート成功**」ダイアログ・ボックスが表示されます。「**OK**」をクリックします。
  - エラーが見つかった場合は、インポート・プロセスが実行されず、「**インポート・エラー**」ダイアログ・ボックスにエラーが表示されます。エラーを表示し、「**OK**」をクリックして「**スケジュール**」ページに戻ります。

表 28-1 インポート・エラーのトラブルシューティング

エラー	解決方法
重複するタスク ID	重複するタスク ID の確認をしてください。タスク ID は、テンプレートまたはスケジュール内で一意である必要があります。 <a href="#">タスクの作成</a> を参照してください。
タスク名が長すぎます	タスク名に使用できるのは、最大 80 文字です。 <a href="#">タスク・プロパティの設定</a> を参照してください。
組織の値 - "値が無効です"	組織の値は空白にできず、箇条書きにすることや、複数行にすることはできません。

## スケジュール内のタスクの更新

状況によっては、実行中のタスクに関する情報を手動で更新する必要があります。この場合、タスクを再度開くことができます。タスクを再度開くと、そのステータスは

「オープン(担当者)」にリセットされ、情報を編集できます。たとえば、指示、参照、属性および質問を変更できます。変更を行った場合、質問に対する前の回答はクリアされます。

一連のタスクを再び開くと、先行関係は再構築されません。すべてのエンド・ユーザー・タスクが、「オープン(担当者)」にリセットされます。タスクは「保留中」ステータスには戻りません。

次の条件で、タスクを再度開くことができます。

表 28-2 タスクを再度開くための条件

タスク・ステータス	エンド・ユーザー
担当者/実行中	「指示」、「属性」または「質問」セクションでは、データの編集やインポートができます。タスクは保存すると「担当者」にリセットされ、質問に対する回答はクリアされます。
承認者	「指示」、「属性」または「質問」セクションでは、データの編集やインポートができます。タスクは保存すると「担当者」にリセットされ、質問に対する回答はクリアされます。
クローズ済/エラー	「タスクの詳細」から、タスク所有者は「再度開く」をクリックしてタスクを再び開き、変更できます。タスクを保存すると、「担当者」にリセットされます。

スケジュール内のタスクを更新するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。
3. スケジュールを開きます。
4. ステータスが「クローズ済」または「エラー」のタスクを選択して右クリックし、「表示」を選択します。  
「タスクの表示」ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. 「再オープン」をクリックします。
6. タスクを編集します。
7. 担当者はタスクを再び完了する必要がある、またはサービスが再び実行されるという警告が表示されたら、続行する場合は「はい」を、取り消す場合は「いいえ」をクリックします。
8. アクションを行います:
  - 「クローズ済」タスクの場合、「閉じる」をクリックします。
  - 「エラー」タスクの場合、「保存して閉じる」をクリックします。

## スケジュールでのユーザーの再割当て

ユーザーを別のスケジュールに再割当てすることが定期的に必要になる場合があります。たとえば、スケジュールを作成し、ユーザーに一定の権限を割り当てたが、後にその従業員が退職し、別の従業員がそのスケジュールを引き継ぐ場合が考えられます。個々のスケジュールを手動で検索し、開いて編集するかわりに、「スケジュール」ダイアログ・ボックスの「再割当て」機能を使用して割当てを自動的に変更できます。「再割当て」機能では、1人のユーザー

ザーに関連付けられているスケジュールをすばやく検索し、別のユーザーに再割当てできます。

一度に複数のスケジュールに対してユーザーを再割当てできます。これは、アプリケーションに多数のスケジュールがある場合に役立ちます。

ユーザーを再割当てするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**スケジュール**」タブをクリックします。
3. ユーザーを再割当てするスケジュールを 1 つ以上選択します。
4. 「**アクション**」、「**ユーザーの再割当**」の順にクリックします。
5. 「**ユーザーの検索**」では、「**ユーザーの検索**」をクリックし、置換するユーザーの検索条件を入力します。
  - a. 「**ユーザーの選択**」ダイアログ・ボックスで、ユーザーの姓名を入力し、「**検索**」をクリックします。
  - b. 結果からユーザーを選択し、「**OK**」をクリックします。
6. 「**置換**」では、「**置換**」アイコンをクリックし、タスクを再割当てする対象ユーザーの検索条件を入力します:
  - a. 「**ユーザーの選択**」ダイアログ・ボックスで、ユーザーの姓名を入力し、「**検索**」をクリックします。
  - b. 結果からユーザーを選択し、「**OK**」をクリックします。
7. 「**次の間に終了**」の日付を選択します。
8. 再割当てが必要なユーザーについて役割を選択します。
  - **所有者**
  - **担当者**
  - **承認者**
  - **参照者**
9. 「**再割当**」をクリックします。

プロセスが終了すると、ユーザーの再割当てが完了したことを示す「ユーザーの再割当 - 成功」メッセージが表示され、スケジュール名と、行われたユーザー再割当ての合計数が表示されます。

## プロセスが自動化されたタスクの許可

プロセスが自動化されたタスクを作成するときに、セキュリティ上の目的で、そのタスクが実行されるユーザー・アカウントを指定します。セキュリティを維持するには、次の条件のどれかが発生した場合にタスクを実行するための許可が必要になる可能性があります:

- テンプレートから、または手動でタスクを追加して、「別名実行」ユーザーとして知られる別のランタイム・ユーザーを持つプロセスが自動化されたタスクをスケジュールに追加した場合
- スケジュールを「オープン」ステータスに設定し、まだタスクが完了していない場合、システムでは自動的に許可のリクエストを発行します。

担当者(または所有者が担当者でもある場合はタスク所有者)以外のユーザーによってタスクのパラメータが変更された場合、許可は許可なしにリセットされるので、パスワードを入力して取得する必要があります。プロセスが自動化されたタスクの場合、指定またはデフォルトの「別名実行」ユーザー以外のユーザーがパラメータを変更した場合、タスクは許可なしにリセットされます。

許可は、プロセスが自動化されたタスクを実行するユーザーが、そのタスクを実行するためのアプリケーションやデータに対するセキュリティ権限を持っていることを保証します。ランタイム・ユーザーの資格証明を知っている管理者は、許可を実行したり、ユーザーに許可取得を求めるリクエストを発行したりできます。

プロセスが自動化されたタスクの実行がスケジュールされているとき、許可がなければ、そのタスクは実行されず、ステータスが「要注意」に変わります。所有者または担当者がタスクを編集する場合、タスクの詳細には、許可が必要であることが示されます。この場合、「別名実行」ユーザーのみがタスクを許可できます。

許可のリクエストを受信したユーザーは、電子メール内のリンクから、またはアプリケーションにログオンすることで、「ワークリスト」の許可にアクセスできます。

#### ノート:

スケジュールまたはワークリストから、タスク開始日の前に、管理者、スケジュール所有者またはタスク所有者がタスクを許可できます。タスク開始日の後は、「別名実行」ユーザーのみがタスクを許可できます。

タスクを許可するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします
2. 左側の「**スケジュール**」タブを選択します。
3. スケジュールを選択します。
4. 「**アクション**」を選択した後、「**タスクの許可**」を選択します。

選択したスケジュールの「**ユーザー**」選択リストと、許可されていないタスクの表が表示されます。ユーザー選択リストには、担当するプロセスが自動化されたタスクが保留中で、許可が必要なユーザーが示されています。

5. ユーザー選択リストから、ユーザーを選択します。

そのユーザーに許可されていないタスクのリストが表示されます。デフォルトでは、リストの先頭に自分のユーザー名が太字で表示されます。許可されていないタスクがない場合、リストは空白です。

6. 許可の必要なタスクを選択します。
7. タスクの詳細を表示するために、タスク名をクリックし、タスクのパラメータを確認します。

#### ヒント:

タスク所有者に電子メールで連絡するには、タスクの隣の所有者名をクリックし、ユーザーの詳細を表示します。



## スケジュール・ステータスの設定

スケジュール・ステータスの設定により、スケジュールのライフサイクルを管理します。現在のステータスに応じて、スケジュールのステータスを「オープン」、「クローズ済」または「ロック済」に設定できます。スケジュール・ステータスを設定するには、スケジュールの所有者かサービス管理者であることが必要です。

一度に複数のスケジュールに対してステータスを設定できます。これは、アプリケーションに多数のスケジュールがある場合に役立ちます。

次のステータスを使用できます:

- **保留中:** スケジュールはまだアクティブではありません。これがスケジュールを作成したときのデフォルトのステータスです。「保留中」ステータスのスケジュールは、クローズやロックができません。
- **オープン:** 作業を実行するためにスケジュールが開かれています。スケジュール内のタスクを実行できます。
- **クローズ済:** スケジュールはアクティブでなくなりましたが、フォローアップ作業が必要な場合があります。スケジュール内のタスクは定義に基づいて続行されますが、スケジュールにタスクを追加することはできません。スケジュールの所有者または管理者は、クローズ済スケジュールは再度開くことができ、ステータスが「オープン」に変わります。
- **ロック済:** スケジュールはロックされており、変更できません。ロック済スケジュールは、必要に応じて再度開くことができます。

スケジュールを作成する際は、スケジュールに最終的な調整を加えたり、タスクを追加、編集または削除したりできるように、ステータスはデフォルトで「保留中」になります。

スケジュールを実行するには、ステータスを「保留中」から「オープン」に変更します。スケジュールが開かれると、定義に従ってタスクの実行が開始されます。開始条件を満たしたタスクのステータスは「オープン」に設定され、タスクの通知が担当者に送信されます。

### ノート:

スケジュールのタスクの開始時間に達しても、システム自動タスクに対して許可が与えられていなければ、タスクは「保留中」ステータスのままで、許可が必要になります。

スケジュール上の作業が事後確認作業を残すのみとなった段階で、ステータスを「クローズ済」に設定します。「クローズ済」スケジュールに新規のタスクを追加することはできませんが、ユーザーは完了していないタスクでの作業を続行できます。クローズ済スケジュールは再度開くことができ、ステータスが「オープン」に変わります。

すべての作業が完了したら、ステータスを「ロック済」に設定します。「ロック済」のスケジュールは編集できませんが、必要に応じてステータスを「オープン」に戻すことができます。

スケジュールのステータスを設定するには:



1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。
3. ステータスを設定するスケジュールを 1 つ以上選択します。
4. 「アクション」、「ステータスの設定」の順にクリックするか、「ステータスの設定」ドロップダウンを選択します。
5. 現在のステータスに応じて、次のステータス・オプションのいずれかをクリックします:
  - オープン
  - クローズ済
  - ロック済

## スケジュール履歴の表示

システムでは、「スケジュールの編集」ダイアログ・ボックスから表示できるスケジュール・アクションの履歴がメンテナンスされます。「履歴」タブには、更新されたコンポーネント、変更のタイプ、古い値と新規の値、変更を行ったユーザー、および変更日が表示されます。情報は読み取り専用です。

スケジュール履歴を表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。
3. スケジュールを選択します。
4. 「履歴」タブを選択して、スケジュールの履歴を確認します。
  - **変更タイプ:** 変更のタイプ(「作成済」、「変更済」、「追加済」、「除去済」)を示します
  - **変更日:** 変更の日付
  - **変更者:** スケジュールを変更したユーザーの名前
  - **古い値**
  - **新規の値**
5. 「OK」をクリックします。

## スケジュールの検証

ステータスが「保留中」または「オープン」のスケジュールを検証できます。スケジュールの検証では、開始日および終了日、先行関係、親子関係に問題がないか、製品の統合に必要なタスク・パラメータが抜けていないかをチェックします。検証のエラーがすべて解決されるまで、スケジュールのステータスを「保留中」から「オープン」に変更できません。スケジュールを検証するには、スケジュールの所有者かサービス管理者であることが必要です。

検証結果には、スケジュールの名前、ステータスおよびエラー・メッセージが表示されます。結果は、「スケジュール名」または「ステータス」でソートできます。

スケジュールを検証するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。

3. 検証用に 1 つ以上のスケジュールを選択します。
4. 「アクション」をクリックし、「検証」を選択します。

エラーが存在しない場合、検証結果には「スケジュールは有効です」というメッセージが表示されます。エラーが存在する場合は、エラーの詳細が表示されます。

## スケジュールのロック

スケジュールをロックして、ユーザーがそれ以上変更できないようにすることができます。

スケジュールをロックするには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。
3. スケジュールのリストから、スケジュールを選択します。
4. リスト内でスケジュールの右側にある「アクション」アイコンを選択してから「ステータスの設定」を選択するか、「ステータスの設定」ドロップダウンから、「ロック済」を選択します。
5. オプション:ロック済スケジュールを再度開く必要がある場合は、「アクション」、「ステータスの設定」の順に選択するか、「ステータスの設定」ドロップダウンから「オープン」を選択します。

## スケジュールの表示

「スケジュール」で、スケジュールのリストに表示する列を指定するか、すべての列を表示できます。列の順序変更、昇順または降順での列のソート、または列幅の変更を行うこともできます。

列を表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。
3. 次の 1 つ以上のタスクを行います。
  - すべての列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、「すべて表示」を選択します。
  - 特定の列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、列名を選択または選択解除します。
  - 列を並べ替えるには、「表示」、「列の順序変更」の順に選択し、列を選択して上矢印または下矢印を使用するか、それらをドラッグして順序を変更します。
  - 列をソートするには、「ソート」アイコンが表示されるまで列ヘッダーにマウス・カーソルを合せ、「昇順ソート」または「降順ソート」をクリックします。
  - 列の幅を変更するには、矢印が表示されるまで列ヘッダーの区切りにマウス・カーソルを合せ、適切な幅になるまで列をドラッグします。

## スケジュールの検索


「スケジュール」リストの「検索」テキスト・ボックスを使用して、スケジュールをすばやく検索できます。検索する名前の全部または一部を入力できます。フィルタ・バーを使用して、リストに表示するスケジュールを制御できます。デフォルトでは、すべてのスケジュールが表示されます。

スケジュールを検索するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。
3. スケジュールを検索するには、「検索」テキスト・ボックスに検索条件を入力します。
4. **オプション:** フィルタ・バーでカテゴリをクリックすると、追加の検索演算子(「次と等しい」、「次と等しくない」、「次を含む」、「次を含まない」、「次で始まる」、「次で終わる」)が表示されます。

次のカテゴリを使用して、スケジュールをフィルタできます: 「名前」、「年」、「期間」、「ステータス」、「開始日」および「終了日」。「フィルタの追加」をクリックして、フィルタを追加します: 「作成者」、「作成日」、「日ゼロの日付」、「説明」、「最終更新者」、「最終更新日」、「組織単位」、「所有者」および「タスク」。

### ノート:

- 「フィルタの追加」をクリックして、すべてのカテゴリを表示します。
- フィルタ・バーを非表示にするには、「フィルタ」アイコンをクリックします。
- すべてのフィルタをクリアするには、 アイコンで「すべてのフィルタのクリア」をクリックします。

## スケジュールの削除

不要になったスケジュールは削除できます。スケジュールを削除するには、スケジュールの所有者かサービス管理者であることが必要です。スケジュールを削除すると、そのスケジュールおよびそのスケジュールへのすべての参照がシステムから削除されます。

スケジュールを削除するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。
3. 「スケジュール」で、削除するスケジュールを選択します。
4. 「削除」をクリックします。

スケジュールを削除すると、そのスケジュール内のすべてのタスクも完全に削除され、復元するにはバックアップを使用する以外に方法がないという警告が表示されます。

5. スケジュールを削除するには、「はい」をクリックします。

## タスク・マネージャ統合の管理

タスク・マネージャのタスクを有効化し、EPM Cloud およびその他の外部アプリケーション内に統合を含めることができます。

タスク・マネージャを使用すると、ユーザーは、統合されたタスクをビジネス・プロセス内に組み込むことができます。これにより、手動タスクが自動化されたり、埋込みのアプリケーション・ページやリンクが含まれて、プロセスが簡略化されます。

タスク・マネージャ統合を管理するには、サービス管理者の役割が必要です。

タスク・マネージャは、次の統合タイプをサポートします：

### エンド・ユーザー

統合されたエンド・ユーザー・タスクで、ユーザーはアプリケーション Web ページと対話する必要があります。これらのアプリケーション Web ページは、タスク内に表示されるか、またはタスク内にリンクとして含まれます。統合には、ユーザー・タスクおよびオプションのパラメータ・セットに対する実行 URL が必要です。実行 URL により外部プログラムが起動され、パラメータによりタスクに必要な情報が外部プログラムに渡されます。たとえば、仕訳の承認統合には、仕訳の視点ディメンション値などのパラメータが含まれています。

ユーザーがタスクを実行して検証する必要があります。たとえば、タスクは、データ送信などの汎用タスクの場合、または完了を促進または検証するために製品統合を必要とする場合があります。

### プロセスの自動化

プロセスの自動化タスクは、接続されたアプリケーション内でアクションを開始します。これらの統合は、開始日時に達し、先行タスク(たとえば、総勘定元帳からの夜間のデータ入力など)が完了したときに、外部アプリケーションで自動的に実行されます。これらのタスクは、多くの場合、就業時間後に実行されます。ユーザーの介入は限定的で、担当者はいません。

### イベント・モニタリング

イベント・モニタリング・タスクは受動的なタスクです。アクションは開始しませんが、別のアプリケーションをモニターしてアクションまたはステータスが発生するのを待ちます。アクションまたはステータスが発生すると、タスクは「完了」とマークされます。これらは、外部アプリケーションで発生するイベント(仕訳承認など)に基づきます。

タスク・マネージャには、次の事前作成済の統合が用意されています。

- Cloud 統合: EPM Cloud 接続のエンド・ユーザーおよびプロセス自動化統合。 [EPM Cloud サービスとの統合の管理](#)を参照してください。
- Cloud 統合: Oracle Cloud ERP。 [クラウドおよびオンプレミス・アプリケーションとの統合の管理](#)を参照してください。
- オンプレミス・エンド・ユーザーおよびイベント・モニタリング統合。 [クラウドおよびオンプレミス・アプリケーションとの統合の管理](#)を参照してください。
- オンプレミス Oracle E-Business Suite 一般会計、買掛金および売掛金統合。 [クラウドおよびオンプレミス・アプリケーションとの統合の管理](#)を参照してください。

Cloud またはオンプレミス用の他の統合が必要な場合、カスタム統合を作成できます。[カスタム統合の作成](#)を参照してください。

## EPM Cloud サービスとの統合の管理

タスク・マネージャを使用し、他の EPM Cloud サービスへのサブスクリプションがある場合、サービス間の接続を作成し、タスク・マネージャ機能を使用して統合を有効にすることができます。

事前作成済の統合によって、他の EPM Cloud の機能にアクセスするタスク・マネージャ・タスクを実行できます。

事前作成済の統合は、次の EPM Cloud サービスに対してタスク・マネージャ内で提供されます。

- Account Reconciliation
- Enterprise Data Management
- Financial Consolidation and Close
- Planning および Planning モジュール
- Profitability and Cost Management
- Tax Reporting

統合の設定方法についてさらに学習するには、[EPM Cloud 内の事前作成済の統合の追加](#)を参照してください。

使用可能なエンド・ユーザー統合についてさらに学習するには、[EPM Cloud のエンド・ユーザー統合](#)を参照してください。

使用可能な事前作成済の自動統合についてさらに学習するには、[EPM Cloud 用の自動化統合](#)を参照してください。

## EPM Cloud 内の事前作成済の統合の追加

前提条件を満たしていることを確認し、次のステップに従ってタスク・マネージャと他の EPM Cloud サービスとの間に統合を設定します。

### 前提条件

EPM Cloud サービス間の統合を作成するには、統合する EPM Cloud サービスへのサブスクリプションを取得する必要があります。

### 統合タイプおよびタスク・タイプを作成するには

他の EPM Cloud サービスへの接続を追加し、統合およびタスク・タイプをデプロイすることによって、EPM Cloud 統合を追加できます。EPM Cloud 内の事前作成済の統合を追加するには:

1. タスク・マネージャを含むサービスと他のサービスの間の接続を作成します:
  - ホーム・ページで、「ツール」、「接続」の順にクリックします。
  - 「作成」をクリックして、新しい接続を作成します:

- Enterprise Data Management の場合は、「その他の Web サービス・プロバイダ」を選択します。
- 他のすべての EPM サービスの場合は、「Oracle Enterprise Performance Management Cloud」プロバイダを選択します。
- EPM コネクト接続に名前を付けます。たとえば、Financial Consolidation and Close と統合する場合は、考えられる「接続名」として「FCCS」があります。
- 接続 URL を指定します。
- ユーザー資格証明を指定します。
- さらに、「その他の Web サービス・プロバイダ」については、詳細設定オプションを指定する必要があります。「詳細設定オプションを表示」をクリックします。
  - 「タイプ」で、「パラメータ」を選択します。
  - 「名前」に、SERVICE\_TYPE と入力します(これは固定値です)。
  - 「値」に、EDMCS と入力します(これは固定値です)。

EPM Cloud サブスクリプションの接続の詳細は、EPM Cloud の環境の接続を参照してください。

2. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
3. 左側の「統合」タブをクリックします。
4. 「統合」ページで、「接続の管理」をクリックします。
5. 「接続の管理」で、「アクション」から「EPM 接続の同期」を選択します。

Manage Connections Close

Connection	Enabled	Cloud
E-Business Suite - Account Payab	No	
E-Business Suite - Account Receiv	No	
E-Business Suite - General Ledger	No	
Financial Consolidation and Close	Yes	✓
Hyperion Financial Management	No	
Hyperion Profitability and Cost Management	No	
Oracle Cloud ERP - Assets	No	
Oracle Cloud ERP - Cash Management	No	
Oracle Cloud ERP - General Ledger	No	
Oracle Cloud ERP - Intercompany	No	
Oracle Cloud ERP - Payables	No	

Actions: New..., Edit..., Delete, Sync EPM Connections, Integration Cloud Connection...

同期の進行状況を示し、サービスに追加された統合の詳細を示すメッセージが表示されます。各統合に対して統合タイプおよびタスク・タイプが追加されます。

関連項目:

- [EPM Cloud のエンド・ユーザー統合](#)
- [EPM Cloud 用の自動化統合](#)

## EPM Cloud のエンド・ユーザー統合

エンド・ユーザー統合によって、タスク・マネージャを使用しながら他のリモートの EPM Cloud 環境の機能にアクセスできます。この項に、使用可能な次の EPM Cloud サービスに対するエンド・ユーザー統合をリストします。

- Account Reconciliation
- Planning および Planning モジュール
- Financial Consolidation and Close および Tax Reporting
- Profitability and Cost Management

リモート EPM Cloud 機能の説明は、その EPM Cloud サービスのドキュメントを参照してください。

### Account Reconciliation のエンド・ユーザー統合タスク

- コンソール
- データ交換
- 照合リスト(期間、保存済リスト)
- レポート
- トランザクション・リスト(期間、保存済リスト)

### Financial Consolidation and Close のエンド・ユーザー統合

- 承認
- アプリケーションの構成
- データ交換
- フォーム・データの入力(フォーム)  
必要なパラメータは、「タスクの詳細」ダイアログのドロップダウン・リストに表示される「フォーム」(EPM アーティファクト・タイプ)です。
- データのエクスポート
- メタデータのエクスポート
- 仕訳のエクスポート
- 財務レポートの生成  
必要なパラメータは、ドロップダウンからのレポートの選択です。
- データのインポート
- メタデータのインポート
- 仕訳のインポート
- 無効な交差レポート
- 会社間照合レポートの生成
- 仕訳レポートの生成
- 承認の管理

- デイメンションの管理
- フォームの管理
- 仕訳の管理
- 出資比率の管理
- 期間の管理
- 有効な交差の管理
- アプリケーションのリフレッシュ
- レポート
- ダッシュボードの表示(ダッシュボード)  
必要なパラメータは、「タスクの詳細」ダイアログのドロップダウン・リストに表示される「ダッシュボード」(EPM アーティファクト・タイプ)です。
- 財務レポートの表示
- 操作ダッシュボードの表示

#### Tax Reporting に対するエンド・ユーザー統合

- 承認
- アプリケーションの構成
- データ交換
- フォーム・データの入力(フォーム)  
必要なパラメータは、「タスクの詳細」ダイアログのドロップダウン・リストに表示される「フォーム」(EPM アーティファクト・タイプ)です。
- データのエクスポート
- メタデータのエクスポート
- 財務レポートの生成  
必要なパラメータは、ドロップダウンからのレポートの選択です。
- データのインポート
- メタデータのインポート
- 無効な交差レポート
- 承認の管理
- デイメンションの管理
- フォームの管理
- 期間の管理
- 有効な交差の管理
- アプリケーションのリフレッシュ
- レポート
- ダッシュボードの表示(ダッシュボード)。  
必要なパラメータは、「タスクの詳細」ダイアログのドロップダウン・リストに表示される「ダッシュボード」(EPM アーティファクト・タイプ)です



- 財務レポートの表示
- 操作ダッシュボードの表示

#### Planning および Planning モジュールのエンド・ユーザー統合

- 承認
- データ交換
- フォーム・データの入力(フォーム)  
必要なパラメータは、「タスクの詳細」ダイアログのドロップダウン・リストに表示される「フォーム」(EPM アーティファクト・タイプ)です。
- 財務レポートの生成  
必要なパラメータは、ドロップダウンからのレポートの選択です。
- 無効な交差レポート
- 承認の管理
- ディメンションの管理
- ルールの管理
- 有効な交差の管理
- レポート
- ダッシュボードの表示(ダッシュボード)。  
必要なパラメータは、「タスクの詳細」ダイアログのドロップダウン・リストに表示される「ダッシュボード」(EPM アーティファクト・タイプ)です
- 財務レポートの表示
- 操作ダッシュボードの表示

#### Profitability and Cost Management のエンド・ユーザー統合

- ダッシュボード
- データ交換
- 利益率レポートの生成
- 利益曲線(利益曲線)  
必要なパラメータは、「タスクの詳細」ダイアログのドロップダウン・リストに表示される「利益曲線」(EPM アーティファクト・タイプ)です。
- ダッシュボードの表示(ダッシュボード)。  
必要なパラメータは、「タスクの詳細」ダイアログのドロップダウン・リストに表示される「ダッシュボード」(EPM アーティファクト・タイプ)です。  
レポートの表示(レポート)

## EPM Cloud 用の自動化統合

EPM Cloud サービスには、次の事前作成済の統合を使用できます。

- Account Reconciliation
- Enterprise Data Management

- Financial Consolidation and Close
- Planning および Planning モジュール
- Profitability and Cost Management
- Tax Reporting

事前作成済の EPM Cloud 統合を使用するには、統合のパラメータを指定する必要があります。自動統合の多くのパラメータは、ドロップダウン・リストから選択でき、値を手動で入力する必要はありません。たとえば、ルールまたはルール・セットを実行するには、ForceConsolidate、ForceTranslate などのビジネス・ルールのリストから選択できます。

### EPM Cloud 用の統合(共通)

統合名/モジュール	モジュール	説明	パラメータ/説明
Financial Consolidation and Close からファイルをコピー	Enterprise Data Management を除くすべての EPM Cloud サービス	タスク・マネージャが構成されている現在のサービスから、別の EPM Cloud サービスにファイルをコピーします。 たとえば、Financial Consolidation and Close でタスク・マネージャを構成し、Account Reconciliation 接続を設定した場合、「Financial Consolidation and Close からファイルをコピー」によって、Financial Consolidation and Close から Account Reconciliation にファイルがコピーされます。	ファイル名: コピーするファイルの名前。 ファイルに名前を付けて保存: 保存するファイルの名前。これは、元のファイル名とは異なります。 外部ディレクトリ名(オプション): ディレクトリの名前。
Financial Consolidation and Close にファイルをコピー	Enterprise Data Management を除くすべての EPM Cloud サービス	別の EPM Cloud サービスから、タスク・マネージャが構成されている現在のサービスにファイルをコピーします。	ファイル名: コピーするファイルの名前。 ファイルに名前を付けて保存: 保存するファイルの名前。これは、元のファイル名とは異なります。 外部ディレクトリ名(オプション): ディレクトリの名前。
Financial Consolidation and Close からファイルを削除	Enterprise Data Management を除くすべての EPM Cloud サービス	EPM Cloud サービスからファイルを削除します。	ファイル名: 削除するファイルの名前。

統合名/モジュール	モジュール	説明	パラメータ/説明
データ統合のロックとロック解除	Enterprise Data Management を除くすべての EPM Cloud サービス	データ交換の場所、カテゴリおよび期間について統合をロックまたはロック解除します。これはプロセスが自動化された統合です。	<p>操作: ロックまたはロック解除から選択します。</p> <p>ロック・タイプ: ロック/ロック解除操作の対象がアプリケーションであるか場所であるかを選択します。</p> <p>期間: データ交換で定義された統合またはデータ・ロード・ルールから POV の期間を指定します(例: "Jan-21")。</p> <p>カテゴリ: 統合(データ・ルール)定義の POV カテゴリに基づく事前定義済みのシナリオ値を指定します。使用できるカテゴリは、データ統合設定で作成されたカテゴリです(「実際」など)。</p> <p>アプリケーション(オプション): 選択したロック・タイプがアプリケーションの場合、アプリケーションの名前を指定します(例: "Vision")。</p> <p>場所(オプション): 選択したロック・タイプが場所の場合、場所の名前を指定します。場所がロックされている場合は、その場所にデータをロードできません。</p> <p>場所別のロック解除(オプション): 選択した操作がロックで、選択した場所がアプリケーションである場合、このパラメータを指定できません。</p> <p>ターゲット・アプリケーションのロック時に選択すると、アプリケーション・レベルのロックではなく、ターゲット・アプリケーションの場所にあるすべてのルールがロックされます。</p> <p>詳細は、<a href="#">POV のロックおよびロック解除</a>を参照してください</p>

統合名/モジュール	モジュール	説明	パラメータ/説明
データ統合の 実行	Enterprise Data Management と Profitability and Cost Management を除くすべての EPM Cloud サービス	期間の処理方法とソース・フィルタに基づいて統合またはデータ・ロード・ルールを実行します。これにより、データ交換で定義されたデータ・ロードを月次処理スケジュールに簡単に統合できます。	<p>ジョブ・タイプ: ジョブ・タイプは「統合」です。</p> <p>統合名: データ統合で定義された統合の名前。</p> <p>期間名: 期間の名前。</p> <p>インポート・モード: データをデータ統合にインポートする方法を決定します。</p> <p>エクスポート・モード: データをデータ統合にエクスポートする方法を決定します。</p> <p>ファイル名: ネイティブ・ファイルベースのデータ・ロードにのみ適用され、他のロードについて指定した場合は無視されます。</p> <p>ソース・フィルタ: データ・ロード・ルールまたは統合について定義されたソース・フィルタを更新するために使用されるパラメータ。</p> <p>ターゲット・オプション: データ・ロード・ルールまたは統合について定義されたターゲット・オプションを更新するために使用されるパラメータ。</p> <p>実行モード: クイック・モード統合にのみ適用されます。</p> <p>これらのパラメータの詳細は、<i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API ガイドの統合の実行</i>を参照してください。</p>
パイプラインの 実行	Enterprise Data Management と Account Reconciliation を除くすべての EPM Cloud サービス	選択したジョブ・パラメータおよび変数に基づいてパイプラインを実行します。	<p>ジョブ・タイプ: ジョブ・タイプは「パイプライン」です。</p> <p>ジョブ名: データ統合でパイプラインに対して定義されているパイプライン・コード。</p> <p>開始期間: データがロードされる最初の期間。この期間名は、データ統合の期間マッピングに定義されている必要があります。</p> <p>終了期間: データがロードされる最後の期間。この期間名は、データ統合の期間マッピングに定義されている必要があります。</p> <p>インポート・モード: データをデータ統合にインポートする方法を決定します。</p> <p>エクスポート・モード: データをデータ統合にエクスポートする方法を決定します。</p> <p>ログの添付: ログを電子メールの添付として含めるかどうかを指定します。</p> <p>電子メールの送信: パイプラインの実行時に電子メールを送信するタイミングを決定します。</p> <p>送信先: 電子メール通知の受信者電子メール ID を決定します。</p> <p>これらのパラメータの詳細は、<i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API ガイドのパイプラインの実行</i>を参照してください。</p>

統合ファイルのコピーおよび削除も参照してください

## Account Reconciliation 用の統合

統合名/モジュール	モジュール	説明	パラメータ/説明
期間ステータスの変更	照合コンプライアンス	期間のステータス(オープン、クローズ済、保留中、ロック済)を変更します	<b>Period:</b> 期間の名前 <b>Status:</b> 保留中、オープン、クローズ済、ロック済
期間終了照合の作成	照合コンプライアンス	選択されたすべてのプロファイルを期間にコピーし、成功または失敗のステータスを返します。	<b>Period:</b> 期間の名前 <b>Filter:</b> 照合に一致するフィルタの名前
残高のインポート	照合コンプライアンス	データ管理を使用して、以前に作成されたデータ・ロード定義から残高データをインポートします。	<b>Period:</b> 期間の名前 <b>dl_Definition:</b> DL_test などの DL_name 形式を使用して以前に保存されたデータの名前
事前マップ済残高のインポート	照合コンプライアンス	事前マップ済残高をインポートします。	<b>Period:</b> 期間の名前 <b>BalanceType:</b> サブシステムまたはソース・システムの SUB SRC <b>CurrencyBucket:</b> 通貨バケット(機能など) <b>File:</b> 受信ボックスに関連するファイルの名前 (balances.csv など)。ファイルは、EPM 自動化または REST API を使用して ARCS にアップロードする必要があります。
事前マップ済トランザクションのインポート	照合コンプライアンス	特定の期間の事前マップ済トランザクションをインポートします。	<b>TransactionType:</b> 使用可能なトランザクション・タイプは、BEX (説明付き残高)、SRC (ソース・システムに対する調整)および SUB (サブシステムに対する調整)です <b>File:</b> 受信ボックスに関連するファイルの名前 (transactions.csv など)。ファイルは、EPM 自動化または REST API を使用して ARCS にアップロードする必要があります。 <b>DateFormat:</b> 日付フォーマット (MM/dd/yyyy、dd/MM/yyyy、dd-MMM-yy、MMM d,yyyy、All など)。

統合名/モジュール	モジュール	説明	パラメータ/説明
事前マップ済トランザクションのインポート	トランザクション照合	事前マップ済トランザクションのファイルをトランザクション照合にインポートします。	<p><b>DataSource:</b> トランザクションのインポート先データ・ソースのテキスト ID</p> <p><b>File:</b> 受信ボックスに関連するファイルの名前 (transactions.csv など)。ファイルは、EPM 自動化または REST API を使用して ARCS にアップロードする必要があります。</p> <p><b>ReconciliationType:</b> トランザクション・ファイルがインポートされる照合タイプのテキスト ID (銀行から GL など)</p> <p><b>DateFormat:</b> 日付フォーマット (MM/dd/yyyy、dd/MM/yyyy、MM-dd-yyyy、d-M-yyyy、dd-MMM-yy、MMM d, yyyy など)</p>
プロファイルのインポート	照合コンプライアンス	特定の期間のプロファイルをインポートします。	<p><b>ImportType:</b> インポート・タイプ。サポートされる値は、Replace および ReplaceAll です</p> <p><b>Period:</b> インポートする期間</p> <p><b>ProfileType:</b> プロファイル・タイプ。サポートされる値は、Profiles および Children です</p> <p><b>File:</b> 受信ボックスに関連するファイルの名前 (profiles.csv など)。ファイルは、EPM 自動化または REST API を使用して ARCS にアップロードする必要があります。</p> <p><b>DateFormat:</b> 日付フォーマット (MM/dd/yyyy、dd/MM/yyyy、d-M-yyyy、dd-MMM-yy、MMM d, yyyy、All など)</p>

統合名/モジュール	モジュール	説明	パラメータ/説明
レートのインポート	照合コンプライアンス	特定の期間およびレート・タイプのレートをインポートします。	<p><b>Period:</b> 期間の名前</p> <p><b>RateType:</b> レート・タイプ (会計など)</p> <p>レートのインポート (照合コンプライアンス)</p> <p><b>File:</b> 受信ボックスに関連するファイルの名前 (rates.csv など)。ファイルは、EPM 自動化または REST API を使用して ARCS にアップロードする必要があります。</p> <p><b>ImportType:</b> サポートされているインポート・タイプは <b>Replace</b> と <b>ReplaceAll</b> です</p>
照合のモニター	照合コンプライアンス	ARCS での照合のリストをモニターします	<p><b>Period:</b> 期間の名前</p> <p><b>Filter:</b> 照合リストの間合せに使用されるフィルタ文字列</p>
自動照合の実行	トランザクション照合	トランザクション照合で自動照合プロセスを実行します。	<b>ReconTypeId:</b> 自動照合する照合タイプのテキスト ID
照合の表示	照合コンプライアンス	指定された期間の照合を表示します。	<p><b>Period:</b> 期間の名前</p> <p><b>Saved List:</b> パブリック保存済リストの名前</p>
トランザクションの表示	トランザクション照合	指定された期間のトランザクションを表示します。	<p><b>Period:</b> 期間の名前</p> <p><b>Saved List:</b> パブリック保存済リストの名前</p>

## Enterprise Data Management 用の統合

統合名	説明	パラメータ/説明
ディメンションのエクスポート	ディメンションを <b>Enterprise Data Management</b> から構成済の接続にエクスポートします。これはプロセスが自動化された統合です。 <a href="#">EPM Cloud 内の事前作成済の統合の追加</a> を参照してください。	<p><b>アプリケーション:</b> ディメンションのエクスポート元となる <b>Enterprise Data Management</b> アプリケーションの名前。</p> <p><b>ディメンション:</b> エクスポートするディメンションの名前。</p> <p><b>接続:</b> <b>オプション</b>。ディメンションのエクスポート先となる接続の名前。</p> <p><b>ファイル名:</b> ディメンションのエクスポート元のファイルおよびパス。</p>

統合名	説明	パラメータ/説明
ディメンション・マッピングのエクスポート	ディメンション・マッピングを Enterprise Data Management から構成済の接続にエクスポートします。これはプロセスが自動化された統合です。	<p>アプリケーション: ディメンション・マッピングのエクスポート元となる Enterprise Data Management アプリケーションの名前。</p> <p>ディメンション: エクスポートするディメンション・マッピングの名前。</p> <p>接続: <b>オプション</b>。ディメンション・マッピングのエクスポート先となる接続の名前。</p> <p>マッピング場所: ディメンション・マッピングのエクスポート先の場所。</p> <p>ファイル名: ディメンション・マッピングのエクスポート元のファイルおよびパス。</p>
ディメンションのインポート	構成済の接続から Enterprise Data Management アプリケーションにディメンションをインポートします。これはプロセスが自動化された統合です。 <a href="#">EPM Cloud 内の事前作成済の統合の追加</a> を参照してください。	<p>アプリケーション: ディメンションのインポート先となる Enterprise Data Management アプリケーションの名前。</p> <p>ディメンション: インポートするディメンションの名前。</p> <p>接続: ディメンションのインポート元となる接続の名前。</p> <p>ファイル名: ディメンションのインポート元のファイルおよびパス。</p> <p>インポート・オプション: <b>オプション</b>。データを Enterprise Data Management にインポートする方法を決定します。</p>
ディメンションの抽出	ディメンションを Enterprise Data Management から構成済の接続に抽出します。これはプロセスが自動化された統合です。	<p>アプリケーション: ディメンションの抽出元となる Enterprise Data Management アプリケーションの名前。</p> <p>ディメンション: 抽出するディメンションの名前。</p> <p>抽出: 抽出の名前。</p> <p>接続: ディメンションの抽出先の接続の名前。</p> <p>ファイル名: ディメンションの抽出元のファイルおよびパス。</p>

### Financial Consolidation and Close および Tax Reporting 用の統合

統合名	説明	パラメータ/説明
キューブのクリア	入力およびレポート・キューブ内の特定のデータをクリアします	名前: キューブのクリア・ジョブの名前。



統合名	説明	パラメータ/説明
出資比率データを次の年にコピー	出資比率データを、年の最後の期間から次の年の最初の期間にコピーするタスクを自動化します。詳細は、の <a href="#">copyOwnershipDataToNextYear</a> を参照してください <b>Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作</b>	シナリオ: シナリオの名前(実績など)。選択可能 年: 選択可能
キューブのリフレッシュ	OLAP キューブをリフレッシュします。	名前: キューブのリフレッシュ・ジョブの名前。
データのクリア	プロファイル名を使用して、データのクリア・ジョブを実行します。 <b>Financial Consolidation and Close</b> での「データのクリア」の使用の詳細は、 <a href="#">データのクリア</a> を参照してください。 <b>Tax Reporting</b> での「データのクリア」の使用の詳細は、 <a href="#">データのクリア</a> を参照してください。	プロファイル名: データのクリア・プロファイルの名前。
データのコピー	プロファイル名を使用して、データのコピー・ジョブを実行します。 <b>Financial Consolidation and Close</b> での「データのコピー」の使用の詳細は、 <a href="#">データのコピー</a> を参照してください。 <b>Tax Reporting</b> での「データのコピー」の使用の詳細は、 <a href="#">データのコピー</a> を参照してください。	プロファイル名: データのコピー・プロファイルの名前。
データのエクスポート	データのエクスポート・タイプのジョブで指定されたデータのエクスポート設定(ファイル名を含む)を使用して、アプリケーション・データをファイルにエクスポートします。エクスポートされたデータが含まれるファイルはリポジトリに格納されます。	名前: データのエクスポート・ジョブの名前。 ファイル名のエクスポート: <b>オプション</b> 。データのエクスポート先のファイル名。
データ・マッピングのエクスポート	データ管理で定義されたデータ・マッピングを指定された場所にエクスポートします。これはプロセスが自動化された統合です。詳細は、 <a href="#">EPM Cloud 内の事前作成済の統合の追加</a> を参照してください メンバー・マッピングでは、単一ディメンション内のソース・メンバーとターゲット・ディメンション・メンバー間の関係が定義されます。	ディメンション: インポートする特定のディメンションのディメンション名( <b>ACCOUNT</b> など)、またはすべてのディメンションをインポートする場合は <b>ALL</b> 。 ファイル名: マッピングのエクスポート元のファイルおよびパス。ファイル・フォーマットは、 <b>.CSV</b> 、 <b>.TXT</b> 、 <b>.XLS</b> または <b>.XLSX</b> です。ファイル・パスに送信ボックス( <b>outbox</b> )を含めます ( <b>outbox/BESSAPPJan-06.csv</b> など) 場所名: エクスポート先の場所の名前。

統合名	説明	パラメータ/説明
出資比率データのエクスポート	エンティティからカンマ区切りの CSV ファイルに出資比率データをエクスポートするタスクを自動化します。詳細は、の <a href="#">exportOwnershipData</a> を参照してください <i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作</i>	エンティティ: エンティティの名前。 シナリオ: シナリオの名前(実績など)選択可能。 年: 選択可能 期間: 期間の名前(1 月など)選択可能。 ファイル名: エクスポートするファイルの名前。
データのインポート	データのインポート・タイプのジョブで指定されたデータのインポート設定を使用して、リポジトリ内のファイルからデータをアプリケーションにインポートします。	名前: データのインポート・ジョブの名前。 ファイル名のインポート: <b>オプション</b> 。データのインポート元のファイル名。

統合名	説明	パラメータ/説明
データ・マッピングのインポート	<p>データ管理で定義されたデータ・マッピングを指定された場所にインポートします。これはプロセスが自動化された統合です。</p> <p>メンバー・マッピングでは、単一ディメンション内のソース・メンバーとターゲット・ディメンション・メンバー間の関係が定義されます。</p> <p>選択した Excel (.CSV または .TXT) ファイルから、メンバー・マッピングをインポートできます。</p>	<p>ジョブ・タイプ: ジョブ・タイプ、<b>MAPPINGIMPORT</b>。</p> <p>ジョブ名: インポートする特定のディメンションのディメンション名(<b>ACCOUNT</b> など)、またはすべてのディメンションをインポートする場合は <b>ALL</b>。</p> <p>ファイル名: マッピングのインポート元のファイルおよびパス。ファイル・フォーマットは、.CSV、.TXT、.XLS または .XLSX です。ファイルは、インポート前に、受信ボックスまたは受信ボックスのサブディレクトリのいずれかにアップロードされている必要があります。ファイル・パスに受信ボックス(<b>inbox</b>)を含めず(<b>inbox/BESSAPPJan-06.csv</b> など)</p> <p>インポート・モード: 新規ルールを追加する、または既存ルールを置換する場合は <b>MERGE</b>、あるいはインポート前に以前のマッピング・ルールをクリアする場合は <b>REPLACE</b>。</p> <p>検証モード: 検証モードを使用するかどうか: <b>true</b> または <b>false</b>。<b>true</b> のエントリーは、ターゲット・アプリケーションに照らしてターゲット・メンバーを検証します。<b>false</b> は、検証なしでマッピング・ファイルをロードします。検証プロセスはリソースを大量に消費し、検証モードが <b>false</b> の場合よりも時間がかかります。ほとんどのユーザーが選択するオプションは <b>false</b> です</p> <p>場所名: マッピング・ルールをロードする必要があるデータ管理の場所。マッピング・ルールは、データ管理の場所に固有です。</p>
メタデータのインポート	<p>メタデータのインポート・タイプのジョブで指定されたメタデータのインポート設定を使用して、リポジトリ内のファイルからメタデータをアプリケーションにインポートします。</p>	<p>名前: メタデータのインポートで定義されたバッチの名前。</p>
出資比率データのインポート	<p>環境で使用可能な CSV ファイルから期間に出資比率データをインポートするタスクを自動化します。詳細は、の <a href="#">importOwnershipData</a> を参照してください <i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作</i></p>	<p>シナリオ: シナリオの名前(実績など)選択可能。</p> <p>年: 選択可能</p> <p>期間: 期間の名前(1 月など)選択可能。</p> <p>ファイル名: インポートするファイルの名前。</p>

統合名	説明	パラメータ/説明
仕訳期間	<p>仕訳期間を自動的にオープンまたはクローズします。</p> <p>承認済の仕訳および転記の戻し済の仕訳がない場合にのみ、期間はクローズされます。承認済の仕訳および転記の戻し済の仕訳がある場合、期間はクローズされずにエラーが返されます。</p> <p>「作業中」および「送信済」ステータスの転記の戻し済の仕訳がある場合、期間はクローズされますが、警告が表示されます。</p>	<p>シナリオ: シナリオの名前(実績など)</p> <p>年: 年(FY20 など)</p> <p>期間: 期間の名前(1 月など)</p> <p>アクション: オープンまたはクローズ</p>
<p>エンタープライズ仕訳のモニター</p> <p><b>ノート:</b> この統合は、<b>Financial Consolidation and Close</b> にのみ適用可能です</p>	<p>年/期間またはフィルタされたリスト内の仕訳の完了ステータスをモニターします。</p>	<p>年: オプション。年(2022 など)。選択可能。</p> <p>期間: オプション。期間の名前(1 月など)。選択可能。</p> <p>フィルタ名: オプション。エンタープライズ仕訳のステータスをモニターするために作成したフィルタの名前。</p> <p><b>ノート:</b> パラメータはすべてオプションですが、少なくとも「フィルタ名」か、「年」と「期間」を指定する必要があります。</p>
出資比率データの再計算	<p>出資比率データの再計算のタスクを自動化します。詳細は、の <a href="#">recomputeOwnershipData</a> を参照してください <i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作</i></p>	<p>シナリオ: シナリオの名前(実績など)</p> <p>年: 年(FY20 など)</p> <p>期間: 期間の名前(1 月など)</p>
バッチ・ルールの実行	<p>データ管理で定義されたジョブのバッチを実行します</p>	<p>名前: 実行するレポートの名前 (POV (ディメンション、カテゴリ、期間)パスのディメンション・マップなど)</p> <p>レポート・フォーマット・タイプ: レポートのファイル形式 - PDF、XLSX または HTML</p> <p>パラメータ: レポートに応じて数と値が異なります</p> <p>Location: レポートの場所 (Comma_Vision など)</p> <p>Run As: 「ワークフロー」タブでこのパラメータを指定する必要があります。</p>

統合名	説明	パラメータ/説明
ビジネス・ルールの実行	ビジネス・ルールを起動します。	名前: 定義されている正確なビジネス・ルール名。 パラメータ: JSON 構文の実行時プロンプト。パラメータ名は、ルール定義に定義されているのと完全に同じである必要があります。たとえば、 <pre>{ "MyScenario1": "Current",   "MyVersion1": "BU Version_1",   "ToEntity": "CA",   "Rule_Level_Var": "AZ",   "planType": "Plan1" }</pre> 次の形式の例もサポートされています: <pre>"Scenario=Actual" "Entity=Total Geography" "Year=FY21" "Period=Apr"</pre>
ビジネス・ルール・セットの実行	ビジネス・ルール・セットを起動します。実行時プロンプトがないルール・セットまたはデフォルト値がある実行時プロンプトがサポートされます。	名前: 定義されている正確なビジネス・ルール・セット名。 パラメータ: JSON 構文の実行時プロンプト。パラメータ名は、ルール定義に定義されているのと完全に同じである必要があります。たとえば、 <pre>{ "MyScenario1": "Current",   "MyVersion1": "BU Version_1",   "ToEntity": "CA",   "Rule_Level_Var": "AZ",   "planType": "Plan1" }</pre> 次の形式の例もサポートされています: <pre>"Scenario=Actual" "Entity=Total Geography" "Year=FY21" "Period=Apr"</pre>
連結の実行	このタスクは、連結を実行するユーティリティ・タスクです。タスクでは、ユーザーはシナリオ、年、期間、エンティティなどのタスクを実行するためのパラメータを入力するように要求されます。	シナリオ 年 期間 <b>Entity:</b> カンマで区切って複数のエンティティを追加できます。

統合名	説明	パラメータ/説明
データ・ルールの実行	<p>指定した開始期間および終了期間とインポート・オプションまたはエクスポート・オプションに基づいて、データ管理のデータ・ロード・ルールを実行します。</p>	<p>ジョブ名: データ管理に定義されているデータ・ロード・ルールの名前。</p> <p>開始期間: データがロードされる最初の期間。この期間名は、データ管理の期間マッピングに定義されている必要があります。</p> <p>終了期間: データがロードされる最後の期間。この期間名は、データ管理の期間マッピングに定義されている必要があります。</p> <p>インポート・モード: データをデータ管理にインポートする方法を決定します。</p> <p><b>APPEND:</b> 既存のルールに追加します</p> <p><b>POV</b> データに追加します</p> <p><b>REPLACE:</b> POV データを削除してファイルからのデータで置換します</p> <p><b>RECALCULATE:</b> データのインポートをスキップしますが、更新されたマッピングおよび論理勘定科目を使用して再処理します。</p> <p><b>NONE:</b> データ管理のステージング表へのデータ・インポートをスキップします</p> <p>エクスポート・モード: データをデータ管理にエクスポートする方法を決定します。</p> <p><b>STORE_DATA:</b> データ管理のステージング表のデータを <b>Financial Consolidation and Close</b> または <b>Tax Reporting</b> の既存のデータとマージします</p> <p><b>ADD_DATA:</b> データ管理のステージング表のデータを <b>Financial Consolidation and Close</b> または <b>Tax Reporting</b> に追加します</p> <p><b>SUBTRACT_DATA:</b> データ管理のステージング表のデータを <b>Financial Consolidation and Close</b> または <b>Tax Reporting</b> の既存のデータから削除します</p> <p><b>REPLACE_DATA:</b> POV データをクリアしてデータ管理のステージング表のデータで置換します。データがクリアされる対象は、シナリオ、バージョン、年、期間およびエンティティです</p> <p><b>NONE:</b> データ管理から <b>Financial Consolidation and Close</b> または <b>Tax Reporting</b> へ</p>

統合名	説明	パラメータ/説明
		<p>のデータのエクスポートをスキップします</p> <p>ファイル名: <b>オプション</b>。ファイル名を指定しないと、この API によってデータ・ロード・ルールに指定されたファイル名に含まれるデータがインポートされます。データ・ルールの実行前にデータ・ファイルが受信ボックスにすでに存在している必要があります。</p> <p><b>Run As:</b> 「ワークフロー」タブでこのパラメータを指定する必要があります。</p>
強制連結の実行	このタスクは、強制連結を実行するユーティリティ・タスクです。タスクでは、ユーザーはシナリオ、年、期間、エンティティなどのタスクを実行するためのパラメータを入力するように要求されます。	<p>シナリオ</p> <p>年</p> <p>期間</p> <p><b>Entity:</b> カンマで区切って複数のエンティティを追加できます。</p>
強制換算の実行	このタスクは、強制換算を実行するユーティリティ・タスクです。タスクでは、ユーザーはシナリオ、年、期間、エンティティなどのタスクを実行するためのパラメータを入力するように要求されます。	<p>シナリオ</p> <p>年</p> <p>期間</p> <p><b>Entity:</b> カンマで区切って複数のエンティティを追加できます。</p>
換算の実行	このタスクは、換算を実行するユーティリティ・タスクです。タスクでは、ユーザーはシナリオ、年、期間、エンティティなどのタスクを実行するためのパラメータを入力するように要求されます。	<p>シナリオ</p> <p>年</p> <p>期間</p> <p><b>Entity:</b> カンマで区切って複数のエンティティを追加できます。</p>

## Planning および Planning モジュール用の統合

統合名	説明	パラメータ/説明
キューブのクリア	入力およびレポート・キューブ内の特定のデータをクリアします	名前: キューブのクリア・ジョブの名前。
キューブのリフレッシュ	OLAP キューブをリフレッシュします。	名前: キューブのリフレッシュ・ジョブの名前。
データのエクスポート	データのエクスポート・タイプのジョブで指定されたデータのエクスポート設定(ファイル名を含む)を使用して、アプリケーション・データをファイルにエクスポートします。エクスポートされたデータが含まれるファイルはリポジトリに格納されます。	<p>名前: データのエクスポート・ジョブの名前。</p> <p>ファイル名のエクスポート: <b>オプション</b>。データのエクスポート先のファイル名。</p>

統合名	説明	パラメータ/説明
データのインポート	データのインポート・タイプのジョブで指定されたデータのインポート設定を使用して、リポジトリ内のファイルからデータをアプリケーションにインポートします。	名前: データのインポート・ジョブの名前。 ファイル名のインポート: <b>オプション</b> 。データのインポート元のファイル名。
メタデータのインポート	メタデータのインポート・タイプのジョブで指定されたメタデータのインポート設定を使用して、リポジトリ内のファイルからメタデータをアプリケーションにインポートします。	名前: メタデータのインポートで定義されたバッチの名前。
バッチの実行	データ管理で定義されたジョブのバッチを実行します	名前: 実行するレポートの名前 ( <b>POV</b> (ディメンション、カテゴリ、期間)パスのディメンション・マップなど) レポート・フォーマット・タイプ: レポートのファイル形式 ( <b>PDF</b> 、 <b>XLSX</b> または <b>HTML</b> ) パラメータ: レポートに応じて数と値が異なります <b>Location</b> : レポートの場所 ( <b>Comma_Vision</b> など)
ビジネス・ルールの実行	ビジネス・ルールを起動します。	名前: 定義されている正確なビジネス・ルール名。 パラメータ: <b>JSON</b> 構文の実行時プロンプト。パラメータ名は、ルール定義に定義されているのと完全に同じである必要があります。たとえば、 <code>{"MyScenario1":"Current", "MyVersion1":"BU Version_1", "ToEntity":"CA", "Rule_Level_Var":"AZ", "planType":"Plan1"}</code> 次の形式の例もサポートされています: <code>"Scenario=Actual" "Entity=Total Geography" "Year=FY21" "Period=Apr"</code>



統合名	説明	パラメータ/説明
ビジネス・ルール・セットの実行	ビジネス・ルール・セットを起動します。実行時プロンプトがないルール・セットまたはデフォルト値がある実行時プロンプトがサポートされます。	名前: 定義されているとおりの正確なビジネス・ルール・セット名。 パラメータ: JSON 構文の実行時プロンプト。パラメータ名は、ルール定義に定義されているのと完全に同じである必要があります。たとえば、 { "MyScenario1": "Current", "MyVersion1": "BU Version_1", "ToEntity": "CA", "Rule_Level_Var": "AZ", "planType": "Plan1" } 次の形式の例もサポートされています: "Scenario=Actual" "Entity=Total Geography" "Year=FY21" "Period=Apr"

統合名	説明	パラメータ/説明
データ・ルールの実行	指定した開始期間および終了期間とインポート・オプションまたはエクスポート・オプションに基づいて、データ管理のデータ・ロード・ルールを実行します。	<p>ジョブ名: データ管理に定義されているデータ・ロード・ルールの名前。</p> <p>開始期間: データがロードされる最初の期間。この期間名は、データ管理の期間マッピングに定義されている必要があります。</p> <p>終了期間: データがロードされる最後の期間。この期間名は、データ管理の期間マッピングに定義されている必要があります。</p> <p>インポート・モード: データをデータ管理にインポートする方法を決定します。</p> <p><b>APPEND:</b> 既存のルールに追加します</p> <p><b>POV</b> データに追加します</p> <p><b>REPLACE:</b> POV データを削除してファイルからのデータで置換します</p> <p><b>RECALCULATE:</b> データのインポートをスキップしますが、更新されたマッピングおよび論理勘定科目を使用して再処理します。</p> <p><b>NONE:</b> データ管理のステージング表へのデータ・インポートをスキップします</p> <p><b>exportMode:</b> データをデータ管理にエクスポートする方法を決定します。</p> <p><b>STORE_DATA:</b> データ管理のステージング表のデータを既存の <b>Oracle Hyperion Planning</b> のデータとマージします</p> <p><b>ADD_DATA:</b> データ管理のステージング表のデータを <b>Planning</b> に追加します</p> <p><b>SUBTRACT_DATA:</b> データ管理のステージング表のデータを既存の <b>Planning</b> のデータから削除します</p> <p><b>REPLACE_DATA:</b> POV データをクリアしてデータ管理のステージング表のデータで置換します。データがクリアされる対象は、シナリオ、バージョン、年、期間およびエンティティです</p>

統合名	説明	パラメータ/説明
		<p>NONE: データ管理から Planning へのデータのエクスポートをスキップします</p> <p>ファイル名: <b>オプション</b>。ファイル名を指定しないと、この API によってデータ・ロード・ルールに指定されたファイル名に含まれるデータがインポートされます。データ・ルールの実行前にデータ・ファイルが受信ボックスにすでに存在している必要があります。</p>

### Profitability and Cost Management 用の統合

統合名	説明	パラメータ/説明
データ権限の適用	<p>指定された Oracle Profitability and Cost Management Cloud アプリケーションのデータ権限を適用します。この API は、Essbase でデータ権限を作成および適用するジョブを送信します。この API は、Essbase の既存のすべてのデータ権限を削除し、アプリケーションからの最新の情報でデータ権限を再作成します。問題がある場合は、データ権限を修復するために使用することもできます。</p>	なし
ML キューブのデプロイ	<p>選択した Oracle Profitability and Cost Management Cloud アプリケーションの計算キューブをデプロイまたは再デプロイします。</p>	<p><b>isKeepData</b>: 既存のデータを保存するかどうかを指定します</p> <p><b>isReplacecube</b>: 既存を置き換えるかどうかを指定します</p> <p><b>comment</b>: 任意のユーザー・コメント</p>

統合名	説明	パラメータ/説明
ML 計算の実行	<p>選択したアプリケーションの計算を実行またはクリアします。管理元帳で使用します。</p>	<p><b>povGroupMember:</b> 計算を実行する POV グループ・メンバー(2015_January_Actual など)</p> <p><b>isClearCalculated:</b> 計算データをクリアするかどうか。 <b>true</b> または <b>false</b></p> <p><b>subsetStart:</b> ルール・セット開始連番</p> <p><b>subsetEnd:</b> ルール・セット終了連番</p> <p><b>Rule:</b> SINGLE_RULE のルール名</p> <p><b>ruleSetName:</b> - SINGLE_RULE オプションのルール・セット名</p> <p><b>exeType:</b> - 実行するルールを指定する実行タイプ。使用可能な値は ALL_RULES、RULESET_SUBSET、SINGLE_RULE です。他のパラメータは、exeType の値に応じて必要です。</p> <p><b>exeType: ALL_RULES</b> は subsetStart、subsetEnd、ruleSetName、ruleName など、他のすべてのオプションを上書きします。</p> <p><b>exeType: RULESET_SUBSET</b> は subsetStart および subsetEnd のみを考慮します。</p> <p><b>exeType: SINGLE_RULE</b> は ruleSetName および ruleName のみを考慮します。</p> <p><b>Comment:</b> コメント・テキストを使用します。</p> <p><b>Delimiter:</b> POV グループ・メンバーの文字列区切り文字(アンダースコア(_)など)。</p>

統合名	説明	パラメータ/説明
ML POV のクリア	モデル・アーティファクトとデータをアプリケーションの POV の組合せからクリアします。	<p><b>POV GroupMember:</b> 計算を実行する POV グループ・メンバー(2015_January_Actual など)</p> <p><b>isManageRule:</b> プログラム・ルール詳細をクリアするかどうか</p> <p><b>isInputData:</b> 入力データをクリアするかどうか</p> <p><b>IsAllocatedValues:</b> 割り当てられた値をクリアするかどうか</p> <p><b>stringDelimiter:</b> POV グループ・メンバーの文字列区切り</p>
ML POV のコピー	モデル・アーティファクトとソース POV の組合せのデータを、アプリケーションの宛先 POV の組合せにコピーします。管理元帳アプリケーションで使用します。	<p><b>POV:</b> パスに含まれます</p> <p><b>srcPOVMemberGroup:</b> ソース POV メンバー・グループ(2014_January_Actual など)</p> <p><b>destPOVMemberGroup:</b> 宛先 POV メンバー・グループ(2014_March_Actual など)</p> <p><b>isManageRule:</b> プログラム・ルールの詳細をコピーするかどうか</p> <p><b>isInputData:</b> 入力データをコピーするかどうか</p> <p><b>modelViewName:</b> データの一部をソース POV から宛先 POV にコピーします</p> <p>宛先 POV の作成: 宛先 POV がまだ存在しない場合は作成するかどうか</p> <p>文字列区切り: POV グループ・メンバーの文字列区切り</p>

統合名	説明	パラメータ/説明
データ・ルールの実行	<p>指定した開始期間および終了期間とインポート・オプションまたはエクスポート・オプションに基づいて、データ管理のデータ・ロード・ルールを実行します。</p>	<p>ジョブ名: データ管理に定義されているデータ・ロード・ルールの名前。</p> <p>開始期間: データがロードされる最初の期間。この期間名は、データ管理の期間マッピングに定義されている必要があります。</p> <p>終了期間: データがロードされる最後の期間。この期間名は、データ管理の期間マッピングに定義されている必要があります。</p> <p>インポート・モード: データをデータ管理にインポートする方法を決定します。</p> <p><b>APPEND:</b> 既存のルールに追加します</p> <p><b>POV</b> データに追加します</p> <p><b>REPLACE:</b> POV データを削除してファイルからのデータで置換します</p> <p><b>RECALCULATE:</b> データのインポートをスキップしますが、更新されたマッピングおよび論理勘定科目を使用して再処理します。</p> <p><b>NONE:</b> データ管理のステージング表へのデータ・インポートをスキップします</p> <p>エクスポート・モード: データをデータ管理にエクスポートする方法を決定します。</p> <p><b>STORE_DATA:</b> データ管理のステージング表のデータを <b>Profitability and Cost Management</b> の既存のデータとマージします</p> <p><b>ADD_DATA:</b> データ管理のステージング表のデータを <b>Profitability and Cost Management</b> に追加します</p> <p><b>SUBTRACT_DATA:</b> データ管理のステージング表のデータを <b>Profitability and Cost Management</b> の既存のデータから削除します</p> <p><b>REPLACE_DATA:</b> POV データをクリアしてデータ管理のステージング表のデータで置換します。データがクリアされる対象は、シナリオ、バージョン、年、期間およびエンティティです</p> <p><b>NONE:</b> データ管理から <b>Profitability and Cost</b></p>

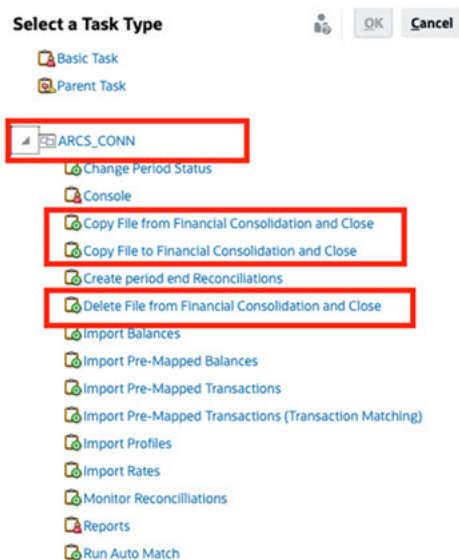
統合名	説明	パラメータ/説明
		Management へのデータのエクスポートをスキップします ファイル名: <b>オプション</b> 。ファイル名を指定しないと、この API によってデータ・ロード・ルールに指定されたファイル名に含まれるデータがインポートされます。データ・ルールの実行前にデータ・ファイルが受信ボックスにすでに存在している必要があります。
バッチ・ルールの実行	データ管理で定義されたジョブのバッチを実行します	ジョブ名: データ管理に定義されているバッチの名前。
ディメンションの更新	フラット・ファイルを使用して作成されたアプリケーションの新しいディメンション・フラット・ファイルをアップロードします。これはプロセスが自動化された統合です。詳細は、 <a href="#">ジョブとしてディメンションを更新</a> を参照してください	ファイル名: データ・ファイル名 区切り記号: <b>オプション</b> ・パラメータ

## 統合ファイルのコピーおよび削除

次の統合は EPM Cloud に共通です:

- <EPM Cloud サービス>からファイルをコピー
- <EPM Cloud サービス>にファイルをコピー
- <EPM Cloud サービス>からファイルを削除

例



これらの統合を実行するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「統合」タブをクリックします。
3. 事前作成済の統合のリストから、「<EPM Cloud サービス>からファイルをコピー」を選択します。これにより、現在のタスク・マネージャ・サービスからリモート EPM Cloud サービスにファイルがコピーされます。たとえば、Financial Consolidation and Close でタスク・マネージャを構成し、Account Reconciliation 接続を設定した場合、**Financial Consolidation and Close からファイルをコピー**によって、Financial Consolidation and Close から Account Reconciliation にファイルがコピーされます。

 **Note:**

これは、Enterprise Data Management を除くすべてのリモート EPM Cloud サービスに適用されます。

- 次のパラメータを入力します:

* File Name	<input type="text"/>
Save File As	<input type="text"/>
External Directory Name	<input type="text"/>

- **ファイル名:** コピーするファイルを参照して選択します。
  - **ファイルに名前を付けて保存:** (元のファイル名とは異なる)ファイル名を入力します。
  - **外部ディレクトリ名(オプション):** ディレクトリの名前を選択します。
- 「保存」と「閉じる」をクリックします。
4. 「<EPM Cloud サービス>にファイルをコピー」を選択します。これにより、別の EPM Cloud サービスから、タスク・マネージャが構成されている現在のサービスにファイルがコピーされます。

 **Note:**

これは、Enterprise Data Management を除くすべてのリモート EPM Cloud サービスに適用されます。

- 次のパラメータを入力します:
- **ファイル名:** コピーするファイルを参照して選択します。
  - **ファイルに名前を付けて保存:** (元のファイル名とは異なる)ファイル名を入力します。
  - **外部ディレクトリ名(オプション):** ディレクトリの名前を選択します。
- 「保存」と「閉じる」をクリックします。
5. 「<EPM Cloud サービス>からファイルを削除」を選択します。これにより、EPM Cloud サービスからファイルが削除されます。



 **Note:**

これは、Enterprise Data Management を除くすべてのリモート EPM Cloud サービスに適用されます。

- 「**ファイル名**」で、削除するファイルを参照して選択します。

\* File Name

- 「**保存**」と「**閉じる**」をクリックします。

[EPM Cloud 用の自動化統合](#)も参照してください。

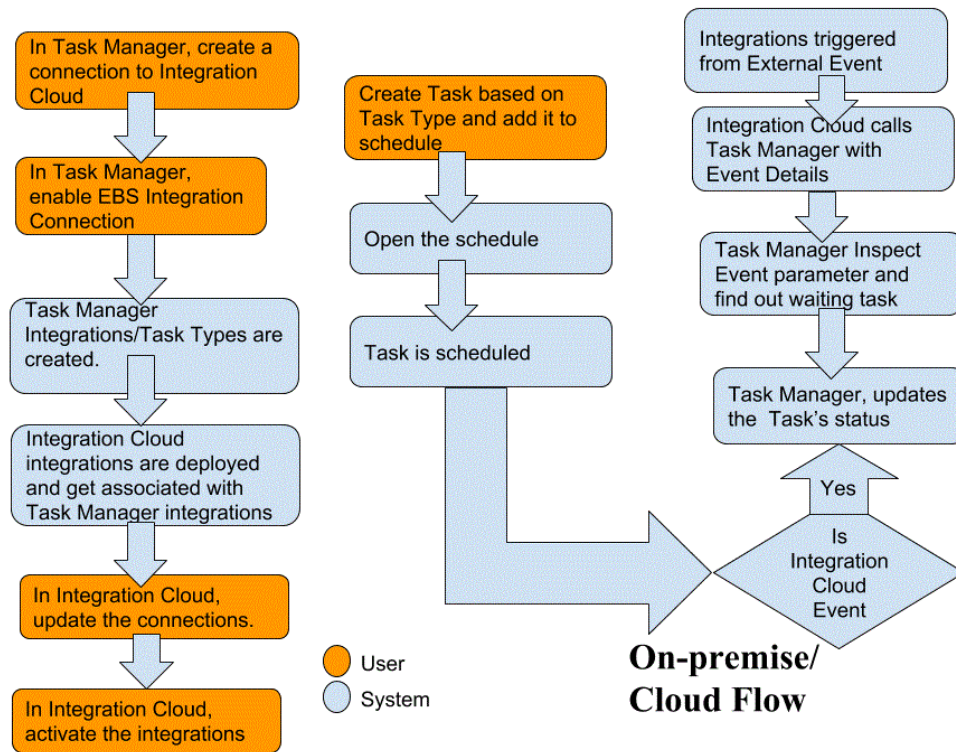
## クラウドおよびオンプレミス・アプリケーションとの統合の管理

この付録では、次の事前作成済のタスク・マネージャ統合の設定方法について説明します:

- Oracle Cloud ERP 統合
- オンプレミス統合
- オンプレミス Oracle E-Business Suite イベント・モニタリング統合

EPM Cloud は、タスク・マネージャが EPM Cloud 以外のサービスで自動タスクを実行するための統合プラットフォームとして、Oracle Integration Cloud を使用します。

次の図は、Financial Consolidation and Close に適用されるシステムおよびユーザー・フローを示しています。



## Oracle Cloud ERP 用のエンド・ユーザー統合

タスク・マネージャのエンド・ユーザー統合では、リモートのクラウド環境の機能にアクセスできます。この項に、使用可能な Oracle Cloud ERP に対する タスク・マネージャ・エンド・ユーザー統合をリストします。

リモートのクラウドの機能の説明は、そのクラウド・サービスのドキュメントを参照してください。

### Oracle Cloud ERP - Assets 用のエンド・ユーザー統合

- 総勘定元帳との資産残高突合せ
- 資産取得価額要約
- 資産償却累計額要約
- 減価償却の計算
- 繰延償却の計算
- CIP 資産の資産計上
- 資産会計の作成
- 仕訳償却累計額元帳レポート
- 資産割当ての管理
- 資産財務トランザクションの管理

- 一括除・売却の管理
- 一括振替の管理
- 税務台帳の定期一括コピー
- 期間クローズ例外レポート
- ソース明細の準備および一括追加の転記の発行
- 資産の再稼働
- 資産の除・売却

#### **Oracle Cloud ERP - Cash Management 用のエンド・ユーザー統合**

- 銀行取引明細書突合せ
- 会計の作成
- 現金の総勘定元帳との突合せレポート
- 補助元帳期間クローズ例外レポート

#### **Oracle Cloud ERP - General Ledger 用のエンド・ユーザー統合**

- 仕訳の自動転記
- 仕訳の自動逆仕訳
- 総勘定元帳期間のクローズ
- 配賦ルールの作成
- 貸借対照表決算整理仕訳の作成
- 損益計算書決算整理仕訳の作成
- 買掛/未払金の総勘定元帳との突合せデータの抽出
- 売掛/未収金の総勘定元帳との突合せデータの抽出
- 財務レポート・センター作業領域
- 一般会計ダッシュボード
- 配賦ルールの生成
- 総勘定元帳残高試算表
- 総勘定元帳平均残高試算表
- 総勘定元帳仕訳レポート
- 総勘定元帳一般仕訳レポート
- 総勘定元帳仕訳詳細レポート
- 総勘定元帳仕訳帳レポート
- 総勘定元帳仕訳バッチ要約レポート
- 総勘定元帳勘定科目詳細レポート
- 総勘定元帳相対勘定の勘定科目分析レポート
- 総勘定元帳平均残高監査会計分析レポート

- 総勘定元帳勘定科目分析レポート
- 総勘定元帳残高試算表レポート
- 仕訳のインポート
- 総勘定元帳の会計期間の管理
- 仕訳の管理
- 総勘定元帳期間のオープン
- 期間クローズ・ダッシュボード
- 買掛/未払金の総勘定元帳との突合せ
- 売掛/未収金の総勘定元帳との突合せ
- 残高の評価替え
- 換算
- 残高相互元帳の転送
- セカンダリ元帳への残高の転送

#### **Oracle Cloud ERP - Intercompany 用のエンド・ユーザー統合**

- 会社間勘定詳細レポート
- 会社間照合
- 会社間トランザクション要約レポート
- 会社間トランザクション作業領域
- 会社間期間ステータスの管理
- 会社間トランザクションを総勘定元帳に転送
- 会社間トランザクションを売掛/未収金に転送
- 会社間トランザクションを買掛/未払金に転送

#### **Oracle Cloud ERP - Payables 用のエンド・ユーザー統合**

- 欠落している換算レートの適用
- 未完了の支払プロセス要求の完了または取消
- 買掛/未払金会計の作成
- 一括追加の作成
- 買掛/未払金の総勘定元帳との突合せデータの抽出
- 買掛/未払金請求書のインポート
- 買掛/未払金支払要求のインポート
- 買掛/未払金期間の管理
- オープン項目評価替えレポート
- 買掛/未払金未計上トランザクション・レポート
- 買掛/未払金請求書ランディング・ページ

- スイープ・オプションを指定した買掛/未払金未計上トランザクション・レポート
- 買掛/未払金残高試算表レポート
- 期間クローズ例外レポート
- 買掛/未払金の総勘定元帳との突合せレポートの確認
- トランザクション承認待ち
- 原価の原価管理への転送
- 満期支払手形ステータスの更新
- 満期支払手形ステータスの更新
- 未検証トランザクションの検証

#### **Oracle Cloud ERP - Receivables 用のエンド・ユーザー統合**

- 顧客与信の承認または否認
- 請求作業領域
- 入金 of 自動決済
- 自動請求調整の作成
- 自動入金バッチの作成
- 入金送金バッチの作成
- 延滞手数料バッチの作成
- 自動入金消込の作成
- 売掛/未収金会計の作成
- 売掛/未収金から総勘定元帳への突合せデータの抽出
- 自動インボイスのインポート: マスター
- 売掛/未収金会計期間の管理
- 収益調整の管理
- 売掛/未収金残高作業領域
- ロック・ボックスを介した入金の処理
- 収益の認識
- 総勘定元帳勘定科目別売掛/未収金年齢調べレポート
- 補助元帳期間クローズ例外レポートの発行

#### **Oracle Cloud ERP - Tax 用のエンド・ユーザー統合**

- 税金突合せレポート
- 課税対象勘定別税金突合せレポート

#### **Cloud ERP 統合のアプリケーション・トークン値**

**トークン名:** SERVER

**トークンの説明:** URL ベース統合で使用されるプロパティ。例: 次の架空の URL: `https://customer_chosen_domain_name_fa.DC.oraclecloud.com`

### ノート:

URL の末尾にスラッシュ(/)を指定しないでください。

## タスク・マネージャに ERP Cloud タスクを表示するための前提条件

タスク・マネージャに ERP Cloud タスクを表示するには、Cloud ERP アプリケーションが iFrame 内でサイトを表示できるようになっている必要があります。Cloud ERP を開いたときに <Cloud ERP URL> への接続が拒否されましたというエラーとともに空白のページが表示された場合は、これらの前提条件が満たされていることを確認してください。

1. Identity Cloud Service (IDCS) - iFrame を介した認証の許可
  - a. IDCS 管理コンソールのナビゲーション・トレイで、「設定」、「セッション設定」の順にクリックします。
  - b. 「Cross-Origin Resource Sharing (CORS)の許可」スライダを有効にします。
  - c. 許可されるソース・ドメイン名に、EPM ルート URL を入力します
  - d. 「保存」をクリックします。IDCS - iFrame を介した認証を許可する方法(Doc ID 2565100.1)を参照してください。

### ノート:

IDCS を使用しておらず、シングル・サインオンに Okta などの別のアプリケーションを使用している場合は、そのアプリケーションで EPM に対して Cross-Origin Resource Sharing (CORS)を有効にする必要があります。

2. 次のプロファイル・オプションについて EPM Cloud ルート URL を Oracle Cloud Application に追加して Cross-Origin Resource Sharing (CORS)を有効化するように、Oracle Cloud ERP アプリケーション管理者に要求します:

- ORA\_CORS\_ORIGINS
- ORACLE.ADF.VIEW.ALLOWED\_ORIGINS

プロファイル値を更新するには:

- a. 管理者として Cloud ERP アプリケーションにログインします。
- b. ユーザー管理メニューから、設定およびメンテナンスに移動します。
- c. 「管理者プロファイル値の管理」を検索します。
- d. プロファイル・コードとして ORACLE.ADF.VIEW.ALLOWED\_ORIGINS を入力し、「検索」をクリックします。
- e. プロファイル値セクションで、値を指定します。サード・パーティの URL にアクセスするには、サード・パーティの URL を 'self' とともに含めます(セパレータとして空白を使用します)。例:  
'self' <空白> <url>

参照先

- [Fusion Applications](#) でのデータのフェッチ問題を回避するための "ORACLE.ADF.VIEW.ALLOWED\_ORIGINS" の有効な値 (Doc ID 2571613.1)
  - [ORACLE.ADF.VIEW.ALLOWED\\_ORIGINS](#) プロファイル・オプションの使用法 (Doc ID 2856584.1)
  - [Visual Builder Studio](#) の管理
- f. [ORA\\_CORS\\_ORIGINS](#) プロファイル・オプションについて、同じステップを繰り返します。

## Oracle Cloud ERP 用のイベント・モニタリング統合

この項に、同梱されている Oracle Cloud ERP 用のイベント・モニタリング統合をリストします。

### ノート:

カスタムのプロセスの自動化、または Oracle Cloud ERP とのイベント・モニタリング統合については、[カスタム・タスク・マネージャ統合の作成](#)を参照してください。

### Oracle Cloud ERP General Ledger でサポートされているイベント

General Ledger では次のイベントがサポートされています:

ソース	イベント	説明
総勘定元帳	会計期間のクローズ	総勘定元帳の会計期間がクローズするときのシグナル。
総勘定元帳	会計期間のオープン	総勘定元帳の会計期間がオープンするときのシグナル。
総勘定元帳	会計期間の再オープン	総勘定元帳の会計期間が再オープンするときのシグナル。
総勘定元帳	仕訳バッチの承認	仕訳バッチが承認されるときシグナル。
総勘定元帳	仕訳バッチ転記の完了	仕訳バッチが転記されるときシグナル。

### 同梱された既存の接続に追加される統合

表には、タスク・マネージャからビジネス・イベントをモニターするために追加される統合を、次を含めてリストしています:

- タスク・マネージャの統合タイプ
- タスク・マネージャのタスク・タイプ
- [Integration Cloud](#) での統合フロー

接続名	統合名	統合コード	イベント名	説明	パラメータ
Oracle Cloud ERP - General Ledger	期間クローズ・イベント	R13GLPeriodClose	会計期間のクローズ	Oracle Cloud ERP General Ledger 期間クローズ・イベント・モニタリング	<b>LedgerName:</b> 元帳の名前。例: US Primary Ledger。 <b>Period:</b> 期間の名前。例: 01-19。
Oracle Cloud ERP - General Ledger	期間オープン・イベント	R13GLPeriodOpen	会計期間のオープン	Oracle Cloud ERP General Ledger 期間オープン・イベント・モニタリング	<b>LedgerName:</b> 元帳の名前。例: US Primary Ledger。 <b>Period:</b> 期間の名前。例: 01-19。
Oracle Cloud ERP - General Ledger	期間再オープン・イベント	R13GLPeriodReopen	会計期間の再オープン	Oracle Cloud ERP General Ledger 期間再オープン・イベント・モニタリング	<b>LedgerName:</b> 元帳の名前。例: US Primary Ledger。 <b>Period:</b> 期間の名前。例: 01-19。
Oracle Cloud ERP - General Ledger	仕訳承認イベント	R13GLJournalBatchApprove	仕訳バッチの承認	Oracle Cloud ERP General Ledger 仕訳バッチ承認イベント・モニタリング	<b>BatchName:</b> 仕訳バッチ名 <b>Period:</b> 期間の名前。例: 01-19。
Oracle Cloud ERP - General Ledger	仕訳転記イベント	R13GLJournalBatchPost	仕訳バッチの転記	Oracle Cloud ERP General Ledger 仕訳バッチ転記イベント・モニタリング	<b>BatchName:</b> 仕訳バッチ名 <b>Period:</b> 期間の名前。例: 01-19。

### タスク・マネージャでの統合の設定

タスク・マネージャでは、Oracle Cloud ERP - General Ledger のイベント・モニタリング統合を作成できます。イベント・モニタリング統合は、他のクラウド・サービスまたはオンプレミス・アプリケーションで外部イベントが発生するとトリガーされます。

Oracle Cloud ERP でビジネス・イベントが使用可能であることを確認してください。REST API を使用してイベントを検証できます。Oracle Financials Cloud REST API ガイドの「ERP ビジネス・イベント REST エンドポイント」の項にある次のトピックを参照してください:

<https://docs.oracle.com/en/cloud/saas/financials/22d/farfa/api-erp-business-events.html>

イベントを検証するには、すべてのビジネス・イベント・レコードの取得を参照してください。

イベントが有効になっていない場合は、ビジネス・イベントの有効化インジケータの更新を参照してください。



タスク・マネージャでは、外部アプリケーションへのすべての統合に Oracle Integration Cloud を使用します。Basic 認証または OAuth 2.0 認証を使用して、タスク・マネージャで Oracle Integration Cloud への接続を設定できます。

 ノート:

- Oracle Integration Cloud Generation 2 については、Basic 認証と OAuth 2.0 の両方がサポートされています。
- Oracle Integration Cloud Generation 3 については、OAuth 2.0 のみがサポートされています。
- Basic 認証ユーザーには、Oracle Integration Cloud に対するサービス管理者の役割が必要です。
- OAuth 2.0 の場合、クライアント資格証明のみがサポートされています。OAuth 2.0 クライアント・アプリケーションには、Oracle Integration Cloud に対するサービス管理者の役割が必要であり、許可されるスコープは全部である必要があります。

OAuth 2.0 接続を設定する前に、アクセス・トークン URL、クライアント ID、クライアント・シークレット、スコープなどのクライアント資格証明を持っていることを確認してください。OAuth クライアント・アプリケーションを設定する場合は、Oracle Integration Cloud Generation 3 ドキュメントの [Oracle Integration での OAuth 認証](#) を参照してください。

タスク・マネージャで Integration Cloud 接続を設定するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「統合」タブをクリックします。
3. 「接続の管理」をクリックし、「アクション」から「Integration Cloud 接続」を選択します。
4. 次のいずれかの認証メカニズムを選択します:
  - **Basic 認証:** Integration Cloud の URL、サービス管理者のユーザー ID およびパスワードを指定します。
  - **OAuth 2.0:** Integration Cloud の URL、アクセス・トークン URL、クライアント ID、クライアント・シークレットおよびスコープを指定します。

 ノート:

この URL を入力します: `https://<SERVICE_NAME>-<TENANT_NAME>.integration.ocp.oraclecloud.com`

5. 「検証」をクリックします。検証が成功したら、「保存」をクリックします。これにより、接続のサーバーおよび資格証明が保存されます。

## Oracle Cloud ERP - General Ledger 接続の有効化

Oracle Cloud ERP - General Ledger 接続を有効化するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックし、「**接続の管理**」をクリックします。
3. リストから「**Oracle Cloud ERP - General Ledger**」を選択し、「**アクション**」をクリックして、「**編集**」を選択します。
4. 「**接続の編集**」ダイアログで、「**使用可能**」を選択し、「**OK**」をクリックします。
5. 「**Integration Cloud へのデプロイ**」ダイアログで、「**生成**」をクリックします。

Oracle Cloud ERP - General Ledger 接続がすでに有効な場合は、「統合」画面からイベント・モニタリング統合を選択し、ツールバーから「**Integration Cloud へのデプロイ**」をクリックして、統合フローを Oracle Integration Cloud にデプロイします。次に、「**Integration Cloud へのデプロイ**」ダイアログで「**生成**」をクリックします。

統合フローが Integration Cloud にデプロイされ、Integration Cloud Services にログインするとフローを表示できます。

### ノート:

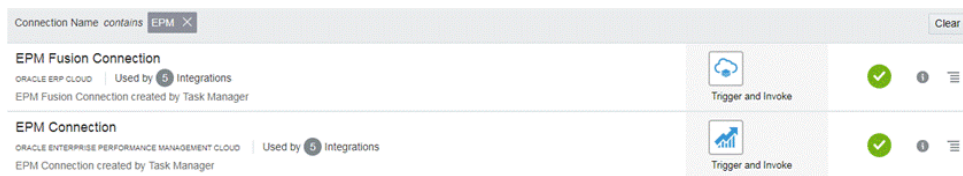
Integration Cloud への接続を最初に有効にするとき、すべての Integration Cloud デプロイメントがアクティブ化中に失敗します。管理者は、Integration Cloud で統合をアクティブ化する必要があります。統合をアクティブ化する前に、管理者は Integration Cloud で統合を設定する必要があります。

## Integration Cloud での統合フローの設定

Integration Cloud で統合フローを設定するには:

1. Integration Cloud Services にログインします。
2. 「**接続**」に移動します。  
**EPM Fusion 接続**と**EPM 接続**は自動的に作成されます。
3. 環境および資格証明情報を指定して、接続を編集します。接続の作成の前提条件の詳細は、[接続の作成の前提条件](#)を参照してください。
  - **EPM Fusion 接続**は、Oracle Cloud ERP への接続です。詳細は、[Oracle ERP Cloud アダプタの使用](#)を参照してください。
  - **EPM 接続**は、タスク・マネージャの EPM Cloud Service への接続です。詳細は、[Oracle 統合での Oracle Enterprise Performance Management Cloud アダプタの使用](#)を参照してください。

接続を構成、テストおよび保存すると、接続の横に緑色のチェック・マークが表示されます。



4. タスク・マネージャに戻り、「**統合**」を選択します。
5. リストから接続を選択し、ツールバーから「**Integration Cloud へのデプロイ**」をクリックします。
6. 「**Integration Cloud へのデプロイ**」ダイアログで、「**生成**」をクリックします。  
Cloud 統合のデプロイメントが成功します。Oracle Integration Cloud サービス、「**統合**」の順にログインし、Integration Cloud でアクティブ化ステータスを検証します。

### テンプレートまたはスケジュールへのイベント・モニタリング・タスクの追加

設定が完了した後は、スケジュールまたはテンプレートにイベント・モニタリング・タスクを追加できます。

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックし、新しいテンプレートを作成します(例: **ERP イベント・テンプレート**)。
3. イベント・モニタリング・タスクを作成します。[タスクの作成](#)を参照してください。  
「タスク・タイプ」で、必ず「**Oracle Cloud ERP - General Ledger**」を選択し、イベント・モニタリング・タスク(例: **期間オープン・イベント**)を選択します。
4. タスク・マネージャで、「**テンプレート**」をクリックし、「**ERP イベント・テンプレート**」を選択して、スケジュールを作成します。[テンプレートからのスケジュールの作成](#)を参照してください。
5. タスク・マネージャで、「**スケジュール**」をクリックし、スケジュールを選択して、ステータスを「**オープン**」に変更します。  
「**スケジュール・タスク**」画面で、スケジュール・タスクをモニターできます。

### Oracle Cloud ERP での期間クローズ・イベントのトリガー

Oracle Cloud ERP で期間クローズ・イベントを起動するには:

1. Oracle Cloud ERP にログインします。
2. **一般会計**タブ、**期間クローズ**の順に選択します。
3. **一般会計**をクリックして期間を選択し、「**期間のクローズ**」をクリックします。

Ledger: US Primary Ledger      Latest Open Period: 06-19  
Application: General Ledger

Actions View Format Open Period Close Period Status All Social Wrap

Accounting Period	Period Number	Year	Start Date	End Date	Status
07-19	7	2019	7/1/19	7/31/19	
06-19	6	2019	6/1/19	6/30/19	
05-19	5	2019	5/1/19	5/31/19	
04-19	4	2019	4/1/19	4/30/19	
03-19	3	2019	3/1/19	3/31/19	
02-19	2	2019	2/1/19	2/28/19	
01-19	1	2019	1/1/19	1/31/19	
Adj-18	13	2018	12/31/18	12/31/18	

4. タスクが完了するまで数分待ちます。「タスク」の「スケジュール・タスク」画面に移動して、タスクがクローズされたことを確認します。

### Oracle Cloud ERP での期間オープン/再オープン・イベントのトリガー

Oracle Cloud ERP で期間オープン・イベントを起動するには:

1. Oracle Cloud ERP にログインします。
2. **一般会計**タブ、**期間クローズ**の順に選択します。
3. **一般会計**をクリックして期間を選択し、「**期間のオープン**」をクリックします。
4. タスクが完了するまで数分待ちます。「タスク」の「スケジュール・タスク」画面に移動して、タスクがクローズされたことを確認します。

#### ノート:

オープンしたことがない期間をオープンする場合は、期間オープン・イベントがトリガーされます。以前にクローズされた期間をオープンする場合は、期間再オープン・イベントがトリガーされます。

### Oracle Cloud ERP での仕訳バッチの承認イベントのトリガー

Oracle Cloud ERP で仕訳バッチの承認イベントを起動するには:

1. Oracle Cloud ERP にログインします。
2. **一般会計**タブ、「**仕訳**」の順に選択します。
3. **自分の承認が必要**をクリックして仕訳バッチを選択し、「**承認**」をクリックします。
4. タスクが完了するまで数分待ちます。「タスク」の「スケジュール・タスク」画面に移動して、タスクがクローズされたことを確認します。

#### ノート:

複数レベルの承認プロセスで最後の承認である場合のみ、仕訳バッチの承認イベントをトリガーできます。

### Oracle Cloud ERP での仕訳転記イベントのトリガー

Oracle Cloud ERP で仕訳バッチの承認イベントを起動するには:

1. Oracle Cloud ERP にログインします。
2. **一般会計**タブ、「**仕訳**」の順に選択します。
3. 「**タスク**」をクリックし、「**仕訳の作成**」を選択します。
4. 「**仕訳の作成**」画面で、必要な情報を指定し、「**保存**」をクリックします。

 **ノート:**

仕訳バッチ名および会計期間は、タスク・マネージャのスケジュールのタスクのパラメータと一致する必要があります。

5. タスクが完了するまで数分待ちます。「**タスク**」の「**スケジュール・タスク**」画面に移動して、タスクがクローズされたことを確認します。

## オンプレミス・アプリケーションのエンド・ユーザー統合

タスク・マネージャのエンド・ユーザー統合では、オンプレミス環境の機能にアクセスできます。この項に、使用可能なオンプレミス・アプリケーションに対するタスク・マネージャ・エンド・ユーザー統合をリストします。

オンプレミスの機能の説明は、そのアプリケーションのドキュメントを参照してください。

### Hyperion Financial Management 用のエンド・ユーザー統合

- データのロード
- 会社間トランザクションのロード
- 仕訳のロード
- ドキュメントの管理
- 仕訳の承認
- 仕訳の作成
- データ・グリッド
- データの抽出
- ICT の抽出
- 仕訳の抽出
- 会社間照合テンプレート・レポート
- 勘定科目別会社間照合レポート
- トランザクション ID 別会社間照合レポート
- 会社間レポート
- 会社間トランザクション・レポート
- 仕訳レポート
- 出資比率の管理
- 仕訳の転記

- プロセス・コントロール
- ICT の処理
- タスク・リスト
- Web データ入力フォーム

## Oracle E-Business Suite (EBS)に対するエンド・ユーザー統合

### 買掛管理タスク

- 買掛/未払金期間のクローズ
- 経費精算書インポート
- 次の買掛/未払金期間をオープン
- 買掛/未払金承認ワークフロー
- 保留と解除の確認
- オープン・インタフェース・インポート(買掛/未払金オープン・インタフェース・インポート)
- 会社間トランザクション・インポート(買掛/未払金オープン・インタフェース・インポート)
- すべての未検証の請求書の検証(請求書の検証)
- 保留中請求書レポート
- 満期支払ステータスの更新(満期支払手形ステータスの更新)
- 仕訳を GL に転送
- 未計上トランザクション・レポートの実行(未計上トランザクション・レポート(XML))
- 未計上トランザクション・スニープの実行(未計上トランザクション・レポート(XML))
- 未計上トランザクション・スニープ・プログラムの実行(未計上トランザクション・レポート(XML))
- 転記済請求書登録レポート(買掛/未払金転記済請求書登録)
- 転記済支払登録レポート(買掛/未払金転記済支払登録)
- 買掛/未払金残高試算表レポートの実行(買掛/未払金残高試算表)
- 一括追加作成
- 買掛/未払金キー・インジケータ・レポートの実行(キー・インジケータ・レポート)
- 金融税登録の実行(RX のみ: 金融税登録)
- 税務監査証跡レポートの実行
- 使用税額レポートの実行
- EU 域内 VAT 監査証跡レポートの実行
- 源泉徴収税レポートの実行(AP 源泉徴収税レポート)
- 源泉徴収税務書類の生成(AP 源泉徴収税務書類)

### 売掛管理タスク

- 承認最終 AR トランザクション調整
- 最終 AR トランザクション調整の作成
- 定期消込の作成
- ロック・ボックス入金
- 後続期間のタスクのオープン
- 収益に対する手動偶発の削除
- 期間をクローズ保留中に設定
- 入金の手動消込
- 売掛/未収金期間のクローズ
- 請求書作成用のオーダー明細情報のインポート(自動請求書インポート・プログラム)
- 請求書作成用のオーダー明細情報のインポート - Oracle 以外(自動請求書インポート・プログラム)
- 収益認識の実行(収益認識)
- 会計の作成
- 未転記 AR 品目レポートの実行(未転記品目レポート)
- 入金登録レポートの実行(消込済入金登録)
- 最終会計の作成と GL への転送(会計の作成)
- 売掛/未収金の GL との突合せの生成(AR 突合せレポート)
- 売掛/未収金分析レポートの実行(キー・インジケータ・レポート - サマリー)

#### 一般会計タスク

- 売掛金突合せ
- 賃料経費を配賦する自動配賦の生成
- 企業への財務実績の連結
- 評価替え通貨レートの維持
- 賃料経費の配賦算式のレビュー
- 補助元帳ソース仕訳の確認
- 貸倒引当金繰入の定型仕訳の生成
- 新規会計期間のオープン/会計期間のクローズ
- 補助元帳ソース仕訳の転記
- 保有外貨の評価替えの確認
- 前期見越しの戻入
- 暫定損益計算書レポートの実行
- 企業への財務実績の連結
- 親通貨への換算の実行
- 暫定詳細残高試算表レポートの実行(残高試算表 - 詳細)

- 外貨仕訳レポートの実行(仕訳 - 入力通貨)

#### **Hyperion Profitability and Cost Management 用のエンド・ユーザー統合**

- ジョブ・ライブラリ
- 計算の管理
- データベースの管理
- モデル・ビューの管理
- 問合せの管理
- ルールの管理
- モデル要約
- モデル検証
- POV マネージャ
- ルール・バランシング
- システム・レポート
- 配賦のトレース

#### **Oracle Fusion Assets に対するエンド・ユーザー統合**

- ソース明細の準備および一括追加の転記の発行
- CIP 資産の資産計上
- 資産財務トランザクションの管理
- 資産割当ての管理
- 資産の除・売却
- 資産の再稼働
- 一括財務トランザクションの管理
- 一括除・売却の管理
- 一括振替の管理
- 総勘定元帳との資産残高突合せ
- 減価償却の計算
- 税務台帳の定期一括コピー
- 仕訳償却累計額元帳レポート
- 繰延償却の計算
- 資産会計の作成
- 資産取得価額要約
- 資産償却累計額要約
- 期間クローズ例外レポート



### Oracle Fusion Cash Management に対するエンド・ユーザー統合

- 銀行勘定突合
- 会計の作成
- 補助元帳期間クローズ例外レポート
- 現金の総勘定元帳との突合せレポート

### Oracle Fusion General Ledger に対するエンド・ユーザー統合

- 仕訳のインポート
- 仕訳の自動転記
- 仕訳の自動逆仕訳
- 一般配賦ルール
- 総勘定元帳残高試算表
- 総勘定元帳平均残高試算表
- 総勘定元帳仕訳レポート
- 総勘定元帳仕訳チェック・レポート
- 総勘定元帳仕訳帳レポート
- 総勘定元帳仕訳バッチ要約レポート
- 総勘定元帳レポート
- 総勘定元帳相対勘定の勘定科目分析レポート
- 総勘定元帳平均残高監査会計分析レポート
- 残高の評価替え
- 換算
- 買掛/未払金の総勘定元帳との突合せデータの抽出
- 売掛/未収金の総勘定元帳との突合せデータの抽出
- 貸借対照表決算整理仕訳の作成
- 損益計算書決算整理仕訳の作成
- 総勘定元帳期間のクローズ
- 総勘定元帳期間のオープン
- セカンダリ元帳への残高の転送
- 残高相互元帳の転送
- 仕訳のレビュー・ダッシュボード
- 仕訳の管理
- 期間クローズ・ダッシュボード
- 財務レポート・センター作業領域
- 財務レポートのワークスペースの起動

- 買掛/未払金の総勘定元帳との突合せ
- 売掛/未収金の総勘定元帳との突合せ
- 総勘定元帳の会計期間の管理
- 配賦ルールの作成
- 総勘定元帳勘定科目分析レポート
- 総勘定元帳一般仕訳レポート
- 総勘定元帳残高試算表レポート

#### **Oracle Fusion Intercompany に対するエンド・ユーザー統合**

- 会社間トランザクション作業領域
- 会社間期間ステータスの管理
- 会社間トランザクションを総勘定元帳に転送
- 会社間トランザクションを売掛/未収金に転送
- 会社間トランザクションを買掛/未払金に転送
- 会社間勘定詳細レポート
- 会社間トランザクション要約レポート

#### **Oracle Fusion Payables に対するエンド・ユーザー統合**

- 外部システムからのトランザクションのインポート
- 会社間トランザクションのインポート
- 経費精算書のインポート
- 未検証トランザクションの検証
- 承認が必要なトランザクションの承認
- 満期支払手形ステータスの更新
- 欠落している換算レートの適用
- 買掛/未払金会計の作成
- 買掛/未払金未計上トランザクション・レポート
- スイープ・オプションを指定した買掛/未払金未計上トランザクション・レポート
- 期間クローズ例外レポート
- オープン項目評価替えレポート
- 期末突合せレポート
- 買掛/未払金残高試算表レポート
- 買掛/未払金の総勘定元帳との突合せデータの抽出
- 一括追加の作成
- 原価の原価管理への転送
- 未完了の支払プロセス要求の完了または取消

- 買掛/未払金期間のクローズ
- 次の買掛/未払金期間のオープン
- 買掛/未払金の総勘定元帳との突合せレポートの確認

#### **Oracle Fusion Accounts Receivable に対するエンド・ユーザー統合**

- 自動インボイスのインポート: マスター
- ロック・ボックスを介した入金処理
- 自動入金バッチの作成
- 入金送金バッチの作成
- 入金の自動決済
- 延滞手数料バッチの作成
- 自動入金消込の作成
- 収益認識
- 売掛/未収金会計の作成
- 補助元帳期間クローズ例外レポートの発行
- 売掛/未収金から総勘定元帳への突合せデータの抽出
- 総勘定元帳勘定科目別売掛/未収金年齢調べレポート
- 期間クローズ・レポートの実行
- 顧客与信の承認または否認

#### **Oracle Fusion Tax に対するエンド・ユーザー統合**

- 税金突合せレポート
- 課税対象勘定別税金突合せレポート

#### **Hyperion Planning 用のエンド・ユーザー統合**

- ビジネス・ルール
- セル詳細のクリア
- データのコピー
- バージョンのコピー
- カスタム・リンク
- データ・フォーム
- データ・ロードの設定
- 通貨換算の管理
- データ・フォームの管理
- ディメンションの管理
- 為替レートの管理
- メニュー管理

- プロセス管理
- セキュリティ・フィルタの管理
- スマート・リストの管理
- タスク・リストの管理
- ユーザー変数の管理
- プランニング・ユニット階層
- シナリオおよびバージョンの割当て
- タスク・リスト

#### **PeopleSoft 9.0 に対するエンド・ユーザー統合**

- GL およびサブシステムの期間のクローズ
- PS/nVision レポートの実行と確認
- サブシステムと外部仕訳の処理(仕訳ジェネレータ)
- 手動仕訳の入力
- 費用経過勘定の記帳
- 調整証憑の入力
- エラーのある証憑のレビュー/訂正
- 照合例外のレビュー/訂正
- 不完全な預入のレビュー
- 保留中品目の転記エラーの解決
- 適宜残高の消込み
- 回収困難な売掛/未収金の更新
- 未請求収益見越の記帳
- 未処理請求の確定
- 請求インターフェース・エラーの訂正
- AP 統制勘定の GL との突合せ
- 残高試算表レポートの確認
- AR 統制勘定の GL との突合せ
- 収益(請求)勘定科目の GL との突合せ
- 資産統制勘定の GL との突合せ
- 費用経過勘定の確認
- オープン AP 債務レポートの GL との突合せ
- 経過した AR 残高試算表の確認

#### **PeopleSoft 9.1 に対するエンド・ユーザー統合**

- GL およびサブシステムの期間のクローズ

- PS/nVision レポートの実行と確認
- サブシステムと外部仕訳の処理(仕訳ジェネレータ)
- 手動仕訳の入力
- 費用経過勘定の記帳
- 調整証憑の入力
- エラーのある証憑のレビュー/訂正
- 照合例外のレビュー/訂正
- 不完全な預入のレビュー
- 保留中品目の転記エラーの解決
- 適宜残高の消込み
- 回収困難な売掛/未収金の更新
- 未請求収益見越の記帳
- 未処理請求の確定
- 請求インターフェース・エラーの訂正
- AP 統制勘定の GL との突合せ
- 残高試算表レポートの確認
- AR 統制勘定の GL との突合せ
- 収益(請求)勘定科目の GL との突合せ
- 資産統制勘定の GL との突合せ
- 費用経過勘定の確認
- オープン AP 債務レポートの GL との突合せ
- 経過した AR 残高試算表の確認

## 統合の設定

前提条件を満たしていることを確認し、次のステップに従ってタスク・マネージャと外部アプリケーションとの間に統合を設定します。

### 前提条件

タスク・マネージャを E-Business Suite などのオンプレミス・アプリケーションと統合するには、次のものがが必要です。

- Oracle Integration Cloud Service へのサブスクリプション。


### ノート:

それぞれの Financial Consolidation and Close インスタンスについて Integration Cloud インスタンスが 1 つずつ必要です。

- 設定された Oracle E-Business Suite (EBS)などのオンプレミス・アプリケーション。
1. Oracle Integration Cloud / Oracle Autonomous Integration Cloud をサブスクライブします。詳細は、[Integration Cloud Service のドキュメント](#) を参照してください。
  2. Oracle Integration Cloud の EBS アダプタについて、Oracle Integration Cloud の統合エンドポイントをトリガーするための Oracle E-Business Suite のビジネス・イベントの使用に関する前提条件を確認して完了します: <https://docs.oracle.com/cloud/latest/related-docs/ICEBS/toc.htm>
  3. Financial Consolidation and Close で、ホーム・ページから「アプリケーション」を選択し、「タスク・マネージャ」をクリックします。
  4. 左側の「統合」タブをクリックします。
  5. 「接続の管理」をクリックします。
  6. 「接続の管理」から、「アクション」で「Integration Cloud 接続」を選択します。



7. Integration Cloud の接続 URL と資格証明を指定し、「検証」をクリックします。検証が成功したら、「保存」をクリックします。これにより、FCCS 接続のサーバーおよび資格証明が保存されます。

 ノート:

タスク・マネージャでは、EPM Cloud 以外の外部アプリケーションへのすべての統合に Integration Cloud を使用します。外部アプリケーションには、別のクラウド・サービスまたは E-Business Suite などのオンプレミス・アプリケーションも含まれます。これらの統合タイプは「プロセスの自動化」または「イベント・モニタリング」の場合があります。

8. General Ledger および Account Payable 接続用の EBS 接続がすでに有効化されているかどうかに応じて、次のいずれかを実行します。
  - General Ledger および Account Payable 用の EBS 接続がすでに有効化されている場合は、「デプロイ」、「生成」の順にクリックして、対応する Integration Cloud 統合を Integration Cloud にデプロイします
  - General Ledger および Account Payable 接続用の EBS 接続が有効化されていない場合:
    - a. Financial Consolidation and Close 内の「タスク・マネージャ」で、「統合」に移動し、「接続の管理」をクリックします。

- b. **E-Business Suite - 一般会計**を選択して編集します。「**使用可能**」チェック・ボックスを選択し、「**OK**」をクリックします。次に、「**デプロイ**」、「**生成**」の順にクリックします。
- c. **E-Business Suite - 買掛管理**について前述のステップを繰り返します。

システムにより統合タスク・タイプが作成され、Integration Cloud サービスへの Integration Cloud 統合もデプロイされます。

#### ノート:

これを初めて行う場合に Integration Cloud 内の接続が完了していないと、すべての Integration Cloud デプロイメントがアクティブ化中に失敗します。これは予期された動作です。これを修正するには:

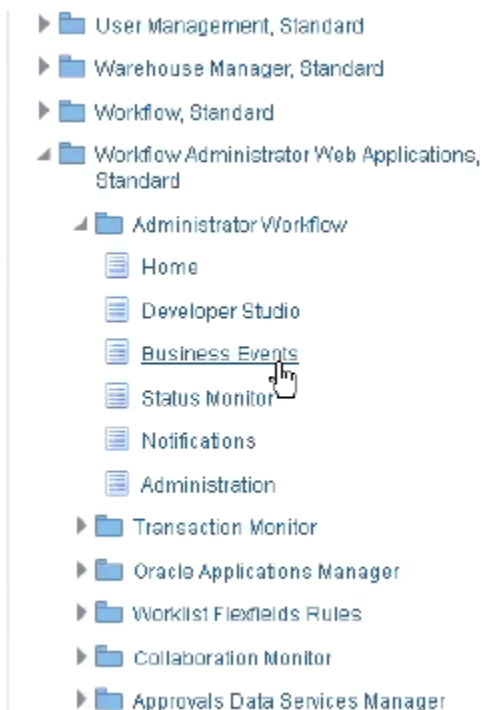
- a. Integration Cloud にログインします。
- b. 「**接続**」に移動します。「**FCCS**」および「**EBS**」という名前の 2 つの接続が表示されます。オプションで、「**検索**」を使用します。**FCCS** 接続を編集します。
  - 「**接続の構成**」をクリックし、FCCS の url を <FCCS url>/HyperionPlanning/rest/cmapi/v1 と入力します
  - 「**セキュリティの構成**」をクリックし、FCCS サービスのサービス管理者資格証明を入力します。次に、「**テスト**」、「**保存**」の順にクリックします。

#### ノート:

サービス管理者のユーザー ID は、次のリンクに指定されている形式である必要があります: <https://docs.oracle.com/en/cloud/saas/enterprise-performance-management-common/prest/authentication.html>

**EBS** 接続を編集します。

- Oracle E-Business Suite の接続 URL と資格情報を入力します。
  - 「**テスト**」、「**保存**」の順にクリックします。
- c. **FCCS** から「**タスク・マネージャ**」を開き、「**統合の管理**」を選択します。
  - d. 「**接続の管理**」で、「**アクション**」メニューの「**Integration Cloud 接続**」を選択し、「**デプロイ**」、「**生成**」の順にクリックします。今回は、デプロイメントはエラーなしで完了します。
9. Integration と EBS のリンクが正しく確立したことを確認します。そのためには、Oracle E-Business Suite に管理者としてログインし、Integration Cloud REST サービスがビジネス・イベントのサブスクリバとして追加されていることを確認します。次に例を示します。



Integration Cloud サービスが追加されたことを確認します。例:

ORACLE Administrator Workflow

Business Events: Events > Business Events: Events > Subscriptions > Update Event Subscriptions >

**Update Event Subscription : Custom**

Action

The Rule Function controls the behaviour of the subscription. Provide a Java Class name (<Package>.<Class>) for Java Rule Function and a PL/SQL stored procedure (<Package>.<Function>) for PL/SQL Rule Function.

Java Rule Function: oracle.apps.fnd.wf.bes.RESTServiceInvokerSubscription

PL/SQL Rule Function: [ ]

Workflow Type: [ ]

Workflow Process: [ ]

Out Agent: [ ]

To Agent: [ ]

\* Priority: Normal

Subscription Parameters

Select Object: Delete | [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]

Name	Value
<input type="checkbox"/> WFBES_REST_RESOURCE_E	http://slc12pdd.us.oracle.com:7003/
<input type="checkbox"/> WFBES_REST_RESOURCE_F	ic/api/integration/v1/flows/ebusiness/EBSJOURN
<input type="checkbox"/> WFBES_REST_CONTENT_TYP	application/xml
<input type="checkbox"/> WFBES_REST_HTTP_VERB	POST

## オンプレミス Oracle E-Business Suite (EBS)統合

EBS イベント・モニタリング用のタスク・マネージャ統合は、次のとおりです。

- EBSJournalApprove
- EBSJournalPost
- EBSJournalPeriodClose
- EBSJournalPeriodOpen
- EBSJournalPeriodReopen



- EBSAPJournalPeriodOpenClose

次のイベントをモニターできます。

**表 29-1 Oracle E-Business Suite のイベントおよび説明**

統合名	イベント名	説明
仕訳承認イベント	oracle.apps.gl.Journals.journal.approve	一般会計: 仕訳承認済
仕訳転記イベント	oracle.apps.gl.Journals.journal.post	一般会計: 転記完了
仕訳期間クローズ・イベント	oracle.apps.gl.CloseProcess.period.close	一般会計: 期間クローズ済
仕訳期間オープン・イベント	oracle.apps.gl.CloseProcess.period.open	一般会計: 期間オープン済
仕訳期間再オープン・イベント	oracle.apps.gl.CloseProcess.period.reopen	一般会計: 期間再オープン済
買掛/未払金期間オープン/クローズ・イベント	oracle.apps.ap.CloseProcess.period	買掛金: 期間オープン/クローズ/再オープン

**表 29-2 一般会計仕訳統合タイプのパラメータ**

名前	タイプ	必須	順序	非表示
バッチ ID	テキスト	はい	1	N

**表 29-3 一般会計期間決算プロセス統合タイプのパラメータ**

名前	タイプ	必須	順序	非表示
LedgerID	テキスト	はい	1	N
PeriodName	テキスト	はい	2	N

**表 29-4 買掛金統合タイプのパラメータ**

名前	タイプ	必須	順序	非表示
LedgerID	テキスト	はい	1	N
PeriodName	テキスト	はい	2	N
アクション	静的リスト	はい	3	N

### ビジネス・イベントの実行による結果の確認

必要なイベントをサブスクライブするように EBS ビジネス・イベント・システムを構成した後、ビジネス・イベントを実行して結果を確認できます。次の項では、追跡対象のイベントを実行する EBS タスクの実行方法について説明します。

#### 一般会計 - 仕訳承認済

oracle.apps.gl.Journals.journal.approve

#### EBS のステップ

1. **EBS** にログオンします。
2. **一般会計** を選択し、左のツリーから **Vision Operations (USA)** 役割を選択します。
3. **仕訳、入力** の順に選択し、**Oracle Applications** が起動するまで待ちます。
4. このフォルダのレコードを検索しますかというメッセージには、「**いいえ**」をクリックします。
5. 仕訳の検索画面で**新規バッチ**をクリックします。  
ウィンドウ(Vision Operation (USA))が表示されます。
6. **バッチ**に一意のバッチ名を入力します。

 **ノート:**

**保存**をクリックするとき、カーソルがバッチ・フィールド内にある必要があります。

7. **ファイル**を選択し、**保存**をクリックしてバッチを保存します。

 **ノート:**

保存するとき、カーソルがバッチ・フィールド内にある必要があります。

8. **1つ以上の仕訳を入力してください**のメッセージには、「**OK**」をクリックします。
9. **仕訳**をクリックします。
10. **仕訳**フィールドに一意の名前を入力します。
11. 明細 1 で始まる明細エントリを指定します。勘定科目の借方および貸方の値を指定します。
12. 明細の値の入力が終了したら、カーソルを仕訳フィールドに移動します。
13. 「**ファイル**」メニューに移動し、「**新規**」をクリックします。
14. 「**変更を保存しますか?**」のメッセージには、「**はい**」をクリックします。

 **ノート:**

**はい**をクリックすることで、複数の仕訳入力をバッチに追加できます。

最後の仕訳の仕訳入力終了したら、カーソルを仕訳フィールドに移動します。

15. **ファイル**を選択し、**保存**をクリックして最後の仕訳入力を保存します。
16. バッチ(Vision Operation (USA))にフォーカスを置き、**バッチ・フィールド**を選択します。
17. **ヘルプ**をクリックし、**診断、調査**の順に選択します。
18. Oracle パスワード **APPS** を入力します。

19. フィールドに **JE\_BATCH\_ID** と入力し、**値**内でクリックして一意の仕訳バッチ ID を取得します。たとえば、

- **ブロック:** BATCH
- **フィールド:** JE\_BATCH\_ID
- **値:** 4776732

この値をメモ帳にコピーします。このバッチ ID は、イベント・モニタリング・タスクのバッチ ID パラメータの値として使用されます。

#### タスク・マネージャでの次のステップ

1. 「保留中」状態で新しいスケジュールを作成します。
2. **仕訳承認イベント**(oracle.apps.gl.Journals.journal.approve)をモニターするイベント・モニタリング・タスクのタスクを作成します。
3. 「**パラメータ**」タブで、EBS の仕訳バッチ ID として **Batch ID** の値を入力します。
4. タスクを保存し、スケジュールを「オープン」状態に設定します。

#### EBS での次のステップ

1. バッチ(Vision Operation (USA))で、指定したバッチに対して承認ボタンが有効化されています。
2. **承認**をクリックして仕訳承認イベントを実行します。

#### タスク・マネージャでの次のステップ

1. タスクが「オープン」状態に設定されるまで待ちます。EBS イベントが取得されるまで数分かかります。
2. 2、3分後、「**タスク・マネージャ**」で「**リフレッシュ**」をクリックします。

仕訳バッチ承認関連の情報は、このドキュメントを参照してください。 [http://download.oracle.com/docs/cd/A60725\\_05/html/comnls/us/gl/journa09.htm#\\_ja\\_submit](http://download.oracle.com/docs/cd/A60725_05/html/comnls/us/gl/journa09.htm#_ja_submit)

#### 一般会計 - 仕訳転記イベント

oracle.apps.gl.Journals.journal.post

#### EBS のステップ

1. **EBS** にログオンします。
2. **一般会計**を選択し、左のツリーから **Vision Operations (USA)**役割を選択します。
3. **仕訳、入力**の順に選択し、Oracle Applications が起動するまで待ちます。
4. このフォルダのレコードを検索しますかというメッセージには、「**いいえ**」をクリックします。
5. 仕訳の検索画面で**新規バッチ**をクリックします。  
ウィンドウ(Vision Operation (USA))が表示されます。
6. **バッチ**に一意のバッチ名を入力します。

 **ノート:**

**保存**をクリックするとき、カーソルがバッチ・フィールド内にある必要があります。

7. **ファイル**を選択し、**保存**をクリックしてバッチを保存します。

 **ノート:**

保存するとき、カーソルがバッチ・フィールド内にある必要があります。

8. **1つ以上の仕訳を入力してください**のメッセージには、「**OK**」をクリックします。
9. **仕訳**をクリックします。
10. **仕訳**フィールドに一意の名前を入力します。
11. 明細 1 で始まる明細エントリを指定します。勘定科目の借方および貸方の値を指定します。
12. 明細の値の入力が終了したら、カーソルを仕訳フィールドに移動します。
13. **ファイル**に移動し、**新規**をクリックします。
14. 「**変更を保存しますか?**」のメッセージには、「**はい**」をクリックします。

 **ノート:**

**はい**をクリックすることで、複数の仕訳入力をバッチに追加できます。

最後の仕訳の仕訳入力が終了したら、カーソルを仕訳フィールドに移動します。

15. **ファイル**を選択し、**保存**をクリックして最後の仕訳入力を保存します。
16. バッチ (Vision Operation (USA)) にフォーカスを置き、**バッチ・フィールド**を選択します。
17. **ヘルプ**をクリックし、**診断、調査**の順に選択します。
18. Oracle パスワード **APPS** を入力します。
19. **フィールド**に **JE\_BATCH\_ID** と入力し、**値**内でクリックして一意の仕訳バッチ ID を取得します。たとえば、
  - **ブロック:** BATCH
  - **フィールド:** JE\_BATCH\_ID
  - **値:** 4776732

この値をメモ帳にコピーします。このバッチ ID は、イベント・モニタリング・タスクのバッチ ID パラメータの値として使用されます。

### タスク・マネージャでの次のステップ

1. 「保留中」状態で新しいスケジュールを作成します。

2. 仕訳承認イベント(`oracle.apps.gl.Journals.journal.post`)をモニターするイベント・モニタリング・タスクのタスクを作成します。
3. 「**パラメータ**」タブで、EBS の仕訳バッチ ID として **Batch ID** の値を入力します。
4. タスクを保存し、スケジュールを「オープン」状態に設定します。

#### EBS での次のステップ

1. バッチ(**Vision Operation (USA)**)では、「承認」ボタンが指定したバッチで有効になっています。
2. **転記**をクリックして仕訳承認イベントを実行します。
3. **表示、要求、特定の要求**の順に選択して、EBS 要求のステータスを調べます。
4. 以前に記録した**要求 ID**を指定します。

#### タスク・マネージャでの次のステップ

1. タスクが「オープン」状態に設定されるまで待ちます。EBS イベントが取得されるまで数分かかります。
2. 2、3分後、「**タスク・マネージャ**」で「**リフレッシュ**」をクリックします。

仕訳バッチ転記関連の情報は、このドキュメントを参照してください。 [http://download.oracle.com/docs/cd/A60725\\_05/html/comnls/us/gl/content07.htm#w\\_conts\\_post](http://download.oracle.com/docs/cd/A60725_05/html/comnls/us/gl/content07.htm#w_conts_post)

#### 一般会計 - 仕訳期間クローズ

`oracle.apps.gl.CloseProcess.period.close`

#### EBS のステップ

1. **EBS** にログオンします。
2. **一般会計**を選択し、左のツリーから **Vision Operations (USA)** 役割を選択します。
3. **オープン/クローズ、入力**の順に選択し、Oracle Applications が起動するまで待ちます。  
期間の検索ダイアログが表示されます。
4. **検索**をクリックします。期間のオープンおよびクローズ・ダイアログが表示されます。
5. 表示された期間のリストから、クローズする期間を選択します。
6. その期間の**ステータス**列を選択します。
7. **ステータス・オプション**をクリックします。ステータス・リスト・ボックスが開きます。
8. **クローズ済**ステータスを選択し、**OK**をクリックします。**メモ帳**に期間を記録しておきます。
9. ステータスを保存するには、**ファイル**を選択して**保存**をクリックします。
10. その期間の**ステータス**列を選択します。
11. **ヘルプ**をクリックし、**診断、調査**の順に選択します。
12. Oracle パスワード **APPS** を入力します。

13. **フィールド**に **LEDGER\_ID** と入力し、**値**内でクリックして一意の元帳 ID を取得します。  
たとえば、

- **ブロック:** PREVIOUS
- **フィールド:** LEDGER\_ID
- **値:** 1

この値をメモ帳にコピーします。この元帳 ID は、イベント・モニタリング・タスクの LEDGER\_ID パラメータの値として使用されます。

#### タスク・マネージャでの次のステップ

1. 「保留中」状態で新しいスケジュールを作成します。
2. **仕訳クローズ・イベント** (oracle.apps.gl.CloseProcess.period.close)をモニターするイベント・モニタリング・タスクのタスクを作成します。
3. 「**パラメータ**」タブで、EBS の元帳 ID と期間名の値を入力します。例: 期間名: Dec-10、元帳 ID: 1
4. タスクを保存し、スケジュールを「**オープン**」状態に設定します。

#### EBS での次のステップ

1. **期間のオープンおよびクローズ**・ダイアログを閉じます
2. 要求ノードの送信メッセージ・ボックスで **OK** をクリックします。
3. **表示、要求、特定の要求**の順に選択して、EBS 要求のステータスを調べます。

#### タスク・マネージャでの次のステップ

1. タスクが「オープン」状態に設定されるまで待ちます。EBS イベントが取得されるまで数分かかります。
2. 2、3分後、「**タスク・マネージャ**」で「**リフレッシュ**」をクリックします。

一般会計期間の詳細は、このドキュメントを参照してください。

[http://docs.oracle.com/cd/A60725\\_05/html/comnls/us/gl/openper.htm](http://docs.oracle.com/cd/A60725_05/html/comnls/us/gl/openper.htm)

#### 一般会計 - 仕訳期間オープン

oracle.apps.gl.CloseProcess.period.open

#### EBS のステップ

1. **EBS** にログオンします。
2. **一般会計**を選択し、左のツリーから **Vision Operations (USA)** 役割を選択します。
3. **オープン/クローズ、入力**の順に選択し、Oracle Applications が起動するまで待ちます。  
期間の検索ダイアログが表示されます。
4. **検索**をクリックします。期間のオープンおよびクローズ・ダイアログが表示されます。
5. 表示された期間のリストから、オープンする期間を選択します。
6. オープンする期間をメモ帳にコピーします。
7. その期間の**ステータス**列を選択します。
8. **ヘルプ**をクリックし、**診断、調査**の順に選択します。

9. Oracle パスワード **APPS** を入力します。
10. **フィールド**に **LEDGER\_ID** と入力し、**値**内でクリックして一意の元帳 ID を取得します。たとえば、
  - **ブロック:** PREVIOUS
  - **フィールド:** LEDGER\_ID
  - **値:** 1

この値をメモ帳にコピーします。この元帳 ID は、イベント・モニタリング・タスクの LEDGER\_ID パラメータの値として使用されます。

#### タスク・マネージャでの次のステップ

1. 「保留中」状態で新しいスケジュールを作成します。
2. **仕訳期間オープン・イベント** (oracle.apps.gl.CloseProcess.period.open)をモニターするイベント・モニタリング・タスクのタスクを作成します。
3. 「**パラメータ**」タブで、EBS の元帳 ID と期間名の値を入力します。例: 期間名: Dec-10、元帳 ID: 1
4. タスクを保存し、スケジュールを「**オープン**」状態に設定します。

#### EBS での次のステップ

1. **期間のオープン**をクリックします。
2. オープンする期間を選択し、**OK** をクリックしてイベントを実行します。
3. **表示、要求、特定の要求**の順に選択して、EBS 要求のステータスを調べます。

#### タスク・マネージャでの次のステップ

1. タスクが「オープン」状態に設定されるまで待ちます。EBS イベントが取得されるまで数分かかります。
2. 2、3分後、「**タスク・マネージャ**」で「**リフレッシュ**」をクリックします。

一般会計期間の詳細は、このドキュメントを参照してください。

[http://docs.oracle.com/cd/A60725\\_05/html/comnls/us/gl/openper.htm](http://docs.oracle.com/cd/A60725_05/html/comnls/us/gl/openper.htm)

#### 一般会計 - 仕訳期間再オープン

```
oracle.apps.gl.CloseProcess.period.reopen
```

#### EBS のステップ

1. **EBS** にログオンします。
2. **一般会計**を選択し、左のツリーから **Vision Operations (USA)**役割を選択します。
3. **オープン/クローズ、入力**の順に選択し、Oracle Applications が起動するまで待ちます。  
期間の検索ダイアログが表示されます。
4. **検索**をクリックします。期間のオープンおよびクローズ・ダイアログが表示されます。
5. 表示された期間のリストから、再オープンする期間を選択します。
6. 再オープンする期間をメモ帳にコピーします。

7. その期間の**ステータス**列を選択します。
8. **ヘルプ**をクリックし、**診断、調査**の順に選択します。
9. Oracle パスワード **APPS** を入力します。
10. **フィールド**に **LEDGER\_ID** と入力し、**値**内でクリックして一意の元帳 ID を取得します。  
たとえば、
  - **ブロック:** PREVIOUS
  - **フィールド:** LEDGER\_ID
  - **値:** 1

この値をメモ帳にコピーします。この元帳 ID は、イベント・モニタリング・タスクの LEDGER\_ID パラメータの値として使用されます。

#### タスク・マネージャでの次のステップ

1. 「保留中」状態で新しいスケジュールを作成します。
2. **仕訳期間再オープン・イベント** (oracle.apps.gl.CloseProcess.period.reopen)をモニターするイベント・モニタリング・タスクのタスクを作成します。
3. 「**パラメータ**」タブで、EBS の元帳 ID と期間名の値を入力します。例: 期間名: Dec-10、元帳 ID: 1
4. タスクを保存し、スケジュールを「**オープン**」状態に設定します。

#### EBS での次のステップ

1. **期間のオープン**をクリックします。
2. オープンするクローズ済期間を選択し、**OK** をクリックしてイベントを実行します。
3. **表示、要求、特定の要求**の順に選択して、EBS 要求のステータスを調べます。

#### タスク・マネージャでの次のステップ

1. タスクが「オープン」状態に設定されるまで待ちます。EBS イベントが取得されるまで数分かかります。
2. 2、3分後、「**タスク・マネージャ**」で「**リフレッシュ**」をクリックします。

一般会計期間の詳細は、このドキュメントを参照してください。

[http://docs.oracle.com/cd/A60725\\_05/html/comnls/us/gl/openper.htm](http://docs.oracle.com/cd/A60725_05/html/comnls/us/gl/openper.htm)

#### 買掛/未払金期間オープン/クローズ

oracle.apps.ap.CloseProcess.period

#### EBS のステップ

1. **EBS** にログオンします。
2. **買掛/未払金**を展開し、左のツリーから **Vision Operations (USA)**役割を展開します。
3. **会計**を展開し、**買掛/未払金期間のコントロール**を選択します。これにより、買掛/未払金期間のコントロール・フォームが起動します。
4. 元帳および操作単位を指定します。買掛/未払金期間の検索ダイアログを閉じないでください。かわりに、次のステップを実行して元帳 ID の値を指定します。



5. **ヘルプ**をクリックし、**診断、調査**の順に選択します。
6. 資格証明を要求された場合は、**APPS** スキーマ資格証明を指定します。フィールドおよび変数値の調査フォームが表示されます。
7. **ブロック**に **PERIOD\_QF** と入力します。**フィールド**に **SET OF BOOKS** と入力し、**値**内でクリックして一意の元帳 ID の数値を取得します。たとえば、
  - **ブロック:** PERIOD\_QF
  - **フィールド:** SET OF BOOKS
  - **値:** 1この値をメモ帳にコピーします。この元帳 ID は、イベント・モニタリング・タスクの **LEDGER\_ID** パラメータの値として使用されます。

#### タスク・マネージャでの次のステップ

1. 「保留中」状態で新しいスケジュールを作成します。
2. **買掛/未払金期間オープン/クローズ・イベント**  
(oracle.apps.ap.CloseProcess.period)をモニターするイベント・モニタリング・タスクのタスクを作成します。
3. 「**パラメータ**」タブで、EBS の元帳 ID、期間名およびアクションの値を入力します。例: 元帳 ID: 1、期間名: Dec-10、アクション: クローズ済
4. タスクを保存し、スケジュールを「**オープン**」状態に設定します。

#### EBS での次のステップ

1. EBS の買掛/未払金期間のコントロールで期間を検索します。
2. その期間の**期間ステータス**列をクリックします。
3. **ステータスの制御**フォームで、適切なステータスを選択します。
4. **ファイル、保存**の順に選択してイベントを実行します。

#### タスク・マネージャでの次のステップ

1. タスクが「オープン」状態に設定されるまで待ちます。EBS イベントが取得されるまで数分かかります。
2. 2、3分後、「**タスク・マネージャ**」で「**リフレッシュ**」をクリックします。

#### ノート:

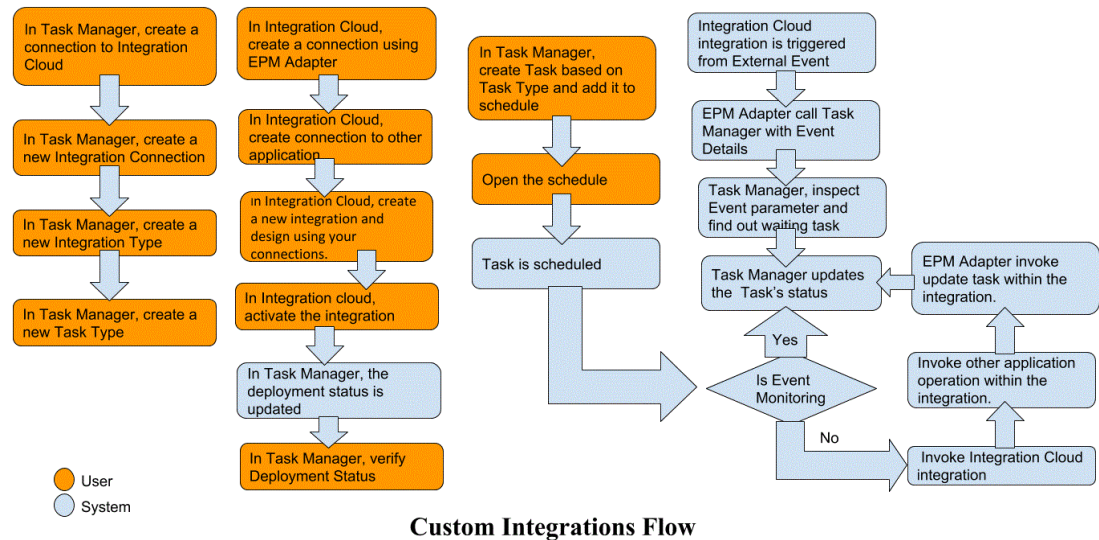
EBS 実装により、「クローズ済」および「オープン」ステータスに対してのみイベントが実行されます。恒久的にクローズ済ステータスではイベントは実行されません。

買掛/未払金期間の詳細は、このドキュメントを参照してください。  
[https://docs.oracle.com/cd/A60725\\_05/html/comnlis/us/ap/ctlperst.htm](https://docs.oracle.com/cd/A60725_05/html/comnlis/us/ap/ctlperst.htm)

## カスタム統合の作成

タスク・マネージャでは、外部アプリケーションとのカスタムのプロセスの自動化またはイベント・モニタリング統合を作成または管理できます。EPM Adapter によって、Oracle EPM Cloud やその他のクラウド、オンプレミス・アプリケーションを使用して Integration Cloud Service で接続および統合フローを作成できます。

次の図に、カスタム統合を作成する場合のユーザーおよびシステム・フローを示します。



次のトピックを参照してください。

- [カスタム・プロセスの自動化統合の作成](#)
- [カスタム・イベント・モニタリング統合の作成](#)

## エンド・ユーザー統合の作成

統合を作成するときは、「実行」タイプに「エンド・ユーザー」を選択します。それにより、定義されたこの統合に基づくタスク・タイプの作成や、統合の検証が可能になります。

統合を作成するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「統合」タブをクリックします。
3. 「新規」をクリックします。

[統合のプロパティの設定](#)および[統合のパラメータの設定](#)も参照してください。

## カスタム・プロセスの自動化統合の作成

タスク・マネージャで、外部アプリケーションとのカスタムのプロセス自動化統合を作成できます。プロセス自動化統合では、開始日または終了日に達し、先行タスク(たとえば、総勘

定元帳からの夜間のデータ入力など)が完了すると、外部アプリケーションでタスクが自動的に実行されます。

プロセスの自動化タスクを作成するときに電子メール通知を設定した場合、タスク所有者は、タスクの開始時または完了時に電子メール通知を自動的に受信します。ワークフローの設定時に指定された担当者は、タスク・ステータスに変更があり、承認などのアクションを実行する必要がある場合にアクション通知を受け取り、所有者は承認が完了すると通知を受け取ります。

前提条件を満たしていることを確認し、次のステップに従ってタスク・マネージャと外部アプリケーションとの間に統合を設定します。

カスタム統合フローの概要は、[カスタム統合の作成](#)を参照してください

### 前提条件

タスク・マネージャと外部アプリケーションを統合する場合、次が必要です:

- オンプレミスまたは **EPM Cloud** 以外のサービスと統合する場合、**Oracle Integration Cloud Service** のサブスクリプション。

#### ノート:

Oracle EPM クラウド・インスタンスごとに **Integration Cloud** インスタンスが 1 つ必要です。

- 外部アプリケーションの設定。
1. **Oracle Integration Cloud/Oracle Autonomous Integration Cloud** をサブスクライブします。詳細は、[Integration Cloud Service のドキュメント](#) を参照してください。
  2. **Oracle EPM** クラウド・インスタンスと通信するために、現在のアプリケーション環境で **Integration Cloud** エージェントをインストールします。**Integration Cloud** エージェントの設定の詳細は、[エージェント・グループの管理](#)を参照してください。

#### ノート:

オンプレミス・アプリケーション・サービスが非武装地帯(DMZ)構成で設定された環境にデプロイされているため、それらのサービスがインターネット経由でパブリックにアクセス可能である場合は、**Integration Cloud** エージェントをインストールする必要はありません。

### タスク・マネージャでの接続の作成

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックし、「**接続の管理**」をクリックします。
3. 「**新規**」をクリックします。
4. 「**接続**」に、接続の名前を入力します。

5. 「**使用可能**」を選択し、接続を有効にします。
6. 外部アプリケーションがクラウド・サービスの場合、「**クラウド**」を選択します。
7. 「**OK**」をクリックして接続を保存します。

#### タスク・マネージャでの統合の設定

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックし、「**新規**」をクリックします。
3. 「**プロパティ**」タブで必要な情報を指定します。
  - a. 「**名前**」に、統合の名前を入力します。
  - b. 「**コード**」に、統合タスクの統合コードを入力します。

コードは、統合を実行するため、またファイル・インポートから統合に更新をマップするために使用されます。
  - c. **オプション**: 「**説明**」に、統合タスクの説明を入力します。
  - d. 「**接続**」に、タスクが属するアプリケーションを選択します。

アプリケーションのリストは、「**接続の管理**」ダイアログ・ボックスの「**接続の管理**」アイコンからメンテナンスできます。
  - e. 「**実行タイプ**」に「**プロセスの自動化**」を選択します。
4. 「**パラメータ**」タブで、「**新規**」をクリックし、必要な情報を指定します:
  - a. 「**名前**」に、パラメータの名前を入力します。
  - b. 「**パラメータ・コード**」に、パラメータ・コードを入力します。
  - c. **オプション**: パラメータの「**ツールチップ**」を入力します。
  - d. 「**パラメータ・タイプ**」リストからタイプを選択し、そのパラメータの追加情報を入力します。
    - **チェック・ボックス**: ブール値
    - **日付**: 日付値
    - **整数**: 自然数での数値
    - **数値**: 自然数または小数での数値
    - **オプション・グループ**: 事前に定義された一連の値用のチェック・ボックス
    - **静的リスト**: 事前に定義された一連のテキスト値
    - **タスク情報**: たとえば、担当者、期間、開始日、終了日などのタスク情報
    - **テキスト**: 自由形式のテキスト値。
    - **EPM アーティファクト**: アーティファクトの名前(フォームやレポートなど)。
  - e. パラメータの値が必須の場合は、「**必須**」を選択します
  - f. 「**OK**」をクリックしてパラメータを保存します。
  - g. 「**保存して閉じる**」をクリックして統合を保存します。

#### 統合のタスク・タイプの作成

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。

2. 左側の「**タスク・タイプ**」タブをクリックします。
3. 「**新規**」をクリックします。
4. 「**プロパティ**」タブで、「**タスク・タイプ名**」と「**タスク・タイプ ID**」を指定します。
5. 「**統合**」で「**検索**」をクリックし、統合を選択して「**OK**」をクリックします。
6. 「**パラメータ**」タブで、タスク・タイプのパラメータを設定します。

### タスク・マネージャでの Integration Cloud 接続の設定

タスク・マネージャでは、外部アプリケーションへのすべての統合に Oracle Integration Cloud を使用します。Basic 認証または OAuth 2.0 認証を使用して、タスク・マネージャで Oracle Integration Cloud への接続を設定できます。

#### ノート:

- Oracle Integration Cloud Generation 2 については、Basic 認証と OAuth 2.0 の両方がサポートされています。
- Oracle Integration Cloud Generation 3 については、OAuth 2.0 のみがサポートされています。
- Basic 認証ユーザーには、Oracle Integration Cloud に対するサービス管理者の役割が必要です。
- OAuth 2.0 の場合、クライアント資格証明のみがサポートされています。OAuth 2.0 クライアント・アプリケーションには、Integration Cloud に対するサービス管理者の役割が必要であり、許可されるスコープは全部である必要があります。

OAuth 2.0 接続を設定する前に、アクセス・トークン URL、クライアント ID、クライアント・シークレット、スコープなどのクライアント資格証明を持っていることを確認してください。OAuth クライアント・アプリケーションを設定する場合は、Oracle Integration Cloud Generation 3 ドキュメントの [Oracle Integration での OAuth 認証](#) を参照してください。

タスク・マネージャで Integration Cloud 接続を設定するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックします。
3. 「**接続の管理**」をクリックし、「**アクション**」から「**Integration Cloud 接続**」を選択します。
4. 次のいずれかの認証メカニズムを選択します:
  - **Basic 認証:** Integration Cloud の URL、サービス管理者のユーザー ID およびパスワードを指定します。
  - **OAuth 2.0:** Integration Cloud の URL、アクセス・トークン URL、クライアント ID、クライアント・シークレットおよびスコープを指定します。

### ノート:

この URL を入力します: `https://<SERVICE_NAME>-<TENANT_NAME>.integration.ocp.oraclecloud.com`

5. 「**検証**」をクリックします。検証が成功したら、「**保存**」をクリックします。これにより、接続のサーバーおよび資格証明が保存されます。

### Integration Cloud での接続と統合の作成

1. Integration Cloud にログインします。
2. Oracle Enterprise Performance Management Cloud アダプタを使用して EPM サーバーへの接続を作成します。詳細は、次のリンクを参照してください: [Oracle Enterprise Performance Management Cloud への接続の作成](#)。
3. 必要に応じて、他のアプリケーションへの 1 つ以上の接続を作成します。
4. 作成した接続を使用してプロセスの自動化統合を作成し、アクティブ化します。次の例を参照してください: [Oracle 統合での Oracle Enterprise Performance Management Cloud アダプタの使用](#)。

### タスク・マネージャでの統合の設定の完了

次のステップを使用して、タスク・マネージャで統合の設定を完了します。

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順をクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックし、「統合」リストに新しい統合が表示されていることを確認します。
3. タスク・マネージャで「**スケジュール**」を選択し、新しいスケジュールを保留中状態で作成します。[スケジュールの手動作成](#)を参照してください。
4. プロセス自動化タスクを作成し、スケジュールに追加します。[タスクの作成](#)を参照してください。
5. 「**スケジュール**」から、スケジュールを選択し、開きます。

## カスタム・イベント・モニタリング統合の作成

タスク・マネージャで、外部アプリケーションに対するイベント・モニタリング統合を作成できます。イベント・モニタリング統合は、他のクラウド・サービスまたはオンプレミス・アプリケーションで外部イベントが発生するとトリガーされます。イベント・モニタリング統合の例は、期間(2018年1月などの)のクローズ時の Oracle E-Business Suite - General Ledger からのトリガーです。

前提条件を満たしていることを確認し、次のステップに従ってタスク・マネージャと外部アプリケーションとの間に統合を設定します。

カスタム統合フローの概要は、[カスタム統合の作成](#)を参照してください

## 前提条件

### ノート:

イベント・モニタリングは、REST API を起動できる統合ツールからもトリガーできます。その場合は、次の前提条件は必要ありません。

タスク・マネージャと外部アプリケーションを統合する場合、次が必要です:

- オンプレミスまたは EPM Cloud 以外のサービスと統合する場合、Oracle Integration Cloud Service のサブスクリプション。

### ノート:

Oracle EPM クラウド・インスタンスごとに Integration Cloud インスタンスが 1 つ必要です。

- 外部アプリケーションの設定。
1. Oracle Integration Cloud / Oracle Autonomous Integration Cloud をサブスクライブします。詳細は、[Integration Cloud Service のドキュメント](#) を参照してください。
  2. Oracle EPM クラウド・インスタンスと通信するために、現在のアプリケーション環境で Integration Cloud エージェントをインストールします。Integration Cloud エージェントの設定の詳細は、[エージェント・グループの管理](#) を参照してください。

### ノート:

オンプレミス・アプリケーション・サービスが非武装地帯(DMZ)構成で設定された環境にデプロイされているため、それらのサービスがインターネット経由でパブリックにアクセス可能である場合は、Integration Cloud エージェントをインストールする必要はありません。

## タスク・マネージャでの統合の設定

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「統合」タブをクリックし、「新規」をクリックします。
3. 「プロパティ」タブで必要な情報を指定します。
4.
  - a. 「名前」に、統合の名前を入力します。
  - b. 「コード」に、統合タスクの統合コードを入力します。  
コードは、統合を実行するため、またファイル・インポートから統合に更新をマップするために使用されます。



- c. **オプション:** 「説明」に、統合タスクの説明を入力します。
  - d. 「接続」に、タスクが属するアプリケーションを選択します。  
アプリケーションのリストは、「接続の管理」ダイアログ・ボックスの「接続の管理」アイコンからメンテナンスできます。
  - e. 「実行タイプ」に「イベント・モニタリング」を選択します。
  - f. 「イベント名」に、イベントの名前を入力します。
5. 「パラメータ」タブで、「新規」をクリックし、必要な情報を指定します。
- a. 「名前」に、パラメータの名前を入力します。
  - b. 「パラメータ・コード」に、パラメータ・コードを入力します。
  - c. **オプション:** パラメータのツールチップを入力します。
  - d. 「パラメータ・タイプ」リストからタイプを選択し、そのパラメータの追加情報を入力します。
    - **チェック・ボックス:** ブール値
    - **日付:** 日付値
    - **整数:** 自然数での数値
    - **数値:** 自然数または小数での数値
    - **オプション・グループ:** 事前に定義された一連の値用のチェック・ボックス
    - **静的リスト:** 事前に定義された一連のテキスト値
    - **タスク情報:** たとえば、担当者、期間、開始日、終了日などのタスク情報
    - **テキスト:** 自由形式のテキスト値
    - **EPM アーティファクト:** アーティファクトの名前(フォームやレポートなど)
  - e. パラメータの値が必須の場合は、「必須」を選択します
  - f. 「OK」をクリックしてパラメータを保存します。
  - g. 「保存して閉じる」をクリックして統合を保存します。

#### 統合のタスク・タイプの作成

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「タスク・タイプ」タブをクリックします。
3. 「新規」をクリックします。
4. 「プロパティ」タブで、「タスク・タイプ名」と「タスク・タイプ ID」を指定します。
5. 「統合」で「検索」をクリックし、統合を選択して「OK」をクリックします。
6. 「パラメータ」タブで、タスク・タイプのパラメータを設定します。

#### タスク・マネージャでの Integration Cloud 接続の設定

タスク・マネージャでは、外部アプリケーションへのすべての統合に Oracle Integration Cloud を使用します。Basic 認証または OAuth 2.0 認証を使用して、タスク・マネージャで Oracle Integration Cloud への接続を設定できます。



 ノート:

- Oracle Integration Cloud Generation 2 については、Basic 認証と OAuth 2.0 の両方がサポートされています。
- Oracle Integration Cloud Generation 3 については、OAuth 2.0 のみがサポートされています。
- Basic 認証ユーザーには、Oracle Integration Cloud に対するサービス管理者の役割が必要です。
- OAuth 2.0 の場合、クライアント資格証明のみがサポートされています。OAuth 2.0 クライアント・アプリケーションには、Integration Cloud のサービス管理者の役割が必要となり、許可されるスコープは全部である必要があります。

OAuth 2.0 接続を設定する前に、アクセス・トークン URL、クライアント ID、クライアント・シークレット、スコープなどのクライアント資格証明を持っていることを確認してください。OAuth クライアント・アプリケーションを設定する場合は、Oracle Integration Cloud Generation 3 ドキュメントの [Oracle Integration での OAuth 認証](#) を参照してください。

タスク・マネージャで Integration Cloud 接続を設定するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「統合」タブをクリックします。
3. 「接続の管理」をクリックし、「アクション」から「Integration Cloud 接続」を選択します。
4. 次のいずれかの認証メカニズムを選択します:
  - **Basic 認証:** Integration Cloud の URL、サービス管理者のユーザー ID およびパスワードを指定します。
  - **OAuth 2.0:** Integration Cloud の URL、アクセス・トークン URL、クライアント ID、クライアント・シークレットおよびスコープを指定します。

 ノート:

この URL を入力します: `https://<SERVICE_NAME>-<TENANT_NAME>.integration.ocp.oraclecloud.com`

5. 「検証」をクリックします。検証が成功したら、「保存」をクリックします。これにより、接続のサーバーおよび資格証明が保存されます。

## Integration Cloud での統合の設定

### ノート:

Integration Cloud を使用する予定がない場合は、このステップをスキップします。

Integration Cloud で統合を設定するには:

1. Integration Cloud にログインします。
2. Oracle Enterprise Performance Management Cloud アダプタを使用して EPM サービスへの接続を作成します。詳細は、次のリンクを参照してください: [Oracle Enterprise Performance Management Cloud への接続の作成](#)。
3. 必要に応じて、他のアプリケーションへの 1 つ以上の接続を作成します。
4. 作成した接続を使用してイベント・モニタリング統合を作成し、アクティブ化します。次の例を参照してください: [Oracle 統合での Oracle Enterprise Performance Management Cloud アダプタの使用](#)。

## Integration Cloud を使用しない統合の設定

### ノート:

Integration Cloud を使用する予定の場合は、このステップをスキップします。

使用する予定の統合ツールを構成します。

1. REST API を確認し、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* の REST API で [イベント・モニタリングのタスク・ステータスの更新](#)を行います。
2. イベントのパラメータを渡すイベント・モニタリング・タスクを閉じるための REST API を呼び出す統合ツールを構成します。

詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* の REST API の [イベント・モニタリングのタスク・ステータスの更新](#)を参照してください。

### タスク・マネージャでの統合の設定の完了

次のステップを使用して、タスク・マネージャで統合の設定を完了します。

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「統合」タブをクリックし、新しい統合が表示されていることを確認します。
3. タスク・マネージャで「スケジュール」をクリックし、新しいスケジュールを保留中状態で作成します。[スケジュールの手動作成](#)を参照してください。
4. イベント・モニタリング・タスクを作成し、スケジュールに追加します。[タスクの作成](#)を参照してください。
5. 「スケジュール」から、スケジュールを選択し、開きます。

- 外部アプリケーション(EBS など)でイベントを生成するアクションをトリガーします。Integration Cloud は使用しないが、他の統合ツールを使用する場合は、その統合ツールから REST API を起動します。

 **ノート:**

統合タイプ、イベント、パラメータで必要なパラメータを渡します。そうしないと、パラメータが一致しない場合にタスクが対象になりません。

- タスクの完了を待ちます。
- オプション:** Integration Cloud Services で統合のステータスをモニターするには、Integration Cloud にログインし、**モニタリング**に移動します。

## 統合の操作

### 関連トピック:

- [統合の作成](#)
- [統合の表示](#)
- [統合の編集](#)
- [統合の検索](#)
- [統合の検証](#)
- [統合の削除](#)

## 統合の作成

統合を作成するときは、「実行」タイプに「エンド・ユーザー」を選択します。それにより、定義されたこの統合に基づくタスク・タイプの作成や、統合の検証が可能になります。

統合を作成するには:

- ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
- 左側の「**統合**」タブをクリックします。
- 「**新規**」をクリックします。

次に示す項で、さらに説明します。

- [統合のプロパティの設定](#)
- [統合のパラメータの設定](#)

## 統合のプロパティの設定

関連付けられたアプリケーションやエンド・ユーザー・タスクなど、統合のプロパティを設定できます。

エンド・ユーザー・タスクの場合、「SSO パラメータ」オプションを選択すれば、ユーザーが認証を要求されずに外部 Web アプリケーションにアクセスできるようにすることができます。外部アプリケーションが Oracle EPM System SSO フレームワークと統合されている場合、そのアプリケーションに SSO パラメータを使用できます。

統合のプロパティを設定するには:

1. 編集する統合を選択します。
2. 「プロパティ」で「名前」に統合の名前を入力します。入力できる最大文字数は 80 文字です。
3. Hyperion Financial Management Consolidate 統合タスクの場合は HFM\_CONS のように、「コード」を入力します。最大 90 文字まで入力できます。  
コードは、統合を実行するため、また統合に更新をマップするために使用されます。
4. オプション: 「説明」に、統合タスクの説明を入力します。最大 255 文字まで入力できます。
5. 「接続」に、タスクが属するアプリケーションを選択します。

#### ノート:

アプリケーションのリストは、「接続の管理」ダイアログ・ボックスの「接続の管理」アイコンからメンテナンスできます。

6. 「実行タイプ」で、「エンド・ユーザー」を選択し、オプションを選択します:
  - **エンド・ユーザー・エンドポイント:** 「エンド・ユーザー」タスクのパラメータを入力するには、「エンド・ユーザー・エンドポイント」に次のフォーマットでパラメータを入力する必要があります:  
`$/パラメータ・タイプ・コード$` (例: \$COLORS\$)。「エンド・ユーザー・エンドポイント」のパラメータ・トークンは、タスクのパラメータに指定した情報で置き換えられます。
  - **オプション: インラインで表示:** 「タスク・アクション」ダイアログ内で、URL をインラインで表示するかどうかを選択します。
  - **オプション: SSO パラメータ:** アプリケーションの SSO パラメータ名を指定して、外部アプリケーションへのエンド・ユーザー・タスク URL を実行したときに含まれるようにします。SSO パラメータを指定しない場合、システムではエンド・ユーザー URL が使用されます。
7. オプション: 「パラメータ」をクリックします。

## 統合のパラメータの設定

タスク・マネージャ統合のパラメータにより、アプリケーションからエンド・ポイントに、アクションの実行方法を制御する情報を渡すことができます。たとえば、連結を実行する場合、プログラムでは、連結の実行対象にするアプリケーションや、連結のディメンション選択を渡すことができます。統合で定義されたパラメータ値は、その統合を使用してタスクまたはタスク・タイプで設定します。

各パラメータの定義には、名前、説明、一意のコード、タイプ、および値が必須かどうかの設定が必要です。パラメータ・コードは、ユーザー・タスクでは実行 URL 内のパラメータ

を、システム自動統合では実行 Web サービスに渡されるパラメータ名を置換するトークンです。必須の値は、スケジュール内のすべてのタスクに 1 つの値を指定しないと、そのスケジュールは「オープン」に設定できません。

パラメータ・タイプにより、パラメータ値と、ユーザーがタスク・フィールドに値を入力する方法を制御します。サポートされているパラメータ・タイプ:

統合のパラメータを設定するには:

1. 「**新規統合**」ダイアログ・ボックスで、「**パラメータ**」をクリックします。
2. 「**新規**」をクリックします。
3. パラメータの「**名前**」を入力します。
4. 「**パラメータ・コード**」を入力します。
5. パラメータの「**ツールチップ**」を入力します。
6. 「**パラメータ・タイプ**」リストからタイプを選択し、そのパラメータの追加情報を入力します。
  - **チェック・ボックス**: ブール値
  - **日付**: 日付値
  - **整数**: 自然数での数値
  - **数値**: 自然数または小数での数値
  - **オプション・グループ**: 事前に定義された一連の値用のチェック・ボックス
  - **静的リスト**: 事前に定義された一連のテキスト値
  - **タスク情報**: たとえば、担当者、期間、開始日、終了日などのタスク情報
  - **テキスト**: 自由形式のテキスト値。
  - **EPM アーティファクト**: アーティファクトの名前(フォームやレポートなど)
7. パラメータの値が必須の場合は、「**必須**」を選択します
8. 「**OK**」をクリックしてパラメータを保存します。
9. 「**保存して閉じる**」をクリックして統合を保存します。

## 統合の表示

インポートされた統合のプロパティとパラメータを表示できます。表示する列を指定することも、すべて表示することも可能です。列の順序変更、昇順または降順での列のソート、または列幅の変更を行うこともできます。

列を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックします。
3. 「**表示**」、「**列**」の順に選択し、オプションを選択します。
  - すべての列を表示するには、「**すべて表示**」を選択します。
  - 特定の列を表示するには、列名を選択または選択解除します。

列を並べ替えるには:

1. 「**統合**」をクリックします。
2. 「**表示**」、「**列の順序変更**」.の順に選択します
3. 列を選択し、上下の矢印を使用して順序を変更します。

列をソートするには:

1. 「**統合**」をクリックします。
2. 「**ソート**」アイコンが表示されるまで列ヘッダーにマウス・ポインタを置き、「**昇順ソート**」または「**降順ソート**」をクリックします。

列の幅を変更するには:

1. 矢印が表示されるまで、列ヘッダーの区切りにマウス・カーソルを合せます。
2. 希望する幅になるまで列をドラッグします。

## 統合の編集

システムによりデフォルトで提供されている、事前作成済の統合は編集できません。編集できるのは、自身で作成したカスタム作成の統合のみです。

エンド・ユーザー・タイプの場合は、エンドポイントの編集、視点の変更または値のリストの変更を行うことができます。

統合を編集するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックします。
3. 統合を選択し、「**編集**」をクリックします。
4. 統合を編集します。
5. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

## 統合の検索

「統合」ページの「検索」ボックスを使用して、統合を検索できます。検索する名前の全部または一部を入力できます。

統合を検索するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックします。
3. 「**検索**」ボックスに、統合の完全または部分検索条件を入力します。
4. **[Enter]**を押します。

リストをリセットしてすべての統合を表示するには、「**検索**」ボックスをクリアし、**[Enter]**を押します。

## 統合の検証

テスト・スケジュールとそのスケジュールへのタスクの追加を通じて、タスク・マネージャの統合の定義をテストして検証できます。

統合を検証するには:

1. タスク・マネージャで、「**スケジュール**」をクリックした後、「**新規**」をクリックしてスケジュールを保留中状態で作成します。[スケジュールの手動作成](#)を参照してください。
2. 検証対象となる統合に基づくタスクをスケジュールに追加します。[タスクの作成](#)を参照してください。
3. 「**スケジュール**」から、スケジュールを選択し、開きます。
4. 「**タスク**」から、「**スケジュール**」をクリックします。スケジュールを選択し、タスクを表示します。
5. イベント・モニタリング・タスクについて、外部アプリケーション(EBS など)でイベントを生成するアクションをトリガーします。Integration Cloud は使用しないが、他の統合ツールを使用する場合は、その統合ツールから REST API を起動します。

## 統合の削除

不要になった統合は削除できます。ただし、デフォルトで提供されている事前作成済の統合は削除できず、タスク・タイプに関連付けられている間も統合を削除できません。

統合を削除するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックします。
3. 削除する統合を選択します。
4. 「**削除**」をクリックします。
5. 確認のプロンプトで「**はい**」をクリックします。

## 接続の管理

統合は、リンクする外部製品に割り当てられた接続です。「接続の管理」モジュールから、統合に関連付けられた接続のリストを管理できます。接続で、リストの検索やソートができます。

- [接続の追加](#)
- [接続の編集](#)
- [接続の削除](#)

## 接続の追加

統合タイプに関連付ける接続を追加できます。統合タイプに使用するセキュリティ・ポリシーも指定できます。

さらに、アプリケーション内のすべての統合タイプに対して、アプリケーションレベルのトークンと値を指定できます。エンド・ユーザー URL または Web サービス WSDL でアプリケーションレベルのトークンを指定すると、そのトークンは、アプリケーションでそのトークンに定義されている値に置き換えられます。たとえば、サーバーやポートの値を持つトークンを指定すると、それらの値はシステムによって自動的にアプリケーション内の統合タイプに適用されます。

接続を追加するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックします。
3. 「**接続の管理**」をクリックします。
4. 「**新規**」をクリックします。
5. 「**新規統合**」の「**プロパティ**」と「**パラメータ**」を入力し、「**保存して閉じる**」をクリックします。
6. **オプション:** アプリケーションレベルのトークンを追加するには、「**接続の管理**」をクリックします。「**新規**」をクリックするか、接続を選択し、「**編集**」をクリックします。「**アプリケーション・トークン**」表で、「**追加**」をクリックします。「**トークン名**」とオプションで**トークン値**を入力し、「**OK**」をクリックします。

### ヒント:

トークンを削除するには、「**削除**」をクリックします。

## 接続の編集

接続名、セキュリティ情報およびアプリケーションレベルのトークンを編集できます。

### ノート:

シードされたアプリケーションのアプリケーション・トークンは追加したり、変更できません。トークン値の編集のみ可能です。

「接続の編集」ダイアログを使用して事前作成済の統合を有効にすることもできます。統合を有効にしてパラメータを入力したら、有効にした統合の**タスク・タイプ**を使用して**タスク**を作成できます。

接続を編集するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックします。



3. 「**接続の管理**」をクリックします。
4. 接続を選択して、「**編集**」をクリックします。
5. 事前作成済の統合を有効にするには、接続を選択して「**使用可能**」を選択し、パラメータを入力します。  
接続は、いつでも有効化または無効化できます。
6. 必要に応じて設定またはトークンを編集し、「**OK**」をクリックします。

## 接続の削除

不要になった統合に対する接続は削除できます。接続は、統合タイプに関連付けられている間は削除できません。接続を削除する前に、接続を参照する各統合タイプのプロパティを変更する必要があります。

### ノート:

シードされた統合の接続は削除できません。

接続を削除するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックします。
3. 「**接続の管理**」をクリックします。
4. 接続を選択して、「**削除**」をクリックします。

# タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのアラート・タイプの管理

## ノート:

アラート・タイプ機能は、管理者のみが使用できます。

ビジネス・プロセスの実行時に、ハードウェア障害、ソフトウェアの問題、システム障害などの障害が発生することがあります。問題を識別するアラートを作成し、タスクに添付できます。

たとえば、ユーザーがビジネス・プロセスを実行しており、システムにログオンできないとします。ユーザーはアラート・タイプを選択し、これにより、問題を解決する適切なリソースにアラートが送信されます。

次のトピックを参照してください。

- [アラート・タイプの作成](#)
- [アラート・タイプの編集](#)
- [アラート・タイプの表示](#)
- [アラート・タイプの検索](#)
- [アラート・タイプの削除](#)

## アラート・タイプの作成

ビジネス・プロセスの実行中に障害が発生した際、ユーザーが問題を特定するためのアラートを作成できます。

重要な情報を取得して、問題解決のために主要な個人を割り当てるストアド・プロシージャのアラート・タイプを定義できます。アラート・タイプを使用して、ビジネス・サイクル中に発生した問題のタイプを分析し、今後のサイクルでその問題を防ぐために変更を加えることができます。

アラート・タイプを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**アラート・タイプ**」タブをクリックします。
3. 「**新規**」をクリックします。
4. アラート・タイプのタブで必要な情報を入力します:
  - [アラート・タイプ・プロパティの設定](#)
  - [アラート・タイプの指示の指定](#)

- アラート・タイプ・ワークフローの選択
- アラート・タイプ参照者の割当
- アラート・タイプに対する質問の追加
- アラート・タイプ属性の適用
- アラート・タイプ履歴の表示

## アラート・タイプ・プロパティの設定

「プロパティ」タブを使用して、アラート・タイプ名および説明を指定し、タスク・マネージャ・オブジェクトまたは補足データ・マネージャ・オブジェクト(タスクやスケジュールなど)に関連付けることができます。個々のアラートは、複数のオブジェクトに関連付けできます。

アラートとそれに関連するオブジェクトの間の関係には制限を設定できます。すべてのオブジェクトにすべての制限を適用できるわけではありません。

表 30-1 アラートの制限

制限	説明	例
なし	オブジェクトのステータスとアラートのステータスに対する制限はありません	レポート・タスクの作業時に、パフォーマンス低下のアラートを提起します。これは、タスクの所要時間に影響しますが、タスクの正常な完了を妨げるものではありません。タスクが完了した場合も、パフォーマンスの問題が解決するまではアラートをオープンしておくことが望まれます。
ワークフローの防止	オブジェクトのワークフローは、アラートがクローズされるまで先に進めません(送信、承認などは実行されません)。これは、請求または却下(ワークフローの逆方向への移動)を妨げるものではありません。また、管理者または所有者がワークフローを強制的に先に進めることも阻止しません。	ユーザーが、レポート・システムのダウンを知らせるアラートを提起します。これにより、アラートが解決されるまでレポート・タスクの作業が阻止されます。ワークフローの防止には、ステータスが「保留中」から「オープン」、「オープン」から「クローズ済」への変更を防止することが含まれます。
クローズの防止	アラートがクローズされるまで、オブジェクトをクローズ状態に移動できません。ただし、中間ワークフローは続行できます。これは、管理者または所有者による終了または強制終了を阻止しません。	ユーザーが、レポート・タスクの一部の比較データが欠落していることを示すアラートを提起します。これにより、レポートの作成および最初の承認申請は妨げられませんが、欠落しているデータと比較できるようになるまでは、レポートを完全にサインオフしない必要があります。

オブジェクトには、異なる制限の複数のアラートを指定できます。この場合は、次のルールが優先順に適用されます:

1. オブジェクトに関連付けられているオープン・アラートに「ワークフローの防止」制限がある場合は、ワークフローの防止により、アラートがクローズされるまでオブジェクト(タスクなど)のワークフローが停止します。
2. オブジェクトに関連付けられているオープン・アラートに「クローズの防止」制限がある場合は、アラートがクローズされるまでオブジェクトをクローズできません。

さらに、アラートは複数のオブジェクトに関連付けられている場合があります。異なるオブジェクトに対して複数の「クローズの防止」制限がある場合、アラートは、最後のオブジェクトがクローズされた場合にのみクローズされます。

アラート・タイプのプロパティを設定するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**アラート・タイプ**」タブをクリックします。
3. 「**新規**」をクリックして「**新規アラート・タイプ**」を開きます。デフォルトでは、「**プロパティ**」タブが表示されます。
4. 「**名前**」に、アラート・タイプ名を入力します。入力できる最大文字数は 80 文字です。
5. 「**アラート・タイプ ID**」を入力します。入力できる最大文字数は 80 文字です。  
アラート・タイプ ID は必須で、一意にする必要があります。
6. **オプション: 「説明」** に、アラート・タイプの説明を入力します。最大 255 文字まで入力できます。
7. **オプション: 「関連先」** ドロップダウン・リストから、アラートを関連付けるオブジェクト(タスクなど)を選択します。
8. **オプション: 「制限」** に、アラートの制限を入力します。たとえば、タスクのアラートに対して「**クローズの防止**」を選択すると、ユーザーは、アラートが完了するまでクローズ・タスクを完了できません。  
「**関連先**」に「**すべてのタイプ**」を選択した場合、制限はありません。
9. 「**期間の選択**」と「**年の選択**」の両方に対して、次の値から選択します。
  - **必須** – ユーザーはアラートを年または期間に関連付ける必要があります。
  - **表示** – ユーザーはアラートを年または期間に関連付けることができます。
  - **非表示** – プロパティは非表示になり、アラートを年または期間に関連付けられません。これらのオプションは、期間および年がどのようにアラートに関連付けられるかを示しています。
10. 既存の関連付けをアラートから削除するには、「**関連付けの削除の許可**」オプションを選択します。このオプションの選択を解除すると、既存の関連付けられたアーティファクトをアラートから削除できなくなります。
11. 「**使用可能**」をクリックしてアラート・タイプを有効にします。  
使用可能なアラート・タイプのリストには有効なアラート・タイプのみが表示され、新しいアラートを作成する際に選択できます。
12. 「**アラート・タイプ**」タブをクリックし、情報の入力が続けます。  
アラート・タイプ情報の入力が完了したら、「**保存して閉じる**」をクリックします。

 ノート:

既存のアラートに対してアラートを作成することはできません。

- アラート・タイプの指示の指定
- アラート・タイプ・ワークフローの選択
- アラート・タイプ参照者の割当
- アラート・タイプに対する質問の追加
- アラート・タイプ属性の適用

## アラート・タイプの指示の指定

アラートに対してユーザーが何を理解できるように、アラート・タイプには指示を指定できます。ファイルおよび URL の添付からその他の参照を追加できます。

アラート・タイプの指示を指定するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「アラート・タイプ」タブをクリックします。
3. 「新規」または「編集」ダイアログで、「指示」タブを選択します。
4. 「指示」に、アラート・タイプの指示テキストを入力します。

参照を追加するには:

1. 「参照」セクションで、「ファイルの添付」または「リンクの添付」をクリックします。
  - **ファイルの添付**  
「ファイルの選択」をクリックし、ファイルを選択して添付します。「名前」には、名前を入力するか、ファイル名を使用します。「OK」をクリックします。
  - **リンクの添付**  
「URL」を入力した後、URL の「名前」を入力します(例: https://www.oracle.com、Oracle)。「OK」をクリックします。
2. 「アラート・タイプ」タブをクリックし、情報の入力が続けます。

アラート・タイプ情報の入力が完了したら、「保存して閉じる」をクリックします。

- アラート・タイプ・ワークフローの選択
- アラート・タイプ参照者の割当
- アラート・タイプに対する質問の追加
- アラート・タイプ属性の適用

## アラート・タイプ・ワークフローの選択

「ワークフロー」セクションには、担当者と承認者の割当てが含まれます。バックアップ・ユーザーを選択することもできます。

アラート・タイプ・ワークフローを選択するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**アラート・タイプ**」タブをクリックします。
3. 「新規」または「編集」ダイアログで、「**ワークフロー**」タブをクリックします。
4. 「**担当者**」で、メンバー・セレクタをクリックし、担当者を選択します。

担当者は、このタイプのアラートが作成されたときにアラートに対して作業するように割り当てられたユーザーまたはグループまたはチームです。担当者を指定しなかった場合は、アラートを作成するユーザーが担当者を入力する必要があります。

5. **オプション: 「バックアップ・ユーザー」**で、担当者のバックアップ・ユーザーを選択します:
  - a. ホーム・ページで、「**ツール**」、「**アクセス制御**」、「**タスク・マネージャ・ユーザー**」の順に選択します。
  - b. 担当者 ID を編集し、「**ステータス**」フィールドを「**作業不可**」に変更します。
  - c. 次に、アラート・タイプの「**ワークフロー**」タブで、バックアップ・ユーザーを選択できます。

バックアップ・ユーザーは、メインの担当者が不在の場合にアラートに対して作業するように割り当てられたバックアップ用の個人です。担当者およびバックアップ担当者は、事前に割り当てする必要があります。

担当者または承認者がチーム ID に設定されている場合、「バックアップ・ユーザー」フィールドは無効になります。

6. 「**追加**」(+ )をクリックして承認者を追加し、承認者について次の情報を入力します:

- **ユーザー名**
- **バックアップ・ユーザー**: メイン承認者が不在の場合のアラートのデフォルト・バックアップ承認者ユーザーを指定できます。必須ではありません。

「**レベル**」には、入力した順に承認者が表示されます。承認者リストを並べ替えるには、承認者を選択し、矢印ボタンをクリックしてリスト内で上下に移動します。

このタイプのアラートが作成されたときのデフォルト承認者ユーザーまたはグループまたはチームのレベルを 1 つ以上追加できます。これらは必須ではありません。承認者を指定しなかった場合は、アラートを作成するユーザーが承認者を追加するオプションがあります。

7. 「アラート・タイプ」タブをクリックし、情報の入力を続けます。

アラート・タイプ情報の入力が完了したら、「**保存して閉じる**」をクリックします。

- [アラート・タイプ参照者の割当](#)
- [アラート・タイプに対する質問の追加](#)
- [アラート・タイプ属性の適用](#)

## アラート・タイプ参照者の割当

「参照者」タブでは、アラート・タイプの参照者権限を割り当てることができます。参照者は、読取り専用アクセス権を持ちます。

参照者権限を割り当てるには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**アラート・タイプ**」タブをクリックします。
3. 「**新規**」または「**編集**」をクリックし、「**参照者**」タブをクリックします。
4. 「**追加**」をクリックし、アラートの表示アクセス権を保持するユーザーまたはグループまたはチームの名前を選択します。  
「メンバー・セレクト」が表示されます。外部の参照者について編集できます。
5. **オプション: 「外部ユーザーの追加」** をクリックし、アラートに関して通知する必要があるシステム外のユーザーを追加します。  
外部ユーザーにはアラートは表示されず、通知のみを受け取ります。サービスへのアクセス権は付与されません。
6. 参照者の **電子メール・アドレス** を指定します。  
外部参照者の電子メール・アドレスは編集可能です。リストに重複する電子メール・アドレスがある場合は、アラート・タイプへの変更を保存できません。
7. **通知優先度** を選択し、ユーザーに電子メールで通知するアラートの優先度を指定します。  
通知は優先度レベル以上の場合に送信されます。したがって、「高」に設定されていると、アラートが「高」に設定されている場合のみ通知が送信されます。「低」に設定されていると、すべての優先度タイプ(低、中、高)について通知されます。空白(デフォルト)の場合、通知は送信されません。
8. 「アラート・タイプ」タブをクリックし、情報の入力を行います。  
アラート・タイプ情報の入力が完了したら、「**保存して閉じる**」をクリックします。
  - [アラート・タイプに対する質問の追加](#)
  - [アラート・タイプ属性の適用](#)

## アラート・タイプに対する質問の追加

アラート・タイプを作成する場合、アラート・タイプが完了したことをユーザーに示す前に、ユーザーがアクションに関する質問に回答することができます。たとえば、タスクの完了時に特定のプロセスが続いて実行されたかどうかを質問できます。質問は、管理者、担当者、承認者、所有者または参照者の役割に設定できます。これにより、問題が発生しているユーザーから主要な詳細を収集できます。

テキスト、数値、True/False など、様々なタイプの質問を指定でき、それらが必須かどうかを指定できます。質問が必須の場合、ユーザーは質問に回答する必要があり、回答しないと承認のためにタスクを送信できません。「上へ移動」および「下へ移動」ボタンを使用して、質問を並べ替えることもできます。

質問を追加するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「アラート・タイプ」タブをクリックします。
3. 「新規」または「編集」ダイアログで、「質問」タブを選択します。
4. 「新規」をクリックします。
5. 「質問」に、最大 4000 文字の質問のテキストを入力します。
6. 「タイプ」リストから、次の質問タイプを選択します。
  - 日付
  - 日付/時間
  - 整数
  - リスト  
質問に対する有効な回答のリストを入力します。
  - 複数行のテキスト  
最大長は 4,000 文字未満にする必要があります。  
「複数行のテキスト」を選択し、3 から 50 行の間の行数を入力します。「複数行のテキスト」では、「アクション」ダイアログ・ボックスで、スクロールせずに表示できるテキストの行数を決定します。
  - 数値  
「数値」を選択した場合、数値のフォーマット・オプションを選択します:
    - 「小数点以下の桁数」には、表示する小数点以下の桁数の値を入力します。
    - 1,000.00 のように、数値に 3 桁ごとの区切り文字を表示する場合は、「3 桁ごとの区切り文字」オプションを選択します
    - 「通貨記号」リストから、通貨記号を選択します(例: \$ (米国ドル))。
    - 「負数」リストから、負数の表示方法((123)など)を選択します。
    - 「スケール」リストから、数値のスケール値(1000 など)を選択します。
  - テキスト
  - True/False
  - ユーザー
  - はい/いいえ
7. 質問に回答するユーザーの「役割」(「所有者」、「担当者」、「承認者」、「参照者」)を割り当てます。
8. 質問が必須の場合は、「必須」を選択します  
「必須」は、続行する前にユーザーが質問に回答する必要があることを示します。必須の質問は、担当者、承認者および所有者に対して設定できます。システム管理者および参照者の役割には無効です。
9. 「OK」をクリックします。
10. オプション: 質問の順序を変更するには、質問を選択し、「一番上へ移動」、「上へ移動」、「下へ移動」または「一番下へ移動」をクリックします。



11. **オプション:** 質問を編集するには、質問を選択し、「**編集**」をクリックします。質問を削除するには、質問を選択し、「**削除**」をクリックします。
12. 「アラート・タイプ」タブをクリックし、情報の入力を行います。  
アラート・タイプ情報の入力完了したら、「**保存して閉じる**」をクリックします。
  - [アラート・タイプ属性の適用](#)
  - [アラート・タイプ履歴の表示](#)

## アラート・タイプ属性の適用

属性を選択する際に、属性タイプに基づいて属性の値を設定できます。後で属性値によってフィルタ処理できます。

たとえば、「北部」、「南部」、「東部」および「西部」という値を持つ「販売地域」という名前の「リスト」属性を持つことができます。現在のアラート・タイプは西部販売地域にのみ適用されるため、「販売地域」属性を追加し、この属性を「西部」に設定できます。

属性を適用するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**アラート・タイプ**」タブをクリックします。
3. 「**新規**」または「**編集**」をクリックし、「**属性**」タブを選択します。
4. 「**追加**」をクリックします。
5. 「**属性**」リストから、属性を選択します。
6. 「**値**」で、属性に応じて、ドロップダウン・リストから属性の値を選択するか、値を入力します。
7. **オプション:** 属性に対するアクセスを変更するには、「**役割**」および「**アクセス**」を選択します。
8. 「**保存して閉じる**」をクリックします。
9. その他のアラート・タイプ情報を編集するには、次のトピックを参照してください:
  - [アラート・タイプ・プロパティの設定](#)
  - [アラート・タイプの指示の指定](#)
  - [アラート・タイプ・ワークフローの選択](#)
  - [アラート・タイプ参照者の割当](#)
  - [アラート・タイプに対する質問の追加](#)

## アラート・タイプ履歴の表示

アラート・タイプのアクションの履歴は保持されます。「履歴」タブには、作成または更新されたコンポーネント、変更タイプ、古い値と新規の値、変更を行ったユーザーおよび変更日が表示されます。「履歴」タブの情報は読取り専用です。

アラート・タイプ履歴を表示するには:

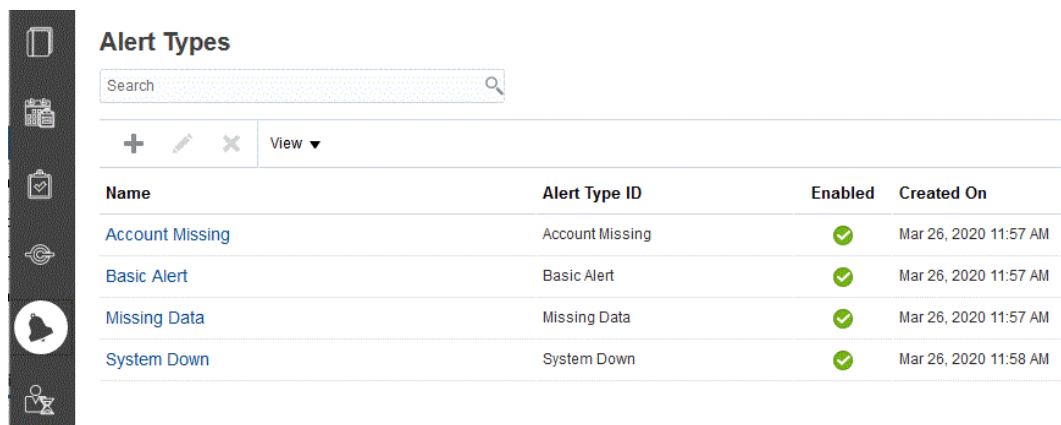
1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「アラート・タイプ」タブをクリックします。
3. アラート・タイプを編集し、「履歴」タブを選択します。
4. 履歴を表示し、「保存して閉じる」をクリックします。

## アラート・タイプの表示

「アラート・タイプ」で、アラート・タイプのリストに表示する列を指定するか、すべての列を表示できます。列の順序変更、昇順または降順での列のソート、または列幅の変更を行うこともできます。

列を表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「アラート・タイプ」タブをクリックします。
3. 次の 1 つ以上のタスクを行います。
  - すべての列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、「すべて表示」を選択します。
  - 特定の列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、列名を選択または選択解除します。
  - 列を並べ替えるには、「表示」、「列の順序変更」の順に選択し、列を選択して上矢印または下矢印を使用するか、それらをドラッグして順序を変更します。
  - 列をソートするには、「ソート」アイコンが表示されるまで列ヘッダーにマウス・カーソルを合せ、「昇順ソート」または「降順ソート」をクリックします。
  - 列の幅を変更するには、矢印が表示されるまで列ヘッダーの区切りにマウス・カーソルを合せ、適切な幅になるまで列をドラッグします。



Name	Alert Type ID	Enabled	Created On
Account Missing	Account Missing	✓	Mar 26, 2020 11:57 AM
Basic Alert	Basic Alert	✓	Mar 26, 2020 11:57 AM
Missing Data	Missing Data	✓	Mar 26, 2020 11:57 AM
System Down	System Down	✓	Mar 26, 2020 11:58 AM

## アラートの列の定義

この項では、アラートの列について定義を示します。

表 30-2 列の定義 - アラート

列名	説明
アラート(件数)	アラートの合計件数
オープン中のアラート(件数)	オープン・アラートの合計件数
アラート・タイプ	アラートのタイプ。タイプに基づいて、ビジネス・サイクル中に発生した問題のタイプを分析し、今後のサイクルでその問題を防ぐために変更を加えることができます
「承認者 1」 - 「承認者 10」	承認者レベル
「承認者 1 (バックアップ)」 - 「承認者 10 (バックアップ)」	アラートのバックアップ承認者
「承認者 1 (プライマリ)」 - 「承認者 10 (プライマリ)」	アラートのプライマリ承認者
「承認者 1 の終了日(実際)」 - 「承認者 10 の終了日(実際)」	それぞれの承認者レベルの実際の終了日
「承認者 1 の却下(件数)」 - 「承認者 10 の却下(件数)」	承認者によって却下されたアラートの件数
担当者	アラートに割り当てられたユーザー
担当者(バックアップ)	アラートに割り当てられたバックアップ・ユーザー
担当者(プライマリ)	アラートに割り当てられたプライマリ・ユーザー
担当者終了日(実際)	割り当てられたユーザーの実際の終了日
関連付けられたオブジェクト・タイプ	アラートに関連付けられているオブジェクトのタイプ
関連付けられたオブジェクト(件数)	アラートに関連付けられているオブジェクトの合計件数
クローズ日	アラートがクローズされた日付
コメント(件数)	アラートのコメントの合計件数
作成者	アラートを作成したユーザーの名前
作成日	アラートが作成された日時
説明	アラートの説明
<b>Duration</b>	定義されたアラート期間
期間(実際)	実際のアラート期間
終了日	アラートの有効終了日
<b>ID</b>	アラートの一意的識別子
最終更新者	アラートを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	アラートが最後に更新された日時
名前	アラートの名前
<b>Owner</b>	アラート所有者の名前。サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。
所有者終了日(実際)	アラート所有者の実際の終了日
期間	アラートの期間
<b>Priority</b>	アラートに割り当てられた優先度
開始日	アラートの有効開始日
ステータス	アラートのステータス
ステータス(詳細)	アラートの詳細なステータス

表 30-2 (続き) 列の定義 - アラート

列名	説明
ステータス(アイコン)	アイコンとして示されるアラートのステータス
年	アラートが作成された年

## アラート・タイプの編集

アラート・タイプの名前と説明を編集し、有効かどうかを指定できます。アラート・タイプを有効にすると、使用可能なアラート・タイプのリストにそのアラート・タイプが表示されます。

通常、ロックされたスケジュールのアイテムは、編集または変更できません。ただし、ロックされたスケジュールに関連付けられているアラートに対する更新、ワークフローの進行状況の確認、スケジュールからの削除、または削除は操作可能です。

アラート・タイプを編集するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**アラート・タイプ**」タブをクリックします。
3. アラート・タイプを選択し、「**編集**」をクリックします。
4. アラート・タイプを編集します。
5. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

## アラート・タイプの検索


「アラート・タイプ」リストの検索機能を使用して、アラート・タイプをすばやく検索できます。検索する名前の全部または一部を入力できます。フィルタ・バーを使用して、リストに表示するアラート・タイプを制御できます。デフォルトでは、すべてのアラート・タイプが表示されます。

アラート・タイプを検索するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**アラート・タイプ**」タブをクリックします。
3. アラート・タイプを検索するには、「**検索**」テキスト・ボックスに検索条件を入力します。
4. **オプション:** フィルタ・バーでカテゴリをクリックすると、追加の検索演算子(「**次と等しい**」、「**次と等しくない**」、「**次を含む**」、「**次を含まない**」、「**次で始まる**」、「**次で終わる**」)が表示されます。

次のカテゴリを使用して、アラート・タイプをフィルタできます: **名前**、**アラート・タイプ ID**、**使用可能**、**説明**、**作成者**、**作成日**、**最終更新者**または**最終更新日**。

 ノート:

- 「**フィルタの追加**」をクリックして、すべてのカテゴリを表示します。
- フィルタ・バーを非表示にするには、「**フィルタ**」アイコンをクリックします。
- すべてのフィルタをクリアするには、 アイコンで「**すべてのフィルタのクリア**」をクリックします。

## アラート・タイプの削除

アラート・タイプは削除できます。アラート・タイプが削除されても、アラートは削除されず、アラート・タイプ割当てがなくなります。

アラート・タイプを削除するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**アラート・タイプ**」タブをクリックします。
3. アラート・タイプを選択します。
4. 「**削除**」、「**OK**」の順にクリックします。

# 31

## タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのレポートの使用


### 次も参照:

- [タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのカスタム・レポートの生成](#)
- [タスク・マネージャ問合せの作成](#)
- [補足データ問合せの作成](#)
- [テンプレートの作成](#)
- [レポート・グループの設定](#)
- [レポートの作成](#)
- [問合せ、レポート・グループまたはレポートの検索とフィルタ](#)
- [レポートの生成](#)
- [レポート・セキュリティの理解](#)
- [タスク・マネージャ・レポート・バインダの使用](#)
- [レポート・バインダの生成](#)
- [レポート・バインダの表示](#)

## タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのカスタム・レポートの生成

タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャに対してレポートを作成できます。レポートは、PDF、CSV、HTML または XLSX 形式で作成できます。

### ノート:

タスク・マネージャには、開始するのに役立つサンプル・レポートが用意されています。それらをテンプレートとして使用して、必要に応じて複製した後、変更を加えたりユーザーに対するアクセス権を拡張できます。レポートを複製するには、レポートを選択し、省略記号ボタン  から「複製」を選択します。その後、新規に作成したレポートを編集できます。

カスタム・レポートも作成できます。カスタム・レポートの作成は4つのステップで構成され、サービス管理者のみが実行できます。

- タスク・マネージャまたは補足データ問合せを「**問合せ**」タブの「**新規**」ボタンから作成します。[タスク・マネージャ問合せの作成](#)または[補足データ問合せの作成](#)を参照してください。

- テンプレートを作成します。[テンプレートの作成](#)を参照してください。
- レポート・グループを設定します。
- レポートを設定します。

カスタム・レポートを作成するには、定義を XML ファイルとしてエクスポートできる問合せを作成します。XML ファイルを Word にインポートし、これを使用してテンプレート・ドキュメントを作成します。テンプレート・ドキュメントは RTF 形式である必要があります。次に各レポートをグループ化するレポート・グループを設定できます。最後に、レポートを生成します。作成した問合せとテンプレートの両方が使用され、デフォルト出力を CSV、PDF、HTML または XLSX に設定できます。

カスタム・レポートの作成後、サービス管理者またはアクセス権が付与された他のユーザーはレポートを生成できます。[レポートの生成](#)を参照してください。

### ノート:

Oracle クラシック環境から Oracle Cloud Infrastructure (OCI)への移行を管理しており、カスタム・レポートがある場合は、ターゲット・サービスでカスタム・レポートの問合せ定義を更新することが必要になる可能性があります。これは、オブジェクト(タスク、仕訳、属性など)の内部 ID が移行中に変更されることがあるためです。ただし、オラクルが管理する移行の場合、内部オブジェクト ID の変更はないため、カスタム・レポートの定義を変更する必要はありません。

## タスク・マネージャ 問合せの作成

問合せの作成が、カスタム・レポートの作成の最初のステップです。

問合せを作成するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」を選択し、レポート(たとえば、「**連結以外のレポート**」)を選択します。
2. 「**問合せ**」タブで、「**新規**」をクリックします。
3. 「**新規問合せ**」画面で、「**名前**」およびオプションの「**説明**」を入力します。
4. 「**タイプ**」から、次のいずれかのオプションを選択します:

- **パラメータ問合せ:** 「パラメータ問合せ」タイプは、このパラメータの値に指定できるオプションのリストを表示するために使用されます。「パラメータ問合せ」では、レポート問合せに対するパラメータの値の入力時に使用されるオプションのリストを表示できます。このオプションのリストはすでに定義済みの単純な属性ではなく、定義が必要とされる複雑な問合せです。

このパラメータ問合せの例では、すべてのタスク・マネージャ期間のリストが表示されます。

```
SELECT PERIOD_ID, PERIOD_NAME FROM FCC_PERIODSWHERE APP_ID=1
```

- **レポート問合せ(タスク・マネージャおよび補足データ・レポート):** レポートに含めるレコードを選択します。セキュリティ・フィルタを適用できます。これによって、ユーザーには各自の役割に基づいて参照を許可されているデータと、割り当てられているレポートのみが表示されます。レポート問合せにセキ

セキュリティ・フィルタを適用するには、問合せの **WHERE CLAUSE** 文の最後に次の構文を追加します

```
$FCC_SECURITY_CLAUSE$
```

問合せ内で \$FCC\_SECURITY\_CLAUSE\$ を使用する場合は、FCC\_TASKS に TaskEO の別名を付ける必要があります

タスク・マネージャに付属している事前定義の問合せの多くはセキュリティ・フィルタが適用されているため、独自の問合せを作成する際にこれらを例として使用することができます。

たとえば、次のレポート問合せでは、選択したスケジュールのすべての高優先度タスクのタスク・コード、名前、担当者およびスケジュールを表示するスケジュール済タスクを指定します。

```
SELECT TaskEO.TASK_CODEAS "$TASK_CODE$",
TaskEO.TASK_NAMEAS "$NAME$" ,
((SELECT CASE WHEN FIRST_NAME IS NULL AND LAST_NAME IS NULL THEN
USER_LOGIN ELSE FIRST_NAME||' '||LAST_NAME END FROM FCM_USERS WHERE
USER_ID = (coalesce(AssigneeEO.ACTIVE_USER_ID, AssigneeEO.USER_ID))))AS
"$ASSIGNEE$" ,
DeploymentEO.DEPLOYMENT_NAMEAS "$SCHEDULE$"
FROM FCC_TASKS TaskEO
LEFT OUTER JOIN FCC_ACCESS AssigneeEO ON (TaskEO.TASK_ID =
AssigneeEO.SOURCE_ID AND AssigneeEO.ACCESS_TYPE = "AS")
LEFT OUTER JOIN FCC_DEPLOYMENTS DeploymentEO ON (TaskEO.SOURCE_ID =
DeploymentEO.DEPLOYMENT_ID)
WHERE (TaskEO.SOURCE_TYPE = "DEPLOYMENT")
AND (((TaskEO.PRIORITY=3 )
AND (TaskEO.SOURCE_ID=~SCHEDULE~ ))))
```

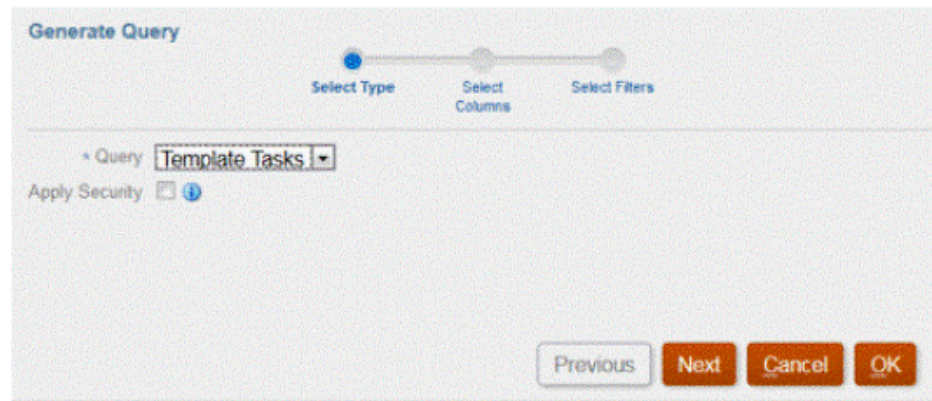
5. 「問合せの生成」をクリックして、「新規問合せ」ダイアログから問合せを作成します。このダイアログは、問合せまたはフィルタ処理(あるいはその両方)の対象となる既存の製品内の属性を選択可能にすることで、データベースに対する問合せの作成を支援します。システムでは指定された属性およびフィルタと一致するように SQL が生成されます。この時点で変更および改善が可能です。

- a. 「タイプの選択」画面で、オプションを選択します。

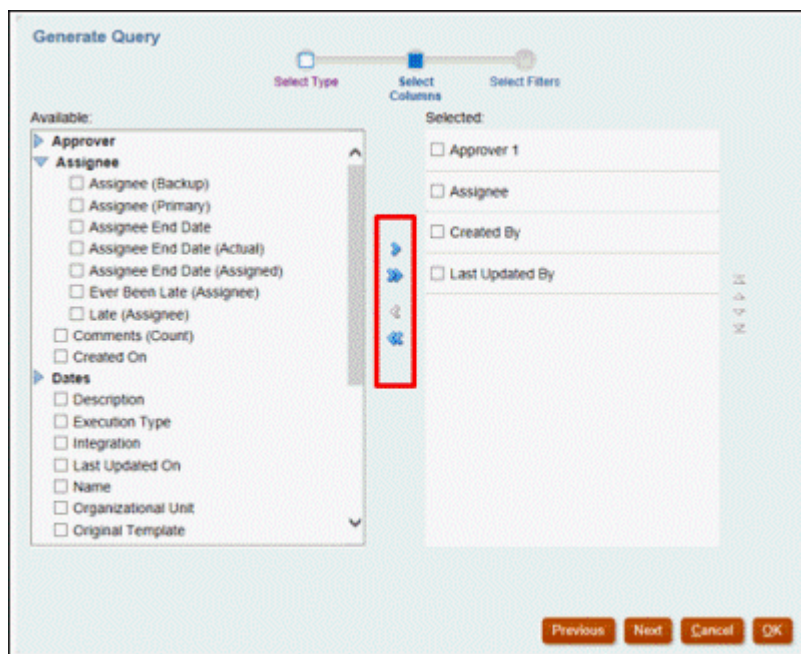
- 「問合せ」から、「テンプレート・タスク」または「スケジュール・タスク」を選択します。
- オプション: 「セキュリティの適用」チェック・ボックスを選択すると、ユーザーのセキュリティ・フィルタが、生成された問合せに自動的に適用されます。これにより、レポートが生成されるときに正しい SQL で入力されるように、セキュリティ・トークンが問合せに適用されます。

- b. 「次」をクリックします。

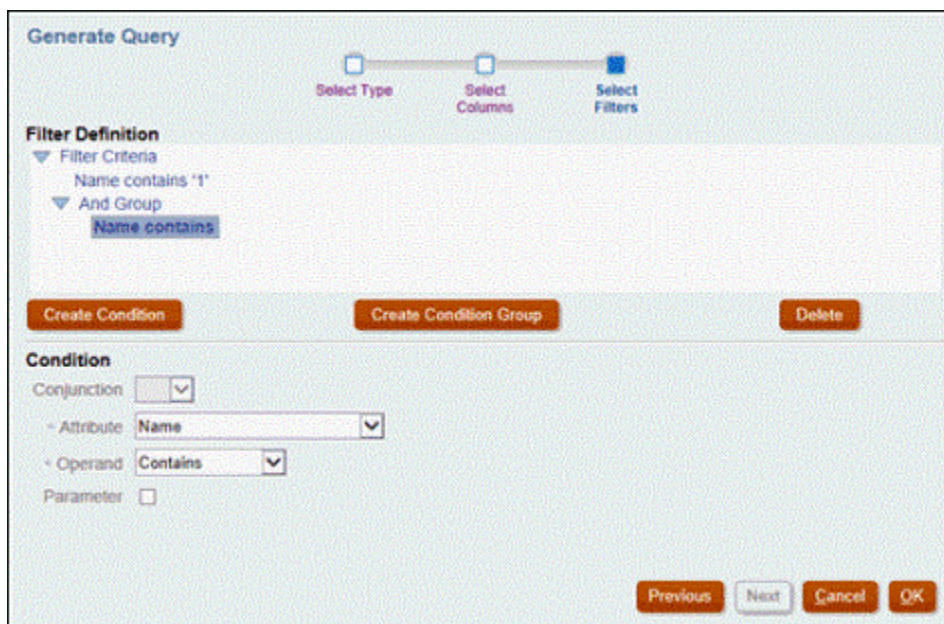




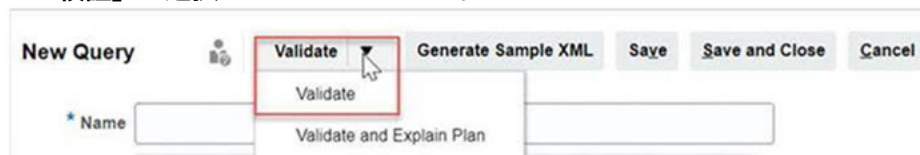
6. 「列の選択」から、問合せで表示する列を選択し、「次」をクリックします。



7. 「フィルタの選択」で、「条件の作成」または「条件グループの作成」をクリックし、問合せの作成へのフィルタを作成する条件を選択します。



8. 「OK」をクリックします。
9. オプション: レポートを今後使用する場合は、「サンプル XML の生成」をクリックします。
10. 「保存」をクリックします。
11. 問合せにエラーがあるかどうかをテストするには:
  - 「新規問合せ」ダイアログで「検証」をクリックします。ドロップダウン・リストから「検証」を選択することもできます。



「問合せ」タブに問合せが表示されます。

#### ノート:

「アクション」メニューを使用すると、簡単に問合せを削除したり、複製できます。


- ドロップダウンから「プランの検証と説明」をクリックして問合せを検証し、この問合せの実行プランも生成します。問合せと同じ名前を使用する.txt ファイルが生成されます。生成されたプランを表示またはダウンロードできます。このファイルを開き、生成されたプラン(この問合せ実行のために実行される一連のステップが含まれる)を表示します。問合せのパフォーマンスが最適でない場合は、このプランを使用して、問題の原因を把握し、問合せのパフォーマンスを向上させる最善の方法を判断できます。

 ノート:

デフォルトでは、実行プランの生成は OCI (Gen 2)環境でのみ使用できます。クラシック環境で使用可能にするには、サービス・リクエストを使用してオラクル社にお問い合わせください。

**問合せの変更**

システム管理者は、タスク・マネージャ問合せまたは補足データ問合せを編集できます。

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「レポート」の順に選択します。
2. 「問合せ」タブを選択し(選択されていない場合)、編集する問合せの横にある  から「編集」を選択します。

 ノート:

ロックされている場合は、システム管理者にロックを解除するように依頼してください。

3. タスク・マネージャまたは補足データ問合せを選択します。
4. 「問合せの編集」で、必要に応じて情報を編集します。
5. 変更が完了したら、「保存して閉じる」をクリックします。

## 補足データ問合せの作成

問合せの作成が、カスタム・レポートの作成の最初のステップです。

問合せを作成するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」を選択し、レポート(たとえば、「連結以外のレポート」)を選択します。
2. 「問合せ」タブで、「新規」を選択します。
3. 「補足データ問合せ」を選択します。
4. 「新規問合せ」画面で、「名前」およびオプションの「説明」を入力します。
5. 「タイプ」から、次のいずれかのオプションを選択します:

- **パラメータ問合せ**

「パラメータ問合せ」タイプは、このパラメータの値に指定できるオプションのリストを表示するために使用されます。「パラメータ問合せ」では、レポート問合せに対するパラメータの値の入力時に使用されるオプションのリストを表示できます。このオプションのリストはすでに定義済みの単純な属性ではなく、定義が必要とされる複雑な問合せです。

このパラメータ問合せの例では、すべての補足データ・マネージャ問合せ期間のリストが表示されます。

```
SELECT PERIOD_ID, PERIOD_NAME FROM FCC_PERIODSWHERE APP_ID=1
```

- タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのレポートの「**レポート問合せ**」レポートに含めるレコードを選択します。セキュリティ・フィルタを適用できます。これによって、ユーザーには各自の役割に基づいて参照を許可されているデータと、割り当てられているレポートのみが表示されます。レポート問合せにセキュリティ・フィルタを適用するには、問合せの **WHERE CLAUSE** 文の最後に次の構文を追加します

```
$FCC_SECURITY_CLAUSE$
```

### ノート:

タスク・マネージャに付属している事前定義の問合せの多くはセキュリティ・フィルタが適用されているため、独自の問合せを作成する際にこれらを例として使用することができます。

たとえば、次のレポート問合せでは、選択したスケジュールのすべての高優先度タスクのタスク・コード、名前、担当者およびスケジュールを表示するスケジュール済タスクを指定します。

```
SELECT TaskEO.TASK_CODEAS "$TASK_CODE$" ,
TaskEO.TASK_NAMEAS "$NAME$" ,
((SELECT CASE WHEN FIRST_NAME IS NULL AND LAST_NAME IS NULL THEN
USER_LOGIN ELSE FIRST_NAME||' '||LAST_NAME END FROM FCM_USERS WHERE
USER_ID = (coalesce(AssigneeEO.ACTIVE_USER_ID, AssigneeEO.USER_ID))))AS
"$ASSIGNEE$" ,
DeploymentEO.DEPLOYMENT_NAMEAS "$SCHEDULE$"
FROM FCC_TASKS TaskEO
LEFT OUTER JOIN FCC_ACCESS AssigneeEO ON (TaskEO.TASK_ID =
AssigneeEO.SOURCE_ID AND AssigneeEO.ACCESS_TYPE = 'AS')
LEFT OUTER JOIN FCC_DEPLOYMENTS DeploymentEO ON (TaskEO.SOURCE_ID =
DeploymentEO.DEPLOYMENT_ID)
WHERE (TaskEO.SOURCE_TYPE = 'DEPLOYMENT')
AND (((TaskEO.PRIORITY=3 )
AND (TaskEO.SOURCE_ID=~SCHEDULE~ ))))
```

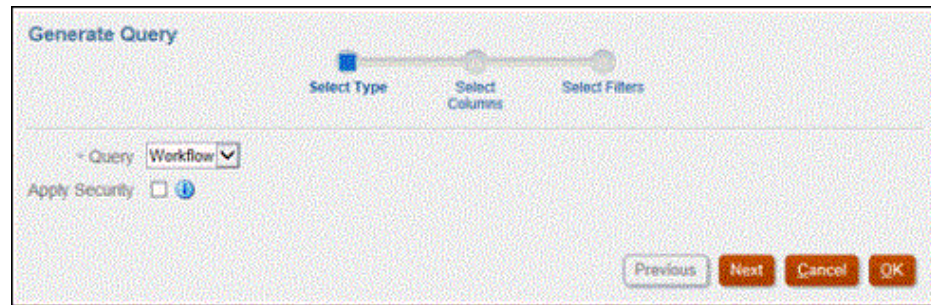
- 「**問合せの生成**」をクリックして、「新規問合せ」ダイアログから問合せを作成します。このダイアログは、問合せまたはフィルタ処理(あるいはその両方)の対象となる既存の製品内の属性を選択可能にすることで、データベースに対する問合せの作成を支援します。システムでは指定された属性およびフィルタと一致するように **SQL** が生成されます。この時点で変更および改善が可能です。

- 「**タイプの選択**」画面で、次のように選択します。

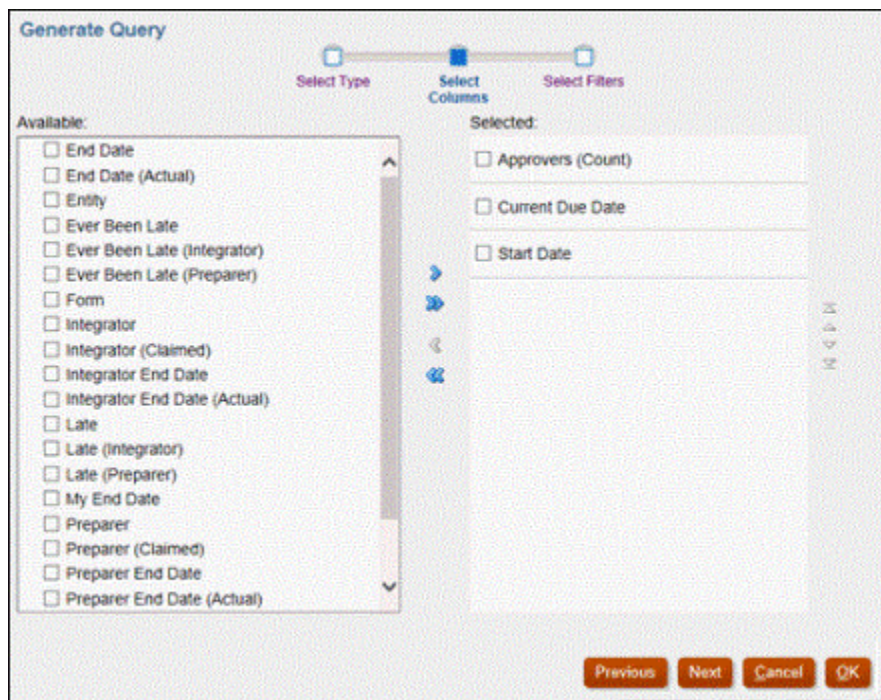
- 「**問合せ**」から、「**ワークフロー**」を選択します。
- オプション:** 「**セキュリティの適用**」チェック・ボックスを選択すると、ユーザーのセキュリティ・フィルタが、生成された問合せに自動的に適用されます。これにより、レポートが生成されるときに正しい **SQL** で入力されるように、セキュリティ・トークンが問合せに適用されます。



- b. 「次」をクリックします。

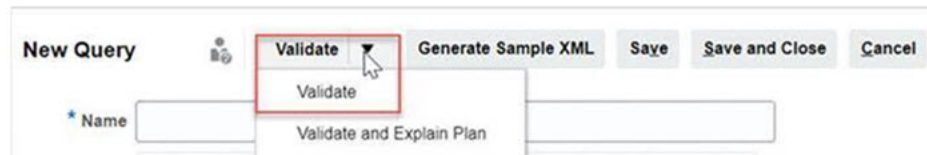


7. 「列の選択」から、問合せで表示する列を選択し、「次」をクリックします。



8. 「フィルタの選択」で、「条件の作成」または「条件グループの作成」をクリックし、問合せの作成へのフィルタを作成する条件を選択します。

9. 「OK」を選択します。
10. オプション: レポートを今後使用する場合は、「サンプル XML の生成」をクリックします。
11. 「保存」をクリックします。
12. 問合せにエラーがあるかどうかをテストするには:
  - 「新規問合せ」ダイアログで「検証」をクリックします。ドロップダウン・リストから「検証」を選択することもできます。



「問合せ」タブに問合せが表示されます。

#### ノート:

「アクション」メニューを使用すると、簡単に問合せを削除したり、複製できます。


- ドロップダウンから「プランの検証と説明」をクリックして問合せを検証し、この問合せの実行プランも生成します。問合せと同じ名前を使用する.txt ファイルが生成されます。生成されたプランを表示またはダウンロードできます。このファイルを開き、生成されたプラン(この問合せ実行のために実行される一連のステップが含まれる)を表示します。問合せのパフォーマンスが最適でない場合は、このプランを使用して、問題の原因を把握し、問合せのパフォーマンスを向上させる最善の方法を判断できます。

 ノート:

デフォルトでは、実行プランの生成は OCI (Gen 2) 環境でのみ使用できます。クラシック環境で使用可能にするには、サービス・リクエストを使用してオラクル社にお問い合わせください。

**問合せの変更**

システム管理者は、補足データ問合せを編集できます。

1. ホーム・ページから、「アプリケーション」、「連結以外のレポート」の順に選択します。
2. 「問合せ」タブで、編集する問合せの横にある  から「編集」を選択します。

 ノート:

ロックされている場合は、システム管理者にロックを解除するように依頼してください。

3. オプションを選択します。
  - タスク・マネージャ問合せ
  - 補足データ問合せ
4. 「問合せの編集」で、必要に応じて情報を編集します。
5. 変更が完了したら、「保存して閉じる」をクリックします。

また、補足データ・マネージャの表とその列、主キー、索引および外部キー(該当する場合)の詳細は、[補足データ・マネージャの表ガイド](#)を参照してください。

## テンプレートの作成

レポート・テンプレートの作成は、カスタム・レポート生成の 2 番目のステップです。レポート・テンプレートは、Oracle BI Publisher デスクトップがインストールされた Microsoft Word で作成します。テンプレートを作成するには、問合せの作成時にサンプル XML も生成しておく必要があります。

レポート・テンプレートを作成するには:

1. Microsoft Word で新しいドキュメントを開きます。
2. 「BI Publisher」タブを選択し、「データのロード」の上の「サンプル XML」フォルダを選択します。
3. 問合せを作成したときに生成された SampleQuery.xml を特定し、「開く」をクリックします。  
「データが正常にロードされました」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
4. 「挿入」、「表ウィザード」の順に選択します。
5. 「表」を選択し、「次」をクリックします。

6. デフォルトのデータセットを選択し、「次」をクリックします。
7. レポートに表示するフィールドを選択し、「次」をクリックします。
8. 「**グループ基準**」を選択し、グループ化の基準のフィールドを選択して「次」をクリックします。
9. 「**ソート基準**」を選択してから、ソート基準のフィールドを選択し、「**終了**」をクリックします。
10. テンプレートを.rft ファイルとして保存します。例: SampleQuery.rtf。

## レポート・グループの設定


レポート・グループの作成が、カスタム・レポート生成の 3 番目のステップです。レポート・グループにより、タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャの個々のレポートをグループにまとめ、レポートをフォルダ構造に編成できます。

### ノート:

ネストされたレポート・グループはサポートされていません。

レポート・グループの作成後、必要に応じて変更できます。レポート・グループを複製できますが、その名前は一意である必要があります。レポート・グループを削除することもできます。ただし、レポート・グループを削除すると、そのグループに関連付けられたすべてのレポートが削除されます。

レポート・グループを作成するには:

1. ホーム・ページから、「**アプリケーション**」をクリックし、「**連結以外のレポート**」を選択します。
2. 「**レポート・グループ**」タブで、「**新規**」をクリックします。
3. 「**新規レポート・グループ**」ウィンドウで、次の内容を入力します:
  - **名前:** レポート・グループのグループ名を入力します。
  - **説明**
  - **ユーザーへの表示:** このレポート・グループをユーザーに表示する場合に選択します。  
「**ユーザーへの表示**」オプションを使用すると、レポート作成者はレポートのグループに対する作業を行う間、対象となるレポートを非表示にすることができます。
4. 「**レポート**」タブで、「**移動**」アイコン  
 を使用して、レポート・グループに追加されたレポートを並べ替えたり編集します。
5. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

## レポートの作成

レポート定義の作成は、レポート生成の 4 番目のステップです。ユーザーは問合せからレポートを作成し、グループに割り当てることができます。

レポート定義を作成するには:



1. ホーム・ページから、「アプリケーション」をクリックし、「連結以外のレポート」を選択します。
2. 「レポート」を選択し、「新規」をクリックします。
3. 「新規レポート」で、次の内容を入力します:
  - **名前**
  - **説明**
  - **問合せ**: 問合せを選択します。
  - **テンプレート**: 「参照」をクリックして、レポート・テンプレートを参照します。サポートされている任意の Oracle Business Intelligence Publisher テンプレート・フォーマットをアップロードできます。テンプレートの作成を参照してください。
  - **レポート・グループ**: ドロップダウン・メニューからレポートのグループ名を選択します。
  - **ユーザーへの表示**: レポートをユーザーに表示する場合に選択します。
  - **出力フォーマット**: 次のオプションから、BI Publisher でサポートされているレポート出力フォーマットを選択します:
    - **xlsx**: グラフに対してはサポートされていません。
    - **html**: グラフおよびチャートに対してはサポートされていません。
    - **pdf**
    - **csv**: テンプレートを使用せず、より高速にデータを取得できます。
    - **csv (フォーマット済)**: データがフォーマットされている単純なデータ表に最適で、テンプレートでのイメージ、グラフィックまたはスタイル設定はサポートされません。

#### ノート:

「csv (フォーマット済)」出力フォーマットは、「csv」フォーマットと比較すると、テンプレートのフォーマットを尊重するためにレポートの生成に追加の時間がかかります。したがって、「csv」を選択してデータをすばやく生成するか、「csv (フォーマット済)」を選択してフォーマットされたテンプレート・ベースのデータを生成できます。

4. レポート定義を完成するには、パラメータとアクセス権を設定する必要があります。
  - a. パラメータについては、「パラメータ」タブを選択します。  
問合せからのパラメータが識別され、リストに追加されます。次を更新します:
    - **表示名**
    - **パラメータ・タイプ**: 使用可能なオプションは次のとおりです:
      - 「タスク・マネージャ」 / 「補足データ」 / 「エンタープライズ仕訳」属性

- テキスト
  - 日付
  - 日付/時間
  - 数値
  - 問合せ
  - 整数
  - True/False
  - はい/いいえ
  - ユーザー
- **ユーザーへの表示:** パラメータを表示せずに値を使用する場合は、チェック・ボックスをクリアします。1つの問合せを使用して複数のレポートを作成できます。その場合、いくつかのパラメータが非表示になり、「パラメータ」タブで定義した値が使用されます。
  - **属性/問合せ:** 属性の場合は、ドロップダウンにタスク・マネージャの属性がリストされます。問合せの場合は、ドロップダウンに「パラメータ・タイプ」のすべての問合せがリストされます。これを使用して、動的 LOV などのパラメータを作成できます。[タスク・マネージャ問合せの作成](#)を参照してください
  - **パラメータ値:** デフォルト値が表示されます。
- b. アクセス権については、「アクセス」タブを選択します。
- c. ドロップダウン・リストから、「アプリケーション・モジュール」を選択し、アプリケーション・モジュールの「役割」を選択します。  
たとえば、「アプリケーション・モジュール」に「タスク・マネージャ」を選択してから、「パワー・ユーザー」役割にアクセス権を割り当てることを選択できます。
- 「追加」(+ )または「削除」(X)を使用して、レポートにアクセスできるユーザーのリストを変更できます。

#### ノート:

対応する「レポート」タブにレポートが表示されるためには、レポートに少なくとも1つのアプリケーション・モジュールへのアクセス権が付与されている必要があります。

5. 「保存して閉じる」をクリックします。

## 問合せ、レポート・グループまたはレポートの検索とフィルタ


検索フィールドおよびフィルタ・オプションを使用して、問合せ、レポート・グループまたはレポートのリストに表示するレコードを制御できます。

問合せ、レポート・グループまたはレポートをフィルタするには:

1. ホーム・ページから、「アプリケーション」をクリックし、「連結以外のレポート」を選択します。

2. 「問合せ」、「レポート・グループ」または「レポート」タブを選択します。
3. 「検索」テキスト・ボックスに検索条件を入力します。
4. **オプション:** フィルタ・バーでカテゴリをクリックすると、追加の検索演算子(「次と等しい」、「次と等しくない」、「次を含む」、「次を含まない」、「次で始まる」、「次で終わる」)が表示されます。

#### ノート:

- 「**フィルタの追加**」をクリックして、すべてのカテゴリを表示します。
- フィルタ・バーを非表示にするには、「**フィルタ**」アイコンをクリックします。
- すべてのフィルタをクリアするには、  
 アイコンで「**すべてのフィルタのクリア**」をクリックします。

## レポートの生成

レポートの作成が、プロセスの最後のステップです。サービス管理者がカスタム・レポートを作成後、アクセス権が付与されたユーザーまたはグループまたはチームはレポートを生成できます。

サービス管理者が REST API コマンドを使用してレポートを生成することもできます。詳細は、[Oracle Enterprise Performance Management Cloud REST API の Financial Consolidation and Close および Tax Reporting のレポートの生成](#)を参照してください。大規模レポートの場合は、REST API のレポート生成の `runAsync` パラメータを使用すると、レポートを非同期で実行できます(値は `true`)。

レポートを生成するには:

1. ホーム・ページで「**レポート**」をクリックします。
2. 次のタブを選択します。
  - **タスク・マネージャ・レポート**
  - **補足データ・レポート**
3. 生成するレポートを選択します。クイック「**検索**」オプションを使用して、選択したグループでレポートを検索できます。
4. 「**出力フォーマット**」について、次の中から選択します:
  - **xlsx:** グラフに対してはサポートされていません。
  - **html:** グラフおよびチャートに対してはサポートされていません。
  - **pdf**
  - **csv:** テンプレートを使用せず、より高速にデータを取得できます。

 ノート:

10,000 を超えるレコードが含まれるレポートの場合、「**csv**」フォーマットを使用することをお勧めします。

- **csv (フォーマット済)**: データがフォーマットされている単純なデータ表に最適で、テンプレートでのイメージ、グラフィックまたはスタイル設定はサポートされません。

 ノート:

「**csv (フォーマット済)**」出力オプションは、「**csv**」フォーマットと比較すると、テンプレートのフォーマットを尊重するためにレポートの生成に追加の時間がかかります。したがって、「**csv**」を選択してデータをすばやく生成するか、「**csv (フォーマット済)**」を選択してフォーマットされたテンプレートベースのデータを生成できます。

5. 「**生成**」をクリックします。
6. 「**名前**」を入力し、「**スケジュール**」および「**期間**」をドロップダウン・メニューから選択します。
7. 「**生成**」をクリックします。  
終了すると、「正常に完了」というステータス・メッセージが表示されます。

 ノート:

- 選択したパラメータ値を保持して、レポートを再生成するには、「**戻る**」をクリックします。
- 選択したパラメータ値をクリアして、レポートを再生成するには、「**リセット**」をクリックします。

8. 「**オープン**」または「**ファイルの保存**」を選択して ZIP ファイルを保存します。

レポート生成プロセスでは、レポート・ジョブをバックグラウンドで実行するバックエンド・ジョブ・フレームワークが使用されます。レポートでエラーが発生した場合は(サイズが推奨サイズを超えている場合など)、レポートが生成される前に、「レポートの生成」ダイアログにエラーを示すメッセージが表示されます。多数のレコードを含むレポートの場合は、フィルタを使用して、少ない数のレコードにレポートを分割することをお勧めします。

## レポート・セキュリティの理解

このトピックでは、「**タスク・マネージャ**」および「**エンタープライズ仕訳**」および「**補足データ・マネージャ**」における標準レポートおよびカスタム・レポートのセキュリティについて説明します。

 **Note:**

サービス管理者が REST API コマンドを使用してユーザー詳細レポートを生成することもできます。詳細は、[Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API の Account Reconciliation、Financial Consolidation and Close および Tax Reporting のユーザー詳細レポートの生成](#) を参照してください。

### 標準(事前定義済)レポートのセキュリティ

セキュリティ句はすべての標準レポートの問合せに含まれています。これは、これらのレポートに対し、セキュリティ・フィルタがデフォルトで適用されていることを意味します。たとえば、パワー・ユーザーのセキュリティ(「**アクセス制御**」で設定)では、特定のタスクへのアクセス許可がレポートに適用されています。特定のタスクのみへのアクセス権を持つパワー・ユーザーは、それらのタスクのレポートのみを表示できます。

管理者は、「**レポートの編集**」ダイアログの「**アクセス**」タブを使用してレポートを編集し、レポートへのアクセス権をユーザーに付与できます。これにより、ユーザーにレポートの表示を許可した場合、そのユーザーには管理者がそのユーザーに適切であると決定したデータのみが表示されるようになります。

このセキュリティ句は、次の事前定義済の「**タスク・マネージャ**」レポートにも含まれています:

- リスクありタスク
- タスク・コンプライアンス分析
- 先行タスク
- 遅延タスク
- 組織単位別タスク・パフォーマンス分析
- 却下されたタスク
- タスク監査証跡
- 遅延タスクがあるユーザー

### ユーザーへの標準レポートへのアクセス権の割当て

管理者は、様々なユーザーに対して標準レポートへのアクセス権を付与することを決定できます。これは、「**レポートの編集**」ダイアログの「**アクセス**」タブを使用しています。

ユーザーにレポートへのアクセス権を付与するには:

1. ホーム・ページから、「**アプリケーション**」をクリックし、「**連結以外のレポート**」を選択します。
2. 「**レポート**」から目的のレポートを選択し、「**アクション**」で「**編集**」を選択します。
3. 「**レポートの編集**」ダイアログの「**アクセス**」で、「**追加**」(+)または「**削除**」(X)を使用して、レポートにアクセスできるユーザーのリストを変更できます。

4. 「保存」または「保存して閉じる」をクリックします

#### カスタム・レポートのセキュリティ

カスタム・レポートでは、問合せを作成するときに、問合せにセキュリティ句を挿入し、その後、ユーザーにレポートへのアクセス権を割り当てるようにするかどうかを決定できます。つまり、レポートの作成者がアクセス権を付与するユーザーを決定できるということです。

## タスク・マネージャ・レポート・バインダの使用

タスク・マネージャ・レポート・バインダにより、スケジュールの一部として発生したすべてのアクティビティの履歴(たとえば、Corporate Q1 Close)を作成できます。フィルタを使用して、スケジュール、組み込むタスク、および組み込むタスク情報を指定します。

バインダ・フィルタ条件を満たすすべてのタスクの情報が、HTML 形式で ZIP ファイルに出力されます。これには HTML ファイルやその他のファイルが含まれます。ZIP ファイルを解凍すると、ディレクトリ構造が形成され、そこで HTML ファイルにアクセスすれば、そのレポート・バインダを表示できます。レポートは 1 つのファイルに内蔵されているため、コピー、印刷、あるいは内部レビューや外部レビュー用の電子メール送信が簡単にできます。

## レポート・バインダの生成

「レポート・バインダの生成」ダイアログでは、レポートの作成に必要なパラメータを指定できます。ビューでスケジュールを開き、「レポート・バインダの生成」を実行すると、レポート・バインダが現在のビューに適用され、現在のフィルタ処理されたビュー内のタスクのみが組み込まれます。

レポート・バインダは、ブラウザを通じてドキュメントとして生成され、戻されます。「レポート・バインダの生成」を実行するとき、レポート・バインダをすぐに開くか、または ZIP ファイルとしてディスクに保存するかを選択できます。

一度に複数のスケジュールに対してレポート・バインダを生成できます。これは、アプリケーションに多数のスケジュールがある場合に役立ちます。

レポート・バインダを生成するには:

1. スケジュールのリストで、レポート・バインダを生成するスケジュールを 1 つ以上選択します。
2. 「アクション」ドロップダウンで、「レポート・バインダの生成」を選択します。
3. 「レポート・バインダ名」で、名前を入力します。
4. 「説明」で、バインダの説明を入力します。
5. 「オプション・コンポーネント」から、レポートに表示するタスク・コンポーネントを選択します:
  - アラート
  - コメント
  - 添付

 ノート:

レポートに添付を含めると、レポートのサイズが大幅に増加し、パフォーマンスに影響することがあります。

6. 「生成」をクリックします。
7. 「ファイルのダウンロード」から、「保存」を選択します  
「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスが表示され、ZIP ファイル名が下部に表示されます。
8. ZIP ファイルの保存先ディレクトリを選択し、「保存」、「閉じる」の順にクリックします

## レポート・バインダの表示

レポート・バインダを生成すると、1つの ZIP ファイルに出力されます。ZIP ファイル名は、レポート・バインダに指定した名前です。レポートのページは、必要に応じてセクションごとに改ページを入れて、1つの HTML レポートにまとめられるので、印刷コマンドによりレポートを印刷できます。添付を含める選択をすると、添付へのリンクが対応するタスクおよびアラートとともに含まれる別の添付付録が作成され、別に印刷できます。すべての添付は、別々のフォルダにダウンロードされます。

レポート・バインダを ZIP ファイルとして保存した場合、ZIP ファイルからすべてを抽出すると、レポート・バインダと同じ名前のディレクトリ構造が作成されます。このディレクトリで HTML ページを開くことで、レポート・バインダを表示できます。最初のレポート・ページには、レポート・バインダ、スケジュールに関する情報が含まれ、レポート・バインダで使用可能なタスクおよびアラートのリストが表示されます。「タスク」セクションに移動すると、ステータス、担当者、開始日および終了日、期間などのタスクの詳細を参照できます。タスクが開始していない場合は、予定(スケジュール)日が表示されます。各タスクは、「タスクの詳細」ページへのリンクです。デフォルトでは、「属性」、「指示」、「質問」、「ワークフロー」、「先行」および「履歴」のセクションが含まれます。レポート・バインダの生成時に「アラート」および「コメント」を含めるオプションを選択した場合、それらのセクションも表示されます。

最初のページには、さらにドリル可能なアラートのリストも含まれます。「アラートの詳細」ページから、関連付けられたタスクに移動できます。

レポート・バインダを表示するには:

1. ZIP ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動し、ファイルをダブルクリックします。
2. 希望するディレクトリに ZIP ファイルを抽出します。
3. そのディレクトリに移動し、ZIP ファイル名と一致するサブディレクトリを探します。
4. サブディレクトリから、`report_binder_name.html` をダブルクリックして、レポート・バインダを表示します。

# 補足データの管理

## 次も参照:

- [補足データ・プロセスの概要](#)
- [補足データ・マネージャのビュー、リストおよびフィルタの管理](#)
- [補足データ・システム設定の管理](#)
- [補足データ分析ダッシュボードの操作](#)
- [補足データ・マネージャでのディメンション属性の管理](#)
- [収集間隔の操作](#)
- [補足データ収集の操作](#)
- [補足データ・マネージャ・フォーム・テンプレートの作成](#)
- [フォーム・テンプレートの編集](#)
- [フォーム・テンプレートの複製](#)
- [フォーム・テンプレートの削除](#)
- [データ収集期間へのフォーム・テンプレートのデプロイ](#)
- [フォーム・テンプレートのデプロイ解除](#)
- [補足データ・フォームの再オープン](#)
- [収集へのデータのバルク・ロード](#)
- [補足データ・マネージャでのユーザーの再割当て](#)
- [勘定科目残高に対する補足データ合計の検証](#)
- [「補足データ分析」ダッシュボードでのデータの表示](#)
- [Smart View での補足データの使用](#)
- [通貨換算の使用](#)

## 補足データ・プロセスの概要

補足データ・マネージャを使用することで、補足データ(通常は財務トランザクション)の編成、更新、編集および管理を行うことができます。これは、脚注、開示、サポート詳細に役立つ堅牢でアド・ホックなデータ収集プロセスです。

1. 管理者は、補足データ機能を有効化してアプリケーションを作成し、データベースをリフレッシュしてシステム設定情報を設定します。
2. パワー・ユーザーは、次の手順を実行します:
  - データ収集に必要な可能性がある追加のディメンションを作成します。
  - データ収集プロセスの頻度、およびフォームの基になるワークフロー・ディメンションを定義するための収集間隔を作成します。



- データ収集プロセスの一環としてデータを保管するための収集およびサブ収集を作成します。
  - 属性、および属性の計算ルールと検証ルールを作成します。
  - 一貫性のある反復可能なデータ収集プロセスが確保されるように、データ・フォーム・テンプレートを作成します。
  - 各データ・フォーム・テンプレートにワークフローとアクセス権を割り当てます。
  - 収集プロセスに備える特定のデータ収集期間に、フォーム・テンプレートをデプロイします。
    - 期間がオープンしていない場合は、フォーム・インスタンスが保留ステータスになります。
    - 期間がオープンしている場合は、フォーム・インスタンスはアクティブになりデータ入力に使用できます。
3. システムにディメンション、収集およびフォームが作成された後、管理者が期間をオープンして、データ収集プロセスを開始する期間をオープンします。
  4. 次に、ユーザーは次のタスクを実行します：
    - 期間がオープンしたときにデータを手動でロードするか、**CSV** ファイルを使用してフォーム・データをインポートします。また、コメントの入力や質問への回答など、ユーザーは実行するすべてのアクションに対応できます。
    - 検証を実行し、データが正しいことを確認します。
    - 承認のためにデータを送信します。
  5. 承認者を割り当てられたユーザーはデータを確認して承認するか、却下します(承認に複数のレベルが存在する場合があります)。
  6. ユーザーは、データが承認されたら(ワークフロー・オプションにより異なります)、要約されたデータを表示してデータを転記します。
  7. 管理者またはパワー・ユーザーは、割り当てられているユーザーに、関連するデータ・フォームについての電子メール・アラートを送信します。
  8. 管理者が、データ収集の期間をクローズしてロックします：
    - データ収集の期間をクローズします(別のフォーム・インスタンスが起動されないようにします)
    - データ収集の期間をロックします(変更できなくなります)

また、**Oracle Smart View for Office** の「補足データ」オプションを使用して、データ収集プロセスを管理したり、補足データ・フォームを操作できます。最初に、補足データ管理のための **Smart View 拡張機能** をインストールする必要があります。拡張機能をインストールするには、**Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド** のクライアントのダウンロードおよびインストールに関する項を参照してください。

補足データに関する詳細は、次のビデオを参照してください：



補足データ.

次のチュートリアルでは、補足データの使用に関する追加情報を説明します：



Financial Consolidation and Close での補足データの確認、更新および分析.

## 補足データ・マネージャのビュー、リストおよびフィルタの管理

### 関連トピック:

- 補足データ・マネージャのリストの表示
- ビューでの作業
- フィルタでの作業
- 補足データ分析ダッシュボードの操作

## 補足データ・マネージャのリストの表示

保存済リストは、補足データ・タスク画面の一貫したレイアウトを提供します。これにはフィルタ条件および列の表示が保存されます。

管理者の場合は、システム内の使用可能なすべてのフォームと、それらで作業しているユーザーを表示できます。

管理者以外のユーザーの場合は、自分の役割における注意を要するすべてのアクティブなフォームを表示できます。

フォームを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックします。
2. 左側のナビゲーションで「**補足データ・タスク**」をクリックします。
3. 「**年**」、「**期間**」および「**テンプレート**」を選択します。
4. **オプション:** フォームを検索するには、「**検索**」フィールドで、フォーム・リストを検索するテキストまたは数値を入力します。
5. **オプション:** フォームのリストをフィルタするには、「**検索**」フィールドの横にある「**フィルタ**」



アイコンをクリックし、フィルタ条件を指定します。

6. **オプション:** フォームをエクスポートするには、「**アクション**」メニューから「**Excel にエクスポート**」をクリックします。

### サンプル補足データ・タスク・リスト

Template	Entity	Status (Detailed)	Start Date	End Date	Ad Hoc	Preparer	Alert	Approver 1	Last Updated By
Debt Form	C_301	Closed	Jun 15, 2021	Jun 23, 2021	No	Frank Taylor		Candy Brown	Administrator
Debt Form	C_131	With Preparer	Jun 10, 2021	Jun 10, 2021	No	Anda Kennedy		Candy Brown	Administrator
Debt Form	C_131	With Preparer	Jun 15, 2021	Jun 23, 2021	No	Anda Kennedy		Candy Brown	Administrator
Debt Form	C_101	With Preparer	Jun 15, 2021	Jun 23, 2021	No	Kerry Lane		Candy Brown	Administrator
Debt Form	C_101	With Preparer	Jun 10, 2021	Jun 10, 2021	No	Kerry Lane		Candy Brown	Administrator
Debt Form	C_301	Closed	Jun 10, 2021	Jun 10, 2021	No	Frank Taylor		Candy Brown	Administrator
Debt Form	C_131	With Preparer	Sep 1, 2021	Sep 9, 2021	No	Anda Kennedy		Candy Brown	Administrator
Debt Form	C_101	Closed	Sep 1, 2021	Sep 9, 2021	No	Kerry Lane		Candy Brown	Administrator
Debt Form	C_301	Closed	Sep 1, 2021	Sep 9, 2021	No	Frank Taylor		Candy Brown	Administrator
Headcount	C_101	Closed	Aug 31, 2021	Sep 2, 2021	No	Kerry Lane		Candy Brown	Administrator
Investment form	C_101	Closed	Aug 31, 2021	Sep 9, 2021	No	Kerry Lane		Candy Brown	Administrator

## 補足データの列の定義

この項では、補足データの列について定義を示します。

表 32-1 列の定義 - 補足データ

列属性	説明
名前	補足データ・レコードの名前
説明	補足データ・レコードの説明
収集間隔	補足データ・フォームに関連付けられている収集間隔の名前
頻度	データ収集プロセスの頻度
最終更新	補足データが最後に更新された日時
最終更新者	補足データを最後に更新したユーザーの名前

## 補足データ・システム設定の管理

次も参照:

- [補足データ・マネージャでの電子メール通知の設定](#)
- [補足データのプリファレンスの設定](#)
- [補足データ・ガバナーの設定](#)

### 補足データ・マネージャでの電子メール通知の設定

サービス管理者は、補足データ・マネージャ・ユーザーのために電子メール通知を設定できます。電子メール通知を有効にすると、バッチ通知が生成されます。通知が不要になった場合は、電子メール通知およびリマインダを非アクティブにできます。

#### ノート:

デフォルトでは、電子メール通知は無効です。

送信元アドレスとして電子メールを追加することもできます。送信元アドレスをカスタマイズするか、製品の頭文字を追加して、通知の送信元をユーザーにアラートできます。

電子メール通知を設定するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**システム設定**」タブをクリックします。
3. 「**電子メール通知**」を選択します。
4. 「**電子メール通知**」に「**オンにする**」を選択して通知を開始するか、「**オフにする**」を選択して通知を非アクティブにします。
5. 電子メールの「**送信元アドレス**」を入力します。電子メール・アドレスを編集して特定のアドレスを指定したり、たとえば、SDM など、製品の頭文字を追加して通知の送信元をユーザーにアラートできます。
6. 「**保存**」をクリックします。

## 補足データのプリファレンスの設定

補足データに表示する数値およびセルのフォーマットのプリファレンスを指定できます。小数点の表示方法、負数の表示方法、セルのスタイル、フォントおよび色を指定できます。

補足データのプリファレンスを設定するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**システム設定**」タブをクリックします。
3. 「**システム設定**」ページで、「**プリファレンス**」リンクをクリックします。
4. 「**数値のフォーマット**」で、次のオプションを選択します。
  - 小数点以下の桁数
  - 負数
5. 「**セルのフォーマット**」で、次のオプションを選択します。
  - セル・スタイル
  - 「**フォント**」、次に「**太字**」、「**斜体**」または「**下線**」を選択
  - **フォント・サイズ**
  - **テキストの色**
  - **背景色**
6. 「**保存**」をクリックします。

## 補足データ・ガバナーの設定

「補足データ」でアプリケーションのパフォーマンスを改善するために収集属性にガバナーを設定できます。デフォルト設定が提供されますが、これは削減するか最大値まで増加できます。オブジェクトが作成されると、最大制限値が適用されます。

たとえば、「収集当たりの計算された属性の最大数」を指定できます。「計算済」属性の作成時に、属性の数が最大値より少なければそれらの属性が作成されます。最大制限値に達して

いる場合は、属性は作成されず、数が範囲外であることを示す検証メッセージが返されます。また、ディメンション属性の最大数、フォーム・テンプレート当たりのセクション数、フォーム・テンプレート・セクション当たりの属性数、データ分析に表示する属性数、およびリストに表示するアイテムの最大数も指定できます。

補足データのリソースを設定するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**システム設定**」タブをクリックします。
3. 「**システム設定**」ページで、「**リソース**」リンクをクリックします。
4. 属性の最大値を指定するか、デフォルト設定のままにします。
  - **計算された属性の最大数**
  - **ディメンション属性の最大数**
  - **フォーム・テンプレート当たりのセクションの最大数**
  - **表形式フォーム・テンプレート・セクション当たりの属性の最大数**
  - **データ分析に表示する属性の最大数**
  - 「**リストに表示するアイテムの最大数**」(デフォルトは 10000)。
5. 「**保存**」をクリックします。

## 補足データ分析ダッシュボードの操作

補足データ分析ダッシュボードには、収集およびサブ収集の詳細が表示され、情報を簡単に表示およびフィルタできます。列を選択してソートしたり、リストを保存することもできます。

データ分析ダッシュボードで収集を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**データ**」をクリックします。
2. 左側から、「**補足データ分析**」をクリックします。
3. 「**収集**」ドロップダウン・リストから、データにアクセスして分析する収集/サブ収集およびデータ収集期間(頻度ディメンション・メンバーの組合せ)を選択します。

例:

収集名: 債務詳細


データ収集期間パラメータ: 年: 2020、期間: 4 月、シナリオ: 実績

4. **オプション:** 「**フィルタの追加**」をクリックし、フィルタ値を入力します。使用可能なフィルタは、選択した収集に基づきます。
5. **オプション:** さらに詳細にフィルタ処理する場合は、「**フィルタの追加**」で「**詳細**」をクリックし、フィルタ条件を定義して条件を作成します。

条件またはグループを定義するには:

- a. 「**条件の作成**」または「**条件グループの作成**」をクリックします。
- b. **組合せ:** 「**および**」または「**または**」を選択します。これらによって、この条件またはグループと、先行する兄弟の条件またはグループとの関係を指定します。

- c. **属性:** 属性は、条件がフィルタの結果セットに含めるための値と比較される、フィールドまたは値です。属性には、ユーザー定義属性のリストという以上の意味があります。
  - d. **オペランド:** 属性に対して実行する評価の種類を示します。
  - e. **値:** 属性を比較する値を指定します。属性のタイプによって、使用可能な入力フィールドが決定されます。
  - f. フィルタを保存、クリアまたは管理するには、ページの右側にある「**フィルタ**」(...) ボタンをクリックします。
6. 「**アクション**」から「**列の選択**」を選択し、表示するデータの列を選択します。

 **ノート:**

特定のエンティティの「**説明**」フィールドには最初の 80 文字が表示され、マウスを置くとテキスト全体が表示されます。

7. **オプション:** 収集からデータをエクスポートするには、「**アクション**」から「**エクスポート**」を選択し、「**Excel にエクスポート**」または「**CSV にエクスポート**」を選択します。
8. **オプション:** 「**アクション**」から「**インポート**」を選択して、データを収集にインポートします。
  - a. ファイルを選択するには、「**参照**」をクリックします。
  - b. 既存のファイルの「**置換**」または「**更新**」を選択します。
  - c. 「**日付フォーマット**」を選択します。
  - d. 「**ファイル区切り文字**」に、「**カンマ**」または「**タブ**」を選択するか、「**その他**」を選択して区切り文字を入力します。
  - e. 「**インポート**」をクリックします。
9. **オプション:** 「**リスト**」から、使用可能な別の保存済リストを選択します。以前保存したフィルタおよび列が表示されます。

## 補足データ・マネージャでのディメンション属性の管理

**次も参照:**

- [補足データのディメンションの追加](#)
- [ディメンション属性の追加](#)
- [ディメンション属性の編集](#)
- [ディメンション属性の削除](#)
- [補足データのディメンション・メンバーのインポート](#)
- [補足データのディメンション・メンバーのエクスポート](#)

## 補足データのディメンションの追加

ディメンションを追加するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
2. 左側の「ディメンション」タブをクリックします。
3. 「アクション」、「追加」の順にクリックします。
4. 「プロパティ」タブで名前と説明を入力します。
5. 「属性」タブでディメンション属性を追加します。

### ノート:

「履歴」タブには、変更タイプ、サポート・オブジェクト、変更者、古い値、新規の値の変更など、ディメンションに対する変更が記録されます。

## ディメンション属性の追加

ディメンション属性を追加するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
2. 左側の「ディメンション」タブをクリックします。
3. ディメンションを選択し、「アクション」、「編集」の順にクリックします。
4. 「属性」タブで、「アクション」、「新規」、「属性の追加」の順にクリックします。

次の値を入力します:

- **名前:** 最大 80 文字まで入力できます。
- **説明:** 最大 255 文字まで入力できます。
- **属性の説明:** 最大 255 文字まで入力できます。
- **属性タイプ:**
  - **テキスト:** 最大 255 文字まで入力できます。
  - **整数:** -2147483648 から 2147483647 の値を入力できます。
  - **リスト:** 最大 255 文字まで入力できます。
  - **数値:** 値 xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx.xxxxxxxxx (17 桁、小数点以下 9 桁)を入力できます
- **キー属性**

この属性がキー属性の場合、「キー属性」チェック・ボックスを選択します。

 **ノート:**

収集間隔にディメンションを使用する場合は、属性がキー属性であり、ディメンションに 1 つのキー属性のみが存在している必要があります。

- **データ型**

次のいずれかを選択します:

- **日付**
- **日時**
- **整数**
- **リスト**

方法を選択します。

- \* 「**追加**」をクリックして、属性の値を入力します。
- \* CSV ファイルからリスト・アイテムをインポートするには、「**インポート**」をクリックし、CSV ファイルを参照します。
- \* CSV ファイルからリスト・アイテムをエクスポートするには、「**エクスポート**」をクリックし、プロンプトに従います。

- **数値**

「数値」を選択した場合は、フォーマット・オプションを選択します(デフォルト値はシステム設定の「プリファレンス」セクションで設定されます)。

- \* 「**小数点以下の桁数**」には、表示される小数点以下の桁数の値を入力します。
- \* 「**パーセンテージとして表示**」を選択して、パーセント記号を表示します。
- \* 3 桁ごとの区切り文字(たとえば、1,000.00)を表示するには、「**3 桁ごとの区切り文字**」を選択します。ユーザーのロケール用の 3 桁ごとの区切り文字が表示されます。
- \* 「**負数**」で、(123)など、負数の表示方法を選択します。

- **テキスト(最大 255 文字)**

- **複数行のテキスト**

「**複数行のテキスト**」を選択した場合は、3 から 50 行の間で**行数**を入力します。デフォルト値は 3 です。「複数行のテキスト」では、「アクション」ダイアログ・ボックスで、スクロールせずにフォームに表示できるテキストの行数を決定します。最大長は 2000 文字です。ただし、テキスト領域の幅は固定されたままです。

「**値を使用**」チェック・ボックスを選択した場合は、「**行数**」に入力した値をデフォルトでここにも適用できます。これを超えると、スクロール付きテキストになります。

データ型の値を保持することが必須の場合は、「**必須**」チェック・ボックスを選択します。

- 「**True**」または「**False**」
- 「**はい**」または「**いいえ**」

- **デフォルト値**



属性にはデフォルトでこの値が移入されます。これは上書きできます。

5. 「OK」をクリックします。
6. 「ディメンションの更新」で、新規属性をディメンションのキー属性として選択するには、「キー属性」を選択します。

#### ノート:

複数の属性をディメンションのキーにすることができます。

## ディメンション属性の編集

「メンバーと属性」セクションに、ディメンション・メンバー、説明、リーフ属性と親ノードを含む属性およびディメンション・メンバーに対応するキューブがリストされます。

ディメンション属性を編集するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
2. 左側の「ディメンション」タブをクリックします。  
「メンバーと属性」セクションに、ディメンション・メンバー、説明、リーフと親ノードの情報を含む属性および対応するディメンション・キューブがリストされます。
3. ローカル・ディメンションを選択し、「アクション」、「編集」の順にクリックします。
4. 「属性」タブで属性を選択し、「編集」をクリックします
5. 必要に応じて属性を編集します。  
ディメンションのメンバーがすでに存在する場合、または属性が収集で参照されている場合には、データ型は変更できません。
6. 「OK」をクリックします。

## ディメンション属性の削除

ディメンション・メンバー属性は物理的にではなく論理的に削除されます。内部的には、メンバー属性は引き続き保持されますが、選択不可になったことを示すマークが付きます。以前に補足データ・フォームで設定されていたメンバー属性情報は引き続き表示されます。ディメンション・メンバー属性を削除すると、新しい補足データ・フォームを作成するときに含まれなくなります。ただし、そのディメンション・メンバー属性は既存のフォーム内には保持されます。

論理的に削除されたメンバーへの参照がない場合は、システム・メンテナンス・ジョブの次回実行時に物理的に削除されます。

ディメンション・メンバー属性を削除するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
2. 左側の「ディメンション」タブをクリックします。

- ローカル・ディメンションを選択し、「アクション」、「編集」の順にクリックします。
- 「属性」タブで属性を選択し、「削除」をクリックします。

 ノート:

属性が収集で参照されている場合、その属性は削除できません。

- 属性を削除する確認プロンプトで、「はい」をクリックします。

## 補足データのディメンション・メンバーのインポート

管理者およびパワー・ユーザーは、標準のカンマ区切り値(CSV)のフラット・ファイルから、ディメンション・メンバーをインポートできます。

ディメンション・メンバーをインポートするには:

- ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
- 左側の「ディメンション」タブをクリックします。
- ディメンションを選択します。
- 「メンバーと属性」で、「アクション」、「インポート」の順にクリックします。
- 「参照」をクリックし、インポートするファイルに移動します。
- 次のいずれかのオプションを選択します:
  - 置換:** フォーム内のすべてのディメンション・メンバーをクリアし、ソース・ファイルのメンバーに置き換えます。インポート・プロセス後、ソース・ファイルに存在しない値は、空白になります。
  - 更新:** ソース・ファイルに含まれるメンバーのみを更新します。他のメンバーは影響を受けません。
- フォーマットのドロップダウン・リストから、「日付フォーマット」を選択します。

日付フォーマットは変換されません。デフォルトで、日付フォーマットはエクスポートされたファイルの場所のロケールの日付フォーマットに設定されます。
- インポート・ファイルの「ファイル区切り文字」として「カンマ」または「タブ」を選択します。
- 「インポート」をクリックします。

「結果」画面に、インポートされたディメンション・メンバーの数が表示されます。
- 「OK」をクリックします。

ダイアログをクリアし、インポートする別のファイルを選択するには、「リセット」をクリックします。

## 補足データのディメンション・メンバーのエクスポート

サービス管理者およびパワー・ユーザーは、標準のカンマ区切り値(CSV)のフラット・ファイルまたは XLS ファイルにディメンション・メンバーをエクスポートできます。

ディメンション・メンバーをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**ディメンション**」タブをクリックします。
3. ディメンションを選択します。
4. 「**メンバーと属性**」で、メンバーを選択します。
5. 「**アクション**」、「**エクスポート**」の順にクリックし、**CSV** または **XLS** ファイル・フォーマットを選択します。
6. ファイルを保存する場所を参照します。
7. 「**OK**」をクリックします。

## 収集間隔の操作

補足データ収集間隔では、特定の収集ニーズにあわせて **POV** を調整することでデータ収集をカスタマイズできます。収集間隔には、次のディメンション・タイプが含まれます:

- **頻度ディメンション** - データ収集プロセスの頻度を定義します。
- **ワークフロー・ディメンション** - フォームに使用されるディメンションを決定します。たとえば、エンティティを選択すると、フォームはエンティティ別になります。

収集間隔を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**収集間隔**」タブをクリックします。

使用可能な収集間隔のリストが表示されます。表示する列を選択し、そのリストを列でソートすることや、アルファベットの昇順または降順でソートすることが可能です。

デフォルトの収集間隔はサービス内に含まれています。デフォルトの収集間隔には、頻度ディメンションとして年、期間およびシナリオが含まれており、ワークフロー・ディメンションとしてエンティティが含まれています。

収集間隔を作成するか、デフォルトの収集間隔を使用できます。収集間隔を作成するには、[収集間隔の作成](#)を参照してください。

## 収集間隔の作成

頻度ディメンションおよびワークフロー・ディメンションを使用して収集間隔を作成します。頻度ディメンションは、データ収集プロセスの頻度を定義します。ワークフロー・ディメンションは、データ収集のワークフロー・インスタンスの数を定義します。

最大 4 つの頻度ディメンション(年および期間を含む)と、5 つのワークフロー・ディメンションを構成できます。

収集間隔を作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。

2. 左側の「**収集間隔**」タブをクリックします。
3. 「追加(+)」をクリックして収集間隔を作成します。
4. 「**収集間隔の作成**」で、情報を入力します:
  - **名前:** 一意の名前を入力します。入力できる最大文字数は 80 文字です。
  - **説明:** 最大 255 文字まで入力できます。
  - **頻度ディメンション - 「使用可能なディメンション」** から 1 つまたは 2 つのディメンションを選択し、シャトル・キーを使用して「**選択したディメンション**」に移動します。  
 「年」および「期間」ディメンションはデフォルトで選択されています。  
 デフォルトの「年」および「期間」ディメンションとともに、最大 2 つの追加の頻度ディメンションを選択できます。  
 選択した頻度ディメンションは、「収集」でのその後のデータ収集および管理には使用できなくなります。
  - **ワークフロー・ディメンション - 「使用可能なディメンション」** からディメンションを選択し、シャトル・キーを使用して「**選択したディメンション**」に移動します。  
 少なくとも 1 つのワークフロー・ディメンションを選択する必要があります。  
 最大 5 つのワークフロー・ディメンションを選択できます。選択したワークフロー・ディメンションは、「収集」でのその後のデータ収集および管理には使用できなくなります。
5. 「**OK**」をクリックします。
6. 収集間隔を編集するには、収集間隔を選択し、「**アクション**」、「**編集**」の順にクリックします。  
 収集で参照されている収集間隔は編集できません。  
 デフォルトの収集間隔は編集できません。
7. 収集間隔を削除するには、収集間隔を選択し、「**アクション**」、「**削除**」の順にクリックします。  
 デフォルトの収集間隔は削除できません。

## データ収集期間の構成

データ収集プロセスの収集間隔を作成した後は、頻度ディメンションのメンバーを選択することでデータ収集期間を構成します。「年」および「期間」の頻度ディメンションはデフォルトで使用可能です。

収集間隔ごとに異なるデータ収集期間を使用できます。

データ収集期間を構成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**データ収集期間**」タブをクリックします。
3. 「**収集間隔**」をクリックし、ドロップダウンから間隔を選択します。
4. これにより、選択した収集間隔で定義した頻度ディメンションが表示されます。「年」および「期間」ディメンションはデフォルトで表示されます。

5. 各頻度ディメンションのメンバーを選択します。対応するデータ収集期間が表示されます。
6. 期間を選択し、**開始日**、**終了日**および**クローズ日**を入力して期間をオープンします。

 **ノート:**


保存する前に入力された日付をクリアするには、「**リセット**」をクリックします。

7. 「**保存**」をクリックします。

 **ノート:**

データ収集期間を定義した後、「収集間隔」タブで選択した収集間隔は変更できません。

期間をオープン、クローズまたはロックするには:

1. 「データ収集期間」リストで、期間を選択します。
2. 「**アクション**」  ドロップダウンまたはメニュー・バーから、次のいずれかのアクションを選択します:
  - **期間のオープン** – 新しいフォーム・テンプレートのデプロイおよび収集期間へのアドホック・フォームの追加を許可します。ユーザーは、スケジュール済の開始日に基づいてフォームを更新できます。
  - **期間のクローズ** – 追加のフォーム・テンプレートをデプロイすることも、追加のアドホック・フォームを収集期間に追加することもできません。ユーザーは、既存のフォームを引き続き更新できます。
  - **期間のロック** – 既存のフォームでの追加の更新は許可されません。

## 収集間隔履歴の表示

システムには、ユーザー、日付、アクション、古い値、新しい値など、収集間隔アクティビティの履歴が保持されます。

収集間隔履歴を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**収集間隔**」タブをクリックします。
3. 収集間隔を選択し、「**編集**」をクリックします。
4. 次のフィールドを表示します:
  - フィールド
  - 変更タイプ
  - サポート・オブジェクト

- 変更者
- 変更日
- 古い値
- 新規の値

## 補足データ収集の操作

補足データ収集には、データ表の定義が含まれています。収集は、任意のデータ・レコードの情報の属性で構成されます。収集にはディメンションからの属性が含まれ、属性を入力することも可能です。より詳細なデータ収集を可能にするサブ収集を作成することもできます。収集定義を作成および更新できるのは、管理者またはパワー・ユーザーのみです。

収集を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**収集**」タブをクリックします。

使用可能な収集のリストが、名前、説明、タイプ、収集間隔、属性、関連するフォーム・テンプレート、および最終更新日などのその他の情報とともに表示されます。表示する列を選択し、そのリストを列でソートすることや、アルファベットの昇順または降順でソートすることが可能です。

収集を作成するには、[収集の作成](#)を参照してください。

## 収集の作成

補足データを使用する場合は、収集を作成して収集プロセスのデータを定義します。より詳細なデータ収集を可能にするサブ収集を作成することもできます。データ・フォーム間でのデータの共有を防止するかどうかを指定することで、データ収集のセキュリティを確保できます。

補足データの収集の作成については、次のビデオをご覧ください:



[補足データの収集の作成](#)

収集を作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**収集**」タブをクリックします。
3. 「**アクション**」、「**新規**」の順に選択します。
4. 「**プロパティ**」タブで、収集情報を入力します:
  - **名前:** 最大 80 文字まで入力できます。一意の名前を入力します。
  - **説明:** 最大 255 文字まで入力できます。
  - **サブ収集:** このチェック・ボックスを選択してサブ収集を作成します。サブ収集は収集を作成した後にのみ作成できます。[サブ収集の作成](#)を参照してください。
  - **収集間隔:** ドロップダウンから収集間隔を選択します。

- **関連付けられているサブ収集:** 編集できません。収集に関連付けられているサブ収集が表示されます。
  - **テンプレート/フォームでのデータ・レコードの共有:** デフォルトの選択は「はい」で、同じワークフロー選択内のテンプレート/フォーム間でデータが共有されることを意味します。データを共有しない場合は、「いいえ」チェック・ボックスをクリックします。
5. 「**属性**」タブで、収集の属性を追加します。  
[収集属性の追加](#)を参照してください。

## サブ収集の作成

サブ収集を使用して、詳細なデータ収集を取得できます。既存の収集に対してサブ収集を作成し、その収集が親収集になります。サブ収集は親収集にリンクされ、親収集の下に表示されます。親収集には最大 5 つのサブ収集を作成できます。

サブ収集を作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**収集**」タブをクリックします。
3. 「**+**」(**プラス記号**)をクリックします。
4. 「**プロパティ**」タブで、サブ収集情報を入力します:
  - **名前** - 一意の名前を入力します。
  - **説明**
  - **サブ収集** - チェック・ボックスをクリックします。
  - **収集間隔** - 「**サブ収集**」チェック・ボックスを選択した後は編集できません。
  - **収集** - サブ収集を作成する親収集を選択します。親収集を選択すると、親収集に関連付けられている収集間隔が「**収集間隔**」に自動的に移入されます。
  - **テンプレート/フォームでのデータ・レコードの共有** - 「**収集**」で親収集を選択した後は編集できません。
  - 「**属性**」タブで、サブ収集の属性を追加します。

### ノート:

親収集の属性は、デフォルトでサブ収集にリンクされます。サブ収集の属性を作成すると、新しい属性は、親収集および関連する収集間隔にリンクされます。

## 収集属性の追加

属性は、主に管理者によって定義され、多くの場所で使用される、ユーザー定義フィールドです。属性には、「日付」、「日時」、「リスト」、「数値」、「テキスト」および「True/False」といった異なる値タイプを指定できます。

収集には、データ収集期間の「開始日」や「終了日」など、日付計算属性を追加できます。また、既存のデータ・フォームで履歴ディメンション属性値を保持することもできます。

収集属性を追加するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**収集**」タブをクリックします。
3. 収集を選択し、「**編集**」をクリックします。収集の編集ウィンドウが表示されます。
4. 「**属性**」タブをクリックします。次の列が表示されます:
  - **キー識別子**: 属性がキー識別子であるかどうかを示します。この収集にデータがない場合は、「キー識別子」および属性を変更できます。

#### ノート:

- エンティティの「**キー識別子**」および「**ワークフローの割当**」チェック・ボックス・オプションは、デフォルトで選択されています。属性を追加する際には、1つ以上をキー識別子として選択できます。
- 補足データ・マネージャでは、タイプ「計算済」の属性は「キー識別子」属性としてサポートされていません。「キー識別子」としてこのタイプの属性を選択すると、収集で予期しない動作およびエラーが発生する可能性があります。

- **ワークフローの割当**: 収集間隔で定義されたワークフローが表示されます。これは編集できません。
  - **保持**: 参照先のフォームでディメンション属性の値を保持するかどうかを示します。この列は、「ディメンション参照」タイプの属性にのみ適用可能です。
  - **名前**: 属性の名前。
  - **ディメンション名**: この列は、ディメンション属性にのみ適用可能であり、ディメンション名を示します。
  - **属性タイプ**(既存の属性がある場合に表示されます): 属性のタイプを示します:
    - 入力
    - ディメンション参照
    - 計算済
  - **データ型**: 「日付」、「日時」、「整数」、「リスト」、「複数行のテキスト」、「数値」、「テキスト」、「True/False」、「はいいいえ」
  - **合計**: 属性の合計方法を指定できます:
    - **合計**: 加算合計
    - **平均**: データのある行の平均。データのない行は分母にカウントされません
    - **数**: データのある行の数
    - **なし**: 合計は計算されません
5. 「**追加**」アイコンをクリックした後、次のいずれかをクリックします:



- **属性の追加:** 「新規属性の作成」ウィンドウが表示されます。 [収集の新しい属性の追加](#) を参照してください。
- **ディメンションから属性を追加:** 「ディメンションから属性を追加」ウィンドウが表示されます。 [ディメンションからの属性の追加](#) を参照してください。

### 収集の新しい属性の追加

収集の新しい属性を追加するには:

1. 「新規属性の作成」ウィンドウの「**プロパティ**」タブで次のものを指定します:
  - **名前:** 属性の名前を入力します。入力できる最大文字数は **80** 文字です。
  - **説明:** 説明を入力します。最大 **255** 文字まで入力できます。
  - 属性タイプとして「**入力**」または「**計算済**」オプションを選択します。「**入力**」がデフォルトであり、「**検証**」タブが有効になります。オープン済で、フォーム・インスタンスが作成されている期間には、変更された検証ルールは適用されません。行った変更は、新規のフォーム・インスタンスにのみ適用されます。  
「**計算済**」を選択した場合は、「**計算**」タブが有効になります。

#### ノート:


「**入力**」または「**計算済**」を選択して属性を保存すると属性が作成され、その後はこの設定を変更できません。属性タイプを変更すると、それまでに指定した検証または計算は上書きされます。

- **データ型:** データ型として次のいずれかを選択します。データ型を選択した後、「**必須**」または「**値を使用**」、あるいはその両方のオプションを選択することもできます。
  - **日付**
  - **日時**
  - **整数**
  - **リスト:** 「**追加**」をクリックして、属性の値を入力します。リストは収集に対してローカルであり、他の収集との間で共有することはできません。
  - **複数行のテキスト:** このオプションを選択した場合、**3** から **50** 行の間で「**行数**」を選択します。デフォルト値は **3** です。「複数行のテキスト」では、「アクション」ダイアログ・ボックスで、スクロールせずにフォームに表示できるテキストの行数を決定します。最大長は **2000** 文字です。ただし、テキスト領域の幅は固定されたままです。データ型でこの値を保持することが必須の場合は、「**必須**」チェック・ボックスを選択します。「**値を使用**」チェック・ボックスを選択した場合は、「**行数**」に入力した値がデフォルトでここにも適用されます。これを超えると、スクロール付きテキストになります。
  - **数値:** このオプションを選択してフォーマット・オプションを指定します。これにより、「**システム設定**」の「**プリファレンス**」セクションのデフォルト設定が上書きされます。

 ノート:

この属性には数値のみ入力できます。

- \* **小数点以下の桁数:** 表示する小数点以下の桁数を入力します。
  - \* **パーセンテージとして表示:** パーセント記号を表示します。
  - \* **3 桁ごとの区切り文字の使用:** 3 桁ごとの区切り文字を表示します(例: 1,000.00)。ユーザーのロケール用の 3 桁ごとの区切り文字が表示されます。
  - \* **通貨:** 通貨を選択します。
  - \* **負数のフォーマット:** 負数の表示方法を選択します。
  - \* **スケール:** 数値をスケールします。範囲は 1000 から 10000000000000 までです。
- **テキスト:** 最大 255 文字を入力します
  - **True/False**
  - **はい/いいえ**
- **必須:** 属性が必須の場合、データ入力中にこのフィールドに値を入力する必要があります。
  - **値を使用:** この値を指定した場合、設計者が入力した値が、ユーザーが作成するすべてのレコードに適用されます。データ入力中にデフォルト値を変更できます。
2. 「OK」をクリックして属性を保存します。「新規属性の作成」ウィンドウが閉じます。
  3. 収集の編集ウィンドウで、「保存」をクリックして収集を保存します。

 ノート:

新しい属性および収集を保存する必要があります。このことを行った後にのみ、属性の「検証」タブまたは「計算」タブにアクセスできるようになります。


4. 作成した属性を選択し、「編集」アイコンをクリックします。「属性の編集」ウィンドウが表示されます。
5. 「入力」オプションを選択した場合(ステップ 1)、「検証」タブで条件式を追加できます:
  - a. 「追加」をクリックします。行が表に追加されます。
  - b. 最初の行内の列をクリックしてドロップダウン・リストを表示し、「演算子」を選択し、それに応じて「値 1」および「値 2」を入力できます。
  - c. 2 つ目の条件が必要な場合は、「追加」をクリックして行をもう 1 つ追加します。
  - d. 2 つ目の行内の列をクリックしてドロップダウン・リストを表示し、「および」や「または」などの「組合せ」を選択できます。
  - e. 「OK」をクリックして条件を保存します。
6. 「計算済」オプションを選択した場合(ステップ 1)、「計算」タブで計算を追加できます。「計算タイプ」を選択します:
  - **値をリストに割当:** 関連する「属性」を選択します。

- **条件:** 「**計算式の定義**」の条件を追加します。
  - **スクリプト:** 「**計算式の定義**」を指定し、属性および関数を選択します。
7. 計算式を追加するには、次の表で説明されているデータ型と計算タイプを指定します。

表 32-2 データ型と計算タイプ

「プロパティ」タブで選択したデータ型	計算タイプ	説明
すべてのデータ型	<b>「値をリストに割当」</b> を選択し、「 <b>属性</b> 」値を選択します。 リスト属性値を保存しておく必要があります。	リスト・メンバーへの割当てに基づいて属性値を戻します。
すべてのデータ型	条件	対象の属性に対して、指定された条件が一致している場合に属性値 <b>A</b> を戻します。条件が一致していない場合は属性値 <b>B</b> を戻します。
リスト	リストを値に割当て	属性の値に基づいてリストから関連するメンバーを戻します。
整数、数値、テキスト	<b>スクリプト</b> <b>スクリプト関数</b> を参照してください	自由形式のスクリプト計算。「スクリプト」は、整数、複数行のテキスト、数値またはテキスト・タイプの属性に使用できます。

8. 「OK」をクリックして属性を保存します。

 **ノート:**

属性に対する変更が適用されるのは、後続のデータ収集期間のみです。

### スクリプト関数

- **絶対値:** 指定された数の絶対値を戻します。数値が 0 未満の場合は、その数字の正の値が戻されます。指定した数値が 0 以上の場合は、指定した数値が戻されます。  
ABS(<Number>)
- **月の追加:** 開始日からの指定した月数の日付オフセットを返します。日付は常に指定した月オフセットに該当します。開始日に、オフセット月を越える日の値がある場合は、オフセット月の最後の日を使用されます。たとえば、**EDate (31-Jan-2017, 1)**は**(28-Feb-2017)**を返します。月の場合は、開始日の前または後の月数を入力します。月に対する正の値は将来の日付を生成します。負の値は過去の日付を生成します。  
ADD\_MONTH(<Start Date>, <Months>, <Length>)  
例: ADD\_MONTH (DATE (2017, 2, 15) 3)
- **過去平均:** 過去 X 期間の数量の平均値を算出します。  
AVERAGE\_PRIOR(<Value>, <Number of Periods>, <To Currency\*>  
例: AVERAGE\_PRIOR( {Balance (Reporting)}, '2', 'EUR'
- **日付:** 年、月および日に対して指定された整数値に基づく日付値を返します。  
DATE (<Year>, <Month>, <Day>)

- 日付差異:** 2 つの日付の差を日、時間、分または秒で戻します。たとえば DATE 1 と DATE 2 には、それぞれ現在の日付(時間コンポーネントなし)と日時を表す TODAY および NOW の値を使用できます。

```
DATE_DIFF(<Date1>, <Date2>, <Type>)
```

例: DATE\_DIFF('TODAY', {Preparer End Date}, 'DAYS') or DATE\_DIFF({Preparer End Date}, 'NOW', 'HOURS')
- 日:** 日付の日の値を整数として返します

```
DAY(<DATE>)
```
- テキストの抽出:** 値内の指定した位置からの部分文字列を戻します。

```
SUBSTRING(<Value>, <Location>, <Length>)
```

例: SUBSTRING( {Name} , 5, 10)
- If Then Else:** 条件付きの計算をスクリプト計算に挿入できるようになります。IF\_THEN\_ELSE 計算式は、ネストして ELSE IF タイプの計算式に対応することもできます。

```
IF_THEN_ELSE(<Condition>, <Value1>, <Value2>)
```

例:

```
IF_THEN_ELSE( {Risk Rating} = 'Low', 'Good',
IF_THEN_ELSE( {Risk Rating} = 'Medium', 'Better',
IF_THEN_ELSE({Risk Rating} = 'High', 'Best', 'Bad')))
```
- Length:** パラメータとしてテキスト値を使用し、テキストの文字数である整数を返します。値が空/null の場合は 0 を返します。

```
Length ({{<attribute>}}
```

例: LENGTH('Value') は 5 を返し、LENGTH({Name}) はオブジェクトの名前の文字数を返します。

SUBSTRING を使用した計算を使用して、テキスト値の最後の 4 文字を抽出します。

```
SUBSTRING( {MyString}, LENGTH ( {MyString}) - 4
```
- 小文字:** 値を小文字で戻します

```
LOWERCASE(<Value>)
```

例: LOWERCASE( {Description} )
- 最大:** 属性リストの最大値を戻します。任意の数のパラメータを含めることができます。

```
MAX(<Value1>, <Value2>, <ValueN>)
```

例: MAX( TRANSLATE( {Source System Balance (Entered)}, 'USD', 'Accounting'),  
TRANSLATE( {Source System Balance (Functional)}, 'USD', 'Accounting'),  
TRANSLATE( {Source System Balance (Reporting)}, 'USD', 'Accounting') )
- 過去最大:** 過去 X 期間の最大値を戻します。

```
MAX_PRIOR (<Value>, <Number of Periods>)
```

例: MAX\_PRIOR( {Balance (Functional)}, '6', 'CAD', 'REC')
- 最小:** 属性リストの最小値を戻します。任意の数のパラメータを含めることができます。

```
MIN(<Value1>, <Value2>, <ValueN>)
```

例: MIN( TRANSLATE( { Balance (Entered)}, 'CAD', 'REC'), TRANSLATE( {Balance (Functional)}, 'CAD', 'REC'), TRANSLATE( {Balance (Reporting)}, 'CAD', 'REC') )

- 過去最小:** 過去 X 期間の最小値を戻します。  
`MIN_PRIOR (<Value>, (<Value>, <Number of Min Prior> ( {Source System Balance (Functional)}, '6', 'EUR', 'Simplified'))`
- 月:** 日付の月の値を整数(1 から 12)として返します  
`MONTH (<DATE>)`
- 指数:** 一方の数字を他方の数字の回数掛け合せます。  
`POWER(x,y)` where x=BASE NUMBER, and y=EXPONENT の場合、x と y は数値であるかぎり属性または計算にすることができます。  
 例: `POWER(3,4)=81`

 **ノート:**

分数値では、べき根になります。たとえば、`POWER(27, 1/3) = 3` で、立方根です。

負の値では、指数計算の逆数になります。たとえば、`POWER(2, -2) = 1 / (2^2) = 1 / 4 = .25` です。

- 前:** 指定された前期間の値を戻します。  
`PRIOR(<Value>, <Number of Periods Prior>)`  
 例: `PRIOR( {Source System Balance (Entered)}, '1', 'EUR')`
- 丸め処理:** 指定された小数点以下の桁数で丸めた値を戻します  
`ROUND(<Value>, <Decimal Places>)`  
 例: `ROUND( ({Scripted Translate} /7), 4)`
- 過去の合計:** 過去 X 期間の合計値を戻します。  
`SUM_PRIOR(<Value>, <Number of Periods>)`  
 例: `SUM_PRIOR( {Balance (Reporting)}, '3', 'EUR')`
- テキストの場所:** 属性値内の部分文字列の場所(1 が最初の位置)を戻します。  
`INSTRING(<Value>, <Value To Search>)`  
 例: `INSTRING( UPPERCASE( {Name} ), 'TAX' )`
- 換算:** 指定されたレート・タイプを使用して、通貨属性を数値属性に変換します。  
`TRANSLATE(<Value>, <To Currency>, <Rate Type>)`  
 例: `TRANSLATE( {Balance (Entered)}, 'EUR', 'Acct')`
- 大文字:** 値を大文字で戻します。  
`UPPERCASE(<Value>)`  
 例: `UPPERCASE( {Name} )`
- 年:** 日付の年の値を整数として返します。  
`YEAR (<DATE>)`

### 計算属性を追加する例

1. 次の属性で収集を作成します:  
**Int1**: 属性タイプとして「入力」、「データ型」として「整数」。「OK」をクリックし、収集の編集で「キー識別子」として **Int1** を選択します  
**TextInput**: 属性タイプとして「入力」、「データ型」として「テキスト」。
2. データを保存します。
3. 属性タイプを「計算済」として、「データ型」を「テキスト」として指定して、**TextCalc** という属性を作成します。
4. 「計算」タブで、次のように指定します:
  - **計算タイプ**: 「スクリプト」を選択します。
  - **関数の追加**: 「TextLocation」を選択して、「追加」をクリックします。  
`INSTRING(<Value>, <Value To Search>)`が「計算式の定義」に追加されます。
  - `<Value>`をクリックし、値を(一重引用符で囲み、大文字と小文字を区別して)入力するか、「属性の追加」で **TextInput** 属性を選択して、「追加」をクリックします。  
`<Value>`が`{TextInput}`に変更されます。
  - `<Value to Search>`を'tion'で置き換えます。  
**ノート**: `<xxx>`は必ず一重引用符付き('xxx')で置き換えます。例:  
`INSTRING({TextInput}, 'tion')`
5. 「OK」をクリックして属性を保存します。

### ディメンションからの属性の追加

「ディメンションから属性を追加」ウィンドウで:

1. 「ディメンション」を選択します
2. 「使用可能な属性」リストから属性を選択し、「選択された属性」リストに移動します。ディメンションのキー属性が選択された属性として含められます。キー属性はクリアできません。
3. 「OK」をクリックします。  
「ディメンションから属性を追加」ウィンドウが閉じ、選択した属性が収集の編集ウィンドウに表示されます。
4. 「保持」列のチェック・ボックスを選択して、参照先のフォームで属性の値を保持するように指定できます。ディメンション属性が更新されても、属性が参照されているフォームでは変更が更新されません。このチェック・ボックスを選択しない場合、参照されている属性は最新の変更で更新されます。収集を保存した後、この設定を変更することはできません。
5. 「保存」または「保存して閉じる」をクリックします


## 収集リスト属性のインポート

「リスト」タイプの属性をインポートするには:

1. 値ごとに異なる行を使用して、リスト・タイプのインポート・ファイルを作成します。

例:

Blue  
Yellow  
Red  
Green

2. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
3. 左側の「収集」タブをクリックします。
4. 「リスト」タイプの属性を作成または選択し、「関連付けられているフォーム・テンプレート」領域で「編集」をクリックします。「フォームの編集」ダイアログが表示されます。
5. 「ユーザー」領域で、「インポート」をクリックします。
6. 参照してインポート・ファイルを選択します。
7. 「インポート・タイプ」として、「更新」を選択してソース・ファイルのメンバーのみを更新するか、「置換」を選択してユーザーをソース・ファイルのメンバーに置換します。
8. インポート・ファイルの「ファイル区切り文字」として、ドロップダウン・リストから「カンマ」または「タブ」を選択します。
9. 「インポート」をクリックします。  
「リストの値のインポート」に、合計リスト値、「完了」、「エラー」、作成済リスト値および更新済リスト値の値が表示されます。  
「正常に完了」の場合は、「OK」をクリックします。  
「エラーで完了」の場合は、エラーが表示されます。エラー・リストをエクスポートするには、「Excel にエクスポート」をクリックします。

## 収集履歴の表示

システムには、ユーザー、日付、アクション、古い値、新しい値など、収集アクティビティの履歴が保持されます。

収集履歴を表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
2. 左側の「収集」タブをクリックします。
3. 収集を選択し、「編集」をクリックします。
4. 次のフィールドを表示します:
  - フィールド
  - 変更タイプ
  - サポート・オブジェクト
  - 変更者
  - 変更日

- 古い値
- 新規の値

## 収集属性の削除

収集属性を削除するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**収集**」タブをクリックします。
3. 収集を選択し、「**編集**」をクリックします。
4. 「**属性**」タブを選択して属性を選択し、「**アクション**」、「**削除**」の順に選択します:
  - データが存在する場合は属性を削除できません。
  - データが存在しないが、属性がフォーム・テンプレートで参照されている場合は、最初に属性をフォーム・テンプレートから削除しないと、属性を削除できません。
5. 確認のプロンプトで「**はい**」をクリックします。

## 収集の編集

収集の説明および属性を編集できます。

収集を編集するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**収集**」タブをクリックします。
3. 収集を選択し、「**アクション**」、「**編集**」の順にクリックします。  
定義されている場合は、関連するサブ収集が表示されます。
4. 「**プロパティ**」タブをクリックし、必要に応じて「**説明**」を変更します。
5. 「**属性**」タブをクリックし、必要に応じて属性を編集します。

### ノート:

任意のローカル収集属性名を編集できます。その後、更新した属性名を反映するためにフォーム・テンプレートを再デプロイする必要があります。

収集にデータがある場合は、「**キー識別子**」および収集の属性を変更できます。

ディメンションから参照される属性は編集できません。

## 収集のコピー

収集は、補足データ分析ダッシュボードを使用してコピーできます。ダッシュボードで、POVから別の POV にデータをインポートできます。

収集をコピーするには:



1. ホーム・ページで、「**データ**」をクリックします。
2. 左側から、「**補足データ分析**」をクリックします。
3. 「**収集**」ドロップダウンから、コピーする収集を選択します。
4. 「補足データ分析」ページの POV から、コピーするデータの POV メンバーを選択します。
5. 「**アクション**」から「**Excel にエクスポート**」を選択して、収集からデータをエクスポートします。
6. 「補足データ分析」ページの POV から、貼り付けるデータの POV メンバーを選択します。
7. 「**アクション**」から「**インポート**」を選択して、データを収集にインポートします。

## 収集の削除

収集を削除するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**収集**」タブをクリックします。
3. 収集を選択し、「**アクション**」、「**削除**」の順に選択します。
  - データが存在する場合は収集を削除できません。
  - データが存在しないが、フォーム・インスタンスが作成されている場合は、収集を削除できません。
4. 確認のプロンプトで「**はい**」をクリックします。

## 補足データ・マネージャ・フォーム・テンプレートの作成

補足データ・フォームのテンプレートを作成および操作するには、管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。

フォーム・テンプレートを作成する場合は、テンプレートをアドホック・フォームの作成に使用できるかどうかを指定し、テンプレートの作成を許可するユーザーを選択できます。個々のユーザー、グループまたはチームを選択できます。

補足データ・フォームへのデータ入力の詳細は、*Financial Consolidation and Close* の操作ガイドを参照してください。

フォーム・テンプレートを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**新規**」をクリックします。
4. 「**プロパティ**」タブで情報を指定します。

- **名前:** 一意のフォーム・テンプレート名を入力します。入力できる最大文字数は 80 文字です。
  - **説明:** 最大 255 文字まで入力できます。
  - **収集間隔** - ドロップダウン・リストから収集間隔を選択します。
5. 次のトピックを参照してください。
- [補足データ・マネージャ・フォーム・セクションの操作](#)
  - [フォーム・テンプレートの指示の指定](#)
  - [ワークフローの割当て](#)
  - [フォーム・テンプレートの質問の指定](#)
  - [フォーム・テンプレートのアクセス権の設定](#)

## フォーム・テンプレートの指示の指定

管理者は、フォームの使用方法に関する指示を指定します。指示には、テキスト、添付ファイル、およびドキュメント・リポジトリのファイルへのリンクを含めることができます。

フォーム・テンプレートの指示を指定するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. **新規フォーム・テンプレート**または**フォーム・テンプレートの編集**で、「**指示**」タブを選択します。
4. 「**指示**」で、指示のテキストを入力します。

ファイルへの参照を追加するには:

1. 「**参照**」セクションで、「**追加**」をクリックします。

### ヒント:

参照を削除するには、その参照を選択して、「**削除**」をクリックします。

2. 参照タイプを選択します:
  - **ローカル・ファイル** - ローカル・ファイル・システムを参照してファイルを選択します。「**名前**」を指定する必要があります。「**OK**」をクリックすると、ファイルがシステムにアップロードされ、フォーム・テンプレートとともに保管されます。
  - **URL** - 外部 URL 参照を入力して、わかりやすい**名前**を付けます。「**OK**」をクリックすると、アプリケーションに URL が保管されます。

## 補足データ・マネージャ・フォーム・セクションの操作

フォームの各セクションで、様々な収集または属性の組合せからデータを収集できます。セクションには、重複する収集または属性が存在する可能性があります。対応する収集で共有データ属性が **True** に設定されている場合は、1 つのセクションでのみ属性を書込み可能です。

各収集には、サブ収集を備えた最大 5 つのセクションを作成できます。

収集およびサブ収集があるセクションを作成した後で、収集およびサブ収集のオブジェクトを変更することはできません。

セクションを作成または編集するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. **新規フォーム・テンプレート**または**フォーム・テンプレートの編集**で、「**セクション**」タブを選択します。
4. 「**新規**」をクリックするか、セクションを選択して「**編集**」をクリックします。「**フォーム・テンプレートの編集**」セクションが表示されます。
5. 「**プロパティ**」タブで、次のようにします:

- **名前:** セクションの名前を入力します。入力できる最大文字数は 80 文字です。
- **収集:** ドロップダウン・リストから収集を選択します。選択した収集に基づいて、ドロップダウンには選択可能なそのサブ収集もリストされます。

リストされる収集は、同じ収集間隔に属しています。サブ収集が関連付けられている収集を選択すると、データ・レコードは列に設定され、セクションを保存すると、対応するサブ収集を備えた新しいセクション・オブジェクトが作成されます。

収集およびサブ収集は同じ収集間隔に属している必要があることに注意してください。

- **データ・レコード**

次のいずれかを選択します:

- **行**(サブ収集の場合): フォームの属性が表として表示されます。行に入力します。属性名は、常にヘッダーとして表示されます。
- **列**(収集の場合): フォームの属性が行および列に表示され、ユーザーはフォームの属性ごとに値を入力します。フィールドには属性ごとに 1 つのデータ入力レコードが含まれます。属性の説明は、フォームの行ヘッダーとして表示されます。

6. 必要に応じて、追加のセクション・タブの情報を入力します。
7. セクションの作成が完了したら、「**OK**」をクリックしてセクションを保存します。

収集のセクションが作成され、キー属性が選択されたサブ収集のセクションが作成されます。必要に応じて編集して属性を追加できます。

## 「フォーム・テンプレート」セクション: 「列」タブ

「フォーム・テンプレート」セクションでは、レイアウトの列数および列の表示方法を指定できます。

たとえば、レイアウトの列数として **3** を選択すると、列インデックスとして各属性に最大 **3** を指定できます。

「**列**」タブを更新するには:

1. 補足データ・フォームを開きます。

2. 「列」タブで、レイアウトの列数値を選択します。
3. **新規フォーム・テンプレート**または**フォーム・テンプレートの編集**で、「セクション」タブを選択します。
4. 「新規」をクリックするか、セクションを選択して「編集」をクリックします。
5. 「フォーム・テンプレートの編集」セクションで、「列」タブをクリックします。
6. 「レイアウトの列」で、セクションの列数を選択します。最大 3 列のレイアウトです。
7. 列の情報を指定します:
  - **含む**  
フォームに含まれる他の属性を選択します。
  - **名前**  
列属性の名前。
  - **ディメンション**  
特定ディメンションの属性からの列。これは読取り専用です。
  - **データ型**  
列(読取り専用)に対応するデータ型。
  - **列の幅**  
ピクセル単位で指定した列幅。デフォルト値は「サイズを合わせる」です。  
幅には、列のセルに対するパディングとしてのスペースは含まれません。
    - **小**: 70 ピクセルの固定幅
    - **中**: 100 ピクセルの固定幅
    - **大**: 300 ピクセルの固定幅
    - **サイズを合わせる**: 行で最長のテキストに基づいて、列の幅を合せます
    - **カスタム**: 幅を指定します。最小値: 20。最大値: 999。
  - **合計**  
収集に指定された属性の合計方法。常に読取り専用です。
  - **表示のみ**  
列は表示専用です。同じ収集に複数のフォームが作成されている場合、キー列を含めて、入力用の列を含めることができるフォームは 1 つのみです。
8. **合計行**  
合計行が表示される方法:
  - **上部**: 合計行は、表の最上位に表示されます
  - **下部**: 合計行は、表の最下位に表示されます
  - **なし**: 合計行は表示されません
9. **オプション**: フォーム・テンプレート・セクションに新しい属性を追加するには、「追加」(+)**アイコン**をクリックして「属性の追加」を選択し、属性情報を指定します。  
フォーム・テンプレート・セクションに属性を追加する手順は、収集に属性を追加する手順と同じです。[収集属性の追加](#)を参照してください。

10. 「OK」をクリックして、データを保存します。

## 「フォーム・テンプレート」セクション: 「検証」タブ

特定の補足データ属性にしきい値を指定し、連結で POV から取得された残高試算表に対して検証を行い、数値が完全一致でなくてもフォームを送信できるようにすることができます。検証しきい値は、パーセンテージベース、値ベースまたは完全一致です。指定した定数値に対して属性の値を検証することもできます。

補足データ・フォームのテンプレートの「合計検証」タブを更新するには:

1. 補足データ・フォームを開きます。
2. **新規フォーム・テンプレート**または**フォーム・テンプレートの編集**で、「セクション」タブを選択します。
3. 「新規」をクリックするか、セクションを選択して「編集」をクリックします。
4. 「**フォーム・テンプレートの編集** セクション」で、「合計検証」タブをクリックします。
5. 「**検証タイプ**」ドロップダウンから、次のいずれかを選択します:
  - **なし**: 列が検証の対象として含まれないことを示します。また、表示専用であるか数値以外(テキスト、リスト、はいいいえなど)である列は検証の対象として含まれません。
  - **POV**: POV 値に対して検証します。このオプションを選択すると、「キューブ」および「メンバー・セレクタ」アイコンが使用可能になります。
  - **金額**: それが定義されている同じ属性の合計に対して検証します。
6. 「**しきい値**」ドロップダウンから、次のいずれかを選択します:
  - **完全一致**: 正確な値が検証に使用されます。選択した場合、しきい値を入力するテキスト・ボックスを使用することはできません。
  - **%**: 値がパーセンテージ値の +/- である場合は検証が成功することを許可するパーセント・ベースの検証。
  - **#**: 値が値の +/- である場合は検証が成功することを許可する値ベースの検証。
7. 「%」または「#」を選択した場合、「**値**」列のテキスト・ボックスに値を入力します。これは、検証されるしきい値のパーセンテージまたは値(10進数)です。この値は正の値である必要があります。

例:

- 属性タイプが整数である場合、整数として表示されますが、10進数はパーセントまたは値として使用されます。
- 「**しきい値**」を「%」として選択し、かつ:
  - 値が **5** である場合は、入力された値または POV 値に対する -5%から+5%のしきい値とみなされます。
  - 値が **0.5** である場合は、入力された値または POV 値に対する -0.5%から+0.5%のしきい値とみなされます。
- 「**しきい値**」を「#」として選択し、かつ:
  - 値が **10** である場合は、入力された値または POV 値に対する -10 から+10のしきい値とみなされます。

- 値が **0.1** である場合は、入力された値または POV 値に対する -0.1 から +0.1 のしきい値とみなされます。

負の値、スケールされた値およびパーセンテージ数値については、データベースに保管されている RAW 値に対して検証が実行されます。たとえば、スケール属性が **1000** であるとして、セルに **3** と入力された値はデータベース内では **3000** になり、保管されている同じ値 **3000** に対して検証が実行されます。しきい値が **1000** である場合、2 から 4 の間で入力されたすべてのデータについて検証が成功します(3 はデータベース内では **3000** です。したがって、+/- **1000** は **2000** と **4000** です。)

## 「フォーム・テンプレート」セクション: 「グループ化基準」タブ

補足データ・フォームのテンプレートの「グループ化基準」タブを更新するには:

1. 補足データ・フォームを開きます。
2. **新規フォーム・テンプレート**または**フォーム・テンプレートの編集**で、「**セクション**」タブを選択します。
3. 「**新規**」をクリックするか、セクションを選択して「**編集**」をクリックします。
4. フォーム・テンプレートの編集セクションで、「**グループ化基準**」タブをクリックします。
5. 「列」をクリックしてから、次の列を選択または表示します。
  - **含む**  
「グループ化基準」に含める他の列を選択します。
  - **グループ化基準**  
メイン表のデータが選択した列でグループ化されます。
  - **名前**  
収集の名前。
  - **ディメンション**  
特定ディメンションの属性(読取り専用)からの列。
  - **データ型**  
列(読取り専用)に対応するデータ型。
  - **合計**  
収集に指定された属性の合計方法(読取り専用)。
6. **合計行:**  
合計行が表示される方法を示します:
  - **上部:** 合計行は、表の最上位に表示されます
  - **下部:** 合計行は、表の最下位に表示されます
  - **なし:** 合計行は表示されません
7. 必要に応じて、その他のセクション・タブの情報を入力します。
8. 更新を保存して「フォーム・テンプレート」セクション・タブに戻るには、「**OK**」をクリックします。

## 「フォーム・テンプレート」セクション: 「マッピング」タブ

フォーム・テンプレートで、「マッピング」タブを使用して、フォーム・データを転記する POV を指定します。「グループ化基準」タブで選択した属性に基づいて、補足データ・マネージャのフォーム・エントリをマップできます。属性の金額は、「グループ化基準」タブで選択された属性を使用して合計されます。

「グループ化基準」タブの属性にリスト・データ型を使用している場合は、リストの個々のアイテムをマップできます。この場合、マッピング・テキストを編集して `@Listname` を追加します。`@Listname` は、リスト属性の各子の置換として使用されます。すべてのリスト・メンバーがディメンション・メンバーと同一であることを確認して、無効な POV がないようにします。

### ノート:

ベスト・プラクティスとして、マッピングを作成または編集する前に、ブラウザのキャッシュをクリアして再ログインしてください。

「マッピング」タブを更新するには:

1. 補足データ・フォームを開きます。
2. **新規フォーム・テンプレート**または**フォーム・テンプレートの編集**で、「**セクション**」タブを選択します。
3. 「**新規**」をクリックするか、セクションを選択して「**編集**」をクリックします。「フォーム・テンプレートの編集」セクションが表示されます。
4. 「**接続**」を選択します。  
「**ソース**」列のデフォルトは、割当てマッピング・メニューの選択時に選択された列です。必要に応じて、別のソース列に変更してください。
5. 「**キューブ**」ドロップダウンで、使用可能なキューブのリストからキューブを選択します。
6. 「**メンバー・セレクト**」をクリックして、視点のメンバーを選択します。  
メンバーは POV ディメンションごとに指定する必要があります。マッピングの前に、POV が有効であることを確認してください。  
メンバ・セレクトには、収集間隔の頻度ディメンションおよびワークフロー・ディメンションを除くディメンションが表示されます。間隔ディメンションの値は、フォームがデプロイされているデータ収集期間に基づいて、転記時に動的に設定されます。
7. 「**マッピング**」で、POV を入力します。
8. 更新を保存して「**フォーム・テンプレート**」セクション・タブに戻るには、「**OK**」をクリックします。

## フォーム・テンプレートの削除

不要になったフォーム・テンプレートを削除できます。

フォーム・テンプレートを削除するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. フォーム・テンプレートを選択し、メニュー・バーで「**削除**」を選択します。
4. 「**はい**」をクリックしてテンプレートの削除を確認します。

## 「フォーム・テンプレート」セクション: 「履歴」タブ

「履歴」タブには、変更したユーザー、日付、変更のタイプ、古い値と新しい値など、フォーム・テンプレートのセクションに対する変更が表示されます。

「履歴」タブを表示するには:

1. 補足データ・フォームを開きます。
2. **新規フォーム・テンプレート**または**フォーム・テンプレートの編集**で、「**セクション**」タブを選択します。
3. 「**新規**」をクリックするか、セクションを選択して「**編集**」をクリックします。
4. 「フォーム・テンプレートの編集」セクションで、「**履歴**」タブをクリックします。
5. 「**表示**」をクリックしてリストから表示する列を選択するか、「**その他の列**」を選択して表示される列とその表示順序を管理します。
6. 次の情報を表示できます:
  - フィールド
  - 変更タイプ
  - サポート・オブジェクト
  - 変更者
  - 変更日
  - 古い値
  - 新規の値
7. 「フォーム・テンプレート」セクション・タブに戻るには、「**OK**」をクリックします。

## ワークフローの割当て

フォームのワークフローを割り当てるには、「ワークフロー」タブを使用します。

フォームのワークフローを割り当てるには:

1. 補足データ・フォームを開きます。
2. 「**新規フォーム**」または「**フォームの編集**」で、「**ワークフロー**」タブをクリックします。
3. 「**開始タイミング**」で、ドロップダウン・リストから値を選択します:
  - **頻度** - フォームのデータが収集される頻度。
  - **スケジュール開始** - 収集日付:
    - **終了日** - 期間の終了日。
    - **クローズ日** - 期間に指定されたクローズ日。



- **開始日オフセット** - フォームのデータ収集の開始日。収集日の開始が許可される終了日またはクローズ日の後の日数を決定します。正または負のいずれかの数値です。たとえば、開始日の何日か前にデータを準備できる場合は、-3 に設定すると、そこから 3 日後に収集を開始できます。
4. 「ワークフロー」で、次の値を選択します:
- **ワークフロー・オプション** - オプションを選択します。
    - 策定
    - 策定して承認
    - 策定し、承認してから転記
    - 策定して転記
    - 転記
  - **承認のレベル** - 承認者のレベルを最大 10 個選択します。
  - **期間** - 次に示すユーザーごとに特定のアクションに許可される最大日数  
このデータにより、ワークフロー・オプションに応じて、送信、承認および転記にスケジュールされる完了日が決まります。
5. 「ユーザー」セクションでは、「フォーム」および「アドホック」オプションが使用できます。フォームまたはアドホックに対してワークフローおよび参照者ユーザー割当を定義できます。使用可能なフィールドにユーザーを追加できます。
- 「新規」をクリックします。
  - ユーザーを追加するには:
    - 「フォーム」の場合は、「ワークフロー」を選択し、「策定者」および「承認者」でユーザーまたはグループを選択します。ワークフロー・メンバー・セレクトは、選択したワークフロー・ディメンションに基づいて動的です。
    - 「アドホック」の場合は、名および姓で検索してユーザーまたはグループを選択します。「詳細」をクリックして、ユーザー ID または電子メールで検索できます。基本オプション(つまり、名および姓)がデフォルトで表示されることに注意してください。
    - 「検索」をクリックして、**検索結果**を表示します。このオプションを使用して、ユーザーを追加または削除できます。

#### ノート:

「アドホックを許可」オプションは「ワークフロー」タブの下に表示され、デフォルトでは表示されません。これは、アドホック・ユーザー・リストの数が 0 を超える場合のみ移入されます。リストが空の場合、このオプションはオフになります。

- CSV ファイルからユーザーをインポートするには、「インポート」をクリックします:
  - ファイルを選択するには、「参照」をクリックします。
  - 「ファイル区切り文字」に、「カンマ」または「タブ」を選択するか、「その他」を選択して区切り文字を入力します。
  - 「インポート」をクリックします。

 ノート:

「エクスポート/インポート」ファイル形式を使用すると、トランザクションに「アドホックを許可」オプションを含めることができます。

- ユーザーを削除するには、ユーザーを選択し、メニュー・バーで「削除」をクリックします。

## フォーム・テンプレートの質問の指定

質問は、自動的に役割でグループ化されます。役割内では、個々の質問が順序付けされます。順序は、役割内の質問の順序を示します。

質問を作成するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
2. 左側の「フォーム・テンプレート」タブをクリックします。
3. 「新規フォーム」または「フォームの編集」で、「質問」タブをクリックします。
4. 「新規」または「編集」をクリックします。
5. 次の情報を入力します:

- **質問:** 最大 2000 文字まで入力できます。  
フォームのユーザーに回答を促す質問を入力します。

- **データ型**

質問タイプを選択します:

- 日付
- 日時
- **テキスト:** 最大 4000 文字まで入力できます。
- **リスト:** 最大 255 文字まで入力できます。  
「追加」をクリックして、属性の値を入力します。
- **整数:** -2147483648 から 2147483647 の値を入力できます
- **数値:** 値 xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx.xxxxxxxxx (17 桁、小数点以下 9 桁)を入力できます

「数値」を選択した場合、フォーマット・オプションを選択します:

- \* 「**小数点以下の桁数**」には、表示する小数点以下の桁数を入力します。デフォルト値はシステム・プリファレンスで定義されます。
- \* 3 桁ごとの区切り文字(たとえば、1,000.00)を表示するには、「**3 桁ごとの区切り文字**」を選択します。ユーザーのロケール用の 3 桁ごとの区切り文字が表示されます。
- \* 「**通貨**」から、(INR)などの通貨を選択します  
通貨が選択されていない場合、金額は換算されません。
- \* 「**負数**」から、(123)など、負数の表示方法を選択します。

- 「True」または「False」
- 「はい」または「いいえ」
- 「役割」 - 質問対象の役割を指定します。
- 必須 - 質問が必須かオプションかを決定します。

質問を削除するには:

1. 「新規フォーム」または「フォームの編集」で、「質問」タブを選択します。
2. 質問を選択して「削除」をクリックします。

## フォーム・テンプレートのアクセス権の設定

補足データ・フォームのテンプレートの「アクセス」タブでは、権限のあるユーザーや、そのユーザーがフォームに対して実行できる機能を決定します。

- 「アクセス」タブの上部パネルには、表示アクセス権のあるユーザーのリストを表示されます。
- 下部のパネルには、ユーザーがアクセスできるワークフローが表示されます。

参照者のリストを CSV ファイルでインポートすると、複数のユーザーに簡単にアクセス権を割り当てることができます。参照者は、ユーザー、グループ、チームのいずれでもかまいません。次に、「表示」オプションを使用して、フォームにアクセスできるステージを決定します。ユーザーのリストをエクスポートして、管理者が分析することもできます。

### ノート:

参照者のアクセス権を指定する前に、ワークフローを定義してください。

### ノート:

これで、テンプレートに定型フォームが定義されていない場合でも、アドホック・ユーザーおよび参照者の割当を行うことができます。

アクセス権を追加するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
2. 左側の「フォーム・テンプレート」タブをクリックします。
3. 「新規フォーム」または「フォームの編集」をクリックし、「アクセス」タブをクリックします。
4. 「新規」をクリックするか、ユーザーを選択して「編集」をクリックします。
5. 「参照者のアクセス」で、ユーザー、グループまたはチームを選択します。
6. 「ワークフロー」から、ワークフロー・ディメンションのメンバーを選択します。ワークフロー・ディメンションのメンバーのすべての組合せがリストされます。

7. 「表示オプション」を選択します。
  - **常時** - データ入力完了していない場合や、データが承認のために送信されていない場合も含めていつでもデータを表示できます。
  - **送信後** - 策定者がデータを送信するとすぐに、承認前のデータでも表示できます。
  - **承認後** - すべてのレベルの承認が行われるまで、データを表示できません。
8. **オプション**: CSV ファイルから複数のユーザーの参照者アクセス権をロードするには:
  - a. メニュー・バーで「**インポート**」をクリックします。
  - b. 参照してファイルを選択します。
  - c. 「**インポート・タイプ**」で、「**すべて置換**」または「**更新**」を選択します。
  - d. 「**ファイル区切り文字**」に、「**カンマ**」または「**タブ**」を選択するか、「**その他**」を選択して区切り文字を入力します。
  - e. 「**インポート**」をクリックします。

## フォーム・テンプレートの履歴の表示

「履歴」タブはフォーム・テンプレートへの変更を記録します。作成または更新されたフィールド、変更タイプ、古い値と新規の値、変更を行ったユーザーおよび変更日が表示されます。「履歴」タブの情報は読取り専用です。

フォーム・テンプレートの履歴を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**新規フォーム**」または「**フォームの編集**」で、「**履歴**」タブをクリックします。

## フォーム・テンプレートの編集

フォーム・テンプレートを編集するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. フォーム・テンプレートを選択し、メニュー・バーで「**編集**」を選択します。

## フォーム・テンプレートの複製

フォーム・テンプレートを複製するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. フォーム・テンプレートを選択し、メニュー・バーで「**複製**」を選択します。

複製アクションでは、フォーム名にコピー接尾辞を追加したコピーが作成されます。また、複数のフォーム・テンプレートが同じ収集への書込みアクセス権を持つことのないように、すべての属性が読取り専用になります。

## フォーム・テンプレートの削除

不要になったフォーム・テンプレートを削除できます。

フォーム・テンプレートを削除するには:


1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. フォーム・テンプレートを選択し、メニュー・バーで「**削除**」を選択します。
4. 「**はい**」をクリックしてテンプレートの削除を確認します。

## データ収集期間へのフォーム・テンプレートのデプロイ

補足データ・フォームを作成した後はデプロイできます。

以前にデプロイしたフォームを再デプロイすることもできます。ワークフローへの影響を指定できます。たとえば、デプロイに必要なワークフロー・アイテムのみでなく、さらにワークフロー・アイテム(収集またはテンプレートのプロパティおよび属性の変更なしで)を追加できます。すべてのフォーム・ワークフローをリセットするように選択すると、テンプレートがデプロイされ、データは保持されますが、コメントなど、その他すべてのワークフロー・アイテムはリセットされます。

データ収集期間にフォーム・テンプレートをデプロイするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**アクション**」メニューから「**デプロイ**」をクリックします。
4. 「**データ収集終了期間**」で、「**検索**」アイコンをクリックします。
5. 「**データ収集期間の選択**」ダイアログで、次のようにします:

- a. 「**間隔**」をクリックし、収集間隔を選択します。

収集間隔を選択すると、POV ディメンションには、その収集間隔で定義された頻度ディメンションが反映されます。

- b. POV ディメンションのメンバーを選択し、「**OK**」をクリックします。

保留期間およびオープン期間のデータ収集期間が表示されます。


- c. 「**期間**」で、データ収集期間を選択して「**OK**」をクリックします。

収集間隔および POV ディメンション・メンバーを選択すると、フォーム・テンプレートのリストがフィルタされ、選択した間隔で使用できるテンプレートのみが表示されます。

6. デプロイする 1 つ以上のテンプレートを選択します。
7. 「**デプロイ**」をクリックします。
8. 収集間隔に関連するすべてのフォーム・テンプレートを示す「**情報ダイアログのデプロイ**」が表示されます。
  - ダイアログには、各テンプレートの「**作成**」、「**リセット**」および「**削除**」の値がリストされます。フォーム・テンプレートがデプロイされていない場合、これらの値はゼロになります。
    - **作成** - ワークフロー定義に基づいて、デプロイ(および再デプロイ)時に作成されるすべてのフォームの数が表示されます。
    - **リセット** - 新規に追加されたプロパティや属性など、収集/テンプレートのコピーの更新が表示されます。
    - **リフレッシュ** - テンプレートに対する変更に基づいてリフレッシュされるすべてのフォームの数が表示されます。テンプレート属性のプロパティの変更は、フォームに反映されます。
    - **削除** - デプロイ解除および再デプロイに対して、ワークフロー・メンバーに基づいて削除されたフォームの数が表示されます。
  - フォームを再デプロイする場合、次のオプションが表示されます:
    - **すべてのフォーム・ワークフローのリセット** - このオプションを選択すると、フォームに入力されたデータは保持されますが、コメントなど、その他すべてのワークフロー・アイテムはリセットされます。テンプレートのキー属性を変更(追加、削除、編集)した場合、フォーム・データは削除されます。
    - **アドホック・フォームの削除** - このオプション(デフォルト)を選択すると、収集期間内にユーザーが作成したアドホック・フォームはすべて削除されます。このオプションを選択しなかった場合、収集期間内にユーザーが作成したアドホック・フォームは、リフレッシュまたはリセットされます。
9. 「**デプロイ**」をクリックします。
10. デプロイの確認プロンプトで「**はい**」をクリックします。
11. デプロイメントが完了すると、確認ダイアログ・ボックスに次の情報が示されます:
  - **収集からのフォーム・テンプレートの合計**: 「情報ダイアログのデプロイ」からのフォーム・テンプレートの合計数。
  - **フォーム・テンプレートと期間の頻度または間隔が不一致**: 収集間隔頻度と一致しないフォーム・テンプレートの数。「**詳細の表示**」をクリックして頻度が欠落しているフォーム・テンプレートを表示します。
  - **エラーのあるフォーム・テンプレート**: エラーのあるフォーム・テンプレートの合計数。エラーがある場合、コピーは実行されません。
  - **エラーのある収集**: エラーが含まれている収集。エラーの詳細は、「**詳細の表示**」をクリックします。
  - **デプロイされたフォーム・テンプレート**: すでにデプロイされているテンプレート。
  - **デプロイするフォームの合計**: 各フォーム・テンプレートに指定されたフォームの合計数。
  - **成功したデプロイ**: デプロイされたフォームの合計数。
  - **失敗したデプロイ**: デプロイに失敗したフォームの合計数。

## フォーム・テンプレートのデプロイ解除

フォーム・テンプレートのデプロイを解除するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**アクション**」メニューから「**デプロイ解除**」を選択します。  
「**フォーム・テンプレートのデプロイ解除**」が表示されます。
4. 「**データ収集期間の選択**」ダイアログで、次のようにします:
  - a. 「**間隔**」をクリックし、収集間隔を選択します。  
収集間隔を選択すると、POV ディメンションには、その収集間隔で定義された頻度ディメンションが反映されます。
  - b. POV ディメンションのメンバーを選択し、「**OK**」をクリックします。
  - c. 「**期間**」で、データ収集期間を選択して「**OK**」をクリックします。  
収集間隔および POV ディメンション・メンバーを選択すると、フォーム・テンプレートのリストがフィルタされ、選択した間隔で使用できるテンプレートのみが表示されます。
5. デプロイを解除する 1 つ以上のフォーム・テンプレートを選択し、「**デプロイ解除**」をクリックします。
6. 収集間隔に関連するすべてのフォーム・テンプレートを示す「**情報ダイアログのデプロイ**」が表示されます。
  - テンプレートの作成時に「**データの共有**」オプションを選択した場合は、メッセージが表示され、一緒にデプロイを解除する必要があるフォーム・テンプレートがリストされます。
  - 各テンプレートについて、「**作成**」、「**削除**」および「**リセット**」の値が表示されます。
    - **作成** - ワークフロー定義に基づいて、デプロイ(および再デプロイ)時に作成されるすべてのフォームの数が表示されます。
    - **リセット** - 新規に追加されたプロパティや属性など、収集/テンプレートのコピーの更新が表示されます。
    - **削除** - デプロイ解除および再デプロイに対して、ワークフロー・メンバーに基づいて削除されたフォームの数が表示されます。
7. フォーム・テンプレートを選択し、「**デプロイ解除**」をクリックします。  
デプロイメントの解除結果として期間のすべての既存のデータおよびすべてのフォームが完全に削除されることを示すメッセージが表示されます。
8. 「**デプロイ解除**」をクリックします。  
デプロイメントの解除が完了すると、確認ダイアログ・ボックスに、正常にデプロイ解除されたフォームの合計数が表示されます。  
デプロイに失敗したフォームの場合は、フォーム名がエラー情報とともに表示されます。



## 補足データ・フォームの再オープン

デプロイされた補足データ・フォームを再度開き、データを修正してフォームの操作を続行できます。

補足データ・フォームを再度開くには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. フォーム・テンプレートの「**アクション**」省略記号ボタン(...)をクリックし、「**フォーム**」を選択します。

関連するフォームのリストが表示されます。

4. 「**アクション**」省略記号ボタン(...)をクリックし、「**再オープン**」を選択します。

このアクションにより、ワークフロー・ステータスが「**オープン(策定者)**」にリセットされます。

## 収集へのデータのバルク・ロード

管理者とパワー・ユーザーは、特定のデータ収集期間および特定の収集に応じたデータをインポートできます。この機能は、別のシステムのソース・データを使用してフォームにまとめて移入する場合や、策定者がデータ値を入力するのみで済むように、いくつかの列を事前に移入する場合に、管理者とパワー・ユーザーにとって役立ちます。データのロードは、次のワークフロー・ステータスのフォームで許可されます:

- 保留中
- オープン(策定者)
- オープン(承認者)

### ノート:

データのロードは、「**クローズ済**」のワークフロー・ステータスのフォームでは許可されません。

「**置換**」または「**更新**」オプションを使用できます。

- **置換** - フォーム内のすべてのデータをクリアし、ソース・ファイルの値に置き換えます。インポート・プロセス後、ソース・ファイルに存在しないフィールドは、フォームで空白になります。
- **更新** - ソース・ファイルに含まれる値のみを更新します。他の値は影響を受けません。

データをロードするには:

1. ホーム・ページで、「**データ**」をクリックし、「**補足データ分析**」をクリックします。
2. 収集を選択し、POV メンバーを移入して、「**アクション**」から「**インポート**」を選択します。



- ロードする CSV ファイルを選択します。ワークフロー・ディメンションとしてエンティティを使用する収集のロード・ファイルの例を次に示します。

	A	B	C	D	E	F
1	Entity	ID	Employee ID	Employee Name	Meal Type	Amount
2	US	301	101	Samson John	Breakfast	34
3	India	1	102	Nancy Clark	Breakfast	510
4	India	2	104	Santosh Kumar	Breakfast	3500
5	Europe	201	103	Nancy Clark	Breakfast	35
6	Germany	12	105	Bill Jones	Lunch	57
7						

- 「置換」を選択してすべてのデータをクリアし、ソース・ファイルのデータに置き換えるか、「更新」を選択してソース・ファイルに含まれるデータのみを更新します。
- 日付フォーマットを選択し、「インポート」をクリックします。エラーや警告があるかどうかを示すステータスとともに、「合計エンティティ」、「更新されたエンティティ」、および作成された合計行数または更新された合計行数が表示されます。

## 補足データ・マネージャでのユーザーの再割当て

決算プロセス中に、ユーザーを別のタスクに再割当てすることが定期的に必要になる場合があります。たとえば、タスクが割り当てられている従業員が退職した場合、そのタスクを別の従業員に再割当てすることができます。個々のタスクを手動で検索し、開いて編集するかわりに、「ワークフロー・ダッシュボード」の「再割当て」機能を使用して割当てを自動的に変更できます。「再割当て」機能では、ユーザーに関連付けられているタスクをすばやく検索し、別のユーザーに再割当てできます。タスクを個々のユーザー、グループまたはチームに再割当てできます。

ユーザーを再割当てする役割を選択できます。たとえば、「所有者」の役割を選択した場合は、ユーザーが所有者として割り当てられているタスクでのみユーザーが再割当てされます。「クローズ済」のワークフロー・ステータスのフォームでは許可されません。

ユーザーを再割当てするには:

- ホーム・ページで、「タスク」をクリックします。
- 左側の「補足データ・タスク」タブをクリックします。
- ユーザーを再割当てする 1 つ以上のフォームを選択します。
- 「アクション」で、「ユーザーの設定」を選択します。
- 「フィールド」で、再割当てするユーザーの役割を選択します。
- 「対象ユーザー」で、名前を入力するか、タスクを再割当てするユーザー、グループまたはチームを検索します。
- 「適用」をクリックします。
- ユーザー更新の確認のプロンプトで「はい」をクリックします。

## 勘定科目残高に対する補足データ合計の検証

Financial Consolidation and Close では、勘定科目残高に対して補足データ合計を検証できます。これは、様々な一般会計システムから連結システムに勘定科目残高をロードし、補足データ・マネージャを使用してその勘定科目残高の一部または合計を収集する場合に便利です。収集が終わった時点で、補足データの合計は、策定者がデータ・フォームを送信する前に勘定科目残高と一致している必要があります。

POV 設定は、フォーム・テンプレートの定義中に行われます。勘定科目残高は、フォームのオープン時などの実行時にフェッチされます。データの検証の利点として、リアルタイムで行われることがあげられます。

検証プロセスの最初のステップでは、管理者が、フォーム・テンプレート定義を通じて連結システムに対して補足データの検証を設定します。その後、フォームの策定者に対してフォームに「検証」行が表示されるようになり、属性と勘定科目残高が一致するまでフォームが送信されないことが保証されます。

### 検証の設定

検証を設定するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. テンプレートを選択します。
4. **フォーム・テンプレートの編集**で、「**セクション**」を選択し、「**列**」タブを選択します。
5. 「**合計検証 POV**」列のドロップダウンで、使用可能なキューブのリストからキューブを選択します。
6. 検証の基準とする属性の横にある「**合計検証 POV**」列の「**メンバーの選択**」をクリックして、POV を指定します。

#### ノート:

選択できるのはリーフレベルのメンバーのみで、親メンバーは選択できません。  
「**表示のみ**」の選択が解除されていることを確認してください。

### フォームの操作

検証を設定してフォームをデプロイした後、勘定科目残高が「検証」行に POV とともに表示されます。



## 「補足データ分析」ダッシュボードでのデータの表示

補足データ分析ダッシュボードには、収集およびサブ収集の詳細が表示され、情報を簡単に表示およびフィルタできます。列を選択してソートしたり、リストを保存することもできます。


データ分析ダッシュボードで収集を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**データ**」をクリックします。
2. 左側から、「**補足データ分析**」をクリックします。
3. 「**収集**」ドロップダウン・リストから、データにアクセスして分析する収集/サブ収集およびデータ収集期間(頻度ディメンション・メンバーの組合せ)を選択します。

例:

収集名: 債務詳細

データ収集期間パラメータ: 年: 2020、期間: 4 月、シナリオ: 実績

4. **オプション:** 「**フィルタの追加**」をクリックし、フィルタ値を入力します。使用可能なフィルタは、選択した収集に基づきます。 [フィルタでの作業](#)を参照してください。
5. **オプション:** 収集からデータをエクスポートするには、「**アクション**」から「**エクスポート**」を選択し、「**Excel にエクスポート**」または「**CSV にエクスポート**」を選択します。
6. **オプション:** 「**アクション**」から「**インポート**」を選択して、データを収集にインポートします。  
「**参照**」をクリックしてファイルを選択し、既存のファイルを**置換**するか**更新**するかを選び、日付フォーマットを選択して、「**インポート**」をクリックします。
7. **オプション:** 画面の右側で、 アイコンをクリックしてビューを選択します。 [ビューについて](#)を参照してください。

## Smart View での補足データの使用

データ収集プロセスには Oracle Smart View for Office を使用できます。補足データ管理のための Smart View 拡張機能をインストールすると、Smart View の「補足データ」メニュー・オプションを使用して、データ収集プロセスを管理し、補足データ・フォームを操作できます。

拡張機能をインストールするには、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*のクライアントのダウンロードおよびインストールを参照してください。

拡張機能をインストールして接続を作成した後、Smart View で次の補足データ・タスクを実行できます。

- 策定、承認および転記のために処理が必要なフォームのワークリストを表示します
- セキュリティを表示する権限を持つシステム内の収集のリストを表示します
- データ収集プロセスの一環として収集されたデータにフィルタを適用します  
補足データ用に以前に作成したフィルタやリストは、すべて Smart View で使用できます。

### セキュリティに関する考慮事項

- サービス管理者は、データ収集で指定されている法的エンティティに関係なく、すべての収集を表示できます。
- パワー・ユーザーおよびユーザーは、ワークフローの一部として、および法的エンティティのアクセス役割に従って、適切なすべての収集を表示できます。
- ユーザーには、許可されたフォームのみが表示されます。使用可能なオプション（「データの保存」、「承認」、「却下」など）は、セキュリティ役割に応じて変わります。

### Smart View への接続

1. ホーム・ページから、「ダウンロード」を選択して、**補足データ管理の Smart View 拡張機能**をダウンロードします。
2. Smart View で、接続を作成して URL を入力します。
3. 右側のパネルの「**プライベート接続**」から、作成した補足データ・マネージャ接続を選択します。
4. 「**接続**」ダイアログ・ボックスにユーザー名とパスワードを入力して、「**接続**」をクリックします。

### 補足データ・フォームの操作

1. 「**プライベート接続**」リストから、補足データ・マネージャ接続を選択します。
2. 「**補足データ**」タブを選択してから、「**リフレッシュ**」をクリックします。  
「**ワークリスト**」および「**収集**」ノードが表示されます。
3. 「**ワークリスト**」で、フォームのリストからフォームを選択します。
  - 各フォームは親ノードで、フォーマットは<Form Name> - <Workflow Dimension: Member 1>| <Workflow Dimension: Member 5>です。  
**例:** Debt Details Form – New York
  - フォームにカーソルを置き、フォーマット<Form Name> - <Workflow Dimension: Member 1>| <Workflow Dimension: Member 5> (<Responsible role> - <Due Date>), <Frequency Dimension: Member 1>| <Frequency Dimension: Member 4>の追加詳細を確認します。  
**例:** Loan Detail – Entity: LE101 | Account: Sales (Preparer – Jan 10, 2020), Year: 2020 | Period: Jan | Scenario: Actual
- a. リーフ・ノードをダブルクリックして、フォーム・ヘッダーまたはサマリー・セクションを表示します。各セクションがリーフ・ノードで、フォーマットは<Section name>です。  
**例:** Loan Collection Data Entry
- b. ヘッダー・セクションをクリックして、詳細セクションを Excel に表示します。フォームの表示または変更、質問への回答、コメントの入力を行うことができます。  
詳細セクションまたはサブ収集が別のワークシートに表示されます。
4. 「**収集**」で、収集間隔のリストから間隔を選択します。

各リーフ・ノードには、最初に収集間隔が表示され、次に収集およびサブ収集がリストされます。

#### ノート:

各データ収集期間に対して、データを含む収集のみが表示されます。

5. 終了したら、フォームに適切なアクションを選択します。

- データの保存
- データの送信
- 承認
- 却下
- データの転記

## 通貨換算の使用

会社のデータ収集プロセスの関係者は、通常、複数の地理的地域に拠点があります。データ策定者は、現地通貨でデータを準備するのが普通ですが、送信されたデータは親会社(本社など)の現地通貨で分析する必要があります。ほとんどの場合、最終の財務レポートは親会社の通貨で生成されます。通貨換算機能によって、補足データ管理内で現地通貨から親通貨に通貨属性を換算できます。


通貨換算では、次のプロセスを使用します。

- システムは、エンティティ・メンバーの基本通貨(またはデフォルト通貨)を補足データ・マネージャに保管します。
- 複数通貨アプリケーションを使用している場合、システムは、レート・キューブの勘定科目ディメンションの為替レート・メンバーを使用して、通貨レート・タイプおよび通貨レートも保管します。レート・タイプと通貨レートは、補足データ・マネージャでは読取り専用です。

## エンティティ・メンバーのデフォルト通貨の表示


エンティティ・ディメンションの各メンバーのデフォルト通貨を表示できます。

デフォルト通貨を表示するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「補足データ」の順にクリックします。
2. 左側の「ディメンション」タブをクリックします。
3. 「ディメンション」で、「エンティティ」を選択します。
4. 省略記号  から、「メンバーおよび属性」を選択します。
5. 各メンバーについて、「通貨」属性で通貨を確認できます。

Members and Attributes: Entity

Entity	Entity Description	Currency	Entity Parent	Entity Leaf	Entity Consol
FCCS_Global Assumptions		USD	Entity	Yes	Yes
FCCS_Total Geography		USD	Entity	Yes	Yes
LE102		USD	Entity	Yes	Yes
LE101		USD	Entity	Yes	Yes
LE103		USD	Entity	Yes	Yes

 ノート:

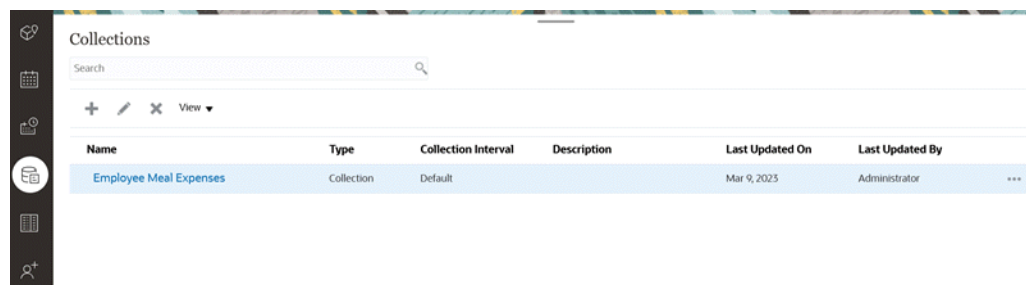
エンティティ・メンバーに関連付けられている通貨がない場合は、継承する通貨がないため、この特定のエンティティにフォームがデプロイされたときに、換算は機能しません。

## 換算用の通貨属性の設定

通貨換算を使用するには、エンティティの現地通貨で金額(または金銭的価値)の属性を作成します。「属性の編集」ダイアログに、「通貨」というプロパティがあります。そのプロパティの「エンティティ通貨」の値を選択すると、その特定の属性によって、フォーム・テンプレートのデプロイ先のエンティティから通貨が継承されます。これは、表示された異なる通貨を選択して上書きできます。

確認のために、世界中のエンティティから現地通貨で食費のデータ値を手動入力する「Employee Meal Expenses」という収集を使用した例を示します。エンティティ通貨を使用するか、それを上書きするかを選択できます。

属性には、「従業員 ID」、「従業員名」、食品タイプ、「金額」および HQ 通貨での金額が含まれます。目的は、「金額」を取得して、USD (ドル)の HQ 通貨での金額に換算することです。



Name	Type	Collection Interval	Description	Last Updated On	Last Updated By
Employee Meal Expenses	Collection	Default		Mar 9, 2025	Administrator



### Attributes

Close

Name	Data Type	Assign Workflow
Entity	Text	Yes
ID	Integer	No
Employee ID	Integer	No
Employee Name	Text	No
Meal Type	List	No
Amount	Number	No
Amount in HQ Currency	Number	No

### Associated Form Templates

Close

Name	Description	Last Update
Employee Meal Expenses	Employee Meal Expenses	Mar 10, 2023

入力値の現地通貨を HQ 通貨に換算するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「補足データ」の順にクリックします。
2. 左側の「収集」タブをクリックします。
3. 収集を選択し、「アクション」、「編集」の順に選択します。

Edit Collection [Employee Meal Expenses]

Save Save and Close Cancel

Properties Attributes History

Key Identifier	Assign Workflow	Name	Dimension Name	Attribute Type	Data Type	Total
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Entity	Entity	Dimension Reference	Text	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ID		Input	Integer	Sum <input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Employee ID		Input	Integer	Sum <input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Employee Name		Input	Text	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Meal Type		Input	List	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Amount		Input	Number	Sum <input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Amount in HQ Currency		Calculated	Number	Sum <input type="text"/>

4. 「属性」タブで、属性(たとえば、世界中の様々なチームからの食事費用の入力値である「金額」など)を選択し、「アクション」、「編集」の順にクリックします。
5. 「通貨」で、「エンティティ通貨」を選択すると、この属性(金額)によって、フォームのデプロイ先のエンティティの通貨が継承されます(この例では USD (ドル))。
6. 計算済属性の HQ 通貨での金額は、USD (ドル)の通貨で設定されています。
7. 「計算」では、換算関数が、Average 為替レート・タイプを使用して「金額」の値を USD 通貨に換算するよう設定されています。



**Edit Attribute** OK Cancel

Properties Validations **Calculations** History

Calculation Type Scripted

**Calculation Definition**

```
TRANSLATE( {Amount}, 'USD', 'FX Rates - Average')
```

Add Attribute +  
Add Function +

8. 設定が完了したら、デプロイ済フォームで換算操作を確認できます。この例では、フォーム・テンプレートは 4 つの異なる通貨を持つ 4 つの異なるエンティティにデプロイされています。

**Workflow**

Workflow option Prepare --> Approve \* Level of Approval 1 Approver View Access Workflow Lock Data on Post

Duration for: \* Preparer 1 \* Approver 1 Integrator 1

**Users**

Forms Ad-Hoc

Workflow	Preparer	Approver 1
Entity:USA	sdm user1 (sdmuser1)	sdm admin (sdmadmin)
Entity:Europe	sdm user2 (sdmuser2)	sdm admin (sdmadmin)
Entity:India	sdm user3 (sdmuser3)	sdm admin (sdmadmin)
Entity:Germany	App User1 (app1)	sdm admin (sdmadmin)

インドの毎月の食費の場合は、金額を入力すると、**保存**した後に換算後の通貨の値が表示されます。換算により HQ 通貨が計算されていることに注意してください。

Save Refresh ...

Search 12 + X Filter Refresh ...

Meal Type	Amount	Amount in HQ Currency
	Rs 9410	\$ 113
	<b>Rs 9410</b>	<b>\$ 113</b>

Details Search 12 + X Filter Refresh ...

	ID	Employee ID	Employee Name	Meal Type	Amount	Amount in HQ Currency
1	1	102	Nancy Clark		Rs 510	\$ 6
2	2	103	Santhosh kumar		Rs 3500	\$ 42
3	3	104	Hari Gowda		Rs 2000	\$ 24
4	4	105	Bill Jones		Rs 3400	\$ 41
<b>Total</b>	<b>10</b>	<b>414</b>			<b>Rs 9410</b>	<b>\$ 113</b>

9. これは補足データ分析にも表示できます。「金額」列の通貨記号と HQ 通貨での金額列の換算された値に注意してください。

Collection	Year	Period	Scenario	Add a Filter					
Employee Meal Expenses	2023	Mar	Actual						
Cl	Actions								
14 Items									
Entity	ID	Employee ID	Employee Name	Meal Type	Amount	Amount in HQ Currency	Start Date	Close Date	End Date
India	4	105	Bill Jones		Rs 3400	\$ 41	Mar 5, 2023	Mar 7, 2023	Mar 7, 2023
Germany	204	105	Bill Jones		€ 80	\$ 85	Mar 5, 2023	Mar 7, 2023	Mar 7, 2023
USA	303	105	Bill Jones		\$ 95	\$ 95	Mar 5, 2023	Mar 7, 2023	Mar 7, 2023
India	3	104	Hari Goenda		Rs 2000	\$ 24	Mar 5, 2023	Mar 7, 2023	Mar 7, 2023
Europe	14	104	Hari Goenda		€ 57	\$ 60	Mar 5, 2023	Mar 7, 2023	Mar 7, 2023
Germany	205	104	Hari Goenda		€ 65	\$ 69	Mar 5, 2023	Mar 7, 2023	Mar 7, 2023
USA	302	104	Hari Goenda		\$ 87	\$ 87	Mar 5, 2023	Mar 7, 2023	Mar 7, 2023
Germany	201	102	Nancy Clark		€ 40	\$ 42	Mar 5, 2023	Mar 7, 2023	Mar 7, 2023
India	1	102	Nancy Clark		Rs 190	\$ 6	Mar 5, 2023	Mar 7, 2023	Mar 7, 2023
Europe	201	102	Nancy Clark		€ 35	\$ 37	Mar 5, 2023	Mar 7, 2023	Mar 7, 2023
Germany	202	103	Santhosh Kumar		€ 23	\$ 24	Mar 5, 2023	Mar 7, 2023	Mar 7, 2023
USA	301	103	Santhosh Kumar		\$ 43	\$ 43	Mar 5, 2023	Mar 7, 2023	Mar 7, 2023
Europe	23	103	Santhosh Kumar		€ 54	\$ 59	Mar 5, 2023	Mar 7, 2023	Mar 7, 2023
India	2	103	Santhosh Kumar		Rs 3500	\$ 42	Mar 5, 2023	Mar 7, 2023	Mar 7, 2023

## 補足データ・マネージャ・チームの管理

チームは、所有者、担当者および承認者の役割を使用して定義およびプロビジョニングされます。次に、タスクのこれらの役割を名前付きユーザーに割り当てるかわりに、チームに割り当てます。管理者およびパワー・ユーザーは、チームを追加、編集、および削除できます。

### ノート:

個々のユーザーは、直接的または間接的に、最大 1,000 チームに割り当てることができます。

### 関連トピック:



- [補足データ・マネージャのチームおよびメンバーの追加](#)
- [補足データ・マネージャのチームおよびメンバーのインポートおよびエクスポート](#)
- [補足データ・マネージャ・ユーザーのエクスポート](#)
- [補足データ・マネージャのチームおよびメンバーの編集](#)
- [補足データ・マネージャのチームの削除とメンバーの削除](#)

## 補足データ・マネージャのチームおよびメンバーの追加

補足データ用、たとえば補足データ・フォームを操作する専用のチームを作成することができます。次に、どのユーザーまたはチームがフォームを請求できるか決定し、「アクセス」からワークフロー・ステージにチームを割り当てることができます。各チームに役割が割り当てられます。デフォルトでは、「ユーザー」の役割が作成されます。

チームを追加するときは、ユーザー ID とチームを通じて名前が一意になるようにする必要があります。ユーザー ID と同じ名前のチームは追加しないでください。

補足データのチームとメンバーを追加するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」をクリックし、「アクセス制御」をクリックします。
2. 「チーム」タブをクリックして、 「新規」をクリックします。
3. チームの「名前」と「説明」を入力します。
4. 「補足データ」タブを選択します。
5. 「ユーザー」を選択します。
6. メンバーを追加するには:
  - a. 「メンバー」セクションで  「追加」をクリックします。

- b. 「名」、「姓」の一部またはすべてを入力するか、「検索」をクリックして名前を選択します。
  - c. 「検索結果」で、「追加」または「すべて追加」をクリックし、選択内容を「選択済」リストに追加します。
  - d. 「OK」をクリックします。
7. 「チームの定義」ダイアログ・ボックスで、タスクがそのユーザーでは「請求済」ステータスがデフォルトになる「プライマリ・ユーザー」を選択します。

#### ノート:

他のチーム・メンバーは次にタスクを請求できます。

8. 「OK」をクリックします。

## 補足データ・マネージャのチームおよびメンバーのインポートおよびエクスポート

管理者とパワー・ユーザーは、チームおよびメンバーを個別に更新することなく、ファイルをエクスポートし、変更を行い、そのファイルを再インポートすることで、チームおよびメンバーのバルク更新を実行できます。teams.csv ファイルをエクスポートすると、チーム全体および各チームのメンバーのレポートが提供されます。必要に応じてデフォルトの.csv ファイルの名前を変更できます。

次のステップを実行する必要があります。

- エクスポート.csv ファイルを作成します。後述の「補足データ・マネージャ・チームのファイル・フォーマット」のフォーマットを参照してください。
- 既存のチームのバルク編集を実行するか、teams.csv ファイルを編集して新しいチームを作成できます。
- 情報をアプリケーションにインポートして戻します。

### チームおよびメンバーのエクスポート

チームおよびメンバーのバルク・エクスポートを実行するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」をクリックし、「アクセス制御」をクリックします。
2. 「チームの管理」タブをクリックします。
3. チームを選択します。
4. ファイルのエクスポート・アイコン  をクリックします
5. 「保存」をクリックして teams.csv ファイルを保存します。ファイルにより、すべてのチームおよび各チームのメンバーのリストが提供されます。


### チームおよびメンバーのインポート

チームをインポートすると、システムによってチーム・リストがマージされます。たとえば、アプリケーションにチーム 1、チーム 2 およびチーム 3 が定義されており、

CSV ファイルにチーム 2 およびチーム 4 が定義されている場合、インポート・プロセス後は、チーム 2 が更新され、チーム 4 が追加されます。

チーム・メンバーシップは、CSV ファイルのコンテンツによって置き換えられます。たとえば、アプリケーションにユーザー A、ユーザー B およびユーザー C のメンバーシップを持つチーム 1 が含まれており、CSV ファイルにユーザー B とユーザー D のメンバーシップが含まれる場合、インポート・プロセス後は、チーム 1 のメンバーシップにユーザー B とユーザー D が含まれます。

チームおよびメンバーのバルク・インポートを実行するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」をクリックし、「アクセス制御」をクリックします。
2. 「チームの管理」タブをクリックします。
3. チームを選択します。
4. 「インポート」をクリックし、次の情報を入力します。
  - 「ファイル」で、エクスポートした.csv ファイルに移動します。
  - 「インポート・タイプ」で、次のオプションのいずれかを選択します。
    - 「置換」をクリックすると、エクスポート.csv ファイルに含まれる行が置換されます。
    - 「すべて置換」をクリックすると、次のようにインポートが実行されます。
      - \* チームが UI と.csv ファイルの両方に存在する場合、インポートによって上書きが行われ、UI のチームが更新されます。
      - \* 追加チームが UI に存在するが、.csv ファイルには存在しない場合、それらのチームは削除されます。
      - \* 追加チームが.csv ファイルに存在するが、UI には存在しない場合、それらのチームはインポートされます。

#### ▲ 注意:

インポート・ファイルに含まれていないエントリは、すべて削除されます。

- 「ファイル区切り文字」で、「カンマ」または「タブ」を選択します。デフォルトはカンマです。
5. 「インポート」をクリックします。  
インポートが実行され、インポートの進行状況に関する統計が表示されます。
  6. インポートが完了したら、**チームのインポート・メッセージ・ボックス**で結果を確認し、「OK」をクリックします。

#### 補足データ・マネージャ・チームのファイル・フォーマット

チームをインポートまたはエクスポートする.csv ファイルを作成する場合、次のフォーマットを使用する必要があります。

CSV 要素	必須	説明
#team	はい	チームの説明と役割が含まれたチームのリスト
#team_children	いいえ	チーム・メンバーのリスト
Roles	いいえ	チームに特定の役割がある場合、許容される値は、「はい」および「いいえ」です。デフォルト値は「いいえ」です。 許容される役割は、「管理者」、「パワー・ユーザー」、「ユーザー」および「参照者」です。
id	はい	チームまたはチーム名を一意に識別します
Primary_user	いいえ	許容される値は、「はい」および「いいえ」です。列または値が指定されていない場合のデフォルト値は、「いいえ」です。

サンプル CSV ファイルを次に示します。

#team						
id	description	task_administrator	task_power_user	task_user	task_viewer	sdm_user
Team1	First Team	No	Yes	Yes	Yes	No
Team2	Second Team	Yes	No	No	No	Yes
#team_children						
id	user_id	primary_user				
Team1	UserA	Yes				
Team1	UserB	No				
Team1	UserC	No				
#team_children						
id	user_id	primary_user				
Team2	AdminA	Yes				
Team2	AdminB	No				

## 補足データ・マネージャ・ユーザーのエクスポート

管理者とパワー・ユーザーは、ユーザーのリストを CSV ファイルにエクスポートできます。ユーザーのリストをインポートすることはできませんが、ユーザー・ログインなどのユーザー情報は、チーム・インポート・ファイルを作成する際に役立つ可能性があります。


補足データ・マネージャ・ユーザーのリストをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで、「ツール」をクリックし、「アクセス制御」をクリックします。
2. 「ユーザーの管理」をクリックします。
3. 「CSV にエクスポート」をクリックします。
4. 「保存」をクリックして `export.csv` ファイルを保存します。

名前	ユーザー・ログイン	ステータス	チーム	説明
AppUser1	app1	Available	Team1, Team 2	User1
AppUser2	app2	Available	Team1	User2
View User1	view1	Available	Team3, Team4, Team5	Viewer1


## 補足データ・マネージャのチームおよびメンバーの編集

補足データのチームまたはメンバーを編集するには:

1. ホーム・ページで「ツール」をクリックし、「アクセス制御」を選択します。
2. 「チーム」タブをクリックします
3. チームを選択し、 「編集」をクリックします。
4. チームおよびメンバーを編集し、「OK」をクリックします。

## 補足データ・マネージャのチームの削除とメンバーの削除

補足データのチームまたはメンバーを削除するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」をクリックし、「アクセス制御」をクリックします。
2. 「チーム」タブをクリックします。
3. チームを削除するには、チームを選択して  「削除」をクリックし、確認のプロンプトが表示されたら「はい」をクリックします。
4. メンバーを削除するには、チーム名をダブルクリックし、「チームの編集」ダイアログ・ボックスで、メンバーを選択して、「アクション」から「削除」をクリックします。
5. 「OK」をクリックします。

## 補足データ・マネージャ・ユーザーの管理

「アクセス制御」の「タスク・マネージャ・ユーザー」を使用して、システム上のユーザーに関する情報にアクセスできます。次のフィールドは、ユーザー・リストで列またはフィルタとして使用できます。

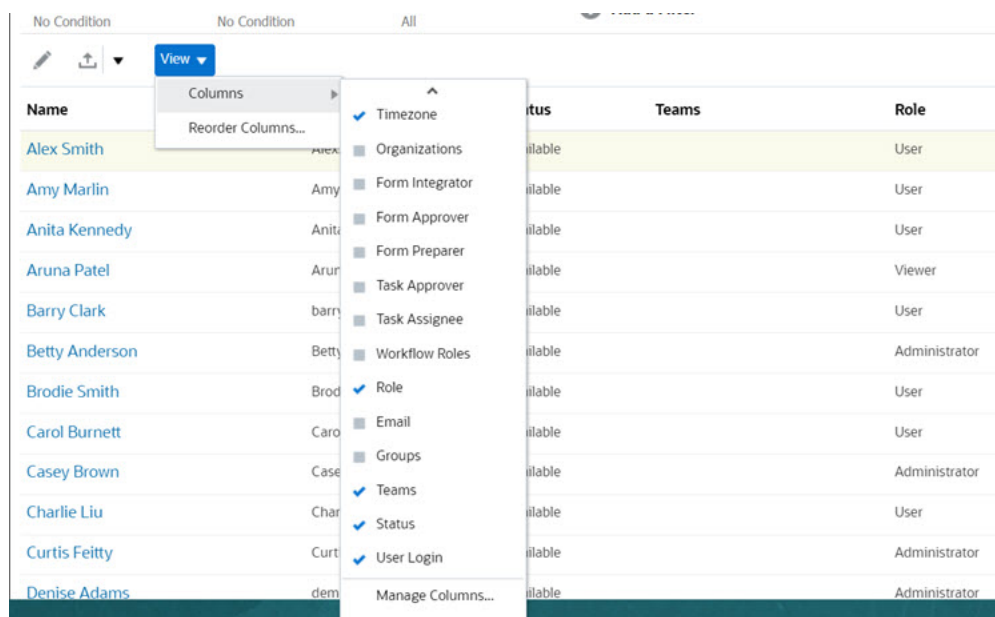
表示する列とともに、リストをフィルタして csv または Excel 形式にエクスポートする列を決定できます。

ユーザーに関する詳細情報を確認する場合は、ユーザー名をダブルクリックすると「**ユーザーの詳細**」ダイアログが表示されます。

- **名前** - ユーザーのフル・ネーム。列およびフィルタはデフォルトで選択されています。
- **最終ログイン** - ユーザーの最終ログインの日時。
- **タイムゾーン** - 各ユーザーのユーザー・プリファレンスに設定されているタイムゾーン
- **組織** - ユーザーが割り当てられた組織のリスト。
- **フォーム統合者** - (はいいいえ)いずれかの補足データ・フォームでユーザーが統合者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用した間接割当が含まれます。
- **フォーム承認者** - (はいいいえ)いずれかの補足データ・フォームでユーザーが承認者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用した間接割当が含まれます。
- **フォーム策定者** - (はいいいえ)いずれかの補足データ・フォームでユーザーが策定者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用した間接割当が含まれます。
- **タスク承認者** - (はいいいえ)いずれかのタスク・マネージャ・タスクでユーザーが承認者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用したバックアップ割当および間接割当が含まれます。
- **タスク担当者** - (はいいいえ)いずれかのタスク・マネージャ・タスクでユーザーが担当者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用したバックアップ割当および間接割当が含まれます。
- **ワークフローの役割** - タスクまたはフォームでユーザーが割り当てられている役割(タスク担当者、フォーム承認者 1、タスク参照者など)。
- **役割** - ユーザーに割り当てられた最上位の外部役割。
- **電子メール** - ユーザーの電子メール・アドレス。
- **グループ** - ユーザーが属しているグループのリスト。
- **チーム** - ユーザーが属するチームのリスト。列はデフォルトで選択されています。
- **ステータス** - ユーザーのステータス(「作業可能」または「作業不可」)。列およびフィルタはデフォルトで選択されています。
- **ユーザー・ログイン** - ユーザー ID。列およびフィルタはデフォルトで選択されています。

例





ユーザーの「**設定のクリア**」をクリックすると、次の内容がこのユーザーに設定されているデフォルト値に戻ります:

- ダッシュボードおよびほとんどの管理ダイアログ(例: 「属性の管理」)で選択された列
- ダッシュボードでのソート
- ダッシュボードで適用されたフィルタ
- ダッシュボードの様々なスイッチとコントロールの状態
- インポート・ダイアログのデフォルトの日付フォーマット

# 34

## ビューおよびフィルタでの作業

この章では、ビューとフィルタの作成方法、管理方法および使用方法について説明します。

### 関連トピック

- [フィルタでの作業](#)
- [ビューでの作業](#)

## フィルタでの作業

フィルタを使用して、ビューおよびレポートに表示されるレコードを制限します。

### Related Topics

- [フィルタについて](#)
- [既存の保存済フィルタの表示](#)
- [新規フィルタの作成](#)
- [フィルタ・バーを使用した表示の調整](#)
- [フィルタ条件のクリア](#)
- [フィルタの除去](#)
- [フィルタの編集](#)
- [フィルタの複製](#)
- [フィルタの保存](#)
- [保存済フィルタの適用](#)
- [フィルタの発行](#)
- [フィルタの削除](#)
- [フィルタの列の表示](#)
- [フィルタの列の順序変更](#)

## フィルタについて

フィルタは、リスト・ビューおよびレポートに表示されるレコードを制御します。

フィルタ対象の属性の値とフィルタに使用する演算子を指定できます。一般的な演算子には、「等しい」、「次と等しくない」、「次で始まる」、「次で終わる」、「次を含む」、「次より大きい」、「次より小さい」などがあります。使用可能な演算子は属性のデータ型によって異なります。たとえば、テキスト値をフィルタ処理するための演算子は、数値をフィルタ処理するための演算子とは異なります。フィルタは、**AND** ロジックを使用して結合されます。この場合、フィルタ条件のすべてを満たすレコードのみが表示されます。

AND と OR のロジックを使用した複雑なフィルタや、フィルタの適用順を決めるグループ化ロジックを作成することもできます。

将来使用できるようにフィルタを保存できます。一方で、ビューの設定には保存済リストを使用できます。「リスト・ビューでの作業」を参照してください。

サービス管理者およびパワー・ユーザーは、他のユーザーがアクセスできるようにフィルタを発行でき、これらは「パブリック」としてマークされます。サービス管理者およびパワー・ユーザーは、保存済フィルタを使用してルールをテストできます。

### フィルタが使用されるタスク・マネージャ内の場所

タスク・マネージャ内の多数の場所でフィルタを使用できます。

これらの様々な領域全体でフィルタの機能は一貫しています:

- スケジュール・タスク
- テンプレート
- スケジュール
- タスク・タイプ
- アラート・タイプ
- ビュー
- 属性

### フィルタが使用される補足データ・マネージャ内の場所

補足データ・マネージャ内の多数の場所でフィルタを使用できます。

これらの様々な領域全体でフィルタの機能は一貫しています:

- 補足データ・タスク
- ビュー
- データ収集期間

### フィルタが使用されるエンタープライズ仕訳内の場所

エンタープライズ仕訳内の多数の場所でフィルタを使用できます。

これらの様々な領域全体でフィルタの機能は一貫しています:

- 仕訳
- 仕訳ライン・アイテム

## 既存の保存済フィルタの表示

保存済フィルタ定義は、「構成」の「フィルタ」タブで使用できます。

保存済フィルタを表示するには:

1. 「ホーム」で、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。  
「ホーム」で、「アプリケーション」、「補足データ」の順にクリックします。

- 「ホーム」で、「アプリケーション」、「エンタープライズ仕訳」の順にクリックします。
2. 「フィルタ」をクリックして既存のフィルタを表示します。  
パブリック・フィルタには緑のチェック・マークが付いています。

## 新規フィルタの作成

新しいフィルタを作成して、要件に従って行の表示を制御します。

新規フィルタを作成するには:

1. ホームから、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」、「フィルタ」の順にクリックします。次のいずれかのページに移動して、フィルタを作成することもできます:
    - 「タスク」 > 「スケジュール・タスク」。右側にある「...」、「フィルタの管理」の順にクリックします。
    - 「タスク」 > 「補足データ・タスク」。右側にある「...」、「フィルタの管理」の順にクリックします。
    - 「タスク」 > 「アラート」。右側にある「...」、「フィルタの管理」の順にクリックします。
- ホームから、「アプリケーション」、「補足データ」、「フィルタ」の順にクリックします。
- ホームから、「アプリケーション」、「エンタープライズ仕訳」、「フィルタ」の順にクリックします。次のいずれかのページに移動して、フィルタを作成することもできます:
- ホーム > 「エンタープライズ仕訳」 > 「仕訳」
  - ホーム > 「エンタープライズ仕訳」 > 「仕訳ライン・アイテム」
2. 「新規」(+ )をクリックして新規フィルタを追加します。「新規フィルタ」ダイアログが表示されます。
  3. 「名前」に、フィルタの一意の名前を入力します。
  4. 「説明」に、フィルタの説明(オプション)を入力します。
  5. 「タイプ」で、作成するフィルタのタイプを選択します。
  6. 「フィルタ定義」セクションで、「条件の作成」をクリックして、データをフィルタするために使用される条件を作成します。複数の条件および条件グループを指定できます。それぞれの条件について、次のものを指定します:
    - (条件グループのみ)組合せ: 「および」または「または」を選択します。これらによって、この条件またはグループと、先行する兄弟の条件またはグループとの関係を指定します。このフィールドは、選択したノードがその親ノードの最初の子ではない場合にのみ有効になります。
    - 属性: 属性は、条件がフィルタの結果セットに含めるための値と比較される、フィールドまたは値です。ただし、フィルタが対象の場合、属性はユーザー定義属性のリストを超えたものを表します。
    - 演算子: 属性に対して実行する評価の種類を示します。たとえば、「次と等しい」、「次の間」、「次と等しくない」、「次より大きい」、「空白である」、「空白でない」、「次より小さい」、「次の間以外」です。
    - 値: 属性を比較する値を指定します。属性のタイプによって、使用可能な入力フィールドが決定されます。

## フィルタ・バーを使用した表示の調整

フィルタ・バーは、リストに表示されるデータをフィルタするために、様々な領域で機能します。リストに複数のフィルタを追加できます。

フィルタ構成でのフィルタ・バーの例を次に示します。デフォルトの「すべて」が使用されていることに注意してください。つまり、フィルタ属性を選択をしないかぎり、すべてのオブジェクトが表示されます。

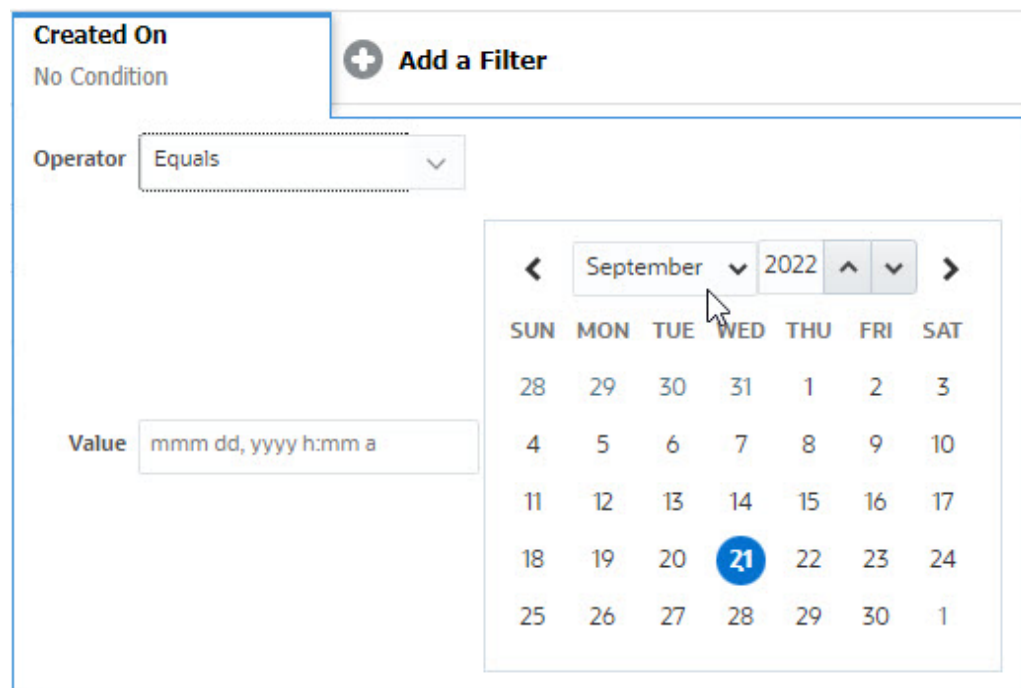
Name	Description	Public	Type	
No Condition	No Condition	All	All	 Add a Filter

リストにフィルタを追加するには:

1. 「+フィルタの追加」をクリックして、データをフィルタするために使用できる属性のリストを表示します。  
属性のリストは、フィルタを追加するリスト・ページによって異なります。
2. 追加するフィルタ属性を選択します。  
選択した属性がフィルタ・バーに表示されます。

### 日付範囲の使用

一部のフィルタ属性には日付範囲があります。たとえば、別のフィルタ属性をフィルタ・バーに追加する場合(「作成日」など)、日付範囲機能を使用できます。日付値を使用して表示を絞り込み、次に「演算子」フィールドを使用して、この基準に合致する日付値の条件を設定します



The screenshot shows the configuration for a filter named "Created On". The "Operator" is set to "Equals". A date picker is open, showing the month of "September" for the year "2022". The date "21" is selected. The "Value" field contains the format "mmm dd, yyyy h:mm a".

### フィルタ条件のクリア

フィルタをクリアすると、表示されているデータに対してこのフィルタによって適用されている条件が除去されます。

フィルタをフィルタ・バーに追加した後、次のいずれかを行ってフィルタ条件をクリアできます:

- それぞれのフィルタにカーソルを置き、\*\*\* アイコンをクリックし、「**クリア**」をクリックして、特定のフィルタの条件をクリアおよびリセットします。
- フィルタ・バーの右側にある \*\*\* アイコンをクリックし、「**すべてのフィルタのクリア**」を選択します。フィルタ・バーのすべてのフィルタの条件がクリアおよびリセットされます。

## フィルタの除去

フィルタ・バーからフィルタを削除できます。

フィルタを削除すると、リストされたデータにそのフィルタによって適用された条件もクリアされます。

フィルタ・バーからフィルタを削除するには:


1. フィルタの横にある \*\*\* アイコンをクリックします。
2. 「**削除**」をクリックして、フィルタ・バーからフィルタを削除します。

いくつかのページでは、デフォルトのフィルタを削除できません。

## フィルタの編集

フィルタを編集して、その定義を変更します。


フィルタを編集するには:

1. 「フィルタ」ページを開きます。  
ホーム・ページで、「**アプリケーション**」 > 「**タスク・マネージャ**」 > 「**フィルタ**」をクリックします。  
ホーム・ページで、「**アプリケーション**」 > 「**補足データ**」 > 「**フィルタ**」をクリックします。  
ホーム・ページで、「**アプリケーション**」 > 「**エンタープライズ仕訳**」 > 「**フィルタ**」をクリックします。  
ページで「**...**」 > 「**フィルタの管理**」をクリックして、フィルタを編集することもできます。
2. 編集するフィルタを選択し、 アイコンをクリックします。「**フィルタの編集**」ダイアログが表示されます。
3. 必要な情報を更新します。
4. 「**OK**」をクリックします。  
フィルタの詳細が更新されます。

## フィルタの複製

フィルタを複製して、既存のフィルタのコピーを作成します。

フィルタを複製するには:

1. 「フィルタ」ページで、複製するフィルタを選択し、 アイコンをクリックします。  
フィルタのコピーがページに表示されます。
2. コピーされたフィルタをクリックします。  
「フィルタの編集」ウィンドウが表示されます。
3. 必要な情報を更新します。
4. 「OK」をクリックします。  
コピーされたフィルタのフィルタ詳細が更新されます。

## フィルタの保存

フィルタ定義を保存すると、(必要に応じて手動でフィルタを設定するのではなく)必要に応じてこれらのフィルタ設定を簡単に再利用できます。

デフォルトでは、フィルタはプライベート・フィルタとして保存されます。他のユーザーが同じ保存済フィルタを使用できるようにするには、フィルタを公開できます。

フィルタを保存するには:

1. 「**フィルタの追加**」を使用して、必要な属性のフィルタを作成します。
2. 「アクション」メニューから、「**フィルタの保存**」を選択します。  
「フィルタの保存」ダイアログが表示されます。
3. 「名前」に、フィルタの一意の名前を入力します。
4. 「説明」に、フィルタの説明をオプションで入力します。  
「フィルタ定義」セクションに、選択したフィルタ条件が表示されることに注意してください。
5. 「OK」をクリックします。


## 保存済フィルタの適用

保存済フィルタを適用して、表示されるデータを制限できます。ページの右上にある...アイコンをクリックすると、すべての保存済フィルタが表示されます。これらのフィルタのいずれかをクリックして、データに適用します。定義されたフィルタ条件に基づいてデータが表示されます。

## フィルタの発行

サービス管理者は、フィルタを他のユーザーが使用できるように発行できます。フィルタを発行すると、「**パブリック**」としてマークされます。

フィルタを発行するには:

1. 「フィルタ」ページで、発行するフィルタを選択し、 アイコンをクリックします。  
確認を求めるメッセージが表示されます。
2. 「はい」をクリックします。  
フィルタのコピーが作成され、「**パブリック**」列にフィルタが発行されていることを示すアイコンが表示されます。


 **Note:**

フィルタを発行できるのは、パワー・ユーザーおよび管理者のみです。

## フィルタの削除

フィルタを削除して、その定義をシステムから除去します。

フィルタを削除するには:

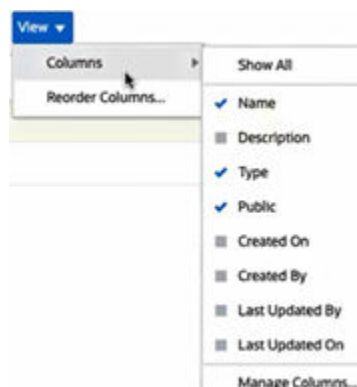
1. 「フィルタ」ページで、削除するフィルタを選択し、 アイコンをクリックします。確認を求めるメッセージが表示されます。
2. 「はい」をクリックします。フィルタが削除されます。

## フィルタの列の表示

フィルタの列を表示するには:




1. 「フィルタ」ページで、「表示」、「列」の順にクリックします。
2. 表示する列を選択するか、「すべて表示」をクリックしてすべての列を表示します。

「列の管理」をクリックし、「表示」 > 「列」に表示される列の非表示/表示を切り替えることができます。




## フィルタの列の順序変更

列を並べ替えるには:

1. 「フィルタ」ページで、「表示」をクリックし、「列の順序変更」をクリックします。
2. 並べ替える列名を選択し、次のアイコンを使用して必要な位置に移動します:
  -  : 選択したアイテムをリストの一番上に移動します
  -  : 選択したアイテムをリスト内で1つ上に移動します
  -  : 選択したアイテムをリスト内で1つ下に移動します



- : 選択したアイテムをリストの一番下に移動します
3. 「OK」をクリックします。  
列は、指定された順序に基づいて表示されます。

## ビューでの作業

ビューは、データをビジュアル化および分析するための複数の方法を提供します。

### 関連トピック:

- [ビューについて](#)
- [リスト・ビューでの作業](#)
- [ピボット・ビューでの作業](#)
- [チャート・ビューでの作業](#)
- [ガント・チャート・ビューでの作業](#)
- [カレンダー・ビューでの作業](#)
- [ビューの保存](#)
- [保存済ビューの編集](#)
- [ビューの発行](#)
- [デフォルト・ビューの設定](#)

## ビューについて

Oracle Enterprise Performance Management Cloud 製品では、非常に柔軟にデータを視覚的に表示できます。

### ビューのタイプ

- リスト・ビュー: ページのフィルタ条件を満たすオブジェクトの情報が列と行に表形式で表示されます。
- ガント・チャート: タスクの期間とそれらの間の依存関係をグラフィカルに表す、スケジュールの時系列が表示されます。ガント・チャートを使用して、他のタスクの先行タスクのステータスを確認できます。
- カレンダー: 月、週または日ごとに、従来のカレンダーのフォーマットでスケジュール・タスクが表示されます。「カレンダー・ビュー」を選択した後に、カレンダー・アイコンを使用して「月」、「週」または「日」を選択します。カレンダー・ビューでは、「日」ヘッダーで「日ラベル」を表示することもできます。
- ピボット・ビュー: 数値属性データの属性値ごとのサマリーを作成できます。
- チャート・ビュー: データがチャート形式で表示されます。

ビュー・セレクトア()を使用して、ビュー間を移動します。

### ビューのコンパクト表示の選択

アイテムをリスト、ガントまたはピボット・ビューで表示しているときには、データをコンパクト・フォーマットで表示できます。「コンパクト」オプションは切替えスイ

ッチとして機能し、表示される情報の行を増やすことができます。レコードをコンパクト・フォーマットで表示するには、「ビュー・セレクタ」から「コンパクト」をクリックします。

ビューを保存すると、「コンパクト」の選択も保存されます。

### ビューを使用できるオブジェクト

タスク・マネージャでは、次のオブジェクトにビューを使用できます：

- スケジュール・タスク: タスク・マネージャのスケジュール済タスクのリストが含まれます
- アラート: アラートのリストが含まれ、アラートの詳細にドリルダウンできます

補足データ・マネージャでは、次のオブジェクトにビューを使用できます：

- 補足データ・タスク: 補足データ・マネージャのタスクが含まれます
- 補足データ分析: 収集およびサブ収集の詳細が含まれます

エンタープライズ仕訳では、次のオブジェクトにビューを使用できます：

- 仕訳: 注意を要する、自分の役割に応じたアクティブな仕訳すべてが含まれます
- 仕訳ライン・アイテム: 特定の年および期間について収集された仕訳データが含まれます

## ビュー内のデータのフィルタについて

フィルタを使用して、ビューに表示されるデータを制限できます。フィルタは、実行時(データが表示された後)に作成することも、チャート・ビューまたはピボット・ビューの設計時に作成することもできます。

次の方法でデータをフィルタできます：

- ビューのフィルタ・バー

フィルタ・バーのフィルタを使用すると、ユーザーは、ビューのデータに適用する必要がある基準を動的に決定できます。指定したフィルタ条件は、ビューが生成された後、実行時に適用され、適用された条件を反映するように表示が更新されます。[フィルタ・バーを使用した表示の調整](#)を参照してください。

たとえば、「タスク」リストで「担当者」列を選択して、フィルタ・バーにフィルタを追加します。このフィルタを使用すると、1人以上の担当者を選択することによってチャートのデータを動的にフィルタできます。

たとえば、「フォーム」リストで「策定者」列を選択して、フィルタ・バーにフィルタを追加します。このフィルタを使用すると、1人以上の策定者を選択することによってチャートのデータを動的にフィルタできます。

たとえば、「仕訳」リストで「策定者」列を選択して、フィルタ・バーにフィルタを追加します。このフィルタを使用すると、1人以上の策定者を選択することによってチャートのデータを動的にフィルタできます。

- 「ピボットの編集」または「チャートの編集」ダイアログの「レイアウト」タブの「フィルタ」

このフィルタは、ビュー・デザイナーが追加します。データがピボット・ビューまたはチャート・ビューに含まれる前に、指定した条件がデータに適用されます。「[凡例\(系列\)](#)」セクションにリストされている各データ・セットについてフィルタを作成できます。[チャートのレイアウトの設定](#)を参照してください。

たとえば、「ステータス」を「オープン」に設定して、データ・セットのフィルタ条件を作成した場合、そのデータ・セットをチャート化すると、オープン・タスクのみが含まれます。

たとえば、「ステータス」を「オープン」に設定して、データ・セットのフィルタ条件を作成した場合、そのデータ・セットをチャート化すると、オープン・フォームのみが含まれます。

たとえば、「ステータス」を「オープン」に設定して、データ・セットのフィルタ条件を作成した場合、そのデータ・セットをチャート化すると、オープン仕訳のみが含まれます。

## リスト・ビューでの作業

リスト・ビューを使用して、簡単な表形式でレコードを表示します。

### Related Topics

- [リスト・ビューについて](#)
- [リスト・ビューのカスタマイズ](#)
- [タスク・マネージャの例: スケジュール・タスクのリスト・ビューのカスタマイズ](#)
- [補足データ・マネージャの例: 補足データ・タスクのリスト・ビューのカスタマイズ](#)
- [エンタープライズ仕訳の例: エンタープライズ仕訳のリスト・ビューのカスタマイズ](#)

## リスト・ビューについて

リスト・ビューは、レコードを画面上に表示し、レコードの詳細にドリルダウンできる機能を提供します。ここでは、オブジェクトが縦のリストに行および列として表示されます。

リスト・ビューに行をさらに表示するには、右側にある「**ビュー・セレクタ**」の「**コンパクト**」を使用します。

リスト・ビューには、次のレポート機能があります:

- ビューに列を追加するか、ビューから列を削除して、列の順序を変更できます。
- フィルタを適用してリストに含まれるレコードを制限できます。
- アドホック・レポートとして、リスト・ビューを印刷することや、Excel にエクスポートすることができます。

## リスト・ビューのカスタマイズ

リスト・ビューは、デフォルトの列が選択された状態で表示されます。デフォルトの列を簡単に変更してビューをカスタマイズできます。

リスト・ビューをカスタマイズするには:

1. 目的のオブジェクトのリスト・ビューを表示します。
2. 「**アクション**」ドロップダウンで、「**列の選択**」を選択します。

「列の選択」ダイアログが表示されます。現在表示されている列は、「**選択済**」セクションにリストされています。

3. 「**使用可能**」セクションで、リスト・ビューに含める必要がある属性を選択し、矢印キーを使用して「**選択済**」セクションに移動します。
4. 「**OK**」をクリックします。

## タスク・マネージャの例: スケジュール・タスクのリスト・ビューのカスタマイズ

タスクが作成された日付などの詳細情報を表示するとします。

次のステップを使用します:

1. ホームから、「**タスク**」をクリックした後、「**スケジュール・タスク**」をクリックします。
2. 「**アクション**」ドロップダウンから、「**列の選択**」をクリックします。  
「列の選択」ダイアログが表示されます。これを使用して、タスクに関する情報を表示する列を追加します。
3. 「**使用可能**」で、リストを下にスクロールして「**作成日**」を選択し、矢印キーを使用して、それを右側の「**選択済**」に移動します。
4. 「**OK**」をクリックします。

「スケジュール・タスク」ページに、タスクの「**作成日**」列が表示されます。

Name	Task ID	Status (Icon)	Start Date	End Date	Task Type	Created On
01 Planning Process	01_Plan	●	Jun 19, 2023 9:00 AM (Day 6) EST	Jun 21, 2023 5:00 PM (Day 8) EST	Parent Task	Jun 6, 2023 10:47 AM
001 - Set Strategic Goals	001_Plan	●	Jun 19, 2023 9:00 AM (Day 6) EST	Jun 19, 2023 5:00 PM (Day 6) EST	Basic Task	Jun 6, 2023 10:47 AM
002 - Allocate Targets	002_Plan	●	Jun 19, 2023 9:00 AM (Day 6) EST	Jun 19, 2023 5:00 PM (Day 6) EST	Enter Form Data	Jun 6, 2023 10:47 AM
003 - Expand Services Product Line	003_Plan	●	Jun 20, 2023 9:00 AM (Day 7) EST	Jun 20, 2023 5:00 PM (Day 7) EST	Basic Task	Jun 6, 2023 10:47 AM
004 - Complete Bottom-Up Operating Plan	004_Plan	●	Jun 19, 2023 9:00 AM (Day 6) EST	Jun 21, 2023 5:00 PM (Day 8) EST	Enter Form Data	Jun 6, 2023 10:47 AM

## 補足データ・マネージャの例: 補足データ・タスクのリスト・ビューのカスタマイズ

補足データ・タスクが最後に更新された日付などの詳細情報を表示するとします。

次のステップを使用します:

1. ホームから、「**データ**」をクリックした後、「**補足データ・タスク**」をクリックします。  
「**アクション**」ドロップダウンから、「**列の選択**」をクリックします。  
「列の選択」ダイアログが表示されます。これを使用して、リスト・ビューに列を追加します。
2. 「**使用可能**」で「**最終更新日**」を選択し、矢印キーを使用して、それを右側の「**選択済**」に移動します。
3. 「**OK**」をクリックします。

補足データ・タスク・リストに、「最終更新日」という追加の列が表示されます。

Supplemental Data Tasks

Search  View

Collection Interval: Regional Sales Channel | Year: All | Period: All | Corporate Region: All | Template: All | Add a Filter

Actions

Template	Sales Channel	Status (Detailed)	Start Date	End Date	Last Updated On
Regional Sales Channel	Direct Field Sales	With Preparer	Aug 31, 2022	Sep 26, 2022	Nov 14, 2022
Regional Sales Channel	Partner Chanel Sales	Closed	Aug 31, 2022	Sep 26, 2022	Nov 14, 2022
Regional Sales Channel	Indirect Sales	With Approver Level 1	Aug 31, 2022	Sep 26, 2022	Nov 14, 2022

## エンタープライズ仕訳の例: エンタープライズ仕訳のリスト・ビューのカスタマイズ

仕訳が最後に更新された日付などの情報を表示するとします。

次のステップを使用します:

1. ホームから、「エンタープライズ仕訳」をクリックします。  
「仕訳」ページに、仕訳のリストが関連情報とともに表示されます。
2. 「アクション」ドロップダウンから、「列の選択」をクリックします。  
「列の選択」ダイアログが表示されます。これを使用して、リスト・ビューに列を追加します。
3. 「使用可能」で「最終更新日」を選択し、矢印キーを使用して右側の「選択済」に移動します。
4. 「OK」をクリックします。

「仕訳」ページに、仕訳を最後に更新したユーザーに関する情報を提供する「最終更新日」という追加の列が表示されます。

Journals

Search  View

Year: All | Period: All | Template: All | Status: All | Add a Filter

Actions

Template	Journal Name	Journal ID	Status (Detailed)	Preparer	Start Date	End Date	Last Updated On
Cloud Financials		1000000005	With Preparer	Anita Kennedy	May 26, 2022	Jul 7, 2022	Nov 10, 2022
Cloud Financials	JE_TaxProvision	1000000005	With Approver Level 1	Casey Brown	May 26, 2022	Jul 7, 2022	Nov 18, 2022
Cloud Financials	JE_TransferPrice_UK	1000000002	With Approver Level 1	Amy Marlin	May 26, 2022	Jul 7, 2022	Nov 10, 2022
Cloud Financials	TransferPrice_UK	1000000006	With Approver Level 1	Kerry Lane	May 26, 2022	Jul 7, 2022	Nov 10, 2022
Cloud Financials	TaxProvision	1000000004	With Approver Level 1	Kerry Lane	May 26, 2022	Jul 7, 2022	Nov 18, 2022
EBS	EBS_Reclass Commissions	1000000010	With Approver Level 1	Casey Brown	Jun 23, 2022	Jun 27, 2022	Nov 10, 2022
SAP FI	SAP_Expense Transfer	1000000011	With Approver Level 1	Casey Brown	May 26, 2022	Jul 7, 2022	Nov 10, 2022

## ピボット・ビューでの作業

ピボット・ビューを使用して、データを要約します。

### Related Topics

- [ピボット・ビューについて](#)
- [ピボット・ビューのカスタマイズ](#)
- [例: タスク・ステータスに基づいた組織単位の表示](#)

- 例: テンプレートをグループ化して、ステータスに基づいて補足データ・フォームを表示
- 例: 策定者および承認者別に仕訳を表示

## ピボット・ビューについて

ピボット・ビューを使用すると、属性データのサマリーを作成できます。

ピボット・ビューをサポートするオブジェクトごとにデフォルトのレイアウトがあります。ただし、要件に基づいてピボット・ビューをカスタマイズできます。

ドリルダウンして、合計を構成するレコードを表示するには、ピボット・ビューに表示されている各サマリー値をクリックします。

## ピボット・ビューのカスタマイズ

ピボット・ビューをカスタマイズして、ビジネス要件に基づいてデータを要約できます。最大2つの属性に基づいてデータをグループ化できます。

ピボット・ビューをカスタマイズするには:

1. 目的のオブジェクトのピボット・ビューを表示します。
2. 右上にある「**編集**」アイコンをクリックします。  
「ピボットの編集」ダイアログが表示されます。そこには、「**プロパティ**」、「**レイアウト**」および「**列**」という3つのタブがあります。
3. 「**プロパティ**」タブで、基本的なビュー・プロパティを入力します。[ピボット・ビューのプロパティの設定](#)を参照してください。
4. 「**レイアウト**」タブで、データをグループ化する方法の詳細を指定します。[ピボット・ビューのレイアウトの設定](#)を参照してください。
5. 「**列**」タブで、データ・ラベルとデータのソート順を入力します。[ピボット・ビューの列の指定](#)を参照してください。
6. 「**OK**」をクリックします。

### Note:

レコードにドリルダウンし、1つ以上の詳細を更新して保存し、ピボット・ビューに戻っても、それらの変更内容は表示されません。最新の更新内容を表示するには、ピボット・ビューをリフレッシュする必要があります。

## ピボット・ビューのプロパティの設定

「ピボットの編集」ダイアログの「**プロパティ**」タブを使用して、ピボット・ビューの基本プロパティを設定します。

ピボット・ビューのプロパティを設定するには:

1. 「**背景**」で、次のいずれかを選択します:
  - **塗りつぶしなし**: 背景色は使用されません

- **純色:** 背景色として使用する色を選択します。必要に応じて、「**グラデーション**」で色を選択できます。
- 2. 「**ヘッダーの色**」および「**ヘッダー・サイズ**」で、ピボット・ビューのヘッダーの色およびフォント・サイズを選択します。
- 3. 「**データの色**」および「**データ・サイズ**」で、ピボット・ビューに表示されるデータの色およびフォント・サイズを選択します。
- 4. 「**ゼロとしての欠落値**」を選択して、データ値が欠落している場合にゼロを表示します。  
これには、欠落しているデータ値と、フィルタが適用されたために欠落している値が含まれます。
- 5. 「**期間**」で、次のいずれかを選択します:
  - **選択:** 期間フィルタの選択内容をそのまま使用します。
  - **最新の選択:** フィルタの時系列的に最新期間を使用します。
  - **選択の前:** フィルタの最新期間に基づいて、前の X 期間の新しいフィルタを作成します。  
  
期間を選択すると、特定のピボット・ビューの期間のリストを微調整できます。これを行うと、同じグローバル期間フィルタを共有するピボット・ビューで異なる量のデータを表示したり、単一のローカル期間選択に基づいて期間データの分布を表示しやすくなります。

## ピボット・ビューのレイアウトの設定

「**レイアウト**」タブでは、ピボット・ビューのデータをどのように要約するかを指定します。要約の対象となるデータにフィルタを適用することもできます。

次のレイアウトの詳細を指定します:

1. 「**X 軸**」セクションで、ビューで使用するプライマリ・グループに関する詳細を指定します。
  - 「**タイプ**」で、「なし」、「属性」、「日付」、「ユーザー」、「はい」/「いいえ」または「True」/「False」のいずれかを選択します。  
  
「**タイプ**」を「属性」に設定した場合は、「**属性 1**」で、データのグループ化に使用する必要がある属性を選択します。たとえば、「組織単位」などです。  
  
必要に応じて、「**属性 2**」で別の属性を選択して、「**属性 1**」グループ内に別のサブグループを作成できます。
  - 「**ソート**」で、データをソートする必要がある属性および順序を選択します。
  - 「**行および列の入替え**」を選択して、グリッド内の行と列の表示を入れ替えます。
2. 「**凡例(系列)**」セクションで、「**追加**」アイコンをクリックして、データを要約する属性ごとに 1 行を作成します。この要約は、指定した「**タイプ**」内で作成されます。このセクションには少なくとも 1 行が必要です。

各行に次の詳細を指定します:

- 「**値**」で、データを要約する必要がある属性を選択します。たとえば、「承認者(人数)」などです。
- 「**集約**」で、要約データに対して実行する集約操作を選択します。これは、選択した属性に指定された集約方法がデフォルトになります。

 **Note:**

「値」で数値以外の属性を選択した場合、使用可能な「集約」は「数」のみです。

- 「カテゴリ」で、必要に応じて、「値」グループ内でデータが要約される属性を選択します。
- 「グループ化基準」で、リストから属性を選択します。これは、「タイプ」が「属性」以外の値に設定されている場合にのみ適用されます。
- 「フィルタ」をクリックして、ピボット・ビューに含まれるデータにフィルタを適用します。このフィルタはまずデータに適用され、次に指定された基準を使用してデータが要約されます。

デフォルトでは、フィルタ条件の最初の句が、このフィルタのラベルとして表示されます。

### 3. 「OK」をクリックします。

#### 集約を使用する際の考慮事項

タスク・マネージャの例については、[例: タスク・ステータスに基づいた組織単位の表示](#)を参照してください

補足データ・マネージャの例については、[例: テンプレートをグループ化して、ステータスに基づいて補足データ・フォームを表示](#)を参照してください

エンタープライズ仕訳の例については、[例: 策定者および承認者別に仕訳を表示](#)を参照してください

## ピボット・ビューの列の指定

「列」タブを使用して、ピボット・ビューに表示されるデータのラベルおよび順序をカスタマイズします。

このタブの各行は、ピボット・ビューの列として表示されます。行数は、「レイアウト」タブの「X軸」および「カテゴリ」で指定した内容によって決まります。

ピボット・ビューの表示をカスタマイズするには:

- 「ラベル」に、この列に表示する必要があるラベルを入力します。
- 「ソート」を選択して、この列でピボット・データをソートします。このオプションの横にあるアイコンをクリックして、昇順または降順でソートします。
- 右側の矢印を使用して、列の表示順序を変更します。この列のリストは、ピボット・ビューで左から右に表示されます。

## 例: タスク・ステータスに基づいた組織単位の表示

この例では、タスクのステータスに基づいて組織単位をグループ化するピボット・ビューの作成方法について説明します。次の画像には、ピボット・ビューが表示されています。



Schedule Tasks


View  ▼

Schedule	Year	Period	Status	...
4 Selected	All	All	All	Add a Filter

Actions

Organizational Unit	Closed	Open	Pending
EMEA	17	23	4
North America	17	23	4
APAC	16	23	4
Corporate	19	25	4

次のステップを使用して、前述のピボット・ビューを作成します：

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックして、「スケジュール・タスク」ページを表示します。
2.  アイコンをクリックし、「**ピボット・ビュー**」を選択します。
3. 「**編集**」アイコンをクリックして、要件に従ってピボット・ビューを構成します。
4. 「**プロパティ**」タブで、次のようにします：
  - **背景**: 塗りつぶしなし
  - **ヘッダー・サイズ**: 13
  - **データ・サイズ**: 14
  - **期間**: 選択
5. 「**レイアウト**」タブ：
  - **X 軸**:
    - 「**タイプ**」で、「**属性**」を選択します。
    - 「**属性 1**」で、「**組織単位**」を選択します。
    - 「**ソート**」で、1つ目のドロップダウン・リストから「**組織単位**」を選択し、2つ目のドロップダウン・リストから「**降順**」を選択します。
  - **凡例(系列)**:
    - 「**値**」で、「**タスク**」を選択します。
    - 「**カテゴリ**」で、「**ステータス**」を選択します。
6. 「**列**」タブで、表示されるラベルを選択します。
7. 「**OK**」をクリックします。

## 例: テンプレートをグループ化して、ステータスに基づいて補足データ・フォームを表示

この例では、テンプレートをグループ化して、ステータスに基づいて補足データ・フォームを表示するピボット・ビューの作成方法について説明します。次の画像には、ピボット・ビューが表示されています。

Supplemental Data Tasks


Search  View

Collection Interval	Year	Period	Corporate Region	Template	...
Regional Sales Channel	All	All	All	All	+ Add a Filter

+ Actions

Template	Status (Detailed)	Count
Regional Sales Chan...	With Preparer	1
Regional Sales Chan...	With Approver	1
Regional Sales Chan...	Closed	1

次のステップを使用して、前述のピボット・ビューを作成します:

1. ホーム・ページで、「データ」をクリックした後、「補足データ分析」をクリックします。
2.  アイコンをクリックし、「ピボット・ビュー」を選択します。
3. 「編集」アイコンをクリックして、要件に従ってピボット・ビューを構成します。
4. 「プロパティ」タブ:
  - 背景: 塗りつぶしなし
  - ヘッダー・サイズ: 13
  - データ・サイズ: 14
  - 期間: 選択
5. 「レイアウト」タブ:
  - X 軸:
    - 「タイプ」で、「属性」を選択します。
    - 「属性 1」で「テンプレート」を選択し、「属性 2」で「ステータス(詳細)」を選択します。
    - 「ソート」で、「テンプレート」、「降順」の順に選択します。
  - 凡例(系列):
    - 「値」で、「フォーム」を選択します。
    - 「カテゴリ」で、「なし」を選択します。
6. 「列」タブで、表示されるラベルを選択します。
7. 「OK」をクリックします。

## 例: 策定者および承認者別に仕訳を表示

この例では、策定者と承認者に基づいて仕訳をグループ化するピボット・ビューの作成方法について説明します。次の画像には、ピボット・ビューが表示されています。

Journals


Search  View

Year	Period	Template	Status	...
All	All	All	All	+ Add a Filter

+ Actions

Journal Name	With Approver	With Preparer
TransferPrice_UK	1	
TaxProvision	1	
SAP_ExpenseTra...	1	
None		1
JE_TransferPrice...	1	
JE_TaxProvision	1	
EBS_Reclass Co...	1	

次のステップを使用して、前述のピボット・ビューを作成します:

1. ホーム・ページで、「**エンタープライズ仕訳**」をクリックします。
2.  アイコンをクリックし、「**ピボット・ビュー**」を選択します。
3. 「**編集**」アイコンをクリックして、要件に従ってピボット・ビューを構成します。
4. 「**プロパティ**」タブで、次のようにします:
  - **背景**: 塗りつぶしなし
  - **ヘッダー・サイズ**: 13
  - **データ・サイズ**: 14
  - **期間**: 選択
5. 「**レイアウト**」タブ:
  - **X 軸**:
    - 「**タイプ**」で、「**属性**」を選択します。
    - 「**属性 1**」で、「**仕訳名**」を選択します。
    - 「**ソート**」で、1つ目のドロップダウン・リストから「**仕訳名**」を選択し、2つ目のドロップダウン・リストから「**降順**」を選択します。
  - **凡例(系列)**:
    - 「**値**」で、「**仕訳**」を選択します。
    - 「**カテゴリ**」で、「**ステータス(詳細)**」を選択します。
6. 「**列**」タブで、表示されるラベルを選択します。
7. 「**OK**」をクリックします。

## チャート・ビューでの作業

チャート・ビューを使用すると、データをビジュアル化できます。

### Related Topics

- [チャート・ビューの概要](#)
- [チャート・ビューの作成](#)
- [例: タスク・ステータスを月別に表示するチャートの作成](#)
- [例: 予定終了日と実際の終了日の比較を表示するチャートの作成](#)
- [例: タスクの実行を組織単位別に表示するチャートの作成](#)
- [例: フォームとそのステータスを表示するチャートの作成](#)
- [例: フォーム・テンプレートの期間とステータス\(説明付き\)を表示するチャートの作成](#)
- [例: 策定者の仕訳の値を表示するチャートの作成](#)

## チャート・ビューの概要

### Related Topics

- [チャート・ビューについて](#)

- [チャート・ビューのプロパティについて](#)
- [チャート・ビューのタイプ](#)

## チャート・ビューについて

チャートには、データが視覚的に表示されます。

チャートは、ビジネス・プロセス・データに基づいて動的に生成されます。チャート内の領域(円グラフ内の領域など)をクリックすると、ドリルダウンして、その領域に要約されている情報の詳細を表示できます。チャート・ビューとピボット・ビューのレイアウトはリンクされており、チャート・ビューとピボット・ビューをすばやく切り替えることができます。

チャート・ビューの設定を構成すると、それらの設定がシステムに保存されます。チャート・ビューを閉じ、ビジネス・プロセスで他のアクションを実行した後、チャート・ビューに戻った場合、以前の設定を使用してチャートが表示されます。

複数のタイプのチャート・ビューを使用して、タスクをグラフィカルに表示できます。[チャート・ビューのタイプ](#)を参照してください。

複数のタイプのチャート・ビューを使用して、補足データをグラフィカルに表示できます。

複数のタイプのチャート・ビューを使用して、仕訳をグラフィカルに表示できます。

## チャート・ビューのプロパティについて

チャートのプロパティには、チャートのタイプ、チャートの向き、背景などの基本的な詳細が含まれます。チャートについて設定できるプロパティは、チャートのタイプによって異なります。

チャートのプロパティ	該当するチャート・タイプ	説明
タイプ	すべて	チャートのタイプ <a href="#">チャート・ビューのタイプ</a> を参照してください。
背景	面、棒、縦棒、組合せ、ドーナツ、折れ線、円、タイル	チャートで使用される背景色 この色は、枠線から枠線まで、チャート領域全体に適用されます。背景色を使用しないことを選択することもでき、その場合は、白の背景がチャートに使用されます。背景色を指定する場合は、オプションのグラデーションを指定することもできます。
ラベルの位置	面、棒、縦棒、組合せ、折れ線	要素を基準にしたデータ・ラベルの場所 使用可能なオプションは、チャートのタイプによって異なります。たとえば、棒グラフには、「ラベルなし」、「中央」、「エッジの内側」、「エッジの外側」というラベル・オプションがあります。
バーのラベルの位置	組合せ	棒グラフ内のデータ・ラベルの場所
グリッド線	面、棒、縦棒、組合せ、折れ線	チャート領域を分割するために使用されるグリッド線

チャートのプロパティ	該当するチャート・タイプ	説明
向き	面、棒、縦棒	チャートの向き - 「垂直」または「水平」
ゼロとしての欠落値	面、組合せ、折れ線、タイル	特定の要素のデータが欠落している場合に(空白ではなく)ゼロを表示します  このオプションを選択すると、すべての欠落値がゼロとして表示されます。これには、欠落しているデータ値と、フィルタが適用されたために欠落している値が含まれます。
二重-Y 軸	面、棒、縦棒、組合せ、折れ線	チャートを挟んでプライマリ Y 軸の反対側に表示されます  セカンダリ Y 軸のスケールには、関連付けられたデータ系列の値が反映されます。セカンダリ Y 軸は折れ線チャート・タイプおよび棒チャート・タイプで使用できますが、より一般的には、組合せチャート・タイプで使用して、セカンダリ Y 軸にプロットされるデータ系列を区別しやすくします。たとえば、プライマリ Y 軸については「棒」を選択し、セカンダリ Y 軸については「折れ線」を選択します。  チャートのデータ値がデータ系列によって大きく異なる場合や、データのタイプ(通貨とパーセンテージなど)が混在する場合、1つ以上のデータ系列をセカンダリ(縦の) Y 軸にプロットできます。  また、セカンダリ Y 軸を分割二重チャートとしてプロットすることもでき、その場合は、セカンダリ Y 軸がそのデータ系列とともに元のチャートの下に表示されます。この場合、任意の棒グラフまたは折れ線グラフのタイプを使用できます。
行の太さ	組合せ、折れ線	チャート内の線の幅 デフォルトは 5 ピクセルです。
バーのラベルの位置	組合せ	棒グラフとして表示されるデータ・セットのラベルの位置
パーセンテージとして表示	ドーナツ、円	各データ・セットの値が(数値としてではなく)パーセンテージを単位として表示されます
3D チャート	円、タイル	3次元のチャート・フォーマット

## チャート・ビューのタイプ

次のタイプのチャート・ビューを作成できます:

- 面  
各データ・セットを表す網掛け領域を表示します
- 棒  
複数のデータ値のグラフィカルなサマリーを表し、比較に利用します  
棒グラフは、垂直または水平に表示できます
- 縦棒  
異なるデータ・セットどうしを積み重ねて表す積上げ棒を表示します  
1つの棒の最終的な高さは、データ・セットを合算した値を表します。
- 組合せ  
棒グラフ、折れ線グラフおよび面グラフの任意の組合せを1つのチャートにマージできるビジュアライゼーションを提供します。  
  
このタイプは、Y軸にプロットされる2つの異なるデータ・セットがある場合に使用します。プライマリY軸の反対側にセカンダリY軸を追加できます。セカンダリY軸を追加すると、他のメジャーでは適切にスケールされない1つのメジャーのスケールをチャートに表示できます。たとえば、パーセンテージ・メジャーと通貨メジャーを同じチャートに表示できます。
- ドーナツ  
データ・セットどうしを比較するためにセグメントに分割された円グラフを表示します  
中央の空白は、全データ・セットの合計を表します。
- 折れ線  
ユーザーは、一定期間にわたるデータのトレンドをビジュアル化できます
- 円  
データ・セットどうしを比較するためにスライスに分割された円グラフを表示します
- タイル  
ユーザーは、データ・セットから特定の値を選択して、個別のタイルに表示できます  
少数のデータ・ポイントまたは個々のデータ・ポイントが強調されます。  
  
デフォルトのチャート・ビューは棒グラフです。チャート表示をカスタマイズしたり、デフォルトのチャート・ビューを変更することができます。

## チャート・ビューの作成

チャートを作成して、アプリケーションのデータをグラフィカルに示します。

チャート・ビューを作成するには:

1. 目的のオブジェクトのチャート・ビューを表示します。
2. ページの右上にある「**ビュー・セレクタ**」から、「**チャート・ビュー**」を選択します。  
初めてチャート・ビューにアクセスしている場合は、デフォルトのチャート・ビュー・レイアウトが表示されます。
3. 右上にある「**編集**」をクリックして、「**チャートの編集**」ダイアログを表示します。そこには、「**プロパティ**」、「**レイアウト**」および「**凡例**」という3つのタブがあります。

4. 「プロパティ」タブで、[チャート・ビューのプロパティ](#)についての説明に従って必要なチャート・プロパティを指定します。
5. 次のトピックの説明に従って、チャートを作成するために必要な情報を入力します:
  - [チャートのレイアウトの設定](#)
  - [チャートの軸の設定](#)
  - [チャートの凡例の設定](#)
6. 「OK」をクリックしてチャートの定義を保存した後、チャートを表示します。

チャート・ビュー内の任意の領域をクリックしてドリルダウンし、選択した領域によって集約されているすべてのレコードを表示します。レコードは、「詳細」ダイアログに表示されます。このダイアログ内の任意のリンクをクリックして、個々のレコードの詳細にアクセスできます。

 **Note:**

個々のレコードにドリルダウンし、1つ以上の詳細を更新して保存し、チャート・ビューに戻っても、それらの変更内容は表示されません。最新の更新内容を表示するには、チャート・ビューをリフレッシュする必要があります。

## チャートのレイアウトの設定

「レイアウト」タブを使用して、チャートの X 軸および Y 軸にプロットする必要があるデータ・セットを指定します。

チャート・レイアウトを設定するには:

1. 「チャートの編集」ダイアログの「レイアウト」タブを開きます。
2. 「X 軸」セクションで、チャートの X 軸にプロットする必要があるデータを指定します。
  - 「タイプ」で、データのタイプを選択します。オプションには、「なし」、「属性」、「日付」、「ユーザー」、「はい」/「いいえ」および「True」/「False」があります。
  - 「タイプ」を「属性」に設定した場合は、X 軸にプロットされる属性を少なくとも 1 つ指定する必要があります。最大 2 つの属性を指定できます。
    - 「属性 1」で、X 軸にプロットする 1 つ目の属性を選択します。必要に応じて、「属性 2」で、X 軸にプロットする 2 つ目の属性を選択します。「属性 1」と「属性 2」の値の様々な組合せがプロットされます。
  - 「ソート」で、「昇順」または「降順」を選択して X 軸データをソートします。
3. 「凡例(系列)」セクションで、チャート・ビューの Y 軸に沿ってプロットする必要があるデータ・セットを 1 つ以上指定します。

たとえば、3 つのデータ・セットを定義すると、3 つの値が Y 軸にプロットされます。

各データ・セット内で、集約操作を実行したり、データをグループ化することができます。必要に応じて、フィルタを適用して、データ・セットの集約を計算するときに選択されるデータを制限できます。

このセクションの各データ・セットについて、次を指定します:

- 「**値**」で、プロットする必要がある値を選択します。たとえば、「金額」や「ステータス」です。
- 「**集約**」で、選択した値に対して実行する必要がある集約を選択します。このトピックの最後にある「集約を使用する際の考慮事項」を参照してください。
- (オプション) 「**カテゴリ**」で、データ・セット内のデータを分類するために使用する必要がある属性を選択します。カテゴリを使用して、グラフをより詳細に分割します。
- (オプション) 「**グループ化基準**」で、「日付」タイプのデータをグループ化する基準となる属性を選択します。

「**グループ化基準**」が日付に設定されている場合は、新しい列「**日付集約**」が表示されます。

- (オプション) 「**フィルタ**」で、「フィルタ」アイコンをクリックして、フィルタ条件を追加します。この条件により、チャート・ビュー内のデータ・セットに表示されるデータがさらに絞り込まれます。これは、データがチャート・ビューに含まれる前に適用されます。たとえば、「**値**」が「タスク」に設定されている場合、ステータスが「オープン」のタスクのみをプロットするフィルタを作成できます。

デフォルトでは、フィルタ条件の最初の句が、このフィルタのラベルとして表示されます。

4. 「**OK**」をクリックして、チャート・ビューの設定を保存します。

#### 例

タスク・マネージャについては、次を参照してください:

- 例: [タスク・ステータスを月別に表示するチャートの作成](#)
- 例: [予定終了日と実際の終了日の比較を表示するチャートの作成](#)
- 例: [タスクの実行を組織単位別に表示するチャートの作成](#)

補足データ・マネージャについては、次を参照してください:

- 例: [フォームとそのステータスを表示するチャートの作成](#)
- 例: [フォーム・テンプレートの期間とステータス\(説明付き\)を表示するチャートの作成](#)

エンタープライズ仕訳については、例: [策定者の仕訳の値を表示するチャートの作成](#)を参照してください

## チャートの軸の設定

チャートの軸のプロパティは、チャートの軸ラベルの視覚的な表示に影響します。チャートの X 軸およびプライマリ Y 軸とセカンダリ Y 軸のタイトルおよびラベルを作成できます。また、Y 軸のテキストおよび数値のフォーマットを編集し、両方の Y 軸のカスタム範囲を定義することもできます。

#### Note:

このタブは、「**タイプ**」が「ドーナツ」、「円」または「並べて表示」に設定されているチャート・ビューでは表示されません。



チャートの軸を定義するには:

1. 「チャートの編集」ダイアログの「軸」タブを開きます。
2. 「X軸」を選択し、次を指定します(「レイアウト」タブで「タイプ」が「日付」に設定されているチャート・ビューの場合のみ):
  - 間隔: 「自動」、「日次」、「月次」または「年次」を選択します。
  - 最大: 「自動」または「固定」を選択します。「固定」の場合、日付を選択します。
  - 最小: 「自動」または「固定」を選択します。「固定」の場合、日付を選択します。
3. 「Y軸」をクリックし、「最小」、「最大」、「主ユニット」および「副ユニット」に「自動」または「固定」を指定します。
4. 「プロパティ」タブでチャートに「二重-Y軸」が選択されている場合は、「二重-Y軸」をクリックし、「最小」、「最大」、「主ユニット」および「副ユニット」を指定します。
5. 「OK」をクリックして、チャート・ビューの設定を保存します。

## チャートの凡例の設定

凡例のプロパティは、チャートの凡例の視覚的な表示に影響します。

凡例の位置の変更、凡例のタイトルの表示、背景色および枠線の色の変更、およびチャート・ラベルのフォントおよびフォーマットの編集を行うことができます。

組合せチャートの場合、「凡例」タブには、「タイプ」という名前の新しい列が1つ含まれています。構成された凡例(系列)ごとにタイプを選択できます。たとえば、1つの凡例では「タイプ」=「棒」、もう1つの凡例では「タイプ」=「折れ線」とします。

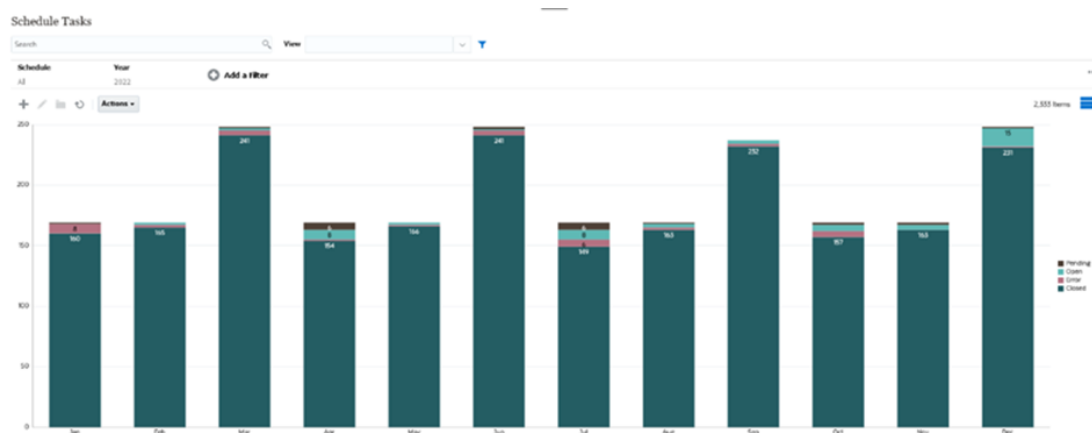
チャートの凡例を定義するには:

1. 「チャートの編集」ダイアログの「凡例」タブを開きます。
2. 「凡例の位置」で、チャート内の要素に対するデータ・ラベルの位置を選択します。使用可能なオプションは、「凡例なし」、「左」、「右」、「上」または「下」です。
3. 「パレット」で、チャート・ビューを表示するときに使用する色パレットを選択します。
4. 「系列」表では、「レイアウト」タブで指定した凡例ごとに1行が表示されます。データ・セットごとに、次を行います:
  - 「ラベル」に、チャートのこのデータ系列に表示する必要があるラベルを入力します。
  - セカンダリ Y 軸に表示する必要があるデータ系列の場合、「二重-Y」を選択します。
5. 「OK」をクリックして、チャート・ビューの設定を保存します。

## 例: タスク・ステータスを月別に表示するチャートの作成

この例では、すべてのタスクの完了ステータスを期間別に要約するチャートを作成します。これは、完了していない特定のタスクがあるかどうかを前期間比で特定するために役立ちます。

生成されたチャートは、下のように表示されます。チャート内の任意の領域をクリックしてドリルダウンし、集約されたその領域を構成する個々のレコードを表示します。



このチャートを作成するには:

1. ホームページで「**タスク**」をクリックします。「**スケジュール・タスク**」をクリックして、タスク・リストを表示します。
2. ページの右上にある「**ビュー・セレクト**」から、「**チャート・ビュー**」を選択します。デフォルトのチャートが表示された状態で、チャート・ビューが表示されます。
3. 右上にある「**編集**」をクリックして、「チャートの編集」ダイアログを表示します。
4. 「プロパティ」タブで、次のように指定します:
  - 「タイプ」で、「**縦棒**」を選択します。
  - 「**グリッド線**」の選択を解除します。
  - 「期間」で、「**選択**」を選択します。
5. 「**レイアウト**」タブで、次のように指定します:

**Edit Chart** [OK] [Cancel]

Properties **Layout** Axis Legend

X Axis

Type: Attribute

Attribute 1: Period

Attribute 2:

Legend (Series)

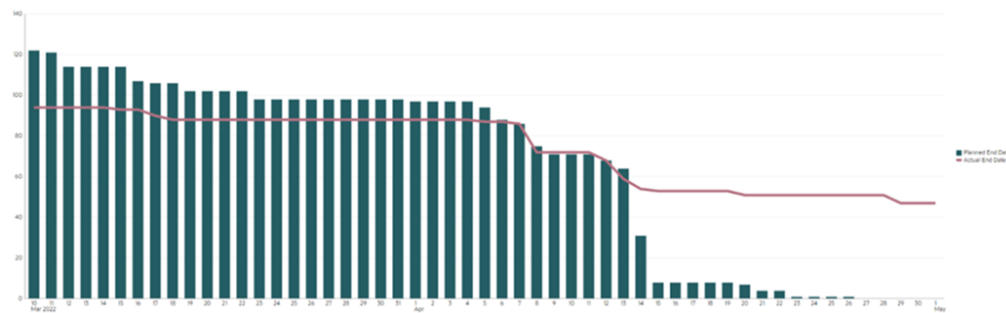
Value	Aggregation	Categories	Group By	Filter
Task	Count	Status		

- 「X 軸」 セクション:
    - 「タイプ」 で、「属性」 を選択します。
    - 「属性 1」 で、「期間」 を選択します。
  - 「凡例(系列)」 セクション:
    - 「値」 で、「タスク」 を選択します。
    - 「カテゴリ」 で、「ステータス」 を選択します。
6. 「軸」 タブで、デフォルト設定のままにします。
  7. 「凡例」 タブで、次のように指定します:
    - 「凡例の位置」 で、「右」 を選択します。
    - 「パレット」 で、「レッドウッド」 を選択します。
  8. 「OK」 をクリックします。

## 例: 予定終了日と実際の終了日の比較を表示するチャートの作成

この例では、タスクの完了の予定と実績の比較を一定期間にわたってビジュアル化し、スケジュールより早く進んでいるか、スケジュールより遅れているかを確認できるようにします。このチャートには、特定の日付以降のタスクの終了日がすべて表示されます。スケジュールの初期には多数のタスクが表示され、スケジュールの最後のタスクまで徐々に減っていきます。

生成されたチャートは、下のように表示されます。チャート内の任意の領域をクリックしてドリルダウンし、集約されたその領域を構成する個々のレコードを表示します。



このチャートを作成するには:

1. ホーム・ページで、「タスク」 をクリックした後、「スケジュール・タスク」 をクリックしてタスク・リストを表示します。
2. ページの右上にある「ビュー・セレクタ」 から、「チャート・ビュー」 を選択します。  
デフォルトのチャートが表示された状態で、チャート・ビューが表示されます。
3. 右上にある「編集」 アイコンをクリックして、「チャートの編集」 ダイアログを表示します。
4. 「プロパティ」 タブで、次のように指定します:

**Edit Chart [Task Burndown - Plan vs Actual End Date]** OK Cancel

Properties **Layout** Axis Legend

Title: Task Burndown - Plan vs

Type: Combination

Background:  No Fill  Solid  Gradient

Label Position:  No Label  Center  Above Point  Below Point  Before Point  After Point

Bar Label Position:  No Label  Center  Inside Edge  Outside Edge

Line Weight: 5

Grid Lines:

Missing Values as Zero:

Dual-Y Axis:

Period:  Selection  Latest in Selection  Prior from Selection

- 「タイプ」で、「組合せ」を選択します。
  - 「背景」で、「塗りつぶしなし」を選択します。
  - 「ラベルの位置」で、「ラベルなし」を選択します。
  - 「バーのラベルの位置」で、「ラベルなし」を選択します。
  - 「行の太さ」として「5」を選択します。
  - 「グリッド線」を選択します。
  - 「二重-Y 軸」の選択を解除します。
  - 「期間」で、「選択」を選択します。
5. 「レイアウト」タブで、次のように指定します:

Properties **Layout** Axis Legend

X Axis

Type: Date

Legend (Series)

Value	Aggregation	Categories	Group By	Date Aggregation	Filter
Task	Count	None	End Date (Assigned, l	On or After	
Task	Count	None	End Date (Actual, Local)	On or After	

- 「X 軸」セクションで、「タイプ」について、「日付」を選択します。
- 「凡例(系列)」セクションで、次の2つの値を入力します:  
1つ目のエントリ:
  - 「値」で、「タスク」を選択します。
  - 「カテゴリ」で、「なし」を選択します。
  - 「グループ化基準」で、「終了日(割当済)」を選択します
  - 「日付集約」で、「次以後」を選択します。

2つ目のエントリ:

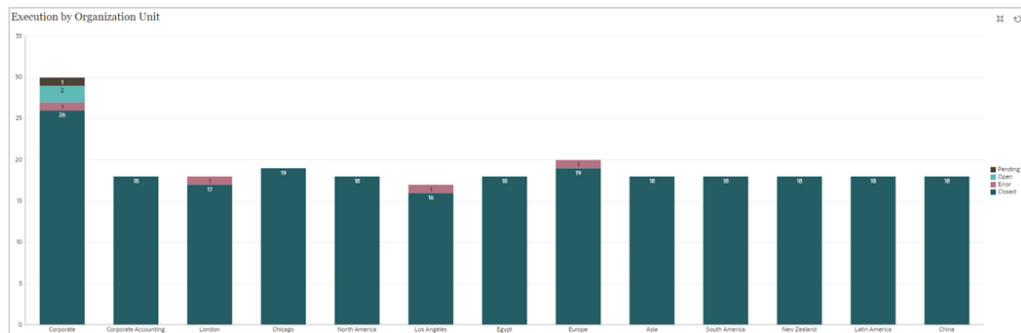
- 「値」で、「タスク」を選択します。
- 「カテゴリ」で、「なし」を選択します。
- 「グループ化基準」で、「終了日(実際、ローカル)」を選択します
- 「日付集約」で、「次以後」を選択します。

6. 「軸」タブで、デフォルト設定のままにします。
7. 「凡例」タブで、次のように指定します:
  - 「凡例の位置」で、「右」を選択します。
  - 「パレット」で、「レッドウッド」を選択します。
8. 「OK」をクリックします。

## 例: タスクの実行を組織単位別に表示するチャートの作成

この例では、タスクの完了を組織単位別に表示するチャートを作成して、それぞれの組織におけるタスクの完了状況をモニターできるようにします。

生成されたチャートは、次のように表示されます。チャート内の任意の領域をクリックしてドリルダウンし、集約されたその領域を構成する個々のレコードを表示します。



このチャートを作成するには:

1. ホームページで「タスク」をクリックします。「スケジュール・タスク」をクリックして、タスク・リストを表示します。
2. ページの右上にある「ビュー・セレクタ」から、「チャート・ビュー」を選択します。  
デフォルトのチャートが表示された状態で、チャート・ビューが表示されます。
3. 右上にある「編集」をクリックして、「チャートの編集」ダイアログを表示します。
4. 「プロパティ」タブで、次のように指定します:
  - 「タイプ」で、「縦棒」を選択します。
  - 「グリッド線」の選択を解除します。
  - 「期間」で、「選択」を選択します。
5. 「レイアウト」タブで、次のように指定します:

The screenshot shows the 'Edit Chart [Execution by Organization Unit]' dialog box. It has tabs for 'Properties', 'Layout', 'Axis', and 'Legend'. The 'X Axis' section includes a 'Type' dropdown set to 'Attribute', 'Attribute 1' dropdown set to 'Organizational Unit', and an empty 'Attribute 2' dropdown. The 'Legend (Series)' section has a table with columns: Value, Aggregation, Categories, Group By, and Filter. The 'Value' column is set to 'Task', 'Aggregation' to 'Count', and 'Categories' to 'Status'. There are also '+' and 'x' icons for adding or removing series.

- 「X 軸」セクション:
    - 「タイプ」で、「属性」を選択します。
    - 「属性 1」で、「組織単位」を選択します。
  - 「凡例(系列)」セクション:
    - 「値」で、「タスク」を選択します。
    - 「カテゴリ」で、「ステータス」を選択します。
6. 「軸」タブで、デフォルト設定のままにします。
  7. 「凡例」タブで、次のように指定します:
    - 「凡例の位置」で、「右」を選択します。
    - 「パレット」で、「レッドウッド」を選択します。
  8. 「OK」をクリックします。

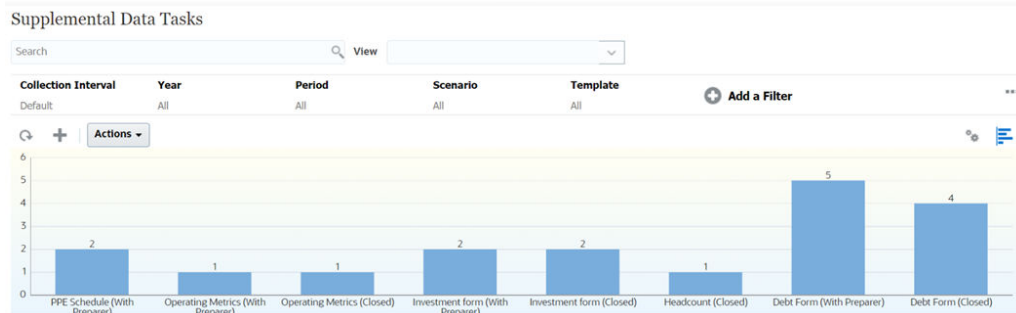
## 例: フォームとそのステータスを表示するチャートの作成

この例では、特定の補足データ・フォームのステータスを表示するチャートを作成します。

### Note:

これは、アプリケーション固有のデータに基づいた一般的な例であり、同様のチャートを独自のデータで設定する方法を説明するものではありません。

生成されたチャートは、次のように表示されます。チャート内の任意の領域をクリックしてドリルダウンし、集約されたその領域を構成する個々のレコードを表示します。



このチャートを作成するには:

1. ホームページで「**タスク**」をクリックします。「**補足データ・タスク**」をクリックして、補足データ・タスク・リストを表示します。
2. ページの右上にある「**ビュー・セレクタ**」から、「**チャート・ビュー**」を選択します。

デフォルトのチャートが表示された状態で、チャート・ビューが表示されます。

3. 右上にある「**編集**」をクリックして、「チャートの編集」ダイアログを表示します。
4. 「**プロパティ**」タブで、次のように指定します:

Properties Layout Axis Legend

Type: Bar

Background:  No Fill  Solid  Gradient

Label Position:  No Label  Center  Inside Edge  Outside Edge

Orientation:  Vertical  Horizontal

Grid Lines:

Missing Values as Zero:

Dual-Y Axis:

Period:  Selection  Latest in Selection  Prior from Selection

- 「**タイプ**」で、「**棒**」を選択します。
  - 「**背景**」で、「**単色**」を選択します。ドロップダウンから好みの色を選択します。
  - 「**グラデーション**」チェック・ボックスを選択します。好みの色を選択します。
  - 「**ラベルの位置**」で、「**エッジの外側**」を選択します。
  - 「**向き**」で、「**垂直**」を選択します。
  - 「**グリッド線**」を選択します。
  - 「**ゼロとしての欠落値**」の選択を解除します。
  - 「**二重-Y 軸**」の選択を解除します。
  - 「**期間**」で、「**選択**」を選択します。
5. 「**レイアウト**」タブで、次のように指定します:

Properties **Layout** Axis Legend

**X Axis**

Type: Attribute  
 Attribute 1: Template  
 Attribute 2: Status (Detailed)

Sort: Template  
 Descending

**Legend (Series)**

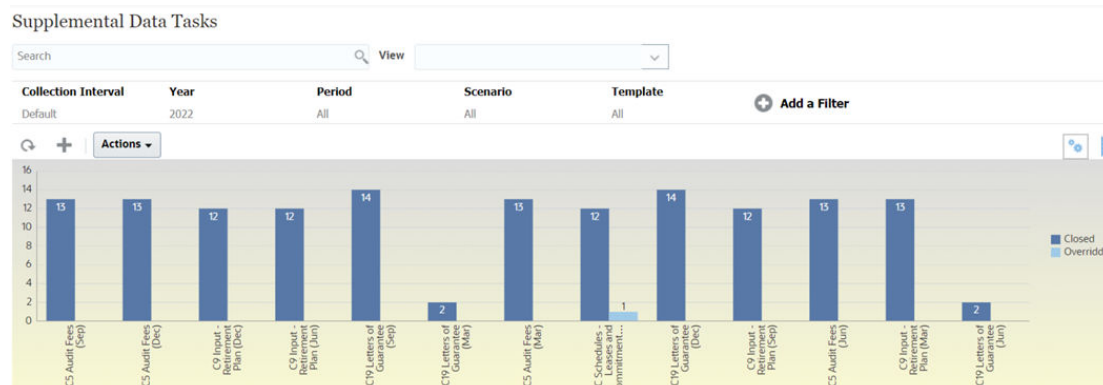
Value	Aggregation	Categories	Group By	Filter
Form	Count	None		

- 「X 軸」セクションで、「タイプ」について、「日付」を選択します。
- 「凡例(系列)」セクションで、次の 2 つの値を入力します:
  - 「値」で、「フォーム」を選択します。
  - 「カテゴリ」で、「なし」を選択します。
- 6. 「軸」タブで、デフォルト設定のままにします。
- 7. 「凡例」タブで、次のように指定します:
  - 「凡例の位置」で、「右」を選択します。
  - 「パレット」で、「レッドウッド」を選択します。
- 8. 「OK」をクリックします。

## 例: フォーム・テンプレートの期間とステータス(説明付き)を表示するチャートの作成

この例では、特定の補足データ・フォームの期間と詳細なステータスを表示するチャートを作成します。

生成されたチャートは、次のように表示されます。チャート内の任意の領域をクリックしてドリルダウンし、集約されたその領域を構成する個々のレコードを表示します。



このチャートを作成するには:



1. ホームページで「**タスク**」をクリックします。「**補足データ・タスク**」をクリックして、補足データ・タスク・リストを表示します。
2. ページの右上にある「**ビュー・セレクタ**」から、「**チャート・ビュー**」を選択します。

デフォルトのチャートが表示された状態で、チャート・ビューが表示されます。

3. 右上にある「**編集**」をクリックして、「チャートの編集」ダイアログを表示します。
4. 「**プロパティ**」タブで、次のように指定します:

Edit Chart OK Cancel

Properties **Layout** Axis Legend

Type: Bar

Background:  No Fill  Solid Color Picker Gradient  Color Picker

Label Position:  No Label  Center  Inside Edge  Outside Edge

Orientation:  Vertical  Horizontal

Grid Lines:

Missing Values as Zero:

Dual-Y Axis:

Period:  Selection  Latest in Selection  Prior from Selection Dropdown

- 「**タイプ**」で、「**棒**」を選択します。
  - 「**背景**」で、「**単色**」を選択します。ドロップダウンから好みの色を選択します。
  - 「**グラデーション**」を選択します。ドロップダウン・メニューから好みの色を選択します。
  - 「**ラベルの位置**」で、「**エッジの内側**」を選択します。
  - 「**向き**」で、「**垂直**」を選択します。
  - 「**グリッド線**」を選択します。
  - 「**ゼロとしての欠落値**」の選択を解除します。
  - 「**二重-Y 軸**」の選択を解除します。
  - 「**期間**」で、「**選択**」を選択します。
5. 「**レイアウト**」タブで、次のように指定します:

Edit Chart OK Cancel

Properties **Layout** Axis Legend

X Axis

Type: Attribute Attribute 1: Template Attribute 2: Period

Sort: Template Ascending

Legend (Series)

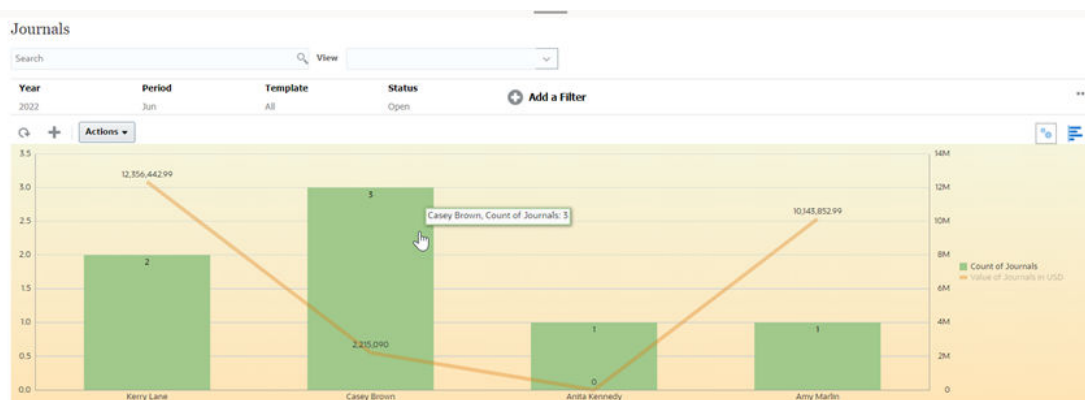
Value	Aggregation	Categories	Group By	Filter
Form	Count	Status (Detailed)		

- 「X 軸」セクションで、「タイプ」について、「属性」を選択します。「属性 1」について、「テンプレート」を選択します。「属性 2」について、「期間」を選択します。
  - 「凡例(系列)」セクションで、次の 2 つの値を入力します:
    - 「値」で、「フォーム」を選択します。
    - 「カテゴリ」で、「ステータス(詳細)」を選択します。
6. 「軸」タブで、デフォルト設定のままにします。
  7. 「凡例」タブで、次のように指定します:
    - 「凡例の位置」で、「右」を選択します。
    - 「パレット」で、「レッドウッド」を選択します。
  8. 「OK」をクリックします。

## 例: 策定者の仕訳の値を表示するチャートの作成

この例では、それぞれの策定者に属する仕訳の値を表示するチャートを作成します。

生成されたチャートは、次のように表示されます。チャート内の任意の領域をクリックしてドリルダウンし、集約されたその領域を構成する個々のレコードを表示します。Casey Brown は仕訳を 3 つ持っていますが、仕訳が 2 つのみの Kerry Lane よりも仕訳の値が少ないことがわかります。



このチャートを作成するには:

1. ホーム・ページで、「エンタープライズ仕訳」をクリックしてエンタープライズ仕訳リストを表示します。
2. ページの右上にある「ビュー・セレクタ」から、「チャート・ビュー」を選択します。デフォルトのチャートが表示された状態で、チャート・ビューが表示されます。
3. 右上にある「編集」をクリックして、「チャートの編集」ダイアログを表示します。
4. 「プロパティ」タブで、次のように指定します:

**Edit Chart** [OK] [Cancel]

Properties **Layout** Axis Legend

Type: Combination

Background:  No Fill  Solid [Color Picker] Gradient  [Color Picker]

Label Position:  No Label  Center  Above Point  Below Point  Before Point  After Point

Bar Label Position:  No Label  Center  Inside Edge  Outside Edge

Line Weight: 5 [Up] [Down]

Grid Lines:

Missing Values as Zero:

Dual-Y Axis:

Period:  Selection  Latest in Selection  Prior from Selection [Up] [Down]

- 「タイプ」で、「組合せ」を選択します。
- 「背景」で、「単色」を選択します。ドロップダウンから好みの色を選択します。
- 「グラデーション」チェック・ボックスを選択します。好みの色を選択します。
- 「ラベルの位置」で、「上の点」を選択します。
- 「バーのラベルの位置」で、「エッジの内側」を選択します。
- 「行の太さ」で、「5」を選択します。
- 「行の太さ」として「5」を選択します。
- 「グリッド線」を選択します。
- 「ゼロとしての欠落値」の選択を解除します。
- 「二重-Y 軸」を選択します。
- 「期間」で、「選択」を選択します。

5. 「レイアウト」タブで、次のように指定します:

**Edit Chart** [OK] [Cancel]

Properties **Layout** Axis Legend

**X Axis**

Type: Attribute Attribute 1: Preparer Attribute 2: [Dropdown]

Sort: Preparer Descending

**Legend (Series)**

Value	Aggregation	Categories	Group By	Filter
Total (Journal Line It...	Sum	None		
Journal	Count	None		

- 「X 軸」セクションで、「タイプ」について、「属性」を選択します。
- 「属性 1」について、「策定者」を選択します。
- 「ソート」で、「策定者」および「降順」を選択します。
- 「凡例(系列)」セクションで、次の 2 つの値を入力します:

- 1つ目のエントリ:
    - \* 「値」で、**合計(仕訳ライン・アイテム)**を選択します。
    - \* 「集約」で、「合計」を選択します。
    - \* 「カテゴリ」で、「なし」を選択します。
  - 2つ目のエントリ:
    - \* 「値」で、「仕訳」を選択します。
    - \* 「集約」で、「数」を選択します。
    - \* 「カテゴリ」で、「なし」を選択します。
6. 「軸」タブで、デフォルト設定のままにします。
7. 「凡例」タブで、次のように指定します:

Series	Label	Color	Dual-Y	Type
Total (Journal Line Items Debit)	Value of Journals in USD	Orange	<input checked="" type="checkbox"/>	Line
Count	Count of Journals	Green	<input type="checkbox"/>	Bar

- 「凡例の位置」で、「右」を選択します。
  - 「パレット」で、「レッドウッド・ライト」を選択します。
  - 「系列 1」について、**合計(仕訳ライン・アイテム借方)**を選択し、「ラベル」として **Value of Journals in USD** を入力して、「二重-Y」を選択し、「タイプ」として「折れ線」を選択します。
  - 「系列 2」について、「数」を選択し、「ラベル」として **Count of Journals** を入力して、「タイプ」として「棒」を選択します。
8. 「OK」をクリックします。

## ガント・チャート・ビューでの作業

ガント・チャートには、タスクの期間とそれらの依存関係をグラフィカルに表す、スケジュールの時系列が表示されます。タスク間の先行関係を表示できます。棒は期間を表し、矢印は依存関係を表します。また、階層内のタスクの親子関係を表示することもできます。

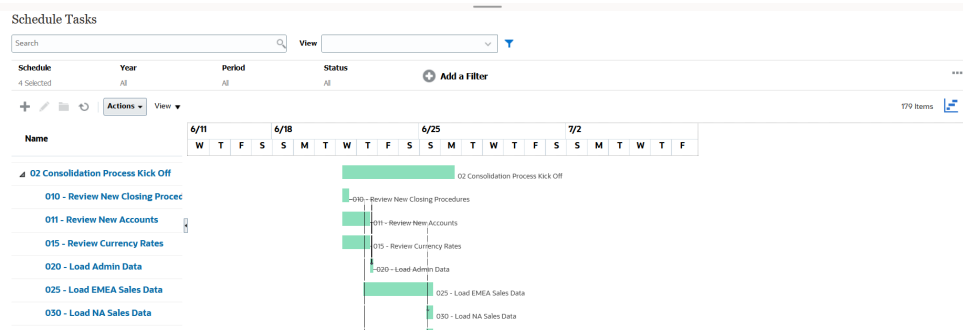
テンプレートを作成する際に「ガント・チャート」ビューを使用することを選択し、タスク間の先行関係を表示したり、スケジュールにタスクを追加した後で優先順序を確認することができます。

「ガント・チャート」ビューは、**スケジュール済タスク**で使用できます。

ガント・チャートでデータを表示するには:

1. ホーム・ページで、「タスク」、「スケジュール・タスク」の順にクリックします。
2. 「ビュー・セレクト」アイコンをクリックし、「ガント・チャート」を選択します。

スケジュール・タスクのデータが「ガント・チャート」ビューに次のように表示されます。



## カレンダー・ビューでの作業

カレンダー・ビューには、すべてのスケジュール済タスクが、月、週または日に基づいて従来のカレンダー・フォーマットで表示されます。

「月」ビューには、標準的なカレンダー・フォーマットの日が表示されます。

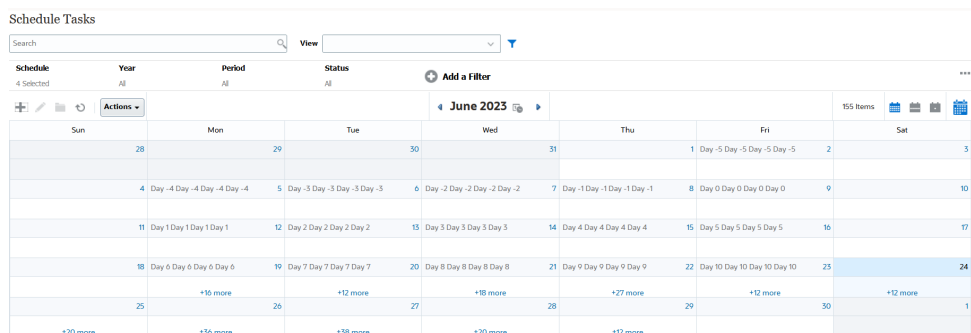
「週」ビューには、指定された週のタスクが表示されます。1番上のセクションには、複数の日にまたがるタスクが表示されます。2番目のセクションには、1日に含まれるタスクが表示されます。タスクは1日の各時間にまたがって縦方向に表示されます。

「日」ビューは、24時間に焦点を当てています。

カレンダー・ビューでスケジュール済タスクを表示するには:

1. ホーム・ページで、「タスク」、「スケジュール・タスク」の順にクリックします。
2. 「ビュー・セレクタ」アイコンをクリックし、「カレンダー・ビュー」を選択します。スケジュール・タスクのデータがカレンダー・ビューに表示されます。カレンダー・アイコンを使用して、「月」、「週」または「日」を選択します。カレンダー・ビューでは、「日」ヘッダーで「日ラベル」を表示することもできます。

次のイメージは、カレンダー・ビューの1か月間のスケジュール済タスクを示しています。



## ビューの保存

ビューを保存すると、ビューの定義および設定を保存できます。このビューで設定されたフォーマットでデータを表示する必要がある場合は、必要なビューのプロパティを再度設定するのではなく、保存済ビューを使用できます。

保存済ビューのスコープは、そのベースとなるオブジェクトに制限されます。たとえば、タスクを使用して保存済ビューを作成した場合は、それを仕訳では使用できません。特定の補足データ・セットの保存済ビューは、別のデータ・セットでは使用できません。そのため、これは特定のフォームまたはコレクション内でのみ使用できます。

ビューを保存するには:

1. リストでフィルタ、列またはソートを調整し、目的のデータが表示されるようビューを調整します。[フィルタ・バーを使用した表示の調整](#)を参照してください。
2. 「アクション」で「ビューの保存」をクリックします。
3. 「ビューの保存」ダイアログで、名前(最大 80 文字を入力可能)およびオプションの説明(最大 255 文字を入力可能)を入力します。
4. 「OK」をクリックします。

「表示」ドロップダウン・セレクタをクリックすると、すべての保存済リストを表示できます。

## 保存済ビューの編集

保存済のリスト・ビュー、ピボット・ビューまたはチャート・ビューを編集して、その名前や定義を変更します。

ビューを編集するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」、「ビュー」の順にクリックします。  
使用可能なビューのリストが表示されます。
2. 特定のビューを選択し、「編集」アイコンをクリックします。ビューの「...」アイコンをクリックし、「編集」を選択することもできます。
3. 必要な情報を更新し、「OK」をクリックします。

ビューを編集するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「補足データ」、「ビュー」の順にクリックします。  
使用可能なビューのリストが表示されます。
2. 特定のビューを選択し、「編集」アイコンをクリックします。ビューの「...」アイコンをクリックし、「編集」を選択することもできます。
3. 必要な情報を更新し、「OK」をクリックします。

ビューを編集するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「エンタープライズ仕訳」、「ビュー」の順にクリックします。  
使用可能なビューのリストが表示されます。
2. 特定のビューを選択し、「編集」アイコンをクリックします。ビューの「...」アイコンをクリックし、「編集」を選択することもできます。
3. 必要な情報を更新し、「OK」をクリックします。

## ビューの発行

管理者またはパワー・ユーザーは、プライベート・ビューを他のユーザーが使用できるようにビューを発行できます。保存されたビューは、複製され、プライベート・バージョンとパブリック・バージョンになります。

ビューを発行するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」、「**ビュー**」の順にクリックします。

使用可能なビューのリストが表示されます。

2. 特定のビューを選択し、「**発行**」アイコンをクリックします。ビューの「**...**」アイコンをクリックし、「**発行**」を選択することもできます。

保存されたビューは、複製され、プライベート・バージョンとパブリック・バージョンになります。パブリック・バージョンは「**パブリック**」列にチェック・マークが表示されます。

ビューを発行するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**補足データ**」、「**ビュー**」の順にクリックします。

使用可能なビューのリストが表示されます。

2. 特定のビューを選択し、「**発行**」アイコンをクリックします。ビューの「**...**」アイコンをクリックし、「**発行**」を選択することもできます。

保存されたビューは、複製され、プライベート・バージョンとパブリック・バージョンになります。パブリック・バージョンは「**パブリック**」列にチェック・マークが表示されます。

ビューを発行するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**エンタープライズ仕訳**」、「**ビュー**」の順にクリックします。

使用可能なビューのリストが表示されます。

2. 特定のビューを選択し、「**発行**」アイコンをクリックします。ビューの「**...**」アイコンをクリックし、「**発行**」を選択することもできます。

保存されたビューは、複製され、プライベート・バージョンとパブリック・バージョンになります。パブリック・バージョンは「**パブリック**」列にチェック・マークが表示されます。

## デフォルト・ビューの設定

サービス管理者またはパワー・ユーザーは、発行済ビューおよび保存済ビューをデフォルト・ビューとして設定できます。

ユーザーが初めてビューを開くと、デフォルト・ビューが表示されます。システムは、使用されたビュー設定を記憶します。そのため、次回ビューを開くと、最後に使用された設定が表示されます。

デフォルト・ビューを設定するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 「ビュー」タブをクリックして、「ビュー」ページを表示します。
3. デフォルトとして設定するビューを選択し、「デフォルトの設定」アイコンをクリックします。  
または、デフォルトとして設定するビューの「アクション」メニューをクリックし、「デフォルトの設定」を選択します。

デフォルト・ビューを設定するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「補足データ」の順にクリックします。
2. 「ビュー」タブをクリックして、「ビュー」ページを表示します。
3. デフォルトとして設定するビューを選択し、「デフォルトの設定」アイコンをクリックします。  
または、デフォルトとして設定するビューの「アクション」メニューをクリックし、「デフォルトの設定」を選択します。

デフォルト・ビューを設定するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「エンタープライズ仕訳」の順にクリックします。
2. 「ビュー」タブをクリックして、「ビュー」ページを表示します。
3. デフォルトとして設定するビューを選択し、「デフォルトの設定」アイコンをクリックします。  
または、デフォルトとして設定するビューの「アクション」メニューをクリックし、「デフォルトの設定」を選択します。

#### Note:

「デフォルトの設定」アクションは、公開されたリスト・ビューに対して使用できません。管理者またはパワー・ユーザーがビューをデフォルトに設定すると、保存済リスト・ビューがそのビュー・タイプのすべてのユーザーに使用可能になるだけでなく、ユーザーがそのビュー・タイプを開いたときにデフォルトで選択されます。

## リスト・ビューおよびピボット・ビューのエクスポート

リスト・ビューおよびピボット・ビューのレコードを Microsoft Excel にエクスポートできます。

リスト・ビューまたはピボット・ビューをエクスポートするには:

1. エクスポートする必要があるリスト・ビューまたはピボット・ビューにナビゲートします。
2. 「アクション」、「Excel にエクスポート」の順にクリックします。

エクスポートしたデータが Excel ファイルに格納され、ダウンロード可能になります。Excel ファイルの形式は、「Excel にエクスポート」の設定に応じて.xls または.xlsx になります。



# 操作ダッシュボードの管理

## 関連トピック

- [操作ダッシュボードの概要](#)
- [操作ダッシュボードを表示する/開く](#)
- [操作ダッシュボード: デザイン・モード](#)
- [操作ダッシュボードの作成](#)
- [操作ダッシュボード内でのオブジェクト・タイプの設定](#)
- [操作ダッシュボードのビュー・オプションの指定](#)
- [操作ダッシュボードの編集](#)
- [操作ダッシュボードの複製](#)
- [操作ダッシュボードの削除](#)
- [操作ダッシュボードのエクスポート](#)
- [操作ダッシュボードのインポート](#)
- [操作ダッシュボードの実行](#)
- [操作ダッシュボードを表示するための列の表示](#)
- [操作ダッシュボードを表示するための列の順序変更](#)
- [操作ダッシュボードの URL のコピー](#)
- [操作ダッシュボード内に表示されているデータへのフィルタの適用](#)
- [例: タスク・マネージャの操作ダッシュボード](#)
- [例: 補足データ・マネージャのダッシュボード](#)
- [例: エンタープライズ仕訳のダッシュボード](#)

## 操作ダッシュボードの概要

ダッシュボードでは、強化されたレポート機能が提供されます。ユーザーは、主要なビジネス・データについてチャート作成、評価および(場合によっては)変更を行うことができます。

### 操作ダッシュボードについて

操作ダッシュボードにより、ビジネス・プロセスの可視性が向上します。

各ダッシュボードには最大 4 つのビューを含めることができます。これには、リスト・ビュー、ピボット・ビューまたはチャート・ビューが含まれます。一度に最大 10 個のダッシュボードを開くことができます。サービス管理者、または「操作ダッシュボード - 管理」役割を付与されたユーザーは、ダッシュボードを作成できます。ダッシュボード作成者は、1 つ以上のユーザー、グループまたはチームに権限を付与することで、ダッシュボードへのアクセスを制御することもできます。ダッシュボードへのアクセス権が付与されたユーザーは、ダッ

ュボードを実行してそのデータを表示できます。このアクセス権では、ユーザーはダッシュボードの表示のみ可能です。これにより、基礎となるデータへのアクセス権が拡張されるわけではありません。そのため、ユーザーはサービス内の自分のアクセス権に基づいてのみレコードを表示できます。

### 操作ダッシュボードの機能

ダッシュボードには次の機能が用意されています:

- 様々なチャート・タイプを使用してデータに対話的にビジュアル化します
- ビジネス・プロセスのパフォーマンスに関する概要レベルのインサイトと詳細なインサイトの両方を得られます
- ダッシュボード・レベルおよび個々のビュー・レベルでフィルタを作成します  
ダッシュボード・レベルで作成されたフィルタは、ダッシュボード内のすべてのビューに適用されます。その後、ビュー・レベルで定義されたフィルタ(存在する場合)が適用されます。
- ダッシュボードを表示するためのアクセス権を制御します

## 操作ダッシュボードを表示する/開く

### 既存のダッシュボードの表示

ダッシュボードを表示するには、「ホーム」で、「ダッシュボード」、「操作ダッシュボード」の順にクリックします。

「操作ダッシュボード」ページに、既存のダッシュボードのリストが表示されます。



### ダッシュボードを開く

ダッシュボードを開くには:

1. 「操作ダッシュボード」ページにアクセスします。このページには、既存の操作ダッシュボードのリストが表示されます
2. (オプション) 「検索」ボックスを使用して、特定のダッシュボードを検索します。
3. 開くダッシュボードの名前をクリックします。

ダッシュボードは、「操作ダッシュボード」タブの横にある新しい動的タブ内を開きます。

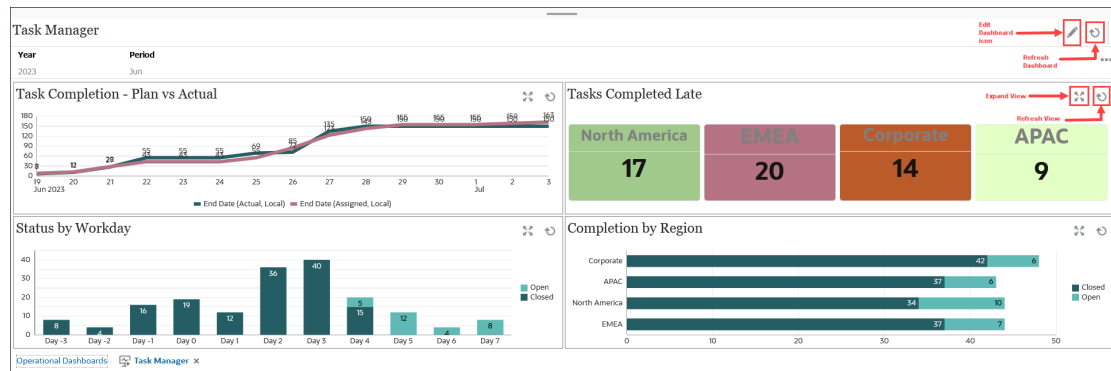
ダッシュボードでは次のアクションを実行できます:

- 任意のビューで領域または合計をクリックして、その領域または合計を構成する個々のレコードにドリルダウンします。
-  アイコンを使用して、ダッシュボード設定を編集します。
-  アイコンを使用して(ダッシュボード・レベル)、ダッシュボードのすべてのビューをリフレッシュします。
- ダッシュボード・レベルで作成されたフィルタを使用します。操作ダッシュボード内に表示されているデータへのフィルタの適用を参照してください。

ダッシュボードの各ビューでは、次のことが可能です:

- アイコンを使用して(ダッシュボード・レベル)、ダッシュボードのすべてのビューをリフレッシュします。
- アイコンを使用して、ダッシュボード・ビューのビューを展開または縮小します。
- ビュー・レベルで定義されたフィルタを使用します。操作ダッシュボード内に表示されているデータへのフィルタの適用を参照してください。

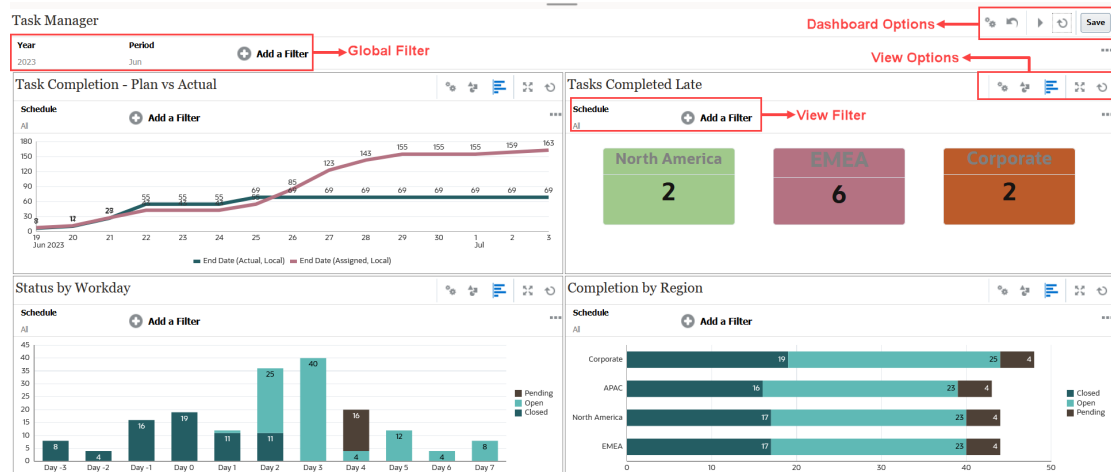
次のイメージは、ダッシュボードを開いたときに使用できるオプションを示しています。



## 操作ダッシュボード: デザイン・モード


ダッシュボードのデザイン・モードでは、ダッシュボードとそのコンポーネント(チャート・ビュー、リスト・ビューおよびピボット・ビュー)を構成および管理できます。

この画像は、操作ダッシュボードのデザイン・モードを示しています。このダッシュボードには、チャート・ビューとピボット・ビューが1つずつ含まれています。



右上には、ダッシュボードを管理するための次のオプションがあります:

- **設定**  
ダッシュボードのプロパティを編集します。
- **元に戻す**  
ダッシュボードのプロパティに加えた変更を元に戻します。

- ▶ **実行**  
ダッシュボードを実行します。  
データが動的にフェッチされてダッシュボードに表示されます。権限を付与されたユーザーのみがダッシュボードのデータを表示できます。  
「実行」モードでは、「リフレッシュ」オプションと「展開」オプションのみがユーザーに表示されます。
- 🔄 **リフレッシュ**  
ダッシュボードとそこに含まれるすべてのビューに表示されているデータをリフレッシュします。
-  **保存**  
ダッシュボードのプロパティに加えた変更を保存します。  
ダッシュボード内のそれぞれのビュー(リスト、チャートまたはピボット)には、次のオプションが含まれています:
- ⚙️ **設定**  
チャート、リストまたはピボット・ビューのプロパティを編集します。
- 📁 **オブジェクト・タイプ**  
オプションは、「タスク」、「アラート」、「補足データ・フォーム」、「補足データ」、「エンタープライズ仕訳」および「エンタープライズ仕訳ライン・アイテム」です。
- ☰ **ビュー・セレクト**  
オプションは、「チャート・ビュー」、「リスト・ビュー」または「ピボット・ビュー」です。
- 📄 **展開**  
ダッシュボード領域全体にビューを表示します。  
このオプションは、ダッシュボードに複数のビューが含まれている場合にのみ表示されます。
- 🔄 **リフレッシュ**  
ビューに表示されているデータをリフレッシュします。

## 操作ダッシュボードの作成

サービス管理者と、「操作ダッシュボード - 管理」役割を付与されたユーザーは、ダッシュボードを作成できます。

ダッシュボードを作成するには:

1. **ホーム**から、「**ダッシュボード**」、「**操作ダッシュボード**」の順にクリックします。  
操作ダッシュボード・ページが既存のダッシュボードのリストとともに表示されます。
2. 「**新規**」アイコンをクリックします。

新しいダッシュボードが新しいタブに開きます。そこには、次のものが含まれています:

- 新規ダッシュボード#というフォーマットのデフォルトの名前。
  - 1つの空のビュー(リスト・ビュー、ピボット・ビューまたはチャート・ビュー)
  - ダッシュボードおよびダッシュボード内のビューのオプションに対応する2つのアイコン・セット(右上)。操作ダッシュボード: デザイン・モードを参照してください。
  - ダッシュボード・レベルでデータをフィルタするためのフィルタ。フィルタを追加するには、「**フィルタの追加**」をクリックします。
3. ダッシュボードに対応するアイコン・セットで、「**設定**」アイコンをクリックします。「ダッシュボードの編集」ダイアログが表示されます。
  4. 「**プロパティ**」タブで、必要なダッシュボード・プロパティを指定します。  
操作ダッシュボードのプロパティの定義を参照してください。
  5. 「**アクセス**」タブをクリックして、このダッシュボードへのアクセス権をユーザー、グループまたはチームに付与します。アクセス権を付与されたユーザーは、このダッシュボードを実行し、そのデータを表示できます。  
操作ダッシュボードへのアクセスの定義を参照してください。
  6. 「**OK**」をクリックします。  
ダッシュボード・レイアウトで指定されたそれぞれの領域について、個別の領域とそれに対応するアイコンが表示されます。たとえば、「**レイアウト**」を「**グリッド**」に設定した場合、4つの個別の領域がページに表示されます。
  7. ダッシュボード内のそれぞれの領域について、データをビジュアル化するための基準となるオブジェクト・タイプを設定します。操作ダッシュボード内でのオブジェクト・タイプの設定を参照してください。
  8. ダッシュボード内のそれぞれの領域について、「**ビュー・セレクト**」アイコンをクリックし、ビューのタイプを指定します。操作ダッシュボードのビュー・オプションの指定を参照してください。
  9. それぞれのビューについて、「**設定**」をクリックし、そのビューの設定を指定します。
    - **チャート・ビューの作成**を参照してください。
    - **リスト・ビューでの作業**を参照してください。
    - **ピボット・ビューでの作業**を参照してください。
  10. 「**保存**」をクリックして、ダッシュボードの設定を保存します。

## 操作ダッシュボードのプロパティの定義

ダッシュボードのプロパティには、名前、説明、枠線、背景およびレイアウトが含まれます。

ダッシュボードのプロパティを定義するには:

1. 「ダッシュボードの編集」ダイアログの「**プロパティ**」タブを開きます。
2. 「**名前**」に、ダッシュボードの一意の名前を入力します。
3. 「**説明**」に、ダッシュボードのオプションの説明を入力します。
4. 「**枠線**」を選択して、ダッシュボード内のそれぞれのビューの周囲に枠線を表示します。

5. 「**グローバル・フィルタ・バー**」を選択して、ダッシュボードにグローバル・フィルタ・バーを含めます。このフィルタ・バーは、ダッシュボード内のすべてのビューに適用されます。
6. 「**フィルタ・バーの表示**」を選択して、ダッシュボードの実行時にビューレベルのフィルタを表示します。
7. 「**背景**」で、次のいずれかを選択します:
  - 塗りつぶしなし
  - 単色: 背景色として使用する必要がある色を選択します。オプションで、「**グラデーション**」を選択した後、色を選択します。
8. 「**レイアウト**」で、ダッシュボードを分割する領域の数(ビューごとに1つ)を指定します。領域の最大数は4つです。

次のいずれかを選択します。

  - 単一  
単一のビューが表示されます
  - 水平  
2つのビューが上下に表示されます  
**「水平分割」**を使用して、画面領域を2つのビュー間でどのように分割するかを指定します。
  - 垂直  
2つのビューが横に並んで表示されます  
**「垂直分割」**を使用して、画面領域を2つのビュー間でどのように分割するかを指定します。たとえば、「**垂直分割**」を30に設定した場合、ダッシュボードの上部に表示されるチャートがダッシュボード・スペースの30%を使用します。2つ目のチャートは、ダッシュボードの残りの70%を使用します。
  - グリッド  
ダッシュボードに4つのビューが表示されます
9. 「**OK**」をクリックして、ダッシュボードの設定を保存します。

## 操作ダッシュボードへのアクセスの定義

サービス管理者および「操作ダッシュボード - 管理」役割を付与されたユーザーは、特定のユーザー、グループまたはチームにこのダッシュボードへのアクセス権を付与できます。このようなユーザーは、ダッシュボードを実行し、そのデータを表示できます。

ダッシュボードを実行するためのアクセス権を追加するには:

1. 「ダッシュボードの編集」ダイアログの「**アクセス**」タブを開きます。

デフォルトでは、ダッシュボードを作成したユーザーのエントリが1つあります。
2. 「**追加**」アイコンをクリックします。

**「ユーザーの選択」**ダイアログが表示されます。
3. 「**ユーザーの選択**」アイコンをクリックし、「**ユーザー**」、「**グループ**」または「**チーム**」のいずれかを選択します。

デフォルトの選択は「**ユーザー**」です。

4. 名前または説明を入力し、「**検索**」をクリックします。
  - 「**検索**」をクリックして、使用可能なユーザー、グループまたはチームのリスト全体を表示できます。たとえば、グループの名前が不明な場合、「**ユーザーの選択**」アイコンを使用して「グループ」を選択し、「**検索**」をクリックします。使用可能なグループのリストが表示されます。
  - ユーザーを選択する場合は、「**詳細**」をクリックして「**ユーザー ID**」および「**電子メール**」フィールドを表示します。ユーザーの検索中にこれらの属性を使用することもできます。
5. アクセス権を付与するユーザー名、グループ名またはチーム名をダブルクリックします。選択した名前が「**アクセス**」タブに表示されます。この名前をクリックすると、詳細を表示できます。
6. 「**OK**」をクリックして、ダッシュボードの設定を保存します。

#### **Note:**

サービス管理者と、「タスク・マネージャ - ダッシュボードの管理」のアプリケーション役割を付与されたユーザーは、すべてのダッシュボードを表示および編集できます。

ダッシュボードを実行するためのアクセス権を削除するには:

1. アクセスを設定するダッシュボードについて、「ダッシュボードの編集」ダイアログの「**アクセス**」タブを開きます。  
ダッシュボードを実行するための権限を付与されたユーザー、グループおよびチームが「**名前**」の下にリストされます。
2. ダッシュボードを実行する権限を取り消す必要があるユーザー、グループまたはチームの名前をクリックします。  
複数のアイテムを選択するには、**[Ctrl]**キーを押しながら目的のアイテムを選択します。
3. 「**削除**」、「**OK**」の順にクリックします

## 操作ダッシュボード内でのオブジェクト・タイプの設定

ダッシュボードのプロパティおよびアクセス権を設定した後、各ビューでレポートまたはビジュアル化するデータ・タイプを選択できます。

ビュー内のすべてのデータ、メタデータ、フィルタなどは、このオブジェクト・タイプに基づきます。各ビューで使用できるオブジェクト・タイプは1つのみですが、ビュー間で異なる場合があります。

Financial Consolidation and Close では、次のオブジェクト・タイプを使用できます:

- タスク
- アラート
- 補足データ・フォーム

- 補足データ
- エンタープライズ仕訳
- エンタープライズ仕訳ライン・アイテム

オブジェクト・タイプを指定するには:

1. 「操作ダッシュボード」ページから操作ダッシュボードを開きます。
2. 「**オブジェクト**」アイコンをクリックし、必要なオブジェクトを選択します。
3. 「**保存**」をクリックして、設定を保存します。

オブジェクト・タイプを変更すると、領域内のすべての設定がリセットされます。

 **Note:**

管理者が「**機能の有効化**」オプションを使用して既存の環境(補足データ・マネージャまたはエンタープライズ仕訳)でモジュールをオンにした場合、ユーザーは日次メンテナンスが実行されるまでそのモジュールのオブジェクト・タイプを表示できません。

## 操作ダッシュボードのビュー・オプションの指定

ダッシュボード内でオブジェクト・タイプを指定した後、リスト・ビュー、ピボット・ビュー、チャート・ビューなどのビューを選択して、ダッシュボード内にデータを表示できます。

ビュー・オプションを指定するには:

1. 「操作ダッシュボード」ページで、ビュー・オプションを指定するダッシュボードを開きます。
2. 「**ビュー・セレクタ**」アイコンをクリックし、次のいずれかを選択します:
  - リスト・ビュー
  - ピボット・ビュー
  - チャート・ビュー
3. 「**ビュー・セレクタ**」アイコンに対応する「**設定**」アイコンをクリックし、ビュー・オプションを指定します。
  - リスト・ビューについては、[リスト・ビューでの作業](#)を参照してください。
  - ピボット・ビューについては、[ピボット・ビューでの作業](#)を参照してください。
  - チャート・ビューについては、[チャート・ビューの作成](#)を参照してください。データは、指定されたビュー設定に基づいてダッシュボード内に表示されます。
4. 「**保存**」をクリックします。



## 操作ダッシュボードの編集

サービス管理者は、ダッシュボードを編集して、そのプロパティとアクセス権限を変更できます。

ダッシュボードを編集するには:

1. ホームから、「ダッシュボード」、「操作ダッシュボード」の順にクリックします。
2. 編集するダッシュボードをクリックし、「編集」アイコンをクリックするか、「アクション」アイコンをクリックし、「編集」をクリックします。  
ダッシュボード・デザイナーが表示されます。  
  
また、ダッシュボードを実行モードで表示している場合は、「編集」アイコンをクリックしてデザイン・モードに切り替えることができます。
3. 「設定」をクリックして、「ダッシュボードの編集」ダイアログを表示します。
4. 「プロパティ」タブと「アクセス」タブを使用して、目的のプロパティを変更します。  
[操作ダッシュボードのプロパティの定義](#)および[操作ダッシュボードへのアクセスの定義](#)を参照してください。
5. 「OK」をクリックします。

## 操作ダッシュボードの複製

ダッシュボードを複製するには:

1. ホームから、「ダッシュボード」、「操作ダッシュボード」の順にクリックします。
2. 複製するダッシュボードを選択し、「複製」アイコンをクリックします。「アクション」アイコンをクリックし、「複製」をクリックすることもできます。  
ダッシュボード・デザイナーで「<ダッシュボード名>のコピー」タブが開きます。
3. プロパティ、アクセスおよびビュー・オプションを指定します。
4. 「保存」をクリックして、ダッシュボードを保存します。

## 操作ダッシュボードの削除

ダッシュボードを削除するには:

1. ホームから、「ダッシュボード」、「操作ダッシュボード」の順にクリックします。
2. 削除するダッシュボードをクリックし、「削除」アイコンをクリックします。「アクション」アイコンをクリックし、「削除」をクリックすることもできます。  
  
確認を求めるメッセージが表示されます。
3. 「はい」をクリックします。  
  
ダッシュボードが削除され、操作ダッシュボード・ページに表示されなくなります。

## 操作ダッシュボードのエクスポート

ダッシュボードの定義を XML ファイルにエクスポートできます。エクスポート機能を使用すると、異なるビジネス・プロセス間でダッシュボードの定義をコピーできます。

 **Note:**

操作ダッシュボードをエクスポートするには、ダッシュボードの管理権限が必要です。

ダッシュボードをエクスポートするには:

1. **ホーム**から、「**ダッシュボード**」、「**操作ダッシュボード**」の順にクリックします。  
操作ダッシュボード・ページが表示されます。
2. エクスポートするダッシュボードを 1 つ以上選択し、「**エクスポート**」アイコンをクリックします。  
「エクスポート・ダッシュボード」ダイアログが表示されます。
3. 次のいずれかを選択します。
  - **すべての行:** 既存の操作ダッシュボードをすべてエクスポートします
  - **選択した行:** 前のステップで選択したダッシュボードをエクスポートします。
4. 「**エクスポート**」をクリックします。  
指定したダッシュボードが、*Dashboard.json* という名前の JSON ファイルとしてエクスポートされます。

## 操作ダッシュボードのインポート

サービス管理者は、「**エクスポート**」オプションを使用して以前にエクスポートされたダッシュボードをインポートできます

 **Note:**

操作ダッシュボードをインポートするには、「ダッシュボードの管理」権限が必要です。

ダッシュボードをインポートするには:

1. **ホーム**から、「**ダッシュボード**」、「**操作ダッシュボード**」の順にクリックします。  
操作ダッシュボード・ページが表示されます。
2. 「**インポート**」をクリックします。  
操作ダッシュボードのインポート・ダイアログが表示されます。
3. 「**ファイル**」で「**参照**」をクリックし、インポートするダッシュボードを含む JSON ファイルを指定します。
4. 「**インポート**」をクリックします。  
「**ステータス**」フィールドには、インポートのステータスが表示されます。
5. インポートが正常に完了したら、「**OK**」をクリックします。

インポートされたダッシュボードが「操作ダッシュボード」ページに表示されます。

インポート・ファイルに「ダッシュボード」ページと同じ名前のダッシュボードが含まれている場合、これらのダッシュボードは更新されます。

## 操作ダッシュボードの実行

ユーザーは、アクセス権が付与されているダッシュボードを実行できます。

ダッシュボードを実行すると、最新のデータがダッシュボード内の様々なチャート・ビューおよびピボット・ビューに表示されます。

ダッシュボードを実行するには:

1. **ホーム**から、「**ダッシュボード**」、「**操作ダッシュボード**」の順にクリックします。  
操作ダッシュボード・ページが表示されます。
2. 次のいずれかを行います:
  - 実行するダッシュボードをクリックし、「**実行**」アイコンをクリックします。
  - 実行するダッシュボードの「**アクション**」アイコンをクリックし、「**実行**」を選択します。
  - ダッシュボードを開き、「**実行**」アイコンをクリックします。ダッシュボードはランタイム・モードで新しいタブに表示され、最新のデータが表示されます。

### Note:

ダッシュボードが実行または編集のためにすでに開いている場合は、フォーカスがそのタブに移動し、実行モードになります。

3. 必要に応じて、表示されたデータをフィルタします。[操作ダッシュボード内に表示されているデータへのフィルタの適用](#)を参照してください。

## 操作ダッシュボードを表示するための列の表示

ダッシュボードを表示するための列を表示するには:

1. 操作ダッシュボード・ページで、「**表示**」、「**列**」の順にクリックします。
2. 「**すべて表示**」をクリックしてすべての列を表示するか、特定の列を選択します。

表示される列の表示と非表示を切り替えるには:





1. 「**表示**」 > 「**列**」 > 「**列の管理**」をクリックします。
2. 移動アイコンを使用して「**非表示列**」と「**表示列**」の間で目的の列を移動し、表示される列の表示と非表示を切り替えます。

## 操作ダッシュボードを表示するための列の順序変更

列の順序を変更して、別の順序で表示できます。

列を並べ替えるには:

1. 「操作ダッシュボード」ページで、「**表示**」をクリックし、「**列の順序変更**」をクリックします。

- 並べ替える列名を選択し、次のアイコンを使用して必要な位置に移動します:
  - : 選択したアイテムをリストの一番上に移動します
  - : 選択したアイテムをリスト内で 1 つ上に移動します
  - : 選択したアイテムをリスト内で 1 つ下に移動します
  - : 選択したアイテムをリストの一番下に移動します
- 「OK」をクリックします。  
列は、指定された順序に基づいて表示されます。

## 操作ダッシュボードの URL のコピー

操作ダッシュボードの URL をコピーすると、ダッシュボードにアクセスできるようになります。

操作ダッシュボードの URL をコピーするには:

- ホームから、「ダッシュボード」、「操作ダッシュボード」の順にクリックします。  
操作ダッシュボード・ページが表示されます。
- URL をコピーするダッシュボードの「アクション」アイコンをクリックし、「URL のコピー」をクリックします。
- 表示された URL をコピーします。この URL を使用して、ダッシュボードに直接アクセスできるようになります。

## 操作ダッシュボード内に表示されているデータへのフィルタの適用

フィルタを使用して、ダッシュボードおよびそのビューに表示されるデータを制限できます。

フィルタ・バーの表示と非表示を切り替えるには、「検索」ボックスの横にある「表示/非表示」トグル・アイコンを使用します。

フィルタ・バーで、次のことを行って、表示されているダッシュボードをフィルタできます:

- フィルタの追加
- 各フィルタの条件の指定
- フィルタのクリアまたは除去
- すべてのフィルタのクリア

ダッシュボードに表示されるデータを制限するには:

- ダッシュボードを実行し、そのデータを表示します。
- このダッシュボードについてグローバル・フィルタが構成されている場合は、これを使用して、ダッシュボードのすべてのビューに表示されているデータをフィルタします。

3. 任意のビューについて、ビューで定義されたフィルタを使用して、そのビューに表示されているデータをフィルタします。

最初に、グローバル・フィルタがダッシュボードのすべてのビューに適用されます。その後、それぞれのビューについて、そのビューで定義されたフィルタが適用されます。

これらの各機能の詳細は、[フィルタでの作業](#)を参照してください。

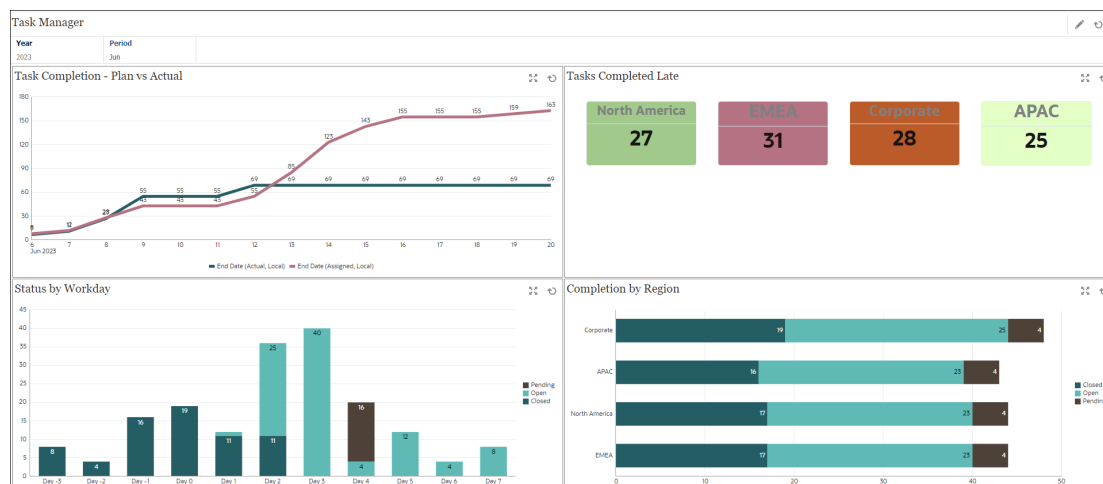
## 例: タスク・マネージャの操作ダッシュボード

この例では、ダッシュボードの作成方法を示します。

タスク・マネージャでは、ダッシュボードに次のビューが使用されます:

- [チャート・ビュー: タスク完了 - プラン vs 実績](#)
- [チャート・ビュー: 遅延完了タスク](#)
- [チャート・ビュー: 労働日別のステータス](#)
- [チャート・ビュー: 地域別の完了](#)

完了したダッシュボードをスクリーンショットに示しています。任意のビューで任意の領域をクリックすると、その領域を構成する個々のレコードにドリルダウンできます。



この例で、ダッシュボードを作成するには:

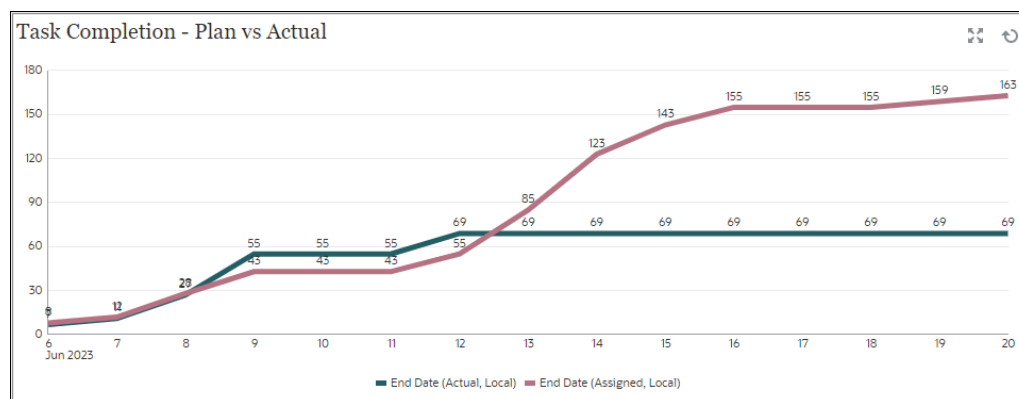
1. ホームから、「ダッシュボード」を選択し、「操作ダッシュボード」をクリックします。既存の操作ダッシュボードが表示されます。
2. 「新規」アイコンをクリックして、新しいダッシュボードを作成します。新しいダッシュボードがデフォルトの名前で作成され、新しいタブに開きます。
3. ダッシュボードの「設定」アイコンをクリックし、「プロパティ」タブでプロパティを更新します:
  - **名前:** Task Manager
  - **枠線:** このチェック・ボックスを選択します
  - **グローバル・フィルタ・バー:** このチェック・ボックスを選択します
  - **背景:** 塗りつぶしなし

- **レイアウト:**
  - **グリッド:** このチェック・ボックスを選択します。
  - **水平分割:** 50
  - **垂直分割:** 50
- 4. 左上のチャート・ビューを作成するには、[チャート・ビュー: タスク完了 - プラン vs 実績](#)を参照してください。
- 5. 右上のチャート・ビューを作成するには、[チャート・ビュー: 遅延完了タスク](#)を参照してください。
- 6. 左下のチャート・ビューを作成するには、[チャート・ビュー: 労働日別のステータス](#)を参照してください。
- 7. 右下のチャート・ビューを作成するには、[チャート・ビュー: 地域別の完了](#)を参照してください。
- 8. 「保存」をクリックして、ダッシュボードを保存します。

## チャート・ビュー: タスク完了 - プラン vs 実績

この例には、スケジュールより早く進んでいるか、スケジュールより遅れているかを確認できるように、タスクの完了が一定期間にわたって表示されています。

このチャートには、特定の日付以前のタスクの終了日がすべて表示されます。また、これらのタスクの完了ステータスも表示されます。



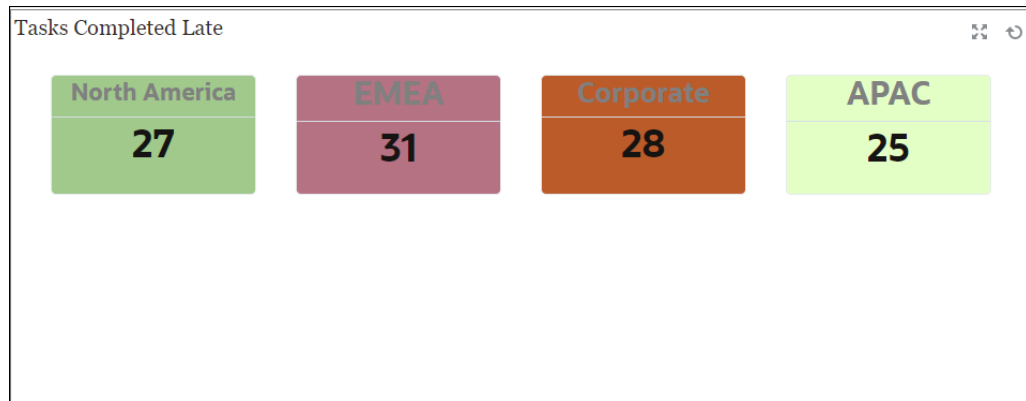
ダッシュボードの左上のビュー内:

1. 「オブジェクト・タイプ」アイコンをクリックし、「タスク」を選択します。
2. 「ビュー・セレクタ」アイコンをクリックし、「チャート・ビュー」を選択します。
3. 「設定」アイコンをクリックし、次のように指定します:
  - 「プロパティ」タブ:
    - **タイトル:** タスク完了 - プラン vs 実績
    - **タイプ:** 折れ線
    - **背景:** 塗りつぶしなし
    - **ラベルの位置:** 上の点
    - **行の太さ:** 5

- **グリッド線:** このチェック・ボックスを選択します
  - **期間:** 選択
  - 「レイアウト」タブ:
    - **X 軸:**
      - \* **タイプ:** 日付
      - \* **ソート:** 1つ目のドロップダウン・メニューから「X 軸」、2つ目のドロップダウン・メニューから「降順」
    - **凡例(系列):**
      - \* 最初の行で、次のものを追加します:
        - \* **値:** タスク
        - \* **集約:** 数
        - \* **カテゴリ:** なし
        - \* **グループ化基準:** 終了日(実際、ローカル)
        - \* **データ集約:** 次以前
      - \* 「新規」をクリックし、別の行を追加します。次のように指定します:
        - \* **値:** タスク
        - \* **集約:** 数
        - \* **カテゴリ:** なし
        - \* **グループ化基準:** 終了日(割当済、ローカル)
        - \* **データ集約:** 次以前
  - 「軸」タブ:
    - 「X 軸」を選択します。
    - 間隔: 日次
    - **最小:** 自動
    - **最大:** 自動
  - 「凡例」タブ:
    - **凡例の位置:** 下
    - **パレット:** レッドウッド
    - それぞれの系列についてデフォルトのラベルを選択します: 「終了日(実際、ローカル)」および「終了日(割当済、ローカル)」
    - それぞれの系列についてデフォルトの色を選択します。
4. 「OK」をクリックします。

## チャート・ビュー: 遅延完了タスク

この例には、様々な組織単位でスケジュールより遅れて完了したタスクが表示されています。



ダッシュボードの左上のビュー内:

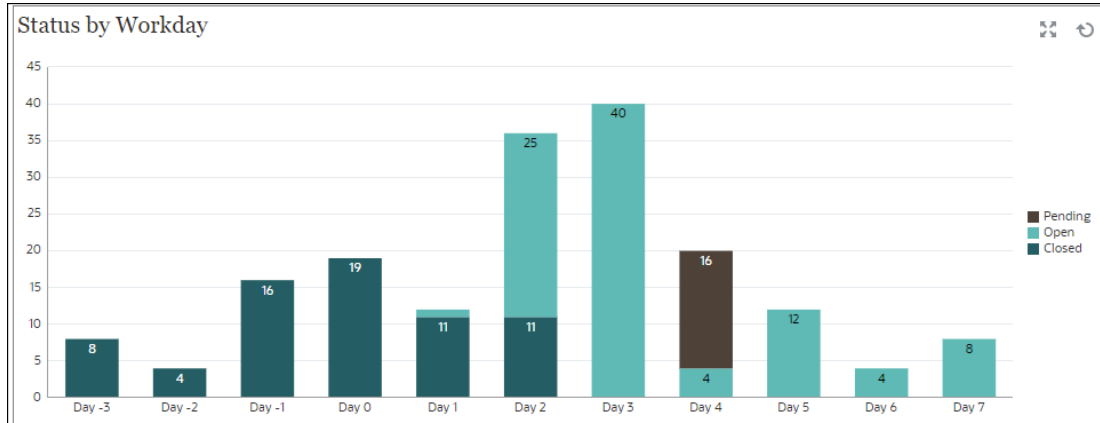
1. 「オブジェクト・タイプ」アイコンをクリックし、「タスク」を選択します。
2. 「ビュー・セレクタ」アイコンをクリックし、「チャート・ビュー」を選択します。
3. 「設定」アイコンをクリックし、次のように指定します:
  - 「プロパティ」タブ:
    - タイトル: 遅延完了タスク
    - 背景: 塗りつぶしなし
    - ヘッダー・サイズ: 13
    - データ・サイズ: 14
    - 期間: 選択
  - 「レイアウト」タブ:
    - X 軸:
      - \* タイプ: 日付
      - \* ソート: 1つ目のドロップダウン・メニューから「X 軸」、2つ目のドロップダウン・メニューから「昇順」
    - 凡例(系列):
      - \* 値: タスク
      - \* 集約: 数
      - \* カテゴリ: 組織単位
      - \* フィルタ: 「これまでの遅延(担当者)」が「いいえ」と等しくない
  - 「列」タブで、それぞれの系列についてデフォルトのラベルを選択します。
4. 「OK」をクリックします。

## チャート・ビュー: 労働日別のステータス

このチャート例には、カスタムの労働日属性に基づいてタスクの完了が表示されています。



この例では、カスタム属性が以前に追加され、-15 から 35 日までの値が定義されています。その後、すべてのタスクが完了予定日に基づいて労働日に割り当てられています。



ダッシュボードの左下のビュー内:

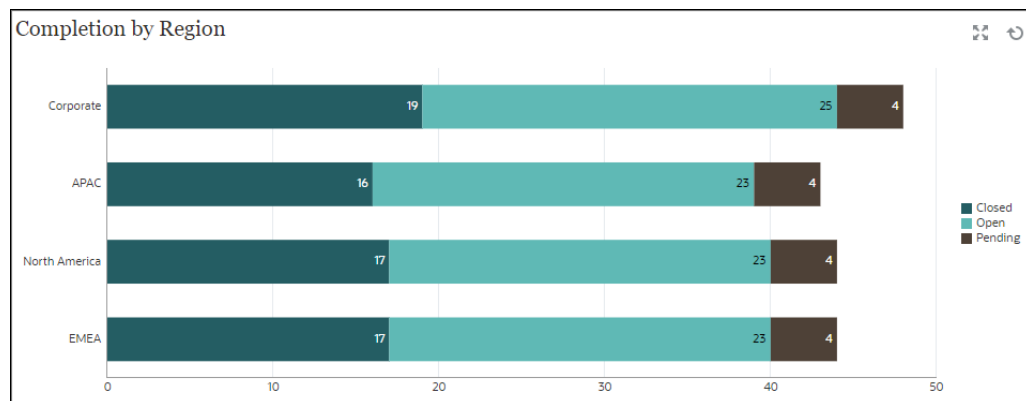
1. 「オブジェクト・タイプ」アイコンをクリックし、「タスク」を選択します。
2. 「ビュー・セレクタ」アイコンをクリックし、「チャート・ビュー」を選択します。
3. 「設定」アイコンをクリックし、次のように指定します:
  - 「プロパティ」タブ:
    - **タイトル:** 労働日別のステータス
    - **タイプ:** 縦棒
    - **背景:** 塗りつぶしなし
    - **ラベルの位置:** エッジの内側
    - **向き:** 垂直
    - **グリッド線:** このチェック・ボックスを選択します
    - **期間:** 選択
  - 「レイアウト」タブ:
    - **X 軸:**
      - \* **タイプ:** 属性
      - \* **属性 1:** 労働日(このカスタム属性がリストに表示されるには、それまでに追加されている必要があります。)
      - \* **ソート:** 1つ目のドロップダウン・メニューから「Workday」、2つ目のドロップダウン・メニューから「昇順」。
    - **凡例(系列):** 最初の行で、次のものを追加します:
      - \* **値:** タスク
      - \* **集約:** 数
      - \* **カテゴリ:** ステータス
    - **Y 軸:** このチェック・ボックスを選択します。
    - **最小:** 自動

- 最大: 自動
- 主ユニット: 自動
- 副ユニット: 自動
- 「凡例」タブ:
  - 凡例の位置: 右
  - パレット: レッドウッド
  - それぞれの系列についてデフォルトのラベルを選択します: 「クローズ済」、「エラー」、「オープン」および「保留中」。
  - それぞれの系列についてデフォルトの色を選択します。

4. 「OK」をクリックします。

## チャート・ビュー: 地域別の完了

このチャート例には、地域に基づいてタスクの完了が表示されています。この例では、以前にカスタムの組織単位属性が追加されており、完了したタスクの値が地域に基づいて定義されています。



ダッシュボードの左下のビュー内:

1. 「オブジェクト・タイプ」アイコンをクリックし、「タスク」を選択します。
2. 「ビュー・セレクタ」アイコンをクリックし、「チャート・ビュー」を選択します。
3. 「設定」アイコンをクリックし、次のように指定します:
  - 「プロパティ」タブ:
    - タイトル: 地域別の完了
    - タイプ: 縦棒
    - 背景: 塗りつぶしなし
    - ラベルの位置: エッジの内側
    - 向き: 水平
    - グリッド線: このチェック・ボックスを選択します
    - 期間: 選択

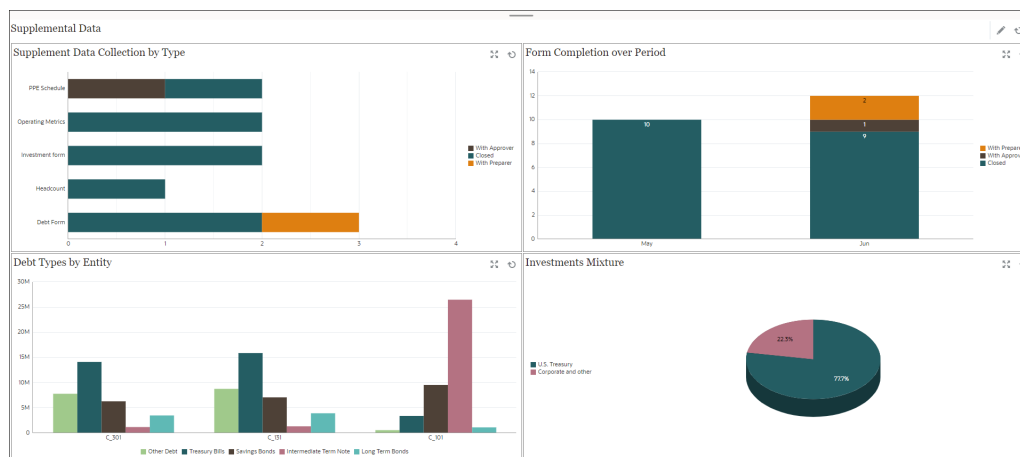
- 「レイアウト」タブ:
    - X 軸:
      - \* **タイプ:** 属性
      - \* **属性 1:** Organizational Unit  
(このカスタム属性がリストに表示されるには、それまでに追加されている必要があります。)
      - \* **ソート:** 1つ目のドロップダウン・メニューから「Organizational Unit」、2つ目のドロップダウン・メニューから「降順」。
    - 凡例(系列):
      - \* **値:** タスク
      - \* **集約:** 数
      - \* **カテゴリ:** ステータス
  - 「軸」タブ:
    - Y 軸: このチェック・ボックスを選択します。
    - 最小: 自動
    - 最大: 自動
    - 主ユニット: 自動
    - 副ユニット: 自動
  - 「凡例」タブ:
    - 凡例の位置: 右
    - パレット: レッドウッド
    - それぞれの系列についてデフォルトのラベルを選択します: 「クローズ済」、「エラー」、「オープン」および「保留中」。
    - それぞれの系列についてデフォルトの色を選択します。
4. 「OK」をクリックします。

## 例: 補足データ・マネージャのダッシュボード

これは、補足データ・マネージャのフォームとデータに関するビューを含むダッシュボードの例です。このダッシュボードはサンプル・データに基づいており、実際の補足データ・マネージャの使用状況とは異なります。次のビューがあります:

- チャート・ビュー: タイプ別の補足データ収集
- チャート・ビュー: 一定期間でのフォーム完了
- チャート・ビュー: エンティティ別の債務タイプ
- チャート・ビュー: 投資混合。

ダッシュボードは次のようになります。任意のビューで任意の領域をクリックして、その領域を構成する個々のレコードにドリルダウンします。

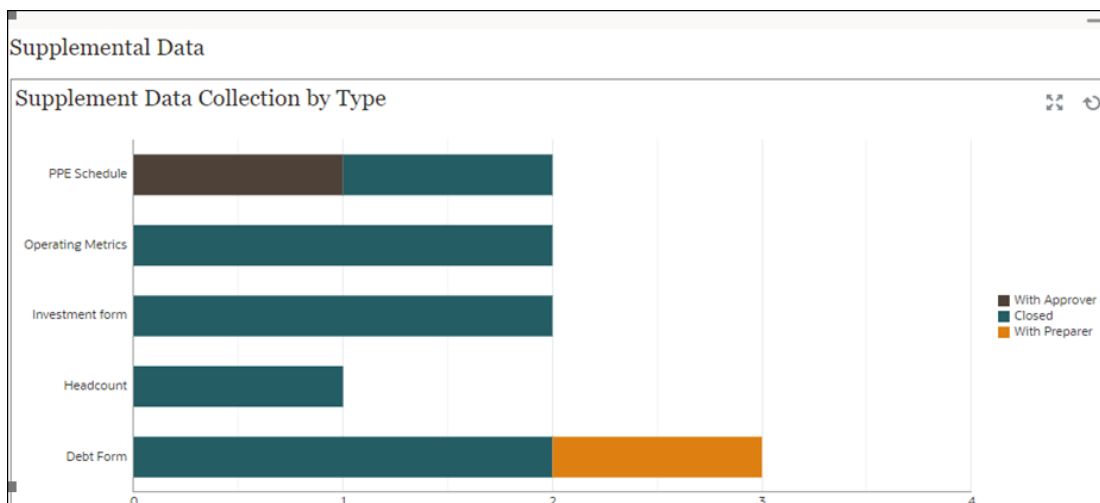


この例で、ダッシュボードを作成するには:

1. ホームから、「**ダッシュボード**」を選択し、「**操作ダッシュボード**」をクリックします。  
既存の操作ダッシュボードが表示されます。
2. 「**新規**」アイコンをクリックして、新しいダッシュボードを作成します。  
新しいダッシュボードがデフォルトの名前で作成され、新しいタブに開きます。
3. ダッシュボードの「**設定**」アイコンをクリックし、「**プロパティ**」タブでプロパティを更新します:
  - **名前:** Supplemental Data
  - **枠線:** このチェック・ボックスを選択します
  - **背景:** 塗りつぶしなし
  - **レイアウト:**
    - **グリッド:** このチェック・ボックスを選択します。
    - **水平分割:** 50
    - **垂直分割:** 50
4. 左上のチャート・ビューを作成するには、[チャート・ビュー: タイプ別の補足データ収集](#)を参照してください。
5. 右上のチャート・ビューを作成するには、[チャート・ビュー: 一定期間でのフォーム完了](#)を参照してください。
6. 左下のチャート・ビューを作成するには、[チャート・ビュー: エンティティ別の債務タイプ](#)を参照してください。
7. 右下のチャート・ビューを作成するには、[チャート・ビュー: 投資混合](#)を参照してください。
8. 「**保存**」をクリックして、ダッシュボードを保存します。

## チャート・ビュー: タイプ別の補足データ収集

次の例は、テンプレート・タイプ別のフォームの完了を示しています。これにより、補足データ収集の進行状況をデータ・タイプ別にすばやく確認できます。



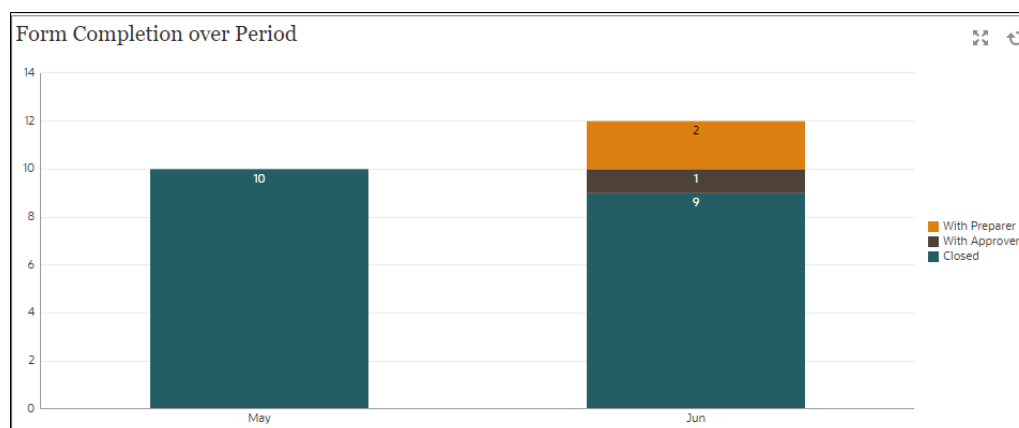
ダッシュボードの左上のビュー内:

1. 「オブジェクト・タイプ」アイコンをクリックし、「補足データ・フォーム」 > 「デフォルト」(収集間隔)を選択します。
2. 「ビュー・セレクタ」アイコンをクリックし、「チャート・ビュー」を選択します。
3. 「設定」アイコンをクリックし、次のように指定します:
  - 「プロパティ」タブ:
    - **タイトル:** タイプ別の補足データ収集
    - **タイプ:** 縦棒
    - **背景:** 塗りつぶしなし
    - **ラベルの位置:** ラベルなし
    - **向き:** 水平
    - **グリッド線:** このチェック・ボックスを選択します
    - **期間:** 選択
  - 「レイアウト」タブ:
    - **X 軸:**
      - \* **タイプ:** 属性
      - \* **属性 1:** テンプレート
      - \* **ソート:** 1つ目のドロップダウン・メニューから「テンプレート」、2つ目のドロップダウン・メニューから「降順」
    - **凡例(系列):**
      - \* **値:** フォーム
      - \* **集約:** 数
      - \* **カテゴリ:** ステータス(詳細)
  - 「軸」タブ:
    - 「Y 軸」を選択します。

- 最小: 自動
  - 最大: 自動
  - 主ユニット: 固定
  - 副ユニット: 固定
  - 「凡例」タブ:
    - 凡例の位置: 右
    - パレット: レッドウッド
    - それぞれの系列についてデフォルトのラベルを選択します
    - それぞれの系列についてデフォルトの色を選択します。
4. 「OK」をクリックします。

## チャート・ビュー: 一定期間でのフォーム完了

次の例は、テンプレート・タイプ別のフォームの完了を示しています。これにより、補足データ収集の進行状況をデータ・タイプ別にすばやく確認できます。



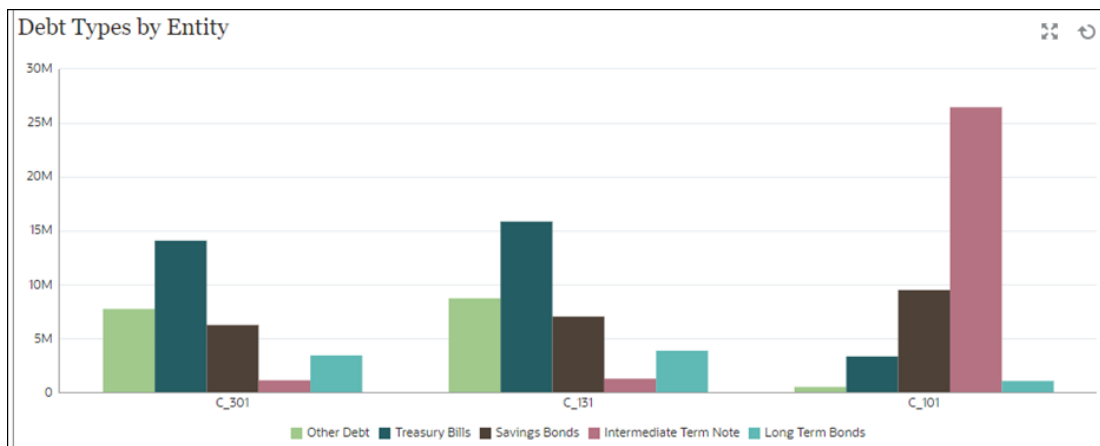
ダッシュボードの左上のビュー内:

1. 「オブジェクト・タイプ」アイコンをクリックし、「補足データ・フォーム」 > 「デフォルト」を選択します。
2. 「ビュー・セレクタ」アイコンをクリックし、「チャート・ビュー」を選択します。
3. 「設定」アイコンをクリックし、次のように指定します:
  - 「プロパティ」タブ:
    - タイトル: 一定期間でのフォーム完了
    - タイプ: 縦棒
    - 背景: 塗りつぶしなし
    - ラベルの位置: エッジの内側
    - 向き: 垂直
    - グリッド線: このチェック・ボックスを選択します
    - 期間: 選択

- 「レイアウト」タブ:
    - X 軸:
      - \* **タイプ:** 属性
      - \* **属性 1:** 期間
      - \* **ソート:** 1 つ目のドロップダウン・メニューから「エンティティ」、2 つ目のドロップダウン・メニューから「降順」
    - 凡例(系列):
      - \* **値:** フォーム
      - \* **集約:** 数
      - \* **カテゴリ:** ステータス(詳細)
  - 「軸」タブ:
    - 「Y 軸」を選択します。
    - **最小:** 自動
    - **最大:** 自動
    - **主ユニット:** 自動
    - **副ユニット:** 自動
  - 「凡例」タブ:
    - **凡例の位置:** 右
    - **パレット:** レッドウッド
    - それぞれの系列についてデフォルトのラベルを選択します
    - それぞれの系列についてデフォルトの色を選択します。
4. 「OK」をクリックします。

## チャート・ビュー: エンティティ別の債務タイプ

次の例では、補足データを使用して、様々なタイプの債務証券に関する詳細が収集されます。次のチャートには、これらの債務証券の内訳がエンティティ別に示されています。



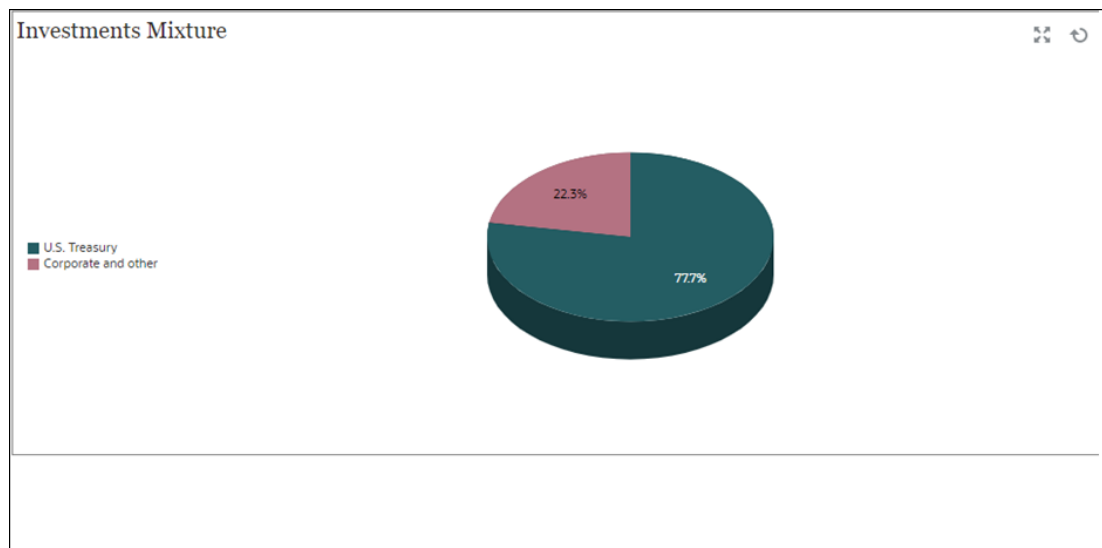
ダッシュボードの左上のビュー内:

1. 「オブジェクト・タイプ」アイコンをクリックし、「補足データ」 > 債務詳細(収集) を選択します。
2. 「ビュー・セレクト」アイコンをクリックし、「チャート・ビュー」を選択します。
3. 「設定」アイコンをクリックし、次のように指定します:
  - 「プロパティ」タブ:
    - **タイトル:** エンティティ別の債務タイプ
    - **タイプ:** 棒
    - **背景:** 塗りつぶしなし
    - **ラベルの位置:** ラベルなし
    - **向き:** 垂直
    - **グリッド線:** このチェック・ボックスを選択します
    - **期間:** 選択
  - 「レイアウト」タブ:
    - **X 軸:**
      - \* **タイプ:** 属性
      - \* **属性 1:** エンティティ
      - \* **ソート:** 1つ目のドロップダウン・メニューから「エンティティ」、2つ目のドロップダウン・メニューから「降順」
    - **凡例(系列):**
      - \* **値:** 債務金額
      - \* **集約:** 合計
      - \* **カテゴリ:** 債務タイプ
  - 「軸」タブ:
    - 「Y 軸」を選択します。
    - **最小:** 自動
    - **最大:** 自動
    - **主ユニット:** 自動
    - **副ユニット:** 自動
  - 「凡例」タブ:
    - **凡例の位置:** 下
    - **パレット:** レッドウッド
    - それぞれの系列についてデフォルトのラベルを選択します
    - それぞれの系列についてデフォルトの色を選択します。
4. 「OK」をクリックします。



## チャート・ビュー: 投資混合

次の例では、補足データを使用して、様々なタイプの債務証券に関する詳細が収集されます。次の円グラフには、これらの債務証券の割当が示されています。



ダッシュボードの左上のビュー内:

1. 「オブジェクト・タイプ」アイコンをクリックし、「補足データ」 > 投資詳細(収集)を選択します。
2. 「ビュー・セレクタ」アイコンをクリックし、「チャート・ビュー」を選択します。
3. 「設定」アイコンをクリックし、次のように指定します:
  - 「プロパティ」タブ:
    - タイトル: 投資混合
    - タイプ: 円
    - 3D チャート: このオプションを選択します
    - 背景: 塗りつぶしなし
    - パーcentageとして表示: このオプションを選択します。
    - 期間: 選択
  - 「レイアウト」タブ:
    - X 軸:
      - \* タイプ: なし
      - \* 属性 1: エンティティ
      - \* ソート: 1つ目のドロップダウン・メニューから「アルファベット順」、2つ目のドロップダウン・メニューから「降順」
    - 凡例(系列):
      - \* 値: 市場価格

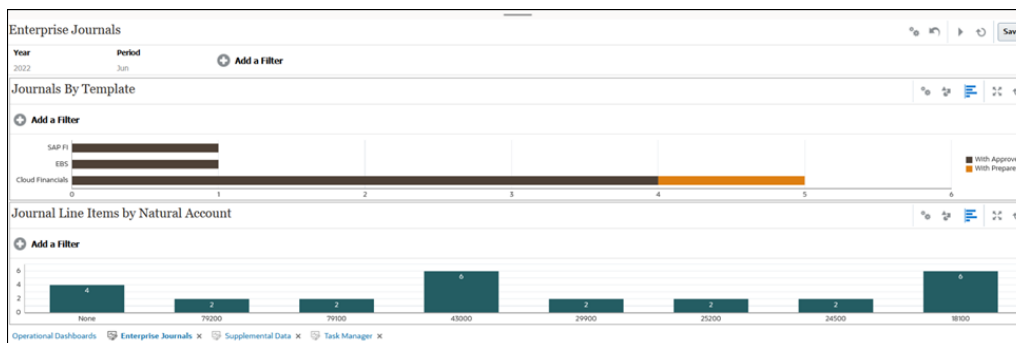
- \* **集約:** 合計
  - \* **カテゴリ:** 証券タイプ
  - 「**凡例**」タブ:
    - **凡例の位置:** 左
    - **パレット:** レッドウッド
    - それぞれの系列についてデフォルトのラベルを選択します
    - それぞれの系列についてデフォルトの色を選択します。
4. 「**OK**」をクリックします。

## 例: エンタープライズ仕訳のダッシュボード

この例では、エンタープライズ仕訳関連のデータに関する次のビューを含むダッシュボードの作成方法を示します:

- **チャート・ビュー:** テンプレート別の仕訳
- **チャート・ビュー:** 勘定科目別の仕訳ライン・アイテム

ダッシュボードは次のようになります。任意のビューで任意の領域をクリックして、その領域を構成する個々のレコードにドリルダウンします。



この例で、ダッシュボードを作成するには:

1. **ホーム**から、「**ダッシュボード**」を選択し、「**操作ダッシュボード**」をクリックします。  
既存の操作ダッシュボードが表示されます。
2. 「**新規**」アイコンをクリックして、新しいダッシュボードを作成します。  
新しいダッシュボードがデフォルトの名前で作成され、新しいタブに開きます。
3. ダッシュボードの「**設定**」アイコンをクリックし、「**プロパティ**」タブでプロパティを更新します:
  - **名前:** Enterprise Journals
  - **枠線:** このチェック・ボックスを選択します
  - **背景:** 塗りつぶしなし
  - **レイアウト:**
    - **水平:** このチェック・ボックスを選択します。

- 水平分割: 50
  - **グローバル・フィルタ・バー:** このチェック・ボックスを選択します。
4. フィルタ・バーで、「年」を「2022」に設定し、「期間」を「6月」に設定します。
  5. 上部のチャート・ビューを作成するには、[チャート・ビュー: テンプレート別の仕訳](#)を参照してください。
  6. 下部のチャート・ビューを作成するには、[チャート・ビュー: 勘定科目別の仕訳ライン・アイテム](#)を参照してください。
  7. 「保存」をクリックして、ダッシュボードを保存します。

## チャート・ビュー: テンプレート別の仕訳

この例では、テンプレートに基づいて仕訳の数を表示するチャート・ビューの作成方法を示します。これには、承認者および策定者の仕訳の数も示されます。



ダッシュボードの左上のビュー内:

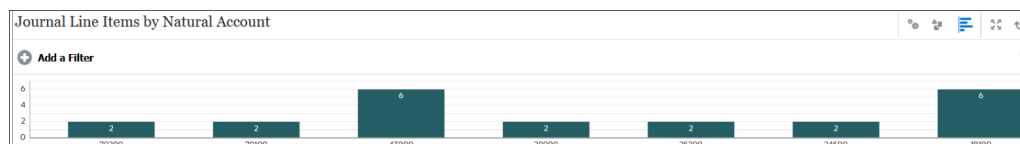
1. 「オブジェクト・タイプ」アイコンをクリックし、「エンタープライズ仕訳」を選択します。
2. 「ビュー・セレクタ」アイコンをクリックし、「チャート・ビュー」を選択します。
3. 「設定」アイコンをクリックし、次のように指定します:
  - 「プロパティ」タブ:
    - **タイトル:** テンプレート別の仕訳
    - **タイプ:** 縦棒
    - **背景:** 塗りつぶしなし
    - **ラベルの位置:** ラベルなし
    - **向き:** 水平
    - **グリッド線:** このチェック・ボックスを選択します
    - **期間:** 選択
  - 「レイアウト」タブ:
    - **X 軸:**
      - \* **タイプ:** 属性
      - \* **属性 1:** テンプレート
      - \* **ソート:** 1つ目のドロップダウン・メニューから「テンプレート」、2つ目のドロップダウン・メニューから「降順」
    - **凡例(系列):**
      - \* **値:** 仕訳
      - \* **集約:** 数

\* **カテゴリ:** ステータス(詳細)

- 「軸」タブ:
    - 「Y 軸」を選択します。
    - **最小:** 自動
    - **最大:** 自動
    - **主ユニット:** 自動
    - **副ユニット:** 自動
  - 「凡例」タブ:
    - **凡例の位置:** 右
    - **パレット:** レッドウッド
    - それぞれの系列についてデフォルトのラベルを選択します
    - それぞれの系列についてデフォルトの色を選択します。
4. 「OK」をクリックします。

## チャート・ビュー: 勘定科目別の仕訳ライン・アイテム

次の例は、収益および資産に属するアイテムの数が最も多いことを示しており、2022年6月には多数の見越があることがわかります。



ダッシュボードの上部のビュー内:

1. 「オブジェクト・タイプ」アイコンをクリックし、「エンタープライズ仕訳ライン・アイテム」を選択します。
2. 「ビュー・セレクタ」アイコンをクリックし、「チャート・ビュー」を選択します。
3. 「設定」アイコンをクリックし、次のように指定します:
  - 「プロパティ」タブ:
    - **タイトル:** 勘定科目別の仕訳ライン・アイテム
    - **タイプ:** 棒
    - **背景:** 塗りつぶしなし
    - **ラベルの位置:** エッジの内側
    - **向き:** 垂直
    - **グリッド線:** このチェック・ボックスを選択します
    - **期間:** 選択
  - 「レイアウト」タブ:
    - **X 軸:**

- \* **タイプ:** 属性
  - \* **属性 1:** Cloud Fin 勘定科目
  - \* **ソート:** 1 つ目のドロップダウン・メニューから Cloud Fin 勘定科目、2 つ目のドロップダウン・メニューから「降順」
  - **凡例(系列):**
    - \* **値:** ライン・アイテム
    - \* **集約:** 数
    - \* **カテゴリ:** なし
  - 「**軸**」タブ:
    - 「**Y 軸**」を選択します。
    - **最小:** 自動
    - **最大:** 自動
    - **主ユニット:** 自動
    - **副ユニット:** 自動
  - 「**凡例**」タブ:
    - **凡例の位置:** 右
    - **パレット:** レッドウッド
    - それぞれの系列についてデフォルトのラベルを選択します
    - それぞれの系列についてデフォルトの色を選択します。
4. 「**OK**」をクリックします。

# A

## Financial Consolidation and Close のベスト・プラクティス

Financial Consolidation and Close では次のベスト・プラクティスを使用します。

次の表には、このガイドで説明したベスト・プラクティスへのリンクが用意されています。

カテゴリ	ベスト・プラクティスの対象	この項を参照
メタデータの検証	メタデータ・プロパティの検証	<a href="#">メタデータの検証</a>
代替階層の作成	共有階層の操作	<a href="#">共有メンバーの作成</a>
勘定科目ディメンション	勘定科目の定義	<a href="#">勘定科目の階層順序</a>
ディメンション階層	ディメンション階層レベルの設定	<a href="#">ディメンション階層の操作</a>
データのロード	データ・ファイルのインポート	<a href="#">データ・インポート・ファイルのロード</a>
Exchange Rates	為替レートの入力	<a href="#">為替レートについて</a>
アプリケーション・データベース	アプリケーション・データベースの操作	<a href="#">データベースのリフレッシュ</a>
メンバー式の使用	簡易ディメンション・エディタでのメンバー式の定義または編集	<a href="#">メンバー式の操作</a>
構成可能な計算	構成可能な計算の作成	<a href="#">構成可能な計算のベスト・プラクティス</a>
Essbase 計算スクリプト	Essbase 計算スクリプトの一般的な構文	<a href="#">Essbase 計算スクリプトの操作</a>
拡張ディメンション・アプリケーション	拡張ディメンション・スクリプト・テクニック	<a href="#">拡張ディメンション・アプリケーションでの計算のベスト・プラクティス</a>
データの監査	監査表のメンテナンス	<a href="#">監査詳細の表示</a>
タスクの監査	監査表の操作	<a href="#">タスク・マネージャの監査詳細の表示</a>
アプリケーションのモニタリング	アプリケーションの使用状況を理解するためのアプリケーションのモニタリング	<a href="#">アクティビティ・レポートとアクセス・ログの操作</a>
アプリケーションの管理	アプリケーションの削除	<a href="#">アプリケーションの削除</a>
オンデマンド・ルール	オンデマンド・ルールの作成	<a href="#">オンデマンド・ルールのベスト・プラクティス</a>
連結ルールセット	連結ルールセットの操作	<a href="#">連結ルールセットの作成</a>
補足データ・マネージャ・フォーム・テンプレート	補足データのマッピング	<a href="#">「フォーム・テンプレート」セクション: 「マッピング」タブ</a>
タスク・マネージャのスケジュール	テンプレートからスケジュールを作成する際のパラメータのオーバーライド	<a href="#">タスク・タイプ・パラメータの設定</a> <a href="#">テンプレートからのスケジュールの作成</a>

# B

## EPM Cloud に関するよくある質問(FAQ)

この FAQ には、Oracle Enterprise Performance Management Cloud の管理タスクに関するよくある質問のリソースへのリンクが用意されています。

### よくある質問

- EPM Cloud サービスのトラブルシューティング時に、テクニカル・サポートを支援するための「フィードバックの提供」機能をどのように使用しますか。
- EPM Cloud ビジネス・プロセスのトラブルシューティングに関する一般的なヒントはどこに記載されていますか。
- EPM Cloud サービスの SOC1 および SOC2 レポートをどのようにして取得できますか。
- EPM Cloud サービスはどのように再起動しますか。
- ユーザーのパスワードをどのようにリセットしますか。
- EPM Cloud で本番からテストへのデータ移行をどのように実行しますか。
- 自分の環境の自動月次更新をどのように延期しますか。
- OAuth 2 for OCI (Gen 2)環境での認証をどのように設定しますか。
- REST API または EPM 自動化を使用した、グループの作成または除去方法、およびそれらに対するユーザーの追加または除去方法
- オラクル社によって本番およびテストのバックアップが保持される期間、および自分の環境へのバックアップ・スナップショットのコピー方法

**EPM Cloud サービスのトラブルシューティング時に、テクニカル・サポートを支援するための「フィードバックの提供」機能をどのように使用しますか。**

画面の右上に表示されるユーザー名をクリックして「フィードバックの提供」を選択します。

#### Tip:

サービス管理者の場合、メンテナンス・スナップショットを含めて、テクニカル・サポートがサービスをトラブルシューティングすることを支援できます。「フィードバックの提供」ユーティリティで、「**アプリケーション・スナップショットの送信の確認**」を展開し、「**アプリケーション・スナップショットの送信**」オプションを有効化します。

Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイドのフィードバックの提供ユーティリティを使用したフィードバックの送信を参照してください

### EPM Cloud ビジネス・プロセスのトラブルシューティングに関する一般的なヒントはどこに記載されていますか。

顧客から報告されたよくある問題に関するトラブルシューティングのヒントと情報、およびそれを修正する手順は、[Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド](#)を参照してください。

### EPM Cloud サービスの SOC1 および SOC2 レポートをどのようにして取得できますか。

アプリケーションの「**アクション**」メニューをクリックし、「ドキュメント」タブを選択することで、「個人用サービス」でこれらのレポートにアクセスできます。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイドのコンプライアンス・レポートへのアクセス](#)を参照してください

### EPM Cloud サービスはどのように再起動しますか。

- EPM 自動化で **resetService** コマンドを使用して、EPM Cloud サービスを再起動します。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作で resetService](#) を参照してください。
- **サービス・インスタンスの再起動** REST API を使用して、EPM Cloud サービスを再起動します。[Enterprise Performance Management Cloud の REST API のサービス・インスタンス\(v2\)の再起動](#)を参照してください。

### ユーザーのパスワードをどのようにリセットしますか。

OCI (Gen 2)環境の場合、Oracle Identity Cloud Service を使用してユーザー・アカウントのパスワードをリセットします。[Oracle Cloud の管理とモニタリングのパスワードのリセット](#)に関する項を参照してください。

クラシック環境の場合、「個人用サービス」を使用してユーザー・アカウントのパスワードをリセットします。[Oracle Cloud の管理とモニタリングのユーザーのパスワードのリセット](#)に関する項を参照してください。

### EPM Cloud で本番からテストへのデータ移行をどのように実行しますか。

「**クローン**」機能を使用して、本番からテストにデータを移行します。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 移行の管理の EPM Cloud 環境のクローニング](#)を参照してください

または、EPM 自動化の **cloneEnvironment** コマンドを使用することもできます。環境のクローニング REST API も使用できます。

### 自分の環境の自動月次更新をどのように延期しますか。

更新のスキップの設定は、**skipUpdate** EPM 自動化コマンドを使用して実行するセルフサービス操作です。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイドの環境の自動更新のスキップのリクエスト](#)を参照してください

**skipUpdate** REST API を使用して、月次更新を延期することもできます。[Enterprise Performance Management Cloud の REST API の更新のスキップ\(v2\)](#)を参照してください。



### OAuth 2 for OCI (Gen 2)環境での認証をどのように設定しますか。

EPM 自動化の場合、OAuth 2.0 承認プロトコルを使用して、コマンドを実行するため、特にコマンドの実行を自動化するために OCI (GEN 2) Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境にアクセスできます。Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作で OCI での OAuth 2.0 承認プロトコルの使用を参照してください。

REST API の場合、Oracle Cloud Infrastructure (OCI) Gen 2 アーキテクチャ上の EPM Cloud 環境では、環境でのパスワードの使用を回避するという要件を満たすために、EPM Cloud で OAuth 2 アクセス・トークンを使用して REST API を発行できます。Enterprise Performance Management Cloud の REST API の OAuth 2 での認証 - OCI のみを参照してください。

### REST API または EPM 自動化を使用した、グループの作成または除去方法、およびそれらに対するユーザーの追加または除去方法

- グループを追加するには、『Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作』の createGroups または Enterprise Performance Management Cloud の REST API のグループの追加を参照してください。
- グループを削除するには、『Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作』の deleteGroups または Enterprise Performance Management Cloud の REST API のグループの削除を参照してください。
- ユーザーをグループに追加するには、『Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作』の addUsersToGroup または Enterprise Performance Management Cloud の REST API のグループへのユーザーの追加を参照してください。
- ユーザーをグループから削除するには、『Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作』の removeUsersFromGroup または Enterprise Performance Management Cloud の REST API のグループからのユーザーの削除を参照してください。

### オラクル社によって本番およびテストのバックアップが保持される期間、および自分の環境へのバックアップ・スナップショットのコピー方法

OCI (Gen 2)環境の場合、オラクル社によって本番環境のスナップショットが 60 日間保持され、テスト環境のスナップショットは 30 日間保持されます。listBackups および restoreBackup EPM 自動化コマンドを使用して、使用可能なバックアップ・スナップショットをチェックし、自分の環境にコピーします。バックアップのリストおよびバックアップの復元 REST API を使用することもできます。

クラシック環境の場合、(本番およびテスト環境の)過去 3 日間の日次スナップショットと、(本番環境のみの)過去 60 日間の週次バックアップ・スナップショットがオラクル社によってアーカイブされます。オラクル社に、過去 3 日間のテスト・バックアップおよび過去 60 日間の本番バックアップをコピーするようリクエストできます。

Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイドの日次スナップショットのアーカイブ、保持および取得を参照してください

### EPM Cloud 環境をどのようにバックアップおよび復元しますか。

メンテナンス・スナップショット(Artifact Snapshot)を使用して、過去の日付からアーティファクトおよびデータを復元できます。また、必要に応じて、Artifact Snapshot を使用して、環境を最後の操作メンテナンス中の状態に戻すこともできます。参照:

- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*のメンテナンステナンス・スナップショットを使用した環境のバックアップと復元
- 『*Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作*』の `restoreBackup` コマンドおよび `importSnapshot` コマンド。

#### **EPM Cloud で使用可能な障害回復オプションは何ですか。**

EPM Cloud には、環境を稼働状態にリストアし、それによってほぼ即時の目標復旧時間を達成するセルフサービス・オプションが用意されています。参照:

- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*の障害回復サポート
- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作*の EPM Cloud 環境のレプリケート

#### **自動リグレッション・テストをどのように要求しますか。**

オラクルは、自動リグレッション・テスト・プロセスを容易にするための EPM 自動化ベースのスクリプトの作成を支援します。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド*の自動リグレッション・テストのリクエストを参照してください